

# 知多地方教育計画案

中学校

令和3年度発行版

知多地方教育事務協議会

## 知多の教育の目指す人間像

豊かな教養を身に付け  
たくましい生活力をもち  
郷土並びに国家の発展に尽くす  
人間愛に満ちた民主的な日本人

### 序

21世紀を生きる子どもたちのために、学習指導要領の趣旨を踏まえ、特色ある学校づくりを目指して日々の教育に絶え間ない努力をしていただいていることに心より感謝申し上げます。

知多地方教育計画案は改訂を繰り返しながら、子どもたちに必要な力を育むための「教育課程の礎」として、知多管内の先生方に広く活用されてきました。

今回の知多地方教育計画案の改訂に当たっては、前回改訂の留意事項に加え、以下の点に留意して作成いたしました。

- 1 教科書等の内容変更に伴い、単元目標や年間計画等を見直して、カリキュラムを再編成する。
- 2 各教科等の目標や内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で整理する。
- 3 評価規準についても、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点に整理する。

また、前回同様、本計画案を様々なスタイルで活用できるようにデータでの提供としています。PDF形式のデータについては、各校のサーバーに入れていただくことで、いつでも検索・閲覧したり、必要な部分を印刷したりすることが可能となります。

本計画案を基に、先生方の創意工夫によって、学校、地域、生徒の実態に応じた教育計画を編成する手掛かりとして活用していただき、知多の教育が更に発展・向上することを心から期待しています。

終わりに、本計画案の改訂に当たって、常に献身的にご尽力いただきました作成委員並びに関係各位に厚くお礼を申し上げます、刊行の序といたします。

令和3年3月

知多地方教育事務協議会長



# 知多地方教育計画案について

知多地方教育計画案は、「知多の教育の目指す人間像」に示された人間の育成を目指して作成された地域教育計画案である。各学校では、本計画案を基にして十分な検討を加え、適切な学校教育計画案を作成し、実施するものとする。

## 1 基本方針

本計画案は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の実現を図り、生徒に「生きる力」を育むことを目指して作成した。

主なねらいは、次のとおりである。

- (1) 「知多の教育の目指す人間像」に示された人間の育成を基本原則として、中学校学習指導要領の趣旨の具現化を図る。
- (2) 基礎的・基本的な知識や技能の習得をさせるとともに、それらを活用する学習を通じて、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

## 2 作成上の主な留意点

本計画案は、知多地方の指導者が日々の教育活動を円滑に進めていくことができるように作成したものである。そのために、「何を」「どのように」考えて学習活動を構成するとよいか、その手掛かりを具体的に提示した。また、少経験者の教員が、指導要領の趣旨を踏まえながら基礎的・基本的な学習内容を落とさず指導に当たることができるように、標準的な授業展開について確認できるようにした。

主な留意点は、次のとおりである。

- (1) 各教科等の指導を通した、「資質・能力」の育成
  - ・各教科等の目標や内容を「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理する。
  - ・各教科等の単元における授業展開例では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点を示した上で、評価する際の基になる活動やポイントを示す。
- (2) カリキュラム・マネジメント等の重視
  - ・生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てる。指導計画では、単元を構想する上での留意点に示す。
  - ・他教科，他学年との関連やスパイラルな学習について、教科書の内容を踏まえて示す。
  - ・幼保小中学校での学習内容の円滑な接続を踏まえる。

※「スパイラルな学習」とは、基礎・基本の定着のために、内容の一部を重複させた複数の学習機会を通して、効果的に定着を図る学習である。

(3) 言語活動の重視

- ・各教科等において言語活動を重視し、その内容や場面について示す。
- ・各教科等における記録説明、論述、討論といった学習活動を充実させる。
- ・言語活動の重視に当たっては、コミュニケーション能力の育成とともに認識・思考・判断という言語の働きについて、生徒の能力を高めることを意識する。

(4) 伝統や文化に関する教育の充実

- ・我が国や郷土の伝統や文化を受け止め、継承・発展させるための教育を充実できるように、それらについて言及できる学習活動や場面を示す。

(5) 道德教育の充実

- ・道德の教育計画例を作成し、各内容項目について、小・中学校で併せて指導案例を示す。
- ・道德と教科等との関連を示し、各教科等でそれぞれの特質に応じて道德の内容を適切に指導できるようにする。
- ・各学校の道德教育全体計画の別葉を作成するための参考例を提示する。

**3 授業時数等の取り扱い……………＜資料 1＞**

学習指導要領に示された授業時数は、資料 1 の表のとおりである。全学年が、年間 35 週として各教科・領域別授業時数を示してある。各学校においては、この標準授業時数を満たすように、計画を立てて授業を実施しなければならない。

また、各教科等の特質に応じ、10 分から 15 分程度の短い時間を活用して特定の教科等の指導を行う場合（モジュール型）において、その時間を当該教科等の年間授業時数に含めることができる。

**4 教育課程実施上の配慮事項**

学習指導要領第 1 章総則第 3 「教育課程の実施と学習評価」に示された次の 9 項目について配慮するとともに、教育委員会の指導や従来の実践、研究の成果を生かして、教育課程の適切な実施に努める必要がある。

○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱が偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、生徒が各教科等の特質に応じた見方・考

え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

(2) 言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要しつつ各教科等の特質に応じて、生徒の言語活動を充実すること。あわせて、読書活動を充実すること。

(3) 情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。

あわせて、各教科等の特質に応じて、次の学習活動を計画的に実施すること。

(4) 生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。

(5) 生徒が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。

(6) 生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。

(7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。

#### ○ 学習評価の充実

学習評価の実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

(2) 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

#### 5 知多地方教育計画案本文凡例……………＜資料 2＞

#### 6 学習指導案例……………＜資料 3， 4＞

<資料 1> 授業時数等の取り扱い

年間授業時数一覧表

| 学年<br>教科等     | 1                  | 2                  | 3                  | 計       |
|---------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------|
| 国 語           | 1 4 0<br>( 4 )     | 1 4 0<br>( 4 )     | 1 0 5<br>( 3 )     | 3 8 5   |
| 社 会           | 1 0 5<br>( 3 )     | 1 0 5<br>( 3 )     | 1 4 0<br>( 4 )     | 3 5 0   |
| 数 学           | 1 4 0<br>( 4 )     | 1 0 5<br>( 3 )     | 1 4 0<br>( 4 )     | 3 8 5   |
| 理 科           | 1 0 5<br>( 3 )     | 1 4 0<br>( 4 )     | 1 4 0<br>( 4 )     | 3 8 5   |
| 音 楽           | 4 5<br>( 1 . 3 )   | 3 5<br>( 1 )       | 3 5<br>( 1 )       | 1 1 5   |
| 美 術           | 4 5<br>( 1 . 3 )   | 3 5<br>( 1 )       | 3 5<br>( 1 )       | 1 1 5   |
| 保健体育          | 1 0 5<br>( 3 )     | 1 0 5<br>( 3 )     | 1 0 5<br>( 3 )     | 3 1 5   |
| 技術・家庭         | 7 0<br>( 2 )       | 7 0<br>( 2 )       | 3 5<br>( 1 )       | 1 7 5   |
| 外国語           | 1 4 0<br>( 4 )     | 1 4 0<br>( 4 )     | 1 4 0<br>( 4 )     | 4 2 0   |
| 道 徳           | 3 5<br>( 1 )       | 3 5<br>( 1 )       | 3 5<br>( 1 )       | 1 0 5   |
| 特別活動          | 3 5<br>( 1 )       | 3 5<br>( 1 )       | 3 5<br>( 1 )       | 1 0 5   |
| 総合的な<br>学習の時間 | 5 0<br>( 1 . 4 )   | 7 0<br>( 2 )       | 7 0<br>( 2 )       | 1 9 0   |
| 総授業時数         | 1 0 1 5<br>( 2 9 ) | 1 0 1 5<br>( 2 9 ) | 1 0 1 5<br>( 2 9 ) | 3 0 4 5 |

※ (     ) は週授業時数



生徒の実態を踏まえ、指導案を立てましょう！

令和3年6月〇日 〇曜日 第〇時■ (〇〇室)

指導者 ○ ○ ○ ○

- 三つの資質・能力に合わせて、目標を示す。(知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等の順)学習指導要領に沿い、本単元の学習を通して身に付けさせたい力を、生徒の立場で記述する。学びに向かう力、人間性等は「～しようとする」、他の観点は「～することができる」の表現を用いる。※計画案本文参照

- 1 → 主な学習活動，学習内容
- (1) → 1 を受けた具体的な学習活動，学習内容
  - → (1) をさらに具体化・細分化した学習内容
  - ・ → 予想される生徒の反応，より具体的な学習内容

|    |   |                      |                       |
|----|---|----------------------|-----------------------|
| 18 | 評 | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ | して<br>いる。<br>(ワークシート) |
|----|---|----------------------|-----------------------|

- 段階の大まかな区切りだけでなく、学習活動の区切りにも、予定時間を必要に応じて記入する。

30 ( )には評価するもの、ことを書く。  
机間指導等、指導者の活動は書かない。

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
|    | 評○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| 40 | ○○している。 （話し合い，発表）               |

- 4 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。  
○ 〇○○○○○○○ 「本時の目標」と

「本時の目標」と「本時の評価規準」は同数にする。  
「評」と「本時の評価規準」が同数の場合は、それぞれの記述内容はほぼ同じになる。  
※表記は変わってもよい

■■。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○している。( )

「本時の目標」を生徒が達成したかどうかを見るために設定する。  
「～している」の表現を用いて、本時の目標を達成している生徒の姿を具体的に記述する。  
( ) には、評価できるもの、ことを書く。机間指導等、指導者の活動は書かない。

「理解」など認知的な部分を評価する際、指導者が生徒のどのような姿を捉えて、本時の目標を達成したと判断するのかを考え、できるだけ、目に見えたり、耳に聞こえたりした姿を書く。

例：「理解している」→「自分の言葉で説明している」

(1) 学級の実態

- ## (2) 指導の力点

- ☐ ○○ 本時の目標を達成するために、本時のどの場面で、どのような方法で指導をするか、  
☐ 指導者が特に力を入れて指導することを、現在形で記述する。  
☐ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

以下に示すもの等について、授業参観者からの意見や指導を踏まえ、授業後に自己評価を記述し、今後に生かす。 ※本時の目標、評価規準、手立て、発問、板書、ワークシート

＜資料 4＞ 學習指導案例（細案）

■■■■■■■■■■第○学年○組      ○○科学習指導案■■■■■■■■■■

令和3年6月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 ○ ○ ○ ○

1 ■ 单      元 ■ ■ ■ ○ ○ ○ ○ ○

## 2 単元設定の理由

- (1) 生徒観について示す。本単元の学習に関連した、生徒の興味・関心やその教科の理解度等についての実態を記述する。
- (2) 教材観について示す。本単元では、どのような教材を用いて、どのような学習をするのかを記述する。また、教材の特色や教科学習で目指すものとの関連等についても記述する。
- (3) 指導観について示す。単元全体の指導の構想について、指導のねらいや手順、手立て等を記述する。

### 3 単元の目標

## 4 学習の計画

＜資料3＞ を参考に、略案よりも詳しく書く。

## 5 本時の学習指導

## 6 備考

- [illegible]

- o ○○  
**■**      ○○  
**■**      ○○。

- (3) ○○○○ (資料○)

※板書計画、座席表、抽出生徒の捉え、教室配置図

## 7 指導と評価



令和2年度作成 令和3年度版知多地方教育計画案作成委員（中学校）

作成代表 北部中 瀬之口真一

| 教科 | 委員人数 | キャップ           | 編集委員           |              |              | 顧問             |
|----|------|----------------|----------------|--------------|--------------|----------------|
| 国語 | 4    | 八幡中 校<br>石橋雅代  | 半田中<br>石原孝啓    | 大府中<br>影近誠   | 河和中<br>林貴裕   | 大東小 長<br>池山祐子  |
| 社会 | 4    | 大府中 教<br>伊賀友信  | 篠島中<br>宮下裕紀    | 旭南中<br>小山あかね | 常滑中<br>青木翔太  | 南陵中 長<br>山本宗雄  |
| 数学 | 4    | 横須賀中 校<br>杉浦崇人 | 大府北中<br>影近雄一   | 武豊中<br>和田剛樹  | 日間賀中<br>戸倉勇人 | 武豊中 頭<br>後藤真希  |
| 理科 | 4    | 常滑中 教<br>石井新平  | 横須賀中<br>小島将弘   | 青海中<br>吉川晴教  | 旭南中<br>井上溝太  | 西部中 頭<br>守山恭太  |
| 英語 | 4    | 北山小 教<br>水野亮   | 成岩中<br>沼田泰征    | 名和中<br>大西陽介  | 富貴中<br>戸高常明  | 旭南小 頭<br>小林哲子  |
| 音楽 | 3    | 加木屋中 校<br>永友康之 | 東浦中<br>石川雄一朗   | 野間中<br>名塚美喜  |              | 乙川中 頭<br>笠井香里  |
| 美術 | 3    | 篠島小 校<br>大村章仁  | 成岩中<br>榊原孔美子   | 大府西中<br>柴田枝里 |              | 東山小 長<br>西村剛志  |
| 体育 | 3    | 中部中 教<br>万年誠治  | 旭南中<br>杉浦寿哉    | 横須賀中<br>渡辺美穂 |              | 成岩小 長<br>水野邦夫  |
| 技術 | 3    | 大府北中 教<br>安藤竹郎 | 武豊中 校<br>山本晋二郎 | 八幡中<br>橋本良太  |              | 北部中 長<br>延永保二  |
| 家庭 | 3    | 西部中 教<br>長谷真理子 | 武豊中<br>伊藤紀江    | 八幡中<br>山本智美  |              |                |
| 道德 | 3    | 東浦中 教<br>姫野真行  | 常滑中<br>寺島規史    | 武豊中<br>磯村将成  |              | 上野間小 長<br>吉川正美 |
| 情報 | 3    | 大府小<br>三浦隆之    | 加木屋小<br>山下将弘   | 名和小<br>末崎幸彦  |              | 有脇小 校<br>堀木研一  |

計 41 +代表1

42

11

# **令和 3 年度 知多地方教育計画案**

## **国語科**

# 国 語 科

## 1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

教科の目標では、国語科において育成を目指す資質・能力を国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とし、国語科が国語で理解し表現する言語能力を育成する教科であることを示している。今回の改訂で示す国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは、国語で表現された内容や事柄を正確に理解する資質・能力、国語を使って内容や事柄を適切に表現する資質・能力であるが、そのために必要となる国語の使い方を正確に理解する資質・能力、国語を適切に使う資質・能力を含んだものである。

正確に理解する資質・能力と、適切に表現する資質・能力とは、連続的かつ同時に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要であることから、今回の改訂では「正確に理解」、「適切に表現」という順に示している。

「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる事となる。

また、言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、言語活動を通して資質・能力を育成する。言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成するとしているのは、この考え方を示したものである。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 目標及び内容の構成

#### ① 目標の構成の改善

国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定するとともに、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。また、このような資質・能力を育成するためには、生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要であることを示している。

#### ② 内容の構成の改善

三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、従前、「話すこと・聞くこと」、「書

くこと」，「読むこと」の3領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で構成していた内容を，「知識及び技能」（言葉の特徴や使い方に関する事項，情報の扱い方に関する事項，我が国の言語文化に関する事項），「思考力，判断力，表現力等」（A話すこと・聞くこと，B書くこと，C読むこと）に構成し直した。

## (2) 学習内容の改善・充実

### ① 語彙指導の改善・充実

語彙を豊かにするとは，自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。具体的には，意味を理解している語句の数を増やすだけでなく，話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに，語句の意味や使い方に対する認識を深め，語感を磨き，語彙の質を高めることである。このことを踏まえ，各学年において，指導の重点となる語句のまとまりを示すとともに，語句への理解を深める指導事項を系統化して示した。

### ② 情報の扱い方に関する指導の改善・充実

話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり，その関係を捉えたりすることが，話や文章を正確に理解することにつながる。また，自分のもつ情報を整理して，その関係を分かりやすく明確にすることが，話や文章で適切に表現することにつながる。そのため，このような情報の扱い方に関する「知識及び技能」は国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つである。こうした資質・能力の育成に向け，「情報の扱い方に関する事項」を新設し，「情報と情報との関係」と「情報の整理」の二つの系統に整理して示した。

### ③ 学習過程の明確化，「考えの形成」の重視

「思考力，判断力，表現力等」の各領域において，学習過程を一層明確にし，各指導事項を位置付けた。また，全ての領域において，自分の考えを形成する学習過程を重視し，「考えの形成」に関する指導事項を位置付けた。

### ④ 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

「伝統的な言語文化」，「言葉の由来や変化」，「書写」，「読書」に関する指導事項を「我が国の言語文化に関する事項」として整理し，その内容の改善を図った。

## (3) 学習の系統性の重視

国語科の指導内容は，系統的・段階的に上の学年につながり，螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し，資質・能力の向上を定着することを基本としている。このため，小・中学校を通じて，「知識及び技能」及び「思考力，判断力，表現力等」の指導事項と言語活動例のそれぞれにおいて，重点を置くべき指導内容を明確にし，その系統化を図った。

## (4) 授業改善のための言語活動の創意工夫

「思考力，判断力，表現力等」の各領域において，どのような資質・能力を育成するかを指導事項に示し，どのような言語活動を通して資質・能力を育成するかを言語活動例に示すという関係を明確にし，各学校の創意工夫により授業改善が行われるようにする観点から，従前に示していた言語活動例を言語活動の種類ごとにまとめた形で示した。

## (5) 読書指導の改善・充実

「読書は，国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである」とされ，各学年において，国語科の学習が読書活動に結びつくよう「知識及び技能」に「読書」に関する指導事項を位置付けるとともに，「読むこと」の領域では，学校図書館などを利用して，様々な本などから情報を得て活用する言語活動例を示した。

# 第 1 学年 国語科

## 1 学年の目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

## 2 内容及び内容の取り扱い

|                            |   |   |
|----------------------------|---|---|
| 知<br>識<br>及<br>び<br>技<br>能 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項<br>ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。<br>イ 小学校学習指導要領 2 章第 1 節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。<br>ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。<br>エ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。<br>オ 比喻、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。 |   |
|                            | (2) 情報の扱い方に関する事項<br>ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。<br>イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。  |   |
|                            | (3) 我が国の言語文化に関する事項<br>ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。<br>イ 古典には様々な種類の作品があることを知ること。<br>ウ 共通語と方言の果たす役割について理解すること。<br>エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。<br>(ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。<br>(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。<br>オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。   |   |
| 思<br>考<br>力<br>、           | A<br>話<br>す<br>こ<br>と<br>・  | ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。<br>イ 自分の考えや根拠が明確となるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。<br>ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 |

|                                      |       |   |
|--------------------------------------|-------|---|
| 判<br>断<br>力<br>、<br>表<br>現<br>力<br>等 | 聞くこと  | エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。<br>オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。   |
|                                      | B書くこと | ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。<br>イ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。<br>ウ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。<br>エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。<br>オ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。 |
|                                      | C読むこと | ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。<br>イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。<br>ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。<br>エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。<br>オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。        |

## ＜知識及び技能＞

### ① 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 伝統技能を中心とした音声の働き、音節の基本的な構造や、アクセント、イントネーション、プロミネンスなどの音声的特質が多様な声を作り出し、話したり聞いたりする活動に影響していることを理解させる。
- 漢字一字一字の音訓を理解し、語句として話や文章の中において文脈に即して意味や用法を理解しながら読むことが求められる。
- 動詞や形容詞、形容動詞、名詞、副詞など様々な語句について取り上げ、語句の量を増すことを求め、その際、話や文章の中でどのように使用されているか、自分が理解したり表現したりするときどのように用いればよいかについて考えることが重要である。
- それぞれの品詞が文のどのような成分になるかなどや、指示する語句や接続する語句は、話や文章を構成する上で大切な役割を果たすことを理解させる。
- 小学校での学習を踏まえ、中学校では、それぞれの表現の技法が「比喩」や「反復」などの総称で呼ばれていることと結び付けて、その意味や用法とともに理解し、話や文章の中で使うことを求めている。

### ② 情報の扱い方に関する事項

- 物事を筋道立てて理解したり表現したりするためには、原因と結果の関係を把握することや、他者の意見を理解したり自分の意見を述べたりする際には、意見を支える根拠を明らかにすることが重要になる。
- 材料を集めて整理したり、構成を検討したりすることに関する指導事項や、構造と内容を把握し、精査・解釈することに関する事項との関連を図ることが考えられる。

### ③ 我が国の言語文化に関する事項

- 小学校における読み聞かせや音読、暗唱などによる伝統的な言語文化に関する学習を踏まえ、古文や漢文を音読し、古典の世界に親しませる。
- 小学校から親しんできた様々な古典の作品と能、狂言、歌舞伎、古典落語などの古典芸

能とを結び付けることで、古典の世界についての新たな興味・関心を喚起し、古典に親しませることが大切である。

- 方言の担う役割を地域による言葉の多様性の面から十分理解し、方言を尊重する気持ちを持ちながら、共通語と方言とを時と場合などに応じて適切に使い分けられるようにさせる。
- 読書をすることによって、知識や情報を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えが広がったりすることを実感させる。

#### ＜思考力、判断力、表現力等＞

##### ① A 話すこと・聞くこと

- 何について話したり聞いたり話し合ったりするのかという事柄や対象を決め、集めた材料を観点に沿って比較、分類、関係付けなどをさせる。
- 聞き手に分かりやすく伝えるために、集めた材料や具体的な事実、自分の感じたことや考えたことなどの配列や、接続する語句や文末表現などに注意して、自分の考えやその根拠が明確になるように話を構成させる。
- うなずきや表情などの反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉え、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫させる。
- 話の内容を正確に理解するために、必要に応じて重要な情報を書き留めたり、分からないことや知りたいこと、確かめたいことなどを話し手に尋ねたりさせる。
- 何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識し、互いの考えを結び付けて、建設的に話し合い、考えをまとめることが重要である。
- 「話すこと・聞くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。

イ 互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。

##### ② B 書くこと

- 日常生活から題材を見つけ、文章を書く目的を明確にし、集めた材料を、観点に沿って比較、分類、関係付けなどをさせる。
- 内容の中心としたい事柄が際立つように構成や展開を考え、接続する語句を適切に用いたり、見出しを設けたりすることにより、段落の役割を明確にさせる。
- 自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめ、明確にした根拠を文章の中に記述させる。
- 表記や語句の用法、叙述の仕方などについて確かめ、読み手の立場に立って文章を整えさせる。
- 根拠の明確さなどの観点から、読み手の助言や感想、意見や質問などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことを求めている。
- 「書くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。

イ 行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動。

ウ 詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く活動。

##### ③ C 読むこと

- 説明的な文章では、文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などを正確に捉えること、文章全体において中心となる内容を明らかにし、要旨を捉えることを求めている。

- 文学的な文章では、描写を基に、場面の展開や登場人物の相互関係を捉えたり、心情がどのように変化しているのかなどを把握したりすることを求めている。
- 説明的な文章の読み取りでは、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することを求めている。
- 文学的な文章の読み取りでは、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うことが重要である。
- 考えの進め方や登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握し、自分なりの意味付けをすることが重要である。
- 文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりし、それを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりすることで、自分の考えを確かなものにさせる。
- 「読むこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

- ア 説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動。
- イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。
- ウ 学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動。

### 3 評価の観点の趣旨

| 観 点           | 観 点 の 趣 旨  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。  |
| 思考・判断・表現      | 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものに行っている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものに行ったりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている。                           |



## 第2学年 国語科

### 1 学年の目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

### 2 内容及び内容の取り扱い

|                            |                            |  |
|----------------------------|----------------------------|--|
| 知<br>識<br>及<br>び<br>技<br>能 |                            | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項<br>ア 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くこと。<br>イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。<br>ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から、450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。<br>エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。<br>オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。<br>カ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと。 |
|                            |                            | (2) 情報の扱い方に関する事項<br>ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。<br>イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。   |
|                            |                            | (3) 我が国の言語文化に関する事項<br>ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。<br>イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。<br>ウ 書写に関する事項<br>(ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。<br>(イ) 目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書くこと。<br>エ 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。   |
| 思<br>考<br>力<br>、           | A<br>話<br>す<br>こ<br>と<br>・ | ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。<br>イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。<br>ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。  |

|                                      |           |   |
|--------------------------------------|-----------|---|
| 判<br>断<br>力<br>、<br>表<br>現<br>力<br>等 | 聞くこと      | エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。<br>オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。  |
|                                      | B<br>書くこと | ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。<br>イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。<br>ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。<br>エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。<br>オ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。 |
|                                      | C<br>読むこと | ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。<br>イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。<br>ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。<br>エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果などについて考えること。<br>オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。                    |

## ＜知識及び技能＞

### ① 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 命令や呼び掛け、敬語といった相手の行動を促す表現など、日頃使用している言葉を見つめ直すことが、言語能力の向上につながる。
- 相手(聞き手)の反応やその場の状況などの影響を強く受けながら、理解されたり表現されたりする話し言葉と、書き手が十分に考え推敲を重ねて文章を作成したり、読み手が必要などきに読み返したりできる書き言葉とを適切に使えるようにさせる。
- 漢字の読みは、習得した常用漢字に加え、さらに350字から450字程度まで読めるようにし、漢字の書きは、第1学年で学習した900字程度の漢字を含め、学年別配当表に示している1,026字の漢字を使えるようにさせる。
- 語感を磨き語彙を豊かにするためには、類義語、対義語、同音異義語、多義語などの語句を話や文章の中で使うことを通して、語句の量を増すとともに、語句の理解を深めさせる。
- 単語の活用、付属語の働き、文の成分の順序や照応などを理解し、相手や目的に応じて話や文章の構成や展開を考えさせる。
- 敬語に関する個々の体験的な知識を整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを理解させる。

### ② 情報の扱い方に関する事項

- 意見と根拠の関係や、判断や考えを示す意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方を理解させるために、具体と抽象の概念との関連を図る。
- 情報や図や絵、記号などで整理したり、情報と情報との様々な関係を図式化したりして、複雑な関係を把握したり自分の思考を明確にしたりさせる。

### ③ 我が国の言語文化に関する事項

- 作品がもつ特徴的なリズムや表現などを生かして朗読することを通して、生徒と古典の

世界との距離を縮め、古典の世界に親しませる。

- 古典の現代語訳や語注、解説などを手掛かりとして、情景や心情を想像できるようにし、登場人物の言動や作者の思いを考えることから、作品を貫くものの見方や考え方を理解させる。
- 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解させ、目的や必要に応じて楷書または行書を選ぶようにさせる。
- 読書を通じて、本や文章などが様々な立場や考えから書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすようにさせる。

#### ＜思考力、判断力、表現力等＞

##### ① A 話すこと・聞くこと

- 社会生活の中の出来事や事象に関心をもち、自分とは異なる立場や考えの聞き手に自分の考えを伝えるために、根拠となる情報を幅広く収集させる。
- 自分の立場や考えを明確にするために、話の全体を俯瞰して、聞き手を意識した論理の展開を工夫する。
- 話の要点や中心となる根拠を明らかにしたり、説明を補足したりして、聞き手に分かりやすく伝えるために、資料や機器を用いるなどの工夫をする。
- 論理の展開などに注意して、話し手の考えと自分の考えとを比較しながら聞かせ、自分の考えをまとめさせる。
- 「話すこと・聞くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などを行った活動。

イ それぞれの立場から考えを伝えるなどして議論や討論をする活動。

##### ② B 書くこと

- 社会生活全般から集めた材料を、目的や意図に応じた観点を設け、比較・分類・関係付けなどをしながら考えを整理し、伝えたいことを明確にさせる。
- 文章の構成や展開を工夫したり、段落相互の関係などを明確にしたりして、伝えたいことを分かりやすくさせる。
- 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりして、自分の考えが伝わる文章になるように工夫させる。
- 説明や具体例、描写などに着目して、これらの表現の効果などについて確かめ、読み手の立場に立って文章を整えるようにさせる。
- 表現の工夫とその効果などの観点や、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いださせる。
- 「書くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。

イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。

ウ 歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動。

##### ③ C 読むこと

- 各段落や場面が文章全体の中で果たす役割について捉える。説明的な文章においては、具体例と書き手の主張との関係を把握し、文学的な文章においては、登場人物の設定の仕方を捉えさせる。
- 説明的な文章においては、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、文学的な文章においては、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈させる。

- 同じ形式で書かれた一続きの文章，異なる形式で書かれた文章，図表を伴う文章において，内容を解釈させるために，書き手の伝えたい内容を正確に読み取らせ，その結果どのような効果が生まれているかを考えさせる。
- 観点を明確にして複数の文章を比較しながら読むことで，文章の構成や論理の展開，表現の効果について考えさせる。
- 他者の考えやその根拠，考えの筋道などを知り，共感したり疑問をもったり，自分の考えを対比したりすることにより，自分の考えを広げたり深めたりする。
- 「読むこと」の指導内容は，次のような言語活動を通して指導する。

ア 報告や解説などの文章を読み，理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。

イ 詩歌や小説などを読み，引用して解説したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。

ウ 本や新聞，インターネットなどから集めた情報を活用し，出典を明らかにしながら，考えたことなどを説明したり提案したりする活動。

### 3 評価の観点の趣旨

| 観 点           | 観 点 の 趣 旨  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。  |
| 思考・判断・表現      | 「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」の各領域において，論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い，社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉を通じて積極的に人と関わったり，思いや考えを広げたり深めたりしながら，言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに，読書生活に役立て，言葉を適切に使おうとしている。                         |

## 第3学年 国語科

### 1 学年の目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

### 2 内容及び内容の取り扱い

|                            |                            |   |
|----------------------------|----------------------------|---|
| 知<br>識<br>及<br>び<br>技<br>能 |                            | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項<br>ア 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。<br>又、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。<br>イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。<br>ウ 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。<br>エ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。 |
|                            |                            | (2) 情報の扱い方に関する事項<br>ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。<br>イ 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。   |
|                            |                            | (3) 我が国の言語文化に関する事項<br>ア 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。<br>イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。<br>ウ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解すること。<br>エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。<br>(ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。<br>オ 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解すること。                          |
| 思<br>考<br>力<br>、           | A<br>話<br>す<br>こ<br>と<br>・ | ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。<br>イ 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。<br>ウ 場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。  |

|  |                       |  |
|--|-----------------------|--|
| 判<br>断<br>力<br>、<br>表<br>現<br>力<br><br>等 | 聞<br>く<br>こ<br>と      | エ 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすること。<br>オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。  |
|  | B<br>書<br>く<br>こ<br>と | ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。<br>イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。<br>ウ 表現の仕方を考えたり資料に適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。<br>エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。<br>オ 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。 |
|  | C<br>読<br>む<br>こ<br>と | ア 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。<br>イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。<br>ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。<br>エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。  |

## <知識及び技能>

### ① 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 漢字の読みについては、第2学年までに学習した常用漢字に加え、更に残りの常用漢字の大体を読み、漢字の書きについては、第2学年までに学習した学年別漢字配当表の1,026字の漢字を文や文章の中で使い慣れさせる。
- 理解や表現に必要な様々な語句の量を増し、これまでに学習してきた多様な語句を意識的に使用し、語感を磨くことで語彙を豊かにさせる。
- 意見、感想、記録、報告、説明、解説、提案、物語など、様々な話や文章の種類について整理し、理解を深めさせる。
- 相手や場に応じた言葉遣いという観点から日常の言語活動を振り返り、これらの役割について理解できるようにさせる。

### ② 情報の扱い方に関する事項

- 具体や抽象という概念を理解するとともに、具体的な事例を抽象化してまとめたり、抽象的な概念について、具体的な事例で説明したりさせる。
- 情報を受信する際にも発信する際にも、その情報の事実関係や裏付ける証拠、一時情報の発信や発信時期など、情報の信頼性について確かめられるようにさせる。

### ③ 我が国の言語文化に関する事項

- 古典作品には背景となる歴史的な状況が存在し、作品を解説した文章やメディアなどを活用することで、世界をより深く、広く理解することが可能になる。
- ことわざや慣用句、故事成語など長く親しまれている言葉の意味を理解させることで、言葉に興味をもち、積極的に使うことができるようにさせる。
- 言葉のもつ性質に気付かせることで、日頃自分たちが使っている言葉に対する興味・関心を喚起するとともに、理解や認識を深めて通時的な言葉の変化に対する意識をもたせ

るようにする。

- 自分の身の回りにある多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、その理解を基に表現の効果を考えながら文字を書かせる。
- 新しい知識を得たり、自分の考えを広げたり深めたりすることを通して、読書をすることの意味を実感させる。

#### ＜思考力、判断力、表現力等＞

##### ① A 話すこと・聞くこと

- 社会生活の中から多様な考えを想定し、自分の知識や経験の中に材料を求めたり、時間をかけずに内容を検討したりさせる。
- 自分の立場や考えを明確にして話の構成を工夫し、相手を説得できるように論理の展開などを考えさせる。
- 自分の考え方が分かりやすく伝わるように話し方を工夫したり、場の状況に応じて言葉を選ぶなどして表現を工夫したりさせる。
- 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価する。話を評価することを通して、多様な考えを理解したり自分の考えを見直したりして、自分の考えを広げたり深めたりさせる。
- 通行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら、合意形成に向けて話し合わせる。
- 「話すこと・聞くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動。

イ 互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動。

##### ② B 書くこと

- 地域社会の中で見聞きしたことや、テレビや新聞などの様々な媒体を通じて伝えられることなど社会生活全般とした上で、集めた材料の客観性や信頼性を確認させる。
- 書く目的や意図に応じ、伝えたいことを表現するのに適したものかどうかを判断して、論理の展開を考えさせる。
- 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなどして、自分の考えが伝わるように工夫させる。
- 文章を書く目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えさせる。
- 読み手からの助言などを踏まえ、論理の展開などの観点からよい点や改善点を見いださせる。
- 「書くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。

イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動。

##### ③ C 読むこと

- 様々な文章の種類を踏まえて、説明的な文章の論理の展開の仕方や文学的な文章の物語の展開の仕方などを捉えさせる。
- 説明的な文章では、文章に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験などと照らし合わせて、納得や共感ができるか否かなどを考えさせる。文学的な文章で

は、登場人物の行動や物語の展開の意味を考えたり、登場人物と自分との考え方の違いを確認したりするなど、批判的に読ませる。

- 文章の構成や論理の展開が適切なものであるか、読み手の共感を得るために有効であるか、様々な表現の仕方が、文章の内容や書き手の考えを正確に伝えたり印象づけたりする上で、どのような効果を上げているかなどを根拠に基づいて判断し、その意味などについて考えさせる。
- 様々な文章を読むことを通して、そこに表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせ、自分の考えをもたせる。
- 「読むこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動。

イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

ウ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動

### 3 評価の観点の趣旨

| 観 点           | 観 点 の 趣 旨   |
|---------------|---|
| 知識・技能         | 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。   |
| 思考・判断・表現      | 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を通して自己を向上させ、言葉を適切に使用している。                           |



第1学年 国語科 年間計画(標準140時間)

|                       | 単 元 名     | 教 材 名                                     | 時間 | 備 考    |          |
|-----------------------|-----------|---|----|--------|----------|
| 一<br>学<br>期<br><br>43 |           | 朝のリレー                                     | 1  | 詩      | 音楽       |
|                       | 言葉に出会うために | 野原はうたう                                    | 5  | 詩      |          |
|                       |           | 声を届ける                                     |    | 発表(基本) |          |
|                       |           | 書き留める／言葉を調べる                              |    | 記録(基本) |          |
|                       |           | (続けてみよう)                                  |    |        |          |
|                       | 学びをひらく    | シンシュン                                     | 4  | 物語     | 道徳       |
|                       |           | 〔聞く〕情報を的確に聞き取る                            | 1  | 聞く     |          |
|                       |           | (季節のしおり 春)                                |    |        |          |
|                       |           | 情報整理のレッスン 比較・分類                           | 1  | 情報整理   |          |
|                       |           | 情報を整理して書こう わかりやすく説明する                     | 4  | 説明     | 知多の友・全教科 |
|                       |           | 漢字1 漢字の組み立てと部首／漢字に親しもう1                   | 1  | 漢字     |          |
|                       | 新しい視点で    | ダイコンは大きな根?                                | 2  | 説明     | 理科       |
|                       |           | ちょっと立ち止まって                                | 3  | 説明     | 美術       |
|                       |           | 思考のレッスン1 意見と根拠                            | 1  | 思考     |          |
|                       |           | 話の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する                | 4  | 紹介     | 知多の友・全教科 |
|                       |           | 漢字に親しもう2                                  | 1  | 漢字     |          |
|                       |           | 文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう                       | 2  | 文法     |          |
|                       | 情報社会を生きる  | 情報を集めよう／情報を読み取ろう／情報を引用しよう                 | 3  | 引用     |          |
|                       | 言葉に立ち止まる  | 詩の世界                                      | 3  | 詩・解説   |          |
|                       |           | 比喩で広がる言葉の世界                               | 2  | 説明     |          |
|                       |           | 言葉1 指示する語句と接続する語句                         | 2  | 言葉     |          |
|                       |           | 言葉を集めよう もっと「伝わる」表現を目指して                   | 1  | 言葉     |          |
|                       | 読書生活を豊かに  | 読書を楽しむ                                    | 2  | 読書     | 道徳・体育    |
|                       |           | 本の中の中学生 あと少し、もう少し／西の魔女が死んだ／ブラインドの向こうに見える光 |    |        |          |
|                       |           | 読書案内 本の世界を広げよう                            |    |        |          |
|                       |           | 読書コラム 本との出会い                              |    |        |          |
|                       |           | (季節のしおり 夏)                                |    |        |          |

|                       |            |                                 |   |       |          |
|-----------------------|------------|---------------------------------|---|-------|----------|
| 二<br>学<br>期<br><br>50 | 心の動き       | 大人になれなかった弟たちに……                 | 4 | 物語    | 道徳       |
|                       |            | 星の花が降るころに                       | 5 | 小説    |          |
|                       |            | 聞き上手になろう 質問で話を引き出す              | 1 | 対話・質問 | 全教科      |
|                       |            | 項目を立てて書こう 案内文を書く                | 3 | 案内    | 全教科      |
|                       |            | 〔推敲〕読み手の立場に立つ                   |   | 推敲    |          |
|                       |            | 言葉2 方言と共通語                      | 2 | 言葉    |          |
|                       |            | 漢字2 漢字の音訓                       | 1 | 漢字    |          |
|                       | 筋道を立てて     | 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ                 | 4 | 記録    | 理科       |
|                       |            | 思考のレッスン2 原因と結果                  | 1 | 思考    |          |
|                       |            | 根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く      | 5 | 説明    | 知多の友・全教科 |
|                       |            | 漢字に親しもう3                        | 1 | 漢字    |          |
|                       |            | 〔話し合い〕話し合いの展開を捉える               | 1 | 話し合い  |          |
|                       |            | 話題や展開を捉えて話し合おう グループ・ディスカッションをする | 4 | 話し合い  |          |
|                       |            | 音読を楽しもう 大阿蘇                     | 1 | 詩     |          |
|                       |            | (季節のしおり 秋)                      |   |       |          |
|                       | いにしえの心にふれる | 音読を楽しもう いろは歌                    | 1 | 古文・音読 |          |
|                       |            | 古典の世界                           |   | 古文・解説 |          |
|                       |            | 蓬萊の玉の枝ー「竹取物語」から                 | 4 | 古文    |          |
|                       |            | 今に生きる言葉                         | 2 | 漢文    |          |
|                       | 価値を見いだす    | 「不便」の価値を見つめ直す                   | 4 | 意見    |          |
|                       |            | 助言を自分の文章に生かそう 作品の書評を書く          | 2 | 説明    | 知多の友     |
|                       |            | 漢字に親しもう4                        | 1 | 漢字    |          |
|                       |            | 文法への扉2 言葉の関係を考えよう               | 2 | 文法    |          |
|                       | 読書に親しむ     | 考える人になろう 君たちはどう生きるか／たのしい制約      | 1 | 読書    | 道徳       |
|                       |            | 読書案内 本の世界を広げよう                  |   |       |          |
|                       |            | (季節のしおり 冬)                      |   |       |          |

|                       |         |                               |   |       |      |
|-----------------------|---------|-------------------------------|---|-------|------|
| 三<br>学<br>期<br><br>27 | 自分を見つめる | 少年の日の思い出                      | 6 | 小説    |      |
|                       |         | 漢字に親しもう 5                     | 1 | 漢字    |      |
|                       |         | 文法への扉 3 単語の性質を見つけよう           | 2 | 文法    |      |
|                       |         | 随筆二編                          | 2 | 随筆    |      |
|                       |         | 構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く      | 4 | 随筆    | 知多の友 |
|                       |         | 言葉 3 さまざまな表現技法                | 2 | 言葉    |      |
|                       |         | 漢字 3 漢字の成り立ち 漢字に親しもう 6        | 1 | 漢字    |      |
|                       |         | 一年間の学びを振り返ろう 要点をフリップにまとめ、発表する | 5 | 発表・説明 | 総合   |
|                       |         | さくらの はなびら                     | 1 | 詩     |      |
|                       |         | 学習を振り返ろう                      | 3 | 振り返り  |      |

第1学年 書写（20時間）

| 学期 | 単 元 名   | 教 材 名                                  | 時間 |
|----|---|--|----|
| 1  | 詩「ふしぎ」金子みすゞ<br>目次<br>目的に合わせて書こう<br>姿勢と用具の使い方<br>学習の進め方<br>書写を通して学んでいくこと<br>扉 第一学年<br>学習内容を効果的に書こう |  | 適時 |
|    |   |  |    |
|    |   |  |    |
|    |   |  |    |
|    |   |  |    |
|    |   |  |    |
|    |   |  |    |
|    |   |  |    |
|    | 楷書で書こう  | 筆使い ー基本点画ー                             | 4  |
|    |   | 筆使いと字形「天地」                             |    |
|    |   | 学習を生かして書く ー字形，筆順ー                      |    |
|    |   | 筆，墨，硯，紙について知ろう                         |    |
|    | 楷書と仮名を調和させて書こう  | 筆脈「いろは歌」                               | 4  |
|    |   | 楷書に調和する仮名「いろは歌」                        |    |
|    |   | 学習を生かして書く ー行の中心ー『竹取物語』                 |    |
|    |   | 学習を生かして書く ー配列ー 校庭の植物観察をレポートにまとめる 手紙を書く |    |
|    |   | 季節の行事と書写                               |    |
|    |   | 学校生活に生かして書く お薦めの本の帯やポップを作る ポスターを書く     |    |
|    |   | 文字の変遷                                  |    |
| 2  | 行書で書いてみよう   | 行書学習のはじめに                              | 9  |
|    |   | 楷書と行書の違い「和」                            |    |
|    |   | 行書の筆使い「大」                              |    |
|    |   | 点画の連続と変化1「大木」                          |    |
|    |   | 点画の連続と変化2「栄光」                          |    |
|    |   | 点画の連続と省略「平和」                           |    |
|    |   | 学習を生かして書く ー行書の特徴ー                      |    |
|    |   | 暮らしの文字を支える人々                           |    |
| 3  | 書き初めを書く   | 「新たな決意」「世界遺産」                          | 3  |

第2学年 国語科 年間計画(標準140時間)

|                       | 単 元 名    | 教 材 名                                 | 時間 | 備 考   |                |
|-----------------------|----------|---------------------------------------|----|-------|----------------|
| 一<br>学<br>期<br><br>43 |          | 見えないだけ 続けてみよう                         | 1  | 詩     |                |
|                       | 広がる学びへ   | アイスプラネット                              | 4  | 小説    | 社会             |
|                       |          | 〔聞く〕 問いを立てながら聞く                       | 1  | 聞く    |                |
|                       |          | (季節のしおり 春)                            |    |       |                |
|                       |          | 枕草子                                   | 3  | 古文    | 社会             |
|                       |          | 情報整理のレッスン 思考の視覚化                      | 1  | 情報整理  |                |
|                       |          | 多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る                | 5  | 紹介    | 知多の友・<br>道徳・行事 |
|                       |          | 漢字1 熟語の構成／漢字に親しもう1                    | 1  | 漢字    |                |
|                       | 多様な視点から  | クマゼミ増加の原因を探る                          | 4  | 報告    | 理科             |
|                       |          | 思考のレッスン1 具体と抽象                        | 1  | 思考    |                |
|                       |          | 魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする         | 5  | 説明・提案 | 知多の友・<br>全教科   |
|                       |          | 漢字に親しもう2                              | 1  | 漢字    |                |
|                       |          | 文法への扉1 単語をどう分ける？                      | 2  | 文法    |                |
|                       | 情報社会を生きる | メディアを比べよう                             | 3  | 情報    |                |
|                       |          | メディアの特徴を生かして情報を集めよう<br>「自分で考える時間」をもとう |    |       | 総合             |
|                       | 言葉と向き合う  | 短歌に親しむ                                | 4  | 短歌・解説 |                |
|                       |          | 短歌を味わう                                |    | 短歌    |                |
|                       |          | 言葉の力                                  | 2  | 随筆    | 美術             |
|                       |          | 言葉1 類義語・対義語・多義語                       | 2  | 言葉    |                |
|                       |          | 言葉を比べよう もっと「伝わる」表現を目指して               | 1  | 言葉    |                |
|                       | 読書生活を豊かに | 読書を楽しむ                                | 2  | 読書活動  |                |
|                       |          | 翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま                    |    | 読書    | 外国語            |
|                       |          | 読書コラム「わからない」は人生の宝物                    |    | 読書    |                |
|                       |          | 読書案内 本の世界を広げよう                        |    | 読書案内  |                |
|                       |          | (季節のしおり 夏)                            |    |       |                |

|                       |            |                                       |   |          |          |
|-----------------------|------------|---------------------------------------|---|----------|----------|
| 二<br>学<br>期<br><br>50 | 人間のきずな     | 盆土産                                   | 4 | 小説       | 道徳       |
|                       |            | 字のない葉書                                | 3 | 随筆       | 道徳       |
|                       |            | 聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す                | 1 | 対話・質問    | 全教科      |
|                       |            | 表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く                | 3 | 手紙・電子メール | 知多の友・全教科 |
|                       |            | 〔推敲〕表現の効果を考える                         | 1 | 推敲       |          |
|                       |            | 言葉 2 敬語                               | 1 | 言葉       |          |
|                       |            | 漢字 2 同じ訓・同じ音をもつ漢字／漢字に親しもう 3           | 1 | 漢字       |          |
|                       | 論理を捉えて     | モアイは語る ——地球の未来                        | 4 | 論説       | 社会       |
|                       |            | 思考のレッスン 2 根拠の吟味                       | 1 | 思考       |          |
|                       |            | 根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く                  | 4 | 意見       | 知多の友     |
|                       |            | 漢字に親しもう 4                             | 1 | 漢字       |          |
|                       |            | 〔討論〕異なる立場から考える                        | 1 | 討論       |          |
|                       |            | 立場を尊重して話し合おう 討論で多角的に検討する              | 4 | 討論       | 全教科      |
|                       |            | 音読を楽しもう 月夜の浜辺<br>(季節のしおり 秋)           | 1 | 詩        | 音楽       |
|                       | いにしえの心を訪ねる | 源氏と平家                                 | 1 | 古文・資料    |          |
|                       |            | 音読を楽しもう 平家物語                          |   | 古文・音読    |          |
|                       |            | 扇の的 ——「平家物語」から                        | 3 | 古文       | 社会       |
|                       |            | 仁和寺にある法師 ——「徒然草」から                    | 3 | 古文       | 社会       |
|                       |            | 漢詩の風景                                 | 3 | 漢詩・解説    | 社会       |
|                       | 価値を語る      | 君は「最後の晩餐」を知っているか                      | 4 | 評論       | 美術       |
|                       |            | 「最後の晩餐」の新しさ                           |   | 解説       | 美術       |
|                       |            | 魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く                    | 2 | 鑑賞文      | 知多の友・美術  |
|                       |            | 漢字に親しもう 5                             | 1 | 漢字       |          |
|                       |            | 文法への扉 2 走る。走らない。走ろうよ。                 | 2 | 文法       |          |
|                       | 読書に親しむ     | 研究の現場にようこそ 日本に野生のゾウやサイがいた頃／クモの糸でバイオリン | 1 | 読書       | 理科       |
|                       |            | 読書案内 本の世界を広げよう                        |   | 読書案内     |          |
|                       |            | (季節のしおり 冬)                            |   |          |          |

|                       |         |                                |   |       |         |
|-----------------------|---------|--------------------------------|---|-------|---------|
| 三<br>学<br>期<br><br>27 | 表現を見つめる | 走れメロス                          | 6 | 小説    |         |
|                       |         | 漢字に親しもう 6                      | 1 | 漢字    |         |
|                       |         | 文法への扉 3 一字違いで大違い               | 2 | 文法    |         |
|                       |         | 構成や展開を工夫して書こう 「ある日の自分」の物語を書く   | 4 | 創作・物語 | 知多の友    |
|                       |         | 言葉 3 話し言葉と書き言葉                 | 2 | 言葉    |         |
|                       |         | 漢字 3 送り仮名                      | 2 | 漢字    |         |
|                       |         | 国語の学びを振り返ろう テーマを決めて話し合い、壁新聞を作る | 5 | 議論・報告 | 知多の友・総合 |
|                       |         | 木                              | 2 | 詩     |         |
|                       |         | 学習を振り返ろう                       | 3 | 振り返り  |         |

第2学年 書写（20時間）

| 学期 | 単 元 名             | 教 材 名                                  | 時間 |
|----|-------------------|--|----|
| 1  | 扉 第二学年            |  | 適時 |
|    | あの人が残した文字         |  |    |
|    | 行書で書こう            | 点画の省略「初志」                              | 6  |
|    |                   | 筆順の変化「深緑」                              |    |
| 2  | 行書と仮名を調和させて書いてみよう | 学習を生かして書く 一行書の特徴－                      |    |
|    |                   | 行書と仮名の調和「喜びの声」                         | 7  |
|    |                   | 行書に調和する仮名「いろは歌」                        |    |
|    |                   | 文字の大きさと配列                              |    |
|    |                   | 書く速さを意識して書く－行書と仮名の調和－『走れメロス』           |    |
|    |                   | 学習を生かして書く 一行書と仮名の調和と配列－『枕草子』『平家物語』     |    |
| 3  | 書き初めを書く           | 「生命の尊重」「伝統の継承」                         | 3  |
|    | 学習活動や日常生活に生かして書こう | さまざまな書く場面                              | 4  |
|    |                   | 学習を生かして書く 新聞を書く／掲示物(ポスター)に案内を書く／案内状を書く |    |
|    |                   | 日本建築と「書」                               |    |
|    |                   | 書の古典の鑑賞                                | 適時 |



第3学年 国語科 年間計画(標準105時間)

|                       |          | 単 元 名                        | 時間 | 備 考   |             |
|-----------------------|----------|------------------------------|----|-------|-------------|
| 一<br>学<br>期<br><br>34 |          | 世界はうつくしいと 続けてみよう             | 1  | 詩     |             |
|                       | 深まる学びへ   | 握手                           | 4  | 小説    | 道徳          |
|                       |          | 〔聞く〕 評価しながら聞く                | 1  | 聞く    |             |
|                       |          | (季節のしおり 春)                   |    |       |             |
|                       |          | 学びて時に之を習ふ ――「論語」から           | 2  | 漢文・解説 | 道徳・社会       |
|                       |          | 情報整理のレッスン 情報の信頼性             | 1  | 練習    |             |
|                       |          | 文章の種類を選んで書こう 修学旅行記を編集する      | 4  | 編集    | 知多の友・行事     |
|                       |          | 漢字1 熟語の読み方／漢字に親しもう1          | 1  | 漢字    |             |
|                       | 視野を広げて   | 作られた「物語」を超えて                 | 3  | 論説    | 道徳          |
|                       |          | 思考のレッスン 具体化・抽象化              | 1  | 練習    |             |
|                       |          | 説得力のある構成を考えよう スピーチで社会に思いを届ける | 4  | 主張・提案 | 知多の友・社会・外国語 |
|                       |          | リオの伝説のスピーチ                   |    | 資料    |             |
|                       |          | 漢字に親しもう2                     | 1  | 漢字    |             |
|                       |          | 文法への扉1 すいかは幾つ必要?             | 1  | 文法    |             |
|                       | 情報社会を生きる | 実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう       | 3  | 報道文   | 知多の友・社会・総合  |
|                       | 言葉とともに   | 俳句の可能性                       | 3  | 俳句・解説 |             |
|                       |          | 俳句を味わう                       |    | 俳句    |             |
|                       |          | 言葉を選ぼう もっと「伝わる」表現を目ざして       | 1  | 言葉    |             |
|                       |          | 言葉1 和語・漢語・外来語                | 1  | 言葉    |             |
|                       | 読書生活を豊かに | 読書を楽しむ                       | 2  | 読書活動  |             |
|                       |          | 「私の一冊」を探しにいこう 羊と鋼の森          |    | 読書    | 音楽          |
|                       |          | 読書案内 本の世界を広げよう               |    | 読書案内  |             |
|                       |          | 読書コラム ためになるってどんなこと?          |    | 読書    |             |
|                       |          | (季節のしおり 夏)                   |    |       |             |
|                       | 状況の中で    | 挨拶 ――原爆の写真によせて               | 2  | 詩     | 道徳          |
|                       |          | 故郷                           | 5  | 小説    | 社会          |
|                       |          | 聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る         | 1  | 対話・質問 | 全教科         |

|                       |             |                                 |   |       |          |
|-----------------------|-------------|---------------------------------|---|-------|----------|
| 二<br>学<br>期<br><br>40 |             | [推敲] 論理の展開を整える                  | 1 | 推敲    |          |
|                       |             | 言葉2 慣用句・ことわざ・故事成語               | 1 | 言葉    |          |
|                       |             | 漢字2 漢字の造語力／漢字に親しもう3             | 1 | 漢字    |          |
|                       | 自らの考えを      | 人工知能との未来                        | 3 | 論説    | 技術・家庭科   |
|                       |             | 人間と人工知能と創造性                     |   |       | 技術・家庭科   |
|                       |             | 多角的に分析して書こう 説得力のある批評文を書く        | 4 | 批評    | 知多の友・全教科 |
|                       |             | 漢字に親しもう4                        | 1 | 漢字    |          |
|                       |             | [議論] 話し合いを効果的に進める               | 1 | 議論    |          |
|                       |             | 合意形成に向けて話し合おう 課題解決のために会議を開く     | 4 | 議論    | 全教科      |
|                       |             | 音読を楽しもう 初恋                      | 1 | 詩     |          |
|                       |             | (季節のしおり 秋)                      |   |       |          |
|                       | いにしえの心を受け継ぐ | 和歌の世界                           | 1 | 古典・解説 |          |
|                       |             | 音読を楽しもう 古今和歌集 仮名序               |   | 古文・音読 |          |
|                       |             | 君待つと ——万葉・古今・新古今                | 2 | 古文    | 社会       |
|                       |             | 夏草 ——「おくのほそ道」から                 | 4 | 古文    | 社会       |
|                       |             | 古典名句・名言集                        |   | 古文・漢文 |          |
|                       | 価値を生み出す     | 誰かの代わりに                         | 3 | 論説    | 道徳       |
|                       |             | 情報を読み取って文章を書こう グラフを基に小論文を書く     | 2 | 小論文   | 知多の友・全教科 |
|                       |             | 漢字3 漢字のまとめ／漢字に親しもう5             | 1 | 漢字    |          |
|                       |             | 文法への扉2 「ない」の違いがわからない?           | 1 | 文法    |          |
|                       | 読書に親しむ      | 本は世界への扉 エルサルバドルの少女 ヘスース／紛争地の看護師 | 1 | 読書    | 道徳・社会    |
|                       |             | 読書案内 本の世界を広げよう                  |   |       |          |
|                       |             | (季節のしおり 冬)                      |   |       |          |
| 三<br>学<br>期<br><br>21 | 未来へ向かって     | 温かいスープ                          | 3 | 随筆    | 道徳       |
|                       |             | わたしを束ねないで                       | 2 | 詩     | 音楽       |
|                       |             | 三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする     | 6 | 発表・編集 | 知多の友・総合  |
|                       |             | 漢字に親しもう6                        | 1 | 漢字    |          |
|                       |             | 学習を振り返ろう                        | 4 | 振り返り  |          |
|                       | 予備          |                                 | 5 |       |          |

第3学年 書写（10時間）

| 学期  | 単 元 名                                  | 教 材 名                   | 時間 |
|-----|--|-------------------------|----|
| 1・2 | 扉 第三学年                                 |                         | 適時 |
|     | 行書を深めよう                                | 点画の変化と連続「創造」            | 2  |
|     | 行書と仮名を調和させて書こう                         | 行書と仮名の調和「美しい自然」         | 3  |
|     |  | 学習を生かして書く ―配列― 「おくのほそ道」 |    |
| 3   | 書き初めを書く                                | 「友好の精神」「真理の探究」          | 3  |
|     | 身のまわりの多様な表現をとおして文字文化の豊かさにふれ、効果的に文字を書こう | 多様な表現による文字              | 2  |
|     |  | 三年間の学習の成果を生かそう          |    |

第1学年〇組 国語科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 1 学びをひらく（情報を整理して書こう わかりやすく説明する）

2 単元の目標

- (1) 相手に理解してもらうために、言葉遣いや語句の選び方、表現方法を工夫することができる。
- (2) 身近な生活の中から説明したい事柄を決め、観点を立てて情報を整理して、考えをまとめることができる。
- (3) 目的や相手を明確にした上で、観点を立てて情報を集めたり、分類したりしながら、分かりやすく伝わる文章を書こうとする。

3 学習の計画 (4時間完了)

- 第1時（本時） 学習の目標を理解し、説明する事柄を決める。
- 第2時 観点を立てて情報を集め、目的や相手に応じて必要な情報を取捨選択する。
- 第3時 文章の構成を考え、分かりやすい表現で工夫して書く。
- 第4時 書いた文章を読み合い、感想を伝え合うとともに、観点を立てて情報を捉えることの大切さを理解する。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 分かりやすく説明するために、必要な情報を集めることの大切さを知ることができる。
  - 目的や相手に応じた情報を積極的に集め、まとめようとする。
- (2) 準備・資料
  - 生徒……知多の友
  - 教師……教師の宝物（生徒の興味をひくもの）、掲示用カード（画用紙を切ったもの）
- (3) 関 連
  - 2年 国語 広がる学びへ「多様な方法で情報を集めよう」（多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする）
  - 3年 国語 深まる学びへ「文章の種類を選んで書こう」（集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にする）

(4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|------|--|----|--|
| つかむ  | 1 さまざまな場面の例から、分かりやすく物事を伝えることの大切さを感じ、本時の学習課題を知る。  | 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「目標」「学習の見通し」(p. 34～p. 35)を読み、理解させる。</li> <li>○ 目的や相手によって、伝える情報が変われることを伝える。</li> </ul>   |
|      | 2 本時の学習課題をつかむ。<br>(1) 本時の学習課題に関心をもつ。<br>(2) 本時の学習課題を知る。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             自分が説明する題材と目的・相手を決めよう。           </div> |    |  |
| 追究する | 3 教師の「宝物」についての情報を集め、話し合いを行う。<br>(1) 「宝物」について教師の話聞く。<br>(2) 教師の「宝物」を家族に紹介するために必要な情報を集める。<br>・色や形状<br>・使い方や特性<br>・入手方法や思い出<br>(3) 「宝物」を紹介するのに必要な情報を班で話し合い、掲示用カードにまとめ、黒板に貼る。            |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習課題カードを黒板に掲示する。</li> <li>○ 自分が興味をもっていることや、友達に知らせたいこと以外にも、「発想を広げる」(p. 72)を参考にテーマを決めさせてもよい。</li> <li>○ 教師の「宝物」を家族に紹介するという状況設定で考えさせる。</li> <li>○ 「宝物」の具体的な説明や思い出について話し、興味をもたせる。</li> <li>○ 班での話し合いに向けて、個別に意見を考えさせる。</li> <li>○ 思いつかない生徒には「色」や「形」等の観点到に注目させる。</li> <li>○ 伝える相手や目的を意識させて、班で話し合いを行い、必要だと思う情報を四つにまとめさせる。</li> </ul> |

|  |   |  |   |
|--|---|--|---|
| 追<br>究<br>す<br>る<br><br>ま<br>と<br>め<br>る | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような色や形状か</li> <li>・どのように使うものか</li> <li>・どのように手に入れたか</li> <li>・「宝物」にまつわる思い出</li> </ul> <p>(4) 情報のまとまりごとに、どのような観点なのかを考える。</p> |  | <p>評必要な情報を積極的に集め、掲示用カードにまとめようとしている。<br/>(話し合いの様子、掲示用カード)</p> <p>○ 黒板に貼ったカードを、観点別に教師が分類する。</p> <p>○ 教師が分類した情報に、「形状」「思い出」などの観点名を付けさせる。</p> <p>○ 目的や相手によって情報が変わることを実感させるため、「紛失した宝物を級友に探してもらう」という状況設定で、情報を集めさせる。</p> <p>○ 出された意見を板書し、カードに書かれた情報と比較できるようにする。</p> <p>○ 目的や相手によって、集める情報が変わること気付かせる。</p> <p>評必要な情報を集めることで、分かりやすく説明できることに気付いている。<br/>(発表、知多の友)</p> <p>○ 「宝物」で学んだことを生かし、自分が伝えたい題材をいくつか挙げさせる。</p> <p>○ 題材を一つに決めさせる。</p> <p>○ 目的や相手を明確にさせる。</p> |
|  | 4   | 目的や相手を変えることで、必要な情報がどのように変わるのかを考える。<br>(1) 紛失した「宝物」を探してもらうときに必要な情報を集める。<br>(2) 紹介する場合と探してもらう場合の情報の違いに注目して、「伝える」上で大切なことをまとめる。<br>・伝える目的や相手を明確にすること<br>・目的や相手に沿った情報を集めること | 25  |
|  | 5   | 題材・目的・相手を考え、説明する題材を決める。<br>(1) 候補として挙げた中から、題材を一つに決める。<br>(2) 知多の友 (p. 4) に記入する。  | 40  |
|  | 6   | 本時を振り返り、次時の予告を聞く。<br>(1) 本時の振り返りをする。<br>(2) 次時の内容について知る。   | 47  |
|  |   |  | 50  |

(5) 本時の評価規準

- 分かりやすい説明をするために、目的や相手に沿った情報が大切であることに気付いている。  
(発表、知多の友)
- 分かりやすく書くために必要な情報を、積極的に集め、まとめようとしている。  
(話し合いの様子、掲示用カード)

## 5 備 考

(1) 学級の実態

- 本学級には、作文を書く際に、なかなか取りかかれなかったり、途中で手が止まってしまったりするなど、「書くこと」に苦手意識をもっている生徒がいる。そこで目的を明確にし、伝える相手を意識して文章を書くことで、分かりやすく伝わる文章になることを実感させたい。そして、作文を書く目的意識や相手意識の大切さを感じさせたいと思い、本授業を設定した。

(2) 指導の力点

- 「宝物」に関する情報はカード、「宝物の搜索」に関する情報はチョークというように、目的によって必要になる情報が変わることが、一目で分かるように板書を行うことで、教師の話やグループ活動での級友の意見だけでなく、視覚的にも目的の大切さを理解できるようにする。

## 6 指導と評価

第1学年〇組 国語科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 4 心の動き（星の花が降るころに）

2 単元の目標

- (1) 登場人物の心情とその変化を捉え、それについて自分の考えをもつことができる。
- (2) 作品の展開を確かめながら、場面ごとの状況やそのつながりを読み味わうことができる。  
文脈の中で言葉の意味を捉え、表現の工夫を味わうことができる。
- (3) 作品のおもしろさを味わい、物語を楽しもうとする。

3 学習の計画 (5時間完了)

- 第1次 第1時 本文を通読し、これからの学習の見通しを立てる。
- 第2時（本時） 場面の展開に沿って、「私」の心情の変化とその理由を整理する。
- 第3時 行動や情景描写と「私」の心情の関係をまとめる。
- 第2次 第4時～第5時 登場人物の気持ちを想像し、この作品の続きを考える。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 描写や場面展開に興味をもち、四つの場面に分けようとする。
  - 本文の描写を手がかりに「私」の心情について考え、まとめることができる。
- (2) 準備・資料
  - 生徒……ペン（青色、赤色）
  - 教師……学習課題カード、ワークシート
- (3) 関 連
  - 小6 国語 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう「海の命」  
(登場人物の関係を捉え、人物の生き方について話し合う)
  - 2年 国語 人間のきずな「盆土産」(登場人物の言動の意味を考える)
  - 3年 国語 状況の中で「故郷」(小説を批判的に読み、社会や人間について考える)

(4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|------|---|----|--|
| つかむ  | 1 課題を整理し、学習の見通しを立てる。  | 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学習」(p.114) と関連付けながら課題を整理し、学習の見通しを立てさせる。</li> <li>○ 「学習の窓」(p.114) を参照させ、場面や描写を結び付けて読むと、人物の気持ちや変化を整理しやすいことを確認させる。</li> <li>○ 学習課題カードを黒板に掲示する。</li> </ul> |
|      | 2 本時の学習課題をつかむ。<br>(1) 本時の学習課題に関心をもつ。<br>(2) 本時の学習課題を知る。<br>行動や情景描写などから、「私」の心情を考えよう。 |    |  |
| 追究する | 3 時間や場所が分かる表現に着目して、四つの場面に分ける。<br>(1) 時間や場所が分かる表現に傍線を引きながら、範読を聞く。                    | 15 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「私」のいる場所や時間を表す表現を確かめながら、場面展開を確認させる。</li> <li>○ 時間が分かる表現に赤色の傍線、場所が分かる表現に青色の傍線を引かせる。</li> <li>○ 机間指導をして、個別に支援が必要な生徒に助言をし、時間や場所についての表現を探させる。</li> </ul>    |
|      | (2) 時間や場所を確認し、場面の展開をまとめる。<br>・ 去年の秋、夏実と二人で木の真下                                      |    |  |

|                                      |  |    |   |
|--------------------------------------|--|----|---|
| 追<br>究<br>す<br>る<br>ま<br>と<br>め<br>る | に立ち<br>・ 昼休みに入った教室<br>・ 帰りは図書委員の集まりがあった<br>……校庭に出ると<br>・ 学校からの帰り……銀木犀の公園<br>に立ち寄った   | 20 | ○ 長い文は「……」と書いて中略することを伝え、学習の効率化を図る。<br>○ 四つの場面になることを確認する。<br><b>評</b> 傍線の箇所を手がかりに、四つの場面に分けようとしている。（活動の観察）  |
|                                      | 4 場面ごとに行動や情景描写などから、「私」の心情を捉える。<br>(1) 表現を抜き出し、そのときの「私」の心情を考え、ワークシートに書く。<br>・ 一つ息を吸ってはくときこちなく足を踏み出した＝不安〔行動描写〕<br>・ 私は自分の心臓がどこにあるかはっきりわかった＝緊張〔心情描写〕<br>・ かたむいた陽が葉っぱの間からちらちらと差し＝希望〔情景描写〕<br>(2) ワークシートに書いたことを発表し合う。 | 47 | ○ 場面の展開に沿って、行動描写・心情描写・情景描写を探すように指示する。<br>○ 「私」の心情を表すのにふさわしい言葉を、短い言葉でまとめるように指示する。<br>○ 心情を表す言葉が思いつかない生徒については、肯定的か否定的なのかを考えさせる。<br>○ 巧みな比喩表現に注目させる。<br><b>評</b> 「私」の心情を、描写を基にして短い言葉で表現している。（ワークシート）<br>○ 新たな意見は、ワークシートに書き加えさせる。 |
|                                      | 5 振り返りをし、次時の内容を聞く。<br>(1) 場面ごとの「私」の心情を確認する。<br>(2) 次時の内容について知る。  | 50 | ○ 行動描写・心情描写・情景描写に分けて発表させる。<br>○ ワークシートを見ながら、本時の振り返りをする。<br>○ 次時は、本時でまとめた「私」の心情を、展開に即して、グループでまとめることを伝える。   |

(5) 本時の評価規準

- 場面の展開に沿って、四つの場面に分けようとしている。（活動の観察）
- 抜き出した描写を基に「私」の心情を考え、「不安」、「緊張」などの短い言葉で表現している。（ワークシート）

## 5 備 考

(1) 学級の実態

- 心情を表す言葉が使われていないと、登場人物の気持ちを読み取ることができない生徒も多い。学習場面で読み取りが得意な生徒に頼りがちな姿が見られるため、一人一人がじっくりと読み、考える活動ができるように工夫する必要がある。

(2) 指導の力点

- 個人でじっくり課題に取り組む時間を確保し、考える過程を大切にすることで、自分の読みの深化へつなげることができると考えた。そこで、描写の種類をあらかじめ分けた学習ワークシートを利用し、思考を整理しながら活動ができるように工夫する。

## 6 指導と評価

# 第2学年O組 国語科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

## 1 単元 4 人間のきずな（字のない葉書）

### 2 単元の見どころ

- (1) 表現に着目して人柄や心情を読み取り、それを生かして他の随筆を読むことができる。
- (2) 前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えることができる。
- (3) 進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとする。

### 3 学習の計画（3時間完了）

- 第1時 描写を通して、人物の人柄や心情を捉える。
- 第2時 言動や様子を描いた表現に着目し、登場人物の人柄や心情を捉える。
- 第3時（本時） 父親に対する筆者の思いを読み取り、その思いに対する自分の考えをもつ。

### 4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 筆者の父親に対する思いを読み取り、まとめることができる。
  - 筆者の父親への思いを、積極的に自分の言葉で伝えようとする。
- (2) 準備・資料
  - 生徒……補助教材（戦争中の写真等）
  - 教師……戦争に関する資料（補助教材以外の写真等）
- (3) 関 連
  - 1年 国語 心の動き「大人になれなかった弟たちに……」（自分のものの見方や感じ方を見つめ直す）
  - 3年 国語 状況の中で「挨拶—原爆の写真によせて」（作者のものの見方や考え方を捉える）

#### (4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項   |
|------|--|----|---|
| つかむ  | 1 本時の学習課題をつかむ。<br>(1) 前時までの学習を振り返る。<br>○ 戦時下の状況を振り返る。<br>・ 学童疎開していた<br>・ 東京大空襲があった<br>(2) 本時の学習課題を知る。<br>父親に対する筆者の思いを捉えよう。   | 5  | ○ 補助教材や戦争に関する資料を見て、前時に学習した戦時下の生活に関わる語句や事柄を確認させる。<br>○ 既習の「大人になれなかった弟たちに……」で、「僕」や「母」、「ヒロユキ」が置かれていた状況を思い出させる。<br>○ 本時は、父親に対する筆者に着目し、読み進めていくことを確認する。   |
| 追究する | 2 筆者が父親をどのように見ていたのかが分かる描写を抜き出し、まとめる。<br>(1) 筆者の父親に対する思いが分かる表現に印を付ける。<br>・ 威厳と愛情にあふれた<br>・ 非の打ちどころのない<br>・ 暴君であったが、反面照れ性<br>(2) 印を付けた描写をノートに書く。<br>(3) 描写から読み取れる筆者の父親に対する思いをノートにまとめる。 |    | ○ 作品の展開に従って、四つの時期に分けて描写を整理することを、確認してから聞かせる。<br>○ 第1時でまとめた父親の行動や様子を振り返らせる。<br>○ 印を付けられなかった生徒には個別に声をかけるようにする。<br>○ 隣の生徒同士で、印を付けた部分を確認させる。<br>○ ノートの上段に書くように指示する。<br>○ できるだけ、自分の言葉でまとめるようにさせる。 |



|  |  |    |   |
|--|--|----|---|
| 追<br>究<br>す<br>る<br><br>ま<br>と<br>め<br>る | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 律儀で几帳面</li> <li>・ 子を気遣う優しい父親</li> <li>・ 言葉は少ないが強い愛情をもつ</li> </ul> |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上段に書いた描写と対応するように、下段に思いをまとめさせる。</li> <li>○ 机間指導で記入できていない生徒へ個別に助言する。</li> </ul>  |
|  | 3 筆者の父親に対する思いについて、共感できることと、共感できないことに分けて発表し合う。  | 30 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 評筆者の父親に対する思いについて、自分の言葉でまとめている。(ノート)</li> <li>○ 4人のグループを作り、自分が書いたことを発表させる。</li> <li>○ 共感できることとできないことに分けて発表させる。</li> <li>○ 司会を決め、進行を任せる。</li> <li>○ 話し合ったことをグループの代表者が発表することを伝える。</li> <li>○ 代表者は発表の直前に決めることを伝え、どの生徒も自分が発表するという意識をもたせて、話し合いに参加させる。</li> </ul> |
|  | (1) 共感できることとできないことについて発表し合う。   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ はだして表に飛び出すなんて想像できなかった。</li> <li>・ 声を立てて泣くぐらい、家族のことを心配していた。</li> </ul>  |
|  | (2) グループで話し合ったことを、全体で交流する。   | 45 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 評筆者の父親への思いについて、自分の考えを積極的に発表しようとしている。(話し合いの様子)</li> <li>○ グループで話し合ったことを、代表者に発表させる。</li> </ul>   |
|  | 4 振り返りをし、次時の内容を聞く。   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学習を振り返る」(p.111)を読み、学習を振り返らせる。</li> <li>○ 次時は、「聞き上手になろう」を学ぶことを伝える。</li> </ul>  |
|  | (1) 本時の学習の振り返りをする。   | 50 |   |
|  | (2) 次時の学習課題、学習内容を知る。   |    |   |

#### (5) 本時の評価規準

- 筆者の父親に対する思いを、文中の表現を基に自分の言葉でまとめている。(ノート)
- 筆者の父親に対する思いを、自分の言葉で積極的に伝えようとしている。(話し合いの様子)

### 5 備 考

#### (1) 学級の実態

- 一人で取り組む活動に対しては落ち着いて行うことができるが、グループ学習で話し合う場面になると、私語が増えたり、話題がそれてしまったりすることがある。活動の目的が明確だと集中でき、全体的に落ち着いて取り組むことができる。

#### (2) 指導の力点

- 個人、4人のグループ、全体というように、活動によって学習形態を変え、一つ一つの活動に集中して取り組むことができるようにする。これらの活動を活発に行うためには、個人の考えをきちんとまとめておく必要があるため、全員がノートに記入できるように、机間指導して個別に助言するようにする。また、話し合いが円滑に進むように、それぞれの活動の目的を丁寧に伝えて板書することで、筆者の父親に対する思いを読み取ることができるようにする。

### 6 指導と評価

単元名 朝のリレー

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。  
(3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで音読をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

### 標準的な展開例

10210101\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 朝のリレーを読んで内容をつかみ、音読の工夫を考える</p> <p>○詩を通読する。<br/>★朝のリレーを工夫して音読しよう。</p> <p>○詩を読んで想像したことや、好きな言葉や表現を交流する。</p> <p>○詩の特徴を生かして音読する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩に登場する国や街がどんなところか、またそこで、どんな人が何をしているのか、情景を想像しながら音読させる。</li> <li>・詩を読んで想像した情景や好きな言葉や表現などをグループで交流し、どのように音読すれば、詩のよさが伝わるのか相談させる。</li> </ul> <p>【評】詩の情景や表現の特徴を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで分担し、リレー形式で読ませてもよい。</li> </ul> <p>【評】詩のよさが伝わるように工夫して音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

#### 【 備 考 】

「朝を迎える」という行為を世界各地の若者たちが「朝をリレーする」「交替で地球を守る」と捉える詩人のものの見方に会うことで、生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養うことをねらいとしている。  
地球規模の視点をもつ機会を与え、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことをねらいとしている。

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 単元名   | 言葉に出会うために 一野原はうたう 声を届ける 書き留める   | 配当時間 | 5時間 |
| 単元の目標 | (1) 声の大きさや読む速度、言葉の調子や間の取り方を工夫して音読することができる。<br>学習の記録(ノート)の書き方を選び、書くことができる。<br>(2) 各詩で作者が伝えようとする思いを読み取ることができる。<br>好きな詩を選び、どのように読むか、理由を発表し、交流することができる。<br>(3) これからの国語学習の基本となる事柄を理解させ、実際に行動に移そうとする。 |      |     |

## 標準的な展開例

10210102\_001

【準備等】日本十進分類表の詳しい資料、国語辞典、漢和辞典、百科事典

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど   |
|---|---|
| <p>1 「言葉に出会うために」(p. 12～p. 13)を読んで「出会い」について語り合い、「書き留める」(p. 18)を読み、ノートの取り方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「言葉に出会うために」(p. 12～p. 13)を読んで、「出会い」について語り合う。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★国語は、言葉に出会うための教科であることを知ろう。</li> </ul> <p>○「書き留める」(p. 18)を読みながら、ノートの書き方を確認する。</p> <p>○印象に残った言葉や感想をノートに書く。</p> <p>2 「声を届ける」(p. 16～p. 17)を読み、学習の流れや音読の基本を知り、「野原はうたう」(p. 14～p. 15)を読んで内容をつかみ、音読の工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「声を届ける」(p. 16～p. 17)上段の学習に取り組む。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★声を届けるために意識することを知ろう。</li> <li>○下段を読み、音読や発表の際の留意点を知る。</li> </ul> <p>○「あしたこそ」「おれはかまきり」を工夫点を考えて読む。</p> <p>○板書を写し、感想を書いたり、メモを書いたりする。</p> <p>3 前時で考えた工夫を生かして音読の発表をし、自分たちの発表や友達の発表を振り返り、ノートに記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★詩の内容を理解し、音読を工夫しよう。</li> <li>○グループに分かれて、詩の音読の工夫点について話し合う。</li> </ul> <p>○音読の練習をする。</p> <p>○音読の発表会をする。</p> <p>○授業の感想を書く。</p> <p>4 学校図書館へ行き、図書館の仕組みやルールなどを知り「図書館の使い方」(p. 60)を読んで、これからの読書生活について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★図書館の仕組みやルールを知ろう。</li> <li>○学校図書館に行き、「図書館の使い方」(p. 60)を読む。</li> </ul> <p>○図書館の仕組みやルールなどを知る。</p> <p>○「続けてみよう」(p. 20)を読んで、本を選び読書記録を実際にかく。</p> <p>5 「言葉を調べる」(p. 19)を読んで、辞典について学び、百科事典を引いたり、メモの仕方を学んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「調べる」(p. 19)を読んで、辞典の様々なことについて知る。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★いろいろな辞典の引き方を知り、得られる情報を理解しよう。</li> <li>○国語辞典と漢和辞典を引く練習をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな発表をしてきたか、どんなノートの取り方をしてきたか、読書について関心があるかなど、小学校での国語学習を大まかにつかむようにする。</li> </ul> <p>【評】感想やメモをノートに書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「声を届ける」という意識をもたせ、ペアを作って取り組ませる。</li> <li>・音読や発表の際の留意点を一つずつ確認させる。</li> </ul> <p>【評】留意点を意識して音読する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書き留める」(p. 18)を再度押さえながら、ノートに書かせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループは、4人ぐらいが適当である。</li> <li>・工夫点を書き込みながら、台本作りをさせるとよい。</li> </ul> <p>【評】声を届けることを意識して発表することを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十進分類法を見ながら、ラベルの意味を理解させる。</li> <li>・ラベルについての簡単な問題を出すと、生徒の興味も湧きやすい。</li> </ul> <p>【評】読書記録に記入する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き方のルールや書いてあることを確認し、</li> </ul> |

引き方の練習をさせる。  
【評】国語辞典と漢和辞典を実際に引く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

小中連携の必要性が問われる中、小学校での学び方を確認しつつ、中学校での新しい国語の学習の仕方について準備するための最初のステップである。この時期、小学校との違いに戸惑い、「中1ギャップ」に陥る生徒もいる。夢や希望とともに不安も感じながら入学してきた生徒たちが、不安を解消し、夢や希望をもって中学校生活を送れるよう、国語の基本的な学び方をまずは学習させたい。ここでは、新しい友達とともに、声を届ける喜びを実感し、またノートを取り方や本との出会い方、情報の活用の仕方などを押さえる。どれも小学校で学習済みのことであるが、中学校においても基本となる学習習慣である。小学校での学習と滑らかに接続させ、安心して中学校の授業に臨めるようにしながらも、新しい場所で新しい国語の授業が始まることへの期待感を高めた。

## 単元名 1 学びをひらく シンシユン

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 文脈の中における語句の意味を正確に捉え、理解することができる。  
 (2) 登場人物の心情や行動に着目して、作品の理解を深めるとともに、気持ちの変化を捉えることができる。  
 (3) 作品中の登場人物の姿から、自分自身の生活を見つめ、新しい仲間との関わりについて振り返ろうとする。

## 標準的な展開例

10210103\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本単元の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 場面の展開や描写に注意して読むとともに、変化する登場人物の関係について捉えよう。</li> <li>○ これまでに読んだ「小説」について思い出す。</li> <li>○ 全文を音読し、初読の感想をまとめる。</li> <li>○ 初読の感想を発表する。</li> <li>○ 新出漢字、音訓について学習し、分からない語句について調べたり、文脈から考えたりする。</li> </ul> <p>2 登場人物や場面の展開を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 登場人物や場面の展開を確かめよう。</li> <li>○ 全文を音読する。</li> <li>○ 主な登場人物を確認する。</li> <li>○ 作品を三つの場面に分け、それぞれの内容を捉える。</li> </ul> <p>3 場面の展開に沿って、二人の関係の変化を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 場面の展開に沿って、二人の関係の変化についてまとめよう。</li> <li>○ 各場面を音読し、二人の関係を考える。</li> <li>○ 二人の関係がどう変化していったのかを話し合う。</li> </ul> <p>4 読み深めた感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 読み深めた後の感想と初読の感想を比べてみよう。</li> <li>○ 読み深めた後の感想を書く。</li> <li>○ 初読の感想と読み深めた後の感想を比べる。</li> <li>○ どのように感想が変わったのかを伝え合う。</li> <li>○ 学習の振り返りをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「シンシユンの目標」(p. 28)を確認させる。</li> <li>・ 小学校で学習した物語文に限らず、読書体験の中から自由に発表させる。</li> <li>・ 200字程度で書かせる。</li> <li>【評】初読の感想を書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】感想を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 辞書を用意させ、必要に応じて使用し、理解を深めさせる。</li> <li>・ 2～4人のグループを作り、グループ内で読み手と聞き手を交代して音読を行わせる。</li> <li>・ シンタとシュンタの相違点について押さえる</li> <li>・ 「誰が(誰と誰が) どうする(どうなった)場面」という形で簡単にまとめさせる。</li> <li>【評】登場人物や場面の展開を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係を捉えさせ、表にまとめる。</li> <li>・ 「場面の展開に着目する」(p. 18～p. 19)を参考にさせる。</li> <li>・ まとめた表をもとに、2～4人のグループで話し合わせる。</li> <li>・ 自分が気付かなかった意見や違う意見はメモを取っておくように指示する。</li> <li>【評】二人の関係の変化についての話し合い活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 200字程度で書かせる。</li> <li>【評】読みを深めた後の感想を書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 作者のインタビュー動画を見せ、自分の感想と比べて、感じたことを発表させてもよい。</li> <li>・ 4～5人のグループを作り、意見交換をさせる</li> <li>・ 場面の展開に着目することで、何が捉えられたか、自分の言葉でまとめさせる。</li> <li>・ 「文学的な文章を読むために」(p. 264)を参考にさせる。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

中学校における本格的な国語の学習の最初の段階である。この単元では小学校で身に付けた国語の力を確認させることが大切である。そのため、親しみやすい内容の物語を読むことを通して、中学校での国語の学習範囲や学習方法などへの見通しをもたせたい。

「シンシユン」は他者との違いを認め合い、それぞれの立場を尊重していく内容となっている。これは道徳のB- (9) 相互理解・寛容にあたり、これを機会に級友との仲を深めさせたい。本教材は、中学校の国語学習において情報編集力を育成することをねらった最初のものである。領域としては「知識・技能」に当たるものの、ここでの学習を、説明する力の基盤として捉え、「思考・判断・表現」の領域にも反映させることを念頭に置いて指導に当たりたい。

「情報を整理して書こう」では、物事を説明する場合に「観点」があることを意識させ、情報を収集する力を育てる一歩としたい。「観点」を明確にすることで、取材する際に情報が分類整理しやすくなり、目的や相手に応じて何を語るべきなのかがはっきりとするように工夫させたい。

また、日常生活で行われる情報の伝達は、整理された分かりやすいものばかりでは決してなく、様々な情報が雑多に届けられる中で、自分への必要度に応じて語句を書き取らねばならないときもある。そのため、「情報を的確に聞き取る」では、自分にとって必要な情報を的確に聞き取る練習をして、実用的なメモを取り、生活に生かせるようにすることが重要である。「情報整理」を通して、様々な事柄を真剣に考え、知識や理解を深めることで、言葉の力を鍛えていきたい。また、情報を多角的に分析し、根拠に基づいて判断することで、論理的思考力を育てていきたい。

「漢字の組み立てと部首」では、漢字の学習に苦手意識をもっている生徒にも、中学校での学びに希望と期待をもたせたい。小学校で履修した漢字の成り立ちを振り返らせる活動でなぞなぞに取り組みさせるなど、意欲的な活動の工夫を考えていきたい。また、「形・音・義」の体系を成して組み立てられている漢字の系統性に着目させ、漢字の成立や発展に着目した歴史的文化的な視点を中学生にもたせることも大切である。

## 単元名 1 学びをひらく ー情報を的確に聞き取る

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 情報を正確に聞き取り、要点を押さえてメモを取ることができる。  
 (2) 聞き取った話の語句の意味を的確に捉えることができる。  
 (3) 意欲的に話を聞き、メモを取ろうとする。

## 標準的な展開例

10210104\_001

【準備等】国語指導CD「担任の先生の話」，再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 情報を的確に聞き取り、要点を押さえてメモを取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中で情報を聞き取ってメモを取る場面や、小学校での既習事項を思い出す。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★情報を的確に聞き取ろう。</li> <li>先生からの連絡(p. 30)を聞き、メモを取る。</li> <li>聞き取った内容を確認め合う。</li> <li>メモの取り方のポイントを確認する。</li> <li>「上達のポイント」(p. 30)を意識しながら、「放送委員長からの連絡」を聞く。</li> <li>情報を的確に聞き取り、ポイントを意識して、要点を押さえたメモが取れたかを確認する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分や家族がメモを取りながら電話で話す場面や、小学校で「伝言すること」「インタビューすること」などの学習において、メモを取った場面を思い出させる。</li> <li>国語指導CDなどを活用し、実際の音声を聞かせてメモを取らせる。</li> <li>聞き取りメモは、自分で工夫するように伝える。</li> <li>隣の生徒と見せ合い、内容の過不足やメモの取り方で工夫した点について、気付いたことを話し合わせる。</li> <li>「メモの例」(p. 30)を参照させ、気付いた点を出し合わせる。</li> <li>自分たちのメモと比べさせる。</li> <li>【評】情報を正確に聞き取りメモを取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>「上達のポイント」(p. 30)を確認させる。</li> <li>国語指導CDなどを活用し、聞き取りメモを取らせる。</li> <li>自分の聞き取りメモを「上達のポイント」(p. 30)に照らし合わせながら読み返させ、間違いや過不足を確認させる。</li> <li>工夫された生徒のメモ例をいくつか提示し、参考にさせるとよい。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

中学校における本格的な国語の学習の最初の段階である。この単元では小学校で身に付けた国語の力を確認させることが大切である。そのため、親しみやすい内容の物語を読むことを通して、中学校での国語の学習範囲や学習方法などへの見通しをもたせたい。

「シンシユン」は他者との違いを認め合い、それぞれの立場を尊重していく内容となっている。これは道徳のB- (9) 相互理解・寛容にあたり、これを機会に級友との仲を深めさせたい。本教材は、中学校の国語学習において情報編集力を育成することをねらった最初のものである。領域としては「知識・技能」に当たるものの、ここでの学習を、説明する力の基盤として捉え、「思考・判断・表現」の領域にも反映させることを念頭に置いて指導に当たりたい。

「情報を整理して書こう」では、物事を説明する場合に「観点」があることを意識させ、情報を収集する力を育てる一歩としたい。「観点」を明確にすることで、取材する際に情報が分類整理しやすくなり、目的や相手に応じて何を語るべきなのかがはっきりとするように工夫させたい。

また、日常生活で行われる情報の伝達は、整理された分かりやすいものばかりでは決してなく、様々な情報が雑多に届けられる中で、自分への必要度に応じて語句を書き取らねばならないときもある。そのため、「情報を的確に聞き取る」では、自分にとって必要な情報を的確に聞き取る練習をして、実用的なメモを取り、生活に生かせるようにすることが重要である。「情報整理」を通して、様々な事柄を真剣に考え、知識や理解を深めることで、言葉の力を鍛えていきたい。また、情報を多角的に分析し、根拠に基づいて判断することで、論理的思考力を育てていきたい。

「漢字の組み立てと部首」では、漢字の学習に苦手意識をもっている生徒にも、中学校での学びに希望と期待をもたせたい。小学校で履修した漢字の成り立ちを振り返らせる活動でなぞなぞに取り組みさせるなど、意欲的な活動の工夫を考えていきたい。また、「形・音・義」の体系を成して組み立てられている漢字の系統性に着目させ、漢字の成立や発展に着目した歴史的文化的な視点を中学生にもたせることも大切である。

季節のしおり「春」(適時)

## 単元名 1 学びをひらく ー情報整理のレッスン 比較・分類

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 比較や分類，関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め，それらを使うことができる。  
 (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。

## 標準的な展開例

10210105\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| 1 情報の比較・分類する方法を知る。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★情報を比較・分類してみよう。<br>○ 情報を比較・分類する方法を確かめる。<br><br>○ 練習問題に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「思考の地図」(p. 9)や「情報整理の方法」(p. 271)を参考に，①比較する(表)，②分類する(ラベリング)，③分類して比較する(ベン図)，④順序や流れを整理する(フローチャート)を確認し，情報整理の目的と，それに適した方法を理解させる。</li> <li>・図や表で整理された情報を見て気付いたことを，「比較に用いる言葉」(p. 32)や「順序を表す言葉」(p. 33)を使って発表させてもよい</li> </ul> <p>【評】情報の整理の仕方について理解を深める活動を通して，「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「練習問題」(p. 32～p. 33)に取り組ませる。</li> <li>・分類後，グループで考えを交流させ，目的さえ達成できれば，整理の仕方や観点の立て方は多様であってもよいことに気付かせたい。</li> </ul> <p>【評】学習内容を生かす活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

中学校における本格的な国語の学習の最初の段階である。この単元では小学校で身に付けた国語の力を確認させることが大切である。そのため，親しみやすい内容の物語を読むことを通して，中学校での国語の学習範囲や学習方法などへの見通しをもたせたい。

「シンシユン」は他者との違いを認め合い，それぞれの立場を尊重していく内容となっている。これは道徳のB- (9) 相互理解・寛容にあたり，これを機会に級友との仲を深めさせたい。本教材は，中学校の国語学習において情報編集力を育成することをねらった最初のものである。領域としては「知識・技能」に当たるものの，ここでの学習を，説明する力の基盤として捉え，「思考・判断・表現」の領域にも反映させることを念頭に置いて指導に当たりたい。

「情報を整理して書こう」では，物事を説明する場合に「観点」があることを意識させ，情報を収集する力を育てる一歩としたい。「観点」を明確にすることで，取材する際に情報が分類整理しやすくなり，目的や相手に応じて何を語るべきなのかがはっきりとするように工夫させたい。

また，日常生活で行われる情報の伝達は，整理された分かりやすいものばかりでは決してなく，様々な情報が雑多に届けられる中で，自分への必要度に応じて語句を書き取らねばならないときもある。そのため，「情報を的確に聞き取る」では，自分にとって必要な情報を的確に聞き取る練習をして，実用的なメモを取り，生活に生かせるようにすることが重要である。「情報整理」を通して，様々な事柄を真剣に考え，知識や理解を深めることで，言葉の力を鍛えていきたい。また，情報を多角的に分析し，根拠に基づいて判断することで，論理的思考力を育てていきたい。

「漢字の組み立てと部首」では，漢字の学習に苦手意識をもっている生徒にも，中学校での学びに希望と期待をもたせたい。小学校で履修した漢字の成り立ちを振り返らせる活動でなぞなぞに取り組ませるなど，意欲的な活動の工夫を考えていきたい。また，「形・音・義」の体系を成して組み立てられている漢字の系統性に着目させ，漢字の成立や発展に着目した歴史的文化的な視点を中学生にもたせることも大切である。



単元名 1 学びをひらく 一情報を整理して書こう わかりやすく説明する 配当時間 4時間

単元の目標 (1) 相手に理解してもらうために、言葉遣いや語句の選び方、表現方法を工夫することができる。  
(2) 身近な生活の中から説明したい事柄を決め、観点を立てて情報を整理して、考えをまとめることができる。  
(3) 目的や相手を明確にした上で、観点を立てて情報を集めたり、分類したりしながら、分かりやすく伝わる文章を書こうとする。

### 標準的な展開例

10210106\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 学習の目標を理解し、説明する事柄を決める。<br/>○目標や学習の流れを確認し、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★自分が説明する題材と目的・相手を決めよう。<br/>○題材・目的・相手を考え、説明する題材を一つ選ぶ。</p> <p>2 観点を立てて情報を集め、目的や相手に応じて必要な情報を取捨選択する。<br/>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★観点を立てて情報を集め、目的や相手に応じて必要な情報を選択しよう。<br/>○マッピングなどを用いて観点ごとに情報を書き出す。</p> <p>○相手と目的を考えて、使う情報を取捨選択する。</p> <p>3 文章の構成を考え、分かりやすい表現で工夫して書く。<br/>○本時の学習課題をつかむ。<br/>★表現を工夫して分かりやすい文章を書こう。<br/>○文章の構成を考える。</p> <p>○考えた構成をもとに、400字程度の文章を書く。</p> <p>4 書いた文章を読み合い、感想を伝え合うとともに、観点を立てて情報を捉えることの大切さを理解する。<br/>○本時の学習課題をつかむ。</p> | <p>・「目標」「学習の見通し」(p. 34～p. 35)を読み、本単元の学習の目標と見通しを理解させる。</p> <p>・目的や相手によって伝える情報が変わることや、観点を立てることで情報が整理しやすくなることを伝える。</p> <p>・自分が興味をもっていることや、友達に知らせたいこと以外にも、「発想を広げる」(p. 272)を参考にテーマを決めさせてもよい。</p> <p>・「知多の友」を使用する。<br/>【評】身近な生活の中から自分が伝えたい事柄を選ぶ活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・説明する題材を「私たちの教室」とした場合どんな観点があるかを全員で出し合って考えさせる。</p> <p>・「マッピングの例」(p. 35)を用い、マッピングの説明をして、取り組ませる。</p> <p>・「情報整理の方法」(p. 271)を参考に、情報を集めさせる。</p> <p>・自分が書きたい題材について、五つ以上の観点を立てさせたい。</p> <p>・疑問や不十分な点については、資料を活用したり人に聞いたり、詳しく思い出したりするよう助言する。</p> <p>・「知多の友」を使用する。</p> <p>・「観点ごとにまとめた例」(p. 35)を参考に、情報を整理させる。</p> <p>・相手と目的を再確認させ、必ず入れる情報と入れない情報とを区別させる。<br/>【評】観点を決めて情報を集めたり分類したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「知多の友」を使用する。</p> <p>・「構成の仕方の例」(p. 36)を参考にさせる。</p> <p>・説明する観点をどのような順序で伝えるのかを考えさせる。</p> <p>・「学習の窓」(p. 37)を参考にさせる。</p> <p>・相手に分かりやすく伝えるための順序を考える際には、付箋やカードに書いたものを実際に並べ替えさせてもよい。<br/>【評】構成を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「文章にまとめた例」(p. 37)を参考に、下書きをさせる。</p> <p>・読み手を意識した言葉遣いや語句の選び方を考えさせる。<br/>【評】言葉遣いや語句の選び方、表現方法を工夫する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

★書いた文章を読み合い、感想を伝え合おう。  
○丁寧に清書する。

○書いた文章を読み合い、感想を交流する。

○「学習を振り返る」(p.37)を読み、自己評価を行う。

・前時に書いた下書きを読み直し、誤字脱字や分かりにくい表現がないかなどを確認する。

・読みやすい丁寧な字で書かせる。  
・3～4人のグループを作り、互いの文章を読み合わせる。

【評】書いた文章を読み合い、感想を伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・「つなぐ」(p.35)にも触れ、日常生活や学校生活などにも生かせるようにする。

### 【 備 考 】

中学校における本格的な国語の学習の最初の段階である。この単元では小学校で身に付けた国語の力を確認させることが大切である。そのため、親しみやすい内容の物語を読むことを通して、中学校での国語の学習範囲や学習方法などへの見通しをもたせたい。

「シンシユン」は他者との違いを認め合い、それぞれの立場を尊重していく内容となっている。これは道徳のB- (9) 相互理解・寛容にあたり、これを機会に級友との仲を深めさせたい。本教材は、中学校の国語学習において情報編集力を育成することをねらった最初のものである。領域としては「知識・技能」に当たるものの、ここでの学習を、説明する力の基盤として捉え、「思考・判断・表現」の領域にも反映させることを念頭に置いて指導に当たりたい。

「情報を整理して書こう」では、物事を説明する場合に「観点」があることを意識させ、情報を収集する力を育てる一歩としたい。「観点」を明確にすることで、取材する際に情報が分類整理しやすくなり、目的や相手に応じて何を語るべきなのかがはっきりとするように工夫させたい。

また、日常生活で行われる情報の伝達は、整理された分かりやすいものばかりでは決してなく、様々な情報が雑多に届けられる中で、自分への必要度に応じて語句を書き取らねばならないときもある。そのため、「情報を的確に聞き取る」では、自分にとって必要な情報を的確に聞き取る練習をして、実用的なメモを取り、生活に生かせるようにすることが重要である。「情報整理」を通して、様々な事柄を真剣に考え、知識や理解を深めることで、言葉の力を鍛えていきたい。また、情報を多角的に分析し、根拠に基づいて判断することで、論理的思考力を育てていきたい。

「漢字の組み立てと部首」では、漢字の学習に苦手意識をもっている生徒にも、中学校での学びに希望と期待をもたせたい。小学校で履修した漢字の成り立ちを振り返らせる活動でなぞなぞに取り組ませるなど、意欲的な活動の工夫を考えていきたい。また、「形・音・義」の体系を成して組み立てられている漢字の系統性に着目させ、漢字の成立や発展に着目した歴史的文化的な視点を中学生にもたせることも大切である。

**単元名 1 学びをひらく ー漢字1 漢字の組み立てと部首**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) 漢字の構成部分としての「偏旁冠脚」「へん・つくり・かんむり・あし・たれ・によう・かまえ」を理解することができる。  
 主な部首の名称を、成り立ちを踏まえて理解することができる  
 (3) 漢和辞典を活用して、漢字の成り立ちや構成部分を調べようとする。

**標準的な展開例**

10210107\_001

【準備等】漢和辞典

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| 1 漢字の組み立てや部首について知る。<br>○「休」の漢字を二つに分ける。<br><br>○本時の学習課題をつかむ。<br>★漢字の組み立てや部首について知ろう。<br>○漢字を組み立てている部分が、位置によって分類されることを知る。<br><br>○分類した部分に、呼び名があることを知る。<br><br>○部首について知る。<br><br>○「練習問題」(p. 39)と「漢字に親しもう1」(p. 40)に取り組む。 | ・画用紙で、にんべんと「木」の部分に分けたものを提示する。<br><br>・「へん・つくり・かんむり・あし・たれ・によう」に分類できることを知らせる。<br>・画用紙に漢字を書き、二つに分けられるように作っておくとよい。<br>【評】漢字の組み立てを理解する活動を通して「知識・技能」を評価する。<br>・「教科書の表」(p. 38～p. 39)を活用するとよい。<br>・似ているものを集めて同じ部類にまとめたものを「部首」ということを理解させる。<br>・部首の扱いは、漢和辞典によって異なることがあるので注意させる。<br>【評】主な部首の名称と成り立ちを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br>・漢和辞典を活用する。 |

**【備 考】**

中学校における本格的な国語の学習の最初の段階である。この単元では小学校で身に付けた国語の力を確認させることが大切である。そのため、親しみやすい内容の物語を読むことを通して、中学校での国語の学習範囲や学習方法などへの見通しをもたせたい。

「シンシユン」は他者との違いを認め合い、それぞれの立場を尊重していく内容となっている。これは道徳のB- (9) 相互理解・寛容にあたり、これを機会に級友との仲を深めさせたい。本教材は、中学校の国語学習において情報編集力を育成することをねらった最初のものである。領域としては「知識・技能」に当たるものの、ここでの学習を、説明する力の基盤として捉え、「思考・判断・表現」の領域にも反映させることを念頭に置いて指導に当たりたい。

「情報を整理して書こう」では、物事を説明する場合に「観点」があることを意識させ、情報を収集する力を育てる一歩としたい。「観点」を明確にすることで、取材する際に情報が分類整理しやすくなり、目的や相手に応じて何を語るべきなのかがはっきりとするように工夫させたい。

また、日常生活で行われる情報の伝達は、整理された分かりやすいものばかりではなく、様々な情報が雑多に届けられる中で、自分への必要度に応じて語句を書き取らねばならないときもある。そのため、「情報を的確に聞き取る」では、自分にとって必要な情報を的確に聞き取る練習をして、実用的なメモを取り、生活に生かせるようにすることが重要である。「情報整理」を通して、様々な事柄を真剣に考え、知識や理解を深めることで、言葉の力を鍛えていきたい。また、情報を多角的に分析し、根拠に基づいて判断することで、論理的思考力を育てていきたい。

「漢字の組み立てと部首」では、漢字の学習に苦手意識をもっている生徒にも、中学校での学びに希望と期待をもたせたい。小学校で履修した漢字の成り立ちを振り返らせる活動でなぞなぞに取り組みさせるなど、意欲的な活動の工夫を考えていきたい。また、「形・音・義」の体系を成して組み立てられている漢字の系統性に注目させ、漢字の成立や発展に着目した歴史的文化的な視点を中学生にもたせることも大切である。

## 単元名 2 新しい視点で ーダイコンは大きな根？

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 辞書的な意味をもとに文脈の中における語句の意味を的確に捉えたり、文章と照らし合わせて専門的な語句の意味を捉えたりすることができる。  
 (2) 段落の役割に着目して内容を的確に読み取ったり、要約したりすることができる。  
 (3) 植物として見たときのダイコンについて説明した文章を読み、新しい知識を得たり、自分の考えを広げたりしようとする。

## 標準的な展開例

10210108\_001

【準備等】国語指導CD，再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 学習の見通しをもち、初めて知ったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新出漢字を学習し、難解語句を調べる。</li> <li>○学習の目標を捉え、見通しをもつ。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★初めて知ったことを発表しよう。</li> <li>○題名「ダイコンは大きな根？」の問いの答えを予想する</li> <li>○全文を通読し、おおよその内容を捉える。</li> <li>○「問い」とその「答え」を確かめる。</li> <li>○段落の役割について整理する。</li> </ul> <p>2 題名の付け方や説明の順序など、文章の書き方について筆者の工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★筆者の文章の書き方の工夫について、自分の考えをもとめる。</li> <li>○全文を通読する。</li> <li>○筆者の文章の書き方について工夫している点を考える。</li> <li>○学習を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語辞典を活用するとよい。</li> <li>・「目標」(p.42)を確認させる。</li> <li>・段落の役割に着目させる。</li> <li>・他の野菜を取り上げ、自由に予想させながら植物の器官についての知識を確認しておく。</li> <li>【評】問いの答えを予想する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・教師の範読，または国語指導CDを活用して，大まかな内容を捉えさせる。</li> <li>・「問い」を投げかけている段落と，それに対する「答え」を示している段落を見つけさせる。</li> <li>・「問い」とその「答え」を，それぞれ短い言葉でまとめさせる。</li> <li>【評】「問い」とその「答え」を見つける活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する</li> <li>・「段落の役割に着目する」(p.43)を参考にさせる。</li> <li>・段落が九つに分かれることを押さえる。</li> <li>・「話題提示」「例示」「主張」などの言葉を確かめる。</li> <li>・「題名の付け方」「言葉の使い方や文末表現」「説明の順序」を特に意識させて，通読させる。</li> <li>・筆者のどんな工夫が感じられるかを話し合わせる。</li> <li>・できるだけ多くの生徒に自由に発言させ，自分なりの気付きや考えをもつことを意識させていくようにする。</li> <li>【評】筆者の文章の書き方の工夫について考える活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・学習を通して学んだこと，文章を読んで知ったこと，今後の読書に生かしたいことなどを文章にまとめさせる。</li> <li>・数人の振り返りを発表させたり，教師が紹介したりする。</li> <li>・段落の役割や文章の工夫について，これから他の説明文を読んでいく際にも着目していくように伝える。</li> </ul> |

## 【備 考】

中学校での本格的な国語学習として，このまとめりでは，説明文の読みや記録の仕方の工夫について練習するなどして，説明や記録の基本的な事項について考えていく。現行の学習指導要領の特徴の一つは表現の工夫を読み取ることにあり，そこに焦点化する最初の学習となる。展開の違う二つの文章を読むことを通して，表現の工夫に気付かせたい。

また，好きなものを紹介する活動や情報の集め方を知る活動は，より広く多様なものの見方などに触れることができる。「情報社会を生きる」では，中学校での情報活用能力についての学習の基本として押さえておきたい。

## 単元名 2 新しい視点で 一ちょっと立ち止まって

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 文脈における語句の意味を正確に捉えることができる。  
 (2) 段落や、図と文章の関係に着目して、具体的説明の内容や筆者の考えを読み取り、要旨をまとめることができる。  
 (3) 説明的文章を読んで、筆者の考えを基に自分の生活を振り返ったり、考えたことを文章にまとめて伝え合おうとしたりする。

## 標準的な展開例

10210109\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 全文を通読し、文章の大まかな内容を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の目標を知る。</li> <li>○新出漢字や注意する語句を調べる。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★文章の構成を押さえ、要旨を捉えよう。</li> <li>○全文を通読する。</li> <li>○全文を三つのまとまりに分ける。</li> <li>○筆者の考え(結論)を基に、文章の要旨をまとめる。</li> </ul> <p>2 筆者の最も伝えたい考えを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★筆者の最も伝えなかったことは何かを考えよう。</li> <li>○筆者の考えがまとめられている段落を捉える。</li> <li>○筆者の考えがまとめられた「結論(終わり)」の段落と、他の段落との関係を捉える。</li> <li>○「結論(終わり)」の段落から筆者の考えを捉える。</li> <li>○「結論(終わり)」を短く要約する。</li> </ul> <p>3 文章の要旨を踏まえ、筆者の考え方を日常生活に生かそうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★筆者の考え方を、日常生活の中で生かせる場面を考えよう。</li> <li>○筆者の考え方を生かせる場面はないかを発表し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「目標」(p. 50)を確かめ、大まかな学習の流れを説明する。</li> <li>・国語辞典を活用するとよい。</li> <li>・教師の範読か、国語指導CDを活用する。</li> <li>・適宜、図に注意を向けながら聞かせる。</li> <li>・「学習①-1」(p. 50)を示して、本文が幾つかのまとまりに分けられることを説明する。</li> <li>【評】全体を三つのまとまりに分ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・「文章の構成に着目する」(p. 50)や「説明的な文章を読むために」(p. 266)を参考にする</li> <li>【評】要旨をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・「学習②」(p. 50)を示し、筆者の考えが「結論(終わり)」にまとめられていることを捉えさせる。</li> <li>・「本論(中)」の具体的な説明のどの部分が、「結論(終わり)」でどのように一般化、抽象化されているかを捉えさせる。</li> <li>・筆者の考えは、最後の一文で簡潔に述べられていることを捉えさせる。</li> <li>・自分が読み返して分かるように要約させる。</li> <li>【評】「結論(終わり)」を要約する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・学習③(p. 51)を示し、読み取ってきた筆者の考え方を日常生活で生かせるよう、考えを深めることを確認する。</li> <li>・前時の終わりに、本課題を予告し、生徒に考えさせる時間を与えるとよい。</li> <li>・挙げられた意見に関しては、筆者の考え方に対応しているか検討していく。</li> <li>【評】日常生活の中で、筆者の考え方を生かす場面を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【備 考】

中学校での本格的な国語学習として、このまとまりでは、説明文の読みや記録の仕方の工夫について練習するなどして、説明や記録の基本的な事項について考えていく。現行の学習指導要領の特徴の一つは表現の工夫を読み取ることにあり、そこに焦点化する最初の学習となる。展開の違う二つの文章を読むことを通して、表現の工夫に気付かせたい。

また、好きなものを紹介する活動や情報の集め方を知る活動は、より広く多様なものの見方などに触れることができる。「情報社会を生きる」では、中学校での情報活用能力についての学習の基本として押さえておきたい。



## 単元名 2 新しい視点で 一話の構成を工夫しよう

配当時間 4時間

## 単元の目標

- (2) 自分らしさを伝えるための話題を選び、工夫してスピーチをすることができる。  
 (3) 自分のことが聞き手に分かってもらえるように、スピーチを行うための話題を積極的に探そうとする。

## 標準的な展開例

10210111\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 自分の「好きなもの」を挙げて話題を決め、自分らしさを効果的に伝えるために必要な事柄を考えて、紹介する内容を考える。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★学習の見通しをもち、自分の伝えたい内容を整理する。<br/>         ○ スピーチについて確認する。</p> <p>○ 自分の好きなものを挙げ、その中から友達に紹介したい話題を決める。</p> <p>○ 決めた話題について、自分らしさを伝えるために必要な事柄を考える。</p> <p>2 スピーチの構成を考えて、スピーチメモを作り、練習する。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★スピーチメモを作り、練習をして構成を見直そう。<br/>         ○ スピーチの構成や時間についての説明を聞き、自分のスピーチのイメージをもつ。</p> <p>○ スピーチの構成を考え、スピーチメモを作る。</p> <p>○ スピーチメモを基にスピーチの練習をする。</p> <p>○ スピーチ練習を振り返り、互いの助言を基にもう一度構成を見直す。</p> <p>3 スピーチの会を開き、自分の「好きなもの」について紹介する。<br/>         ○ 本時の学習活動をつかむ。<br/>         ★聞き手を意識してスピーチを行い、互いに評価しよう。<br/>         ○ スピーチの会について留意事項を確認する。</p> <p>○ 評価の観点と評価表の記入の仕方を確認する。</p> | <p>・「リード文」「目標」「学習の見通しをもと」(p. 54)を読み、学習の流れをつかませる</p> <p>・小学生の時のスピーチ内容を思い出させる。</p> <p>・本教材の学習は、互いのことをよく知るためのスピーチであることを確認させる。</p> <p>・「話題を決める」(p. 54)を参考にして、いろいろな角度から自分の好きなものについて挙げさせる。</p> <p>・学習プリントを用意して記入させるとよい。</p> <p>・「材料を選ぶ」(p. 54)を読み、好きなものに出会ったきっかけや好きになった理由、具体的な体験など紹介するのにふさわしい内容になるように事柄を挙げさせる。</p> <p>【評】決めた話題について、自分らしさを伝えるための事柄を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・1分程度でスピーチを行うことを確認する。</p> <p>・ストップウォッチを使って時間を計り、「1分」という時間を実感させるのもよい。</p> <p>・300～350字程度の字数になることを確認させるとよい。</p> <p>・どのような順番で話せば聞き手に分かりやすく伝わるスピーチになるのかを考え、構成を工夫させる。</p> <p>・「スピーチメモの例」(p. 56)を参考に、話の組み立てを考えさせる。</p> <p>・話の流れを確認するメモを作ることを確認し箇条書き程度で準備させる。</p> <p>・実態に応じて、原稿を先に書かせ、それを基にメモを作らせてもよい。発表の際には原稿は使わせないようにする。</p> <p>・3～4人のグループを作って、互いに聞き合わせる。</p> <p>・互いに聞き合う際には、「質疑応答の例」(p. 57)を参考にして助言させる。</p> <p>・自分以外の人について気付いたことを学習プリントに記入させる。</p> <p>・声の大きさや話す速さ、表情、身振りなどを振り返らせる。</p> <p>【評】スピーチの構成を見直す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・聞く相手に伝えようとする気持ちを大切にスピーチを行うことを確認する。</p> <p>・自分のスピーチに集中するだけでなく、聞き手としてのマナーや雰囲気を大切にさせる。</p> <p>・事前に観点表を配付しておくともよい。</p> <p>・以下の観点に沿って、評価をさせるとよい。</p> |

○スピーチの会を開く。

○スピーチを聞いて互いに評価を行う。

4 自分のスピーチを振り返り、スピーチの会の感想を伝え合う。

○本時の学習活動をつかむ。

★スピーチの会を振り返り、感想を伝え合おう。

○前時のスピーチを振り返り、グループで感想を交流し合う。

○感想を全体で伝え合う。

○これまでの学習を振り返る。

- ①分かりやすい内容であったか。
- ②その人らしさが伝わったか。
- ③声の大きさや話す速さは適当か。
- ④発音は聞き取りやすいか。
- ⑤分かりやすい言葉遣いであったか。
- ⑥その他のよかった点。

・1分程度のスピーチであるが、緊張の度合いや間の取り方の関係で、時間が前後することを考慮する。

・聞き手の反応を確かめながら発表させる。

【評】これまでの学習を踏まえスピーチをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・観点表を使って評価をさせる。

・3～4人のグループを作って活動させる。

・感想をまとめることのできる学習プリントを準備しておくといよい。

・よかったことや質問したいことを出し合わせる。

【評】感想を交流する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・グループの代表者に話し合った内容を発表させる。

・「つなぐ」(p.55)を基に、自分のスピーチについて自己評価をさせる。

#### 【 備 考 】

中学校での本格的な国語学習として、このまとまりでは、説明文の読みや記録の仕方の工夫について練習するなどして、説明や記録の基本的な事項について考えていく。現行の学習指導要領の特徴の一つは表現の工夫を読み取ることにあり、そこに焦点化する最初の学習となる。展開の違う二つの文章を読むことを通して、表現の工夫に気付かせたい。

また、好きなものを紹介する活動や情報の集め方を知る活動は、より広く多様なものの見方などに触れることができる。「情報社会を生きる」では、中学校での情報活用能力についての学習の基本として押さえておきたい。



**単元名 2 新しい視点で ー漢字に親しもう2**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。  
 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、  
 文や文章の中に使うことができる。  
 (3) 積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

**標準的な展開例**

10210112\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| 1 練習問題に取り組む。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★ 漢字を使いこなそう。<br><br>○ 新出漢字の確認をする。<br>○ 練習問題に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時は、小学校6年生で習った漢字を中心に練習問題に取り組んでいくことを伝える。</li> <li>・ 言葉の意味が分からないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</li> <li>・ 「小学校六年生で学習した漢字」(p.255)に合わせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</li> </ul> <b>【評】</b> 練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 |

**【 備 考 】**

中学校での本格的な国語学習として、このまとまりでは、説明文の読みや記録の仕方の工夫について練習するなどして、説明や記録の基本的な事項について考えていく。現行の学習指導要領の特徴の一つは表現の工夫を読み取ることにあり、そこに焦点化する最初の学習となる。展開の違う二つの文章を読むことを通して、表現の工夫に気付かせたい。

また、好きなものを紹介する活動や情報の集め方を知る活動は、より広く多様なものの見方などに触れることができる。「情報社会を生きる」では、中学校での情報活用能力についての学習の基本として押さえておきたい。

## 単元名 2 新しい視点で 一文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 「文」「文節」「単語」など、言葉の単位について理解することができる。  
 (3) 日常書いたり話したりしていることと、ここでの学習を関連付けながら取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10210113\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 言葉の単位として、「文章」「段落」「文」という単位があることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「文法とは」(p. 238)を読み、文法を学習することの意義を知る。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「文章」「段落」「文」という単位があることを理解しよう。</li> <li>○「言葉の区切り方」「言葉を並べる順序」「言葉の形の変化」(p. 238)の左右の文を比べる。</li> <li>○教科書下段の「練習問題」(p. 238)に取り組む。</li> <li>○「昔話」(p. 59)を声に出して読む。</li> <li>○間を取った箇所を確認する。</li> <li>○「文章・談話、段落、文」(p. 239～p. 240)を読んで、理解する。</li> <li>○教科書下段の「練習問題」(p. 240)に取り組む。</li> </ul> <p>2 文は「文節」、文節は「単語」に分けられ、「単語」は最小単位であることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「昔話」(p. 59)の最初の文が、短い間を取って分けられることを確認する。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「文節」「単語」について知ろう。</li> <li>○「文節」(p. 240)を読み、文節について理解する。</li> <li>○教科書下段の「練習問題」(p. 240)に取り組む。</li> <li>○「単語」(p. 241)を読み、単語について理解する。</li> <li>○教科書下段の「練習問題」(p. 241)に取り組む。</li> <li>○「複合語は一つの単語」(p. 241)を読み、複合語について理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段何気なく使っている言葉にも決まりがあるので、正しいものを選ぶということを自覚させる。</li> <li>・「小学校1年生に聞かせるつもり」という点を強調した上で、速さや間の取り方に気を付けて読むように指示する。</li> <li>・「。(句点)」で間を取った生徒もいれば、それより短い間を取って読んだ生徒もいることを確かめる。</li> <li>・「文章」はあくまでも、「ひとまとまりの内容」をもち、普通は複数の文から成ることを理解させる。</li> <li>・演説、スピーチ、会話などが談話に相当することを、例も挙げて示すとよい。</li> <li>・「段落」は文章の中の内容的なまとまりによって分けられていることを確認する。</li> <li>【評】言葉のまとまりを理解する活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・答え合わせをする際は、声を出して確認させる。</li> <li>・「文節」をさらに小さく分けた最小単位である一方で、声に出して読むときには、単語まで分けて読むことはないということに注意させる。</li> <li>・「④期末テスト」を「期末」「テスト」，「勉強する」を「勉強」「する」のように2単語に分けてしまった場合、複合語について理解させる。</li> <li>【評】文節、単語に分ける活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

中学校での本格的な国語学習として、このまとまりでは、説明文の読みや記録の仕方の工夫について練習するなどして、説明や記録の基本的な事項について考えていく。現行の学習指導要領の特徴の一つは表現の工夫を読み取ることにあり、そこに焦点化する最初の学習となる。展開の違う二つの文章を読むことを通して、表現の工夫に気付かせたい。

また、好きなものを紹介する活動や情報の集め方を知る活動は、より広く多様なものの見方などに触れることができる。「情報社会を生きる」では、中学校での情報活用能力についての学習の基本として押さえておきたい。

**単元名 情報社会を生きる ー情報を集めよう**
**配当時間 3時間**
**単元の目標** (1) 目的を設定し、情報収集の方法を考えて、情報を読み取ることができる。  
 (3) 様々な情報の集め方に興味をもち、目的に応じた集め方を知ろうとする。

**標準的な展開例**

10210114\_001

**【準備等】** 百科事典

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| 1 目的に応じた情報収集の仕方を知り、調べてみる。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br><b>★</b> 目的に応じた情報収集の方法を考え、調べよう。<br>○ 自分の調べてみたいテーマを決める。<br><br>○ 知りたいことについて百科事典を引き、全体像をつかむ<br><br>○ どの方法がよいかを考える。<br><br>○ テーマについて自分の考えた方法で調べる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分に身近な話題や趣味、社会の出来事などからテーマを決めさせる。</li> <li>・ 短い言葉で説明された百科事典を効果的に使い、調べるテーマをさらに絞ることができることを確認させる。</li> <li>・ 本、インターネット、新聞、インタビュー、アンケートなどから自分のテーマにふさわしい方法を選ばせる。</li> <li>・ 図書室やコンピュータ室などを使用して、テーマを調べ、短い記事にさせる。</li> <li>・ 引用の際には出典などを明記するようにさせる。</li> </ul> <b>【評】</b> 自分のテーマについて方法を選んで調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |
| 2 グラフや文章の中の情報を関連付けながら読み解く。<br>○ 学習課題をつかむ。<br><b>★</b> グラフや文章の情報を読み解こう。<br>○ グラフの種類や特徴について知る。<br><br>○ 情報を読み取る方法について知る。<br><br>○ グラフや文章の中の情報を読み解く。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「グラフの種類」(p. 62)を参考に、グラフの種類や特徴について理解させる。</li> <li>・ 「グラフを読むときの留意点」(p. 62)を参考に、情報を読み取るときの留意点を理解させる。</li> <li>・ 「やってみよう」(p. 63)で、複数のグラフや文章の中の情報を関連付けながら読み解かせる。</li> </ul> <b>【評】</b> 情報を読み解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。   |
| 3 情報の適切な引用の仕方を知る。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br><b>★</b> 適切な引用の仕方を考えよう。<br>○ 集めた情報を引用しながら、分かったことや考えたことをまとめる。<br><br>○ 参考文献の書き方を知る。<br><br>○ 著作権について知る。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1時で集めた情報を活用する。</li> <li>・ 「引用の例(レポート)」「引用のしかた」(p. 65)を参考にさせる。</li> </ul> <b>【評】</b> 情報を引用しながらまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「引用元(出典)」(p. 64)、「出典の示し方」(p. 65)を参考にさせる。</li> <li>・ 著作権の定義や、著作者の許可が必要ない場合について確認する。</li> </ul>  |

**【 備 考 】**

中学校での本格的な国語学習として、このまとまりでは、説明文の読みや記録の仕方の工夫について練習するなどして、説明や記録の基本的な事項について考えていく。現行の学習指導要領の特徴の一つは表現の工夫を読み取ることにあり、そこに焦点化する最初の学習となる。展開の違う二つの文章を読むことを通して、表現の工夫に気付かせたい。

また、好きなものを紹介する活動や情報の集め方を知る活動は、より広く多様なものの見方などに触れることができる。「情報社会を生きる」では、中学校での情報活用能力についての学習の基本として押さえておきたい。

## 単元名 3 言葉に立ち止まる ー詩の世界

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 三つの詩の表現の特徴や内容について、理解することができる。  
 (2) 三つの詩の表現の特徴を参考に、詩を書くことができる。  
 (3) 詩の世界と三つの詩を読み、詩や文学を味わうための観点を考えようとする。

## 標準的な展開例

10210115\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| <p>1 「詩の世界」(p. 68)を読み、詩を読み味わう観点や詩を味わうための観点を整理して、好きな詩の表現について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校で学習した詩の題名や内容、作者について振り返る。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「詩の世界」を読み、詩を味わうための観点を整理しよう。</li> </ul> <p>○三つの詩から好きな詩の一つを選び、気付いたことや考えたことを書く。</p> <p>○選んだ詩について、自分の考えを友達と交流する。</p> <p>2 三つの詩の表現の特徴や内容について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★三つの詩の特徴や内容について知り、よさを味わおう。</li> <li>○前時に交流してまとめた学習プリントを用いて報告会を行う。</li> </ul> <p>3 三つの詩の表現や特徴を参考に、詩を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★三つの詩を参考にして、詩を作ろう。</li> <li>○詩の題材を選ぶ。</li> </ul> <p>○詩を書く。</p> <p>○読み合って感想を伝え合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩人や表現技法などにも触れる。</li> <li>・言葉のリズムや響き、言葉から連想されるイメージや、一語や一行、連の書き表し方などの観点到に着目させる。<br/>【評】詩を味わうための観点を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・三つの詩を音読させ、一番気に入った作品について、観点到に沿って自分の考えをノートにまとめさせる。</li> <li>・同じ詩を選んだ生徒同士で3～4人のグループを作り、考えを交流させる。</li> <li>・グループ内で出た意見をまとめさせる。</li> <li>・前時にまとめた学習プリントを見直し、自分たちのグループの詩の味わい方について説明するための打ち合わせをさせる。</li> <li>・詩を音読して報告をさせる。</li> <li>・発表を聞いて思ったことを学習プリントにまとめさせる。<br/>【評】詩の味わい方を報告する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</li> <li>・「題材を選ぶ」(p. 72)を参考に、詩にしたい題材を発表させる。</li> <li>・三つの詩の印象に残った表現や、「印象に残った表現を参考にして、詩を書く」(p. 72)を参考にして、詩を書かせる。<br/>【評】詩を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・3～4人のグループを作り、詩を発表させる。</li> <li>・グループで交流し、感想や意見交換をさせる<br/>【評】グループでの交流活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

詩には日常的な言葉でありながらも、普段とは少し違う言葉や表現が見られる。そうした詩の言葉の豊かな表現に触れ、ものの見方や感じ方を広げさせたい。

また、主体的に表現できる力を育てるためには語彙力や表現力を身に付ける必要がある。観点的分析、語彙の想起、表現の精緻化といった段階を踏んだ指導が必要である。

言葉には人々を動かし、人々をつなげる力がある。自分の考えや思いを適切に表現できるようになれば、多くの人とつながりができる。そのような言葉の力への気付きを育むことも大事にしたい。

**単元名 3 言葉に立ち止まる ― 比喻で広がる言葉の世界**
**配当時間 2時間**

- 単元の目標** (1) 比喻について理解し、言葉についての考えを深めることができる。  
 (2) 文章全体における各段落の役割を押さえ、文章の内容を正確に捉えることができる。  
 (3) 進んで要旨を把握し、言葉について考えを深めようとする。

**標準的な展開例**

10210116\_001

**【準備等】** 国語指導CD, 国語辞典

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| 1 段落の役割を押さえて読み、内容を捉える。<br>○ 新出漢字を学習し、難解語句を調べる。<br>○ 学習の目標を捉え、見通しをもつ。<br><br>○ 本時の学習目標をつかむ。<br>★ 段落ごとの役割を考えながら本文を読もう。<br>○ 全文を通読し、内容を捉える。<br><br>○ 「比喻」について知る。<br><br>2 言葉について考える。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★ 比喻を使いこなして、言葉の力を豊かにしよう。<br>○ 「教科書の図」(p. 76)の説明をする。<br><br>○ 身の回りにある比喻が生かされた言葉を探し、友達と交流する。<br><br>○ 学習を振り返る。 | ・ 国語辞典を活用するとよい。<br>・ 「目標」(p. 76)を確認させる。<br>・ 段落の役割に着目させる。<br><br>・ 教師の範読, または国語指導CDを活用して, 大まかな内容を捉えさせる。<br>・ 「比喻」が, 文中で, どのように定義されているかを確認させる。<br>・ 筆者が挙げている比喻の二つの効果を具体例とともにまとめさせる。<br>・ 「さまざまな表現技法(比喻)」(p. 225)を参考に, 比喻についてまとめさせる。<br><br>・ 比喻を使うかどうかで, 表現にどのような違いが出るかを考え, 発表させる。<br>【評】 比喻の有無による表現の違いを考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。<br>・ 新聞や本を活用するとよい。<br>・ 3～4人のグループを作り, 考えを交流させる。<br><br>・ グループ内で出た意見を学習プリントにまとめさせる。<br>【評】 比喻が生かされた言葉を探す活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br>・ 比喻について理解し, 言葉について考えを深めたことをまとめさせる。 |

**【 備 考 】**

詩には日常的な言葉でありながらも、普段とは少し違う言葉や表現が見られる。そうした詩の言葉の豊かな表現に触れ、ものの見方や感じ方を広げさせたい。

また、主体的に表現できる力を育てるためには語彙力や表現力を身に付ける必要がある。観点の分析、語彙の想起、表現の精緻化といった、段階を踏んだ指導が必要である。

言葉には人々を動かし、人々をつなげる力がある。自分の考えや思いを適切に表現できるようになれば、多くの人とのつながりができる。そのような言葉の力への気づきを育むことも大事にしたい。

## 単元名 3 言葉に立ち止まる 一言葉1 指示する語句と接続する語句

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 指示する語句の使い分けの決まりや効果について理解することができる。

接続する語句の働

きを理解させ、どのような意味関係で前後の内容をつないでいるかを確認することができる。

(3) 日常の言語活動と結び付け、指示する語句（こそあど言葉）と接続する語句について考えようとする。

## 標準的な展開例

10210117\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 「指示する語句」の働きと体系を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習内容を確認する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 「指示する語句」の働きを知ろう。</li> <li>○ 指示する語句について話し合う。</li> </ul> <p>○ 「指示する語句」(p. 77)の表を使い、現場指示の指示する語句について理解する。</p> <p>○ 文脈指示の指示する語句について理解する。</p> <p>2 「接続する語句」の働きと接続の意味関係を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 「接続する語句」の働きや意味関係を理解しよう。</li> <li>○ 接続する語句の働きについて理解する。</li> </ul> <p>○ 接続の意味関係による分類を理解する。</p> <p>○ 「読むことに生かす（接続する語句に着目して読む）」(p. 79)を確認する。</p> <p>○ 学習のまとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「例文」(p. 77)を使って確認する。</li> <li>・ 思いっくだけ、「こそあど言葉」を挙げさせる。</li> <li>・ どのような観点で分類できるかを話し合わせる。</li> <li>・ 指示する内容を、意味内容と距離の違いによって体系的に整理できることを理解させる。</li> </ul> <p>【評】現場指示の指示する語句について理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <p>【評】文脈指示の指示する語句について理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 練習問題を通じて、働きや意味関係に対する理解が深まるようにする。</li> </ul> <p>【評】接続する語句について理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接続する語句には書き手や話し手の気持ちが反映されることに気付かせる。</li> <li>・ 指示する語句と接続する語句に着目することで、文章の展開や構成をつかむ手がかりになることを理解させる。</li> </ul> <p>【評】「指示する語句」や「接続する語句」を使う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

詩には日常的な言葉でありながらも、普段とは少し違う言葉や表現が見られる。そうした詩の言葉の豊かな表現に触れ、ものの見方や感じ方を広げさせたい。

また、主体的に表現できる力を育てるためには語彙力や表現力を身に付ける必要がある。観点の分析、語彙の想起、表現の精緻化といった段階を踏んだ指導が必要である。

言葉には人々を動かし、人々をつなげる力がある。自分の考えや思いを適切に表現できるようになれば、多くの人のつながりができる。そのような言葉の力への気付きを育むことも大事にしたい。

**単元名 3 言葉に立ち止まる 一言を集めよう**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) イメージマップなどで分類整理した、食べ物の特徴を表現する言葉を用いて、100字程度の紹介文を創作することができる。  
 (3) 食べ物の特徴に関する言葉を、観点を立てて多く集めようとする。

**標準的な展開例**

10210118\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 観点を立てて言葉を集め、自分の好きな食べ物の紹介文を100字程度で書く。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★観点を立てて言葉を集め、自分の好きな食べ物の紹介文を書こう。<br/>         ○ 食べ物の特徴を伝えるための観点を立てる。<br/>         ○ 観点を基に言葉を集める。</p> <p>○ 集めた言葉を使い、好きな食べ物についての紹介文を書く。</p> <p>○ 紹介文を発表し合い、学習のまとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉をたくさん引き出し、表現を豊かにしていく活動であること確認する。</li> <li>・五感を使って観点を考えさせる。</li> <li>・グループで協力して言葉を集め、イメージマップを作らせる。</li> <li>・「香り」「食感」「味」などの観点を立てさせる。</li> <li>・できるだけたくさんの言葉を集めるようにさせる。</li> <li>・似た意味の言葉や反対の意味の言葉を考えさせる。</li> </ul> <p>【評】グループでイメージマップを作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きな食べ物について、観点を立てて言葉を集めさせる。</li> <li>・「私の好きな食べ物」をテーマに100字程度の文を書くようにさせる。</li> </ul> <p>【評】集めた言葉を使い、紹介文を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉によって微細な味わいが表現できたり、読み手においしさが伝わったりすることを確認する。</li> </ul> |

**【 備 考 】**

詩には日常的な言葉でありながらも、普段とは少し違う言葉や表現が見られる。そうした詩の言葉の豊かな表現に触れ、ものの見方や感じ方を広げさせたい。

また、主体的に表現できる力を育てるためには語彙力や表現力を身に付ける必要がある。観点の分析、語彙の想起、表現の精緻化といった段階を踏んだ指導が必要である。

言葉には人々を動かし、人々をつなげる力がある。自分の考えや思いを適切に表現できるようになれば、多くの人とのつながりができる。そのような言葉の力への気づきを育むことも大事にしたい。

**単元名 読書生活を豊かに ―読書を楽しむ**
**配当時間 2時間**

- 単元の目標** (1) 本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取ることができる。  
 (2) 文章中のものの見方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げることができる。  
 (3) 課題に沿って本を選び、その内容を進んで紹介しようとする。

**標準的な展開例**

10210119\_001

**【準備等】** 用紙、サインペン、色鉛筆等

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| <p>1 読書ノートに記録を残し、友達に紹介したり、感想を伝え合ったりする。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。<br/> <b>★</b> おすすめの本をポップで紹介しよう。<br/>         ○ 友達に紹介したい本を決める。</p> <p>○ 紹介に必要な情報を整理する。</p> <p>○ 紹介のための準備をする。</p> <p>○ ポップを作成する。</p> <p>2 「本の中の中学生」というテーマで、推薦文を書く。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。<br/> <b>★</b> 「本の中の中学生」というテーマで、推薦文を書こう。<br/>         ○ 「本の中の中学生」の三編の作品を読む。</p> <p>○ 三編の作品の感想を交流する。</p> <p>○ 「本の中の中学生」というテーマで、推薦文を書く。</p> <p>○ 感想を交流する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読書記録を基に決めさせる。</li> <li>・ 読書記録がない場合は、図書館で本を探させてもよい。</li> <li>・ 以下の項目をまとめ、本の内容や魅力が伝わるようにする。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 書名</li> <li>② 著者名</li> <li>③ 発行所名</li> <li>④ 発行年</li> <li>⑤ キャッチコピー</li> <li>⑥ 内容の紹介</li> </ul> </li> <li>【評】 本の情報を整理する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ レイアウトを考えてイラストや文章を書かせる。</li> <li>・ 手順やポイントなどを示した活動計画書を用意し、配付してもよい。</li> <li>・ 学校や地域の状況に応じて、夏休みの宿題にしてもよい。</li> <li>・ 教室や学校図書館に展示するとよい。</li> <li>・ 学校や地域の状況に応じて、夏休み明けに提出してもよい。</li> <li>【評】 ポップの作成を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 考えていることや悩んでいることが似ている登場人物、友達になれそうな登場人物はいないかなど、探しながらかよませる。</li> <li>・ 3～4人のグループを作り、気に入った作品とその理由を共有させる。</li> <li>・ 学校図書館や地域の図書館に行って続きを読んだり、同じ作者が書いた別の作品や、他の作家が書いた同じテーマの本を読んだりするなど、実際に本を手取るように促すとよい。</li> <li>【評】 作品の感想を交流する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 学校図書館などを利用して、中学生が登場する小説や実在の人物の中学時代を描いたノンフィクションなどから一冊選ばせる。</li> <li>・ なかなか一冊を選べない生徒には、教科書の三編の続きを読ませ、推薦文を書かせてもよい。</li> <li>・ 「私の一冊」(p.92)、「本との出会い」(p.93)を参考にさせる。</li> <li>【評】 推薦文を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 推薦文を展示したり、スピーチをしたりして感想を付箋に書き、友達と交流させる。</li> </ul> |

**【 備 考 】**

小学校よりも読書の範囲を広げ、日常的に読書に親しむきっかけを作ることを目的としている。そのためには、身近な友人と本の情報交換を経験させ、本の情報を得るとともに読書を通じたコミュニケーションの輪を広げさせたい。本のおもしろさを伝える方法として、ここでは「引用」による方法を学ぶ。「引用」は、本の内容や表現を具体的に伝えると同時に、紹介する側も「引用」する箇所を選ぶことで、読みが深まる。本のおもしろさが効果的に伝わるよう、引用などを工夫して伝えさせたい。



## 単元名 (書写)楷書で書こう

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 楷書の基本点画の筆使いを理解し、正しい筆順で字形を整えて書くことができる。  
 (3) 小学校で学習した楷書について、基本点画の筆使いや筆順、字形に関心をもち、正しく整えて書こうとする。

## 標準的な展開例

10210120\_001

【教材名】「天地」「成功」 (P. 14～P. 23)

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 楷書の基本点画の筆使いを理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校での楷書の筆使いを確認する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★楷書の点画の筆使いを理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己の課題に合わせて練習する。</li> <li>○ 「天地」を半紙に毛筆で練習する。</li> <li>○ 隣同士で鑑賞し合う。</li> </ul> <p>2 楷書の基本点画の筆使いと字形を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書(p. 18), 硬筆の「試し書き」と「考えよう」を使い、基本点画の筆使いと自己の課題を確認する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★筆使いと字形を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「天地」を毛筆で清書する。</li> <li>○ 類型文字を楷書で書く。</li> <li>○ 教科書(p. 18)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。</li> </ul> <p>3 楷書の基本点画の筆使いや点画のつながり、筆順を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本点画の筆使いや点画のつながり、筆順を意識して書くことを確認する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★字形を整えるために、点画のつながりや筆順を意識して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本点画の筆使いや点画のつながり、筆順に気を付けて「成功」を書く。</li> <li>○ 基準に沿って批正し合う。</li> <li>○ 「成功」をまとめ書きをする。</li> <li>○ 振り返りを行う。</li> </ul> <p>4 字形の整え方と筆順の原則を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本点画と、字形を整えて書くことについて振り返る。</li> <li>○ 本字の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★点画の整え方と筆順のきまりを理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 字形に関わる漢字を硬筆で試し書きをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書(p. 14～p. 15)を参照し、筆に墨をつけずに机上で空書きさせる。拡大印刷したものをなぞらせてもよい。</li> <li>・ 横画、縦画、右払い、左払い、曲がり、右上払い、そり、折れ、点などの基本点画の書き方を確かめる。</li> <li>・ 教科書(p. 14～p. 15)を参照する。拡大印刷したものを半紙の下に敷いたり、なぞらせたりして、繰り返し練習させるとよい。</li> <li>・ 立てたまま筆を運ぶことを意識させる。</li> <li>・ 姿勢についても、気を付けさせる。</li> </ul> <p>【評】 気を付ける筆使いを理解し、正しく書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 互いの作品のよい点を認めさせたい。</li> <li>・ 中学校初めての毛筆の時間となるので、道具の片付け方等確認する。</li> <li>・ 振り返りとして、鑑賞で指摘された点や気付いた内容を、教科書(p. 16～p. 17)に記入させる。</li> <li>・ 筆洗いにペットボトルを使う方法もある。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本点画の名称を復習させる。</li> <li>・ 前時に使用した、教科書(p. 14～p. 15)を拡大印刷したものを再度配布して、練習させてもよい。</li> <li>・ 字形については、中心線や補助線を意識させる。</li> <li>・ 基本点画と字形を意識して書く。</li> </ul> <p>【評】 基本点画の筆使いと字形を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 字形を整えて書くことを、硬筆でも同じようにして書けることを伝える。</li> <li>・ 「生かそう1」(p. 18)を使い、硬筆練習もできるとよい。</li> <li>・ 教科書(p. 19)を参照する。</li> <li>・ 「成功」を構成している基本点画の名称を確かめさせる。</li> <li>・ 「天地」にはない筆使いである「そり」や筆順に気を付けながら書かせる。</li> <li>・ 筆順と接し方を確かめさせる。</li> <li>・ 批正し合った後、練習を続けさせる。</li> <li>・ 最後に丁寧に書かせる。</li> </ul> <p>【評】 筆使いや点画のつながり、筆順を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書(p. 19)の振り返りに記入させる。</li> <li>・ 前時の「天地」「成功」について、字形を中心に、自分のまとめ書きをもとに振り返るようにさせる。</li> <li>・ 字形の整え方と筆順のきまりを理解する学習であることを知らせる。</li> <li>・ 単体の漢字や、組み立てのある漢字を書くよ</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○外形から考えられる組み立て方に漢字を分類する。</li> <li>○字形を整え、筆順のきまりに従って書く。</li> <li>○字形を整えるためにも、筆順のきまりに従って書くことを確かめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・う促す。</li> <li>・組み立て方ごとに漢字を分類させる。</li> <li>・左右の組み立て方は「供」「体」「行」などで、上下の組み立て方は「宇」「盆」「星」などである。</li> <li>・筆順のきまりを意識して書くことができるようにする。</li> <li>・外形を意識して漢字を整えて練習できるようにする。</li> <li>・字形、筆順を正しく書くことができるようにする。</li> </ul> <p>【評】字形の整え方と筆順の原則を正しく理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】  
 ここでは、基本となる点画といった小学校の学習を確認し、楷書の学習に取り組む。中学校の楷書の学習では、①筆使い②字形③筆順を理解するとともに、活字との違いや許容範囲を知り、それらの学習を生かして書くようにさせる。また、楷書の学習を言葉や文として扱い、紙面全体が調和するように、行の中心と文字の中心をそろえたり、文字の大きさにも留意したりして、身の回りの文字に生かしていけるようにする。  
 筆、墨、硯、紙について知ろう 教科書 (p. 22～p. 23) (適時)  
 補助教材集 楷書「出発」「実現」教科書 (p. 141)

## 単元名 (書写)楷書と仮名を調和させて書こう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 楷書に調和する仮名の筆使いを理解することができる。  
 (3) 仮名に関する自己の課題を把握し、その解決に向けて取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10210121\_001

【教材名】「いろは歌」 (P. 24～P. 39)

【準備等】レポート用紙, 模造紙, 画用紙等の用紙, 便箋と封筒, フェルトペン, サインペン等の筆記具

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 筆脈と配列を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いろは歌」を硬筆で試し書きをする。</li> <li>楷書に調和する仮名について話し合う。</li> </ul> <p>○本時の学習課題をつかむ。<br/> <b>★筆脈と配列を理解して書こう。</b></p> <p>○「いろは歌」を半紙に練習する。</p> <p>○「いろは歌」をまとめ書きをする。</p> <p>○「いろは歌」を硬筆でまとめ書きをして、本時の学習の振り返りを行う。</p> <p>2 楷書に調和する仮名の字形, 筆使いを理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時で学習した基準を確認する。</li> </ul> <p>○本時の学習課題をつかむ。<br/> <b>★楷書に調和する仮名の筆使いを確かめよう。</b></p> <p>○平仮名47文字(いろは歌)を半紙に、小筆を使って練習する。</p> <p>○教材と比較し、自分の課題を見つける。</p> <p>○自分の課題を意識しながら、平仮名47文字(いろは歌)を書く。</p> <p>○本時の学習の振り返りをする。</p> <p>3 漢字と仮名の大きさや行の中心を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楷書に調和する仮名(毛筆, 硬筆)について、これまでで学習したことを想起する。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li><b>★漢字と仮名の大きさや行の中心を理解して書こう。</b></li> <li>「竹取物語」を音読する。</li> </ul> <p>○小学校書写から継続して学習してきた既習内容を確認する。</p> <p>○確認内容を生かして、「竹取物語」の一節を書く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書(p. 25)に書かせる。</li> <li>注意する点は、線から線, 点画から点画へのつながり, 文字の中心, 文字の大小, 余白である。</li> <li>よくない例等を何種類か用意して、調和のとれていない点について話し合わせるとよい。</li> <li>筆脈や漢字と仮名の大きさ, 配列に気を付けて書かせる。</li> <li>「筆脈」を書写の用語として指導する。</li> <li>「歌」は筆順に気を付けて書かせる。</li> <li>筆脈を意識できるように、「い」「は」を部分練習させるとよい。</li> <li>文字の配列(中心線や字形)にも注意を向けさせる。</li> <li>【評】筆順や文字の配列を理解する学習を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>教科書(p. 25)に記入させる。</li> <li>基準は、以下のとおりである。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①始筆, 送筆, 終筆, さらに筆脈を意識して書く。</li> <li>②仮名は漢字よりも小さめに書く。</li> <li>③配列(文字の中心や字形)に気を付けて書く。</li> </ul> </li> <li>「いろは歌」を使い、仮名の成立や楷書に調和する仮名の筆使いについて学習することを理解させる。</li> <li>仮名の成立について理解させる。</li> <li>半紙を横置きにして、縦8列, 横6行に折らせ教科書(p. 26～p. 27)を手本にして、いろは歌を練習させる。</li> <li>「ゐ」と「ゑ」について、歴史的仮名遣いのにきに使用することを知らせる。</li> <li>基本的な筆使いとして、右回り, 右回り+折り返し, 結び, 左回り, 左回り+折り返しについて意識させる。</li> <li>相互評価させ、課題を見つけさせてもよい。</li> <li>【評】楷書に調和する平仮名を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>教科書(p. 27)に記入させる。</li> <li>楷書に調和する仮名について、毛筆での筆使いを硬筆に活用したことを確認する。</li> <li>書写学習が文字の学習にとどまらない言語の学習であること, 「読む」(読まれる)ことにつながる「書く」学習であることに気付かせる。</li> <li>「考えよう」(p. 28)を使って指導する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①漢字(楷書)と仮名の大きさ</li> <li>②行の中心</li> <li>③余白, 字間, 行間(本教材では縦罫線用紙に書くため不要), 上下と左右の余白</li> </ul> </li> <li>文節や単語の切れめについて「読みやすさ」の観点から、工夫が必要であることにも触れたい。</li> </ul> |

- 日常的な場面，学習活動への活用を想起し，振り返りを行う。
- 4 漢字と仮名の大きさや配列を理解して，さまざまな形式に生かして書く。

- 前時の「竹取物語」での学習を復習する。
- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 漢字と仮名の大きさや配列を理解し，生活に生かそう。
- 形式に応じた配列について，これまでの学習内容を確認する。
- 「読みやすさ」の観点から，その効果と意味について考える。
- 自己の設定した課題に取り組む。
- 相互評価を通して，振り返りを行う。

【評】読み手意識をもち，漢字(楷書)と仮名の大きさや行の中心を書く活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・教科書(p. 29)に記入する。
- ・次時(原稿用紙，レポートの形式，手紙)の予告をし，日常生活で生かす意識をもたせる。
- ・教科書(p. 30～p. 33) (p. 36～p. 37)では，①レポートの形式に書く②手紙を書く③帯やポップ④ポスターの4教材が用意されている。全ての配列に触れることは必要だが，生徒の実態や他教科，領域との関連を検討し，重点化や選択化も含めて，工夫して指導したい。
- ・漢字(楷書)と仮名の調和方法について確認する。

- ・レポートの形式や，手紙それぞれの基本的な配列について，小学校での学習内容を確認する。
- ・それぞれの形式ごとに「読みやすさ」のために効果的な書き方があることを，読み手の立場から意識を向けることで理解できるように理由を考えさせたい。
- ・国語の単元や，他教科，領域との関連を生かした課題に取り組ませる。

【評】形式に合わせた配列を理解し書く活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・互いの作品のよい点を認め合わせたい。
- ・教科書(p. 33)に記入させる。

#### 【 備 考 】

日常生活において，文章の大半が漢字仮名交じり文で書かれている。漢字の楷書とそれにあった平仮名を調和させて書くことは，今後の生活にとって大切なことである。そこで，硬筆・毛筆との関連を考えた学習を設定し，相互活動や互いの作品を鑑賞するなどの活動を取り入れ，日常の書写活動に生かせるようにしたい。

季節の行事と書写 教科書(p. 34～p. 35) (適時)

文字の変遷 教科書(p. 38～p. 39) (適時)

暮らしの文字を支える人々 教科書(p. 54) (適時)

補助教材集 楷書と仮名の調和「広がる世界」「古典に学ぶ」 教科書(p. 141)

情報を整理して，活動につなげよう 教科書(p. 110～p. 111)

## 単元名 4 心の動き ー大人になれなかった弟たちに……

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 作者の思いに触れ、自分のものの見方や考え方を広げることができる。  
 (2) 登場人物の置かれた状況とそのときの行動、様子から、心情や生き方を捉えることができる。

文脈の中で言葉の意味を捉え、表現の工夫を味わうことができる。  
 (3) 作品の背景にある時代状況や、家族のあり方などを通して、作品に興味をもとうとする。

## 標準的な展開例

10210201\_001

【準備等】国語指導CD、再生機、国語辞典、原稿用紙

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 作品の時代状況を捉え、読み取りの際の着眼点を確認する。<br/>         ○太平洋戦争について知っていることを出し合う。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★作品の背景を捉え、全文を通読し、感想を書こう。<br/>         ○全文を読み味わう。</p> <p>○初読の感想を書く。また、内容についての感想に加え、表現の特徴についても指摘する。</p> <p>○感想や表現の特徴などを発表し合う。</p> <p>○新出漢字を学習し、注意する語句を調べる。</p> <p>2 状況とともに登場人物の行動や様子、表現を追い、心情を捉える。<br/>         ○本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★「悲しみ」をキーワードに、登場人物の心情に迫ろう。<br/>         ○登場人物の置かれた状況と、行動や様子をまとめる。</p> <p>○登場人物の「悲しみ」を感じる表現を見つける。</p> <p>○「悲しみ」を感じる表現を発表し合う。</p> <p>3 登場人物の行動や様子、表現から生き方を押さえ、作者</p> | <p>・太平洋戦争について、書籍や映像資料、生徒が居住する地域の様子、戦争体験者のインタビューなどに触れ、戦時中の状況についてイメージをもてるようにする。<br/>         ・「目標」(p.96)を確認させる。</p> <p>・作品のイメージを大切にするために、教師が範読するか、国語指導CDを活用する。<br/>         ・特殊な状況を背景とした作品は、時代状況を押さえ、登場人物に与えた影響を考えながら読むよう確認したい。<br/>         ・内容とともに表現にも着目して感想を書くように指示する。<br/>         ・初読の感想に目を通し、作品に対する興味・関心を把握しておき、次時からの授業の中で紹介し、生かしていく。<br/>         【評】初読の感想を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>         ・内容についての感想を、登場人物ごとの立場や思いで整理しておきたい。また「悲しみ」や「強さ」という言葉に注目し、次時につなげたい。<br/>         ・表現の特徴については、この段階では、指摘が出ないことも予想される。ここでは、学習をつなげるために、次の点について触れておく。<br/>         ①文が短い。<br/>         ②「ヒロユキ」などが、片仮名で書かれている。<br/>         ③「……」や「ー」を用いている。<br/>         ④敬体で書かれている。<br/>         ⑤倒置法が多い。<br/>         ⑥「小さな小さな」など繰り返しの表現が多い。<br/>         ・国語辞典を活用するとよい。</p> <p>・「母、僕、弟、その他の人々」で「疎開前、疎開中、弟の死」程度の区切り方で考えていくとよい。<br/>         ・個人で進めることもできるが、活動時間を設定し、4名程度のグループで活動することで活動時間を統一してもよい。<br/>         ・全体を通して「悲しみ」や「強さ」を表す表現が随所に見られるので、ここでは、「悲しみ」「強さ」をキーワードとして着目した授業展開を示す。<br/>         ・それぞれの登場人物が戦争という状況の中でどうにもならない「悲しみ」を抱いていることに気付かせたい。<br/>         ・表現の特徴は、前時で挙げた項目や、「描写に着目する」(p.104)の課題を適宜参照させたい。<br/>         【評】「悲しみ」を感じる表現を探す活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>         ・他の人の考えと自分の考えとを比較して聞かせる。</p> |

の思いを捉える。

○ 本時の学習課題をつかむ。

★ 母の生き方と作者の伝えたかったことを読み取ろう。

○ 戦争という状況においても貫かれた、母の人間としての「強さ」や「美しさ」を読み取る。

○ 最後の一文から作者の伝えたかったことを考える。

4 作品や作者の思いに対する自分の思いを表現し、ものの見方や考え方を広げる。

○ 題名「大人になれなかった弟たちに……」に込められた作者の思いを読み取る。

○ 本時の学習課題をつかむ。

★ 作品や作者の思いに対する自分の思いを表現しよう。

○ 作品や作者の思いに対する自分の思いを書き記す。

・ 母について「強い顔」(p.99)、「美しい顔」(p.99)と表現されていることを踏まえ、母の行動や様子から、子どもに対する思いや人間としての尊厳について考えさせたい。

・ 全編から捉えさせる。

・ 母の様子が、「僕」の視点から語られていることを踏まえ、「僕」の母への思いにも触れる。

・ 「僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。」(p.103)に着目させる。

・ 「ひもじさ」「弟の死」をもたらしたものが戦争であることを捉え、その上で「一生忘れません」という表現に表れた作者の思いを考えさせる。

【評】最後の一文から、作者の戦争に対する憤りや平和への願いを読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・ 題名に関することを最後に扱い、まとめにつなげていく。

・ この作品が、作者の弟だけに向けて書かれたものではないことに気付かせる。

・ この作品が、戦争の犠牲者に捧げられた作品であることを理解させたい。その人たちに対する作者の決意や願いなどを考えさせたい。

・ ノートや原稿用紙などに感想や思いを書かせる。

・ 「自分にとっての家族」などの題を与えてもよい。

・ 教師の感想や思いなども伝えて、学習のまとめとしたい。

【評】自分の思いを書き記す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

## 【 備 考 】

この単元では、物語と記録文を主に「展開」という観点から読み取することを目的としている。学習指導要領解説にあるように、「構成」とは文章の組み立てなどを静的に捉えたもので、「展開」とは、人物の心情や事実の変化に沿って動的に捉えたものである。「構成」を前提としつつ「展開」に注意し、書き手の思考の流れを生き生きと読み取らせたい。

また、「星の花が降るころに」は、友情の尊さを理解する内容となっている。これは道徳のBー(8) 友情・信頼にあたり、これを機会に、互いに励まし合い、高め合う友情について考えさせたい。「大人になれなかった弟たちに……」は、生命の尊さを理解し、家族の愛情の深さに気付く内容となっている。これはDー(19) 生命の尊重と、Cー(14) 家族愛にあたり、かけがえのない生命を精いっぱい生きることの尊さと、家族の愛情の深さや家族の絆を深めようとする気持ちに気付かせたい。

## 単元名 4 心の動き 一星の花が降るころに

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 登場人物の心情とその変化を捉え、それについて自分の考えをもつことができる。  
 (2) 作品の展開を確かめながら、場面ごとの状況やそのつながりを読み味わうことができる。  
 文  
 脈の中で言葉の意味を捉え、表現の工夫を味わうことができる。  
 (3) 作品のおもしろさを味わい、物語を楽しもうとする。

## 標準的な展開例

10210202\_001

【準備等】国語指導CD、再生機、作文用紙

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 本文を通読し、これからの学習の見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新出漢字を学習し、難解語句を調べる。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★興味をもったところや、心に残ったところを発表し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の範読を聞く。</li> </ul> <p>○興味をもったところや心に残ったところを取り上げて、初読の感想を書く。</p> <p>○興味をもったところや心に残ったところを発表する中でこれからの学習の見通しをもつ。</p> <p>2 場面の展開に沿って、「わたし」の心情の変化とその理由を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○課題を整理し、学習の見通しをもつ。</li> </ul> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★行動や情景描写などから、「私」の心情を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○時間や場所が分かる表現に着目して、場面展開を確認する。</li> <li>○場面ごとに行動や情景描写など、「私」の心情が分かる表現を抜き出し、そのときの心情を考える。</li> </ul> <p>3 行動描写や情景描写と「わたし」の心情の関係をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★行動や情景描写などから、「私」の心情の変化をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人での追究結果を交流しながら、小グループで話し合い、「私」の心情の変化をまとめる。</li> </ul> <p>○小グループでまとめた心情の変化について、全体に発表する。</p> <p>○「私」の心情の変化について考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語辞典を活用するとよい。</li> <li>・「目標」(p.114)を確かめ、大まかな学習の流れについて説明しておく。</li> <li>・楽しかった友達との思い出を聞いていく中で「星の花の降るころに」も、中学1年生が主人公であることを話しながら、生徒全体に意欲付けを行っていきたい。</li> </ul> <p>・読み聞かせて物語の楽しさを伝えたい。</p> <p>・新出漢字や注意する語句について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語指導CDを活用してもよい。</li> <li>・心惹かれた場面や心に残ったところを取り上げさせる。</li> <li>・教科書に印をつけさせる際には、驚き(!)発見(☆)疑問(?)共感(◎)など、共通の印を決めておくとうい。</li> <li>・ここで挙げた疑問や発見、感想をこの先の学習を進めていく上で活用したい。</li> <li>・感想の発表では、「どこが、どのように心に残ったのか」が分かるように発表するよう指示する。</li> <li>・「登場人物」「情景描写」「比喩などの表現」などに分類しておくとうい。</li> </ul> <p>【評】感想を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む姿勢」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「『私』を中心に作品の内容を押さえよう」(p.114)と関連付けながら課題を整理し、学習の見通しをもつ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私」のいる場所や時間を表す表現を確認しながら、場面展開を確認する。</li> <li>・考えてから話し合いをするまでに、きちんとその過程を押さえて、時間を保障する必要がある。</li> <li>・本時は、個人で課題に取り組み、次時で小グループで考えをまとめ、その結果を全体に発表する学習活動を計画している。</li> <li>・課題に取り組む方法は、個人、小グループ、学級全体など、クラスの状況に応じて適切な形態をとるように配慮する。</li> </ul> <p>【評】「私」の心情を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】自分の追究結果をよりどころにしながら積極的に話し合いに参加する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面展開に即して、「私」の心情の移り変わりを説明させる。</li> <li>・読み取りが異なるグループについては、その理由を説明させながら、全体で確認する。</li> <li>・場面ごとの「私」の心情が、肯定的なもの(</li> </ul> |

- 4 登場人物の気持ちを想像し、この作品の続きを考える。
- 本時の学習課題をつかむ。
  - ★ 行動や情景描写から「私」の見方や考え方の変化をまとめよう。
  - 戸部君に対する「私」の見方や、考え方の変化をまとめる。
  - 銀木犀を通して「私」の考え方の変化を読み取る。
- 5 学習を振り返り、まとめをする。
- 本時の学習課題をつかむ。
  - ★ 作品のおもしろさを味わい、続きを自分で考えよう。
  - 登場人物の心情を想像して、この後、作品がどう続いていくかを考える。
  - 作品の続きを書く。
- 互いの作文を交流し合う。

+)か否定的なもの(-)かを、大きく捉えておく。

- ・ 前時でまとめた「私」の心情を振り返りながら、変化のきっかけとなった出来事についてまとめさせる。
  - ・ 「お守りみたい」に大切にしていた銀木犀の花びらを捨てて、「銀木犀の木の下をくぐって出た」ことが、新たな一歩を踏み出そうとする「私」の決意や心の成長を象徴していることを読み取らせたい。
- 【評】「私」の考え方の変化を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 事前に「どの登場人物に注目するか」「この後、どんな出来事が起こるか」を明確にさせることが重要である。
  - ・ 作品の特徴である「一文が短い」ことや「巧みな比喩表現が使われている」ことを意識させながら書かせる。
  - ・ 作文は300～600字程度でまとめるように指示する。
  - ・ 書く内容について、この後の「私」, 「私」と戸部君との関係, 「私」と夏実との関係などから、題材を絞って書かせるようにする。
- 【評】作品の続きを想像して書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 評価基準を示し、互いのよいところや課題に気付かせる。

#### 【 備 考 】

この単元では、物語と記録文を主に「展開」という観点から読み取することを目的としている。学習指導要領解説にあるように、「構成」とは文章の組み立てなどを静的に捉えたもので、「展開」とは、人物の心情や事実の変化に沿って動的に捉えたものである。「構成」を前提としつつ「展開」に注意し、書き手の思考の流れを生き生きと読み取らせたい。

また、「星の花が降るころに」は、友情の尊さを理解する内容となっている。これは道徳のBー(8) 友情・信頼にあたり、これを機会に、互いに励まし合い、高め合う友情について考えさせたい。「大人になれなかった弟たちに……」は、生命の尊さを理解し、家族の愛情の深さに気付く内容となっている。これはDー(19) 生命の尊重と、Cー(14) 家族愛にあたり、かけがえのない生命を精いっぱい生きることの尊さと、家族の愛情の深さや家族の絆を深めようとする気持ちに気付かせたい。



**単元名 4 心の動き ー聞き上手になろう**
**配当時間 1時間**

- 単元の目標** (1) 音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。  
 (2) 必要に応じて記録したり質問したりしながら、話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。  
 (3) 進んで記録したり質問したりしながら、話の内容を捉え、今までの学習を生かして話を引き出そうとする。

**標準的な展開例**

10210203\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| 1 質問の仕方や聞き方の工夫をする。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br><b>★</b> 聞き上手になろう。<br>○ 聞き方の工夫や質問の種類を知る。<br><br>○ 「夏休みのいちばんの思い出」をテーマに、対話の練習をする。<br><br>○ 聞き上手になるための秘訣をまとめる。 | ・ 「林さんの話」(p. 116)を聞き、林さんへの質問を考えさせる。<br>・ 「きき方の工夫」「質問の種類」(p. 117)を参考にさせる。<br>・ 「絞る質問」から「広げる質問」の順に挙げさせるとよい。<br>・ 「質問のしかた」を視聴させるとよい。<br><b>【評】</b> 林さんへの質問を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する<br><br>・ 二人一組になり、話し手と聞き手に分かれさせる。<br>・ 聞き手は聞き方や質問の仕方を工夫し、質問で話を引き出させる。<br>・ 三往復以上のやり取りをさせたい。<br>・ 「質問で話を引き出すには」(p. 116)を参考にさせる。<br><b>【評】</b> スピーチとそれに対する質疑応答をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 |

**【 備 考 】**

この単元では、物語と記録文を主に「展開」という観点から読み取ることを目的としている。学習指導要領解説にあるように、「構成」とは文章の組み立てなどを静的に捉えたもので、「展開」とは、人物の心情や事実の変化に沿って動的に捉えたものである。「構成」を前提としつつ「展開」に注意し、書き手の思考の流れを生き生きと読み取らせたい。

また、「星の花が降るころに」は、友情の尊さを理解する内容となっている。これは道徳のBー(8) 友情・信頼にあたり、これを機会に、互いに励まし合い、高め合う友情について考えさせたい。「大人になれなかった弟たちに……」は、生命の尊さを理解し、家族の愛情の深さに気付く内容となっている。これはDー(19) 生命の尊重と、Cー(14) 家族愛にあたり、かけがえのない生命を精いっぱい生きることの尊さと、家族の愛情の深さや家族の絆を深めようとする気持ちに気付かせたい。

**単元名 4 心の動き 一項目を立てて書こう 読み手の立場に立つ**
**配当時間 3時間**
**単元の目標** (1) 書いた案内文を互いに読み合い、自分の表現の参考にすることができる。

案内文の形式や特

有の語句について理解することができる。

(2) 行事等の内容を、相手に分かりやすく伝えるために項目を整理してまとめることができる。

(3) 案内文を相手や目的に応じて伝えるべき事柄を整理し、項目の立て方を考えて書こうとする。

**標準的な展開例**

10210204\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| 1 案内文の形式や必要な項目について確かめ、自分が書く案内文のテーマを決める。<br>○案内文の書き方について確認する。<br>★案内文について知ろう。<br>○案内文に必要な情報を整理する。<br><br>○「案内文の下書き」を書く。<br>2 案内文の下書きをする。<br>○本時の学習課題をつかむ。<br>★案内文の下書きを完成させよう。<br>○案内文の下書きを書く。<br><br>○学習を振り返る。<br><br>3 読み手の立場に立って推敲し、清書する。<br>○本時の学習課題をつかむ。<br>★案内文を推敲し、清書しよう。<br>○推敲の練習をする。<br><br>○前時で書いた「案内文の下書き」を推敲し、清書する。 | ・日常用いられている身近な案内文などを用意し、示すとよい。<br>・校内で配付される文書などを数点提示できるよう準備しておくといよい。<br><br>・「合唱コンクールの案内」(p. 119)を用い、案内文全体の形式を確認する。<br>・誰に宛てた案内文をつくるのかを考えさせる<br><br>・「わかりやすい案内文を書くには」(p. 118)を参考に、相手の立場に立って情報を選び、項目を立てて整理させる。<br>【評】案内文の書き方を学ぶ活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br><br>・前時の続きから取り組ませる。<br>・相手に分かりやすいよう、項目の順序や表現を工夫させるとよい。<br>【評】案内文を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br>・作成した案内文について、友達と工夫したところを伝え合い、改善点を助言させ合う。<br>【評】友達との話し合い活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br><br>・リード文を読み、推敲の意味を確認する。<br><br>・「案内文の例」(p. 119)を参考に、「体育祭の案内」(p. 120)を推敲させる。<br>・「文章の推敲・原稿用紙の使い方」(p. 275)を参考に、情報を補ったり削ったりさせる。<br><br>・大事な情報が抜け落ちていないか、友達と確認をさせる。<br>【評】教科書の例を推敲する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br>・「推敲の観点」(p. 120)を参考に推敲させる<br><br>【評】案内文を推敲したり清書したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する |

**【 備 考 】**

この単元では、物語と記録文を主に「展開」という観点から読み取することを目的としている。学習指導要領解説にあるように、「構成」とは文章の組み立てなどを静的に捉えたもので、「展開」とは、人物の心情や事実の変化に沿って動的に捉えたものである。「構成」を前提としつつ「展開」に注意し、書き手の思考の流れを生き生きと読み取らせたい。

また、「星の花が降るころに」は、友情の尊さを理解する内容となっている。これは道徳のBー(8)友情・信頼にあたり、これを機会に、互いに励まし合い、高め合う友情について考えさせたい。「大人になれなかった弟たちに……」は、生命の尊さを理解し、家族の愛情の深さに気付く内容となっている。これはDー(19)生命の尊重と、Cー(14)家族愛にあたり、かけがえのない生命を精いっぱい生きることの尊さと、家族の愛情の深さや家族の絆を深めようとする気持ちに気付かせたい。

## 単元名 4 心の動き 一 方言と共通語

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 方言と共通語の特徴や違いについて理解することができる。  
 (3) 自分たちが普段用いている言葉に興味や関心をもち、学んだことを自らの言語生活に生かそうとする。

## 標準的な展開例

10210205\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| <p>1 方言の特徴を知り、方言の役割について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 方言の特徴と役割を知ろう。</li> <li>○ 方言と共通語(p. 121～p. 122)を読み、自分たちの地域で使われている方言や、家族や地域の人から聞いた方言について話し合う。</li> <li>○ 方言の分布の仕方には理由があることを確認させる。</li> </ul> <p>○ 方言の特徴についてまとめる。</p> <p>2 方言と共通語のそれぞれの役割や使用場面について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 方言と共通語の役割とよさについて考えよう。</li> <li>○ 共通語(p. 122)を読み、理解する。</li> </ul> <p>○ 方言と共通語、それぞれのよさ(p. 122)を読み、それぞれの役割とよさについて考える。</p> <p>○ 生活の中で、方言のよさや共通語のよさを感じた場면을発表する。</p> <p>○ 「方言と共通語」についての学習を整理し、自分の考えや思いをまとめ、発表する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旅行先や、地域のお年寄りの人との会話で経験したことや、方言について知っていることを発表させる。</li> <li>・ 方言による音の高さの違いについて、教科書(p. 121)を読ませたり、参考資料を配付したりして、同じ言葉であっても高さに違いがあることに気付かせる。</li> <li>【評】方言分布図などを参考に、方言の分布の特徴を読み取る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノートなどを見直して、方言の特徴を復習する。</li> <li>・ 「捨てる」と「なげる」を例に出しながら、共通語について正しく理解させ、その価値や使用場面について確認する。</li> <li>・ 方言と共通語のそれぞれのよさを理解させ、日本の文化や伝統を大切にする態度を育てる学習としたい。</li> <li>【評】方言と共通語のよさと役割を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ テレビの中での使用例などを例に挙げると、イメージが湧きやすい。</li> <li>・ 生徒自身の言語生活の向上につなげたい。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

この単元では、物語と記録文を主に「展開」という観点から読み取ることを目的としている。学習指導要領解説にあるように、「構成」とは文章の組み立てなどを静的に捉えたもので、「展開」とは、人物の心情や事実の変化に沿って動的に捉えたものである。「構成」を前提としつつ「展開」に注意し、書き手の思考の流れを生き生きと読み取らせたい。

また、「星の花が降るころに」は、友情の尊さを理解する内容となっている。これは道徳のB－(8) 友情・信頼にあたり、これを機会に、互いに励まし合い、高め合う友情について考えさせたい。「大人になれなかった弟たちに……」は、生命の尊さを理解し、家族の愛情の深さに気付く内容となっている。これはD－(19) 生命の尊重と、C－(14) 家族愛にあたり、かけがえのない生命を精いっぱい生きることの尊さと、家族の愛情の深さや家族の絆を深めようとする気持ちに気付かせたい。

**単元名 4 心の動き ー漢字2 漢字の音訓**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) 漢字が日本文化に伝えられた背景を踏まえながら、漢字の読みの多様性（音読み、訓読み）を理解することができる。  
(3) 現在の中国語と日本語の漢字の音の違いなどに興味をもつ。

**標準的な展開例**

10210206\_001

**【準備等】** 漢和辞典

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| 1 音読み、訓読みを理解し、使い分ける。<br>○「星」の読みを確認する。<br>○本時の学習課題をつかむ。<br><b>★漢字の読みの多様性を知ろう。</b><br>○「音」について(p.123)を読み、音読みについて知る。<br>○「訓」について(p.123～p.124)を読み、訓読みについて知る。<br>○「複数の読み方をする熟語」(p.124)を読む。<br>○練習問題(p.124)に取り組む。 | ・漢字には、2種類の読み方があることを確認する。<br>・一つの漢字が幾つかの音をもつこともあることを知らせる。<br>・一つの漢字が幾つかの訓をもつこともあることを知らせる。<br>・同じ漢字を使った熟語でも、読み方の違いにより、異なる意味を表すものがあることを知らせる。<br>・漢和辞典を活用させてもよい。<br><b>【評】</b> 漢字の読みの多様性を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 |

**【 備 考 】**

この単元では、物語と記録文を主に「展開」という観点から読み取することを目的としている。学習指導要領解説にあるように、「構成」とは文章の組み立てなどを静的に捉えたもので、「展開」とは、人物の心情や事実の変化に沿って動的に捉えたものである。「構成」を前提としつつ「展開」に注意し、書き手の思考の流れを生き生きと読み取らせたい。

また、「星の花が降るころに」は、友情の尊さを理解する内容となっている。これは道徳のBー(8) 友情・信頼にあたり、これを機会に、互いに励まし合い、高め合う友情について考えさせたい。「大人になれなかった弟たちに……」は、生命の尊さを理解し、家族の愛情の深さに気付く内容となっている。これはDー(19) 生命の尊重と、Cー(14) 家族愛にあたり、かけがえのない生命を精いっぱい生きることの尊さと、家族の愛情の深さや家族の絆を深めようとする気持ちに気付かせたい。

## 単元名 5 筋道を立てて 「言葉」をもつ鳥, シジウカラ

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 全体の論理展開を押さえた上で、それぞれのまとまりごとの内容を理解することができる。

記録の文章の特徴とその効果を理解することができる。

論理展開に関わる語や漢語など、多様な語句について理解することができる。

(2) 筆者が結論に説得力をもたせるための工夫を、本文の記述や図表などを根拠にして文章にまとめることができる。

(3) 記録の文章の特徴や、本文の内容に興味をもとうとする。

## 標準的な展開例

10210207\_001

【準備等】国語指導CD, 再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 「記録」の文章を学習することを知るとともに、文章の話題を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★記録の文章の特徴を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本文を通読する。</li> </ul> <p>○ 初読の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 図表に注意して、仮説や事実、検証結果を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★図表の効果的な使われ方に注意し、文章の内容を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本文を五つの部分に分ける。</li> </ul> <p>○ 仮説を確かめる。</p> <p>3 仮説の検証の内容を観点ごとにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★論の展開に着目し、その効果をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 仮説の検証について、観点を立てて、表にまとめる。</li> </ul> <p>○ 表を基に、仮説が証明された理由を話し合う。</p> <p>4 結論に説得力をもたせるための工夫を、本文の記述や図表などを根拠としてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★筆者の論の特徴をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 結論に説得力をもたせるための工夫をまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「目標」「学習の見通しをもとう」(p.134)で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・ 範読、もしくは国語指導CDを聞かせ、大まかに内容をつかませる。</li> <li>・ 図や写真と関連付けながら確認させる。</li> <li>・ 「二次元コード」(p.129)を使って、シジウカラの鳴き声を聞かせ、興味付けを図るとよい。</li> </ul> <p>【評】初読の感想の活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章と図表を関連させながら確認させる。</li> <li>・ 本文を、役割によって以下の5つの部分に分けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①前提となる知識</li> <li>②研究のきっかけと仮説</li> <li>③仮説の検証1</li> <li>④仮説の検証2</li> <li>⑤結論</li> </ul> </li> </ul> <p>【評】文章の構成を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者がどのような事実を基に、どのような仮説を立てたか確かめさせる。</li> <li>・ 事実を示す文末表現と、仮説を述べるときの文末表現の違いに着目させるとよい。</li> </ul> <p>【評】仮説を検証する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以下の5つの観点で内容を読み取り、表にまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①検証の目的</li> <li>②検証の方法</li> <li>③結果</li> <li>④考察・解釈</li> <li>⑤問題点</li> </ul> </li> </ul> <p>【評】文章の特徴をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験の様子について、動画を見せるとよい。</li> <li>・ 仮説1の検証結果から、さらに疑問が生まれ仮説2が生まれ、という展開になっていることに気付かせる。</li> <li>・ 筆者が「事実」をどう解釈して意見へと展開しているのか、形式段落の冒頭や文末表現に着目させ、読み取らせるとよい。</li> <li>・ 「構成や展開の効果を考える」(p.134)や「</li> </ul> |

○学習を振り返る。

説明的な文章を読むために」(p. 266)を参考にさせる。

【評】筆者の工夫点をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。  
・筆者の論の展開の特徴を説明させる。  
・説得力のある文章を書くために使ってみたい工夫点を挙げさせる。

【評】単元の振り返り活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは大切である。論点が明確でないと理解する場合も表現する場合もすれ違いが生じ、考えを深めることができなくなる。ここでは、論点を明確にすることを通して、読んだり書いたり話し合ったりしながら、考えを深めていく学習をする。

単元名 5 筋道を立てて -思考のレッスン2 原因と結果

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 原因と結果, 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。  
(3) 言葉がもつ価値に気付くとともに, 我が国の言語文化を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。

標準的な展開例

10210208\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 原因と結果の関係を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★原因と結果の関係を捉えることで, 話の筋道を理解できるようになろう。</li> <li>○ 教科書の「問題1」(p. 136)に取り組む。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書の「問題2」(p. 137)に取り組む。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「教科書のリード文」(p. 136)を参考に, 原因と結果の定義を理解させる。</li> <li>・ 原因と結果を抜き出し, どのようにつながっているかを整理させる。</li> <li>・ 教科書の類題を準備し, 練習し定着させるとよい。</li> </ul> <p>【評】原因と結果を表す言葉を探す活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原因と結果のつながりに無理がある例を確かめ, 以下のパターン別に整理させる。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①単なる偶然</li> <li>②逆の因果関係</li> <li>③疑似相関</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「単なる偶然」である理由を説明させたり, 「原因と結果が逆」である理由を説明させたり, 「隠された別の要因」は何か指摘させるとよい。</li> <li>・ 地理の気候帯は相関関係, 歴史の出来事は因果関係で説明できることに触れる。</li> </ul> <p>【評】原因と結果のつながりを確かめる活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話の筋道を理解するには, 原因と結果の関係を捉えることが大切であるということを確認する。</li> </ul> |

【 備 考 】

論理的な表現は, 展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり, 書いたりする場合はもちろんのこと, 話し合う際にも, 議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは大切である。論点が明確でないと理解する場合も表現する場合もすれ違いが生じ, 考えを深めることができなくなる。ここでは, 論点を明確にすることを通して, 読んだり書いたり話し合ったりしながら, 考えを深めていく学習をする。

## 単元名 5 筋道を立てて 一 根拠を示して説明しよう

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 自分の課題に必要な情報を集め、その中から適切な材料を選ぶことができる。  
 (2) 伝えたい事実や事柄、自分の意見や感想を明確にして分かりやすい文章にまとめることができる。  
 (3) 中学生について調査したいことを考え、それについて調べ、報告しようとする。

## 標準的な展開例

10210209\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 レポートを書く課題を決め、材料を集めて記録する。<br/>         ○ レポートの形式や内容について確認する。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 中学生について調べてみたい課題を決め、情報収集の準備をしよう。<br/>         ○ 調べてみたい課題を探す。</p> <p>○ 課題についての資料や情報を得るための方法を考える。</p> <p>2 集めた材料を整理し、レポートの構成を確認する。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★ 集めた材料を整理し、レポートの構成を理解しよう。<br/>         ○ 課題についての材料を整理して記録する。</p> <p>○ レポートの構成を確認し、「調査の結果」の内容を考える。</p> <p>3～4 レポートの構成に沿って文章にまとめる。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ レポートの構成に沿って文章にまとめよう。<br/>         ○ 構成に合わせて材料を図表やグラフ、文章に表し、レポートにまとめる。</p> <p>○ レポートを推敲する。</p> | <p>・ 「レポートの例」(p. 140)を用いて確認する</p> <p>・ 報告する課題を決め、調査して材料を集めて整理し、レポートの構成に沿って文章にまとめるまでの一連の流れについて、「学習の見通し」(p. 138～p. 139)を読んで確認する。</p> <p>・ 「知多の友」を使用する。<br/>         ・ 「情報を整理して書こう」(p. 34)を参考に、マッピングなどの発想方法を提示する。<br/>         ・ 「発想を広げる」(p. 272)を参考に考えさせてもよい。<br/>         ・ 「知多の友」を使用する。<br/>         ・ 「アンケート調査の方法」(p. 274)を参考にし、課題に沿った情報収集の方法を選択させる。<br/>         【評】自分の課題に必要な情報を集める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 「知多の友」を使用する。<br/>         ・ 材料を集める活動では、学校図書館やコンピュータ室を積極的に利用させるとよい。<br/>         ・ 出典は必ず記録させる。<br/>         ・ 集めた材料から要点のみを箇条書きで書き抜くように助言する。<br/>         【評】課題についての適切な材料を選ぶ活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>         ・ 「知多の友」を使用する。<br/>         ・ 集めた材料を内容ごとに分類させ、自分の課題について説明するためにはどの材料が必要か考えさせる。<br/>         ・ 「情報整理のレッスン」(p. 32)を再読し、情報の分類や比較の仕方、流れの整理の仕方を確認させたい。<br/>         ・ 「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」での学びを生かし、調査の結果と、結果に基づく考察や解釈のつながり方を確かめさせるとよい</p> <p>・ 「構成や展開の効果を考える」(p. 134)を参照し、構成の仕方や文章のまとめ方を確認させる。</p> <p>・ 「知多の友」を使用する。<br/>         ・ 「レポートの例」(p. 140)を参考にしてまとめさせる。</p> <p>・ 図表への表し方は、「統計資料の例」(p. 142～p. 143)を参考にさせる。<br/>         ・ 「調査結果」には事実を、「考察」には自分の考えをまとめるように助言する。<br/>         ・ 学校や学級の実態に応じて、次時をレポートにまとめる活動にしてもよい。<br/>         【評】調べたことや自分の意見をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・ 「説明的な文章を読むために」(p. 266)を参考にさせ、表現の仕方や意見の述べ方を中心に推敲させる。<br/>         ・ 「読み手の立場に立つ」(p. 120)を参照し、推敲のポイントを確認させる。</p> |



- 5 グループでレポートを読み合い、内容を深め合う。
- 本時の学習課題をつかむ。
  - ★ グループでレポートを読み合い、内容を深め合おう。
  - グループを作りレポートを読み合い、助言し合う。
- 助言を読み合い、意見交換をして学習を振り返る。
- 学習の振り返りをする。

- ・ 「知多の友」を使用する。
- ・ 4人程度のグループを作らせる。
- 【評】 レポートを読み合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・ 友達のレポートを読んで、調べ方やまとめ方で気付いた点を挙げるなどして意見交換をさせる。
- ・ 「学習を振り返る」(p. 141)を活用して学習を振り返り、自己評価をさせる。

【 備 考 】

論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは大切である。論点が明確でないと理解する場合も表現する場合もすれ違いが生じ、考えを深めることができなくなる。ここでは、論点を明確にすることを通して、読んだり書いたり話し合ったりしながら、考えを深めていく学習をする。

**単元名 5 筋道を立てて ー漢字に親しもう3**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。  
 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、  
 文や文章の中に使うことができる。  
 (3) 積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

**標準的な展開例**

10210210\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| 1 練習問題に取り組む。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★ 漢字を使いこなそう。<br><br>○ 新出漢字の確認をする。<br>○ 練習問題に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時は、小学校6年生で習った漢字を中心に練習問題に取り組んでいくことを伝える。</li> <li>・ 言葉の意味が分からないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</li> <li>・ 「小学校六年生で学習した漢字」(p.255)に合わせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</li> </ul> <b>【評】</b> 練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 |

**【 備 考 】**

論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは大切である。論点が明確でないと理解する場合も表現する場合もすれ違いが生じ、考えを深めることができなくなる。ここでは、論点を明確にすることを通して、読んだり書いたり話し合ったりしながら、考えを深めていく学習をする。

## 単元名 5 筋道を立てて 一話し合いの展開を捉える

配当時間 1時間

## 単元の目標

- (2) 話し合いの流れを踏まえた発言を考えることができる。  
 (3) 話し合いをよりよく進めるための工夫について、進んで考えようとする。

## 標準的な展開例

10210211\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| <p>1 話し合いの目的や話題を理解し、流れを踏まえた発言の仕方を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 話し合いの目的や話題を理解し、流れを踏まえた発言の仕方を考えよう。</li> <li>○ 「話し合いの例」(p. 145)を聞き、空欄に当てはまる発言を考える。</li> </ul> <p>○ 空欄に当てはまる言葉を基に、話し合いのルールについて確かめる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下段の上達のポイントを確認させる。</li> <li>・ 空欄1を考えさせるために「話すとき」「聞くとき」(p. 145)を、空欄2を考えさせるために「司会をするとき」(p. 145)を読ませる。</li> <li>【評】流れを踏まえた発言内容を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 話し合いの目的や話題を共通理解すること、話し合いが前に進むような発言を心がけること、自分の考えと比較して聞くことを確認する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは大切である。論点が明確でないと理解する場合も表現する場合もすれ違いが生じ、考えを深めることができなくなる。ここでは、論点を明確にすることを通して、読んだり書いたり話し合ったりしながら、考えを深めていく学習をする。

## 単元名 5 筋道を立てて 一話題や展開を捉えて話し合おう

配当時間 4時間

## 単元の目標

- (2) 自分の意見とその根拠を明らかにし、話し合いの話題や流れを的確に捉えて話し合うことができる。
- (3) 日常生活の課題について意見をもち、協力して意見交換をしようとする。

## 標準的な展開例

10210212\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 グループ・ディスカッションについて知り、学習の流れをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ グループ・ディスカッションについて知り、話し合いに必要な発想の広げ方、考えの深め方を学ぼう。</li> <li>○ 「『よい話し合い』とは」(p. 147)を読み、話し合いの形式を理解する。</li> <li>○ 「話し合いの話題を決め、目的を明確にする」(p. 146)を読み、話し合う話題について考える。</li> <li>○ 「自分の考えをまとめる」(p. 147)を読み、考えをまとめるためのメモの仕方を学ぶ。</li> </ul> <p>2 グループ・ディスカッションの流れをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ グループ・ディスカッションの流れを知ろう。</li> <li>○ 「グループで話し合う」(p. 148)をCDで聞き、グループ・ディスカッションの流れを把握する。</li> <li>○ 「意見を結び付けて、結論をまとめる」(p. 149)の発言を読み、分析する。</li> <li>○ 「話し合いの結果を報告する」(p. 149)を読み、報告の仕方を知る。</li> </ul> <p>3 話し合う話題を見つけ、話題に対しての自分の意見と根拠を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 日常生活から話し合いにふさわしい話題を見つけ、自分の意見をもとう。</li> <li>○ 日常生活の中から、話し合いにふさわしい話題を見つける。</li> <li>○ 話題に対する自分の意見をもつ。</li> <li>○ 自分の意見について、根拠、問題点、解決法について見直し、説得力のある意見とする。</li> </ul> <p>4 グループ・ディスカッションをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ グループディスカッションを実施しよう。</li> <li>○ グループ・ディスカッションの目的、話題、役割を確認する。</li> <li>○ グループごとに、30分ほどグループ・ディスカッションを行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ・ディスカッションの形式を理解させる。</li> <li>・ 「発想を広げる」(p. 272)の、意見・主張・討論の話題に着目させる。</li> <li>・ 話し合ってみたい話題に印を付けさせる。</li> <li>【評】話題について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 「話題」「意見」「根拠」の三つについて確認する。</li> <li>・ 「模造紙や付箋を使って、出し合った意見を整理する」(p. 148)も参照するとよい。</li> <li>・ CDを聞き、どのような意見が出されているかに注意してメモを取らせる。</li> <li>【評】CDを聞き、メモを取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 話し合いの流れの中でどのような意味をもつ発言なのかを考えさせる。</li> <li>・ 以下の4点を着目させる。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 話題の確認</li> <li>② 意見とその根拠</li> <li>③ 質問する観点</li> <li>④ 意見の整理</li> </ol> </li> <li>・ 司会者に着目させ、その役割について説明する。</li> <li>・ グループ・ディスカッションの後に報告があることを知らせる。</li> <li>・ 学校生活や日常生活における課題、改善策を導き出せそうな話題を選ばせる。</li> <li>・ 個人で考えさせたあとに、学級全体で参加者の問題意識が高いものを話題として選ぶようにさせる。</li> <li>【評】話し合いの話題を見つける活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</li> <li>・ 話題に対して自分の意見をもたせる。</li> <li>・ 自分の意見と根拠となる事実、体験をまとめさせる。</li> <li>・ 「知多の友」を使用する。</li> <li>・ どんな話題に対して意見を交換し、結論を出すのかという目的や、留意点、役割分担を確認させる。</li> <li>・ 司会者には、全員が話題に対して意見交換できるように進めていくようにさせる。</li> <li>・ 発言者が自分の意見や立場、その根拠を簡潔に説明できるよう机間指導する。</li> <li>・ 聞き手には「知多の友」を使用してメモを取り、自分の意見と比べながら聞いたり、それ</li> </ul> |

- 「話し合いの結果を報告する」(p.149)を参考にして、グループ・ディスカッションの結果を報告する。

を踏まえて発言したりするようにさせる。  
【評】グループ・ディスカッションを行う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する

- ・内容と根拠についてまとめ、発表させる。
- ・解決しない問題点については、具体的に報告できるようにメモをさせる。

#### 【 備 考 】

論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは大切である。論点が明確でないと理解する場合も表現する場合もすれ違いが生じ、考えを深めることができなくなる。ここでは、論点を明確にすることを通して、読んだり書いたり話し合ったりしながら、考えを深めていく学習をする。

単元名 5 筋道を立てて 一音読を楽しもう 大阿蘇

配当時間 1時間

単元の目標

- (2) 詩の中の言葉の意味を理解し、作品全体のイメージを読み取ることができる。  
(3) 作者の詩に対する思いを理解し、リズムを楽しみながら音読しようとする。

標準的な展開例

10210213\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 表現の特徴に注意して音読し、詩に託された作者の思いやメッセージを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 表現の特徴に注意して音読し、作者のメッセージを考えよう。</li> <li>○ 詩の範読を聞き、特徴的な表現について話し合う。</li> </ul> <p>○ 詩に託された作者のメッセージを考える。</p> <p>○ 表現上の特徴や作者のメッセージを考えて音読する。</p> <p>○ 本時の振り返りをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 頭に情景を思い浮かべながら聞くようにさせる。</li> <li>・ 阿蘇の風景を動画や静止画などで見せるとよい。</li> <li>・ 国語指導CDを使用してもよい。</li> <li>・ 気になる表現に線を引かせる。</li> <li>・ 表現についてまとめをする。</li> <li>① 一連構成</li> <li>② 反復法や押韻</li> <li>③ 静と動の対比</li> <li>・ 大阿蘇などの大自然の雄大さ、悠久、恒久性と、人間や生物の存在の小ささ、はかなさとの対比に気付かせたい。</li> <li>【評】 作者のメッセージを考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 音読の工夫点を考えさせる。</li> <li>・ 「声を届ける」(p.16)を参考にさせる。</li> <li>・ 一人で音読練習をしたあとに、ペアやグループで交流させるとよい。</li> <li>【評】 表現や作者のメッセージを考えて音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 自分の音読や友達の音読を振り返り、よかった点を考える。</li> </ul> |

【 備 考 】

論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは大切である。論点が明確でないと理解する場合も表現する場合もすれ違いが生じ、考えを深めることができなくなる。ここでは、論点を明確にすることを通して、読んだり書いたり話し合ったりしながら、考えを深めていく学習をする。

## 単元名 6 いにしえの心にふれる ―いろは歌 古典の世界

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 七五調のリズムを味わいながら、「いろは歌」を音読（暗唱）し、仮名遣いや言葉遣い、古語の意味を理解することができる。
- (2) 古文の特徴と大まかな意味を理解し、当時の人々の生活や文化、ものの見方や考え方を、現代と比較して捉えることができる。
- (3) 「いろは歌」や「古典の世界」から、古典に対する興味や関心をもとうとする。

## 標準的な展開例

10210214\_001

【準備等】五十音図、百人一首など

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 「いろは歌」の特徴と概要を捉え、リズムよく音読する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いろは」や「いろは歌」について知っていることを発表する。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「いろは歌」の特徴を知り、リズムよく音読しよう。</li> <li>「いろは歌」の原文を現代仮名遣いで読む。</li> </ul> <p>○「いろは歌」の原文を視写する。</p> <p>○「いろは歌」の原文の特徴を知る。</p> <p>○「いろは歌」の意味を理解し、漢字仮名交じり文を音読する。</p> <p>○「いろは歌」を音読（暗唱）する。</p> <p>○「古典の世界」（p. 156）を読み、3年間の見通しをもつ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「いろは歌」の原文を板書し、歴史的仮名遣いのまま読ませる。その後、現代仮名遣いで読み方を理解させる。</li> <li>「ゐ」「ゑ」の読み方について説明する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>「五十音図」を活用してもよい。</li> </ul> </li> <li>学習プリント等を活用し、現代仮名遣いも書かせるとよい。</li> <li>気付いたことを発表させる。</li> <li>解説文を読ませ、「いろは歌」の特徴をまとめさせる。</li> <li>漢字仮名交じり文を現代仮名遣いで読ませた後、現代語訳を読ませる。</li> <li>教師が現代語訳を1行読むごとに、漢字仮名交じり文を指でなぞらせるとよい。</li> <li>2人組やグループでリズムよく音読（暗唱）させる。</li> <li>暗唱テストを行うのもよい。</li> <li>【評】大きな声でリズムよく音読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>和歌や物語、随筆など、3年間で様々な古典作品に触れることを伝える。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

小学校では、古文や漢文を音読し、古典に触れる機会があった。しかし、古典について深く学ぶのは、この単元が初めてである。そのため、図版を多く盛り込んで古典世界へのイメージを楽しく広げるとともに、手応えのある内容が用意されている。古典の文章に読み慣れるとともに、内容の手応えを感じられることが、古典への興味や関心につながっていくことになる。古典の中に、時代を超えた人間の姿や心を見いだせるように、この単元を学習させたい。

## 単元名 6 いにしへの心にふれる 一蓬萊の玉の枝「竹取物語」から

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 古文の仮名遣いや言葉遣い、古語の意味を理解することができる。  
 (2) 物語の展開、粗筋を理解し、作品や図版を通して、当時の人々の生活や文化、ものの見方や考え方を、現代と重ね、比較して捉えることができる。  
 (3) 「竹取物語」のおもしろさを味わわせ、古典文学に対する興味や関心をもととする。

## 標準的な展開例

10210215\_001

【準備等】国語指導CD、古典文学DVD、再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 「竹取物語」のあらすじを捉え、冒頭部を歴史的仮名遣いに注意して音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目標を確かめ、学習の見通しをもつ。</li> </ul> <p>★「竹取物語」の冒頭部分を正確に音読しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「竹取物語」について知っていることを発表する。</li> </ul> <p>○全体の粗筋を大まかにつかむ。</p> <p>○冒頭部分を音読する。</p> <p>○冒頭部分について内容を理解する。</p> <p>○原文の視写をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「解説文」(p. 159～p. 160)を読み、物語に興味をもつ。</li> </ul> <p>2 「くらもちの皇子の架空の冒険談」を場面を想像しながら音読し、話の展開を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★「くらもちの皇子の架空の冒険談」のおもしろさを味わおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「貴公子たちの失敗談」を読む。</li> </ul> <p>○「くらもちの皇子の架空の冒険談」の原文を音読する。</p> <p>○「くらもちの皇子の架空の冒険談」の現代語訳を読んで感想を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「解説文」(p. 162～p. 163)の解説文を読む。</li> <li>○原文の視写をする。</li> </ul> <p>3 解説文と原文部分から、場面の様子や翁、かぐや姫、帝の心情を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★場面の様子や登場人物の心情を読み取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「解説文」(p. 163)を読み、登場人物の思いを考える。</li> </ul> <p>○「教科書」(p. 164)の原文を音読する。</p> <p>○「教科書」(p. 164)の原文と現代語訳を対照させながら読み、情景や心情を捉える。</p> <p>○原文を視写する。</p> <p>4 古文のリズムや古語に親しみ、ものの見方や考え方を、</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習」(p. 168)を確かめ、大まかな学習の流れについて説明する。</li> <li>・現存する最古の物語であること、また、紫式部が「源氏物語」の中で「物語の出で来はじめの祖」と記していることを確かめたい。</li> <li>・図版を参考にさせる。</li> <li>・古典文学DVDを視聴するのもよい。</li> <li>・「古典の言葉」(p. 169)を参照し、歴史的仮名遣いを確認して、音読させる。</li> <li>・国語指導CDを活用してもよい。</li> </ul> <p>【評】繰り返し練習して、音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代では使われなくなった言葉や、違う意味で用いられる言葉に線を引き、訳を確かめさせる。</li> <li>・助詞の省略についても触れておく。</li> <li>・「今は昔」に着目させる。</li> <li>・古語に慣れさせ、暗唱へとつなげる。</li> <li>・子どもを思う親の気持ちや家族をもつ喜びなど、現代と変わらない思いを感じさせる。</li> <li>・かぐや姫の人物設定を確認させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「貴公子たちの失敗談」(p. 166)を参考に、5人の貴公子と与えられた難題を押さえる。</li> <li>・くらもちの皇子の行為について、自由に意見交換させる。</li> <li>・教師の範読、または国語指導CDを活用する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いを確認させる。</li> <li>・皇子の作り話の巧みに気付かせ、真実味を出すために工夫している点などについて話し合わせる。</li> </ul> <p>【評】語句の意味や内容の発表を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮名遣いに注意して視写をさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かぐや姫と翁たちの別れの悲しみを想像させる。</li> <li>・帝の二つの行動に着目させる。</li> <li>・教師の範読を聞かせる。または、国語指導CDを活用してもよい。</li> <li>・歴史的仮名遣いを確認させる。</li> <li>・次の内容について確認させる。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①だれが書いたものでだれに対する「御文」か。</li> <li>②「仰せたもう」たのはだれか。</li> <li>③なぜ「ふじの山」と名付けられたのか。</li> </ol> <p>【評】場面の様子や心情を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |



|  |   |
|--|---|
| <p>現代の人々と比較してまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 原文を冒頭部から音読する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の思いや行動を現代の人々と比べよう。</li> <li>○ 「竹取物語」に関する資料を読む。</li> <li>○ 「描かれている古典の世界を想像してみよう」(p. 168)に取り組む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語の流れや人物の心情を思い浮かべながら音読させる。</li> <li>・ 他の資料を参照させ、「竹取物語」の一部分を読ませる。</li> <li>・ 登場人物の思いや行動から、喜び、悲しみ、怒り、憎しみ、欲望など、今の自分に通じるところはないかを考え、まとめさせる。</li> <li>・ 学習プリント等を活用するとよい。</li> </ul> <p>【評】 当時の人々と現代とを比較し、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】  
 小学校では、古文や漢文を音読し、古典に触れる機会があった。しかし、古典について深く学ぶのは、この単元が初めてである。そのため、図版を多く盛り込んで古典世界へのイメージを楽しく広げるとともに、手応えのある内容が用意されている。古典の文章に読み慣れるとともに、内容の手応えを感じられることが、古典への興味や関心につながっていくことになる。古典の中に、時代を超えた人間の姿や心を見いだせるように、この単元を学習させたい。

**単元名 6 いにしへの心にふれる ―今に生きる言葉**
**配当時間 2時間**

**単元の目標** (1) 「矛盾」の書き下し文を、現代語訳を参考にしながら読み、故事の内容を理解することができる。  
 「矛盾」の書き下し文を音読して、漢文特有のリズムに慣れることができる。  
 (2) 故事成語の価値や漢文の文体について、自分の考えをもつことができる。  
 (3) 故事成語とは、どのような言葉かを理解し、どんな由来があるのかを調べようとする。

**標準的な展開例**

10210216\_001

**【準備等】** 国語辞典、故事成語辞典

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 故事成語とは何かを理解し、読み慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「矛盾」を提示し、由来や使用例を考える。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★故事成語について理解し、漢文を読み慣れよう。</li> <li>○「解説文」(p. 170)を読み、故事成語について知る。</li> </ul> <p>○本文(p. 171)の範読を聞く。</p> <p>○「漢文を読む」(p. 174)を読み、書き下し文の成り立ちを理解する。</p> <p>○書き下し文を音読する。</p> <p>○書き下し文を視写する。</p> <p>2 「矛盾」の由来や言葉の意味を知り、他の故事成語についても調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「矛盾」を理解して正しく使うとともに、他の故事成語についても調べよう。</li> <li>○書き下し文を音読する。</li> <li>○「矛盾」の意味と由来をまとめ、「矛盾」を使った文章を考える。</li> </ul> <p>○「推敲」「蛇足」「四面楚歌」あるいは他の故事成語について調べる。</p> <p>○故事成語や漢文について気付いたことをまとめる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「矛」と「盾」が武器であることを説明しておく。</li> <li>・「解説文」(p. 170)を読み、故事成語について理解させる。</li> <li>・「矛盾」以外にも多くの故事成語があることを押さえ、知っている故事成語があれば挙げさせ、関心を高める。</li> <li>【評】故事成語について、まとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・漢文特有の単語や言い回しなど、必要に応じて説明を加えながら、教師が書き下し文を範読する。</li> <li>・原文が中国語であることと、祖先の工夫から書き下し文が生まれたことを確認する。</li> <li>・書き下し文と現代語訳を交互に読み進め、難解語句は適宜説明を加えながら、内容を理解させる。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・「矛盾」の故事と意味をまとめ、文章を作らせる。</li> <li>・グループや全体で発表させてもよい。</li> <li>・国語辞典や故事成語辞典などを利用して、興味をもった故事成語について調べ、発表し合う。</li> <li>【評】興味ある故事成語を、調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・漢文が簡潔な文体であること、対句的な表現で覚えやすいこと、短い言葉に深い意味が込められていることなどに気付かせたい。</li> </ul> |

**【 備 考 】**

小学校では、古文や漢文を音読し、古典に触れる機会があった。しかし、古典について深く学ぶのは、この単元が初めてである。そのため、図版を多く盛り込んで古典世界へのイメージを楽しく広げるとともに、手応えのある内容が用意されている。古典の文章に読み慣れるとともに、内容の手応えを感じられることが、古典への興味や関心につながっていくことになる。古典の中に、時代を超えた人間の姿や心を見いだせるように、この単元を学習させたい。

**単元名 7 価値を見いだす ―「不便」の価値を見つめ直す**
**配当時間 4時間**

- 単元の目標** (1) 筆者の意見とそれを支える根拠との関係を捉えることができる。  
 (2) 筆者が結論に説得力をもたせるための工夫を、本文の記述や図表などを根拠にして文章にまとめることができる。  
 (3) 説得力のある文章を書くための工夫を考えようとする。

**標準的な展開例**

10210217\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 学習の見通しをもち、初読の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 学習の見通しをもち、初読の感想を書こう。</li> <li>○ 「学習」(p. 184)を読み、学習の見通しをもつ。</li> </ul> <p>○ 本文を通読する。</p> <p>○ 感想を書き、発表する。</p> <p>2 「不便益」についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 「不便益」についてまとめよう。</li> <li>○ 「不便益」についてまとめる。</li> </ul> <p>○ 本時の振り返りをする。</p> <p>3 文章の要旨をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 文章の要旨を200字程度でまとめよう。</li> <li>○ 前時の学習内容を振り返る。</li> </ul> <p>○ 文章の要旨を200字程度でまとめる。</p> <p>○ まとめた文章を読み合う。</p> <p>○ 本時の振り返りをする。</p> <p>4 筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明文の特徴を思い出し、段落同士の結び付きや構成を意識して読むことを確認させる。</li> <li>・ 学習の見通しをもたせる際に、学習のまとめとして自分の考えを文章にする活動があることを確認する。</li> <li>・ 教師が範読する。</li> <li>・ 国語指導CDを使用してもよい。</li> <li>・ 写真や表にも注意を向けさせる。</li> <li>・ 自分の経験と照らし合わせながら聞かせる。</li> <li>・ 次のような視点を与えて感想を書かせるとよい。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 初めて知ったこと</li> <li>② 驚いたり感心したりしたこと</li> <li>③ 疑問に思ったこと</li> </ul> </li> <li>【評】 感想を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 本文を音読させる。</li> <li>・ 「不便益」について、以下の観点でまとめさせる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「不便益」の定義</li> <li>② 「不便のよい面」とその事例</li> <li>③ 「便利の悪い面」とその事例</li> </ul> </li> <li>・ 学習プリントや「図1②」(p. 178)に書き込ませるなどして、整理させるとよい。</li> <li>【評】 文章の内容を捉える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 学習プリントなどでまとめたものを見ながら、序論・本論・結論の中心部分を順にまとめていけばよいことを確認させる。</li> <li>・ 文章の言葉をそのまま書き抜くのではなく、簡潔に言い換えたり、まとめ直したりするようにさせる。</li> <li>・ 文章の要点や核を抜き出させるとよい。</li> <li>・ まとめの言葉を手がかりとして探す方法を示してもよい。</li> <li>・ 最初から200字程度にするのではなく、400字から200字に絞り込ませたり、マーカーで事例と意見に分けさせたりといった手順を踏むとよい。</li> <li>・ 「目的に応じて要約する」(p. 184)や「説明的な文章を読むために」(p. 266)を参考にさせる。</li> <li>【評】 文章の要旨をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 3～4人のグループでまとめた文章を読み合い相互評価をさせる。</li> <li>・ 短くまとめるための工夫についても話し合わせるとよい。</li> <li>【評】 話し合い活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 筆者の主張に対する自分の考えを，根拠を明確にして書く。</li> <li>○ 筆者の主張に対する自分の考えを明確にして，その根拠を挙げる。</li> <li>○ 400字程度の文章を書く。</li> <li>○ 書いた文章を読み合う。</li> <li>○ 学習の振り返りをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「根拠を明確にして，意見をまとめよう」(p.185)を読み，筆者の主張に対する自分の考えを書くことを確認する。</li> <li>・ 自分の立場(共感・納得，疑問・反論)と根拠をノートに書く。</li> <li>・ 自分の立場と根拠が合っているかを確認させる。</li> <li>・ 考えが伝わりやすいように，初めに自分の立場を述べさせ，次に根拠を述べさせる。</li> <li>【評】 根拠を明確にし自分の考えを書く活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ グループを作って文章を読み合い，感想を交流する。</li> <li>・ 立場の違う生徒を把握しておき，同グループにして読み合わせると見方が広がる。</li> <li>・ 要旨の捉え方や，筆者の主張の展開についてまとめる。</li> <li>・ 他教科や「総合的な学習の時間」では，テーマに沿った調査活動をすることが多い。調査結果を発表する際，重要な部分や伝えたい部分を選択し，自分なりの要約をした経験がこれまでにでもあることに気付かせたい。</li> <li>【評】 単元を通しての振り返り活動を通して，「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |
|--|---|

【 備 考 】  
 論理的な表現は，展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり，書いたりする場合はもちろんのこと，話し合う際にも，議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは大切である。論点が明確でないと理解する場合も表現する場合もすれ違いが生じ，考えを深めることができなくなる。ここでは，論点を明確にすることを通して，読んだり書いたり話し合ったりしながら，考えを深めていく学習をする。

## 単元名 7 価値を見いだす 一助言を自分の文章に生かそう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 書いた文章を互いに読み合い、作品の捉え方や表現の仕方について意見を述べることができる  
(2) 観点を決めて鑑賞し、根拠を明確にして読み手に分かりやすい鑑賞文を書くことができる。

感じたことを表す語彙を増やし、作品の魅力を語る表現を工夫することができる。  
(3) 多様な材料や対象に広く目を向け、興味をもった作品を選んで鑑賞しようとする。

## 標準的な展開例

10210218\_001

【準備等】友達に紹介したい本、付箋（ピンク色、水色等）

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 読み手に分かりやすいように根拠を明確にし、構成を考えて書評を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 根拠を明確にし、構成を考えて書評を書こう。</li> <li>○ 作品の魅力が何かを分析する。</li> </ul> <p>○ 読み手によりよく伝わるような表現の工夫を考える。</p> <p>○ 書き出したことを整理して文章の組み立てを考え、構成メモを作る。</p> <p>○ 構成メモを基に、鑑賞文を書く。</p> <p>2 書評を読み合い、友達のものの方の見方や感じ方、表現の工夫を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 書評を読み合い、友達のものの方の見方や感じ方を味わおう</li> <li>○ 構成メモを基に、鑑賞文を書く。</li> </ul> <p>○ グループに分かれて書評を読み合い、メッセージを書く</p> <p>○ 学習を振り返る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「作品を分析するときの観点」(p. 187)を用いて分析させる。</li> <li>・ 「思考のツール」(p. 9)を用いて分析させてもよい。</li> <li>・ 「書評に使う言葉」(p. 187)と「書評の例」(p. 187)を読み、構成と語彙に注目させる。</li> <li>・ 次の点に注意して読ませる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 段落の数</li> <li>② 段落の役割</li> <li>③ 分かりやすく伝えるための工夫</li> <li>④ 書評にふさわしい表現や語彙</li> </ul> </li> <li>・ 読み手を意識して、書き出しを工夫させる。</li> <li>・ 「知多の友」を使用する。</li> <li>・ 400字程度で書かせる。</li> <li>・ 「情報整理のレッスン」(p. 32), 「言葉を集めよう」(p. 80), 「読み手の立場に立つ」(p. 120), 「語彙を豊かに」(p. 300)を参考にさせる。</li> <li>【評】構成を考えて、書評を書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 前時の続きから取り組ませる。</li> <li>・ 「知多の友」を使用する。</li> <li>・ 400字程度で書かせる。</li> <li>・ 「情報整理のレッスン」(p. 32), 「言葉を集めよう」(p. 80), 「読み手の立場に立つ」(p. 120), 「語彙を豊かに」(p. 300)を参考にさせる。</li> <li>【評】構成を考えて、書評を書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 書評を読み合い、書いた人へメッセージを書く。</li> <li>・ 「自分が書いた文章をよりよくするには」(p. 186)を参考にさせる。</li> <li>【評】友達同士で書評を読み、助言し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ メッセージを読んで、自分の伝えたいことを伝えることができたかを振り返る。</li> <li>【評】学習を振り返り、自分の表現の工夫を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える根拠としての具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは大切である。論点が明確でないと、理解する場合も表現する場合もすれ違いが生じ、考えを深めることができなくなる。ここでは、論点を明確にすることを通して、読んだり書いたり話し合ったりしながら、考えを深めていく学習をする。

知多の友を使用する。

**単元名 7 価値を見いだす ―漢字に親しもう4**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。  
 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、  
 文や文章の中に使うことができる。  
 (3) 積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

**標準的な展開例**

10210219\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| 1 練習問題に取り組む。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★ 漢字を使いこなそう。<br><br>○ 新出漢字の確認をする。<br>○ 練習問題に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時は、小学校6年生で習った漢字を中心に練習問題に取り組んでいくことを伝える。</li> <li>・ 言葉の意味が分からないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</li> <li>・ 「小学校六年生で学習した漢字」(p.255)に合わせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</li> </ul> <b>【評】</b> 練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 |

**【 備 考 】**

論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える具体例や引用などの付加的な部分などから構成されている。文章を要約したり要旨を捉えたりすることは、文章理解の上で重要な活動である。要約の仕方や要旨のとらえ方は目的に応じて変わる場合もあるが、ここでは第1学年ということを前提に、偏りなく要約し、要旨を捉える最も基本的な方法を学習させたい。

単元名 7 価値を見いだす 一文法への扉2 言葉の関係を考えよう 配当時間 2時間

単元の目標 (1) 文の組み立てにおいて、「主・述」「修飾・被修飾」の関係を理解することができる。  
文節

(連文節) 同士の関係から、文の組立てを考えることができる。

(3) 文の組み立てと意味に着目し、「文法への扉」や練習問題に取り組もうとする。

### 標準的な展開例

10210220\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 「主・述の関係」「修飾・被修飾の関係」など、文の成分について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「教科書の上段」(p. 189)の文が分かりづらい理由を考える。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「主・述の関係」「修飾・被修飾の関係」などを理解しよう。</li> <li>○「私(山田さん)」が「どうした」のかが分かる文に書き直す。</li> <li>○「1主・述の関係」(p. 242～p. 243)を読んで、主・述の関係について理解する。</li> <li>○「教科書の下段」(p. 243)の練習問題に取り組む。</li> <li>○「2修飾・被修飾の関係」(p. 243)を読んで、修飾・被修飾の関係について理解する。</li> <li>○「教科書の下段」(p. 243)の練習問題に取り組む。</li> <li>○「3接続の関係」「4独立の関係」(p. 244)を読んで、それぞれの関係について理解し、下段の問題に取り組む。</li> </ul> <p>2 「連文節」について理解し、文の組み立てを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習を振り返る。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「連文節」について理解し、文の組み立てを考えよう。</li> <li>○「連文節」(p. 245)を読み、連文節の働きを確かめる。</li> <li>○連文節内部の文節同士の関係を確かめる。</li> <li>○「並立の関係」(p. 245)を読み、並立の関係について理解し、練習問題に取り組む。</li> <li>○「補助の関係」(p. 245)を読み、補助の関係について理解し、練習問題に取り組む。</li> <li>○「文の組み立て」(p. 246)を読んで理解する。</li> <li>○「教科書の下段」(p. 246)の練習問題に取り組む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に「山田さん」の文を書き、色チョークで「大石先生は」と「すばらしい」を囲んでそれらが主語と述語の組み合わせになっていることを示す。</li> <li>・「私は」と、組になる語(述語)が抜けていることに気付かせ、「思った」「感じた」などを補う必要があることを理解させる。</li> <li>・「主語の見つけ方」(p. 242)にあるように、まず述語から探し、その述語に対する主語を見つければよいことを理解させる。</li> <li>・修飾・被修飾の関係を矢印で示す。</li> </ul> <p>【評】 文の成分について、理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の文節から成り立っているため「～語」とは言わずに、「～部」と呼ぶことを理解させる。</li> <li>・補助動詞を含むものについては、全てその直前の文節が「～て(で)」となっていることにも気付かせたい。</li> </ul> <p>【評】 あいまいな文を書き換える活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える具体例や引用などの付加的な部分などから構成されている。文章を要約したり要旨を捉えたりすることは、文章理解の上で重要な活動である。要約の仕方や要旨の捉え方は目的に応じて変わる場合もあるが、ここでは第1学年ということを前提に、偏りなく要約し、要旨を捉える最も基本的な方法を学習させたい。

単元名 読書に親しむ ー考える人になろう

配当時間 1時間

単元の目標

- (2) 題材について理解し、登場人物の生き方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げることができる。
- (3) 読書を通して様々な人の生き方や考え方に触れ、自分のものの見方や考え方を広げようとする

標準的な展開例

10210221\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 「君たちはどう生きるか」「たのしい制約」の文章を読み、筆者のものの見方や考え方を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 筆者のものの見方や考え方を捉えよう。</li> <li>○ 「君たちはどう生きるか」「たのしい制約」の文章を読み、筆者のものの見方や考え方が表れている部分に線を引く。</li> </ul> <p>○ 文章を読んで考えたことを発表し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疑問や悩みを解決するためのヒントや、新しい発想、考え方が表れている部分に線を引きその部分を根拠にグループで発表し合うとよい。</li> <li>【評】 筆者のものの見方や考え方を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ スピーチの仕方、話の聞き方の学習が定着しているかどうかを確かめたい。</li> <li>・ 読書案内と、学校図書館の蔵書をリンクさせるなどして、読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを実感させたい。</li> <li>・ 「続きはこちら」(p. 191)を読み、学校図書館や地域の図書館に行って続きを読んだり、同じ筆者が書いた別の作品や「君たちはどう生きるか」の漫画を読んだりするなど、実際に本を手取るように促すとよい。</li> <li>【評】 読み取った内容を発表し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

【 備 考 】

読書の楽しみの一つは、自分とは違った人の生き方や考え方に触れて、自分のものの見方や考え方を広げることにある。中学1年生であるこの時期に、ノンフィクションや伝記を読んで、自らの生き方や将来を考えていく経験をさせることは意義深い。また、取り上げられた人物だけでなく、書き手のものの見方や感じ方にも気付かせたい。



## 単元名 (書写)行書で書いてみよう

配当時間 9時間

単元の目標 (1) 行書の特徴を知り、点画の変化と筆脈の連続について理解することができる。  
(3) 初めて学習する行書について、その特徴や筆使いについて正しく知ろうとする。

## 標準的な展開例

10210222\_001

【教材名】「和」「大」「大木」「栄光」「平和」 (P. 40～P. 54)

【準備等】水書板、行書で書かれた身近な資料、毛筆のための練習用紙、筆ペンなどの筆記用具、年賀(郵便)はがき

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 身近な文字に行書が使われていることを知り、行書の書き幅があることを理解し、興味をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○点画が連続したり省略されたりした書体を、行書ということを知る。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★身の回りに使われている行書を知り、書き方の幅を知ろう。</li> <li>○持ち寄った資料から行書を確認し、その印象や特徴について話し合う。</li> <li>○身近な文字の中に、様々な行書が使われていることを知り、行書を書くことに興味をもつ。</li> <li>○単元の学習の見通しをもつ。</li> </ul> <p>2 楷書と行書の違いから、行書の点画の特徴などを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★楷書と行書の違いを理解しよう。</li> <li>○「和」の楷書と行書を比べて、全体の印象の違いを考える。</li> <li>○教科書(p. 42～p. 43)の「楷書と行書の比較表」を見ながら、「和」のどの部分に点画の変化が表れているかを考え、話し合う。</li> <li>○「楷書と行書の比較表」を使い、違いを整理して理解する。</li> <li>○次時の予告を聞く。</li> </ul> <p>3 行書の筆使いを理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○行書の特徴と取り組み方を確認する。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★行書の筆使いを理解して書こう。</li> <li>○手または、墨をつけない筆で、空書きや机上で筆使いを確かめる。</li> <li>○「大」を、教科書(p. 45)を参照しながら、半紙に行書で書く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書(p. 38～p. 39)の「文字の変遷」(適時)を見て、書体の変遷から行書の位置を確認させるとつかませやすい。</li> <li>・教科書(p. 40～p. 41)の図版を見た後、持ち寄った資料から行書を確認することで、点画が連続、省略される行書の全体的な柔らかさをつかませたい。</li> <li>・校内、校外において行書が使われている資料を用意し、興味を喚起させる。</li> <li>【評】身近に行書が使われていることを理解する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・教科書(p. 42～p. 54)に目を通させ、次時以降は行書の特徴、行書の書き方について学習していくことを伝える。</li> <li>・本時に学習する「和」は、第7時に毛筆で、「平和」と行書で書く学習につなげる。</li> <li>・楷書は直線的で角ばっている、行書は曲線的で丸みがあり柔らかい特徴をつかませる。</li> <li>・教科書(p. 42～p. 43)を使い、形が変化している行書の部分に○をつけさせる。</li> <li>・違いに気付きにくい場合は、「楷書と行書の比較表」をよく見るように指示する。</li> <li>【評】楷書と行書の違い、行書の点画の特徴を採る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・筆順の変化については、「和」では表れないので、他の例として「書」や「花」などを取り上げるとよい。</li> <li>・次時は毛筆で行書の「大」を書くことを伝える。</li> <li>・本時に学習する「大」は、次時の「大木」と行書で書く学習につなげる。</li> <li>・前時までの復習として、全体の曲線的で丸みがある柔らかい印象や、楷書との比較を確かめるさせ、教科書(p. 44)にあるように「初めはゆっくり、心をこめて柔らかく丁寧に」、学習が進むと「速く、美しく」書くことを意識させる。</li> <li>・教科書(p. 44)を使って、指先をそろえて左上に向けて、書き始めるようにさせる。</li> <li>・結びの筆使いに似ていることを理解させ、軸を回さないで書くように指示する。</li> <li>・下から上に書いていくときに、穂先が下を向くことを理解させる。</li> <li>・穂先で立って、次の画に向かうようにはねることがあることを知らせる。</li> <li>・始筆から送筆への動きも滑らかに筆を動かし点画の変化を理解させて書かせる。</li> <li>・横画の終筆ははねて二画めへ、左払いの終筆は三画めへ向かわせる。</li> <li>・三画め右払いを止めに変化させて、次の文字へはねさせる。</li> </ul> |

- 振り返りを行い、次時の予告を聞く。
- 4 点画の連続と形の変化を理解して書く。
- 点画の連続と形の変化について確認する。
  - 「大木」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。
- ★点画の連続と形の変化を理解して書こう。
- 楷書と比べて点画の形が変化している部分、筆脈の連続が表れている部分について考え、自己課題を設定する。
- 
- 「大木」を、練習用紙や半紙に練習して、批正する。
  - 毛筆でまとめ書きをする。
  - 教科書(p. 47)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。
- 5 点画の連続と変化を理解して書く。
- 
- 教科書(p. 46～p. 47)を使い、前時に点画の連続と形の変化を学習したことを想起する。
  - 「栄光」を硬筆を使って試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。
- ★点画の連続と変化を理解して書こう。
- 示範や教科書の考えよう(p. 51)を参照し、点画が連続している部分、楷書と比較して点画が変化している部分について考え、自己課題を設定する。
- 
- 「栄光」を、毛筆で練習用紙や半紙に練習して、批正する。
  - 毛筆でまとめ書きをする。
- 6 点画の連続と変化を理解して、字形を整えて書く。
- 前時に、点画の連続と形の変化について学習したことを想起する。
  - 本時の学習課題をつかむ。
- ★点画の連続と変化を理解して、字形を整えて書こう。
- 前時の作品「栄光」を、示範や教科書の文字(p. 48)と比べ、中心や外形、点画の方向の基準を考え、発表する。

- 【評】点画の連続と変化を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教科書(p. 45)に気付いたことを記入させ、本時の学習が、次時の「大木」に生かされることを知らせる。
  - ・教科書(p. 46～p. 47)を参照させる。教科書(p. 42～p. 43)の比較表を参照させるのもよい。
  - ・楷書と行書の違いを意識させながら硬筆で取り組ませることによって、学習課題への意欲を高めさせる。
- 
- ・点画の形の変化や筆脈の表し方は、以下のとおりである。教科書の文字や示範を見て、気付くように促す。
    - ①点画の変化  
「大」左払いと右払いの始筆に向かうように払わせる。
    - ②筆脈の連続  
「木」横画は縦画に向かうように小さくはねて連続させる。  
縦画から左払いへ向かつてはねさせる。  
左払いは右払いへ向かうように終筆が変化し、右払いの終筆は止めさせる。
- 【評】点画の連続と形の変化を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・「生かそう」(p. 47)の欄を用いて、点画の連続と形の変化を意識させて、硬筆で書かせる巻末の行書表を参考にするとよい。
  - ・本展開例では、この「栄光」を2時間、次の「平和」を1時間で取り組む計画を立案したが、生徒の実態に合わせて、「栄光」を1時間、次の「平和」を2時間で計画するなど、単元内で実態に応じて弾力的に計画したい。
  - ・楷書と行書の筆使いの違いを確認させる。教科書(p. 42～p. 43)の比較表を参照させるのもよい。
- 
- ・水書板等を用い示範して、より具体的につかませたい筆使いは、以下のとおりである。
    - ①点画の連続  
「栄」二、三画めは、点からの連続を、四画めと五画めは縦画を書いて止まり、戻るようにして横画を書く。  
「光」四画めは、横画を書いて、折り返して払う。
    - ②点画の変化  
「栄」八、九画めは、払いを点に変える。
  - ・作品の相互評価や筆使いの相互観察の時間を設け、自他の客観的な批正を行う時間を設けるとよい。
- 【評】点画の連続と変化について書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- 
- ・水書板等を用い示範することで、筆使いについてより具体的につかませたいことは、以下のとおりである。
    - ①文字の中心  
「栄」二、七画めを通る。  
「光」一画めを通る。
    - ②点画の方向  
「光」とりわけ四画めは右に上がる。左払いと曲がりやをゆったり書く。
    - ③外形  
「栄」正方形、「光」三角形
    - ④点画の連続  
「栄」並んだ三つの点画では、二、三画め

- 自己課題を設定する。
  - 「栄光」を練習用紙や半紙を使い、毛筆で練習して、批評する。
  - 毛筆で、まとめ書きをする。
- 教科書(p. 49)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。
- 7 点画の連続と省略を理解して、字形を整えて書く。
- 前時に学習した点画の連続と、点画の変化を想起する。
- 「平和」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。
- ★点画の連続と省略を理解して、字形を整えて書こう。
- 示範や教科書(p. 51)「考えよう」を参照し、点画が連続している部分、省略されている部分について考える。
- 中心や外形、点画の方向の基準も考え、自己課題を設定する。
- 「平和」を毛筆で、練習用紙や半紙に練習して批評する
- 毛筆で、清書する。
- 教科書(p. 51)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。
- 8 これまでに学習してきた行書の特徴を理解して書く。
- これまでに学習してきた行書の特徴を確認する。
  - 本時の学習課題をつかむ。
- ★これまでに学習してきた行書の特徴を振り返ろう。
- 教科書(p. 52)の教材例を見ながら基準を理解して、課題を設定する。
- 硬筆で教材を練習し、基準と比較して自己批評する。
- 9 行の中心や文字の大きさを理解して書く。
- 日常生活や学校生活における、丁寧に字を書く場面を想起する。
  - 本時の学習課題をつかむ。
- ★行の中心や文字の大きさを理解して、行書で年賀状を書こう。
- 年賀状の基本的な形式について確認し、基準の中から自

を連続して書く。

【評】点画の連続と変化を理解し、字形を整えて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・「生かそう」(p. 49)の欄を用いて、点からの連続、横画からの連続を意識させて書かせる

・巻末の行書表を参考にさせるとよい。

・教科書(p. 50～p. 51)を参照させる。

・楷書と行書の筆使いの違いについて、確認をする。

・教科書(p. 42～p. 43)の比較表を参照させるとよい。

・水書板等を用い、筆使いについて示範することで、より具体的につかませたいことは、以下のとおりである。

①点画の連続を理解して書く。  
「平」三、四画め→払いから横画に連続させる。

「和」六、七画め→折れを書き、折り返して横画を書く。

②点画の省略を理解して書く。  
「和」四画め→「のぎへん」の点を省略させる。

左払いを止めて、「つくり」に向けて右上に払う。

・指導の基準は、以下のとおりである。

①文字の中心  
「平」五画めを通る。  
「和」一画め始筆、二画め終筆を通る。

②外形  
「平」正方形、「和」やや横長の長方形

③点画の変化  
「のぎへん」の縦画の止めを「はね」に変化させる。

【評】点画の連続と省略の仕方を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・「生かそう」(p. 51)の欄を用いて、払い、点から横画への連続、点画の省略を意識させて書かせる。

・巻末の行書表を参考にさせるとよい。

・確認したい行書の特徴は、①全体の印象と②点画の特徴(形の変化、連続、省略)として整理する。

・行書の特徴を組み立てに生かしたい基準は、以下のとおりである。

①左右(へん)は、「つくり」に向かって、終筆の止めを「はね」に変化させる。「木へん」の点を省略する。

②左右(つくり)は、払いを止めに変化させる。左払いや横画から連続させる。

③上下・内外(かんむり、あし、にょう)は縦画からの連続、点から連続させる。

・「振り返ろう」(p. 53)に記入させる。

【評】これまでに学習してきた行書の特徴を理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・本単元の教材が、日常生活に根ざした伝統的な書写活動の体験であることを伝える。

・寒中見舞いも選択できるようにする。

・教科書(p. 41)を参考にさせる。基準の中でも

己課題を設定する。

- 課題に適した練習用紙を選択して練習し、批正する。
- 年賀状(寒中見舞い)を書く。

「表書きでの文字の大小」「配列」に注目するように助言する。

- ・表書きを中心に行書で書くように伝える。行書に調和する仮名は、未習の段階であるため発展的な学習とする。

【評】行の中心や文字の大きさを理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

#### 【 備 考 】

生徒は初めて行書を書くことを学習する。したがって、楷書と行書の違いや、行書の特徴などを把握させることから始める必要がある。それらの①曲線化②変化③連続④省略⑤筆順の変化といった行書の特徴の中でも活用度や使用頻度の高い順に、また、楷書に近い平易な行書から、進んだ書き方へといった系統的な学習の流れを意図した構成をとっている。そして、行書は、速書きに適した実用性の高い書体であり、日常書写における活用が期待される。そのため、毛筆で行書の特徴を把握した後、硬筆へと展開して生活に生かしていける構成をとっている。

暮らしの文字を支える人々 教科書(p.54)(適時)

補助教材集 行書「名作」「理想」 教科書(p.142)

## 単元名 8 自分を見つめる 一少年の日の思い出

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 優れた表現に触れることで、多様な語句について理解を深めることができる。  
 (2) 視点や立場を変えて作品を書き換えさせ、材料の用い方や根拠の明確さについて感想や意見を交流することができる。  
 作品の構成や展開、登場人物の心情の移り変わりを読み取ることができる。  
 登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えをもつことができる。  
 (3) 作品に描かれているものの見方や考え方を通して、自分自身について考えようとする。

## 標準的な展開例

10210301\_001

【準備等】国語指導CD, 再生機, 国語辞典

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 本文を通読し、初読の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の流れ・目標を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「少年の日の思い出」を読み、感想を書こう。</li> <li>○全文を通読する。</li> <li>○全文を二つに分ける。</li> <li>○主な登場人物を確認する。</li> <li>○「少年の日の思い出」を一読して、抱いた感想や疑問を書く。</li> <li>○新出漢字を学習し、難解語句を調べる。</li> </ul> <p>2 作品の場面構成を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時に書いた感想を発表する。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「少年の日の思い出」の構成を捉えよう。</li> <li>○作品の構成を読み取る。</li> <li>○作品における前半の役割について考える。</li> </ul> <p>3 ちょう集めに熱中する「僕」の態度を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ちょう集めに熱中する「僕」の様子や「エーミール」の人物像を捉えよう。</li> <li>○後半部分を六つの場面に分ける。</li> <li>○後半部分の場面①(p. 200～p. 201)を読み、ちょう集めに熱中する僕の様子が分かる部分に線を引く、表現上の効果を考える。</li> <li>○後半部分の場面②(p. 201～p. 203)を読み僕から見たエーミールの人柄を端的に表している描写に線を引く。</li> </ul> <p>4 クジャクヤママユに対する「僕」の心情を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★クジャクヤママユに対する僕の気持ちを読み取ろう。</li> <li>○後半部分の場面③(p. 203～p. 205)を読み僕がクジャクヤママユを熱烈に欲しいと思っていたことが分かる部分に線を引く。</li> <li>○盗んでしまった理由について考える。</li> <li>○後半部分の場面④(p. 205 L. 17～p. 206 L. 17)を読み良心に目覚めたときと、壊れたように気付いたときの僕の心情が分かる言葉に線を引く。</li> </ul> | <p>【評】学習のねらいや流れを理解し、目標をもつ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による範読、または国語指導CDを活用する。</li> <li>・読後に、感想を書くことを伝える。</li> <li>・前半が現在、後半が過去であることを押さえる。</li> <li>・前半に登場した「客」と後半の「僕」が同一人物であることを確認する。</li> <li>・10分程度しか時間が取れないので、それに見合う分量でよいことを伝える。</li> <li>・ノートを提出させ次時まで一読し、目標に迫るような感想については、次時の冒頭で紹介するとよい。</li> <li>・国語辞典を活用するとよい。</li> <li>・「作品の展開を捉えよう」(p. 212)を示し、作品の構成を読み取らせる。</li> <li>・「時間(年齢)」「場所」「出来事」に着目させる。</li> <li>・伏線や描写の効果など、表現上の特色に適宜触れるようにしたい。</li> <li>【評】前半部分が果たす役割について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・「時間」「場所」「出来事」に着目させる。</li> <li>・「熱情」という言葉の意味を考えさせ、この熱情が、事件につながることを押さえる。</li> <li>・僕から見たエーミールの人柄を、読み取らせる。</li> <li>【評】僕のエーミールに対する思いを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・本文に即して考えさせたい。</li> <li>・次のようなことを踏まえておきたい。       <ul style="list-style-type: none"> <li>①十歳の時の熱中ぶり</li> <li>②「盗む」という意識はなく、無意識に手が伸びてしまったこと</li> </ul> </li> <li>・「良心に目覚めたとき」と「壊れたように気付いたとき」を、対比できるように板書する。</li> <li>・エーミールへの謝罪の気持ちは表現されていないところにも着目したい。</li> </ul> |

5 「僕」が「エーメール」に分かってほしかったことを考える。

○ 本時の学習課題をつかむ。

★ 「僕」が「エーメール」に分かってほしかったことについて考えよう。

○ 後半部分の場面⑤ (p. 207～p. 210)を読み、僕のエーメールに対する心情について考える。

○ 僕が、エーメールに伝えなかったこと、エーメールに信じてほしかったことは何だったのかを話し合う。

○ 後半部分の場面⑥ (p. 210)を読み、僕が自分のちょうを押しつぶしてしまった理由とその意味について話し合う。

6 立場を変えて、作品を書き換える。

○ 本時の学習課題をつかむ。

★ エーメールや母の立場で作品を書き換えよう。

○ 「別の人物の視点から文章を書き換えよう。」(p. 213)を基に、エーメールまたは母の立場で作品を400字程度で書き換える。

○ 書き換えた文章を読み合い、感想や意見を交換し合う。

○ 登場人物の心情の変化を捉えた学習を生かし、気に入った場面について考えをまとめる。

・ 良心に目覚めた場面における短文の効果においても触れておきたい。

【評】 良心に目覚めたときの僕の心情を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・ 僕から見たエーメールの気持ちを読み取らせる。

・ 主題にも関わってくることで、学級全体で話し合いをして深めるようにしたい。

【評】 僕がエーメールに伝えなかったことについて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・ 「『僕』の心情の変化をまとめよう。」の③ (p. 212)を示し、僕が自分のちょうを押しつぶした理由と意味、僕のものの見方や考え方について話し合わせる。

【評】 僕が自分のちょうを押しつぶした理由について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ 第3時の学習活動で読み取ったエーメール像を意識させる。

・ 第4時の壊れてしまったちょうを見つけたときのエーメールの心情やそのときにとった行動を、できるだけ短い言葉で書かせる。

・ 第3時で読み取った僕のちょう集めに対する熱情を、母はどのような目で見ていたかについて想像させたい。

【評】 作品の設定や人物像・人間関係を踏まえた作品の書き換えを通して、「知識・技能」を評価する。

・ 少人数のグループを編成して、書き換えた文章を読み合わせる。

① 作品の設定や人物像等、作品に書かれていた内容を踏まえて書かれているか。

② この作品で学習した表現方法や既習の表現方法が使われているか。

③ 書き換えることや書き換えた文章を読み合うことを通じて作品の読みは深まったか。

【評】 感想や意見を交流する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

## 【 備 考 】

表現に込められた書き手などの思いやものの見方を理解することは、大事なことである。表現の工夫とは、単なる飾りではない。表現を工夫することによって、いっそう的確に描き出せたり、より効果的に伝わるようになったりした書き手や話し手の思いやものの見方などから、表現効果なども踏まえながら自分の考えをもてるようにさせたい。

また、「少年の日の思い出」は、ものの見方、感じ方、生き方の違いについて、じっくり考えさせたい作品である。これは道徳のC－(11)正義、公正・公平にあたり、これを機会に差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高めたい。

**単元名 8 自分を見つめる ―漢字に親しもう5**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。  
 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、  
 文や文章の中に使うことができる。  
 (3) 積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

**標準的な展開例**

10210302\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| 1 練習問題に取り組む。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★ 漢字を使いこなそう。<br><br>○ 新出漢字の確認をする。<br>○ 練習問題に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時は、小学校6年生で習った漢字を中心に練習問題に取り組んでいくことを伝える。</li> <li>・ 言葉の意味が分からないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</li> <li>・ 「小学校六年生で学習した漢字」(p.255)に合わせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</li> </ul> <b>【評】</b> 練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 |

**【 備 考 】**

表現に込められた書き手などの思いやものの見方を理解することは、大事なことである。表現の工夫とは、単なる飾りではない。表現を工夫することによって、いっそう的確に描き出せたり、より効果的に伝わるようになったりした書き手や話し手の思いやものの見方などから、表現効果なども踏まえながら自分の考えをもてるようにさせたい。

また、「少年の日の思い出」は、ものの見方、感じ方、生き方の違いについて、じっくり考えさせたい作品である。これは道徳のC－(11) 正義、公正・公平にあたり、これを機会に差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高めたい。

## 単元名 8 自分を見つめる 一文法への扉3 単語の性質を見つけよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 「自立語」と「付属語」について、確認を通じ理解することができる。

活用とは何かについ

て、観察を通じ理解することができる。

(3) 単語を分類する方法について、文節内での位置や語形の変化、文の成分との関係に着目して考えようとする。

## 標準的な展開例

10210303\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 単語が「自立語」と「付属語」に分けられること、及びそれぞれの性質について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のリード文を読み、学習内容の確認と本時の目標を確認する。</li> <li>★単語の性質を見つけよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>カードを組み合わせ、文を三つ作る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>カードは何回使ってもよい。</li> <li>必要ならば、単語の形を変えてもよい。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>黒板に書かれた文を、文節で区切る。</li> <li>「自立語・付属語」(p. 247)を読んで、自立語と付属語について理解する。</li> <li>単語の活用について知る。</li> <li>挙げた自立語のカードのうち、「ない」につなげて否定の形を作ることができるものを探す。</li> <li>「活用の有無」(p. 248)を読んで、「活用」を理解する</li> <li>「練習問題」(p. 247～p. 248)に取り組む。</li> </ul> <p>2 品詞の分類や「体言」と「用言」について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1時で用いた文を文節と単語に分ける。</li> <li>分けた単語がそれぞれ自立語か、付属語か、また活用する単語か、活用しない単語かを考える。</li> <li>分けた文節に注目し、その文節が文の中でどのような成分になっているか観察する。</li> <li>「品詞分類表」(p. 249)を見て、単語が品詞に分かれていく基準(道筋)を確認する。</li> <li>品詞には10種類あることを知り、特徴や働きを知る。</li> <li>「体言と用言」(p. 250)を読んで、「体言」と「用言」について理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>カードは、全て1単語ずつになっていることを確認させる。</li> <li>何人かの生徒に発表させる。</li> <li>できるだけ用いる単語のバリエーションが多くなるように、10文程度を選ぶ。</li> <li>ここで取り上げた文は、第3時でも観察の対象として用いることになるので、教師の側で記録しておきたい。</li> <li>「ね」を入れてみると分かることを確認させる。</li> <li>単独で文節を作る単語と、常に、他の単語に付く形で文節を作る単語があることを確認する。</li> <li>薄緑色枠で示した、それぞれの性質について理解する。</li> <li>自立語 <ul style="list-style-type: none"> <li>①文節の始めには、必ず自立語がくる。</li> <li>②一文節には自立語は一つしかない。</li> </ul> </li> <li>付属語 <ul style="list-style-type: none"> <li>①文節では自立語の後に付く。</li> <li>②文節に付属語が複数含まれていることがある。</li> </ul> </li> </ul> <p>【評】自立語と付属語の性質について理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「教科書のカード」(p. 229)のうち、自立語を全て挙げさせる。</li> <li>「ない」以外に「た」や「ば」などを付けて命令するときのように言うかなどを考え、変わり方を見比べさせる。</li> <li>活用の詳細については2年生で学習するのでここでは同じ単語でも後に付く言葉が変わると様々に形が変わる、ということまでを確認できればよい。</li> <li>これまでに学習してきたことを基に、自立語の活用の有無を確認する。</li> <li>付属語に関しても、活用の有無があることを理解させる。</li> </ul> <p>【評】活用の有無について理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文節の区切れ目と、単語の区切れ目はチョークの色を変える。</li> <li>全ての単語について指摘させる必要はないが単語のバリエーションがある程度揃うようにしておきたい。</li> <li>既習の事項の復習も兼ねつつ、表に合わせてじっくり説明していきたい。</li> <li>例示されているものの以外に、どんな単語があるかを考えさせ、発表させることで、授業が活発になると予想される。</li> </ul> <p>【評】体言と用言について理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

表現に込められた書き手などの思いやものの見方を理解することは、大事なことである。表現の工夫とは、単



なる飾りではない。表現を工夫することによって、いっそう的確に描き出せたり、より効果的に伝わるようになったりした書き手や話し手の思いやものの見方などから、表現効果なども踏まえながら自分の考えをもてるようにさせたい。

また、「少年の日の思い出」は、ものの見方、感じ方、生き方の違いについて、じっくり考えさせたい作品である。これは道徳のC－（11）正義，公正・公平にあたり，これを機会に差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高めたい。

## 単元名 8 自分を見つめる ー随筆二編

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 語句や表現技法の効果的な用い方について、理解を深めることができる。  
 (2) 作者の思いを想像しながら読み味わい、自分のものの見方や考え方を広げることができる。  
 (3) 随筆を読んで、内容や表現の仕方について考えたことを交流しようとする。

## 標準的な展開例

10210304\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 作品を読んで、初読の感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作者の書いた他の作品を読み、感想を交流する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 「空」「えんぼう」を読み、心に残った表現について考えよう。</li> <li>○ 作品の範読を聞く。</li> </ul> <p>○ 各自で音読をする。</p> <p>○ 作品の中の好きな言葉や表現を抜き出し、理由を書く。</p> <p>2 言葉や表現に着目して、作者の思いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時に書いた、自分が好きな言葉や表現について、その理由も合わせて発表する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 作品の言葉や表現に着目して作者の思いを想像しよう。</li> <li>○ 作品の表現の特徴について気が付いたことを話し合う。</li> </ul> <p>○ 表現の特徴をもとに、作者の伝えたかったことを考える</p> <p>○ 自分の体験を振り返って伝え合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数編の作品を準備しておき、好きな作品や心に残ったところなどを自由に考えさせる。</li> <li>・ 教師による範読または、国語指導CDを活用する。</li> <li>・ 範読が終わったら、音読するときに気を付けるところを考えさせ、メモを書かせる。</li> <li>・ 「声を届ける」(p.16)を参考にさせる。</li> <li>・ 各自で音読をし、終わったあとに、数名を指名して音読させ、気をつけるとよいところを話し合わせる。</li> <li>・ 情感のある表現に着目させ、語感を磨き語彙を豊かにしていきたい。</li> <li>【評】心に残った表現について理由を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</li> <li>【評】表現や理由を話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 特徴的だと感じられたところに線を引かせる</li> <li>・ 様子を見て、必要であれば着目する点を示してもよい。</li> <li>・ 「空」は、自然の美を感じた経験、「えんぼう」は、言葉についての古い記憶について述べている点を押さえたい。</li> <li>・ 「空」では、「筆者が『風花』ではなく『空』という題名を付けたのはなぜか」について考えさせてもよい。</li> <li>・ 「えんぼう」では、「『えんぼう』という言葉は、幼い『私』にとってどのような意味をもっていたか」について考えさせてもよい。</li> <li>【評】作者の伝えたかったことを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 自分自身の体験を振り返らせ、忘れられない「自然の美しさ」や「言葉」について伝え合わせる。</li> <li>・ 「構成や描写を工夫して書こう」(p.220)の前段階の学習であることを踏まえて指導するとよい。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

表現に込められた書き手などの思いやものの見方を理解することは、大事なことである。表現の工夫とは、単なる飾りではない。表現を工夫することによって、いつそう的確に描き出せたり、より効果的に伝わるようになってきた書き手や話し手の思いやものの見方などから、表現効果なども踏まえながら自分の考えをもてるようにさせたい。

また、「少年の日の思い出」は、ものの見方、感じ方、生き方の違いについて、じっくり考えさせたい作品である。これは道徳のCー(11)正義、公正・公平にあたり、これを機会に差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高めたい。

## 単元名 8 自分を見つめる ー構成や描写を工夫して書こう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 文章を読み返し、分かりやすく印象深いものになっているかを推敲することができる。  
 (2) 自分の伝えたい事柄について、効果的な表現を工夫することができる。  
 (3) 文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとする。

## 標準的な展開例

10210305\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 随筆に取り上げたい体験を選ぶ。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★随筆に取り上げたい体験を思い出し、題材を考えよう。<br/>         ○ 今までの体験を振り返る。</p> <p>○ 思い出した体験を基に、随筆の題材を考える。</p> <p>○ 随筆の題材を選ぶ。</p> <p>2 随筆の構成と、表現の工夫を考える。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★随筆の構成と表現の工夫を考えよう。<br/>         ○ 具体的なエピソードを書き出す。</p> <p>○ 構成を考える。</p> <p>○ 自分の考えや思いを表現する工夫を考える。</p> <p>3 構成や表現を工夫して、随筆を書く。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★構成や表現を工夫して、随筆を書こう。<br/>         ○ 構成や表現を工夫して、600字から800字程度で随筆の下書きをする。</p> <p>4 随筆を読み返し、分かりやすく印象深いものになっているかを考えて、推敲する。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★下書きを読み合い、推敲しよう。<br/>         ○ 前時に書いた文章について推敲する。</p> <p>○ グループで読み合い、感想や意見を交換する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習の見通し」(p. 220)を読み、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・「根拠を示して説明しよう」(p. 138)や「助言を自分の文章に生かそう」(p. 186)で、読み手を意識して文章を書く工夫を考えたことを想起させる。</li> <li>・忘れられない体験や成長を感じた体験、自分にとって意味をもつ体験など、様々な視点で考えさせる。</li> <li>・「発想を広げる」(p. 272)を参考にしてもよい。</li> <li>・「体験から思い出す」(p. 220)や、「テーマから思い出す」(p. 221)を参考にさせるとよい。</li> <li>【評】随筆の題材を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・「知多の友」を使用する。</li> <li>・書き出した中から最も伝えたいことを選ばせる。</li> <li>・次の二つの視点からエピソードを掘り下げていくとよい。<br/>         ①エピソードをより詳しく思い出す(事実)。<br/>         ②エピソードの意味を見つめ直す・見渡す(意味づけ)。</li> <li>・「材料を書き出す」(p. 221)を参考に、「事実」と「意味づけ」に分けて書かせるとよい。</li> <li>・付箋に書き出させるとよい。</li> <li>・導入では「印象的な書きだし」を、体験の説明では「読み手に状況がイメージできる具体的な描写」を意識し、最後に「自分にとっての意味、価値」を書くことを伝える。</li> <li>・「構成を考える」(p. 221)を参考にしながら書く順序を考えさせる。</li> <li>・「知多の友」を使用する。</li> <li>【評】文章の構成を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・「書きだしを工夫する」「印象に残る随筆を書くには」(p. 222)を参考にさせる。</li> <li>・「知多の友」を使用する。</li> <li>・前時の学習を生かして、構成や表現に注意して書かせる。</li> <li>・「知多の友」を使用する。</li> <li>・「随筆の例」(p. 222)を参考にさせる。</li> <li>【評】構成や表現を工夫して書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・「文章の推敲・原稿用紙の使い方」(p. 275)を参考にさせる。</li> <li>【評】分かりやすく印象深い表現になるように推敲する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |

- 推敲で改めた点を直して清書をする。
- 学習を振り返り、考えたことをまとめる。

- ・書き方に工夫のされているところなどに線を引かせる。

- ・「知多の友」を使用する。

【 備 考 】

表現に込められた書き手などの思いやものの見方を理解することは、大事なことである。表現の工夫とは、単なる飾りではない。表現を工夫することによって、いつそう的確に描き出せたり、より効果的に伝わるようになったりした書き手や話し手の思いやものの見方などから、表現効果なども踏まえながら自分の考えをもてるようにさせたい。

また、「少年の日の思い出」は、ものの見方、感じ方、生き方の違いについて、じっくり考えさせたい作品である。これは道徳のC－（11）正義、公正・公平にあたり、これを機会に差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高めたい。

## 単元名 8 自分を見つめる 一言葉3 さまざまな表現技法

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 様々な表現技法を理解し、その効果を読み味わい、また、生活の中で表現する力を養うことができる。  
(3) 様々な表現技法について関心を持ち、具体的な例を通じて読み味わう力や表現力を付けようとする。

## 標準的な展開例

10210306\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 様々な表現技法の特徴とその効果を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の目標を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>★表現技法の種類や特徴を知ろう。</li> <li>○「二つの文」(p. 224)を題材に、表現の工夫について考え、発表する。</li> <li>○表現の工夫の意味を確認する。</li> <li>○教科書に示された表現技法を確認する。</li> <li>○「言葉の並べ方の工夫」(p. 224)を理解する。</li> <li>○「比喻」(p. 225)を理解する。</li> <li>○様々な表現の工夫を復習する。</li> <li>○次時に向けて、表現技法が使われているものを探してこる。</li> </ul> <p>2 様々な表現技法の工夫を自分の表現に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な表現技法を復習する。</li> <li>○自分が見つけた表現技法を発表する。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★さまざまな表現技法を、自分の表現に生かそう。</li> <li>○「生活に生かす」(p. 226)を読む。</li> <li>○比喻を用いて、身近な人物を紹介する。</li> <li>○人物紹介文を互いに読み合い感想を書く。</li> <li>○学習のまとめをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プリント等を活用するとよい。</li> <li>・同じ状況を述べた文であることを確認し、文の表現や印象の違いについて考えさせる。</li> <li>・表現の工夫の意味や効果、最終的な学習のねらいである「自らの表現力を高め、生かしていくこと」を確認する。</li> <li>・大きく分類すると「言葉の並べ方の工夫」と「比喻(たとえ)」があることを確認する。</li> <li>・取り上げられている表現技法をカードにして黒板に示すと、より印象に残る。</li> </ul> <p>【評】様々な表現技法を理解する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩や短歌、文学作品だけでなく、日常生活の中で使われている表現技法を探させる。</li> <li>・前時に取り上げた表現技法について、その特徴や効果を中心に復習する。</li> <li>・全員に発表させることで、他の作品例や身近な例を共有できる機会としたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例を通して、自分なりの比喻を考えることの大切さを確認し、次の活動につなげる。</li> <li>・「身近な人物を紹介する」という題材で、比喻を自分の表現の工夫に活用させる。</li> </ul> <p>【評】人物の紹介を比喻を用いて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに人物紹介文を読み合うことで、仲間の文章から表現の工夫を学ばせる。</li> <li>・詩や短歌、文学作品などを読んで理解する際に表現技法を意識することに加え、自分の表現の工夫にも、積極的に生かすように指導する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

表現に込められた書き手などの思いやものの見方を理解することは、大事なことである。表現の工夫とは、単なる飾りではない。表現を工夫することによって、いつそう的確に描き出せたり、より効果的に伝わるようになったりした書き手や話し手の思いやものの見方などから、表現効果なども踏まえながら自分の考えをもてるようにさせたい。

また、「少年の日の思い出」は、ものの見方、感じ方、生き方の違いについて、じっくり考えさせたい作品である。これは道徳のC- (11) 正義、公正・公平にあたり、これを機会に差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高めたい。

単元名 8 自分を見つめる ―漢字3 漢字の成り立ち 漢字に親しもう6

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 漢字の成り立ちについて説明を聞き、その成り立ちや意味、読み方を理解することができる。  
(3) 漢字の成り立ちに関心を持ち、漢和辞典などで調べようとする。

標準的な展開例

10210307\_001

【準備等】漢和辞典

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| <p>1 漢字の成り立ちについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「山」という漢字の成り立ちを考える。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★漢字の成り立ちを知ろう。</li> <li>○「山」という漢字の成り立ちを知る。</li> </ul> <p>○4種の漢字の分類を理解する。</p> <p>○「練習問題」「漢字に親しもう6」(p. 228～p. 229)に取り組む。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙で提示するとよい。</li> <li>・表意文字と表音文字との違いについて説明し漢字の特徴やよさを理解させる。</li> <li>・山の形をかたどって作られたことを伝える。</li> <li>・漢字の成り立ちには、「象形」「指事」「会意」「形声」の4種があることを押さえる。</li> <li>・国字についても触れる。</li> <li>【評】漢字の成り立ちを理解する活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・漢和辞典を活用する。</li> <li>・音符と意符について説明する。</li> <li>【評】漢字の成り立ちや意味、読み方を知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |

【備 考】

表現に込められた書き手などの思いやものの見方を理解することは、大事なことである。表現の工夫とは、単なる飾りではない。表現を工夫することによって、いつそう的確に描き出せたり、より効果的に伝わるようになったりした書き手や話し手の思いやものの見方などから、表現効果なども踏まえながら自分の考えをもてるようにさせたい。

また、「少年の日の思い出」は、ものの見方、感じ方、生き方の違いについて、じっくり考えさせたい作品である。これは道徳のC－(11)正義、公正・公平にあたり、これを機会に差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高めたい。

## 単元名 8 自分を見つめる 一年間の学びを振り返ろう

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 収集した情報を整理し、キャッチコピーや図表などを効果的に用いて、分かりやすくまとめることができる。  
話し手の意図を考えながら、問題意識をもって発表を聞くことができる。  
(2) 話の構成を工夫し、聞き手の反応に注意しながら話すことができる。  
フリップで使う語彙について考え、ふさわしい語句を選ぶことができる。  
(3) 1年間の国語の学びを振り返り、意欲的にフリップを使って発表しようとする。

## 標準的な展開例

10210308\_001

【準備等】国語指導CD、再生機、ポスター用の紙、マジック、図表

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 1年間の国語の学習の中で印象に残った作品を一つ選ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を読み、学習の見通しをもつ。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★発表会について知り、発表する題材を見つけよう。</li> <li>一年間の学習を振り返り、印象に残ったことを思い出す</li> </ul> <p>2 選んだ作品を基にグループを作り、発表内容を決め、役割分担をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★グループで発表内容を決め、材料を集めよう。</li> <li>グループで選んだ作品について分析する。</li> </ul> <p>○材料の集め方について考え、役割を決める。</p> <p>3 集めた情報を整理して、フリップに分かりやすくまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★わかりやすく魅力的なフリップを作ろう。</li> <li>「フリップの例」(p. 232～p. 233)を参考に、わかりやすく魅力的なフリップの作り方を知る。</li> </ul> <p>○話の構成を考え、フリップを作る。</p> <p>4 発表会の流れを確認し、事前準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★発表会に向けて準備をしよう。</li> <li>発表する順番を決める。</li> <li>事前準備の段取りを確認する。</li> </ul> <p>○グループごとに発表の流れを確認し、分担を決め、発表メモを作る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「知多の友」を使用する。</li> <li>「観点を決め、一年間の学習を振り返る」(p. 230)を読み、教科書やノートを読み返すなどして、学んだ作品の中から一つ選ばせる。</li> <li>【評】一年間の学習を振り返り、発表の題材を選ぶ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>その作品が印象に残っている理由を話し合わせる。</li> <li>観点を立てて分析させる。</li> <li>①人物設定</li> <li>②場面設定</li> <li>③心情や情景</li> <li>④展開</li> <li>⑤題名 など</li> <li>「知多の友」を使用する。</li> <li>グループ内で材料の集め方や整理の仕方を考えさせ、役割を分担させる。</li> <li>次時まで、アンケートやインタビューなどをして材料を準備させておく。</li> <li>【評】材料の集め方について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>どんな工夫をすれば見る人の興味を引き、分かりやすいフリップになるかを考えさせる。</li> <li>【評】集めた材料を使って、フリップを書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>何をどのような順序で話すか、構成を考えさせる。</li> <li>画用紙を用意しておくといよい。</li> <li>「構成を考える」(p. 36)の説明の仕方を参考にするとよい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとで役割分担させる。</li> <li>発表の流れについては、どのタイミングでフリップを提示するなど、時間配分を考えさせる。</li> <li>各自で発表メモを作り、聞き手の反応を見ながら話せるように練習させる。</li> <li>予想される質問について、答えを準備しておく。</li> <li>「発表する」(p. 232)を参考にさせる。</li> <li>【評】発表会の準備を通して、「主体的に学習</li> </ul> |

5. 工夫して分かりやすい発表を行い、問題意識をもって発表を聞く。  
○本時の学習課題をつかむ。

○発表会を行う。

に取り組む態度」を評価する。

- ・発表会の流れを再度確認する。
  - ・これまでの学習経験を踏まえて、発表のための話し方、視線、図の示し方など、聞き手に分かりやすい発表を心がけさせる。
  - ・聞き手は発表の要点や疑問や感想など、メモをとらせる。
  - ・発表のテーマや内容、ポスターのまとめ方、発表の仕方について、気付いたことを書き留めておくよう指示する。
- 【評】聞き手を意識した発表や問題意識をもって聞く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・よかった点や改善点、気付いた点などを考えさせる。
  - ・グループごとに、簡潔に発表させ、感想も聞きながら、発表会のまとめを行う。
  - ・「つなぐ」(p.231)を基に学習を振り返らせる。
- 【評】言葉についてどんな学びを広げられたかをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

また、「少年の日の思い出」は、ものの見方、感じ方、生き方の違いについて、じっくり考えさせたい作品である。これは道徳のC- (11) 正義、公正・公平にあたり、これを機会に差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高めたい。



## 単元名 8 自分を見つめる ーさくらのはなびら

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 表現技法の種類と効果を理解して、詩を読むことができる。  
 (2) 詩の解釈を通して理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。  
 (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、考えたことを伝え合おうとする。

## 標準的な展開例

10210309\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| <p>1 表現技法を確認しながら、作者の思いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 表現のしかたに着目して、作者の思いを考えよう。</li> <li>○ 詩を読み、印象に残った表現を発表する。</li> </ul> <p>○ 三つの表現の意味を考える。</p> <p>○ 作者について話し合う。</p> <p>○ 学習を振り返る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 詩の中で印象に残った言葉や表現を抜き出して、理由とともに発表させる。</li> <li>・ 平易な言葉で書かれた短い詩であるため、言葉が素通りして、印象に残らない生徒もいると考えられる。その場合、あまり時間をかけずに次の活動へと授業を展開する。</li> <li>・ 以下の三つの表現について、意味を考えさせる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① さくらの はなびらが じめんに たどりついた</li> <li>② いま おわったのだ そして はじまったのだ</li> <li>③ かけがえのない ひとつの ことが</li> </ul> </li> <li>・ 「黄色の吹き出し」(p.236)の言葉に着目させて、理解を促すとよい。また、表現技法について確認するとよい。</li> <li>【評】 三つの表現に着目し、詩の解釈をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 読み深めたことを基に作者の思いを想像し、考えたことを話し合わせる。</li> <li>【評】 読み深めた内容を話し合い、作者について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

表現に込められた書き手などの思いやものの見方を理解することは、大事なことである。表現の工夫とは、単なる飾りではない。表現を工夫することによって、いつそう的確に描き出せたり、より効果的に伝わるようになってきた書き手や話し手の思いやものの見方などから、表現効果なども踏まえながら自分の考えをもてるようにさせたい。

また、「少年の日の思い出」は、ものの見方、感じ方、生き方の違いについて、じっくり考えさせたい作品である。これは道徳のCー(11)正義、公正・公平にあたり、これを機会に差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高めたい。

## 単元名 (書写)書き初めを書く

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 楷書と仮名の筆使いや字形、文字の大きさなどを理解することができる。  
(3) 自己の課題に向けて、積極的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10210310\_001

【教材名】「新たな決意」「世界遺産」

(P. 129～P. 132)

【準備等】書き初め用紙

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 字形や、漢字と仮名の文字の大きさの違いに気を付けて書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校での書き初めの体験を想起し、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★字形や漢字と仮名の文字の大きさに気を付けて書こう。</li> <li>○「新たな決意」の筆使いを知り、半紙3枚に試し書きをする。</li> <li>○基準を確認し、基準と比較して批正し、自己課題を設定する。</li> <li>○「新たな決意」を半紙に練習する。</li> </ul> <p>2 用紙に合わせて、文字の大小や行の中心に気を付けて書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習を確認する。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★文字の大小や行の中心に気を付けて書こう。</li> <li>○「新たな決意」を書き初め用紙に試し書きをする。</li> <li>○基準を確認し、基準と比較して批正し、自己課題を設定する。</li> <li>○文字の大きさ、中心を意識して練習する。</li> <li>○「新たな決意」を書き初め用紙にまとめ書きをする。</li> </ul> <p>3 本文と名前、楷書と仮名を調和よく、配列に気を付けて書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習を確認する。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★楷書と仮名、名前を調和よく配列させて書こう。</li> <li>○前時に書いた「新たな決意」に、名前を記入する。</li> <li>○示範や基準と比較して批正し、自己課題を設定する。</li> <li>○「新たな決意」を書き初め用紙に練習、まとめ書きをする。</li> <li>○学習のまとめとして、振り返りを行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材は生徒の実態や興味に合わせて、選択したり、展開を工夫したりする。</li> <li>・字形の整え方や、漢字は仮名より大きめに書くことを確認する。</li> <li>・筆順や文字の組み立て方、大きさを意識させる。</li> <li>・時間によっては、相互批正を加えてもよい。</li> <li>【評】字形や、漢字と仮名の文字の大きさの違いに気を付けて書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・前時は、字形の整え方や文字の大きさ等を学習したことを確認する。</li> <li>・書き初め用紙を使用して書かせる。</li> <li>・書き初め用紙に書く姿勢については、床に座って書く、立って書く場合等、環境や実態に合わせて正しい姿勢を指導する。</li> <li>・基準は、以下のとおりである。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①仮名は漢字より小さめに書く。</li> <li>②行の中心をそろえる。</li> </ul> </li> <li>・相互批正を取り入れることもできる。</li> <li>・用紙を折り、中心を確認するようにしてもよい。</li> <li>・試し書きと比べて学習の成果を確認させる。</li> <li>【評】用紙に合わせて文字の大小や行の中心を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・文字の大きさや行の中心に気を付けて書いたことを確認する。</li> <li>・小筆の持ち方、かまえ方について、提腕法、枕腕法も含めて教科書(p. 131)か(p. 7)で確認させる。</li> <li>・学年、氏名等の記入内容を指示する。</li> <li>・基準は、以下のとおりである。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①行の中心をそろえる。</li> <li>②用紙に対する文字の大きさと配列に気を付ける。</li> <li>③本文と名前との調和を工夫する。</li> </ul> </li> <li>【評】本文と名前、楷書と仮名を調和よく、配列に気をつけて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・できれば掲示や鑑賞会を行い、学習の成果を確かめる相互評価の機会を設けたい。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

伝統的な年中行事である書き初めの学習は、日本の伝統や文化、特に文字文化について改めて関心・理解を深める機会としたい。また、学習時期を新年の志をもつ3学期当初とし、普段の学習とは異なる形や大きさの用紙を用いることにより、いっそう意欲的に学習に臨むことが期待できる。そうしたことを踏まえて、日常の書写活動に生かせるようにさせたい。

単元名 見えないだけ

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由とともにまとめることができる。  
 (3) 進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとする。

## 標準的な展開例

11210101\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど   |
|---|---|
| <p>1 詩のイメージが伝わる表現を見つけ、それを意識しながら音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「見えないだけ」という言葉から、想像することを発表し合う。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★詩の情景が分かるように朗読をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○詩「見えないだけ」を通読し、好きな言葉や表現を、その理由とともに発表し合う。</li> </ul> <p>○発表をもとに、詩のイメージと気に入った表現をノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○詩の特徴を生かし、朗読する。</li> </ul> <p>○学習の振り返りをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比喩表現や修飾語、その効果を説明する。</li> </ul> <p>【評】気に入った言葉や表現を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表で共感できたものを参考にしてノートや学習プリントに書かせる。</li> <li>・ ペアや小グループ、全体など、学習形態の工夫を図るようにする。</li> <li>・ ノートを読み返し、書かれている言葉を根拠として詩のイメージを読み取ることを確認させる。</li> </ul> <p>第2学年では、短歌の鑑賞や意見文を書く学習があるが、いずれも根拠をもって感想や意見を述べることをしっかり習慣化させたい。</p> |

## 【 備 考 】

第1学年までに学習してきたことを振り返り、第2学年の学習に新たな気持ちで臨むことができるような作品が取り上げられている。

ここでは、抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにさせたい。

## 単元名 1 広がる学びへーアイスプラネット

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 登場人物の心情や考え方が表れた語句に注意して、作品を読むことができる。  
 (2) 「ぐうちゃん」の言動から人物像を捉え、他の登場人物との関係を人物相関図にまとめることができる。  
 (3) 積極的に登場人物の設定のしかたなどを捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとする。

## 標準的な展開例

11210102\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 「アイスプラネット」を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「アイスプラネット」とは、何か想像させる。</li> <li>○p.14「目標」やp.24「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★作品を読んで、あらすじを捉えよう。</li> <li>○全文を通読する。</li> <li>○注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 「ぐうちゃん」について整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「ぐうちゃん」の人物像について整理しよう。</li> <li>○本文を黙読する。</li> <li>○「ぐうちゃん」の人物像について確認する。</li> <li>○「ぐうちゃん」に対する「僕」「母」「父」それぞれの思いが分かる言葉や表現を挙げ、それらに込められた思いを確認する。</li> <li>○次時の学習について聞く。</li> </ul> <p>3 「ぐうちゃん」に対する「僕」の思いを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ぐうちゃんの人物像について振り返る。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「ぐうちゃん」に対する「僕」の思いを読み取ろう。</li> <li>○本文を黙読する。</li> <li>○「僕」と「ぐうちゃん」の関係がどのように変化したのか考える。</li> <li>○「僕」が「ぐうちゃん」の部屋に行けなかった理由を考える。</li> <li>○手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを想像する。</li> <li>○本時の振り返りをする。</li> </ul> <p>4 「ぐうちゃん」に対する自分の思いをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時までの活動を振り返り、本時は「ぐうちゃん」に対する自分の考えをまとめることを知る。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「ぐうちゃん」に対する自分の考えをまとめよう。</li> <li>○「ぐうちゃん」の生き方について、自分の考えをまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の口絵で、アマゾンの様子、アイスプラネットなどを見せ、イメージを膨らませておくといよい。</li> <li>・教師の範読か、国語指導CDを利用する。</li> <li>・「ぐうちゃん」の人物像が読み取れる表現に印を付けながら黙読させる。</li> <li>・「ぐうちゃん」に対する「僕」の思いが、「大好き」から「好きではない」まで、揺れ動いていることに着目させる。</li> <li>【評】登場人物の思いを読み取る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・次は、「ぐうちゃん」に対する「僕」の思いを読み取っていくことを告げ、次の学習の見通しをもたせる。</li> <li>・前時にまとめたものを読み直させる。</li> <li>・本時の目標を意識し、「僕」と「ぐうちゃん」の関係が読み取れる表現に印を付けながら黙読するように促す。ペアや小グループで確認した後、全体で共有させる。</li> <li>・まとまりごとに、「僕」が「ぐうちゃん」にどんな思いを抱いているかを、「ほら話」にまつわる表現に着目させながら捉えていく。</li> <li>・全体での発表の前に、学級の実態に合わせてペアや小グループで発表したり、相互評価したりするのもよい。</li> <li>・手紙の文面から「ぐうちゃん」の考えや思いを踏まえさせる。</li> <li>【評】手紙をもらった「僕」の気持ちを想像する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・「ぐうちゃん」に対する「僕」の思いの変化について分かったことや思ったことをノートにまとめさせる。</li> <li>・次時は、自分が「ぐうちゃん」の生き方をどう考えるかまとめることを告げ、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・グループで交流することを告げ、端的に自分の考えと理由をまとめるように指示する。200字程度を目安にまとめられるように用紙を準備しておく。</li> <li>・「ぐうちゃん」の生き方について、単に感想</li> </ul> |

- 考えをグループで交流する。
- 学習を振り返る。

を述べて終わらないよう、適宜、次のような投げかけをして、生徒が自分の考えを深められるようにしたい。

- ① 自分の経験の中から具体例を挙げる。
- ② 登場人物の「ぐうちゃん」への思いを比較する。
- ③ 魅力を感じる点と違和感を感じる点を両方挙げる。

- 【評】自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ ペアや小グループで順番に自分の考えを述べさせる。
  - ・ p. 25「振り返る」を使って、登場人物の設定の捉え方について、分かったことを挙げる。

#### 【 備 考 】

第1学年までに学習してきたことを振り返り、第2学年の学習に新たな気持ちで臨むことができるような作品が取り上げられている。ここでは、親しみやすい詩や物語、古典などの文章を読んだり、職業に関する情報を集めたりして、これまでに学習したことを振り返り、今後の学習の見通しをもたせたい。

言語活動としては、詩や物語、古典などの文章に触れることにより、言葉の豊かさに気付かせ、その場に合った表現ができるようにしていきたい。このことは、国語学習だけにとどまらず、日常生活の中でもその場に合った豊かな表現活動ができる礎になるとよい。

また、「アイスプラネット」では、ぐうちゃんの僕に対する思いはこの年代の子どもたちにとっても望まれることであり、自分のこれまでの生き方・考え方を振り返らせるよい機会となることだろう。これは、道徳のB－(9) 相互理解・寛容にあたる。

## 単元名 1 広がる学びへ ―問いを立てながら聞く

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 提案された意見とそれを裏付けるための根拠を区別して捉えている。  
 (2) 提案内容を理解し、その要点を的確にメモを取ることができる。  
 意見と根拠の結び付きに注意して聞き、疑問点や確認したい点を明確にすることができる。  
 (3) 進んで論理の展開などに注意して聞き、今までの学習を生かして疑問点や確認したい点を考えようとする。

## 標準的な展開例

11210103\_001

【準備等】国語指導CD, 再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 話の要点や順序を整理しながらメモを取る。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★話の要点や順序を整理しながらメモを取ろう。</p> <p>○ 日常生活の中でメモを取るとき、情報を的確に聞き取るために工夫していることを考える。</p> <p>○ 「友達の提案」を聞き、メモを取る。</p> <p>○ 話の内容を確認する。</p> <p>○ 聞くときやメモを取るときの上達のポイントを知る。</p> <p>○ もう一度「友達の提案」を聞き、メモを取る。</p> <p>○ 聞き取ったことを基に、設定した相手に対してメモの内容を見ながら説明する。</p> | <p>・ 第1学年時に学んだ、情報を的確に聞き取るためのポイントを想起させるとよい。<br/>       [聞くときのポイント]<br/>       ① どのような情報が必要か考える。<br/>       ② 聞き取れなかったり、分かりにくかったりしたところは、質問して確認する。</p> <p>・ [メモを取るときポイント]<br/>       ① 必要な情報を簡潔に、早く書く。<br/>       ② キーワードだけでもよい。<br/>       ③ 箇条書き、番号や記号、線を引く等、工夫して整理する。</p> <p>・ 教師が読むか、国語指導CD「話すこと・聞くこと」を使用して聞かせ、メモを取らせる。その後、周りの人と書き留めた内容を確認させる。</p> <p>・ どんなことを提案していたか、なぜ提案しようと思ったのか根拠を確認する。</p> <p>・ 「上達のポイント」(p.26)を読み、相手の話を聞くときのポイントを確認する。</p> <p>・ 小見出しや番号を付けたり、図や矢印を活用したりすることを意識させる。</p> <p>【評】上達のポイントを生かして聞き取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・ 設定を決め、近くの生徒とペアになって説明させる。説明を受けた生徒は、確認したいことを質問する。</p> |

## 【備 考】

第1学年までに学習してきたことを振り返り、第2学年の学習に新たな気持ちで臨むことができるような作品が取り上げられている。ここでは、親しみやすい詩や物語、古典などの文章を読んだり、職業に関する情報を集めたりして、これまで学習したことを振り返り、今後の学習の見通しをもたせたい。

言語活動としては、詩や物語、古典などの文章に触れることにより、言葉の豊かさに気付かせ、その場に合った表現ができるようにしていきたい。このことは、国語学習だけにとどまらず、日常生活の中でもその場に合った豊かな表現活動ができる礎になるとよい。

また、「アイスプラネット」では、ぐうちゃんの僕に対する思いはこの年代の子どもたちにとっても望まれることであり、自分のこれまでの生き方・考え方を振り返らせるよい機会となることだろう。これは、道徳のB－(9) 相互理解・寛容にあたる。

## 単元名 1 広がる学びへ ―枕草子

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 現代語訳や語注を手掛かりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えることができる。
- (2) 四季に対する作者の考えと自分の考えとを比較し、感じたことをまとめることができる。
- 生 活を振り返って、自分ならではの季節感を表すものを見つけることができる。
- (3) 進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとする。

## 標準的な展開例

11210104\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 「枕草子」を朗読し、古文を読み慣れる。</p> <p>○ 平安時代の宮廷の様子、清少納言について知る。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★「枕草子」を朗読し、古文に読み慣れよう。</p> <p>○ 歴史的仮名遣いや古語に印を付けながら、p. 28～p. 29の範読を聞く。</p> <p>○ 朗読の練習をする。</p> <p>○ 作者がそれぞれの季節にふさわしい風物として挙げているものを確認する。</p> <p>2 作者のものの見方や感じ方を読み取る。</p> <p>○ 「枕草子」を音読する。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★清少納言のものの見方や感じ方を読み取ろう。</p> <p>○ 冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのか整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。</p> <p>○ p. 30の章段を読み、作者が「何」の「どんな様子」を「どう感じている」のかについて整理する。</p> <p>3 自分流「枕草子」を書き、学習を振り返る。</p> <p>○ 「枕草子」を音読する。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★自分流「枕草子」を書こう。</p> <p>○ 「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く。</p> <p>○ 書き上げたものを読み直し、誤字脱字・文のねじれ等の推敲をする。</p> <p>○ 感想を交流する。互いに書き上げた自分流「枕草子」を読み合い、相互評価をする。</p> <p>○ 学習を振り返る。</p> | <p>・ 隣同士、グループ、学級というように、いろいろな方法で読み合い、古文の調子に慣れさせる。</p> <p>・ 中宮定子との関わりや、紫式部との関係について簡単に説明する。</p> <p>【評】古文に興味をもち、そのリズムを楽しみながら音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 個人、隣同士、グループ等、形態を変えてすらすら読めるように練習させる。</p> <p>・ 季節感あふれる言葉の使い方や、清少納言独自の美意識に触れさせたい。</p> <p>・ 適宜現代語訳を参考にしながら進めたい。</p> <p>・ 事前に自分の好む四季の趣を考えさせておくとうい。</p> <p>【評】原文の表現から、清少納言がよいとする情景を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 「山ぎは」と「山の端」の違いや「をかし」と「あはれなり」などの古典独特の言葉について、解説を加える。</p> <p>・ コラム「枕草子」(p. 31)を参考にしながら枕草子の特徴を捉え、「徒然草」の学習と関連させてもよい。</p> <p>・ それぞれの季節で自分が好きな時間帯や食べ物、行事などを取り上げさせる。</p> <p>【評】自分流の枕草子を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 「春は…。夏は…。」の書き出しを基本とさせる。</p> <p>・ よかった点を付箋に書いて相手に渡し、もらった付箋はノートに貼って保管させる。</p> <p>・ グループで、互いに書き上げた自分流「枕草子」を読み合い、相互評価をする。</p> <p>・ 作者のものの見方や考え方について、印象に残っているものを、理由と共に挙げさせる。</p> |

## 【 備 考 】

第1学年までに学習してきたことを振り返り、第2学年の学習に新たな気持ちで臨むことができるような作品が取り上げられている。ここでは、親しみやすい詩や物語、古典などの文章を読んだり、職業に関する情報を集めたりして、これまでに学習したことを振り返り、今後の学習の見通しをもたせたい。

言語活動としては、詩や物語、古典などの文章に触れることにより、言葉の豊かさに気付かせ、その場に合った表現ができるようにしていきたい。このことは、国語学習だけにとどまらず、日常生活の中でもその場に合った豊かな表現活動ができる礎になるとよい。

また、「アイスプラネット」では、ぐうちゃんの僕に対する思いはこの年代の子どもたちにとっても望まれることであり、自分のこれまでの生き方・考え方を振り返らせるよい機会となることだろう。これは、道徳のB－(9) 相互理解・寛容にあたる。

「季節のしおり 春・夏・秋・冬」を参考にさせるとよい。

## 単元名 1 広がる学びへ ―情報整理のレッスン 思考の視覚化

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 問題1～3に取り組み、情報どうしの関係を図で表すことができる。  
 (3) 学習課題に沿って、積極的に情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使おうとする。

## 標準的な展開例

11210105\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| 1 教材文を読み、情報を整理し、視覚的に表す方法を理解する。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★情報を整理し、視覚的に表す方法を知ろう。<br>○ 教材文を読み、情報を整理し、視覚的に表す方法を理解する。<br><br>○ 問題1～3に取り組む。<br><br>○ 学習を振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「観点」、「階層」、「軸」などの用語を理解させ、今後の学習に生かせるようにしておくことよい。</li> <li>・生徒は文章で書いてしまうことが多いため、キーワードや短い表現を使うように促す。視覚的に分かりやすくなるように、付箋や色ペンなどを準備して使わせてもよい。</li> <li>・情報を書き出して整理させ、関係を図で表す4つの方法についてポイントを確認させる。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

第1学年までに学習してきたことを振り返り、2学年の学習に新たな気持ちで臨むことができるような作品が取り上げられている。ここでは、親しみやすい詩や物語、古典などの文章を読んだり、職業に関する情報を集めたりして、これまで学習したことを振り返り、今後の学習の見通しをもたせたい。

言語活動としては、詩や物語、古典などの文章に触れることにより、言葉の豊かさに気付かせ、その場に合った表現ができるようにしていきたい。このことは、国語学習だけにとどまらず、日常生活の中でもその場に合った豊かな表現活動ができる礎になるとよい。

また、「アイスプラネット」では、ぐうちゃんの僕に対する思いはこの年代の子どもたちにとっても望まれることであり、自分のこれまでの生き方・考え方を振り返らせるよい機会となることだろう。これは、道徳のBー(9) 相互理解・寛容にあたる。



## 単元名 1 広がる学びへー多様な方法で情報を集めよう

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 集めた情報を表や図にまとめ、整理することができる。  
 (2) 調べてみたい職業を決め、知りたいことに適した方法を考えて、情報を収集することができる。  
 収集した情報を分類・整理し、自分の目的に合うものを取捨選択することができる。  
 (3) 粘り強く多様な方法で集めた材料を整理し、学習の見通しをもって職業ガイドを作ろうとする

## 標準的な展開例

11210106\_001

【準備等】知多の友、清書用用紙

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 調べる職業を決め、情報を集める。<br/>         ○学習の目標を知り、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★紹介する職業を決め、情報を集めよう。<br/>         ○自分が興味のある職業を考え、知りたい職業や調べてみたい職業を決める。<br/>         ○選んだ職業の知りたい項目や内容を挙げ、それらに適した調べ方を考えて、多様な方法で情報を集める。</p> <p>○次時は、集めた情報を分類・整理することを確認する。</p> <p>2 集めた情報を分類・整理する。<br/>         ○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★集めた情報を分類・整理しよう。<br/>         ○複数の情報源から集めた情報を、図や記号、表などを用いて分類・整理する。</p> <p>○目的に合った情報を精査し、取捨選択する。</p> <p>○次時は、紙面構成を考えることを確認する。</p> <p>3 紙面構成を考える。<br/>         ○本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★紙面構成を考えよう。<br/>         ○分かりやすい紙面になるように、見出しや文章、図・表・グラフ、写真などの配置を考えて紙面を構成する。</p> <p>○次時は、下書きをし、紙面を作ることを知る。</p> <p>4 下書きをし、紙面を作る。<br/>         ○本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★下書きをし、紙面を作ろう。<br/>         ○見出しを付け、簡潔な文章を心掛けて書く。<br/>         ○下書きを推敲する。</p> <p>○清書する。</p> <p>○次時は、作品を読み合うことを知る。</p> <p>5 完成した作品を読み合い、感想を伝え合う。<br/>         ○本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★完成した作品を読み合い、感想を伝え合おう。<br/>         ○作品を読み合う。</p> <p>○感想を伝え合う。<br/>         ○学習を振り返り、自己評価をする。</p> | <p>・目標、学習の見通しをもとう (p. 34) または知多の友 (p. 4) を参考に、多様な方法で広く集めた情報を整理してまとめる学習であることを確認して、学習全体の流れをつかませる。</p> <p>・知多の友に記入させる。</p> <p>・図書館や資料館、インターネット、インタビューなど、多様な情報収集の方法を考えさせる。</p> <p>・複数の情報源で調べる。出典を明らかにするなど、既習事項を想起させる。<br/>         【評】情報を収集する方法を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・学校以外で入手する情報を計画的に集めておくことを伝える。</p> <p>・知多の友を使用する。<br/>         ・図書館を活用し、必要な資料を収集する。</p> <p>・「②情報を分類・整理する」(p. 35)を読み、内容や項目ごとに分類・整理させ、知多の友にまとめさせる。<br/>         【評】紹介する事柄についての情報を収集する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友を使用する。</p> <p>・「職業ガイドの例」(p. 36)、紙面構成について<br/>         ・「紙面作成のポイント」(p. 37)を参考にして考えさせる。<br/>         【評】効果的な紙面構成を考えて書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・知多の友を使用する。</p> <p>・読み手の興味や、どの程度の情報をもっているかなどを考え、まとめ方を工夫させる。<br/>         ・収集した情報やインターネット情報の出典を明記させる。<br/>         【評】文章を推敲する活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>         【評】読み手を意識し、文章を清書する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・小グループで作品を回して読ませ、「知多の友」に友達の評価を書かせておく。</p> <p>・知多の友を活用して振り返らせる。</p> |

## 【備 考】

第1学年までに学習してきたことを振り返り、第2学年の学習に新たな気持ちで臨むことができるような作品が

取り上げられている。ここでは、親しみやすい詩や物語、古典などの文章を読んだり、職業に関する情報を集めたりして、これまで学習したことを振り返り、今後の学習の見通しをもたせたい。

言語活動としては、詩や物語、古典などの文章に触れることにより、言葉の豊かさに気付かせ、その場に合った表現ができるようにしていきたい。このことは、国語学習だけにとどまらず、日常生活の中でもその場に合った豊かな表現活動ができる礎になるとよい。

また、「アイスプラネット」では、ぐうちゃんの僕に対する思いはこの年代の子どもたちにとっても望まれることであり、自分のこれまでの生き方・考え方を振り返らせるよい機会となることだろう。これは、道徳のB-

(9) 相互理解・寛容にあたる。

「知多の友」を使用する。

単元名 1 広がる学びへ ―漢字1 熟語の構成 漢字に親しもう1

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 熟語の構成を意識しながら、漢字を読んだり書いたりすることができる。  
(3) 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

### 標準的な展開例

11210107\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 導入の例を基に、熟語の構成について知り、練習問題に取り組む。</p> <p>★導入の例を基に、熟語の構成について考えよう。</p> <p>○教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> <p>○p. 40「漢字に親しもう1」に取り組む。</p> | <p>・漢字検定にも必ず出題される問題である。漢字検定に興味をもっている生徒もいると思うので、その旨を伝えるとよい。</p> <p>・教科書の問題だけでなく、漢字検定等の問題にも取り組ませるとよい。</p> <p>【評】練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・言葉の意味が分からないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p> |

### 【 備 考 】

第1学年までに学習してきたことを振り返り、第2学年の学習に新たな気持ちで臨むことができるような作品が取り上げられている。ここでは、親しみやすい詩や物語、古典などの文章を読んだり、職業に関する情報を集めたりして、これまでに学習したことを振り返り、今後の学習の見通しをもたせたい。

言語活動としては、詩や物語、古典などの文章に触れることにより、言葉の豊かさに気付かせ、その場に合った表現ができるようにしていきたい。このことは、国語学習だけにとどまらず、日常生活の中でもその場に合った豊かな表現活動ができる礎になるとよい。

また、「アイヌプラネット」では、ぐうちゃんの僕に対する思いはこの年代の子どもたちにとっても望まれることであり、自分のこれまでの生き方や考え方を振り返らせるよい機会となることだろう。これは、道徳のB－(9) 相互理解・寛容にあたる。

## 単元名 2 多様な視点から クマゼミ増加の原因を探る

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 文章が六つの部分できていることを理解し、線や矢印を用いてそれらの関係を整理することができる。  
 (2) 筆者の主張を捉え、それと仮説1～3との関係を理解することができる。  
 文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に考えることができる。  
 (3) 積極的に文章と図表などを結び付け、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとする。

## 標準的な展開例

11210108\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 本文を通読する。<br/>         ○ 題名を読んでどのような内容か推測する。<br/>         ○ 目標を確認し、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★学習の見通しをもとう。<br/>         ○ 文章を通読する。</p> <p>○ 分かったことや感じたこと、疑問点をノートにまとめ、発表する。</p> <p>○ 注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>2 全体と部分の関係に注意して、構成を捉える。<br/>         ○ 前時を振り返り、本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★全体と部分の関係に注意して、構成を捉えよう。<br/>         ○ 「研究のきっかけ」に示された文章全体に関わる問題提起を確認する。<br/>         ○ 「前提」に書かれた内容を確認し、筆者が三つの仮説の前に、この部分を置いた理由を考える。<br/>         ○ 考えた理由を発表する。<br/>         ○ 線や矢印を使って6つの部分の関係を整理する。</p> <p>○ 次時は、文章と図表の関係に注意して、内容を読み取ることを知る。</p> <p>3 文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。<br/>         ○ 前時の内容を振り返り、本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★文章と図表の関係に注意して、内容を読み取ろう。<br/>         ○ 三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、それぞれ文章中の言葉を用いて簡潔にまとめる。<br/>         ○ まとめたものをグループで交流する。</p> <p>○ グラフや模式図、写真などを示した筆者の意図を、それに対応する文章との関係を基に考える。<br/>         ○ 「研究のきっかけ」に示された大きな仮説は証明されたといえるか、「まとめ」を読んで自分の考えを説明する</p> <p>4 考えたことを話し合う。<br/>         ○ 前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★考えたことを話し合おう。<br/>         ○ 筆者が検証によって否定された仮説を挙げた理由や三つの仮説をこの順序で並べた理由を考える。</p> <p>○ まとめた内容をグループで発表し合う。</p> <p>○ 学習を振り返る。<br/>         ・ 「科学的な根拠を一步一步積み上げて臨む」筆者の姿勢は、どんなところに表れているかを考える。<br/>         ・ 文章の構成や図表の使い方の中で、効果的だと感じたものを挙げる。</p> | <p>・ 本文を読む前に、各自でクマゼミが増加した原因を予想させる。<br/>         ・ 第2学年で初めての説明文なので、「いつも気を付けよう (p.13) の「説明的な文章を読むとき」で、気を付ける点や読むポイントを意識させたい。</p> <p>・ 国語指導CDか教師の範読を聞かせて、おおまかな内容を捉えさせる。<br/>         ・ 観点別に箇条書きで書かせてもよい。<br/>         【評】感想や疑問点を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 前時に出された感想を紹介する。</p> <p>【評】「仮説」を置いた理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 教科書p.50を参考にするとよい。<br/>         【評】部分の関係の整理をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 学習プリントを準備してもよい。</p> <p>【評】考えを交流する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>         ・ 図表を示す目的や効果について考えさせる。</p> <p>【評】自分の考えを説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 前時にまとめた「参考にしたい説明の工夫」を想起させ、本時ではこの文章から何を学びどう生かしていくかという視点で読み進めることを伝える。</p> <p>【評】筆者の考えと、自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>         ・ 小グループで意見を交流し、代表者に出た意見を全体の場で報告させる。<br/>         ・ 「学習を振り返る」(p.51)の二つの課題に取り組み、ノートに書かせたり発表させたりさせる。</p> |

## 【備 考】

この単元では、第1学年での学習を踏まえ、文章の構成や展開のしかた、事実と意見の示し方に注意しながら、説明の工夫に気付き、書き手の意図や主張を理解することを目的としている。また、自分の提案が、相手に興味・関心をもたれるには、どのような工夫をすればよいのかを考えさせる。説明文の工夫の読み取りとも関連付けながら、プレゼンテーションに必要な材料の集め方、資料や機器などの効果的な使い方を考えさせたい。

## 単元名 2 多様な視点から ー思考のレッスン 具体と抽象

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 問題1, 2に取り組み, 複数の情報をまとめて抽象化したり, 言葉の意味を具体例を挙げて説明したりすることができる。  
 (3) 学習課題に沿って, 積極的に具体と抽象の関係について理解しようとする。

## 標準的な展開例

11210109\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど   |
|---|---|
| 1 具体と抽象の概念を理解し, 問題に取り組む。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★ 「具体」と「抽象」について知ろう。<br>○ 教材文を読み, 具体と抽象の概念を理解する。<br><br>○ 問題1に取り組む。<br><br>○ 問題2に取り組む。<br><br>○ 学習を振り返る。 | ・ 「具体」「具体化」「抽象」「抽象化」などの用語を理解させ, 今後の学習に生かせるようにする。<br>・ 「具体化のための言葉」「抽象化のための言葉」(p. 53)を使わせるとよい。<br>【評】問題に取り組む活動を通して, 「知識・技能」を評価する。<br>・ 考えを伝え合うときに, 具体と抽象の観点を意識しながら話し合うと理解が深まることを確認する。 |

## 【 備 考 】

この単元では, 第1学年での学習を踏まえ, 文章の構成や展開の仕方, 事実と意見の示し方に注意しながら, 説明の工夫に気付き, 書き手の意図や主張を理解することを目的としている。また, 自分の提案が, 相手に興味・関心をもたれるには, どのような工夫をすればよいのかを考えさせる。説明文の工夫の読み取りとも関連づけながら, プレゼンテーションに必要な材料の集め方, 資料や機器などの効果的な使い方を考えさせたい。

## 単元名 2 多様な視点から 一魅力的な提案をしよう

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 相手が自ら動きたいと思えるような言葉や表現を用いてプレゼンテーションをすることができる。
- (2) アピールしたい点が効果的に伝わるように話の構成を工夫することができる。
- プレゼンテーションソフトやフリップを用いて、提案内容が視覚的にも分かりやすくなるよう工夫することができる。
- (3) 粘り強く自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとする。

## 標準的な展開例

11210110\_001

【準備等】知多の友

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 提案内容を決めて、情報を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「プレゼンテーション」(p. 54)を読み、プレゼンテーションについて知る。</li> <li>○プレゼンテーションのテーマを知る。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★どんな相手に、何のためにプレゼンテーションをするか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループに分かれ、紹介する内容、相手、目的を話し合う。</li> <li>○聞き手が必要としていることは何かを考え、発表に必要な材料を考える。</li> </ul> <p>○次時は、資料を持ち寄って、プレゼンテーションの内容を決めることを知る。</p> <p>2 効果的な話の構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★発表の材料を整理して、構成メモを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発表で最も伝えたいことを決定する。</li> <li>○材料を整理して、構成メモを作る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①はじめに（キャッチフレーズ）</li> <li>②概要</li> <li>③まとめとアピール</li> </ul> </li> <li>○次時は、構成メモをもとに進行案、提示資料、発表原稿を作ることを知る。</li> </ul> <p>3 効果的な話の構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★提示資料と発表原稿を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○構成メモを基に、進行案を作る。</li> <li>○進行案に従って、提示資料を作る。</li> <li>○発表原稿を作る。</li> <li>○グループ内で練習し、互いに聞き合って手直しをする。</li> <li>○次時はプレゼンテーションをすることを知る。</li> </ul> <p>4 プレゼンテーションをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★プレゼンテーションをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発表順を決め、グループごとにプレゼンテーションをする。</li> <li>○プレゼンテーションを評価しながら聞く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手が知りたいことを想定することが大切であることに気付かせる。</li> <li>・テーマは教科書にある、「おすすめ散策コース」もしくは「テーマの例」(p. 54)を参考にする。</li> <li>・調べる時間はどれくらいあるのか、発表する日はいつかをあらかじめ生徒に伝え、見通しをもたせる。</li> <li>・提案する相手や目的をグループで話し合い、「知多の友」に記入させる。</li> <li>・集められそうな発表の材料を話し合い、「知多の友」に記入させる。</li> </ul> <p>【評】発表に必要な材料を考える活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集する資料について、グループで分担させるとよい。</li> <li>・第2時と第3時で、提示資料の作成とグループ内での練習までを終わらせることを伝え、見通しをもって学習に取り組ませる。</li> <li>・グループで集めた発表の材料を見合い、最も伝えたい内容を話し合って「知多の友」に記入させる。</li> <li>・最も伝えたいことが明確になるような構成を考え、「知多の友」の構成メモにまとめる。</li> </ul> <p>【評】構成メモを作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような提示資料が必要かを話し合い、次時に必要な準備を確認させる。</li> <li>・「進行案の例」(p. 56)を参考にして、「知多の友」の進行案を作り、その後に提示資料と発表原稿を作ることを確認する。</li> <li>・「知多の友」に、資料の絵コンテ、発表分担説明内容の要点、時間を話し合い、記入させる。</li> </ul> <p>【評】進行案を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料は文字での説明をできるだけ少なくし、見出しや箇条書きのポイントの言葉にとどめさせる。</li> <li>・「知多の友」の「説明内容」の欄に要点をまとめさせる。発表当日には何も見ないで話すように指導する。</li> </ul> <p>【評】プレゼンテーションをする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手には、話の構成や話し方に注意させ、質問を考えながら聞くようにさせる。</li> </ul> |

|   |   |
|---|---|
| <p>○ 質疑応答をする。</p> <p>○ 次時は学習の振り返りを知ることを知る。</p> <p>5 プレゼンテーションを振り返り、よかった点や改善点を考える。</p> <p>○ 前時を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ プレゼンテーションを振り返ろう。</p> <p>○ 互いのプレゼンテーションのよかった点を伝え合う。</p> <p>○ 学習を振り返る。</p> | <p>【評】 互いを評価する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質問は、発表グループが決めた提案の相手からの立場でさせたい。</li> <li>・ 「聞き手を意識した発表内容か」「資料や機器などを効果的に活用していたか」という2点に注意して聞くことを確認する。</li> <li>・ 話し方や話の構成、資料や機器の使い方など振り返りの観点を明確にするとよい。</li> </ul> <p>【評】 互いを評価する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「知多の友」に記入させる。</li> <li>・ 「つなぐ」(p. 55)を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</li> </ul> |
|---|---|

【 備 考 】

この単元では、第1学年での学習を踏まえ、文章の構成や展開のしかた、事実と意見の示し方に注意しながら、説明の工夫に気付き、書き手の意図や主張を理解することを目的としている。また、自分の提案が、相手に興味・関心をもたれるには、どのような工夫をすればよいのかを考えさせる。説明文の工夫の読み取りとも関連づけながら、プレゼンテーションに必要な材料の集め方、資料や機器などの効果的な使い方を考えさせたい。

知多の友を使用する。

単元名 2 多様な視点から 一漢字に親しもう2

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることができる。  
(3) 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

### 標準的な展開例

11210111\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| 1 新出漢字を確認し、練習問題に取り組む。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★新出漢字を確認しよう。<br>○ 新出漢字を確認する。<br>○ 練習問題に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</li> <li>・「〔練習〕小学校六年生で学習した漢字」(p. 251)に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</li> </ul> <p>【評】練習問題に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

この単元では、第1学年での学習を踏まえ、文章の構成や展開のしかた、事実と意見の示し方に注意しながら、説明の工夫に気付き、書き手の意図や主張を理解することを目的としている。また、自分の提案が、相手に興味・関心をもたれるには、どのような工夫をすればよいのかを考えさせる。説明文の工夫の読み取りとも関連づけながら、プレゼンテーションに必要な材料の集め方、資料や機器などの効果的な使い方を考えさせたい。



単元名 2 多様な視点から 一文法への扉1 単語をどう分ける？

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 自立語にどのような品詞があるのかを知り、それぞれが文の中で果たす役割について理解を深めることができる。  
(3) 今までの学習を生かして、積極的に自立語について理解を深めようとする。

### 標準的な展開例

11210112\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 教材文を読み、単語は幾つかの観点で分類されることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>o p. 59の導入や解説を読み、単語が幾つかの観点で分類されることを確かめ、そのうち「自立語」について学ぶことを理解する。</li> <li>o 「文法 一年生の復習」(p. 232～p. 233)を参考に、一年生で学習した文法の確認をする。</li> <li>o 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★活用する自立語について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>o 教科書(p. 234)を参考に、活用する自立語の性質を確認する。</li> <li>o 練習問題に取り組む。</li> </ul> <p>2 文法1「自立語」(p. 233～p. 237)を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>o 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★活用しない自立語について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>o 教科書(p. 235～p. 237)を参考に、各品詞の性質を確認する。</li> <li>o 練習問題に取り組む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、3「単語の分類」は今回の学習の基礎となるので、しっかり確認をする。</li> <li>・形容詞と形容動詞の区別が難しい生徒がいると思われるので、丁寧に確認しておきたい。</li> </ul> <p>【評】活用とは何か理解し、活用する自立語についての練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の活用する自立語について思い返させ、本時では活用しない自立語を学習することを伝える。</li> <li>・それぞれの自立語について、おおまかな文の中での役割を確認する。</li> </ul> <p>【評】自立語の性質を理解し、練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

この単元では、第1学年での学習を踏まえ、文章の構成や展開のしかた、事実と意見の示し方に注意しながら、説明の工夫に気付き、書き手の意図や主張を理解することを目的としている。また、自分の提案が、相手に興味・関心をもたれるには、どのような工夫をすればよいのかを考えさせる。説明文の工夫の読み取りとも関連づけながら、プレゼンテーションに必要な材料の集め方、資料や機器などの効果的な使い方を考えさせたい。

## 単元名 情報社会を生きる ―メディアを比べよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 情報メディアの特徴を、表や図などにまとめることができる。  
 (2) 適切な情報を得るためには、メディアの特性を捉え、発信者や配信日時、その文章が書かれた目的などを確認することが重要であると気付くことができる。  
 同一の話題について書かれた複数の情報メディアを比較し、それぞれ特徴について考えることができる。  
 目的や状況に応じて  
 どのようなメディアで情報を集めたらよいか、考えることができる。  
 (3) 粘り強く観点を明確にして文章を比較し、学習課題に沿って目的や状況に応じたメディアの選び方を理解しようとする。

## 標準的な展開例

11210113\_001

【準備等】さまざまな種類の辞書

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 メディアを比べて、特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 様々なメディアの特徴を知り、情報を比較しよう。</li> <li>○ p. 60～61に示されたさまざまなメディアを「速報性」「詳細さ」「信頼性」の三つの観点で比較し、その根拠を話し合う。</li> <li>○ メディアからどのように情報を得ているのか考える。</li> <li>○ メディアの特徴についてノートにまとめる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テレビの長所と気を付けるべき点について</li> <li>・ 新聞の長所と気を付けるべき点について</li> <li>・ インターネットの長所と気を付けるべき点について</li> </ul> </li> </ul> <p>2 目的や状況に応じたメディアの選び方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 目的や状況に応じたメディアの選び方を考えよう。</li> <li>○ 「やってみよう」(p. 62)に取り組む。</li> <li>○ まとめたことを発表する。</li> <li>○ 大きな災害を想定し、状況に応じてどのようなメディアを選ぶとよいかを考える。</li> <li>○ 学習を振り返る。</li> </ul> <p>3 情報を受け取る時の留意点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの内容を振り返る。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 情報を受け取る時の留意点を考えよう。</li> <li>○ 「『自分で考える時間』をもとう」(p. 64)を通読する。</li> <li>○ ニュースがどのように編集されているかについて、具体例を基に考える。</li> <li>○ 考えた内容をグループで発表し合う。</li> <li>○ 学習を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおまかな学習の流れについて説明する。</li> <li>・ 複数の辞書を引き、媒体、伝達手段、中間、などの意味があることを伝える。</li> <li>・ 朝刊の一面トップの記事を紹介し、どのようにしてその情報を入手したか発表させる。</li> <li>・ メディアの特徴について図式化すると、共通点、相違点を考えやすくなる。</li> <li>【評】メディアの特徴をまとめる活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ テレビ、インターネット、新聞における記事の伝え方について、同じ題材で比較ができるよう、準備しておく。</li> <li>・ それぞれの場合に適したメディアの種類を、ノートにまとめさせる。</li> <li>【評】メディアの種類を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 前時で学習したことも踏まえて、学級の意見を一つにまとめていく。</li> <li>・ 東日本大震災において、通信や出版設備に被害が出たことに触れ、状況に応じて使用できるメディアに制約があることを理解させる。</li> <li>【評】メディアの種類に対する自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ メディアにはそれぞれどのような特徴があったか、今後のメディアとの付き合い方について振り返りをさせる。</li> <li>【評】ニュースの編集の仕方を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ どんな情報も、発信者によって編集されたものであることを理解させる。</li> </ul> |

## 【備 考】

この単元では、情報化の進展する社会の中で、情報を疑い、適切に読み解く方法を実践を通して学ばせたい。図や表、グラフと文章を関連付けて読む方法、多様なメディアを活用した情報収集の方法、実用的な文章の読解や新聞記事の比べ読みの仕方などを身に付けさせることをねらい、展開していく。

## 単元名 3 言葉と向き合う ―短歌に親しむ・短歌を味わう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 情景などを表す語句に着目して作品を読み深めることができる。また、情景や心情が生き生きと伝わる言葉を選んで短歌を創作することができる。
- (2) 複数の短歌を比較し、言葉の選び方や順序にどのような特徴や効果があるかを考えることができる。
- 好きな一首を選び、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- 自分の思いが伝わるように、学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして短歌を創作することができる。
- (3) 進んで短歌の構成や表現の効果について考えるとともに、学習の見通しをもって短歌を創作しようとする。

## 標準的な展開例

11210114\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 「短歌に親しむ」を通読し、短歌を朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいを確認し、本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★短歌の情景や作者の心情を理解し、朗読しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文を通読し、短歌の形式と歴史についてまとめる。</li> <li>○本文と短歌を読み、作品の内容と朗読の仕方を知る。</li> </ul> <p>○筆者のものの見方や感じ方が表れている語句や表現の意味を考える。</p> <p>○情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。</p> <p>2 「短歌を味わう」を読み、内容や表現の仕方について感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★それぞれの短歌の情景を捉え、作者の思いを想像しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「短歌を味わう」(p.72)の朗読を聞く。</li> </ul> <p>○それぞれの短歌の大意を理解する。</p> <p>○短歌について、自分が心惹かれた言葉や表現を書き抜きコメントを書く。</p> <p>3 「短歌を作ろう」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★表現を工夫して短歌を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「短歌を作ろう」(p.73)を読み、短歌を作るときの観点を知る。</li> </ul> <p>○自分の経験や生活をもとに短歌の下の句を作る。</p> <p>○次時は句会を開いて、お互いの作品を読み合うことを知る。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★句会を開こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他の人の作品を読む。</li> </ul> <p>○自分のお気に入りの句を選び、理由をまとめる。</p> <p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようなことに着目して、短歌を読み味わったか。</li> <li>・短歌の創作において、心情や情景などを伝えるためにどのような工夫をしたか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌について知っていることや小学校で学習した短歌などを発表させることによって、課題意識を高めたい。</li> <li>・冒頭の段落を基に、二文でまとめさせる。</li> <li>・短歌の意味の切れ目に注意して朗読する。先に教師が読み、その後に続いて生徒に朗読させるとよい。</li> </ul> <p>【評】意味を理解して朗読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文中の語句や表現を抜き出させ、一人の読者としての感じ方を大切にさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意味の切れ目や抑揚などに注意し、適宜教科書に書き込みをさせながら聞かせる。</li> <li>・各短歌の通釈をプリントして配布して、簡単な解説を加えていくとよい。</li> </ul> <p>【評】自分が心惹かれた短歌についてコメントを書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通する上の句(例「十四歳この一年の思い出は」)を提示し、これにつなげて下の句を作らせる。</li> <li>・授業、行事、部活動、友達、家族、地域生活などで印象に残った出来事を学級で自由に出し合わせ、ヒントとさせる。</li> <li>・下の句には具体的な事柄を一つ読み込ませるようにする。</li> </ul> <p>【評】短歌を創作する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ、生徒の作品をプリントにまとめてみんなで読み合えるようにしておくといよい。</li> <li>・名前を伏せておくといよい。</li> <li>・評価カードを用意する。</li> </ul> <p>【評】他の人の作品を評価する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

短歌は、今日まで継承されてきた代表的な日本の伝統的言語文化の一つである。そのため伝統的な表現やものの見方と、新しい表現やものの見方が融合して、新しい世界を築いてきた。歌人でもある書き手に導かれなが

ら、豊かな短歌の世界を味わわせたい。

また、短歌の学習を通して、生徒は日常の小さな経験や思いなどを繊細に表現する多くの言葉に出会えるだろう。その学習も生かしながら、自分たちの経験や思いなどをより明確に、相手に伝わるように言い表すことのできる言葉を考えさせたい。また、類語辞典等を活用しながら、和語の働きや差異などにも注目させたい。

## 単元名 3 言葉と向き合う 一言の力

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 言葉に対する筆者の考え方を捉え、本や文章には、筆者の考え方が書かれていることや、それに触れることで自分の考えを広げたり深めたりできることを理解することができる。  
 (2) 言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち、話し合うことができる。  
 (3) 進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとする。

## 標準的な展開例

11210115\_001

【準備等】類語辞典

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 文章を要約して、内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいを確認する。</li> <li>★筆者の言葉に対する考えを捉え、志村ふくみさんとのエピソードの意味を考えよう。</li> <li>○「美しい言葉」についてのイメージや具体例を挙げ、言葉に対する自分の考えを確認する。</li> <li>○全文を通読する。</li> <li>○注意する語句・新出漢字を調べる。</li> <li>○文章を三つのまとまりに分け、それぞれの内容を要約する。</li> </ul> <p>2 筆者の考え方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★筆者の考え方について話し合おう。</li> <li>○「言葉の世界での出来事と同じこと」とあるが、何と何が、どのように同じだと述べているのかを考える。</li> <li>○美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをまとめる。</li> <li>○グループでそれぞれ考えた内容について話し合う。</li> <li>○学習を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「目標」(p. 70)を確認する。</li> <li>・生徒が「美しい言葉」に対するイメージや考えがもてるようにする。<br/>【評】筆者の言葉に対する考え方をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・200字程度に要約できるようにマス目用紙を用意する。<br/>【評】文章を要約する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・意外性と分かりやすさの点から、比喩の効果を考えさせるとよい。</li> <li>・自分の知識や経験と結び付けて考えさせる。<br/>【評】筆者の考えに対する自分の考えを書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・自分の考えを広げたり深めたりするために、今後、本や文章をどのように読んでいきたいかを考えさせる。</li> </ul> |

## 【備 考】

短歌は、今日まで継承されてきた代表的な日本の伝統的言語文化の一つである。そのため伝統的な表現やものの見方と、新しい表現やものの見方が融合して、新しい世界を築いてきた。歌人でもある書き手に導かれながら、豊かな短歌の世界を味わわせたい。

また、短歌の学習を通して、生徒は日常の小さな経験や思いなどを繊細に表現する多くの言葉に出会うだろう。その学習も生かしながら、自分たちの経験や思いなどをより明確に、相手に伝わるように言い表すことのできる言葉を考えさせたい。また、類語辞典等を活用しながら、和語の働きや差異などにも注目させたい。

## 単元名 3 言葉と向き合う 一言葉1 類義語・対義語・多義語

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 類義語・対義語・多義語の概念について、具体的な例を当てはめて理解することができる。  
 (3) 今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義語な意味を表す語句などについて理解しようとする。

## 標準的な展開例

11210116\_001

【準備等】国語辞典，類語辞典

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 対義語，類義語，多義語の意味に注目し，用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 対義語，類義語，多義語について知ろう。</li> <li>○ 全文を読み，対義語，類義語，多義語の意味や用法を理解する。</li> <li>○ それぞれの練習問題に取り組む。</li> </ul> <p>2 いろいろな対義語，類義語を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ ある語についての対義語，類義語を調べよう。</li> <li>○ ある文章を類義語を用いて，書き直す。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ より改まった印象</li> <li>・ 小学生向け</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書の問題だけでは少ないので，練習問題を作成しておく。</li> <li>【評】 対義語，類義語，多義語の練習問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 特に類義語について，取り上げる。</li> <li>・ 国語辞典や類語辞典などを用意しておく。</li> <li>・ 教科書等から選んだ語でもよいし，教師側が提示した任意の語でもよい。</li> <li>・ 文章を用意しておく。</li> <li>【評】 類義語を用い，文章を書き換える活動を通して，「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

短歌は，今日まで継承されてきた代表的な日本の伝統的言語文化の一つである。そのため伝統的な表現やものの見方と，新しい表現やものの見方が融合して，新しい世界を築いてきた。歌人でもある書き手に導かれながら，豊かな短歌の世界を味わわせたい。

また，短歌の学習を通して，生徒は日常の小さな経験や思いなどを繊細に表現する多くの言葉に出会うだろう。その学習も生かしながら，自分たちの経験や思いなどをより明確に，相手に伝わるように言い表すことのできる言葉を考えさせたい。また，類語辞典等を活用しながら，和語の働きや差異などにも注目させたい。

言語活動としては，自分たちの経験や思いなどを微細に言い表すことのできる言葉を考えさせ，実際に短歌を作ることで，語彙感覚を磨かせるのに役立つことであろう。

## 単元名 3 言葉と向き合う ―言葉を比べよう

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 抽象的な概念を表す言葉について理解し、類義語の微妙な違いを考えることを通して語感を磨くことができる。  
(3) 今までの学習を生かして、積極的に抽象的な概念を表す語句の量を増し、語感を磨こうとする

## 標準的な展開例

11210117\_001

【準備等】国語辞典，類語辞典

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 似た意味の言葉を比べて違いを考え、選んだ言葉で物語を書く。<br/>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ もっと「伝わる」表現を目指して、言葉を比べよう。<br/>○ 言葉を分類して、類義語を集める。<br/>・ 教科書(p. 80)にある言葉を「具体的な物や事柄を表す言葉」と「抽象的な概念を表す言葉」に分類する。<br/>・ 「抽象的な概念を表す言葉」から一つ選び、類義語を集める。<br/>○ 類義語を比較し、分かったことを話し合う。<br/>・ 集めた類義語を使って文を作り、そこから分かった違いをまとめる。</p> <p>○ 「対義語を考える」(p. 81)に取り組む。</p> | <p>・ 似た意味の言葉の中から一つ例を示して、違いについて考えさせてもよい。</p> <p>・ 国語辞典や類語辞典を参考にさせるとよい。</p> <p>・ 意味や使い方の微妙な違いに気付かせるとよい。</p> <p>【評】 類義語の微妙な違いを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 「対義語を考える」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

短歌は、今日まで継承されてきた代表的な日本の伝統的言語文化の一つである。そのため伝統的な表現やものの見方と、新しい表現やものの見方が融合して、新しい世界を築いてきた。歌人でもある書き手に導かれながら、豊かな短歌の世界を味わわせたい。

また、短歌の学習を通して、生徒は日常の小さな経験や思いなどを繊細に表現する多くの言葉に出会えるだろう。その学習も生かしながら、自分たちの経験や思いなどをより明確に、相手に伝わるように言い表すことのできる言葉を考えさせたい。また、類語辞典等を活用しながら、和語の働きや差異などにも注目させたい。

## 単元名 読書を楽しむ・翻訳作品を読み比べよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 活動を通して本の魅力を感じ、今後どのような本を読みたいかを考えることができる。

翻訳の違いによって作品の印象が異なることを知り、他の翻訳作品を楽しもうとすることができ

きる。  
(2) 二人の翻訳者による「星の王子さま」を比較し、表現の違いによる作品の印象の違いについて発表することができる。

これまでの読書生活を振り返り、豊かにするためにできることを具体的に考えることができる。

(3) 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを進んで知ろうとし、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとする。

進んで表現の効果について考え、学習課

題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとする。

## 標準的な展開例

11210118\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| <p>1 教材文を通読し、様々な読書活動を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習目標を確認し、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★様々な読書活動を知ろう。</li> <li>○教材文を通読する。</li> <li>○「本の紹介合戦」、「読書ポスター」、「本のリスト」の中から、夏休みに行く活動を選ぶ。</li> <li>○活動の内容に沿って、見通しを立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本の紹介合戦は読書記録を基に本を決め、その読書が伝わるような紹介の仕方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書ポスターは、グループでテーマを決め、それに合った本を選ぶ。</li> <li>・読書記録は記録の仕方を確認する。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○グループごとに活動を行い、活動の感想を発表し合う。</li> </ul> <p>○次時は「翻訳作品を読み比べよう」(p. 84)を読んでいくことを知る。</p> <p>2 翻訳作品について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★翻訳作品について知ろう。</li> <li>○「星の王子さま」や読書コラムを読み、「翻訳」の意味や「翻訳作品・海外文学」のおもしろさについて理解する。</li> <li>○二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べる。</li> <li>○翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え、発表し合う。</li> </ul> <p>○「本の世界を広げよう」(p. 87)を参考に今後読みたい本を考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や地域の状況に応じて、指導者が活動を決めてもよい。</li> <li>・教材文を基に、手順やポイントなどを示した活動計画書を用意し、配付するとよい。</li> </ul> <p>・教室ではなく、学校図書館で授業を展開することも考えられる。</p> <p>【評】感想を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・学校図書館から本を借りてきて、実物を見せることなども考えられる。</p> <p>・人物の言動や様子が描かれた表現を基に、人柄や心情の違いを捉えさせる。</p> <p>【評】作品の印象の違いについて話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> |

## 【 備 考 】

読書は、身近なことばかりではなく、時間や空間を超えて、自分では経験できない世界を生きることを可能にする。その世界で、いろいろなものの見方や考え方、感じ方をする人たちと出会い、自らの生き方を見つめる機会にさせ、読書の楽しみに気付かせたい。

読書は一人で味わう楽しみもあるが、多くの人と感想などを交流することで、その楽しみは膨らんでいく。ここでは、一年生に向けた読書案内を作成することを通して、自分の読みを振り返るとともに、他者の選んだ本や感想などを交流して、読書の幅を広げるきっかけとしたい。



## 単元名 (書写)行書で書こう

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 行書の点画の特徴について理解を深め、筆使いに気を付けて書くことができる。  
(3) 行書で学習した成果を日常生活で生かそうとする。

## 標準的な展開例

11210119\_001

【教材名】「初志」「深緑」(P. 58～P. 63)

【準備等】毛筆のための練習用紙、水書板

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 「ころもへん」の省略を理解して書く。</p> <p>○楷書と行書の違いについて、第1学年で学習した内容を振り返る。</p> <p>○「初志」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★点画の連続と省略を理解して書こう。</p> <p>○示範や教科書の「考えよう」(p. 59)を参照し、点画が連続している部分、省略されている部分について考え、自己課題を設定する。</p> <p>○「初志」を、毛筆で練習用紙や半紙に練習して、批正する。</p> <p>○毛筆でまとめ書きをする。</p> <p>2 「ころもへん」の点画の連続を理解して、字形を整えて書く。</p> <p>○前時に、点画の連続と省略の筆使いについて学習したことを想起する。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★点画の変化と連続を理解して、字形を整えて書こう。</p> <p>○前時の作品「初志」を示範や教科書の文字(p. 58)と比べて、自己の課題を見直し、設定する。</p> <p>○「初志」を毛筆で、練習用紙や半紙に練習して、批正する。</p> <p>○毛筆でまとめ書きをする。</p> <p>○教科書(p. 59)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。</p> <p>3 「さんずい」の省略を理解して書く。</p> <p>○行書の連続と省略を確認する。</p> <p>○「深緑」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★点画の連続と省略を理解して書こう。</p> <p>○示範や教科書の考えよう(p. 61)を参照し、点画が連続している部分、省略されている部分について考え、自己課題を設定する。</p> <p>○「深緑」を毛筆で、練習用紙や半紙に練習して、批正する。</p> <p>○毛筆で練習する。</p> | <p>・本展開例は、2教材を2時間と3時間で取り組ませ、教科書(p. 62～p. 63)の硬筆は、それぞれのまとめとして取り扱う計画とした。</p> <p>・教科書(p. 42～p. 43)を参照させ、第2学年では行書に書き慣れ、読みやすく、速く書くことができる力を養うことを知らせる。</p> <p>・教科書(p. 59)に、楷書と行書の違いを意識させながら硬筆で取り組ませることによって、学習課題への意欲を高める。</p> <p>・水書板等を用いて示範し、より具体的につかませたい筆使いは、以下のとおりである。</p> <p>①「ころもへん」の書き方や筆順に気を付けて書く。</p> <p>②「ころもへん」の省略と次の画への連続に留意して書く。</p> <p>③「ころもへん」の三画目は、一度止めてから右上へ払う。</p> <p>【評】「ころもへん」の点画の連続と省略を理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・前時に書いたまとめ書きを数点示し、本時の目標を捉えられるようにする。</p> <p>・筆使いに追加する基準は、以下のとおりである。</p> <p>④「志」の三～七画目まで筆脈を生かし、字形を整えて書く。</p> <p>・隣同士で相互批正させ、課題を見直ししながら練習に取り組める機会を設けられるとよい。</p> <p>・「生かそう」(p. 59)を用いて硬筆で練習をさせ、習得した技能を日常生活に生かす意識をもたせる。</p> <p>・基準を確認し、試し書きと比較させる。</p> <p>【評】「ころもへん」の点画の連続や省略を理解し、字形を整えて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・前時の清書や、教科書(p. 42～p. 43)を参照して、連続と省略の方法を確認させる。</p> <p>・教科書(p. 59)に、楷書と行書の違いを意識させながら硬筆で取り組ませることによって、学習課題への意欲を高める。</p> <p>・水書板等を用いて示範し、より具体的につかませたい筆使いは、以下のとおりである。</p> <p>①「さんずい」の二画目の連続に気を付けて書く。</p> <p>②「深」三画目で縦画から横画への連続に気を付けて書く。</p> <p>③「深」の木における点画の変化に気を付けて書く。</p> <p>・生徒が設定した課題によっては「さんずい」や「深」のみなどの練習用紙を各自で作成して、活用してもよいことにする。</p> <p>【評】「さんずい」の点画の連続と省略を理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取</p> |

- 4 「いとへん」の筆順の変化を理解して、字形を整えて書く。
- 前時に、点画の連続と省略の筆使いについて学習したことを想起する。
  - 本時の学習課題をつかむ。
  - ★筆順の変化を理解して、字形を整えて書こう。
  - 前時の作品「深緑」を示範や教科書の文字(p.60)と比べて、自己の課題を見直し設定する。
- 「深緑」を毛筆で、練習用紙や半紙に練習して、批正する。
- 毛筆でまとめ書きをする。
- 教科書(p.61)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。
- 5 「さんずい」の省略と「いとへん」の筆順の変化を理解し、字形を整えて書く。
- 行書の連続と省略を確認する。
  - 「深緑」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。
- ★点画の省略と筆順の変化を理解して書こう
- 示範や教科書の考えよう(p.61)を参照し、点画が連続している部分、省略されている部分について考え、自己課題を設定する。
- 「深緑」を、毛筆で練習用紙や半紙に練習して、批正する。
- 毛筆でまとめ書きをする。
- 6 これまでに学習してきた行書の特徴を理解して書く。
- 行書の点画の連続と省略、筆順の変化を確認する。
  - 本時の学習課題をつかむ。
  - ★行書の部分の書き方を確認して、熟語を書いてみよう。
  - 教科書(p.62～p.63)の教材文字を見ながら、基準を確認する。
- 教科書(p.42～p.43)の行書の特徴について、再確認をする。
- 応用(p.63)に取り組み、振り返りを行う。

り組む態度」を評価する。

- ・前時に書いた清書を数点示し、本時の目標を捉えられるようにする。
- ・「緑」の気を付ける点は、以下のとおりである。
  - ①「いとへん」の二、三画目での筆順の変化に気を付けて書く。
  - ②「緑」の?における点画の変化に気を付けて書く。
- ・隣同士で相互評価させ、課題を見直ししながら練習に取り組める機会を設けられるとよい。
- ・「生かそう」(p.61)を用いて硬筆で練習をさせ、習得した技能を日常生活に生かす意識をもたせる。
- 【評】「さんずい」と「いとへん」の点画の連続や省略、筆順の変化を理解し、字形を整えて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・前時の清書や、教科書(p.42, ～p.43)を参照し、連続と省略の方法を確認させる。
- ・教科書(p.61)に、楷書と行書の違いを意識させながら硬筆で取り組ませることによって、学習課題への意欲を高める。
- ・水書板等を用いて示範し、より具体的につかませたい筆使いは、以下のとおりである。
  - ①「さんずい」の二、三画目の連続は、筆の弾力を生かして大きな動きを心がける。
  - ②「深」三画目の縦画から横画への連続は、一度止めて押し戻すように一筆で書く。
  - ③「深」の木における点画の変化は、一年時の「栄光」の「栄」の字の学習を想起し、比較して書く。
  - ④「いとへん」の二、三画目での筆順の変化は、筆順と点画の大きさに気を付けて、リズムカルに書く。
  - ⑤「緑」の?における点画の変化は、「深」の学習を生かして書く。
- 【評】「さんずい」と「いとへん」の省略や筆順の変化を理解して書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教科書(p.58～p.61)を参照する。
- ・行書の部分の書き方を確認して、二つの熟語をなぞり、いずれかを書かせる。
- ・基準は、以下のとおりである。
  - ①行書の特徴(変化、連続、省略、筆順の変化)
  - ②行書の部分の書き方(左右の組み立て方、上下内外の組み立て方)
  - ③同じ形でも位置によって異なる書き方について知る。
- ・本時の目標に関する内容を中心に、各自の課題点について確認できるようにする。
- 【評】行書の部分の書き方を理解し、熟語を書く活動を通して「知識・技能」を評価する。

#### 【 備 考 】

「ころもへん」「さんずい」「いとへん」の省略、筆順の変化を学習することで、行書を日常生活に生かせるようにしたい。各自の課題をもたせ、硬筆での練習にも取り組ませたい。

そして、相互評価や互いの作品を鑑賞することを学習活動の中に取り入れ、学んだことを日常の書写活動にも生かせるようにしたい。

あの人が残した文字 教科書(p.56～p.57)(適時)

補助教材集 行書「雲海」「開花」教科書(p.142)

## 単元名 4 人間のきずな 一 盆土産

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 登場人物の言動や情景を表す語句に着目し、それらが作品に与える印象を述べるができる  
 (2) 登場人物の言動から人柄や心情を読み取り、それらが話の展開や作品の印象にどう関わるかを捉えることができる。  
 (3) 粘り強く登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って作品の印象を伝え合おうとする。

## 標準的な展開例

11210201\_001

【準備等】国語指導CD, 再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 作品を読んであらすじを捉え、「優しさや温かさ」「悲しさや寂しさ」を感じるところを表現に即して読み取る。<br/>         ○目標 (p. 92) を読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>★作品を読んであらすじを捉え、「優しさや温かさ」「悲しさや寂しさ」を感じるところを読み取ろう。</p> <p>○「優しさや温かさ」などを感じる場面や表現に線を引くなどの印をつけながら、全文を通読する。<br/>         ○印をつけたところを発表し合い、作品全体から受ける印象をまとめる。</p> <p>2 登場人物のそれぞれの人柄や思いを捉える。<br/>         ○前時でつかんだあらすじや家族構成を確認し、本時の学習課題を知る。<br/>         ★登場人物の人柄や思いを読み取ろう。<br/>         ○登場人物の様子が描かれている表現に印をつけながら、全文を通読する。<br/>         ○登場人物の様子が描かれている表現をノートに整理し、それぞれの登場人物の人柄や心情を考える。</p> <p>3 登場人物の「えびフライ」に対する心情を捉える。<br/>         ○前時を振り返り、本時の学習目標を知る。</p> <p>★「えびフライ」「えんぴフライ」という語に込められた登場人物の心情を読み深めよう<br/>         ○「えびフライ」「えんぴフライ」という語が出てくる場面や表現を音読する。<br/>         ○「えびフライ」「えんぴフライ」という語に込められた登場人物の心情をノートにまとめる。<br/>         ○「えびフライ」「えんぴフライ」という語に込められた登場人物の心情を発表し合う。</p> <p>4 作品を表現に即して読み味わう。<br/>         ○前時の活動を振り返り、本時の学習課題を知る。<br/>         ★自分が読み取った作品の印象を伝え合おう。<br/>         ○作品に対する思いをノートにまとめる。</p> | <p>・情景や心情の描写を捉えて文学を読み味わうことを、簡単に説明しておく。<br/>         ・次に示すような印象を受ける場面や表現に着目して、文章を読むことを確認する。<br/>         ・優しさや温かさを感じるところ<br/>         ・悲しさや寂しさを感じるところ<br/>         ・教師による範読か、または国語指導CDを利用する。<br/>         ・それぞれの観点ごとに発表をさせる。<br/>         【評】作品全体を通じての印象を、自分の言葉でまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・前時のノートや学習プリントを見ながら振り返る。</p> <p>・登場人物である「少年」「父親」「姉」「祖母」の様子が描かれている表現に着目させる</p> <p>・家族のつながりや互いを思い慕う心情については、第4時で扱うので、本時はそれぞれの表現に即して、その時々的心情と、そこから読み取ることができる人柄を考えさせる。<br/>         【評】登場人物の人柄や心情を表現に即して読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・四つの場面や表現に着目させる。<br/>         ①少年が川へ釣りに行く場面をつぶやく「えびフライ」(p. 92～p. 96)<br/>         ②少年が隣の喜作に対して言った「えびフライ」(p. 99～p. 99)<br/>         ③祖母が墓の前で言った「えんぴフライ」(p. 101～p. 102)<br/>         ④少年が父親を見送る停留所で言った「えんぴフライ」(p. 102～p. 104)</p> <p>・「えびフライ」「えんぴフライ」という語の話し手である少年や祖母の心情を考えながら読ませたい。<br/>         ・特に少年がつぶやく「えびフライ」「えんぴフライ」に注目させ、の心情の変化に気付くよう助言や支援をする。<br/>         【評】登場人物の心情を捉え、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>         ・一晩中眠りを寸断してドライアイスで冷やし続けながら持ち帰ったという父親の苦労を知ったあたり(p. 97～)から、「えびフライ」が特別な意味をもち始めることに注意をさせようまでして「えびフライ」を持ち帰った父親の思いに気付かせたい。<br/>         【評】自分の意見や考えを発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・前時までの学習内容や、学習プリント、ノートを踏まえ、本文の表現に即してまとめるよ</p> |

- ノートにまとめたことを発表し合う。
- 学習を振り返る。

うにする。  
**【評】** 作品に対する思いをノートにまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。  
 ・学級の実態に応じて、グループでの発表にしてもよい。  
 ・登場人物の言動の意味に着目することで、どのようなことが読み取れたか挙げさせる。

#### 【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く惹きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多様な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は、用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく、社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで、学習の最初には敬語を使うべき場面はどこか、敬語を使うとどういう効果があるのかについて、実生活を振り返りながら考えさせ、今後の生活に生かすようにさせたい。

また、「盆土産」「字のない葉書」では、家族のつながりやきずなが題材となっている。これは、道徳のC- (14) 家族愛にあたり、自分と家族の関わりを見直すよい機会とさせたい。

## 単元名 4 人間のきずな 一字のない葉書

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 表現に着目して人柄や心情を読み取り、それを生かして他の随筆を読むことができる。  
 (2) 前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えることができる。  
 (3) 進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとする。

## 標準的な展開例

11210202\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 描写を通して、人物の人柄や心情を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 随筆について確認する。</li> <li>○ 題名である「字のない葉書」とは、どのような葉書なのかを想像する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★本文の表現から、登場人物の人柄や心情を捉えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全文を通読する。</li> <li>○ 作品の構成について知る。</li> <li>○ 父親の行動や様子を表している描写部分をノートに整理する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>①親元を離れる4、5日前まで</li> <li>②女学校1年で、親元を離れたとき</li> <li>③下の妹が疎開に行くまで</li> <li>④下の妹が疎開から帰ってきた日</li> </ul> </li> </ul> <p>2 言動や様子を描いた表現に着目し、登場人物の人柄や心情を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題を知る。</li> </ul> <p>★妹に対する家族の心情を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 疎開をしている妹が置かれた状況を捉える。</li> <li>○ 疎開中の妹の葉書を見た家族の思いを考える。</li> <li>○ 心情の描き方について知る。</li> </ul> <p>3 父親に対する筆者の思いを読み取り、その思いに対する自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題を知る。</li> </ul> <p>★父親に対する筆者の思いを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筆者が父親をどのように見ていたのかが分かる表現を抜き出し、まとめる。</li> <li>○ 筆者の父親への思いをまとめる。</li> <li>○ 筆者の父親への思いについて共感できることや、共感できないことを発表する。</li> <li>○ 学習を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随筆と小説の違いについて、例を挙げて確認する。</li> <li>・ 題名の意外性を生かし、生徒の興味や関心を引きつけたい。</li> <li>・ 筆者の向田邦子について、その生涯や主な作品などに触れ、説明しておくとうい。</li> <li>・ 「目標」(p.106)を確認し、父親に着目して作品を読んでいくことを説明して通読する。</li> <li>・ 国語指導CDを活用してもよい。</li> <li>・ 2部構成で「手紙」と「葉書」の思い出が描かれていることを確認する。</li> <li>・ 4つの場面に分けて描写を整理させる。</li> <li>【評】父親の行動や様子を表す描写から、父親の人柄を捉える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 前時の学習内容を踏まえ、本時は家族の心情を考えることを確認する。</li> <li>・ 妹から送られてくる葉書から考えられる状況を理解させる。</li> <li>・ 妹の疎開中、疎開から戻ってきたときのそれぞれの状況で考えさせる。</li> <li>【評】妹に対する家族の心情を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 「学習の窓」(p.110)を読み、前半と後半それぞれの心情の描かれ方の特徴を確認する。</li> <li>・ 第1時でまとめた父親の行動や様子を振り返る。</li> <li>・ 出させたい表現は、①威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父親、②暴君ではあったが、反面照れ性でもあった父は……、③日ごろ気恥ずかしくて演じられない父親を……④父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た。</li> <li>【評】父親に関する描写をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 自分の言葉でまとめさせる。</li> <li>・ 家族のきずなに対する筆者の考え方、自分の考え、学級の生徒の考えを比較させ、考えを深めたり広げたりさせたい。</li> <li>・ 「学習を振り返る」(p.111)を読み、学習を振り返らせる。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く引きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多用な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は、用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく、社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで、学習の最初には敬語を使うべき場面はどこか、敬語を使うとどのような効果があるのかについて、実生活を振り返りながら考えさせ、今後の生活に生かすようにさせたい。

また、「盆土産」「字のない葉書」では、家族のつながりやきずなが題材となっている。

単元名 4 人間のきずな ー聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す 配当時間 1時間

単元の目標 (1) どのように質問すると、相手がさらに話したくなるかを考えることができる。  
(2) 話の要点や全体像を考えながら聞き、話を広げたり深めたりする質問をすることができる。  
(3) 粘り強く論理の展開に注意して聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出す質問をしようとする。

### 標準的な展開例

11210203\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| 1 相手の話を受け止めながら、インタビューをする。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★ 相手の話を受け止めながら、インタビューをしよう。<br>○ インタビューの準備をする。<br>・ 「今、夢中になっていること」や「私が輝く瞬間」をテーマにインタビューの準備を行う。<br>○ インタビューを行う。<br>・ 教科書の例を参考に、思いや考えを引き出すためにどのように質問したらよいかを考える。<br>・ 「話し手」「聞き手」「聴衆」の役割を交代しながらインタビューを行う。<br>○ 学習を振り返る。<br>・ 「話し手」「聞き手」「聴衆」それぞれの立場から、気付いたことや考えたことを出し合う。 | ・ 「話し手としての準備」，「聞き手としての準備」の両方をさせる。<br>・ 聞き手と聴衆で話しやすい雰囲気を作り出すようにする。<br>【評】インタビューを行う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 |

#### 【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く惹きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多様な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は、用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく、社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで、学習の最初には敬語を使うべき場面はどこか、敬語を使うとどういう効果があるのかについて、実生活を振り返りながら考えさせ、今後の生活に生かすようにさせたい。

また、「盆土産」「字のない葉書」では、家族のつながりやきずなが題材となっている。これは、道徳のC-(14)家族愛にあたり、自分と家族の関わりを見直すよい機会とさせたい。

単元名 4 人間のきずな ―表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く 配当時間 3時間

単元の目標 (1) 何かをお願いする文面などにおいて、どのような言葉を選ぶと、相手に引き受けてもらえるかを考えることができる。  
相手や目的に応じて、敬語を適切に使って通信文を書くことができる  
(2) 自分の思いや考えが伝わるように、具体例を加えたり、表現の工夫をしたりして通信文を書くことができる。  
(3) 積極的に自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って通信手段を選び、通信文を書こうとする。

## 標準的な展開例

11210204\_001

【準備等】知多の友 清書用の便箋

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 メール、活字、手書きの手紙を比較し、その共通点と相違点を見つけ、手紙のよさを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校生活の中で親しい間柄以外で手紙を書く必要に迫られる場面を考え、書く意欲をもつ。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★手紙や電子メールの特徴を考えよう。</li> <li>○職場体験学習の礼状として書かれたメール、活字、手書きの手紙を比較し、共通点と相違点を整理する。</li> <li>○共通点と相違点をグループで話し合う。</li> </ul> <p>2 伝えたい内容を明確にし、気持ちが効果的に伝わる構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★お礼状を書くための構成メモを作ろう。</li> <li>○職場体験学習で、感じたことを思い出す。</li> <li>○思い出したことをグループで話し合う。</li> <li>○思い出したことを整理して手紙で伝えたい相手や内容を明確にする。</li> <li>○構成メモを基に、礼状の下書きを書く。</li> <li>○次時に準備するものを知る。</li> </ul> <p>3 相手の立場や状況を考え、表現や言葉遣いを工夫しながら手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★前時に書いた下書きをグループで読み合い、推敲をしよう。</li> <li>○以下の点に気を付けて、推敲し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の印象</li> <li>・心に響いた表現</li> <li>・不適切な表現</li> <li>・手紙の形式</li> <li>・誤字・脱字</li> <li>・文法的な間違い</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「知多の友」を参照するとよい。</li> <li>・中学校生活での様々な行事を思い起こさせ、公的な場面(職場体験学習や高校訪問、地域の方への招待状など)で、気持ちを相手に伝える場面を挙げさせる。</li> <li>・「目標」「学習の見通しをもとう」(p.114)または「知多の友」を示し、社会生活に必要な手紙を書くことと、これからの学習の見通しを確認する。</li> <li>・メール、活字、手書きの手紙を用意し、黙読させる。<br/>学級の実態に応じて、比較する観点を提示するとよい。</li> <li>【評】手紙の形式や相手に応じた言葉遣いを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・「知多の友」を使い、下書きをさせる。</li> <li>・付箋を配り、1枚の付箋に1項目ずつ書かせることよい。</li> <li>・グループで話し合うことによって、新たに思い出したり、感じたりしたことを付箋に1枚1項目で書き足させる。</li> <li>・「知多の友」を用い、伝えたい内容が書いてある付箋とそうでない付箋を整理する。</li> <li>・「学習の窓」(p.114)を示し、付箋を利用して構成メモを作らせる。「知多の友」の上段に付箋を貼らせると、下書きを書くときにも役立つ。</li> <li>・「前文」「末文」は単なる形式ではなく、相手の状況に配慮した気遣いであることに触れたい。</li> <li>・手紙の書き方(p.115)を参考にさせる。</li> <li>【評】構成メモを作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・「知多の友」に構成メモを基に、下書きを書く。</li> <li>・学級の実態に合わせて、下書きは次時に行ってもよい。</li> <li>・事前に清書をするための物品や情報を準備させておく。</li> <li>・便箋は、学校で一括して用意してもよい。</li> <li>・手紙は、自分の思いを伝えるだけでなく、相手への気遣いも必要であることに気付かせたい。</li> <li>・読み手に手紙を受け取る相手の立場で気付いたことを付箋に書かせ、下書きの該当箇所に貼らせる。</li> </ul> |

- ・敬語の使い方 など
- 下書きに貼られた付箋や他の生徒の手紙のよいところを参考にして、下書きを手直しする。
- 清書を書く。

【評】相手の立場や状況を考えた言葉遣いができているか推敲し合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・清書用の便箋と封筒を用意する。
- ・教科書(p.115)上段を参考にし、「知多の友」に封筒の表書き、裏書きをさせる。

#### 【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く惹きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多様な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は、用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく、社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで、学習の最初には敬語を使うべき場面はどこか、敬語を使うとどういう効果があるのかについて、実生活を振り返りながら考えさせ、今後の生活に生かすようにさせたい。

また、「盆土産」「字のない葉書」では、家族のつながりやきずなが題材となっている。これは、道徳のC-（14）家族愛にあたり、自分と家族の関わりを見直すよい機会とさせたい。

「知多の友」を使用する。



## 単元名 4 人間のきずな ―[推敲]表現の効果を考える

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。  
 (2) 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。  
 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

## 標準的な展開例

11210205\_001

【準備等】国語辞典

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| 1 推敲するポイントを知り、適切な文章に直す。<br>○ 本時の目標を確認し、学習の見通しをもつ。<br><br>★推敲のポイントを知り、文章を正しく直そう。<br>○ 手紙(p. 116)を推敲する。<br><br>○ 推敲した箇所を理由とともに発表する。<br><br>○ 学習を振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「推敲」の言葉の意味や、普段多い間違いを提示し、学習意欲を高める。</li> <li>・上達のポイント(p. 116)を参考にしながら、行間を空けた学習プリントを用意して、推敲させる。</li> <li>【評】手紙の推敲をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・国語辞典や巻末の常用漢字表などを参考にさせる。</li> <li>・漢字、言葉、文法の学習が日常で生きることを伝えるようにする。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く惹きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多様な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は、用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく、社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで、学習の最初には敬語を使うべき場面はどこか、敬語を使うとどういう効果があるのかについて、実生活を振り返りながら考えさせ、今後の生活に生かすようにさせたい。

また、「盆土産」「字のない葉書」では、家族のつながりやきずなが題材となっている。これは、道徳のC-(14) 家族愛にあたり、自分と家族の関わりを見直すよい機会とさせたい。

## 単元名 4 人間のきずな 言葉2 敬語

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 敬語を使う生活場面を想定し、敬語の働きについて理解を深めることができる。  
 (3) 今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとする。

## 標準的な展開例

11210206\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 敬語の働きや種類について理解し、適切な使い方を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入の例文を読み、相手に敬意を表す表現について意見を発表し合う。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 敬語の働きや種類を知ろう。</li> <li>○ 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。</li> <li>○ 丁寧語、美化語について知る。</li> <li>○ 敬語の組み合わせによる表現や、場面や状況に応じた敬語の使い方について考える。</li> <li>○ 学習を振り返り、敬語の意義や必要性について考えたことをノートにまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段気を付けていることや人から言われたことなどを思い起こさせる。</li> <li>・ 「敬語」について説明しておく。</li> <li>・ 丁寧語、尊敬語、謙譲語について、実際の会話の場面を想像させながら説明する。</li> <li>・ 教科書(p.119)を読み、説明する。謙譲語の中でも、敬意を表すべき動作や行為が向かう先を必要としないものがあり、これらには丁寧語を付けて聞き手への敬意を表す。そのため、謙譲語と区別して「丁寧語」とすることもある。美化語については、身の回りの言葉を例に示すとよい。</li> <li>・ 教科書の例文で、それぞれの敬語の種類と、誰に対する敬意なのかを確認する。</li> <li>・ 意義や必要性について考えることが困難な場合は、敬語を用いるときと用いないときの違いについてなど、別の課題を与えるとよい。</li> <li>【評】 敬語の意義や必要性について考えたことを書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く惹きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多様な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は、用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく、社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで、学習の最初には敬語を使うべき場面はどこか、敬語を使うとどういう効果があるのかについて、実生活を振り返りながら考えさせ、今後の生活に生かすようにさせたい。

また、「盆土産」「字のない葉書」では、家族のつながりやきずなが題材となっている。これは、道徳のC- (14) 家族愛にあたり、自分と家族の関わりを見直すよい機会とさせたい。

単元名 4 人間のきずな ―漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3 配当時間 1時間

単元の目標 (1) 文脈や言葉の意味に注意して、漢字を読んだり、書いたりすることができる。

同音異義語の

概念について、具体的な例を当てはめて理解することができる。

(3) 学習課題に沿って、積極的に同音異義語を理解し、漢字読んだり書いたりしようとする。

### 標準的な展開例

11210207\_001

【準備等】国語辞典

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 同訓異義語、同音異義語について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「あつい」と読む漢字を書き出す。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★同じ訓、同じ音をもつ漢字を理解しよう。</li> <li>○教科書の例を読んで同訓異義語、同音異義語を知り、練習問題 (p. 121) に取り組む。</li> <li>○教科書の例以外の同訓異義語、同音異義語について調べる。</li> <li>○調べた同訓異義語、同音異義語を使って、短文を作り、発表し合う。</li> <li>○漢字に親しもう3 (p. 122) に取り組む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「暑い」「熱い」「厚い」を挙げさせ、どういうときに、どの字を使うかを考えさせる。</li> <li>・人数分の国語辞典を用意しておく。</li> <li>・それぞれどのような意味があるのかも調べ、ノートや学習プリントに書かせる。</li> <li>【評】同訓異義語、同音異義語を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・支援が必要な生徒には、国語辞典の例文を用いてもよいこととする。</li> <li>【評】同訓異義語、同音異義語を使って短文を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |

### 【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く惹きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多様な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は、用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく、社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで、学習の最初には敬語を使うべき場面はどこか、敬語を使うとどういう効果があるのかについて、実生活を振り返りながら考えさせ、今後の生活に生かすようにさせたい。

また、「盆土産」「字のない葉書」では、家族のつながりやきずなが題材となっている。これは、道徳のC- (14) 家族愛にあたり、自分と家族の関わりを見直すよい機会とさせたい。

## 単元名 5 論理を捉えて ―モアイは語る―地球の未来

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 筆者の意見（主張）がどのような根拠によって支えられているかを理解し、その根拠が適切かを吟味することができる。  
 (2) 文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論の進め方を吟味することができる。  
 (3) 粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとする。

## 標準的な展開例

11210208\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「モアイは語る」というタイトルから内容を予想する。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★文章を通読し、内容を捉えよう。</li> <li>本文を通読する。</li> <li>注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 文章の構成に着目し、内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>序論の問題提起を再確認する。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★文章の構成に着目して、内容を捉えよう。</li> <li>文章全体を序論・本論・結論に分ける。</li> <li>筆者が序論で示している問いと、それに対する答え、また、答えの根拠として挙げられている事実を要約し、表にまとめる。</li> <li>本論の四つの各部分について、それぞれに小見出しを付ける。</li> <li>小見出しを確認し、本時の学習内容をまとめる。</li> </ul> <p>3 論理の展開を吟味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★論理の展開を吟味しよう。</li> <li>「イースター島の運命」と「地球の未来」の比較について読み取る。</li> <li>筆者の主張を捉え、簡単な文章にまとめる。</li> <li>「モアイの秘密」を解き、それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開について、「効果」や「説得力」という観点から話し合う。</li> </ul> <p>4 筆者の主張に対する考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習内容を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★筆者の主張に対する考えを文章にまとめよう。</li> <li>筆者の主張に対する自分の考えを、自分の知識や体験と重ねて200字程度でまとめる。</li> <li>学習を振り返る。</li> <li>「モアイ」は何を語っているのか、「モアイ」「歴史」「未来」の三つの言葉を使って、端的に説明する。</li> <li>論理の展開を捉えるとき、どのような点に着目すると効</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>この題は、比喻表現であることを押さえつつモアイがわたしたちに何を「語る」のかを予想させる。サブタイトル「地球の未来」と関連付けて、「モアイ」―「地球の未来」というつながりから想像させたい。</li> <li>範読するか、国語指導CDを聞かせ、おおまかに内容を捉えさせる。<br/>【評】注意する語句・新出漢字を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>前時にまとめた四つの問題提起を確認し、本論がそれらに順に答えていく形で展開していることを確認する。</li> <li>筆者の主張が書かれている段落(結論)を見つけ、その主張を支えるために序論と本論があることを押さえるとよい。<br/>【評】文章を序論・本論・結論に分ける活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>小見出しは、本文中の言葉を効果的に使って短くまとめるように伝える。<br/>【評】各部分に小見出しを付ける活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>小見出しと各部分の内容の対応を確認する。</li> <li>適切な小見出しを付けることで、内容が把握しやすくなることを示す。</li> <li>本論で述べられていた「イースター島の運命」について簡単に振り返る。</li> <li>観点(森林、人口爆発、食料や資源の不足、地理的条件など)を立てて比較し、筆者が類似点を見い出していることを確認する。<br/>【評】比較をして読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>イースター島と地球との比較を踏まえながら最後の「私たちは、今あるこの有限の資源を……人類の生き延びる道なのである。」に表れている筆者の主張を捉える。<br/>【評】論理の展開について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>結論で述べられた、筆者の主張とその根拠を振り返る。</li> <li>原稿用紙を用意しておく。<br/>【評】自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】「モアイ」が何を語ったのかを説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】論理の展開について説明する活動を通し</li> </ul> |

果实的か、自分の言葉で説明する。

て、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く引きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多様な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

## 単元名 5 論理を捉えて ―思考のレッスン2 根拠の吟味

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 問題1, 2に取り組み, 根拠を吟味することができる。  
 (3) 今までの学習を生かして, 積極的に意見と根拠の関係について理解しようとする。

## 標準的な展開例

11210209\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| 1 教材文を読み, 根拠を吟味する方法を理解する。<br>○ 本時の学習課題を確認する。<br>★意見文の根拠を吟味する方法を知ろう。<br>○ p. 132～p. 133の教材文を読み, 根拠を吟味する方法を理解する。<br>○ 問題1, 2に取り組む。<br><br>○ 学習を振り返る。 | ・ p. 132に示されているような事例が身の回りにはないかを考えさせてもよい。<br>・ p. 133のチェックポイントで, 根拠を吟味する観点を押さえるとよい。<br>【評】問題1, 2に取り組む活動を通して, 「知識・技能」を評価する。<br>・ 文章を読んだり, 相手の話を聞いたりするときには, 根拠を把握し, その根拠に説得力があるかどうかを吟味することが大切だということを確認する。 |

## 【 備 考 】

文学的な文章では, 言動や心理の描写, 情景の描写などに, 作者のものの見方や感じ方などが表れている。また, 説明的な文章では, 論の中心的部分だけでなく, 例示などがもつ効果が読み手を強く引きつける場合も少なくない。この単元では, こうした多様な描写や例示のあり方に注目しながら, 文章を読み深めることが目的となっている。また, 描写や例示などは, 書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え, 読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は, 用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく, 社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで, 学習の最初には, 敬語を使うべき場面はどこか, 敬語を使うとどのような効果があるのかについて, 実生活を振り返りながら考えさせ, 今後の生活に生かすようにしたい。

## 単元名 5 論理を捉えて 一 根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 自分の意見を支えるための適切な根拠を選ぶことができる。  
 (2) 根拠となる事実を具体的に示したり, 想定される反論に対する意見を示したりすることができる。  
 (3) 粘り強く根拠の適切さを考え, 学習の見通しをもって意見文を書こうとする。

## 標準的な展開例

11210210\_001

【準備等】知多の友

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 課題を決め, 分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動の目標を確認して学習の見通しをもち, 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★社会問題の中から課題を決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「説得力のある意見文」を書くためのポイントを確認する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を支える根拠として, 客観的な事実を挙げる。</li> <li>・根拠と意見を結び付ける。</li> <li>・反論とそれに対する考えを示す。</li> </ul> </li> <li>○意見文を書くための課題を社会問題の課題例から選ぶ。</li> <li>○選んだ課題についての情報を集める。</li> </ul> <p>○集めた情報を踏まえて, 自分の意見をもつ。</p> <p>2 立場を決めて考えをまとめ, 構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★立場を決めて考えをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○賛成・反対の立場を決め, 意見を支える根拠を考える。</li> <li>○自分の意見や根拠に対する反論を想定する。</li> </ul> <p>○自分の意見や根拠に対する反論を想定する。</p> <p>○想定した反論に対して, 意見を考える。</p> <p>○構成メモを作る。</p> <p>3 意見文にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★意見文にまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○構成メモを基に, 600～800字程度で意見文の下書きをする。</li> <li>○下書きを推敲する。</li> <li>○清書をする。</li> </ul> <p>4 意見文を友達と読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★意見文を読み合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と互いの意見文を読み合う。</li> <li>○根拠の適切さについて, 説得力があったところや改善点を伝え合う。</li> </ul> <p>○学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠の適切さを考えたか。</li> <li>・自分の意見が明確になるように, 文章の構成を工夫したか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標, 学習の見通しをもとう (p.134) または, 知多の友を参考に, 意見文を書く目的や留意点を確認し, 学習全体の流れをつかませる。</li> <li>・根拠の吟味 (p.132) を参考にして, 確認する。</li> <li>・「知多の友」に書かせるとよい。</li> <li>・「情報を集め, 自分の意見を決める例」(p.134) を参考に, 決めた課題に関する情報を集めさせ, 知多の友に書き込ませる。</li> <li>【評】課題についての情報を多角的な視点で集め, 書き出す活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・集めた情報の中から, 特に気になる事柄を取り上げさせ, それについてどう考えるのか, 自分の意見を一文程度の長さで簡潔にまとめて, 「知多の友」に記入させる。</li> <li>・「知多の友」に記入させる。</li> <li>・意見を導き出す基になった情報を中心に, その内容を具体的に書き出させ, 根拠を考えさせる。</li> <li>・友達同士で互いの課題について話合わせながら, 反論を予想させる。</li> <li>・反論に対する意見を書く際には, 根拠と同様に, 具体的な事実や例を示す必要があることを確認する。</li> <li>【評】想定した反論に対して, 意見を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・「構成のしかた」「構成メモ」(p.136) を参考に, 意見と根拠, 反論に対する意見を書く順序を考えさせる。</li> <li>・「知多の友」に書かせるとよい。</li> <li>【評】下書きを推敲する活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・原稿用紙を用意する。</li> <li>・小グループで回しながら読ませる。</li> <li>・知多の友を活用し, 互いを評価し合えるようにする。</li> <li>【評】友達の意見文を評価する活動を通して, 「知識・理解・技能」評価をする。</li> <li>・「つなぐ」(p.135) を読み, 学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</li> </ul> |

## 【備 考】

社会生活で求められる表現は, 多くの場合, 自らの立場と, そのような立場に立つ根拠を明確にした表現であ

る。この単元では、根拠の働きに注目して、論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。

また、論理的な表現では、一方的に自分の意見を述べるのではなく、他者の立場も尊重することで、多様な考え方に触れることができる。また立場の違う考え方からの反論を予想することで、論理に深みが増し、説得力も高まる。根拠の確かさとともに、そうした視点からも、論理の展開のしかたを確認させたい。

また、「根拠の適切さを考えて書こう」では、文章構成を学ぶ。自分の立場を最初に述べ、意見や根拠を述べていくことも、話合いや意見文を書くには必要なことである。

「知多の友」を使用する。



## 単元名 5 論理を捉えて ―漢字に親しもう4

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることができる。  
 (3) 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

## 標準的な展開例

11210211\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| 1 新出漢字を確認し、練習問題に取り組む。<br>○ 本時の学習課題を確認する。<br>★ 新出漢字を確認しよう。<br>○ 新出漢字を確認する。<br>○ 練習問題に取り組む。 | ・ 言葉の意味が分からないときは、国語辞典等で調べせるとよい。<br>・ p. 251 「〔練習〕小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。<br>【評】練習問題に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |

## 【 備 考 】

社会生活で求められる表現は、多くの場合、自らの立場と、そのような立場に立つ根拠を明確にした表現である。この単元では、根拠の働きに注目して、論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。

また、論理的な表現では、一方的に自分の意見を述べるのではなく、他者の立場も尊重することで、多様な考え方に触れることができる。また立場の違う考え方からの反論を予想することで、論理に深みが増し、説得力も高まる。根拠の確かさとともに、そうした視点からも、論理の展開のしかたを確認させたい。

また、「根拠の適切さを考えて書こう」では、文章構成を学ぶ。自分の立場を最初に述べ、意見や根拠を述べていくことも、話合いや意見文を書くには必要なことである。

## 単元名 5 論理を捉えて ―[討論]異なる立場から考える

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 賛成・反対のそれぞれの立場の人が、根拠となる①～⑧の事実からどのような意見を述べるかを考えることができる。
- (2) 同じ情報を基にしたり、同じ観点で考えたりしても、立場によって異なる意見になり得ることに気付くことができる。
- (3) 進んで意見と根拠の関係について理解し、今までの学習を生かして異なる立場の人の意見を想定しようとする。

## 標準的な展開例

11210212\_001

【準備等】国語指導CD

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 話題に対する投稿者の立場や意見を正しく理解し、自分の意見やその根拠を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★相手の考えを踏まえて、自分の意見を述べよう。</li> <li>○ 話し合いの基本的な心構えを理解する。</li> <li>○ 話題について関心をもつ。</li> <li>○ 「投書」(p.139)を読み、投稿者に「同意する」「反論する」の両方の立場で意見を考える。</li> <li>○ グループで意見交換する。</li> <li>○ グループごとに、意見交換で出た意見や反論をまとめて報告する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手意識をもつことが大切であることを確認する。</li> <li>・ 事前に「中学生にスマートフォンは必要か。」が話題であることを提示しておき、情報や資料を準備させておいてもよい。</li> <li>・ 教科書の例を参考にし、意見をノートや学習プリントにまとめさせる。</li> <li>・ グループで「同意」「反論」の立場を決めて5分程度話し合い、その後、立場を変えて再度意見交換を行うようにする。</li> <li>【評】立場を意識して意見を述べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 説得力のあった意見や根拠、解決策や別の視点の意見などを全体で発表させ、交流させたい。</li> </ul> |

## 【備 考】

社会生活で求められる表現は、多くの場合、自らの立場と、そのような立場に立つ根拠を明確にした表現である。この単元では、根拠の働きに注目して、論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。

また、論理的な表現では、一方的に自分の意見を述べるのではなく、他者の立場も尊重することで、多様な考え方に触れることができる。また立場の違う考え方からの反論を予想することで、論理に深みが増し、説得力も高まる。根拠の確かさとともに、そうした視点からも、論理の展開のしかたを確認させたい。

討論会は、いろいろな立場の考え方を知ること、自分の考えを深めたり、広めたりすることに役立つ。それは、自身の言語能力を高め、今後の学級・学校での話し合いに活用することができるであろう。また、「根拠の適切さを考えて書こう」では、文章構成を学ぶ。自分の立場を最初に述べ、意見や根拠を述べていくことも、話し合いや意見文を書くには必要なことである。

単元名 5 論理を捉えて 一立場を尊重して話し合おう 討論で多角的に検討する 配当時間 4時間

単元の目標 (1) 説得力のある根拠と共に、意見をまとめることができる。  
 (2) 地域や社会で話題になっていることの中からテーマを決め、異なる立場の人の考えを予想しながら考えをまとめることができる。  
 互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて話すことができる。  
 (3) 進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとする。

### 標準的な展開例

11210213\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 討論のテーマを決め、情報を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題を確認する。</li> <li>★ 討論のテーマを決めよう。</li> <li>○ 地域や社会で話題になっていることの中から、討論したいテーマを探す。</li> <li>○ 賛成・反対の立場を決める前に、広く情報を集め、整理する。</li> </ul> <p>2 立場を決めて、考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題を確認する。</li> <li>★ 立場を決めて、考えをまとめよう。</li> <li>○ 前時の情報を踏まえて、自分の立場を決め、意見と根拠をまとめる。</li> <li>○ 異なる立場の人の考えを予想し、それに対する答えを考える。</li> </ul> <p>3 グループで討論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題を確認する。</li> <li>★ グループで討論しよう。</li> <li>○ 「討論する」(p.142)を参考に、討論の流れや意見の伝え方、質問の仕方を確認する。</li> <li>○ 討論するグループを作る。</li> <li>○ 討論する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマを確認し、一人ずつ意見を述べる。</li> <li>・ 立場を意識して、討論する。</li> <li>・ 一人ずつまとめの発言をし、司会が結論をまとめる。</li> </ul> </li> </ul> <p>4 討論を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題を確認する。</li> <li>★ 討論を振り返ろう。</li> <li>○ 前時とは違うグループでもう一度討論する。</li> <li>○ 討論を振り返る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 討論による考えの深まりや広がりについて伝え合う。</li> </ul> </li> <li>○ 学習を振り返る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 客観性の高い根拠を基に考えをまとめたか。</li> <li>・ 討論をするときに、どのようなことに気を付けたか。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「テーマ例」(p.140)から賛否や是非の分かれるものを選ばせるとよい。</li> <li>【評】 情報を集め、整理する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 「根拠の吟味」(p.132)を参考にさせる。</li> <li>【評】 自分の意見をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 「根拠の適切さを考えて書こう」(p.134), 「異なる立場から考える」(p.139)を参考にさせる。</li> <li>・ DVDや二次元コードを活用してもよい。</li> <li>・ 司会者1名、各立場(賛成・反対)の人2, 3人のグループを作らせる。</li> <li>・ 討論は、本時と次時で2回行うことを伝え、できるだけ司会者と討論する側の両方を経験させるようにする。</li> <li>【評】 討論をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 前時で司会者をした人が討論する側になるよう配慮する。</li> <li>【評】 討論をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 討論のメモを残すことで、互いの考えの共通点や相違点を視覚化して振り返ることもできる。</li> <li>・ 「つなぐ」(p.141)を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</li> <li>【評】 学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

### 【 備 考 】

社会生活で求められる表現は、多くの場合、自らの立場と、そのような立場に立つ根拠を明確にした表現である。この単元では、根拠の働きに注目して、論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。

また、論理的な表現では、一方的に自分の意見を述べるのではなく、他者の立場も尊重することで、多様な考え方に触れることができる。また立場の違う考え方からの反論を予想することで、論理に深みが増し、説得力も高まる。根拠の確かさとともに、そうした視点からも、論理の展開のしかたを確認させたい。

討論会は、いろいろな立場の考え方を知ること、自分の考えを深めたり、広めたりすることに役立つ。それは、自身の言語能力を高め、今後の学級・学校での話し合いに活用することができるであろう。また、「根拠の適切さを考えて書こう」では、文章構成を学ぶ。自分の立場を最初に述べ、意見や根拠を述べていくことも、話し合いや意見文を書くには必要なことである。

## 単元名 5 論理を捉えて 一音読を楽しもう 月夜の浜辺

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 詩の中の語句に着目し、詩全体の世界を豊かに想像することができる。  
 (2) 詩の中の反復表現、対句表現、反語表現に着目し、その効果を考えることができる。  
 (3) 進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を朗読しようとする。

## 標準的な展開例

11210214\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「月夜の浜辺」をイメージし、本時の学習課題をつかむ</li> <li>★言葉の響きやリズムを味わいながら朗読してみよう。</li> <li>○詩を読み、全体のイメージをつかむ。</li> <li>○詩を声に出して読む。</li> </ul> <p>○表現に着目し、その効果について考える。</p> <p>○言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。</p> <p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩のどのような表現に着目して作者の思いを捉えたかを考える。</li> <li>・朗読して感じたことを文章にまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語指導CDを活用してもよい。</li> <li>・口語定型詩であるが、文語で書かれていることを押さえ、読み方に注意させる。</li> <li>・反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像させる。</li> </ul> <p>【評】詩の表現の効果を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・七音の繰り返しのリズムや反復の効果を味わわせ、情景や心情を想像しながら読ませる。</li> <li>・時間があれば、振り返りをグループで交流させてもよい。</li> </ul> <p>【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【備 考】

社会生活で求められる表現は、多くの場合、自らの立場と、そのような立場に立つ根拠を明確にした表現である。この単元では、根拠の働きに注目して、論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。

また、論理的な表現では、一方的に自分の意見を述べるのではなく、他者の立場も尊重することで、多様な考え方に触れることができる。また立場の違う考え方からの反論を予想することで、論理に深みが増し、説得力も高まる。根拠の確かさとともに、そうした視点からも、論理の展開のしかたを確認させたい。

討論会は、いろいろな立場の考え方を知ること、自分の考えを深めたり、広めたりすることに役立つ。それは、自身の言語能力を高め、今後の学級・学校での話合いに活用することができるであろう。また、「根拠の適切さを考えて書こう」では、文章構成を学ぶ。自分の立場を最初に述べ、意見や根拠を述べていくことも、話合いや意見文を書くには必要なことである。

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 単元名   | 6 いにしへの心を訪ねる 一源氏と平家 音読を楽しもう 平家物語   | 配当時間 | 1時間 |
| 単元の目標 | (1) 漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読することができる。<br>冒頭部分の現代語訳を読んで、「無常観」を感じ取ることができる。<br>(3) 進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、学習課題に沿って朗読しようとする。 |      |     |

## 標準的な展開例

11210215\_001

【準備等】源平合戦の絵図、地図、琵琶の写真、国語指導CD、再生機、平曲（平家琵琶）CD、DVD

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 「平家物語」の冒頭部分を音読し、文語文独特の調子やリズムや表現に慣れる。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★「平家物語」について知り、冒頭部分を朗読しよう。</p> <p>○ 「平家物語」のあらすじを理解する。</p> <p>○ 冒頭部分の範読を聞く。</p> <p>○ 冒頭部分を繰り返し朗読する。</p> <p>○ 現代語訳を参考にしながら、朗読する。</p> <p>○ 「平家物語」の特徴やものの見方、世界観についてまとめる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平家物語」に登場する義経、弁慶、清盛、義仲について、知っていることを発表させたり、平曲を聞かせたりすることで関心を高めたい。</li> <li>・重要な人物(清盛、義経、義仲、弁慶など)、有名な場面(義経の鶴越、敦盛の最後、壇ノ浦の戦い)について、資料を用いながら説明する。</li> <li>・教師による範読か、国語指導CDを利用し、歴史的仮名遣いや文の区切り、古文特有の言い回しに注意させながら聞かせる。</li> <li>・冒頭部分を読むことで、「平家物語」独特の和漢混淆文のリズムや対句表現などを体感させたい。</li> </ul> <p>【評】繰り返し朗読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原文、現代語訳ともに、比喻表現に着目させる。</li> <li>・冒頭部分に描かれている「無常観」について感想をまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】感想をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

古文や漢文には、それぞれ時代やジャンルなどによる特有の調子やリズムなどがあり、それが古典としての魅力を支える要因の一つにもなっている。また、古典には、現代に通じるものの見方や考え方のほかに、現代とは違った、あるいは現代人は忘れてしまったものの見方や考え方などが描かれている。現代語訳や関連する資料等も参考にしながら、昔の人の心に触れ、古典の世界を楽しみながら、今を生きる自分たちを振り返るきっかけとしたい。

言語活動としては、その特徴をつかんだ朗読を通して古典に親しんだり、読み取った内容を伝え合わせたりして、より古典の世界を味わわせたい。

## 単元名 6 いにしへの心を訪ねる 一扇の的 「平家物語」から

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読することができる。  
与一や義経の言動、扇の  
的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えることができる。  
(2) 「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めることができる。  
(3) 進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとする

## 標準的な展開例

11210216\_001

【準備等】国語指導CD、再生機、「平家物語画帖」拡大図

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 古典特有の表現やリズムに注意しながら朗読し、全体のあらすじを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目標(p.151)を確かめ、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★古文を繰り返し読み、あらすじを捉えよう。</li> <li>○与一が扇を射るまでの経緯を知る。</li> <li>○「扇の的」の全文の範読を聞く。</li> <li>○歴史的仮名遣いや文語文特有の言葉や語形、区切り方、七五調や対句表現などに気を付けながら朗読する。</li> <li>○現代語訳を参考にしながら、原文で書かれている部分のあらすじを捉える。</li> </ul> <p>2 場面の状況や登場人物の心情を読み取り、表現技法の効果について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「扇の的」の原文を朗読する。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★場面の状況や人物の心情を読み取り、表現の効果について考えよう。</li> <li>○扇を射るまでの部分(p.152～p.153)を読んで、場面の状況や登場人物の心情を捉える。</li> <li>○扇を射る場面(p.154)を読んで、場面の状況や登場人物の心情を捉える。</li> <li>○朗読した部分に用いられている表現技法を知り、その効果について考える。</li> </ul> <p>3 物語に描かれているものの見方や考え方について自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★物語に描かれているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。</li> <li>○的を射た場面(p.154～p.155)を読んで、場面の状況や登場人物の心情を捉える。</li> <li>○「弓流し」(p.156)の場面を読み、場面の状況や登場人物の心情を捉える。</li> <li>○平家物語に描かれているものの見方や考え方について、自分の考えをまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の流れについて簡単に説明しておく。</li> <li>・場面の状況や那須与一、義経の言動に着目しながら、「本文」(p.151～p.152)を読む。</li> <li>・国語指導CDを利用してもよい。</li> <li>・歴史的仮名遣いや古典特有の言い回しなどに注意しながら聞かせる。</li> <li>・個人、隣同士、グループ等、形態を変えながら練習をさせるとよい。</li> <li>【評】古典特有の表現やリズムに注意して朗読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・次の三つの場面を確認する。<br/>①義仲に都を追われた平家一門が、さらに屋島に退くまでの場面<br/>②若い郎党でありながら、義経の命令に覚悟を決め、合戦の命運を託された那須与一と主君の命を受けた与一が男の首を射貫く場面<br/>③戦いの中、自分の弓を落としてしまい、弱い弓と言われることを恥とし、危険も顧みずに義経が拾い上げる場面</li> <li>・朗読を繰り返しながら内容を把握させたい。</li> <li>・緊迫した状況の中での、与一の言動に着目させ、心情に迫りたい。</li> <li>・原文とともに、那須与一、扇の的を射る「平家物語画帖」(p.152)を参照させ、情景を想像する手がかりとする。</li> <li>【評】場面の状況や人物の心情を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・対句、擬声語、色彩表現、内心を描く表現などに気付かせたい。</li> <li>・緊迫した状況の中での与一の心情について、もう一度確認する。</li> <li>・「年五十ばかりなる男」が舞った理由、男を射倒した与一の心情、「あ、射たり。」「情けなし。」と正反対の声が上がった理由について、文章表現を根拠にして考えさせたい。</li> <li>・弓を拾おうとしたことについての、老臣の考えと義経の思いを比べて、自分の考えをまとめさせる。</li> <li>・文章表現を根拠にして、自分の考えをまとめさせる。</li> <li>【評】平家物語に描かれていることに対して、自分の考えをまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

【 備 考 】

## 単元名 6 いにしへの心を訪ねる 一仁和寺にある法師―「徒然草」から

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読することができる。  
現代語訳や語注などを手  
掛かりにして、法師の言動やそれに対する作者のものの見方、考え方を理解することができる。  
(2) 法師と同じような経験がないかを踏まえて、考えたことを話し合うことができる。  
文章の構  
成を工夫して、古典の登場人物について論じる文章を書くことができる。  
(3) 積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとする。

## 標準的な展開例

11210217\_001

【準備等】国語指導CD，再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 「序段」「仁和寺にある法師」を朗読し、「序段」の内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「目標」(p.158)を確かめ、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★全文を朗読し、「序段」の内容を捉えよう。</li> <li>○序段を歴史的仮名遣いや古語の読み、省略されている助詞や語句などに注意しながら、朗読する。</li> <li>○序段の内容を捉え、作者の考え方を読み取る。</li> </ul> <p>○「仁和寺にある法師」を歴史的仮名遣いや古語の読みを確認しながら聞く。</p> <p>○「仁和寺にある法師」を朗読する。</p> <p>2 「仁和寺にある法師」を朗読し、作者のものの見方や感じ方を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「仁和寺にある法師」を朗読し、作者のものの見方や感じ方を読み取ろう。</li> <li>○「仁和寺にある法師」を朗読する。</li> <li>○仁和寺の法師の言動に注目しながら、あらすじを理解する。</li> <li>○仁和寺の法師の失敗について考える。</li> <li>○仁和寺の法師の言動について、兼好法師がどのように考えているかを話し合う。</li> <li>○学習を振り返る。</li> </ul> <p>3 登場人物の特徴を捉え、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★古典の登場人物の特徴と、自分の考えを論じよう。</li> <li>○「平家物語」「徒然草」の登場人物から、論じる人物を決める。</li> <li>○人物の特徴を一文程度で表し、その根拠を明確にまとめる。</li> <li>○書き上げた文を読み合い、感想や意見を交換する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による範読，または国語指導CDを利用する。</li> <li>・兼好法師について説明しておく。</li> <li>・冒頭部分の現代語訳から、作者の生き方や考え方が分かることについて触れる。</li> <li>・「つれづれ」「日暮らし」「そこはかとなく」など、兼好法師が「徒然草」の執筆を始めた理由を考えさせる。</li> <li>【評】「徒然草」執筆の動機について読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・歴史的仮名遣い等を確認しながら教師が読む</li> <li>・範読のあとに続いて読む，ペアで読み合う，グループで分担して読む，群読をするなど，生徒の実態に応じてさまざまな形態で朗読させるとよい。</li> <li>・前時の学習を想起し，正確に朗読させる。</li> <li>・「心うし」「ゆかし」「あらまほし」「本意なれと思ひ」などの言葉の意味に着目し，法師の心の動きを読み取らせる。</li> <li>・傍注を手がかりに，法師がどうして失敗したのかを，多様な視点から考えさせたい。</li> <li>【評】法師の失敗の原因を読み取る活動を通して，「知識・技能」を評価する。</li> <li>・最後の一文の意味を考えさせる。ただの皮肉ではなく，「先達がいれば，仁和寺の法師も長年の願いを果たすことができたのに」という残念な思いが含まれていることに気付かせたい。</li> <li>・「学習を振り返る」(p.160)を使って，自己評価させる。</li> <li>・前時までの古典学習を振り返って，登場人物を挙げてよい。</li> <li>・例文 (p.161)を参考にし，300字程度の文章にまとめさせる。</li> <li>・①人物の特徴，②文章から読み取れること，③自分の考えや感想，という構成に留意して書かせる。</li> <li>【評】人物の特徴とその根拠，自分の考えを書く活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・同じ人物を選んだ生徒同士，異なる人物を選んだ生徒同士など，実態に応じてグループ編成をする。</li> </ul> |

【 備 考 】

## 単元名 6 いにしへの心を訪ねる ー漢詩の風景

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読することができる。  
 (2) 好きな漢詩を選び、自分の知識や経験と結び付けて、その理由を伝え合うことができる。  
 (3) 進んで作品の特徴を生かして朗読し、学習課題に沿って好きな漢詩を選び、その理由を述べようとする。

## 標準的な展開例

11210218\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 漢詩を学習するにあたって、訓読の仕方を知り、漢詩特有の言葉遣いや調子に気をつけて読む。<br/>         ○「目標」(p.162)を読み、本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★漢詩についての基礎知識を学び、漢詩を読もう。</p> <p>○教材にある3編の詩の中国語読みを聞き、中国文学としての意識をもつ。<br/>         ○「春暁」の書き下し文、訓読文、訓点のある文を読む練習をする。</p> <p>○「春暁」に描かれている情景や作者の心情を話し合う。</p> <p>○読み取った情景や心情を踏まえて、もう一度朗読する。</p> <p>2 漢詩に描かれている情景や作者の心情を捉える。<br/>         ○前時の復習をし、本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★「絶句」「黄鶴楼にて……」を朗読し、情景や心情を読み取ろう。<br/>         ○「絶句」「黄鶴楼にて……」を朗読する。</p> <p>○「絶句」「黄鶴楼にて……」に描かれている情景や作者の心情について話し合う。</p> <p>○それぞれの詩に描かれているイメージを踏まえて朗読する。</p> <p>3 学習した3編の詩から、自分の好きな1編を選び、好きな表現や句を抜き出し、その理由を考えたり、作者の表現の意図を考えたりする。<br/>         ○本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★自分の好きな詩を選び、読み深めよう<br/>         ○好きな詩を選び、好きな表現や句を理由とともに発表する。<br/>         ○3編の詩についてそれぞれの作者の意図を話し合う。</p> <p>○グループで意見交流を行う。</p> <p>○自分の選んだ詩を朗読する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の学習の流れについて説明しておく。</li> <li>・漢詩の意味や鑑賞について述べている解説文と、漢詩3編から成り立っていることを確認する。</li> <li>・「春暁」「絶句」は五言絶句、「黄鶴楼にて……」は七言絶句であることを説明する。</li> <li>・「起承転結」の構成についても理解させ、現在も4コマ漫画をはじめ、様々な作品の構成法として用いられていることを紹介するとよい。</li> <li>・漢詩の形式の一つとして、「春望」(p.153)が五言律詩であることに触れておく。</li> <li>・白文→訓読文→書き下し文とする手順を確認する。</li> <li>・できれば、国語指導CDなどを使って中国語で聞かせる。</li> <li>・繰り返し声に出して読ませる際、読みに自信のない語句に印を付けさせたり、歴史的仮名遣いの箇所を示したりするとよい。</li> <li>【評】訓読文を見て漢詩を読む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・教科書の解説文を手がかりに内容を読み取り春の明け方の心地よい眠りが、主題であることに気付かせる。</li> <li>【評】「春暁」を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・漢詩の基礎知識について簡単に振り返る。</li> <li>・繰り返し声に出して読ませる際、読みに自信のない語句に印を付けさせたり、歴史的仮名遣いの箇所を示したりするとよい。</li> <li>・「絶句」については、前半の2句が対句になっていることに触れておく。</li> <li>・解説文を参考に、それぞれの詩の季節や描かれている情景、作者の心情についてまとめさせる。</li> <li>【評】それぞれの詩に描かれている情景や作者の心情を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】情景や心情を考えながら朗読する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・それぞれの詩について、書き込みをするなどして、作者の表現の意図に迫らせる。</li> <li>【評】作者の意図を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・4人程度のグループで、それぞれの意見を交流し合う。</li> <li>・代表者にグループで出た意見を理由とともに発表させる。また、他のグループからの質問があれば出させてもよい。</li> <li>・学級の実態に合わせて、個人またはグループ</li> </ul> |



○学習を振り返る。

で行う。  
【評】詩のイメージを踏まえ、朗読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。  
・学習を振り返る(p. 167)を読んで、自己評価させる。

【 備 考 】

古文や漢文には、それぞれ時代やジャンルなどによる特有の調子やリズムなどがあり、それが古典としての魅力を支える要因の一つにもなっている。また、古典には、現代に通じるものの見方や考え方のほかに、現代とは違った、あるいは現代人は忘れてしまったものの見方や考え方などが描かれている。現代語訳や関連する資料等も参考にしながら、昔の人の心に触れ、古典の世界を楽しみながら、今を生きる自分たちを振り返るきっかけとしたい。

言語活動としては、その特徴をつかんだ朗読を通して古典に親しんだり、読み取った内容を伝え合わせたりして、より古典の世界を味わわせたい。

## 単元名 7 価値を語る ―君は「最後の晩餐」を知っているか

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 筆者がどのような例示(具体)を基に、「最後の晩餐」を「カッコいい。」(抽象)と述べているのかを理解することができる。  
二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理することができる。  
(2) 二つの文章に書かれていることを比較したり、関係づけたりしながら、それぞれの文章が書かれた目的や意図を考えることができる。  
文章の構成や表現の特徴について、二つの文章を比較して発見したことを発表することができる。  
(3) 粘り強く観点を明確にして文章を比較し、今までの学習を生かして考えたことを文章にまとめようとする。

## 標準的な展開例

11210219\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 文章を読み、感じたことや考えたことをまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「目標」(p.170)を読み、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★本文を読んで感想をもち、発表しよう。</li> <li>○図版(p.171, p.172)を見て、気づいたことや感想を発表する。</li> <li>○題名「君は『最後の晩餐』を知っているか」から、筆者が何を論じているか予想する。</li> <li>○文章を通読し、あらすじをつかむ。</li> <li>○観点を基に、書かれている事柄と順序について考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・何について、どのような順序で書かれているか</li> <li>・興味をもったこと</li> <li>・気になった言葉やキーワードと考えられる言葉</li> <li>・表現上の工夫</li> </ul> </li> <li>○文章の内容や構成について知る。</li> <li>○感想を書き、交流する。</li> </ul> <p>2 文章全体の構成をつかみ、「解剖学」「遠近法」「明暗法」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★文章全体の構成をつかみ、「解剖学」「遠近法」「明暗法」を理解しよう。</li> <li>○全体の構成をつかむ。</li> <li>○各まとめごとに小見出しを考え、発表する。</li> <li>○「解剖学」「遠近法」「明暗法」について、文章と図版から理解する。</li> <li>○「『最後の晩餐』を『カッコいい。』と思わせる一つの要因」であることを捉える。</li> </ul> <p>3 筆者が「最後の晩餐」を「カッコいい。」と思った根拠を明らかにし、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「最後の晩餐」を「カッコいい。」と思った理由について考えよう。</li> <li>○第16段落「これが『最後の晩餐』を『カッコいい。』と思</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・描いてあること(事実)、絵から感じたり考えたこと(意見)に分けて付箋に書き、図版に貼り付ける。</li> <li>・付箋をもとに、知っていたことや感じたこと疑問に思ったところなどを発表させる。</li> <li>・学習の窓(p.182)を読んで、「評論」の特色と学習の方向性について触れておく。</li> <li>・漢字の読みや意味のつかみにくい語句、欄外の語句などについて確認させる。</li> <li>・観点ごとにノートにまとめさせる。</li> <li>・序論、本論、結論の三つの構成になっていることを確認する。</li> <li>・友達の発表を聞いて、印象に残ったものや参考になったものを書くようにさせる。</li> <li>【評】感想や自分の意見を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・前時に分けたまとまりを確認する。</li> <li>・ノートや学習プリントを使って、全体の構成と小見出しを書き込ませる。</li> <li>・グループで発表させたり、全体で発表させたりしながら意見を交流させることで相互評価させたい。</li> <li>【評】内容に即した小見出しを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・「レオナルドの絵は、それまでの絵画とは違う、全く新しいものだった」(p.170)に着目させ、具体的な根拠となっている「解剖学」「遠近法」「明暗法」を導き出す。</li> <li>・文中の言葉を効果的に使って、それぞれについてノートや学習プリントにまとめさせる。</li> <li>【評】「解剖学」「遠近法」「明暗法」をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・「解剖学」「遠近法」「明暗法」が「絵画の科学」であり、誰も描かなかった新しい絵を生み出したことを確認する。</li> <li>・「解剖学」「遠近法」「明暗法」についてまとめたことを、もう一度確認する。</li> <li>・「カッコいい。」の根拠が、「絵画の理論」</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <p>わせる一つの要因だろう」(p. 178)から「絵画の科学」として挙げてある3点について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第17段落(p. 178)からの「絵の修復」について筆者はどのように考えているのか、考える。</li> <li>○第19段落「だから、いきなり『かっこいい』と思えるのだ」(p. 179)についてグループで話し合う。</li> <li>○筆者の述べる「本当の魅力」について考える。</li> <li>○筆者が「最後の晚餐」を「かっこいい」と思った理由を「かっこいい」「見えなかった」「全体」というキーワードを使ってまとめる。</li> <li>○本時の学習のまとめをする。</li> </ul> <p>4 筆者のものの見方や考え方について、考えたことをまとめ、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★筆者のものの見方や考え方について、自分の考えをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○筆者の絵画の見方や感じ方について、自分の考えをまとめる。</li> </ul> <p>○グループで自分の考えを述べ合い、交流する。</p> <p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較によって初めて気付いたことや理解が深まったことを踏まえて、文章を比較することの効果友達に報告する。</li> <li>・二つの文章に使われていた構成や表現のいずれかを取り入れ、自分が好きな作品について論じる。</li> </ul> | <p>だけでないことに気付かせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は修復後の絵を見たとき、「物の輪郭が作る形。その連なり。」や「絵の構図がもっている画家の意図。」から「絵画の科学を駆使して表現しようとしたもの」が見えてくると気付いたことを確認する。</li> <li>・「結論」の文章をもう一度確認させ、筆者の考え方を整理させる。</li> <li>・どのような「修復」が行われ、どのような状態になったのか、文章を基に発表させ、意見を交流させる。</li> <li>・「ところが」(p. 161)に着目させ、現在の「最後の晚餐」を筆者がどのように見ているのかに気付かせたい。</li> </ul> <p>【評】文中のキーワードを用いてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめた文章を何人かに発表させ、全体で交流する。</li> <li>・「学習の窓」(p. 182)を示し、この文章が評論であることを確認し、筆者の文章の魅力について考えることを伝える。</li> <li>・必要に応じて、意見をもつための観点を与えるとよい。(違う解釈、同じ解釈、納得する点、納得できない点、自分の知識との比較など)</li> </ul> <p>【評】筆者の考えに対する自分の意見をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の意見を聞いて、疑問を発したり、別の考え方を示したりして、活発な交流ができるようにしたい。</li> </ul> <p>【評】自分の考えを述べて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めに絵を見たり文章を読んだりして感じたことを振り返り、どのように考えが深まり広がったのかを確かめさせてもよい。</li> </ul> |
|--|--|

【 備 考 】  
 社会生活で求められる表現は多くの場合、自らの立場と、そのような立場に立つ根拠を明確にした表現である。この単元では、根拠に注目して論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。  
 また、論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える根拠としての具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは必要である。ここでは、論点を明確にすることを通して、読んだり書いたり話し合ったりしながら、考えを深めていく学習をする。

単元名 7 価値を語る ―魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く 配当時間 2時間

単元の目標 (1) 作品の魅力を伝える言葉にはどんなものがあるかを考え、より効果的な語句や表現を選ぶことができる。  
(2) 作品の魅力が伝わるよう、作品に描いている様子を具体的に説明することができる。  
友達と鑑賞文を読み合い、意見交換をすることで、自分の鑑賞文のよさや改善点を見いだすことができる。  
(3) 進んで表現の効果を考えて描写し、今までの学習を生かして鑑賞文を書こうとする。

### 標準的な展開例

11210220\_001

【準備等】知多の友、付箋

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 表現の効果を考えて、鑑賞文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 表現の工夫をを考えて、鑑賞文を書こう。</li> <li>○ 作品を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品を鑑賞し、魅力を一文で表す。</li> <li>・ 根拠となる具体的な特徴、感じたこと・想像したことを付箋などに書き出す。</li> </ul> </li> <li>○ 表現の効果を考える。</li> </ul> <p>○ 鑑賞文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み手を意識して、200字程度で書く。</li> </ul> <p>2 鑑賞文を読み合い、意見交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 鑑賞文を読み合おう。</li> <li>○ 文章を読み合い、意見交換をする。</li> </ul> <p>○ 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品の魅力が伝わるように、言葉や表現をどのように工夫したか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「美術作品を鑑賞するときの観点」「感じたことを表す言葉」(p. 185)を用いて鑑賞させることもできる。</li> <li>・ 「知多の友」を活用する。</li> <li>・ 作品をじっくりと見て、書き出した付箋を見直し、よりよい語句や表現、それらの効果を考えるとよい。</li> <li>・ 知多の友に書かせる。</li> <li>・ 作品を知らない人が具体的にイメージでき、作品を見たいと思うような文章であるかという視点をもって推敲させるとよい。</li> </ul> <p>【評】鑑賞文を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鑑賞する作品を同じにすると、互いの鑑賞文が比較しやすく、自分の表現の改善点も見いだしやすくなる。</li> <li>・ 「知多の友」を活用する。</li> </ul> <p>【評】意見交換する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

社会生活で求められる表現は多くの場合、自らの立場と、そのような立場に立つ根拠を明確にした表現である。この単元では、根拠に注目して論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。

また、論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える根拠としての具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確にたれておくことは必要である。ここでは、論点を明確にすることを通して、読んだり書いたり話し合ったりしながら、考えを深めていく学習をする。

「知多の友」を使用する。

単元名 7 価値を語る ―漢字に親しもう5

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることができる。  
(3) 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

標準的な展開例

11210221\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| 1 新出漢字を確認し、練習問題に取り組む。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★新出漢字を確認し、練習問題に取り組もう。<br>○ 新出漢字を確認する。<br>○ 練習問題に取り組む。 | ・「〔練習〕小学校六年生で学習した漢字」(p.251)にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。<br>【評】練習問題に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |

【 備 考 】

単元名 7 価値を語る 一文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 用言の活用形の種類と活用の種類について、語例を基に理解することができる。  
 (3) 今までの学習を生かして、積極的に単語の活用について理解しようとする。

## 標準的な展開例

11210222\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 教材文(p.187)を読み、動詞の活用について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「活用」について復習する。</li> <li>「走る」の活用を確認し、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「歩く」「笑う」「起きる」「食べる」について、活用を考えよう。</li> <li>活用表の形式で、それぞれの活用を考える。</li> <li>「2 用言の活用」(p.239)を参考に、動詞の活用を確認する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>六つの活用形</li> <li>語幹</li> <li>活用語尾</li> <li>活用の種類</li> <li>音便</li> </ul> </li> <li>カ行変格活用、サ行変格活用の活用を理解する。</li> <li>「練習問題」(p.240)に取り組む。</li> </ul> <p>2 形容詞、形容動詞の変化の仕方と種類を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★形容詞と形容動詞はどのように活用するのか考えよう</li> <li>形容詞の活用について知る。</li> <li>形容動詞の活用について知る。</li> <li>「形容詞、形容動詞の活用」(p.241)を見て、活用の確認をする。</li> <li>形容詞の音便について知る。</li> <li>「美しい」「自由だ」(p.241)の表を完成させる。</li> <li>「平和だ」と「平和+だ」の違いについて知る。</li> <li>「練習問題」(p.241)に取り組み、動詞の活用との違いを理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「活用」(p.238)を読み、活用とは「後に続く言葉や文中での働きによって語形が変化すること」であることを復習する。</li> <li>「挿絵の吹き出し」(p.187)を読ませる。</li> <li>活用表をプリントして配布するとよい。</li> <li>活用表のプリントにまとめられた動詞の変化の規則性を考えさせるとよい。</li> <li>活用する形の分類を「活用形」、変化しない部分を「語幹」、語が変化する部分を「活用語尾」ということを、表を使って説明する。</li> <li>「見る」「着る」など、2音の動詞は語幹が取り出せないものもあるので、気を付けさせる。</li> </ul> <p>【評】動詞の活用の種類を見分ける活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時に学習した動詞の活用について、想起させるとよい。</li> <li>「活用表」(p.241)から、「かわいい」の語幹と活用語尾を空欄にした学習プリントを作成し、教科書を閉じた上で、一つ一つ説明しながら埋めていくとよい。</li> <li>活用表(p.241)から、「静かだ」の語幹と活用語尾を空欄にした学習プリントを作成し、教科書を閉じた上で、一つ一つ説明しながら埋めていくとよい。</li> <li>形容動詞の「元気です」について、補足説明をしておく。</li> <li>「おはようございます」「ありがとうございます」「おめでとうございます」など、身近な言葉にあることも触れる。</li> <li>形容詞や形容動詞で、活用という点ではそれぞれ一通りしかないと理解させる。</li> </ul> <p>【評】形容詞と形容動詞の活用の違いを理解して、活用表を完成させる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「平和だ」以外にも、「自由だ」「健康だ」などがある。</li> <li>①活用の種類が一つ、②50音図の行や段とは無関係、③命令形がない、④連用形に「ない」が接続する、の4点を整理して気付かせたい。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

社会生活で求められている表現の多くの場合、自らの立場と、そのような立場に立つ根拠を明確にした表現である。この単元では、根拠に注目して論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。

また、論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える根拠としての具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは必要である。ここでは、論点を明確にすることを通して、読んだり書いたり話し合ったりしながら、考えを深めていく学習をする。

## 単元名 読書に親しむ 研究の現場によこそ

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 教材文を通して研究者の考え方や探究心に触れ、研究に関わるさまざまな本を読むことができる。  
 (2) 教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、感想を伝え合うことができる。  
 (3) 進んで、本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとする。

## 標準的な展開例

11210223\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| 1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★ さまざまな読書活動を知ろう。<br>○ 「研究の現場によこそ」を通読する。<br><br>○ 「クモの糸でバイオリン」を通読する。<br><br>○ 感想を伝え合う。<br>・ 教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。<br>○ 「本の世界を広げよう」(p. 191)を参考に、今後読みたい本を考える。 | ・ 二次元コードで、教科書に掲載されている文章の続きや、他の研究者のインタビュー記事を読めることを伝え、読書を促すとよい。<br>・ 実物の本を提示したり、学校図書館に置いたりすることで、生徒が本を手に取りやすくしたい。<br>【評】感想を伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 |

## 【 備 考 】

人々は、時に過酷な状況を生きなければならないことがある。そして、その中で、苦しみを背負いながらも、自らの役割を見いだすなどして強く生きる人々がいる。読書を通して、そうした人々の生きる姿に触れさせ、自らの生き方と関わらせながら考えさせたい。

また、中学2年生という多感な時期には、種々の読み物に触れさせることが大切である。テーマや作家を決めて読み深めたり、ジャンルを決めて読み進めたり、場合によっては本とは、あるいは読書とは何かを考えさせる読み物にも触れさせたい。

文章を読んで考えたことをグループで伝え合う活動を通して、友達の考えに対して質問や共感、意見などを交流し、改めて自分の考えを見つめさせたい。その交流の中から、興味や関心をもったことをこれからの生活や読書活動に生かしていったほしい。

## 単元名 (書写)行書と仮名を調和させて書いてみよう

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 行書と仮名を調和させて書くことができる。  
(3) 学習したことを、日常生活の様々な書式に生かそうとする。

## 標準的な展開例

11210224\_001

【教材名】「喜びの声」「いろは歌」(P. 64～P. 77)

【準備等】DVD-ROM, 毛筆のための練習用紙, 半紙二分の一サイズの用紙, 色紙, 短冊, 学習プリント(硬筆)

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 点画の変化と連続を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまで学習してきた行書について確認する。</li> <li>○「漢字の行書と仮名を調和させて書くこと」について知る。</li> <li>○「喜びの声」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★点画の連続を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書(p. 64)の「喜びの声」を指でなぞり、筆脈の表れている部分や漢字と仮名の大きさについて知り、自己課題を設定する。</li> <li>○「喜びの声」を、毛筆で練習用紙や半紙に練習して、批評する。</li> <li>○毛筆でまとめ書きをする。</li> <li>○硬筆で「喜びの声」を書き、本時の振り返りを行う。</li> </ul> <p>2 配列を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時に、点画の変化と連続を学習して書いたことを想起させる。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★点画の連続と配列を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の作品「喜びの声」を示範や教科書の文字(p. 64)と比べて、自己の課題を見直し設定する。</li> <li>○「喜びの声」を毛筆で、練習用紙や半紙に練習して、批評する。</li> <li>○毛筆でまとめ書きをする。</li> <li>○教科書(p. 65)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。</li> </ul> <p>3 行書に調和する仮名の筆使いを理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習を振り返り、行書に調和する仮名の書き方を確かめる。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★行書に調和する仮名の筆使いを確かめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○楷書との違いを意識しながら、基準を確認する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の特徴(p. 62～p. 63)や、1年時に行書の導入で指導した内容(p. 42～p. 43)を参照させる。</li> <li>・日本語は漢字と仮名を用いて表記する「漢字仮名交じり文」で、最も日常的に多用する行書との組み合わせについて学習する意義について補足する。</li> <li>・教科書(p. 65)に、点画の連続を意識させながら硬筆で取り組ませることによって、学習課題への意欲を高めさせる。</li> <li>・生徒の実態に応じて、硬筆で連続してつなげて書かせたり、「生かそう」(p. 65)の例を硬筆でなぞらせたりする活動を通して、筆脈の連続や終筆の抜きを体感させる。</li> <li>・水書板等を用い示範して、より具体的につかませたい筆使いは、以下のとおりである。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①筆脈と点画の連続</li> <li>②行書に調和する仮名の筆使い</li> </ul> </li> <li>・机間指導をしながら、個人の課題解決を支援する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①筆脈や連続を意識しているか。</li> <li>②漢字と仮名の大きさはどうか。</li> <li>③紙面に対する大きさはどうか。</li> <li>④行の中心や隣り合う文字の位置はどうか。</li> </ul> </li> <li>【評】点画の変化と連続を理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・本時の学習基準を確認させ、次時の課題へ関心と意欲をもたせる。</li> <li>・前時に書いた清書を数点示し、本時の目標を捉えられるようにする。</li> <li>・筆使いに追加する基準は、以下のとおりである。             <ul style="list-style-type: none"> <li>③筆脈や点画の連続を意識して書く。</li> <li>④始筆、終筆の特徴に気を付けて書く。</li> <li>⑤仮名は、漢字より小さめに書く。</li> </ul> </li> <li>・「考えよう」(p. 75)を使って、筆脈や配列について課題を見つけさせたい。</li> <li>・隣同士で相互評価させ、課題を見直ししながら練習に取り組める機会を設けられるとよい。</li> <li>【評】点画の連続と配列を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・一年生で学習した「楷書に調和する仮名」(p. 26～p. 27)と行書を比較させる。教科書(p. 67)を参照し、①点や線を連続して書く、②終筆を軽く書くことを確認させる。</li> <li>・半紙を横置きにして縦8列、横6行に折らせ、教科書(p. 78～p. 79)を手本にしているいろは歌を練習させる。</li> <li>・「ゐ」と「ゑ」について、歴史的仮名遣いのときに使用することを確認させる。</li> <li>・楷書との違い             <ul style="list-style-type: none"> <li>①行書に調和する仮名の筆使い(始筆、終筆)</li> </ul> </li> </ul> |



○教材と比較し、自分の課題を見つける。

○自分の課題を意識しながら、平仮名「いろは歌」を硬筆で練習する。

○まとめ書きをし、本時の学習の振り返りを行う。

4 文字の大きさや配列を理解して、半紙二分の一サイズに書く。

○これまで学習してきた「行書に調和する仮名」について確かめる。

○本時の学習課題をつかむ。

★配列を意識して、好きな言葉を「半紙二分の一」に書こう。

○半紙二分の一用紙に試し書きをする。

○紙面に対する文字の大きさ、漢字と平仮名の関係を考え基準を確かめる。

○基準と比較して批正し、自己課題を設定する。

○筆脈、行間、余白を意識して練習する。

○まとめ書きをする。

5 文字の大きさや配列を理解して色紙や短冊に書く。

○これまで学習してきた「行書に調和する仮名」について確かめる。

○本時の学習課題をつかむ。

★好きな言葉を「色紙」や「短冊」に書こう。

○好きな言葉や詩、短歌、俳句を練習用紙や短冊と同じ大きさにした半紙に、試し書きをする。

○紙面に対する文字の大きさ、漢字と平仮名の関係を考えて、基準を確かめる。

の変化・筆脈・線の連続、省略・リズムカルな曲線)

②字形(線の方向の違い・文字の中の空間性)

・基本的な筆使いとして、右回りと折り返し、左回りと折り返し、結びについて意識させ、課題設定に生かしたい。

・DVD-ROMを活用し、意欲を高める。

【評】行書に調和する仮名の筆使いを理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教科書(p. 67)に記入させる。

・発展(p. 67)にも触れ、「連綿」について知らせる。

・筆脈や文字の大きさ、配列に気を付けてきたことを確認させる。

・事前に、教科書や資料集を参考に、好きな言葉や詩、短歌、俳句を用意しておく。教科書の参考となるページは、以下のとおりである。(p. 1, p. 56～p. 57, p. 68～p. 72, p. 74, p. 76 p. 92～p. 93)

・さらに、色紙と短冊については、以下のページに掲載がある。(p. 34～p. 35, p. 68～p. 71)

・あらかじめ文字数など、生徒の実態に合わせた条件を提示する。

・漢字の行書については、教科書(p. 113～p. 125)を参考にさせる。

・考えよう(p. 68)から、筆脈、行間、余白について、具体的に確かめたいのは、以下のとおりである。

①筆脈の連続

②仮名は漢字より小さめ

③文字の大きさ

④筆順、線の連続、省略

・書くときのポイントとして、「詩や詩歌、俳句を書くときのポイント」(p. 68)の内容についても触れる。

・相互批正を取り入れるとよい。

・色紙や短冊に書くなどの、様々な表現方法に気付かせ、次時につなげさせる。

【評】文字の大きさまたは、配列を理解し、好きな言葉を半紙二分の一用紙に書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・前時に作成した半紙二分の一用紙の生徒作品を使って確かめさせる。

・事前に、教科書や資料集を参考に、好きな言葉や詩、短歌、俳句を用意しておく。教科書の参考となるページは、以下のとおりである。(p. 1, p. 56～p. 57, p. 68～p. 72, p. 74, p. 76 p. 92～p. 93)

・さらに、色紙と短冊については、以下のページに掲載がある。(p. 34～p. 35, p. 68～p. 71)

・あらかじめ、文字数など、生徒の実態に合わせた条件を提示する。

・短冊に短歌を書く際の伝統的な書式は、「短歌を短冊に書く書式」(p. 69)を参照する。

・漢字の行書については、教科書(p. 113～p. 125)を参考にさせる。

・「考えよう」(p. 68)から、筆脈、行間、余白について、具体的に確かめたいのは、以下のとおりである。

①筆脈の連続

②仮名は漢字より小さめ

③文字の大きさ

④筆順、線の連続、省略

・書くときのポイントとして、「詩や短歌、俳句を書くときのポイント」(p. 68)の内容につ

|   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○基準と比較して批正し、自己課題を設定する。</li> <li>○筆脈、行間、余白を意識して練習する。</li> <li>○「色紙」や「短冊」にまとめ書きをする。</li> </ul> <p>○学習のまとめとして、振り返りを行う。</p> <p>6 行書と行書に調和する仮名の書き方を理解して、速く書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「走れメロス」の一節を硬筆で1分間試し書きをする。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★行書の学習を生かして、書く速さを意識しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○行書の特徴を確認するため、硬筆で楷書と行書の違いを確認する。</li> </ul> <p>○行書と仮名の調和を確かめながら練習する。</p> <p>○「走れメロス」の一節を、硬筆でまとめ書きをする。</p> <p>○「試し書き」(p.72)と「まとめ書き」(p.73)を比べて気付いたことを書き、振り返りを行う。</p> <p>7 行書と仮名の調和や配列を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習を振り返る。</li> </ul> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★行書と仮名の調和や配列を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「枕草子」冒頭部分を音読し、硬筆で学習プリントに試し書きをする。</li> <li>○基準を基に書いた「枕草子」冒頭部分を批正し、自己課題を設定する。</li> </ul> <p>○「平家物語」冒頭部分を、硬筆で学習プリントに書く。</p> <p>○基準を基に、書いた「平家物語」冒頭部分を批正し、自己課題を見直す。</p> <p>○「平家物語」敦盛の段の一節を、硬筆で書く。</p> <p>○学習のまとめとして、振り返りを行う。</p> | <p>いても触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互批正を取り入れるとよい。</li> </ul> <p>【評】文字の大きさや、配列を理解して好きな言葉を短冊に書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書(p.69)に記入させる。</li> <li>・できれば掲示や鑑賞会を行い、学習の成果を確かめる相互評価の機会を設けたい。</li> </ul> <p>・教科書(p.72)に行書で書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試書を基に、これまで学習してきた行書、行書に調和した仮名について確認し、速く書くことを課題に追加する。</li> </ul> <p>・「考えよう」①②(p.72)を参照させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の特徴、行書に調和した仮名について確認する。</li> <li>①筆脈の連続、点画の変化と連続、始筆と終筆の特徴、曲線</li> <li>②仮名は漢字より小さめに</li> <li>・「生かそう」(p.73)を練習用紙に書かせたりなぞらせたりする。</li> </ul> <p>【評】行書と行書に調和する仮名の筆使いを理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書(p.73)に書かせる。</li> <li>・授業のノート、メモ、教室の掲示物や黒板記入など、日々の学校生活に目を向けさせ、行書のよさを確認させる。</li> </ul> <p>・前時までの学習内容である「速く書く、連続と省略、文字の大きさ」について確認し、本時は発展させて学ぶことを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語学習と並行した計画を立案して、効果的な古文学習と文字指導の両立を図りたい。</li> <li>・これまでの学習から確認したい基準は、以下のとおりである。</li> <li>①点画の連続、省略、変化について意識して書く。</li> <li>②仮名は漢字より小さめに書く。</li> <li>③行の中心をそろえて書く。</li> <li>・設定した自己課題を意識させながら、書かせる。</li> <li>・できれば、暗記した状態で書かせたい。</li> <li>・学習プリントは、まず目入りの用紙、罫線や行の中心に補助線がある用紙、白紙など、予想される生徒の課題に合わせて用意したい。</li> <li>・改めて基準を意識させ、点画の変化や省略が難しい漢字は重点的に練習できる欄を設けるなど、学習プリントを工夫する。</li> <li>・生かそう(p.77)に書く。</li> </ul> <p>【評】行書と仮名の調和や配列を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書(p.77)に記入させる。</li> </ul> |
|---|---|

【 備 考 】

行書の特徴である点画の連続や省略、配列を理解して書くことができるようにする。また、行書に調和する仮名の字形、筆使い、文字の大きさや配列を理解して書くことができるように展開を工夫する。好きな言葉や詩、短歌、俳句を色紙や短冊に書く活動に取り組ませることによって伝統文化に触れる機会にするなど、計画的に目的意識がもてる活用の場面を設けたい。毛筆ばかりではなく、硬筆にも取り組ませたい。

そして、相互評価や互いの作品を鑑賞することを学習活動の中に取り入れ、日常の書写活動にも生かせるようにしたい。

日本建築と「書」 教科書 (p.84～p.85) (適時)

補助教材集 行書と仮名の調和「旅立ちの朝」「ルナールの言葉」 教科書(p.143)

## 単元名 8 表現を見つめる 一 走れメロス

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 作品中の漢語を和語に置き換えると、印象がどのように変わるかを考えることができる。  
 (2) 「メロス」や「王」の言動に着目して、人物の考え方や心情の変化を読み取ることができる。  
 「メロス」の行動や考え方で共感できたところ・できなかったところを、自分の知識や経験と結び付けて考えることができる。  
 登場人物の人物像や表現の仕方など、観点を明確にして作品の魅力を文章にまとめることができる。  
 (3) 粘り強く登場人物の言動の意味などについて考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとする。

## 標準的な展開例

11210301\_001

【準備等】国語指導CD, 再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 本文を通読し、印象に残った部分や表現について意見交流をする。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 本文を読み、感想を交流しよう。</p> <p>○ 印象に残った場面や難語句等に印を付けながら、全文を通読する。</p> <p>○ 初発の感想を書く。</p> <p>○ 印を付けた内容について、初読の感想を話し合う。</p> <p>2 ディオニス王とメロスの人物像の変化について考える。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ ディオニス王とメロスの変化を捉えよう。</p> <p>○ 文章の構成を整理し、あらすじを確認する。</p> <p>○ 場面の展開に合わせ、ディオニス王とメロスの変化を捉える。</p> <p>○ ディオニス王とメロスがどのように変化しているかを話し合う。</p> <p>3 ディオニス王とメロスの言動に対して、自分の考えをもつ。</p> <p>○ 前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ ディオニス王とメロスの言動に対する自分の考えをもつ。</p> <p>○ ディオニス王とメロスの言動や考え方について、共感できるかできないか、自分の考えをもつ。</p> <p>○ グループで自分の考えを発表し、交流する。</p> | <p>・ 既習した文学的文章の登場人物を取り上げ、人物の心情が変化していくことが、話の展開をおもしろくする要素になることを認識させる。</p> <p>・ 「目標」(p.196)を読み、単元の目標を説明する。</p> <p>・ 教師による範読か、国語指導CDを利用するとよい。</p> <p>・ 初発の感想をもち、それがどのように変化していくのかを捉えることが、今回の学習で大切な点であることを説明する。</p> <p>【評】初発の感想を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 意見交流を活発に行うために、ページと行数についても発表させ、その箇所を全員で共有する。</p> <p>・ 印象に残った場面や、その場面に対する感想は、さまざまな視点から出すようにさせる。</p> <p>・ テーマや内容に関することだけでなく、語りや文体、表現技法などの感想も取り上げ、巧みな表現技法に気付かせたい。</p> <p>・ 場所や日時に注目すると大きく次の5場面に分けられる。</p> <p>① 町と王城(0日目)<br/>         ② 村に午前到着し、夜に婿を説得(1日目)<br/>         ③ 真昼に結婚式(2日目)<br/>         ④ 朝から町に向けて走る(3日目)<br/>         ⑤ 日没前に王城に到着</p> <p>・ 実際の発言や心の中でつぶやいた言葉、情景描写に注目するとよいことを助言し、学習プリントにまとめさせる。</p> <p>【評】王とメロスの変化を捉える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 考え方の根拠となる引用部分も出させて、自分だけでは考えなかった部分に気付くことができるようにしたい。</p> <p>【評】自分の考えを発表し、交流する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 王とメロスの人物像は、いつ、どこで、どのように変化したかを確認する。</p> <p>・ 理由を明確にししながら、自分の意見を学習プリントやノートに書かせる。</p> <p>【評】ディオニス王とメロスの言動に対する自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 自分と同じ考え、違う考え、なかった考えなど、自分の考えと比較しながら聞くようにさ</p> |

- 4 メロスの人物像の変化を物語全体から考える。  
 ○前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。
- ★自分の意見を発表し合い、考えを深めよう。  
 ○ディオニス王やメロスの言動や考え方に対する自分の意見を、違うグループで交流する。
- ディオニス王とメロスの変化についてまとめる。
- 5 作品の魅力、価値について考えをもつ。  
 ○前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。
- ★この作品の魅力について考えよう。  
 ○作品全体の中で、最も引きつけられた部分はどこか考える。  
 ○引きつけられた理由について考え、まとめる。
- 考えたこととその理由をグループで発表する。  
 ○次時の学習内容を知る。
- 6 作品に描かれた出来事や登場人物について題材や形式を選択し、文章を書く。  
 ○本時の学習課題をつかむ。
- ★文章の形式や表現の仕方を工夫して文章を書こう。  
 ○伝えたい内容や事柄を明確にして、文章の形式を選択する。
- 「走れメロス」に描かれた出来事や登場人物などを題材にして、文章を書く。
- 書いた作品を互いに読み合い、交流する。
- 学習を振り返る。

せる。  
 【評】グループで意見を発表し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・前時の最後にグループで交流した内容について振り返る。

・教師がグループを決める、自由に意見交換するなど、学級や生徒の実態に応じて形態を変える。  
 ・交流を通して、納得できた考え、納得できない考えなど、印象に残った意見をメモさせておく。

【評】自分の意見を交流する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。  
 ・さまざまな捉え方や読み取り方を知り、自分の考えを深めたり広げたりできるようにしたい。

・本時では、場面展開や表現の工夫など、文学作品としての価値やおもしろさに気づき、自分の考えをまとめることを伝える。

・内容や場面だけでなく、表現でもよいことを伝える。  
 ・共感できるかできないかではなく、作品としての魅力を客観的に分析し、ノートや学習プリントに書かせる。

【評】作品の魅力についての考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。  
 ・全体でも発表させて、考えを広めたい。

・「文章の形式を選び、表現のしかたを工夫して書く」(p. 209)を参考に、新聞記事や短歌作品紹介文など、選択させる文章の具体例を提示しながら、それぞれの特性を簡単に確認する。

・選択させる文章の形式は、他に、鑑賞文、記録文、小説、説明文、主張文、詩、俳句、川柳などが考えられる。生徒の実態やこれまでの学習状況に応じて、柔軟に対応したい。  
 ・自分が引きつけられた場面を適切に伝えるようにし、分量や時間は、生徒の実態に合わせて設定する。

【評】形式や内容を選択して表現を工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・生徒の実態や時間数に応じて、小グループでの発表、学級全体での発表、ポスターセッション形式での発表など、ふさわしいものを設定したい。  
 ・「学習を振り返る」(p. 213)を使って自己評価させたい。

## 【 備 考 】

第2学年における最終のまとめである。ここでは、様々な文章に触れながら、読んだり書いたりする力をより確かなものにするとともに、人間の様々な営みを見つめさせていく。物語の登場人物は、置かれた状況により様々な側面を見せる。そうした様々な人間の営みに触れるとともに、言葉を通して自らを見つめ直し、人間に対する理解を深めさせたい。

言語活動としては、一年間の学習のまとめとなる壁新聞を作成して発表する際、自分の考えを広げるために、互いの考えについて意見を述べたり助言をしたりする活動がある。この活動は、今後の学習にも生活にも役立つことだろう。

また、多感なこの時期の生徒は、自分や他人を肯定的に見られなくことも多い。批判的に見ることは、新たな発見や成長につながることであり認めたと、自分との関わりから人や物事を見つめ直す経験をさせ、人間に対する理解を深め、たくましく生きていく力を養いたい。

## 単元名 8 表現を見つめる ―漢字に親しもう6

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることができる。  
 (3) 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

## 標準的な展開例

11210302\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| 1 新出漢字を確認し、練習問題に取り組む。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★新出漢字を確認し、練習問題に取り組もう。<br>○ 新出漢字を確認する。<br>○ 練習問題に取り組む。 | ・言葉の意味が分からないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。<br>・「〔練習〕小学校六年生で学習した漢字」(p. 251)に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。<br>【評】練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 |

## 【 備 考 】

第2学年における最終のまとめである。ここでは、様々な文章に触れながら、読んだり書いたりする力をより確かなものにするとともに、人間の様々な営みを見つめさせていく。物語の登場人物は、置かれた状況により様々な側面を見せる。そうした様々な人間の営みに触れるとともに、言葉を通して自らを見つめ直し、人間に対する理解を深めさせたい。

言語活動としては、一年間の学習のまとめとなる壁新聞を作成して発表する際、自分の考えを広げるために、互いの考えについて意見を述べたり助言をしたりする活動がある。この活動は、今後の学習にも生活にも役立つことだろう。

また、多感なこの時期の生徒は、自分や他人を肯定的に見られなくことも多い。批判的に見ることは、新たな発見や成長につながることであり認めたと、自分との関わりから人や物事を見つめ直す経験をさせ、人間に対する理解を深め、たくましく生きていく力を養いたい。

## 単元名 8 表現を見つめる 一文法への扉3 一字違いで大違い

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別することができる。  
(3) 今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとする。

## 標準的な展開例

11210303\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 付属語の助動詞について、意味や用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「一字違いで大違い」(p. 215)の上段の課題について、考える。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★助動詞の意味や用法を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>付属語について知る。</li> <li>助動詞の意味や用法について知る。</li> <li>「練習問題」(p. 246)に取り組む。</li> </ul> <p>2 助詞の意味と用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★助詞の意味と用法を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「助詞」(p. 246)を読み、助動詞の意味と用法を知る。</li> <li>「練習問題」(p. 246, p. 248)に取り組む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「来年は」と「来年も」でどのように意味が変わるかについても考えさせたい。</li> <li>実態に応じて、単語や自立語の説明をし、確認するとよい。</li> <li>「付属語」(p. 244)を読んで、助詞と助動詞があることを確認する。</li> <li>教科書(p. 245～p. 246)の表を見ながら解説を加える。</li> <li>分からないときには教科書の解説に戻って、確認しながら問題を解くようにさせる。</li> <li>【評】助動詞の意味や用法を知り、問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>「話すこと・書くことに生かす」(p. 247)を読み、副助詞が表す意味について押さえる。</li> <li>【評】助動詞の意味や用法を知り、問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

第2学年における最終のまとめである。ここでは、様々な文章に触れながら、読んだり書いたりする力をより確かなものにするとともに、人間の様々な営みを見つめさせていく。物語の登場人物は、置かれた状況によりさまざまな側面を見せる。そうした様々な人間の営みに触れるとともに、言葉を通して自らを見つめ直し、人間に対する理解を深めさせたい。

言語活動としては、一年間の学習のまとめとなる壁新聞を作成して発表する際、自分の考えを広げるために、互いの考えについて意見を述べたり助言をしたりする活動がある。この活動は、今後の学習にも生活にも役立つことだろう。

また、多感なこの時期の生徒は、自分や他人を肯定的に見られなくなることも多い。批判的に見ることは、新たな発見や成長につながるとして認めた上で、自分との関わりから人や物事を見つめ直す経験をさせ、人間に対する理解を深め、たくましく生きていく力を養いたい。

## 単元名 8 表現を見つめる 一構成や展開を工夫して書こう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) これまでに学習した作品の構成や展開を振り返り、どんな点を自分の文章に生かしたいかを考えることができる。  
 (2) 起承転結の流れで構成を考え、場面の展開が明確になるように、それぞれの場面での出来事や心情を整理することができる。  
 書いた物語を友達と読み合い、よい点や改善点を伝え合うことができる。  
 (3) 粘り強く文章の構成や展開を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとする。

## 標準的な展開例

11210304\_001

【準備等】知多の友

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 最近の生活を振り返り、物語の題材を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の目標を理解して学習の見通しをもち、本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★物語の題材を決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○物語の書き方について考える。</li> </ul> <p>○最近の生活を下の観点で振り返り、物語の題材にしたい出来事を選ぶ。</p> <p>「心に残る出来事があった日」<br/> 「全力で何かに取り組んだ日」<br/> 「自分が変わった瞬間を感じた日」</p> <p>○題材として選んだ出来事を詳しく思い出し、メモする。</p> <p>2 書く内容を整理し、心情変化を中心にあらすじを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★物語のあらすじの図を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○心情変化のきっかけが分かるようにあらすじの図を書き物語の構成を考える。</li> </ul> <p>3 構成や展開を工夫して物語を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★構成や展開を工夫して物語を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○物語を書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「構成の例」(p. 218)を参考に、起承転結の流れで構成する。</li> <li>・場面の展開が明確になるように工夫しながら、600字程度の物語を書く。</li> </ul> </li> <li>○書き終えた文章を推敲する。</li> </ul> <p>4 友達が書いた物語を読み、助言し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★友達の物語を読み合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達が書いた物語を読み、助言し合う。</li> </ul> <p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに学習した物語や小説を振り返るとき、どのようなところに着目したか。</li> <li>・場面の展開が明確になるように、どんなところを工夫したか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「目標」「学習の見通しをもとう」(p. 216)を参考に、自分を登場人物とした物語を書くことを確認し、学習全体の流れをつかませる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「物語」(p. 218)を読み、物語は展開を整理し、情景や心情表現を工夫する必要があることを確認する。</li> <li>・「知多の友」に記入させる。左の観点の他に「これが幸福だと実感したとき」「人の温かさを感じたとき」「強く決意を固めたとき」「ずっと忘れたくないと思ったとき」「誰かに伝えたいと思ったとき」「大切なことに気づいた日」などを挙げてよい。</li> </ul> <p>【評】物語の題材を選ぶ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その時の風景、音、自分や周囲の人々の様子や行動、会話などをメモさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あらすじの例」(p. 217)を参考にして、本時の目標を確認させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちが変わった瞬間や、最も伝えたい気持ちを選び、変化のきっかけやその前後の出来事に焦点を当てさせる。あらすじの例と同じように、場面と気持ちに分けてまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】あらすじを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の呼称を一人称、三人称のどちらかに決め、書き手の視点を貫かせる。</li> <li>・「知多の友」に書かせてよい。</li> </ul> <p>【評】物語を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「知多の友」を活用する。</li> </ul> <p>【評】物語を読み、助言し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「つなぐ」(p. 217)を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</li> </ul> <p>【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【備 考】

第2学年における最終のまとめである。ここでは、様々な文章に触れながら、読んだり書いたりする力をより確かなものにするとともに、人間の様々な営みを見つめさせていく。物語の登場人物は、置かれた状況により様々な側面を見せる。そうした様々な人間の営みに触れるとともに、言葉を通して自らを見つめ直し、人間に対する理解を深めさせたい。

言語活動としては、一年間の学習のまとめとなる壁新聞を作成して発表する際、自分の考えを広げるために、互いの考えについて意見を述べたり助言をしたりする活動がある。この活動は、今後の学習にも生活にも役立つことだろう。

「知多の友」を使用する。

## 単元名 8 表現を見つめる 一言葉3 話し言葉と書き言葉

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えることができる。  
(3) 今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとする。

## 標準的な展開例

11210305\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 話し言葉と書き言葉の違いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★話し言葉と書き言葉の違いについて考えよう。</li> <li>○ 導入の例文を読み、話し言葉と書き言葉の違いについて考えをまとめる。</li> </ul> <p>○ 考えたことを発表する。</p> <p>○ 話し言葉と書き言葉の特徴を確認する。</p> <p>2 音声の特徴から話し言葉を捉え、文字の特徴から書き言葉を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★話し言葉と書き言葉を生活に生かそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音声の特徴から話し言葉を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同音異義語の伝え方を考える。</li> </ul> </li> <li>○ 文字の特徴から書き言葉を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字、平仮名、片仮名、句読点、常体・敬体の使い方に注意する。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活の話題を、簡単な話し言葉と書き言葉で表現してその違いに気付かせるとよい。</li> </ul> <p>【評】話し言葉と書き言葉の違いについてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノートなどを見直して、話し言葉と書き言葉の特徴を復習する。</li> <li>・ 「市立」と「私立」のように、同じ発音の言葉は、読み方を変えるなど区別することを押さえる。</li> </ul> <p>【評】話し言葉の特徴を理解する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「書くことに生かす」(p.221)を用いて、聞き取った内容を文章で伝える学習につなげることができる。</li> </ul> <p>【評】書き言葉の特徴を理解する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

第2学年における最終のまとめである。ここでは、様々な文章に触れながら、読んだり書いたりする力をより確かなものにするとともに、人間の様々な営みを見つめさせていく。物語の登場人物は、置かれた状況により様々な側面を見せる。そうした様々な人間の営みに触れるとともに、言葉を通して自らを見つめ直し、人間に対する理解を深めさせたい。

言語活動としては、一年間の学習のまとめとなる壁新聞を作成して発表する際、自分の考えを広げるために、互いの考えについて意見を述べたり助言をしたりする活動がある。この活動は、今後の学習にも生活にも役立つことだろう。

また、多感なこの時期の生徒は、自分や他人を肯定的に見られなくことも多い。批判的に見ることは、新たな発見や成長につながることであり認めた上で、自分との関わりから人や物事を見つめ直す経験をさせ、人間に対する理解を深め、たくましく生きていく力を養いたい。



## 単元名 8 表現を見つめる ー漢字3 送り仮名

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりすることができる。  
 (3) 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり、書いたりしようとする。

## 標準的な展開例

11210306\_001

【準備等】国語辞典，練習問題プリント

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| 1・2 活用のある語，活用のない語の送り仮名の付け方について理解する。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★ 送り仮名の付け方について理解しよう<br>○ 活用のある語の送り仮名の付け方について理解する。<br>○ 活用のない語の送り仮名の付け方について理解する。<br>○ 「練習問題」(p. 223)に取り組む。 | ・ 国語辞典を用意して，調べさせてもよい。<br>【評】 練習問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。 |

## 【 備 考 】

第2学年における最終のまとめりである。ここでは，様々な文章に触れながら，読んだり書いたりする力をより確かなものにするとともに，人間の様々な営みを見つめさせていく。物語の登場人物は，置かれた状況により様々な側面を見せる。そうした様々な人間の営みに触れるとともに，言葉を通して自らを見つめ直し，人間に対する理解を深めさせたい。

言語活動としては，一年間の学習のまとめとなる壁新聞を作成して発表する際，自分の考えを広げるために，互いの考えについて意見を述べたり助言をしたりする活動がある。この活動は，今後の学習にも生活にも役立つことだろう。

また，多感なこの時期の生徒は，自分や他人を肯定的に見られなくことも多い。批判的に見ることは，新たな発見や成長につながることであったとして認めた上で，自分との関わりから人や物事を見つめ直す経験をさせ，人間に対する理解を深め，たくましく生きていく力を養いたい。

## 単元名 8 表現を見つめる 一国語の学びを振り返ろう

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 結論を見出しに、詳細を本文に書くなど、構成を工夫して記事を書くことができる。

壁新聞

のテーマを話し合う際に出た意見を、表などを用いてまとめることができる。

(2) 壁新聞のテーマと内容について、お互いの意見の共通点・相違点を明らかにしながら話し合い結論を導くことができる。

伝えたいことの優先順位を考えて、記事の大きさや割り付けを工夫することができる。

読み手の立場に立って推敲し、表現を工夫することができる。

(3) 粘り強く文章の構成や展開を工夫し、今までの学習を生かして壁新聞を作ろうとする。

## 標準的な展開例

11210307\_001

【準備等】一年間の学習記録（ノートなど）

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 グループで話し合い、壁新聞のテーマを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の目標を理解して見通しをもち、本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★一年間の学びを振り返り、壁新聞を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループで話し合い、「国語を学ぶ意義」を考える。</li> </ul> <p>○壁新聞のテーマを決める。</p> <p>2 壁新聞の内容を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★壁新聞の内容を話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○内容と割り付け、必要な写真や図を話し合う。</li> </ul> <p>3・4 壁新聞を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★壁新聞を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○分担して、記事の下書きをする。</li> </ul> <p>○下書きを推敲し、記事を清書する。</p> <p>【見出し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいことを短く書く。</li> <li>・体言止めを用いるなど、表現を工夫する。</li> </ul> <p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ具体的に書く。</li> <li>・伝えたいことを意識して書く。</li> </ul> <p>○壁新聞を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★学習を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習を振り返る。</li> <li>・一年間の学習を振り返り、国語を学ぶ意義を見いだすことができたか。</li> <li>・伝えたいことをどのように壁新聞にまとめたか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、一年間の学習記録(ノート等)を準備しておくよう予告しておく。「学習の見通しをもとう」(p.224)を使って、報告書をまとめて読み合うことを知らせる。</li> <li>・「テーマ例」(p.224)を参考にさせる。</li> <li>・一年間でできるようになったことや考え方が変わったことを出し合わせる。</li> <li>・p.6「学習の見通しをもとう」(p.6)を開いて学習した内容を振り返らせるとよい。</li> </ul> <p>【評】グループでの話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時に壁新聞を作成することを伝え、本時で構成案を作って発表資料を完成させることを意識させる。</li> <li>・「教科書の例」(p.227)を参考にさせてもよい。</li> <li>・構成案をグループで発表し、アドバイスし合うことを伝える。</li> <li>・新聞にまとめることを意識させ、結論を見出しに、詳細を本文に書かせる。</li> </ul> <p>【評】記事の下書きをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで互いの記事を読み合わせてもよい。</li> </ul> <p>【評】記事の推敲をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「つなぐ」(p.225)を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</li> </ul> <p>【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【備 考】

第2学年における最終のまとめである。ここでは、様々な文章に触れながら、読んだり書いたりする力をより確かなものにするとともに、人間の様々な営みを見つめさせていく。物語の登場人物は、置かれた状況により様々な側面を見せる。そうした様々な人間の営みに触れるとともに、言葉を通して自らを見つめ直し、人間に対する理解を深めさせたい。

言語活動としては、一年間の学習のまとめとなる壁新聞を作成して発表する際、自分の考えを広げるために、互いの考えについて意見を述べたり助言をしたりする活動がある。この活動は、今後の学習にも生活にも役立つことだろう。

また、多感なこの時期の生徒は、自分や他人を肯定的に見られなくことも多い。批判的に見ることは、新たな発見や成長につながることで認めた上で、自分との関わりから人や物事を見つめ直す経験をさせ、人間に対する理解を深め、たくましく生きていく力を養いたい。

## 単元名 8 表現を見つめる 一木

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 「愛」, 「正義」などの抽象的な概念を表す言葉に着目し, 詩の中での意味を考えることができる。  
 (2) 自分の知識や経験と結び付けて, 作者のものの見方について考えることができる。  
 (3) 進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け, 学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとする。

## 標準的な展開例

11210308\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 「木」についての表現を手がかりにして, 「木」の特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 「木」を読み, その特徴を捉えよう。</li> <li>○ 詩を通読する。</li> <li>○ 詩の中の印象に残った表現を挙げ, どんな印象を受けたか話し合う。</li> <li>○ 表現の意味を考える。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第三連の「木は囁いているのだ」「歩いているのだ」「走っているのだ」は, 木のどのような様子を表しているのかを考える。</li> </ul> </li> <li>○ 作者の考える「愛」や「正義」がどんなものなのかを考える。</li> </ul> <p>2 作者のものの見方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★ 作者のものの見方について話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ぼく」が「木」のことを, これほど好ましく思っている理由を考える。</li> <li>○ 詩の中で「木」と対比されているものについて考える。</li> </ul> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて意味を説明したり補足したりする。</li> <li>・ ノートや学習プリントに書かせ, 発表して学級で共有する。</li> <li>・ 擬人法の効果を考えさせる。</li> </ul> <p>【評】 「木」の表現の意味を考えてまとめる活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「木」の特徴を再確認し, 前時のまとめで書いた感想を数人に発表させたり, 紹介したりする。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 詩から読み取った作者のものの見方について自分のこれまでの知識や経験と結び付けて考えさせるとよい。</li> </ul> <p>【評】 作者のものの見方を考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2学年の国語学習でがんばったことや, 第3学年でがんばりたいことなど, 一年間の学習のまとめができるようにする。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

第2学年における最終のまとめである。ここでは, 様々な文章に触れながら, 読んだり書いたりする力をより確かなものにするとともに, 人間の様々な営みを見つめさせていく。物語の登場人物は, 置かれた状況により様々な側面を見せる。そうした様々な人間の営みに触れるとともに, 言葉を通して自らを見つめ直し, 人間に対する理解を深めさせたい。

言語活動としては, 一年間の学習のまとめとなる壁新聞を作成して発表する際, 自分の考えを広げるために, 互いの考えについて意見を述べたり助言をしたりする活動がある。この活動は, 今後の学習にも生活にも役立つことだろう。

また, 多感なこの時期の生徒は, 自分や他人を肯定的に見られなくことも多い。批判的に見ることは, 新たな発見や成長につながることであり認めた上で, 自分との関わりから人や物事を見つめ直す経験をさせ, 人間に対する理解を深め, たくましく生きていく力を養いたい。

## 単元名 (書写)書き初めを書く

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 文字の大きさや字間、行の中心などを理解して、配列よく書くことができる。  
(3) 行書の特徴を理解し、自己の課題をもって取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11210309\_001

【教材名】「生命の尊重」「伝統の継承」

(P. 133～P. 136)

【準備等】書き初め用紙

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 行書の特徴や配列を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「生命の尊重」の行書の特徴を理解し、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★行書の特徴や配列を理解して書こう。</li> <li>○筆脈の連続を意識して、「生命の尊重」を半紙3枚に試書する。</li> <li>○基準を確認する。基準と比較して批正し、自己課題を設定する。</li> <li>○「生命の尊重」を半紙に練習する。</li> </ul> <p>2 用紙全体の大きさを考えて、配置を工夫して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習を確認する。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★用紙全体の大きさを考えて、配置を工夫して書こう。</li> <li>○「生命の尊重」を書き初め用紙に試し書きをする。</li> <li>○基準を確認し、基準と比較して批正し、自己課題を設定する。</li> <li>○筆脈と行の中心、文字の大きさを意識して練習する。</li> <li>○「生命の尊重」を書き初め用紙にまとめ書きをする。</li> </ul> <p>3 行書の筆使いを生かして、本文と氏名を調和よく書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習を確認する。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★行書の筆使いを生かし、配置と配列を工夫して書こう。</li> <li>○前時に書いた「生命の尊重」に名前を記入する。</li> <li>○示範や基準と比較して批正し、自己課題を設定する。</li> <li>○「生命の尊重」を書き初め用紙に練習、まとめ書きをする。</li> <li>○学習のまとめとして、振り返りを行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材は生徒の実態や興味に合わせて、選択したり展開を工夫したりする。</li> <li>・これまでの行書の学習を想起させ、行書の特徴を見い出せるようにする。</li> <li>・「生命」「の尊」「重」の三つの部分に分けて、練習させる。</li> <li>・基準は、以下のとおりである。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①行書の特徴<br/>点画の変化、連続、省略</li> <li>②筆脈の確認<br/>次の文字へのつながり</li> </ul> </li> <li>・時間によっては、相互批正を加えてもよい。</li> <li>【評】行書の特徴や配列を理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・前時は、行書の特徴と筆脈を意識して書いたことを確認させる。</li> <li>・書き初め用紙を使用して書かせる。</li> <li>・書き初め用紙に書く姿勢は、教科書(p. 133～p. 136)を参照させ、環境や実態に合わせて正しい姿勢を指導する。</li> <li>・基準は、以下のとおりである。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①筆脈の確認</li> <li>②配置の工夫<br/>行の中心をそろえる。<br/>漢字と平仮名の大小に注意する。</li> </ul> </li> <li>・相互批正を取り入れる。</li> <li>・用紙の折り方を工夫して、文字の配置を考えるよう指示する。</li> <li>・縦に中心線を入れ、全体を四つ折りにすると教科書を参照しやすい。</li> <li>・試書と比べて、学習の成果を確認させる。</li> <li>【評】用紙の大きさを考えて、配置を工夫して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・筆脈と配置に気を付けながら、書き初め用紙に書いたことを確認させる。</li> <li>・小筆の持ち方、かまえ方について、教科書(p. 133～p. 136)で確認させる。</li> <li>・学年と氏名を小筆で書く配置を考えさせるために、よい例とよくない例を用意したい。</li> <li>・基準は、以下のとおりである。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①配列、配置の視点<br/>各文字の大きさの違い、字間を保つ、行の中心、氏名は用紙の中ほどから書く。</li> <li>②小筆の文字<br/>単鉤法で持つ、提腕法か枕腕法を選ぶ、学年と氏名を小さくしすぎない。</li> </ul> </li> <li>【評】行書の筆使いを生かし、本文と氏名の配列、配置を調和よく書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・教科書(p. 133～p. 136)に記入させる。</li> </ul> |

## 【備 考】

これまでの学習を生かし、文字の大きさや字間、行の中心などを理解して、配列よく書かせるとともに、相互評価や互いの作品を鑑賞することを学習活動の中に取り入れていけるとよい。

書き初めの学習で学んだ本人の好きな言葉や教訓を書くなどを、日常生活にも活用させたい。

## 単元名 (書写)学習活動や日常生活に生かして書こう

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 漢字と仮名の調和や、文字の大きさ、字間・行間、書式に気を付けて、適切に書くことができる。  
(3) 目的や必要に応じた書き方について、自己の課題をもって取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11210310\_001

【教材名】さまざまな書く場面 学習を生かして書く (P. 78～P. 86)

【準備等】それぞれの課題にあわせた用紙を準備する。便箋、封筒、葉書、メッセージカード、模造紙、新聞用紙等。筆記用具として、筆、筆ペン、フェルトペン、サインペン、ボールペン等。

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 目的や必要に応じた書き方をする注意点を考えて、話し合う。</p> <p>○ 今までの書写活動を生かす場面について考えることを知り、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★目的や必要に応じた書き方をするための注意点を考えて話し合おう。</p> <p>○ 話し合いの観点を確認する。</p> <p>○ 教室内、校内などを想起し、書写活動の場면을カードに書き出し、目的と相手について話し合う。</p> <p>○ 取組について、書体や筆記用具、用紙と書き方の注意点について話し合う。</p> <p>○ 話し合いの内容をまとめ、振り返りを行う。</p> <p>2 目的や必要に応じた効果的に伝える工夫を考えて、新聞を書く。</p> <p>○ 1年生での学習を想起させ、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★目的や必要に応じた効果的に伝える工夫を考えよう。</p> <p>○ 教科書(p. 82～p. 83)の例を見て、読みやすくするための工夫を話し合う。</p> <p>○ 事前に準備した記事原稿を割り付けて書く。</p> <p>○ 相互評価を通して、本時の学習の振り返りを行う。</p> <p>3 伝える相手や目的を意識して、ポスターに案内を書く。</p> <p>○ 1年生での学習(縦書きのポスター)を想起させる。</p> <p>○ これまでの書式と配列についての学習を生かして、行書で横書きのポスターを書くことを知り、本時の学習課題をつかむ。</p> | <p>・教科書(p. 82～p. 85)では、①新聞を書く②掲示物(ポスター)に案内を書く③案内状を書くの3教材が用意されている。全ての配列に触れることは必要だが、生徒の実態や他教科、領域との関連を検討し、重点化や選択化も含めて工夫して指導したい。</p> <p>・今までの書写活動を生かす場面と、場面に合った書き方をするにはどのようにしたらよいかを話し合う時間となる。</p> <p>・具体的に単元の計画を立てさせるとよい。</p> <p>・書く目的を明確にして確認する内容は、以下のとおりである。</p> <p>①何のために<br/>②誰に向けて<br/>③どのように<br/>④書体<br/>⑤筆記用具</p> <p>・グループに分かれて話し合わせるのもよい。</p> <p>・話し合いの意見をメモするように指示する。メモの取り方を練習する機会にもさせる。</p> <p>・具体的に生活に生かす場面について、計画を立てさせる。目的や必要に応じた注意点を話し合わせたい。</p> <p>・板書する場合は、チョークの持ち方を練習する機会にもさせる。</p> <p>【評】目的や必要に応じた準備や注意点について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書(p. 79)に記入させる。</p> <p>・次時の用意等について確認する。</p> <p>・教科書(p. 36～p. 37)を参照したり、昨年度の作品を実際に提示したりすることで思い出させる。</p> <p>・伝える相手が関心をもてるように、工夫されている点を話し合わせる。</p> <p>・具体的な工夫は、以下のとおりである。</p> <p>①文字の大きさや線の太さ、色使いの工夫<br/>②効果を考えた筆記用具の選択<br/>③割り付けの工夫<br/>④行間をそろえる<br/>⑤漢字より仮名を小さめに書く</p> <p>・余白にも注意させながら、それぞれの記事を割り付けさせてから書かせる。</p> <p>・国語の単元や、他教科、領域との関連を生かした課題に取り組ませる。</p> <p>【評】目的や必要に応じて効果的に伝える工夫を考えて新聞を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・互いの作品のよい点を認め合わせたい。</p> <p>・教科書(p. 36)を参照したり、昨年度の作品を実際に提示したりすることで思い出させる。</p> <p>・本時の教材が、学校生活における書写活動の体験であることを確認させる。</p> <p>・学習教材は、グループ活動で取り組ませたり印刷されたポスターの一部に書き込ませたり</p> |

★伝える相手や目的を意識してポスターに案内を書こう。

○教材例を見ながら、基準を知り、自己課題を設定する。

○目的に合ったポスターを試し書きする。

○試し書きした作品を相互批評する。

○まとめ書きをする。

○相互評価を通して、本時の学習の振り返りを行う。

4 用具を生かして、行書で案内状を書く。  
○誰に、どのような目的で案内状を書くか確認して、本時の学習課題をつかむ。

★用具を生かして、行書で案内状を書こう。

○横書きの書き方に着目して基準を知り、自己課題を設定する。

○目的に合った案内状を試し書きをする。

○試し書きした作品を相互批評する。

○まとめ書きをする。

○本時の振り返りを行う。

するなど工夫したい。

・教科書(p.84)には、クリーン作戦の掲示物(ポスター)の例が掲載されているが、実際に使える教材を用意したい。

・基準は、以下のとおりである。

①文字の大きさや線の太さ、色使いを工夫する。

②横書きは文字の下部か中心をそろえる。

③書き始めの位置をそろえる。

内容によっては一字下げる。

④行間をそろえる。

⑤漢字よりも仮名を小さめに書く。

⑥行書とそれに調和する仮名の書き方に気を付ける。

・時間的に難しい場合は、内容を一部にしたり試し書きを省いたりする方法もある。

・行書や字形のみではなく、文字の大きさや配列を意識して書けているか、観点を提示するとよい。

・生徒の実態に合わせて、薄い罫線や、方眼が入った模造紙等の用紙を用意するとよい。

【評】伝える相手や目的を意識してポスターに案内を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・互いの作品のよい点を認め合わせたい。

・教科書(p.85)を参照させる。

・基準は、以下のとおりである。

①左右、上下の余白を等しく取る。

②行間を取る。

③漢字は大きめ、平仮名は小さめに書く。

④横書きのため、数字は算用数字にする。

・時間的に難しい場合は、内容を一部にしたり試し書きを省いたりする方法もある。

・行書や字形のみではなく、文字の大きさや配列を意識して書けているか、観点を提示するとよい。

・薄い用紙を後から貼り付ける場合は、下に罫線の入った下敷きを敷かせることもできる。

【評】内容に合わせて用具を選び、配列に気を付けて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・教科書(p.85)に記入させる。

#### 【備考】

日常的な活用場面を想定し、漢字と仮名を調和させ、文字の大きさや字間・行間、書式に気を付けて適切に書かせるようにし、日常の言語活動にも生かしていけるようにする。

そして、相互評価や互いの作品を鑑賞することを学習活動の中に取り入れ、日常の書写活動にも生かせるようにしていきたい。

単元名 世界はうつくしいと

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。  
(2) 詩を読み、疑問に感じたり、考えたりしたことなどを伝え合うことができる。  
(3) 進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとする。

### 標準的な展開例

12210101\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 この詩に込められた筆者の思いを読み取り、表現の特徴を生かして朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本文を通読する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★筆者の思いを捉え、表現の特徴を生かして朗読しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 詩を読み深める。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分にとっての「うつくしいもの」を交流し合う。</li> <li>○ 詩の特徴を生かして朗読する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の範読か、国語指導CDを利用してもよい</li> <li>・ 詩を読んで感じた素朴な疑問を質問の形にして書き出させる。</li> <li>・ 隣同士で質問し合い、互いに相手の質問について考えたことを伝えさせる。それを踏まえて、自分なりの答えを考えさせる。</li> <li>・ 言葉、文字の使い方、リズム、表現技法などに着目させるとよい。</li> </ul> <p>【評】詩に用いられている語句や表現から筆者の思いを読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な体験に引きつけてイメージさせるとよい。</li> <li>・ 小グループやペアで行うことで、全員が朗読を発表できるようにする。</li> <li>・ 工夫した朗読ができた生徒は、全体の前で発表させる。</li> <li>・ 最初に読んだときと比べて、詩に対する印象はどのように変わったか、自分の言葉でまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】読み取ったことを生かして、工夫して朗読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

文学作品は表現者の思いや感動を言葉によって表現したものだが、特に詩は、それらが他に置き換えることのできない言葉によって紡がれた言語作品である。それだけに一語一語の果たす役割は大きい。「世界はうつくしいと」は、「うつくしいものをうつくしいと言おう」と、身の回りにある「うつくしいもの」を率直に、力強く表現した詩である。このような詩を、一語一語に着目して読み取らせたい。また、互いがうつくしいと思うものを話し合うことで、日常にあるうつくしさを見つけさせたい。

## 単元名 1 深まる学びへ ―握手

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。  
 (2) 文章の種類を踏まえ、物語の展開の仕方などを捉えて批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。  
 (3) 粘り強く物語の展開の仕方を捉え、学習課題に沿って作品を批評したり、考えたことを伝え合ったりしようとする。

## 標準的な単元例

12210102\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| <p>1 小説「握手」を読み、初読の感想をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 作品を通読し、初読の感想や疑問をまとめよう。</li> <li>○ 気になる表現や手、指の描写などに傍線を引きながら、作品を通読する。</li> <li>○ 注意する語句・新出漢字を調べる。</li> <li>○ 傍線を引いたり書き込んだりしたことを基に、初読の感想をまとめる。</li> <li>○ 初読の感想を学級で交流する。</li> </ul> <p>2 作品の設定を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 「現在」と「回想」の部分を読み分け、作品の設定を捉えよう。</li> <li>○ 「回想」について理解し、作品を再度通読する。</li> <li>○ 「現在」と「回想」の部分を読み分け、時間の順序を整理する。</li> <li>○ 作者は、なぜ「回想」を織り込む展開の仕方での作品を書いたのかについて考え、話し合う。</li> </ul> <p>3 登場人物の人物像・心情を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 登場人物の人物像と心情を読み取ろう。</li> <li>○ 登場人物の人物像を読み取る。</li> <li>○ 「わたし」と「ルロイ修道士」との間で交わされた、3回の握手に込められた二人の思いを考える。</li> <li>○ 「ルロイ修道士」の葬式で、「知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた」ときの、「わたし」の気持ちと心の中の言葉について考え、伝え合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・ 教師の範読か、国語指導CDを利用してもよい。また、読めない漢字に振り仮名と、難語句にも印を付けさせながら聞かせる。</li> <li>【評】 傍線を引いたり、疑問や感想を書き込んだりしながら作品を読む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 初読の感想を書くために、以下のような視点を示してやるとよい。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 疑問に感じたこと</li> <li>② 重要だと思ったこと</li> <li>③ 心が動かされたところ</li> </ul> </li> <li>・ 交流を通して、自分の作品の捉え方を確認させたい。</li> <li>・ 教科書(p.24～25)を参考にする。</li> <li>・ 2色の色鉛筆で各行上部に線を引き分け、現在と過去に色分けするとつかみやすくなる。</li> <li>・ 回想のきっかけとなる事柄や行動に着目させる。</li> <li>【評】 語句に着目して、「現在」と「回想」の部分を読み分ける活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 構成を意識しながら、それぞれの描写がどの場面のどういう状況のものかを整理させる。</li> <li>【評】 物語の展開の仕方の効果について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 「ルロイ修道士」の性格や価値観、ものの見方や考え方などが読み取れる言動を抜き出して、どのような人物であるかを短くまとめさせる。</li> <li>・ 「ルロイ修道士」が置かれている状況や立場年齢などを踏まえて考えさせる。</li> <li>・ 人物を表す言葉を一覧表で示し、活用させるとよい。</li> <li>【評】 人物像を表す言葉に着目して、登場人物の人物像を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 「感情を表す言葉や心の中の言葉」、「登場人物の行動・様子・会話文」、「情景描写」、「出来事」など、文章中の言葉を根拠にして考えさせる。</li> <li>・ 心情を表す言葉を一覧表で示し、活用させるとよい。</li> <li>・ 3～4人程度のグループで互いの考えを伝え合わせる。</li> <li>【評】 登場人物の心情を読み取り、伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |



4 読みを深めた感想を交流し，学習を振り返る。

○ 本時の学習課題をつかむ。

★ 読みを深めた感想を交流しよう。

○ 読み深めたことを踏まえ，「ルロイ修道士」の考えや生き方について，自分で考えたことや感じたことを書く。

○ 読み深めた感想を交流する。

○ 学習を振り返る。

・ 「ルロイ修道士」の生き方や価値観について語り合い  
考えが深まったことを挙げる。

【評】 登場人物の生き方や価値観を，自分の知識や経験と比較しながら考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・ 小グループやペアで行うことで全員が感想を発表できるようにする。

・ 「握手」の展開の仕方にはどんな特徴や効果があったか，自分の言葉でまとめさせる。

・ 「ルロイ修道士」の生き方や価値観について語り合い，考えが深まったことを挙げさせる

【評】 作品を批評したり，考えたことを伝え合ったりしたことを振り返る活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

第3学年のスタートにあたり，第2学年までの学習を生かしつつ，言葉への気付きをより深いものにさせたい。詩や小説，古典を通して，言葉の力や豊かさに気付かせ，そこに描き出された人間の生き方についても考えさせたい。また，これらの学習活動を通して，第3学年での学習に対する意欲を高めることも念頭に置いて指導に当たりたい。

また，小説の登場人物も古典に描かれた生き方も，自分や社会と深い関わりをもっている。義務教育の最終段階として，読むことを通してより広い視点から人と社会の関わりについて考えさせ，第3学年での国語の学習の見通しをもたせたい。

「握手」は，道徳のDー（19）生命の尊さ，Dー（22）よりよく生きる喜びに当たる。

テーブルクロスを用意し，教卓に西洋料理店の食卓を演出すると，言葉からイメージすることが苦手な生徒にも，その場の情景や登場人物の心情がつかみやすくなる。必要に応じて役割演技をしてもよい。

## 単元名 1 深まる学びへ ―[聞く] 評価しながら聞く

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。  
 (2) 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。  
 (3) 聞き取った内容や表現の仕方を進んで評価し、今までの学習を生かしてメモしようとする。

## 標準的な展開例

12210103\_001

【準備等】メモ用紙、国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 発言者の意見を評価しながら聞き、自分の考えと比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 発言者の意見を評価しながら聞き、自分の考えと比較しよう。</li> <li>○ 「ペットの飼育」について、自分の考えを書く。</li> <li>○ 「ペットの飼育」についての話し合いを聞き、評価メモの取り方を知る。</li> <li>○ テーマを決めて話し合い、評価しながら聞く練習をする。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマについて、自分の考えをまとめる。</li> <li>・ 4人グループを作り、2人が話し合い、残り2人は聞き取りメモを取る。</li> <li>・ 話し合い後、話し合った2人は聞き取りメモについてメモを取った2人は話し合いで出た意見の内容や表現のしかたについて評価し、伝え合う。</li> <li>・ 役割を交代して、活動をもう一度行う。</li> </ul> </li> <li>○ 設定した課題を踏まえて、学習を振り返る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えと比べたり、表現に生かしたい点を意識したりしながら聞いたか。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・ 「評価する」とは、相手の意見の是非や善悪を決めることではなく、意見の内容を検討することであることを伝える。</li> <li>・ 自分の意見と比較させるため、最初に意見とその理由を書き込ませる。</li> <li>・ 教科書を見せずに行わせるとよい。</li> <li>・ 自分の考えと比べ、評価しながら聞くように意識させる。</li> <li>・ 話し合いの内容が「評価メモ例」にどのように書かれているか確認させる。</li> <li>・ 「上達のポイント」(p.26)を読み、評価のポイントやメモの書き方を確認させる。</li> <li>【評】事実関係や裏付けなどに注意して聞く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 「ペットの飼育」について自分たちで改めて話し合ったり、別の聞き取り教材を教師が幾つか準備して、生徒に選ばせたりしてもよい。</li> <li>・ 反対の立場の考えを想定させるとよい。</li> <li>【評】根拠の適切さや自分の考えとの違いなどを伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

第3学年のスタートにあたり、第2学年までの学習を生かしつつ、言葉への気付きをより深いものにさせたい。詩や小説、古典を通して、言葉の力や豊かさに気付かせ、そこに描き出された人間の生き方についても考えさせたい。また、これらの学習活動を通して、第3学年での学習に対する意欲を高めることも念頭に置いて指導に当たりたい。

また、小説の登場人物も古典に描かれた生き方も、自分や社会と深い関わりをもっている。義務教育の最終段階として、読むことを通してより広い視点から人と社会の関わりについて考えさせ、第3学年での国語の学習の見通しをもたせたい。

単元名 1 深まる学びへ ―学びて時に之を習ふ ――「論語」から 配当時間 2時間

単元の目標 (1) 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。  
(2) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。  
(3) 人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持ち、今までの学習を生かして朗読したり考えを伝え合ったりしようとする。

### 標準的な展開例

12210104\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 孔子や「論語」について知り、「論語」にまとめられていることを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 孔子や論語についてまとめよう。</li> <li>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 「論語」という作品について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材文と出典 (p. 30) を読み、孔子と論語の基礎知識をもつ。</li> </ul> </li> <li>○ それぞれの言葉を聞く。</li> </ul> <p>○ 漢文のきまりについて復習する。</p> <p>○ それぞれの章句を音読する。</p> <p>○ それぞれの言葉について、内容を捉える。</p> <p>2 日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験や伝聞を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまる体験を伝え合う。</li> <li>○ 前時の学習内容を確認しながら書き下し文を読む。</li> <li>○ 現代語訳を確認する。</li> <li>○ 日常生活や自分の生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験や伝聞を伝え合う。</li> <li>○ 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「論語」の中から、自分たちの生活に生かしていきたい言葉を選び、伝え合う。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語便覧や社会科資料集などを使って、孔子が生きた時代の歴史的背景等を確認させる。</li> <li>・ 教師による範読か、国語指導CDを聞かせてもよい。</li> <li>・ 孔子の言葉がまとめられたものなので、「子曰はく」から始まっていることを説明する。</li> <li>・ 送り仮名、返り点、訓読文、書き下し文について既習事項を本文を用いて確認する。</li> <li>・ 書き下し文を繰り返し読ませ、漢文独特の調子に慣れさせる。</li> <li>・ 脚注を参考にしながら、現代語訳をさせる。</li> <li>【評】教材の書き下し文や訓読文を読み、現代語訳をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 斉読やグループ読み、個人読みなど、工夫をして読ませたい。</li> <li>・ 「曰く『……』と。」「また……ずや。」「……則ち……」など、漢文独特の表現について解説する。</li> <li>・ 「論語」の他の言動も現代語訳を付けて紹介し、選択肢を増やすとよい。</li> <li>【評】孔子の言葉を自分の生き方や生活と関連付けて考え、伝え合う活動を通して、「思考・判断・技能」を評価する。</li> <li>・ 小グループやペアで行うことで全員に発表させる。</li> <li>【評】自分たちの生活に生かしたい言葉を伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

### 【備 考】

第3学年のスタートにあたり、第2学年までの学習を生かしつつ、言葉への気付きをより深いものにさせたい。詩や小説、古典を通して、言葉の力や豊かさに気付かせ、そこに描き出された人間の生き方についても考えさせたい。また、これらの学習活動を通して、第3学年での学習に対する意欲を高めることも念頭に置いて指導にあたりたい。

また、小説の登場人物も古典に描かれた生き方も、自分や社会と深い関わりをもっている。義務教育の最終段階として、読むことを通してより広い視点から人と社会の関わりについて考えさせ、第3学年での国語の学習の見通しをもたせたい。

## 単元名 1 深まる学びへ ―情報整理のレッスン 情報の信頼性

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 情報の信頼性の確かめ方を理解し、使うことができる。  
(3) 情報の信頼性の確かめ方を理解し、積極的に使おうとする。

## 標準的な単元例

12210105\_001

【準備等】国語指導CD, 再生機, 本

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 情報の信頼性の確かめ方を理解して使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★情報の信頼性の確かめ方を理解して使おう。</li> <li>○ 下段の問題(p. 32)について、グループで考える。</li> <li>○ 教材文を通読する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報は編集されているため、情報の信頼性を確かめる必要があることを知る。</li> </ul> </li> <li>○ 「確認の方法①」の「チェックポイント」の観点を参考にして、下段の問題(p. 32)を振り返る。</li> <li>○ 実際に本を手にとって、「確認の方法②」の「チェックポイント」の内容について確認する。</li> <li>○ 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なメディアが伝える情報はすべて編集されていることを理解し、信頼性の確かめ方について確認する。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知りたい情報を探すときに、どのメディアをよく使用し、どのような点に気をつけているかを話し合わせる。</li> <li>・ 小グループで行うことで全員に発表させる。</li> <li>・ 教師による範読か、国語指導CDを聞かせてもよい。</li> <li>・ 「チェックポイント」の観点ごとに、二つの情報の信頼性について確認させる。</li> </ul> <p>【評】情報の信頼性について確認する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が持っている本だけでなく、団体・官公庁・民間企業が著作・編集した本や統計資料が掲載されている本を用いるとよい。</li> <li>・ 小グループで行い、「チェックポイント」の観点ごとに本の情報の信頼性について確認させる。</li> <li>・ 複数のメディアを組み合わせることで情報を収集することの大切さについて理解させる。</li> </ul> <p>【評】学習を振り返り、信頼性の確かめ方を確認する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

第3学年のスタートにあたり、第2学年までの学習を生かしつつ、言葉への気付きをより深いものにさせたい。詩や小説、古典を通して、言葉の力や豊かさに気付かせ、そこに描き出された人間の生き方についても考えさせたい。また、これらの学習活動を通して、第3学年での学習に対する意欲を高めることも念頭に置いて指導に当たりたい。

また、小説の登場人物も古典に描かれた生き方も、自分や社会と深い関わりをもっている。義務教育の最終段階として、読むことを通してより広い視点から人と社会の関わりについて考えさせ、第3学年での国語の学習の見通しをもたせたい。

単元名 1 深まる学びへ ―文章の種類を選んで書こう 修学旅行記を編集する 配当時間 4時間

単元の目標 (1) 文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。  
(2) 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、「修学旅行記」の構成を工夫することができる。  
(3) 進んで文章の種類を選択し、学習の見通しをもって情報を編集し「修学旅行記」にまとめようとする。

### 標準的な展開例

12210106\_001

【準備等】修学旅行に関する情報、清書用紙

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 修学旅行記にまとめたい内容を精選し、ふさわしい文章形態を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本教材の目標と学習の流れを捉える。</li> <li>★ 修学旅行記にまとめたい内容を精選し、伝えたい内容にふさわしい文章形態を選ぼう。</li> <li>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 修学旅行で心に残った出来事や場所、出会いや発見などの自分が伝えたい題材を挙げ、取材メモを作る。</li> <li>○ 編集会議を開き、取材メモをグループで整理し、掲載する記事の内容や順序などの大枠を決める。</li> <li>○ グループで案を出しながら、伝えたい内容を効果的に伝えられる文章の種類や、文章に添える図表や写真について話し合い、担当するページを決める。</li> </ul> <p>2 紙面構成を考えて下書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 文章の種類に合った紙面構成を考え、下書きをしよう。</li> <li>○ 担当箇所について不足している情報を、書籍やインターネットから集める。</li> <li>○ 文章の種類に合わせて、内容や順序、図表や写真の配置などを工夫し、分かりやすい紙面構成を考え、下書きする。</li> </ul> <p>3 下書きを読んで助言し合い、清書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 魅力的な紙面となるよう助言し合い、構成や表現を工夫しながら文章や作品をまとめよう。</li> <li>○ グループで下書きを読んで助言し合う。</li> <li>○ 助言をもとに文章、作品を推敲し、清書する。</li> </ul> <p>4 修学旅行記をまとめ、互いに評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 修学旅行記をまとめ、互いに評価しよう。</li> <li>○ 修学旅行記を冊子にまとめる。</li> <li>○ 互いに読み合い、評価する。</li> <li>○ 学習を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書 (p. 34) の目標や学習の見通しをもとによって、この教材の目標と学習の流れを捉えさせる。</li> <li>・ 付箋を使用する。</li> <li>・ 修学旅行のしおりや見学場所のパンフレットなどの資料を見返して、書きたい題材を挙げさせる。</li> <li>・ 「目次の例」(p. 34)や「情報整理の方法」(p. 239)を参考にする。</li> <li>・ 読み手に伝えたい内容を明確にして、ふさわしい文章形態を選ばせる。</li> <li>・ 「①文章の種類を決める」(p. 34)や「グラフの活用／引用・出典」(p. 244)を参考にする</li> </ul> <p>【評】文章の種類について話し合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現時点で手元にある情報を整理させる。修学旅行のしおりやパンフレットなどから必要な情報を選ぶ。</li> <li>・ 同じ題材でも、文章形態によって必要な情報が異なってくることを実感させたい。</li> <li>・ 情報を集める際には、必ず出典を記録しておくよう指示する。</li> <li>・ 「②紙面構成を考え、下書きをする」(p. 35)や「修学旅行記の紙面例」(p. 36),「紙面作成のポイント」(p. 37)を参考にする。</li> <li>・ 「語彙を豊かに」(p. 284)を参考に、内容を的確に伝える言葉や表現についても工夫させる。</li> </ul> <p>【評】紙面構成を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポイントや評価の基準をまとめたチェックシートを用意し、参考にさせてもよい。</li> <li>・ 「魅力的な紙面を編集するには」(p. 37)の観点を参考にして、互いの下書きをチェックさせる。</li> <li>・ 総合的な学習との連携で、十分な時間を確保することが望ましい。</li> </ul> <p>【評】文章の構成や表現を工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表紙や目次、前書き・後書き、奥付などを分担して書かせる。</li> <li>・ 評価の基準をまとめたチェックシートを用意し、互いに評価させる。</li> </ul> <p>【評】互いに読み合い、評価する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> |

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・どんな点に注意して文章の種類を選び、書いたか。</li><li>・どんな点を工夫して編集したか。</li></ul> |  |
|---|--|

【 備 考 】

第3学年のスタートにあたり、第2学年までの学習を生かしつつ、言葉への気付きをより深いものにさせたい。詩や小説、古典を通して、言葉の力や豊かさに気付かせ、そこに描き出された人間の生き方についても考えさせたい。また、これらの学習活動を通して、第3学年での学習に対する意欲を高めることも念頭に置いて指導に当たりたい。

また、小説の登場人物も古典に描かれた生き方も、自分や社会と深い関わりをもっている。義務教育の最終段階として、読むことを通してより広い視点から人と社会の関わりについて考えさせ、第3学年での国語の学習の見通しをもたせたい。

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 単元名   | 1 深まる学びへ ―漢字1 熟語の読み方 漢字に親しもう1   | 配当時間 | 1時間 |
| 単元の目標 | (1) 第2学年までに学習した常用漢字に加え，その他の常用漢字の大体を読み，また，学年別漢字配当表に示されている漢字について，文や文章の中で使い慣れることができる。<br>(3) 積極的に漢字を読んだり，書いたりしようとする。 |      |     |

## 標準的な展開例

12210107\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| <p>1 漢字2字の熟語の読み方には，音または訓を重ねる読み方のほかに，音と訓を組み合わせた読み方があることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 漢字の読み方の種類を知ろう。</li> <li>○ 重箱読みと湯桶読み，熟字訓について学習する。</li> <li>○ 練習問題1・2に取り組み，漢字の音訓に着目して漢字の読み方を学習する。</li> <li>○ 「漢字に親しもう1」(p. 40)の問題に取り組む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熟字訓については，教科書(p. 39)を参照させて，定着を図りたい。</li> <li>・ 教科書の練習問題だけでなく，補充的な問題も用意したい。</li> <li>「三年生で学習した音訓」(p. 301)や「常用漢字表」(p. 302)，「常用漢字表 付表」(p. 316)，漢和辞典などで，音読みと訓読みを確認させる。</li> <li>【評】漢字の読み方の種類を確認する活動を通して，「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 言葉の意味が分からないときは，国語辞典等で調べさせるとよい。</li> <li>【評】漢字を読んだり，書いたりする活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

第3学年のスタートにあたり，第2学年までの学習を生かしつつ，言葉への気付きをより深いものにさせたい。詩や小説，古典を通して，言葉の力や豊かさに気付かせ，そこに描き出された人間の生き方についても考えさせたい。また，これらの学習活動を通して，第3学年での学習に対する意欲を高めることも念頭に置いて指導に当たりたい。

また，小説の登場人物も古典に描かれた生き方も，自分や社会と深い関わりをもっている。義務教育の最終段階として，読むことを通してより広い視点から人と社会の関わりについて考えさせ，第3学年での国語の学習の見通しをもたせたい。

「握手」は，道徳のD－(19)生命の尊さ，D－(22)よりよく生きる喜びに当たる。

## 単元名 2 視野を広げて 一作られた「物語」を超えて

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深めることができる。  
 (2) 文章の種類を踏まえて、論理の展開の仕方などを捉えることができる。  
 (3) 進んで文章の構成や論理の展開の仕方について評価し、情報と情報の関係について深めた理解を生かして、文章にまとめようとしている。

## 標準的な展開例

12210108\_001

【準備等】国語指導CD、再生機、国語辞典

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 文章全体の内容を読み取り、筆者の問題意識を捉える。<br/>         ○本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★筆者の問題意識(話題)を捉えよう。</p> <p>○範読を聞き、語句の確認をする。</p> <p>○筆者の問題意識(話題)を捉える。</p> <p>2 筆者の主張と論理の展開を捉える。<br/>         ○本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★筆者の主張と論理の展開を捉えよう。<br/>         ○筆者の主張を読み取る。</p> <p>○論理の展開を捉える。</p> <p>3 筆者の主張と論理の展開を評価する。<br/>         ○本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★筆者の主張と論理の展開を評価しよう。<br/>         ○筆者の主張に共感できるか否かを話し合う。</p> <p>○筆者の論理の展開を評価し、根拠を明確にしながら、考えたことを文章にまとめる。</p> <p>○学習を振り返る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・教師が範読する。もしくは国語指導CDを利用するのもよい。</li> <li>・二次元コードでドラミングを確認させてもよい。</li> <li>・新出漢字や意味の捉えにくい語句について挙げさせ、辞書などで確認させる。</li> <li>・「物語」という言葉を、どのような意味で用いているか、文脈に即して読み取らせる。</li> <li>・ゴリラについて作られた「物語」の内容と作られた経緯、ゴリラの観察を通して分かったことなど、筆者の説明の要旨を捉えさせる。</li> </ul> <p>【評】筆者の問題意識を捉える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は、ゴリラなどの野生動物の事例から、人間に共通するどんな性質を導き出したか、また、その性質は、人間の社会にどんな状況をもたらすと考えているかを捉えさせる。</li> <li>・筆者の主張を要約させる。</li> <li>・筆者の主張に至る論理の展開を理解させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話題の提示・問題提起」、「具体・抽象」「原因・結果」、「意見・根拠」などの概念を使って論理の流れや関係などを整理させるとよい。</li> </ul> <p>【評】論理の展開を捉える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体験や見聞きした事例を根拠にして、グループで話し合わせる。</li> <li>・「主張に至る論理の展開は、分かりやすく適切か」、「読み手の共感を得るのに有効か」という観点で、筆者の論理の展開を評価させる。</li> </ul> <p>【評】論理の展開を評価する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張を踏まえ、自分が今後、意識していきたいと思うことを語り合わせる。</li> <li>・論理の展開を評価するときには、どんな点に着目するとよいか、自分の言葉でまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】論理の展開の評価についてまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【備 考】

論説的な文章では、筆者の主張(抽象)に対して、複数の事例や根拠(具体)を挙げて解説している。文章における、具体と抽象の関係を捉え、筆者の論理の展開を評価しながら、筆者の主張を読み取り、人間や社会に対する考えを広げたり、深めたりさせたい。

また、スピーチの学習では、人々の価値観や行動に影響を与え、社会を変える力をもつスピーチの力を実感するとともに、社会生活の中から話題を決め、相手を説得できるように、話の構成や発表の仕方を工夫する中で、様々なことに問題意識をもち、社会に視野を広げさせたい。



単元名 2 視野を広げて ―思考のレッスン 具体化・抽象化

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。  
(3) 具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして課題に取り組もうとしている。

標準的な展開例

12210109\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| <p>1 具体と抽象の関係について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 具体と抽象の関係について理解しよう。</li> <li>○ 教材文(p. 50)を通読する。</li> <li>○ 下段の問題1に取り組む。</li> <li>○ 教材文(p. 51)を通読する。</li> <li>○ 下段の問題2に取り組む。</li> <li>○ 学習を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体と抽象の関係で捉えられるものや、具体と抽象の関係にある論理の展開の仕方について理解させる。</li> <li>・ 「抽象への展開を示す言葉」を活用させるとよい。</li> <li>・ まとめた文を互いに伝え合わせる。</li> <li>【評】具体例をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 具体化と抽象化の程度について理解する。</li> <li>・ 「例えば」以外にも、「具体への展開を示す言葉」(p. 50)を活用させるとよい。</li> <li>・ グループごとに、各自が作った具体例の具体化の程度を順序付け、全体に発表させる。</li> <li>・ 問題2の答えを付箋紙に書かせておくと、グループでの分類作業が効率的に行える。</li> <li>【評】具体化の程度を順序付ける活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</li> <li>・ 文章を読んだり書いたりするときには、具体と抽象の関係についてどんなことに注意すればよいか確認させる。</li> </ul> |

【 備 考 】

論説的な文章では、筆者の主張（抽象）に対して、複数の事例や根拠（具体）を挙げて解説している。文章における、具体と抽象の関係を捉え、筆者の論理の展開を評価しながら、筆者の主張を読み取り、人間や社会に対する考えを広げたり、深めたりさせたい。

また、スピーチの学習では、人々の価値観や行動に影響を与え、社会を変える力をもつスピーチの力を実感するとともに、社会生活の中から話題を決め、相手を説得できるように、話の構成や発表の仕方を工夫する中で、様々なことに問題意識をもち、社会に視野を広げさせたい。

## 単元名 2 視野を広げて 一説得力のある構成を考えよう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。  
 (2) 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。  
 (3) 相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、今までの学習を生かして自分の考えを話そうとする。

## 標準的な展開例

12210110\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 話題を決めて、情報を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 話題を決めて、情報を集めよう。</li> <li>○ 「リオの伝説のスピーチ」(p.56)を通読する。</li> </ul> <p>○ 「①話題を決める」(p.52)を読み、スピーチの話題を考える。</p> <p>○ スピーチの相手と伝えたい思いを明確にし、信頼性の高い必要な情報を集める。</p> <p>2～3 話の構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ スピーチの構成を考えよう。</li> <li>○ スピーチの構成を考え、構成メモにまとめる。</li> </ul> <p>○ 構成メモの内容について評価し合い、推敲する。</p> <p>4 スピーチの会を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 相手を説得できるスピーチをしよう。</li> <li>○ 推敲した構成メモを基に、スピーチをする。</li> </ul> <p>○ 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 根拠とする情報は、信頼性の高いものを選んだか。</li> <li>・ 聞き手の心を動かすスピーチをするために、どんなところに気を付けたか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スピーチのよかった点などを話し合い、自分たちのスピーチに生かしたいことを考えさせる。</li> <li>・ 「知多の友」を使用する。</li> <li>・ 社会で起きている出来事や話題の中で、多くの人に伝えたいと思ったことを選ばせ、話題にさせる。</li> <li>・ 「発想を広げる」(p.240)のテーマ例を参考に、発想を広げさせる。</li> <li>・ 「知多の友」を使用する。決定したものは赤で囲ませる。</li> <li>・ 「情報整理の方法」(p.239)を参考に、情報の信頼性を確かめさせる。</li> <li>【評】情報の信頼性を確かめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 「知多の友」を振り返らせる。</li> <li>・ 「知多の友」を使用する。</li> <li>・ p.53の上段「観点」や下段を参考にして、スピーチの構成を考えさせる。</li> <li>・ 生徒自身のスピーチの話題と社会との関連を考えさせる。</li> <li>【評】構成メモを工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ グループやペアで評価させる。</li> <li>・ 「聞き手の心に訴えるスピーチをするために【内容を考えるとき】」を参考にさせる。</li> <li>・ ポイントや評価の基準をまとめたチェックシートを用意してもよい。</li> <li>・ 「スピーチの例」(p.54)や「スピーチで大切な三つのポイント」(p.55),「聞き手の心に訴えるスピーチをするために【発表するとき】」(p.55)を参考にさせる。</li> <li>・ ポイントと評価の基準をまとめたチェックシートを用意してもよい。</li> <li>・ スピーチの時間を2分、質疑応答の時間を4分と聞き手が感想を伝えたり、質問したりする時間を取る。</li> <li>・ 生徒たちが自分のパフォーマンスを振り返ることができるよう、ICT機器を使ってスピーチや質疑応答の様子を録音・撮影しておくもよい。</li> <li>【評】自分の考えを話す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

論説的な文章では、筆者の主張（抽象）に対して、複数の事例や根拠（具体）を挙げて解説している。文章における、具体と抽象の関係を捉え、筆者の論理の展開を評価しながら、筆者の主張を読み取り、人間や社会に対する考えを広げたり、深めたりさせたい。

また、スピーチの学習では、人々の価値観や行動に影響を与え、社会を変える力をもつスピーチの力を実感するとともに、社会生活の中から話題を決め、相手を説得できるように、話の構成や発表の仕方を工夫する中で、様々なことに問題意識をもち、社会に視野を広げさせたい。

**単元名 2 視野を広げて ー漢字に親しもう2**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体の読み、また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。  
(3) 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

**標準的な展開例**

12210111\_001

**【準備等】** 国語辞典、漢和辞典

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| 1 問題に取り組み、新出漢字に使い慣れる。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★ 新出漢字に使い慣れよう。<br>○ 問題に取り組む。 | ・ 言葉の意味を辞書で確認しながら、漢字を読んだり書いたりする。<br>・ 漢字の音訓、熟語、部首、送り仮名、類義語<br>・ 多義語などに注意させる。<br><b>【評】</b> 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 |

**【 備 考 】**

論説的な文章では、筆者の主張（抽象）に対して、複数の事例や根拠（具体）を挙げて解説している。文章における、具体と抽象の関係を捉え、筆者の論理の展開を評価しながら、筆者の主張を読み取り、人間や社会に対する考えを広げたり、深めたりさせたい。

また、スピーチの学習では、人々の価値観や行動に影響を与え、社会を変える力をもつスピーチの力を実感するとともに、社会生活の中から話題を決め、相手を説得できるように、話の構成や発表の仕方を工夫することで、様々なことに問題意識をもち、社会に視野を広げさせたい。

**単元名 2 視野を広げて 一文法への扉1 すいかは幾つ必要？**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。  
(3) 助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとする。

**標準的な展開例**

12210112\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 これまでの文法学習を振り返り、表現や読み取りに文法を生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ これまで学習した文法を、自分の表現や読み取りに生かそう。</li> <li>○ 教科書 (p. 61) を読み、例と同じように誤解が生じたという経験を発表する。</li> <li>○ 文法を生かして伝え合う (p. 212～p. 213) を読み、下段の問題に取り組む。</li> <li>○ 文法を生かして読み味わう (p. 214) を読み、下段の問題に取り組む。</li> <li>○ 本時を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの言語生活を振り返り、誤解やすれ違いが起こってしまった例を出させる。</li> <li>・ 項目(文節・連文節の対応、意味のまとまり呼応の副詞)ごとに読み、それぞれのポイントを理解してから問題に取り組ませる。</li> <li>【評】練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 1語の違いで、イメージが大きく変わってしまうことに着目させたい。</li> <li>【評】これまでの文法学習を生かし、練習問題に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

**【 備 考 】**

論説的な文章では、筆者の主張（抽象）に対して、複数の事例や根拠（具体）を挙げて解説している。文章における、具体と抽象の関係を捉え、筆者の論理の展開を評価しながら、筆者の主張を読み取り、人間や社会に対する考えを広げたり、深めたりさせたい。

また、スピーチの学習では、人々の価値観や行動に影響を与え、社会を変える力をもつスピーチの力を実感すると共に、社会生活の中から話題を決め、相手を説得できるように、話の構成や発表の仕方を工夫することで、様々なことに問題意識をもち、社会に視野を広げさせたい。

単元名 情報社会を生きる ー 実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう 配当時間 3時間

単元の目標 (1) 実用的な文章の資料ごとに、情報の発信者・発信時・発信目的を確認することができる。  
(2) 事実や事例の選び方、取り上げ方や語句の選び方に着目して文章を読み、書き手の思惑や意図について考えることができる。観点ごとに情報を整理し、着眼的を参考に情報の客観性や信頼性を確認しながら表にまとめることができる。  
(3) 積極的に情報の信頼性の確かめ方を使って読み、学習したことを踏まえて実生活への生かし方を考えようとする。

### 標準的な展開例

12210113\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 実用的な文章を読み、生活の中でどう生かしていけばよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考えよう。</li> <li>○ 社会生活の中で触れたことのある実用的な文章に、どのようなものがあつたか振り返る。</li> <li>○ 「やってみよう」①に取り組み、大人用と子供用のパンフレットの違いを見つける。</li> <li>○ 「やってみよう」②に取り組み、分かりやすく説明するための工夫を考える。</li> <li>○ 「やってみよう」③に取り組み、確認すべき情報について考える。</li> </ul> <p>2 二つの報道文を読み、それぞれの特徴についてまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 報道文を比較して、それぞれの特徴についてまとめよう</li> <li>○ 教科書 (p. 64～p. 67) の二つの記事の範読を聞き、分からない漢字や語句を調べ、内容をおおまかにつかむ。</li> <li>○ 二つの記事の特徴についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見出し</li> <li>・ リード文</li> <li>・ 本文</li> <li>・ 写真</li> </ul> </li> </ul> <p>3 二つの報道文を読み比べ、その特徴や効果を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 二つの報道文を読み比べ、その特徴や効果を評価しよう</li> <li>○ 二つの記事の特徴、効果などについて、根拠を明確にして、気付いたことを交流する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リード文や、「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・ 新聞広告やちらし、取扱説明書、学校のお知らせなど、実例を提示しながら、具体的に考えさせる。</li> <li>【評】 実用的な文章を探す活動を通して、「主体的に学びに取り組む態度を評価する。」</li> <li>・ 3～4人グループで、大人用と子供用のパンフレットを読み比べ、違いを書き出させる。</li> <li>・ グループごとに表にまとめ、全体に発表させる。</li> <li>・ 「漢字」、「フォント」、「語尾」、「情報」、「レイアウト」、「色使い」など観点ごとに違いを表にまとめさせるとよい。</li> <li>・ 子供用のパンフレットでは、どんな工夫がされているかも話し合わせる。</li> <li>・ ペアで行う。</li> <li>・ 木村さん役とみどりさん役を交代して行う。みどりさん役は、分からないことを一つ一つ質問の形にして木村さんに聞き、木村さん役は、小学3年生が納得できるように言葉で説明する。</li> <li>・ 活動前に、傍線部の中で生徒が分からないことを、インターネットなどを使って調べさせるとよい。</li> <li>・ 生徒たちの活動を観察し、適切なペアを指名して、全体の前でやり取りを発表させる。</li> <li>【評】 分かりやすく説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 木村さんが確認すべき情報に傍線を引き、なぜ確認すべきなのか理由も考えさせる。</li> <li>・ ペアで木村さん役と家族役に分かれ、傍線を引いた情報について話し合わせる。</li> <li>・ 説明する相手と目的を踏まえて説明させる。</li> <li>・ 生徒が木村さん役、教師が家族役として活動してもよい。</li> <li>【評】 確認すべき情報を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 範読を聞きながら、読みづらい漢字や意味の分からない専門用語を挙げさせておく。</li> <li>・ 意味の分からなかった語句や用語を辞書で調べさせる。</li> <li>・ 記事の特徴について、観点ごとに表にまとめさせる。</li> <li>【評】 観点ごとに特徴をまとめる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 4～5人グループになり、表に書き出した内容</li> </ul> |

○学習を振り返る。

を共有し、共通点や違いに着目して、気付いたことや考えたことを伝え合わせる。

【評】特徴を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・実用的な文章を読むときや書くときのポイントには、どのようなものがあったかを挙げさせる。

・報道文には発信者の意図が反映されていることを踏まえて、自分が今後、報道文を読む際に意識したいと思うことを伝え合わせる。

【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

身の回りには、広告、商品などの説明資料、取扱説明書、パンフレット、行政機関からのお知らせなど、様々な種類の実用的な文章がある。情報を伝えるための工夫や相手意識を理解し、実用的な文章を生活の中でどう生かしていけばよいかを考えさせたい。

新聞記事の内容は、大きく分けて「報道」と「論説」がある。「報道」自体には、直接に意見・主張は書かれていない。ただし、「報道」は事実を取捨選択したり表現を選択したりしながら書かれているために、書き手のものの見方や考え方が間接的に反映されている。一方、「論説」は、明確に書き手の意図・意見・主張が提示される。同じテーマに関する二つの記事を比較して読むことで、共通点や相違点が明確になってくる。折りに触れて、同じ出来事を扱った記事を比べて読む場面を設定し、常に批評の目をもって文章を読む練習をしておくことも大切である。

## 単元名 3 言葉とともに 一俳句の可能性 俳句を味わう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 俳句の形式とその特徴について理解し、俳句を創作することができる。  
 (2) 自分の思いや考えが分かりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作することができる。  
 (3) 進んで文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って、鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとする。

## 標準的な展開例

12210114\_001

【準備等】国語指導CD, 再生機, 植物の写真などの俳句の情景が想像しやすくなる資料

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 情景を想像しながら、それぞれの俳句を朗読する。<br/>         ○ 本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★ 情景を想像しながら、俳句を朗読しよう。<br/>         ○ それぞれの俳句を朗読し、想像した情景を話し合う。</p> <p>2 本文を読み、俳句についてまとめる。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★ 俳句の形式とその特徴についてまとめよう。<br/>         ○ 本文を読み、俳句についてまとめる。</p> <p>○ 本文や「俳句を味わう」(p.74)から最も気に入った俳句を1句選び、短い鑑賞文を書く。</p> <p>○ 鑑賞文を読み合う。</p> <p>3 「俳句を作って楽しもう」(p.75)を読み、俳句を創作し、発表し合う。<br/>         ○ 本時の学習課題をつかむ。<br/>         ★ 表現を工夫して俳句を作り、発表し合おう。<br/>         ○ 日常生活の中から俳句を作る。</p> <p>○ 6～8人グループで、句会を行う。</p> <p>○ 各グループからよい作品を1句選び、全体に紹介する。</p> <p>○ 学習を振り返る。<br/>         ・ 俳句の特徴はどのようなものがあったか。<br/>         ・ 鑑賞文を書くときのポイントは何か。<br/>         ・ 句会で紹介された俳句で参考にしたい語句の使い方や表現の仕方。</p> | <p>・ 「目標」や「学習の見通しをもとう」でねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</p> <p>・ 「いつ」「どこ」「誰」「何をしている」などを具体的に想像させ、伝え合わせる。<br/>         【評】情景を伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」の意味を確認させる。</p> <p>・ 本文中から、筆者のものの見方や感じ方がよく表れている語句や表現を抜き出して、意味を確認させる。<br/>         【評】俳句の形式とその特徴をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 感じたことや想像したことだけでなく、そう感じさせた俳句の中の表現や特徴を具体的に示させる。<br/>         【評】鑑賞文を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 同じ俳句を選んだ生徒でグループを作り、鑑賞文を読み合わせる。</p> <p>・ 「名人に学ぶ俳句の作り方」(p.75)を基に、俳句を作らせる。</p> <p>・ 学校図書館から、名句集や歳時記などを借りて来させ、参考にさせるとよい。<br/>         【評】俳句を作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 「句会を開こう」(p.75)を参考に行わせる。二次元コードを活用してもよい。</p> <p>・ それぞれの句の評価や感想などの簡単なコメントを、付箋などに書かせるとよい。</p> <p>・ 1句を板書し、書いてもらったコメントを紹介させる。</p> <p>・ 後日、全員の俳句をまとめて配布したり、教室に掲示したりするとよい。<br/>         【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【備 考】

俳句は、今日まで継承されてきた日本の代表的な伝統的言語文化の一つであり、世界的にも広く知られた短詩型文学である。定型や季語などの約束事を知るとともに、世界で最も短い詩である俳句の豊かな表現力に気付かせ、簡潔な表現に込められた多様なものの見方や感じ方を味わわせたい。

同じ対象を指していても、世代や地域、属する集団などによって、それを指す言葉が違う場合がある。また、相手や場によって、言葉の選び方や表現の仕方も違ってくる。よりよく伝えるために必要な言葉の選び方や表現上の配慮などを、大人との接触も増えてくるこの時期の生徒に伝えたい。

**単元名 3 言葉とともに 一言葉を選ぼう もっと「伝わる」表現を目ざして**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。  
 (3) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、試行錯誤しながら相手や場面によって言葉を選んで話そうとする。

**標準的な展開例**

12210115\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 言葉の変化について理解し、相手や場面によって言葉を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ リード文 (p. 76) を読み、学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 言葉の変化について理解し、相手や場面によって言葉を選ぼう。</li> <li>○ 時代による言葉の変化と世代による言葉の変化について確認する。</li> <li>○ 時代や世代によって異なる言葉の例を探し、話し合う。</li> <li>○ 相手や場面によって言葉を選び、p. 77下段の文章を分かりやすく書き換える。</li> <li>○ 書き換えた文章を伝え合う。</li> <li>○ 本時を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習のねらいを確認させる。</li> <li>・ 言葉の変化について知ろう (p. 76) を読み、時代による変化と世代による変化を確認させる。</li> <li>・ 昔の小説や祖父母との会話などを手がかりに自分たちの世代と異なる言葉を探させる。</li> <li>・ 「高瀬舟」(p. 246)、「古典・近代文学の名作」(p. 272)を参考にしてもよい。</li> <li>【評】時代や世代によって異なる言葉を探す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 話す相手や場面を具体的に設定させる。</li> <li>・ 完成した文章を発表させ、小グループや全体で交流し、自分の文章を振り返らせる。</li> <li>・ クラス全体で適切な言い方について確認する</li> <li>【評】分かりやすい文章を考え、伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 相手によりよく伝えるために言葉を選ぶことが大切であることを感じさせ、今後の生活に生かしていけるようにさせたい。</li> </ul> |

**【 備 考 】**

俳句は、今日まで継承されてきた日本の代表的な伝統的言語文化の一つであり、世界的にも広く知られた短詩型文学である。定型や季語などの約束事を知るとともに、世界で最も短い詩である俳句の豊かな表現力に気付かせ、簡潔な表現に込められた多様なものの見方や感じ方を味わわせたい。

同じ対象を指していても、世代や地域、属する集団などによって、それを指す言葉が違う場合がある。また、相手や場によって、言葉の選び方や表現の仕方も違ってくる。よりよく伝えるために必要な言葉の選び方や表現上の配慮などを、大人との接触も増えてくるこの時期の生徒に伝えたい。



**単元名 3 言葉とともに 一言葉1 和語・漢語・外来語**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) 和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けができる。  
 (3) 進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして相手や場面に応じて適切に使い分けをしようとする。

**標準的な展開例**

12210116\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| 1 和語・漢語・外来語を適切に使い分ける。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★和語・漢語・外来語を適切に使い分けよう。<br>○ 和語・漢語・外来語から受ける印象の違いについて話し合う。<br>○ 和語・漢語・外来語・混種語の性質や特徴について理解する。<br>○ どのように使い分けるのがよいか話し合う。 | ・教材文の導入の例を基に、和語・漢語・外来語の表現を比較し、感じ方の違いを伝え合わせる。<br>・教材文を読み、それぞれの特徴をまとめさせる。<br>【評】特徴をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br>・「生活に生かす 和語・漢語・外来語を使いこなそう」(p.79)を読み、生活の中の具体的な場面を想定して考えさせる。<br>・様々な場面を具体的に提示し、文章を適切に書き換える問題を用意してもよい。<br>【評】適切に使い分ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |

**【 備 考 】**

俳句は、今日まで継承されてきた日本の代表的な伝統言語文化の一つであり、世界的にも広く知られた短詩型文学である。定型や季語などの約束事を知るとともに、世界で最も短い詩である俳句の豊かな表現力に気付かせ、簡潔な表現に込められた多様なものの見方や感じ方を味わわせたい。

同じ対象を指していても、世代や地域、属する集団によって、それを指す言葉が違う場合がある。また、相手や場によって、言葉の選び方や表現の仕方も違ってくる。よりよく伝えるために必要な言葉の選び方や表現上の配慮などを、大人との接触も増えてくるこの時期の生徒に伝えたい。

## 単元名 読書生活を豊かに

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 今後の読書生活をデザインし、自己を向上させようとする。  
 (3) 目的に応じて本や文章などを読み、自分の考えを深めることができる。さまざまな分野の文章を読むことを通して、語彙を増やし、語感を磨くことができる。

## 標準的な展開例

12210117\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| <p>1 「高瀬舟」を読み、作品から人間の生き方や社会を考えよう。この「問い」を見つけ出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森鷗外の生涯 (p. 93) を読んで、作品や作者について知る。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★作品中から「問い」を見つけよう</li> <li>範読を聞き、あらすじや登場人物の設定をつかむ。</li> <li>作品から浮かぶ「問い」を考える。</li> <li>思い浮かんだ「問い」を発表させ、その中から自分の意見を述べるための「問い」を選び、文章を書く。</li> </ul> <p>2 これまでの読書生活を振り返り、読書傾向を分析するとともに、今後読みたい本について考えを広げ、読書計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★これまでの読書生活を振り返り、今後の読書計画を立てよう</li> <li>自分の読書生活を振り返り、分析してまとめる。</li> <li>グループに分かれ、分析した読書傾向について発表し、感想を語り合う。</li> <li>グループで話し合った結果を、学級全体に紹介する。</li> <li>自分のこれからの読書生活を考え、情報を集めて具体的な読書計画を立てる。</li> <li>読書計画を交流する。</li> <li>読書案内 (p. 96) や読書コラム (p. 99) を読み、本単元をまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>森鷗外が陸軍軍医であるとともに、明治の文豪であることなど、時間の許す範囲で補足してもよい。</li> <li>教師の範読か、国語指導CD (約36分) を利用してもよい。</li> <li>時間をとらないように、簡単に確認する程度にとどめる。</li> <li>「問い」を立てるのは、人間の生き方や社会について考えを深めるためなので、本文を読めばすぐ答えが出てくるようなものは避けることを確認する。</li> <li>○予想される問いの例             <ul style="list-style-type: none"> <li>①知足 (足るを知る) に関する問い</li> <li>②安楽死に関する問い</li> <li>③作者鷗外に関する問い</li> <li>④表現に関する問い</li> </ul> </li> <li>【評】人間の生き方や社会についての考えを深めるために「問い」を考える活動を通して、「読む」を評価する。</li> <li>ここからの活動は、夏休みの課題などにしてもよい。</li> <li>他の生徒の「問い」を参考にさせ、自分が意見を述べるのにふさわしい「問い」を見つけられるようにする。</li> <li>書いたものは、後日文集にして読み合わせたり、話し合いの学習材にすることも考えられる。</li> <li>教師の読書経験や読書傾向を語り、読書を生活に役立てることの意義について考えさせたい。</li> <li>教科書 (p. 93, p. 94) を参考に分析の観点を示し、まとめさせる。</li> <li>【評】読書生活を振り返り、分析してまとめる活動を通して、「関心・意欲・態度」を評価する。</li> <li>読書傾向の共通点や相違点の中から、今後の読書計画に役立つものを見つけていく。</li> <li>これから読み広げていきたい分野やテーマを考え、本を探す。</li> <li>教科書 (p. 95) を参考にして、読書計画を立てる。</li> <li>立てた計画を交流し、夏休みの読書生活の参考にさせたい。</li> </ul> |

## 【備 考】

中学校生活では、なかなか手にする事のない近代文学の名作を取り上げ、登場人物の考え方について話し合ったり、朗読したりしながら、文学作品を味わう体験をさせ、今後の読書生活のあり方について考えさせたい。

近代の名作や科学読み物、哲学の本など、さまざまなジャンルの本を読み、読書の幅を広げ、人間の生き方について考える。また、読書記録などを基に、自分の読書傾向を分析し、今まで読んだことのないジャンルやテーマに挑戦したり、多読に挑戦したりするなど、読書生活を自らデザインする力を養いたい。

## 単元名 (書写)行書を深めよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 行書の特徴について理解を深め、筆使いに気を付けて書くことができる。  
(3) 行書で学習したことを、日常生活に生かそうとする。

## 標準的な展開例

12210118\_001

【教材名】「創造」 (P. 88～P. 89)

【準備等】DVD-ROM, 毛筆のための練習用紙, 筆記用具(鉛筆, ボールペン, サインペン, 色鉛筆等)

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 点画の変化と連続, 次の文字への筆脈を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○行書の特徴について, 第2学年までに学習した内容を振り返る。</li> <li>○「創造」を硬筆で試し書きをして, 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★点画の変化と連続や, 次の文字への筆脈を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○示範や教科書の「考えよう」(p. 89)を参照し, 点画の形や方向の変化, 次の文字への筆脈を考え, 自己課題を設定する。</li> <li>○「創造」を, 毛筆で練習用紙や半紙に練習して, 批正する。</li> <li>○毛筆でまとめ書きをする。</li> </ul> <p>2 点画の変化と連続, 次の文字への筆脈を理解して硬筆で書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループで前時の作品を鑑賞し合い, 行書の特徴, 半紙への配列などを確認し, 相互評価する。</li> <li>○グループによる話し合いの結果をまとめ, 発表する。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★点画の変化と連続, 次の文字への筆脈を理解して硬筆で書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○硬筆を練習する。</li> <li>○筆記用具を選択して書く。</li> </ul> <p>○教科書(p. 89)を使いまとめ書きをし, 振り返りを行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元では, 第1時に毛筆, 第2時に硬筆という展開で計画してあるが, これまで同様2時間を使って, 毛筆と硬筆両方に取り組む展開も考えられる。</li> <li>・行書の特徴である点画の変化と連続を意識して学習することを強調し, 本時が毛筆による行書のまとめであることを知らせる。</li> <li>・教科書(p. 89)に, 楷書と行書の違いを意識させながら硬筆で取り混ぜることによって, 学習課題への意欲を高める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水書板等を用い示範して, より具体的につかませたい筆使いは, 以下のとおりである。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①点画の変化と連続を理解して書く。<br/>「へん」と「つくり」の空間の取り方「しんによろ」の字形の組み立て方</li> <li>②次の文字への筆脈を理解して書く。<br/>「りつとう」の変化, 形の変化</li> <li>③配列<br/>行の中心, 余白の取り方, 学年と氏名記入</li> </ul> </li> <li>・点画の連続に注目するよう促しながら, 運筆の理解のためDVD-ROM等を参照する。</li> </ul> <p>【評】点画の変化と連続を理解して書く活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が鑑賞する観点として, 全体のまとめ方点画の変化と連続, 字形の組み立て方, 行の中心・余白, 名前の書き方などを提示する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生かそう」(p. 89)を使い, 次の画への連続や, 次の文字への筆脈を意識して書かせる。</li> <li>・様々な筆記用具を事前に準備するよう指示をしておく。例として, 鉛筆, ボールペン, サインペン, 色鉛筆等が考えられる。筆記用具について考える活動から, 行書のもつ特性やよさに気付かせたい。</li> </ul> <p>【評】用具を選択しながら, 点画の変化と連続を理解して書く活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行書学習のまとめをする。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

これまでに学習した行書の特徴を意識して書き, 学習グループで発表し合うことによって, 自分の文字について考えさせたい。また, 硬筆で書くことに活用できるようにすることで, より日常的な書写力として行書の定着を図るようにしていく。また, 身の回りの多様な文字に関心をもたせ, 用具や書体を選択して適切に書き表すことを学び, 表現効果を考える力を養っていききたい。

第2学年までに学習した行書の技法を, 日常の書写活動に進んで生かしていくようにさせる。また, 相互評価や互いの作品を鑑賞することを学習活動の中に取り入れていけるとよい。

補助教材集 行書「有終完美」 教科書 (p. 143)

## 単元名 4 状況の中で 一挨拶 ——原爆の写真によせて

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 比喻や抽象的な表現に着目し、文脈の中での意味を考えることができる。  
 (2) 現代社会の状況と重ね合わせながら詩を読み深め、作者の思いや考えに対して自分の考えをまとめることができる。  
 (3) 詩の構成や表現の仕方について積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことをまとめようとする。

## 標準的な展開例

12210201\_001

【準備等】原爆の写真（数枚），国語指導CD，再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 詩の背景にある歴史的事実を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 詩の背景にある歴史的事実をつかみ、重要語句の意味を理解しよう。</li> <li>○ 原爆について知っていることを確認する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いつ</li> <li>・ どこで</li> <li>・ なにが</li> </ul> </li> <li>○ 原爆の写真を見て、感じたことをノートに書き、発表する。</li> <li>○ 詩を音読する。</li> <li>○ 文脈の中での語句の意味を理解する。</li> <li>○ 「顔」という表現を捉える。</li> </ul> <p>2 現実の世界の状況と重ね合わせながら、作者の主張をつかみ、自分の意見を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題を確認して、詩を音読する。</li> <li>★ 現実の世界の状況と重ね合わせながら、作者の主張をつかみ、自分の意見を述べよう。</li> <li>○ 表現の効果を評価する。</li> <li>○ 自分の意見を述べる。</li> <li>○ 学習を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適宜、内容を補足していく。</li> <li>・ 原爆の写真を見て感想を書くことで、作者の追体験をさせると同時に、歴史的事実を身近に感じさせる。</li> <li>・ 教師の範読か、国語指導CDを聞かせ、その後に斉読させる。</li> <li>・ 意味の分からない語句を辞書で調べさせる。また、短文作りによって、語句の意味を身に付けさせる。</li> <li>【評】語句の文脈での意味を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 詩の中で繰り返し出てくる「顔」が、それぞれどのような人の「顔」を表現しているのか考えさせる。</li> <li>・ 第6連にある「午前八時一五分は／毎朝やってくる」という表現に込められた意味とその効果を考えさせる。</li> <li>・ 「油断」の意味とその効果について考えさせる。</li> <li>・ 作者がこの詩の中で、どのようなことを考え伝えようとしたのかを踏まえて、現代社会の状況と重ね合わせながら、自分の意見を述べさせる。</li> <li>【評】自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 詩に使われている表現の効果について考えたことや、詩に表現された内容について考えたことをまとめさせる。</li> <li>【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

中学校の最終学年にふさわしく、厳しい状況下に置かれた人間の姿を読み取り、読み深めていきたい。表現の工夫に注意して読んでいく中で、人物や作者の心情だけでなく、彼らがそのように感じ、考えた時代背景にも目を向けさせたい。そうした人間と社会との普遍的な関わりについて考えを深め、自分なりの意見をもたせたい。「故郷」は、道徳のD－(22)「よりよく生きる喜び」に当たる。

## 単元名 4 状況の中で ―故郷

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 文学作品を詠むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気付くことができる。
- (2) 自分の知識や経験と比べたり、語り手や人物の立場、時代背景などを変えて読んだりして、作品のもつ特性や価値を探ることができる。
- (3) 粘り強く文章を批判的に読み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとする。

## 標準的な展開例

12210202\_001

【準備等】国語指導CD, 再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1～2 作品を通読し、作品の設定を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本教材の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 作品の舞台や時代背景を確認する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 作品の設定を捉えよう。</li> <li>○ 作品を通読する。</li> <li>○ 現在の場面と「私」の回想の場面を確認する。</li> <li>○ 「私」と他の登場人物との関係を整理する。</li> </ul> <p>3～4 場面や登場人物の設定に着目して読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容の概略を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 場面や登場人物の設定に着目して読み取ろう。</li> <li>○ 回想の場面と現在の場面とを比べ、描写の変化を読み取る。</li> <li>○ 「ルントウ」と再会した場面で「私」が感じた「悲しむべき厚い壁」とは何か、考える。</li> <li>○ 最後の場面で「私」が抱く「希望」や、望む社会とはどのようなものかを捉え、「私」の考え方について自分はどうか考えるか、話し合う。</li> </ul> <p>5 作品を批評する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 作品を批評してみよう。</li> <li>○ 「批評の観点」の事柄について、自分なりの評価を下す。</li> <li>○ 作品のもつ特性や価値について批評する。</li> <li>○ 学習を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・ 国語便覧や社会科資料集などを準備させ、調べさせるとよい。</li> <li>・ 教師による範読か、国語指導CDを利用して聞かせる。</li> <li>・ 新出漢字や難語句をチェックさせながら聞かせ、意味を調べさせる。</li> <li>【評】 難語句を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 「展開のしかたを捉える」(p. 24)を参考に、作品の展開のしかたを捉えさせる。</li> <li>・ 「文学的な文章を読むために」(p. 232)の②設定を参考に、人物相関図などを使って、人物同士の関係や、人物が果たす役割を整理させる。</li> <li>【評】 人物相関図を作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 「故郷の様子」、「ルントウ」、「ヤンおばさん」について、回想の場面と現在の場面とを比べて、描写がどのように変化しているかが分かる部分を、それぞれに抜き出させる。</li> <li>・ 「情報整理の方法」(p. 239)を参考にしてもよい。</li> <li>・ なぜ、そのように変化したのかについても考えさせる。</li> <li>・ 「壁」ができた原因を二人の言動から探させる。</li> <li>・ 「私」と「ルントウ」、「ホンル」と「シュイション」の関係などを踏まえて捉えさせる。</li> <li>・ 必ず根拠を入れて自分の意見を述べさせる。</li> <li>【評】 自分の意見を述べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 「小説を批評する」(p. 112)を通読し、「批評の観点」の事柄について、自分なりの評価を書かせる。</li> <li>・ なぜそう評価するのか、学習したことや作品の内容に沿って理由を書かせる。</li> <li>・ 自分の知識や経験、考えと比べたり、別の視点や立場から作品を捉え直してみたりして、批判的に読ませる。</li> <li>【評】 作品を批評する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 友達の批評を読んで、自分の捉え方との共通点や相違点などを基に、考えが深まったことを発表させる。</li> <li>・ 今後、小説を読んで自分の考えをもつために大切にしたい観点を挙げさせる。</li> </ul> |

【評】学習の振り返りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

中学校の最終学年にふさわしく、厳しい状況下に置かれた人間の姿を読み取り、読み深めていきたい。表現の工夫に注意して読んでいく中で、人物や作者の心情だけでなく、彼らがそのように感じ、考えた時代背景にも目を向けさせたい。そうした人間と社会との普遍的な関わりについて考えを深め、自分なりの意見をもたせたい。

また、「故郷」は、道徳のD－（22）「よりよく生きる喜び」にあたる。

単元名 4 状況の中で 一聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る 配当時間 1時間

単元の目標 (1) 話し手や聞き手として、対談の中で、適切な言葉遣いをすることができる。  
 (2) 自分の知識や経験などと結び付けながら話を聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができる。  
 質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えることができる。  
 (3) 粘り強く話の展開を予測しながら聞き、今までの学習を生かして質問したり評価を述べたりしようとする。

### 標準的な展開例

12210203\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 質問で相手の思いや考えに迫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 聞き上手になって、質問で相手の思いに迫ろう。</li> <li>○ 対談の準備をする。</li> <li>○ 対談を行う。</li> <li>○ 学習を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・ 3～5人で一組となり、話し手(1人)、聞き手(1人)、聴衆(1～3人)を決めさせる。</li> <li>・ 聞き手役には、話し手から話題を聞き、中心となる質問を考えたり、話の流れを予想したりさせる。</li> <li>・ 話し手役には、いろいろな質問に答えられるように、話題を選んだ理由や具体的なエピソードなどを考えさせる。</li> <li>・ 「対談の例」(p.115)を参考にさせる。</li> <li>・ 聴衆役には、対談の会場準備と講評メモを用意させる。</li> <li>・ 二次元コードを活用してもよい。</li> <li>・ 聞き手役には、話し手や聴衆の様子を見て、「具体化」、「価値付け」、「言い換え」などをして、話を引き出させる。</li> <li>・ 聴衆役には、講評メモを取らせる。</li> <li>・ 「質問で思いや考えを聞き出すには」(p.114)を参考にさせる。</li> <li>【評】対談する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 話し手、聞き手、聴衆、それぞれの立場から対談を通して気付いたことや感じたことを交流させる。</li> <li>【評】対談を振り返る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

### 【 備 考 】

中学校の最終学年にふさわしく、厳しい状況下に置かれた人間の姿を読み取り、読み深めていきたい。表現の工夫に注意して読んでいく中で、人物と作者の心情だけでなく、彼らがそのように感じ、考えた時代背景にも目を向けさせたい。そうした人間と社会との普遍的な関わりについて考えを深め、自分なりの意見をもたせたい。「故郷」は、道徳のD－(22)「よりよく生きる喜び」に当たる。

## 単元名 4 状況の中で ―[推敲]論理の展開を整える

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 「具体と抽象」, 「事実と意見」, 「意見と根拠」について既習した内容を振り返りながら課題に取り組むことができる。  
 (2) 課題に沿って文章を推敲し, 論理の展開を捉えることができる。  
 (3) 目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確かめ, 情報と情報との関係の知識を生かして推敲しようとする。

## 標準的な展開例

12210204\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 論理の展開や内容に関わる点に着目して, 意見がより明確に伝わる文章になるように推敲する。</p> <p>○ 本時の学習の見通しをもち, 学習課題をつかむ。</p> <p>★ 論理の展開に着目し, 意見がより明確に伝わる文章になるように推敲しよう。</p> <p>○ 推敲の際, 注意すべきポイントを振り返る。</p> <p>○ 教科書 (p. 116) 上段の文章を通読し, 下段の課題に取り組む。</p> <p>① 事実と考えに分ける<br/>         ② 二つの段落に分ける<br/>         ③ 省いた方がよい一文を考える<br/>         ④ 3段落を書き改める</p> <p>○ 推敲した文をグループで確認し合う。</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リード文 (p. 116) を読ませることで, 学習の全体像を把握させる。</li> <li>・ 第2学年の時に推敲の学習で学んだ, 言葉の使い方や表記などのポイントを再確認させる</li> <li>・ 必要に応じて, 校正記号を確認させてもよい<br/>校正記号については「知多の友」や第1学年の教科書参照。</li> <li>・ ①については, 文末表現に注目させる。</li> <li>・ ②については, 一つの段落には一つの話題という考え方で分けさせるとともに, 「一つ目」「二つ目」というナンバリングにも気付かせたい。</li> <li>・ ③については, なぜその一文を省いた方がよいのかという理由まで考えさせ, 具体例として適切かどうか吟味させたい。</li> <li>・ ④については, 上達のポイント (p. 116) で双括型について確認し, 1段落の主張をまとめ直させる。</li> <li>・ 「具体と抽象」, 「事実と意見」, 「意見と抽象」について既習した内容を振り返りながら課題に取り組ませるとよい。</li> <li>・ 【評】文章を推敲する活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ ④の文章は互いに読み合わせ, よく書けているものを発表させる。その際, 根拠と主張が関連付けられているものを全体に共有させたい。</li> <li>・ これから文章を書くときに気を付けることをノートにまとめさせる。</li> <li>・ 今回学んだことを, 今後の生活で生かしていくことの意義を確認する。</li> <li>・ 【評】学習を振り返る活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

中学校の最終学年にふさわしく, 厳しい状況下に置かれた人間の姿を読み取り, 読み深めていきたい。表現の工夫に注意して読んでいく中で, 人物や作者の心情だけでなく, 彼らがそのように感じ, 考えた時代背景にも目を向けさせたい。そうした人間と社会との普遍的な関わりについて考えを深め, 自分なりの意見をもたせたい。

「故郷」は, 道徳のD- (22) 「よりよく生きる喜び」に当たる。



## 単元名 4 状況の中で 一言葉2 慣用句・ことわざ・故事成語

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 慣用句・ことわざ・故事成語について理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。  
 (3) 積極的に慣用句やことわざ、故事成語を理解し、今までの学習を生かして短文を作ったり調べたりする。

## 標準的な展開例

12210205\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 慣用句やことわざ、故事成語の特徴や意味を理解し、使い方に慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身の回りで使われている、ことわざや慣用句を振り返り本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★慣用句・ことわざ・故事成語について知り、使えるようにしよう。</li> <li>○全文を読み、慣用句やことわざ、故事成語の特徴についてまとめる。</li> <li>○教科書にある慣用句やことわざ、故事成語の意味を調べそれらを使った短文を作る。</li> <li>○「生活に生かす」(p.118)に挙げられている誤用の例を生活を振り返って探してみる。</li> </ul> <p>○本時のまとめを行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が知っていることわざや慣用句などを自由に出させ、興味をもたせる。</li> </ul> <p>【評】意味調べや短文作りの活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットなどを使って、誤用例を検索させるのもよい。</li> <li>・誤った使い方の例を提示し、問題形式で考えさせるのもよい。</li> </ul> <p>【評】生活を振り返って、誤用例を探す活動を通して、「主体的に活動に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤用に注意させるとともに、昔から使われていること、気持ちや情景、知恵や教訓を表しやすい言葉であることを理解させ、今後の生活の中で使っていけるように促したい。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

中学校の最終学年にふさわしく、厳しい状況下に置かれた人間の姿を読み取り、読み深めていきたい。表現の工夫に注意して読んでいく中で、人物や作者の心情だけでなく、彼らがそのように感じ、考えた時代背景にも目を向けさせたい。そうした人間と社会との普遍的な関わりについて考えを深め、自分なりの意見をもたせたい。

また、「故郷」は、道徳のD- (22) 「よりよく生きる喜び」に当たる。

単元名 4 状況の中で ー漢字2 漢字の造語力 漢字に親しもう3

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 新しく知識の流入によって翻訳された熟語や、漢字を組み合わせたり、省略したりすることのできる漢字の力について理解することができる。  
(3) 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

標準的な展開例

12210206\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 漢字の造語力について知り、練習問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★漢字の造語力について知ろう。</li> <li>○ 翻訳語と新しい語について知る。</li> </ul> <p>○ 練習問題 (p. 120～p. 121) に取り組む。</p> <p>○ 「漢字に親しもう3」(p. 122)の問題に取り組む。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入文を読み、新しい日本語が考え出された経緯を理解させる。</li> <li>・ 教材文を読み、翻訳語と新しい語という側面から、漢字の造語力について理解を深めさせる。</li> <li>・ 明治時代の様々な訳から、現在の翻訳語を考えさせてもよい。</li> <li>・ インターネットなどを使って、新語を検索させるのもよい。</li> </ul> <p>【評】翻訳語と新しい語について理解する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】練習問題に取り組む、漢字の造語力を確認する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

【 備 考 】

中学校の最終学年にふさわしく、厳しい状況下に置かれた人間の姿を読み取り、読み深めていきたい。表現の工夫に注意して読んでいく中で、人物や作者の心情だけでなく、彼らがそのように感じ、考えた時代背景にも目を向けさせたい。そうした人間と社会との普遍的な関わりについて考えを深め、自分なりの意見をもたせたい。

また、「故郷」は、道徳のDー (22) 「よりよく生きる喜び」に当たる。

単元名 5 自らの考えを ー人工知能との未来 人間と人工知能と創造性 配当時間 3時間

単元の目標 (1) 自分の知識や経験と比べ、筆者の意見や根拠に納得できるかどうか検討することができる。  
(2) 二つの文章を比較して共通点や相違点を表にまとめ、それを基に、話し合うことができる。自分の立場を明確にし、根拠となる事実を引用するなどして、自分の意見を書くことができる。  
(3) 積極的に二つの文章を批判的に読み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとする

### 標準的な展開例

12210207\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 文章の要旨を捉える。<br/>○学習の見通しをもつ。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。<br/>★文章の要旨を捉えよう。<br/>○二つの文章を通読する。</p> <p>○文章の要旨を捉える。</p> <p>2 観点を決めて文章を比較し、考えを広げる。<br/>○本時の学習課題をつかむ。<br/>★観点を決めて文章を比較し、考えを広げよう。<br/>○観点を決めて二つの文章を比較し、共通点や相違点を確認する。<br/>・人工知能に対する立場（賛否）<br/>・取り上げている事例<br/>・主張<br/>・語句の選び方や文体の特徴<br/>○「これからの時代に大切なこと」を考え、グループで討論する。</p> <p>3 自分の考えを文章にまとめる。<br/>○本時の学習課題をつかむ。<br/>★自分の考えを文章にまとめよう。<br/>○「これからの時代に大切なこと」について、自分の考えをまとめる。</p> <p>○学習を振り返る。<br/>・人間と人工知能との関わりについて意見を述べる場合他にどんな立場が考えられるか考える。<br/>・「批判的に読む」ことは、どういうときに必要だと思うか、自分の考えをまとめる。</p> | <p>・「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</p> <p>・教師による範読か、国語指導CDを利用して聞かせる。<br/>・新出漢字や難読語句をチェックさせながら聞かせ、意味を調べさせる。<br/>・内容の信頼性や客観性を確かめながら、それぞれの要旨を捉えさせる。<br/>・筆者の意見とその根拠の書かれているところに印を付けさせるとよい。<br/>【評】情報の信頼性を確かめながら要旨を捉える活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <p>・二つの文章を比較し、共通点や相違点を表にまとめさせる。<br/>・「文章を批判的に読む」(p. 128～p. 129)を参考にさせる。<br/>【評】共通点や相違点をまとめる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。<br/>・3～4人のグループで行う。<br/>・筆者の考えに納得できたこと、できなかったことを手がかりに討論し、考えを広げさせる</p> <p>【評】グループで討論し、考えを広げる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・前時で行った討論を基に、「これからの時代に大切なこと」を200字程度で文章にまとめさせる。<br/>・自分の立場を明確にして、根拠となる文章や事実を引用するなどして、説得力ある意見を書かせる。<br/>【評】自分の意見を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

文章を読むときには、内容の信頼性や客観性を吟味し、自分の知識や経験と比べて納得できるか否かを検討して、批判的に読むことが大切である。同じテーマに関する二つの文章を比較しながら、評価することを通して、批判的に読むことを学ばせたい。さらに、自らの考えを批評文として書くことで、説得力ある文章にするための工夫を学ばせたい。多様な考え方の中で対象を評価することで、自分の考えを確立させていきたい。

また、こうした学習と関連させながら、社会的な課題などについて、違う立場からの意見を生かし合い、論理的に合意を形成する話し合いの仕方も学ばせたい。

単元名 5 自らの考えを 一多角的に分析して書こう 説得力のある批評文を書く 配当時間 4時間

単元の目標 (1) 具体的な題材を基に、その価値についてまとめることができる。  
 (2) 観点を決めて問いと考えを書き出し、表にまとめるなどして分析することができる。自分の意見を支える根拠となる資料を引用するなどして構成を考え、批評文を書くことができる。  
 (3) 粘り強く表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりし、学習の見通しをもって批評文を書くこととする。

### 標準的な展開例

12210208\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 批評文について知り、題材を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本教材のねらいと学習の流れを捉え、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 批評文について知り、批評する題材を選ぼう。</li> <li>○ 「批評文の例」(p. 132)を読み、話題に対する評価や筆者の主張を捉える。</li> <li>○ 「批評文の例」(p. 132)の下段を参考に、例文の構成を確認する。</li> <li>○ 批評する題材を挙げる。</li> </ul> <p>○ 批評文に書きたい題材を絞り込む。</p> <p>2 観点を決めて分析し、構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 観点を決めて分析し、構成を考えよう。</li> <li>○ 選んだ題材の分析の観点を決め、問いを出す。</li> </ul> <p>○ 問いに対する自分の考えを書き出し、友達と交流する。</p> <p>○ 構成を考える。</p> <p>○ 次時の予告を聞く。</p> <p>3～4 推敲して仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 論理の展開を工夫して、説得力のある批評文を書こう。</li> <li>○ 前時に考えた構成を基に、下書きをする。</li> </ul> <p>○ 友達と助言し合い、推敲して批評文を仕上げる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・ 傍線の引かれた表現に着目して読ませ、筆者の評価と主張を捉えさせる。</li> <li>・ 例文に傍線を引かせたり、該当部分を囲ませたりすることで視覚的に構成を確認させる。</li> <li>・ 「知多の友」を使用する。</li> <li>・ 地域社会の中で見聞きしたことや、メディアを通して知ったこと、本や映画など、気になった事柄を挙げさせる。</li> <li>・ 「発想を広げる」(p. 240)を参考にしたり、マッピングの手法を用いたりして、広くテーマを探させる。</li> <li>・ 友達と題材を挙げさせ合うとよい。</li> <li>・ 書き出した事柄について、批評文の題材としてふさわしいかどうかを吟味させる。</li> <li>【評】 題材を選ぶ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 「②分析する」(p. 131)を参考に、どのような観点から分析することができるかを考え、観点ごとに問いを出させる。</li> <li>・ 「知多の友」を使用する。</li> <li>【評】 観点を決めて分析する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 観点ごとに客観的に分析し、自分の考えを書き出させる。</li> <li>・ 具体的な根拠を挙げて答えを導くようにさせる。</li> <li>・ 自分の考えを基に友達と意見を交流させて、さらに考えを深めさせるとよい。</li> <li>・ 「知多の友」を使用する。</li> <li>【評】 観点を決めて、問いと考えを書き出す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 意見と根拠の関係など説得力のある論理の展開を考えさせる。</li> <li>・ 資料を引用して説得力をもたせるようにさせる。</li> <li>・ 「構成を考える」(p. 132), 「批評文の例」(p. 132)の下段を参考に、批評文の構成を確認させる。</li> <li>・ 「知多の友」を使用する。</li> <li>・ 次時から批評文を書き始めることを予告し、情報収集をしておくよう指示する。時間に余裕があれば、情報収集を開始させる。</li> <li>・ 600～800字で書くようにさせる。</li> <li>・ 「批評するときの言葉」(p. 132)や「批評文の例」(p. 132)下段の文系を参考にさせるとよい。</li> <li>・ 「知多の友」を使用する。</li> <li>【評】 批評文を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 3～4人のグループで互いの文章を読み合い、助言させる。</li> </ul> |

○ 批評文を読み合い、そこから学んだことを共有し合う。

○ 学習を振り返る。

- ・ どのように分析・吟味して批評をまとめたか。
- ・ どのような工夫をして文章にまとめたか。

・ 友達の助言を踏まえて推敲し、批評文を清書させる。

【評】 推敲して批評文を仕上げる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- ・ 文集にしたり、4人程度のグループで批評文を読み合ったりさせるとよい。
- ・ 分析の仕方や資料の引用の仕方、論理の展開や適切な言葉の選び方などに着目して評価し合うとよい。

#### 【 備 考 】

文章を読むときには、内容の信頼性や客観性を吟味し、自分の知識や経験と比べて納得できるか否かを検討して、批判的に読むことが大切である。同じテーマに関する二つの文章を比較しながら、評価することを通して、批判的に読むことを学ばせたい。さらに、自らの考えを批評文として書くことで、説得力ある文章にするための工夫を学ばせたい。多様な考え方の中で対象を評価することで、自分の考えを確立させていきたい。

また、こうした学習と関連させながら、社会的な課題などについて、違う立場からの意見を生かし合い、論理的に合意を形成する話し合いの仕方も学ばせたい。

「語彙を豊かに」(p. 284)

## 単元名 5 自らの考えを ―漢字に親しもう4

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 新しく習う漢字を, 文章の中で確認したり, 部首や音訓に気を付けて読んだりできる。  
 (3) 学習課題に沿って, 積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

## 標準的な展開例

12210209\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど   |
|---|---|
| 1 新しく習う漢字の読み方を知り, 理解を深める。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★ 新しく習う漢字の読み方を知ろう。<br>○ 新しく習う漢字の読み方を知る。<br><br>○ 練習問題に取り組み, 理解の程度を深める。 | ・ 構成や部首, 音訓などに注意して新出漢字を読ませる。<br>・ 既習の漢字を参考に, 漢字の構成, 部首, 音訓などを思い出させる。<br>【評】 漢字を読む活動を通して, 「知識・技能」を評価する。<br>・ 言葉の意味が分からないときは, 国語辞典等で調べさせるとよい。<br>【評】 練習問題に取り組む活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |

## 【 備 考 】

文章を読むときには, 内容の信頼性や客観性を吟味し, 自分の知識や経験と比べて納得できるか否かを検討して, 批判的に読むことが大切である。同じテーマに関する二つの文章を比較しながら, 評価することを通して, 批判的に読むことを学ばせたい。さらに, 自らの考えを批評文として書くことで, 説得力ある文章にするための工夫を学ばせたい。多様な考え方の中で対象を評価することで, 自分の考えを確立させていきたい。

また, こうした学習と関連させながら, 社会的な課題などについて, 違う立場からの意見を生かし合い, 論理的に合意を形成する話し合いの仕方も学ばせたい。

**単元名 5 自らの考えを ―[議論]話し合いを効果的に進める**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) 全体に関わる大きな論点から、具体的な論点へと話し合いを進める方法を考えることができる  
 (2) 話し合いの目的や進み具合など展望をもって効果的に話し合う工夫を考えることができる。  
 (3) 積極的に進行の仕方を工夫し、学習したことを生かして効果的な話し合いについて考えようとする。

**標準的な展開例**

12210210\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| 1 効果的に話し合いを進めるためのポイントを知る。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★話し合いを効果的に進めるためのポイントを知ろう。<br><br>○ 「卒業文集のテーマ設定」に向けた学級の話し合いにおける、5名の発言内容を理解する。<br><br>○ 空欄を埋める発言を各自で考え、その意図も併せて発表し合う。<br><br>○ 学習を振り返る。<br>・ 話し合いを効果的に進めるためには、どんなことに注意すればよいか。 | ・ リード文や「学習の見通しをもとう」などを参考に、話し合いを効果的に進めるためには何が必要かを考える場であることを確認する<br><br>・ 提示されている一人一人の論点や内容を確認する。<br>・ 5名の発言を、それぞれ抽象化して捉えられるようにする。<br>・ 話し合いの目的に合わせて、効果的に進めるために、話し合いの展望をもたせる。<br>・ 「上達のポイント」(p. 135)を確認させる。<br><br>・ 個人で、最後の空欄に入る発言を考えさせ、その意図も併せて発表させる。<br>・ 「○○」を司会者として、適切な言葉を考えさせる。<br>・ 話し合いの整理をしたり、参加者全員が見通しをもてたりするような発言が適切である。<br><b>【評】</b> 発言を考え、発表し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br>・ 司会者の役割について確認させる。<br><b>【評】</b> 学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |

**【 備 考 】**

文章を読むときには、内容の信頼性や客観性を吟味し、自分の知識や経験と比べて納得できるか否かを検討して、批判的に読むことが大切である。同じテーマに関する二つの文章を比較しながら、評価することを通して、批判的に読むことを学ばせたい。さらに、自らの考えを批評文として書くことで、説得力ある文章にするための工夫を学ばせたい。多様な考え方の中で対象を評価することで、自分の考えを確立させていきたい。

また、こうした学習と関連させながら、社会的な課題などについて、違う立場からの意見を生かし合い、論理的に合意を形成する話し合いの仕方も学ばせたい。

「合意形成に向けて話し合おう」(p. 136～p. 139)

**単元名 5 自らの考えを ー合意形成に向けて話し合おう**
**配当時間 4時間**

**単元の目標** (1) 共通点から複数の発言を結び付けて、一つの提案にまとめることができる。  
 (2) 提案を分類・整理し、観点を決めて検討したり、互いの意見の長所を生かしたりして話し合うことができる。  
 (3) 合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとする。

**標準的な展開例**

12210211\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 合意形成の重要性を知り、課題を見つけ、議題を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の見通しをもち、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★課題を見つけ、議題を決めよう。</li> <li>○地域社会や学校生活の中から、解決したい課題を見つける。</li> <li>○見つけた課題を発表して、クラスで課題を一つに絞り込む。</li> <li>○次時の準備をする。</li> </ul> <p>2～3 グループで提案を出し合い、観点到即して具体的な提案を絞り込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★グループで提案を出し合い、具体的な提案を絞り込もう</li> <li>○前時に決定した課題に対して、それぞれのグループで、具体的な提案を出し合う。</li> <li>○出た案を検討し、グループの提案を決定する。</li> <li>○グループごとに、提案の準備をする。</li> </ul> <p>4 全体会議を行い、課題解決に向けた提案内容を決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★全体会議を行い、課題解決に向けて提案を決定しよう。</li> <li>○話し合いの目的、役割などを確認する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・地域社会や学校生活、将来のことなどの中から関心のある事柄を選び、議題を探させる。</li> <li>・「発想を広げる」(p. 240)などを参考に、各自が幅広い発想ができるように支援する。</li> <li>・「①課題を決める」(p. 136)を参考に考えさせる。</li> <li>【評】地域社会や学校生活の中から課題を見つける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・一つの課題について、全員で話し合い活動を行っていくことになるので、様々な提案が出てきそうな課題を選びたい。</li> <li>・グループ編成をある程度決めておくといよい。</li> <li>・話し合いの前に、「評価しながら聞く」(p. 26)、「話し合いを効果的に進める」(p. 135)などを見直させ、話し合いの基本について振り返らせたい。</li> <li>・前時に決定した課題を示し、この課題を解決する提案を考えていくことを伝える。</li> <li>・本時はブレインストーミングで自由にアイデアを出し合うことを伝える。</li> <li>・「②-①ブレインストーミング」(p. 137)、「話し合いの方法」(p. 242)を参考に、イメージやポイントを説明する。</li> <li>・話し合いでは、発言しやすい雰囲気を作ることが大切なので、どんな意見でも大切に、相手の意見を否定しないことを徹底させる。</li> <li>・グループ内で、司会、書記を決める。いろいろな生徒が役割を経験させるため、グループの人数は5～6人が望ましい。</li> <li>【評】具体的な提案を出し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</li> <li>・提案を決定する際、以下の観点を意識させたい。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①必要性</li> <li>②効果</li> <li>③実現の可能性</li> </ul> </li> <li>・根拠や意義を考えて説得力のある提案をさせる。</li> <li>・「②-②グループごとに具体的な提案をまとめる」(p. 137)を参考にさせる。</li> <li>・司会や書記などの役割は、事前に決めておくといよい。</li> <li>・司会の指導が重要なので、司会役の生徒には可能な限り事前に指導を行う。</li> <li>・意見の出し合いで終わるのではなく、最終案</li> </ul> |



○各グループからの具体案を発表し合う。

○提案を分類・整理する。

○観点を決めて、提案を検討する。

- ・目的に合っているか。
- ・実現性があるか。

○互いの意見を生かして、合意形成に導く。

○学習を振り返る。

- ・共通点などを見つけて、提案を整理したか。
- ・合意形成するために、どんなことに気を付けたか。

にまとめていく話し合いであることを意識させる。

・「全体会議を開く」(p.138～p.139)で合意形成に導く過程を確認するとともに、「話し合って合意を形成するには」(p.139)を参考に、合意を形成するためのポイントを確認させる。

・グループごとに、提案とその理由を発言させて、ノートなどにその要点を記録させる。

・各グループの提案を、共通点ごとに分類させる。

【評】提案を共通点ごとに分類する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・各グループの提案を観点ごとに検討し、意見を話し合わせる。

・単に比較するだけでなく、互いの意見のよいところを組み合わせることも考えさせる。

・座標軸などで可視化しながら提案を整理させる。

【評】合意形成に向けて話し合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・今後、話し合いをする際に、意識したいことを確認させる。

【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

### 【 備 考 】

文章を読むときには、内容の信頼性や客観性を吟味し、自分の知識や経験と比べて納得できるか否かを検討して、批判的に読むことが大切である。同じテーマに関する二つの文章を比較しながら、評価することを通して、批判的に読むことを学ばせたい。さらに、自らの考えを批評文として書くことで、説得力ある文章にするための工夫を学ばせたい。多様な考え方の中で対象を評価することで、自分の考えを確立させていきたい。

また、こうした学習と関連させながら、社会的な課題などについて、違う立場からの意見を生かし合い、論理的に合意を形成する話し合いの仕方も学ばせたい。

「評価しながら聞く」(p.26)

「話し合いを効果的に進める」(p.135)

「発想を広げる」(p.240～p.241)

「話し合いの方法」(p.242～p.243)

## 単元名 5 自らの考えを 一初恋

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 言葉の響きやリズムを味わいながら朗読することができる。  
 (2) 文語定型詩の構成や場面の展開に注意して、表現された情景や心情を想像することができる。  
 (3) 進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読したり自分の考えを述べたりしようとする。

## 標準的な展開例

12210212\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| 1 言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。<br>○初恋というものについて、意見交流を基に具体的にイメージする。<br>○本時の学習課題をつかむ。<br>★言葉の響きやリズムを味わいながら朗読しよう。<br>○教師の範読を聞き、詩全体のイメージをつかむ。<br>○リズムや響き、表現上の工夫について、朗読を通して気付いたこと、考えたことを交流する。<br>○詩に込められた作者の思いを読み取り、感じたことを発表し合う。<br>○言葉の響きやリズムを味わったり、表現上の特徴を考えたりしながら朗読する。<br>○朗読を発表する。<br>○学習を振り返る。 | ・初恋という言葉から浮かぶ印象や言葉を、全体で意見交流しながら、具体的にイメージできるようにする。<br>・初恋のイメージを思い浮かべながら聞くように指示する。<br>・繰り返し朗読する中で、リズムや響き、表現上の工夫について気付いたことを挙げさせる<br>・詩に読まれた情景と詩の中の人物の心情を想像させる。<br>・「初恋」という詩から読み取った思いと自分の経験を結び合わせて想像させる。<br>【評】表現された情景や心情を想像する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br>・工夫する点を明確にして朗読させる。<br>①七五調のリズムを味わいながら朗読する。<br>②1連～4連に至る恋の進展をイメージしながら朗読する。<br>③文語体の言葉の響きに注意しながら朗読する。<br>【評】朗読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br>・全体の場で朗読を発表させる。<br>・自分の朗読や友達の朗読について、振り返りを書かせる。 |

## 【 備 考 】

文章を読むときには、内容の信頼性や客観性を吟味し、自分の知識や経験と比べて納得できるか否かを検討して、批判的に読むことが大切である。同じテーマに関する二つの文章を比較しながら、評価することを通して、批判的に読むことを学ばせたい。さらに、自らの考えを批評文として書くことで、説得力ある文章にするための工夫を学ばせたい。多様な考え方の中で対象を評価することで、自分の考えを確立させていきたい。

また、こうした学習と関連させながら、社会的な課題などについて、違う立場からの意見を生かし合い、論理的に合意を形成する話し合いの仕方も学ばせたい。

単元名 6 いにしえの心を受け継ぐ 一和歌の世界 古今和歌集 仮名序 配当時間 1時間

単元の目標 (1) 「和歌の世界」を読んだり、「仮名序」を朗読して比喩的な効果を確認したりしながら、和歌に対する古人の思いを捉えることができる。  
(3) 進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとする。

### 標準的な展開例

12210213\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 声に出して読み、古文の言葉のリズムや響きを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「和歌の世界」を読み、「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」について興味をもつ。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★繰り返し朗読し、古文のリズムや響きを味わおう。</li> <li>○原文、現代語訳を読み、作者の思いを想像する。</li> <li>○原文の表現の特徴を理解する。</li> <li>○表現の特徴を生かしながら、朗読の練習をし、発表し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・三代和歌集について時代背景や作者、作風などを整理させる。</li> <li>・「古典・近代文学の名作」(p.272)や「日本文学の流れ」(p.278)から文学史を知り、歴史的背景に興味をもたせるとよい。</li> <li>・教師が範読する、もしくは国語指導CDを利用するのもよい。</li> <li>・生徒に斉読させた後、黙読により読み方の確認や内容の理解をさせたい。</li> <li>・「和歌」を植物の種と葉にたとえていることを知り、作者が和歌をどう捉えていたかを想像させる。</li> <li>【評】作者の思いを捉える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・文末表現と対句表現を理解させる。</li> <li>・係り結びについても確認しておく。なお、係り結びについては第2学年「扇的」「仁和寺にある法師」を振り返るのもよい。</li> <li>・群読、斉読、グループ読み、個人読みなど、読み方の工夫をしたい。</li> <li>・可能なら、暗唱まですすめたい。</li> <li>【評】古文のリズムや響きを楽しみながら朗読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

### 【 備 考 】

古典を学習するということは、古典の文章や内容を読んだり知ったりするだけでなく、そこから今の生活を刺激し、豊かにすることである。心情や情景を想像して楽しむ活動を多く取り入れることで、より身近に古典を感じさせるとともに、その時代に生きた人々と心を通わせる単元としたい。朗読や暗唱の機会を多く設けることで読み慣れるだけでなく、独特のリズム感もとらせたい。また、情景やその思いを捉えることで、古人のメッセージから自己を見つめ直すこともできる。

単元名 6 いにしえの心を受け継ぐ ―君待つと ―万葉・古今・新古今 配当時間 2時間

単元の目標 (1) 三つの歌集の歌を比較したり朗読したりして、それぞれの作者の心情や情景を想像することができる。  
(2) 心情や情景、和歌の表現方法などについて自分の考えをもつことができる。  
(3) 進んで和歌の表現の仕方について評価し、見通しをもって鑑賞文を書こうとする。

### 標準的な展開例

12210214\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 和歌の世界を読み味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の見通しをもつ。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★和歌を読み、和歌の世界を味わおう。</li> <li>○朗読し、言葉の響きやリズムを楽しむ。</li> <li>○和歌の中に歌い込まれている作者の心情や情景を想像し用いられている表現技法について知る。</li> <li>○三つの和歌集の歌を比較して、表現について感じたことなどを話し合う。</li> </ul> <p>2 心に響いた和歌について鑑賞文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★心に響いた和歌について、鑑賞文を書こう。</li> <li>○自分の心に響いた歌を選び、鑑賞文を書く。</li> <li>○学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの和歌から、どのようなことを想像したか。</li> <li>・どのような表現や内容に着目して鑑賞したか。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・教師が範読するか、国語指導CDを利用して聞かせることで、句切れや仮名遣い、古語の読みについて確認させる。</li> <li>・脚注を参考に、長歌や反歌など和歌の形式を味わわせる。</li> <li>・自分の選んだ和歌に用いられている表現技法に気付かせ、グループで共有させる。</li> <li>・「和歌の表現技法」(p. 153)を読み、他の表現技法についても興味をもたせる。</li> <li>【評】作者の心情や情景を考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・それぞれの歌集の歌風についても理解させる</li> <li>【評】三つの歌集の歌を比較する活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・学習した短歌の中から数首選び、鑑賞文を書かせる。</li> <li>・脚注などを参考にしながら心情や情景を考えさせる。</li> <li>・鑑賞文の書き方のポイントを示すとよい。</li> <li>【評】好きな歌を選び、鑑賞文を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

### 【 備 考 】

古典を学習するということは、古典の文章や内容を読んだり知ったりするだけでなく、そこから今の生活を刺激し、豊かにすることである。心情や情景を想像して楽しむ活動を多く取り入れることで、より身近に古典を感じさせるとともに、その時代に生きた人々と心を通わす単位としたい。朗読や暗唱の機会を多く設けることで読み慣れるだけでなく、独特のリズム感も捉えさせたい。また、情景やその思いを捉えることで、古人のメッセージから自己を見つめ直すこともできる。

単元名 6 いにしへの心を受け継ぐ ―夏草 古典名句・名言集 配当時間 4時間

単元の目標 (1) 作者や作品について興味をもち、俳句と地の文との関係に注意しながら朗読することができる  
古典の言葉を引用して鑑賞文やメッセージを書くことができる。  
(2) 芭蕉の「旅」についての考えを読み取り、現代の「旅」がもつ意味と比較することができる。  
芭蕉が見たものや感じたことを想像することができる。自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、相手の状況を踏まえて構成を工夫してメッセージを書くことができる。  
(3) 人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして発表したり文章にまとめたりしようとする。

## 標準的な展開例

12210215\_001

【準備等】国語指導CD, 再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 朗読を繰り返し、文体に慣れ親しむとともに、「1」の内容や表現の特色を捉え、俳句を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 出典、作者 (p. 160) を読み、作品と作者について基礎知識をもつ。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 作者についての基礎知識をもち、「1」の部分の情景や心情を理解しよう。</li> <li>○ 「1」の原文を繰り返し読む。</li> </ul> <p>○ 現代語、脚注を参考に、原文の内容をつかむ。</p> <p>○ 俳句を鑑賞する。</p> <p>○ 芭蕉のものの見方や感じ方を読み取り、現代と比較する</p> <p>2 脚注を参考に「2」の内容を捉え、旅先での芭蕉の思いを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 旅先での芭蕉の思いを読み取ろう。</li> <li>○ 「2」の歴史的背景をおおまかにつかむ。</li> </ul> <p>○ 「2」を朗読し、脚注を参考に現代語訳する。</p> <p>○ 表現の特色をつかむ。</p> <p>○ 3句の俳句を鑑賞する。</p> <p>○ 旅先での芭蕉の思いを想像する。</p> <p>3 心に響く俳句を選び、短い鑑賞文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「1」「2」を通読する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 心に響く俳句を選び、鑑賞文を書こう。</li> <li>○ 「おくのほそ道」俳句地図 (p. 156～p. 157) の俳句について知る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行程などを概観としてつかませるために、教科書 (p. 156～p. 157) を手がかりとしたい。</li> <li>・ 教師が範読をする。または、国語指導CDを利用してもよい。</li> <li>・ 古文の仮名遣いや古語についても簡単に説明する。</li> <li>・ 俳句と地の文から成る構成の効果に気付かせる。</li> <li>【評】俳句と地の文との関係に注意して朗読する活動を通して、「知識・技能」を評価する</li> <li>・ 以下に注意して内容をつかませたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 古人</li> <li>○ 東北に旅したいという思い</li> <li>○ 歌枕の地をめぐる</li> <li>○ 具体的な旅の支度</li> <li>○ 芭蕉の住まいを表す言葉</li> </ul> </li> <li>・ 現代語訳を参考に、季語、切れ字、込められた心情について理解させたい。</li> <li>・ 芭蕉の「旅」に対する思いが読み取れる部分を抜き出し、現代の「旅」がもつ意味と比較させる。</li> <li>【評】「旅」についての考えを比較する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 藤原三代や義経について、簡単に説明を加える。</li> <li>・ 教科書 (p. 156) の地図を使い、背景となる場所について確認する。</li> <li>・ 繰り返し朗読させ、原文のリズムを味わわせる。</li> <li>・ プリントを用意したり、ノートに原文を視写させたりして、部分に対応する形で現代語訳をさせるなど工夫したい。</li> <li>【評】現代語訳する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 対句的な表現や、数字の多用による効果に気づかせる。</li> <li>・ 現代語訳を参考に、情景、季語、切れ字、心情を理解させる。</li> <li>・ 芭蕉が高館や光堂で何を見て何を感じたのかをまとめさせる。</li> <li>【評】芭蕉の思いを想像する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 群読、斉読、グループ読み、個人読みなど方法を工夫したい。</li> <li>・ 「おくのほそ道」の旅程をおおまかに確認する。</li> <li>・ 季語や切れ字を確認し、現代語訳を参考に芭</li> </ul> |

|   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○鑑賞文を書く。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○鑑賞文を交流し合う。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「夏草」の、表現や文体の特徴を挙げる。</li> <li>・芭蕉のものの見方や感じ方について考えたことを発表する。</li> </ul> </li> </ul> <p>4 古典の言葉を引用してメッセージを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★古典の言葉を引用して、メッセージを書こう。</li> <li>○学習のねらいと手順を確認する。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○古典の言葉を選び、贈る相手と目的を考える。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の形態を選んで書く。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○メッセージを読み合い、感想を交流する。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の状況や自分の思いにふさわしい言葉や文章の種類を選択したか。</li> <li>・論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫したか。</li> </ul> </li> </ul> | <p>蕉の心情を想像させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した俳句の中から、自分の心に響いた俳句を選ばせる。</li> <li>・以下の点に注意させ、自分の思いや感想を交えて書けるように指導する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①なぜ心に響いたのか</li> <li>②どのように心に響いたのか</li> <li>③根拠となった表現は何か</li> </ol> </li> </ul> <p>【評】芭蕉のものの見方や思いを読み取り、鑑賞文を書かせる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれ、鑑賞文を読み合う。</li> <li>・気付いたことや感じたことを付箋に書き込むなど、交流の方法を工夫したい。</li> </ul> <p>【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書（p. 162）上段を読み、学習のねらいと手順を確認させる。</li> <li>・教科書（p. 163）下段の例文を読ませ、作品のイメージを明確にさせる。</li> <li>・既習の古典作品の中から、「誰かに贈ってみたい」という観点から、気に入った言葉や心に響いた言葉、印象に残った言葉などを選ばせる。</li> <li>・どのような状況の、誰に、どのような目的で贈るのかを考えさせる。</li> <li>・手紙、物語、随筆など、自分の思いを伝えるのにふさわしい形態を選んで、文章を書かせる。</li> </ul> <p>【評】古典を引用してメッセージを書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出来上がった文章を読み合い、感想を交流させる。</li> <li>・「メッセージ集」としてまとめて、回覧するなどの方法も考えられる。</li> </ul> <p>【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】  
 古典を学習するということは、古典の文章や内容を読んだり知ったりするだけでなく、そこから今の生活を刺激し、豊かにすることである。心情や情景を想像して楽しむ活動を多く取り入れることで、より身近に古典を感じさせるとともに、その時代に生きた人々と心を通わす単位としたい。朗読や暗唱の機会を多く設けることで読み慣れるだけでなく、独特のリズム感もとらえさせたい。また、情景やその思いを捉えることで、古人のメッセージから自己を見つめ直すこともできる。

## 単元名 7 価値を生み出す ー誰かの代わりに

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 抽象的な概念を表す語句を辞書で調べたり、文脈上での意味を確認したりしながら、文章を読むことができる。  
 (2) 文章を批判的に読み、友達と意見を交換しながら、筆者の考えについて自分の考えをまとめることができる。  
 (3) 人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりしようとする。

## 標準的な展開例

12210216\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど   |
|---|---|
| <p>1 筆者の考えを確認しながら読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題名に関連した質問について考え、文章の内容に関心をもつ。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 筆者の考えを確認しながら読む。</li> <li>○ 観点に沿って筆者の考えを確認しながら、全文を通読する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共感（納得できる）</li> <li>・ 反対（納得できない）</li> <li>・ 疑問（わからない点）</li> </ul> </li> <li>○ 語句の確認をする。</li> <li>○ 書き込んだところを話し合う。</li> <li>○ 本時のまとめをする。</li> </ul> <p>2 筆者の考え方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 筆者の考え方について話し合おう。</li> <li>○ 文章を三つのまとまりに分ける。</li> <li>○ 「無条件の肯定を求める」とはどういうことで、なぜ「ちょっと危うい」のか話し合う。</li> <li>○ 「自立」と「独立」、「依存」と「支え合い」の違いについて、筆者の考えを読み取る。</li> <li>○ 「『誰かの代わりに』という意識」とはどういうことでなぜそれが大切か話し合う。</li> <li>○ 本時のまとめをする。</li> </ul> <p>3 社会や人間に対する筆者の考えについて、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 社会や人間に対する筆者の考えについて、自分の考えをまとめよう。</li> <li>○ 筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。</li> <li>○ 話し合ったことを基に、社会や人間に対する筆者の考え</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 義務教育最終単元にあたり、単元名やそのリード文から、自分の生き方のこれまでを見つめ、これからを考えていくことを示す。<br/>         〈質問例〉<br/>         ① 「誰かの代わりに」に続く言葉を考えてみましょう。<br/>         ② 自分にしかないものは何ですか。どんなときにそのようなことを考えましたか。</li> <li>・ 教師による範読か、国語指導CDを活用してもよい。</li> <li>・ ア共感（納得できる）、イ反対（納得できない）、ウ疑問（分からない点）などの観点に沿って、本文に線や記号を書き込みながら読ませる。</li> <li>・ 抽象的な概念を表す語句を辞書で調べさせ、文脈上での意味を確認させる。</li> <li>【評】語句を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 3～4人グループで、各自が書き込んだところを発表させ、話し合わせる。</li> <li>【評】書き込んだところを発表し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 文章の読みを通して、自分のこれからの生き方について考えていくことを示し、読みの過程で気付いたことや考えたことをノートにメモするように促す。</li> <li>・ 前時の学習を振り返り、本教材を通して、自分の生き方について考えていくことを確認する。</li> <li>・ 「序論」・「本論」・「結論」などの用語や、まとまりの働きや役割などを振り返らせたい。</li> <li>・ 本文を三つのまとまりに分けさせ、その根拠を述べさせる。</li> <li>・ 自分の日常で、筆者のいう危うさに陥っていることはないか、自分の経験に引き寄せて考えさせたい。</li> <li>・ 「自立」という語から受けるイメージや、辞書的な意味を確認しておく。</li> <li>・ 「自立」という語を説明するために筆者が用いた語句に着目し、「自立」を重層的に捉える筆者の論の展開を読ませたい。</li> <li>・ 「誰かの代わりに」を「責任を負う」という意味で捉える筆者の考えを理解させる。</li> <li>【評】「『誰かの代わりに』という意識」について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ キーワードを確認しながら、改めて筆者の主張を整理させる。</li> <li>・ これまでの学習内容を確認する。</li> <li>・ 第1時に書き込んだところを振り返り、自分の考えをまとめさせる。</li> </ul> |

について、自分の考えをもつ。

○学習を通して考えた社会や人間に対する考えを交流し合う。

○これまでの学習を振り返る。

- ・筆者の主張を踏まえ、自分の考えをまとめさせる。
- ・進路選択の岐路に立つ時期に、社会の一員として、自分はどのように生きていくのかを考えさせたい。
- 【評】社会や人間に対する筆者の考えについて自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・社会や人間に対する考えをグループで交換させる。
- ・友達の意見を聞くときは、自分の意見と比べたり重ねたりしながら聞くことを意識させたい。
- 【評】自分の考えを交流し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

#### 【 備 考 】

中学校3年生の時期には、社会に目が向く一方で、自分という存在について深く考え、苦しむことも多い。そこで、自分の中にだけ目を向けるのではなく、他の人たちとの関わりの中で自分という存在について考えることの大切さを説く論説文を通じて、社会的な関わりが希薄だといわれる中学生に、人との関わりの中で、新しい価値を創造することの重要性などに気付かせたい。

また、課題に沿ってグラフを分析し、論理の展開に注意して小論文を書くことで、情報を客観的に読み取り、論理的に考えて表現する力を伸ばしたい。



## 単元名 7 価値を生み出す ―情報を読み取って文章を書こう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 具体的な情報を基に、着眼点を決めて分析し、自分の考えをまとめることができる。  
 (2) 資料から読み取ったことと考えとの関連などについて、改善点を助言し合って推敲することができる。  
 (3) 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえて粘り強く推敲し、学習の見通しをもって小論文を書こうとする。

## 標準的な展開例

12210217\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 グラフから情報を客観的に読み取り、自分なりの問いを立てて分析する。<br/>         ○学習の見通しをもつ。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。<br/> <b>★</b>グラフを読み、自分なりの問いを立てて分析しよう。<br/>         ○「課題」(p. 173)を読み、書くべき要素を正確に把握する。<br/>         ○グラフの情報を的確に読み取る。</p> <p>○読み取った情報を、自分なりの問いを立てて分析する。</p> <p>2 構成や内容を考えて小論文を書き、助言し合う。<br/>         ○本時の学習課題をつかむ。<br/> <b>★</b>構成や内容を考えて小論文を書き、助言し合おう。<br/>         ○読み取ったことを基に、二段落構成の小論文を書く。</p> <p>○書いた小論文を読み合い、よい点や改善点を伝え合う。</p> <p>○助言を踏まえて、文章を推敲する。</p> | <p>・「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</p> <p>・着眼点を決めて、グラフの情報を読み取らせる。</p> <p>・「グラフの活用」(p. 244)を参考に、グラフの数値の読み取り方や分析の方法を話し合わせる。</p> <p>・「問いの例」(p. 173)を参考に、自分なりの問いを立てて分析し、自分の考えをまとめさせる。<br/> <b>【評】</b>情報を分析する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・考えの筋道が分かるよう、論理展開を意識して構成させる。</p> <p>・「小論文に使う言葉」(p. 173)を参考にさせる。</p> <p>・200字以内でまとめさせる。</p> <p>・3～4人のグループで読み合わせる。</p> <p>・「小論文で自分の考えを書くには」(p. 172)の推敲・助言の観点を参考に、よい点や改善点を伝え合わせる。<br/> <b>【評】</b>改善点を助言し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「論理の展開を整える」(p. 116)も参考にさせる。<br/> <b>【評】</b>文章を推敲する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

中学校3年生の時期には、社会に目が向く一方で、自分という存在について深く考え、苦しむことも多い。そこで、自分の中にだけ目を向けるのではなく、他の人たちとの関わりの中で自分という存在について考えることの大切さを説く論説文を通じて、社会的な関わりが希薄だといわれる中学生に、人との関わりの中で、新しい価値を創造することの重要性などに気付かせたい。

また、課題に沿ってグラフを分析し、論理の展開に注意して小論文を書くことで、情報を客観的に読み取り、論理的に考えて表現する力を伸ばしたい。

単元名 7 価値を生み出す ―漢字3 漢字のまとめ 漢字に親しもう5

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 部首や音訓，構成などに気を付けて，新しく習う漢字を読んだり，意味を調べたりすることができる。  
(3) 学習課題に沿って，積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

### 標準的な展開例

12210218\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 「漢字のまとめ」(p.174～p.175)に取り組み，これまでの漢字の学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ これまでの漢字の総復習をしよう。</li> <li>○ 2年生までに学習した漢字を復習する。</li> </ul> <p>○ 3年生で学習した漢字を復習する。</p> <p>○ 「漢字に親しもう5」の問題に取り組む。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字の部首，音訓，成り立ちや構成，送り仮名などを確認しながら問題に取り組ませる。</li> <li>・ 同訓異字や同音異義の漢字を調べ，書き分けられるようにさせる。</li> <li>・ 熟語の読み方，造語力などに気を付けながら問題に取り組ませる。</li> <li>・ 漢字辞典や国語辞典などを使って調べさせる</li> <li>・ 慣用句・ことわざ・故事成語などの意味を調べさせる。</li> </ul> <p>【評】漢字を復習する活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】漢字の問題に取り組む活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

中学校3年生の時期には，社会に目が向く一方で，自分という存在について深く考え，苦しむことも多い。そこで，自分の中にだけ目を向けるのではなく，他の人たちとの関わりの中で自分という存在について考えることの大切さを説く論説文を通じて，社会的な関わりが希薄だといわれる中学生に，人との関わりの中で，新しい価値を創造することの重要性などに気付かせたい。

また，課題に沿ってグラフを分析し，論理の展開に注意して小論文を書くことで，情報を客観的に読み取り，論理的に考えて表現する力を伸ばしたい。

「常用漢字表について」(p.286～p.287)

「常用漢字表」(p.302～p.316)

単元名 7 価値を生み出す 一文法への扉2 「ない」の違いがわからない? 配当時間 1時間

単元の目標 (1) 「ない」の違いについて品詞や働きの違いを文章の中で理解することができる。  
(3) 単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて進んで理解し、これまでの学習を生かして課題に取り組もうとする。

### 標準的な展開例

12210219\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 「ない」の違いについて考え、文法の総復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ これまでの文法学習の総まとめをしよう。</li> <li>○ 教科書 (p. 177) を読み、「ない」の違いについて考える。</li> </ul> <p>○ 「文法のまとめ」 (p. 215～p. 218) にある文法の問題に取り組む。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ない」という語が意味や用法によって、形容詞、形容詞の一部、助動詞に分類されることを整理する。</li> <li>・ 「ない」を使う表現を生徒に挙げさせ、それらについて教科書の①～③のどの「ない」と同じなのかを考えさせるなど、楽しませながら進め、それぞれの見分け方を理解させる。</li> <li>【評】 「ない」の違いを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 3年間の文法の学習を思い出し、文の組み立てや単語の種類と働きなどについて復習させる。</li> <li>・ 「一、二年生の復習」 (p. 210～p. 211) を参考にしてもよい。</li> <li>・ 理解の不十分な項目については、どの時点から理解が進んでいないのかをチェックし、アドバイスをしていけるとよい。</li> <li>【評】 文法の問題に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

### 【 備 考 】

中学校3年生の時期には、社会に目が向く一方で、自分という存在について深く考え、苦しむことも多い。そこで、自分の中にだけ目を向けるのではなく、他の人たちとの関わりの中で自分という存在について考えることの大切さを説く論説文を通じて、社会的な関わりが希薄だといわれる中学生に、人との関わりの中で、新しい価値を創造することの重要性などに気付かせたい。

また、課題に沿ってグラフを分析し、論理の展開に注意して小論文を書くことで、情報を客観的に読み取り、論理的に考えて表現する力を伸ばしたい。

「文法のまとめ」 (p. 215～218) を利用する。

**単元名 読書に親しむ 一本は世界の扉**
**配当時間 1時間**

**単元の目標** (1) 二つのノンフィクションを読み、読書によって、様々な状況に生きる人々やそこで活動する人々について知ったり、読書が自分の生き方を支えてくれたりすることに気付くことができる。  
 (2) 読書を通して、考えたことや気付いたことを読書ノートに書いたり、「私のおすすめ」として紹介したりすることができる。  
 (3) 進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、ノンフィクションを読んで考えたことをまとめようとする。

**標準的な展開例**

12210220\_001

**【準備等】** 国語指導CD, 再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 読書を通して世界の人々の姿を知り、人間の生き方や社会の在り方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本教材のねらいと学習の流れを捉え、本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 読書を通して世界の人々の姿を知り、人間の生き方について考えよう。</li> <li>○ 「エルサルバドルの少女ヘスース」と、「紛争地の看護師」を読み比べる。</li> <li>○ 登場する人物の生き方について自分の考えを伝え合う。</li> <li>○ 「本の世界を広げよう」(p.191～p.193)を読み、読んだ本や、興味をもった本について語り合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リード文や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・ 教師による範読か、国語指導CDを利用してもよい。</li> <li>【評】 読書によって、様々な状況に生きる人々を知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 二つの作品の中で共感したことや疑問に感じたことなどを話し合わせる。</li> <li>・ 写真や注などを参考にしたり、新聞やニュースなどで紛争地の情報を調べたりして、困難な状況でたくましく生きる人々や世界で活動する人々について考えさせる。</li> <li>【評】 読書を通して考えたことを話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 読書が自分の人生や社会との関わりをどのように支えてきたか考えさせる。</li> <li>・ これから読んでみたいジャンルや作家を挙げさせるとよい。</li> <li>【評】 興味をもった本について語り合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

**【 備 考 】**

世界には、いまだに紛争の続く過酷な社会状況の中で、たくましく生きている人々がたくさん存在する。そうした現実存在する人々や社会を取材しつつ、私たちに課題を突きつけたり、勇気を与えてくれたりする読み物に触れ、自分の生き方や社会の在り方を見つめ直させたい。また、そうした広く世界に取材した読み物などにも目を向けさせたい。

日本にただでは分からない世界の人々の生き方や文化、社会的な課題、歴史などを含む幅広い書物に目を向けることは、義務教育の最終段階において極めて重要である。種々のジャンルに目を向けさせ、社会的な関心も広げながら、今後の読書生活の在り方について考えさせたい。

## 単元名 (書写)行書と仮名を調和させて書こう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 行書と仮名の調和や配列を理解して書くことができる。  
 (3) 行書で学習したことを、学習活動や日常生活に生かそうとする。

## 標準的な展開例

12210221\_001

【教材名】「美しい自然」 (P. 90～P. 93)

【準備等】DVD-ROM, 水書板, 毛筆のための練習用紙, 学習プリント(硬筆)

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 点画の連続を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学習してきた行書の点画の連続と、変化について確認する。</li> <li>「美しい自然」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★点画の連続を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>示範や教科書の考えよう(p. 91)を参照し、点画の連続や筆脈が表れている部分について考え、自己課題を設定する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>「美しい自然」を、毛筆で練習用紙や半紙に練習して、批評する。</li> <li>毛筆でまとめ書きをし、自己の課題について振り返り、次時の課題を設定する。</li> </ul> <p>2 点画の連続と形の変化を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時に、点画や筆脈の連続について学習したことを想起する。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★点画の連続や配列を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の作品「美しい自然」を示範や教科書の文字(p. 90)と比べて、自己の課題を見直し、設定する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>「美しい自然」を毛筆で、練習用紙や半紙に練習して、批評する。</li> <li>毛筆でまとめ書きをする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書(p. 91)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。</li> <li>これまでの学習を生かし、文字の歴史について知り、社会での生かされ方について知る。</li> </ul> <p>3 行書と仮名の調和や配列を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行書と仮名の調和や配列について、これまでの学習を振り返る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★行書と仮名の調和や配列を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「おくのほそ道」冒頭部分を音読し、硬筆で学習プリントに試し書きをする。</li> <li>基準を基に書いた「おくのほそ道」冒頭部分を批評し、自己課題を設定する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>行書と仮名の調和について、これまでの学習のまとめをすることを知らせる。</li> <li>教科書(p. 91)に、行書の特徴を意識させながら硬筆で取り組ませることによって、学習課題への意欲を高める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>水書板等を用いて示範し、より具体的につかませたい筆使いは、以下のとおりである。           <ul style="list-style-type: none"> <li>①点画の連続「美」「自」「然」<br/>方向の変化、点画のつながり</li> <li>②点画の形の変化<br/>「美」から「し」の筆脈の連続と形の変化<br/>「然」の点画の省略</li> <li>③一次の画への筆脈を意識して書く。</li> </ul> </li> <li>点画の連続に注目するように促し、運筆のために示範、もしくはDVD-ROMを参照する。</li> <li>自己のまとめ書きを振り返り、次時へ向けた学習課題を設定できるようにする。</li> </ul> <p>【評】点画の連続を、理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時に書いた清書を数点示し、本時の目標を捉えられるようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>筆使いに追加する基準は、以下のとおりである。           <ul style="list-style-type: none"> <li>④漢字と仮名の大きさ<br/>「し」「い」は小さめに書く。<br/>仮名は漢字よりも小さめに書く。</li> <li>⑤配列<br/>余白、行の中心の取り方</li> </ul> </li> <li>隣同士で相互批評し、課題を見直して練習に取り組める機会を設けられるとよい。</li> </ul> <p>【評】点画の連続や配列を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「生かそう」(p. 91)で終筆の変化を確認し、振り返るに記入させる。</li> <li>発展学習として、行書の古典の歴史に触れ、中国・日本における書の発展の歴史を紹介する。</li> <li>高等学校芸術科書道へつなげる学習とする。</li> <li>王羲之の「集字聖教序」「蘭亭序」などの作品に触れ、文字の歴史を紹介して、行書学習のまとめとする。</li> <li>行書と仮名の調和、配列よく書くために大切なこととして、漢字と仮名の大きさ、行間と余白、筆脈の連続、位置や字形について、教科書を使って確認する。</li> <li>芭蕉の自筆「おくのほそ道」(p. 92)を鑑賞させ、草書や変体仮名にも触れるとよい。</li> <li>基準は、以下のとおりである。           <ul style="list-style-type: none"> <li>①仮名は漢字よりも小さめに書く。</li> <li>②文字の中心の取り方に気を付ける。</li> <li>③行書の特徴である(連続、省略、変化)を意識する。</li> </ul> </li> </ul> |

- 「おくのほそ道」冒頭部分を、硬筆で学習プリントに書く。

- 学習のまとめとして、振り返りを行う。

- ④書く速さに気を付ける。
- ・設定した自己課題を意識させながら、書かせる。
- ・できれば、暗記した状態で書かせたい。
- ・学習プリントは、まず目入りの用紙、罫線や行の中心に補助線がある用紙、白紙など、予想される生徒の課題に合わせて用意したい。
- 【評】行書と仮名の調和や配列を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教科書(p.93)に記入させる。
- ・「生かそう」(p.93)にあるように、発展として、これまで学習した俳句や自作の短歌や俳句を短冊などに書く活動を計画してもよい。

#### 【 備 考 】

日本語は漢字と仮名が混ざった言葉が多い。漢字と仮名の配置を考えることで整えて書くことができる。また、実生活の中で文字を書くとき、点画の連続は起こりやすく、また、必要不可欠である。改めてそのきまりや実例を確認することは有効である。

第2学年までに学習した行書の技法を、日常の書写活動に進んで生かし、相互評価や互いの作品を鑑賞することを学習活動の中に取り入れていけるとよい。

## 単元名 8 未来へ向かって一温かいスープ

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気付いたりすることができる。
- (2) 自分の生き方と作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは何か自分の考えをまとめることができる。
- (3) 人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとする。

## 標準的な展開例

12210301\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 時代背景や筆者の置かれた状況を捉えながら全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の見通しをもつ。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★時代背景や筆者の置かれた状況を捉えながら全文を通読しよう。</li> <li>○作品を通読する。</li> <li>○時代背景や筆者の置かれた状況を捉える。</li> <li>○筆者の思いを想像し、感想を共有する。</li> </ul> <p>2 筆者の考える「国際性」とは何かを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★筆者の考える「国際性」とは何かを読み取ろう。</li> <li>○「月末のオムレツの夜」のエピソードを読み、筆者とレストランの母子それぞれの思いを読み取る。</li> <li>○筆者の考える「国際性」とは何かを読み取る。</li> </ul> <p>3 「国際性」について自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「国際性」について自分の考えをもとう。</li> <li>○筆者の考える「国際性」の基本とは何かを捉え、それについて自分の感想をもつ。</li> <li>○「国際性」についての考えを交流する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・教師による範読か、国語指導CDを利用して聞かせる。</li> <li>・当時の状況が分かる語句や文に線を引かせる</li> <li>・脚注を参考に当時の世界状況を想像させる。</li> <li>・時代背景や状況を踏まえて筆者の思いを想像させ、それに対する感想をまとめさせる。<br/>【評】筆者の思いを想像し、感想をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・「温かいスープ」という題名に込めた筆者の思いを想像させる。</li> <li>・筆者の考える国際性について、文章中の語句を引用してまとめさせる。<br/>【評】「国際性」とは何かを読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・前時にまとめた筆者の考える「国際性」について振り返り、それについて自分の考えをまとめさせる。<br/>【評】「国際性」とは何か自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・3～4人グループで考えを交流した後、学級全体で考えを伝え合う。<br/>【評】「国際性」についての考えを伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</li> </ul> |

## 【備 考】

国際性というと、流暢な外国語の能力や事業のスケールといったことばかりに目が向きがちである。しかし、それとは全く意を異にしている文章を読むことで、生徒たちに国際社会における人と人との関係についての考えを深めさせたい。また、新しい進路を控えたこの時期の生徒たちは、「自分とは何か」、「自分らしく生きるためにはどうすべきか」を探し求め始める。しかし、その答えは、そう簡単に見つかるものではない。他の人々の生き方や文学作品に表れた作者の思いに触れることで、少しずつ探り当てていくものだろう。教材を通して、国際社会の中で、自分らしく生きることとはどういうことかを考えさせたい。

中学校3年間の学習もまとめる時期である。教科書やノート、学習プリント、作品、さらには読書記録などを見直して、学んだことや身に付いたこと、出会った言葉など、観点を立てて整理することを通して国語の学習のまとめをしたい。また、まとめた冊子などを基に発表会などをして、互いにこれからの学びに生かせることなどを話し合わせたい。

## 単元名 8 未来へ向かって わたしを束ねないで

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉の使われ方や表現の特色に気を付けながら詩を朗読することができる。  
 (2) 詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会状況や人間の生き方について考えることができる。  
 (3) 詩を読んで進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとする。

## 標準的な展開例

12210302\_001

【準備等】国語指導CD、再生機

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「わたしを束ねないで」という題名から、内容を想像する。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★朗読を通して、詩のもつイメージを捉えよう。</li> <li>○朗読し、リズムを味わう。</li> </ul> <p>○気になった言葉や表現上の特徴などを抜き出す。</p> <p>○気付いたことや考えたことを発表する。</p> <p>2 「わたしを束ねないで」で作者が訴えている思いや願いを読み取り、自分の考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★詩に込めた作者の思いを読み取り、自分の可能性について考えよう。</li> <li>○対比されている表現や比喻されている表現から、作者の思いをまとめる。</li> <li>○読み取った作者の思いを基に、自分の可能性について考える。</li> </ul> <p>○自分の可能性について話し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「束ねる」という言葉からイメージを広げさせたい。</li> <li>・自由に想像させ発表させたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩を朗読し、全体のリズムをつかませ、詩に表された情景をイメージする。</li> <li>・教師の範読か、国語指導CDを利用するのもよい。</li> </ul> <p>【評】朗読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩の表現について、次の視点で分類しながら抜き出させる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①言葉の使い方や表現がおもしろいと感じたところ。</li> <li>②人の生き方についての作者の考え方が表れていると思ったところ。</li> </ul> </li> <li>・繰り返し使われている言葉や構成、表現技法などに注目させる。</li> <li>・書き出した言葉や表現を基に、気付いたことや自分の考えを発表させる。</li> <li>・友達の発表から感じたことを書き留めさせる</li> </ul> <p>【評】気付いたことを発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比喻表現から受ける印象を基に、作者が詩に込めた思いを考えさせる。</li> <li>・共感するところ、違うと感じるところを整理して、自分の可能性について考えをまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】作者の思いを想像しながら、自分の可能性について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩を通して考えた自分の可能性について、互いの考えを発表させる。</li> </ul> <p>【評】自分の可能性について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【備 考】

国際性というと、流暢な外国語の能力や事業のスケールといったことばかりに目が向きがちである。しかし、それとは全く意を異にしている文章を読むことで、生徒たちに国際社会における人と人との関係についての考えを深めさせたい。また、新しい進路を控えたこの時期の生徒たちは、「自分とは何か」、「自分らしく生きるためにはどうすべきか」を探し求め始める。しかし、その答えは、そう簡単に見つかるものではない。他の人々の生き方や文学作品に表れた作者の思いに触れることで、少しずつ探り当てていくものだろう。教材を通して、国際社会の中で、自分らしく生きることとはどういうことかを考えさせたい。

中学校3年間の学習もまとめの時期である。教科書やノート、学習プリント、作品、さらには読書記録などを見直して、学んだこと、身に付いたこと、出会った言葉など、観点を立てて整理することを通して国語の学習のまとめとしたい。また、まとめた冊子などをもとに発表会などをして、互いにこれからの学びに生かせることなどを話し合わせたい。



## 単元名 8 未来へ向かって 一三年間の歩みを振り返ろう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 目的や相手を意識して言葉を選び、冊子をまとめることができる。相手や場を意識しながら適切な言葉を選び、自分の考えを伝えることができる。
- (2) 相手を意識して敬語を適切に使い、自分の考えが分かりやすく伝わるように構成を考えて発表することができる。自分の考えや思いが分かりやすく伝わるように構成や内容を考えて冊子を作ることができる。
- (3) 粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとする。

## 標準的な展開例

12210303\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 三年間の学びを振り返り、冊子のテーマを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの教科書や学習記録、作品を見直し、三年間の学習を振り返る。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★3年間の学びを振り返り、冊子のテーマを決めよう。</li> <li>○3年間の学びを総括するテーマを決める。</li> </ul> <p>2 冊子の構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★冊子の構成を考えよう。</li> <li>○冊子の構成について理解する。</li> <li>○整理する観点を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年や教材、学習内容、テーマごとに分類する。</li> <li>・三年間の系統を考える。</li> <li>・作品と作者、時代背景などを関係付ける。</li> <li>・比較して共通点や相違点を整理する。</li> </ul> </li> <li>○それぞれの観点で学びを整理し、冊子の構成を考える。</li> </ul> <p>3～4 冊子を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★資料を集め、構成を工夫して冊子を作ろう。</li> <li>○資料を整理し、構成を工夫してまとめる。</li> </ul> <p>5～6 発表会を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★話し方を工夫して、作品を発表しよう。</li> <li>○発表会を開き、意見や感想を伝え合う。</li> <li>○学習を振り返り、考えが深まったことを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の学習をどのように振り返り、まとめたか。</li> <li>・友達と作品を読み合ったり、発表を聞き合ったりする中で、自分の考えを深めることができたか。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の目次を参照しながら、何を学んだのか、どんな言葉に出会ったのかなど、具体的に思い出させる。</li> <li>・「知多の友」を使用する。</li> <li>・「目標」や「学習の見通しをもとう」によって、この教材の目標と学習の流れを捉えさせる。</li> <li>・印象に残っている学習を思い出し、それを基に、3年間の学びを総括するテーマを決めさせる。</li> <li>・教科書や学習記録を読み返したり、友達と話したりして3年間の学習を振り返らせる。</li> <li>・「知多の友」を使用する。</li> </ul> <p>【評】冊子のテーマを決める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表紙、中面、裏表紙など紙面の構成や役割について理解させる。</li> <li>・「②構成を考える」(p. 205)を参考に、どのような観点で3年間の学習を整理するか考えさせる。</li> <li>・思考を可視化しながら学びを整理できるように、付箋やマス目入りレポート用紙などを用意しておくとうい。</li> <li>・タイトルや内容、編集後記などの構成を考えさせる。</li> </ul> <p>【評】冊子の構成を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に考えた構成を基に、3年間の学びを冊子にまとめさせる。</li> <li>・「冊子の例」(p. 207)を参考にさせる。</li> <li>・「知多の友」を使用する。</li> </ul> <p>【評】構成を工夫して冊子を作る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・編集後記の内容を中心に、「これまで」と「これから」の学びについて発表させる。</li> <li>・「発表の例」「質疑応答の例」(p. 206)を参考にさせる。</li> <li>・「学んだことを意味づけ、今後に生かすためには」(p. 207)を意識させながら、聞き手に評価させる。</li> <li>・発表は、質疑応答も含めて、1人3分程度とする。</li> </ul> <p>【評】発表会で意見や感想を伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業文集や自分史にまとめる学習などに発展させることも考えられる。</li> </ul> <p>【評】学習を振り返り、考えを深めたことを伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

【 備 考 】

国際性というと、流暢な外国語の能力や事業のスケールといったことばかりに目が向きがちである。しかし、それとは全く意を異にしている文章を読むことで、生徒たちに国際社会における人と人との関係についての考えを深めさせたい。また、新しい進路を控えたこの時期の生徒たちは、「自分とは何か」、「自分らしく生きるためにはどうすべきか」を探し求め始める。しかし、その答えは、そう簡単に見つかるものではない。他の人々の生き方や文学作品に表れた作者の思いに触れることで、少しずつ探り当てていくものだろう。教材を通して、国際社会の中で、自分らしく生きることとはどういうことかを考えさせたい。

中学校3年間の学習もまとめの時期である。教科書やノート、学習プリント、作品、さらには読書記録などを見直して、学んだこと、身に付いたことや出会った言葉など、観点を立てて整理することを通して国語の学習のまとめとしたい。また、まとめた冊子などをもとに発表会などをして、互いにこれからの学びに生かせることなどを話し合わせたい。

## 単元名 8 未来へ向かってー漢字に親しもう6

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 音訓や部首などに気を付け、これまでに学習した漢字を読んだり書いたりすることができる。  
(3) 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

## 標準的な展開例

12210304\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| 1 これまでの学習を生かして漢字の問題に取り組む。<br>○ 本時の学習課題をつかむ。<br>★ これまでの学習を生かして問題に取り組もう。<br>○ 「漢字に親しもう6」に取り組む。 | ・ 3年間の漢字の総まとめとして、言葉の意味を辞書で確認しながら問題に取り組ませる。<br>・ 漢字の音訓、熟語、部首、送り仮名、類義語・対義語などに注意させる。<br>【評】漢字の問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 |

## 【 備 考 】

国際性というと、流暢な外国語の能力や事業のスケールといったことばかりに目が向きがちである。しかし、それとは全く意を異にしている文章を読むことで、生徒たちに国際社会における人と人との関係についての考えを深めさせたい。また、新しい進路を控えたこの時期の生徒たちは、「自分とは何か」、「自分らしく生きるためにはどうすべきか」を探し求め始める。しかし、その答えは、そう簡単に見つかるものではない。他の人々の生き方や文学作品に表れた作者の思いに触れることで、少しずつ探り当てていくものだろう。教材を通して、国際社会の中で、自分らしく生きることとはどういうことかを考えさせたい。

中学校3年間の学習もまとめの時期である。教科書やノート、学習プリント、作品、さらには読書記録などを見直して、学んだこと、身に付いたこと、出会った言葉など、観点を立てて整理することを通して国語の学習のまとめとしたい。また、まとめた冊子などをもとに発表会などをして、互いにこれからの学びに生かせることなどを話し合わせたい。

## 単元名 (書写)書き初めを書く

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 中学校での書写学習のまとめとして、行書について理解することができる。また、行の中心や全体の調和を理解して、字形を整えて配列よく書くことができる。  
(3) 中学校での書写学習のまとめとして行書について理解を深め、意欲的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12210305\_001

【教材名】「友好の精神」「真理の探究」

(P. 137～P. 140)

【準備等】書き初め用紙

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 点画の連続と変化の筆使いを理解し、一字一筆で、字形を整えて書く。</p> <p>○「友好の精神」をこれまでの学習を生かして書くことを知り、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★点画の連続と変化を理解して、一字一筆で、字形を整えて書こう。</p> <p>○筆脈を意識して、「友好の精神」を半紙に試し書きをする。</p> <p>○筆脈を意識して、半紙に練習する。</p> <p>○試し書きと教材文字を対比しながら、基準を確認する。</p> <p>○課題に沿って練習し、自己批評をする。</p> <p>○半紙に本時のまとめ書きをし、自己評価をする。</p> <p>○次時は書き初め用紙に練習することを知り、後片付けをする。</p> <p>2 書き初め用紙に、行の中心や配置を工夫して、字形を整えて書く。</p> <p>○前時の学習を確認する。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★行書の特徴や配列を理解して書こう。</p> <p>○「友好の精神」の配列の特徴を理解する。</p> <p>○全体の配列を意識し、書き初め用紙に試し書きをする。</p> <p>○試し書きと教材文字を対比しながら、基準を確認する。</p> <p>○書き初め用紙に書く上での基準を確認し、課題を見つける。</p> <p>○課題に沿って練習し、自己批評する。</p> <p>○まとめ書きをし、試し書きと比較して自己評価する。</p> <p>3 行書学習のまとめとして、配列に注意し、全体の調和を考えて書く。</p> <p>○前時の学習を確認する。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★配列に気をつけて、全体の調和を考えて書こう。</p> | <p>・教材は生徒の実態や興味に合わせて、選択したり展開を工夫したりする。教科書(p. 137～p. 140)には、書き初め語句例が掲載されている。</p> <p>・行書の学習を生かし、半紙に書き初めの語句の練習をすることを伝える。</p> <p>・行書の筆使いについて、教材の特徴を捉えるように促す。</p> <p>・筆脈を捉え、一字一筆の流れを理解するよう促す。</p> <p>・連続を意識して、一字一筆で書くよう促す。</p> <p>・基準は、以下のとおりである。</p> <p>①筆脈の確認<br/>点画の連続、点画の変化</p> <p>②字形<br/>一字一筆で書き、字形を整える。</p> <p>・教材の基準を確かめ、自己の課題を設定するよう指導する。</p> <p>・半紙に練習し、自己の課題に沿って1枚ごとに批評をするよう促す。</p> <p>・机間指導をし、個別に支援する。</p> <p>・自己の課題を再認識するよう指示する。</p> <p>・試し書きと比較させる。</p> <p>【評】点画の連続と変化を理解して、一字一筆で字形を整えて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・前時は、点画の連続と変化を理解した上で、一字一筆で、字形を整えて書いたことを確認する。</p> <p>・前時の学習をもとに、書き初め用紙に練習することを伝える。</p> <p>・5文字の大きさ、書き初め用紙に対する配列を判断するよう指示する。</p> <p>・用紙の折り方を工夫して、配列を考えるよう促す。</p> <p>・中心線を入れ、全体を四つ折りにする。</p> <p>・基準に付け加えるのは以下のとおりである。</p> <p>③配列の工夫<br/>行の中心をそろえる。文字の大小に注意する。字間を意識する。</p> <p>・教材の基準を確かめ、自己の課題を設定するよう指示する。</p> <p>・課題に合う練習用紙が選べるよう指導する。</p> <p>・机間指導で個別に支援する。</p> <p>・自己評価を再認識するよう指示する。</p> <p>【評】行書の特徴や配列を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教材に対する自己の課題を確認するよう指示する。</p> <p>・配列、配置に注意し、全体の調和を考えて仕上げることを伝える。</p> |

|   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時のまとめ書きに小筆で学年と氏名を書き，基準を確認する。</li> <li>○ 試し書きと教材文字を比較しながら，基準を確認する。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基準に照らして，自己の課題を見つける。</li> <li>○ 自己の課題を解決できるよう，練習用紙を選んで練習する。</li> <li>○ 本文と学年・氏名を書き初め用紙に練習し，自己批評する。</li> <li>○ まとめ書きをし，振り返りを行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小筆で学年と氏名の文字を書くために，配置を考えるよう指導する。</li> <li>・ 基準は，以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 配列の視点 各文字の大きさの違いを意識する。字間に気を付ける。行の中心をそろえる。氏名は用紙の中ほどから書き出す。</li> <li>② 小筆の文字 まとめ書きとして仕上げていく際に，小筆の役割を意識し，文字の大きさに注意する。</li> </ul> </li> <li>・ 全体の調和を考えて仕上げるために，自己の課題を見つけるよう促す。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配列に関わる課題を意識し，まとめ書きに向けての練習をするよう指示する。</li> <li>・ 机間指導をし，個別に支援する。</li> <li>・ 教科書(p. 137)の振り返ろうに記入する。</li> </ul> <p>【評】行書のまとめとして，配列に注意し，全体の調和を考えて仕上げる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> |
|---|---|

【 備 考 】  
紙面に対しての文字の大小や配列・配置・字間・行間・書式等を理解し，工夫して適切に書けるよう注意して学習を進めたい。  
そして，第2学年までに学習した行書の技法を，日常の書写活動に進んで生かしていくようにさせる。また，相互評価や互いの作品を鑑賞することを学習活動の中に取り入れていけるとよい。

単元名 (書写)身のまわりの文字文化の豊かさにふれ, 効果的に文字を書こう 配当時間 2時間

単元の目標 (1) これまでに身に付けてきた書写力を生かして, 「卒業」をテーマに, 語句や文, 表現形式を選んで, 卒業の記念制作に取り組むことができる。  
(3) これまでの書写学習の成果を日常生活のさまざまな場面で生かそうとする。

### 標準的な展開例

12210306\_001

【教材名】多様な表現による文字 三年間の学習の成果を生かそう (P. 94～P. 99)

【準備等】筆記用具(フェルトペン, サインペン, 毛筆等), 作品作りのための用紙

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 身の回りで見かける, 文字のもつ表現効果について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身の回りの文字について, 種類や目的, 印象, 工夫されている効果などについて話し合う。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★文字のもつ表現効果について考えよう。</li> <li>○手書き文字と活字について, それぞれの表現効果や印象について話し合い, 目的に応じた有効な活用, 用途を考える。</li> <li>○手書き文字と活字が社会の中でどのように使い分けられているか「記録性」「伝達性」「表現性」の観点から, それぞれの特徴について話し合う。</li> <li>○今日の文字環境に対応した, 文字の「記録性」「伝達性」「表現性」を考慮した効果的な表現の活用について理解する。</li> </ul> <p>2 三年間の学習を生かして, メッセージカードを書いて伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業にあたり感謝の気持ちや抱負などを, メッセージカードで伝えることを理解する。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★三年間の学習を生かして, メッセージカードを書いて伝えよう。</li> <li>○メッセージカードの仕上りをイメージしながら, 文字やメッセージを考え, 決定する。</li> <li>○ペーパーフレームを作成し, メッセージを伝えるのにふさわしい書体, 文字の大きさ, 配列, 色彩などを考え, 決定する。</li> <li>○メッセージカードを試し書きをする。</li> <li>○全体の構成や表現効果を確認し, 必要な修正を行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書(p. 94～p. 95)をもとに身の回りの文字について想起し, どのような種類, 目的, 印象の文字があるかを話し合い, 発表するよう指示する。</li> <li>・教科書資料の他, 地域調べなどの課題として文字素材の収集を事前に指示し, 提出したものをデータ化して準備しておいてもよい。</li> <li>・手書き文字に限定せず, 活字・印刷文字も含め, 広く学習対象とする。</li> <li>・取材レポートを基に, 目的(用途・印象)に応じた効果について考えるように促す。教科書(p. 94～p. 97)の資料も活用する。</li> <li>・文字に関する用語について整理しておく。「字体」「字形」「書体(手書き文字・活字)」「フォント」「書風」など。</li> <li>【評】日常生活・社会生活の中の文字環境について話し合う活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・社会の中で効果的に文字が活用されている現状を理解し, 日常生活の中で, 文字を書く際や情報機器での文字の使用, 選択などの際に生かせるような知識となるようにしたい。</li> <li>・教科書(p. 94～p. 97)を総括し, 文字の「記録性」「伝達性」「表現性」, それによる多様な効果, 表現の活用, 今日の文字環境, 文字文化について広く理解できるようにする。</li> <li>・発展として, 教科書(p. 96～p. 97)に示した「都道府県の城・城跡」を活用し, 郷土の文字文化への興味・関心を高めるとともに, 全国の文化財について調べてまとめる学習も計画したい。</li> <li>【評】身の回りで見かける文字の表現効果について考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・教科書(p. 98)を参照し, 読み手を意識した言語活動であることや, 文字やメッセージ, ペーパーフレームの大きさや色彩なども含め, 総合的に捉えた表現であることを確認する。</li> <li>・文字やメッセージは事前に準備しておくように指示しておいてもよい。</li> <li>・感謝の気持ちや抱負などを伝える上での表現効果について, 意識して書くように伝える。</li> <li>・ペーパーフレームは事前に大きさを決定し, 色を選択できるように準備する。</li> <li>・フレームの作成に時間がかからないようにする。</li> <li>・メッセージは毛筆, フェルトペン, サインペンなどを用い, 必要に応じて行書で正しく書くように指示する。</li> <li>・筆記具の種類や色を工夫したり, イラストを入れたりして, 表現の工夫をする。</li> <li>・試し書きや自己批評(確認・修正)の機会を確保したい。</li> </ul> |

○まとめ書きをし、表現・効果の工夫などを発表する。

- ・読み手を意識し、適切な表現・効果を考えてまとめ書きをする。
  - ・個性を生かした表現の内容や、方法を踏まえて、その工夫について説明できるようにしたい。
  - ・相互に表現の内容や方法の多様性、それらによる個性を認識し、学習成果を日常生活や社会生活で生かせるようにしたい。
- 【評】三年間の学習を生かして、メッセージカードを書いて伝える活動を通して、「知識・技能」を評価する。

#### 【 備 考 】

文字の「記録性」「伝達性」と「表現性」のバランスを調整することで、様々な場面・目的に応じた効果的な書き方の工夫が可能となる。これまでの書写での学習を振り返るとともに、日常生活の中での文字の在り方について考えさせることによって、文字の可能性に気づき、自ら生かしていくようにさせたい。

そして、これまでに学習した書写の技法を、日常の書写活動に進んで生かしていくようにさせる。また、相互評価や互いの作品を鑑賞すること、文字の効果的な使い方についての話し合いを学習活動の中に取り入れていけるとよい。

書式の教室 教科書 (p. 100～p. 107) (適時)

書式テストで確認 教科書 (p. 108～p. 109) (適時)

# **令和 3 年度 知多地方教育計画案**

## **社会科**



# 社 会 科

## 1 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

中学校社会科の目標は、前半の柱書部分と、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力に関わる具体的な目標で構成されている。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 趣旨

- ① 社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し、知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育んでいくことが求められる。
- ② 「社会的な見方・考え方」とは、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法である。社会科、地理歴史科、公民科としての本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力の育成はもとより、生きて働く知識の習得に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度等にも作用するものである。また、小・中・高等学校の学校種を超えて社会科、地理歴史科、公民科を貫くものとして整理されている。

### ③ 社会科の改訂の基本的な考え方

#### ア 基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得

単に理解しているか、できるかだけでなく、それを生きて働かせてどう使うか、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかといった、三つの柱で示された資質・能力の育成全体を見通した上で、その確実な習得が求められる。

#### イ 「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成

社会的事象について考察する中で「知識及び技能」の習得につながったり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する中で、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度が育まれ、「学びに向かう力、人間性等」が涵養されたりすることを考えれば、「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成は、資質・能力の三つの柱を育成に資することが期待される。

単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え

方」を働かせることで、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させることが求められる。

ウ 主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成

従前の学習指導要領から一貫して重視されてきた、課題の発見、解決のための「思考力、判断力、表現力等」とも相まって、身近な地域社会から地球規模に至るまでの課題の解決の手掛かりを得ることが期待されている。現実の社会的事象を扱うことのできる社会科ならではの「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が必要であり、子供たちに平和で民主的な国家及び社会の形成者としての自覚を涵養することが求められる。

## (2) 要点

### ① 目標の改善

#### ア 「知識・技能」

社会的事象等に関する理解などを図るための知識と社会的事象等について調べまとめる技能。

#### イ 「思考力・判断力・表現力等」

社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力や、考察したことや構想したことを説明する力、それらを基に議論する力。

#### ウ 「学びに向かう力・人間性等」

主体的に学習に取り組む態度と、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など。

### ② 内容構成の改善

ア 課題を追究したり解決したりする活動の充実。

イ 適切な課題を設けて行う学習の充実。

ウ 課題把握（動機付けや方向付け）、課題追究（情報収集や考察・構想）、課題解決（まとめや振り返り）。

### ③ 内容の改善・充実

ア 日本と世界の生活・文化の多様性の理解。

イ 地球規模の諸課題や地域的な諸課題の解決。

### ④ 学習指導の改善充実等

#### ア 主体的な学びの視点

生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元等を通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場を設定し、生徒の表現を促すようにする。

#### イ 対話的な学びの視点

実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりする活動を一層充実させる。

#### ウ 深い学びの視点

「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠。

#### エ 教材や教育環境の充実

- ・授業において、新聞や公的機関が発行する資料等を一層活用する。
- ・社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実させる。
- ・博物館や資料館、図書館などの公共施設についても引き続き積極的に活用する。

# 地理的分野

## 1 分野の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

### 地理的な見方・考え方

- (1) 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。構想する際の「視点や方法（考え方）」。
- (2) 地理的な見方・考え方の具体
  - ① 位置や分布
  - ② 場所
  - ③ 人間と自然環境との相互依存関係（人と自然との関わり）
  - ④ 空間的相互依存作用（地域同士のつながり）
  - ⑤ 地域

## 2 改訂の要点

- (1) 世界と日本の地域構成に関わる内容構成の見直し
- (2) 地域調査に関わる内容構成の見直し
- (3) 世界の諸地域学習における地球的課題の視点の導入
- (4) 日本の諸地域学習における考察の仕方の柔軟化
- (5) 日本の様々な地域の学習における防災学習の重視

## 3 内容及び内容の取扱い

### A 世界と日本の地域構成

#### (1) 地域構成

「世界の地域構成」、「日本の地域構成」を取り上げ、位置や分布などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 「日本の地域構成」を扱う際には、都道府県の名称と位置のほかに都道府県庁所在地名も取り上げること。
- ・ 「領域の範囲や変化とその特色」については、我が国の海洋国家としての特色を取り

上げるとともに、竹島や北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題も取り上げるようにすること。その際、尖閣諸島については我が国の固有の領土であり、領土問題は存在しないことも扱うこと。

- ・ 地球儀や地図を積極的に活用し、学習全体を通して、大まかに世界地図や日本地図を描けるようにすること。

## B 世界の様々な地域

### (1) 世界各地の人々の生活と環境

場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 世界各地の人々の生活の特色やその変容の理由と、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件との関係を考察するに当たって、衣食住の特色や、生活と宗教との関わりなどを取り上げるようにすること。

### (2) 世界の諸地域

世界の六つの州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 州ごとに設ける主題については、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる事象を取り上げるとともに、そこで特徴的に見られる地球的課題と関連付けて取り上げること。
- ・ 取り上げる地球的課題については、地域間の共通性に気付き、我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定すること。また、州ごとに異なるものとなるようにすること。

## C 日本の様々な地域

### (1) 地域調査の手法

場所などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 地域調査に当たっては、対象地域は学校周辺とし、主題は学校所在地の事情を踏まえて、防災、人口の偏在、産業の変容、交通の発達などの事象から適切に設定し、観察や調査を指導計画に位置付けて実施すること。
- ・ 様々な資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりするなどの作業的な学習活動を取り入れること。また、課題の追究に当たり、縮尺の大きな地図や統計その他の資料を含む地理空間情報を適切に取り扱い、その活用の技能を高めるようにすること。

### (2) 日本の地域的特色と地域区分

「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目を取り上げ、分布や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 日本の地域的特色については、系統的に理解を深めるための基本的な事柄で構成すること。
- ・ 地域区分に際しては、日本の地域的特色を見いだしやすくなるようにそれぞれ適切な数で区分すること。

### (3) 日本の諸地域

「自然環境」「人口や都市・村落」「産業」「交通や通信」「その他の事象」を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 国内を幾つかの地域に区分して取り上げることとし、その地域区分は、指導の観点や学校所在地の事情などを考慮して適切に決めること。
- ・ 学習する地域ごとに考察の仕方を一つ選択することとし、「自然環境」「人口や都市・

村落」「産業」「交通や通信」を中核とした考察の仕方は、少なくとも一度は取り扱うこと。また、「その他の事象」を中核とした考察の仕方は、様々な事象や事柄の中から、取り上げる地域に応じた適切なものを適宜設定すること。

- ・ 地域の考察に当たっては、そこに暮らす人々の生活・文化、地域の伝統や歴史的な背景、地域の持続可能な社会づくりを踏まえた視点に留意すること。

#### (4) 地域の在り方

空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 取り上げる地域や課題については、各学校において具体的に地域の在り方を考察できるような、適切な規模の地域や適切な課題を取り上げること。
- ・ 学習の効果を高めることができる場合には、「地域調査の手法」の学習や「日本の諸地域」の中の学校所在地を含む地域の学習と結び付けて扱うことができること。
- ・ 考察、構想、表現する際には、学習対象の地域と類似の課題が見られる他の地域と比較したり、関連付けたりするなど、具体的に学習を進めること。
- ・ 観察や調査の結果をまとめる際には、地図や諸資料を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させること。

## 4 評価の観点の趣旨

| 観点            | 観点の趣旨   |
|---------------|---|
| 知識・技能         | 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。  |
| 思考・判断・表現      | 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。   |

# 歴史的分野

## 1 分野の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

### 歴史的な見方・考え方

- (1) 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること。考察、構想する際の「視点や方法（考え方）」。
- (2) 歴史的な見方・考え方の具体
  - ① 時期、年代など時系列に関わる視点
  - ② 展開、変化、継続など諸事象の推移に関わる視点
  - ③ 類似、差異、特色など諸事象の比較に関わる視点
  - ④ 背景、原因、結果、影響など事象相互のつながりに関わる視点

## 2 改訂の要点

- (1) 歴史について考察する力や説明する力の育成の一層の重視
- (2) 歴史的分野の学習の構造化と焦点化
- (3) 我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実
- (4) 主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどについての学習の充実
- (5) 様々な伝統や文化の学習内容の充実

## 3 内容及び内容の取扱い

### A 歴史との対話

#### (1) 私たちと歴史

課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 中学校の歴史学習の導入として実施することを原則とし、小学校での学習を踏まえ、扱う内容や活動を工夫すること。
- ・ 「課題を追究したり解決したりする活動」については、内容のB以下の学習と関わらせて、歴史を追究するために、課題意識をもって学ぶことを促す適切な学習活動を設

けるような工夫をすること。

- ・ 「年代の表し方や時代区分」については、導入における学習内容を基盤にし、内容のB以下の学習と関わらせて継続的・計画的に進めること。
- ・ 「時期や年代、推移、現在の私たちとのつながり」については、内容のB以下の学習と関わらせて、事象相互の関連などにも留意し、それぞれの時代でこれらに着目して考察することが大切であることに気付かせること。

## (2) 身近な地域の歴史

課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 内容のB以下の学習と関わらせて計画的に実施し、地域の特性に応じた時代を取り上げるようにするとともに、人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目した取扱いを工夫すること。その際、博物館、郷土資料館などの地域の施設の活用や地域の人々の協力も考慮すること。

## B 近世までの日本とアジア

### (1) 古代までの日本

課題を追究したり解決したりする活動を行う。

#### ア 世界の古代文明や宗教のおこり

- ・ 「世界の古代文明」については、人類の出現にも触れ、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、生活技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展などの共通する特徴に気付かせるようにすること。また、ギリシャ・ローマの文明について、政治制度など民主政治の来歴の観点から取り扱うこと。
- ・ 「宗教のおこり」については、仏教、キリスト教、イスラム教などを取り上げ、古代の文明とともに大きく捉えさせるようにすること。

#### イ 日本列島における国家形成

- ・ 「日本列島における国家形成」については、狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことに気付かせるようにすること。また、考古学などの成果を活用するとともに、古事記、日本書紀、風土記などにまとめられた神話・伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰やものの見方などに気付かせるよう留意すること。
- ・ 「大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わり」については、古墳の広まりにも触れるとともに、大陸から移住してきた人々の我が国の社会や文化に果たした役割にも気付かせるようにすること。

#### ウ 律令国家の形成

- ・ 「律令国家の確立に至るまでの過程」については、聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を、小学校での学習内容を活用して大きく捉えさせるようにすること。

#### エ 古代の文化と東アジアとの関わり

### (2) 中世の日本

課題を追究したり解決したりする活動を行う。

#### ア 武家政治の成立とユーラシアの交流

- ・ 「ユーラシアの変化」については、モンゴル帝国の拡大によるユーラシアの結び付きについて気付かせること。

#### イ 武家政治の展開と東アジアの動き

- ・ 「琉球の国際的な役割」については、琉球の文化についても触れること。

#### ウ 民衆の成長と新たな文化の形成

- ・ 「武士や民衆などの多様な文化の形成」については、代表的な事例を取り上げてそ

の特色を捉えさせるようにすること。その際、この時代の文化の中に現在に結び付くものが見られることに気付かせるようにすること。また、禅宗の文化的な影響についても触れること。

- ・ 「応仁の乱後の社会的な変動」については、戦国の動乱も取り扱うようにすること。

### (3) 近世の日本

課題を追究したり解決したりする活動を行う。

#### ア 世界の動きと統一事業

- ・ 「ヨーロッパ人来航の背景」については、新航路の開拓を中心に取り扱い、その背景となるアジアの交易の状況やムスリム商人などの役割と世界の結び付きに気付かせること。また、宗教改革についても触れること。
- ・ 「織田・豊臣による統一事業」については、検地・刀狩などの政策を取り扱うようにすること。

#### イ 江戸幕府の成立と対外関係

- ・ 「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係」については、オランダ、中国との交易のほか、朝鮮との交流や琉球の役割、北方との交易をしていたアイヌについて取り扱うようにすること。その際、アイヌの文化についても触れること。
- ・ 「幕府と藩による支配」については、その支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなどに気付かせること。

#### ウ 産業の発達と町人文化

- ・ 「産業や交通の発達」については、身近な地域の特徴を生かすようにすること。
- ・ 「各地方の生活文化」については、身近な地域の事例を取り上げるように配慮し、藩校や寺子屋などによる「教育の普及」や社会的な「文化の広がり」と関連させて、現在との結び付きに気付かせるようにすること。

#### エ 幕府政治の展開

- ・ 「幕府の政治改革」については、百姓一揆などに結び付く農村の変化や商業の発達などへの対応という観点から、代表的な事例を取り上げるようにすること。

### C 近現代の日本と世界

#### (1) 近代の日本と世界

課題を追究したり解決したりする活動を行う。

#### ア 欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き

- ・ 「市民革命」については、政治体制の変化や人権思想の発達や広がり、現代の政治とのつながりなどに関連付けて、アメリカの独立、フランス革命などを扱うこと。
- ・ 「アジア諸国の動き」については、欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容という観点から、代表的な事例を取り上げるようにすること。

#### イ 明治維新と近代国家の形成

- ・ 「開国とその影響」については、欧米諸国のアジア進出と関連付けて取り扱うようにすること。
- ・ 「富国強兵・殖産興業政策」については、この政策の下に新政府が行った、廃藩置県、学制・兵制・税制の改革、身分制度の廃止、領土の画定などを取り扱うようにすること。その際、北方領土に触れるとともに、竹島、尖閣諸島の編入についても触れること。
- ・ 「明治維新」については、複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に気付かせるようにすること。

#### ウ 議会政治の始まりと国際社会との関わり



- ・ 「日清・日露戦争」については、この頃の大陸との関係を踏まえて取り扱うようにすること。
- ・ 「条約改正」については、当時の国内の社会状況や国際情勢との関わりを踏まえて、欧米諸国と対等な外交関係を樹立する過程の中から代表的な事例を取り上げるようにすること。
- ・ 「立憲制の国家が成立して議会政治が始まる」については、その歴史上の意義や現代の政治とのつながりに気付かせるようにすること。

#### エ 近代産業の発展と近代文化の形成

- ・ 「近代文化」については、伝統的な文化の上に欧米文化を受容して形成されたものであることに気付かせるようにすること。

#### オ 第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現

- ・ 「第一次世界大戦」については、世界に戦禍が広がった背景や、日本の参戦、ロシア革命なども取り上げて、世界の動きと我が国との関連を踏まえて取り扱うようにすること。
- ・ 「我が国の国民の政治的自覚の高まり」については、大正デモクラシーの時期の政党政治の発達、民主主義的な思想の普及、社会運動の展開を取り扱うようにすること。

#### カ 第二次世界大戦と人類への惨禍

- ・ 国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付かせるようにすること。

### (2) 現代の日本と世界

課題を追究したり解決したりする活動を行う。

#### ア 日本の民主化と冷戦下の国際社会

- ・ 「我が国の民主化と再建の過程」については、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力したことに気付かせるようにすること。その際、男女普通選挙の確立、日本国憲法の制定などを取り扱うこと。

#### イ 日本の経済発展とグローバル化する世界

- ・ 沖縄返還、日中国交正常化、石油危機などの節目となる歴史に関わる事象を取り扱うようにすること。また、民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応などを取り扱い、これまでの学習と関わらせて考察、構想させるようにすること。

## 4 評価の観点の趣旨

| 観点            | 観点の趣旨  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特徴を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。   |
| 思考・判断・表現      | 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。  |

# 公民的分野

## 1 分野の目標

現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

### 現代社会の見方・考え方

- (1) 社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。考察、構想する際の「視点や方法（考え方）」。
- (2) 現代社会の見方・考え方の具体
  - ① 対立と合意、効率と公正などの枠組み
  - ② 分業と交換、希少性などの視点
  - ③ 個人の尊重と法の支配、民主主義などの視点
  - ④ 協調、持続可能性などの視点
  - ⑤ 小学校、地理的分野、歴史的分野の扱った多様な視点

## 2 改訂の要点

- (1) 現代社会の特色、文化の継承と創造の意義に関する学習の一層の重視
- (2) 現代社会を捉える枠組みを養う学習の一層の充実
- (3) 現代社会の見方・考え方を働かせる学習の一層の充実
- (4) 社会に見られる課題を把握したり、その解決に向けて考察、構想したりする学習の重視
- (5) 国家間の相互の主権の尊重と協力、国家主権、国連における持続可能な開発のための取組に関する学習の重視
- (6) 課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの一層の重視

## 3 内容及び内容の取扱い

### A 私たちと現代社会

- (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色

位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 「情報化」については、人工知能の急速な進化などによる産業や社会の構造的な変化

などに関連付けたり，災害時における防災情報の発信・活用などの具体的事例を取り上げたりすること。

- ・ 「現代社会における文化の意義や影響」については，科学，芸術，宗教などを取り上げ，社会生活との関わりなどについて学習できるように工夫すること。
- ・ 「文化の継承と創造の意義」については，我が国の伝統と文化などを取り扱うこと。

## (2) 現代社会を捉える枠組み

対立と合意，効率と公正などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を行う。

## B 私たちと経済

### (1) 市場の働きと経済

対立と合意，効率と公正，分業と交換，希少性などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 「市場における価格の決まり方や資源の配分」については，個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通して行われていることや，市場における取引が貨幣を通して行われていることなどを取り上げること。
- ・ 「個人や企業の経済活動における役割と責任」については，起業について触れるとともに，経済活動や起業などを支える金融などの働きについて取り扱うこと。
- ・ 「社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善」については，仕事と生活の調和という観点から労働保護立法についても触れること。

### (2) 国民の生活と政府の役割

対立と合意，効率と公正，分業と交換，希少性などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 「消費者の保護」については，消費者の自立の支援なども含めた消費者行政を取り扱うこと。
- ・ 「財政及び租税の役割」については，財源の確保と配分という観点から，財政の現状や少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて考察し，表現させること。

## C 私たちと政治

### (1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則

対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を行う。

### (2) 対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 「法に基づく公正な裁判の保障」に関連させて，裁判員制度についても触れること。

## D 私たちと国際社会の諸課題

### (1) 世界平和と人類の福祉の増大

対立と合意，効率と公正，協調，持続可能性などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を行う。

- ・ 「国家間の相互の主権の尊重と協力」との関連で，国旗及び国歌の意義並びにそれらを相互に尊重することが国際的な儀礼であることの理解を通して，それらを尊重する態度を養うように配慮すること。
- ・ 「領土（領海，領空を含む），国家主権」については関連させて取り扱い，我が国が，固有の領土である竹島や北方領土に関し残されている問題の平和的な手段による解決に向けて努力していることや，尖閣諸島をめぐり解決すべき領有権の問題は存在していないことなどを取り上げること。

- ・ 「国際連合をはじめとする国際機構などの役割」については、国際連合における持続可能な開発のための取組についても触れること。
- ・ 「国際社会における我が国の役割」に関連させて、核兵器などの脅威に触れ、戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育成するように配慮すること。また、国際社会における文化や宗教の多様性について取り上げること。

(2) よりよい社会を目指して

持続可能な社会を形成することに向けて、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を探究する活動を行う。

- ・ 身近な地域や我が国の取組との関連性に着目させ、世界的な視野と地域的な視点に立って探究させること。また、社会科のまとめとして位置付け、適切かつ十分な授業時数を配当すること。

#### 4 評価の観点の趣旨

| 観点            | 観点の趣旨  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めているとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめている。 |
| 思考・判断・表現      | 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。   |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 現代の社会的事象について、国家及び社会の担い手として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。   |

第1学年 社会科 年間計画（標準105時間）

| 学<br>期                | 単 元 名   |   | 時<br>間 | 備 考 |
|-----------------------|---|---|--------|-----|
|                       | 地 理 的 分 野   | 歴 史 的 分 野   |        |     |
| 一<br>学<br>期<br><br>36 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理との出会い</li> <li>・世界と日本の地域構成</li> <li>・世界各地の人々の生活と環境</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・探してみよう！私たちと歴史とのつながり</li> <li>・私たちと歴史</li> <li>・古代までの日本と世界（1～6）</li> </ul> | 1      |     |
|                       |   |   | 12     |     |
|                       |   |   | 9      |     |
|                       |   |   | 1      |     |
|                       |   |   | 5      |     |
| 二<br>学<br>期<br><br>42 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の諸地域</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代までの日本と世界（7～18）</li> </ul>   | 6      |     |
|                       |   |   | 2      |     |
|                       |   |   | 12     |     |
|                       |   |   | 28     |     |
|                       |   |   | 2      |     |
| 三<br>学<br>期<br><br>27 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域調査の手法</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中世の日本と世界</li> </ul>   | 7      |     |
|                       |   |   | 14     |     |
|                       |   |   | 6      |     |
|                       | 地理 57   | 歴史 38   |        |     |

第2学年 社会科 年間計画（標準105時間）

| 学<br>期                | 単 元 名  |   | 時<br>間        | 備 考 |
|-----------------------|--|---|---------------|-----|
|                       | 地 理 的 分 野  | 歴 史 的 分 野   |               |     |
| 一<br>学<br>期<br><br>36 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の地域的特色と地域区分</li> <li>・日本の諸地域(1～6)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・近世の日本と世界</li> </ul> | 11<br>18<br>6 |     |
|                       | 予 備  |   | 1             |     |
| 二<br>学<br>期<br><br>42 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の諸地域(7～38)</li> <li>・地域のあり方</li> </ul>       |   | 32<br>5       |     |
|                       | 予 備  |   | 5             |     |
| 三<br>学<br>期<br><br>27 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の近代化</li> </ul>   | 26            |     |
|                       | 予 備  |   | 1             |     |
|                       | 地理 54  | 歴史 44   |               |     |

※旧教科書で指導する場合は、新教科書の内容を確認して指導する

第3学年 社会科 年間計画（標準140時間）

| 学<br>期                | 単 元 名   |  | 時<br>間 | 備 考 |
|-----------------------|---|--|--------|-----|
|                       | 歴 史 的 分 野   | 公 民 的 分 野  |        |     |
| 一<br>学<br>期<br><br>48 | ・ 二度の世界大戦と日本<br><br>・ 現代の日本と世界<br><br>・ 「歴史との対話」を未来に活かす | ・ これからの社会をどんな社会にしたい？<br><br>・ 私たちと現代社会   | 17     |     |
|                       |   |  | 14     |     |
|                       |   |  | 2      |     |
|                       |   |  | 1      |     |
|                       |   |  |        |     |
|                       | 予 備   |  | 2      |     |
| 二<br>学<br>期<br><br>56 |   | ・ 私たちの生活と政治<br>個人の尊重と日本国憲法<br>・ 私たちの生活と政治<br>国民主権と日本の政治<br><br>・ 私たちの生活と経済(1～18) | 18     |     |
|                       |   |  | 17     |     |
|                       |   |  | 18     |     |
|                       |   |  |        |     |
|                       |   | 予 備  |        |     |
| 三<br>学<br>期<br><br>36 |   | ・ 私たちの生活と経済(19～24)<br><br>・ 私たちと国際社会<br><br>・ 私たちの課題<br>ー持続可能な社会をめざしてー           | 6      |     |
|                       |   |  | 15     |     |
|                       |   |  | 10     |     |
|                       |   |  |        |     |
|                       |   | 予 備  |        |     |
|                       | 歴史     33   | 公民     97  |        |     |

※旧教科書で指導する場合は、新教科書の内容を確認して指導する

# 第1学年O組 社会科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

## 1 単 元 世界の諸地域

### 2 単元の目標

- (1) アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、オセアニアの地域的特色を資料から読み取り、大観するとともに、世界各地で顕在化している地域的課題は、それが見られる地域の地域的特色を受けて、現れ方が異なることを理解することができる。
- (2) 世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや他地域との結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し表現することができる。
- (3) 世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

### 3 学習の計画 (28 時間完了)

- 第1次 第1時 世界の六つの州について大観し、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 第2次 第2時～第6時 アジア州の経済発展と課題について調べる。  
 第7時～第12時 ヨーロッパ州の国境を越えた統合について調べる。  
 第13時～第15時 アフリカ州の自立のための開発と国際協力について調べる。  
 第16時 北アメリカ州の自然環境と人々の生活の特色について調べる。  
 第17時（本時） 北アメリカ州の農業について調べる。  
 第18時～第21時 北アメリカ州の産業について調べる。  
 第22時～第24時 南アメリカ州の開発と環境保全について調べる。  
 第25時～第27時 オセアニア州の多文化が共生する社会について調べる。
- 第3次 第28時 学習を振り返り、単元の学習のまとめをする。

### 4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 北アメリカ州の農業の特色を資料から適切に読み取り、読み取ったことを農業の特色として理解することができる。
  - 北アメリカ州の農業が世界に大きな影響力をもち続けている理由を考えることができる。
- (2) 準備・資料
  - 生徒……前時のワークシート
  - 教師……ワークシート
- (3) 関 連
 

2年 社会 日本の地域的特色と地域区分（日本と世界との結び付きの特色）
- (4) 学習過程

| 段階  | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|-----|--|----|--|
| つかむ | <p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 身近な農作物で、北アメリカで作られたものを予想し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小麦粉（小麦）</li> <li>・大豆</li> </ul> <p>(2) 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>なぜ北アメリカの農業は、世界に大きな影響力をもち続けているのだろう。</p> | 7  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地形や気候などからみた農業の特色や、農業からみた世界との関係に着目させる。（地域どうしのつながり）</li> <li>○ アメリカやカナダは、生産した農作物を世界中に輸出していることから、その生産量に着目させ、本時の課題につなげる。</li> <li>○ 影響力の大きさは、輸出量の多さから判断できることを確認する。</li> </ul> |



|                  |  |    |   |
|------------------|--|----|---|
| 追<br>究<br>す<br>る | 2 北アメリカの主な農産物の生産量と輸出量を調べる。<br>・小麦は輸出量の割合が高い。<br>・大豆は、アメリカが生産量も輸出量も、世界の3割以上を占めている。  | 12 | o 教P. 86のグラフを活用させる。<br><br>評資料から、北アメリカの主な農作物の輸出量を読み取り、世界の中で割合が高いことを理解している。(ワークシート)  |
|                  | 3 北アメリカの農業の特色をつかむ。<br>(1) 効率的な農業について調べる。<br>・広大な土地で大型機械を使って大量生産している。<br>(2) 適地適作について調べる。<br>・地形や気候に適した農業が行われている。<br><br>(3) 世界を支える北アメリカの農業について調べる。<br>・アメリカの穀物メジャーは、穀物の売買だけでなく、穀物の消費動向や市場情報の調査などを幅広く行っている。 | 37 | o 広大な農地で大型の機械を使い、効率的に農業を行っていることをつかませる。<br><br>o 教P. 87の主題図を活用して、アメリカやカナダの土地利用の様子をつかませる。<br>o 地図帳P. 63を活用させる。<br>評地形や気候の主題図と農作物の分布について関連していることを理解している。(ワークシート)<br><br>o アメリカやカナダでは、自国で消費されるよりも多くの農産物が大量に生産されていることに気付かせる。 |
|                  | 4 本時の学習のまとめをする。<br>(1) 北アメリカから世界へ多くの農産物を輸出できる理由を考え、発表する。<br>・北アメリカでは、広大な土地を活用し、その土地に適した農作物を、効率的に生産しているため。<br>(2) 本時の学習を振り返り、次時の活動について知る。   | 50 | o 本時の学習内容を活用して、自分の考えをまとめさせる。<br>o 北アメリカの国々が大規模な農業を続けていくための課題は何か、どのような努力が必要かなどを問いかけ、主体的な学びへとつなげる。<br><br>o 次時は、北アメリカの工業が世界に与える影響について考えることを予告する。  |

(5) 本時の評価規準

- o 農業についての様々な資料を関連させて読み取り、北アメリカ州の農業の特色を適地適作の特徴を意識して適切に理解している。(ワークシート)
- o 学習課題について追究したことを踏まえて、北アメリカ州の農業が世界に大きな影響力をもち続けている理由について、自分の考えをまとめている。(ワークシート)

## 5 備 考

(1) 学級の実態

- o 前単元の学習を通して、気候の違いによって衣食住に違いが生まれることに興味をもっている生徒が多い。しかし、グラフや主題図などの資料を読み取ることや、読み取った情報から考察することが苦手な生徒が多い。

(2) 指導の力点

- o 普段食べている食品の中に、アメリカやカナダで作られているものが多いことを意識させることで、なぜ人口が多い国が他国へ輸出できるほどの農産物を生産できるのかと関心をもたせ、意欲的に追究できるようにする。

## 6 指導と評価

# 第1学年〇組 社会科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

## 1 単 元 古代までの日本と世界

### 2 単元の見目標

- (1) 古代までの日本の大きな流れについて、世界の歴史を背景に、時代の特徴を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 古代までの日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特徴などについて、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けることができる。
- (3) 古代までの日本に関わる諸事情について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

### 3 学習の計画 (18時間完了)

- 第1次 第1時 人類の誕生から古代までの日本と世界の動きを大観し、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 第2次 第2時～第6時 人類の誕生や世界の古代文明、宗教のおこりについて調べる。  
 第7時～第9時 日本列島に人が住み始めたことからヤマト王権の成立までを調べる。  
 第10時 「よろいを着た人物のなぞ」について調べる。  
 第11時 東アジアの統一国家について調べる。  
 第12時(本時) 聖徳太子と飛鳥文化について調べる。  
 第13時 律令国家の成立について調べる。  
 第14時～第17時 律令国家の政治の展開について調べる。
- 第3次 第18時 学習を振り返り、単元の学習のまとめをする。

### 4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 蘇我氏や聖徳太子が進めた政治の特徴を捉え、どのような国づくりを目指したのかを考えたり、説明したりすることができる。
- (2) 準備・資料
  - 生徒……前時までのワークシート、資料集
  - 教師……ワークシート、大型ディスプレイ
- (3) 関 連
 

小6 社会 天皇を中心とした政治(天皇中心の社会が確立までの人々のくらしや人物の働き、海外の国と日本の国との関わりについて調べる)
- (4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|------|---|----|--|
| つかかむ | 1 本時の学習課題をつかむ。<br>(1) 聖徳太子が行った政治について、小学校の学習内容を振り返る。<br>・法隆寺を建てた。<br>・遣隋使を派遣した。<br>(2) 本時の学習課題をつかむ。<br>蘇我氏や聖徳太子が進めた政治には、どのような共通するねらいがあるのだろう。 | 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 聖徳太子が行った政治について、知っていることを発表させる。</li> <li>○ 蘇我氏や聖徳太子が進めた政治に関わる資料を大型ディスプレイに提示し、気付いたことや疑問に思ったことを問い、本時の学習課題の設定につなげる。</li> <li>○ どのような国づくりのための制度や事業だったのかに着目し、比較して考えていくことを確認し、学習課題の解決の見通しをもたせられるようにする。</li> </ul> |

|                  |  |    |   |
|------------------|--|----|---|
| 追<br>究<br>す<br>る | 2 蘇我氏や聖徳太子の政治の特色を捉える。<br>(1) 蘇我氏や聖徳太子が行った国内政治について調べる。<br>・冠位十二階の制度や十七条の憲法により、儒教や仏教の思想を取り入れたり、天皇の力を強める体制づくりを進めたりした。<br>(2) 遣隋(唐)使の派遣の意図について調べる。<br>・小野妹子らを遣隋使として派遣し、隋と国交を結び、新しい政治や文化を取り入れようとした。 | 25 | ○教P. 40の資料を用い、蘇我氏や聖徳太子の国内政治と対外政策のそれぞれの特徴や政策の意図をつかませる。<br>○教P. 41の系図を用い、蘇我氏や聖徳太子の関係を読み取らせる。<br>○生徒の気付きや疑問に応じて、新たな資料を大型ディスプレイに提示したり、調べることを焦点化したりする。<br>○教P. 41の年表を用い、6～7世紀初めの日本と東アジアの動きを時系列で捉えさせる。<br><b>評</b> それぞれの政治を比較しながら、共通点を見つけ、その理由を考えている。<br>(ワークシート) |
|                  | 3 飛鳥文化の特徴について理解する。<br>(1) 飛鳥文化について調べる。<br>・法隆寺 ・四天王寺<br>・釈迦三尊像 ・玉虫厨子<br>(2) 飛鳥文化の特徴を考える。<br>・中国や朝鮮などの文化の影響を受けた、日本で最初の仏教文化である。  | 35 | ○建築や彫刻に関わる資料を用い、日本と海外の作品を比較して、飛鳥文化の特徴を捉えさせる。<br>○隋や唐の中国統一などの海外情勢が倭国に与えた影響を踏まえ、仏教を積極的に取り入れた理由を考えさせる。<br>○板書を基に、政治と文化の特徴について分かったことを確認させる。   |
|                  | 4 蘇我氏や聖徳太子の進めた政治に共通するねらいを考える。<br>(1) 自分の考えをまとめる。<br>(2) 友達と考えを共有し合う。<br>・隋が中国を統一する中、大陸の新しい政治や文化を取り入れ、国のしくみを整えることが共通したねらいであった。  | 47 | ○本時で学習してきた政治と文化の特徴を比較して、共通するねらいは何かを考えさせる。<br>○記述した内容について友達と共有し合い、よりよいまとめを考えさせる。   |
| ま<br>と<br>め<br>る | 5 本時の学習を振り返り、次時の活動について知る。  | 50 | ○本時の学習課題を追究する中で、自分が学び取ったことやさらに調べてみたくなったことなどを記述させる。<br>○振り返りで書かれた内容については、次時の学習に生かすようにする。<br>○次時の内容に関わる資料を大型ディスプレイで提示して予告をする。   |

(5) 本時の評価規準

- 蘇我氏や聖徳太子が定めた制度や進めた事業の共通性に着目し、そのような政治を行ったねらいについて、自分の言葉で説明している。(ワークシート)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 生徒の多くは毎時間の学習課題を的確に捉え、歴史的な見方・考え方を活用して追究しようとするが、社会的事象の「比較」では表面的な理解に留まってしまうことがある。

(2) 指導の力点

- 蘇我氏や聖徳太子が進めた政治の特徴やその共通性を的確に捉えさせるため、資料の提示の仕方や板書を工夫し、調べることを焦点化したり、視覚的な支援をしたりする。

6 指導と評価

### 第3学年O組 社会科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

#### 1 単 元 私たちと国際社会

#### 2 単元の見方・考え方

- (1) 領土と国家主権、国際連合の働きなどの基本的な事項を基に、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力及び国際機構などの役割の大切さについて理解するとともに、国家の主権や国際協調に関する様々な諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 日本の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割について、文化と宗教の多様性及び日本国憲法の平和主義、SDGs達成に向けた取組などを基に、対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性といった見方・考え方を生かしながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。
- (3) 私たちと国際社会について、現代社会に見られる課題や解決方法を考える活動を通して、主体的に社会に関わろうとする。

#### 3 学習の計画 (15時間完了)

- |     |          |                                   |
|-----|----------|-----------------------------------|
| 第1次 | 第1時      | 単元の見方・考え方を捉え、学習問題をつかむ。            |
| 第2次 | 第2時～第7時  | 国家と国際社会について調べる。                   |
|     | 第8時～第10時 | 平和な世界を目指すための取組と日本の役割について調べる。      |
|     | 第11時     | 発展途上国の現状と多様化する世界の様子について考える。       |
|     | 第12時     | 限りある資源とエネルギーについて調べる。              |
|     | 第13時     | 地球規模の環境問題と国際協力について考える。            |
|     | 第14時     | 持続可能な社会をつくるための取組について考える。          |
| 第3次 | 第15時(本時) | 単元の学習を生かし、地球温暖化に対する政策について考え、話し合う。 |

#### 4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 地球温暖化対策としてふさわしい政策について、多面的・多角的に考えることができる。
- (2) 準備・資料
  - 生徒……色ペン(3色)
  - 教師……ワークシート
- (3) 関 連
 

3年 社会 私たちと現代社会(現代社会の見方・考え方について考える)
- (4) 学習過程

| 段階          | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|-------------|--|----|--|
| つ<br>か<br>む | <p>1 単元の学習を振り返り、本時の課題をつかむ。</p> <p>(1) 単元の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続可能な社会を実現するためにできる取組について考えた。</li> <li>・ 持続可能な社会を実現するためには、国際協調が大切だ。</li> </ul> <p>(2) 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地球温暖化に対する政策について考えよう。</p> </div> | 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノートを見直させ、前時までの学習を確認させる。</li> <li>○ 公民の学習で学んできた見方・考え方にはどのようなものがあったかを想起させる。</li> <li>○ これまでに学習した見方・考え方を生かし、持続可能な社会の実現に向けて考えたことを話し合うことを伝える。</li> </ul> |

|      |  |    |  |
|------|--|----|--|
| 追究する | 2 各党の政策を評価し、比較する。<br>(1) 教科書に例示されている架空の党の政策について知る。<br>(2) 判断基準を基に、各党の政策を評価する。<br>・キラキラ環境党の政策は、温暖化対策を重視しているが、原子力発電所の再稼働については安全性が疑問視される。<br>(3) 各党の政策を比較し、支持政党を仮決定する。<br>・国内経済の発展を重視したいし、日本よりもGDPあたりの二酸化炭素排出量が多い国はたくさんあるという主張に納得したので、私はニコニコ経済党を支持する。 | 25 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれの党が掲げる主張や、主張の内容がどの見方・考え方に当てはまるかに着目するよう伝える。</li> <li>○判断基準の例の中から、自分が重視するものを五つ選んでレーダーチャートに記入させる。</li> <li>○選んだ基準に則って各党の政策を評価させ、レーダーチャートに色分けして記入させる。</li> <li>○各政党の政策について、効率と公正の見方・考え方に基づいて比較させる。</li> <li>○レーダーチャートの点数を参考にさせ、根拠を明確にした上で現時点での支持政党を決定させる。</li> </ul> <p>評見方・考え方を活用し、根拠を明確にして支持政党を決めている。<br/>(ワークシート)</p> |
|      | 3 評価した内容について話し合う。<br>○見方・考え方や他者の視点の提供に着目して、考えを話し合う。<br>・ニコニコ経済党は国際協調を軽視して公正さに欠け、国と国との対立が深まるのではないか。   | 38 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分と似た考えと異なる考えを色分けしてメモを取らせる。</li> <li>○お互いに持ち寄ったレーダーチャートを見比べさせることで、考えの類似点や相違点に着目して話し合わせる。</li> </ul>  |
|      | 4 本時の学習を振り返り、まとめる。<br>(1) 話し合いを基に、最終判断を行う。<br>・私はワクワク協調党を支持する。なぜなら、大きな事故を起こした原子力発電所は廃止すべきだと思うし、日本国内のCO <sub>2</sub> 排出量を減らす代わりに日本の環境技術を発展途上国に提供することで、国際協調を行いながら世界全体のCO <sub>2</sub> 排出量を減らすことができると考えるからである。<br>(2) 本時の振り返りを書く。                     | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○最初の自分の考えに固執するのではなく、他者の考えも踏まえた上で多面的・多角的に考えて判断することが大切であることを伝える。</li> <li>○多面的とは見方・考え方や判断基準の例から考えることを、多角的とは日本と他国の立場から考えることを意味していることを伝える。</li> </ul>   |

(5) 本時の評価基準

- 地球温暖化に対する政策について、見方・考え方や判断基準の例（多面的）と日本と他国の立場（多角的）の両方の内容を踏まえて考えをまとめている。（ワークシート）

## 5 備考

(1) 学級の実態

- 活発に活動に取り組んだり、発言をしたりすることができる生徒が多い。一方で他者の意見を取り入れたり、認め合ったりすることを苦手とする様子が見られる。

(2) 指導の力点

- 学習課題についてより多面的・多角的に考えることができるようにするため、思考の内容をレーダーチャートを用いて視覚化し、自他の考えの類似・相違に着目しやすくした。

## 6 指導と評価

単元名 地理との出会い―地理的な見方・考え方って?―

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 社会的な事象を地理的に捉える際の五つの見方・考え方について理解することができる。  
(3) 地理的な見方・考え方を働かせる地理学習に向けての期待を抱き、意欲的に授業に取り組もうとする。

### 標準的な展開例

10220101\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 小学校の学習を振り返り、地理的な見方・考え方を学んだり、地理を学ぶ目的や意義を理解したりする。</p> <p>★中学校の地理では、どのようなことを学ぶのだろう。</p> <p>○小学校で学習した内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域（3年生）</li> <li>・愛知県について（4年生）</li> <li>・日本の産業について（5年生）</li> </ul> <p>○教科書の資料を基に、地理的な見方・考え方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農村地域のいちご農家は、道路沿いに分布している。（位置や分布）</li> <li>・都市地域には畑などはなく、オフィスなどが集中している。（場所、地域）</li> <li>・農村地域と都市地域を結ぶ道路によって、農作物や人が移動しやすく、二つの地域をつなぐ役割を果たしている。（地域どうしのつながり）</li> </ul> <p>○地理的な見方・考え方を知り、今後どのように学んでいきたいかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから五つの見方・考え方を生かして地理の学習をしていきたい。</li> </ul> | <p>・教P.Ⅱ～Ⅲ</p> <p>・どのような学習をしたか、社会科見学はどこへ行ったのかなど、全体で発表させる。</p> <p>・農村地域と都市地域の特色に着目して考えさせる。また、二つの地域を結ぶ道路が果たしている役割を考えさせる。</p> <p>・地理的な見方・考え方を活用して、今後は世界と日本の特色や課題について学習していくことを押さえる。</p> <p>【評】教科書の資料から地理的な見方・考え方を見つけたり、話し合ったりする活動を通して、「知識・技能」・「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

【 備 考 】

## 単元名 世界と日本の地域構成

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) 世界と日本の地域構成を大観し、理解するとともに、様々な資料から、世界と日本の地域構成についての情報を適切に読み取ることができる。
- (2) 世界と日本の地域構成の特色を多面的・多角的に考察したり、文章や略地図などで適切に表現したりすることができる。
- (3) 世界と日本の地域構成に対する関心を高め、身に付けた概念を今後の学習に生かそうとする。

## 標準的な展開例

10220102\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 世界と日本について大観し、地理的学習への見通しをもつ。</p> <p>★世界や日本について、知りたいことを見つけよう。</p> <p>○日本について、知っていることを発表し合う。</p> <p>○世界について、知っていることを発表し合う。</p> <p>○単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県以外にも、工業が盛んな都道府県があるのか知りたい。</li> <li>・日本はアメリカとの関係が強いが、他の国とのつながりはどうなっているのか知りたい。</li> </ul> <p>●世界と日本は、どのような姿をしているのだろう。</p> <p>2 地球の姿を調べる。</p> <p>★大陸や海洋は、地球上にどのように広がっているのだろう。</p> <p>○六大陸と三大洋について調べる。</p> <p>○六つの州について調べる。</p> <p>○小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>■世界はどのような姿をしているのだろう。</p> <p>3 国境や人口、面積に着目して、主な国々の名前と位置を調べる。</p> <p>○知っている国を全体で発表する。</p> <p>★人口が多い国や面積が広い国は、地球上のどこに位置しているのだろう。</p> <p>○統計資料の使い方を知る。</p> <p>○地図や統計資料を使って、人口・面積に着目しながら、主な国々の名称と位置を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口が多い国に着目して調べたら、中国やインド、インドネシアなど、アジア州の国に多いことが分かった。</li> </ul> <p>4 国名や国旗に着目して、主な国々の名前と位置を調べる</p> <p>★国名や国旗が似ている国は、地球上のどこに位置しているのだろう。</p> <p>○地図や統計資料を使って、国名や国旗に着目しながら、主な国々の名称と位置を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三日月と星が入っている国旗は、イスラム教の国が多い。</li> <li>・オセアニア州には、イギリスの国旗が入った国旗の国がある。</li> </ul> <p>5 緯度・経度のしくみを調べる。</p> <p>★地球上の国や都市の位置は、どのように表すことができるのだろう。</p> <p>○緯度と経度のしくみを調べる。</p> <p>○地球上の位置を表すために必要な基準を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緯度（緯線）</li> <li>・経度（経線）</li> <li>・赤道</li> <li>・本初子午線</li> </ul> <p>○地球上の位置を、緯度・経度を使って表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は、北半球にある。</li> <li>・ニューヨークは、北緯41度、西経74度にある。</li> </ul> <p>6 地球儀と世界地図の特色を調べる。</p> <p>★地球儀や地図は、それぞれどのような場面で活用できる</p> | <p>・教P. 1</p> <p>・小学校で学習した内容や、各地方の文化、行ったことがある都道府県など、自由に発表させる。</p> <p>・知っている国や外国の文化など、自由に発表させる。</p> <p>【評】世界や日本について知っていることを発表し合い、地理的分野の学習に見通しをもつ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・世界や日本について学習していくための基礎となる単元であることを確認する。</p> <p>・教P. 1～P. 3</p> <p>・地球儀を回してみて、大陸や海洋の広がり様子の違いに着目させる。（位置や分布）</p> <p>・どの生徒も、地球儀に直接触れることができるようにする。学校の実態に応じて、グループ学習を取り入れてもよい。</p> <p>・大陸名との関係に着目させる。</p> <p>・州は、さらに細かな地域に分けられることを確認する。</p> <p>・教P. 4～P. 5</p> <p>・発表した国について、知っていることがあれば発表させる。</p> <p>・人口の多い国や面積の広い国は、それぞれどの州に多いか着目させる。（位置や分布）</p> <p>・教科書や地図帳の巻末資料を使って、国名や面積、人口などの調べ方を確認する。</p> <p>・教P. 5の「トライ」を活用させる。</p> <p>【評】人口や面積に着目し、統計資料を活用して世界の国々について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 6～P. 7</p> <p>・国名や国境が似ている国は、どのように分布しているのかに着目させる。（位置や分布）</p> <p>・自分でテーマを決めて調べさせる。</p> <p>【評】国名の由来や国旗のモチーフなどに着目して調べ、共通点を見つける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 8～P. 9</p> <p>・緯度・経度のしくみ、緯度・経度の表し方に着目させる。（位置や分布）</p> <p>・実際に地球儀を使いながら考えさせる。</p> <p>・教P. 9の「スキルUP」を活用させる。</p> <p>【評】緯度・経度、緯線・経線、赤道、本初子午線の意味を理解し、地球上の様々な国や都市の位置を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 10～P. 11</p> <p>・地球儀や世界地図で大陸や大洋がどのように</p> |

|   |  |
|---|--|
| <p>のだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地球儀と世界地図について調べ、それぞれの特徴を見つける。</li> <li>○地図の図法と使い道を調べる。</li> </ul> <p>○地球儀と地図の違いや、図法の違う地図の活用場面を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球儀は、地球を正確に表すことができる。</li> <li>・メルカトル図法は、緯線と経線が直角に交わっていて見やすいが、高緯度の面積が大きくなっている。</li> <li>・正距方位図法は、距離と方位は読み取りやすいが、大陸の形が分かりにくい。</li> </ul> <p>7 世界の中の日本の位置の表し方を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本が地球上のどこにあるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーラシア大陸の東にある。</li> <li>・統計135度を通るところにある。</li> </ul> </li> <li>★世界の中で、日本の位置はどのように表すことができるのだろう。</li> <li>○緯度・経度に着目して、日本の位置を調べる。</li> <li>○他国や大陸、大洋との位置関係に着目して、日本の位置を調べる。</li> <li>○小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</li> <li>■日本は世界の中で、どのように広がっているのだろう。</li> </ul> <p>8 日本と世界各地との時差を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○時差について知っていることを発表する。</li> <li>★日本と世界各地との時差はどのくらいあるのだろう。</li> <li>○時差のしくみについて調べる。</li> <li>○日本と世界各地との時差を調べる。</li> </ul> <p>9 日本の領域の特色について調べる。</p> <li>★日本の領域はどこまで広がっているのだろう。</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の領域や排他的経済水域について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・領土                      ・領海</li> <li>・領空                      ・排他的経済水域</li> </ul> </li> <li>○日本の海の国境について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の領土は、北海道・本州・四国・九州の四つの大きな島と周辺の小さな島々、離島から成り立っているため、内陸国よりも領域が広い。</li> </ul> </li> </ul> <p>10 日本の領域をめぐる問題を調べる。</p> <li>★日本の領域をめぐる問題は、なぜ起こっているのだろう</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>○北方領土について調べる。</li> <li>○竹島について調べる。</li> <li>○領土問題の解決に向けての取り組みを調べる。</li> <li>○尖閣諸島をとりまく情勢について調べる。</li> </ul> <p>11 日本の都道府県と7地方区分について調べる。</p> <li>★日本は、どのように分けることができるのだろう。</li> | <p>見えるか、見え方の違いに着目させる。（位置や分布）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球儀と世界地図を見比べさせる。</li> <li>・様々な図法を見て、どのような情報を正確に読み取ることができる地図なのかを押さえる</li> <li>・それぞれの図法の長所と短所を見つけさせ、どのような場面で活用できるか考えさせる。</li> <li>【評】地球儀や地図の様々な図法の活用場面を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・教P.12～P.13</li> <li>・これまで学習した知識を活用して、日本の位置を表現させる。</li> <li>・緯度・経度から表す方法や、世界の国々、大陸、大洋との位置関係から表す方法に着目させる。（位置や分布）</li> <li>・緯度・経度が日本と同じ範囲にある国を調べさせる。</li> <li>・地図帳を活用させる。</li> <li>・どの位置から日本を見るかによって、日本の位置が変わることを押さえる。</li> <li>【評】絶対的位置や相対的位置の視点から日本の位置を表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・教P.14～P.15</li> <li>・海外旅行やテレビの中継などを話題にして、時差について想起させる。</li> <li>・時差が生じるしくみに着目させる。（地球どうしのつながり）</li> <li>・地球は360度で、24時間かけて一周することから、15度ごとに1時間の時差が生じることを押さえる。</li> <li>・教P.15の「スキルUP」を活用させる。</li> <li>・複数の標準時を設けている国では国内で時差が生じていることや、日付変更線の西側は東側よりも日付が1日進んでいることを押さえる。</li> <li>【評】標準時や時差の仕組みを理解し、時差を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・教P.16～P.17</li> <li>・日本は島国であり、周りが海に囲まれていることに着目させる。（位置や分布）</li> <li>・日本は小さな島が多いため、排他的経済水域が他国と比べて広いことに気付かせる。</li> <li>・沖ノ島島がなくなると、日本は40万?もの排他的経済水域を失ってしまうことを確認する</li> <li>・海洋国である日本の国境は、すべて海上に引かれていることを押さえる。</li> <li>【評】日本の領域の特色を日本が海洋国であることと関連付けて考察する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・教P.18～P.19</li> <li>・歴史的背景をふまえて、島国（海洋国）である日本と周りの国々との位置関係に着目させる。（地域どうしのつながり）</li> <li>・北方領土も竹島も、歴史的背景から日本の固有の領土であることを押さえる。</li> <li>・領土が広がると、どんな利点があるのかを考えさせる。</li> <li>・教P.20～P.21</li> <li>・7地方の地域的なまとまりに着目させる。（地域）</li> </ul> |
|---|--|



|  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○都道府県や県庁所在地について調べる。</li> <li>○日本の地方区分について調べる。</li> <li>○都道府県名の由来や、特徴のある都道府県について調べる。</li> </ul> <p>12 学習を振り返り、単元のまとめをする。</p> <p>★単元の学習について、学んできたことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の略地図を描き、単元を通して学習した内容をまとめる。</li> <li>○日本の略地図を描き、単元を通して学習した内容をまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県をいくつかまとめて呼んでいる名称で知っているものを発表させる。</li> <li>・都道府県が設置された歴史的背景や、多くの都道府県で自然の地形が県境になっていることにも着目させる。</li> <li>・それぞれの地方の特色を考えさせる。</li> <li>・愛知県の由来を全体で押さえる。（参考 愛知県ホームページ）</li> <li>・教P. 22</li> <li>・略地図に単元を通して学習した内容をまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】単元を通して学習した内容を踏まえて、世界と日本の略地図を描く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】

## 単元名 世界各地の人々の生活と環境

配当時間 9時間

単元の目標 (1) 世界各地の人々の生活や環境の多様性を理解するとともに、様々な資料から世界の気候・宗教・言語の分布などについての情報を適切に読み取ることができる。  
 (2) 世界各地の人々の生活の様子とその変容を、自然的条件や社会的条件と関連付けて考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。  
 (3) 世界各地の人々の多様な生活や文化を尊重する態度を身に付けるとともに、世界各地の人々の生活の様子とその変容や環境の多様性に対する関心を高め、それを意欲的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

10220103\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 様々な国に住む人々の写真を見て、気付いたことを話し合い、学習計画を立てる。<br/> <b>★</b>世界の衣食住の違いを見つけよう。</p> <p>○様々な国に住む人々の写真を見て見つけた違いを発表する。<br/>   ・暑そうな服や寒そうな服を着ている人々がいる。<br/>   ・小屋のような家に住んでいる人々がいる。<br/>   ・食器を使って食べている人と、手で食べている人がある。</p> <p>○単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。<br/> <b>●</b>なぜ、世界各地で生活のようすが異なるのだろう。<br/>   ○雨温図の読み取り方を知る。</p> <p>2 暑い地域に生きる人々のくらしについて調べる。<br/> <b>★</b>暑い地域に生きる人々は、どのようなくらしをしているのだろう。</p> <p>○暑い地域の分布を調べる。</p> <p>○マレーシアの生活を例に、暑い地域のくらしと変化について調べる。<br/>   ・1年を通して気温が高く降水量が多い地域では、風通しがよく湿気がこもらない高床式の家屋に住んでいる。<br/>   ・環境が変化して森の中で生活できなくなった人々は、政府が建てたトタン屋根の家屋に住むようになった。</p> <p>3 乾燥地域に生きる人々のくらしについて調べる。<br/> <b>★</b>乾燥地域に生きる人々は、どのようなくらしをしているのだろう。</p> <p>○乾燥地域の分布を調べる。</p> <p>○モンゴルの生活を例に、乾燥地域のくらしと変化について調べる。</p> <p>4 温暖な地域に生きる人々のくらしについて調べる。<br/> <b>★</b>温暖な地域に生きる人々は、どのようなくらしをしているのだろう。</p> <p>○温暖な地域の分布を調べる。</p> <p>○イタリアの生活を例に、温暖な地域のくらしと変化について調べる。</p> <p>5 寒い地域に生きる人々のくらしについて調べる。<br/>   ○寒い地域に生きる人々は、どのようなくらしをしているのだろう。</p> <p>○寒い地域の分布を調べる。</p> <p>○北アメリカ北部の生活を例に、寒い地域のくらしと変化について調べる。</p> <p>6 高地に生きる人々のくらしについて調べる。<br/> <b>★</b>高地に生きる人々は、どのようなくらしをしているのだろう。<br/>   ○アンデスの生活を例に、高地のくらしについて調べる。</p> <p>○標高の高さと人々の生活とのかかわりについて考える。<br/>   ・標高が高くて農作物が育たないところでは、家畜の放</p> | <p>・教P. 24～P. 25</p> <p>・主食の食材、それらが作られている場所、食事をしている人々の服装などに着目させる。<br/>   (場所、人と自然とのかかわり)</p> <p>・教P. 23～P. 25、地図帳P. 15～P. 16を活用させる。</p> <p>【評】自然環境が異なる地域の写真から、人々の生活の違いを見つける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教P. 26の「自由研究」を活用させる。<br/>   ・教P. 28～P. 29</p> <p>・暑い自然環境の中で生きる人々の生活のくふうや生活の変化に着目させる。(人と自然とのかかわり)</p> <p>・教P. 26の「自由研究」を活用させる。<br/>   ・赤道に近いところに暑い地域が多いことに気付かせる。</p> <p>【評】人々の生活の様子を住居や食事から読み取ったり、生活の変容の状況とその原因について考えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 30～P. 31</p> <p>・乾燥した自然環境の中で生きる人々の生活のくふうや生活の変化に着目させる。(人と自然とのかかわり)</p> <p>・教P. 26の「自由研究」を活用させる。<br/>   ・赤道から少し離れたところや内陸部に、乾燥地域が多いことに気付かせる。</p> <p>・教P. 32～P. 33</p> <p>・温暖な自然環境の中で生きる人々の生活のくふうや生活の変化に着目させる。(人と自然とのかかわり)</p> <p>・教P. 26の「自由研究」を活用させる。<br/>   ・中緯度地域に温暖な地域が多いことに気付かせる。</p> <p>・教P. 34～P. 35</p> <p>・寒さの厳しい自然環境の中で生きる人々の生活のくふうや生活の変化に着目させる。(人と自然とのかかわり)</p> <p>・教P. 26の「自由研究」を活用させる。<br/>   ・高緯度地域に寒い地域が多いことに気付かせる。</p> <p>・教P. 36～P. 37</p> <p>・高地に生きる人々の生活のくふうや生活の変化に着目させる。(人と自然とのかかわり)</p> <p>・標高によって気候が変化することに気付かせる。</p> <p>【評】資料から、標高に応じて農業の形態を変容させる人々の工夫について読み取る活動を</p> |

牧が行われている。  
・同じ地域でも、標高が低いところは熱帯雨林が広がるなど、標高によっても気候が大きく異なる。  
○急速な生活の変化について調べる。

- 7 様々な言語と人々の生活について調べる。  
★世界の人々は、どのような言語を使っているのだろう。  
○世界にはどのような言語があるか予想させる。  
○世界の様々な言語について調べる。  
○世界の言語の分布について、気付いたことを発表し合いまとめる。
- 8 様々な宗教と人々の生活について調べる。  
★世界の人々は、どのような宗教を信仰しているのだろう  
○世界の様々な宗教について調べる。  
・キリスト教                      ・仏教  
・イスラム教                      ・ヒンドゥー教  
○世界の宗教の分布について、気付いたことを発表し合いまとめる。
- 9 学習を振り返り、単元のまとめをする。  
○単元の学習内容を基に、自分の考えをまとめる。  
・世界では、気候に合わせて衣食住について工夫をしていることが分かった。また、宗教も食事や服装に影響を与えていることが分かった。州ごとにもそのような特色があるのか調べていきたい。

通して、「知識・技能」を評価する。

- ・高速道路やインターネットの普及により、人々の生活が急速に変化していることをつかませる。
- ・教P. 38～P. 39
- ・主な言語の分布と、それらが使われている場所の歴史的背景に着目させる。（場所）
- ・知っている言語を挙げさせてもよい。
- ・地図帳P. 17～P. 18の主題図を活用させる。

- ・教P. 40～P. 41
- ・主な宗教の分布と、その場所での人々の生活に着目させる。（場所）
- ・教P. 41，地図帳P. 17～P. 18の主題図を活用させる。

- ・教P. 42
- ・世界各地の生活と環境の特色をまとめさせる

【評】これまでの学習内容を踏まえ、世界各地の人々の生活と環境について話し合ったり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

【 備 考 】

単元名 探してみよう！私たちと歴史とのつながり・歴史を学ぶにあたって

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 中学校と小学校の歴史学習の違いや、歴史を学んでいく目的や意義について理解することができる。  
(3) 身近なところから歴史に触れようとするとともに、中学校の歴史学習に関心をもって学習に取り組もうとする。

### 標準的な展開例

10220104\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1. 自分たちと歴史とのつながりを探したり、歴史を学ぶ目的や意義を理解したりする。</p> <p>★なぜ、歴史を学ぶのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○現代社会の私たちの生活の中で、歴史を学ぶことができることを確認する。</li> <li>○小学校の学習を踏まえながら、中学校で歴史を学んでいく目的や意義を考えたり、話し合ったりする。</li> <li>○今後の歴史学習の進め方を知り、今後どのように学んでいきたいかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で歴史を学ぶ中で、今の時代と過去の歴史がどのようにつながっているかを考えていきたい。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教表紙裏～P. IV</li> <li>・現代社会の私たちの生活の中で、歴史を学ぶことができる機会があることを確認し、小学校の学習を踏まえながら、中学校で歴史を学んでいく目的や意義を理解させる。また、歴史学習の進め方をつかませる。</li> <li>・教P. II～P. IIIを用い、衣・食・住や地域に伝わる行事などから、歴史と自分たちとのつながりに気付かせる。</li> <li>・教P. IVを用い、中学校と小学校の歴史学習の違いや、歴史を学んでいく目的や意義について理解させる。</li> </ul> <p>【評】歴史を学ぶ意義や今後どのように学んでいきたいかについて話し合ったり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

【 備 考 】

## 単元名 私たちと歴史

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解するとともに、資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりする技能を身に付けることができる。  
 (2) 時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現することができる。  
 (3) 私たちと歴史について、歴史的な見方・考え方に沿った視点を生かして、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

10220105\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 小学校の歴史学習を振り返り、単元の学習問題をつかみ学習計画を立てる。<br/> <b>★</b>これまでの歴史学習を振り返ろう。<br/>         ○小学校で学んだ主な人物と文化遺産のイラストや写真を基に、歴史学習を振り返る。<br/>         ・小学校で、聖徳太子は争いを無くすために、「十七条の憲法」をつくったことを学んだ。</p> <p>○単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>●中学校の歴史学習で大切なことは何だろう。</p> <p>2～3 歴史を大きく変えた人物について、調べて考える。<br/> <b>★</b>歴史を大きく変えた人物はだれだろう。<br/>         ○歴史を大きく変えた人物について、調べて考える。</p> <p>○班で調べたことを説明し合い、出された意見を基に話し合う。</p> <p>○自分の考えをまとめる。<br/>         ・平安時代に、天皇に代わって政治を動かすようになった「藤原道長」が歴史を大きく変えた人物だと思う。</p> <p>4 年代や時代区分の表し方を理解し、その意味や意義を考え、表現する。<br/> <b>★</b>年代・時代区分の表し方を知ろう。<br/>         ○年代の表し方を調べる。</p> <p>○時代区分の表し方を調べる。<br/>         ・「原始」や「古代」などは、社会のしくみの特徴によって時代を大きく分ける方法である。</p> <p>5 「歴史的な見方・考え方」を身に付ける。<br/> <b>★</b>「歴史的な見方・考え方」を知ろう。<br/>         ○中学校での歴史学習のポイントを知る。<br/>         ・「時系列」に着目すると、歴史上の出来事が、どの時期にどんな順序で起こったかを捉えられる。<br/>         ・「推移」に着目すると、ものがどのように継続したり、変化したりしたかに気付くことができる。<br/>         ・「比較」して、違いや似ている点に着目すると、それぞれの特色を明らかにすることができる。<br/>         ・「つながり」に着目すると、ある出来事の背景や原因結果などを考えていくことができる。<br/>         ○中学校での歴史学習で大切なことを確認し、単元のまとめとする。</p> | <p>・教P. 6～P. 7</p> <p>・小学校で学んだ主な人物について振り返る中で、その人物が行ったことや生きた時代の様子などを問い、単元の学習問題の設定につなげる。<br/> <b>【評】</b>小学校の歴史学習を振り返り、人物や文化遺産について知っていることや気付いたことを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・単元の学習問題を設定したり、学習計画を立てたりする中で、学び方を身に付けることの大切さを理解させる。</p> <p>・教P. 8～P. 10</p> <p>・政治分野で活躍した人物と文化分野で活躍した人物に区別することで、それぞれの人物がどのようなことを行い、その時代にどのような影響を与えたかを考えさせる。</p> <p>・自分と班の人が選んだ人物やその理由が異なる場合は、互いの考えが十分に理解できるまで質問し合うようにさせる。</p> <p>・歴史を大きく変えた人物を一人に絞り、その人物が活躍した時代について調べる中で、日本にはいくつかの年代や時代区分があることに気付かせる。<br/> <b>【評】</b>歴史を大きく変えた人物の歴史との関わりを考えたり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 11</p> <p>・教P. 11を用い、西暦、世紀、元号などの時代の表し方を押さえる。</p> <p>・時代区分の方法が複数あることを押さえる。<br/> <b>【評】</b>年代と時代区分の表し方を調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 12～P. 13</p> <p>・歴史を考察し、理解するための手立てとして「歴史的な見方・考え方」を働かせながら学習を進めていくことの大切さを理解させる。<br/> <b>【評】</b>時系列、推移、比較、つながりの四つの視点や方法を使って学習を進めることを理解し、活用の仕方を考えたり、まとめたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

【 備 考 】

## 単元名 古代までの日本と世界

配当時間 18時間

- 単元の目標 (1) 古代までの日本の大きな流れについて、世界の歴史を背景に、時代の特徴を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 古代までの日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特徴などについて、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けることができる。
- (3) 古代までの日本に関わる諸事情について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

10220106\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 人類の誕生から古代までの日本と世界の動きを大観し、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 類人猿と猿人の違いについて話し合う。</li> <li>★ 日本人はいつ、どこから来たのだろうか。</li> <li>○ 人類がどのように広がっていったかを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アフリカの猿人から、少しずつ人類が広がり、日本には新人が移動してきている。</li> </ul> </li> <li>○ 単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</li> <li>● 「古代」の日本は、国のしくみをどのように整えていったのだろうか。</li> </ul> <p>2 人類の誕生から農耕・牧畜までを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 人類は、どのように進化し、どのような生活をしていたのだろうか。</li> <li>○ 人類の祖先について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 猿人、原人、旧人、新人</li> <li>・ 直立二足歩行</li> <li>・ 旧石器時代</li> </ul> </li> <li>○ 農耕と牧畜による人々の生活の変化について話し合い、分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気候の温暖化によって、農耕・牧畜を行うことが可能になり、人々がムラをつくって同じ場所で暮らすようになった。</li> </ul> </li> <li>○ 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</li> <li>■ 世界の古代文明にはどのような特徴があるのだろうか。</li> </ul> <p>3 古代文明の誕生について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 古代文明はどのような地域におこり、どのような特徴をもっていたのだろうか。</li> <li>○ 古代文明がおこった場所について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メソポタミア文明 ・ エジプト文明</li> <li>・ インダス文明 ・ 中国文明</li> </ul> </li> <li>○ メソポタミア文明、エジプト文明、インダス文明の特徴を比較し、共通点と相違点を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巨大な建築物がつけられたことや支配者がいたことなどが三つの文明に共通してる。</li> </ul> </li> </ul> <p>4 中国の文明と朝鮮半島の国々について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 中国には、どのような文明がおこり、どのように発展したのだろうか。</li> <li>○ 中国の文明について調べる。</li> <li>○ 古代中国を統一した秦と漢について、時代の特徴やどのように発展したかを調べる。</li> <li>○ 朝鮮半島の国々について調べる。</li> </ul> <p>5 ギリシャ・ローマの文明について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ ギリシャ・ローマ文明はどのようにおこり、どのように発展したのだろうか。</li> <li>○ ギリシャの文明について調べる。</li> <li>○ ローマの文明について調べる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教P. 14～P. 17</li> <li>・ 教P. 14～P. 15の資料を用い、サルとヒトの違いを捉えさせる。</li> <li>・ 教P. 16～P. 17の資料を用い、人類がアフリカ東部から広がっていったことを理解させる。また、年表では古代までの日本と世界の動きを時系列で捉えさせる。</li> <li>【評】 人類の広がりについて、資料を基に考えたり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 教P. 18～P. 19</li> <li>・ 旧石器時代から新石器時代にかけて起こった変化に着目して追究させる。(推移)</li> <li>・ 人類が猿人、原人、旧人、新人へと進化してきた過程をつかみ、それぞれの段階の特徴をつかませる。</li> <li>・ 気候の温暖化により、人々の生活に大きな変化が生じたことを捉えさせる。</li> <li>【評】 人類のくらしが採集・狩猟生活から農耕・牧畜生活へと変化したことを気候と関連付けて考えたり、表現したりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 古代文明の概略を知らせる。</li> <li>・ 教P. 20～P. 21</li> <li>・ メソポタミア文明、エジプト文明、インダス文明がおこった場所や環境に着目して追究させる。(比較)</li> <li>・ 教P. 20の資料を用い、古代文明が農耕・牧畜が発展しやすい大河の流域でおこったことに気付かせる。</li> <li>・ 古代文明の特徴について、文字や建築物などに注目して比較させる。</li> <li>【評】 古代文明の特徴について、共通点と相違点を調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 教P. 22～P. 23</li> <li>・ 国家が領土や支配地を治めるために行ったしくみの変化に着目して追究させる。(推移)</li> <li>・ 中国文明でも、文字や建造物などが発達したことに気付かせる。</li> <li>・ 万里の長城が国を守るために築かれたことやシルクロードが開かれたことにより各地の文化が周辺の国々へ影響を与えたことを捉えさせる。</li> <li>・ 教P. 24～P. 25</li> <li>・ 政治制度の特徴に着目して追究させる。(推移)</li> <li>・ アテネで民主政治が行われ、社会が安定し、演劇や哲学などの文化が発展したことを捉えさせる。</li> <li>・ 都市国家であったローマが、共和政から帝政</li> </ul> |

|   |   |
|---|---|
| <p>6 古代の三大宗教のおこりと広がりについて調べる。</p> <p>★古代では、どのような宗教がおこり、人々に受け入れられていったのだろう。</p> <p>○世界の三大宗教のおこりと広がりについて理解する。<br/>・古代文明がおこった辺りで、宗教もおこっている。</p> <p>○宗教が広まった理由について話し合う。<br/>○学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。</p> <p>7 日本列島に人類が住み始めた頃のくらしの様子について調べる。</p> <p>★日本列島に住んだ私たちの先祖は、どこから来て、どのような生活をしていたのだろう。</p> <p>○旧石器時代の人々のくらしについて調べる。</p> <p>○縄文時代の人々のくらしについて調べる。</p> <p>○旧石器時代と縄文時代の人々のくらしを比べ、どのように向上したかを調べる。<br/>○小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>■縄文時代の後、日本列島において、国家はどのように形成されていったのだろう。</p> <p>8 稲作の広まりと弥生時代について調べる。</p> <p>★稲作が始まって、人々のくらしはどのように変わっていったのだろう。</p> <p>○稲作の広まりについて調べる。<br/>○弥生時代について調べる。</p> <p>○縄文時代と弥生時代を比較し、くらしや社会の在り方の変化について話し合う。<br/>・稲作が広まり、人口が増えると、土地や水を巡って争いが起きるようになった。</p> <p>9 ヤマト王権と渡来人について調べる。</p> <p>★東アジアとの交流の中で、ヤマト王権は、どのようにして日本を統一していったのだろう。</p> <p>○古墳について調べる。</p> <p>○ヤマト王権と渡来人について調べる。</p> <p>10 「よろいを着た人物のなぞ」について調べる。</p> <p>★考古学に挑戦！よろいを着た人物のなぞを解こう。</p> <p>○よろいを着た人物の立場について調べる。</p> <p>○近くから発見された女性1体と子ども2体の骨について調べる。</p> <p>○火山灰の面から発見された足跡について調べる。</p> <p>○よろいを着た人物のなぞについて、自分の考えをまとめたり、話し合ったりする。</p> <p>11 東アジアの統一国家について調べる。</p> <p>★隋や唐は、周辺の国の政治や文化にどのような影響を与えたのだろう。</p> <p>○隋・唐について調べる。<br/>・唐は律令に基づく政治を行い、皇帝を中心とする中央集権国家をつくりあげた。</p> | <p>へと変わり、大帝国に発展していったことを押さえる。</p> <p>・教P. 26～P. 27</p> <p>・宗教がおこった地域や広がりについては、事実を扱うこととする。教義については深入りしない。</p> <p>・仏教、キリスト教、イスラム教がおこった地域や広まる過程に着目して追究させる。（推移）</p> <p>・教P. 20と教P. 27の地図を比較し、古代文明と主な宗教がおこった場所が共通していることに気付かせる。</p> <p>【評】三大宗教のおこりと広がりについて調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 28～P. 29</p> <p>・当時の環境と人々の生活の特徴に着目して追究させる。（つながり）</p> <p>・教P. 28の地図を用い、日本と大陸がつながっていたことを押さえる。</p> <p>・教P. 29の資料を用い、縄文時代の人々がくらしの中で何をしているのかを読み取らせる。</p> <p>・竪穴住居や土器などが生活の向上につながっていることを捉えさせる。</p> <p>・弥生時代の概略を知らせる。</p> <p>・教P. 30～P. 31</p> <p>・稲作の広まりと生産技術の発展に着目して追究させる。（つながり）</p> <p>・教P. 30の資料を用いて調べさせる。</p> <p>・「ムラ」から「クニ」への変化と邪馬台国について押さえる。</p> <p>【評】稲作の普及や生産技術の発展がもたらした人々のくらしや社会の変化について考えたり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 32～P. 33</p> <p>・古墳の大きさや分布、渡来人の果たした役割に注目して追究させる。（つながり）</p> <p>・塚や墓、円墳、方墳、前方後円墳という墓の種類にも触れる。前方後円墳は非常に珍しい形であることを押さえ、なぜそれが大和地方に多いのかについて考えさせる。</p> <p>・ヤマト王権が畿内を中心とした勢力であったと考えられていることを押さえる。</p> <p>・渡来人が伝えたものを知らせ、その業績により日本の文化や技術が大きく発展したことを捉えさせる。</p> <p>・教P. 34～P. 36</p> <p>・教P. 35の資料1～4を用い、金井東裏遺跡の位置や発掘状況などから、よろいを着た人物の立場について考えさせる。</p> <p>・教P. 35の資料5を用い、人物の特徴や発掘されたときの状況などから、よろいを着た人物との関係を考えさせる。</p> <p>・教P. 36の資料6を用い、足跡の形や向きから当時の人々の行動を捉えさせる。</p> <p>・教P. 36の「『よろいを着た人物』とは」に、どのような人物で、何をしていたかについて自分の考えを記述させる。また、「私が考えた新聞の見出し」についても記入させ、意見を出し合わせる。</p> <p>・教P. 38～P. 39</p> <p>・国土の広がりや政治制度、文化の面など、その頃の日本との違いに着目して追究させる。（比較）</p> <p>・教P. 38の年表を用い、いつ頃存在した国かを確認させる。また、唐が律令を制定し、世界有数の国であったことを押さえる。</p> |
|---|---|

- 国際都市長安について調べる。
  - 朝鮮半島の国について調べる。
- 12 聖徳太子と飛鳥時代について調べる。
- ★蘇我氏や聖徳太子が定めた制度や進めた事業には、どのような共通するねらいがあるのだろう。
- 蘇我氏や聖徳太子の業績について調べる。
  - なぜ、遣隋使を派遣したのかを考える。
  - 飛鳥文化について調べる。
- 13 大化の改新と律令国家の成立について調べる。
- ★大化の改新で進められた政治は、どのように受けつがれていったのだろう。
- 大化の改新について調べる。
    - ・乙巳の変
    - ・蘇我氏の滅亡
    - ・公地公民
  - 律令国家の成立の流れについて調べる。
    - ・持統天皇は天武天皇の事業を引き継ぎ、藤原京や大宝律令を完成させた。
  - 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 14 律令国家のしくみとその下での人々の暮らしについて調べる。
- ★律令国家には、どのような特徴があるのだろう。
- 平城京と律令国家のしくみについて調べる。
    - ・二官八省
    - ・国郡里
    - ・太宰府
    - ・朝廷
  - 律令国家の下での人々の暮らしについて調べる。
    - ・口分田
    - ・班田収受
    - ・墾田永年私財法
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習の計画を立てる。
- 律令国家のあり方は、どのように変化していったのだろう。
- 15 天平文化と聖武天皇について調べる。
- 東大寺の正倉院に納められているものを調べる。
- ★奈良時代には、どのような文化が生まれたのだろう。
- 天平文化について調べる。
    - ・仏教によって国を護り、安定を図ろうとしたため、仏教を中心とした文化が栄えた。
  - 万葉集と歴史書について調べる。
- 16 平安京と新しい仏教について調べる。
- ★なぜ、都が平安京に移されたのだろう。
- 平安京について調べる。
  - 桓武天皇が目指した政治について調べる。
  - 遷都の理由について話し合う。
  - 平安時代の仏教の特徴を調べる。

【評】隋や唐の国のしくみについて、日本との違いを踏まえ、調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・中国が南北朝に分かれていた頃、朝鮮半島では、6世紀に新羅と百済の勢力が増し、やがて、新羅が朝鮮半島を統一したことを押さえる。
- ・教P. 40～P. 41
- ・どのような国づくりのための制度や、事業だったのかに着目して追究させる。（比較）
- ・教P. 41の系図を用い、聖徳太子と蘇我氏や推古天皇の関係を読み取らせる。
- ・教P. 40の「遣隋使の手紙と皇帝」の資料を用い、当時の日本と隋の国のしくみの違いから考えさせる。
- ・蘇我氏や聖徳太子は、なぜ熱心に仏教を信じて、次々に寺院を建てたのかを考えさせる。
- ・教P. 42～P. 43
- ・中国や朝鮮の動きと関わりに着目して追究させる。（つながり）
- ・教P. 43の資料「主な都の移り変わり」を用いそれぞれの都の位置を捉えさせる。

- ・天智、天武、持統天皇が行った政治についてまとめる。

【評】大化の改新から天武天皇、持統天皇へと引き継がれて律令国家が確立されたことを調べまとめる活動を通して、「知識・理解」を評価する。

- ・教P. 44～P. 47
- ・大化の改新以前の日本国内の様子や中国の律令制度との関係に着目して追究させる。（推移）
- ・教P. 44～P. 45の資料を用い、都の様子や政治のしくみなどを取り上げ、その特徴を捉えさせる。
- ・教P. 46～P. 47の資料を用い、税や兵役・労役の視点から当時の人々の暮らしの様子を捉えさせる。
- ・教P. 47の「木簡」について、知多半島からも調が平城京に送られており、その際に荷札として使われた木簡が発見されていることに触れる。

- ・教P. 48～P. 50
- ・外国の宝物が納められていることに気付かせる。（つながり）
- ・唐の広がりによる東西交流の隆盛ぶりや遣唐使が果たした役割に着目して追究させる。
- ・教P. 49の資料を用い、仏教を軸に天平文化の特徴を押さえる。

【評】天平文化が仏教を中心としたもので、国際色豊かな文化であることを調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・日本書紀は、朝廷が中国の歴史書の体裁にならってまとめられたものであることを押さえる。
- ・教P. 52～P. 53
- ・朝廷内の貴族や僧侶の動きと、天皇が目指した政治の在り方に着目して追究させる。（つながり）
- ・教P. 44～P. 47を用い、平城京の都の様子や進められた政治などについて、平安京と比較してまとめさせる。
- ・桓武天皇の律令に基づく政治が変化した背景を捉えさせ、政策の特徴をつかませる。

- ・平安時代の仏教は、都から離れ、厳しい修行や学問を行うものであったこと、また浄土信



|   |  |
|---|--|
| <p>17 摂関政治と国風文化について調べる。</p> <p>★貴族の政治は，どのような社会や文化を生み出したのだろう。</p> <p>○摂関政治と地方の政治について調べる。</p> <p>○国風文化が発展した理由を考えたり，説明したりする。</p> <p>・遣唐使の派遣が停止されたことから，唐の影響力が弱まり，日本のくらしや風土に合った文化が生まれた。</p> <p>○学習を振り返り，小単元の学習のまとめをする。</p> <p>18 学習を振り返り，単元の学習のまとめをする。</p> <p>★単元の学習問題について，自分の考えをまとめよう。</p> <p>○学習してきたことを年表と地図にまとめる。</p> <p>○学習問題について話し合ったり，自分の考えをまとめたりする。</p> <p>・奈良時代には，平城京を都として，中央集権国家のしくみが整えられた。</p> <p>○中世の日本と世界の様子に触れ，次の単元の見通しをもつ。</p> | <p>仰が盛んになったことを理解させる。</p> <p>・教P. 54～P. 57</p> <p>・律令国家の政治の移り変わり，東アジアの状況の変化に着目して追究させる。（推移）</p> <p>・教P. 54の資料を用い，藤原氏がどのように力を伸ばしたかを理解させる。</p> <p>・戸籍が作られなくなったり，班田収受が行われなくなったりするなど，律令政治が変化したことを押さえる。</p> <p>・教P. 55の資料を用い，国風文化の特徴を捉えさせる。</p> <p>【評】国風文化が発展した理由について，貴族中心の政治や東アジアの変化から考えたり，説明したりする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 62～P. 63</p> <p>・教P. 62の年表を用い，日本と世界の動きを捉えさせる。また，政治の中心になった人々や地域の共通点や相違点を考えさせる。</p> <p>・地図では，日本の政治の中心地の移り変わりを確認したり，古代のつながりの深い国との関係を考えさせたりする。</p> <p>【評】これまでの学習活動を踏まえ，古代までの特色について話し合ったり，自分の考えをまとめたりする活動を通して，「主体的に学習に取り組む姿勢」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】

## 単元名 世界の諸地域

配当時間 28時間

- 単元の目標 (1) アジア, ヨーロッパ, アフリカ, 北アメリカ, 南アメリカ, オセアニアの地域的特色を資料から読み取り, 大観するとともに, 世界各地で顕在化している地域的課題は, それがみられる地域の地域的特色を受けて, 現れ方が異なることを理解することができる。
- (2) 世界の各州において, 地域でみられる地球的課題の要因や影響を, 州という地域の広がりや他地域との結びつきなどに着目して, それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し表現することができる。
- (3) 世界の諸地域について, よりよい社会の実現を視野に, そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

10220201\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 それぞれの州についてのイメージを話し合い, 単元の学習計画を立てる。</p> <p>★世界の六つの州について知っていることを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれの州について知っていることを発表し合う。</li> <li>○単元の学習問題をつかむ。</li> </ul> <p>●世界の六つの州には, どのような地域的な特色や課題があるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域的な特色を追究するためのテーマについて話し合い学習計画を立てる。</li> <li>「自然」「気候」「産業」「言語」</li> <li>「衣食住」「宗教」「文化」</li> <li>・衣食住に興味があるため, 世界の様子を衣食住に着目して学習に取り組みたい。</li> </ul> <p>2 自然環境と人々の関わりから, アジアを大観する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料を見て, アジアについて気付いたことを話し合う。</li> </ul> <p>★アジアの自然環境や人々の生活には, どのような特色があるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アジアの自然環境について調べる。</li> <li>○アジアの人口と多様な文化について調べる。</li> <li>○アジアの農業と工業について調べる。</li> <li>○小単元の学習問題をつかみ, 学習計画を立てる。</li> </ul> <p>■アジアの国々は, どのように経済を発展させ, どのような課題を抱えているのだろう。</p> <p>3 東アジアの世界への輸出による経済発展について調べる</p> <p>★東アジアの国々は, どのようにして急速な工業化を進めることができたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○東アジアの経済発展について調べる。</li> <li>○中国の工業が急速に発展した理由について調べる。</li> <li>○中国の経済発展にともなう課題について調べる。</li> <li>・沿岸部では工業化が進んでいるが, 内陸部はあまり進んでいない。</li> <li>・工業が発展している都市と大気汚染が激しい都市は, 同じところが多い。</li> </ul> <p>4 東南アジアの地域統合などによる経済発展について調べる。</p> <p>★東南アジアの国々の経済発展には, どのような特色があるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○東南アジアの農業, 漁業について調べる。</li> <li>○東南アジアの工業化について調べる。</li> <li>○東南アジアの発展について考える。</li> <li>・ASEANの国々は, 物資や資金の移動を制限しないようしくみを目指そうとしており, 東南アジアの経済発展を進めている。</li> </ul> <p>5 南アジアの人口増加と産業の変化による経済発展について調べる。</p> <p>★南アジアの産業には, どのような特色があるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○南アジアの人口と農業について調べる。</li> </ul> | <p>・教P. 43</p> <p>・(地域どうしのつながり, 地域)</p> <p>【評】世界の州について知っていることを発表し合い, それを基に学びたいことを考える活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教P. 44～P. 47</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の資料を見て, 気付いたことや疑問点などを話し合わせる。</li> <li>・地形や気候, 人口の分布, 農業地域の広がりなどに着目させる。(人と自然とのかかわり)</li> <li>・地形的な特色を押さえる。また, 雨温図を活用して, 季節風, 雨季, 乾季などについて押さえる。</li> <li>・人口の多い国が, アジア州に多いことを想起させる。</li> <li>・次時以降は経済発展に着目するため, 農業については本時で全体像を捉えさせるようにする。</li> <li>・地図帳P. 21を活用させる。</li> </ul> <p>・教P. 48～P. 49</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賃金が安くて豊富な労働力や国の政策, 外国企業との関わりに着目させる。(地域どうしのつながり)</li> <li>・身の回りにある製品で, 東アジアの国々で作られたものがないか調べさせる。</li> <li>・教科書の資料から, 中国のどの地域で経済発展が進んでいるのかに気付かせる。</li> <li>・地図帳P. 28を活用させる。</li> </ul> <p>【評】資料から東アジアの地域的課題を読み取る活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 50～P. 51</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸出品の変化や, 東南アジアの国々の結びつきに着目させる。(地域どうしのつながり)</li> <li>・地図帳P. 35を活用させる。</li> <li>・地図帳P. 36を活用させる。</li> </ul> <p>【評】国家間の協力や結びつきを強める利点について説明する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 52～P. 53</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業や工業の変化, ICT産業の発展に着目</li> </ul> |

- 南アジアの経済発展と人々の生活の変化について調べる
  - ・南アジアは、イギリスの植民地だったことで英語が普及しており、高度な教育を受けた人も多いことから、アメリカなどのICT関連の企業との結びつきを強めることができた。ソフトウェアの開発や英語を使うコールセンターなどの仕事が増えたことによって、インドの経済を発展させることができたが、一方でスラムが作られるなど、格差が生じてしまっている。
- 6 西アジア・中央アジアの豊富な資源を生かした経済発展について調べる。
  - ★西アジアや中央アジアの国々は、どのようにして経済を発展させているのだろうか。
  - 西アジアの経済発展について調べる。
  - 中央アジアの経済発展について調べる。
  - 西アジアや中央アジアの宗教と紛争について調べる。
  - アジアのまとめをする。
    - ・東アジアは、外国企業とのつながりによって発展している。
    - ・東南アジアは、東南アジアの国々が協力することによって発展している。
- 7 自然環境と人々の関わりから、ヨーロッパを大観する。
  - 資料を見て、ヨーロッパについて気付いたことを話し合う。
  - ★ヨーロッパの自然環境や人々の生活には、どのような特色があるのだろうか。
  - ヨーロッパの自然環境について調べる。
  - ヨーロッパの多様な生活について調べる。
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
  - なぜヨーロッパの国々は、国境を越えた統合を進めるようになったのだろうか。
- 8 ヨーロッパの国境を越えた統合の歩みについて調べる。
  - ★様々な民族が生活するヨーロッパは、どのようにEUとしてまとまっていったのだろうか。
  - 多様な民族と共通する文化について調べる。
  - 国境を越えた統合について調べる。
    - ・一つ一つの国は小さいが、EUとして統合されるとアメリカや中国にも対抗できるくらいになっている。
  - 統合による生活の変化について調べる。
- 9 ヨーロッパの統合による産業の変化と課題について調べる。
  - ★EUを中心としたヨーロッパの産業には、どのような特色や課題があるのだろうか。
  - 地域によって異なる農業について調べる。
  - EUがめざす農業とその課題について調べる。
  - 国境を越えた工業の動きについて調べる。
    - ・共通農業政策によって、安定的な食料生産が可能にな

- させる。（地域どうしのつながり）
- ・地図帳P. 39を活用させる。
- ・教科書や地図帳の資料から読み取った情報を基に、南アジアの経済発展について考えさせる。
- 【評】南アジアの発展の要因や影響を、他地域との結びつきから多面的・多角的に説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 54～P. 55
- ・鉱産資源の種類と生産量、輸出による収入の使い方に着目させる。（地域どうしのつながり）
- ・石油の生産量や、石油輸出国機構に着目させる。
- ・鉱産資源の開発に着目させる。
- ・イスラム教が紛争やテロを起こす宗教のような誤解をさせないように配慮する。
- 【評】経済発展の中で変容していく各地域の政策などについて共通点や異なる点を見つけ、よりよい課題解決の方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 58～P. 61
- ・教科書の資料を見て、気付いたことや疑問点などを話し合わせる。
- ・地形や気候、高緯度での人々の生活、人口の分布などに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・アルプス山脈の南北では、自然環境に大きな違いがあることをつかませる。
- ・氷河やフィヨルドなど、特徴的な地形があることを押さえる。
- ・海流や偏西風の影響で、温暖な地域となっていることをつかませる。
- ・緯度の高さによって、夏と冬とで昼の長さが大きく異なり、人々の生活に影響を与えていることをつかませる。
- ・ヨーロッパの国々は、人口や面積の規模が小さい国が多く、国境を越えた統合を進めていることを押さえる。
- ・教P. 62～P. 63
- ・キリスト教という共通性のもとで様々な宗派や言語が存在するヨーロッパで、多民族が共生する社会がつけられたことに着目させる。（地域どうしのつながり）
- ・様々な民族が住んでいる地域だが、文字や単語が似ているところや、キリスト教が広く信仰されているという共通性があることをつかませる。
- ・世界大戦を教訓に、再び戦争を起こさないよう、戦争に必要な鉱産資源を共同で管理したり、協力しながら経済発展を目指したりすることがきっかけとなったことをつかませる。
- 【評】資料を使って、EUの人口・面積・GDPを読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・EUが作られたことによって、人々の生活が便利になったことをつかませる。
- ・教P. 64～P. 65
- ・ヨーロッパの農業や工業の発展の様子について、地形・気候やEUによる統合に着目させる。（地域どうしのつながり）
- ・アルプス山脈の南北で自然環境が異なることから、農業の特色にも違いがあることをつかませる。
- ・資料から、EU内で主要な農産物を自給することに成功したことに気付かせる。

- り、EU内での主要な農産物の自給ができるようになった。
- ・工業では、それぞれの国の技術をもち寄り、高度な製品を作ることで、アジアやアメリカとの激しい競争にも対抗できるようになった。
- 10 ユーロッパの統合による社会の変化と課題について調べる。
- ★ヨーロッパの資源・エネルギーの変化は、人々の生活にどのような影響をあたえているのだろう。
  - 環境保全による持続可能な社会への取り組みについて調べる。
  - 環境に配慮した資源・エネルギー政策と課題について調べる。
- 11 ユーロッパの移民の増加とゆらぐ統合の動きについて調べる。
- ★ヨーロッパは、今後もEUとして地域の結びつきを強めていくべきだろうか。
  - 様々な人々が住む多文化社会について調べる。
  - ゆらぐEUの統合について調べる。
- 12 EU離脱について考える。
- イギリスのEU離脱問題について考えよう。
  - イギリスがEU離脱を決めた背景について調べる。
  - イギリスの人々の声を読んで、EU離脱に賛成か反対かを考える。
  - イギリスの人々の声で挙げられている意見以外に、EU離脱について考えられる意見を考える。
  - すべての意見を参考に、イギリスの離脱に賛成か反対かを判断し、自分の考えをまとめ、発表し合う。
  - ヨーロッパのまとめをする。
    - ・ヨーロッパは、アメリカや中国などの大国に対抗しようという考えもあり、経済発展を目指した統合を進めてきた。それによって、人々の生活は国境の制限が少なくなり便利になった一方で、人が自由に移動できることにより移民や難民などの課題が生じるなど、新たな課題が出てきている。
- 13 自然環境と人々の関わりから、アフリカを大観する。
- 資料を見て、アフリカについて気付いたことを話し合う
  - ★アフリカの自然環境や人々の生活には、どのような特色があるのだろう。
  - アフリカの自然環境について調べる。
  - 自然環境に適した農業について調べる。
  - アフリカの歴史と南北で異なる文化について調べる。
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
  - アフリカは、どのようにして様々な課題を解決し、自立・発展をしていこうとしているのだろう。
- 14 農産物や鉱産資源の輸出にたよる経済について調べる。
- ★アフリカの国々の経済には、どのような特色があるのだろう。
  - 輸出用の農産物の生産と食料自給の問題について調べる
  - 豊富な鉱産資源について調べる。
    - ・鉱産資源や農産物など、加工していないものが中心となっている。
  - モノカルチャー経済の克服を目指す取り組みについて調べる。
- 15 アフリカの社会・経済の開発や発展と国際協力について調べる。
- ★アフリカの国々の自立や発展のために、どのような取り組みが行われているのだろう。
  - 若い人々の多さと経済発展について調べる。
- ・国境を越えた工業の動きによる利点や課題をつかませる。
  - 【評】共通農業政策や工業におけるEUの協力体制が、EUにとってどのような利点があるか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
  - ・教P. 66～P. 67
  - ・国境を越えたヨーロッパ人としての資源・エネルギーや環境に対する意識に着目させる。（地域どうしのつながり）
  - ・日本における保全のための取り組みとの違いを考えさせる。
  - ・国を越えた電力のやり取りが広がるにつれて生じている問題について考えさせる。
  - ・教P. 68～P. 69
  - ・統合が進んだことによるEU加盟国間の結びつきや人々の考えの変化について、成果・課題の両面に着目させる。（地域）
  - ・移民や難民によって、多文化社会が形作られていることに気付かせる。
  - ・EUの統合が進んだことで生じてきた課題に着目させる。
  - ・教P. 70～P. 71
  - ・通勤・通学や資格の制限など、EUの利点を基に考えさせる。
  - ・学習内容を踏まえて、自分の考えを具体的にまとめさせる。
  - 【評】EU統合がもたらした変化と、今後解決すべき課題を考察し、的確に説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
  - ・教P. 72～P. 75
  - ・教科書の資料を見て、気付いたことや疑問点などを話し合わせる。
  - ・地形や気候、人口の分布、農業地域の広がり歴史や文化に着目させる。（人と自然とのかかわり）
  - ・ナイル川やサハラ砂漠など、特徴的な地形を押さえるとともに、赤道をはさんで気候が対照的に分布していることなどをつかませる。
  - ・アフリカの多くの地域がヨーロッパ諸国の植民地になっていた影響が、現在まで続く問題の大きな原因となっていることに気付かせる
  - ・教P. 76～P. 77
  - ・アフリカの国々の農産物、鉱産資源の生産や輸出品目に着目させる。（地域どうしのつながり）
  - ・カカオ、コーヒー、茶などの農産物は、もともと植民地支配をしていたヨーロッパ諸国が経営するプランテーションで栽培されていたことを押さえる。
  - 【評】資料から、アフリカの主な国の輸出品目について読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。
  - ・モノカルチャー経済の原因を、植民地支配との関連から捉えさせる。
  - ・教P. 78～P. 79
  - ・様々な組織や他の国からの支援・協力に着目

- 民主的な社会の実現に向けた課題について調べる。
  - 様々な国際協力の試みについて調べる。
- アフリカのまとめをする。
- ・ アフリカの国々は、モノカルチャー経済から抜け出すために、他国との結びつきを深め、また、アフリカの国同士の結びつきを強くすることで、自立・発展を目指している。
- 16 自然環境と人々の関わりから、北アメリカを大観する。
- 資料を見て、北アメリカについて気付いたことを話し合う。
  - ★ 北アメリカの自然環境や人々の生活には、どのような特色があるのだろう。
  - 北アメリカの多様な地形と気候について調べる。
  - 北アメリカに住む人々について調べる。
- 単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 北アメリカの国々は、世界にどのような影響をあたえているのだろう。
- 17 北アメリカの農業について調べる。
- ★ なぜ北アメリカの農業は、世界に大きな影響力をもち続けているのだろう。
- 効率的な農作物の生産について調べる。
- 適地適作の農業について調べる。
- 世界を支える北アメリカの農業について調べる。
    - ・ 小麦もとうもろこしも大豆も、国別輸出量は北アメリカの国が3割～4割を占めている。
- 18 北アメリカの工業について調べる。
- ★ アメリカの工業は、どのように発展し、世界にどのような影響をあたえているのだろう。
- アメリカの工業の歴史について調べる。
  - 変化するアメリカの工業について調べる。
- 工業からみた北アメリカの結びつきについて調べる。
- 19 世界に影響を与えるアメリカの文化や企業活動について調べる。
- ★ なぜ、アメリカはグローバル化する世界の中で、大きな影響力をもっているのだろう。
- 世界に広がるアメリカの文化について調べる。
- 世界をリードするアメリカの多国籍企業について調べる。
- ・ アメリカの企業が作ったスマートフォンやソフトウェアは、日本をはじめ世界中の大きな国で使われている。
- 20 アメリカの生活スタイルについて調べる。
- ★ アメリカの大量生産・大量消費の社会は、どのような課題をかかえているのだろう。
- 自動車社会の生活の様子について調べる。
  - 大量生産・大量消費をめぐる問題について調べる。
- 新たな取り組みについて調べる。
- 21 持続可能な社会をつくるために大切なことを考え、話し

- させる。（地域どうしのつながり）
- ・ 経済発展に伴って都市化が進み、問題が生じていることをつかませる。
- ・ アフリカの国々は、結びつきの強化や紛争の解決を目指してアフリカ連合をつくったり、他国との協力関係を深めたりしていることをつかませる。
- 【評】 アフリカの国々が、どのように様々な課題を解決し、自立・発展していこうとしているのか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 教P. 82～P. 85
  - ・ 教科書の資料を見て、気付いたことや疑問点などを話し合わせる。
  - ・ 地形や気候、歴史や民族、人口の分布に着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・ アメリカは世界でも代表的な多民族国家であることを押さえる。
- ・ 教P. 86～P. 87
  - ・ 地形や気候などからみた農業の特色や、農業からみた世界との関係に着目させる。（地域どうしのつながり）
  - ・ 広大な農地で大型の機械を使い、少ない人数で効率的に農業を行っていることをつかませる。
  - ・ 地形や気候に合わせた適地適作の農業が行われていることを押さえる。
  - ・ 小麦・とうもろこし・大豆の国別輸出量に占める割合が高いことに気付かせ、北アメリカが「世界の食料庫」と言われる理由をつかませる。
- 【評】 資料から、農作物の国別輸出量を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する
- ・ 教P. 88～P. 89
  - ・ 盛んな工業や工業地域の変化、工業からみた世界との関係に着目させる。（地域どうしのつながり）
- ・ 日本やドイツ、韓国、中国で工業が発展し、アメリカの重工業や自動車工業の競争力が低下すると、先端技術産業中心の工業に変化していったことをつかませる。
- ・ 教P. 90～P. 91
  - ・ アメリカで生まれ、世界に広まった文化やサービス・製品に着目させる。（地域どうしのつながり）
  - ・ ショッピングセンターやコンビニエンスストア、ファーストフードのチェーン店方式などアメリカの企業が生み出したサービスが日本の生活にも定着していることに気付かせる。
  - ・ 地図帳P. 65を活用させる。
- 【評】 北アメリカから世界に広まった文化や企業活動について、自分たちの生活との関わりを意識しながら考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 教P. 92～P. 93
  - ・ 人間の活動が自然環境に与える影響が強まっている現状と資源の有限性に着目させる。（地域）
- ・ アメリカの生活スタイルは、多くの資源やエネルギーを使い、大量の廃棄物を生み出していることに気付かせる。
  - ・ 環境保全や持続可能な社会の実現に向けて、新たな取り組みが始まっていることをつかま

- 合う。
- ★どうしたらアメリカは「持続可能な社会」になれるだろう。
- アメリカの社会が大量生産・大量消費であることを思い出す。
  - アメリカで生活する人の考え方に反対する意見をまとめる。
  - 持続可能な社会をつくっていく大切さについて考える。
    - ・北アメリカの人々は、エネルギーをたくさん使って経済を発展させていくことを肯定しているが、持続可能な社会をつくっていくためには省エネルギーが大切であることに着目し、自宅で無駄なエネルギーを使っていないか意識して生活していきたい。
  - 北アメリカのまとめをする。
- 22 自然環境と人々の関わりから、南アメリカを大観する。
- 資料を見て、南アメリカについて気付いたことを話し合う。
  - ★南アメリカの自然環境と人々の生活には、どのような特色があるのだろう。
  - 南アメリカの自然環境について調べる。
- 南アメリカの自然環境に応じた人口分布と産業について調べる。
  - 単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
  - なぜ、南アメリカの人々は開発を進めるとともに、環境保全の取り組みに努めているのだろう。
- 23 南アメリカの移民の流入と開発による変化について調べる。
- 南アメリカの人々の生活は、世界各地からの移民や開発でどのように変化したのだろう。
  - 南アメリカの歴史について調べる。
  - 多様な民族と文化について調べる。
  - 絶え間ない開発による生活への影響について調べる。
- 24 南アメリカの世界規模の環境問題と改善に向けた取り組みについて調べる。
- ★地球全体の環境に影響している南アメリカの環境問題を解決するため、人々はどんな努力をしているのだろう。
  - 大規模で急速な開発による環境問題について調べる。
  - 熱帯雨林を守る取り組みについて調べる。
  - 環境に配慮した新しい取り組みについて調べる。
  - 南アメリカのまとめをする。
    - ・開発のために熱帯雨林を伐採してしまうと、簡単には元に戻すことができない。しかし、経済発展には開発が必要なため、開発と環境保全を両立させ、持続可能な開発を進めていこうとしている。
- 25 自然環境と人々の関わりから、オセアニアを大観する。
- 資料を見て、オセアニアについて気付いたことを話し合う。
  - ★オセアニアの自然環境や人々の生活には、どのような特色があるのだろう。
  - オーストラリア大陸と太平洋の島々について調べる。
  - 自然環境の違いによる多様な生活について調べる。
  - 自然環境を生かした産業について調べる。
  - 単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
  - 世界各国から移り住んだ人々は、以前から住んでいた人々とどのように共存しているのだろうか。
- 26 オセアニアの多様性を認める社会づくりについて調べる

せる。

・教P. 94～P. 95

【評】北アメリカの人々の生活スタイルから地球的課題を見だし、その解決の方策を自分たちの生活のあり方を踏まえて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・教P. 96～P. 99
- ・教科書の資料を見て、気付いたことや疑問点などを話し合わせる。
- ・地形や気候、人口の分布、農業や鉱業に着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・アンデス山脈周辺では、標高が高くなるにつれて気候が大きく変化することを押さえる。

- ・雨温図から、南アメリカの中でも地域によって気候が大きく異なることに気付かせる。
- ・鉱産資源を利用した工業化が積極的に進められていることを押さえる。

・教P. 100～P. 101

- ・世界各地からの移民によって生み出された文化と、開発の進展に伴っていくっている課題に着目させる。（地域どうしのつながり）

- ・ヨーロッパによる植民地化が、南アメリカの歴史や文化に大きな影響を与えていることを押さえる。
- ・南アメリカでは都市化が進んでいるが、人口増加に開発が追いつかず、各地にスラムが形成されていることを押さえる。

・教P. 102～P. 103

- ・農業や工業にみられる、これまでとは異なる自然環境へのはたらきかけや、生活の中で環境を保全しようとする人々の取り組みに着目させる。（人と自然とのかかわり）

- ・バイオ燃料の利点と、需要が伸びることで生じる課題、その課題を克服するための取り組みについて押さえる。

【評】「開発と環境保全」という主題から南アメリカの地域的特色を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教P. 106～P. 109
- ・教科書の資料を見て、気付いたことや疑問点などを話し合わせる。
- ・地形や気候、それらに対応した人々の生活や産業に着目させる。（人と自然とのかかわり）

- ・教P. 109の「地理＋α」を活用して、オーストラリアの内陸部の乾燥地帯では、フライング・ドクターや通信教育など、特色ある生活をしていることをつかませる。

|   |  |
|---|--|
| <p>★オセアニアでは、なぜ多様性を認める社会づくりが進められてきたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多民族国家のオーストラリアについて調べる。</li> <li>○白豪主義から多文化社会への変化について調べる。</li> <li>○多様な民族の共生について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オセアニアでは、文化的な違いを認め合う社会をつくるため、人種差別を法律で禁止したり、多言語放送など様々な言語を守るための取り組みをしたりしている。</li> </ul> </li> </ul> <p>27 オセアニアの太平洋の島々の多様な文化と自然環境について調べる。</p> <p>★自然を活用した人々の生活には、他地域の人々との交流によって、どのような変化があったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○太平洋の島々の文化について調べる。</li> <li>○深刻化する環境問題について調べる。</li> <li>○増えるアジアからの観光客の様子について調べる。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○オセアニアのまとめをする。</li> </ul> <p>28 学習を振り返り、単元のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の学習内容を基に、自分の考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・六つの州の人々の生活には、自然環境が大きく関係していることが分かった。また、それぞれの州が発展を目指していく中で、環境保全との両立や、人々の生活の格差などの課題を抱えていることが分かった。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教P. 110～P. 111</li> </ul> <p>【評】オセアニアが多文化社会を実現していくための取り組みについて考え、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教P. 112～P. 113</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太平洋の島々の自然環境の特色や、他地域との経済的な交流に着目させる。（人と自然とのかかわり）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客の増加は、地元の経済によい影響を与える一方で、外国企業に利益が流れることや環境破壊などの問題が生じていることをつかませる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教P. 117</li> </ul> <p>【評】六つの州にはどのような特色や課題があるのかについて考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】

## 単元名 地域調査の手法—京都府伏見区を例に—

配当時間 7時間

単元の目標 (1) 身近な地域の自然環境、人口、産業、交通、文化、伝統などの基礎的、基本的な知識を身に付けるとともに、身近な地域に関する様々な資料を収集し、地域的特色についての情報を適切に読み取ったり、読み取った情報を地図やグラフなどを用いて適切にまとめたりすることができる。

(2) 身近な地域の調査を行うテーマ設定の視点をもとに、地域的特色を多面的、多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。

(3) 身近な地域の調査活動や調査結果のまとめ、発表に意欲的に取り組み、身近な地域の地域的特色や課題について追究しようとする。

## 標準的な展開例

10220301\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 身近な地域の様子について、小学校の学習内容を振り返り、単元の学習計画を立てる。</p> <p>○小学校の学習内容を振り返る。</p> <p>★身近な地域には、どのような特色があるか、改めて見直そう。</p> <p>○身近な地域の特色をつかむ。</p> <p>・空中写真                      ・地形図</p> <p>○地域の特色をつかむための五つの視点を調べる。</p> <p>○単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>●身近な地域で疑問に思ったことや調べてみたいことは、どのように調査していけば解決できるのだろうか。</p> <p>2 地形図のしくみと約束について調べる。</p> <p>★地形図のしくみや活用する方法を調べよう。</p> <p>○地形図のしくみと約束について調べる。</p> <p>○デジタル地図の特色について調べる。</p> <p>○地形図を身近な地域の調査に活用する方法を調べる。</p> <p>・昔の地図では田が広がっていた地域に、新しい地図では住宅地が広がっており、その中心部には学校がある。</p> <p>3 調査テーマを決めて、調査計画を立てる。</p> <p>★調査テーマを決めてどのように調べるかを考え、調査計画を立てよう。</p> <p>○調べたいことをまとめ、調査テーマを決定する。</p> <p>○調査計画を立てる。</p> <p>4～5 調査を進める。</p> <p>★調査を進めて様々な資料を集め、身近な地域の特色を見いだそう。</p> <p>6～7 調査結果を基に考察してまとめ、発表する。</p> <p>★調査結果を分析・考察し、地域の特色をまとめよう。</p> <p>○調査結果を基に、考察してまとめる。</p> <p>○調査結果のまとめを発表する。</p> | <p>・教P. 118～P. 121</p> <p>・都道府県や市町村など、身近な地域の学習について振り返らせる。</p> <p>・身近な地域の自然環境や人々の生活の様子に着目させる。(場所)</p> <p>・どの視点を使って学習しているのか、注意しながら学習を進めていくことを押さえる。</p> <p>・教P. 122～P. 125</p> <p>・方位、縮尺、等高線、断面図、地図記号など地形図の約束について押さえる。</p> <p>【評】新旧の地形図を比較したり、土地利用図を作ったりして地域の変化を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 126～P. 127</p> <p>・地域の特色をつかむための五つの視点を基に関連図を作り、調査テーマを決定させる。</p> <p>・教P. 128～P. 133</p> <p>・直接現地で観察や調査をする、間接的に文献や統計で調査するなど、調査方法のバリエーションに着目させる。</p> <p>・教P. 134～P. 137</p> <p>・地域の特色の原因や背景、そこに含まれている課題に着目させる。(地域)</p> <p>【評】調査結果のもつ傾向を分析し、その要因や原因を考え発表する活動を通して、「思考・判断・表現」・「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】



## 単元名 中世の日本と世界

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 中世の日本の大きな流れについて、世界の歴史を背景に、時代の特徴を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 中世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特徴などについて、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
- (3) 中世の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

10220302\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 古代と中世の絵を見比べたり、中世の日本と世界の動きを大観したりして、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>★中世とはどのような時代なのだろう。</p> <p>○古代と中世の絵を見比べる。</p> <p>○地図や年表を見て、中世の時代の流れや10～12世紀の日本と世界の様子を大観する。</p> <p>・中世の日本では、武士が登場し、くらしの様子が変化している。また、10～12世紀の世界地図を見ると、宋やフランスなど、新しい国がある。</p> <p>○単元の学習問題をつかむ。</p> <p>●「中世」の日本は、どのような新しい政治のしくみをつくりあげようとしたのだろう。</p> <p>○武士が勢力を拡大する過程の概略を知り、学習計画を立てる。</p> <p>2 武士のおこりと成長について調べる。</p> <p>★武士はどのようにしておこったのだろう。</p> <p>○武士のおこりについて調べたり、説明したりする。</p> <p>・地方で武装した者や都で軍事を専門とした者が、つながりを持ち、武士団としてまとまっていった。</p> <p>■武士はどのように力をつけていったのだろう。</p> <p>○東北地方の発展について調べる。</p> <p>・奥州藤原氏</p> <p>3 院政と平氏の政治について調べる。</p> <p>★平氏は、どのような政治を行おうとしたのだろう。</p> <p>○院政について調べる。</p> <p>○平氏の政治について調べる。</p> <p>・平氏の政治は、武力で争いを鎮める中で中央の政治に関わっていくという武士的な面と、朝廷の力を利用して政治を行おうとする貴族的な面があった。</p> <p>○平氏が短期間で政権を手に入れることができた要因について話し合ったり、自分の考えをまとめたりする。</p> <p>○学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。</p> <p>4 鎌倉幕府の政治について調べる。</p> <p>★源頼朝がつくった政治のしくみには、どのような特徴があるのだろう。</p> <p>○源氏が政権を握る過程を調べる。</p> <p>■鎌倉幕府の成立は、社会をどのように変えたのだろう。</p> <p>○鎌倉幕府の主従関係やしくみについて調べたり、鎌倉幕府が武士に支持された理由を考えたりする。</p> <p>・御恩と奉公                      ・侍所<br/>・政所                              ・問注所<br/>・守護                              ・地頭</p> <p>○執権政治の始まりと執権政治について調べる。</p> | <p>・教P. 64～P. 67</p> <p>・くらしの変化を示す資料の比較を通して、当時の中世の特徴をイメージさせ、第3編の学習問題を明らかにする。</p> <p>・教P. 64～P. 65の資料を用い、貴族と武士の屋敷を比較し、中世の日本に興味をもたせる。</p> <p>・教P. 66～P. 67の資料を用い、年表では中世の日本と世界の動きを時系列で捉えさせる。</p> <p>・教P. 38の地図を用い、西アジアやヨーロッパがどのように変わったかを読み取らせる。</p> <p>【評】中世の日本と世界について調べたり、気付いたことや考えたことなどを表現したりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教P. 66の年表を用い、人物を中心に、小学校の学習を想起させる。</p> <p>・教P. 68～P. 69</p> <p>・武士と皇族や貴族との関係、各地域で起こった出来事に着目して追究させる。（つながり）</p> <p>・教P. 68の資料を用い、地方の武士の役割や武士団のしくみを理解させる。</p> <p>【評】武士のおこりについて、調べて分かったことを既習の内容と関連付けて考えたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 69の年表を用い、貴族と武士の動きを関連付けて捉えさせる。</p> <p>・教P. 70～P. 71</p> <p>・平氏の政治は、それまでの貴族の政治のどのような面を引き継いでいるかに着目して追究させる。（推移）</p> <p>・教P. 70の資料を用い、摂関政治との違いを理解させる。</p> <p>・一族が官職を独占するなど、官職を大切にしたこと、天皇と外戚関係を結び摂関家と同様の政治を進めたことを捉えさせる。</p> <p>【評】平氏の政治について、貴族的な面と武士的な面から調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 72～P. 73</p> <p>・源頼朝と御家人との関係に着目して追究させる。（つながり）</p> <p>・鎌倉幕府を開いた源頼朝の父義朝は、知多半島にゆかりがあることに触れる。</p> <p>・土地を仲立ちとした関係を捉えさせる。</p> |

- 5 古代から中世への変化を調べる。  
★承久の乱を通して、古代から中世への変化を考えよう。  
○承久の乱について調べる。
- 承久の乱後の鎌倉幕府の政策について調べる。
- 古代から中世への時代の変化を考えたり、説明したりする。
- 6 鎌倉時代の人々の暮らしについて調べる。  
○定期市の資料を見て、気付いたことを発表し合う。
- ★鎌倉時代の人々はどのように生活し、社会はどのように発展したのだろう。  
○京都と鎌倉の様子について調べる。
- 武士と農民の暮らしの変化について調べる。
- 農業と商業の発達について調べる。
- 7 鎌倉時代の文化と仏教について調べる。  
○東大寺南大門の金剛力士像を見て、気付いたことを発表し合う。  
★鎌倉時代の文化は、古代の文化とどのようなところが異なっているのだろう。  
○鎌倉時代の文化の特徴について調べる。  
・古代の文化とは異なり、天皇や貴族を中心とした文化ではなく、武士の気風を受けた素朴さや力強さがみられるものだった。
- 鎌倉時代の仏教について調べる。
- 8 元の襲来が鎌倉幕府に与えた影響について調べる。  
★なぜ、2度も元軍をしりぞけたのに、鎌倉幕府はおとろえたのだろう。
- モンゴル帝国と元について調べる。
- 元寇の経過と結果について調べる。
- 幕府が衰えた理由を説明する。  
・外国との戦いでは、土地を得ることができず、御家人に十分な恩賞を与えることができなかったことから主従関係が揺らいだ。
- 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 9 南北朝の動乱と室町幕府による政治について調べる。  
★なぜ、室町幕府は京都に置かれたのだろう。
- 建武の新政について調べる。
- 南北朝の動乱について調べる。
- 足利義満の業績について調べる。
- 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。

- ・承久の乱後、執権政治の体制が強化されたことを確認させる。  
・教P. 74～P. 75
- ・教P. 74の資料を用い、承久の乱の際、西日本では後鳥羽上皇方についた守護や武士が多かったことに気付かせる。  
・教P. 75の白地図を用い、承久の乱後に新たな守護や地頭が置かれた国を捉えさせた上で、幕府のねらいを考えさせる。  
・古代の支配のしくみについて、既習事項を踏まえて考えるようにさせる。  
・教P. 76～P. 77  
・教P. 76の資料を用い、定期市に集まっている人々の様子や売られているものに注目して考えさせる。  
・農民と武士や荘園領主との関係に着目して追究させる。(つながり)  
・朝廷の力は弱まったが、引き続き政治を行っていたことを確認する。  
・教P. 76の資料を用い、武士は戦いに備えていたことを捉えさせる。  
・教P. 77の資料を用い、農民は荘園領主と地頭の二重の支配に苦しんでいたことを捉えさせる。  
・商業の発達につれて、貨幣が広く使用されるようになったことを押さえる。  
・教P. 78～P. 81  
・教P. 78の資料を用い、これまでの仏像と比較し、違いを考えさせる。  
・建築や彫刻の手法、仏教の修行や布教の仕方に着目して追究させる。(比較)  
・美術では、人間の姿をありのままのまに表そうとする風潮が広まり、写実的で力強い彫刻が作られたことを押さえる。  
【評】鎌倉時代の文化と古代の文化との違いについて調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。  
・教P. 80の資料を用い、鎌倉仏教の特徴に気付かせる。  
・鎌倉時代におこった仏教が人々の心の支えとなり、生活に深く根付いていたことを理解させる。  
・教P. 82～P. 85  
・教P. 82の年表を用い、13世紀の日本と世界の動きを捉えさせる。  
・国内の戦いと、外国との戦いの違いに着目して追究させる。(比較)  
・教P. 82の地図を用い、モンゴル帝国が広大な地域を支配していたことに気付かせる。  
・文永の役と弘安の役の様子についてまとめさせる。  
・教P. 83の資料を用い、日本軍が苦戦していることや使われている武器などを捉えさせる。  
・国内の戦いと異なり、外国との戦いであった元寇後は御家人に恩賞が十分に与えられなかったことを理解させる。  
・徳政令が出されても、御家人の生活が改善しなかった理由を考えさせる。  
【評】元寇後に鎌倉幕府が衰えた理由を考えたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 88～P. 89  
・朝廷(天皇)と幕府(武士)の動きに着目して追究させる。(比較)  
・教P. 88の資料を用い、鎌倉幕府が倒れた経緯をまとめさせる。  
・教P. 88の年表を用い、朝廷と幕府の動きを捉えさせる。  
・南北朝の動乱を通じて守護大名が成長したことを理解させる。  
・室町幕府のしくみについて、鎌倉幕府との共

- 民衆の成長によって社会や文化はどのように変わったの  
だろう。
- 10 室町時代における東アジアの国々との交流について調べる。  
★東アジアではどのような交流が行われていたのだろう。  
○明との勘合貿易について調べる。
- 朝鮮との関わりと中世の琉球王国、アイヌ民族について調べる。  
○琉球の中継貿易と交易の中で育まれた文化について調べる。
- 11 産業の発展による都市と村における人々のくらしの変化について調べる。  
★商業や手工業の発展によって、民衆の生活や意識はどのように変わったのだろう。  
○商業と手工業について調べる。
- 都市と交通の発達について調べる。
- 手工業や商業が発展すると、なぜ自治意識が高まったのかを考える。
- 正長の土一揆について調べる。
- 12 応仁の乱によって、社会はどのように変化したのかについて調べる。  
★応仁の乱により、社会はどのように変化したのだろう。  
○応仁の乱について調べる。
- なぜ各地で一揆が起こったり、戦国大名が生まれたりしたかを考える。  
・応仁の乱後、幕府の力が衰え、実力で領国を支配する戦国大名や自治を行う民衆が現れた。
- 13 室町文化とその広がりについて調べる。  
○金閣と銀閣の資料を見て、気付いたことを発表し合う。  
★室町時代の文化には、どのような特色があるのだろう。  
○室町時代の文化について調べる。  
・応仁の乱により、文化が地方へ広がった。  
○民衆文化の高まりについて調べる。  
・差別されていた人々も文化の担い手として活躍した。
- 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 14 学習を振り返り、単元の学習のまとめをする。  
★単元の学習問題について、自分の考えをまとめよう。  
○学習したことを年表や地図にまとめる。
- 「法」に着目して、中世の特色を調べる。  
○学習問題について話し合ったり、自分の考えをまとめた  
りする。  
・中世は武士が政治権力を握り、御家人との主従関係により軍事力を得て、支配を広げようとした。応仁の乱後は、戦国大名や民衆が力をつけ、領国を支配したり、自治を行ったりするようになった。  
○江戸時代の絵を見ながら、戦国時代を統一した人物に触れ、次の単元の見通しをもつ。

- 通点や相違点に気付かせる。
- ・室町時代の民衆の成長に触れ、学習の見通しをもたせる。
- ・教P. 90～P. 93
- ・各地域、国の輸出入の品目に着目して追究させる。(つながり)
- ・教P. 90の資料を用い、朝貢する形をとって貿易を始めたことや勘合貿易を行った理由を理解させる。
- ・教P. 92～P. 93の資料を用い、琉球が中継貿易により発展したことや様々な文化が育まれたことを捉えさせる。
- ・教P. 94～P. 95
- ・鎌倉時代との違いや変化に着目して追究させる。(推移)
- ・道具や職人の技術の向上が人々の生活に与える影響について考えさせる。
- ・産業の発展と交通の発達などを関連付けて理解させる。
- ・産業の発展により、農民の生活が豊かになり村では惣という自治組織が現れるなど、民衆の意識に変化が見られたことに気付かせる。
- ・正長の土一揆以後、各地で一揆が起こったことを確認する。
- ・教P. 96～P. 97
- ・応仁の乱による戦乱と、力をつけた人々の動きに着目して追究させる。(つながり)
- ・応仁の乱が起こった原因や関わった人物をまとめさせ、乱後室町幕府の勢力が弱まったことを確認する。
- ・応仁の乱後、各地で一揆が起こり、民衆が団結を強めて自治組織がつくられるようになったことを理解させる。
- ・守護大名を実力で追い出し、領地を治めた者を戦国大名ということを押さえる
- 【評】 応仁の乱後の社会の変化について考えたり、表現したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 98～P. 101
- ・社会の動きから、どのような影響を受けているかに注目して追究させる。(つながり)
- ・北山文化と東山文化それぞれについて、文化の特色や文化を代表する作品を理解させる。
- ・室町時代の文化が民衆に広まったことや差別されていた人々も文化の担い手になっていたことを捉えさせる。
- 【評】 室町時代の文化が、応仁の乱や民衆の成長と関わりがあることを調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 104～P. 105
- ・教P. 104の資料を用い、年表で日本の動きを時系列で捉えさせたり、地図で日本とつながりの深い国を確認させたりする。
- 【評】 これまでの学習活動を踏まえ、中世の特色について話し合ったり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教P. 106～P. 107の資料などを用い、近世の学習に関心をもたせる。

## 単元名 【旧】世界からみた日本の姿

配当時間 18時間

- 単元の目標 (1) 世界と比べた日本の自然環境や災害・防災、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきの各項目に関する特色とそれに基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解するとともに、日本全体の主題図やグラフなどを、地域の共通点や差異、分布の傾向性などに着目して読み取ることができる。
- (2) 世界と比べた日本の自然環境や災害・防災、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきの各項目による地域区分を、地域の共通点や差異、分布の傾向性などに着目し、比較したり関連付けたりして考察し、その結果を表現することができる。
- (3) 世界と比べた日本の自然環境や災害・防災、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきの各項目に関する特色と、各項目による地域区分に関心をもち、日本の地域的特色を意欲的に追究するとともに、各項目に関わる課題を解決しようとする。

## 標準的な展開例

11220101\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 世界からみた日本の地域的特色について、どのような視点から調べることができるのかを考え、学習計画を立てる</p> <p>★世界と日本の地域的特色をつかむために、どのような視点から調べることができるのだろう。</p> <p>○地域的特色をつかむための視点を考え、まとめる。<br/>「自然環境」「人口」<br/>「自然・エネルギー」「産業」<br/>「交通・通信」</p> <p>○単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>●世界と比較すると、日本はどのような地域的特色をもった国なのだろう。</p> <p>●日本にはどのような地域的特色があるのだろう。</p> <p>2 世界の地形について調べる。</p> <p>★大地の不安定な地域と安定した地域には、それぞれどのような特色があるのだろう。</p> <p>○変化に富む世界の山地について調べる。</p> <p>○広大な平野と長大な川について調べる。</p> <p>○地形からみた日本の地域区分について調べる。</p> <p>3 日本の地形について調べる。</p> <p>★世界と比べて、日本の地形にはどのような特色があるのだろう。</p> <p>○日本の山地や、山と川がつくる多様な地形について調べる。</p> <p>○変化に富んだ日本の海岸について調べる。</p> <p>○気候から見た日本の地域区分について調べる。<br/>・日本海側の気候に含まれる新潟は、夏よりも冬の降水量が多い。<br/>・南西諸島の気候に含まれる名瀬は、一年を通して比較的气温が高い。</p> <p>4 世界の気候について調べる。</p> <p>★世界にはなぜさまざまな気候があるのだろう。</p> <p>○緯度・高度と気温の関係について調べる。</p> <p>○風と気候の関係について調べる。</p> <p>○世界の気候区分について調べる。</p> <p>5 日本の気候について調べる。</p> <p>★日本の気候には、地域によってどのような違いがあるのだろう。</p> <p>○気候から見た日本の地域区分について調べる。</p> | <p>・教P. 131</p> <p>・（位置や分布、地域）</p> <p>・世界地理で学習した視点を想起させる。</p> <p>・教P. 132～P. 133</p> <p>・世界には、地震や火山活動が活発な造山帯があることを押さえる。</p> <p>・造山帯以外の安定大陸では、なだらかな山地や平野が広がっていることを押さえる。</p> <p>・安定大陸の平野には、長大な河川が多いことを押さえる。</p> <p>・教P. 140の資料1を活用して、フォッサマグナの東側と西側では、山地の方向が違っていることに気付かせる。</p> <p>・教P. 134～P. 135</p> <p>・不安定な地域に位置するため、複雑な地形がみられることに着目させる。（位置や分布）</p> <p>・日本は環太平洋造山帯に含まれることを押さえる。</p> <p>・平野の近くには川があることに着目させる。</p> <p>・教P. 134の資料1を活用して、フォッサマグナの東側と西側では、山地の方向が違っていることに気付かせる。</p> <p>・変化に富む海岸について調べる。</p> <p>・砂丘も海岸の一つであることに気付かせる。</p> <p>【評】日本の各地方の雨温図の特色について、気温の高低や推移、降水量の多少や推移に着目して読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 136～P. 137</p> <p>・教P. 136の資料1から、緯度や高度が気候とどのような関係があるのか気付かせる。</p> <p>・偏西風や季節風など、風が気候に影響を与えていることをつかませる。</p> <p>・気温と降水量の違いから、世界の気候は大きく六つの気候帯に分けられることを押さえる</p> <p>・教P. 138～P. 139</p> <p>・主に温帯に含まれる日本の中でも、地域によって気温や降水量が異なることに着目させる（位置や分布）</p> <p>・日本海岸気候区の雨温図において冬の降水量</p> |

- ・日本海側の気候に含まれる新潟は、夏よりも冬の降水量が多い。
- ・南西諸島の気候に含まれる名瀬は、一年を通して比較的気温が高い。

- 冬から春の気候について調べる。
- 夏から秋の気候について調べる。

6 世界と日本の地震・火山被害について調べる。  
★なぜ日本では多くの地震・火山災害が起こるのだろう。

- 自然災害と日本について確認する。
- 地震や津波による災害について調べる。
  - ・地震
  - ・津波
  - ・液状化現象
- 火山の噴火による災害について調べる。

7 世界と日本の気象災害について調べる。  
★なぜ日本ではさまざまな気象災害が起こるのだろう。

- 様々な気象災害について調べる。
  - ・洪水
  - ・土石流
  - ・高潮
  - ・干害
  - ・やませ
  - ・冷害
  - ・雪害
- 自然災害と人災について調べる。
- ハザードマップの想定を上回る状況の場合は、避難所や避難ルートをどのようにすればよいかを考える。

- 本時の学習内容を活用して、身近な地域のハザードマップを使って、自宅や学校から周辺の避難所までの避難ルートを考える。

8 日本の防災対策について調べる。  
★多くの自然災害から地域や人々の生命を守るために、私たちはどのようなことに取り組めばよいのだろう。

- 防災・減災への工夫について調べる。
  - ・ハザードマップ
  - ・ライフライン
  - ・自助
  - ・共助
  - ・公助
- どのように災害と向き合うかについて考える。
  - ・地域で避難訓練があるときはできる限り参加したり、自分たちが生活している地域で自然災害の被害が起きやすい場所を調べたりして、防災対策をしていきたい。

- 人口からみた日本の地域区分について調べる。

9 ハザードマップの活用のしかたを調べる。

- ★ハザードマップを活用しよう。
- 地形図から、想定される浸水の深さが場所によって異なる理由を考える。
- 新課程の教科書P.151の資料を活用して、浸水すると想定されている深さを読み取り、安全に避難するルートを考える。
- ハザードマップの想定を上回る状況の場合は、避難所や避難ルートをどのようにすればよいかを考える。

- 本時の学習内容を活用して、身近な地域のハザードマップを使って、自宅や学校から周辺の避難所までの避難ルートを考える。

10 世界の人口分布と変化について調べる。  
★世界の人口構成や人口分布は、どのように変化してきたのだろう。

- 世界の人口の分布について調べる。

が多いのは、雪によるものであることに気付かせる。

- ・日本アルプスを越えて太平洋側に達するところには水分を失っていることから、愛知県の冬は晴れている日が多いことに気付かせる。

【評】日本の各地方の雨温図の特色について、気温の高低や推移、降水量の多少や推移に着目して読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・季節風が日本の気候に与える影響について押さえる。
- ・梅雨や台風について押さえる。
- ・気圧について、理科との関連を確認するとよい。

・教P.140～P.141

- ・地域によって、地震や津波、火山の噴火などの災害の起こりやすさが異なることに着目させる。（地域）

- ・日本は環太平洋造山帯にあるため、世界の中でも地震、津波、火山の噴火による自然災害が多い国であることを押さえる。

- ・阪神・淡路大震災や東日本大震災について押さえる。

- ・教P.140の資料1を活用して、日本の火山の多さや位置をつかませる。

・教P.142～P.143

- ・地域によって気象災害の起こりやすさが異なることに着目させる。（地域）

- ・日本は山が多く、海岸部の平地に多くの人が住んでいるため、風水害が頻繁に発生することに気付かせる。

- ・例として、2019年10月の台風19号による豪雨では神奈川県箱根町で24時間に942.5mmの降雨があったことなど、想定を上回る状況があり得ることを押さえる。

・教P.144～P.145

- ・自然災害が起こりやすい日本で、様々な防災や減災の取り組みが行われていることに着目させる。（人と自然とのかかわり）

- ・愛知県や自分が住んでいる市町のハザードマップを確認させるとよい。

【評】身近な地域における減災の取り組みの意味や意義を踏まえて、防災や減災に関わる諸活動にどのように参加できるかを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教P.149

- ・ハザードマップの読み取りに際しては、対象地域だけでなくその周辺地域の様子を把握しななければならないことを押さえる。

- ・新教科書を電子黒板やタブレットに映し出して活用させる。カラーで見ることが望ましいため、提示が難しい場合は省略してもよい。

- ・例として、2019年10月の台風19号による豪雨では神奈川県箱根町で24時間に942.5mmの降雨があったことなど、想定を上回る状況があり得ることを押さえる。

・教P.150～P.151

|  |  |
|--|--|
| <p>○世界の人口の変化について調べる。</p> <p>○環境問題への取り組みについて調べる。</p> <p>○資源・エネルギーからみた日本の地域区分について調べる。</p> <p>11 日本の人口分布と変化について調べる。<br/>★日本の人口構成や人口分布は、どのように変化してきたのだろう。</p> <p>○人口分布のかたよりと課題について調べる。<br/>・関東地方から九州北部にかけて、都市が発達しているところは人口が多く、高齢者の割合が比較的低い。一方で北海道、東北、北陸、中央高地、山陰、四国、九州南部は人口が少なく、高齢者の割合が高い。</p> <p>○過密化と過疎化が進む地域の課題について調べる。</p> <p>○人口減少と少子高齢化について調べる。</p> <p>○日本の第3次産業について調べる。</p> <p>○産業からみた日本の地域区分について調べる。<br/>・農業は北海道・東北・北陸・中央高地・山陰・南四国など、人口が少なく稲作や畑作、果樹栽培が盛んな地域に多い。漁業は工場が立地されている太平洋ベルトを除く沿岸部に多い。工業は太平洋ベルトを中心に、内陸部・北陸・東北などへの広がりが見られる。商業・サービス業は太平洋ベルトや仙台・札幌などの地方中枢都市付近に発達している。</p> <p>12 世界と日本の資源・エネルギーについて調べる。<br/>★日本の人々が生活していくための資源やエネルギーは、どのように確保されているのだろう。</p> <p>○鉱産資源を外国に依存する日本について調べる。</p> <p>○資源を確保するための取り組みについて調べる。</p> <p>○環境問題への取り組みについて調べる。</p> <p>13 世界と日本の第1次産業について調べる。<br/>★日本の第1次産業には、地域によってどのような特色がみられるのだろう。</p> <p>○日本の農業について調べる。<br/>・近郊農業                      ・園芸農業<br/>・酪農                              ・畜産業</p> <p>○日本の漁業や林業について調べる。<br/>・養殖業                      ・栽培漁業</p> <p>○日本の農林水産業の課題について調べる。</p> <p>○交通・通信からみた日本の地域区分について調べる。</p> <p>14 世界と日本の第2次産業について調べる。<br/>★日本の第2次産業には、地域によってどのような特色がみられるのだろう。</p> <p>○日本の第2次産業について調べる。<br/>・太平洋ベルト</p> <p>○日本企業の外国進出について調べる。</p> <p>○日本全体の特色を説明しやすいと考えた区分を白地図に書き込み、オリジナルの地域区分図を作成する。</p> <p>15 世界と日本の第3次産業について調べる。</p> | <p>・教P. 150の資料1を活用して、世界の人口が多いところと少ないところがどのような地域かをつかませる。</p> <p>・教P. 151の「スキルUP」を活用して、人口ピラミッドの読み取り方を押さえる。</p> <p>・再生可能エネルギーは、開発が進められているが、エネルギー供給量に占める割合はまだ低いことを押さえる。</p> <p>・教P. 152～P. 153</p> <p>・地域によって人口分布に違いがあり、過密・過疎が問題となっていることに着目させる。<br/>(位置や分布)</p> <p>・教P. 152～P. 153の資料1・4を活用して、人口密度が高い地域と低い地域の特色に気付かせる。</p> <p>【評】資料から人口密度が高い地域と低い地域の特色とその理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 152の資料2を活用して、過密化と過疎化が進む地域の課題を押さえる。</p> <p>・情報化が進んだことにより、インターネットショッピングなどの通信販売が急速に広がったことに気付かせる。</p> <p>【評】日本のそれぞれの産業が、どのような地域で盛んに行われているか調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 154～P. 155</p> <p>・日本は鉱産資源に乏しく、外国に多くを依存していることに着目させる。(位置や分布)</p> <p>・教P. 154の資料1から、日本は生活や産業を支える資源の多くを輸入に頼っていることに気付かせる。</p> <p>・資源を安定して確保するために、大陸棚や太平洋の深海底での資源の開発が進められていることを押さえる。</p> <p>・開発や採掘だけではなく、「3R」など限られた地球の資源を有効活用するための取り組みをしていることを押さえる。</p> <p>・再生可能エネルギーは、開発が進められているが、エネルギー供給量に占める割合はまだ低いことを押さえる。</p> <p>・教P. 158～P. 159</p> <p>・アメリカの企業的農業と比較して、日本の農業の特色をつかませる。</p> <p>・日本の食料自給率の低さを押さえる。</p> <p>・排他的経済水域によって、漁獲方法に変化が生じたことを押さえる。</p> <p>・林業は、後継者不足が課題であることを押さえる。</p> <p>・TPPなどの経済連携協定によって、さらに外国産の食料品の輸入が増えた場合、日本の農家にどのような影響があるのかをつかませる。</p> <p>・教P. 160～P. 161</p> <p>・工業地帯や工業地域とその特色について押さえる。</p> <p>・安い労働力を求めて国内の工場を外国に移したことで、産業の空洞化が進んでいることに気付かせる。</p> <p>・出来上がった地域区分図を、教P. 138～P. 139の地図の7地方区分と比較させる。</p> |
|--|--|

|   |   |
|---|---|
| <p>★日本の第3次産業には、どのような特色がみられるのだろう。</p> <p>○日本の第3次産業について調べる。</p> <p>○日本のサービス業の現状と変化について調べる。</p> <p>○産業からみた日本の地域区分について調べる。</p> <p>・農業は北海道・東北・北陸・中央高地・山陰・南四国など、人口が少なく稲作や畑作、果樹栽培が盛んな地域に多い。漁業は工場が立地されている太平洋ベルトを除く沿岸部に多い。工業は太平洋ベルトを中心に、内陸部・北陸・東北などへの広がりが見られる。商業・サービス業は太平洋ベルトや仙台・札幌などの地方中枢都市付近に発達している。</p> <p>16 世界各地の結びつきについて調べる。</p> <p>★交通網や通信網の発達によって、世界の地域間の結びつきはどのように変化したのだろう。</p> <p>○交通網や通信網の発達について調べる。</p> <p>○発展する貿易について調べる。</p> <p>17 日本の結びつきについて調べる。</p> <p>★交通網や通信網の発達によって、日本の地域間の結びつきはどのように変化したのだろう。</p> <p>○国内の交通網の発達と生活の変化について調べる。</p> <p>○外国との間の人の動きについて調べる。</p> <p>○通信網の発達と生活の変化について調べる。</p> <p>18 学習を振り返り、単元のまとめをする。</p> <p>★世界からみた日本の姿を振り返ろう。</p> <p>○地形と人口の地図を見比べる。</p> <p>○様々な日本の地図を見比べる。</p> <p>○日本がどのような特色をもった国であるかまとめる。</p> | <p>・教P. 162～P. 163</p> <p>・教P. 161の資料5から、日本の第3次産業の変化についてつかませる。</p> <p>・自動車を運転しない人やインターネットを使いきなせない人は「買い物弱者」になってしまっていることを押さえる。</p> <p>・日本は高齢社会であることから、医療・福祉業の成長していることや、インターネットの普及によって情報通信業が成長していることをつかませる。</p> <p>【評】日本のそれぞれの産業が、どのような地域で盛んに行われているか調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 164～P. 165</p> <p>・人口密度が高い地域に航空路の目的地が集中していることに気付かせる。</p> <p>・教P. 164の資料3から、世界の人口の増加に対して、携帯電話やインターネットの利用者数の増え方が大きいことをつかませる。</p> <p>・教P. 165の資料5から、国や地域によって輸出入品目や輸出入額の割合が大きく違うことをつかませる。</p> <p>・教P. 166～P. 167</p> <p>・人や物資の移動・輸送方法や、通信技術の発展に着目させる。(地域どうしのつながり)</p> <p>・交通の便がよいところに、工場や物流倉庫が集まる傾向が強いことをつかませる。</p> <p>・過疎化が進んでいる地域では、公共交通機関が廃止・減便され、生活が不便になっていることをつかませる。</p> <p>・情報通信技術の進歩によって、インターネットを使って医師の診断が受けられるなど、生活に変化があったことに気付かせる。</p> <p>・教P. 168</p> <p>・人口密度の高い地域・低い地域と地形の関係について考えさせる。</p> <p>・様々な日本の地図を、人口密度や地形との関係に着目しながら見比べさせる。</p> |
|---|---|

【 備 考 】

## 単元名 日本の地域的特色と地域区分

配当時間 12時間

単元の目標 (1) 日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の各項目に関する特色とそれに基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解するとともに、日本全体の主題図やグラフなどを、地域の共通点や差異、分布の傾向性などに着目して読み取ることができる。

(2) 日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の各項目による地域区分を、地域の共通点や差異、分布の傾向性などに着目し、比較したり関連付けたりして考察し、その結果を表現することができる。

(3) 日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の各項目に関する特色と、各項目による地域区分に関心をもち、日本の地域的特色を意欲的に追究するとともに、各項目に関わる課題を解決しようとする。

## 標準的な展開例

11220102\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| <p>1 それぞれの地方について、知っていることを発表し合い学習計画を立てる。</p> <p>★日本の地域的特色をつかむために、どのような視点から調べることができるのだろう。</p> <p>○7地方区分の地域的特色を発表し合う。</p> <p>○地域的特色をつかむための視点を考え、まとめる。</p> <p>「自然環境」「人口」<br/>「自然・エネルギー」「産業」<br/>「交通・通信」</p> <p>○単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>●日本にはどのような地域的特色があるのだろう。</p> <p>2 地形からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。</p> <p>★日本には、どのような地形の特色があるのだろう。</p> <p>○日本の山地や、山と川がつくる多様な地形について調べる。</p> <p>○変化に富む海岸について調べる。</p> <p>○地形からみた日本の地域区分について調べる。</p> <p>3 気候からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。</p> <p>★日本の気候には、地域によってどのような違いがあるのだろう。</p> <p>○四季の変化がはっきりした気候について調べる。</p> <p>○降水量の多い気候について調べる。</p> <p>○気候から見た日本の地域区分について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本海側の気候に含まれる新潟は、夏よりも冬の降水量が多い。</li> <li>・南西諸島の気候に含まれる名瀬は、一年を通して比較的气温が高い。</li> </ul> <p>4 地震・火山災害からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。</p> <p>★なぜ日本では多くの地震・火山災害が起こるのだろう。</p> <p>○地震や津波による災害について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震</li> <li>・津波</li> <li>・液状化現象</li> </ul> <p>○火山の噴火による災害について調べる。</p> <p>○地震・火山災害からみた日本の地域区分について調べる</p> <p>5 気象災害からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。</p> <p>★なぜ日本ではさまざまな気象災害が起こるのだろう。</p> <p>○様々な気象災害について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水</li> <li>・土石流</li> <li>・高潮</li> </ul> <p>○自然災害と人災について調べる。</p> | <p>・教P. 138～P. 139</p> <p>・（位置や分布・地域）</p> <p>・それぞれの地方について知っていることを発表させる。</p> <p>・世界地理で学習した視点を想起させる。</p> <p>・教P. 140～P. 141</p> <p>・不安定な地域に位置するため、複雑な地形がみられることに着目させる。（位置や分布）</p> <p>・平野の近くには川があることに着目させる。</p> <p>・砂丘も海岸の一つであることに気付かせる。</p> <p>・教P. 140の資料1を活用して、フォッサマグナの東側と西側では、山地の方向が違っていることに気付かせる。</p> <p>・教P. 142～P. 143</p> <p>・主に温帯に含まれる日本の中でも、地域によって気温や降水量が異なることに着目させる（位置や分布）</p> <p>・季節風が日本の気候に与える影響について押さえる。</p> <p>・地図帳P. 147～P. 148を活用して、日本海側の気候の雨温図において冬の降水量が多いのは雪によるものであることに気付かせる。</p> <p>・日本アルプスを越えて太平洋側に達するところには水分を失っていることから、愛知県の冬は晴れている日が多いことに気付かせる。</p> <p>【評】日本の各地方の雨温図の特色について、気温の高低や推移、降水量の多少や推移に着目して読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 144～P. 145</p> <p>・地域によって、地震や津波、火山の噴火などの災害の起こりやすさが異なることに着目させる。（地域）</p> <p>・阪神・淡路大震災や東日本大震災について押さえる。</p> <p>・地図帳P. 149～P. 150</p> <p>・教P. 144の資料3を活用して、日本の火山の多さや位置をつかませる。</p> <p>・教P. 146～P. 147</p> <p>・地域によって気象災害の起こりやすさが異なることに着目させる。（地域）</p> |



- 気象災害からみた日本の地域区分について調べる。
- 6 災害への備えについて調べる。
  - ★多くの自然災害から地域や人々の生命を守るために、私たちはどのようなことに取り組めばよいのだろう。
  - 防災・減災への工夫について調べる。
    - ・ハザードマップ                      ・ライフライン
    - ・自助                                      ・共助
    - ・公助
  - どのように災害と向き合うかについて考える。
    - ・地域で避難訓練があるときはできる限り参加したり、自分たちが生活している地域で自然災害の被害が起きやすい場所を調べたりして、防災対策をしていきたい。
- 7 ハザードマップの活用のしかたを調べる。
  - ★ハザードマップを活用しよう。
  - 地形図から、想定される浸水の深さが場所によって異なる理由を考える。
  - 教科書の資料を活用して、浸水すると想定されている深さを読み取り、安全に避難するルートを考える。
  - ハザードマップの想定を上回る状況の場合は、避難所や避難ルートをどのようにすればよいかを考える。
  - 本時の学習内容を活用して、身近な地域のハザードマップを使って、自宅や学校から周辺の避難所までの避難ルートを考える。
- 8 人口からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。
  - ★日本の人口構成や人口分布は、どのように変化してきたのだろう。
  - 人口減少と少子高齢化について調べる。
  - 人口分布のかたよりと課題について調べる。
    - ・関東地方から九州北部にかけて、都市が発達しているところは人口が多く、高齢者の割合が比較的低い。一方で北海道、東北、北陸、中央高地、山陰、四国、九州南部は人口が少なく、高齢者の割合が高い。
  - 人口からみた日本の地域区分について調べる。
- 9 資源・エネルギーからみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。
  - ★日本の人々が生活していくための資源やエネルギーは、どのように確保されているのだろう。
  - 鉱産資源を外国に依存する日本について調べる。
  - 資源を確保するための取り組みについて調べる。
  - 環境問題への取り組みについて調べる。
  - 資源・エネルギーからみた日本の地域区分について調べる。
- 10 産業からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。
  - ★日本の産業には、地域によってどのような特色がみられるのだろう。
  - 日本の農業について調べる。
    - ・近郊農業                      ・園芸農業
    - ・酪農                              ・畜産業
  - 日本の漁業について調べる。
    - ・養殖業                      ・栽培漁業
  - 日本の第2次産業について調べる。
    - ・太平洋ベルト
  - 日本の第3次産業について調べる。
  - 産業からみた日本の地域区分について調べる。
    - ・農業は北海道・東北・北陸・中央高地・山陰・南四国など、人口が少なく稲作や畑作、果樹栽培が盛んな地域に多い。漁業は工場が立地されている太平洋ベルトを除

- ・気象災害の種類によって、起こりやすさに地域差があることに気付かせる。
- ・教P. 148～P. 149
- ・自然災害が起こりやすい日本で、様々な防災や減災の取り組みが行われていることに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・愛知県や自分が住んでいる市町のハザードマップを確認させるとよい。

【評】身近な地域における減災の取り組みの意味や意義を踏まえて、防災や減災に関わる諸活動にどのように参加できるかを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・教P. 151
- ・教P. 151の「スキルUP」を活用して、ハザードマップの活用のしかたを調べさせる。
- ・ハザードマップの読み取りに際しては、対象地域だけでなくその周辺地域の様子を把握しなければならないことを押さえる。

- ・例として、2019年10月の台風19号による豪雨では神奈川県箱根町で24時間に942.5mmの降雨があったことなど、想定を上回る状況があり得ることを押さえる。

- ・教P. 152～P. 153

- ・地域によって人口分布に違いがあり、過密・過疎が問題となっていることに着目させる。（位置や分布）
- ・教P. 152の「スキルUP」を活用して、人口ピラミッドの読み取り方を押さえる。
- ・教P. 152～P. 153の資料3～5を活用して、人口密度が高い地域と低い地域の特色に気付かせる。
- 【評】資料から人口密度が高い地域と低い地域の特色とその理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教P. 154～P. 155

- ・日本は鉱産資源に乏しく、外国に多くを依存していることに着目させる。（位置や分布）
- ・資料から、日本は生活や産業を支える資源の多くを輸入に頼っていることに気付かせる。
- ・再生可能エネルギーは、開発が進められているが、エネルギー供給量に占める割合はまだ低いことを押さえる。

- ・教P. 156～P. 159

- ・なぜ農業・漁業・工業・商業・サービス業の分布が異なるのかに着目させる。（地域）
- ・アメリカの企業的農業と比較して、日本の農業の特色をつかませる。
- ・日本の食料自給率の低さを押さえる。
- ・排他的経済水域によって、漁獲方法に変化が生じたことを押さえる。
- ・工業地帯や工業地域について押さえる。

- ・情報化が進んだことにより、インターネットショッピングなどの通信販売が急速に広がったことに気付かせる。

【評】日本のそれぞれの産業が、どのような地域で盛んに行われているか調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

く沿岸部に多い。工業は太平洋ベルトを中心に、内陸部・北陸・東北などへの広がりが見られる。商業・サービス業は太平洋ベルトや仙台・札幌などの地方中枢都市付近に発達している。

11 交通・通信からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。

★交通網や通信網の発達によって、日本の地域間の結びつきはどのように変化したのだろうか。

- 日本と世界を結ぶ交通網について調べる。
- 国内の交通網の発達と生活の変化について調べる。

○通信網の発達と生活の変化について調べる。

○交通・通信からみた日本の地域区分について調べる。

12 学習を振り返り、単元のまとめをする。

★日本の国土全体の特色は、どのように地域区分すると分かりやすく説明できるのだろうか。

- 様々な視点からの地域区分のうち、どの区分を使うと、日本全体の特色をしやすいか考える。
- 日本全体の特色を説明するにあたって、どの区分が重要か考える。
- 日本全体の特色を説明しやすいと考えた区分を白地図に書き込み、オリジナルの地域区分図を作成する。

・教P. 160～P. 161

・人や物資の移動・輸送方法や、通信技術の発展に着目させる。（地域どうしのつながり）

- ・交通の便がよいところに、工場や物流倉庫が集まる傾向が強いことをつかませる。
- ・過疎化が進んでいる地域では、公共交通機関が廃止・減便され、生活が不便になっていることをつかませる。
- ・情報通信技術の進歩によって、インターネットを使って医師の診断が受けられるなど、生活に変化があったことに気付かせる。

・教P. 162

・教P. 162の表を活用させる。

・出来上がった地域区分図を、教P. 138～P. 139の地図の7地方区分と比較させる。

【 備 考 】

## 単元名 近世の日本と世界

配当時間 18時間

- 単元の目標 (1) 近世の日本の大きな流れについて、世界の歴史を背景に、時代の特徴を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 近世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特徴などについて、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したこととを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けることができる。
- (3) 近世の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

11220103\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 中世と近世の将軍の建物を見比べたり、15世紀の世界と日本の動きを大観したりして、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>★中世と近世にはどのような違いがみられるのだろう。</p> <p>○中世と近世の絵を見比べる。</p> <p>○地図や年表を見て、近世の時代の流れや15世紀の日本と世界の様子を大観する。</p> <p>・近世の世界では、陸上にも海上にも貿易ルートができている。日本では、江戸幕府が成立したり、鎖国をしたりしている。</p> <p>○単元の学習問題をつかむ。</p> <p>●「近世」の日本には、どのような特色があるのだろう。</p> <p>○近世社会がつくられていく過程の概略を知り、学習計画を立てる。</p> <p>2 イスラム教とキリスト教の世界について調べる。</p> <p>★イスラム教とキリスト教の世界は、それぞれどのように発展したのだろう。</p> <p>○イスラム教の世界の発展の過程を調べる。</p> <p>○十字軍がキリスト教にもたらした変化を調べる。</p> <p>○宗教改革について調べる。</p> <p>・イスラム教世界と接触したキリスト教世界ではルネサンスや宗教改革などの変化が生じた。</p> <p>■イスラム教とキリスト教はどのようにアジアに広まったのだろう。</p> <p>3 一体化する世界について調べる。</p> <p>★なぜ、世界は一体化したのだろう。</p> <p>○ヨーロッパ諸国が新航路の開拓を進めた理由について調べる。</p> <p>○一体化する世界について調べ、それ以前の世界と比べて何が変わったのかを考えたり、説明したりする。</p> <p>・アジアやアメリカ大陸に植民地が生まれ、多くの先住民やアフリカ人が奴隷とされた。</p> <p>○ヨーロッパ人が世界に進出した理由を話し合い、小単元の学習のまとめをする。</p> <p>4 ヨーロッパ人が日本に来航する過程と織田信長の業績について調べる。</p> <p>★ヨーロッパ人の来航が社会を大きく変えることになったのは、なぜだろう。</p> <p>○鉄砲とキリスト教の伝来が与えた影響について調べる。</p> <p>■信長・秀吉の進めた政治は、社会をどのように変えたのだろう。</p> | <p>・教P. 106～P. 111</p> <p>・中世と近世の様子を比較して、近世の特徴をイメージし、それと同時に第4編の学習問題を明らかにするとともに、近世の時代の流れや15世紀の日本と世界の様子を大観させる。</p> <p>・教P. 108～P. 109の資料を用い、室町幕府と江戸幕府の将軍の建物を比較して、近世の日本に興味をもたせる。</p> <p>・教P. 110の年表を用い、戦国時代を経て安定した江戸時代が続いたことを時系列で捉えさせる。また、教P. 101の地図を用い、アジアとヨーロッパを結ぶイスラム商人の活躍を押さえ、交易の変化が世界を動かしていくことを確認する。</p> <p>【評】近世の日本と世界について調べたり、気付いたことや考えたことを発表したりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・単元を通して、政治、社会、文化、外交の面で、これまでの時代との違いを考えるようにさせる。</p> <p>・近世もまた武士が支配する社会であることやヨーロッパとの接触が近世社会の構築に影響したことを確認する。</p> <p>・教P. 112～P. 113</p> <p>・イスラム教やキリスト教が広まっていく過程に着目して追究させる。(推移)</p> <p>・イスラム教の世界は商人の活動を背景に東西の文化を取り入れた優れた文化を生み出し発展したことを理解させる。</p> <p>・ルネサンスとイスラム文化の関連を捉えさせる。</p> <p>・宗教改革が起こった原因とカトリックが海外布教に向かったことを捉えさせる。</p> <p>【評】イスラム教世界の発展を背景としたキリスト教世界の変化について調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 114～P. 115</p> <p>・ヨーロッパ人が航海や探検に乗り出した地域やその目的に着目して追究させる。(つながり)</p> <p>・ヨーロッパ諸国が直接アジアの産物を入手したいと考えたことを捉えさせる。</p> <p>【評】一体化した世界は、それ以前の世界と比べて何が変わったのかを考えたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 116～P. 117</p> <p>・ヨーロッパ人の来航が統一事業に与えた影響に着目して追究させる。(推移)</p> <p>・教P. 116～P. 117の資料を用い、戦国大名が戦いに鉄砲を取り入れたり、鉄砲が国産化したことに変化に気付かせる。</p> |

- 織田信長の統一事業について調べる。
    - ・桶狭間の戦い      ・室町幕府の滅亡
    - ・長篠の戦い      ・一向一揆との対決
    - ・安土城の築城      ・楽市・楽座令
    - ・キリスト教の保護
  - 鉄砲とキリスト教の伝来が、当時の日本社会に与えた影響について話し合う。
    - ・鉄砲は、織田信長によって使用され、全国統一の歩みを加速させた。
  - 5 豊臣秀吉による全国統一について調べる。
    - ★武士である秀吉が百姓や町人に対する支配を重視したのはなぜだろう。
    - 本能寺の変から全国統一までの過程を調べる。
    - 太閤検地について調べる。
    - 刀狩について調べる。
    - 秀吉がつくろうとした社会は、どのようなものかを説明する。
  - 6 豊臣秀吉の海外政策について調べる。
    - 南蛮図屏風を見て、気付いたことを発表し合う。
    - ★秀吉は東アジアにおける貿易を重視していたにもかかわらず、なぜ朝鮮を侵略したのだろう。
    - 東アジアの貿易について調べる。
    - 朝鮮への侵略について調べる。
  - 7 安土桃山時代の文化について調べる。
    - ★なぜ、豪華・雄大な文化が生み出されたのだろう。
    - 桃山文化について調べる。
      - ・屏風絵や障壁画      ・千利休
      - ・天守閣をもつ城      ・陶磁器
    - この時代の文化の特徴と、それが生み出された理由を調べる。
      - ・これまでの文化とは異なり、大名や町衆が担い手となっている。仏教の影響が小さく、豪華・雄大な文化である。
    - 学習を振り返り、小単元のまとめをする。
  - 8 江戸幕府の成立について調べる。
    - ★江戸幕府は、どのようなしくみで全国を支配しようとしたのだろう。
    - 徳川家康による全国支配確立の過程について調べる。
    - 江戸幕府について調べる。
      - ・大名配置      ・徳川氏の系図
      - ・江戸幕府のしくみ      ・武家諸法度
    - 江戸幕府が長く続いた理由を調べる。
      - ・幕府の圧倒的な経済力と、大名をはじめとするその他の勢力へ厳しい統制を行ったから。
    - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
    - なぜ江戸幕府の支配体制は安定していたのだろう。
  - 9 江戸幕府が行った鎖国について調べる。
    - ★なぜ幕府は、鎖国へと対外政策を変えたのだろう。
    - 鎖国政策をとった前後の状況について調べる。
    - 幕府にとっての鎖国の意義を考えたり、話し合ったりする。
  - 10 江戸幕府と隣接地域との関係とアイヌ文化について調べる。
- ・織田信長が愛知県民にとって身近な人物であることを押さえる。
  - 【評】ヨーロッパ人が伝えた鉄砲とキリスト教が、日本の社会に与えた影響を考えたり、表現したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
  - ・教P. 118～P. 119
  - ・太閤検地と刀狩が、何をどのように変化させたのかに着目して追究させる。（比較）
  - ・太閤検地の前後で、どのような違いが生じたのかをつかませる。
  - ・刀狩の目的を捉えさせ、兵農分離が進んだことを理解させる。
  - ・中世との違いに留意させ、身分と職業が固定された「近世社会」のしくみが整えられたことを理解させる。
  - ・教P. 120～P. 121
  - ・教P. 120の資料を用い、南蛮貿易や南蛮文化に関心をもたせる。
  - ・秀吉の政治と経済に対する考え方や課題に着目して追究させる。（つながり）
  - ・秀吉は倭寇を禁じて貿易を盛んにする一方、アジアの盟主になろうとしていたことを押さえる。
  - ・教P. 121の資料を用い、朝鮮侵略と抵抗の様子を理解させる。
  - ・朝鮮への侵略が、豊臣政権にもたらした影響についても考えさせる。
  - ・教P. 122～P. 123
  - ・桃山文化と室町文化の特徴や、主な担い手の違いに着目して追究させる。（比較）
  - ・絵画、芸能、建築、工芸などの項目別に整理し、それぞれの特色や背景をまとめさせることで、この時代を動かしてきた大名や豪商の存在を捉えられるようにさせる。
  - ・成立した時期、担い手の階層、全体的な特徴の三つの点から整理させる。
  - 【評】この時代の文化が大名や豪商などの町衆たちに支えられた文化であることを調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
  - ・信長・秀吉の政治により、社会がどのように変化したのかについてまとめる。
  - ・教P. 126～P. 127
  - ・江戸幕府の財政や大名統制に着目して追究させる。（つながり）
  - ・教P. 126の年表を用い、武力で他氏を抑えていったことを捉えさせる。
  - ・教P. 127の資料や本文を用い、大名のみならず、その他の勢力へも厳しい統制を図ったことを捉えられるようにする。
  - 【評】江戸幕府による大名支配に関する政策の内容やその目的を調べまとめる活動を通して「知識・技能」を評価する。
  - ・参勤交代など、家光の業績について簡単に触れる。
  - ・教P. 128～P. 129
  - ・江戸時代が始まった頃の貿易、宗教、情報に着目して追究させる。（つながり）
  - ・教P. 128の資料を用い、朱印状が何に使われていたのかを考えさせる。
  - ・教P. 129の年表を用い、キリスト教の禁止と鎖国の流れを捉えさせる。
  - ・鎖国下においても中国とオランダと貿易が行われていたことを押さえる。
  - ・政策転換前後における貿易、宗教、情報の三つの側面の関係性を捉えさせる。
  - ・教P. 130～P. 133

- ★幕府は、朝鮮、琉球、蝦夷地などと、どのような関係をもったのだろう。
- 鎖国下のアジア地域との関係を調べる。
  - アイヌの文化について調べる。
  - 幕府がそれぞれの地域とどのような目的で交流していたのかを考える。
- 11 江戸時代の百姓と町人について調べる。
- ★江戸時代の社会は、どのような特色をもっていたのだろう。
- 武士や百姓、町人、「えた」や「ひにん」身分の人々の暮らしについて調べる。
  - 江戸時代の身分制について調べる。
  - それぞれの身分がどのような社会的な役割を担っていたのかを考えたり、説明したりする。
    - ・武士は支配者として高い身分とされ、治安維持や行政裁判の役割を担った。
- 12 江戸幕府のライバル対策を通して、中世から近世への変化を考える。
- ★江戸幕府のライバル対策を通して、中世から近世への変化を考えよう。
- 江戸幕府が様々な勢力に対して行った政策について調べる。
  - 江戸幕府が諸勢力に対して行った政策のねらいを考えたり、まとめたりする。
  - 中世の武家政治と比較しながら、近世社会の特色を考えたり、話し合ったりする。
  - 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 13 江戸時代の産業と交通網の発達について調べる。
- ★江戸時代の産業や交通は、どのように発達し、社会はどのように変化したのだろう。
- 農業の発達について調べる。
  - 漁業、鉱業、林業について調べる。
  - 都市の発展と交通網の発達について調べる。
    - ・技術の進歩により、諸産業が発達した。それに伴い、都市が発展したり、交通網の整備が進んだりした。
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- なぜ都市を中心とした町人文化が形成されたのだろう。
- 14 江戸時代前期の文化と学問について調べる。
- 江戸時代の人々の楽しみについて考える。
  - ★江戸時代前期には、どのような特色をもった文化や学問が発展したのだろう。
  - 元禄文化について調べる。
    - ・近松門左衛門
    - ・井原西鶴
    - ・松尾芭蕉
    - ・菱川師宣
  - 江戸時代中頃までの学問と教育の状況について調べる。
    - ・社会の安定や諸産業の発達を背景として、庶民の間でも寺子屋で読み・書き・そろばんを学ぶようになるなど教育水準が高まった。
- ・幕府、藩、隣接地域の関係に着目して追究させる。(つながり)
  - ・教P. 130～P. 131の資料を用い、朝鮮と国交を回復したことや琉球王国を征服したことを読み取らせる。
  - ・対馬、薩摩、松前の各藩を通して、朝鮮、琉球、蝦夷地との関係を保持していたことを捉えさせる。
  - ・教P. 132の資料を用い、信仰、くらし、交流の項目から、アイヌ文化が成熟していたことを理解させる。
  - ・教P. 134～P. 135
  - ・江戸時代の人々の身分と役割に着目して追究させる。(つながり)
  - ・被支配階級として百姓が年貢を納め、武士の生活を支えていたことを押さえる。
  - ・教P. 135の資料を用い、商人と職人のくらしについて調べさせる。
  - ・家制度や江戸時代の女性たちの様子についても触れる。
- 【評】江戸時代の社会の特色について、身分ごとの役割を考えたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 136～P. 137
  - ・教P. 136の資料1～4を用い、天皇・公家、大名、寺社、百姓、外国の視点から調べさせる。
  - ・教P. 137の「江戸時代のライバル対策」の表に調べて分かったことをまとめさせる。
  - ・前時までの学習を想起させるため、教科書やノートなどで振り返るよう促す。
  - ・教P. 137の「私が考える中世から近世への時代の変化」に自分の考えを記述させる。
  - ・江戸幕府の支配体制が安定していた理由について、自分の考えをまとめさせる。
  - ・教P. 138～P. 141
  - ・新田開発や新しい技術が開発されたことの影響に着目して追究させる。(つながり)
  - ・教P. 138の資料や本文を用い、新田開発や新しい技術により、田畑の面積や米の生産量が増えたことを理解させる。
  - ・教P. 139の資料を用い、鉱業と漁業が発展したことについて、他地域や他国とのつながりからも捉えさせる。
  - ・教P. 140の資料を用い、産業の発達と交通網の整備、都市の発展の関係を考えさせる。その中で、「半田(愛知県)の酢づくり」にも触れ、当時の様子をよりよく捉えさせる。
- 【評】江戸時代に産業が発達した原因や結果について考えたり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 142～P. 145
  - ・歌舞伎の資料は、観客の身分や性別に着目して読み取るようにさせる。
  - ・時期、場所、担った人々に着目して追究させる。(つながり)
  - ・上方を中心に、町人が担い手となって発達したことを捉えさせる。
  - ・教P. 144の資料を用い、全国に藩校があり、愛知県名古屋市にも「明倫堂」という藩校があったことに触れる。
  - ・前時までに学習した内容を踏まえ、元禄文化

- 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 15 江戸幕府の政治の改革について調べる。
  - ★財政難を克服するために、幕府はどのような対策を行ったのだろう。
  - 徳川綱吉の政治について調べる。
    - ・質を落とした貨幣の発行
    - ・生類憐れみの令
  - 幕府政治の改革により、人々の生活はどのように変化したのだろう。
  - 享保の改革について調べる。
    - ・徳川吉宗
    - ・新田開発
    - ・目安箱
    - ・公事方御定書
  - 田沼意次の政治について調べる。
    - ・株仲間の公認
    - ・印旛沼（千葉県）の干拓
  - 寛政の改革について調べる。
    - ・松平定信
    - ・百姓の出かせぎの制限
    - ・旗本、御家人の借金の帳消し
  - 徳川吉宗や松平定信の改革と、田沼意次の改革との違いを考える。
    - ・徳川吉宗と松平定信の改革が農業を重視し、倹約に努めたのに対し、田沼意次の改革の内容は、商業を重視した政策であった。
- 16 農村の変化と民衆の動きについて調べる。
  - 問屋制家内工業と工場制手工業の二つの絵を比べて、気付いたことを発表し合う。
  - ★江戸時代後半には社会はどのように変化したのだろう。
  - 農村のくらしの変化について調べる。
  - 百姓一揆と打ちこわしについて調べたり、それらが多発した要因について考えたりする。
    - ・年貢が重くなったり、きさんが起こったりして生活が困難になったため、百姓一揆や打ちこわしが増えた。
- 17 江戸時代後期の学問と文化について調べる。
  - 「伊能忠敬の日本地図」を見て、気付いたことや考えたことを発表し合う。
  - ★江戸時代後期には、どのような学問や文化が発達したのだろう。
  - 国学と蘭学について調べる。
    - ・本居宣長
    - ・杉田玄白
    - ・シーボルト
    - ・伊能忠敬
  - 化政文化について調べる。
    - ・狂歌、川柳
    - ・喜多川歌麿
    - ・葛飾北斎
    - ・歌川広重
    - ・瓦版
  - 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 18 学習を振り返り、単元の学習のまとめをする。
  - ★単元の学習問題について、自分の考えをまとめよう。
  - 学習したことを年表や地図を使って振り返る。
  - 「幕府の収入」に着目して、近世の特色を調べる。
  - 学習問題について話し合ったり、自分の考えをまとめたりする。
    - ・近世の社会は、商品の生産、流通、販売といった商品経済が発達した。
  - 明治時代の資料を見て、気付いたことを話し合い、次の単元の見通しをもつ。

が発達した要因についても考えさせる。  
 【評】元禄文化が上方を中心に町人が担い手となって発達したことや、武士や庶民にも学問が広まったことについて調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・教P. 146～P. 147
- ・幕府の財政難の原因に着目して追究させる。（つながり）
- ・教P. 146の資料を用い、幕府の財政の悪化や金の含有率に着目させる。

・賄賂が盛んになって政治が乱れたことや天明のきさんが重なり、田沼意次は老中の座を追われたことを捉えさせる。  
 ・それぞれの改革についてまとめる中で、徳川吉宗や松平定信の改革と、田沼意次の改革とはどのような違いがあるかを考えさせる。  
 【評】江戸幕府による諸改革の内容や結果について調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・教P. 148～P. 149

・社会の変化と民衆の動きに着目して追究させる。（つながり）  
 ・貨幣経済の浸透に伴い、自給自足の生活が大きく変化したことや小作人と地主の階層分化が進んだことなどを捉えさせる。  
 ・教P. 149の資料を用い、百姓一揆や打ちこわしの発件数と気候との関連に気付かせる。  
 【評】百姓一揆や打ちこわしの件数が増えた要因について考えたり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。  
 ・教P. 150～P. 153

・時期、場所、担った人々に着目して追究させる。（つながり）  
 ・国学と蘭学が広まったことと、これらの学問が社会に与えた影響を理解させる。

・江戸を中心に民衆が担い手となって発展したことを捉えさせる。  
 ・元禄文化との違いを、当時の社会情勢の変化に着目して考えさせる。

- ・教P. 156～P. 157

・教P. 156の資料を用い、近世の日本と世界の特色についてまとめさせる。年表では、日本とヨーロッパの動きを時系列で捉えさせる。  
 ・教P. 157の資料を用い、幕府政治の改革について、表を使って整理させる。  
 【評】これまでの学習活動を踏まえ、近世の特色について話し合ったり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。  
 ・「日本の近代化」の学習に関心をもたせる。

【 備 考 】

## 単元名 【旧】日本の諸地域

配当時間 33 時間

単元の目標 (1) 九州地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方、関東地方、東北地方、北海道地方の地域的特色や地域の課題とともに事象間の関係性を理解することができる。

(2) 日本の諸地域において、各地方に考察のしかたを設定し、地域的特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。

(3) 日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる地域の課題を主体的に追究しようとする。

## 旧教科書を用いた展開例

11220201\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 日本の7地方区分についてのイメージを話し合い、単元の学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の七つの地方について、知っていることを発表しよう。</li> <li>○それぞれの地方について知っていることを発表し合う。</li> <li>○単元の学習問題をつかむ。</li> <li>●日本の七つの地方には、どのような地域的特色があるのだろう。</li> <li>○地理的な特色を追究するためのテーマについて話し合い学習計画を立てる。</li> <li>「自然環境」「人口」「歴史的背景」「産業」「交通・通信」「持続可能な社会づくり」</li> </ul> <p>2 九州地方の自然環境や人々の関わりについて調べる。</p> <p>★九州地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○九州地方の地形について調べる。</li> <li>○九州地方の人口の分布について調べる。</li> <li>○温暖で雨の多い九州地方の気候について調べる。</li> <li>○小単元の学習問題をつかむ。</li> <li>■九州地方では自然環境をどのように生かして生活しており、環境保全に関してどのような課題があるのだろう。</li> </ul> <p>3 自然環境に影響を受ける人々の生活について調べる。</p> <p>★九州地方の人々の生活は、火山活動や雨の多い気候と、どのようにかかわっているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○火山と人々の生活について調べる。</li> <li>○火山活動を自然の恵みとして生かす取り組みについて調べる。</li> <li>○気候と人々の生活の関わりについて調べる。</li> </ul> <p>3 工業の変化と自然環境の保全について調べる。</p> <p>★九州地方の工業は、どのように変化しているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○北九州工業地帯の発展と公害について調べる。</li> <li>○変わる九州地方の工業について調べる。</li> <li>○世界の環境首都を目指す北九州市の取り組みについて調べる。</li> <li>・かつて公害を経験している北九州市では、持続可能な社会を実現するために、環境保全のための積極的な取り組みをしている。</li> <li>○九州地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。</li> </ul> <p>4 自然環境の特色を生かした農林水産業について調べる。</p> <p>★九州地方では、自然環境を生かしながら、どのような農林水産業が行われているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○九州地方の稲作について調べる。</li> <li>○九州南部の畜産業と園芸農業について調べる。</li> <li>・平野が広がる北部では、稲作や温暖な気候を利用した</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教P. 169</li> <li>・（地域どうしのつながり、地域）</li> <li>・それぞれの地方では、地方ごとに異なる社会的課題を見だし、追究していくことを押さえる。</li> <li>・教P. 170～P. 172</li> <li>・地形や気候、人口の分布、環境保全などに着目させる。（人と自然とのかかわり）</li> <li>・火山が多いことや、世界最大級のカルデラをもつ阿蘇山があることを押さえる。</li> <li>・教P. 170の資料1と教P. 172の資料1から、地形と人口密度の関わりに気付かせる。</li> <li>・教P. 171の雨温図を活用させる。</li> <li>・教P. 168～P. 169</li> <li>・火山活動や大雨による被害に加えて、火山や気候によるめぐみにも着目させる。（人と自然とのかかわり）</li> <li>・桜島は、現在でもたびたび噴火していることを押さえる。</li> <li>・火山の噴出物が積み重なって、シラス台地が形成されていることを押さえる。</li> <li>・火山活動が活発な九州地方は、日本有数の温泉観光地であることをつかまさせる。</li> <li>・地熱発電が盛んに行われていることを押さえる。</li> <li>・九州地方では、大雨による災害がたびたび発生していることを押さえる。</li> <li>・教P. 173～P. 175</li> <li>・工業生産の変化や、自然環境の回復・保全に向けた取り組みに着目させる。（地域）</li> <li>・小学校で学習した公害について発表させてもよい。</li> <li>・教P. 173を活用して、九州地方の工業は、鉄鋼の生産が盛んであったが、エネルギーが石油に変わったことで、大きな転換期を迎えたことを押さえる。</li> <li>【評】北九州市や水俣市などで行われている環境保全のための取り組みについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・教P. 172, 教P. 176～P. 177</li> <li>・気候や土壌の特色、消費地との関係、過疎化の影響などに着目させる。（人と自然とのかかわり）</li> <li>・教P. 172を活用させる。</li> <li>・温暖な気候を利用して、二毛作が盛んであることをつかまさせる。</li> <li>・教P. 172を活用させる。</li> </ul> |

二毛作が行われている。また、南部では、温暖な気候を利用して園芸農業や、水が少なくやせた土地でも育つさつまいもの栽培、畜産業が盛んに行われている。  
○環境保全と農業・漁業との関係について調べる。

- 5 自然環境を生かした南西諸島の観光業について調べる。  
★なぜ南西諸島にはたくさんの観光客が訪れるのだろう。  
○沖縄の歴史と独自の文化について調べる。

○さんご礁を例に、自然環境を生かした観光業と環境問題について調べる。

○さんご礁を守る取り組みを例に、環境保全と観光の両立を目指す取り組みについて調べる。

- 6 中国・四国地方の自然環境について調べる。  
★中国・四国地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。

○中国・四国地方の三つの地域について調べる。

○山陰の地形・気候と人口の分布について調べる。

○瀬戸内の地形・気候と人口の分布について調べる。

○南四国の地形・気候と人口の分布について調べる。

○小単元の学習問題をつかむ。

■中国・四国地方の人口や都市・村落には、どのような課題があり、解決に向けてどのような取り組みが行われているのだろう。

- 7 人口分布のかたよりと人々の生活について調べる。  
★中国・四国地方の人口はどのように分布していて、どのような課題があるのだろう。  
○人口が集中する瀬戸内について調べる。

○過疎化が進む地域の現状について調べる。  
・政令指定都市の広島市や岡山市、工業が盛んで石油化学コンビナートがある瀬戸内には人口が集中しているが山間部や瀬戸内海の島々は過疎化が進んでいる。

- 8 都市部や農村部を結ぶ交通網について調べる。  
★中国・四国地方の交通網の整備は、人々の生活をどのように変化させたのだろう。  
○東西を結ぶ交通網の整備と地域の変化について調べる。  
○南北を結ぶ交通網の整備と地域の変化について調べる。

○交通網の整備による光と影について調べる。  
・交通網の整備は、短時間で広範囲の移動が安定して可能となったことで工業や観光業などが発展した。一方でフェリーなどの廃止により生活が不便になった人がいたり、買い物客の都市部への流出により地元の商店が衰退したりするなど、人々の生活に様々な影響を与えている

- 9 地域に根差した農業と作り手の人々について調べる。  
★中国・四国地方の過疎地域では、特色のある農業をどのように地域活性化に生かしているのだろう。

○自然環境を生かした中国・四国地方の農業について調べる。  
○農産物を活用した地域活性化について調べる。

【評】九州地方の北部と南部、それぞれの農業の特色を生み出している理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・過疎化が進んでいる地域では、耕作放棄地が増えることに気付かせる。  
・水質汚濁や干拓事業によって、漁業に大きな影響が及ぶことをつかませる。  
・教P. 178～P. 179  
・南西諸島の自然環境や独自の文化がもつ魅力に着目させる。（人と自然とのかかわり）  
・歴史的背景から、沖縄県が独自の文化を発展させた理由に気付かせる。  
・観光客は、温暖な気候と美しい自然を目的として南西諸島を訪れることをつかませる。  
・観光客が訪れることによって、環境問題が生じてしまうことに気付かせる。  
・教P. 182～P. 184  
・地形や気候、人口の分布、三つの地域の特色の違いなどに着目させる。（人と自然とのかかわり）  
・山陰は日本海側の気候区分、瀬戸内は瀬戸内の気候区分、南四国は太平洋側の気候区分に属していることをつかませる。  
・松江の雨温図から、冬の降水量が多いことをつかませる。  
・南北の山地によって季節風がさえぎられるため、1年を通じて降水量が少ない地域であることをつかませる。  
・梅雨や台風の影響で、風水害が起りやすい地域であることをつかませる。

・教P. 185～P. 189  
・過疎地域・過密地域における人や物資の動きに着目させる。（地域どうしのつながり）  
・教P. 185を活用して、工業が盛んな地域に人口が集中していることをつかませる。  
・教P. 188～P. 189を活用して、過疎地域の現状を調べさせる。  
・過疎地域では、公共施設の統廃合や産業の衰退から、過疎化がさらに進んでいることに気付かせる。

【評】中国・四国地方の山陰・瀬戸内・南四国の三つの地域における人口分布の特色を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・教P. 190～P. 191  
・人々の生活が便利になった点と不便になった点に着目させる。（地域どうしのつながり）  
・交通網の整備が、過疎地域の活性化につながることをつかませる。  
・教P. 190の資料3を活用して、高速道路や鉄道を利用して本州と四国を移動する人が多いことに気付かせるとともに、交通網の整備が本州と四国の移動者数、移動時間などに大きな影響を与えていることを押さえる。  
・離島が多い瀬戸内では、旅客船やフェリーの廃止で生活が不便になった人がいることに気付かせる。

【評】交通網の整備により地域の人々の生活に与えた影響を、成果と課題の両面から考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・教P. 184～P. 185、教P. 189  
・地域ブランド化や輸送手段の変化などから、消費地・消費者との関係に着目させる。（地域どうしのつながり）  
・南四国では、1年中温暖な気候を生かし、促成栽培が盛んであることを押さえる。  
・農業従事者の高齢化や後継者不足に対応するため、品種改良をしたり、地域ブランド化を



- 農産物・水産物の輸送手段の変化について知る。
- 地域の魅力を生かした地域活性化について調べる。
  - ・グリーンツーリズム
  - ・エコツーリズム
  - ・Uターン
  - ・Iターン
- 中国・四国地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 10 近畿地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。
  - ★近畿地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。
  - 中部の平地と南北の山地について調べる。
  - 三つの地域で異なる気候について調べる。
- 自然環境と人々の生活について調べる。
- 小単元の学習問題をつかむ。
  - 近畿地方の古くからの歴史は、人々の生活にどのような影響をあたえているのだろう。
- 11 現在にいきづく歴史的都市の特色について調べる。
  - ★歴史的都市である京都や奈良には、どのような特色があるのだろう。
  - 京都・奈良の歴史的な街なみについて調べる。
  - 歴史的な街なみの保存について調べる。
  - 千年の歴史をもつ京都について調べる。
  - 世界中から来る観光客のおもてなしについて調べる。
    - ・京都・奈良では、基盤の目のような道路や道路の名前、茶道や華道など、その特色が日常生活の中で維持され引き継がれている。
- 11 豊かな魅力を生かした地域活性化について調べる。
  - ★中国・四国地方の過疎地域では、どのように地域の魅力を生かした地域活性化を進めているのだろう。
  - 地域の魅力を生かした地域活性化について調べる。
  - 農村と都市の交流による地域活性化について調べる。
  - 中国・四国地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 12 大阪湾に面した都市と世界との結び付きについて調べる
  - ★近畿地方は、歴史的に世界とどのような結びつきをもってきたのだろう。
  - 日本の窓口として大阪湾について調べる。
  - 水の都、大阪の発展について調べる。
  - 世界への窓口となった神戸について調べる。

- はかったりしていることをつかませる。
- ・生産者が加工や販売などにも取り組む「第6次産業」化が進んでいることを押さえる。
- ・旧教科書では、P. 191で触れられている内容のため、本州四国連絡橋や高速道路の開通により、輸送時間が短縮されたことを押さえる
- ・新教科書の次時の内容であるが、旧教科書には該当ページがないため、過疎地域が農業を生かした地域活性化以外に取り組んでいることとして紹介する。
- ・教P. 194～P. 197
- ・地形や気候、人口の分布、地域の歴史などに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・地形と季節風の影響によって、三つの地域で大きく気候が異なることを押さえる。
- ・教P. 195の尾鷲の雨温図から、南部の降水量の多さに気付かせる。
- ・地形と気候の違いが、それぞれの地域の人々の生活に影響を与えていることをつかませる
- ・自然環境の影響の一つとして、特色のある農林業についても調べさせる。
- ・教P. 198～P. 199
- ・かつて首都であった歴史が、地域の景観や文化にどのように影響しているのかに着目させる。（地域どうしのつながり）
- ・教P. 196の資料5を活用して、近畿地方には重要文化財が集中していることをつかませる
- ・京都や奈良では、町屋の内装を工夫して、レストランや喫茶店、宿泊施設などの活用をすることで、歴史的な街なみを維持していることを押さえる。
- ・京都の周辺では、都市に住む住民のために野菜を育てる近郊農業が盛んになったことを押さえる。
- ・新教科書の内容であるが、旧教科書には該当項目がないため、外国人観光客の増加に対応するため、外国語で対応できる周遊ガイドを育成したり、観光客向けツアーを実施してしたりしていることを紹介する。
- 【評】京都や奈良の歴史的都市としての特色を調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 188～P. 191
- ・地域活性化によって、地域がどのように変化しているのかに着目させる。（地域）
- ・過疎地域は、豊かな自然環境に恵まれ、都市部に比べて生活費用が安いなどの利点があることをつかませる。
- ・UターンやIターンで都市部などから移住する人が増えていることをつかませる。
- ・教P. 200～P. 201
- ・時代とともに移り変わる結び付きの形が、地域の産業や文化に与えた影響に着目させる。（地域どうしのつながり）
- ・大阪は、江戸時代に日本の商業の中心であったことから、「天下の台所」をよばれていることを押さえる。
- ・神戸は国際貿易港として開港した都市であることから、外国の影響を受けた都市文化がみ

- 13 伝統を生かした産業と世界進出について調べる。  
 ★歴史や伝統を生かした産業から、新たな技術がどのように生まれてきたのだろう。  
 ○転換期をむかえる阪神工業地帯について調べる。  
 ○世界を目指す企業と伝統産業の取り組みについて調べる。
- 都市の発展を支えた林業について調べる。  
 ・近畿地方の工業は中小企業が多く、他の地方と比べ競争力が弱い。また、林業では高齢化も進んでいる。これらの課題の解決に向けて、伝統工業や林業を観光資源として活用していく方法を考えていきたい。
- 14 中部地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。  
 14 中部地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。  
 ★中部地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。  
 ○「日本の屋根」のある中部地方について調べる。
- 三つの地域の気候の特色について調べる。
- 小単元の学習問題をつかむ。  
 ■中部地方の三つの地域では、それぞれどのような特色のある産業が発達していて、どのような課題があるのだろうか。
- 15 日本を支える工業の中心である東海について調べる。  
 ★なぜ東海では、自動車工業をはじめとした工業が盛んなのだろう。  
 ○自動車工業の盛んな東海について調べる。  
 ○なぜ東海の工業が発展したのかについて調べる。
- 自動車工業の課題について調べる。
- 16 交通網の整備による中央高地の産業の変化について調べる。  
 ★中央高地の産業は、どのように変化しているのだろう。  
 ○地形や気候に適応した特色のある農業について調べる。
- 中央高地の工業の変化について調べる。  
 ○リゾート地としての発展について調べる。  
 ・農業は、夏の冷涼な気候を生かし、他の地域の生産時期とずらして野菜を生産することで、付加価値を付け出荷量を増やすことができた。また、生産した農作物を高速道路を利用することで、新鮮なうちに三大都市圏に運ぶことができ、消費量を拡大させることにつなげることができた。  
 ・工業や観光業は、交通網の発達により、物流や人の流れが大きくなったことが、その発展の大きな理由となっている。
- 16 歴史を生かした観光業の推進について調べる。  
 ★近畿地方では、歴史的な景観や文化財の保全と観光をどう両立させているのだろう。  
 ○世界中からくる観光客のおもてなしについて調べる。
- 歴史的な街なみの保存について調べる。

- られることをつかませる。  
 ・教P. 202の7行目～10行目を活用して、神戸では、外国の影響で肉食文化をいち早く受け入れ、但馬牛（神戸牛）の飼育が盛んになったことを押さえる。  
 ・1995年に阪神・淡路大震災によって大きな被害を受けたことを押さえる。  
 ・教P. 202～P. 203  
 ・都市と結び付いて発展した産業の特色や、世界への進出に着目させる。（地域）
- ・新教科書の次時の内容であるが、旧教科書には該当ページがないため、近畿地方には、他の企業にはない優れた技術力やアイデアを生かして製品を作っている企業があることや中小企業の仲間にも世界的なシェアを誇る工場があることをなどを紹介する。  
 【評】近畿地方の産業が抱える課題と解決に向けた取り組みについて考察する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 206～P. 208  
 ・地形や気候、人口の分布、産業などに着目させる。（人と自然のかかわり）  
 ・「日本の屋根」が太平洋側の東海と日本海側の北陸をへだてていることをつかませる。  
 ・海流や季節風、地形などの影響によって、三つの地域の気候が大きく異なることをつかませる。
- ・教P. 209～P. 211  
 ・三大都市圏との位置関係や、工業製品・部品の輸送に着目させる。（地域どうしのつながり）  
 ・小学校で学習した自動車工業について知っていることを発表させてもよい。  
 ・教P. 209の資料3やP. 210の資料を活用して、東海は三大都市圏に近く、工業製品や部品の輸送に便利な位置にあることが、発展した理由の一つであることに気付かせる。  
 ・国内での販売台数が減少していることをつかませ、どのように競争力を維持しているかとして調べる。  
 ・教P. 212～P. 213
- ・中央高地と三大都市圏との位置関係、交通網の整備に着目させる。（地域どうしのつながり）  
 ・冷涼な気候を生かした高原野菜や、盆地の周辺の扇状地を利用した果物の栽培など、地形や気候を生かした農業を行っていることをつかませる。
- 【評】中央高地の農業・工業・観光業の特色を自然環境や交通網と関連付けながら考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 202～P. 205  
 ・街なみや歴史的遺産の活用方法、保存制度に着目させる。（地域）  
 ・外国人観光客の増加に対応するため、外国語で対応できる周遊ガイドを育成したり、観光客向けのツアーを実施したりしていることを

- 近畿地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 17 自然環境からみた北陸の農業や工業について調べる。
  - ★雪が多い北陸では、どのように農業や工業を発展させてきたのだろう。
  - 水田単作の米作りについて調べる。
  - 伝統産業・地場産業の課題と取り組みについて調べる。
  - 日本の電力を支えてきた中部地方について調べる。
- 18 消費地と結び付く農業・漁業の戦略について調べる。
  - ★なぜ東海では、特色のある農業や漁業が発展したのだろう。
  - 静岡県産の茶の生産と消費地との結び付きについて調べる
  - 温暖な気候と交通網を生かした園芸農業について調べる
  - 焼津港の漁業と消費地との結び付きについて調べる。
    - ・比較的気候が温暖な渥美半島や静岡県沿岸部では園芸農業や茶・みかんが特産となっており、高速道路などの交通網を利用すると、三大都市圏に短時間で新鮮なうちに出荷できる位置にあるため。
- 19 知多半島のどこに工場を建設するか考える。
  - ★知多半島のどこに工場を作るとよいか考えよう。
  - 東海で工業が発展した理由を表に整理する。
  - 知多半島のどこに工場を建設するとよいか考える。
  - グループで話し合い、工場の建設予定地を決める。
    - ・陶磁器工場をCの候補地に建設したい。なぜなら、陶磁器の生産地に近く、国道や高速道路、空港も近いから遠方にまで輸送できると考えたから。
  - 中部地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 20 関東地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。
  - ★関東地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。
  - 低地と台地からなる関東平野について調べる。
  - 乾燥した冬と暑い夏について調べる。
  - 小単元の学習問題をつかむ。
    - 関東地方の多くの人々の活発な活動は、他の地方や外国と、どのようなつながりがあるのだろう。
- 21 世界都市、東京と日本や世界の結び付きについて調べる
  - ★東京は、日本や世界のなかで、どのような役割を果たしているのだろう。
  - 日本の首都・東京について調べる。
    - ・東京は、日本の政治や経済の中心であり、学術施設や

- つかませる。
- ・京都や奈良では、町屋の内装を工夫して、レストランや喫茶店、宿泊施設などの活用することで、歴史的な街なみを維持していることを押さえる。
- ・教P. 214～P. 215
- ・冬に雪の多い地域で、雪とどのように向き合ってきたのかに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・北陸は日本有数の米どころであるが、それは自然環境の影響だけでなく、農地の整備や土壌改良など人々の努力の成果であることをつかませる。
- ・北陸地方の伝統産業や地場産業は、冬の間の農家の副業や江戸時代の特産品から発展したことをつかませる。
- ・中部地方で発電された電力の多くは、近畿地方や関東地方に供給されていることから、日本の電力を支えていることに気付かせる。
- ・教P. 211
- ・東海の農業や漁業について他地域との結び付きに着目させる。（地域どうしのつながり）
- ・台地では、日当たりと水はけがよいことから茶の栽培が盛んであることをつかませる。
- ・温暖な気候と輸送の便のよさから園芸農業が発展した地域であることをつかませるとともに、水不足に悩んできた半島は、かんがいのための用水をつくり農業を発展させたことを押さえる。
- ・新教科書P. 217の内容であるが、旧教科書には該当ページがないため、代表的な漁港である焼津港を紹介する。焼津港は、消費者の魚介類ばなれなどによって消費量が減少しているという課題を克服するために、料理の手間をはぶく水産加工品に加工して販売するなどの努力をしていることや、高速道路に近いため、大消費地に魚介類や水産加工品を運びやすい漁港であることなどを紹介する。
- 【評】中部地方で特色ある産業が発達した理由を、自然環境や交通網の発達と関連付けて考察する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・新教P. 218～P. 219
- ・旧教科書にはない内容であるが、知多半島が題材となっている活動のため、新教科書を活用して取り組ませる。
- ・産業の発展には、地形や交通網の整備などが関係していたことを踏まえて考えさせる。
- 【評】学習した知識を基に、工場建設候補地について話し合い、自分の考えをまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教P. 218～P. 220
- ・地形や気候、人口の分布、土地利用などに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・関東地方の内陸部には、火山灰が積もってきた赤土（関東ローム）におおわれた台地が広がっていることを押さえる。
- ・広い平野のある関東地方では農業が盛んであることや、広い範囲で都市化が進み、日本で最も人口が集中していることなどをつかませる。
- ・海流や季節風、地形などの影響によって、夏は蒸し暑く、冬は温暖な気候となっていることをつかませる。
- ・教P. 222～P. 223
- ・日本の各地方や世界の国々と東京都の関係に

文化施設なども集中しているため一極集中が進んでいるが、人や物資、情報が東京に集中することは、地方の活力が失われる原因の一つとなっている。

○世界都市・東京について調べる。

○日本や世界との交通・通信の結びつきについて調べる。

22 東京大都市圏の人々の結びつきについて調べる。

★東京とその周辺の地域は、どのように結びついているのだろう。

○東京の都心と副都心について調べる。  
○郊外の住宅地の広がりについて調べる。

○過密化を解消するための取り組みについて調べる。  
・中心都市の人口が増加すると、その住宅地が郊外に広がり、衛星都市の人口がやがて増加することになる。衛星都市から中心都市に通勤・通学している人も増加し、ラッシュや交通渋滞などの問題も増加していくことになる。

23 大都市圏を支える工業・農業と物資の移動について調べる。

★東京大都市圏の工業・農業は、周辺の地域とどのように結びついているのだろう。

○臨海部と内陸部の工業地域について調べる。

○大消費地を支える関東地方の農業について調べる。

○関東地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。

24 東北地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。

★東北地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。

○南北にのびる山地と平地について調べる。

○日本海側と太平洋側で異なる気候について調べる。

○地形や気候を生かした人々の生活について調べる。

○小単元の学習問題をつかむ。

■東北地方の人々は、東日本大震災や産業・伝統文化の変化をどのように乗り越えて、持続可能な社会づくりに取り組んでいるのだろう。

25 農業をとりまく環境の変化と農家の対応について調べる

★東北地方の人々は、農業の変化に対してどのような対応をしているのだろう。

○東北地方の農業について調べる。

○減反政策と農産物輸入の増加について調べる。

○新たな農業を目指す人々の取り組みについて調べる。

26 伝統文化の維持と革新について調べる。

★東北地方のさまざまな伝統文化や伝統産業は、どのよう

に着目させる。（地域どうしのつながり）

・新教科書P.230～P.231に、一極集中のリスクや防災を考えた都市の再開発など、都市問題の解決に向けての取り組みが書かれているため、一極集中の原因や課題を考えさせたあとに紹介する。

【評】東京の一極集中の原因とその課題について、多面的・多角的に考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・日本は、世界の政治、経済、文化に大きな影響を与えている国の一つであることをつかませる。

・教P.221を活用して、関東地方はテレビの中心的な放送局や新聞社の企業などが集まり、情報の受信・発信の中心地であることをつかませる。

・教P.224～P.225

・通勤・通学の人の動きに着目させる。（地域どうしのつながり）

・かつては郊外に建設されたニュータウンなどに移り住む人が多かったが、最近は便利さを求めて都心やその周辺にあるマンションなどに引っ越す人が増えていることをつかませる

【評】資料から、都心と郊外の結びつきや都市における諸課題を調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・教P.220～P.221，教P.226～P.227

・高速道路網を中心とした物流に着目させる。（地域どうしのつながり）

・関東地方は、大消費地や製品を作る大企業の本社などが近いことや、貿易港があることから、工業が盛んであることをつかませる。

・過密化が進んで工業用地の確保が難しくなったことで、内陸部でも工業が盛んになったことを押さえる。

・新鮮な農産物を都市に住む人々に供給する近郊農業や、標高が高い地域の高原野菜の生産が盛んであることをつかませる。

・教P.230～P.233

・地形や気候、人口の分布、自然環境を生かした産業などに着目させる。（人と自然とのかかわり）

・南北にのびる三つの山地だけでなく、世界自然遺産の白神山地や、火山が点在していることも押さえる。

・やませによって冷害がもたらされることを押さえる。

・三陸海岸の沖合は、海流がぶつかる潮目であることから、世界でも有数の漁場になっていること、リアス海岸では養殖業が盛んであることをつかませる。

・教P.232～P.233，教P.236

・農産物の輸入などが進むなかでの人々の対応に着目させる。（地域どうしのつながり）

・東北地方は日本の穀倉地帯であることや、扇状地を使った果樹栽培が盛んであることをつかませる。

・食事の洋食化に伴って減反政策が行われてきた一方で、農産物の輸入が増加していることを押さえる。

・東北地方では、安価な輸入農産物に負けない品質の良い農産物の生産に力を入れているこ

に受け継がれているのだろうか。

- 多彩な祭りや年中行事について調べる。
- 伝統文化を維持する取り組みと観光化について調べる。

- 伝統産業にみられる新たな取り組みについて調べる。
  - ・ 伝統的な街並みを守るために、住民の協力によって維持や保存・修復が進められている。

27 東日本大震災に伴う社会の変化について調べる。

- ★ 東北地方の人々の生活や産業は、震災によってどのように変わったのだろうか。

- 震災がもたらした急激な人口の変化について調べる。

- 震災で大きな影響を受けた農業・漁業について調べる。

- 震災で世界にまで影響がおよんだ工業について調べる。
  - ・ 巨大な津波におそわれた地域では、多くの人が他地域に避難したことで急激に人口が減少した。また、原子力発電所の事故による風評被害で、農業や漁業はその販売が大きく落ち込んだ。他地域とのつながりの中で製品を作っていた工業では、東北地方での生産ができなくなったことで他地域の工業にも影響がおよんだ。

27 都市問題の解決に向けての取り組みについて調べる。

- ★ 東京大都市圏では、過密化にともなうさまざまな課題を克服するために、どのような取り組みを行っているのだろうか。

- 強まる一極集中で高まるリスクについて調べる。

- 防災を考えた都市の再開発について調べる。

- 関東地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。

28 震災からの復興と災害に強い地域づくりについて調べる

- ★ 東北地方の人々は、震災をのりこえて新たな地域をつくるために、どのような活動に取り組んでいるのだろうか。

- 震災を伝承していく取り組みについて調べる。

- 災害に強い地域づくりを目指す取り組みについて調べる。
- 東北地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。

29 北海道地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。

- ★ 北海道地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろうか。

- 北の大地の姿について調べる。

- 寒さがきびしく雪の多い冬の気候について調べる。

- 比較的すごしやすい夏の気候について調べる。

- 小単元の学習問題をつかむ。

- 北海道の寒冷な自然環境を、人々はどのように生かした

とをつかませる。

- ・ 教P. 234～P. 237

- ・ 祭りや年中行事の観光化、伝統産業の発展の面から、他地域との結び付きの強まりに着目させる。（地域どうしのつながり）

- ・ 観光化が進む中で、祭りが本来もつ意味を観光客に伝えるなど、伝統文化を守り、育てる取り組みも盛んになっていることを押さえる

- ・ 伝統文化がまちおこし・むらおこしの重要な要素になっている地域もあることを押さえる

- 【評】 古くから続く祭りや伝統的な街並みを守るための取り組みを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 教P. 233

- ・ 震災によって発生した人口や農業・漁業・工業への変化に着目させる。（地域どうしのつながり）

- ・ 旧教科書にはない内容であるが、東日本大震災を扱った新しい内容であるため、新教科書P. 242～P. 243を活用して取り組ませる。

- ・ 東日本大震災で津波に襲われた地域の人々は他県や他地方に避難しなければならなかったこと、原子力発電所の事故による放射性物質の被害を受けた地域は立ち入り禁止になってしまったことなど、当時の状況をつかませる

- ・ 放射性物質の風評被害で、被災地の農作物や水産物の販売が大きく落ち込んでいたことをつかませる。

- 【評】 東北地方に震災が与えた影響について、多面的・多角的に考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 教P. 230～P. 233

- ・ 関東地方の地域的特色を踏まえて、東京大都市圏の変化に着目させる。（地域）

- ・ 高度な都市機能が集中することで、災害が発生したときのリスクが高まることに気付かせる。

- ・ 災害が起きたときの被害を小さくするだけでなく、どのような被害が発生するかを予測して対応できるような施設を建設するなどの工夫をしていることをつかませる。

- ・ 震災からの復興に加えて、のぞましい地域の姿を目指す取り組みに着目させる。（地域）

- ・ 旧教科書にはない内容であるが、東日本大震災を扱った新しい内容であるため、新教科書P. 244～P. 245を活用して取り組ませる。

- ・ 震災で壊れた建物などを「震災遺構」として残すことや、記録を収集・整理して保存することなど、災害を伝承していく取り組みがあることをつかませる。

- ・ 教P. 242～P. 243

- ・ 地形や気候、人口の分布、気候と人々の生活との関係などに着目させる。（人と自然とのかわり）

- ・ 北海道地方には、火山や火山活動によってできた湖が多くみられることを押さえる。

- ・ 教P. 137の資料を活用して、北海道地方の気候区分が冷帯であることをつかませる。

- ・ 教P. 243の雨温図を活用して、北海道地方の

- り克服したりして生活してきたのか、九州地方と比較しながら追究しよう。
- 30 寒冷な気候に対応した人々の生活について調べる。  
 ★北海道の人々の生活は、寒冷な気候にどのように対応しているのだろう。  
 ○札幌市の発展について調べる。
- アイヌの人々と開拓のあゆみについて調べる。
- 現在の北海道の冬の生活について調べる。  
 ・北海道の家屋の屋根は雪でつぶれてしまわないように斜めになっているものが多いが、札幌市などの都市部では平らな屋根になっている。これは、都市部では雪が屋根から落ちたときに人が通行していると危険だからだと考えられる。
- 31 厳しい自然環境を克服した農業や漁業について調べる。  
 ★北海道の農業や漁業は、寒冷な気候などをどのように克服し、あゆんできたのだろう。
- 自然環境を克服してきた稲作や畑作について調べる。
- 酪農の発展と輸送手段の進歩について調べる。  
 ・北海道の気候は、温暖な地域が原産地の稲の生育には適しておらず、土壌改良や品種改良に取り組むことで全国有数の米の生産地となった。また、北海道は火山が多く、火山灰がつもった土地の改良や輪作を行うことで、畑作が行えるようになった。稲作や畑作には適さない地域では、牧草などの飼料を育てて酪農を行っている。
- 食の安全への対応について調べる。
- 32 自然環境を生かした観光と世界との結び付きについて調べる。  
 ★寒冷な自然環境を生かした観光で、北海道は世界とどのように結びついているのだろう。
- 自然環境を生かした観光や、観光による地域の活性化について調べる。
- 冬の寒さを生かした観光について知る。
- 北海道の観光の課題と、環境保全に配慮した観光の取り組みについて調べる。
- 北海道地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 33 学習を振り返り、単元のまとめをする。  
 ★日本の諸地域を振り返ろう。  
 ○教科書で紹介されている写真を見て、どの地方の写真か考える。  
 ○七つの地方の中から一つの地方を選び、その特色を友達に説明する。
- 37 自然環境との共生をはかるための取り組みについて調べる。  
 ★北海道の人々は、自然環境とどのように共生をはかっているのだろう。  
 ○とる漁業から育てる漁業への変化について調べる。
- 環境保全に配慮した観光について調べる。  
 ○北海道地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。

気候をつかませる。

- ・教P. 244～P. 247
- ・寒冷で雪の多い地域での住宅や道路などの工夫に着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・教P. 244の資料を活用して、北海道地方の人口が減少している一方で、札幌市の人口が増加し続けていることに気付かせる。
- ・教P. 247の資料を活用して、アイヌと北海道地方とのつながりをつかませる。
- ・教P. 246の「スキルUP」を活用して、北海道の冬にみられる生活の工夫を調べさせる。
- 【評】寒冷で雪の多い時期における自然環境に対応する工夫を、資料から多面的・多角的に考察する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 248～P. 249
- ・寒冷な気候や農業に適さない土壌を克服するための取り組みに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・本来、夏でも涼しい北海道の気候は、農業に適していないことに気付かせる。
- 【評】厳しい自然環境を克服しながら、どのようにして稲作・畑作・酪農が行われているのかについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・生産費用を下げる努力をするだけでなく、「食の安全」に配慮することで、外国産の安価な農産物に対抗しようとしていることをつかませる。
- ・新教科書P. 258を活用して、北海道の漁業の特色として、養殖業や栽培漁業などへの転換が進められたことや、水産資源の保護との両立などを紹介する。
- ・教P. 250～P. 251
- ・自然環境を生かした観光による地域活性化にどのように取り組んでいるのかに着目させる（地域どうしのつながり）
- ・北海道の雄大な自然環境や歴史的な観光資源などを目的とした観光が盛んであることをつかませる。
- ・雪や氷を楽しむ祭りが各地で開催され、日本各地や世界中から観光客が訪れていることを紹介する。
- ・観光と観光資源を損なうことなく活用することの両立や、交通網の充実が課題であることを押さえる。
- ・教P. 254
- ・一つのテーマを選び、そのテーマについて地方ごとの特色を白地図にまとめたり、友達に紹介させたりしてもよい。
- ・教P. 258～P. 261
- ・環境保全と様々な産業を両立させるための取り組みに着目させる。（地域）
- ・地図帳P. 144を活用して、北海道の漁業についてつかませる。

## 単元名 日本の諸地域

配当時間 38 時間

単元の目標 (1) 九州地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方、関東地方、東北地方、北海道地方の地域的特色や地域の課題とともに事象間の関係性を理解することができる。

(2) 日本の諸地域において、各地方に考察のしかたを設定し、地域的特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。

(3) 日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる地域の課題を主体的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

11220202\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 日本の7地方区分についてのイメージを話し合い、単元の学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の七つの地方について、知っていることを発表しよう。</li> <li>○それぞれの地方について知っていることを発表し合う。</li> <li>○単元の学習問題をつかむ。</li> <li>●日本の七つの地方には、どのような地域的特色があるのだろう。</li> <li>○地理的な特色を追究するためのテーマについて話し合い学習計画を立てる。</li> <li>「自然環境」「人口」「歴史的背景」「産業」「交通・通信」「持続可能な社会づくり」</li> </ul> <p>2 九州地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。</p> <p>★九州地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○九州地方の地形と人口分布について調べる。</li> <li>○温暖で雨の多い九州地方の気候について調べる。</li> <li>○小単元の学習問題をつかむ。</li> <li>■九州地方では自然環境をどのように生かして生活しており、環境保全に関してどのような課題があるのだろう。</li> </ul> <p>3 自然環境に影響を受ける人々の生活について調べる。</p> <p>★九州地方の人々の生活は、火山活動や雨の多い気候と、どのようにかかわっているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○火山と人々の生活について調べる。</li> <li>○火山活動を自然の恵みとして生かす取り組みについて調べる。</li> <li>○気候と人々の生活の関わりについて調べる。</li> </ul> <p>4 自然環境の特色を生かした農林水産業について調べる。</p> <p>★九州地方では、自然環境を生かしながら、どのような農林水産業が行われているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○九州地方の稲作について調べる。</li> <li>○九州南部の畜産業と園芸農業について調べる。</li> <li>・平野が広がる北部では、稲作や温暖な気候を利用した二毛作が行われている。また、南部では、温暖な気候を利用した園芸農業や、水が少なくやせた土地でも育つさつまいもの栽培、畜産業が盛んに行われている。</li> <li>○過疎化の影響と農業について調べる。</li> </ul> <p>5 自然環境を生かした南西諸島の観光業について調べる。</p> <p>★なぜ南西諸島にはたくさんの観光客が訪れるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然環境を生かした観光業について調べる。</li> <li>○沖縄の歴史と独自の文化について調べる。</li> <li>○環境保全と観光の両立を目指す取り組みについて調べる</li> </ul> <p>6 工業の変化と自然環境の保全について調べる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教P. 163</li> <li>・（地域どうしのつながり、地域）</li> <li>・前の単元で学習した五つの視点から、知っていることを発表させる。</li> <li>・それぞれの地方では、地方ごとに異なる社会的課題を見だし、追究していくことを押さえる。</li> <li>・教P. 164～P. 167</li> <li>・地形や気候、人口の分布、環境保全などに着目させる。（人と自然とのかかわり）</li> <li>・火山が多いことや、世界最大級のカルデラをもつ阿蘇山があることを押さえる。</li> <li>・教P. 166の資料1～2を活用して、地形と人口密度の関わりに気付かせる。</li> <li>・教P. 166の雨温図を活用させる。</li> <li>・教P. 168～P. 169</li> <li>・火山活動や大雨による被害に加えて、火山や気候によるめぐみにも着目させる。（人と自然とのかかわり）</li> <li>・桜島は、現在でもたびたび噴火していることを押さえる。</li> <li>・火山の噴出物が積み重なって、シラス台地が形成されていることを押さえる。</li> <li>・火山活動が活発な九州地方は、日本有数の温泉観光地であることをつかませる。</li> <li>・地熱発電が盛んに行われていることを押さえる。</li> <li>・九州地方では、大雨による災害がたびたび発生していることを押さえる。</li> <li>・教P. 170～P. 171</li> <li>・気候や土壌の特色、消費地との関係、過疎化の影響などに着目させる。（人と自然とのかかわり）</li> <li>・温暖な気候を利用して、二毛作が盛んであることをつかませる。</li> <li>【評】九州地方の北部と南部、それぞれの農業の特色を生み出している理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・過疎化が進んでいる地域では、耕作放棄地が増えてしまうことに気付かせる。</li> <li>・教P. 172～P. 173</li> <li>・南西諸島の自然環境や独自の文化がもつ魅力に着目させる。（人と自然とのかかわり）</li> <li>・観光客は、温暖な気候と美しい自然を目的として南西諸島を訪れることをつかませる。</li> <li>・歴史的背景から、沖縄県が独自の文化を発展させた理由に気付かせる。</li> <li>・観光客が訪れることによって、環境問題が生じてしまうことに気付かせる。</li> </ul> |



- 九州地方の工業は、どのように変化しているのだろう。
- 北九州工業地帯の発展と公害について調べる。
- 変わる九州地方の工業について調べる。
- 世界の環境首都を目指す北九州市の取り組みについて調べる。
  - ・かつて公害を経験している北九州市では、持続可能な社会を実現するために、環境保全のための積極的な取り組みをしている。
- 九州地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 7 中国・四国地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。
  - ★中国・四国地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。
  - 中国・四国地方の三つの地域について調べる。
  - 山陰の地形・気候と人口の分布について調べる。
  - 瀬戸内の地形・気候と人口の分布について調べる。
  - 南四国の地形・気候と人口の分布について調べる。
  - 小単元の学習問題をつかむ。
  - 中国・四国地方の人口や都市・村落には、どのような課題があり、解決に向けてどのような取り組みが行われているのだろう。
- 8 人口分布のかたよりと人々の生活について調べる。
  - ★中国・四国地方の人口はどのように分布していて、どのような課題があるのだろう。
  - 人口が集中する瀬戸内について調べる。
  - 過疎化が進む地域の現状について調べる。
    - ・政令指定都市の広島市や岡山市、工業が盛んで石油化学コンビナートがある瀬戸内には人口が集中しているが山間部や瀬戸内海の島々は過疎化が進んでいる。
- 9 都市部や農村部を結ぶ交通網について調べる。
  - ★中国・四国地方の交通網の整備は、人々の生活をどのように変化させたのだろう。
  - 東西を結ぶ交通網の整備と地域の変化について調べる。
  - 南北を結ぶ交通網の整備と地域の変化について調べる。
  - 交通網の整備による光と影について調べる。
    - ・交通網の整備は、短時間で広範囲の移動が安定して可能となったことで工業や観光業などが発展した。一方でフェリーなどの廃止により生活が不便になった人がいたり、買い物客の都市部への流出により地元の商店が衰退したりするなど、人々の生活に様々な影響を与えている
- 10 地域に根差した農業と作り手の人々について調べる。
  - ★中国・四国地方の過疎地域では、特色のある農業をどのように地域活性化に生かしているのだろう。
  - 自然環境を生かした中国・四国地方の農業について調べる。
  - 農産物を活用した地域活性化について調べる。
  - 農産物・水産物の輸送手段の変化について調べる。
- 11 豊かな魅力を生かした地域活性化について調べる。
  - ★中国・四国地方の過疎地域では、どのように地域の魅力を生かした地域活性化を進めているのだろう。
- ・教P. 174～P. 177
  - ・工業生産の変化や、自然環境の回復・保全に向けた取り組みに着目させる。（地域）
  - ・小学校で学習した公害について発表させてもよい。
- 【評】北九州市や水俣市などで行われている環境保全のための取り組みについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 178～P. 181
  - ・地形や気候、人口の分布、三つの地域の特色の違いなどに着目させる。（人と自然とのかかわり）
  - ・山陰は日本海側の気候区分、瀬戸内は瀬戸内の気候区分、南四国は太平洋側の気候区分に属していることをつかませる。
  - ・松江の雨温図から、冬の降水量が多いことをつかませる。
  - ・南北の山地によって季節風がさえぎられるため、1年を通じて降水量が少ない地域であることをつかませる。
  - ・梅雨や台風の影響で、風水害が起こりやすい地域であることをつかませる。
- ・教P. 182～P. 183
  - ・過疎地域・過密地域における人や物資の動きに着目させる。（地域どうしのつながり）
  - ・工業が盛んな地域に人口が集中していることをつかませる。
  - ・過疎地域では、公共施設の統廃合や産業の衰退から、過疎化がさらに進んでいることに気付かせる。
- 【評】中国・四国地方の山陰・瀬戸内・南四国の三つの地域における人口分布の特色を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 184～P. 185
  - ・人々の生活が便利になった点と不便になった点に着目させる。（地域どうしのつながり）
  - ・交通網の整備が、過疎地域の活性化につながることをつかませる。
  - ・教P. 185の資料3～5を活用して、高速道路の開通が本州と四国の移動手段や移動者数、移動時間などに大きな影響を与えていることに気付かせる。
  - ・離島が多い瀬戸内では、旅客船やフェリーの廃止で生活が不便になった人がいることに気付かせる。
- 【評】交通網の整備により地域の人々の生活に与えた影響を、成果と課題の両面から考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 186～P. 187
  - ・地域ブランド化や輸送手段の変化などから、消費地・消費者との関係に着目させる。（地域どうしのつながり）
  - ・南四国では、1年中温暖な気候を生かし、促成栽培が盛んであることを押さえる。
  - ・農業従事者の高齢化や後継者不足に対応するため、品種改良をしたり、地域ブランド化をはかっていることをつかませる。
  - ・生産者が加工や販売などにも取り組む「第6次産業」化が進んでいることを押さえる。
  - ・本州四国連絡橋や高速道路の開通により、輸送時間が短縮されたことに気付かせる。
- ・教P. 188～P. 191
  - ・地域活性化によって、地域がどのように変化



|  |   |
|--|---|
| <p>○地域の魅力を生かした地域活性化について調べる。</p> <p>○農村と都市の交流による地域活性化について調べる。</p> <p>○中国・四国地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。</p> <p>12 近畿地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。<br/> ★近畿地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。<br/> ○中部の平地と南北の山地について調べる。<br/> ○三つの地域で異なる気候について調べる。</p> <p>○自然環境と人々の生活について調べる。</p> <p>○小単元の学習問題をつかむ。<br/> ■近畿地方の古くからの歴史は、人々の生活にどのような影響をあたえているのだろう。</p> <p>13 現在にいきづく歴史的都市の特色について調べる。<br/> ★歴史的都市である京都や奈良には、どのような特色があるのだろう。</p> <p>○豊かな歴史に支えられた近畿地方について調べる。</p> <p>○千年の歴史をもつ京都について調べる。<br/> ○日本の歴史のふるさと、奈良について調べる。<br/> ・京都・奈良では、基盤の目のような道路や道路の名前茶道や華道など、その特色が日常生活の中で維持され引き継がれている。</p> <p>14 大阪湾に面した都市と世界との結び付きについて調べる<br/> ★近畿地方は、歴史的に世界とどのような結びつきをもってきたのだろう。</p> <p>○日本の窓口として大阪湾について調べる。<br/> ○水の都、大阪の発展について調べる。</p> <p>○世界への窓口となった神戸について調べる。</p> <p>15 伝統を生かした産業と世界進出について調べる。<br/> ★歴史や伝統を生かした産業から、新たな技術がどのように生まれてきたのだろう。<br/> ○転換期をむかえる阪神工業地帯について調べる。<br/> ○世界を目指す企業と伝統産業の取り組みについて調べる<br/> ○都市の発展を支えた林業について調べる。<br/> ・近畿地方の工業は中小企業が多く、他の地方と比べ競争力が弱い。また、林業では高齢化も進んでいる。これらの課題の解決に向けて、伝統工業や林業を観光資源として活用していく方法を考えていきたい。</p> <p>16 歴史を生かした観光業の推進について調べる。<br/> ★近畿地方では、歴史的な景観や文化財の保全と観光をどう両立させているのだろう。<br/> ○世界中からくる観光客のおもてなしについて調べる。</p> <p>○歴史的な街なみの保存について調べる。</p> <p>○近畿地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。</p> <p>17 中部地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。<br/> ★中部地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。<br/> ○「日本の屋根」のある中部地方について調べる。</p> | <p>しているのかに着目させる。（地域）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過疎地域は、豊かな自然環境に恵まれ、都市部に比べて生活費用が安いなどの利点があることをつかませる。</li> <li>・UターンやIターンで都市部などから移住する人が増えていることをつかませる。</li> </ul> <p>・教P. 192～P. 195</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地形や気候、人口の分布、地域の歴史などに着目させる。（人と自然とのかかわり）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地形と季節風の影響によって、三つの地域で大きく気候が異なることを押さえる。</li> <li>・教P. 194の尾鷲の雨温図から、南部の降水量の多さに気付かせる。</li> <li>・地形と気候の違いが、それぞれの地域の人々の生活に影響を与えていることをつかませる</li> </ul> <p>・教P. 196～P. 197</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かつて首都であった歴史が、地域の景観や文化にどのように影響しているのかに着目させる。（地域どうしのつながり）</li> <li>・教P. 196の資料2を活用して、近畿地方には重要文化財が集中していることをつかませる</li> </ul> <p>【評】京都や奈良の歴史的都市としての特色を調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 198～P. 199</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代とともに移り変わる結び付きの形が、地域の産業や文化に与えた影響に着目させる。（地域どうしのつながり）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪は、江戸時代に日本の商業の中心であったことから、「天下の台所」をよばれていることを押さえる。</li> <li>・神戸は国際貿易港として開港した都市であることから、外国の影響を受けた都市文化がみられることをつかませる。</li> <li>・1995年に阪神・淡路大震災によって大きな被害を受けたことを押さえる。</li> <li>・教P. 200～P. 201</li> <li>・都市と結び付いて発展した産業の特色や、世界への進出に着目させる。（地域）</li> </ul> <p>【評】近畿地方の産業が抱える課題と解決に向けた取り組みについて考察する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 202～P. 205</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街なみや歴史的遺産の活用方法、保存制度に着目させる。（地域）</li> <li>・外国人観光客の増加に対応するため、外国語で対応できる周遊ガイドを育成したり、観光客向けのツアーを実施したりしていることをつかませる。</li> <li>・京都や奈良では、町屋の内装を工夫して、レストランや喫茶店、宿泊施設などの活用することで、歴史的な街なみを維持していることを押さえる。</li> </ul> <p>・教P. 206～P. 209</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地形や気候、人口の分布、産業などに着目させる。（人と自然とのかかわり）</li> <li>・「日本の屋根」が太平洋側の東海と日本海側</li> </ul> |
|--|---|

- 三つの地域の気候の特色について調べる。
  - 小単元の学習問題をつかむ。
  - 中部地方の三つの地域では、それぞれどのような特色のある産業が発達していて、どのような課題があるのだろうか。
  - 18 日本を支える工業の中心である東海について調べる。
    - ★ なぜ東海では、自動車工業をはじめとした工業が盛んなのだろうか。
    - 自動車工業の盛んな東海について調べる。
    - なぜ東海の工業が発展したのかについて調べる。
    - 自動車工業の課題について調べる。
  - 19 交通網の整備による中央高地の産業の変化について調べる。
    - ★ 中央高地の産業は、どのように変化しているのだろうか。
    - 地形や気候に適応した特色のある農業について調べる。
    - 中央高地の工業の変化について調べる。
    - リゾート地としての発展について調べる。
      - ・ 農業は、夏の冷涼な気候を生かし、他の地域の生産時期とずらして野菜を生産することで、付加価値を付け出荷量を増やすことができた。また、生産した農作物を高速道路を利用することで、新鮮なうちに三大都市圏に運ぶことができ、消費量を拡大させることにつながることができた。
      - ・ 工業や観光業は、交通網の発達により、物流や人の流れが大きくなったことが、その発展の大きな理由となっている。
  - 20 自然環境からみた北陸の農業や工業について調べる。
    - ★ 雪が多い北陸では、どのように農業や工業を発展させてきたのだろうか。
    - 水田単作の米作りについて調べる。
    - 伝統産業・地場産業の課題と取り組みについて調べる。
    - 日本の電力を支えてきた中部地方について調べる。
  - 21 消費地と結び付く農業・漁業の戦略について調べる。
    - ★ なぜ東海では、特色のある農業や漁業が発展したのだろうか。
    - 静岡県の子の生産と消費地との結び付きについて調べる。
    - 温暖な気候と交通網を生かした園芸農業について調べる。
    - 焼津港の漁業と消費地との結び付きについて調べる。
      - ・ 比較的気候が温暖な渥美半島や静岡県沿岸部では園芸農業や茶・みかんが特産となっており、高速道路などの交通網を利用すると、三大都市圏に短時間で新鮮なうちに出荷できる位置にあるため。
  - 22 知多半島のどこに工場を建設するか考える。
    - ★ 知多半島のどこに工場を作るとよいか考えよう。
    - 東海で工業が発展した理由を表に整理する。
    - 知多半島のどこに工場を建設するとよいか考える。
    - グループで話し合い、工場の建設予定地を決める。
- の北陸をへだてていることをつかませる。
- ・ 海流や季節風、地形などの影響によって、三つの地域の気候が大きく異なることをつかませる。
  - ・ 教P. 210～P. 211
  - ・ 三大都市圏との位置関係や、工業製品・部品の輸送に着目させる。（地域どうしのつながり）
  - ・ 小学校で学習した自動車工業について知っていることを発表させてもよい。
  - ・ 教P. 211の資料を活用して、東海は三大都市圏に近く、工業製品や部品の輸送に便利な位置にあることが、発展した理由の一つであることに気付かせる。
  - ・ 国内での販売台数が減少していることをつかませ、どのように競争力を維持していこうとしているかを調べさせる。
  - ・ 教P. 212～P. 213
  - ・ 中央高地と三大都市圏との位置関係、交通網の整備に着目させる。（地域どうしのつながり）
  - ・ 冷涼な気候を生かした高原野菜や、盆地の周辺の扇状地を利用した果物の栽培など、地形や気候を生かした農業を行っていることをつかませる。
- 【評】 中央高地の農業・工業・観光業の特色を自然環境や交通網と関連付けながら考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 教P. 214～P. 215
  - ・ 冬に雪の多い地域で、雪とどのように向き合ってきたのかに着目させる。（人と自然のかかわり）
  - ・ 北陸は日本有数の米どころであるが、それは自然環境の影響だけでなく、農地の整備や土壌改良など人々の努力の成果であることをつかませる。
  - ・ 北陸地方の伝統産業や地場産業は、冬の間の農家の副業や江戸時代の特産品から発展したことをつかませる。
  - ・ 中部地方で発電された電力の多くは、近畿地方や関東地方に供給されていることから、日本の電力を支えていることに気付かせる。
  - ・ 教P. 216～P. 217
  - ・ 東海の農業や漁業について他地域との結び付きに着目させる。（地域どうしのつながり）
  - ・ 台地では、日当たりと水はけがよいことから茶の栽培が盛んであることをつかませる。
  - ・ 温暖な気候と輸送の便のよさから園芸農業が発展した地域であることをつかませるとともに、水不足に悩んできた半島は、かんがいのための用水をつくり農業を発展させたことを押さえる。
  - 【評】 中部地方で特色ある産業が発展した理由を、自然環境や交通網の発達と関連付けて考察する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
  - ・ 教P. 218～P. 219
  - ・ 産業の発展には、地形や交通網の整備などが

|   |   |
|---|---|
| <p>・陶磁器工場をCの候補地に建設したい。なぜなら、陶磁器の生産地に近く、国道や高速道路、空港も近いので遠方にまで輸送できると考えたから。</p> <p>○中部地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。</p> <p>23 関東地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。</p> <p>★関東地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。</p> <p>○低地と台地からなる関東平野について調べる。</p> <p>○乾燥した冬と暑い夏について調べる。</p> <p>○小単元の学習問題をつかむ。</p> <p>■関東地方の多くの人々の活発な活動は、他の地方や外国と、どのようなつながりがあるのだろう。</p> <p>24 世界都市、東京と日本や世界の結び付きについて調べる</p> <p>★東京は、日本や世界のなかで、どのような役割を果たしているのだろう。</p> <p>○日本の首都・東京について調べる。</p> <p>・東京は、日本の政治や経済の中心であり、学術施設や文化施設なども集中しているため一極集中が進んでいるが、人や物資、情報が東京に集中することは、地方の活力が失われる原因の一つとなっている。</p> <p>○世界都市・東京について調べる。</p> <p>25 東京大都市圏の人々の結び付きについて調べる。</p> <p>★東京とその周辺の地域は、どのように結びついているのだろう。</p> <p>○東京の都心と副都心について調べる。</p> <p>○郊外の住宅地の広がりについて調べる。</p> <p>○過密化を解消するための取り組みについて調べる。</p> <p>・中心都市の人口が増加すると、その住宅地が郊外に広がり、衛星都市の人口がやがて増加することになる。衛星都市から中心都市に通勤・通学している人も増加し、ラッシュや交通渋滞などの問題も増加していくことになる。</p> <p>26 大都市圏を支える工業・農業と物資の移動について調べる。</p> <p>★東京大都市圏の工業・農業は、周辺の地域とどのように結びついているのだろう。</p> <p>○臨海部と内陸部の工業地域について調べる。</p> <p>○大消費地を支える関東地方の農業について調べる。</p> <p>27 都市問題の解決に向けての取り組みについて調べる。</p> <p>★東京大都市圏では、過密化にともなうさまざまな課題を克服するために、どのような取り組みを行っているのだろう。</p> <p>○強まる一極集中で高まるリスクについて調べる。</p> <p>○防災を考えた都市の再開発について調べる。</p> <p>○関東地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。</p> <p>28 東北地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。</p> <p>★東北地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。</p> <p>○南北にのびる山地と平地について調べる。</p> | <p>関係していたことを踏まえて考えさせる。</p> <p>【評】学習した知識を基に、工場建設候補地について話し合い、自分の考えをまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教P. 220～P. 223</p> <p>・地形や気候、人口の分布、土地利用などに着目させる。（人と自然とのかかわり）</p> <p>・関東地方の内陸部には、火山灰が積もってできた赤土（関東ローム）におおわれた台地が広がっていることを押さえる。</p> <p>・海流や季節風、地形などの影響によって、夏は蒸し暑く、冬は温暖な気候となっていることをつかませる。</p> <p>・教P. 224～P. 225</p> <p>・日本の各地方や世界の国々と東京都の関係に着目させる。（地域どうしのつながり）</p> <p>【評】東京の一極集中の原因とその課題について、多面的・多角的に考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・日本は、世界の政治、経済、文化に大きな影響を与えている国の一つであることをつかませる。</p> <p>・教P. 226～P. 227</p> <p>・通勤・通学の人の動きに着目させる。（地域どうしのつながり）</p> <p>・地図帳P. 128を活用させる。</p> <p>・かつては郊外に建設されたニュータウンなどに移り住む人が多かったが、最近は便利さを求めて都心やその周辺にあるマンションなどに引っ越す人が増えていることをつかませる</p> <p>【評】資料から、都心と郊外の結び付きや都市における諸課題を調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 228～P. 229</p> <p>・高速道路網を中心とした物流に着目させる。（地域どうしのつながり）</p> <p>・関東地方は、大消費地や製品を作る大企業の本社などが近いことや、貿易港があることから、工業が盛んであることをつかませる。</p> <p>・過密化が進んで工業用地の確保が難しくなったことで、内陸部でも工業が盛んになったことを押さえる。</p> <p>・新鮮な農産物を都市に住む人々に供給する近郊農業や、標高が高い地域の高原野菜の生産が盛んであることをつかませる。</p> <p>・教P. 230～P. 233</p> <p>・関東地方の地域的特色を踏まえて、東京大都市圏の変化に着目させる。（地域）</p> <p>・高度な都市機能が集中することで、災害が発生したときのリスクが高まることに気付かせる。</p> <p>・災害が起きたときの被害を小さくするだけでなく、どのような被害が発生するかを予測して対応できるような施設を建設するなどの工夫をしていることをつかませる。</p> <p>・教P. 234～P. 237</p> <p>・地形や気候、人口の分布、自然環境を生かした産業などに着目させる。（人と自然とのかかわり）</p> |
|---|---|

|   |  |
|---|--|
| <p>○日本海側と太平洋側で異なる気候について調べる。</p> <p>○地形や気候を生かした人々の生活について調べる。</p> <p>○小単元の学習問題をつかむ。</p> <p>■東北地方の人々は、東日本大震災や産業・伝統文化の変化をどのように乗り越えて、持続可能な社会づくりに取り組んでいるのだろう。</p> <p>29 農業をとりまく環境の変化と農家の対応について調べる</p> <p>★東北地方の人々は、農業の変化に対してどのような対応をしているのだろう。</p> <p>○東北地方の農業について調べる。</p> <p>○減反政策と農産物輸入の増加について調べる。</p> <p>○新たな農業を目指す人々の取り組みについて調べる。</p> <p>30 伝統文化の維持と革新について調べる。</p> <p>★東北地方のさまざまな伝統文化や伝統産業は、どのように受け継がれているのだろうか。</p> <p>○多彩な祭りや年中行事について調べる。</p> <p>○伝統文化を維持する取り組みと観光化について調べる。</p> <p>○伝統産業にみられる新たな取り組みについて調べる。</p> <p>・伝統的な街並みを守るために、住民の協力によって維持や保存・修復が進められている。</p> <p>31 東日本大震災に伴う社会の変化について調べる。</p> <p>★東北地方の人々の生活や産業は、震災によってどのように変わったのだろう。</p> <p>○震災がもたらした急激な人口の変化について調べる。</p> <p>○震災で大きな影響を受けた農業・漁業について調べる。</p> <p>○震災で世界にまで影響がおよんだ工業について調べる。</p> <p>・巨大な津波におそわれた地域では、多くの人が他地域に避難したことで急激に人口が減少した。また、原子力発電所の事故による風評被害で、農業や漁業はその販売が大きく落ち込んだ。他地域とのつながりの中で製品を作っていた工業では、東北地方での生産ができなくなったことで他地域の工業にも影響がおよんだ。</p> <p>32 震災からの復興と災害に強い地域づくりについて調べる</p> <p>★東北地方の人々は、震災をのりこえて新たな地域をつくるために、どのような活動に取り組んでいるのだろう。</p> <p>○震災を伝承していく取り組みについて調べる。</p> <p>○災害に強い地域づくりを目指す取り組みについて調べる</p> <p>○東北地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。</p> <p>33 北海道地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。</p> <p>★北海道地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。</p> | <p>・南北にのびる三つの山地だけでなく、世界自然遺産の白神山地や、火山が点在していることも押さえる。</p> <p>・やませによって冷害がもたらされることを押さえる。</p> <p>・三陸海岸の沖合は、海流がぶつかる潮目であることから、世界でも有数の漁場になっていること、リアス海岸では養殖業が盛んであることをつかませる。</p> <p>・教P. 238～P. 239</p> <p>・農産物の輸入などが進むなかでの人々の対応に着目させる。(地域どうしのつながり)</p> <p>・地図帳P. 132を活用させる。</p> <p>・東北地方は日本の穀倉地帯であることや、扇状地を使った果樹栽培が盛んであることをつかませる。</p> <p>・食事の洋食化に伴って減反政策が行われてきた一方で、農産物の輸入が増加していることを押さえる。</p> <p>・東北地方では、安価な輸入農産物に負けない品質の良い農産物の生産に力を入れていることをつかませる。</p> <p>・教P. 240～P. 241</p> <p>・祭りや年中行事の観光化、伝統産業の発展の面から、他地域との結び付きの強まりに着目させる。(地域どうしのつながり)</p> <p>・地図帳P. 131を活用させる。</p> <p>・観光化が進む中で、祭りが本来もつ意味を観光客に伝えるなど、伝統文化を守り、育てる取り組みも盛んになっていることを押さえる</p> <p>・伝統文化がまちおこし・むらおこしの重要な要素になっている地域もあることを押さえる</p> <p>【評】古くから続く祭りや伝統的な街並みを守るための取り組みを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 242～P. 243</p> <p>・震災によって発生した人口や農業・漁業・工業への変化に着目させる。(地域どうしのつながり)</p> <p>・東日本大震災で津波に襲われた地域の人々は他県や他地方に避難しなければならなかったこと、原子力発電所の事故による放射性物質の被害を受けた地域は立ち入り禁止になってしまったことなど、当時の状況をつかませる</p> <p>・放射性物質の風評被害で、被災地の農作物や水産物の販売が大きく落ち込んでいたことをつかませる。</p> <p>【評】東北地方に震災が与えた影響について、多面的・多角的に考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 244～P. 247</p> <p>・震災からの復興に加えて、のぞましい地域の姿を目指す取り組みに着目させる。(地域)</p> <p>・震災で壊れた建物などを「震災遺構」として残すことや、記録を収集・整理して保存することなど、災害を伝承していく取り組みがあることをつかませる。</p> <p>・教P. 248～P. 251</p> <p>・地形や気候、人口の分布、気候と人々の生活</p> |
|---|--|

- 北の大地の姿について調べる。
- 寒さがきびしく雪の多い冬の気候について調べる。
- 比較的過ごしやすい夏の気候について調べる。
- 小単元の学習問題をつかむ。
- 北海道の寒冷な自然環境を、人々はどのように生かしたり克服したりして生活してきたのか、九州地方と比較しながら追究しよう。
- 34 寒冷な気候に対応した人々の生活について調べる。
- ★北海道の人々の生活は、寒冷な気候にどのように対応しているのだろう。
- アイヌの人々と開拓のあゆみについて調べる。
- 現在の北海道の冬の生活について調べる。
  - ・北海道の家屋の屋根は雪でつぶれてしまわないように斜めになっているものが多いが、札幌市などの都市部では平らな屋根になっている。これは、都市部では雪が屋根から落ちたときに人が通行していると危険だからだと考えられる。
- 札幌市の発展について調べる。
- 35 厳しい自然環境を克服した農業について調べる。
- ★北海道の農業は、寒冷な気候などをどのように克服し、あゆんできたのだろう。
- 自然環境を克服してきた稲作や畑作について調べる。
- 酪農の発展と輸送手段の進歩について調べる。
  - ・北海道の気候は、温暖な地域が原産地の稲の生育には適しておらず、土壌改良や品種改良に取り組むことで全国有数の米の生産地となった。また、北海道は火山が多く、火山灰がつもった土地の改良や輪作を行うことで、畑作が行えるようになった。稲作や畑作には適さない地域では、牧草などの飼料を育てて酪農を行っている。
- 食の安全への対応について調べる。
- 36 自然環境を生かした観光と世界との結び付きについて調べる。
- ★寒冷な自然環境を生かした観光で、北海道は世界とどのように結びついているのだろう。
- 冬の寒さを生かした観光について調べる。
- 観光による地域の活性化について調べる。
- 北海道の観光の課題について調べる。
- 37 自然環境との共生をはかるための取り組みについて調べる。
- ★北海道の人々は、自然環境とどのように共生をはかっているのだろう。
- とる漁業から育てる漁業への変化について調べる。
- 環境保全に配慮した観光について調べる。
- 北海道地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 38 学習を振り返り、単元のまとめをする。
- ★日本の諸地域を振り返ろう。
- 現在の日本では、SDGsの17項目の目標はどの程度達成できているか考える。
- SDGsの17項目の目標の中で、日本が優先的に取り組むべきだと考えるものをグループ分けする。

- との関係などに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・北海道地方には、火山や火山活動によってできた湖が多くみられることを押さえる。
- ・教P. 26の資料を活用して、北海道地方の気候区分が冷帯であることをつかませる。
- ・教P. 250の雨温図を活用して、北海道地方の気候をつかませる。
- ・教P. 252～P. 253
- ・寒冷で雪の多い地域での住宅や道路などの工夫に着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・教P. 253や地図帳P. 144の資料を活用して、アイヌと北海道地方とのつながりをつかませる
- ・教P. 252の「スキルUP」を活用して、北海道の冬にみられる生活の工夫を調べさせる。
- 【評】寒冷で雪の多い時期における自然環境に対応する工夫を、資料から多面的・多角的に考察する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 253の資料を活用して、北海道地方の人口が減少している一方で、札幌市の人口が増加し続けていることに気付かせる。
- ・教P. 254～P. 255
- ・寒冷な気候や農業に適さない土壌を克服するための取り組みに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・本来、夏でも涼しい北海道の気候は、農業に適していないことに気付かせる。
- 【評】厳しい自然環境を克服しながら、どのようにして稲作・畑作・酪農が行われているのかについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・生産費用を下げる努力をするだけでなく、「食の安全」に配慮することで、外国産の安価な農産物に対抗しようとしていることをつかませる。
- ・教P. 256～P. 257
- ・自然環境を生かした観光による地域活性化にどのように取り組んでいるのかに着目させる（地域どうしのつながり）
- ・雪や氷を楽しむ祭りが各地で開催され、日本各地や世界中から観光客が訪れていることをつかませる。
- ・地図帳P. 144の資料を活用して、北海道の雄大な自然環境や歴史的な観光資源などを目的とした観光が盛んであることをつかませる。
- ・観光と観光資源を損なうことなく活用することの両立や、交通網の充実が課題であることを押さえる。
- ・教P. 258～P. 261
- ・環境保全と様々な産業を両立させるための取り組みに着目させる。（地域）
- ・地図帳P. 144を活用して、北海道の漁業についてつかませる。
- ・教P. 262

## 単元名 【旧】身近な地域の調査

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 身近な地域の調査について、地域的特色や地域の課題とともに、身近な地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や方法を理解することができる。また、身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に関する様々な資料を収集し、レポートなどにまとめることができる。
- (2) 身近な地域の地理的事象から課題を見だし、身近な地域の調査を行う際の視点や方法を基に多面的・多角的に考察することができる。また、その過程や結果を地理的なまとめ方により適切に表現することができる。
- (3) 身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題を主体的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

11220203\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1～2 校区の野外観察を行い、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地形図を見て、校区の特徴を話し合う。</li> <li>★地形図を持って野外観察に出かけよう。</li> <li>○野外観察に出かける準備をする。</li> </ul> <p>○野外観察に出かける。</p> <p>○野外観察の結果を話し合う。</p> <p>○単元の学習問題をつかむ。</p> <p>●私たちが住む〇〇市（〇〇町）は、どのような姿をしているのだろう。</p> <p>3～4 課題解決のための見通しをもち、学習計画を立てる。</p> <p>★探究したいテーマを決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○野外観察を通して気付いた校区の新たな発見や疑問点の中から、探究したいテーマを決める。</li> <li>○テーマの探究に必要な調査内容を話し合う。</li> <li>○テーマに合った調査方法を決め、学習計画を立てる。</li> </ul> <p>5～6 テーマについて調べる。</p> <p>★テーマについて調べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○計画に従って調べる。</li> </ul> <p>7～8 調査内容をテーマに沿ってまとめる。</p> <p>★調べた内容をレポートにまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調査内容をテーマに沿ってレポートにまとめ、単元の学習のまとめをする。</li> </ul> <p>○まちづくり会議を行う。</p> <p>○会議を終えて、振り返りをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教P. 255～P. 267</li> <li>・地形図から読み取った校区の特徴に沿ったルートを考えさせる。</li> <li>・野外観察はテーマを決めるためのきっかけであることを押さえる。</li> <li>・野外観察を通して、地形図だけでは分からないことを発見させたり、体験させたりする。</li> <li>・授業時間内に観察できるように配慮する。</li> <li>・野外観察を通して気付いた新たな発見や疑問点を基にテーマを決め、校区の様子を探究してレポートにまとめることを押さえる。</li> <li>・教P. 255～P. 267</li> <li>・探究したいテーマごとにグループを編成し、以後の活動はグループで行わせる。</li> <li>・教p. 256を参考に関連図を作らせ、気付いたことや疑問点をまとめさせる。</li> <li>・単元「世界のさまざまな地域の調査」の学習を想起させ、テーマに合った調査方法を話し合わせ、次時の活動につなげる。</li> <li>【評】テーマに合った調査方法を決める学習を通して、地域の調査に必要な視点や方法についての「知識・技能」を評価する。</li> <li>・教P. 255～P. 267</li> <li>・野外観察を再度行うグループがある場合には前回よりも視点を明確にするようにする。</li> <li>・教p. 262を参考にさせる。</li> <li>・聞き取り調査におけるマナーなどを事前に指導しておく。</li> <li>・文献資料を使って調査するグループがある場合には、事前に適当な文献が存在するのかなど、教師が確認しておくことよい。</li> <li>【評】テーマに沿って調べる活動を通して、多面的・多角的に考察する「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・教P. 255～P. 268</li> <li>・単元「世界のさまざまな地域の調査」の学習を想起させ、作業を行わせる。</li> <li>・単元をまとめる活動を通して、社会参画への意識を高めさせる。</li> <li>【評】身近な地域の地理的特色を意欲的に追究し、レポートにまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>【評】地域の「まちづくりプラン」を提案し、地域をよりよくするために話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・教P. 272の「スキルUP」を活用して、対立したときに合意を形成する方法や、構想した結果の発信方法などについて確認し、公民的分野の学習につなげる。</li> </ul> |

【 備 考 】

## 単元名 地域のあり方—京都市を例に—

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 地域の課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解し、資料などから読み取りまとめる活動などを通して、地域の課題にまつわる特色を理解することができる。
- (2) 地域のあり方を、他地域との結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、地域でみられる課題についての解決策を、他地域と比較したり、様々な立場の人の立場に立ったりして、多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。
- (3) よりよい地域社会の実現のために、地域の課題を主体的に解決しようとするとともに、多面的・多角的に地域の課題の解決策を話し合い、考え、意欲的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

11220204\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 地域の課題と特色についてつかむ。</p> <p>★五つの視点から、地域にみられる課題を整理しよう。</p> <p>○日本全体の課題を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境</li> <li>・人口や都市・村落</li> <li>・産業</li> <li>・交通・通信</li> <li>・その他（歴史的背景・持続可能な社会づくり）</li> </ul> <p>○調査テーマと調査する地域を決定する。</p> <p>○単元の学習問題をつかむ。</p> <p>●地域で見つけた課題を解決するためには、今後どのようなことが求められるのだろう。</p> <p>2～3 地域の課題の要因を考察する。</p> <p>★地域の課題がなぜ生じているのかを考察し、構想の手がかりをつかもう。</p> <p>○課題に対する取り組みを調査し考察する。</p> <p>○課題を多面的に捉えて考察する。</p> <p>4 課題の解決に向けて構想する。</p> <p>★地域の課題を解決するための構想をまとめよう。</p> <p>○よりよいまちづくりプランを考える。</p> <p>5 まちづくり会議を開く。</p> <p>★地域のあり方について考えるまちづくり会議を開こう。</p> <p>○会議を開くにあたって気を付けることを確認する。</p> <p>○まちづくり会議を行う。</p> <p>○会議を終えて、振り返りをする。</p> | <p>・教P. 263～P. 265</p> <p>・日本全体の課題と地域にみられる課題の共通点や異なる点に着目しよう。（地域どうしのつながり）</p> <p>・五つの視点を確認させる。</p> <p>・自分が追究してみたい課題を決定させる。</p> <p>・（地域どうしのつながり、地域）</p> <p>・教P. 266～P. 269</p> <p>・追究する課題が、様々な視点またはそれに関わる様々な立場の人々とどのように関連しているかに着目させる。（地域）</p> <p>・課題と関連の深い視点以外にも着目させ、総合的に考察させる。</p> <p>・他の地域では、同じような課題に対してどのような取り組みをしているのかを調べて比較させる。</p> <p>・教P. 270～P. 271</p> <p>・地域の課題の変化や持続可能な地域づくりに着目させる。（地域）</p> <p>・コンセプトをはっきり示したり、分かりやすい提案になるように工夫させたりする。</p> <p>【評】地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論し、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 272～P. 273</p> <p>・地域の課題の変化や持続可能な地域づくりに着目させる。（地域）</p> <p>【評】地域の「まちづくりプラン」を提案し、地域をよりよくするために話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教P. 272の「スキルUP」を活用して、対立したときに合意を形成する方法や、構想した結果の発信方法などについて確認し、公民的分野の学習につなげる。</p> |

【 備 考 】

## 単元名 日本の近代化

配当時間 26 時間

- 単元の目標 (1) 近代（前半）の日本の大きな流れについて、世界の歴史を背景に、時代の特徴を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 近代（前半）の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特徴などについて、時期や年代推移、比較、相互の関係や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けることができる。
- (3) 近代（前半）の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

11220301\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 近世と近代の資料を比べて変化を読み取ったり、19世紀後半の世界と日本の動きを大観したりして、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>○近世と近代の資料を比べ、気付いたことを発表し合う。</p> <p>★近世から近代までのあいだに、どのようなできごとが起こったのだろう。</p> <p>○地図や年表から、日本の近代化の動きや19世紀後半の日本と世界の様子を確認する。</p> <p>・19世紀後半の世界では、ヨーロッパの植民地が広がっている。また、日本の岩倉使節団が世界を一周していることが分かる。</p> <p>○単元の学習問題をつかむ。</p> <p>●「近代（前半）」の日本には、どのような特色があるのだろう。</p> <p>○欧米諸国のアジア進出についての地図を大観し、学習計画を立てる。</p> <p>2 イギリスの産業革命とその影響について調べる。</p> <p>★産業革命は、経済や社会にどのような影響をあたえたのだろう。</p> <p>○イギリスで始まった産業革命の特徴について調べる。</p> <p>○産業革命の前と後で、経済や社会がどのように変化したかを考えたり、自分の考えをまとめたりする。</p> <p>○小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>■なぜアジアに欧米諸国の植民地が必要だったのだろう。</p> <p>3 王政から議会制への変化について調べる。</p> <p>★どのような過程を経て、議会制が確立したのだろう。</p> <p>○イギリスやフランスの王政について調べる。</p> <p>○イギリスの議会政治について調べる。</p> <p>・ピューリタン革命 ・名誉革命</p> <p>・権利の章典</p> <p>○啓蒙思想について調べる。</p> <p>○国王と議会の関係に注目して、イギリスの政治の変化を調べたり、まとめたりする。</p> <p>4 アメリカの独立とフランス革命について調べる。</p> <p>★アメリカの独立とフランス革命は、社会にどのような影響をあたえたのだろう。</p> <p>○アメリカの独立について調べる。</p> <p>○フランス革命について調べる。</p> <p>○イギリスとは異なり、アメリカやフランスで自由や平等を求める戦いが起きた理由を考える。</p> <p>5 アメリカ、ロシア、ドイツの発展について調べる。</p> <p>★アメリカとロシアはどのように発展したのだろう。</p> <p>○南北戦争とアメリカ合衆国の発展について調べる。</p> | <p>・教P. 158～P. 161</p> <p>・当時の日本の変化をイメージさせたり、欧米諸国のアジア進出を捉えさせたりして、第5編第1章の学習問題を明らかにする。</p> <p>・江戸時代と明治時代の様子を比べ、服装や建物、乗り物などの変化を読み取らせる。</p> <p>・教P. 158～P. 159の資料を用い、まちの様子が大きく変化していたり、城が壊されたりしていることに興味をもたせる。</p> <p>・教P. 160の年表を用い、日本の近代化の動きを時系列で捉えさせる。</p> <p>【評】近代（前半）の日本と世界について、これまでの時代との違いを調べたり、考えたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・単元を通して、政治、社会、文化、外交の面で、これまでの時代との違いを考えるようにさせる。</p> <p>・教P. 160～P. 161の資料を用い、日本が欧米諸国の影響により、近代化への道を歩み始めたことを捉えさせる。</p> <p>・教P. 162～P. 163</p> <p>・産業革命が起こした変化と影響について着目して追究させる。（推移）</p> <p>・教P. 163の資料を用い、蒸気機関の発明や工場制機械工業への変化を通して、産業革命の特徴をつかませる。</p> <p>・産業革命により、資本主義社会が成立したことや、労働問題や社会問題が発生したことに気付かせる。</p> <p>・教P. 160～P. 161の地図を用い、アジアの国々の多くが欧米諸国の植民地となっていることを捉えさせる。</p> <p>・教P. 164～P. 165</p> <p>・王政に対する議会や民衆の動きに着目して追究させる。（推移）</p> <p>・議会制が確立した過程について、王政に対する民衆の動きを踏まえて理解させる。</p> <p>・イギリスでの二つの革命と啓蒙思想の広がりについて振り返り、革命前後の政治の変化を捉えさせる。</p> <p>・教P. 166～P. 167</p> <p>・アメリカの独立とフランス革命に共通している点に着目して追究させる。（比較）</p> <p>・イギリスの植民地としてのアメリカの置かれていた状況に着目するとともに、アメリカ合衆国が成立した過程を理解させる。</p> <p>・市民革命によって、議会制民主主義と近代市民社会が成立していった様子を捉えさせる。</p> <p>・教P. 168～P. 169</p> <p>・アメリカやロシアがアジアに進出する背景に着目して追究させる。（つながり）</p> |



- ロシアとドイツの近代化について調べたり、説明したりする。
  - ・ ロシアは、農奴解放によって農民に自由を与え、国の近代化をはかった。また、シベリア鉄道を建設して、アジアへの進出を進めた。
- 各国が領土拡大を進めた理由を話し合う。
- 6 ヨーロッパのアジア進出について調べる。
  - ★ イギリスを中心とするヨーロッパ諸国が、どのようにしてアジアを侵略したのだろう。
  - イギリスによるインド支配について調べる。
    - ・ ムガル帝国
    - ・ 東インド会社
    - ・ インド大反乱
  - 清の成立とアヘン戦争について調べる。
    - ・ 清
    - ・ アヘン戦争
    - ・ 南京条約
    - ・ 太平天国
  - イギリスがインドと中国に見いだした価値について考える。
    - ・ インドから綿花を安く輸入し、加工した綿織物を高く売りつける市場としての価値があった。
  - 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 7 江戸幕府の権威の低下について調べる。
  - ★ 対外政策や国内のようすの変化は、幕府や藩にどのような影響をあたえたのだろう。
  - 外国船の接近について調べる。
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
  - 欧米諸国の接近は、日本にどのような影響をあたえたのだろう。
  - 大塩の乱と天保の改革について調べる。
    - ・ 水野忠邦
    - ・ 株仲間の解散
  - 雄藩の成長について調べたり、幕府の改革との違いを考えたりする。
    - ・ 薩摩藩
    - ・ 長州藩
- 8 開国前後の日本の様子について調べる。
  - ★ 幕府が開国へ政策転換したことで、政治や社会にはどのような変化が起こったのだろう。
  - 開国の経緯について調べる。
    - ・ ペリー
    - ・ 日米和親条約
  - 日米修好通商条約の締結について調べたり、日米和親条約との違いを考えたりする。
    - ・ 日米修好通商条約は、アメリカに領事裁判権を認め（治外法権）、日本に関税自主権がないなど、不平等であった。
  - 開国後の日本経済の混乱について調べる。
- 9 江戸幕府の滅亡について調べる。
  - ★ 江戸幕府は、どのようにしてほろびたのだろう。
  - 尊皇攘夷運動について調べる。
    - ・ 安政の大獄
    - ・ 薩英戦争
    - ・ 四国連合艦隊の下関砲撃
    - ・ 薩長同盟
  - 王政復古と戊辰戦争について調べる。
  - 江戸幕府が滅びた過程をまとめたり、説明したりする。
    - ・ 尊皇攘夷運動を進めていた薩摩藩と長州藩が協力し合い、倒幕を目指して態勢を整えていったことが江戸幕府

- ・ 教P. 168の資料を用い、アメリカの領土拡大やリンカーンの演説の様子を捉えさせる。
- ・ 教P. 169の資料を用い、欧米諸国の新興勢力の進出を確認させる。
- ・ ロシアとドイツの近代化が日本にも影響を与えたことを理解させる
- 【評】 欧米諸国が国家の勢力を強め近代化した過程を、改革の内容や国家の統一に着目して調べたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 教P. 170～P. 171
- ・ インドと中国（清）が侵略されていった過程に着目して追究させる。（推移）
- ・ 教P. 170の資料を用い、イギリスのインド支配のねらいを理解させる。
- ・ インド大反乱につながる原因を、社会の変化や宗教上の違いから捉えさせる。
- ・ 教P. 171の資料を用い、イギリスによる三角貿易やアヘンについて理解させ、アヘン戦争の原因と背景を考えさせる。
- 【評】 イギリスのアジア侵略によって、貿易形態や社会の様子が変化したり、植民地支配に抵抗する人々が現れたりしたことを調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 教P. 172～P. 173
- ・ 国内の変化に対する、幕府と諸藩の対応の違いに着目して追究させる。（比較）
- ・ 教P. 172の資料を用いて、対外関係と国内の様子の変化を捉えさせる。
- ・ 間宮林蔵ら北方探検を行った人物に触れる。
- ・ 1830年代にききんが続いたことや大塩平八郎の乱などの改革の背景を押さえる。
- ・ 欧米諸国が日本に多く接近する中で、新たな動きを見せる蘭学者に対して、幕府が強硬な姿勢をとったことを理解させる。
- ・ 改革に失敗した幕府と成功した諸藩の対応の違いについて調べさせる。その中で、改革に成功した西南雄藩の影響力が高まったことを捉えさせる。
- ・ 教P. 174～P. 175
- ・ アメリカが要求してきた日米和親条約と、日米修好通商条約の内容の違いに着目して追究させる。（比較）
- ・ オランダ、ロシア、イギリス、フランスとも同じような条約が結ばれたことを押さえる。
- 【評】 アメリカと結んだ二つの条約の内容の違いを調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 教P. 175の資料を用い、金銀の交換比率の違いにより、日本の金銀が海外に流出したことで、物価の上昇により庶民の生活が苦しくなったことを捉えさせる。
- ・ 教P. 176～P. 177
- ・ 幕府を批判する勢力の主張の変化に着目して追究させる。（推移）
- ・ 開国後も攘夷論者がいたことや倒幕に向かう流れについて調べさせる。
- ・ 教P. 176～P. 177の資料を用い、この時期に関係する人物を押さえる。
- ・ 世直しの動きにも触れる。
- ・ 大政奉還後、新政府軍と旧幕府軍の間で戊辰戦争が発生し、勝利した新政府軍による新しい政治が始まったことを理解させる。
- 【評】 幕府を批判する勢力の主張の変化を、幕府の滅亡と関連付けてまとめたり、説明した

- の滅亡につながった。
- 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 10 明治維新について調べる。
- ★新しい政府が示した方針や改革には、どのような目的があるのだろうか。
- 明治維新について調べたり、江戸時代の幕藩体制との違いを考えたりする。
    - ・ 五箇条の御誓文
    - ・ 五榜の掲示
    - ・ 版籍奉還
    - ・ 廃藩置県
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
  - 明治維新の諸政策によって社会はどのように変化したのだろうか。
  - 身分制の廃止について調べる。
    - ・ 解放令
    - ・ 四民平等
- 11 明治政府が推し進めた政策について調べる。
- ★新政府は、なぜ富国強兵の政策を掲げて、近代国家建設を急いだのだろうか。
- 殖産興業について調べる。
    - ・ 富国強兵
    - ・ 貨幣制度
    - ・ 官営模範工場
    - ・ 鉄道
  - 国民皆兵と徴兵令について調べる。
  - 地租改正について調べる。
  - 新政府が富国強兵の政策を推し進めた理由を説明する。
- 12 文明開化の展開について調べる。
- ★明治政府は、文明開化によって何を目指したのだろうか。
- 国民皆学と学制について調べる。
  - 「国民」をつくり出すことについて調べる。
  - 江戸時代の思想や教育との違いについて考える。
  - 文明開化について調べる。
- 13 近代的な国際関係の形成について調べる。
- ★明治政府は諸外国とどのような関係を結んだのだろうか。
- 岩倉使節団の代表者の写真を見て、気付いたことを発表し合う。
  - 岩倉使節団について調べる。
  - 明治政府が清や朝鮮とどのような関係を結んだのか、比較して考えたり、まとめたりする。
    - ・ 清とは治外法権を相互に認め合うなどの対等な地位を定めた日清修好条規を結んだ。
    - ・ 朝鮮とは日本だけに治外法権を認めるなど、日本側にとって有利な日朝修好条規を結んだ。
- 14 領土の画定について調べる。
- ★明治政府は、隣接地域とどのような交渉をして、領土を画策したのだろうか。
- 日本とロシアの関係について調べる。
  - 沖縄が日本の領土になる過程について調べる。
  - 蝦夷地（北海道）の開拓について調べる。
  - 明治政府が行った領土の画定の特徴を、清や朝鮮との国際関係の形成と比較して考える。
    - ・ ロシアとは、樺太を譲る代わりにウルップ島以北の千島列島を領有するという樺太・千島交換条約を結んだ。
    - ・ 国際的なきまりにしたがって、小笠原諸島を日本の領土とすることとした。

りする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 教P. 180～P. 181
- ・ 江戸時代の幕藩体制との違いに着目して追究させる。（比較）
- ・ 五箇条の御誓文から廃藩置県までの動きを捉えさせた後、これら一連の変革を明治維新ということを押さえる。
- ・ 地方分権的な幕藩体制と比較し、明治新政府の諸政策が天皇を中心とした中央集権国家の建設を目指したことを理解させる。
- ・ 教P. 181の資料を用い、「身分制にかかわる政策」の表や「天地のはかり」の風刺画など複数の資料から身分制の廃止や四民平等の様子を捉えさせる。
- ・ 教P. 182～P. 184
- ・ 殖産興業や徴兵令、地租改正のそれぞれの目的に着目して追究させる。（つながり）
- ・ 富国強兵により近代化を目指したことを押さえる。
- ・ 教P. 183の資料を用い、鉄道や郵便、電信などが全国に広がったことを捉えさせる。
- ・ 徴兵令に反対する農民たちの動きが各地で起こったことを押さえる。
- ・ 教P. 184の資料を用い、地租改正が明治政府にとって重要な政策であったことを理解させる。
- ・ 農民の反対一揆により、2.5%に引き下げられたことを押さえる。
- ・ 列強諸国に対抗し、植民地化を免れようとしたことを確認させる。
- ・ 教P. 186～P. 189
- ・ 江戸時代の思想や教育との違いに着目して追究させる。（比較）
- ・ 国民の負担が大きく、実際には学校に通えない子どもたちも多くいたことを押さえる。
- ・ 福沢諭吉や中江兆民などの思想家に触れ、欧米の近代思想が広まっていったことを理解させる。
- ・ 教P. 188の資料を用い、明治時代のくらしの変化を衣・食・住の視点から捉えさせる。
- ・ 学制や文明開化に見られる生活の近代化について、現在の生活に伝わっているものを挙げながら理解させる。
- ・ 教P. 190～P. 191
- ・ 相手国による関係の違いに着目して追究させる。（比較）
- ・ 教P. 180の資料を用い、新政府の中で中核を担う人物たちであることを確認する。
- ・ 近代国家の制度が整っていなかったことなどを理由に条約改正できなかったことを押さえる。
- ・ 教P. 191の資料を用い、日清修好条規と日朝修好条規の条文からも、それぞれの条約の特徴を捉えさせる。
- 【評】明治政府が清や朝鮮と結んだ条約について調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 教P. 192～P. 193
- ・ 各地域との交渉の進め方の違いに着目して追究させる。（比較）
- ・ 清や朝鮮との外交政策の違いを捉えさせる。
- ・ 琉球をめぐる清との対立は日清戦争まで続いたことを押さえる。
- ・ アイヌの人々が、移住などにより従来の生活を続けられなくなったことを押さえる。
- 【評】領土の画策がもつ意味について考えたり自分の考えをまとめたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 15 新政府に対する反対運動や自由民権運動の広がりについて調べる。
  - ★なぜ、士族の反乱や自由民権運動が起こったのだろう。
  - 士族の反乱について調べる。
  - 国会開設の要求について調べる。
  - 西郷隆盛と板垣退助の動きの違いを考える。
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習の計画を立てる。
  - 日本の議会政治は、どのように始まったのだろう。
- 16 憲法をめぐる対立について調べる。
  - ★自由民権運動と明治政府はどのように対立していたのだろう。
  - 自由民権運動の内容について調べる。
  - 国会開設の公約について調べる。
  - 政党の結成と運動の激化について調べる。
    - ・自由党
    - ・秩父事件
    - ・立憲改進黨
  - 自由民権運動と政府のそれぞれのねらいを説明する。
- 17 大日本帝国憲法の制定について調べる。
  - ★自由民権運動がおとろえた結果、どのような憲法が制定されたのだろうか。
  - 大日本帝国憲法発布までの出来事を調べる。
    - ・伊藤博文
    - ・枢密院
    - ・内閣制度
  - 大日本帝国憲法の内容、地方制度、教育勅語の内容について調べる。
    - ・帝国議会
    - ・市制、町村制
    - ・府県制、郡制
    - ・忠君愛国
  - 大日本帝国憲法の特徴を、憲法と天皇との関係や、天皇と国民との関係から説明する。
    - ・大日本帝国憲法下では、天皇は主権者であり、統帥権をもつ最高権力者として位置付けられた。
- 18 財閥政府と民党の対立について調べる。
  - ★初期の帝国議会にはどのような課題があったのだろう。
  - 帝国議会のしくみと総選挙について調べる。
    - ・帝国議会が開かれたり、総選挙が行われたりして、近代国家としてのしくみが整えられた。
  - 政府と民党の主張の違いについて調べる。
  - 法律の整備について調べる。
    - ・民法
    - ・商法
  - 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 19 列強の動向とアジア情勢について調べる。
  - ★なぜ、日本は条約改正をすすめたのだろう。
  - アジアとアフリカの植民地化について調べる。
  - 不平等条約の改正について調べる。

- ・教P. 194～P. 195
- ・西郷隆盛と板垣退助が、政府に対してどのような動きをしたのかに着目して追究させる。(比較)
- ・教P. 194の資料を用い、岩倉使節団側と留守政府側の対立を理解させる。また、征韓論を日本側と朝鮮側の双方の立場で考えさせる。
- ・教P. 195の資料を用い、士族の反乱(西南戦争)が政府軍によって鎮圧されたことを捉えさせる。
- ・初めは士族が中心であった自由民権運動が、なぜ地方の豪商や地主、都市の知識人に広がったのかを考えさせる。
- ・教P. 195の資料を用いて、運動の広がりを捉えさせる。
- ・教P. 196～P. 197
- ・国民と政府が、国会開設をどのように捉えていたのかに着目して追究させる。(比較)
- ・憲法や新たな政治の仕組みが整えられるまでの間、どのような運動が繰り返されたか、また政府がどのような対応をとったのかをまとめさせる。
- ・教P. 196の資料を用い、政府内の対立を捉えさせる。
- ・伊藤博文は、自由民権運動を取り締まっておりながら、なぜ国会を開くことを約束したのかを考えさせる。
- ・教P. 196～P. 197
- ・自由民権運動が目指した憲法と、大日本帝国憲法の違いに着目して追究させる。(比較)
- ・岩倉使節団が征韓論を唱えた西郷隆盛らを退けた理由を想起させ、当時の日本は産業や文化だけでなく、政治制度についても欧米から多く学んでいたことを押さえる。
- ・教P. 199の資料を用い、天皇が主権者であることや憲法で保障された国民の権利を理解させる。また、統帥権の独立にも触れる。
- ・地方制度は政府の強い監督の下に置かれていたことを捉えさせる。
- 【評】近代国家としての形が整えられていった過程を考えたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 200～P. 201
- ・政府のねらいと国民の願いに着目して追究させる。(比較)
- ・教P. 201の資料を用い、自由民権運動を進めてきた自由党や立憲改進黨の人々が多数当選したことをつかませる。
- 【評】帝国議会のしくみと総選挙について調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・政府と民党が対立した理由を理解させ、自由民権運動の流れが続いていることに気付かせる。
- ・民法については、戸主権が強く、女性より男性の方が権利が強い内容だったことを押さえる。
- ・教P. 202～P. 203
- ・列強の動きが日本とアジアに与えた影響に着

- 朝鮮をめぐる東アジア情勢について調べる。
- 日本が条約改正によって何を目指したかについて考えたり、話し合ったりする。
- 小単元の学習問題をつかみ、学習の計画を立てる。
- 日清・日露戦争、条約改正は日本にどのような影響をあたえたのだろう。
- 20 朝鮮をめぐる対立について調べる。
- ★ 日清戦争の結果、日本はどのように変わっていったのだろう。
- 日清戦争について調べる。
- 下関条約と三国干渉について調べる。
- 日清戦争後の国内の政治の様子について調べる。
- 日清戦争によって、日本の対外政策や国内の政治はどのように変化したかをまとめたり、説明したりする。
- 21 朝鮮と満州をめぐる日本とロシアの関係を調べる。
- ★ 日露戦争は、なぜ起こり、どのような結果に終わったのだろう。
- 満州をめぐる日本とロシアの対立について調べる。
- 日露戦争について調べる。
- ・ 韓国に勢力を伸ばそうとしていた日本は、南下を目指すロシアと対立し、交渉がまとまらず開戦にいたった。開戦に踏み切った要因として、日英同盟が大きく影響していた。
- ポーツマス条約と満州経営について調べる。
- 日露戦争が、日本にとってどのような意味をもっていたのかについて話し合う。
- 22 日本の朝鮮支配について調べる。
- ★ 日露戦争後の東アジアでは、どのような動きがあったのだろう。
- 韓国併合の経緯について調べる。
- 韓国併合があった頃の中国について調べる。
- ・ 孫文 ・ 中華民国  
・ 辛亥革命 ・ 袁世凱
- 日露戦争後、日本と朝鮮、中国の関係がどのようなものになったかを考えたり、話し合ったりする。
- ・ 日露戦争後、日本は東アジアへの支配を強め、韓国に対しては、韓国併合を実施して植民地とした。
- 学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 23 日本の産業革命について調べる。
- ★ 日清・日露戦争後、日本の社会はどのように変わったのだろう。
- 日本の工業化の進展について調べる。
- 労働者と農民の生活について調べる。
- 産業革命による人々の生活の変化について考えたり、まとめたりする。

- 目して追究させる。(つながり)
  - ・教P. 202の資料を用い、帝国主義諸国が製品の市場、原料や労働力の供給地として植民地を拡大していったことを押さえる。
  - ・教P. 203の資料を用い、幕末から続く外交課題である不平等条約の改正の過程を、国際情勢を踏まえて捉えさせる。
  - ・朝鮮にとっての清と日本の関係を踏まえ、日本が朝鮮に進出した理由を理解させる。
- 
- ・教P. 204～P. 205
  - ・日清戦争を起こした日本の意図と、ロシアを中心としたヨーロッパ勢力の意図に着目して追究させる。(比較)
  - ・朝鮮国内が不安定であったこと、清国が朝鮮に対して影響力があることを押さえ、戦争の経過と下関条約締結までを理解させる。
  - ・ロシアがフランスとドイツとともに日本に干渉した理由について考えることで、日本とロシアを中心としたヨーロッパ勢力の意図を考えさせる。
  - ・日本が清から得た賠償金の使い道を押さえるとともに、政治勢力の成長と日本初の政党内閣が誕生した経緯を捉えさせる。
- 
- ・教P. 206～P. 207
  - ・ロシアとイギリスの動きと、そのねらいに着目して追究させる。(つながり)
  - ・教P. 206の資料を用い、ロシアが三国干渉によって日本が清に返還した遼東半島の旅順を勢力範囲にしていることや列強によって中国が分割されていることを確認する。
  - ・教P. 207の資料を用い、日露戦争前の各国の関係を捉えさせ、イギリスなどの動きを理解させる。また、日清戦争と比べ、多くの兵力や戦費を費やしたことを捉えさせる。
  - 【評】日本がロシアとの戦争に踏み切った経緯について調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
  - ・アメリカの仲立ちにより講和会議が行われたことや日本が賠償金を得られなかったことを押さえる。
  - ・満州に置かれた軍が後に関東軍に改められたことに触れる。
- 
- ・教P. 208～P. 209
  - ・日清・日露戦争の結果と、日本の動きに着目して追究させる。(つながり)
  - ・教P. 208の資料を用い、日本の領土拡大を再確認したり、朝鮮民族の同化政策を理解させたりする。
  - ・教P. 209の「先人に学ぶ」を用い、孫文がどのような中国やアジアを目指していたのかを考えさせる。
  - ・袁世凱により、中国は再び専制的な支配に戻され、不安定な政治が続いたことを理解させる。
  - 【評】日露戦争後の東アジアの状況について、事象を相互に関連付けて考えたり、表現したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
  - ・日本は帝国主義諸国の一員となり、アジアを攻めていったことを押さえる。
  - ・教P. 210～P. 211
  - ・産業の発展と社会の変化に着目して追究させる。(推移)
  - ・軽工業から重工業へ発展していった過程や、財閥の成立を押さえる。また、八幡村に官営

- ・教P. 206～P. 207
- ・ロシアとイギリスの動きと、そのねらいに着目して追究させる。(つながり)
- ・教P. 206の資料を用い、ロシアが三国干渉によって日本が清に返還した遼東半島の旅順を勢力範囲においていることや列強によって中国が分割されていることを確認する。
- ・教P. 207の資料を用い、日露戦争前の各国の関係を捉えさせ、イギリスなどの動きを理解させる。また、日清戦争と比べ、多くの兵力や戦費を費やしたことを捉えさせる。
- 【評】日本がロシアとの戦争に踏み切った経緯について調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・アメリカの仲立ちにより講和会議が行われたことや日本が賠償金を得られなかったことを押さえる。
- ・満州に置かれた軍が後に関東軍に改められたことに触れる。

- 【評】日露戦争後の東アジアの状況について、事象を相互に関連付けて考えたり、表現したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・日本は帝国主義諸国の一員となり、アジアを攻めていったことを押さえる。
  - ・教P. 210～P. 211
  - ・産業の発展と社会の変化に着目して追究させる。（推移）
  - ・軽工業から重工業へ発展していった過程や、財閥の成立を押さえる。また、八幡村に官営

- 小単元の学習問題をつかみ、学習の計画を立てる。
- 産業の発展によって社会や文化はどのように変わったの  
だろう。
- 24 資本主義の発展と社会問題について調べる。
- ★ 資本主義の発展は、社会や文化、教育にどのような影響  
をあたえたのだろう。
- 社会を変えようとする動きについて調べる。
- ・ 大逆事件                      ・ 青鞥社
- 新時代の文学と芸術について調べる。
- 教育の普及について調べる。
- 産業革命後の社会や文化の特色を説明する。
- ・ 産業革命後、くらしが豊かになる中で、労働環境や自然  
環境をめぐる社会問題が表面化し、労働運動や社会主  
義運動などの社会運動が発展した。
- 25 足尾銅山鉍毒事件を通して、経済発展と環境保全のどち  
らを優先すべきかを考える。
- ★ 経済発展か、環境保全か、足尾銅山鉍毒事件を通して考  
えよう。
- 田中正造が帝国議会や天皇に訴えようとしたことにつ  
いて調べる。
- 政府が田中正造の訴えを全面的に認めなかった理由につ  
いて考える。
- 自分が当時の国民の一人だったら、経済発展と環境保全  
のどちらを優先するかについて、考えをまとめたり、意  
見交換をしたりする。
- ・ 環境保全を優先すべきだと思う。その理由は、経済発  
展のために銅が重要だということは資料から分かるけれ  
ど、田中正造の主張の通り、国民の生活を守ることの方  
が大切だと思うから。
- 26 学習を振り返り、単元の学習のまとめをする。
- ★ 単元の学習問題について、自分の考えをまとめよう。
- 学習したことを年表や地図にまとめる。
- 明治政府の「政策」から、近代（前半）の特色をまとめ  
たり、説明したりする。
- 単元の学習問題について話し合ったり、自分の考えをま  
とめたりする。
- ・ 政治については、明治政府が法政制度や産業などの近  
代化を欧米諸国にならって進めた。
- 戦時中の写真を見て、気付いたことを話し合い、次の単  
元の見通しをもつ。

工場が建設された理由を考えさせる。

- ・ 教P. 211の資料と本文を用い、労働者の過酷な生活と貧富の差の拡大を捉えさせる。

- ・ 教P. 212～P. 215
- ・ 社会の動きと、文化や芸術の動きの共通点に  
着目して追究させる。（つながり）
- ・ 社会運動の登場を、日本の資本主義の発展と  
結び付けて理解させる。
- ・ 大逆事件の概要や田中正造の足尾銅山鉍毒被  
害などについても押さえる。
- ・ 欧米文化を日本の伝統と融合させながら日本  
の近代文化が形成されたことを捉えさせる。
- ・ 近代文化の形成の背景に、教育の普及がみら  
れたことを理解させる。
- ・ 人材教育を目的とした高等教育を充実させた  
ことにより、世界的な研究を行う日本人が登  
場したことを押さえる。
- 【評】近代思想、文化、芸術が形成されたこと  
について調べまとめる活動を通して、「知識  
・ 技能」を評価する。

・ 教P. 216～P. 217

- ・ 教P. 216の資料を用い、足尾銅山から流れ出  
た鉍毒によって、田畑が荒れ洪水が起こるな  
ど、鉍毒被害があったことを押さえる。
- ・ 教P. 217の資料を用い、当時の日本は銅の需  
要が増えており、そうした社会背景の下、政  
府が田中正造の訴えを全面的に認めなかった  
ことに気付かせる。
- 【評】経済発展と環境保全のどちらを優先す  
べきだったかについて、様々な資料を基に考え  
たり、自分の考えを表現したりする活動を通  
して、「思考・判断・表現」を評価する。

・ 教P. 218～P. 219

- ・ 教P. 218の年表と地図に学習したことをまと  
め、近代（前半）の大まかな流れを振り返ら  
せる。年表では、日本や欧米諸国、アジアの  
動きを時系列で捉えさせる。
- ・ 年表中に矢印を書き入れることで、幕末から  
明治初期にかけては日本への偏方向への矢印  
が多く、明治後期には双方向の矢印が増える  
ことに気付かせる。
- 【評】これまでの学習活動を踏まえ、近代（前  
半）の特色について話し合ったり、自分の考  
えをまとめたりする活動を通して、「主体的  
に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・ 「二度の世界大戦と日本」の学習に関心をも  
たせる。

【 備 考 】

## 単元名 二度の世界大戦と日本

配当時間 17時間

- 単元の目標 (1) 近代（後半）までの日本の大きな流れについて、世界の歴史を背景に、時代の特徴を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 近代（後半）での日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特徴などについて、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けることができる。
- (3) 近代（後半）の日本に関わる諸事情について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

12220101\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 記録写真から、大正時代の様子を読み取ったり、第一次世界大戦の国際関係を大観したりして、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 記録写真を見て、時代の移り変わりについて、気付いたことを発表し合う。</li> </ul> <p>★「近代（後半）」とはどのような時代なのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地図や年表から、第一次世界大戦の国際関係や近代（後半）の日本の動きを大観する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヨーロッパを中心に、世界中の国が第一次世界大戦に関わっていることが分かる。また、日本は1914年に参戦し、中華民国やドイツ領南洋諸島の方に進出している。</li> </ul> </li> <li>○ 単元の学習問題をつかむ。</li> <li>● 「近代（後半）」の日本には、どのような特色があるのだろう。</li> <li>○ ヨーロッパでの強国同士の対立についての概略を知り、学習計画を立てる。</li> </ul> <p>2 第一次世界大戦について調べる。</p> <p>★ 第一次世界大戦とは、どのような戦いだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第一次世界大戦の原因や特徴について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三国協商                      ・ 三国同盟</li> <li>・ サラエボ事件                ・ 連合国</li> <li>・ 同盟国                        ・ 総力戦</li> </ul> </li> <li>○ 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</li> <li>■ 第一次世界大戦前後の国際情勢に対して日本はどのように動いたのだろう。</li> <li>○ ロシア革命について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レーニン                      ・ 社会主義国家</li> <li>・ ソビエト社会主義共和国連邦（ソ連）</li> </ul> </li> </ul> <p>3 日本の参戦と大戦景気について調べる。</p> <p>★ 第一次世界大戦への参戦は、日本にどのような影響をあたえたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本の参戦と二十一か条の要求について調べる。</li> <li>○ 日本経済の変化について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大戦景気                      ・ 財閥</li> </ul> </li> <li>○ シベリア出兵と米騒動について調べる。</li> <li>○ 第一次世界大戦の日本への影響を、対外関係、国内情勢に分けて説明する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対外関係では、ドイツが支配していた中国の青島を含む山東半島や太平洋の南洋諸島を占領した。</li> </ul> </li> </ul> <p>4 世界大戦後の世界とアジアの民族運動について調べる。</p> <p>★ 第一次世界大戦は、その後の世界にどのような影響をあたえたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第一次世界大戦の終結とベルサイユ条約の締結について調べる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教P. 220～P. 223</li> <li>・ 教P. 220～P. 221の資料を用い、1930年代半ばから1940年代の半ばの時代の移り変わりを読み取らせる。</li> <li>・ 教P. 222～P. 223の資料を用いる。年表では、日本の動きを時系列で捉えさせる。</li> <li>【評】近代（後半）の日本と世界について、これまでの時代との違いなどを調べたり、考えたりする活動を通して、「主体的に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 単元を通して、政治、社会、文化、外交の面で、これまでの時代との違いを考えるようにさせる。</li> <li>・ 第一次世界大戦以降も、様々な戦争や対立が繰り返されていく現実を理解させる。そして本単元では、その原因や過程を探っていくようにさせる。</li> <li>・ 教P. 224～P. 225</li> <li>・ 第一次世界大戦が起きた背景とその展開に着目して追究させる。（推移）</li> <li>・ 教P. 224の年表を用い、第一次世界大戦前後の世界の動きを捉えさせる。また、教P. 225の資料を用い、総力戦になった理由を考えさせる。</li> <li>・ 日本が連合国側について参戦したことを押さえる。</li> <li>・ 日本はシベリア出兵をするなど、ロシア革命に関わったことを押さえる。</li> <li>・ 教P. 226～P. 227</li> <li>・ 諸外国との関係や日本の経済への影響に着目して追究させる。（つながり）</li> <li>・ 日英同盟を理由に連合国側で参戦したことや中国に対して強硬な姿勢をとったことを押さえる。</li> <li>・ 教P. 226の資料を用い、日本が権益を広げた流れや日本の動きが及ぼした影響をつかませる。</li> <li>・ 第一次世界大戦が行われていた海外情勢を踏まえ、日本の経済に与えた影響を考えさせたり、捉えさせたりする。</li> <li>・ 教P. 227の資料を用い、米騒動が起こった原因を考えさせる。</li> <li>・ 米騒動の後、日本で初めての本格的な政党内閣が成立したことを捉えさせる。</li> <li>【評】第一次世界大戦の日本への影響について調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 教P. 228～P. 229</li> <li>・ 国際連盟やアジアの民族運動が世界に与えた影響に着目して追究させる。（つながり）</li> <li>・ 教P. 228の資料と本文を用い、ベルサイユ条</li> </ul> |

- ・ベルサイユ条約      ・国際連盟
- アジアの民族運動について調べる。
  - ・民族自決                  ・ガンディー
  - ・三・一独立運動          ・五・四運動
- 軍縮に向かう動きについて調べる。
  - ・ワシントン会議
- 第一次世界大戦後、世界はどのように変化したかについて話し合う。
  - ・第一次世界大戦後、国際連盟の設立やワシントン会議など、国際平和や軍縮の努力が行われるなどの変化が生まれた。
- 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 5 大正デモクラシーについて調べる。
  - ★なぜ大正時代に民主主義を求める動きが広がっていったのだろう。
  - 護憲運動と政党内閣について調べる。
    - ・護憲運動                  ・民主主義
    - ・政党内閣
  - 普通選挙の実現や有権者数の移り変わりについて調べたり、まとめたりする。
    - ・ワイマール憲法          ・普通選挙法
    - ・大正デモクラシー
  - 国際協調と軍備縮小について調べる。
- 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 第一次世界大戦によって日本の社会はどのように変化したのだろう。
- 6 社会運動の広がりについて調べる。
  - ★社会運動を広めていった当時の人々は、どのような背景で何を実現しようとしたのだろう。
  - 労働者や農民による社会運動について調べる。
    - ・新婦人協会              ・全国水平社
  - 社会運動への政府の対応について調べる。
- それぞれの社会運動が目指したことを調べたり、まとめたりする。
  - ・労働争議や小作争議は、貧しさの改善や社会主義を目指した。
- 7 都市の進展と大衆文化について調べる。
  - 大正時代に交通の発達でくらしが変化した様子について資料を見て、気付いたことを発表し合う。
  - ★私たちの生活にもつながる大正時代の文化には、どのような特色があるのだろう。
  - 都市の生活について調べる。
  - 文化の大衆化について調べる。
- 大正時代の人々の生活や文化がどのように変化したか、理由も合わせて説明する。
  - ・都市では大戦景気による経済発展を背景に、生活様式の洋風化が進んだ。また、資本主義の発達に伴い、メディアの普及や教育の充実なども進み、文化の大衆化が進んだ。
- 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 8 世界恐慌と各国の対応について調べる。
  - ★世界恐慌は、欧米諸国にどのような影響をあたえたのだろう。
  - 世界恐慌の影響について調べる。
  - 資源や植民地を持てる国と、持たざる国の影響の受け方の違いについて、原因と結果を明らかにして捉える。
    - ・ヒトラー（ドイツ）      ・ムッソリーニ（イタリア）
    - ・ファシズム              ・ニューディール政策
    - ・ブロック経済政策

- 約の内容を捉えさせ、第一次世界大戦前と比べて、世界情勢がどのように変化したを考えさせる。
- ・教P. 229の資料を用い、独立運動が盛んになっていった様子を捉えさせる。
  - ・ワシントン会議以降の軍縮の動きが、世界や日本に与えた影響を理解させる。
  - 【評】民族運動や平和への動きなどを第一次世界大戦と関連付けて考えたり、表現したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
  - ・教P. 230～P. 231
  - ・本格的な政党政治や普通選挙の実現までの過程に着目して追究させる。（推移）
  - ・護憲運動を起こした人々の政治批判の内容、二人の学者の政治思想などの読み取りを通して、政党内閣が必要とされた目的をつかませる。
  - ・教P. 231の資料を用いて、欧米のデモクラシーの風潮を背景に普通選挙が実現したことに気付かせる。
  - ・大正デモクラシーが国内で広がる中、対外的には国際協調が重視されたことを押さえる。
  - ・教P. 232～P. 233
  - ・様々な社会運動が果たした役割に着目して追究させる。（つながり）
  - ・教P. 232の資料を用い、小作争議と労働争議の増加について調べさせる。
  - ・治安維持法と普通選挙法が同時に成立したことについて、民衆を支配する上での当時の思惑を考えさせる。
  - 【評】社会情勢の変化により、様々な社会運動が広がりをみせたことについて調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
  - ・教P. 234～P. 237
  - ・教P. 234～P. 235の資料を用い、郊外電車が発達したことや沿線に様々な施設が建設されたことに気付かせる。
  - ・都市化の進展と大衆文化の内容に着目して追究させる。（比較）
  - ・都市と農村の格差が広がったことについて触れる。
  - ・教P. 236の資料を用い、資本主義の発達、メディアの普及、教育の充実により、文化が大衆へと広がっていったことを捉えさせる。
  - 【評】大正時代の文化の特色について考えたり変化した理由を説明したりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
  - ・教P. 238～P. 239
  - ・資源や植民地を持てる国（アメリカ、イギリス、フランス）と持たざる国（ドイツ、イタリア）との違いに着目して追究させる。（比較）
  - ・教P. 238の資料を用い、アメリカの社会情勢の変化に気付かせる。また、年表から世界恐慌前後の世界の動きを捉えさせる。
  - ・ソ連は世界恐慌の影響を受けなかったことを押さえる。
  - ・教P. 239の資料を用い、資源や植民地を持てる国は自助努力をした一方、持たざる国は対抗勢力への批判や軍備拡張によって解決しようとしたことを理解させる。



- 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
  - なぜ日本は長い戦争の時代をむかえることになるのだろうか。
- 9 日本の恐慌と東アジア情勢について調べる。
- ★世界恐慌は日本にどのような影響をあたえたのだろうか。
- 日本の世界恐慌について調べたり、欧米諸国との共通点や相違点を考えたりする。
  - 昭和初期の日本と中国の関係について調べる。
    - ・?介石
    - ・山東出兵
  - 国内政治の対立について調べる。
- 10 日本の進路を変えた満州事変について調べる。
- ★なぜ満州への侵略が行われ、その後の日本の政治はどのように変わっていったのだろうか。
- 満州事変について調べる。
    - ・関東軍
    - ・南満州鉄道の線路の爆破
  - 満州国の建国と日本の国際的孤立について調べる。
    - ・国際連盟脱退
    - ・海軍の軍縮条約廃棄
  - 軍部の台頭について調べる。
    - ・五・一五事件
    - ・二・二六事件
  - 満州事変をきっかけに、国際関係と国内政治がどのように変化したかをまとめたり、説明したりする。
    - ・国際関係は、国際連盟中心の協調外交から、国際連盟を脱退し国際的に孤立する方向へと変化した。
    - ・国内政治は政党政治、軍縮路線から、軍部の発言力が強まり、軍拡路線へと進路を変えた。
- 11 日中全面戦争と戦時体制について調べる。
- ★なぜ日本と中国の軍事的衝突は長期化したのだろうか。
- 中国との全面戦争について調べる。
    - ・毛沢東
    - ・盧溝橋事件
    - ・南京事件
  - 日中戦争による影響を、国内と国外に分けて調べたり、まとめたりする。
    - ・国内では、思想、生活、政治結社、教育などあらゆる面で軍国主義の戦時体制が推進された。
    - ・国外では、皇民化政策が推進された。
  - 学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 12 第二次世界大戦の始まりについて調べる。
- ★第二次世界大戦は、どのようにして起こり、どのように展開したのだろうか。
- 第二次世界大戦の始まりと経過について調べる。
  - ドイツの占領政策について調べる。
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
  - 第二次世界大戦が世界にもたらしたものは何だろう。
  - 枢軸国と連合国について調べる。
- 13 アジア・太平洋での戦争について調べる。
- ★日本は、なぜアメリカやイギリスとの戦争を始めたのだろうか。
- 日本の南進について調べる。
    - ・日ソ中立条約
  - 日米交渉の経緯について調べる。
  - 日本が、アメリカやイギリスとの戦争を始めた理由を調べたり、まとめたりする。
- ・第一次世界大戦後の国際協調の流れが止まり日本にも影響が及んでくることを補足する。
  - ・教P. 222の年表を用い、世界恐慌後、長い戦争の時代を迎えることを捉えさせる。
  - ・教P. 240～P. 241
  - ・欧米諸国でも起こったことを参考に、日本の都市や農村で起こったことに着目して追究させる。(比較)
  - ・都市の失業者が急増したり、社会主義革命を目指す運動が激しくなったりするなど、欧米諸国と同様に日本にも世界恐慌の影響が及んだことを捉えさせる。
  - ・日本は中国にもつ権益の維持と拡大を狙って強硬な姿勢をとったことを理解させる。
  - ・協調外交が軍部や国粋主義者らの反発を招き中国に対して強硬姿勢をとっていた国内の軍部の台頭が満州事変につながることを押さえる。
  - ・教P. 242～P. 243
  - ・日本国内の社会や政治の移り変わりに着目して追究させる。(推移)
  - ・国際連盟の脱退により、世界の中で日本が孤立していったことを押さえる。
  - ・満州事変や五・一五事件などを通して、軍部が台頭していったことを捉えさせる。
  - 【評】日本国内の社会や政治の移り変わりについてまとめたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
  - ・教P. 244～P. 245
  - ・日本軍、中国の国民政府や民衆、他国(アメリカ・イギリス)の動きに着目して追究させる。(推移)
  - ・抗日民族統一戦線の成立、重慶爆撃、アメリカやイギリスの援助などの読み取りを通して日本軍、中国の国民政府や民衆、他国の動きの移り変わりをつかませる。
  - ・教P. 245の資料を用い、軍国主義の戦時体制が推進されたことを捉えさせる。
  - 【評】日中戦争による影響を、国内と国外に分けて調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
  - ・教P. 246～P. 247
  - ・ドイツの動きと、イギリスやフランスの対応に着目して追究させる。(推移)
  - ・教P. 246の資料を用い、開戦前後の動きを捉えたり、ドイツとイタリアの占領地の移り変わりを理解したりさせる。
  - ・教P. 247の本文や資料を用い、ドイツの占領政策がユダヤ人をはじめとするヨーロッパの人々にとって過酷なものであったことを読み取らせ、そこに日本人も関わっていたことをつかませる。
  - ・枢軸国と連合国についてまとめ、各陣営の特徴を理解させる。
  - ・教P. 248～P. 249
  - ・日本政府の交渉と日本軍の侵攻に着目して追究させる。(推移)
  - ・教P. 248の資料を用い、太平洋開戦までの動きを捉えさせる。また、日本は日中戦争の行き詰まりを打破するために、東南アジアに軍を進めたことを理解させる。
  - ・日本の動きに対して、アメリカやイギリス、オランダは経済封鎖を強めたことをつかませる。



- ・東南アジアに進出した日本の動きに対して、アメリカやイギリスなどが石油の対日輸出禁止などの経済封鎖を行ったため、日本は経済的に孤立し、立ち行かなくなったから。
- 14 戦時下の国民の生活について調べる。
  - ★戦況の悪化にともない、国民生活はどのように変わっていったのだろう。
  - 戦争が国民生活に与えた影響について調べる。
    - ・学徒出陣
    - ・勤労動員
  - 本土空襲について調べる。
    - ・空襲
    - ・学童疎開
- 沖縄での戦争について調べる。
- 15 第二次世界大戦の終結について調べる。
  - ★どのようにして、第二次世界大戦は終結したのだろう。
  - イタリアとドイツの降伏について調べる。
    - ・ヤルタ会談
    - ・ポツダム宣言
  - 日本の降伏について調べる。
    - ・広島、長崎に原爆投下
    - ・ポツダム宣言の受諾、降伏
  - 第二次世界大戦が人類に及ぼした惨禍をあげ、同じ過ちを防ぐためにはどのようなことが大切か話し合う。
    - ・世界の国々が、平和のために協力し合うことが大切である。
    - ・国民一人一人が、第二次世界大戦の被害を忘れず、平和を守るための意識をもち続けることが大切である。
  - 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 16 戦時体制の言論統制とその影響について調べる。
  - ★戦時体制の言論統制とその影響を考えよう。
  - 戦況が、国民にどのように報道されたのかを調べる。
  - 戦時体制の基で、言論や出版がどのような影響を受けたのかを調べる。
  - 言論統制の影響について、自分の意見をまとめたり、意見交換をしたりする。
    - ・言論統制により、当時の人々の多くは戦争が正しいことだと信じていた。同じ過ちを二度と繰り返さないためにも、言論や報道の自由はとても大切である。
- 17 学習を振り返り、単元の学習のまとめをする。
  - ★単元の学習問題について、自分の考えをまとめよう。
  - 学習してきたことを年表や地図にまとめる。
  - 「戦争」に着目して、近代（後半）の特色をまとめる。
  - 単元の学習問題について話し合ったり、自分の考えをまとめたりする。
    - ・近代（前半）とは違い、欧米諸国と対等に協調したり対立するようになったりしている。アジア諸国に対しては、近代（前半）で欧米が行ってきたような態度や行動を日本がとるようになっていく。
  - 戦後の写真を見て、気付いたことを話し合い、次の単元の見通しをもつ。

- ・開戦当初は日本が有利に戦いを進めたことを押さえる。
- 【評】太平洋戦争が起こった経緯や理由について調べたり、まとめたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 250～P. 251
- ・ものの不足と兵力・労働力不足に着目して追究させる。（つながり）
- ・教P. 250の資料を用い、戦争が子どもの生活に与えた影響を捉えさせる。
- ・サイパンが陥落したことにより、本土への空襲が始まったことを押さえる。
- ・身近な地域で起こった空襲（戦争被害）について、範囲や人的物的被害をまとめておき、生徒たちに提示することで戦争を身近に感じさせられるよう留意する。
- ・教P. 251の資料を用い、沖縄戦の様子をつかませる。
- ・政府が国民に「本土決戦」の決意を呼びかけ戦争を続けたことを押さえる。
- ・教P. 252～P. 253
- ・イタリア、ドイツ、日本の降伏の経緯に着目して追究させる。（推移）
- ・教P. 252～P. 253の資料を用い、枢軸国側が追い詰められていく過程をつかませる。
- ・連合国、枢軸国双方の思惑を対比させることで、戦争が継続した原因をつかませる。
- 【評】戦争という過ちを二度と起こさないためにどのようなことが大切かを話し合ったり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 254～P. 255
- ・教P. 254の資料1と資料3を比較し、資料1が戦果についてばかり強調し、損害が過少に記述されていることをつかませる。また、資料2を用い、当時の報道が大本営によって操作されていることに気付かせる。
- ・教P. 255の資料4を用い、統制された言論が具体的にどのように影響を与えたのかを考えさせる。
- ・言論統制により、どのような影響があったのかを踏まえ、今後の社会がどのようなようになっていくべきかを考えさせられるようにする。
- 【評】言論統制の影響について考えたり、表現したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 258～P. 259
- ・教P. 258の年表と地図に学習したことをまとめ、近代（後半）の大まかな流れを振り返らせる。年表では、朝鮮、中国や日本、欧米諸国の動きを時系列で捉えさせる。
- ・戦争の影響を様々な立場から捉えられるように、政府、軍部、兵士、国民などの視点を与える。
- ・これまでの時代との違いを踏まえ、近代（後半）の特色を大まかに表現させる。
- 【評】これまでの学習を踏まえ、近代（後半）の特色について話し合ったり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教P. 260～261の資料を用い、現代の学習に関心をもたせる。

【 備 考 】

## 単元名 現代の日本と世界

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 現代の日本の大きな流れについて、世界の歴史を背景に、時代の特徴を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 現代の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特徴などについて、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したこととを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けることができる。
- (3) 現代の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。

## 標準的な展開例

12220102\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 写真から日本の社会の変化を読み取ったり、現代の日本と世界の動きを大観したりして、単元の学習問題をつかみ学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○戦争中や敗戦直後、現在の写真を見比べて、日本の社会の変化を読み取り、気付いたことを発表し合う。</li> </ul> <p>★「現代」とはどのような時代なのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地図や年表から、第二次世界大戦後の日本を取り巻く国際環境を大観する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・P. 222～P. 223の地図と見比べると、欧米諸国の領土となっていたところが独立している。また、日本では、日本国憲法が1946年に公布されている。</li> </ul> </li> <li>○単元の学習問題をつかむ。</li> <li>●「現代」の日本には、どのような特色があるのだろう。</li> <li>○第二次世界大戦後の日本と世界の動きについての概略を知り、学習計画を立てる。</li> </ul> <p>2 占領と改革の始まりについて調べる。</p> <p>★ポツダム宣言の受諾と敗戦は、日本に何をもたらしたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の占領政策について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・マッカーサー ・民主化</li> <li>・連合軍総司令部（GHQ）</li> <li>・極東国際軍事裁判（東京裁判）</li> </ul> </li> <li>○縮小した日本の領土とアジアの解放について調べる。</li> <li>○海外にいた人々の苦難について調べる。</li> <li>○敗戦の影響を、国内と国外に分けて説明する。</li> <li>○小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</li> <li>■敗戦によって日本の社会はどのように変化し、どのように国際社会へ復帰したのだろう。</li> </ul> <p>3 日本国憲法と戦後の改革について調べる。</p> <p>★日本国憲法は、どのような経緯で成立し、どのような未来を目指していたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本国憲法の特色をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1946年11月3日公布 ・1947年5月3日施行</li> </ul> </li> <li>・国民 <ul style="list-style-type: none"> <li>主権 ・基本的人権の尊重</li> <li>・平和主義</li> </ul> </li> <li>○民主化の進展について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育基本法 ・財閥解体</li> <li>・労働組合法 ・労働基準法</li> <li>・農地改革</li> </ul> </li> <li>○GHQによる改革や日本国憲法は、どのような国を目指したかを説明する。</li> </ul> <p>4 敗戦直後の社会と文化について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○東京の焼け跡から人々の苦しい生活について予想する。</li> </ul> <p>★苦しい生活のなかで、人々はどのような思いで、どのような行動をとったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○戦争が終わっても苦しい生活を送った理由について考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教P. 260～P. 263</li> <li>・「戦中と戦後の子どもたち」「『国立競技場』の歴史」「自然災害からの復興」の三つの視点から、時代の変化を読み取らせるとともに、その時代の人々の願いや努力を考えられるように支援する。</li> <li>・教P. 262～P. 263の資料を用い、第二次世界大戦後の世界と日本の様子を大観させたり、現代の日本と世界の動きを時系列で捉えさせたりする。</li> <li>【評】現代の日本と世界について、これまでの時代との違いを調べたり、考えたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・単元を通して、政治、社会、文化、外交の面で、これまでの時代との違いを考えるようにさせる。</li> <li>・冷戦構造の中で日本が存在していたことを押さえる。</li> <li>・教P. 264～P. 265</li> <li>・戦争の被害と、占領下におかれたことに着目して追究させる。（つながり）</li> <li>・占領政策により、GHQは日本をどのような国にしたかったかについて、非軍事化と民主化の視点からつかめるようにさせる。</li> <li>・教P. 249や教P. 262～P. 263の世界地図などから、変化を地図上で確認させる。</li> <li>・本時で学習した占領政策を戦前の政策と比べることにより、GHQのねらいについて考えさせる。</li> <li>・教P. 266～P. 267</li> <li>・大日本帝国憲法や敗戦前の社会との違いに着目して追究させる。（比較）</li> <li>・大日本帝国憲法と比較して分かる日本国憲法の特色を言語化できるように支援する。</li> <li>・民法の改正なども含めて、民主化が進められた経緯を押さえる。</li> <li>・民主的で平和な国を目指したことに気付かせられるように支援する。</li> <li>・教P. 268～P. 269</li> <li>・教P. 268の映像資料を用い、空襲による被害の大きさに気付かせ、そこで生活する人々の苦難について考えさせる。</li> <li>・敗戦による社会への様々な影響に着目して追究させる。（つながり）</li> <li>・敗戦による経済的な影響について、戦争で失ったものや海外に住む日本人の引き揚げがもたらしたことを意識させて、多様な考えを引</li> </ul> |

- 生活や権利を守る動きについて調べる。
- 敗戦から復興に向けての動きから、人々の思いについて考える。
- 5 第二次世界大戦後の世界について調べる。
  - ★冷戦は、世界にどのような影響をあたえたのだろう。
    - 国際連合の成立と脱植民地化について調べる。
      - ・国際連合（国連） ・常任理事国
    - 冷戦の始まりについて理解する。
      - ・直接戦争はしないものの、両者が激しく対立する状態が「冷たい戦争（冷戦）」と言われる。
      - ・政治、経済、社会体制に対する理想の違いから、アメリカを中心とする資本主義陣営とソ連を中心とする社会主義陣営が対立した。
    - 冷戦の影響を受けた東アジアについて調べる。
      - ・中華人民共和国 ・大韓民国（韓国）
      - ・朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）
      - ・朝鮮戦争
- 6 国際社会への復帰と55年体制について調べる。
  - ★日本の国際社会復帰には、どのような背景があったのだろう。
    - 占領政策の転換について調べる。
      - ・朝鮮特需 ・自衛隊
    - 日本の自主権回復について調べる。
      - ・サンフランシスコ平和条約
      - ・日米安全保障条約（日米安保条約）
      - ・日ソ共同宣言 ・国際連合加盟
    - 55年体制と安保闘争について調べる。
      - 日本がどのようにして独立を回復したのか、冷戦との関わりで説明する。
        - ・冷戦の影響で、占領政策が転換された。そして、朝鮮戦争を契機に、アメリカは日本を独立させ、西側諸国の一員とすることを望んだため、日本はサンフランシスコ平和条約を結び、独立を回復した。
      - 学習を振り返り、小単元のまとめをする。
  - 7 東西対立と緊張緩和について調べる。
    - ★冷戦による緊張関係は、どのように推移していったのだろう。
      - 核兵器開発と冷戦下の緊張について調べる。
        - アジアとアフリカの動きについて調べる。
          - ・アジア・アフリカ会議 ・南北問題
        - 冷戦による東西対立から、緊張緩和と多極化へ向かった理由を調べたり、説明したりする。
          - ・ヨーロッパ共同体（EC）
          - ・アフリカ統一機構（OAU）
          - ・東南アジア諸国連合（ASEAN）
        - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
        - 冷戦体制下でなぜ日本は経済大国化したのだろう。
    - 8 冷戦下のアジアと日本について調べる。
      - ★冷戦下のアジアと日本との関係は、どのように変化していったのだろう。

- き出すようにする。
- ・運動を起こした人々は何を求め、戦時中はどうのような立場や権利があったかについて調べ変化について捉えさせる。
- ・苦難の面だけでなく、復興を力づけた面にも注目させる。
- ・人々の動きや思いについて、戦時中から戦後改革までの変化から考えさせる。
- ・教P. 270～P. 271
- ・資本主義陣営と社会主義陣営が対立を深めていく過程に着目して追究させる。（推移）
- ・教P. 270の資料を用い、国際連合憲章には、「平和」という言葉が多く出てきていることに着目させる。
- ・アメリカとソ連の違いを歴史的背景から探ることで、資本主義と社会主義につなげる。
- ・教P. 271の地図を用い、北大西洋条約機構（NATO）加盟国やワルシャワ条約機構加盟国を捉えさせる。
- 【評】冷戦の意味やアメリカとソ連の対立の理由について調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 272～P. 273
- ・冷戦が占領政策や調和の在り方に与えた影響に着目して追究させる。（つながり）
- ・占領政策の転換について、冷戦が大きな影響を与えたことに気付かせる。
- ・教P. 272の資料を用い、日本が朝鮮戦争をきっかけに、好景気に向かったことをつかませる。
- ・二つの条約が冷戦の影響を強く受けて成立していることに気付かせるとともに、独立から国際連合加盟まで時間がかかった理由としてソ連との国交回復が影響していることをつかませる。
- ・現在も国内でアメリカ軍基地が残っていることを押さえる。
- ・教P. 273を用い、55年体制や新安保条約、安保闘争について押さえる。
- 【評】日本の国際社会への復帰を冷戦に結び付けて考えたり、説明したりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 274～P. 275
- ・米ソの二大国と、他の国との関係に着目して追究させる。（つながり）
- ・教P. 274の資料を用い、冷戦の構図を確認するとともに、核兵器の広がりをつかませ、核兵器の広がりが及ぼす影響について考えさせる。
- ・日本では第五福竜丸事件などから、日本では原水爆禁止運動が盛んになったが、東西陣営では核開発が進んだことを捉えさせ、核兵器に対する考えの違いに気付くようにさせる。
- ・平和五原則と1960年のアフリカ地域の独立を取り扱う。
- ・アメリカとソ連の二大国と新興国の関係に注目させて、新興国の台頭が世界に与えた影響について考えさせる。
- ・教P. 262の年表などを用い、冷戦体制下で日本は高度経済成長期となり、経済大国化することを捉えさせる。
- ・教P. 276～P. 277
- ・東西対立の中での、アメリカと日本の関係に着目して追究させる。（つながり）

- ベトナム戦争について調べる。
- 復帰運動の高まりと沖縄返還について調べる。
- 日本がアジア諸国との関係を、どのように改善していったのかについて考えたり、説明したりする。
  - ・ベトナム戦争の関係でアメリカは日本にアジア諸国との国交正常化を求めた。そして、西側の韓国とは国交正常化した。また、ベトナム戦争の影響でアメリカが中国との関係改善に動く中で、日本は中国と国交正常化を果たした。
- 9 高度経済成長について調べる。
  - ★高度経済成長を通じて、人々のくらしはどのように変わっていったのだろう。
  - 経済の高度成長について調べる。
    - ・高度経済成長
  - 国民生活の変化や高度成長のひずみについて調べる。
    - ・オリンピック・パラリンピック東京大会
    - ・公害問題                      ・公害対策基本法
  - 高度経済成長がもたらしたものを、光と影の部分に分けて調べたり、まとめたりする。
    - ・家庭電化製品が普及したり、高校や大学への進学率が上がったなど、国民生活が便利で豊かになった。その一方で、大都市の過密や農村の過疎、自然や生活環境の悪化によって起こる公害など、様々な社会問題も発生した。
- 10 経済大国となった日本について調べる。
  - ★経済大国となった日本は、世界にどのような影響をあたえるようになったのだろう。
  - 石油危機以降の日本の貿易の変化について調べる。
    - ・石油危機                      ・バブル経済
  - マスメディアの発達と大衆文化について調べる。
  - 経済大国になった日本が世界に与えている影響について経済面と文化面から考えたり、まとめたりする。
    - ・経済面では、自動車産業やコンピュータ産業を中心に世界に影響を与えている。また、日本企業のアジア進出により、アジアの経済に大きな影響を与えている。
    - ・文化面では、日本の漫画やアニメーションが世界中にファンを獲得するようになった。日本文化に興味をもつ外国人が増加するなど、世界中に大きな影響を与えている。
  - 学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 11 冷戦の終わりとグローバル化について調べる。
  - ★冷戦の終結とグローバル化のもとで、世界にどのような変化が生じ、どのような問題をかかえることになったのだろう。
  - 冷戦の終結について調べる。
  - グローバル化について調べる。
  - 冷戦終結後の紛争と協調について調べる。
    - ・主要国首脳会議（サミット）
    - ・ヨーロッパ連合（EU）
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
  - これからの日本が解決を求められる課題とは何だろう。
- 12 グローバル化の中の日本について調べる。
  - ★グローバル化が進んだ平成時代に、日本はどのような問題に直面していたのだろう。
  - 平成時代の政治、経済、社会の動きについて調べる。
- ・ベトナム戦争が冷戦の構図の中で始まったことを捉えさせる。
- ・現在でも基地問題があることを新聞記事などを利用して気付かせ、その問題点を意欲的に調べようとする姿勢を支援する。
- ・韓国、北朝鮮、中国との関係改善について、冷戦におけるアメリカの影響が背景にあることに気付かせる。
- 【評】日本とアジア諸国との関係の変化について、アメリカの影響を踏まえて考えたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 278～P. 279
- ・高度経済成長期よりも前と後の生活に着目して追究させる。（比較）
- ・教P. 278の資料を用い、国民総生産と1世帯当たりの収入や高度経済成長期のくらしの変化を捉えさせる。
- ・政府の政策や重化学工業の発達、国際競争力の高まりなどが背景にあったことを理解させる。
- ・四大公害訴訟については、地理での学習を想起させる。また、公害対策基本法や環境庁の発足など、公害防止への対策が強化されたことを押さえる。
- ・教P. 279の資料を用い、高度経済成長による国民生活の変化を捉えさせる。
- 【評】高度経済成長による国民生活の変化について調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 282～P. 285
- ・日本と諸外国の関係に着目して追究させる。（つながり）
- ・石油危機、バブル経済崩壊を経て、社会システムの見直しを求められたことを押さえる。
- ・教P. 282～P. 283の資料を用い、日米貿易摩擦について捉えさせたり、日本の貿易相手の変化を読み取らせたりする。
- ・教P. 284～P. 285の資料を用い、マスメディアが大衆文化に大きな影響を与えたことを理解させる。
- 【評】経済大国になった日本が世界に与えている影響について考えたり、表現したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 286～P. 287
- ・米ソという二大国の対立が無くなった影響に着目して追究させる。（つながり）
- ・冷戦終結後から現代にかけて、国境を越えた活動が活発化し、世界が一体化したことを理解させる。
- ・冷戦の終結によって、アメリカとソ連の両陣営の抑止力が無くなったことや、国家の独立に民族問題が大きく関係していることを関連付けて捉えさせる。
- ・教P. 262の年表などを用い、グローバル化した平成時代に、日本が直面する課題に目を向けさせる。
- ・教P. 288～P. 289
- ・グローバル化が日本にどのような影響を与えたのかに着目して追究させる。（つながり）
- ・教科書を参考にして、項目ごとにまとめさせる。政治の体制等、理解が難しいと考えられ

- グローバル化が日本に与えた影響について調べる。
- 二つの震災について調べる。
  - ・阪神・淡路大震災 ・東日本大震災
- 平成時代の日本の政治，経済，社会の様子について，当時の時代背景と関連付けてまとめる。
  - ・バブル経済が崩壊し，長期の不況に入ったことや，グローバル化が進んだことなどの理由から，これまでのやり方では激しい競争や変化に対応できなくなった。政治では，冷戦下にできた55年体制が終わった。
- 13 これからの世界と日本の課題について調べる。
  - ★これからの世界に日本が貢献すべきことや，日本がかかえる課題について考えよう。
- 世界の中の日本の課題について調べる。
- 解決を迫られる国内課題について調べる。
- 国際社会が抱える問題の解決のために，私たちは何ができるか，日本には何ができるかを話し合う。
  - ・私たちにできることは，歴史をしっかりと学び，正しい歴史認識を身に付けることだと思う。
  - ・日本ができることは，環境問題に対する豊富な知識と経験を，世界中に広げることだと思う。
- 学習を振り返り，小単元のまとめをする。
- 14 学習を振り返り，単元の学習のまとめをする。
  - ★単元の学習問題について，自分の考えをまとめよう。
  - 学習してきたことを年表や地図にまとめる。
- 「復興と成長の源」に着目し，現代の特色をまとめる。
- 単元の学習問題について話し合ったり，自分の考えをまとめたりする。
  - ・政府は，戦後復興期にはGHQの指導による民主化政策を進め，高度経済成長期には経済成長を促進する政策に取り組んだ。
  - ・現代の社会では，偏見や差別が問題となり，法律が整備され，弱者の支援を進めることとなった。
- 「『歴史との対話』を未来に活かす」の学習の見通しをもつ。

- 内容には補足説明をする。
- ・教P. 288の資料を用い，非正規雇用者が増加していることに気付かせる。
  - ・いつ，どこで，どんな被害があったかをまとめさせる。
- 【評】平成時代の日本の政治，経済，社会の様子について調べたり，当時の時代背景と関連付けてまとめたりする活動を通して，「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 290～P. 291
  - ・国際社会と私たちの身近な問題が，どのように結び付いているかに着目して追究させる。（つながり）
  - ・平和に関する活動，環境に関する活動などを中心に取り扱う。
  - ・全ての人々の人権を尊重することや，偏見や差別を根絶することの重要性を考えさせる。
  - ・歴史を学ぶことの意義や重要性に気付かせ，未来を切り拓こうとする意識を育みたい。
- 【評】国際社会が抱える問題の解決に向けてどのようなことができるか考えたり，表現したりする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 296～P. 297
  - ・教P. 296の年表と地図を用い，現代の世界と日本の動きを時系列で捉えたり，歴史の主な出来事がどこで起こったのかを確認したりさせる。
  - ・教P. 297の表を用い，現代の特色について，様々な時期や立場，視点からまとめさせる。
- 【評】これまでの学習を踏まえ，現代の特色について話し合ったり，自分の考えをまとめたりする活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

## 単元名 「歴史との対話」を未来に活かす

配当時間 2時間

## 単元の目標

- (2) これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもち、多面的・多角的に考察・構想し表現する力を身に付けることができる。
- (3) 現代の諸問題に関する歴史を振り返る活動を通じて、現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする。

## 標準的な展開例

12220103\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1～2 現代の諸問題について、歴史的分野の学習を振り返り先人たちの知恵に学びながら、よりよい未来をつくる第一歩を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</li> <li>●よりよい社会の実現のために、先人の取り組みから何を学び、私たちはどのように行動すべきだろうか。</li> </ul> <p>○現代社会の課題を捉える。<br/>課題例①「災害の歴史に学ぶ」</p> <p>★災害に強い社会の実現をめざし、防災・減災に関するそなえを過去から学ぼう。</p> <p>○現代社会の課題について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な種類の災害を被っている。</li> <li>・近世を中心として、それ以降に多くの災害が発生している。</li> </ul> <p>○現代社会の課題について、先人の取り組みを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ききん対策については、青木昆陽や徳川吉宗（幕府）が痩せた土地でも育つサツマイモの栽培を奨励した。現代は米の品種改良によって低温、干ばつ、病害虫などへの対応がききん対策として引き継がれている。</li> <li>・干害対策については、行基や朝廷が、かんがい施設とすのため池を掘削した。現代は、ダムによる貯水で安定した水の供給を行うことが干害対策として引き継がれている。</li> </ul> <p>○先人の取り組みを踏まえ、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災は、行政によって行われる場合が多いが、歴史を振り返ってみると、民衆の力で行われた取り組みも多かった。行政による防災・減災の取り組みを充実させることはもちろんだが、一人一人が防災に対する意識を高めそれぞれの災害に対してどのように行動するかを具体的に考え、行動することが大切である。</li> </ul> <p>○よりよい社会の実現のために、調べて考えたことを伝え合う。</p> <p>○歴史的分野の学習を振り返る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教P. 298～P. 305</li> <li>・歴史を振り返る際は、教P. 298～P. 299の「テーマ別さくいん」や教P. 311～P. 317の「さくいん」を活用するとよいことを確認する。</li> <li>・教P. 300～P. 305に現代社会の課題の例として災害、政治参加、世界平和があるが、その他の課題について考えさせてもよい。</li> <li>・年代と災害の種類の両面から読み取らせ、江戸時代に集中していることのみに注目させるのではなく、災害の種類も多いことに着目させる。</li> <li>・教P. 300～P. 301の資料や「テーマ別さくいん」などを用い、どのような人々が、どのように災害に対処したのかを、その理由も併せて考えるよう指導する。</li> <li>・教科書に掲載されている情報だけでは不足している場合は、他の資料を準備しておくか、生徒に調べさせる学習を考えてもよい。</li> <li>【評】よりよい社会の実現に向けて、災害に対する先人の取り組みについて振り返ったり、調べたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・災害に対する防災・減災の取り組みにおける大切なことについて、自分の考えをまとめさせる。</li> <li>【評】災害や防災の歴史を踏まえ、災害に対して自分たちが取るべき行動を考えたり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・公民的分野へのつながりを見いだすことができるよう支援する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

本単元では、よりよい社会の実現のために、先人の取り組みから何を学び、自分たちはどのように行動すべきであるかについて、課題を設けて探究させる学習活動を展開する。標準的な展開例は課題例①「災害の歴史に学ぶ」（教P. 300～P. 301）を取り上げているが、課題例②「政治参加の歴史に学ぶ」（教P. 302～P. 303）や課題例③「世界平和への取り組みに学ぶ」（教P. 304～P. 305）、その他の課題について考えてもよいこととされている。本単元の学習を通して、公民的分野へのつながりを見いだすことができるようにさせたい。

単元名 **これからの社会をどんな社会にしたい？**

配当時間 **1時間**

単元の目標

(3) 持続可能な社会との関わりという観点からこれからの社会の理想的な姿について考える活動を通して、以後の公民の学習に対する関心と意欲をもとうとする。

標準的な展開例

12220104\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 公民を学ぶ目的・意義を理解し、今後の学習の進め方を知る。</p> <p>★「これからの社会をどのような社会にしていきたいか」について話し合おう。</p> <p>○学習課題について考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に優しく、きれいな社会にしたい。</li> <li>・友達の考えを聞いて、すべての人が平等に活躍できる社会にすることが大切だと思った。</li> </ul> <p>○公民を学ぶ目的と意義をつかむ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教表紙裏</li> <li>・学習課題を提示する前に、導入として生徒のもつ「公民」という言葉に対するイメージを引き出す。</li> <li>・教科書の表紙裏にあるSDGsの資料を参考に、既習の地理的分野、歴史的分野の視点を交えながら、現代社会が抱える課題に着目させる。</li> <li>【評】これからの社会をどのような社会にしていきたいかを考え、話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</li> <li>・教P. 2～P. 3の「もくじ」を見せることで、公民の学習内容を大観させる。</li> <li>・公民の学習内容とSDGsの項目とを関連付けることで、これから学ぶことが持続可能な社会をつくることと深くつながっていることを感じ取らせる。</li> </ul> |

【 備 考 】

## 単元名 私たちと現代社会

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) 現代の社会生活について、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 現代の社会生活などについて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。
- (3) 私たちと現代社会について、現代社会にみられる課題の解決方法を考える活動を通して、主体的に社会に関わろうとする。

## 標準的な展開例

12220105\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 現代社会の特色を大まかに捉える。</p> <p>★「現代社会」とは、どのような社会だろうか。</p> <p>○資料を基に、現代社会の特色を表現する。</p> <p>○現代社会の課題について考える。</p> <p>○単元の学習問題をつかむ。</p> <p>●私たちが生きる現代社会には、どのような特色と課題があるのだろう。</p> <p>2 少子高齢化が進む日本社会の様子と課題について調べる</p> <p>★少子高齢化が進む日本の社会には、どのような変化と課題があるのだろう。</p> <p>○少子高齢化が進む日本の社会の様子を調べる。</p> <p>・このままだと、2065年には人口が約9000万人まで減少し、高齢者が人口の約4割を占めるようになる。</p> <p>○少子高齢化に対する取り組みについて調べる。</p> <p>3 情報化が進む社会と私たちの暮らしについて調べる。</p> <p>★情報化が進む日本の社会には、どのような変化と課題があるのだろう。</p> <p>○日常生活において、情報端末を使う場面や、使用して困ったことを発表する。</p> <p>○情報化が進む社会の様子について調べる。</p> <p>○情報化社会で必要なリテラシーや情報モラルについて考える。</p> <p>4 グローバル化する社会の様子と課題について調べる。</p> <p>★グローバル化が進む社会には、どのような変化と課題があるのだろう。</p> <p>○グローバル化する世界の変化について調べる。</p> <p>○グローバル化する世界の課題と、多様性の尊重について考える。</p> <p>5 持続可能な社会を実現するためにできることを考える。</p> <p>○資料①～③を見て、気付いたことを発表する。</p> <p>★持続可能な社会を実現するために、私たちにはどのようなことができるのだろう。</p> <p>○現代社会の課題を整理する。</p> <p>○社会の課題に対し、どのように社会参画をするとよいかを考え、話し合う。</p> | <p>・教P. 6～P. 7</p> <p>・生徒のもつ「現代社会」という言葉に対するイメージを引き出す。</p> <p>・教科書に載っている漫画や例文を基に、既習の地理的分野、歴史的分野の内容もふまえて考えさせる。</p> <p>・教科書の漫画では、ほとんどのコマで現代社会のよい面に視点が向けられていることに気付かせ、「現代社会はよいところばかりなのだろうか。」と問いかける。</p> <p>・教P. 8～P. 9</p> <p>・少子化や高齢化が日本社会に与える影響を、推移や変化に着目して追究させる。(推移、変化)</p> <p>・アクティビティに取り組みせ、日本の人口の推移や将来推計について、資料から情報を読み取らせる。</p> <p>【評】日本の人口の推移や将来推計について、資料から変化や課題を読み取る活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・資料④を参考に、出産や育児を行いやすい社会づくりを進めることの大切さに気付かせる</p> <p>・教P. 10～P. 11</p> <p>・情報化による社会の変化を、位置や空間的広がりに着目して追究させる。(位置や空間的広がり)</p> <p>・情報端末の例としてはスマートフォンやパソコン、困ったことの例としてはSNSでのトラブルや迷惑メール等の事例が考えられる。</p> <p>・様々な場面でくらしが便利になる一方、個人情報やビッグデータとして記録される危険性があるといった二面性に気付かせ、多面的にまとめさせる。また、子どもから大人まで様々な年代の人が情報化の恩恵を受けていることに気付かせ、多角的にまとめさせる。</p> <p>・教P. 60～P. 61や、P. 86～P. 87の内容や実験・既知知識等を用いて具体的に考えさせる。</p> <p>・教P. 12～P. 13</p> <p>・グローバル化による社会の変化を、地理・歴史的な視点に加えて、政治・経済など多様な視点に着目して追究させる。</p> <p>・資料を基に、観光や産業などの分野で世界の国々との結びつきが強くなっていることを、多面的に捉えさせる。</p> <p>・互いの個性、地域の文化、国の特徴を尊重し合うことの大切さを捉えさせる。</p> <p>・教P. 14～P. 15</p> <p>・歴史的分野と関連付け、それぞれの時代ごとに社会の状況に応じた課題が存在していたことに気付かせる。</p> <p>・現代社会の様々な課題を、持続可能性という観点から追究させる。(持続可能性)</p> <p>・これまでの公民の学習内容を振り返らせ、どのような課題があったかを発表させる。</p> <p>・話し合いの場面では、違う課題を選んだ生徒同士が同じグループになるよう意図的に編成</p> |



・グローバル化する社会の一員として英語の学習に力を入れ、海外に日本のことを発信したいという考えを聞き自分も見習いたいと思った。

- 6 現代社会の文化と私たちとの関わりについて調べる。  
★文化は、私たちの考え方や社会生活に、どのような影響を与えているのだろう。

○文化が私たちに与える影響について調べる。

○現代社会における文化の発展と課題について考える。

○小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。

■現代社会における文化には、どのような意義と影響があるのだろう。

- 7 日本の伝統文化の特徴と多様性について考える。  
★日本の伝統文化には、どのような特徴と広がりがあるのだろう。

○日本の伝統文化について調べる。

○伝統文化が抱える課題について考える。

○文化の継承と創造の意義について知る。

- 8 グローバル化が進む社会と日本の文化について考える。  
★グローバル化が進む社会の中で、日本の文化をどのように生かしていくとよいのだろう。

○グローバル化の進展による、日本の文化への影響について調べる。

○文化がグローバル化していく中で、気を付けなければならないことについて考える。

○グローバル化する社会の中で、日本の文化を受け継いでいくために大切なことについて話し合う。  
・友達のことを聞いて、日本の文化を世界に発信する中で、日本の文化のよさを再発見していくことが大切だと気付いた。

- 9 社会生活におけるきまりの意義について調べる。  
★社会の一員として生きる私たちにとって、必要なものは何だろう。また、なぜそれが必要なのだろう。

○社会と私たちとの関わりについて調べる。

○様々な個性をもった個人が集まって社会生活を営むため

するなどして、多様な考え方に触れられるようにする。

【評】他者の考えも踏まえながら社会参画の方法について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教P. 18～P. 19

・文化には歴史があり、地域によって異なることを、位置や推移に着目して追究させる。（位置、推移）

・歴史的分野での学習と関連付け、「文化」とは衣食住をはじめ人間が創り上げたすべてのものや感じ方の総称であることに気付かせる

・資料⑨から、文化による影響は必ずしもよい面だけではないことに気付かせ、多面的に捉えさせる。また、「深めよう」について考えさせることで、宗教に対する捉え方は時代や立場によって変わることを想起させ、多角的に捉えさせる。

・教P. 20～P. 21

・日本の伝統文化の歴史や地域性について、位置や推移に着目して追究させる。（位置、推移）

・歴史的分野や地理的分野の内容と関連付け、外国の文化を取り入れながら日本独自の文化として昇華させてきたことや、同じ国内でも地域によって文化に違いがみられることを振り返らせる。

・アクティビティに取り組ませることで、自らの地域がもつ伝統に目を向けさせ、課題を自分ごととして捉えさせる。その際、地理的分野の「第4章 地域のあり方」の学習と関連付けることが考えられる。また、地域によっては地域読本などの副読本や、総合的な学習の時間とも関連付け、生徒たちに地域に目を向けさせる機会を与えたい。

・アクティビティの内容と関連付けながら「私たちと文化の創造」を取り上げることで、自らもまた文化の継承者かつ創造者であることに気付かせる。

・教P. 22～P. 23

・日本の文化について、地理・歴史的な視点に加えて、政治・経済など多様な視点に着目して追究させる。

・日本の文化が世界で広く受け入れられていることや、日常生活の中で異文化との交流が行われていることに気付かせる。

・文化の交流が、観光やスポーツ、宗教など、多様な面で行われていることを捉えさせる。

・相手の文化を尊重することや、造詣を深めて受け入れていくことが大切であることに気付かせる。

・これまでに「第1編 2章」で学習した文化についての学習内容も振り返らせて考えさせる。

・対話を促すことで自らの考えを深化させ、多様な考えを持つ人々と協働し、社会の課題に主体的に関わろうとする態度を育む。

【評】グローバル化する社会の中で、日本の文化を受け継いでいくために大切なことについて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教P. 24～P. 25

・社会のあり方やきまりの意義について、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）

・家族については、当たり前の存在であるが故にその意義や課題に気付きにくい。社会の基礎単位であることを踏まえどうあるべきなのかを、教科書の記述を基に考えさせたい。

・よりよい社会生活を営むためにはきまりが必

に必要なことを話し合う。  
・社会には様々な人がいるので、互いに尊重し合って生活するためにはきまりが必要だ。

○社会生活ときまりについて、理解を深める。

○単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。  
■私たちにあって、きまりとはどのようなものなのだろう

- 10 「対立」と「合意」について考える。  
★なぜ、社会では「対立」が起きるのだろう。また、「対立」を解消し、「合意」するためには、何が必要なのだろう。  
○なぜ対立が生まれるのかを考える。

○対立を解消し、合意するための方法について知る。

○合意をするために大切なことは何かを考える。

- 11 「効率」と「公正」について考える。  
★上手に合意をするためには、どのような考え方が大切なのだろう。

○「効率」と「公正」の考え方について調べる。

○「効率」と「公正」について、理解を深める。

○公正な社会をつくるために大切なことを知る。

- 12 きまりを守る責任と評価について考える。  
★合意をした後は、どのようなことが大切なのだろう。

○きまりの評価と変更について知る。

○きまりの評価と変更について、理解を深める。  
・③の視点から評価すると、購入者は薬剤師の名前などが分かり安心できるが、薬剤師からすると個人情報インターネット上に掲載されるのは嫌だと感じると思うので、このきまりはよくない。

○きまりを守る責任と契約について知る。

必要なことを理解させるとともに、資料⑤を使い、きまりにも性質の違いがあることに気付かせる。

【評】よりよい社会生活を営むために必要なことを話し合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。  
・アクティビティに取り組みさせることで、習得した知識を活用させる。

・教P. 26～P. 27  
・対立と合意の考え方や、合意する方法としての多数決の意義と課題について追究させる。  
(対立と合意)

・社会は様々な利害関係で形成されており、意見や利害の違いによって問題や紛争が起こることに気付かせる。そして、それこそが「対立」であることを捉えさせる。  
・アクティビティに取り組みさせることで、対立と合意を身近な問題として捉えさせる。  
・アクティビティの内容をふまえ、様々な合意方法があり、それぞれによさや難点があることに気付かせる。また、少数意見を尊重する必要性を捉えさせる。それらを基に、「合意」に対して多面的・多角的に考えさせる。

・教P. 28～P. 29  
・効率と公正の考え方や、公正な社会とはどのような社会なのかについて追究させる。(効率と公正)

・資料を基に、日常生活に置き換えて考えることで意味を捉えやすくする。ただし、日常的に使用される言葉の意味と必ずしも同じ意味で用いられていないことに注意する。

・特に資料②からは、「効率」と「公正」の両立を目指すことをしっかりとつかませる。

・アクティビティに取り組みさせることで、習得した知識を活用させるとともに、日常生活の様々な場面でこの考え方が活用できることを感じ取らせる。

・合意する際には、「効率」と「公正」から多面的に判断することや、様々な立場から多角的に考えることが大切であることをつかませる。

・教P. 30～P. 31  
・対立と合意、効率と公正の考え方や、きまりを評価する視点を使い、きまりのあり方やつくり方について追究させる。(対立と合意、効率と公正)

・きまりとは、自らの行動や権利を制限・拘束するものと捉えがちであるが、きまりを守ることによってそれぞれの権利や利益、安全が保障されることに気付かせる。

・アクティビティに取り組みさせ、きまりの変更について五つの視点から多面的・多角的に評価させることで、習得した知識を活用させる

【評】きまりの変更について五つの視点から多面的・多角的に評価する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・これまでの学習内容を整理し、これらを現代社会の見方・考え方の基礎となる「契約」という概念として捉え直させる。

【 備 考 】

## 単元名 私たちの生活と政治 個人の尊重と日本国憲法

配当時間 18時間

- 単元の目標 (1) 人間の尊重についての考え方や法の意義、法に基づく政治及び日本国憲法の基本的原則などについて理解するとともに、民主主義や人間の尊重についての考え方や法に関する様々な諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について、個人の尊重や民主主義法の支配といった見方・考え方を生かしながら、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。
- (3) 個人の尊重と日本国憲法について、現代社会にみられる課題や解決方法を考える活動を通して主体的に社会に関わろうとする。

## 標準的な展開例

12220201\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 私たちの生活と日本国憲法や政治との関わりについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 漫画「文化祭の出しものを決めよう!」を読む。</li> <li>★ 漫画を通して、私たちの生活と政治の「見方・考え方」をとらえよう。</li> <li>○ 学級全員で話し合ってよかったことについて話し合う。</li> <li>○ なぜ実行委員の意見というだけでは出しものが決まらなかったのかについて話し合う。</li> <li>○ 「まんがについて」を読み、本単元の見方・考え方について話し合う。</li> <li>○ 単元の学習問題をつかむ。</li> <li>● みんなが個人として尊重される社会を実現するために、日本国憲法はどのようなはたらきをしているのだろう。</li> </ul> <p>2 私たちにとっての政治と民主主義について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 政治とは何だろう。また、なぜ政治が必要なのだろう。</li> <li>○ 政治のはたらきについて調べる。</li> <li>○ 民主主義について調べる。</li> <li>○ よりよい民主政治のために必要なことについて考える。</li> <li>○ 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</li> <li>■ なぜ法に基づいて政治が行われることが大切なのだろう</li> </ul> <p>3 法に基づく政治と憲法について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ なぜ憲法は必要なのだろう。</li> <li>○ 法の構成と立憲主義について調べる。</li> <li>○ 個人の尊重と法の支配の必要性について考える。</li> <li>○ 資料①にある「王様の政治」を防ぐためには、どのようなきまりをつくるとよいかについて話し合う。</li> </ul> <p>4 日本国憲法の制定と三つの基本原則について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 歴史の学習を踏まえると、日本国憲法にはどのような特徴があるのだろう。</li> <li>○ 大日本帝国憲法と日本国憲法を比較して分かることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大日本帝国憲法では天皇主権だったが、日本国憲法では国民主権に変わった。</li> </ul> </li> <li>○ 戦後、なぜ大日本帝国憲法を改めたのかについて考える</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教P. 34～35</li> <li>・ 前単元で学習した「対立」と「合意」や「効率」と「公正」の内容を振り返らせる。</li> <li>・ 本単元の見方・考え方の一つである「法の支配」と関連付ける。</li> <li>・ 教科書中から見方・考え方に該当すると思われる言葉は何かを考えさせる。</li> <li>・ 教P. 36～37</li> <li>・ 政治の決定の方法と、決定に際して守るべきルールを、民主主義に着目して追究させる。(対立と合意、民主主義)</li> <li>・ 資料①を基に、政治がなかった場合の生活への影響を具体的に考えさせることで、政治のはたらきについてつかませる。</li> <li>・ 「リンカーンの演説」と「日本国憲法前文」を比較させることで、「権威が国民に由来し」「国民主権」、「国民の代表者がこれを行使」(代議制)していることに気付かせる。</li> <li>・ アクティビティに取り組ませることで、個人の尊重や自由、少数意見の尊重といったことに配慮する必要があることに気付かせる。</li> <li>・ 教P. 38～39</li> <li>・ 立憲主義の憲法について、個人の尊重と法の支配に着目して追究させる。(個人の尊重、法の支配)</li> <li>・ 憲法は国の最高法規であり基本法であることや、憲法に基づいて政府をつくり政治を行うことで権力の濫用を防ぐ立憲主義の考え方を理解させる。</li> <li>・ 資料を基に、人の支配と法の支配を比較させる。それにより、人の支配の問題点や、法の支配によって個人が尊重され、基本的人権が保障されるようになることに気付かせる。</li> <li>・ 「個人の尊重と人権の保障」の面と、「権力の制限」の面から、多面的に考えさせる。</li> <li>・ 教P. 40～41</li> <li>・ 日本国憲法が、三つの基本原則を採用した経緯について、大日本帝国憲法との比較や、立憲主義の歴史の推移、法の支配に着目して追究させる。(比較、推移、法の支配)</li> <li>・ アクティビティに取り組ませることで、日本国憲法の三つの基本原則に着目させながら、二つの憲法を比較させる。</li> <li>【評】大日本帝国憲法と比較して日本国憲法の特徴を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 歴史的分野での既習事項と関連付けて考えさせる。</li> <li>・ 再び戦争の惨禍が起こることのないように、立憲主義の憲法に改められたことを捉えさせ</li> </ul> |

- 5 日本国憲法と国民主権について考える。  
★なぜ、国民が主権をもつことが大切なのだろう。
- 国民の政治参加の方法について調べる。
  - なぜ憲法の改正には、厳格な手続きが必要なのかについて考える。
  - 天皇の地位について調べる。
- 6 日本国憲法と基本的人権について調べる。  
★私たちが当然だと思っている人権という考え方は、どのように生まれ発展してきたのだろう。
- 人権思想のあゆみについて調べる。
  - 日本国憲法と他の憲法や宣言を比較する。
  - 人権思想の変化について、「個人の尊重」の観点から説明する。
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 人権の尊重とは、どういう考え方ののだろう。
- 7 自由に生きるための権利について調べる。  
★私たちが自由に生きるために、どのような権利が保障されているのだろう。
- 生活の中にある「自由」について発表する。
  - 自由権を「精神の自由」，「生命・身体の自由」，「経済活動の自由」の三つの分類に基づいて調べる。
  - 実例に基づいて、自由権について考える。
- 8 等しく生きる権利について調べる。  
★私たちの社会は、平等に関する問題に、どのように取り組んでいるのだろう。
- 男女が平等な社会をつくるための取り組みについて調べる。
  - 障がいのある人とともに生きる社会について調べる。
  - 外国人とともに生きる社会について調べる。
  - 平等権に関する問題を解消するための取り組みについてまとめる。
    - ・男女平等な社会を実現するために男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法を制定したが、未だに家事に取り組む時間は、女性の方が圧倒的に長くなっている。
- 9 差別のない社会に向けた取り組みについて調べる。  
★現代社会に残る差別をなくすために、どのような努力がなされているのだろう。
- 部落差別解消に向けた取り組みについて調べる。

- る。
  - ・教P. 42～43
  - ・国民主権について、民主主義と法の支配に着目して追究させる。（民主主義、法の支配）
  - ・生徒会活動の経験を振り返らせることで、議会制民主主義のしくみを捉えさせる。
  - ・政治や裁判など、様々な場面で政治参加をしていることに気付かせる。
  - ・アクティビティに取り組ませることで、「総議員の3分の2以上の賛成」や「有効投票数の過半数の賛成」といった具体的な数字に着目させ、憲法改正に関する手続きの厳格さに気付かせる。
  - ・既習の「法の構成」を振り返らせ、憲法が国の最高法規であることを確認させる。
  - ・天皇の発意による国事行為は認められていないことを確認する。
  - ・教P. 44～45
  - ・憲法と人権思想の発展を、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
  - ・教科書の資料①を基に、時代が進むにつれて王権の制限、個人の尊重と自由権や平等権の出現、社会権の出現、という順番で基本的人権が認められていったことを捉えさせる。
  - ・日本国憲法の第11条に記されている内容が、他の憲法や宣言に記された内容と共通していることに気付かせることで、これまで人類が築いてきた人権という考え方を継承していることを捉えさせる。
  - ・1215年のマグナ＝カルタ以降、700年以上もの年月をかけ、ついに1948年の世界人権宣言によって個人の尊重に基づく基本的人権の尊重が国際的に保障され、人類の普遍的な価値となったことを捉えさせる。
  - ・教P. 46～47
  - ・自由権の意義を、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
  - ・発表された「自由」について、資料②と対比させて何の自由に当たるのかを考えさせる。
  - ・教科書P. 222～の巻末資料を使い、それぞれの権利の根拠となっている日本国憲法の条文についても確認させる。
  - ・「深めよう」に取り組ませることで、知的財産権を保護するためといえども、法律の定められていない状態で個人の自由権を侵害することは許されないことを考察させる。
  - ・教P. 48～49
  - ・性別の違い、障がいの有無、国籍の違いについて、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
  - ・資料②、③を提示し、憲法で男女平等を規定しつつも、実態として日本はまだ道半ばであることを捉えさせる。
  - ・「合理的配慮の提供」とは、障がいのある人から何らかの助けを求める意思の表明があった場合、過度な負担になりすぎない範囲で社会的障壁を取り除くために対応する必要があることを説明する。
  - ・地理的分野の学習と関連付けさせる。特に愛知県は在留外国人数が東京都に次ぐ全国2位であるため、外国人との共生は身近な問題であることを感じ取らせる。
  - ・制定されている法律や社会のしくみに着目させるとともに、それらの取り組みが行われていてもまだ道半ばであることに気付かせたい
- 【評】 平等権に関する問題を解消するための取り組みについてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 52～53
  - ・部落差別や民族差別の問題を、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）

- アイヌ民族への差別解消に向けた取り組みについて調べる。
  - 在日韓国・朝鮮人差別解消に向けた取り組みについて考える。
- 10 人間らしい生活を営む権利について考える。  
★人間らしい生活を営む権利は、なぜ重要なのだろう。また、どのような権利があるのだろう。
- 人間らしく生きるために必要なものについて考え、話し合う。
  - 教育を受ける権利について調べる。
  - 勤労に関する権利について調べる。
- 11 人権の保障を確実にするための権利について調べる。  
★私たちの権利を保障するための権利には、どのようなものがあるのだろう。
- 参政権について調べる。
  - 請求権について調べる。
  - 参政権と請求権が人権保障のために果たしている役割を説明する。
- 12 社会の変化と人権保障について考える。  
★なぜ新しい人権が生まれたのだろう。また、新しい人権にはどのような権利があるのだろう。
- 知る権利について調べる。
  - プライバシーの権利について考える。
  - なぜ新しい人権が主張されるようになったのかをまとめ発表する。
    - ・新しい人権は、科学技術の発展などの社会の変化に伴い、そのような状況の中でも個人の権利を尊重するために、憲法第13条の幸福追求権を根拠として主張されるようになった。
- 13 科学技術の発達による人権保障の変化について調べる。  
★科学技術の発展は、私たちの人権にどのような変化をもたらしたのだろう。
- 環境権について調べる。
  - 自己決定権について調べる。

- ・資料①のポスターで問いかけられている内容について考えさせることで、部落差別は身近に起こりうる問題であることを感じ取らせる
- ・資料②と⑤を比較させることで、部落差別との一番大きな違いは、独自の文化や伝統を否定されたことにあり、そういった問題の解消をめざしてアイヌ文化振興法が制定されたことを捉えさせる。
- ・「深めよう」に取り組ませ、個人の尊重と表現の自由の関係についても関連付けて捉えさせる。
- ・教P. 54～55
- ・人間らしい生活を送るために必要なことは何かについて、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
- ・アクティビティに取り組ませることで、憲法第25条で規定される「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのようなものかを考えさせる。
- ・教科書の裏表紙にある文章を確認させることで、自分たちも教育を受ける権利に基づき、無償で支給された教科書を使用していることに気付かせる。
- ・教科書P. 242の労働基準法の条文に目を通させたり、愛知県の最低賃金（2020年10月時点では927円）について知らせたりすることで、将来働く時に労働条件に少しでも目が向くようにさせたい。
- ・教P. 56～57
- ・参政権と請求権の意義を、個人の尊重、民主主義に着目して追究させる。（個人の尊重、民主主義）
- ・今までに学習した国民主権や集会、結社、表現の自由とも関連させながら、基本的人権を保障するのに必要な権利であることを捉えさせる。
- ・自由権や平等権は「国家からの自由」を保障する人権であるのに対して、請求権は人権の保障を実現するために、「国家の行為を請求する」権利であることを捉えさせる。
- ・参政権については、政治に参加することがどのように人権を保障することにつながるのかを説明させる。また、請求権については、具体的にどのような場面で国に保障を求めることができるのかを説明させる。
- ・教P. 58～59
- ・知る権利とプライバシーの権利が大切な権利であることを、個人の尊重、民主主義に着目して追究させる。（個人の尊重、民主主義）
- ・主権者である国民が、政治に対して正しい判断を行い、民主政治を成立させるために知る権利が大きな役割を果たしていることを捉えさせる。
- ・アクティビティに取り組ませたり、資料⑥について考えさせたりすることで、プライバシーの権利は社会政策や犯罪捜査、表現の自由などとしばしば対立を起こすことがあることに気付かせる。
- ・根拠として、憲法第13条の幸福追求権があることや、科学技術の発展による社会の変化に対応する形で生まれたことを理解させる。
- 【評】新しい人権が主張されるようになった経緯について、科学技術の発展と社会の変化や民主主義との関係、個人の尊重といった内容から多面的・多角的に考え、表現する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 62～63
- ・環境権や自己決定権の意義を、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
- ・環境権が主張されるようになった経緯と、それに対する国の対策や取り組みをまとめさせる。
- ・自己決定権が、医療の発達に伴う様々な治療

- 科学技術の発展と人権保障の課題について考える。
- 14 国際的な人権の保障について調べる。
- ★ 人権を保障するために、国際的にどのような取り組みが行われているのだろうか。
- 人権保障の国際的な広がりについて調べる。
  - 児童労働や子ども兵士がなぜ問題となっているのかについて考える。
  - グローバル化と人権保障の関係について調べる。
- 15 公共の福祉と国民の義務について考える。
- ★ 様々な権利をもつ私たちは、何に気を付ける必要があるのだろうか。
- なぜ自由が制限される場合があるのかについて考える。
  - 国民の義務について調べる。
  - 人権が衝突した事例について調べる。
    - ・ 歴史的な景観を残すために、建物の修理が制限されていることが分かった。自分たちの住む地域でも、似たような事例がないか調べてみたい。
- 16 日本国憲法の平和主義について考える。
- ★ 憲法の定める平和主義とはどのような考え方なのだろう また、なぜそう定められたのだろうか。
- 日本国憲法の前文と憲法第9条について調べる。
  - 自衛隊と自衛権について調べる。
  - 日本国憲法は、どのような方法で平和を実現しようとしているのかについて考える。
    - ・ 日本の平和主義では、憲法第9条で戦争の放棄や戦力の不保持、国の交戦権を否定している。
    - ・ 日本の防衛原則では専守防衛について書かれており、作戦や戦力は、防衛に必要な最低限度に限られるとされている。
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
  - 日本の平和主義は、どのように生かされていくべきなのだろう。
- 17 日米安全保障条約と日本の国際貢献について調べる。
- ★ 憲法の平和主義と、日本の安全保障との関係をどのように考えればよいのだろうか。
- 日米安全保障条約と日本の安全保障について調べる。
  - 集団的自衛権と安全保障について考える。
  - 自衛隊の国際貢献の様子について調べる。

- 方法の選択や生活スタイルの多様化によって新たに主張された人権であるということに気付かせる。
- ・ 「確認」に取り組ませることで、科学技術の発展により、人権保障に様々な課題が出てきていることを捉えさせる。
  - ・ 教P. 64～65
  - ・ グローバル化した社会で起こる課題を、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
  - ・ 資料③の表から、国際的な取り決めを行っても、すべての国が批准しているわけではないことに気付かせる。
  - ・ 個人の尊重の観点から考えさせる。その際、資料⑤の児童の権利条約の内容に着目させる
  - ・ 社会の変化に伴い、国際的なルールや共通の意思をもつ必要性が生まれていることを捉えさせる。
  - ・ 教P. 66, 67
  - ・ 人権が衝突したときにどのように調整すればよいのかについて、対立と合意、個人の尊重に着目して追究させる。（対立と合意、個人の尊重）
  - ・ 資料①を参考に、人権同士が衝突し、対立が起きていることを捉えさせる。そして、そのような状況において他者の人権を守るために「公共の福祉」という概念があることを理解させる。
  - ・ 三大義務のうち、教育および勤労は国民の権利でもあり、国民の権利を守るための義務でもあることを捉えさせる。
  - ・ 「公民+α」にある京都市の景観とまちづくりに関する事例を紹介し、生徒に自分が住んでいる地域や周辺の地域で起きた似たような事例について関心をもたせる。
- 【評】人権が衝突した事例について調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・ 教P. 70～71
  - ・ 平和主義の意義を、個人の尊重と法の支配に着目して追究させる。（個人の尊重、法の支配）
  - ・ 歴史的分野での学習を振り返らせる。
  - ・ 教P. 222の前文の中から、平和主義に関する記述を探させる。また、憲法第9条については教P. 70の資料②にある資料活用に取り組ませる。
  - ・ 資料⑥、⑧、⑨を提示し、自衛隊の存在について様々な意見があることを捉えさせる。
  - ・ 戦争の放棄や戦力の不保持、国の交戦権を否定することで平和を実現しようとしてきたことに気付かせる。
- 【評】日本国憲法が定める平和主義について、憲法の条文や資料を基に表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 教P. 72～73
  - ・ 日本の安全保障や世界平和の実現のための日本の活動について、個人の尊重と法の支配に着目して追究させる。（個人の尊重、法の支配）
  - ・ 歴史的分野での学習を振り返らせる。また、地理的分野の沖縄の学習を振り返らせ、「公民+α」と関連付けて捉えさせる。
  - ・ 資料⑤を基に、現在の憲法解釈では集団的自衛権が条件で認められていることを確認させる。
  - ・ 個人の尊重や法の支配の観点から、多面的・多角的に考えさせる。
  - ・ 国際平和のために活躍する一方、外国の武力

18 単元の学習を生かし、道路の拡張計画について考え、話し合う。

★単元の学習を生かし、道路の拡張計画について考え、話し合おう。

○対立の内容や様々な意見について整理する。

○合意に向けて考えをまとめる。

○考えたことを話し合う。

・地域住民の交通面や不便さや危険性が想定されるためそれを解消するための道路拡張は公共の福祉といえる。

・歴史的な景観や住民生活の基礎ともいえる商店がならんでおり、それらを奪うことは地域住民の利益になるとはいえない。

衝突に巻き込まれる可能性が示唆されるといった課題もあることを知らせる。

・教P.74～75

・これまでに学習した対立と合意、効率と公正個人の尊重、民主主義といった見方・考え方を複合的に用いて追究させる。

・主張の根拠となる憲法の条文を示させることで、根拠を明確にして意見を主張する方法を身に付けさせる。

・様々な意見について、賛成や反対といった立場や、関わる人権について整理させることで多面的・多角的に対立を捉えさせる。

・本時の見方・考え方を基に、多面的・多角的に考えさせる。

・賛成、反対のそれぞれの立場ごとに考えをまとめさせる。

・ここで大切なのは、賛成や反対といった結論を出すことではなく、「個人の尊重」や「効率と公正」といった見方・考え方を踏まえて多面的・多角的に考えることの大切さや、公共の福祉の使用に関しては慎重に議論をする必要があることを捉えさせることである。

【評】合意に向けての考えを話し合い、多面的・多角的にまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

## 単元名 私たちの生活と政治 国民主権と日本の政治

配当時間 17時間

- 単元の目標 (1) 日本の政治のあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用のあり方、法に基づく公正な裁判の保障及び地方自治の基本的な考え方について理解するとともに、日本の政治のしくみに関する様々な諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について、民主主義や法の支配といった見方・考え方を生かしながら、多面的・多角的に考察・議論し、その過程や結果を適切に表現することができる。
- (3) 国民主権と日本の政治について、現代社会にみられる課題や解決方法を考える活動を通して、主体的に社会に関わろうとする。

## 標準的な展開例

12220202\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 単元の学習問題をつかみ、民主政治のしくみについて調べる。</p> <p>○大単元の導入を振り返る。</p> <p>●みんなの願いを実現するために、どのようなしくみで政治が行われているのだろう。</p> <p>★民主政治には、どのようなことが大切なのだろう。</p> <p>○政治のはたらきと権力分立について調べる。</p> <p>○民主主義と国民の政治参加のしくみについて考える。</p> <p>○小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>■民主政治をよりよく運営していくために、私たちはどのように政治に関わっていけばよいのだろう。</p> <p>2 選挙の意義としくみについて考える。</p> <p>★日本の選挙制度には、どのようなしくみと特徴があるのだろう。</p> <p>○選挙の原則について調べる。</p> <p>○選挙制度について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の選挙制度は小選挙区制と比例代表制を組み合わせるなど、様々なしくみがある。それにより、より多くの国民の意見を政治に反映させることができ、みんなに公正な政治に近付けている。</li> </ul> <p>○選挙制度の問題点について調べる。</p> <p>3 国民と政治をつなぐ政党について考える。</p> <p>★政党はどのような役割を果たし、政党政治にはどのような特徴があるのだろう。</p> <p>○日本にはどのような政党があるかを発表し、なぜ複数の政党があるかを考える。</p> <p>○政党政治のしくみについて調べる。</p> <p>○近年、連立政権が続いている理由について考える。</p> <p>4 政治参加と世論について考える。</p> <p>★国民の政治参加とマスメディアには、どのような関係が</p> | <p>・教P. 34～P. 35</p> <p>・教P. 78～P. 79</p> <p>・教P. 34～P. 35の内容を振り返らせ、みんなの意見を聞いてから多数決を行っていたことを思い出させる。</p> <p>・この光景が政治の縮図であることを知らせ、実際の政治がどのように行われているのかに関心をもたせる。</p> <p>・民主主義や法の支配の考え方の大切さに着目して追究させる。(民主主義、法の支配)</p> <p>・教P. 78～P. 79</p> <p>・資料を基に、権力が集中している場合、国民にどのような不利益が生じるのかを捉えさせる。</p> <p>・多くの国が間接民主制を採用しているが、多数決を行う際には注意が必要であることを、アクティビティや「深めよう」に取り組みせることで捉えさせる。</p> <p>・教P. 80～P. 81</p> <p>・選挙制度の意義や特徴について、効率と公正に着目して追究させる。(効率と公正)</p> <p>・明治時代の選挙の風刺画と現在の選挙の写真を比較し違いを探させることで選挙の原則に気付かせる。</p> <p>・アクティビティに取り組みせることで、様々なしくみを組み合わせることで、より多くの国民の意見を政治に反映させようとしていることに気付かせる。</p> <p>【評】間接民主制における選挙制度の特徴について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・一票の格差については、本質を理解しづらい生徒が多い。分数を例として用いるなどして分母(有権者)が多いほうが一票の価値が低くなることをつかませる。</p> <p>・教P. 82～P. 83</p> <p>・政党がなぜ必要なのかを、対立と合意や民主主義に着目して追究させる。(対立と合意、民主主義)</p> <p>・国民の意見や利益が多様化していることから様々な意見を政治に反映させる受け皿として複数の政党が存在していることに気付かせる</p> <p>・資料を基に、政党を通して多様な国民の意見から生じる対立を国会において調整していることを捉えさせる。また、国民から多数支持された政党が政策を実現していくという民主主義の理念が実際に反映されていることに気付かせる。</p> <p>・教P. 43にある「憲法改正の手続き」の資料中の憲法改正の発議に必要な議員数に着目させ関連付けて考えさせる。</p> <p>・教P. 84～P. 85</p> <p>・国民がさまざまな方法で行う政治参加の意義</p> |



あるのだろう。

○政治参加について考える。

○世論とマスメディアについて考える。

○自分は今後どのように政治に参加していきたいかについて考えをまとめる。  
・若者が投票に行かないと、若者の意見が政治に反映されにくくなってしまう。なので、選挙権を得たら、必ず選挙に行って投票するようにしたい。

5 国会の地位としくみについて調べる。

★国会の、国の政治における位置づけとしくみは、どのようなになっているのだろう。

○国会が「国権の最高機関」とされている理由について考える。

○二院制と衆議院の優越について調べる。

○国会議員の権利について考える。

○小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。

■国の政治のしくみで大切にされていることは何だろう。

6 国会の仕事について調べる。

★国会はどのような仕事を行い、どのように運営されているのだろう。

○国会の仕事について調べる。

○国会の種類と運営について調べる。

○なぜ法律を制定するのに時間をかけるのかを考える。

7 内閣のしくみと議院内閣制について調べる。

★内閣のしくみや国会との関係は、どのようなになっているのだろう。

○内閣の仕事としくみについて調べる。

○議院内閣制について調べる。

○議院内閣制と民主主義について考える。

・日本の議院内閣制では国民が直接首相を選ぶことはできないが、国会と内閣が互いに抑制と均衡を図っているため、権力が暴走しにくくなっている。

8 行政権の拡大と国民の生活について調べる。

★内閣や公務員の仕事は、私たちの生活とどのように関わっているのだろう。

○行政や公務員の役割について調べる。

○行政改革について考える。

○内閣の仕事と国民生活の関係について整理する。

について、民主主義と公正に着目して追究させる。(民主主義、公正)

・「深めよう」に取り組ませることで、投票率の高い60歳代の意見は政治に取り入れられやすくなり、若者の意見を政治に反映させる機会を逃していることに気付かせる。

・資料⑦からマスメディアが世論の形成に与える影響の大きさをつかませるとともに、メディアリテラシーの必要性に気付かせる。

・本時の学習を踏まえ、あと3年で主権者になることを見据え、どのように政治参加していくことが必要かを考えさせる。

【評】今後どのように政治に参加していきたいかを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教P. 88～P. 89

・国会の意義を、民主主義に着目して追究させる。(民主主義)

・議会制民主主義のしくみに従い、主権者である国民の代表で構成されていることを捉えさせる。

・「深めよう」に取り組ませることで、衆議院に優越があることで、政治の停滞を防ぐことにより効率よく民意を政治に反映させられることに気付かせる。

・なぜ国会議員には様々な権利が与えられているのかを問うことにより、国民の代表たる使命の重さを感じ取らせたり、次時の国会の仕事の学習につなげたりする。

・教P. 90～P. 91

・国会の仕事や運営を、対立と合意、民主主義に着目して追究させる。(効率と公正、民主主義)

・資料を基に、国会の仕事は多岐に渡ることをつかませる。

・年間を通じて多くの時間をかけて国会が開かれていることや、多くの手順を踏んで法案が成立していることに気付かせる。

・対立を調整して合意を形成するために慎重に話し合われていることに加え、過去には治安維持法など国民を苦しめる法律があったことに触れながら、立法が慎重であるべきことを理解させる。

・教P. 92～P. 93

・内閣の仕事や内閣と国会との関係を、民主主義に着目して追究させる。(民主主義)

・内閣は、その仕事やしくみの面で、国会と特に深く結び付いていることを捉えさせる。その際、国民の代表である国会議員の中から選ばれた代表者によって内閣が構成されていることに着目させ、民主主義に基づいて内閣が組織されていることに気付かせる。

・内閣が成立するまでの過程が複雑であるため資料⑥などを用いて視覚的に捉えさせる。

・アクティビティに取り組ませることで、議院内閣制と大統領制を比較させ、大統領制の方がより民意を反映しているが、代わりに権力が行き過ぎてしまった場合に、立法府や行政府にそれを抑制する権限がないことを捉えさせる。

【評】議院内閣制と大統領制を比較し、民主主義について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・教P. 94～P. 95

・内閣や公務員の仕事やその進め方を、効率と公正に着目して追究させる。(効率と公正)

・行政の管轄する内容が多岐にわたることや、それによる弊害について捉えさせる。

・アクティビティに取り組ませることで、効率と公正の観点から、行政改革が国民の利益につながっていることに気付かせる。

- 9 法を守る裁判所について調べる。  
★公正な裁判を行うためのしくみは、どのようなになっているのだろう。
- 裁判のしくみについて調べる。
  - 司法権の独立と公正な裁判について調べる。
  - 国会が制定した法律が人権に反していたらどうしたらよいのかを考える。
- 10 裁判のしくみと人権の尊重について調べる。  
★裁判にはどのような種類があり、人権を尊重するためにどのような工夫がされているのだろう。
- 民事裁判と刑事裁判のしくみについて調べる。
  - 裁判での人権尊重と、冤罪について考える。
  - 裁判での人権尊重について、最も重要だと思う工夫について話し合う。
- 11 私たちの司法と裁判員制度について考える。  
★なぜ裁判員制度が取り入れられたのだろう。また、私たちは司法とどのように関わればよいのだろう。
- 裁判を受ける際に問題になることについて考える。
  - 裁判員制度と死刑制度について考える。
  - 私たちは司法とどのように関わればよいのかについて考え、話し合う。
- 12 三権分立と政治参加について考える。  
★三権分立で大切にされていることは何だろう。
- 国民主権と三権分立について整理する。
    - ・国会は内閣に対して首相を指名したり、内閣不信任の決議をすることができる代わりに、内閣は国会に対して衆議院の解散を行うことができる。
    - ・国民は選挙や世論、国民審査によって、その意思を国政に反映させ、民主主義を実現している。
  - 国民が政治参加することに対する意義や課題について考え、話し合う。
  - 三権分立で大切にされていることは何かについて考える
- 13 私たちの暮らしと地方自治との関わりについて調べる。  
★地方自治とはどのようなもので、なぜ必要なのだろう。
- 自分が住む地域の長所と短所について考え、発表する。
  - 地方自治の意義と役割について調べる。

- ・どのような課題があるかや、それに対してどのような対策がとられているのかを中心にまとめさせる。
- ・教P. 98～P. 99
- ・独立した裁判所による公正な裁判のためのしくみとその意義を、個人の尊重と法の支配に着目して追究させる。（個人の尊重、法の支配）
- ・教P. 98の「裁判に関するクイズ」と関連付けながら、裁判のしくみについて調べさせる。
- ・アクティビティに取り組ませることで、三審制により公正な判断に努めていることや、司法権の独立により法の支配を維持していることを捉えさせる。
- ・違憲判決の例を提示し、司法権は人権を守る役割があることを捉えさせる。
- ・教P. 100～P. 101
- ・刑事裁判のルールを、個人の尊重と法の支配に着目して追究させる。（個人の尊重、法の支配）
- ・民事裁判の流れと刑事裁判の流れを比較させることで、原告や検察官の有無や被告と被告人といった名称の違いに着目させる。
- ・推定無罪の原則や疑わしきは罰せずといった考え方があるにも関わらず、なぜ冤罪が生まれるのかを考えさせる。その際、アクティビティに取り組ませるとより冤罪への理解が深まる。
- ・刑事裁判での工夫と憲法の条文において保障されている権利とを関連付けて話し合わせる
- ・教P. 102～P. 103
- ・裁判員制度の意義を、法の支配や民主主義に着目して追究させる。（法の支配、民主主義）
- ・それらの課題を解決するために、司法制度改革が進められていることを知らせる。
- ・裁判の判決においても主権者である国民が関与する部分が増えてきていることを捉えさせるとともに、アクティビティを通して死刑制度について考えさせることで、刑罰の意味には、犯罪行為を行った人の更正、犯罪行為の抑止、被害者感情の救済など様々なものがあることに気付かせる。
- ・実際に自分が裁判員になったら、どのようなことを意識するとよいかについて考え、話し合わせることで、主体的に社会に関わろうとする素地を養わせる。
- ・教P. 106～P. 107
- ・三権分立における国家機関の役割を確認し、法の支配や民主主義に着目して追究させる。（法の支配、民主主義）
- ・これまでの国政の学習を振り返らせ、三権同士の関係や三権と国民との関わりについて整理する。
- 【評】国会・内閣・裁判所の互いに対するはたらきや、主権をもつ国民が三権とどのように関わっているのかを整理する活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・アクティビティに取り組ませることで、国民が政治参加する意義や課題について考えさせ3年後の自分はどのように政治参加するとよいかを考えさせるきっかけとする。
- ・主権者である国民が、政治に関心をもって三権に影響を与えていくことの大切さや、それによって国民のためのバランスのとれた政治の実現につながっていることに気付かせる。
- ・教P. 108～P. 109
- ・地方自治の意義や役割について、個人の尊重と民主主義に着目して追究させる。（個人の尊重、民主主義）
- ・地域には多様な特徴と課題があることを捉えさせる。
- ・よりよい地方自治を実現するためには、民主

- 地方自治が必要な理由をまとめ、説明する。
- 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 地方自治をよりよく運営していくためには、どうしたらよいのだろう。
- 14 地方自治のしくみについて調べる。
- ★ 地方自治は、どのようなしくみで運営されているのだろう。
- 地方公共団体の仕事について調べる。
- 首長と地方議会の役割について調べる。
- 首長や地方議会と住民との関わりについて説明する。
- 15 地方自治と国の関係について調べる。
- ★ 地方公共団体と国とのあいだには、どのような関係があるのだろう。
- 財政における国と地方の関係について調べる。
- 自分が住むまちの財政について話し合う。
- 地方分権の取り組みについて調べる。
- 16 私たちが地方自治に関わるための方法について調べる。
- ★ 地方自治を実現するために、私たちはどのように住民参加していくとよいのだろう。
- 住民の政治参加を広げるしくみについて調べる。
- 地域づくりにおける住民の役割や参加方法について調べる。
- 私たちはどのように地方自治に参加していくとよいかについて考える。
  - ・ よりよい地域をつくるには、住民が主体的に社会参画していくことが大切であると分かったので、今後は積極的にボランティアに参加していきたい。
- 17 単元の学習を生かし、自分たちのまちをよりよくするための方法を考え、模擬選挙を行う。
- ★ 自分たちのまちをよりよくするための方法を考えよう。
- 自分たちのまちの課題について話し合う。
- 課題を基に公約を考える。
- 互いに公約を評価する。
  - ・ この公約は、子育て世代や労働者世代には必要だが、高齢者にはあまり関係がない。

- 主義の考えに基づく地域住民の主体的な参加と合意の積み重ねが必要であることを捉えさせる。
- ・ 地方自治の必要性について、「個人の尊重」と「民主主義」の観点からまとめさせる。
  - ・ 教P. 110～P. 111
  - ・ 地方公共団体の政治のしくみについて、民主主義と効率に着目して追究させる。（民主主義、効率）
  - ・ いくつかの仕事を提示し、市区町村の仕事、都道府県の仕事、国の仕事などに仲間分けさせるクイズ形式で学ばせてもよい。
  - ・ 地方公共団体の仕事は、住民の生活と密接に関わっていることを捉えさせる。
  - ・ それぞれの役割だけでなく、執行機関と議決機関による権力分立がなされていること、互いに抑制と均衡を図りながら地方自治が行われていることに気付かせる。
  - ・ 住民から選挙で選ばれた首長や議員が、互いにその職責を果たし、互いに抑制と均衡を図りながら地方自治を行うことで、住民の意思が地方自治に反映されていることを捉えさせる。
  - ・ 教P. 112～P. 113
  - ・ 地域により歳入の確保のしやすさや使いみちに違いがあることを、効率と公正に着目して追究させる。（効率と公正）
  - ・ 地方公共団体の歳入の種類だけでなく、地域によって財源の比率に大きな差があることに気付かせる。
  - ・ アクティビティに取り組ませることで、地域によって財源の使いみちに特色があることに気付かせる。
  - ・ 市町の財政に関するデータは、ホームページで公開されている広報を調べると分かりやすく記載されている。
  - ・ 地方財政の課題と解決方法に着目して調べさせる。
  - ・ 市町村合併については、身近なところでは、以前に美浜町と南知多町で合併について協議されていたことなどを紹介することで、生徒の関心を高めたい。
  - ・ 教P. 114～P. 115
  - ・ 住民の声が反映されるしくみと、住民が担う役割について、対立と合意、民主主義に着目して追究させる。（対立と合意、民主主義）
  - ・ 直接請求権については、資料④を基に、議会の解散やリコールなど、与える影響が大きいものについては、必要な署名数も多くなることに気付かせる。
  - ・ 自分たちが参加しているボランティアも社会参画の一環であることに気付かせることで、今後積極的に社会に関わろうとする思いをもたせたい。
  - ・ 住民が地方自治に参加していくことの大切さやその方法、自分との関わりなどについて、生徒それぞれの思いを記述させる。
  - 【評】 どのように地方自治に参加していくとよいかについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
  - ・ 教P. 118～P. 119
  - ・ これまでに学習した民主主義、個人の尊重、対立と合意、効率と公正といった見方・考え方を複合的に用いて追究させる。
  - ・ 地理的分野や歴史的分野での学習もふまえて考えさせる。
  - ・ 課題に順位付けを行い、一番重要だと思うものに関する公約を考えさせる。その際、なぜその課題を重要視したのかという理由を明確にさせる。

・こちらの公約では，地元の土地や資源を活用しているので，雇用が生まれたり，地域が活性化したりしている。

○模擬選挙を行う。

・それぞれの公約のよい点と課題について，様々な年代の住民の立場から多面的・多角的に比較・評価させる。

【評】互いの公約をよい点と課題，様々な住民の立場から多面的・多角的に比較・評価する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

・公約の評価を基に，投票理由を明確にさせる

・投票結果を踏まえて，当選した首長の公約と他の公約とを比較させたり，自分の公約の問題点について振り返らせたりする。

【 備 考 】

## 単元名 私たちの生活と経済

配当時間 24時間

- 単元の目標 (1) 身近な消費生活を中心に、経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方、現代の生産や金融などのしくみやはたらき、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の内容、社会資本の整備、環境の保全、社会保障の充実・安定化、消費者の保護、財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解するとともに、諸資料から経済と社会生活に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 個人や企業の経済活動における役割と責任、社会生活における職業の意味と役割及び雇用と労働条件の改善、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察したり、市場のはたらきに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について公正に判断したりしその過程や結果を適切に表現することができる。
- (3) 私たちの生活と経済について、現代社会に見られる課題や解決方法を考える活動を通して、主体的に社会に関わろうとする。

## 標準的な展開例

12220203\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 私たちの生活と経済との関わりについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 漫画「文化祭を成功させよう！」を読む。</li> <li>★ 漫画を通して、私たちの生活と経済の「見方・考え方」をとらえよう。</li> <li>○ なぜ浴衣やプールを家から持ち寄ることにしたかについて話し合う。</li> <li>○ 輪投げ店を一日で作るためにどのような工夫をしていたかについて話し合う。</li> <li>○ 「まんがについて」を読み、本単元の見方・考え方について話し合う。</li> <li>○ 単元の学習問題をつかむ。</li> <li>● 私たちのくらしを支える経済には、どのようなしくみとはたらきがあるのだろう。</li> </ul> <p>2 経済のしくみについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 私たちのくらしは、経済とどのように関わっているのだろう。</li> <li>○ 限りある資源の使い方について考える。</li> <li>○ 資源と選択の効率性について知る。</li> <li>○ 経済の循環について調べる。</li> <li>○ 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</li> <li>■ 消費者は、経済活動において、どのような役割と責任があるのだろう。</li> </ul> <p>3 経済活動の意義について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 経済活動には、どのような意義があるのだろう。</li> <li>○ 社会生活で見られる分業と交換について話し合う。</li> <li>○ 生産活動における分業について調べる。</li> <li>○ 経済活動が私たちの生活に与える影響について説明する             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分業と交換により、貴重な資源や時間、労力を無駄にすることなく、効率的に欲しいものやサービスを手に入れることができ、浮いた時間などを他のことに回せるため、私たちの生活は豊かになる。</li> </ul> </li> </ul> <p>4 私たちの消費生活について調べる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教P. 122～P. 123</li> <li>・ 生産資源やそれから生産される財やサービスの利用可能性が、人間の欲望を満たすためには不足している状態を指す「希少性」という見方・考え方に関連付ける。</li> <li>・ 看板作りに手慣れてきた女子生徒と、ダンボールを切る男子生徒との間で、「分業と交換」が行われていることに気付かせる。</li> <li>・ 教科書中から見方・考え方に該当すると思われる言葉に着目させるとともに、これまでの公民的分野での学習を振り返って考えさせる。</li> <li>・ 教P. 124～P. 125</li> <li>・ 希少性と選択に着目して、お金や資源の使い方について追究させる。（希少性）</li> <li>・ アクティビティに取り組みさせることで、人の限らない欲求に対して消費できる資源には限りがあるという「希少性」の見方・考え方を捉えさせる。</li> <li>・ 社会生活を営むにあたり、私たちは常に多くの選択の機会にさらされており、その際に効率性を考えた選択を行うことの重要性を知らせる。</li> <li>・ 資料中に出てくる「消費」「生産」「財政」の三つが経済の学習の大きな柱であり、今後はその柱に沿って学習を進めていくことを知らせる。</li> <li>・ 教P. 126～P. 127</li> <li>・ 経済活動の意義を、豊かさをもたらす分業と交換に着目して追究させる。（分業と交換）</li> <li>・ 資料を参考に、実体験も踏まえてどのような分業と交換が行われているかを考えさせる。</li> <li>・ 分業によって効率よく財やサービス、資源等を生み出していることや、それらを交換することにより、豊かな生活を送ることができるようになることをつかませる。</li> <li>・ 「公民＋α」の内容にも触れさせることで、分業について多面的・多角的に捉えさせる。</li> <li>・ 「確認」に取り組みさせることで、経済活動は分業と交換で成り立っており、それによって私たちのくらしが豊かになっていることを捉えさせる。</li> <li>【評】経済活動の意義について、分業と交換の視点を踏まえて説明する活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 教P. 128～P. 129</li> </ul> |

|   |   |
|---|---|
| <p>★消費生活は、何によって支えられているのだろう。</p> <p>○身の回りにある財やサービスについて話し合う。</p> <p>○家計の収入と支出について調べる。</p> <p>○消費生活とお金について調べる。</p> <p>5 消費者の権利と自立を支える政府のはたらきについて考える。</p> <p>★私たちの消費生活を守るために、どのようなしくみがあるのだろう。</p> <p>○契約について話し合う。</p> <p>○消費者主権と消費者問題について考える。</p> <p>○消費者を守るための政府のはたらきについて考える。</p> <p>・消費者と生産者の間には情報の質と量や交渉力に格差があり、実質的には対等ではない。そのため、自由で公正な社会をめざして消費者の利益を保護する政策がとられている。</p> <p>6 ものの流れと情報の流れについて調べる。</p> <p>★私たちは、生活に必要なものをどのようにして手に入れているのだろう。</p> <p>○商業について調べる。</p> <p>○さまざまな流通のしくみについて考える。</p> <p>○情報化が消費者や企業に与える影響について調べる。</p> <p>7 市場のしくみと価格の決め方について調べる。</p> <p>★価格はどのようにして決め、どのようなはたらきをもつのだろう。</p> <p>○海外旅行の料金表を見て話し合う。</p> <p>○価格の決め方について調べる。</p> <p>○価格と資源の使われ方の関係について調べる。</p> <p>8 生産活動とそのしくみについて調べる。</p> <p>★私たちが消費しているものは、どのようにして生産されているのだろう。</p> <p>○企業について調べる。</p> <p>○生産に必要なものについて調べる。</p> <p>○知的資源と技術革新について考える。</p> <p>○小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>■企業には、経済活動においてどのような役割と責任があるのだろう。</p> <p>9 株式会社のしくみと企業の社会的責任について調べる。</p> <p>★企業は何を目的とし、どのようなしくみになっているのだろう。</p> | <p>・収入と消費の関係を、希少性に着目して追究させる。(希少性)</p> <p>・自分たちが普段どのようなものにお金を使っているのかを発表させた後、出てきたお金の使いみちが財とサービスのどちらに当てはまるのかを話し合わせる。</p> <p>・資料を基に収入と支出の種類について調べさせるとともに、「深めよう」に取り組みさせることで、貯蓄の必要性についても捉えさせる</p> <p>・現在では貨幣に限らず、様々な支払い方法があることに気付かせる。</p> <p>・教P. 130～P. 131</p> <p>・政府による消費者保護について、公正に着目して追究させる。(公正)</p> <p>・資料を基に、契約が成立するのはどのタイミングなのかについて話し合わせる。</p> <p>・アクティビティに取り組みさせることで、消費者主権について公正や持続可能な観点から多面的・多角的に考えさせる。</p> <p>・消費者の努力だけでは防げない問題から消費者を守り、自由で公正な社会を実現しようとしていることを捉えさせる。</p> <p>【評】政府がなぜ消費者保護政策を行っているのかについて、公正の視点を踏まえて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 132～P. 133</p> <p>・流通やお金の役割を、分業と交換に着目して追究させる。(分業と交換)</p> <p>・普段買い物に行く店は、大体が小売業者によるものであることに気付かせる。</p> <p>・アクティビティに取り組みさせることで、商業のはたらきと流通の合理化が進んできている理由を、効率や分業と交換といった視点から考えさせる。</p> <p>・教p. 10～P. 11や教p. 58～P. 59で取り扱った既習事項とも関連付けて情報化が消費者や企業に与える影響を捉えさせる。</p> <p>・教P. 134～P. 135</p> <p>・価格のはたらきについて、効率に着目して追究させる。(効率)</p> <p>・同じ旅行内容でも、日によって価格に違いがあることや、なぜそのような違いが生じるのかについて話し合わせることで、価格に影響を与える条件について考えさせる。</p> <p>・アクティビティに取り組みさせることで、需要曲線と供給曲線が変動することによって均衡価格が変化することを捉えさせる。</p> <p>・市場経済のしくみについて、効率の視点から調べさせる。</p> <p>・教P. 136～P. 137</p> <p>・生産のしくみについて、分業と交換に着目して追究させる。(分業と交換)</p> <p>・普段何気なく利用しているものやサービスは実は多様な企業によって生み出されていることに気付かせる。その上で、知っている企業を分類分けさせることで、身近に捉えさせる</p> <p>・四つの生産要素が必要であることを捉えさせるとともに、「公民+α」を活用し、生産要素の中でも特に知的資源が重要視されていることに着目させる。</p> <p>・「深めよう」に取り組みさせることで、既習事項と関連付けながら知的財産や技術革新の重要性について考えさせる。</p> <p>・教P. 138～P. 139</p> <p>・企業の役割と責任について、効率的な生産と公正さに着目して追究させる。(効率と公正)</p> |
|---|---|

- 企業のしくみについて調べる。
  - 株式市場のしくみについて調べる。
  - 企業の社会的責任について調べる。
- 10 企業の競争と独占の問題について考える。  
★資本主義経済には、どのような利点と問題点があるのだろうか。
- 資本主義経済による競争と企業のしくみについて知る。
  - 企業の競争には、どのようなよい点があるのかについて考える。
  - 企業の競争による課題について考える。
  - なぜ公共料金が存在するのかについて考える。
  - 企業の競争によって生じる利点と問題点について説明する。
    - ・ 企業の競争によって品質の向上、生産費の引き下げなど利点があるが、企業の競争が弱まると独占の問題、品質の停滞、価格の引き上げなどの問題点が生じる。企業の公正で自由な競争が資本主義経済の健全な発展につながる。
- 11 グローバル化する経済と現代の企業について調べる。  
★グローバル化する企業の活動には、どのような変化と課題があるのだろうか。
- グローバル化による企業競争について調べる。
  - 自由貿易について考える。
  - 企業活動がグローバル化することによる利点と課題について説明する。
- 12 企業活動と景気の変動について調べる。  
★景気の変動と私たちの生活には、どのような関わりがあるのだろうか。
- なぜ景気の変動が起きるのかについて考える。
  - 景気の変動のしくみについて調べる。
  - インフレとデフレについて知る。
- 13 働く意味と労働者を支えるしくみについて考える。  
★人はなぜ働くのだろうか。また、働きやすい職場には、何が必要なのだろうか。
- なぜ人は働くのかについて考える。
  - 労働者と企業の関係と、労働者を支えるしくみについて調べる。
- ・ 最も代表的な私企業である株式会社のしくみに焦点をあてさせ、株主と株式会社との関係や、株主総会の枠割について調べさせる。
  - ・ アクティビティに取り組ませることで、株主は様々な目的をもって株式投資を行っていることを感じ取らせ、株式市場のしくみに触れさせる。
  - ・ 調べる中で、企業の社会貢献活動と自分との関わりについて振り返らせる。
  - ・ 教P. 140～P. 141
  - ・ 競争によって、商品の値下がりといった利点だけでなく、独占や寡占の問題も起こることについて、効率と公正の視点に着目して追究させる。
  - ・ 商品を購入した経験や資料①～③から、市場での競争は価格の引き下げや商品の品質向上につながり、消費者に利益をもたらすことに気付かせる。
  - ・ 競争の結果寡占や独占の状態になると、逆に価格の引き上げや品質の停滞が起こることを捉えさせる。
  - ・ アクティビティに取り組ませることで、独占禁止法の意義について効率と公正の視点から考えさせる。
  - ・ 資料を基にどのようなものが公共料金として定められているのかを確認した上で、もしそれらに価格カルテルが起こったらどうなるかを予想させる。
  - ・ 企業の競争は消費者の利益になることもあるが、効率を求めて公正さを失うこともあることを捉えさせる。
  - 【評】企業の競争によって生じる利点と問題点について、効率と公正の視点を踏まえて説明する活動を通して、「知識・技能」を評価する。
  - ・ 教P. 142～P. 143
  - ・ 企業活動の意義について、国境を越えた分業と交換に着目して追究させる。（分業と交換）
  - ・ 地理的分野での学習と関連付けることで、日本が近年どのような国と産業的な結び付きを強めているのかについても確認させる。
  - ・ 国境を超えた分業と交換によってよりよい商品が作られ、世界経済が豊かになることを捉えさせる。
  - ・ アクティビティに取り組ませることで、自由貿易と関税について、多面的・多角的に考えさせる。
  - ・ 本時の学習のまとめとして、グローバル化する企業活動について多面的・多角的にまとめさせる。
  - ・ 教P. 144～P. 145
  - ・ 景気の変動とその影響について、効率に着目して追究させる。（効率）
  - ・ 資料を参考に、景気変動の原因や、好況期→後退期→不況期→回復期と四つの局面を繰り返しながら経済成長していくことを捉えさせる。
  - ・ 資料③を活用し、調べたことを項目ごとにまとめさせる。
  - ・ インフレとデフレはどのような状況になるのか確認して、これからの日本経済は何を重要視すればよいのかを考えさせる。
  - ・ 教P. 146～P. 147
  - ・ 働くことの個人的・社会的な意味について、分業と交換や効率と公正に着目して追究させる。（分業と交換、効率と公正）
  - ・ 収入を得て安定した生活を送るためといった個人的な側面と、分業と交換に基づく社会参画をしているといった社会的な側面との両面から捉えさせる。
  - ・ 日本国憲法での学習を振り返りつつ、労働基準法や労働組合について憲法の条文も踏まえ

- 労働者を支えるしくみの意義について考える。
- 14 変化する雇用の形について調べる。  
★日本の雇用には、どのような変化や課題があるのだろう
- 雇用に関する問題への考え方について話し合う。
  - 雇用の変化について調べる。
  - 雇用の課題と解決策について考える。
- 15 女性の働く環境と高齢者雇用について調べる。  
★女性と高齢者の雇用の重要性が高まっているのはなぜだろう。
- 女性の働き方について調べる。
  - 女性や高齢者が働きやすい環境について話し合う。
  - セーフティネットのはたらきについて知る。
  - 雇用と労働に関する学習を振り返り、将来どのように働きたいかについて考える。
    - ・必ずしも雇用者が私たちを守ってくれるわけではないので、労働基準法などをしっかりと理解した上で、ワーク・ライフ・バランスが実現できるような働き方をしたい。
- 16 金融のしくみについて調べる。  
★金融とは何で、どのようなしくみになっているのだろう
- お金のもつ役割について調べる。
  - 金融の意味について調べる。
  - 銀行のはたらきについて調べる。
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
  - 金融のしくみは、私たちの生活とどのように関わっているのだろう。
- 17 日本銀行と金融政策について調べる。  
★経済活動の支払手段である通貨は、だれがどのように管理しているのだろう。
- 日本銀行のはたらきについて調べる。
    - ・日本銀行は発券銀行、銀行の銀行、政府の銀行の三つのはたらきをもっており、一般の銀行とは違って家計や企業にお金を貸すことはない。
  - 日本銀行が行う金融政策について調べる。
  - 日本銀行が行う金融政策について、具体例を挙げて説明する。
- 18 金融のグローバル化と為替相場について調べる。  
★なぜ円と外国通貨を交換する必要がある、交換比率が変化するのだろう。

- て調べさせる。
- ・調べたことを基に、資料①の資料活用問題に取り組みさせることで、労働者を支えるしくみの大切さに気付かせる。
- ・アクティビティに取り組みさせることで、労働基準法や労働組合が存在する意義について捉えさせる。
- ・教P. 148～P. 149
- ・望ましい雇用のしかたと働き方のバランスについて、効率と公正に着目して追究させる。（効率と公正）
- ・前時の学習内容では、労働者の立場が弱くなりがちであることを確認させる。
- ・派遣労働者の意見と経営者の意見について話し合わせる中で、他の資料にも注目させ、日本における雇用形態の特徴や課題について捉えさせる。
- ・非正規雇用労働者や外国人労働者が増加していることなどを資料を基に捉えさせる。
- ・「深めよう」に取り組みさせることで、日本の雇用問題とその解決策について、需要と供給の観点から考えさせる。
- ・教P. 150～P. 151
- ・女性や高齢者の働き方について、効率と公正に着目して追究させる。（効率と公正）
- ・「深めよう」に取り組みさせることで、女性の社会進出がまだまだ進んでいない現状や、他国に比べて遅れていることを捉えさせる。
- ・資料を基に根拠を明確にした上で、どのようなことを改善していく必要があるのかを多面的・多角的な視点から話し合わせる。
- ・失業は、国民の基本的な人権に関わる切実な問題であることを捉えさせる。
- ・第13～15時で学習した内容をふまえ、現代の雇用のあり方について考えさせよう。うで、どのように働きたいか、どのようなことに気を付けていきたいかなどを記述させる。
- 【評】雇用と労働に関する学習を振り返り、将来どのように働きたいかについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教P. 154～P. 155
- ・お金の貸し借りの意義について、希少性に着目して追究させる。（希少性）
- ・お金のもつ役割には、価値の尺度、交換手段価値貯蔵手段があることに気付かせる。
- ・資料②から、私たちが銀行にお金を預けるといふ身近な行為が、金融のはたらきにより企業や新事業の資金になるなど、経済の活性化につながっていることに気付かせる。
- ・銀行はどのようにして利益を生み出しているのかについて考えさせたり、直接金融と間接金融の違いについてまとめさせたりする。
- ・教P. 156～P. 157
- ・日本銀行の役割について、効率と公正や安定に着目して追究させる。（効率と公正）
- ・日本銀行のもつ三つのはたらきに着目させ、一般の銀行とは違う役割があることに気付かせる。
- 【評】日本銀行のもつ三つのはたらきについて一般の銀行との相違に着目して調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する
- ・資料④を基に、日本銀行は景気の良し悪しに応じて国債を売買し、景気の安定を図ろうとしていることに気付かせる。
- ・「確認」に取り組みさせることで、金融政策についての理解を深めさせる。
- ・教P. 158～P. 159
- ・円と外国通貨との交換の必要性和重要性について、国境を越えた分業と交換に着目して追



- 円と外国通貨を交換する必要性について考える。
  - 円高と円安について調べる。
  - 為替相場の変化による影響について考える。
- 19 財政のはたらきについて調べる。
- ★経済における政府の仕事にはどのようなものがあるのだろうか。
- 財政の役割について調べる。
  - 政府が経済活動を行うことの重要性について考える。
  - 財政の収入と支出について調べる。
  - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
  - 政府が経済活動を行うことには、どのような意義があるのだろうか。
- 20 国の収入を支える税と国債について考える。
- ★国の収入には、どのような特徴や課題があるのだろうか。
- 税にはどのようなものがあるかについて話し合う。
  - 公正な税のあり方について考える。
  - 国債発行の課題について調べる。
  - 歳入の特徴と課題についてまとめる。
    - ・歳入には直接税と間接税、国税と地方税といった種類がある。また、税のしくみには税はそれぞれの支払い能力に応じて負担するのが公正だとする累進課税と、個人の能力に関係なく同じ税率を負担するのが公正だとする逆進性がある。
    - ・国債は、財政だけで必要な財政支出をまかなえない時に資金を調達することができるが、借金が多くなると、未来の世代に大きな負担をかけることになってしまう。
- 21 社会保障のしくみについて調べる。
- ★人間らしい生活を保つために、どのようなしくみがありどのようにして支えられているのだろうか。
- なぜ社会保障が必要なのかについて調べる。
  - 社会保障制度の内容について調べる。
  - 社会保障が政府によって運営されている理由について考える。
- 22 少子高齢社会における福祉の充実と財源について調べる

- 究させる。(分業と交換)
- ・交換できない場合、海外旅行に行くとうるかなどを予想させ、通貨交換の必要性に気付かせる。
  - ・言葉による説明だけでは意味を捉えにくいため、資料①を用いて視覚的に捉えさせる。
  - ・アクティビティに取り組みせることで、為替相場の変化が社会に与える影響を多角的に捉えさせる。
  - ・教P. 160～P. 161
  - ・財政の役割について、効率と公正に着目して追究させる。(効率と公正)
  - ・資源配分の調整、所得の再分配、経済の安定化の三つの役割があることを捉えさせ、それらによって公正な社会の実現や社会の安定につながっていることに気付かせる。
  - ・「深めよう」に取り組みせることで、政府が行う経済活動は十分な利益を生まないため、私企業では補えない国民の生活を維持するための事業やサービスを提供することであることを捉えさせ、その重要性に気付かせる。
  - ・資料⑤を基に、歳入歳出の費目と特徴だけでなく、30年前と比べてどのような変化が起きたかについても読み取らせる。それらの活動により、財政の重要性や課題について気付かせることで、小単元の学習問題や次時の学習へとつなげる。
  - ・教P. 162～P. 163
  - ・税金のしくみや国債発行の影響について、効率と公正に着目して追究させる。(効率と公正)
  - ・身近な消費税以外にも、税には様々な種類があることに気付かせる。また、国税と地方税直接税と間接税といった分類を示し、知っている税がどれに当てはまるのかについても話し合わせる。
  - ・アクティビティに取り組みせることで、累進課税と逆進性について、資料を基に公正の観点から判断させ、その理由を述べさせる。
  - ・国債残高の累積は、返済に伴う政策自由度の減少や、将来世代への負担を増やすことによる世代間の不公正の拡大という問題でもあることを捉えさせる。
  - ・税の種類や納め方のしくみ、公正な税負担の考え方、国債発行の意義や問題点についてまとめさせる。
  - 【評】歳入の特徴と課題についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
  - ・教P. 164～P. 165
  - ・社会保障のしくみを公正に着目して、社会保障の財源について希少性に着目して、それぞれ追究させる。(公正、希少性)
  - ・社会保障制度がすべての人のためにあることや、互いに助け合う意義、国の責任で社会保障が行われている意義について、生存権の学習と関連付けて捉えさせる。
  - ・社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生の四つの柱があることに加え、社会保険は保険料から、残りの制度は税金から費用を捻出していることを捉えさせる。
  - ・「深めよう」に取り組みせることで、多くの人が支え合うことで、必要な時に給付を受けることができるという効率の面と、誰もが平等に給付を受けることができるという公正の面から社会保障制度を捉えさせる。
  - ・教P. 166～P. 167

★少子高齢社会において、社会保障制度を維持・改善させるためには、何が必要なのだろう。

○少子高齢社会における社会保障の現状について調べる。

○持続可能な社会保障に向けて必要なことを調べる。

○社会保障制度を改善するためにできることについて話し合う。

23 環境保全の担い手としての政府の役割について調べる。

★経済活動によって起きた環境問題に対して、政府はどのような取り組みを行ってきたのだろう。

○経済活動と環境問題の関係について知る。

○環境問題に対する政府の取り組みについて調べる。

○環境保全に向けた公的機関の取り組みに関する事例について調べる。

・自分たちの住む地域の地理的環境を生かして環境に優しいまちづくりをしていることが分かった。自分たちの住む地域でも、似たような事例がないか調べてみたい。

24 単元の学習を生かし、社会保障のあり方について考え、話し合う。

★単元の学習を生かし、社会保障のあり方について考え、話し合う。

○例示された政策について整理する。

○どちらの政策を支持するかについて、考えをまとめ、話し合う。

○政策をよりよいものにする方法について考え、話し合う  
・与党が提案した社会保障制度の拡大には賛成だが、野党の考えも取り入れられるよう、消費税の増税のみに財源を頼るのではなく、累進課税のしくみも見直して、高所得者の所得税率を上げる方法もよいのではないかと考えた。

・社会保障制度の充実のために必要なことについて、対立と合意や効率と公正に着目して追究させる。（対立と合意、効率と公正）  
・少子高齢化により、年金、医療、福祉といった高齢者向けの支出が多くなっていることや今後現役世代に求められる負担が増していくことなどを、資料を基に調べさせる。  
・負担と給付のバランスを様々な立場の人が議論し、制度を考えていく必要があることを捉えさせる。その際、自分たちも決して他人事ではなく、将来担い手として関わっていくことに気付かせ、問題意識をもたせたい。  
・短期的視点と長期的視点からアイデアを出させる。

・教P. 168～P. 169

・環境問題の解決に向けた取り組みについて、対立と合意や効率と公正に着目して追究させる。（対立と合意、効率と公正）  
・歴史的分野での学習と関連付け、四大公害病について振り返るとともに、公害が発生し、改善されていった経緯について確認する。  
・環境基本法の制定や、企業と協力して環境保全に取り組んでいることを捉えさせる。  
・アクティビティにある松山市のまちづくりに関する事例を紹介し、生徒に自分が住んでいる地域や周辺の地域で起きた似たような事例について関心をもたせる。

【評】環境保全に向けた公的機関の取り組みの事例について調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教P. 172～P. 173

・これまでに学習した、対立と合意、効率と公正、希少性、民主主義といった見方・考え方を複合的に用いて追究させる。  
・効率と公正の観点から、それぞれの政策の利点と問題点をまとめさせ、チャート図に整理させる。  
・整理した内容をもとに、それぞれの政策を多面的・多角的に評価させ、根拠を明確にした上で理由をまとめさせる。  
・支持する政策とその理由について話し合わせどちらの政党を与党にするか、模擬投票させる。  
・「先生からの視点の提供」や「考えるためのポイント」を参考に、多面的・多角的に改善案を考えさせる。

【評】さまざまな見方・考え方を活用し、他者と話し合いながら多面的・多角的に持続可能な社会保障について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

## 単元名 私たちと国際社会

配当時間 15時間

- 単元の目標 (1) 領土と国家主権、国際連合のはたらきなどの基本的な事項を基に、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力及び国際機構などの役割の大切さについて理解するとともに、国家の主権や国際協調に関する様々な諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 日本の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割について、文化と宗教の多様性及び日本国憲法の平和主義、SDG s 達成に向けた取組などを基に、対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性といった見方・考え方を生かしながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。
- (3) 私たちと国際社会について、現代社会に見られる課題や解決方法を考える活動を通して、主体的に社会に関わろうとする。

## 標準的な展開例

12220301\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 私たちの生活と国際社会との関わりについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 漫画「チョコレート王国」を読む。</li> <li>★ 漫画を通して、私たちと国際社会の「見方・考え方」をとらえよう。</li> <li>○ A国の子どもは、どのような人権を侵害されているかについて話し合う。</li> <li>○ B国から受けた注意を、A国は受け入れなくてもよいのかについて話し合う。</li> <li>○ B, C, D国が、A国の子どもの人権を守るためにA国へ軍隊を送り込むことには問題はないのかについて話し合う。</li> <li>○ A国とB, C, D国が、話し合いを通して価値や方針を調整していくことはできないのかについて話し合う。</li> <li>○ 単元の学習問題をつかむ。</li> <li>● 地球規模の問題を解決するために、世界の国々はどのような取り組みを行っているのだろう。</li> </ul> <p>2 国際社会と持続可能性について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 国際社会において、持続可能性とはどのような考え方なのだろう。</li> <li>○ 身近なものがどこで生産されているかについて調べる。</li> <li>○ 「持続可能性」という考え方を知る。</li> <li>○ 身の回りにある持続可能性を意識したものや取り組みについて話し合う。</li> <li>○ 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</li> <li>■ 国際社会において、持続可能な社会を実現するために大切なことは何だろう。</li> </ul> <p>3 国家と国際関係について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 国際社会は、どのように成り立っているのだろう。</li> <li>○ 国家の成り立ちについて調べる。</li> <li>○ 国際関係の成り立ちについて調べる。</li> <li>○ 「国際協調」という考え方を知る。</li> </ul> | <p>・ 教P. 176～P. 177</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「日本国憲法と基本的人権」の学習を振り返らせる。</li> <li>・ 個人の尊重、対立と合意、国際協調といった見方・考え方から問題を捉えさせる。</li> <li>・ 「日本の平和主義」や、歴史的分野での学習を振り返らせることで、軍隊を送るという手段の是非について考えさせるとともに、戦争を回避するためにA国の子どもの人権が無視されてもよいのかについても考えさせる。</li> <li>・ 「現代社会の見方・考え方」での学習を想起させ、個人間での対立と合意の延長線上に国家間の対立と合意があることに気付かせる。それにより、見方・考え方を生かすことで国家間の対立についても合意することができるのではないかという思いをもたせる。</li> </ul> <p>・ 教P. 178～P. 179</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続可能な社会を実現する上で不可欠な要素に着目して追究させる。(持続可能性)</li> <li>・ 普段我々が消費しているものの多くは外国で生産されており、それらを生産するためには多くの労働者や資源が注ぎ込まれていることを捉えさせる。</li> <li>・ 前時の漫画を振り返らせることで、労働者の労働環境等についても考えさせたい。</li> <li>・ 「持続可能性」とは、将来の世代が自分たちの必要性を満たすことができるようにしながら、現在の世代の必要性も満たすことができることであることを知らせる。</li> <li>・ 具体例としては、プラスチックストローを紙ストローに転換する取り組みや、ソーラーパネルの設置、レジ袋の有料化などが挙げられる。</li> </ul> <p>・ 教P. 180～P. 181</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際社会での対立と合意や国際協調に着目し国家主権と関連付けて追究させる。(対立と合意、国際協調)</li> <li>・ 地理的分野での学習を想起させ、国家の三要素を捉えさせるとともに、国旗・国歌が国際社会の中で重要なシンボルとなることに気付かせる。</li> <li>・ 歴史的分野での学習を想起させ、現在の国際関係が成り立った経緯についてまとめさせる</li> </ul> <p>・ アクティビティに取り組ませることで、国際協調が損なわれると平和が損なわれたり、人権の侵害につながったりするなどの悪影響が世界規模で発生する可能性があることに気付</p> |

- 4 日本の領土をめぐる問題について調べる。  
★日本の領土や領海をめぐる問題には、どのようなものがあるのだろう。
- 日本の領域と排他的経済水域について調べる。
  - 日本の領土をめぐる問題について調べる。
    - ・尖閣諸島は、1895年に日本政府が領土に編入後、日本の領土として扱われてきた。しかし1970年代、東シナ海に石油埋蔵の可能性が指摘されると、中国は突如として領有権を主張しはじめた。
  - 日本の領土をめぐる問題について、合意に向けてどのように相手国と話し合うとよいかを話し合う。
- 5 国際連合の目的とはたらきについて調べる。  
★国際連合はどのような目的で設立され、どのようなはたらきをしているのだろう。
- 国際連合の成立と目的について調べる。
  - 国際連合のはたらきについて説明する。
  - 国際連合総会では、なぜどの国も等しく一票をもつのかについて考える。
    - ・国際連合の四つの目的には「平和」「安全」「友好関係」「人権の保障」「国際協力」等のキーワードが謳われており、これらを実現するためには国家間による上下関係や差別があってはならず、公平・平等・対等な関係でなければならないから。
- 6 グローバル化と地域統合について調べる。  
★グローバル化や地域統合の利点と問題点には、どのようなものがあるのだろう。
- 地域統合と地域協力の動きについて調べる。
  - グローバル化や地域統合の利点と問題点について調べる。
- 7 世界のさまざまな文化や宗教について調べる。  
★現代の世界において、文化や宗教と政治はどのような関わりをもっているのだろう。
- 文化、宗教と政治を考えるために必要なことを知る。
  - 現代世界に文化、宗教が与える影響について調べる。
  - 宗教や文化の多様性を相互に尊重することの意味について考える。
- 8 現代の戦争と平和について考える。  
★現代の紛争には、どのような特徴があり、それに対して日本はどのように関わっていくべきなのだろう。
- 現代の紛争の特徴について調べる。
  - 東アジアの変化と課題について調べる。

- かせる。
- ・教P. 182～P. 185
  - ・領土問題の内容や、解決の難しさについて、対立と合意に着目して追究させる。（対立と合意）
  - ・資料①から、沖ノ鳥島がもつ排他的経済水域の面積が、日本の国土面積よりも広いことを捉えさせる。
  - ・周辺国の行為や主張の内容を捉えさせるとともに、日本の主張との間で対立が起こっていることに気付かせる。
- 【評】日本の領域と、それらをめぐる日本と外国の主張の対立や論点について調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する
- ・教P. 185の「世界の領土問題とその解決」を参考にさせ、国家間の話し合いでは、国際法に基づいて主張していくことが大切であることに気付かせる。
  - ・教P. 186～P. 187
  - ・国際連合のしくみや活動について、国際協調に着目して追究させる。（国際協調）
  - ・歴史的分野での学習を想起させ、国際連合が設立した経緯を確認させる。
  - ・資料を基に、国際連合の四つの目的を捉えさせる。
  - ・資料から読み取ったことを基に、国際連合のはたらきについて説明させる。
  - ・国際連合の目的とも関連付けながら、様々な分野において活動を行っていることや、目的を達成するための専門的な機関が存在していることを捉えさせる。
  - ・「深めよう」に取り組ませることで、国際連合の目的を達成するためには、国家間による上下関係や差別があってはならず、公平、平等、対等な関係でなければならないことに気付かせる。
- 【評】国際連合総会で、どの国も等しく一票をもつ理由について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 188～P. 189
  - ・グローバル化や地域統合の利点と問題点について、対立と合意、国際協調に着目して追究させる。（対立と合意、国際協調）
  - ・各地の地域統合の目的が、それぞれ異なっていることに気付かせる。
  - ・「公民＋α」や本文の内容を基に、利点と問題点をまとめさせる。
  - ・教P. 190～P. 191
  - ・宗教や文化の多様性を相互に尊重することの意味について、国際協調に着目して追究させる。（国際協調）
  - ・政治的、経済的な対立が生じた際に、宗教や文化の違いが強調されることがあることを知らせる。
  - ・「公民＋α」にある事例を基に、宗教と生活との関わりや、宗教観の違いによって政治的に重大な対立が生じるおそれがあることなどをまとめさせる。
  - ・文化の多様性に寛容になることで、宗教観や文化の違いによる対立を防ぎ、国際平和につながるるとともに、国際協調による多文化共生社会への実現へとつながっていくことを捉えさせる。
  - ・教P. 194～P. 195
  - ・現代の紛争の特徴や、東アジアの安定のための日本の取り組みについて、対立と協調に着目して追究させる。（対立、協調）
  - ・歴史的分野での学習を想起させ、過去の戦争と現代の紛争との違いに着目させる。
  - ・日本を取り巻く東アジアにも課題が山積しており、決して紛争は他人事ではないということに気付かせることで、自分事として捉えさせる。

- 東アジアの安定のために、日本はどのような政策をとっていくべきかについて考え、話し合う。
- 単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 平和で持続可能な世界をつくっていくために、日本や私たちにどのようなことができるのだろう。
- 9 世界の軍縮と日本の役割について調べる。
- ★国際社会は、どのように軍縮に取り組んできたのだろう
- 軍縮への動きと課題について調べる。
- 軍縮に対する日本の役割について調べる。
- 核軍縮や世界平和の実現のために、日本や私たちにどのようなことができるのかについて考え、話し合う。
  - ・原爆資料館を訪れるなどして戦争についての学びを深め、戦争の悲惨さや平和の大切さを受け継いでいきたい
- 10 日本の平和主義と国際貢献について調べる。
- ★日本は、世界の人々のためにどのような取り組みをしているのだろう。
- 日本の国際貢献の様子について調べる。
- 人間の安全保障を確立させるための取り組みについて知る。
- 11 発展途上国の現状と多様化する世界の様子について考える。
- ★世界の人口と経済格差の問題には、どのようなものがあるのだろう。
- 世界人口の推移について調べる。
- 南北問題と南南問題について調べる。
- 南北間の格差をなくし、公正な国際社会を実現するためにどのような取り組みができるかについて考え、話し合う。
- 12 限りある資源とエネルギーについて調べる。
- ★限りある資源やエネルギーをこれからも持続させるためには、どのような取り組みが必要だろう。
- 増え続ける資源、エネルギー消費量の実態について調べる。
- なぜ再生可能エネルギーや新しいエネルギーの開発が進められているのかについて考える。
- ・アクティビティに取り組ませることで、具体的な事例を基に考えさせる。
- ・アクティビティの内容も踏まえた上で「深めよう」に取り組ませ、対立と協調の観点から考えを話し合わせる。
- ・教P. 196～P. 197
- ・軍縮への動きと課題について、対立と合意や協調に着目して追究させる。（対立と合意、協調）
- ・第二次世界大戦を経て世界は軍縮の動きを進めていったが、現在では再び軍拡の動きを見ている国や地域があることに気付かせる。
- ・「世界で唯一の被爆国」である日本の使命や国際社会に対して求められる役割について捉えさせる。
- ・憲法の平和主義を大切にすることや、戦争と平和について学び、平和の大切さを伝えていくことなど、具体的な内容で考えさせる。その際、国際協調の視点を大切にさせたい。
- ・話し合い活動を通して、平和な世界を目指して自分も参画していく必要があることを自覚させ、主体的に社会に関わろうとする態度を養う。
- 【評】核軍縮や世界平和の実現のために、日本や私たちにどのようなことができるのかについて考え、話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教P. 198～P. 199
- ・日本が平和主義に基づき国際協力を行っていることや、期待されている役割について、国際協調に着目して追究させる。（国際協調）
- ・日本はODAによる資金・技術面での貢献だけでなく、PKOによる人的支援や国際平和への貢献など、幅広く世界の人々のための取り組みを行っていることを捉えさせる。
- ・アクティビティに取り組ませることで、ただ単に支援している訳ではなく、その国がどの程度の支援を必要としているかを見極め、その国に応じた支援を行っていることに気付かせる。
- ・国際協調によって平和で安定した世界をつくるのが、日本の平和や発展とも密接につながっていることを知らせる。
- ・教P. 200～P. 201
- ・南北間の格差をなくすための取り組みについて、公正や国際協調に着目して追究させる。（公正、国際協調）
- ・「世界人口の見直し」と「世界の飢餓状況」の資料とを関連付けさせることで、今後人口が急増していく地域では、現在も飢餓率が高いことから、さらに食料不足が進むであろうことに気付かせる。
- ・世界には経済格差が存在していることや、格差解消のために日本が国際協力を行っていることを捉えさせる。
- ・国単位での経済支援等はもちろんのこと、JICAの活動を紹介するなどして、将来的には個人単位でも発展国の教育活動等に協力できることに気付かせ、それらの活動に取り組みたいという意欲を養いたい。
- ・教P. 202～P. 203
- ・エネルギー構成のあり方について、効率と公正や持続可能性に着目して追究させる。（効率と公正、持続可能性）
- ・資料③から、日本は化石燃料によるエネルギー生産に頼っており、それらを生み出すための資源を外国からの輸入に頼っていることに気付かせる。
- ・持続可能性に着目し、限りある資源はいつか利用できなくなってしまうことに気付かせる

|  |  |
|--|--|
| <p>○日本のエネルギー問題について考える。</p> <p>13 地球規模の環境問題と国際協力について考える。<br/>★地球規模の環境問題を解決するために、どのような取り組みが行われているのだろう。</p> <p>○地球規模の環境問題について調べる。</p> <p>○地球規模の環境問題に対する取り組みについて調べる。<br/>・地球温暖化を防ぐための話し合いが何度も行われたが先進国と発展途上国との間で意見が対立し、なかなか実効性のある取り組みができずにいた。しかし、2015年にパリ協定が採択され、先進国、発展途上国を問わず、全ての国が温室効果ガスの削減目標を作成し、国内対策をとることが義務付けられたことで少しずつ温室効果ガス削減に向けて動き始めている。</p> <p>○地球規模の環境問題を解決するためには、どのようなことが必要かについて話し合う。</p> <p>14 持続可能な社会をつくるための取り組みについて考える</p> <p>★持続可能な社会を実現するためには、どのような取り組みが必要なのだろう。</p> <p>○SDGsについて知る。</p> <p>○SDGsを達成するために何ができるのかについて考え話し合う。<br/>・日本は「12：つくる責任つかう責任」の達成率が特に低いので、電子機器を大事に使い、買い替えの頻度を少なくしたい。また、食事の残菜を減らすことで、「つかう責任」を果たすとともに、「14：海の豊かさを守ろう」などの項目にも少しでも協力できるようにしたい。</p> <p>15 単元の学習を生かし、地球温暖化に対する政策について考え、話し合う。<br/>★地球温暖化に対する政策について考えよう。</p> <p>○各党の政策を評価し、比較する。</p> <p>○評価した内容について、話し合う。</p> <p>○話し合いを基に、最終判断を行う。<br/>・私はワクワク協調党の政策を支持します。なぜなら、大きな事故を起こした原子力発電所は廃止すべきだし、日本国内の二酸化炭素排出量を減らす代わりに、日本の環境技術を発展途上国に提供することで、国際協調を行いながら世界全体の二酸化炭素排出量を減らすことができ、持続可能な社会につながると考えるからです。</p> | <p>特に日本はそれらの資源の多くを海外からの輸入に頼っているため、新たなエネルギー源の確保は重大な課題である。</p> <p>・アクティビティに取り組みせることで、効率と公正と持続可能性の観点から日本のエネルギー問題について考えさせる。その際、東日本大震災以降、特に重要視されるようになった原子力発電の安全性など、発電方法の短所にも注目させる。</p> <p>・教P. 204～P. 205</p> <p>・地球規模の環境問題の解決に向けた取り組みについて、対立と合意や国際協調に着目して追究させる。（対立と合意、国際協調）</p> <p>・地理的分野での学習を想起させ、様々な環境問題が、国境を超えて地球規模の問題へと移り変わっていることに気付かせる。</p> <p>・アクティビティに取り組みせることで、国際協調を図りながら環境問題解決へ向けた取り組みを行っていることだけでなく、先進国と発展途上国との間に対立が生じていたことも捉えさせる。</p> <p>【評】地球規模の環境問題に対する取り組みについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「国際協調が必要である」というだけに留まらず、「パリ協定の実効性を高めるにはどうしたらよいか」や「私たち一人一人にできることは何か」といったより具体的な内容について話し合わせたい。</p> <p>・教P. 206～P. 207</p> <p>・持続可能な社会の実現について、SDGsと持続可能性に着目して追究させる。（持続可能性）</p> <p>・SDGsとは、2015年から2030年までの15年間で、持続可能でよりよい世界をめざすために採択された、17のゴールと169のターゲットに整理された国際目標のことであることを知らせる。</p> <p>・「深めよう」に取り組みせることで、持続可能な社会を実現するためにできる取り組みについて、SDGsの17の目標に照らし合わせながら考えさせる。</p> <p>・国として何ができるかだけでなく、個人としてどのような取り組みが可能かを考えさせることで、自分自身も持続可能な社会をつくる一員であることを自覚させ、今後の社会に主体的に関わろうとする意欲を養いたい。</p> <p>【評】SDGsを達成するために何ができるのかについて考え、話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教P. 208～P. 209、教表紙裏</p> <p>・これまでに学習した、持続可能性、対立と合意、効率と公正、国際協調といった見方・考え方を複合的に用いて追究させる。</p> <p>・「判断基準の例」や「先生からの視点の提供」を参考に、それぞれの政党の政策について評価や比較を行わせる。</p> <p>・この段階での支持政党を仮決定させておくことと最終判断時に思考の変容を見ることが出来る。</p> <p>・なぜその観点をその点数にしたのかについて理由を明確にして話し合わせる。</p> <p>・話し合いの結果も踏まえた上で、多面的・多角的に各党の政策について比較させ、判断させる。その際、最初に仮決定した時の考えと現在の考えとを比較させ、思考の変容を捉えられるようにする。</p> <p>【評】地球温暖化に対する政策について、見方・考え方を生かして評価したり、話し合ったりしたことを基に考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】

**単元名 私たちの課題 ー持続可能な社会をめざしてー**
**配当時間 10時間**

**単元の目標** (1) 持続可能な社会を築いていくために解決すべき課題に関わる様々な資料から、情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。  
 (2) 持続可能な社会を築いていくために解決すべき課題について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。  
 (3) 持続可能な社会を築いていくために解決すべき課題について、課題や解決方法を考える活動を通して主体的に社会に関わろうとする。

**標準的な展開例**

12220302\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 単元の学習問題をつかみ、レポートのテーマを設定する</p> <p>○ 公民的分野の学習を振り返る。</p> <p>○ 単元の学習問題をつかむ。<br/> <b>●</b> 持続可能な社会をつくるために、私達にできることは何だろう。<br/> <b>★</b> 学習の見通しをもち、レポートのテーマを設定しよう。<br/> ○ 学習の見通しをもち、学習計画を立てる。</p> <p>○ テーマを設定する。</p> <p>2～4 資料を収集し、必要な情報を読み取る。<br/> <b>★</b> 資料を集め、必要な情報を読み取ろう。</p> <p>○ 資料の収集と情報の読み取りを行う。<br/> ・この資料は、出典が行政機関のホームページなので、信頼できそう。<br/> ・複数の資料で肯定的な意見がまとめられているが、否定的な意見はないのだろうか。</p> <p>5～6 集めた資料を基に、考察と構想をする。<br/> <b>★</b> 集めた資料を基に、持続可能な社会を実現するためにはどのような政策が必要かを考えよう。<br/> ○ 見方・考え方をを用いて、課題について多面的・多角的に考察する。</p> <p>○ 考察したことを基に、政策を構想する。<br/> ・この案は、すべての立場の人から賛成してもらえるだろうか。<br/> ・環境や経済、社会の発展といった面で、犠牲になってしまっているものはないだろうか。</p> <p>7～8 レポートにまとめる。<br/> <b>★</b> 追究してきたことをレポートにまとめよう。<br/> ○ レポートの構成を考える。</p> <p>○ レポートを書く。</p> | <p>・ 教P. 212～P. 214</p> <p>・ これまで公民的分野で学習した内容を振り返らせることで、現代社会には様々な課題があったことや、それらの課題を克服するための取り組みが行われていたことを想起させる。</p> <p>・ それらの課題や取り組みは、すべて「持続可能な社会をつくる」ことにつながっていることに気付かせる。</p> <p>・ 本時はテーマ設定をするところまで行い、次時以降に資料収集と読み取りが3時間、考察と構想が2時間、レポートの作成が2時間、レポートの発表が1時間、単元のまとめが1時間の計10時間完了を想定しているが、生徒の実態に合わせて柔軟に対応する。</p> <p>・ 教P. 212に例示されている「伝統・文化」「政治・経済」「人権・平和」「環境・科学・技術」の四つの分類から選ばせた後、さらに具体的にテーマを設定させる。</p> <p>・ 教P. 215</p> <p>・ これまでに学習したすべての見方・考え方を複合的に用いて追究させる。</p> <p>・ 情報をどこから得たのかが分かるように出典を明記させる。</p> <p>・ 複数の資料を検討させることで、自分の考えに合う資料とそうでない資料があることに気付かせ、客観的に論を展開できるようにさせる。</p> <p>・ 地理的分野や歴史的分野の教科書も活用させるとよい。</p> <p>【評】 資料の信頼性を踏まえつつ情報を集め、異なる資料を見比べたり結び付けたりして情報を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 教P. 216～P. 217</p> <p>・ これまでに学習したすべての見方・考え方を複合的に用いて追究させる。</p> <p>・ 他のものや制度、地域などと比較したり、他の資料から分かることと関連付けたりさせることで、多面的・多角的に考察させる。</p> <p>・ グループで考察した内容を交流させ、自分の考えを見直し、修正させることで、より多面的・多角的に考察できるようにするとよい。</p> <p>・ 根拠を明確にして政策を構想させる。その際「効率と公正」や「対立と合意」といった見方・考え方に着目させ、多面的・多角的に構想の内容を検討させる。</p> <p>【評】 持続可能な社会をつくるための方法について、資料を根拠として見方・考え方をを用いて多面的・多角的に考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 教P. 218～P. 219</p> <p>・ 教P. 219の「レポートを作成するためのポイント」やレポートの見本を参考にさせる。</p> |



- 9 追究したことを発表する。  
★追究したことを発表しよう。

○ 追究したことを発表する。

- 10 単元の学習を振り返り、単元のまとめをする。  
★単元の学習を振り返り、社会への関わり方を考えよう。  
○ 社会への関わり方を考える。

○ 社会への関わり方について、考えたことを話し合う。

- 話し合いの内容を踏まえて、考えをまとめる。  
・ 自分にできる身近なことから、一歩ずつ取り組んでいきたい。  
・ 友達の話聞いて、ただ取り組むだけでなく、それを続けていくことの難しさと大切さに気付いた。  
・ これからも社会に関心を持ち、様々なことを知っていくことが大切である。

- ・ 資料を根拠とし、客観的な事実と自分の考えとを分けてまとめさせる。
  - ・ 必ず参考資料や資料の出典を明記させる。
  - ・ 教P. 220
  - ・ これまでに学習した「効率と公正」や「対立と合意」などの見方・考え方をを用いて、他者のレポートを多面的・多角的に評価させる。
  - ・ 教P. 220の「評価の視点の例」を基に評価基準を設け、相互評価させることで互いのレポートの課題に気付かせ、今後のレポート作成の参考にさせる。
  - ・ 教P. 220
  - ・ これまでに学習したすべての見方・考え方を複合的に用いて考えさせる。
  - ・ 持続可能な社会の実現には、国や地方公共団体の政策や地球規模の国際協力が大切であるとともに、私たち一人一人が身近なことから取り組んでいくことが必要であることを捉えさせる。
  - ・ ただ考えを発表するだけにならないよう、実現可能かどうかや、効率と公正、対立と合意といった見方・考え方に着目させ、考えについて吟味させる。
  - ・ 再度、公民の一人として、どのように社会と関わっていききたいかを考えさせる。その際、教P. 221の「公民を学んで」を読ませることで、私たち一人一人が社会に関わっていくことの大切さを感じ取らせる。
- 【評】 持続可能な社会を実現するために社会にどのように関わっていくかについて考えたり話し合ったりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

# **令和 3 年度 知多地方教育計画案**

## **数学科**

# 数 学 科

## 1 教科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする。

### ①「数学的な見方・考え方を働かせ」について

- ・「数学的な見方・考え方」は、「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること」として整理することができる。
- ・「数学的な見方・考え方」は、数学的に考える資質・能力の育成に関して、数学の様々な領域において広く働かせるものであることに留意する必要がある。
- ・「数学的な見方・考え方」は、身近な生活のみならず、社会における賢明な意思決定や判断を行っていく上で必要な資質・能力を身に付ける際に有効に働くものである。

### ②「数学的活動を通して」について

- ・数学的活動とは、事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行することである。
- ・数学的に考える資質・能力を育成する上で、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して学習を展開することを重視する。

### ③「数学的に考える資質・能力を育成すること」について

- ・「数学的に考える資質・能力」とは、数学科の目標で示された三つの柱で整理された算数・数学教育で育成を目指す力のことである。
- ・「数学的に考える資質・能力」は、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して、三つの柱をバランスよく育成することが必要である。
- ・「数学的に考える資質・能力」は、数学の学習の基盤となるだけではなく、教科等の枠を越えて全ての学習の基盤として育んでいくことが大切である。

### ④「(1)知識及び技能」について

- ・知識及び技能には、概念的な理解や数学を活用して問題解決する方法の理解、数学的に表現・処理するための技能などが含まれる。
- ・基礎的な概念や原理・法則に基づく知識及び技能を、問題発見・解決の過程において的確かつ能率的に用いるとともに、様々な日常や社会の事象の考察に生かしたり、より広い数学的な対象について統合的・発展的に考察したりできるよう配慮することが大切である。

### ⑤「(2)思考力、判断力、表現力等」について

- ・思考力、判断力、表現力等は、問題を見いだしたり、知識及び技能を活用して問題を解決したりする際に必要である。
- ・数学を活用して事象を論理的に考察する力は、様々な事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する過程を遂行することを通して養われていく。
- ・数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力は、主に、数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する過程を遂行することを通して養われていく。
- ・目的に応じた的確な数学的な表現を選択したり、一つの対象の幾つかの数学的な表現を相互に関連付けたりすることを通して、事象の本質を捉えたり、理解を深めたりするように配慮することが大切である。

### ⑥「(3)学びに向かう力、人間性等」について

- ・学びに向かう力、人間性等には、数学のよさを実感して粘り強くかつ柔軟に考えようとするなど  
が求められる。
- ・生徒が、数学は楽しい、数学はおもしろいと実感し、数学が得意であるという自己肯定的な態度を養  
うことが大切である。
- ・数学のよさを実感できるようにするためには、数学を学ぶ過程で、数学的な知識及び技能を確実に用  
いることができるようになったり、思考力、判断力、表現力等を発揮することによって能率的に物事  
を処理できるようになったり、事柄を簡潔かつ明瞭に表現して的確に捉えることができるようになった  
りする成長の過程を振り返るなどして明確に意識できるようにすることが大切である。
- ・数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して、生活や学習に果たす数学の役割に気付くこと  
ができるようにし、数学を積極的に活用しようとする態度を養うことが大切である。
- ・問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとする態度を育成するためには、協働的な活動を通  
して、生徒同士の多様な考えを認め合うことも重要である。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

数学的に考える資質・能力を育成する観点から、現実の世界と数学の世界における問題発見・解決の過  
程を学習過程に反映させることを意図して数学的活動の一層の充実を図った。また、社会生活などの様々  
な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をし  
たりすることが求められており、そのような能力を育成するため、統計的な内容等の改善・充実を図った。

### (1) 平成 20 年改訂の学習指導要領の成果と課題

- ・PISA2015 では、数学的リテラシーの平均得点は国際的に見ると高い。TIMSS2015 では、小・  
中学生の算数・数学の平均得点は平成 7 年以降の調査において最も良好な結果になっている。
- ・数学を学ぶ楽しさや、実社会との関連に対して肯定的な回答をする割合も改善が見られる一方で、諸  
外国と比べると低い状況にあるなど学習意欲面で課題がある。
- ・全国学力・学習状況調査等の結果からは、中学校では、「数学的な表現を用いた理由の説明」に課題  
があるとして指摘されている。

### (2) 数学科の目標の改善

- ・数学科において育成を目指す資質・能力を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学び  
に向かう力、人間性等」の三つの柱で整理して示した。
- ・「見方・考え方」を働かせた学習活動を通して、目標に示す資質・能力の育成を目指すこととした。
- ・数学的活動は、小・中・高等学校教育を通じて必要なものであり、数学的活動を通して、数学的に考  
える資質・能力を育成することを目指すことと示した。

### (3) 数学科の内容の改善

- ・三つの柱に沿って整理し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」については指導事項のま  
とまりごとに内容を示した。また、「学びに向かう力、人間性等」については、指導事項のまとまり  
ごとに内容を示すことはせず、教科の目標及び学年目標において、まとめて示した。
- ・従前の「資料の活用」の領域の名称を「データの活用」に改め、領域の構成は「数と式」、「図形」、「関  
数」及び「データの活用」の四つの領域とした。
- ・引き続き、言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し表現したり  
その過程を振り返って考えを深めたりする学習活動を重視した。
- ・各学年で統計的なデータと確率を学習することによって、統計的に問題解決する力を次第に高めてい  
くことができるよう構成した。
- ・具体的な内容の移行について
  - 1 年 素数、自然数を素数の積として表すこと、累積度数、  
多数の観察や多数回の試行によって得られる確率
  - 2 年 反例、四分位範囲や箱ひげ図
  - 3 年 誤差や近似値、 $a \times 10^n$  の形の表現

## 3 数学科計画案の留意事項

### (1) 単位について

本文はデータベースで作成されているため、面積や体積の指数を用いる単位をそのまま使用すること  
ができない。また、二次方程式や関数  $y = ax^2$  についても、指数を以下のように示す。

面積： $\text{cm}^2 \Rightarrow \text{cm}^{\wedge}2$ 、 $\text{m}^2 \Rightarrow \text{m}^{\wedge}2$  体積： $\text{cm}^3 \Rightarrow \text{cm}^{\wedge}3$ 、 $\text{m}^3 \Rightarrow \text{m}^{\wedge}3$  関数： $y = ax^2 \Rightarrow y = ax^{\wedge}2$

# 第1学年 数学科

## 1 学年の目標

- (1) 正の数と負の数，文字を用いた式と一元一次方程式，平面図形と空間図形，比例と反比例，データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数理的に捉えたり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数の範囲を拡張し，数の性質や計算について考察したり，文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力，図形の構成要素や構成の仕方に着目し，図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力，数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし，その特徴を表，式，グラフなどで考察する力，データの分布に着目し，その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり，不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度，多面的に捉え考えようとする態度を養う。

## 2 内容及び内容の取扱い

|                  | 内 容  | 用語・記号  |
|------------------|--|--|
| A<br>数<br>と<br>式 | <p>(1) 正の数と負の数について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 正の数と負の数の必要性和意味を理解すること。</p> <p>(イ) 正の数と負の数の四則計算をすること。</p> <p>(ウ) 具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすること。</p> <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 算数で学習した数の四則計算と関連付けて，正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現すること。</p> <p>(イ) 正の数と負の数を具体的な場面で活用すること。</p> <p>(2) 文字を用いた式について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 文字を用いることの必要性和意味を理解すること。</p> <p>(イ) 文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知ること。</p> <p>(ウ) 簡単な一次式の加法と減法の計算をすること。</p> <p>(エ) 数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し，式を用いて表したり読み取ったりすること。</p> <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 具体的な場面と関連付けて，一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現すること。</p> <p>(3) 一元一次方程式について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解すること。</p> <p>(イ) 簡単な一元一次方程式を解くこと。</p> | <p>自然数<br/>素数<br/>符号<br/>絶対値</p> <p>項 係数<br/><math>\leq</math> <math>\geq</math></p> <p>移項</p> |

|             |   |   |
|-------------|---|---|
|             | <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 等式の性質を基にして，一元一次方程式を解く方法を考察し表現すること。</p> <p>(イ) 一元一次方程式を具体的な場面で活用すること。</p>   |   |
|             | <p>内容の取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (1) に関連して，自然数を素数の積として表すことを取り扱うものとする。</li> <li>・ (1) のアとイの(ア) に関連して，数の集合と四則計算の可能性を取り扱うものとする。</li> <li>・ (2) のアの(エ) に関連して，大小関係を不等式を用いて表すことを取り扱うものとする。</li> <li>・ (3) のアの(イ) とイの(イ) に関連して，簡単な比例式を解くことを取り扱うものとする。</li> </ul>   |   |
| B<br>図<br>形 | <p>(1) 平面図形について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 角の二等分線，線分の垂直二等分線，垂線などの基本的な作図の方法を理解すること。</p> <p>(イ) 平行移動，対称移動及び回転移動について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 図形の性質に着目し，基本的な作図の方法を考察し表現すること。</p> <p>(イ) 図形の移動に着目し，二つの図形の関係について考察し表現すること。</p> <p>(ウ) 基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用すること。</p> <p>(2) 空間図形について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 空間における直線や平面の位置関係を知ること。</p> <p>(イ) 扇形の弧の長さと面積，基本的な柱体や錐すい体，球の表面積と体積を求めること。</p> <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えたり，空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだしたりすること。</p> <p>(イ) 立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現すること。</p> | <p>弧 弦<br/>// ⊥<br/>∠ △</p> <p>回転体<br/>ねじれの位置<br/>π</p> |
|             | <p>内容の取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (1) のイの(ウ) に関連して，円の接線はその接点を通る半径に垂直であることを取り扱うものとする。</li> <li>・ (2) のイの(ア) については，見取図や展開図，投影図を取り扱うものとする。</li> </ul>   |   |
| C<br>関<br>数 | <p>(1) 比例，反比例について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 関数関係の意味を理解すること。</p> <p>(イ) 比例，反比例について理解すること。</p> <p>(ウ) 座標の意味を理解すること。</p> <p>(エ) 比例，反比例を表，式，グラフなどに表すこと。</p> <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p>  | <p>関数 変数<br/>変域</p>                                     |

|                                 |  |            |
|---------------------------------|--|------------|
|                                 | <p>(ア) 比例, 反比例として捉えられる二つの数量について, 表, 式, グラフなどを用いて調べ, それらの変化や対応の特徴を見いだすこと。</p> <p>(イ) 比例, 反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。</p>   |            |
| D<br>デ<br>ー<br>タ<br>の<br>活<br>用 | <p>(1) データの分布について, 数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解すること。</p> <p>(イ) コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理すること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 目的に応じてデータを収集して分析し, そのデータの分布の傾向を読み取り, 批判的に考察し判断すること。</p> <p>(2) 不確定な事象の起こりやすさについて, 数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 多数の観察や多数回の試行の結果を基にして, 不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現すること。</p> | 範囲<br>累積度数 |
| 数<br>学<br>的<br>活<br>動           | <p>(1) 「A数と式」, 「B図形」, 「C関数」及び「Dデータの活用」の学習やそれらを相互に関連付けた学習において, 次のような数学的活動に取り組むものとする。</p> <p>ア 日常の事象を数理的に捉え, 数学的に表現・処理し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動</p> <p>イ 数学の事象から問題を見いだし解決したり, 解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする活動</p> <p>ウ 数学的な表現を用いて筋道立てて説明し伝え合う活動</p>   |            |

### 3 評価の観点の趣旨

| 観点            | 観点の趣旨  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | <p>・正の数と負の数, 文字を用いた式と一元一次方程式, 平面図形と空間図形, 比例と反比例, データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。</p> <p>・事象を数理的に捉えたり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>  |
| 思考・判断・表現      | <p>・数の範囲を拡張し, 数の性質や計算について考察したり, 文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力, 図形の構成要素や構成の仕方に着目し, 図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力, 数量の変化や対応に着目して関数関係を見いだし, その特徴を表, 式, グラフなどで考察する力, データの分布に着目し, その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり, 不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を身に付けている。</p> |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p>・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え, 数学を生活や学習に生かそうとしたり, 問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり, 多面的に捉え考えようとしたりしている。</p>   |

## 第2学年 数学科

### 1 学年の目標

- (1) 文字を用いた式と連立二元一次方程式，平面図形と数学的な推論，一次関数，データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力，数学的な推論の過程に着目し，図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，その特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，複数の集団のデータの分布に着目し，その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり，不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度，多様な考えを認め，よりよく問題解決しようとする態度を養う。

### 2 指導の要点

|                  | 内 容  | 用語・記号 |
|------------------|--|-------|
| A<br>数<br>と<br>式 | <p>(1) 文字を用いた式について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすること。</p> <p>(イ) 具体的な事象の中の数量の関係を文字を用いた式で表したり，式の意味を読み取ったりすること。</p> <p>(ウ) 文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解すること。</p> <p>(エ) 目的に応じて，簡単な式を変形すること。</p> <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて，整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現すること。</p> <p>(イ) 文字を用いた式を具体的な場面で活用すること。</p> <p>(2) 連立二元一次方程式について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 二元一次方程式とその解の意味を理解すること。</p> <p>(イ) 連立二元一次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解すること。</p> <p>(ウ) 簡単な連立二元一次方程式を解くこと。</p> <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 一元一次方程式と関連付けて，連立二元一次方程式を解く方</p> | 同類項   |



|                  |  |   |
|------------------|--|---|
|                  | <p>法を考察し表現すること。</p> <p>(イ) 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用すること。</p>  |   |
| B<br>図<br>形      | <p>(1) 基本的な平面図形の性質について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 平行線や角の性質を理解すること。</p> <p>(イ) 多角形の角についての性質が見いだせることを知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明すること。</p> <p>(2) 図形の合同について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解すること。</p> <p>(イ) 証明の必要性和意味及びその方法について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりすること。</p> <p>(イ) 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること。</p> | <p>対頂角 内角<br/>外角 定義<br/>証明 逆<br/>反例 ≡</p> |
|                  | <p>内容の取扱い</p> <p>・ (2)のイの(ア)に関連して、正方形、ひし形及び長方形が平行四辺形の特別な形であることを取り扱うものとする。</p>  |   |
| C<br>関<br>数      | <p>(1) 一次関数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 一次関数について理解すること。</p> <p>(イ) 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知ること。</p> <p>(ウ) 二元一次方程式を関数を表す式とみること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること。</p> <p>(イ) 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。</p>  | <p>変化の割合<br/>傾き</p>                       |
| D<br>デ<br>ー<br>タ | <p>(1) データの分布について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解すること。</p>   |   |

|       |  |
|-------|--|
| の活用   | <p>(イ) コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すこと。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断すること。</p> <p>(2) 不確定な事象の起こりやすさについて、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解すること。</p> <p>(イ) 簡単な場合について確率を求めること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現すること。</p> <p>(イ) 確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現すること。</p> |
| 数学的活動 | <p>(1) 「A数と式」、「B図形」、「C関数」及び「Dデータの活用」の学習やそれらを相互に関連付けた学習において、次のような数学的活動に取り組むものとする。</p> <p>ア 日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動</p> <p>イ 数学の事象から見通しをもって問題を見だし解決したり、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする活動</p> <p>ウ 数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動</p>   |

### 3 評価の観点の趣旨

| 観点            | 観点の趣旨  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | ・文字を用いた式と連立二元一次方程式，平面図形と数学的な推論，一次関数，データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。  |
| 思考・判断・表現      | ・文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力，数学的な推論の過程に着目し，図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，その特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，複数の集団のデータの分布に着目し，その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり，不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を身に付けている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度，多様な考えを認め，よりよく問題解決しようとする。   |

## 第3学年 数学科

### 1 学年の目標

- (1) 数の平方根，多項式と二次方程式，図形の相似，円周角と中心角の関係，三平方の定理，関数  $y=ax^2$ ，標本調査などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるよう指導する。
- (2) 数の範囲に着目し，数の性質や計算について考察したり，文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力，図形の構成要素の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，その特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，標本と母集団の関係に着目し，母集団の傾向を推定し判断したり，調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度，多様な考えを認め，よりよく問題解決しようとする態度を養う。

### 2 内容及び内容の取り扱い

|                  | 内容  | 用語・記号  |
|------------------|---|--|
| A<br>数<br>と<br>式 | <p>(1) 正の数の平方根について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 数の平方根の必要性和意味を理解すること。</p> <p>(イ) 数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。</p> <p>(ウ) 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること。</p> <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 既に学習した計算の方法と関連付けて，数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現すること。</p> <p>(イ) 数の平方根を具体的な場面で活用すること。</p> <p>(2) 簡単な多項式について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすること。</p> <p>(イ) 簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすること。</p> $(a+b)^2 = a^2 + 2ab + b^2 \quad (a-b)^2 = a^2 - 2ab + b^2$ $(a+b)(a-b) = a^2 - b^2 \quad (x+a)(x+b) = x^2 + (a+b)x + ab$ <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 既に学習した計算の方法と関連付けて，式の展開や因数分解をする方法を考察し表現すること。</p> <p>(イ) 文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明すること。</p> <p>(3) 二次方程式について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 二次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解すること。</p> <p>(イ) 因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解くこ</p> | <p>根号</p> <p>有理数</p> <p>無理数</p> <p><math>\sqrt{\quad}</math></p> <p>因数</p> |

|             |   |   |
|-------------|---|---|
|             | <p>と。</p> <p>(ウ) 解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解くこと。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 因数分解や平方根の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現すること。</p> <p>(イ) 二次方程式を具体的な場面で活用すること。</p>  |   |
|             | <p>内容の取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (1)などに関連して、誤差や近似値、<math>a \times 10^n</math>の形の表現を取り扱うものとする。</li> <li>・ (3)については、実数の解をもつ二次方程式を取り扱うものとする。</li> <li>・ (3)のアの(イ)とイの(ア)については、<math>ax^2 = b</math> (<math>a, b</math>は有理数)の(2)のアの(イ)に示した公式を用いることができるものを中心に扱うものとする。また、平方の形に変形して解くことの指導においては、<math>x</math>の係数が偶数であるものを中心に扱うものとする。</li> </ul>   |   |
| B<br>図<br>形 | <p>(1) 図形の相似について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解すること。</p> <p>(イ) 基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。</p> <p>(イ) 平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめること。</p> <p>(ウ) 相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。</p> <p>(2) 円周角と中心角の関係について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 円周角と中心角の関係を見いだすこと。</p> <p>(イ) 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。</p> <p>(3) 三平方の定理について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知ること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 三平方の定理を見いだすこと。</p> <p>(イ) 三平方の定理を具体的な場面で活用すること。</p> | ∞ |
|             | <p>内容の取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (2)に関連して、円周角の定理の逆を取り扱うものとする。</li> </ul>   |   |
| C<br>関<br>数 | <p>(1) 関数 <math>y=ax^2</math> について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 関数 <math>y=ax^2</math> について理解すること。</p>  |   |

|                                 |   |      |
|---------------------------------|---|------|
|                                 | <p>(イ) 事象の中には関数 <math>y=ax^2</math> として捉えられるものがあることを知ること。</p> <p>(ウ) いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 関数 <math>y=ax^2</math> として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること。</p> <p>(イ) 関数 <math>y=ax^2</math> を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。</p> |      |
| D<br>デ<br>ー<br>タ<br>の<br>活<br>用 | <p>(1) 標本調査について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 標本調査の必要性和意味を理解すること。</p> <p>(イ) コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現すること。</p> <p>(イ) 簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断すること。</p>   | 全数調査 |
| 数<br>学<br>的<br>活<br>動           | <p>(1) 「A数と式」、「B図形」、「C関数」及び「Dデータの活用」の学習やそれらを相互に関連づけた学習において、次のような数学的活動に取り組むものとする。</p> <p>ア 日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果をふり返って考察したりする活動</p> <p>イ 数学の事象から見通しをもって問題を見だし解決したり、解決の過程や結果をふり返って統合的・発展的に考察したりする活動</p> <p>ウ 数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動</p>                                |      |

### 3 指導の観点の趣旨

| 観点            | 観点の趣旨  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | <p>・数の平方根、多項式と二次方程式、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理、関数 <math>y=ax^2</math>、標本調査などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>  |
| 思考・判断・表現      | <p>・数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付けている。</p> |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p>・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養おうとしている。</p>   |

第 1 学年 数学科 年間計画（標準 1 4 0 時間）

1 学期（4 8 時間）

| 単 元 名        | 時 間 | 備 考 |
|--------------|-----|-----|
| オリエンテーション    | 1   |     |
| 正の数・負の数      | 2 6 |     |
| 文字の式         | 1 7 |     |
| 予備（評価テストを含む） | 4   |     |

2 学期（5 6 時間）

| 単 元 名        | 時 間 | 備 考 |
|--------------|-----|-----|
| 方程式          | 1 6 |     |
| 変化と対応        | 1 8 |     |
| 平面図形         | 1 8 |     |
| 予備（評価テストを含む） | 4   |     |

3 学期（3 6 時間）

| 単 元 名        | 時 間 | 備 考 |
|--------------|-----|-----|
| 空間図形         | 1 9 |     |
| データの活用       | 1 2 |     |
| 予備（評価テストを含む） | 5   |     |

第2学年 数学科 年間計画（標準105時間）

1学期（36時間）

| 単 元 名        | 時 間 | 備 考        |
|--------------|-----|------------|
| オリエンテーション    | 1   |            |
| 式の計算         | 12  |            |
| 連立方程式        | 13  |            |
| 一次関数         | 8   | 一次関数のグラフまで |
| 予備（評価テストを含む） | 2   |            |

2学期（42時間）

| 単 元 名        | 時 間 | 備 考             |
|--------------|-----|-----------------|
| 一次関数         | 12  | 一次関数の式を求めることから  |
| 図形の調べ方       | 16  |                 |
| 図形の性質と証明     | 12  | 平行四辺形になるための条件まで |
| 予備（評価テストを含む） | 2   |                 |

3学期（27時間）

| 単 元 名        | 時 間 | 備 考        |
|--------------|-----|------------|
| 図形の性質と証明     | 7   | いろいろな四角形から |
| 場合の数と確率      | 8   |            |
| 箱ひげ図とデータの活用  | 7   |            |
| 予備（評価テストを含む） | 5   |            |

第3学年 数学科 年間計画（標準140時間）

1学期（50時間）

| 単 元 名        | 時 間 | 備 考 |
|--------------|-----|-----|
| オリエンテーション    | 1   |     |
| 式の展開と因数分解    | 19  |     |
| 平方根          | 16  |     |
| 二次方程式        | 13  |     |
| 予備（評価テストを含む） | 1   |     |

2学期（58時間）

| 単 元 名         | 時 間 | 備 考 |
|---------------|-----|-----|
| 関数 $y = ax^2$ | 16  |     |
| 図形と相似         | 25  |     |
| 円の性質          | 10  |     |
| 予備（評価テストを含む）  | 7   |     |

3学期（32時間）

| 単元名          | 時 間 | 備 考 |
|--------------|-----|-----|
| 三平方の定理       | 13  |     |
| 標本調査とデータの活用  | 6   |     |
| 予備（評価テストを含む） | 13  |     |



# 第1学年〇組 数学科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 T1 ○ ○ ○ ○

T2 ○ ○ ○ ○

## 1 単元 文字の式

### 2 単元の目標

- (1) 文字を用いることの必要性和意味及び文字式を書くときの約束を理解することや、簡単な一次式の加法と減法の計算をしたり、文字式を用いて表したり、文字式を読み取ったりすることができる。
- (2) 具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。
- (3) 文字の式を用いることのよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

### 3 学習の計画 (17時間完了)

- 第1次 第1時～第2時 いろいろな数量を、文字を使って表す。
- 第2次 第3時～第5時 文字の式の表し方にしたがって、いろいろな数量を式に表す。
- 第3次 第6時～第7時 式の中の文字に数を代入して、その値を求める。
- 第4次 第8時～第11時 文字式の加法減法について理解し、その計算をする。
- 第5次 第12時 文字式と数の乗法、除法について理解し、その計算をする。
- 第6次 第13時 2つの数量の関係を、等号を使って表す。
- 第14時(本時) 2つの数量の関係を、不等号を使って表す。
- 第15時 式が表す数量の関係について、その意味を考える。
- 第7次 第16時～第17時 文字式に関する問題を解き、学習のまとめをする。

### 4 本時の学習指導

- (1) 目標
  - 数量の大小関係を、適切な不等号を用いて不等式に表すことができる。
  - 数量の大小関係を、不等号を使って不等式を立式しようとする。
- (2) 準備・資料
  - 教師……ワークシート、不等号一覧表、ホワイトボード、ペン、自己評価シート
- (3) 関連
  - 1年 数学 方程式(方程式とその解について理解する)
- (4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項   |
|------|---|----|---|
| 課題把握 | <p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 場面設定を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3人で、ケーキと花束のプレゼントを買うことにしました。1人 <math>a</math> 円ずつ出しあって、1個 <math>b</math> 円のケーキを5個と3000円の花束を買いました。</p> </div> <p>(2) 前時で学習した「ちょうど買える」以外にどのような状況があるか考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼント代の方が高い。</li> <li>・3人で集めたお金の方が多い。</li> </ul> <p>(3) 不等式をつくり、不等式に関する用語を確認する。</p> |    | <p>○場面設定が書かれた資料を提示する。</p> <p>○前時に学習した内容について確認させることで、既習事項と関連付けて問題を解く力を身に付けさせる。</p> <p>○意見が出ない場合は、班で相談する時間を設ける。【T1】</p> |

|      |  |    |  |
|------|--|----|--|
| 課題把握 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼント代の方が高い<br/><math>3a &lt; 5b + 3000</math></li> <li>・3人で集めたお金の方が多い<br/><math>3a &gt; 5b + 3000</math></li> </ul> <p>(4) 本時の学習課題を決める。</p> <div data-bbox="213 371 770 465"> <p>大小関係を表す式を，不等号を使って表そう。</p> </div>   | 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項と関連付けながら，不等式，左辺，右辺，両辺の説明をする。【T 1】</li> <li>○生徒の言葉を生かして，本時の学習課題を設定する。</li> </ul>  |
|      | <p>2 課題追究する。</p> <p>(1) 不等号には，<math>&gt;</math>，<math>&lt;</math>のほかに，<math>\geq</math>，<math>\leq</math>もあることを知る。</p> <p>(2) 本時の学習課題を把握する。</p> <div data-bbox="264 837 1286 1178"> <p><b>問題</b></p> <p>次のア～オの数量の関係をそれぞれ式に表すと，<math>3a + 4b \square 1000</math> と表される。<math>\square</math>の中にあてはまる適切な不等号をかきなさい。</p> <p>ア. <math>a</math> 円の品物を 3 個，<math>b</math> 円の品物を 4 個の値段は，1000 円以上である。</p> <p>イ. <math>a</math> 円の品物を 3 個，<math>b</math> 円の品物を 4 個の値段は，1000 円未満である。</p> <p>ウ. <math>a</math> 円の品物を 3 個，<math>b</math> 円の品物を 4 個買い，1000 円札を出したら，おつりがあった。</p> <p>エ. <math>a</math> 円の品物を 3 個，<math>b</math> 円の品物を 4 個は，1000 円あれば買うことができる。</p> <p>オ. <math>a</math> 円の品物を 3 個，<math>b</math> 円の品物を 4 個は，1000 円では買うことができない。</p> </div> | 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○不等号一覧表を提示し，視覚的に分かりやすく説明する。【T 1】</li> </ul> <div data-bbox="900 622 1291 797"> <p><math>a &gt; b</math> <math>a</math>は<math>b</math>より大きい</p> <p><math>a &lt; b</math> <math>a</math>は<math>b</math>より小さい</p> <p><math>a \geq b</math> <math>a</math>は<math>b</math>以上</p> <p><math>a \leq b</math> <math>a</math>は<math>b</math>以下</p> </div>           |
| 課題追究 | <p>3 学習課題を解決する。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3分間でワークシートに自分の考えを書く。</li> <li>・ア，イは，以上，未満なので，分かりやすい。</li> <li>・ウ，エ，オは，どうしたらよいだろう。</li> </ul> <p>(2) 班で，各自の考えを比較・検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人の考え・解法を，伝え合い，班員の考えを理解する。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○班として，よりよい考えをホワイトボードに全員でまとめる。</li> <li>・ウの「1000 円札を出したら，おつり</li> </ul>  | 15 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートを配付する。【T 1・T 2】</li> <li>○個人解決の時間では，相談をせずに考えるよう指示する。【T 1】</li> <li>○全体で解決していくため，ワークシートには，予想を書くだけでもよいことを伝える。【T 1・T 2】</li> <li>○協力して問題解決に取り組めるように，班の隊形になるように指示する。【T 1】</li> <li>○班員全員の考えを比較検討しやすくするために，ワークシートを真ん中に出させる。【T 1・T 2】</li> <li>○不等号だけを伝えるのではなく，どう考えたのか伝えるようにさせる。【T 1・T 2】</li> <li>○班員全員が対話しながら班の意見をまとめていけるように，ホワイトボードを活用させる。</li> </ul> |

|      |   |    |   |
|------|---|----|---|
| 課題追究 | <p>があった」は「1000 円未満」と同じ意味である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エの「買うことができる」は「持ち金以下の値段」と同じ意味だ。</li> </ul>  | 28 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○早くまとめ終わった班には、全体交流に向けて発表の練習をさせる。【T 1・T 2】</li> </ul> <p>評数量の大小関係を言葉の意味と関連付けて不等式に表している。(ワークシート)</p>   |
|      | <p>4 クラス全体で、各班の考えを比較・検討する。</p> <p>(1) ホワイトボードを黒板に貼り、考え方を分類整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記号が同じものと違うもの</li> <li>・考え方が記してあるかどうか</li> </ul> <p>(2) 各グループの考え方を理解し、話し合い、さらに理解する。</p> <p>(3) 学級としての意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全員が納得する考えにまとめ、板書する。</li> </ul> | 40 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒主体で話し合いの運営をさせることで主体的に課題解決に取り組ませる。【T 1】</li> <li>○分類整理したホワイトボードを集めさせることで、比較・検討しやすくさせる。</li> </ul>  |
|      | <p>5 適用問題を解く。</p> <p>(1) 適用問題を個人で自力解決する。</p> <p>(2) 解き終えたら班で確認する。</p>   | 45 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○考えの過程を大事にしながら発表させる。【T 1】</li> <li>○話し合いの方向がずれてしまったり生徒の理解が不十分と感じたりした場合は、教師が何について話し合うべきか伝えたり、解き直しをする時間を与えたりする。【T 1】</li> </ul>  |
|      | <p>6 本時の振り返りをする。</p> <p>(1) 本時の学習を振り返り、自己評価シートにまとめる。</p> <p>(2) 次時の学習内容を知る。</p>   | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人解決の時間では、相談をせずに考えるよう指示する。【T 1】</li> <li>○グループで確認させることで、分からないことを質問したり、困っている級友に説明したりする活動を促す。【T 1・T 2】</li> </ul> <p>評数量の大小関係を不等式に表すために、学んだことを生かして取り組んでいる。(学習の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習を振り返らせ、学び、考え、分かったことをまとめさせる。</li> </ul> |

(5) 本時の評価規準

- 数量の大小関係を捉え、適切な不等号を使って不等式に表している。(ワークシート)
- 数量の大小関係を不等式に表すために、学んだことを生かしている。(学習の様子)

## 5 備 考

(1) 学級の実態

- 本学級の生徒は、数学の授業に対する興味関心が高い生徒が多く、学習課題に対して意欲的に取り組むことができる。その反面、数学に対して苦手意識をもっており、一人では自信をもって取り組むことが困難な生徒も多い。

(2) 指導の力点

- 前時の学習を生かしながら、生徒自身に本時のめあてを考えさせることで、主体的に見通しをもって学習課題に臨む姿勢に導く。
- 班としての考えを1つのホワイトボードに全員で話し合ってまとめることで、班としてまとめた考えを全員が共通理解し発表できるようにする。
- ホワイトボードに書かれている内容を見比べ、考え方を分類整理させることで、全体交流での比較・検討をしやすくする。

## 6 指導と評価

## 第2学年〇組 数学科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

### 1 単 元 連立方程式

#### 2 単元の目標

- (1) 二元一次方程式と連立方程式の意味、及びその解の意味を理解したり、簡単な連立方程式を解いたりすることができる。
- (2) 一元一次方程式と関連付けて、連立方程式の解き方を考察し表現したり、連立方程式を具体的な場面で活用したりすることができる。
- (3) 連立方程式を用いることのよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

#### 3 学習の計画 (13時間完了)

- 第1次 第1時～第2時 二元一次方程式、連立方程式とその解の意味について考える。
- 第2次 第3時～第7時 連立方程式の解き方を理解し、いろいろな連立方程式を解く。
- 第3次 第8時 連立方程式を利用して、身の回りの問題を解決する。
- 第9時 代金に関する問題を連立方程式を利用して解決する。
- 第10時 割合に関する問題を連立方程式を利用して解決する。
- 第11時 速さ・時間・道のりに関する問題を連立方程式を利用して解決する。
- 第4次 第12時(本時) 文章問題を連立方程式を利用して解決する。
- 第13時 連立方程式に関する問題を解き、学習のまとめをする。

#### 4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 連立方程式を利用して問題を解決するために、粘り強く取り組もうとする。
  - 連立方程式を利用して、文章問題を解くことができる。
- (2) 準備・資料
 

教師……電子黒板、タブレットPC
- (3) 関 連
 

1年 数学 一元一次方程式(一次方程式を利用して問題を解決する)

3年 数学 二次方程式(二次方程式を利用して問題を解決する)
- (4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項   |
|------|--|----|---|
| 課題把握 | 1 本時の学習課題を知る。<br>(1) 連立方程式の利用問題の解き方を確認する。<br>・ 未知数を文字にする。<br>・ 文字を使った方程式を2つつくる。<br>・ 加減法あるいは代入法を使い、方程式の解を求める。<br>・ 方程式の解が問題にあっているかどうかを確認し、答えを書く。<br>(2) 本時の学習課題をつかむ。<br>連立方程式を利用する様々な問題を解こう。 | 5  | ○ 前時までに学習した連立方程式を利用する問題の解法を確認する。<br>○ 解決の糸口として言葉の式や線分図、表を使うとよいことを確認する。<br>○ 解く手順を板書して、いつでも確認できるようにする。 |
| 課題追究 | 2 文章問題を読み、連立方程式を立てて解く。<br>(1) 例題から解法の手順を確認する。  |    | ○ 先に確認した解法の手順と照らし合わせながら黒板に解き方を示していく。  |

|         |  |    |  |
|---------|--|----|--|
| 課題追究まとめ | (2) 一人で考える。  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自力でどこまで解くことができたかが分かるように印を付けさせる。</li> <li>○分からなかった箇所を赤で記入させる。</li> </ul>  |
|         | (3) グループで教え合う。<br>・タブレットP Cに書き込みながら説明をする。  | 30 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレットP Cに解法を書き込ませる。</li> <li>○教え合いを通して自力で解くことができなかった生徒がつまづきの原因に気付き解決できるようにする。</li> </ul>   |
|         | 3 解き方を確認する。<br>(1) 未知数を文字で置く。<br>(2) 文字を使った方程式を2つつくる。<br>(3) 加減法あるいは代入法を使って方程式の解を求める。<br>(4) 方程式の解が問題にあっているかどうかを確認し、答えを書く。 | 45 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○連立方程式を利用して、粘り強く問題に取り組んでいる。(活動の様子)</li> <li>○正しく文章問題を解くことができる。(ノート)</li> <li>○それぞれの班の解法を電子黒板に映し出す。</li> <li>○電子黒板に書き込ませながら、説明させる。</li> <li>○グループで考えさせたり、答えを確かめ合わせたりすることで、意見に自信をもたせ、進んで発表させる。</li> </ul> |
|         | 4 本時のまとめをする。<br>(1) 本時の感想を発表する。<br>(2) 次時の学習内容を知る。   | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○分かったことや本時の感想を隣の生徒同士で発表させる。</li> </ul>  |

#### (5) 本時の評価規準

- 連立方程式を利用して問題解決する過程で、学んだことを生かしたり、試行錯誤したりして、粘り強く取り組んでいる。(活動の様子)
- 連立方程式を利用して、文章問題を確実に解くことができています。(ノート)

### 5 備 考

#### (1) 学級の実態

- 計算問題を苦手としている生徒は1割程度いる。しかし、前向きに取り組もうとする姿勢が見られ、連立方程式の計算においても意欲的に問題を解こうとするよい雰囲気がある。また、電子黒板やタブレットP Cを利用して説明する際には、視覚的な理解のしやすさから、いつも以上に集中して聞こうとする姿が見られる。

#### (2) 指導の力点

- タブレットP Cを利用し、互いに書き込んだり、図を動かしたりしながら、グループで教え合う活動を取り入れて自分の考えを深めたり広げたりすることで、どの生徒も連立方程式を利用する問題に対する解法を理解できるような場面を設定した。

### 6 指導と評価

# 第3学年〇組 数学科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

## 1 単 元 二次方程式

### 2 単元の目標

- (1) 二次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解し、平方の形に変形したり因数分解したりして解いたり、解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解いたりすることができる。
- (2) 平方根の考えや因数分解を基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現したり、二次方程式を具体的な場面で活用したりすることができる。
- (3) 二次方程式を用いることのよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

### 3 学習の計画 (13時間完了)

- 第1次 第1時(本時) 2次の項をふくむ方程式とその解について考え、単元の学習課題をつかむ。
- 第2時 二次方程式を平方根の意味に基づいて解くことを考え、その計算をする。
- 第3時 二次方程式を  $(x+m)^2 = n$  の形に変形して解を求める方法を考え、その計算をする。
- 第2次 第4時～第5時 二次方程式の解の公式を導き、それを使って二次方程式を解く。
- 第3次 第6時～第8時 二次方程式を、因数分解を使って解く。
- 第4次 第9時～第11時 二次方程式を利用して、実際の問題を解く。
- 第5次 第12時～第13時 二次方程式に関する問題を解き、学習のまとめをする。

### 4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 二次方程式とその解について理解することができる。
  - 課題に対し、方程式を用いて、主体的に取り組もうとする。
- (2) 準備・資料
  - 教師……振り返りシート、拡大したカレンダー
- (3) 関 連
  - 1年 数学 方程式(文字を用いた等式を利用して考える)
  - 2年 数学 連立方程式(2つの未知数を文字で表した方程式を考える)
- (4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|------|---|----|--|
| 課題把握 | 1 本時の学習課題をつかむ。<br>(1) 問題を把握する。<br>発表会の開催日の真上にある数と真下にある数をかけると207になる。<br>発表会の開催日はいつでしょうか。<br>○ 発表会がいつになるかを考える。<br>・もし、10日だと、 $3 \times 17 = 51$<br>・もし、16日だと、 $9 \times 23 = 207$<br>(2) 本時の学習課題をつかむ。<br>方程式を使って問題を解決する方法を考えよう。 | 10 | ○ 問題のイメージをつかませるために、黒板に拡大したカレンダーを提示する。<br>○ 文字を使って考えようとしている生徒の考えを取り上げ、課題を見いださせる。<br>○ 学習課題を板書し、学習の目標を意識させる。 |
| 課題追究 | 2 課題追究する。<br>(1) 個人で方程式をつくってみる。<br>(2) 集団で方程式を確認する。<br>○ 何を文字にするかを決める。  |    | ○ 最初は一人で考えさせるようにする。考え始めてしばらくしたら、周りと相談してもよいことを伝える。  |

|         |  |    |  |
|---------|--|----|--|
| 課題追究まとめ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日を <math>x</math> 日とする。</li> <li>・真上は <math>x - 7</math> 日，真下は <math>x + 7</math> 日</li> </ul> <p>○ 方程式をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真上 <math>\times</math> 真下 <math>= 207</math> になる。</li> <li>・ <math>(x - 7)(x + 7) = 207</math></li> </ul> <p>○ 展開や移項などをして，方程式を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>x^2 - 49 = 207</math></li> <li>・ <math>x^2 - 256 = 0</math></li> <li>・ <math>x</math> の 2 乗の項があるので，これ以上解くことができない。</li> </ul> | 26 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 何を文字で表すかを確認し，開催日が <math>x</math> であることを強調する。</li> <li>○ どうしてその式になるのかを確認することで，立式が苦手な生徒にも，理解させるようにする。</li> <li>○ 2 次の項が出てくるため，既習事項では解決できないことを確認し，次時への関心を高めるようにする。</li> </ul>      |
|         | <p>(3) 解について調べる。</p> <p>○ 方程式 <math>x^2 - 256 = 0</math> の左辺に <math>x = 16</math> を代入し調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (左辺) <math>= 16^2 - 256 = 0</math></li> <li>・ 方程式にあてはまるので解である。</li> </ul>  | 33 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の最初に求めた値を代入し，解であることを確認する。</li> <li>○ 一人一人の定着度を確認するために，机間指導の様子から意図的に指名し，調べ方を確認する。</li> </ul> <p>評 方程式をつくって，進んで課題解決しようとしている。(発表，ノート)</p> <p>○ 次時への課題をいろいろ発表させ，主体的な学習にしていける。</p> |
|         | <p>3 用語について確認し理解する。</p> <p>(1) 二次方程式とその解についてまとめる。</p> <p>(2) 二次方程式の解についての問題を解く。</p>  | 45 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 用語について丁寧に確認する。</li> <li>○ しばらくしたら，相談してもよいことを伝える。</li> </ul> <p>評 二次方程式とその解についての問題を解くことができる。(ノート)</p>  |
|         | <p>4 本時を振り返り，学習のまとめをする。</p> <p>(1) 振り返りシートを記入する。</p> <p>(2) 次時の予告を聞く。</p>  | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 分かったことを中心に，振り返りシートに記入させる。</li> </ul>  |

(5) 本時の評価規準

- 二次方程式とその解についての問題を解くことができる。(ノート)
- 課題解決に向けて方程式をつくって考え，代入して計算するなどして取り組んでいる。(発表，ノート)

## 5 備 考

(1) 学級の実態

- 計算問題に対して，意欲的に取り組むことができる。しかし，論理的な思考を必要とする問題になると，考えが進まなくなってしまう生徒が多い。

(2) 指導の力点

- まずは個人で意欲的に取り組ませるために，じっくりと時間をかけて考えさせる。様子を見て，周りとは相談をさせることで考えを進めさせていく。
- 論理的な思考を養うために，一つ一つの発言に対して，他の生徒に確認をしたり，さらに考えを掘り下げるような発問をしたりすることを心がける。

## 6 指導と評価

単元名 オリエンテーション

配当時間 1時間

単元の目標

## 標準的な展開

10230101\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 数学が社会の中でいかに用いられているかについて理解し、数学を学ぶ必要性や学び方を理解したり、学ぶことの楽しさを実感したりする。</p> <p>★これから学ぶ数学について理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表紙裏の「この本の構成と使い方」を見て、これからの学習について知る。</li> <li>○第1学年の学習内容のあらましを知り、学習の見通しをもつ。</li> <li>○表紙裏にある「この本の構成と使い方」を基に、小学校での学習の仕方を振り返り、より能率的に学習を進める方法を理解する。</li> <li>○既習の問題を解き、定着度を自己評価する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目次を基に、小学校算数科とのつながりについて簡単に触れる。</li> <li>・「みんなで学ぼう編」「自分から学ぼう編」の仕組みについても触れ、今後の学習方法の概要を説明する。</li> </ul> <p>【評】既習の問題を解く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

日常生活や社会で数学が用いられていることや数学の歴史・発見物語・エピソードなど、興味・関心をひく話題を提示し、数学を学習することの意義や必要性を実感させ、学習意欲を高めるための工夫としたい。

また、小学校での学習の仕方を振り返らせ、中学校での授業の進め方、ノートを取り方なども指導するように心がけたい。そして、これまでの学習について振り返り、数学のもつ楽しさや数学を学習することのよさを味わわせ、積極的に学習に取り組もうとする意欲をもたせたい。

さらには、数学をより能率的に学べるように考える位置付けとしたい。

なお、学び方については、内容が抽象的にならないように要点を押さえて具体的に話をするのが大切である。



## 単元名 正の数・負の数

配当時間 26時間

単元の目標 (1) 正の数と負の数の必要性和意味を理解し、正の数と負の数の四則計算をしたり、具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることができる。  
 (2) 算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現したり、正の数と負の数を具体的な場面で活用したりすることができる。  
 (3) 正の数・負の数を用いることのよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開

10230102\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 身のまわりの事象の中から、使われている数を探し出す活動を通して0より小さい数があることを理解し、単元の学習課題をつかむ。[P.10～P.13]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身のまわりの日本一の事象の中から、使われているいろいろな数を探す。</li> </ul> <p>★0より小さい数について学習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○温度計の示す目もりから表している温度を見いだす。</li> <li>○0より小さい数の表し方を理解する。</li> <li>○負の数、正の数の読み方や意味を理解する。</li> <li>○自然数という用語を知る。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>2 数直線を拡張し、正の数・負の数を数直線上に表す。[P.14]</p> <p>★正の数・負の数を数直線上に表したり、読み取ったりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○正の数・負の数を数直線上で表す方法について考える。</li> <li>○正の数・負の数を拡張された数直線上に表すことを理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○0より小さい数についての練習問題を解き、理解を深める。</li> </ul> <p>3 正の数・負の数で量を表すことを考える。[P.15・P.16]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○山の高さや海の深さに関する数を基に、互いに反対の性質をもつと考えられる量が正の数・負の数で表されていることを見いだす。</li> </ul> <p>★反対の性質をもつ量や基準を決めたときの量の表し方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○互いに反対の性質をもつと考えられる量の表し方について理解する。</li> <li>○ある基準の量からの増減や過不足の表し方について理解する。</li> <li>○反対の性質をもつ量を一方のことばだけで表せることを理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・正の数と負の数の必要性については、これまでの経験や日常生活と関連付け、正の数と負の数が使われている具体的な場面に結び付けて理解できるようにする。</li> </ul> <p>【評】日常生活の中から負の数を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の理科で既に学習したことを基に説明させる。</li> <li>・マイナスという用語を押さえる。</li> <li>・日常生活の中でマイナスということばは使用されているが、ここでその読み方について改めて指導する。</li> <li>・負の数、正の数、プラス、正の符号、負の符号という用語を押さえる。</li> <li>・負の数に対し、小学校で扱ってきた0以外の数はすべて正の数であることを押さえ、「負の数、正の数、既知の数」の3つがあるような誤解をさける。</li> <li>・正の数は、特に必要な場合を除いて、+の符号は使わずに表すことを原則としていることにも触れる。</li> <li>・数を負の数まで拡張することで、整数の概念も「負の整数、0、正の整数」に拡張されることを確認する。</li> </ul> <p>【評】数の分類・整理する問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・負の数が正の数と逆の性質をもっていることから、負の数を表すためには数直線を左に拡張することで対応できることを見つけさせる</li> <li>・数直線上では、-1.5のような負の小数について読み間違えることも多いので、前後の負の整数に注目して考えさせる。</li> <li>・未来と過去のように、どちらが正の数か決まっていなかった場合には、あらかじめどちらの数を正の数で表すかを決めておく必要性に触れる。</li> <li>・いくつかの量を並べて記録する場合、正の数や負の数を使って統一的に表すことで、基準からの増減が見やすくなることを押さえる。</li> <li>・負の数を使うことで、正の数で表したときに用いたことばだけを使って表現することができることを確認する。</li> </ul> <p>【評】反対の性質をもつ量を表す活動を通して</p> |

- 4 絶対値と数の大小について考える。[P.17・P.18]
- 1つの数とその符号を変えた数が数直線上でどのような位置関係にあるかを見いだす。
  - ★絶対値と数の大小について考えよう。
  - 絶対値の意味を理解する。
  - 数直線上に表した数を基に、数の大小関係を考える。
  - 数の大小関係についてまとめる。
  - 2数の大小関係を、不等号を使って表す方法を理解する
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 5 数直線を使って、ある数より大きい数や小さい数を求める。[P.19・P.20]
- ★数直線を使って、いろいろな数を求めよう。
  - ある数より大きい数や小さい数を、数直線を用いて求める方法を理解する。
  - 5より7小さい数は、 $-2$ になることを数直線を使って考え、話し合う。
  - 5より $-4$ 小さい数は、 $9$ になることを数直線を使って考え、話し合う。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 絶対値と数の大小についての練習問題を解き、理解を深める。
- 6～8 正の数・負の数の加法について考える。[P.21～P.25]
- 正の数の加法について振り返り、負の数をふくむ加法をことばや数直線を使って説明する。
  - 正の数・負の数の加法について計算の意味を理解する。
  - ★加法について考えよう。
  - 2数の加法の計算について、符号と絶対値に着目し、そのきまりを見いだしてまとめる。
  - 正の数・負の数の加法についてまとめる。
  - 小数や分数の加法について理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 9 正の数・負の数の減法について考える。[P.26・P.27]
- 減法を加法になおすことによって既習の計算に帰着させ減法の計算の仕方を見いだす。
  - ★減法について考えよう。
  - 負の数をひく計算が正の数をたす計算になおせることを説明する。
  - 正の数・負の数の減法についてまとめる。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 10 正の数に符号 $+$ をつけない加法・減法について考える。[P.27・P.28]
- ★正の数に符号をつけずに表した式を計算しよう。
  - 加法の「 $+$ 」とかっこを省いた式で表せることを理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 11・12 3数以上の加法・減法と加法の計算法則について考える。[P.28～P.30]
- 加法と減法の混じった式の計算を簡単にする工夫について考える。

「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- ・ 絶対値の意味を説明する際、「符号をとった数」という表現を用いると、正の数・負の数以外に符号をとった別の数があるというような印象を与えるため十分に注意する。
- ・ 数直線上ではすべて大きさの順に並び、右の方にある数ほど大きくなることを押さえる。
- ・ 絶対値の用語を使った2数の大小の判定の仕方は、具体例を示しながら説明するとよい。
- ・ 正の数どうしの大小関係は小学2年で学習しているので、学び直しの機会とする。
- ・ 3数の大小関係を不等号を用いて表す場合、大きさの順に並べてから表すことを取り上げる。
- ・ 大きい数や小さい数が負の数であっても同様に求められることを押さえる。
- ・ ある数が負の数であっても、同じ方法で考えることができることも問題で確かめさせる。
- ・ 単に答えを求めるのではなく、式をことばに表したり、数直線上での進行方向はどちらになるのかを判断、表現させることを意識する
- ・ 加法という用語を押さえる。
- ・ 負の数をふくむ加法でも、計算の結果は数直線上の移動によって求められることを導く。
- ・ いつも数直線、あるいはその念頭操作をたよりにするのではなく、加法の計算結果から規則を見いだして計算を進められるように導く
- ・ 具体的に取り上げた事例から帰納的に考え、2数の和の符号と絶対値に関する性質を法則化し、理解させる。
- ・ 小数や分数の場合も、符号と絶対値に着目して計算すればよいことに気付かせる。
- ・ デジタルコンテンツを使って、視覚的に計算のしかたについて理解させることもできる。
- 【評】小学校で学んだ計算と関連付けて負の数をたすことについて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 減法という用語とともに、加法と減法をあわせて加減ということを押さえる。
- ・ 減法の指導法はさまざまな方法があるが、ここでは探究活動を通して「減法はすべて加法になおして計算できる」ことを理解させる。
- ・ 小数や分数の場合も、符号を変えた数をたす計算にすればよいことに気付かせる。
- ・ 計算の結果が正の数のときは、符号 $+$ を省くことができることを押さえる。

|   |  |
|---|--|
| <p>★ 3 数以上の加法，減法について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 加法の交換法則，乗法の結合法則について理解する。</li> <li>○ 計算法則を使って，計算しやすいように工夫して計算する方法を理解する。</li> <li>○ 異符号で絶対値が同じ数をふくむ場合の簡単になる計算方法について考え，話し合う。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○ 正の数・負の数の加法，減法についての練習問題に取り組み，理解を深める。</li> </ul> <p>13 正の数・負の数の乗法について考える。[P. 31～P. 33]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 負の数×正の数の計算の仕方を，加法で表すことを基に見いだす。</li> </ul> <p>★ 正の数や負の数をかけることについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 負の数×正の数の計算の仕方を考える。</li> <li>○ 正の数×負の数の計算の仕方を考える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 負の数×負の数の計算の仕方を既習事項から導く方法について考え，話し合う。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>14 正の数・負の数の除法について考える。[P. 34・P. 35]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ わり算がかけ算の逆数であることを基に，負の数をふくむわり算の仕方を見いだす。</li> </ul> <p>★ 正の数や負の数でわることについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 負の数をふくむわり算の計算方法をまとめる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正の数・負の数の乗法，除法についてまとめる。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>15・16 小数をふくむ乗除の計算について考える。[P. 35～P. 37]</p> <p>★ 小数や分数をふくむ乗除について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小数や分数をふくむかけ算・わり算の計算方法を考える</li> <li>○ 負の数の逆数を求め，理解を深める。</li> <li>○ 除法を乗法にすることについてまとめる。</li> <li>○ 正の数・負の数でわるには，その数の逆数をかければよいことを理解する。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>17 3 数以上の乗法について考える。[P. 37・P. 38]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 乗法の交換法則，乗法の結合法則について理解する。</li> </ul> <p>★ 3 数以上の乗法について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計算法則を使って，計算しやすいように工夫して計算する方法を理解する。</li> <li>○ 3 数以上の乗法について，負の数の個数と積の符号との関係について考える。</li> <li>○ 負の数をふくむ 3 つ以上の数の乗法について，負の数の個数と積の符号との関係をまとめる。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加法だけの式になおし，項，正の項，負の項という用語を押さえる。</li> <li>・ 加法の交換法則，加法の結合法則という用語を押さえるとともに，負の数をふくむ場合にも成り立つことを知らせる。</li> <li>・ 加法と減法の混じった式では，正の項の和，負の項の和をそれぞれさきに求めてから計算することができることを確認する。</li> <li>・ 計算の際，相殺できる項に気付かせ，簡単に計算できる場合があることを確認する。</li> </ul> <p>【評】 正の数・負の数の加法，減法に関する問題を解く活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ある数に正の数・負の数をかけることを，数直線上の操作に結びつけて理解を深めさせる</li> <li>・ 乗法という用語を押さえる。</li> <li>・ 負の数×正の数のように累加の考えが適用できないため，かける数を 1 ずつ減らしたときの積の値の変化に着目させ結果を予想させる</li> <li>・ 結果を約束事として教え込むのではなく，納得をとまなげて受け入れることができるように説明する活動を取り入れる。</li> </ul> <p>【評】 正の数・負の数の乗法に関する問題を解く活動を通して，「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校で学んでいる「わり算がかけ算の逆算である」ことと，既習である「負の数をふくむかけ算」を基に同じように考えればよいことを確認する。</li> <li>・ 除法という用語を押さえる。</li> <li>・ わり算の答えが分数になる場合，分子や分母に負の符号を残さず，符号を分数の前に出して答えるように指導する。</li> <li>・ 乗法と除法を合わせて乗除ということも押さえる。</li> <li>・ 0 をふくむ乗法・除法の計算についてもまとめておく。</li> </ul> <p>【評】 正の数・負の数の乗法，除法に関する問題を解く活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整数の乗除の計算と同様，2 数の符号からまず積や商の符号を決め，絶対値の積や商を考えればよいことを確認する。</li> <li>・ 逆数という用語を押さえる。</li> <li>・ 逆数を用いた除法の計算を振り返り，逆数の意味を理解する。</li> <li>・ 小学校で学んだ逆数の意味を負の数まで拡張して考えられることを押さえる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乗法の交換法則，乗法の結合法則という用語を押さえるとともに，負の数をふくむ場合にも成り立つことを知らせる。</li> <li>・ 除法では交換法則や結合法則が成り立たないことにも触れる。</li> <li>・ 小学校で学習した乗法の交換法則や結合法則が負の数をふくむ場合にも成り立つことを確かめる。</li> <li>・ 3 数以上の積の符号が，負の数の個数に依存していることに気付かせ，一般的な法則を導かせる。</li> </ul> |
|---|--|

18 3数以上の乗除について考える。[P. 38・P. 39]

★乗除の混じった式の計算について考えよう。

○乗除の混じった式の計算方法を考える。

○乗除の混じった式の計算の誤りについて考え、話し合う

○学習したことがらを使って問題を解く。

○正の数・負の数の乗法、除法についての練習問題を解き理解を深める。

19 同じ数の積の表し方について考える。[P. 40]

★いくつかの同じ数の積について考えよう。

○同じ数の積を指数を用いて表すことを理解する。

○符号「 $-$ 」をふくむ場合の指数の意味を理解する。

○指数をふくむ計算の仕方を考える。

○学習したことがらを使って問題を解く。

○指数の式をかけ算の式に変換した際に、負の数の個数がどうなるかについて考え、話し合う。

20・21 加減と乗除の混じった式の計算をする。[P. 41・P. 42]

○計算の順序についてまとめる。

★四則をふくむ式の計算について考えよう。

○かっこがある式の計算について理解する。

○分配法則を使い、効率的に計算できる場合があることについて考え、話し合う。

○学習したことがらを使って問題を解く。

○いろいろな計算についての練習問題に取り組み、理解を深める。

22 数の範囲をひろげたときの四則計算について考える。[P. 44・P. 45]

○負の数を学んだことで新たにできるようになった計算を考える。

★数の範囲をひろげたときの四則計算について考えよう。

○自然数どうしのわり算の結果が、いつも自然数になるかを考える。

○数の集まりの概念を理解する。

○数の範囲をひろげたときの計算の可能性について調べ、表を作成する。

○数の集合と計算の可能性についてまとめる。

23 自然数を、それより小さい自然数の積で表すことを考えその形に表す。[P. 46~P. 48]

○小学校で学んでいる「約数」について振り返り、素数について理解する。

○ある自然数を1より大きい自然数の積でいろいろ表してみる。

★自然数を素数の積で表そう。

○素因数分解について理解する。

○素因数分解を使って、倍数を効率よく見つける。

○学習したことがらを使って問題を解く。

・乗法だけの式になおし、結果の符号を決めてから計算できることを確認する。

・陥りやすい誤りを認識し、防ぐことができるようにするために、正答だけでなく、誤答の原因や正しい計算の手順、他の間違いやすい計算などを発言させる。

【評】計算法則を用いて計算する問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・2乗(平方)、3乗(立方)、指数という用語を押さえる。

・累乗という用語は取り扱わない。

・ $(-2)^4$ と $-2^4$ では、指数の及ぶ数が違うため、混同しないように注意することを確認する。

・指数をふくむ計算では、指数の計算を先に行うことを確認する。

・四則という用語を押さえる。

・「 $()$ 」がある式については小学校で学んでいるが、「 $\{ \}$ 」については初めて扱うので、小かっこ、中かっこという言い方にも触れておく。

【評】四則をふくむ式の計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・分配法則という用語を押さえる。

・かっこの中をそのまま計算した場合と、分配法則を使った場合を比較させ、この計算法則のよさを認識させる。

【評】分配法則を使い、効率的に計算をする方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・P. 46にある「琵琶湖の水位」を扱い、負の数が実際の場面でどのように使われているのかを伝える。

・自然数の集合、整数の集合という用語を押さえる。

・集合の意味は、単に数の集まりという程度にとらえ、数学的な厳密さは要求しない。

・自然数の集合、整数の集合、数全体の集合のそれぞれの場合について具体的な事例を基に調べさせる。

【評】四則計算の意味を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・2数だけでなく、3数以上の積でも表せることを認識させ、素因数分解への考えにつなげる。

・必要に応じて、最小公倍数や最大公約数を求める際にも素数でわる方法が有効であることを伝えてもよい。(学びをいかそう[P. 29・P. 30])

- 数の世界の広がりについての練習問題を解き、理解を深める。

24 正の数・負の数を利用して、身のまわりの問題を解決する。[P. 49～P. 51]

- ★正の数・負の数を利用して、身のまわりの問題を解決しよう。
- 練習の記録の資料を基に、各週の跳べた回数の平均を工夫して求める方法を話し合う。
- 基準から仮平均を決めて平均を求める方法について振り返り、実際に平均を求める。
- 負の数を利用して仮平均を自由に決めて平均を求める方法を理解し、実際に平均を求める。
- 正の数・負の数の利用についての練習問題を解き、理解を深める。

25・26 正の数・負の数に関する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 52～P. 55]

- ★正の数・負の数に関する問題を解き、学習のまとめをしよう。
- 1章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。
- 1章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。

【評】数の世界の広がりについての問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。  
 ・P. 48にある「エラトステネスのふるい」を扱い、素数を見つける方法を伝えたい。(デジタルコンテンツあり)

- ・ある基準に着目し、仮平均を決めて残りの値の平均を求める方法を思い出させる。
- ・デジタルコンテンツを使って、視覚的に基準から仮平均を決めて平均を求める方法について理解させることもできる。
- ・負の数を利用することで、仮平均を自由に決めて平均を求められるようになることを理解させる。

【評】正の数・負の数について学んだことを生かす活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。

【評】正の数・負の数を使って量を表したり、四則をふくむ式の計算をしたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

#### 【 備 考 】

小学校算数科では、第4学年までに整数についての四則計算の意味や四則計算に関して成り立つ性質などを取り扱い、その習得と活用を図っている。そして、第5、6学年で交換法則、結合法則、分配法則について、小数や分数の計算でも成り立つことを調べることを通して、その意味と四則計算を学習し、数についての感覚や見方を広げ、その習得と活用を図っている。

また、小数については第5学年までに、分数については第6学年までに、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や、それらの意味と計算の仕方などを考察することを学習している。

中学校数学科において第1学年では、これらの学習の上に立って、数の範囲を正の数と負の数にまで拡張し、正の数と負の数の必要性和意味を理解すること、正の数と負の数の四則計算の意味を理解し、その計算ができるようにすること及び正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることを通して、具体的な場面でそれらを活用できるようにする。

## 単元名 文字の式

配当時間 17時間

- 単元の目標 (1) 文字を用いることの必要性和意味及び文字式を書くときの約束を理解することができる。簡単な一次式の加法と減法の計算をしたり、文字式を用いて表したり、文字式を読み取ったりすることができる。
- (2) 具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる
- (3) 文字の式を用いることよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開

10230103\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1・2 画用紙をとめるのに必要なマグネットの個数を求める活動を通して、数量を文字を使って表すことを考え、単元の学習課題をつかむ。[P.56～P.59]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>画用紙の枚数を変えたときに必要なマグネットの個数を求める。</li> <li>★いろいろな数量を、文字を使って表そう。</li> <li>画用紙が4, 5, 6枚のとき、必要なマグネットの個数について考える。</li> <li>画用紙の枚数によって、必要なマグネットの個数を簡単に求める方法について話し合う。</li> <li>必要なマグネットの個数の表し方を理解する。</li> <li>2種類の文字を使って数量を式で表す方法を理解する。</li> <li>学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>数量を文字で表すことについての練習問題に取り組み、理解を深める。</li> </ul> <p>3 文字式を書くときの表し方を理解する。[P.60・P.61]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長方形と正方形の周の長さや面積を文字を使った式で表すことを考える。</li> <li>★文字式を書くときの表し方について考えよう。</li> <li>文字式の表し方(積)についてまとめる。</li> <li>文字式の表し方(商)についてまとめる。</li> <li>乗法、除法をふくむ式を、記号<math>\times</math>、<math>\div</math>を使わないで文字式を表す方法を理解する。</li> <li>学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>4・5 文字の式の表し方に従って、いろいろな数量を式に表す。[P.60・P.61]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★文字式の表し方に従って、いろいろな数量を式に表そう</li> <li>代金とおつりを文字式に表すことを理解する。</li> <li>速さ・時間・道のりを文字式に表すことを理解する。</li> <li>割合を文字式に表すことを理解する。</li> <li>ある文字式がどのような数量になっているか考える。</li> <li>学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>文字式の表し方についての練習問題に取り組み、理解を深める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりにも数学が数多く活用されていることを感じ取らせる。</li> <li>きまりを見いだす場合には、簡単な場合から順に考えていくとよいことに気付かせる。</li> <li>【評】必要なマグネットの個数の表し方について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>数量を文字で表し、一般的に表されることによさを理解させる。</li> <li>文字式を書くとき、アルファベットを筆記体で書くと数字とはっきり区別できる利点があるが、中学校英語科では、筆記体を特に必修内容として定めていないので注意する。</li> <li>【評】個数や代金などの数量を文字を使って表す問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>文字式の表し方にはいろいろなケースがあるため、指導の初めから詳しく注意を与えるのではなく、若干の注意を与えるにとどめておく。</li> <li>2つ以上の文字の積を表す場合、例外(例えば<math>V=Sh</math>のような公式)があるため、「『ふつうは』アルファベット順にして書く」ということに触れる。</li> <li><math>a/5</math>と<math>1/5 \times a</math>が同じであることを理解することは難しいため、丁寧に説明する。</li> <li>記号<math>+</math>、<math>-</math>は省略することができないことに注意して、式に表させる。</li> <li>【評】文字式を書くときの表し方に従って、数量を文字式で表す問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>はじめに数量をきちんと把握し、次にことばの式になおしてから文字式に表す流れで理解させる。</li> <li>文字式で表した数量の単位については、学習の主体が文字式であることから、表記の仕方にはこだわらないことを押さえる。</li> <li>式が演算の結果を表すという見方をさせることは極めて大切であるため、このような見方を、機会があるごとに意識的に指導する。</li> <li>国際単位系(SI)の規定に沿って<math>\text{km/h}</math>を扱うが「毎時〇<math>\text{km}</math>の速さ」「時速〇<math>\text{km}</math>」といった表現も使用することを押さえる。</li> <li>【評】数量を文字式に表したり、文字式から数量を読み取ったりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>P.64にある「速さの単位」を扱い、速さの単位を<math>\text{km/h}</math>や<math>\text{m/min}</math>で表すことができることを</li> </ul> |

- 6 式の中の文字に数を代入して、その値を求める。[P. 65・P. 66]
- 文字に数を代入して、式の値を求める方法を見いだす。
  - ★式の中の文字に数を代入して、その値を求めよう。
  - 式の値の求め方を理解する。
  - $x$ に負の数を代入する場合の求め方を理解する
  - 分母の $x$ に数を代入する場合の求め方を理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 7 いろいろな形の式の文字に数を代入して値を求める。  
[P. 63・P. 64]
- ★いろいろな式の値を求めよう。
  - 指数を使って書かれた式の値を求める方法を理解する。
  - 文字が2つ以上ある場合の式の値を求める方法を理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 式の値についての練習問題に取り組み、理解を深める。
- 8 マグネットの個数を表す式から考え方を読み取る。  
[P. 68・P. 69]
- マグネットの個数を文字を使って表す。
  - マグネットの個数を表す式から事象を読み取り、説明する。
  - ★項と係数について考えよう。
  - 文字式の項と係数について理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 9 式を簡単にするについて考える。[P. 67・P. 68]
- 同じ文字をふくむ項からなる式を簡単に表す。
  - ★項をまとめて計算することについて考えよう。
  - 文字の部分が同じ項をまとめて簡単にする方法について考え、話し合う。
  - 文字の項と数の項をふくむ式を簡単にする方法を考える
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 10 式をたすこと、ひくことについて理解して、その計算をする。[P. 71～P. 73]
- ★かっこをはずして計算することについて考えよう。
  - かっこをはずして簡単にする方法について考え、話し合う。
  - 2つの式をたしたり、ひいたりする方法を理解する。
  - マグネットの個数の求め方について考え、話し合う。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 文字式の加法、減法についての練習問題に取り組み、理解を深める。
- 11・12 (文字式) $\times$ 数や(文字式) $\div$ 数の計算について理解して、その計算をする。[P. 74～P. 76]
- ★文字式に数をかける計算や、文字式を数でわる計算について考えよう。
  - 単項式に数をかける計算方法を理解する。
  - 単項式を数でわる計算方法を理解する。
  - 多項式に数をかける計算方法を理解する。

伝える。

- ・代入、文字の値、式の値という用語を押さえる。
- ・負の数の代入では、負の数にかっこをつけて代入するように注意を促す。
- ・分母の $x$ に数を代入する場合、 $x$ に小数や分数を代入する場合もあるので、 $6 \div x = 6 \div x$ と考えることを徹底させる。
- 【評】式の値を求めることの意味を、具体的な場面と関連付けて考察し表現する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・指数を使って書かれた式の $x$ に数を代入する場合、「ある数の2乗→必ず0以上の数」であることも振り返り、誤答を防ぐことができることを理解させる。

【評】文字に数を代入して式の値を求める問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- 【評】マグネットの個数を表す式から事象を読み取る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・項、係数という用語を押さえる。
  - ・1次の項、一次式という用語を押さえる。
  - ・1次の項、一次式についての説明では、そうでない例を挙げることで、その意味をつかませる。

- ・文字の項と数の項は、これ以上まとめることができないことを押さえる。

- ・かっこの前がー（マイナス）のときの計算の理解が困難な場合、振り返りで用いた具体例で式についての理解を深めてから文字式に置き換えて考えさせる。
- ・2つの式をたしたり、ひいたりするには、それぞれの式にかっこをつけ、記号 $+$ 、 $-$ でつなぎ、次のかっこをはずして計算することを押さえる。

【評】一次式の加法と減法の計算方法を日常生活の場面と関連付けて考察する活動を通して「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。

- ・乗法の交換法則を忘れている場合は、振り返りながら指導する。
- ・わり算を逆数のかけ算として計算することを振り返りながら指導する。
- ・デジタルコンテンツを使って、視覚的に多項式に数をかける計算方法を理解させることが

- 多項式を数でわる計算方法を理解する。
  - 分数の形の式に数をかける計算方法を理解する。
  - かっこがある式の計算方法を理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 計算方法の誤りを指摘し、正しい計算方法の説明について考え、話し合う。
  - 文字式と数の乗法、除法についての練習問題に取り組み理解を深める。
- 13 数量の間の関係を等号を使って表す。[P. 73・P. 74]
- 集めた金額の合計と品物の代金をそれぞれ式に表す。
  - ★等しい関係を表す式について考えよう。
  - 2つの数量の関係を等式に表す方法を理解する。
  - 数量の等しい関係を等式に表す方法を理解する。
  - 数量の過不足の関係を等式に表す方法を理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 14 数量の間の関係を不等号を使って表す。[P. 78・P. 79]
- ★大小関係を表す式について考えよう。
  - 2つの数量の関係を不等式に表す方法を理解する。
  - $\geq$ ,  $\leq$ を使って関係を表す方法を理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 15 式が表す数量の関係について考える。[P. 79・P. 80]
- ★式が表す数量の関係を考えよう。
  - 関係を表した式の意味を読み取る。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 数量の関係を等式や不等式に表す練習問題に取り組み理解を深める。
  - 文字の式の学習を終えて、自分の考えをまとめる。
- 16・17 文字の式に関する問題を解き、学習のまとめをする [P. 77～P. 79]
- ★文字の式に関する問題を解き、学習のまとめをしよう。
  - 2章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。
  - 2章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。

できる。

- ・分数の形の式に数をかける計算では、最初にかける数と分母とで約分できる場合は、約分してから計算を進めることを強調する。
- ・かっこをはずす際、分配法則の考え方を強調して間違いを防ぐ。

- ・正しいことばかりではなく、間違っている場面を知ることにより、計算の方法について一層理解を深めさせる。

【評】文字式をさまざまな計算方法を使って計算する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・等式、左辺、右辺、両辺という用語を押さえる。
- ・異なった表し方があれば、その考え方を発言させて認める。
- ・図をかいたり、実際に場面を再現したりして量の過不足が $+$ 、 $-$ のどちらを表すのかを理解させる。

【評】等しい数量の関係を等式に表す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・不等式、左辺、右辺、両辺という用語を押さえる。
- ・記号 $\geq$ ,  $\leq$ の使い方を押さえる。
- ・不等号を用いることで、数量の大小関係も式に表したり、その意味を読み取ったりすることができることを理解できるようにする。

【評】数量の大小関係を不等式に表す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・式の両辺が、それぞれどんな数量を表しているか考えさせ、その上で両辺の関係を読み取らせるなどの丁寧な指導を行う。

【評】等式や不等式の意味を考察し説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・P. 81にある「数あてマジック」を扱い、文字式を使って説明することのよさを伝えたい。(デジタルコンテンツあり)

- ・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。

【評】文字式を使って数量を表したり、文字式の加減や文字式と数の乗除の計算をしたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する

## 【 備 考 】

小学校算数科では、第4学年までに、数量の関係や法則などを数の式や言葉の式、 $\square$ ,  $\triangle$ などを用いた式で簡潔に表したり、式の意味を読み取ったりすることや、公式を用いることを学習している。また、第5学年では簡単な式で表されている関係についてその関係の見方や調べ方を学び、第6学年では数量を表す言葉や $\square$ ,  $\triangle$ などの代わりに、 $a$ や $x$ などの文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすることを学習している。

中学校数学科において第1学年では、数量の関係や法則などを、文字を用いて式を表したり、式の意味を読み取ったり、文字を用いた式の計算をしたりして、文字を用いることのよさについて学習する。指導に当たっては、小学校算数科における学習の状況に十分配慮し、例えば、数量の関係や法則などを数や言葉の式、 $\square$ ,  $\triangle$ などを用いた式に表してその意味を読み取ったり、数を当てはめて調べたりする活動を行うなどして、文字のもつ一般性について丁寧に取り扱い、文字に対する抵抗感を和らげながら漸次理解することができるようにする。



## 単元名 方程式

配当時間 16時間

- 単元の目標 (1) 方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解し、簡単な方程式や比例式を解くことができる。
- (2) 等式の性質を基にして、方程式を解く方法を考察し表現したり、方程式、比例式を具体的な場面を活用したりすることができる。
- (3) 方程式を用いることのよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開

10230201\_001

【準備等】封筒、おもり、天びん

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 バスに何回乗ったときに、1日乗り放題チケットと同じ金額になるのかを求める活動を通して、文字を用いた等式を利用して考えることを理解し、単元の学習課題をつかむ [P. 86～P. 88]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 代金の関係を図に表すことを振り返る。</li> <li>○ 図を使ってバスに何回乗ったときに、1日乗り放題チケットと同じ金額になるのかを求め、説明する。</li> </ul> <p>★等式を成り立たせる文字の値について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数量の関係を文字式を利用して等式に表す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 方程式の中の文字と解の意味、方程式に関わる用語について理解する。</li> <li>○ ある値が方程式の解であるかどうかを確かめる方法を理解する。</li> <li>○ 学習したことがらをを使って問題を解く。</li> </ul> <p>2 等式の性質を使って方程式を解く方法を考える。 [P. 89・P. 90]</p> <p>★等式の性質について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 天びんを使用して、封筒の重さを求める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ つりあっている天びんの様子から方程式を想起し、等式の性質を見いだす。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 等式の性質についてまとめる。</li> <li>○ 学習したことがらをを使って問題を解く。</li> </ul> <p>3 等式の性質を使って方程式を解く。 [P. 90・P. 91]</p> <p>★等式の性質を使って、方程式を解こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 等式の性質を使って方程式を解く方法を理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <math>x</math> の係数が分数の場合の方程式を解き、その解き方を説明する。</li> <li>○ 学習したことがらをを使って問題を解く。</li> <li>○ 方程式とその解についての練習問題に取り組み、理解を深める。</li> </ul> <p>4・5 方程式を手際よく解くことを考える。 [P. 92・P. 93]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 等式の性質を使って変形した前と後の式を比較して、移項の考えを見いだす。</li> </ul> <p>★方程式を移項して解くことについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 移項の考えを理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 算数での解き方を振り返り、文字を使わなくても逆算による方法で求められることを確認する。</li> <li>・ 数量関係が複雑になると、算数の考え方だけで問題を解くことが難しくなることから、文字を使うことのよさにつなげる。</li> <li>・ 方程式、解、方程式を解くという用語を押さえる。</li> <li>・ 実際に方程式を解いていく段階では、検算を指導する際に解を代入して確かめる方法が利用できることを伝える。</li> </ul> <p>【評】バスに何回乗ったときに、1日乗り放題チケットと同じ金額になるのかを求める活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 等式の性質を見いだす際に、天びんなどを用いる操作活動を取り入れることで、具体的なイメージをもって理解させる。</li> <li>・ デジタルコンテンツを使って、視覚的に等式の性質について理解させることもできる。</li> <li>・ 教科書では、等式の性質のうち一例しか示していないが、他の性質も同じように成り立つことを導いて理解させる。</li> <li>・ 等式の性質④では、<math>C</math>は0でないことにも触れる。ただし、<math>C \neq 0</math>に触れてもよいが、記号「<math>\neq</math>」は中学校3年間では学習しないことに注意する。</li> </ul> <p>【評】等式の性質をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 式を形式的に操作して解を求めることができることのよさとともに、等式の性質が式変形の根拠になっていることを理解させる。</li> <li>・ 方程式を解く際、2行目以降の方程式で左辺の前に等号をつけて書く誤りが多く見られるため、注意する。</li> <li>・ 今後は、逆数をかけるという1回の操作だけで解が求められることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】方程式を等式の性質を使って解く方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 方程式を解くのに有効な手段である移項も、等式の性質①と②に基づいて行われる操作であることを十分に理解し、説明できるようにする。</li> <li>・ 移項という用語を押さえる。</li> <li>・ 等式の性質③や④による変形を「移項」と混同して説明する場合が見受けられるが、正し</li> </ul> |

- 移項して方程式を解く。
  - 文字の項を左辺に、数の項を右辺にまとめて解く方法を理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 左辺と右辺を入れ替えるよさについて考え、話し合う。
- 6・7 いろいろな方程式を解く。[P. 94・P95]
- ★いろいろな方程式の解き方について考えよう。
- かっこのある方程式の解き方を理解する。
  - 分数をふくむ方程式の解き方を考える。
  - 分数をふくむ方程式の解き方を理解する。
- いろいろな方程式を手際よく解くための工夫について考え、話し合う。
- 一次方程式を解く手順をまとめる。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 方程式の解き方についての練習問題に取り組み、理解を深める。
- 8 比が等しい関係と比例式について考える。[P. 97・P. 98]
- 比例式の意味について理解する。
  - ★比が等しい関係と比例式について考えよう。
  - 比例式に当てはまる  $x$  の値の求め方について考える。
  - 比例式を解くことについて理解する。
  - 比例式の性質についてまとめる。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 比と比例式についての練習問題を解き、理解を深める。
- 9 身のまわりの問題を、方程式を利用して解く。[P. 99～P. 101]
- 先生の手紙を読んで、問題を解決するにはどのような乗法が必要かを考え、話し合う。
- ★方程式を利用して、身のまわりの問題を解決しよう。
- 方程式を使って問題を解く手順について理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - けいたさんのノートからどんなことが言えるか考え、話し合う。
- 10 数量の関係に着目して、代金の問題を方程式を利用して解く。[P. 102]
- ★方程式を利用して、代金に関する問題を解こう。
- 代金に関する数量に着目して方程式をつくり、その解き方を理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 11 数量の関係に着目して、過不足の問題を方程式を利用して解く。[P. 103]

- くなくことを指摘する。
  - ・ デジタルコンテンツを使って、視覚的に移項のしかたを理解させることもできる。
- ・ 方程式は等式であることから、移項の考えを使わず左辺と右辺を入れ替えることができることを押さえる。
- ・ 1年生で学習した分配法則について振り返らせる。
- ・  $x$  の係数が分数の場合の考え方から、両辺に同じ数をかけて分数の計算がなくなる考え方のよさに気付かせる。
- ・ 分母が異なるいくつかの分数がふくまれる場合、どんな数をかければよいかを考えさせる
- ・ 方程式の両辺に分母の公倍数をかけて、分数をふくまない方程式になおすことを押さえる
- ・ 分母をはらうという用語は必ずしも必要なものではないが、よく使われて便利な表現であるので紹介するとよい。
- ・ 係数が小数の場合でも同じように考えることができることを引き出させる。
- ・ 手際よく解くという視点で、どんな解き方が能率的で、計算ミスが少ないと考えられるかを話し合わせる。
- ・ 一次方程式という用語を押さえる。
- 【評】等式の性質を使って方程式を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ P. 96にある「方程式の由来」について扱い、方程式への関心を高めさせる。
- ・ 比の値、比例式という用語を押さえる。
- ・ 比の値、比例式の意味を基にして、どうすれば求められるかを見いださせる。
- ・ 比例式を解くという用語を押さえる。
- ・ 比例式を解く際に、比の値を利用すると、分母に文字があつて解くことができないことがあるため、比例式の性質を利用すると、どの場合の比例式も解くことができるよさに気付かせる。
- 【評】比の値や比例式の性質を利用して比例式を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ すでに分かっていることを整理し、その情報から分かっていないことを求める「数学の問題」としてとらえる必要があることを意識させる。
- ・ 解く手順と各ステップで実際に行うことについて十分説明し、身に付けさせる。
- ・ 「－3年後」が何を意味するのかを考えさせ説明させたい。
- ・ 解の吟味をして答えを書いたかどうかを確認する。
- ・ 「この解は問題にあっている」と書いておきさえすれば、本当にあっているかどうかを確かめなくてもよいという考えに陥らないように注意する。

|   |   |
|---|---|
| <p>★方程式を利用して，過不足に関する問題を解こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○過不足に関する数量に着目して方程式をつくり，その解き方を理解する。</li> </ul> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>12・13 数量の関係に着目して，速さ・時間・道のりの問題を方程式を利用して解く。[P.104・P.105]</p> <p>★方程式を利用して，速さ・時間・道のりに関する問題を解こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○速さ・時間・道のりに関する数量に着目して方程式をつくり，その解き方を理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○方程式の解が問題に合っているか調べる場合を考える。</li> <li>○方程式を使って問題を解く手順をまとめる。</li> <li>○方程式の利用についての練習問題を解き，理解を深める。</li> </ul> <p>14 身のまわりの問題を，比例式を利用して解く。[P.106・P.107]</p> <p>★比に着目して，いろいろな問題を解決しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○薄力粉と砂糖の量に着目して比例式をつくり，その解き方を理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>15・16 方程式に関する問題を解き，学習のまとめをする。[P.108～P.111]</p> <p>★方程式に関する問題を解き，学習のまとめをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み，理解を深める。</li> <li>○3章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み，理解を深める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の状況からどんな分け方をしても変わらないことをに着目させ，2通りの分け方を式に表すことで方程式が作れることに気付かせる。</li> <li>・過不足を示すことばを式にするとき，単に演算と結び付けるのではなく，線分図をかいたり実際に場面を再現したりして，状況をつかませる。</li> <li>・速さ・時間・道のりに関する問題を苦手とする生徒も多いため，図や表を活用し，問題状況が把握しやすくなるような工夫をする。</li> <li>・方程式の解が問題にあわない場合を取り上げ解の吟味の必要性を実感させる。</li> </ul> <p>【評】方程式や利用して具体的な問題を解決する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作った比例式は，比例式の性質「<math>a:b=c:d</math>ならば<math>ad=bc</math>」を利用して解くことを押さえる</li> <li>・比例式を利用して解決する問題では，複数の比例式ができることが予想されるため，線分図などをかいて，どの比を取ったのかを明確にさせ，理解させる。</li> </ul> <p>【評】比例式を利用して具体的な問題を解決する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P.107にある「問題づくり」を扱い，方程式を使って解決できる問題を自由につくらせてもよい。（デジタルコンテンツあり）</li> <li>・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。</li> </ul> <p>【評】簡単な方程式や比例式を解いたり，方程式を使って問題を解決したりする活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> |
|---|---|

【 備 考 】

中学校数学科において第1学年では，文字を用いた式の学習の上に立って，方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解し，等式の性質を基にして一元一次方程式を解く方法について考察し表現する。そして，それらを通して代数的な操作のよさを理解するとともに，一元一次方程式を具体的な場面で活用できるようにする。

## 単元名 変化と対応

配当時間 18時間

- 単元の目標 (1) 関数関係、比例、反比例、座標の意味を理解し、比例、反比例の関係を表、式、グラフに表すことができる。
- (2) 比例、反比例として捉えられる2つの数量について、表、式、グラフを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだしたり、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現したりすることができる。
- (3) 変化と対応のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開

10230202\_001

【準備等】厚紙、はさみ、セロハンテープ、方眼紙、方眼黒板

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 小物入れの箱を作る活動を通して、ともなって変わる数量の関係を調べ、単元の学習課題をつかむ。[P. 112～P. 115]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小物入れの箱を作る。</li> <li>○小物入れの箱を作る場面からともなって変わる数量について話し合う。</li> </ul> <p>★ともなって変わる数量の関係を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1つを決めると、もう1つが決まる関係を見いだす。</li> <li>○1つを決めると、それに対応してもう1つが決まる関係について理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>2 表やグラフで関数の様子を調べたり、関数の関係を式に表し、その変域について考えたりする。[P. 115・P. 116]</p> <p>★表やグラフ、式を使って、変化や対応の様子を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小物入れを作る場面を表やグラフで表して、その様子を調べる。</li> <li>○関数の関係を <math>x</math> と <math>y</math> を用いて表すことを考える。</li> <li>○変数のとる値の範囲について考え、その意味と表し方を理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>3・4 比例の関係を見つけ、それを式に表す。[P. 117～P. 119]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○線香に火をつけた時間と燃えた長さの関係について、表にまとめる。</li> <li>○表にまとめて気付いたことを話し合う。</li> </ul> <p>★比例の関係について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○比例の関係を見つけ、それを式に表す方法を理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○比例の関係を表した表から比例の性質を見だし、まとめる。</li> </ul> <p>5 比例の関係で、変数の範囲や比例定数を負の数にまでひろげて考える。[P. 119～P. 121]</p> <p>★変数 <math>x</math> や比例定数 <math>a</math> が負の数の場合について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○変数や比例定数が負の値をとるときの変化の様子を理解する。</li> <li>○2つの表のどちらが比例の関係を表しているか考え、その理由を説明する。</li> <li>○与えられた条件から比例の関係を式に表す方法を考える</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○比例の式についての練習問題に取り組み理解を深める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数で学習した、ともなって変わる2つの数量関係について振り返らせる。(デジタルコンテンツあり)</li> <li>・「1つを決めるともう1つが決まる」関係を確認していき、「ただ1つ」に決まることを特に注意しておく。</li> <li>・変数、<math>y</math> は <math>x</math> の関数であるという用語を押さえる。</li> </ul> <p>【評】ともなって変わる2つの数量の関係を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは式での表現を持ち出す必要はない。</li> <li>・必ずしも1つの式に表される規則的な関係だけが関数ではないことを押さえる。</li> <li>・変域という用語を押さえる。</li> <li>・この段階では、変域を数直線上に表示させる習慣をつけさせるとよい。</li> </ul> <p>【評】不等号を使って変域を表す活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上下に対応する数に着目するなど、比例の特徴をとらえる上で大切なことをできるだけ時間をかけて考えさせる。</li> <li>・デジタルコンテンツを使って、線香に火をつけた時間と燃えた長さの関係について視覚的に理解させることもできる。</li> <li>・定数、比例、比例定数という用語を押さえる</li> <li>・変数と定数はどちらも文字を使うため、具体的な例で、その違いを納得させる。</li> <li>・「ある時刻を基準にして」という考え方をを用いて、変数が負の値をとることの意味を理解させる。</li> <li>・判断理由が自分のことばで述べられているかや他の説明を聞いて納得できているかどうかを確かめる。</li> <li>・P. 121にある「古代火時計」を扱い、火時計に比例の関係が利用されていることを伝えたい。</li> </ul> |

- 6 平面上の点の位置を表す方法を考える。[P. 122・P. 123]
- 座席の位置を表す方法について考える。
  - ★平面上の点の位置を表す方法を考えよう。
  - 座標を表すために必要なことがらを見いだし、理解する
  - 点の座標の表し方を考える。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 7 比例の関係をグラフに表すことを考える。[P. 124・P. 125]
- ★比例の関係をグラフに表そう。
  - 比例定数が正の数のとき、 $x$ と $y$ の値の組を座標とする点をとる。
  - グラフの様子をつかむ。
  - 比例定数が負の数のとき、 $x$ と $y$ の値の組を座標とする点を取り、その様子をつかむ。
  - 比例のグラフの特徴をまとめる。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 8・9 比例の関係を効率よくグラフに表すことを考える。[P. 126・P. 127]
- ★比例の関係を効率よくグラフに表すことを考えよう。
  - 原点ともう1つの点を取り、これらを通る直線をひく方法を考える。
  - 比例のグラフについてまとめる。
  - 比例の関係を1つ決めて、その表、式、グラフをかき、それらの関係について考え、話し合う。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 比例のグラフについての練習問題に取り組み理解を深める。
- 10 反比例の関係を見つけ、それを式に表す。[P. 128～P. 130]
- 縦の長さとの横の長さの関係について表にまとめる。
  - 表について気付いたことを話し合う。
  - ★反比例の関係について考えよう。
  - 反比例の関係を見つけ、それを式に表す方法を理解する
  - 反比例の関係を表した表から反比例の性質を見いだし、まとめる。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 11 反比例の関係で、変数の範囲や比例定数を負の数にまでひろげて考える。[P. 130～P. 131]
- ★変数 $x$ や比例定数 $a$ が負の数の場合について考えよう。
  - 変数や比例定数が負の値をとるときの表の様子を理解する。
  - 2つの表のどちらが反比例の関係を表しているか考え、その理由を説明する。
  - 与えられた条件から反比例の関係を式に表す方法を考える。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 反比例の式についての練習問題に取り組み理解を深める
- 12・13 反比例の関係をグラフに表すことを考える。[P. 132～P. 136]
- ★反比例の関係をグラフに表そう。
  - 比例定数が正の数で、 $x$ が正の値をとるとき、 $x$ と $y$ の値の組を座標とする点を取り、その様子を振り返る。
  - 比例定数が正の数で、 $x$ が負の値をとるとき、 $x$ と $y$ の値の組を座標とする点を取り、その様子をつかむ。
- ・ $x$ 軸、 $y$ 軸、座標軸、原点、座標、 $x$ 座標、 $y$ 座標という用語を押さえる。
  - ・点(3, 4)と点(4, 3)を混同する場合があるため、十分注意して指導する。
  - 【評】平面における座標を読み取ったり表現したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
  - ・ $x$ と $y$ の値の組を座標とする点をいろいろとり、それらの点の集まりが直線になる様子をつかませる。
  - ・比例のグラフが直線になることは、コンピュータなどで視覚的に認めさせる程度にし、厳密な証明は行わない。
  - ・まず表をつくり、座標をとる手順をくり返せばグラフをかけることに気付かせる。
  - ・グラフをかくときに、2点間の距離が短すぎるとグラフがずれてしまうことがあるので、適切な距離をとってグラフをかくように指導する。
  - ・原点以外のもう1点を決めて、それらを通る直線をひけば、いちいち表をつくらなくてもよいことを押さえる。
  - 【評】比例の特徴を表、式、グラフで調べたり表現したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
  - ・長方形をかくとき、左下の頂点を、方眼の左下隅に合わせてかくと、長方形の右上の頂点が双曲線上に並ぶことを、グラフの学習をした後に振り返らせる。
  - ・反比例、比例定数という用語を押さえる。
  - ・反比例では、 $x = 0$ のときの $y$ の値はないことに留意し、 $a \div 0 = 0$ と考えないように指導する。
  - ・判断理由が自分のことばで述べられているかや他の説明を聞いて納得できているかどうかを確かめる。
  - ・増加や減少の様子が比例のように一定でないことを見いだし、点を線分ではなくなめらかな曲線でつなげなければならないことに気付かせる。
  - ・デジタルコンテンツを使って、グラフが視覚

- 反比例の関係で、 $x$  の値を負の数で小さくしていくと  $y$  の値がどう変化するか予想し、グラフの特徴について考え、話し合う。
- 比例定数が負の数のとき、 $x$  と  $y$  の値の組を座標とする点を取り、その様子をつかむ。
- 反比例のグラフについてまとめる。

- 反比例の関係を1つ決めて、その表、式、グラフをかきそれらの関係について考え、話し合う。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 反比例のグラフについての練習問題に取り組み理解を深める。
- 比例の関係と反比例の関係の特徴を比べてまとめる。

- 14・15 比例の関係を利用して、身のまわりの問題を解決する。[P. 137～P. 140]
- 運ばれてきた紙パックから、トイレットペーパーが何個できるかについて話し合い、発表する。

- ★ 比例の関係を利用して、身のまわりの問題を解決しよう
- 紙パックの重さとトイレットペーパーの個数の関係を式に表す。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - アルミ板の重さを利用して、複雑な図形の面積を求める方法を考え、まとめる。

- 16 反比例の考え方を利用して、身のまわりの問題を解く。[P. 140・P. 141]

- ★ 反比例の関係を利用して、身のまわりの問題を解決しよう。
- 電子レンジの出力と食品が温まるまでの時間の関係から反比例の関係になることを理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。

- 17・18 変化と対応に関する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 142～P. 145]

- ★ 文字の式に関する問題を解き、学習のまとめをしよう。
- 4章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。
  - 4章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。

的になめらかな曲線になることを理解させることもできる。

- ・  $y$  の値が限りなく 0 に近づくと、0 にならないことに気付かせ、これまでの学習と合わせてグラフが決して  $x$  軸や  $y$  軸には交わらないことを引き出す。
- ・ 双曲線という用語を押さえる。

- ・ 比例定数が正の場合の表やグラフとの相違点を発表させ、グラフの特徴をつかませる。
- ・ グラフについての理解が十分に図られた上で双曲線が線対称や点対称であることを手際よくかくための方法として活用させる。

【評】 反比例の特徴を表、式、グラフで調べたり表現したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 単に「比例する」ではなく、「紙パックの重さはトイレットペーパーの個数に比例する」という関係に気付かせ、その理由も説明させる。

- ・ 比例の関係を式に表せば求められることに気付かせる。

- ・ 反比例については、「 $A$ が増えると  $B$ が減るから、 $B$ は  $A$ に反比例する」といった誤った判断をしないよう注意する。

【評】 比例、反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明したり、問題を解決したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する

- ・ P. 141にある「モビール」を扱い、反比例の関係を利用していろいろなモビールをつくらせる中で、反比例の関係の理解を深めさせたい。

- ・ 「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。

【評】 比例、反比例の関係を式やグラフに表したり、比例、反比例を利用したりして、問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

## 【 備 考 】

小学校算数科では、第4学年から第6学年にかけて、変化の様子を表や式、折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴を読み取ったり、伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、変化や対応の特徴を考察したりしてきている。また、比例の関係を理解しこれを用いて問題を解決してきている。なお、比例の理解を促すため、反比例についても学習してきている。

中学校数学科において第1学年では、これらの学習の上に立って、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出して、その変化や対応の仕方に着目し、関数関係の意味を理解できるようにする。

比例、反比例の学習は、日常生活において数量間の関係を探究する基礎となるものである。これらの学習においては、一般的、形式的に流れることなく、具体的に事象を考察することを通して、関数関係を見だし考察し表現する力を養う。また、数の拡張や関数の概念を基にして、小学校算数科で学習した比例、反比例を関数として捉え直すことも必要である。

## 単元名 平面図形

配当時間 18時間

- 単元の目標 (1) 図形の移動や基本的な作図の方法を理解することができる。おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。  
 (2) 図形の移動や基本的な作図の方法について考察し表現したり、具体的な場面で活用したりすることができる。  
 (3) 平面図形のように気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開

10230203\_001

【準備等】定規、分度器、三角定規、コンパス、ものさし、方眼黒板

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 特定の場所を探し求める活動を通して直線や角からできる図形の性質について考え、単元の学習課題をつかむ。[P. 146～P. 149]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○待ち合わせの場所を探し求める。</li> <li>○待ち合わせの場所の見つけ方について考え、話し合う。</li> </ul> <p>★直角と角について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○直線と線分について理解する。</li> <li>○2点間の距離について理解する。</li> <li>○記号<math>\angle</math>を使った角の表し方を理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>2 直線でできる図形について考える。[P. 150～P. 152]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の左隅を折り、もとの直線と折り目の直線の関係について考える。</li> </ul> <p>★垂直な2直線、平行な2直線について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○垂直な2直線の表し方を理解する。</li> <li>○点と直線との距離について理解する。</li> <li>○平行な2直線の表し方を理解する。</li> <li>○平行な2直線の距離について理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>3 三角形の表し方を学び、三角形をかく。[P. 152]</p> <p>★三角形の表し方について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○記号<math>\triangle</math>を使った三角形の表し方を理解する。</li> <li>○辺や角が等しいことの表し方を理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>4 平行移動の意味と性質を理解する。[P. 153～P. 155]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○対称性のある合同な図形を、移動の見方からとらえたときの図形間の関係を見いだす。</li> </ul> <p>★図形の移動の意味と性質について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○移動の意味をつかむ。</li> <li>○平行移動の意味と性質について理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の関係について確認させながら、算数で学んだことを利用して解決を図らせる。</li> </ul> <p>【評】特定の場所を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動を通して、事象を数学的にみることのよさを実感させる。</li> <li>・直線という用語は小学校2年生ですでに定義されているが、ここでは定義の拡張がされていることをしっかり押さえる。</li> <li>・線分、半直線という用語を押さえる。</li> <li>・2点A、B間を通る直線を「直線AB」のように表現することに触れる。</li> <li>・2点A、Bを結ぶいろいろな線のうち最短のものが線分ABであることを強調する。</li> <li>・記号<math>\angle</math>の使い方を押さえる。</li> <li>・角についてはすでに小学校で学習しているが記号<math>\angle</math>を使つての表し方は初めてであるため充分習熟させる。</li> <li>・<math>\angle ABC</math>の代わりに<math>\angle CBA</math>と書いてもよいが、Bを間にはさんで表すことを理解させる。</li> <li>・他の角とまぎらわしくないときは、<math>\angle B</math>のような書き方を用いてもよいことを知らせる。</li> <li>・交点という用語を押さえる。</li> <li>・垂直、<math>\perp</math>、垂線という用語や記号を押さえる。</li> <li>・点と直線との距離という用語を押さえる。</li> <li>・平行、<math>\parallel</math>という用語や記号を押さえる。</li> <li>・平行な2直線間の距離という用語を押さえる。</li> </ul> <p>【評】平面図形の性質や関係を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記号<math>\triangle</math>の使い方を押さえる。</li> <li>・頂点に記号A、B、Cをつけ、反時計回りの順に<math>\triangle ABC</math>のように表すことが一般的であることを丁寧に教える。</li> <li>・記号を用いると簡潔に表現できるよさを実感させる。</li> <li>・今後、これらの表し方が演繹的に証明を進める段階において大切なことを押さえる。</li> <li>・図形の移動を通して、移動前と移動後の2つの図形の関係に着目することができるようにすることで、図形の性質を見いだしたり、図形の見方をより豊かにしたりする。</li> <li>・移動という用語を押さえる。</li> <li>・定規、コンパス、分度器などを使って、実際</li> </ul> |

5 回転移動，対称移動の意味と性質を理解する。[P. 155～P157]

- ★回転移動，対称移動について考えよう。
- 回転移動の意味と性質について理解する。

○対称移動の意味と性質について理解する。

○中点，垂直二等分線について理解する。

○学習したことがらを使って問題を解く。

6 平面上の点の位置を表す方法を考える。[P. 158・P. 159]

- ★3つの移動を組み合わせて，図形を移すことを考えよう
- 3つの基本の移動を組み合わせると，図形はどんな位置にでも移すことができることを理解する。
- 三角形がどのように移動しているかについて考え，話し合う。
- 図形の移動についての練習問題に取り組み，理解を深める。

7 垂直二等分線について考え，その作図をする。[P. 160～P. 161]

- 条件に合った場所を図形の性質を利用して見つける。

★作図のしかたについて考えよう。

- 作図について理解する。

○ひし形の対称性を基に，垂直二等分線の作図方法を考える。

○線分の垂直二等分線の作図についてまとめる。

○学習したことがらを使って問題を解く。

8 角の二等分線について考え，その作図をする。[P. 161]

- 角の二等分線を定義し，その意味を理解する。
- ★角の二等分線の作図のしかたについて考えよう。
- 角の二等分線の作図方法を考える。
- 角の二等分線の作図についてまとめる。

○学習したことがらを使って問題を解く。

9・10 直線上の1点を通る垂線について考え，その作図をする。[P. 162・P. 163]

- 直線上の1点を通る垂線をひく作図方法を見いだす。

★直線上の1点を通る垂線の作図のしかたについて考えよう。

○直線上の1点を通る垂線の作図についてまとめる。

○直線上にない1点を通る垂線をひく作図方法を見いだす

○直線上にない1点を通る垂線の作図についてまとめる。

○学習したことがらを使って問題を解く。

11 図形の移動と基本の作図を利用して，身のまわりの問題を解決する。[P. 164・P. 165]

- 羊を牧場から小屋に移動させる場面で，途中で川によった場合の帰る道のを最短にするコースを考える。
- ★図形の移動と基本の作図を利用して，最短距離を作図して求めよう。
- $AP + PB$ が最短となる点Pの求め方について考え，話

に図をかかせる学習活動を通して，道具の使用に慣れさせ，基本の作図につなげる。

・回転移動，回転の中心という用語を押さえる

- ・回転移動では，回転の向きに注意する。
- ・点対称移動という用語を押さえる。
- ・対称移動，対称の軸という用語を押さえる。
- ・小学校での学習した「点対称」「線対称」のように限定された対称性から拡張した見方ができるようになることを実感させる。
- ・中点，垂直二等分線という用語を押さえる。
- ・性質に関して厳密な説明は求めなくてよいが「基本の作図」などによく用いられるため，しっかり押さえる。

【評】条件に基づいて移動させた図をかく活動を通して，「知識・技能」を評価する。

・中点，垂直二等分線という用語を押さえる。

【評】図形の移動について考える活動を通して「知識・技能」を評価する。

- ・P. 159にある「日本の伝統模様」を扱い，身のまわりにある図形から，図形の移動できているとみられるものを探させたい。（デジタルコンテンツあり）

・ものさしや分度器，コンパス，三角定規を使用したり，教科書を折ったりと試行錯誤しながら作図に必要性を感じとらせる。

- ・作図といえば，使用する道具を定規とコンパスだけに制限されていることを十分に押さえて学習を進める。
- ・作図の手順を一方的に与えるのではなく，図形の対称性に着目したり，図形を決定する要素に着目したりして自分で作図の手順を考えその手順を順序よく説明する活動を大切にす
- ・デジタルコンテンツを使って，視覚的に作図のしかたを理解させることもできる。

・（角の）二等分線という用語を押さえる。

- ・場合によっては，たこ形を作図してもよい。
- ・デジタルコンテンツを使って，視覚的に作図のしかたを理解させることもできる。

・垂線の作図は，2種類あることをしっかり押さえる。

- ・デジタルコンテンツを使って，視覚的に作図のしかたを理解させることもできる。
- ・ $180^\circ$ の角を2等分することで作図できることを押さえる。
- ・デジタルコンテンツを使って，視覚的に作図のしかたを理解させることもできる。



- し合う。
- 移動する道のりを最短にするには、どこに橋をかければよいかについて考え、話し合う。
  - いろいろな角の作図について考える。
  - これまでに学習したことがらを使って問題を解く。
  - 75°の角の作図のしかたについて考え、話し合う。
- 12 円の性質を理解する。[P. 166～P. 168]
- ケーキを5等分する方法について考え、話し合う。
  - ★円の弧と弦と接線について考えよう。
  - 円の弧や弦の意味を理解する。
  - 円の中心角の意味、中心角と弧の関係について理解する
- 円の対称性を基に、接線、接点の意味と性質を理解する
  - 円の接線の性質についてまとめる。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 13 おうぎ形の性質を理解する。[P. 169]
- ★おうぎ形について考えよう。
  - おうぎ形とその半径がつくる角について理解する。
  - 半径と中心角が等しい2つのおうぎ形の性質について考える。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 学習したことがらを基に、作図の手順と関係が成り立つ理由について考え、話し合う。
- 14 円について、円周の長さや面積を求める。[P. 170]
- 円の周の長さや面積の求め方を振り返り、人工島の周の長さや面積を求めるための式を書く。
  - ★円の周の長さや面積の求め方について考えよう。
  - 円周率 $\pi$ とその意味を理解する。
  - 文字の式を用いて円の周の長さや面積を表す方法を考える。
- 円の周の長さや面積についてまとめる。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 15 おうぎ形について、弧の長さや面積を求める方法について考える。[P. 171・P. 172]
- ★おうぎ形の弧の長さや面積の求め方について考えよう。
  - 1つの円を基に、おうぎ形の弧の長さや面積を求める方法を考える。
  - おうぎ形の弧の長さや面積についてまとめる。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 16 おうぎ形の中心角を求める方法について考える。[P. 173]
- ★おうぎ形の中心角の求め方について考えよう。
  - 半径の等しい円とおうぎ形について成り立つ性質をまとめる。
  - 弧の長さや中心角の関係による比例式をつくり、中心角を求める方法を考える。
  - おうぎ形の弧の長さを求める公式を使って中心角を求める方法を理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 17・18 平面図形に関する問題を解き、学習のまとめをする [P. 174～P. 177]
- ★平面図形に関する問題を解き、学習のまとめをしよう。
  - 5章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。
  - 5章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。

・90°の角を2等分することで45°の角を作図できることを押さえる。  
【評】図形の移動と基本の作図を利用をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・弧、 $\frown$ 、弦という用語や記号を押さえる。  
・優弧（半円周より大きい弧）と劣弧（半円周より小さい弧）の用語を取り上げることや2つを区別して扱うことをする必要はないが、円周上の2点によって弧が2つできることは図で示しながら理解させる。  
・中心角という用語を押さえる。  
・接する、接線、接点という用語を押さえる。

・おうぎ形、中心角という用語を押さえる。  
・ぴったりと重なる2つのおうぎ形は、小学校5年生で学習した合同な図形であることを確認させるが、曲線図形の合同は初めてであるので留意する。

・ $\pi$ は円周率という数を表しているのので、普通は文字式の表し方にしがたい、 $2\pi r$ 、 $\pi r^2$ と書くことを知らせる。

【評】おうぎ形の弧の長さや面積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。  
・ここでは中心角と弧の長さ、面積の比例関係に基づいて考察を進めているため、半径 $r$ と弧の長さ $l$ からおうぎ形の面積 $S$ を直接求める公式( $S = \frac{1}{2} \times r \times l$ )を本編で扱うことはしていないが、実態に応じて適宜取り上げる

・半径、中心角、弧の長さ、面積のどの2つを与えても残りの2つの値が決まることを利用して、さまざまな課題を与えて定着を図る。  
【評】おうぎ形の中心角を求める活動を通して「知識・技能」を評価する。

・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。

【評】図形の移動や基本の作図をしたり、円や

【 備 考 】

小学校算数科では、ものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素に少しずつ着目できるようにしている。第4学年までに、三角形や四角形、二等辺三角形や正三角形、平行四辺形や台形、ひし形などについて理解し、第5学年では図形の合同、第6学年では縮図や拡大図及び図形の対称性について理解してきている。このように、図形の構成要素、それらの相等や位置関係を考察することにより、図形に対する見方が次第に豊かになってきている。

中学校数学科において第1学年では、平面図形の対称性に着目することで見通しをもって作図し、作図方法を具体的な場面で活用する。こうした学習を通して、平面図形の性質や関係を直感的に捉え論理的に考察する力を培う。また、図形の移動について理解し、二つの図形の関係について調べることを通して、図形に対する見方を一層豊かにする。

## 単元名 空間図形

配当時間 19時間

- 単元の目標 (1) 空間における直線や平面の位置関係を理解することができる。基本的な柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。
- (2) 空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものとしてとらえ、その特徴や性質を数学的に説明したり、図形の計量の仕方について考えたりすることができる。
- (3) 空間図形のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開

10230301\_001

【準備等】立体模型、厚紙、棒、百人一首の札、硬貨、三角定規、立体を投影するための光源

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| <p>1 立体を仲間分けする活動を通していろいろな立体の特徴について調べ、単元の学習課題をつかむ。[P.178～P.180]</p> <p>○さまざまな立体をいろいろな見方で分類する。</p> <p>○仲間分けした方法について考え、話し合う。</p> <p>★立体の特徴について考えよう。</p> <p>○立体に共通する特徴を考える。</p> <p>○角錐、円錐の特徴を理解する。</p> <p>2 いくつかの平面に囲まれた立体について考える。[P.181]</p> <p>○p.180の立体で、平面だけで囲まれているものについて考える。</p> <p>★いくつかの平面で囲まれた立体について考えよう。</p> <p>○平面だけで囲まれている立体について考える。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>3 見取図や展開図、投影図について理解する。[P.182]</p> <p>○三角柱を真正面や真上から見ると、どんな形に見えるか考える。</p> <p>★見取図や展開図、投影図について考えよう。</p> <p>○立面図、平面図、投影図について理解する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>4 角柱、角錐について、見取図と展開図を基に調べる。[P.183～P.185]</p> <p>★角柱、角錐の特徴を、見取図や展開図、投影図を使って調べよう。</p> <p>○三角柱の見取図と展開図について調べる。</p> <p>○正●角柱について理解する。</p> <p>○四角錐の見取図と展開図について調べる。</p> <p>○正●角錐について理解する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>5・6 円柱、円錐について、見取図と展開図を基に調べる。[P.185～P.188]</p> <p>○ごみ取り用ローラーの1周分のシートの形から、円柱の側面の形を予想する。</p> <p>★円柱、円錐の特徴を、見取図や展開図、投影図を使って調べよう。</p> | <p>・身のまわりにある建築物を立体とみなし、小学校で学んだ立体を振り返りながら、それらの仲間分けにつなげる。</p> <p>【評】立体を分類する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・仲間分けする際には、観点を明確にするように指導し、生徒に発表させる。</p> <p>・柱体は、上の面と下の面の2つの底面があることを押さえておく。</p> <p>・角錐、円錐、底面、側面、頂点という用語を押さえる。</p> <p>・既習の角柱と円柱について底面・側面を確認する際、上の面と下の面の2つがあることを押さえる。</p> <p>・多面体という用語を押さえる。</p> <p>・P.181にある「正多面体」を扱い、正多面体は5種類しかないことを伝える。(デジタルコンテンツあり)</p> <p>・デジタルコンテンツを使って、視覚的に算数で学習した見取図、展開図を理解させることもできる。</p> <p>・立面図、平面図、投影図という用語を押さえる。</p> <p>・デジタルコンテンツを使って、視覚的に三角柱の見取図と展開図を理解させることもできる。</p> <p>・角柱のうち、底面が、正●角形であるものを正●角柱ということを押さえる。</p> <p>・投影図をかく際、立体の見えない辺を示す破線と立面図と平面図の対応を示す破線の違いに注意させる。</p> <p>・デジタルコンテンツを使って、視覚的に四角錐の見取図と展開図を理解させることもできる。</p> <p>・角錐のうち、底面が、正●角形であるものを正●角錐ということを押さえる。</p> <p>・立体の表面積や体積に結び付いている内容であることを意識して指導しておく。</p> <p>・身のまわりにあるものをイメージさせることで、側面が長方形になることの理解を深める</p> |

|   |   |
|---|---|
| <p>○円柱の見取図と展開図について調べる。</p> <p>○アイスクリームの包み紙を切り開いた形を予想する。</p> <p>○円錐の見取図と展開図について調べる。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○立面図と平面図が合同な長方形となるような立体について考え、話し合う。</p> <p>○p.188の例を参考に、見取図、展開図、投影図の便利な点や注意点などの特徴をまとめる。</p> <p>7 立体の面や辺を基にして、点や面、2直線の位置関係について考える。[P.189～P.191]</p> <p>○身近な生活環境から空間における平面や直線とみることが出来るものを見いだす。</p> <p>○平面の意味をつかむ。</p> <p>○同じ直線上にない3点を通る平面は1つしかないことを理解する。</p> <p>○三脚を使ってカメラを支えると安定する理由を説明する</p> <p>★2直線の位置関係について考えよう。</p> <p>○立方体の辺を直線とみたときの、2直線の位置関係について考える。</p> <p>○空間内の2直線の位置関係について理解する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○身のまわりにある平行やねじれの位置にある2直線とみることが出来るものについて考え、話し合う。</p> <p>8 立体の面や辺を基にして、直線と平面の位置関係について考える。[P.192・P.193]</p> <p>○立方体の辺を伸ばして直線、面を広げて平面とみて位置関係を考える。</p> <p>★直線と平面の位置関係について考えよう。</p> <p>○直線と平面の位置関係について理解する。</p> <p>○点と平面の距離について理解する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○身のまわりにある平面とその垂線とみることが出来るものについて考え、話し合う。</p> <p>9 2平面の位置関係について調べる。[P.194・P.195]</p> <p>○立方体の2平面の位置関係について調べる。</p> <p>★2平面の位置関係について考えよう。</p> <p>○2つの平面の位置関係について理解する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○身のまわりにある垂直に交わる2平面とみることが出来るものについて考え、話し合う。</p> <p>○空間内の平面と直線についての練習問題に取り組み、理解を深める。</p> <p>10 立体をいろいろな見方でとらえ、面を平行・回転してできる立体について考える。[P.196・P.197]</p> | <p>・デジタルコンテンツを使って、視覚的に円柱の見取図と展開図を理解させることもできる</p> <p>・形を予想させた後、実際に切り開く活動を入れて実演して確認することにより、理解を一層深めさせる。</p> <p>・デジタルコンテンツを使って、視覚的に円錐の見取図と展開図を理解させることもできる</p> <p>・立体の表面積や体積に結び付いている内容であることを意識して指導しておく。</p> <p>【評】見取図と展開図を基に、立体の性質を調べる活動を通して、「知識・技能」と「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・P.188にある「側面図」を扱い、立面図と平面図だけでは、表される立体が1つに決まらないことがあることを伝える。(デジタルコンテンツあり)</p> <p>・辺や面を直線や平面に拡張し、平行や垂直以外の関係にも目を向けられるようにさせる。</p> <p>・3点を通る平面は1つに決まることで、3脚が安定することに気付かせる。</p> <p>・ねじれの位置という用語を押さえる。</p> <p>・デジタルコンテンツを使って、視覚的にねじれの位置を理解させることもできる。</p> <p>・直線と平面の平行、垂直、垂線という用語を押さえる。</p> <p>・直線が平面に垂直な場合は、直線が平面との交点を通るその平面上のすべての直線と垂直であることを確認する。</p> <p>・点と平面との距離という用語を押さえる。</p> <p>・角錐や円錐の母線を高さと同義とする場合があるため、柱体と錐体の高さは点と底面との距離であることをP193のイラストを用いて確認する。</p> <p>・2平面の平行、垂直という用語を押さえる。</p> <p>・「重なる」という場合は扱っていないが、生徒から出てきたら取り上げるとよい。</p> <p>【評】空間における直線や平面の位置関係を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・P.195にある「垂直な2平面と投影図」を扱い、投影図の名前の由来について紹介する。</p> |
|---|---|

|  |   |
|--|---|
| <p>○ 合同な図形をたくさん積み重ねることのできる立体について考える。</p> <p>★ 面や線を動かしてできる立体について考えよう。</p> <p>○ 面を垂直な方向に平行に動かして立体ができることを理解する。</p> <p>○ ある図形を直線のまわりに1回転させてできる立体について考える。</p> <p>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>11 立体をいろいろな見方でとらえ、線を動かしてできる立体について考える。[P. 197～P. 199]</p> <p>○ 線分を図形の周に沿って1まわりさせたときにできる立体を見いだす。</p> <p>★ 線を動かしてできる立体について考えよう。</p> <p>○ 母線の意味を理解する。</p> <p>○ 1つの平面図形の周にそって1まわりさせてできる立体についてまとめる。</p> <p>○ 身のまわりから、平面図形を動かしてできる立体を探しまとめる。</p> <p>○ 立体の構成についての練習問題に取り組み、理解を深める。</p> <p>12 角柱、円柱の体積を求める。[P. 200・P. 201]</p> <p>○ p. 200の3つの容器で、容積の大きさの順を求める方法を考える。</p> <p>★ 角柱、円柱の体積について考えよう。</p> <p>○ 角柱、円柱の体積を求める方法を理解する。</p> <p>○ 角柱、円柱の体積の求め方をまとめる。</p> <p>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>13 角錐、円錐の体積を求める。[P. 202・P. 203]</p> <p>○ 底面が合同で高さの等しい円柱と円錐の容器で、円柱の容器に円錐の容器の何杯分の水が入るか予想する。</p> <p>★ 角錐、円錐の体積について考えよう。</p> <p>○ 角錐、円錐の求め方について理解する。</p> <p>○ 角錐、円錐の体積の求め方をまとめる。</p> <p>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○ 回転の軸を変えた2つの回転体の体積について、どちらが大きくなるか考え、話し合う。</p> <p>14 球の体積を求める。[P. 203・P. 204]</p> <p>○ 底面の半径5cm、高さ10cmの円柱の容器には、半径5cmの半球の容器の何杯分の水が入るか予想する。</p> <p>★ 球の体積について考えよう。</p> <p>○ 球の体積の求め方について考える。</p> <p>○ 球の体積の求め方をまとめる。</p> <p>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○ 立体の体積についての練習問題に取り組み、理解を深める。</p> <p>15 角柱、円柱の表面積を求める。[P. 205・P. 206]</p> <p>○ 体積の等しい三角柱と直方体について、表面全体の面積が等しいかどうか考える。</p> <p>★ 角柱、円柱の表面積について考えよう。</p> <p>○ 三角柱の各面の面積について理解する。</p> <p>○ 角柱、円柱の表面積の求め方を理解する。</p> <p>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>16 角錐、円錐の表面積を求める。[P. 206～P. 208]</p> <p>★ 角錐、円錐の表面積について考えよう。</p> <p>○ 正四角錐の表面積の求め方について考える。</p> | <p>・ 実際に、平行に動く面とその結果としてできる立体を示すことは難しいので、具体物を重ねたものを観察する活動からイメージさせる</p> <p>・ 合同な図形を斜めに積み重ねた斜角柱や斜円柱は特に考えない。</p> <p>・ デジタルコンテンツを使って、視覚的に面を回転させてできる立体について理解させることもできる。</p> <p>・ 回転体、回転の軸という用語を押さえる。</p> <p>・ デジタルコンテンツを使って、線を動かしてできる立体について理解させることもできる</p> <p>・ 母線という用語を押さえる</p> <p>・ 教科書では、円錐といえば、直円錐に限っているので、定点の位置は、厳密には底面の円の中心を通る垂線上に限定されるが、そのことに深入りしない。</p> <p>【評】面や線を動かしてできる立体を見いだす活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ P. 199にある「回転体のかざり」を扱い、身のまわりに回転体が利用されていることを伝える。</p> <p>・ 実際に体積を求める活動は、P204の練習問題で採り上げる。</p> <p>・ 算数で学習した三角柱の体積の求め方を振り返らせる。</p> <p>・ 柱体が面を平行に動かしてできる立体と考えられることと結び付けて指導する。</p> <p>・ 水を入れる操作活動から推測される結論は「ほぼ1/3」となるかもしれないが、「ほぼ」ではなく「正確に」であることが分かっていることを伝える。</p> <p>・ デジタルコンテンツを使って、角錐・円錐の体積の求め方を理解させることもできる。</p> <p>・ 球の体積については、柱体の体積との関係を予想させ、その予想が正しいかどうか模型を用いたり実験による測定を行ったりして確かめるなど、実感をともなって理解できるようにする。</p> <p>・ デジタルコンテンツを使って、視覚的に球の体積の求め方を理解させることもできる。</p> <p>・ 表面積、底面積、側面積という用語を押さえる。</p> <p>・ 角柱・円柱の表面積を求める際には、底面積は2つ分あることを確認する。</p> |
|--|---|

○円錐の側面積の求め方について考える。

○学習したことがらを使って問題を解く。

17 球の表面積を求める。[P. 208・P. 209]

★球の表面積について考えよう。

- 球の表面積の求め方についてまとめる。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 半球にひもを巻きつけてほどこき、平面で円を作る実験の結果について考え、話し合う。

○立体の表面積についての練習問題に取り組み、理解を深める。

18・19 空間図形に関する問題を解き、学習のまとめをする [P. 210～P. 213]

★空間図形に関する問題を解き、学習のまとめをしよう。

- 6章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。
- 6章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。

・おうぎ形の弧の長さや面積について振り返らせる。

・円錐の展開図を考えるときには、おうぎ形の半径が円錐の母線であること、おうぎ形の弧の長さは円錐の底面の周の長さと同じであることに注意をはかる。

【評】角錐・円錐の側面積や表面積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・球を展開図で表すことはできないので、模型を用いたり実験による測定を行ったりして、実感をともなう理解できるようにする。

【評】基本的な柱体、錐体及び球の表面積と体積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・P. 209にある「アルキメデスの発見」を扱い、円周率のおよその値や、球の体積、表面積がどのように発見されたのか触れるとよい。

・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。

【評】空間における直線や平面の位置関係を理解したり、基本的な柱体や錐体、球の表面積と体積を求めたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

小学校算数科では、第1学年から身近な立体について観察したり、分類したりして、ものの形を次第に抽象化して、図形として捉えられるようにしてきている。また、第2学年から図形の構成要素に着目して立体図形を扱ってきている。第3学年では球を取り扱い、第5学年までに、立方体、直方体、角柱、円柱を取り扱い、それらの見取図や展開図をかくことなどを通して立体図形についての理解を深めてきている。

中学校数学科において第1学年では、これらの学習の上に立って、空間図形についての理解を一層深める。小学校算数科で立体図形として扱っていたものを、中学校数学科では空間図形、すなわち、空間における線や面の一部を組み合わせたものとして扱うという点に留意する。また、図形の性質や関係を直感的に捉え論理的に考察する力を養うために、例えば、立体の模型を作りながら考えたり、目的に応じてその一部を平面上に表す工夫をしたり、平面上の表現からその立体の性質を読み取ったりするなど、観察や操作、実験などの活動を通して図形を考察することを基本にして学習を進めていく。図形の計量についても、計算方法を導くだけでなく、図形について理解する一つの側面として位置付ける。なお、錐体は中学校で初めて取り扱う立体であることに留意する。

## 単元名 データの活用

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解し、コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解することができる。
- (2) 目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータを分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、表現することができる。
- (3) データを活用することのよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開

10230302\_001

【準備等】 定規、電卓、将棋の駒、将棋盤

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 紙ふぶきの滞空時間を調べる活動を通して資料を整理する必要性に気付く、単元の学習課題をつかむ。[P. 214・P. 215]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○どんな形や大きさの紙が滞空時間がより長いかを考え、話し合う。</li> <li>★紙ふぶきの滞空時間を調べよう。</li> <li>○紙の形や大きさを変えて紙ふぶきを作り、滞空時間の実験を行う。</li> </ul> <p>○実験の結果を記録し、表にまとめる。</p> <p>2 資料の散らばりを示す値について考える。[P. 216・P. 217]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2つの資料について、滞空時間の最も大きい値と小さい値に注目して考える</li> <li>★散らばりのようすを示す値を使ってみよう。</li> <li>○範囲について理解し、資料の散らばりについて考える。</li> <li>○範囲の求め方を理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○範囲をくらべて、2つの資料の滞空時間について、どんなことがいえるか考え、話し合う。</li> </ul> <p>3 資料を表に整理して、その傾向を調べる。[P. 218～ P. 221]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験の結果をまとめた表から、ある区間に入る資料の個数を調べる。</li> <li>★表やグラフを使ってみよう。</li> <li>○資料を分布の様子が分かりやすくなるようにまとめる方法を理解する。</li> <li>○度数分布表をグラフに表す方法を理解する。</li> <li>○階級の幅を変えたヒストグラムをくらべて、どんなことがいえるか考え、話し合う。</li> <li>○複数のヒストグラムを比較しやすくなるための方法を理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○度数分布多角形から、2種類の紙ふぶきのどちらの滞空時間が長いといえるかについて考え、話し合う。</li> </ul> <p>4 代表値を使って、データの特徴を読み取る。[P. 221～P. 223]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★代表値を使ってみよう。</li> <li>○資料を代表する値について理解する。</li> <li>○度数分布表から最頻値を求める方法について理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単に資料を整理することが目的ではなく、集めることにも意義を見いだすために実際に実験を行うことが望ましい。</li> <li>【評】必要な資料を収集する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・多数回の実験を行うには、大変な手間と時間がかかるため、いくつかの班で実験を行い、そのデータを併合して取り扱うなどの工夫をする。</li> <li>・実際に実験を行った場合は、その結果を基に次時以降の授業に用いていくとよい。</li> <li>・最小値、最大値、範囲という用語とその関係を押さえる。</li> <li>・度数分布表に整理すると、資料全体の様子が分かることを見いださせる。</li> <li>・階級、度数、度数分布表、累積度数という用語を押さえる。</li> <li>・ヒストグラムという用語を押さえる。</li> <li>・デジタルコンテンツを使って、視覚的に階級の幅を変えたヒストグラムを理解させることもできる。</li> <li>・同じ資料についても階級の幅が異なるとヒストグラムから読み取ることができる傾向が異なる場合があるため、目的に応じて資料の傾向を的確に読み取ることができるように、階級の幅の異なる複数のヒストグラムを作り検討することが必要である。</li> <li>・度数分布多角形という用語を押さえる。</li> <li>【評】資料を表やグラフに整理する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・算数で学習した平均値、中央値、最頻値について振り返らせる。</li> <li>・代表値という用語を押さえる。</li> <li>・階級値という用語を押さえる。</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○平均値，中央値，最頻値から，どちらの紙ふぶきの滞空時間が長いといえるか話し合う。</p> <p>○これまでに学んだことを基に，どちらの紙ふぶきの滞空時間が長いといえるか，その決定理由について考え，話し合う。</p> <p>5・6 全体の度数の異なる2つ以上の資料の傾向を比較する方法を考える。[P. 224～P. 228]</p> <p>○全体の度数が違う度数分布表を比べる方法について考える。</p> <p>★度数分布表やヒストグラムを使ってくらべよう。</p> <p>○全体の度数の異なる2つ以上の資料の傾向を比較する方法を理解する。</p> <p>○相対度数，累積相対度数の求め方を理解する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○紙ふぶきの形と滞空時間について，調べたことと分かったことをまとめる。</p> <p>○紙ふぶきの大きさや形を変えた実験を基に，滞空時間をもっと長くするためにはどんなことを調べればよいかについて考え，話し合う。</p> <p>○学習したことがらを使って，紙ふぶきの滞空時間についてレポートにまとめる。</p> <p>7 整理されたデータから読み取ることについて考える。[P. 229～P. 231]</p> <p>○2つの遊園地の入園者数を調べる場面で，調べて得た2つのデータの読みとり方が正しいかどうかを考え，話し合う。</p> <p>★グラフやデータの分布のようすを読みとろう。</p> <p>○与えられたデータを批判的に考察する。</p> <p>○平均値と中央値が等しい2つの資料について，分布の様子がほぼ同じといってよいかどうかについて考える。</p> <p>8 資料の分布の形と代表値の関係について考える。[P. 231・P. 232]</p> <p>○度数分布表から平均値を求める方法を考える。</p> <p>★度数分布表から平均値を求めよう。</p> <p>○度数分布表から平均値の求め方を理解する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>9～11 将棋の駒を投げる実験を通して，その事象の起こりやすさの違いについて考える。[P. 233～P. 237]</p> <p>○将棋の駒を1回投げたときの，将棋の駒の出かたについて考える。</p> <p>○どの出かたがもっとも多く起こるか予想する。</p> <p>★ものごとの起こりやすさについて考えよう。</p> <p>○将棋の駒を3000回投げて，そのときの出かたを記録する。</p> <p>○実験の相対度数を求める。</p> <p>○相対度数のばらつきや変化について話し合う。</p> | <p>【評】代表値を用いて資料の傾向をとらえ判断する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・資料の特徴や目的に応じて，どの代表値を用いればよいかについて考えさせる。</p> <p>・相対度数，累積相対度数という用語を押さえる。</p> <p>・全体の度数の異なる2つ以上の資料の傾向を比較する場合にも，相対度数を考えることによって，階級ごとの比較ができることを理解させる。</p> <p>【評】相対度数を用いて，2つのデータを比較する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】紙ふぶきの滞空時間についてまとめる活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・この活動を通して，今後自分で見つけた課題についても，資料を収集して整理し，それを分析して傾向をとらえていくことができるようにする。</p> <p>・グラフから判断するときには，意図的な整理のしかたがされていないか注意する必要があることを押さえる。</p> <p>・資料の傾向を調べるときには，目的に応じて代表値を合わせて散らばりの度合いにも目を向けなければならないことを理解させる。</p> <p>・資料の傾向をつかむ際には，度数分布表やヒストグラムに表すことで，このような散らばりの様子がとらえやすくなるため，一般的に併用することのよさを知らせる。</p> <p>・資料の個々の値が分からない場合，すべてを階級値であると見なすことで，資料全体の平均値を考えることができることを理解させる</p> <p>【評】資料の代表値や範囲を求める活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>・P. 232にある「表計算ソフトを使って」を扱い，大量のデータを整理するときには，表計算ソフトを使うと便利であることを伝える。</p> <p>【評】将棋の駒を投げる実験から，ある事象の起こりやすさを予想する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・相対度数の推移は，表計算ソフトを使うなどしてグラフに表すと分かりやすい。</p> <p>・確率という用語を押さえる。</p> |
|--|--|



|   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○実際の記録から、ルールの見なおしについて考え、話し合う。</li> <li>○子どもが生まれたときに、男女の比率はどのようになっているか予想する。</li> <li>○各年の出生女児数の出生児総数に対する割合を小数第2位までの近似値で求める。</li> <li>○女児出生の割合の10年間を見て、女児出生の確率を考える。</li> <li>○相対度数を確率とみて、駅から博物館に到着するまでにかかる時間を調べる。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>12 データの活用に関する問題を解き、学習のまとめをする<br/>[P. 238・P. 239]</p> <p>★データの活用に関する問題を解き、学習のまとめをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○7章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。</li> <li>○7章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。</li> </ul> | <p>【評】将棋の駒を投げる実験から、確率を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <p>・年次ごとに、電卓を使って計算させる。</p> <p>【評】確率を利用して問題を解決する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・P. 237にある「何分発のバスに乗る？」を扱い、身のまわりの疑問を解決するために確率を利用することができることを伝える。</p> <p>・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。</p> <p>【評】2つ以上の資料をくらべたり、ものごとの起こりやすさを考えたりする活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> |
|---|--|

### 【 備 考 】

小学校算数科では、統計的な問題解決の方法を知るとともに、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ及び帯グラフを学習し、度数分布を表やグラフに表したり、データの平均や散らばりを調べるなどの活動を通して、統計的に考察したり表現したりしてきている。また、第5学年では測定値の平均について学習し、第6学年では平均値、中央値、最頻値などの代表値を用いたりドットプロットなどを用いたりして統計的に考察したり表現したりすることを学習している。ここで、平均値はデータの個々の値を合計し、データの個数で割った値、中央値はデータを大きさの順に並べたときの中央の値、最頻値はデータの中で最も多く現れている値のことである。また、ドットプロットとは数直線上の該当する箇所にデータを配置し、同じ値のデータがある際には積み上げて表したものである。

中学校数学科において第1学年では、これらの学習の上に立って、データを収集、整理する場合には、目的に応じた適切で能率的なデータの集め方や、合理的な処理の仕方が重要であることを理解できるようにする。さらに、ヒストグラムや相対度数などについて理解し、それらを用いてデータの傾向をとらえ説明することを通して、データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができるようにする。

単元名 オリエンテーション

配当時間 1時間

単元の目標

## 標準的な展開例

11230101\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| <p>1 数学が社会の中でいかに用いられているかについて理解し、数学を学ぶ必要性や学び方を理解したり、学ぶことの楽しさを実感したりする。</p> <p>★これから学ぶ数学について理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第2学年の学習内容のあらましを知り、学習の見通しをもつ。</li> <li>○表紙裏にある「この本の構成と使い方」を読み、これまでの学習の仕方について振り返り、数学のおもしろさを感じながら学習を進める方法を理解する。</li> <li>○既習の問題を解き、定着度を自己評価する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目次を基に、第1学年とのつながりについても簡単に触れる。</li> <li>・「みんなで学ぼう編」「自分から学ぼう編」の仕組みについても触れ、今後の学習方法の概要を説明する。</li> </ul> <p>【評】既習の問題を解く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

日常生活や社会で数学が用いられていることや数学の歴史・発見物語・エピソードなど、興味・関心をひく話題を提示し、数学を学習することの意義や必要性を実感させ、学習意欲を高めるための工夫としたい。

また、第1学年に引き続き、既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見だし、発展させる活動（数学的活動）を取り入れ、楽しみながら取り組んでいくことにも触れるようにする。

そして、これまでの学習について振り返り、数学のもつ楽しさや数学を学習することのよさを味わわせ、積極的に学習に取り組もうとする意欲をもたせたい。さらには、数学をより能率的に学べるように考える位置付けとしたい。

なお、学び方については、内容が抽象的にならないように要点をおさえて具体的に話をすることが大切である。

## 単元名 式の計算

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) 多項式の加法、減法などの計算ができ、文字を使った式を用いて、数量及び数量の関係性を捉え説明できることを理解することができる。
- (2) 具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて、多項式の加法、減法などの計算方法を考察し表現したり、文字を用いた式を具体的な場面で活用したりすることができる。
- (3) 文字を用いた式のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

11230102\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 世界一周道路と赤道の距離の関係をとらえ、説明する活動を通して、式の計算を利用すると便利であることを知り単元の学習課題をつかむ。[P.10～P.14]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界一周旅行をすると、どのぐらいの距離になるか考え話し合う。</li> <li>○世界一周道路と赤道の長さの差はどれと同じくらいか考え、話し合う。</li> <li>○第1学年の時に学習した文字を使って、世界一周道路と赤道の長さの差を確認する。</li> </ul> <p>○数量を表す式をつくり、その意味を理解する。</p> <p>★単項式と多項式について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○つくった式を取り上げて、単項式と多項式に分類する。</li> <li>○かけあわされている文字の個数から、次数の意味を理解する。</li> <li>○多項式の次数について理解する。</li> </ul> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>2 同類項の意味をつかみ、同類項をまとめて式を簡単にする。[P.14・P.15]</p> <p>★同類項について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○同類項のまとめ方を理解する。</li> <li>○次数の違いに着目した同類項のまとめ方について理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>3 加法や減法について、かっこがついた式や筆算での式の計算をする。[P.15・P.16]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二人の代金の合計と差額を式に表し、式の加法、減法の意味を見いだす。</li> </ul> <p>★多項式の加法、減法について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○かっこがついた多項式と多項式の和の計算の仕方を理解する。</li> <li>○かっこがついた多項式と多項式の差の計算の仕方を理解する。</li> <li>○多項式の加減を縦に並べて計算する方法を理解する。</li> <li>○計算の誤りについて考え、話し合う。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○式の加法、減法についての練習問題を解き、理解を深める。</li> </ul> <p>4 かっこがある多項式に数をかけたり、数でわったりする計算をする。[P.17・P.18]</p> <p>★一次式のいろいろな計算について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多項式に数をかけたり、数でわったりすることを振り返り、文字の数が増えた多項式に数をかけたりわたりす</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球儀などを見せて、想像させてもよい。</li> <li>・差を求めるために、実際に地球の半径を与えて計算させてもよい。</li> <li>・具体的な数値よりも、第1学年までに学んできた文字の式で計算することの方が簡単であることに触れたい。</li> <li>・文字の有用性についても触れたい。</li> </ul> <p>【評】世界一周道路で、文字の式を活用して関係をとらえる課題を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年で学んだ「加法の記号で結ばれた一つ一つを項とよぶ」ことを思い出させ、式を和の形に直して項を確認したい。</li> <li>・係数の符号の誤りに気を付けさせたい。</li> <li>・単項式、多項式、項という用語を押さえる。</li> <li>・次数、一次式、二次式という用語を押さえる</li> <li>・多項式では、項に分けて各項の次数の中でもっとも大きいものに注目することを押さえる</li> </ul> <p>【評】単項式、多項式、同類項などの用語の意味や、多項式の次数をつかむ活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同類項という用語を押さえる。</li> <li>・同類項でないものは、これ以上まとめることができないことを確認する。</li> <li>・<math>x^2</math>と<math>x</math>とは次数の違いから同類項でないことを押さえる。</li> <li>・2つの多項式では、「それぞれの式をかっこでくくり、これを+でつなぎ、かっこをはずし、同類項でまとめる」という計算の手順を明確にしたい。</li> <li>・かっこの前に「-」がある場合に誤りが多いので、第1学年での学習を思い出させながら丁寧に指導したい。</li> <li>・多項式を縦に並べて計算することはここで初めて扱う内容である。この計算では、同類項を上下にそろえて、たす式、ひく式の各項の符号に注意することを、丁寧に押さえる。</li> </ul> <p>【評】同類項をまとめ、いろいろな式を簡単にする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字が1つの多項式に数をかけることは1年で学習しているので、文字が増えても、分配</li> </ul> |

る方法について理解する。

- 2つ以上のかっこを分配法則ではずしてから、同類項をまとめる計算方法について理解する。
- 学習したことがらを使って問題を解く。

5 多項式をたしたり、ひいたりする計算において分数がふくまれる式の計算をする。[P. 18・P. 19]

- ★分数がふくまれる式の計算をしたり、式の値を求めたりしよう。
- 分数がふくまれる計算について、分配法則を利用した方法について理解する。

- 分数がふくまれる計算について、通分を利用した方法について理解する。
- 文字が2つ以上ある式について、式の値の求め方を理解する。

- 式を簡単にしてから代入して問題を解く方法を理解する。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- いろいろな多項式の計算についての練習問題を解き、理解を深める。

6 単項式どうしの乗法や除法の計算方法について考え、その計算をする。[P. 20・P. 21]

- 長方形のタイルを6枚並べたときの、面積とタイルの枚数の関係を見いだす。

★単項式の乗除について考えよう。

- 単項式の乗法で、負の係数が含まれる場合の計算について考える。
- 単項式の2乗の計算について考える。
- 単項式の除法の計算について考える。
- 係数が分数である単項式の除法の仕方を考える。

- 学習したことがらを使って問題を解く。

7 乗法や除法の混じった単項式の計算方法について考え、その計算をする。[P. 22]

★3つの式の乗除の計算をしよう。

- 乗除の混じった計算について考える。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 間違っただけの計算方法で処理された式を見て、どのように直せばよいかについて考え、話し合う。

- 単項式の乗法、除法についての練習問題を解き、理解を深める。

8 カレンダーで、横に並んだ連続する3つの整数の和にどのような性質があるかを考え、文字の式を用いて説明する[P. 23～P. 25]

- ★文字式を利用していろいろな問題を解決しよう。
- 連続する3つの整数を文字式で表す方法を理解する。

- 連続する3つの整数の和は、3の倍数であることを見だし、説明する。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 連続する5つの整数の和の場合はどんなことが言えるかについて考え、話し合う。

9 偶数と奇数、2けたの整数を文字を用いた式で、数量や数量の関係を表したり、説明したりする。[P. 25～P. 28]

- 2つの整数の和が、偶数になるか奇数になるか調べ、どんなことが分かるか考える。

★偶数と奇数、2けたの整数を文字の式を使って説明しよう。

法則を同じように使うことを確認したい。

- ・多項式を数でわる際には「 $\div m = \times 1/m$ 」として分配法則を使い、誤答を防ぐようにする

- ・分配法則を意識させて、じっくりと計算の定着を図りたい。

【評】かっこがある多項式に数をかけたり、わったりして式を計算する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・分数の計算では、方程式の係数処理と混同して、数をかけて分母をはらってしまう間違いが多い。だからこそ、通分して計算することを強調したい。

- ・式の値を求めるときは、そのまま代入してもよいが、計算の手間が減る場合が多いことを押さえる。

【評】多項式と数の乗法、除法の計算や式を簡単にしてから式の値を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・単項式の乗法をどのように計算すればよいのかを、面積図から見だし、発展させていきたい。
- ・係数どうしの積と文字どうしの積をかけあわせればよいことを見いださせたい。
- ・負の係数が含まれる場合も、係数どうしの計算で処理しておくことを押さえる。

- ・デジタルコンテンツを使って、視覚的に文字をふくむ分数の逆数を理解させることもできる。

- ・単項式の乗除や、分数式の乗除のことを考えて、除法を乗法に直して計算するよう指導する。

- ・除法においては、乗法に変形していくことを意識させながら、分数の形に直すように指導していきたい。

【評】単項式の乗法や除法が混じった式を、乗法だけの式に直す活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・連続する3つの整数を文字式で表すことは初めて扱う内容なので、一番小さい数を $n$ とすると、真ん中の数は $n+1$ 、一番大きい数は $n+2$ となることを具体例を用いて丁寧に確認し、文字式を使って $n$ 、 $n+1$ 、 $n+2$ で表せることを確認したい。

- ・これ以外にも、連続する整数の数を変えるとどうなるか予想させ、説明させたい。

- ・偶数は整数 $m$ を用いて、 $2m$ と表すことを押さ

- う。
- 偶数と奇数の和について考え、答えが奇数になることを説明する。
  - 説明が不十分な解答を読み、どのように直せばよいかにについて考え、話し合う。
  - 2けたの数で、もとの数の十の位と一の位を入れかえた数の和や差についてのきまりについて考える。
  - 2けたの数を $10a+b$ で表すことを理解する。
  - 2けたの数の十の位の数と一の位の数を入れかえてできる数との和は11の倍数であることを見だし、説明する
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 2数の和を差に条件を変えたと、どんなことが言えるかについて考え、話し合う。
- 10 数量の関係を表す等式を目的に応じて変形することについて考える。[P. 28・P. 29]
- 温度を表す華氏 $f$ と摂氏 $c$ の関係式 $f=9/5c+32$ について考える。
  - ★等式の変形について考えよう。
  - 等式を変形する方法について考える。
  - 長方形と半円を組み合わせたトラックの長さに関する等式をつくり、その変形について理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 文字式の利用についての練習問題を解き、理解を深める
- 11・12 いくつかの文字を含む多項式の四則計算や文字の式を利用する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 30～P. 33]
- ★式の計算に関する問題を解き、学習のまとめをしよう。
  - 1章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。
  - 1章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。

- える。
- ・ 奇数は整数 $n$ を用いて、 $2n+1$ と表すことを押さえる。
  - ・ 同じ文字を使って表す場合と、違う文字を使って表す場合について、どのような違いができるのかを話し合わせる。
  - ・ 2けたの正の整数は、 $10 \times (\text{十の位の数}) + (\text{一の位の数})$ となることを確認する。
  - ・ 十の位と一の位を入れかえた数は $10b+a$ となることを押さえる。

【評】数量の関係や数の性質を文字式を使って考え、説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・  $c$ について解くという用語を押さえる。
- ・ 等式の変形をする際には、式の意味を考えながら計算を進めるとよい。

- ・ [ ]内の文字について解くことは、何を求める式を導いているのかについても確認したい

- ・ 「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。

【評】数量の関係を文字式に表したり、目的に応じて等式を変形したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

### 【 備 考 】

第1学年では、正の数と負の数を用いて数量や数量の関係を表すとともに、文字を用いて数量や数量の関係及び法則などを式に表現したり式の意味を読み取ったりすること、文字を用いた式が数の式と同じように操作できることなどを学習している。また、一つの文字についての一次式の加法と減法を取り扱い、一元一次方程式が解ける程度の簡単な式の計算について学習している。

第2学年では、これらの学習の上に立って、幾つかの文字を含む整式の四則計算ができるようになることや、文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解し、文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする力を養うとともに、文字を用いた式を具体的な場面で活用することを通して、そのよさを実感できるようにする。

## 単元名 連立方程式

配当時間 13時間

- 単元の目標 (1) 二元一次方程式と連立方程式の意味、及びその解の意味を理解したり、簡単な連立方程式を解いたりすることができる。
- (2) 一元一次方程式と関連付けて、連立方程式の解き方を考察し表現したり、連立方程式を具体的な場面で活用したりすることができる。
- (3) 連立方程式のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

11230103\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 社会福祉体験をする場面で、2つの未知数を文字で表し解決する方法があることを知り、単元の学習課題をつかむ [P. 34・P. 35]</p> <p>★点字体験をする4人班の数と車いす体験をする3人班の数を考えよう。</p> <p>○それぞれの班が何人ずつになるか考え、話し合う。</p> <p>2 二元一次方程式、連立方程式とその解の意味について考える。 [P. 36～P. 38]</p> <p>○前時の問題において、班の数や人数についての等式を、文字を使って表す。</p> <p>★2つの文字をふくむ方程式とその解について考えよう。</p> <p>○人数についての表を作成する。</p> <p>○班の数についての表を作成する。</p> <p>○二元一次方程式の解について知る。</p> <p>○連立方程式とその解について理解する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○連立方程式とその解についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>3 数量の関係を図に表し、図の操作との比較から連立方程式の解法を見いだす。 [P. 39～P. 41]</p> <p>○与えられた条件を基に、鉛筆とノートの値段を求める。</p> <p>★連立方程式の解き方について考えよう。</p> <p>○鉛筆1本と、ノート1冊の値段を図を使って考え、図の操作から鉛筆1本の値段を求める。</p> <p>○鉛筆1本と、ノート1冊の値段を文字を使って式に表すことで、図を使った方法と同様にして解けることを理解する。</p> <p>○二元一次方程式の両辺をたしたりひいたりしても、等式のままであることを確認する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>4 加減法についてまとめ、連立方程式を解く。 [P. 41・P. 42]</p> <p>★加減法による連立方程式の解き方を理解しよう。</p> <p>○x, yの一方の係数の絶対値をそろえるために、どちらかの式を何倍かして計算する方法を理解する。</p> <p>○一方の方程式を整数倍しても係数の絶対値がそろわない場合について考える。</p> | <p>・生徒は帰納的に推論したり、式や表を活用したり、様々な解決方法を考える。その一つ一つの方法を比べて、合理的で明解な方法はないかを話し合わせる。</p> <p>【評】班の数を考える課題で、班の数の関係等を等式を使って表そうとし、班の数を求めようとする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・二元一次方程式という用語を押さえる。</p> <p>・解という用語を押さえる。</p> <p>・それぞれの表のx, yの値は、方程式を満たす解であることと、2つの二元一次方程式の解は1組であることを理解させる。</p> <p>・x, yの値の組(●, ●)の表記もここで確認したい。</p> <p>・連立方程式、連立方程式の解、連立方程式を解くという用語を押さえる。</p> <p>【評】二元一次方程式とその解、連立方程式とその解の意味を知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・デジタルコンテンツを使って、視覚的に立式を理解させることもできる。</p> <p>・未知数は2つあるが、未知数が1つになれば解決できることに気付かせ、解決の見通しをもたせることが大切である。</p> <p>・消去という用語を押さえる。</p> <p>・解の書き方について丁寧に説明する。</p> <p>・加減法という用語を押さえる。</p> <p>・x, yのいずれかの文字を消去するにはどうしたらよいかを考えさせる。</p> <p>・いずれかの式を整数倍したものを①×2のように表すことは生徒にとって初めてである。読み方や使用方法などよく分からない事柄なので、配慮を要する。</p> <p>・P. 42の解答例のように、一般的に解答の書き方を生徒に示し、連立方程式の解き方の習熟を図りたい。</p> <p>・両方の方程式の両辺を整数倍すればよいこと</p> |

- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 5 代入法についてまとめ、連立方程式を解く。[P. 42・P. 43]
  - ★代入法による連立方程式の解き方を理解し、それを使って解こう。
  - 式の中に式を代入することによって、文字が消去できることを理解する。
  - 式を変形してから代入する方法を理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 代入法と加減法のどちらでも活用できる問題の解き方について考え、話し合う。
- 6・7 かっこがあつたり、係数が整数でなかったりする連立方程式を解く。[P. 44～P. 46]
  - ★いろいろな連立方程式の解き方を考えよう。
  - かっこをはずして移項し、式を整理してから解く方法を考える。
  - 分数を含む連立方程式の両辺の分母をはらうことで式を整理し、連立方程式を解く方法を考える。
  - 工夫して連立方程式を解く方法について考え、話し合う
  - $A=B=C$ の形の方程式を解く方法を考える。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 連立方程式の解き方についての練習問題を解き、理解を深める。
- 8 連立方程式を利用して、身のまわりの問題を解決する。[P. 47～P. 49]
  - 2点シュートと3点シュートをそれぞれ何本入れたかを知るにはどうすればよいかについて考え、発表する。
  - ★連立方程式を利用して、いろいろな問題を解決しよう。
  - シュートのうちわけについて、問題の中の数量に着目して連立方程式をつくり、その解き方を理解する。
  - 求めた解が正しいかどうかを吟味する。
  - 得点を $x$ 、 $y$ として、連立方程式をつくって解く方法を考える。
  - 連立方程式を使って問題を解く手順を確認する。
- 9 代金に関する問題を連立方程式を利用して解決する。[P. 50]
  - ★代金の問題を連立方程式を利用して解こう。
  - 大人の入園料と、中学生の入園料の数量の関係に着目して連立方程式をつくり、その解き方を理解する。
  - 解が問題にあっているか吟味する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 10 割合に関する問題を連立方程式を利用して解決する。[P. 51]
  - ★割合の問題を連立方程式を利用して解こう。
  - 生徒の総数とボランティア参加生徒の人数関係に着目して連立方程式をつくり、その解き方を理解する。
  - 解が問題に合っているか吟味する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。

に気付かせたい。

- ・デジタルコンテンツを使って、視覚的に代入法を理解させることもできる。
- ・代入法という用語を押さえる。
- ・どの文字に着目すると代入法を活用できるか考えさせる。

- ・解き方について話し合わせ、式の形を見てより合理的に連立方程式を解く方法を考えさせることで、数学的な思考力や判断力を育てたい。

- ・今までに学習した分配法則や等式の性質を活用して、 $x$ か $y$ を消去するために式を整理することで、加減法や代入法によりどの問題も解くことができることに気付かせる。
- ・等式の性質を使って両辺の分母をはらうことで、 $ax+by=c$ の形に整理することを意識させたい。

- ・3つの式が等しいことから、2つずつを組み合わせることで連立方程式にすることを意識させたい。

【評】連立方程式をどの方法で解くか、その見通しのもち方やそれぞれの解法のよさを話し合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・解決の糸口として、言葉の式や線分図、表などを使うとよいことを押さえる。

- ・連立方程式を使って問題を解く手順は第1学年で学んだ方程式を使って問題を解く手順と同じであることを確認する。

【評】連立方程式を利用し、問題を解決しようとする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・言葉の式のほかにも、線分図やイラストなどさまざまなアプローチがあるので、生徒に自由に考えさせたい。
- ・P. 50の解答例のように、一般的な解答の書き方を生徒に示し、連立方程式の利用の問題の習熟を図りたい。
- ・「問題にあっている」ときまじりごとのように書かせるのではなく、解が問題に合っているかどうかを確かめる姿勢を育てたい。

- ・割合についての学習は小学校で行っている。
- ・百分率や割合の考え方を確認しながら、文字を使った表し方を押さえたい。
- ・P. 51の解答例のように、一般的な解答の書き方を生徒に示し、連立方程式の利用の問題の習熟を図りたい。

【評】問題解決の場面で連立二元一次方程式を利用する活動を通して、「思考・判断・表現

11 速さ・時間・道のりに関する問題を連立方程式を利用して解決する。[P. 52・P. 53]

★速さ・時間・道のりに関する問題を連立方程式を利用して解こう。

○道のりと時間に関する数量に着目して連立方程式をつくり、その解き方を理解する。

○解が問題にあっているか吟味する。

○解に矛盾が生まれる問題に取り組み、なぜ問題にあわないのかについて考え、話し合う。

○学習したことがらを使って問題を解く。

○連立方程式の利用についての練習問題を解き、理解を深める。

12・13 連立方程式に関する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 54～P. 57]

★連立方程式の問題を解き、学習のまとめをしよう。

○2章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。

○2章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。

」を評価する。

- ・小学校で学習した速さ・時間・道のりの求め方を確認しながら、文字を使った表し方を押さえたい。
- ・速さを扱う問題は、何についての等式をつくっているか混乱する生徒がいるので、速さ・時間・道のりの関係を表を使って考えさせるとよい。
- ・P. 52の解答例のように、一般的に解答の書き方を生徒に示し、連立方程式の利用の問題の習熟を図りたい。
- ・具体的な数値を挙げて理由を説明させることで、解を吟味することの大切さに気付かせたい。

- ・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。

【評】 いろいろな連立方程式を正しく解いたり連立方程式を利用して問題を解決したりする活動を通して、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。

#### 【 備 考 】

第1学年では、一元一次方程式について、その中の文字や解の意味を理解し、その解き方を考察することや具体的な場面で活用することについて学習している。

第2学年では、これらの学習の上に立って、二元一次方程式とその解の意味や二元一次方程式を連立させることの必要性和意味及び連立二元一次方程式の解の意味を理解し、解を求めることができるようにする。さらに、連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することができるようにする。



## 単元名 一次関数

配当時間 20時間

- 単元の目標 (1) 一次関数の意味と一次関数として捉えられる事象があることを理解したり、二元一次方程式を関数を表す式とみたりすることができる。
- (2) 一次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。
- (3) 一次関数のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

11230104\_001

【準備等】方眼黒板、定規、グラフ用紙

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 水そうに水を入れる場面から、既習の比例とは異なる関数関係を見だし、比例との比較を通して、その新しい関数について考察し、単元の学習課題をつかむ。[P. 58・P. 59]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水そうに水を入れるときの、時間と水面の高さの変化の様子を調べる。</li> <li>★水面の高さはどう変わるか考えよう。</li> <li>からの水そうに水を入れるときの変化の様子を調べる。</li> <li>はじめから水の入った水そうに水を入れるとき、時間と水面の高さにどのような関係があるか考え、話し合う。</li> </ul> <p>2 ともなって変わる2つの数量から一次関数の意味について考える。[P. 60～P. 62]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ともなって変わる2つの数量の間の関係について考えよう。</li> <li>前時の2つの表から、<math>x</math>と<math>y</math>の関係をそれぞれ式で表す。</li> <li>一次関数について理解する。</li> <li>上空の気温が一次関数で表されることを知り、変域を含んだ式の表し方について理解する。</li> <li>学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>一次関数についての練習問題を解き、理解を深める。</li> </ul> <p>3 一次関数の値の変化を調べ、変化の割合の意味について考える。[P. 63・P. 64]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一次関数の関係を表で表したときの、<math>x</math>や<math>y</math>の増加量について調べる。</li> <li>★一次関数で<math>x</math>の値の変化にともなって、<math>y</math>の値がどのように変化するか考えよう。</li> <li>一次関数<math>y=2x+1</math>の<math>x</math>の値に対応する<math>y</math>の値を求める。</li> <li><math>y</math>の増加量は<math>x</math>の増加量の何倍になっているか求める。</li> <li><math>y</math>の増加量と<math>x</math>の増加量の関係を理解する。</li> <li><math>a</math>の値が負である一次関数について表をつくり、<math>x</math>、<math>y</math>の</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>水面の高さは一定の割合で増えるので、<math>x</math>の値が1増えると、<math>y</math>の値が2増えることを確認する。</li> <li>時間<math>x</math>が2倍、3倍になると、それに対応して、水面の高さ<math>y</math>も2倍、3倍になることを確認する。</li> <li><math>x</math>、<math>y</math>の関係を式に表すと、<math>y=2x</math>と表せることを確認する。これは、第1学年で学習した比例の関係であることにもふれる。</li> <li>時間<math>x</math>が2倍、3倍になっても、水面の高さは<math>y</math>は2倍、3倍になっていないが、<math>y</math>の増え方は<math>y=2x</math>のときと同じであることに気付かせ、関係式を考えさせるとよい。</li> <li><math>x</math>と<math>y</math>の関係を式に表すと、<math>y=2x+8</math>と表せることに触れる。</li> <li>【評】身のまわりの事象の中の、一次関数としてとらえられる2つの数量の変化について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>一次関数という用語を押さえ、「●●は▲▲の一次関数である」という言い方を確認する</li> <li>関数については、第1学年で「●●は▲▲の関数である」という表現で理解させている。</li> <li>式に表す際に、表や図との関連を図りたい。</li> <li><math>b=0</math>の場合は<math>y=ax</math>となり、比例が一次関数の特別な場合であることを押さえる。</li> <li><math>x</math>に変域があるため、その表し方について確認をしたい。</li> <li>【評】一次関数の意味を理解し、比例や反比例との関係や違いについて理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>P. 62にある「雷さまはどこ？」を扱い、音の速さも一次関数で表されることを伝えたい。(デジタルコンテンツあり)</li> <li><math>y=2x+1</math>を表にしたものから、<math>x</math>や<math>y</math>がどれだけ増えたり減ったりしているかを考えさせたい。</li> <li>常に<math>y</math>の増加量は<math>x</math>の増加量の2倍になっていることに気付かせたい。</li> <li>変化の割合という用語、求め方を押さえる。</li> <li>この一次関数における変化の割合は常に2になったことを押さえる。</li> <li>この場合も変化の割合が一定になっているこ</li> </ul> |

- 増加量や変化の割合について調べる。
- 一次関数の変化の割合についてまとめる。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 4 変化の割合が一定ではない関数があることを知り、変化の割合に関する問題を解く。[P. 65]
- ★ 反比例の変化の割合はどうなっているか調べよう。
- 反比例の式から表を作成し、 $x$ 、 $y$ の増加量や変化の割合を調べる。
  - 一次関数の値の変化についての練習問題を解き、理解を深める。
- 5 比例 $y=ax$ のグラフを利用して一次関数 $y=ax+b$ のグラフをかく。[P. 66・P. 67]
- 一次関数の式から表を作成し、対応する $x$ 、 $y$ の値の組を点でかき入れることで、どのようなグラフになるか見いだす。
- ★ 一次関数のグラフについて考えよう。
- $y=2x$ と $y=2x+3$ を比較して、グラフにどのような特徴があるか見いだす。
  - $y=ax+b$ のグラフの特徴を理解する。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 6 傾きの意味と変化の割合との関係を利用して一次関数 $y=ax+b$ のグラフをかく。[P. 68・P. 69]
- 3つの一次関数のグラフにどんな違いがあるか考える。
- ★ 一次関数 $y=ax+b$ で、 $a$ の値とグラフの関係について考えよう。
- 傾きが負の場合について理解する。
- 一次関数のグラフについてまとめる。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 7 一次関数のグラフを、傾きと切片を利用してかく。[P. 70]
- ★ 一次関数のグラフをかこう。
- 一次関数で、 $a>0$ 、 $b<0$ のグラフをかく。
- 傾きが分数の場合のかき方を考える。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 8  $x$ の変域に制限があるときの $y$ の変域を求めることについて考える。[P. 71・P. 72]
- ★  $x$ の変域に制限があるときの $y$ の変域について考えよう
- $y$ の変域を考える。
- 傾きが負である場合についても、グラフから $y$ の変域を考える。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 一次関数のグラフについての練習問題を解き、理解を深める。
- 9 一次関数のグラフから、傾きと切片を読み取ってその関数の式を求める方法について考える。[P. 73]

- とを押さえる。
- ・ 変化の割合 $a$ が、 $(y\text{の増加量}) \div (x\text{の増加量})$ であることを確認する。
  - ・  $a$ の正負による、 $x$ と $y$ の値の増減についても確認する。
- ・ 反比例の変化の割合を $x$ の範囲をいくつか変えて求め、一定でないことに気付かせたい。
- 【評】 一次関数の変化の割合について問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する
- ・ 方眼黒板、定規、グラフ用紙を用意しておくとうい。
- ・  $y=2x+3$ のグラフは $y=2x$ のグラフが平行移動した直線であることに気付かせる。
- ・ 切片という用語を押さえる。
  - ・ 切片がグラフ上の $(0, b)$ の点であることも確認しておく。
- ・ 式の違いは $a$ の値だけであることを押さえ、グラフ上ではどのようなことを示しているのか考えさせる。
- ・ 傾きという用語を押さえる。
- ・  $a$ の値が大きいものほど、より起き上がったグラフになることに気付かせたい。
- ・ 右へ1進むということは $x$ の増加量が1に対応して、上に $a$ 進むということは $y$ の増加量が $a$ という変化の割合の考え方に対応していることに気付かせたい。
- ・ 変化の割合が直線の傾きになっていることを押さえる。
- ・ 切片 $b$ から $(0, b)$ を通ること、傾き $a$ から右へ1進むと上(下)へ $a$ 上(下)がることを丁寧に押さえたい。
- ・ 傾きが $-3/2$ だと、右へ1進んで下へ $3/2$ 下がると考えると、点を取りづらいうことを実感させる。
  - ・ 比例と同じように右へ2進んで下へ3下がるという考えを生徒から引き出させたい。
  - ・ デジタルコンテンツを使ってグラフのかき方を視覚的に理解させることもできる。
- ・ 傾きが正のときには、グラフから $x$ の値が大きいほど $y$ の値も大きいことに気付かせたい
- ・ 傾きが負のときには、 $x$ が最大のときに $y$ は最小になることをグラフを使って確認したい。
- 【評】 変域に制限がある一次関数について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する
- ・ P. 72にある「AEDの重要性が分かるグラフ」を扱い、さまざまな場面で一次関数が有効活用されていることを伝えたい。(デジタルコンテンツあり)

|   |  |
|---|--|
| <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○与えられた一次関数のグラフから、式を読みとる方法を考える。</li> <li>★グラフから一次関数の式を求めよう。</li> <li>○傾きや切片を読み取れば、関数の式を求められることを理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>10 一次関数のグラフから、傾きとグラフ上の1点の座標からその関数の式を求める方法について考える。[P. 74]</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★傾きと1点の座標から一次関数の式を求める方法について考えよう。</li> <li>○傾きを<math>a</math>にあてはめ、与えられた座標を代入することで切片<math>b</math>を求められることを理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> </p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○切片が読み取れない場合の一次関数の式を求める方法について考え、話し合う。</li> </ul> </p> <p>11 一次関数のグラフで、グラフ上の2点の座標からその関数の式を求める方法について考える。[P. 75・P. 76]</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★2点の座標から一次関数の式を求める方法について考えよう。</li> <li>○2点の座標から、変化の割合（傾き）を求められることを見いだす。</li> <li>○連立方程式で、傾き<math>a</math>と切片<math>b</math>を求める方法を考える。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○一次関数の表、式、グラフの関係についてまとめる。</li> <li>○一次関数の式を求めることについての練習問題を解き、理解を深める。</li> </ul> </p> <p>12・13 二元一次方程式の解の値の組を座標とする点をとる活動から、二元一次方程式と一次関数の関係を見いだす。[P. 77～P. 79]</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二元一次方程式の解をいくつか座標平面上にかき入れる</li> <li>○二元一次方程式の解を座標平面上にかき入れた図から、どんなことが分かるか考え、話し合う。</li> <li>★方程式<math>ax+by=c</math>のグラフについて考えよう。</li> <li>○二元一次方程式を<math>y</math>について解き、一次関数とみることで、そのグラフの特徴について考えたり、理解を深めたりする。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> </p> <p>14 <math>y=k</math>, <math>x=h</math>のグラフをかく。[P. 79～P. 81]</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★<math>y=k</math>, <math>x=h</math>のグラフについて考えよう。</li> <li>○<math>ax+by=c</math>のグラフで、<math>x</math>軸の交点と<math>y</math>軸の交点の座標を求めてかく方法を理解する。</li> <li>○<math>ax+by=c</math>のグラフで、格子点が見つかりにくい場合、どうすればよいか考え、発表する。</li> <li>○<math>y=k</math>のグラフについて理解する。</li> <li>○<math>x=h</math>のグラフについて理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○二元一次方程式とグラフについてまとめる。</li> <li>○方程式とグラフについての練習問題を解き、理解を深める。</li> </ul> </p> <p>15 2直線の交点の座標を、連立方程式を用いて求める。[P. 82・P. 83]</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2つの二元一次方程式のグラフをかき、交点の座標を読みとる。</li> <li>★連立方程式とグラフの関係について考えよう。</li> <li>○2つの二元一次方程式を連立方程式にして解き、グラフの交点の座標と比べ、どんなことがいえるか考える。</li> <li>○連立方程式の解とグラフについてまとめる。</li> <li>○2直線の交点がグラフから読み取れない場合について考える。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> </p> </p> | <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・傾きや切片をグラフから読み取る場合は、これまでのグラフのかき方を振り返るとよい。</li> </ul> </p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求める一次関数を<math>y=ax+b</math>とし、<math>a</math>と<math>b</math>を求めればよいことを丁寧に押さえない。</li> <li>・実際に座標平面上に直線をかかなくても、略図をかくて答えを想像するような習慣をつけさせたい。</li> <li>・<math>x</math>軸上の交点の座標や、略図の延長によって求められるという考え方を大切にしたい。</li> </ul> </p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・略図を使って、傾きを考えさせてもよい。</li> <li>・略図によって、傾きの正もしくは負の予想をさせたい。</li> <li>・大きく2つの方法があることを押さえ、解きやすい方法で解けばよいことを伝える。</li> </ul> </p> <p>【評】一次関数の特徴を理解して一次関数のグラフをかいたり、グラフから直線の式を求めたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに細かく点をとると、直線になりそうであることを押さえない。</li> <li>・方程式のグラフという用語を押さえる。</li> </ul> </p> <p>【評】二元一次方程式を一次関数とみたり、そのグラフの特徴を考えたりする活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座標が整数の組になる点をとるとかきやすいことに気付かせる。</li> <li>・<math>x=0</math>や<math>y=0</math>の代入で見つからない場合は、<math>x=1</math>, <math>y=1</math>など、0に近い整数で考えていけばよいことを押さえる。</li> <li>・<math>a=0</math>のときであることと、<math>x</math>軸に平行な直線になることを押さえる。</li> <li>・<math>b=0</math>のときであることと、<math>y</math>軸に平行な直線になることを押さえる。</li> </ul> </p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフをかく場合には、傾きと切片を使う方法、直線が通る2点を利用する方法などがあるが、それぞれのかきやすさについて考えさせてもよい。</li> <li>・グラフの交点が連立方程式の解と一致することを押さえる。</li> <li>・グラフ上の交点が格子点でなく、読み取れない場合は、連立方程式を解いて求めればよいことに気付かせる。</li> </ul> </p> |
|---|--|

- 16 ダムの貯水量から、日にちと水の量の関係が一次関数とみることができることを見いだす。[P. 84・P. 85]  
 ★一次関数を利用して、身のまわりの問題を解決しよう。  
 ○貯水量が650万 $\text{m}^3$ になるのはいつかを予測する。  
 ○表の値の組を座標とする点を、座標平面上にとる。  
 ○グラフから分かることを考える。
- 17 目的地までの道のりの事象の中から一次関数を見いだし一次関数を用いて問題を解決する。[P. 86・P. 87]  
 ○与えられたグラフからいろいろな情報を読みとり、その内容について考え、話し合う。
- ★一次関数を使って、速さ・時間・道のりに関する問題について考えよう。  
 ○店に着く前と店を出たあとの速さについて考える。
- 学習したことがらを使って問題を解く。  
 ○おじさんが30分早く出発した場合について考え、話し合う。
- 18 図形の動点の事象の中から一次関数を見いだし、一次関数を用いて問題を解決する。[P. 88・P. 89]  
 ○長方形の周上を動く点によって、 $\triangle APD$ がどのように変化するか考える。  
 ★動く点と面積の変化について考え、一次関数を使って時間と面積の関係をまとめよう。  
 ○面積が増加、一定、減少の時の $x$ の変域について考える
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 19・20 一次関数に関する問題を解き、学習のまとめをする [P. 90～P. 93]  
 ★一次関数に関する問題を解き、学習のまとめをしよう。  
 ○3章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。  
 ○3章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。

- ・定規をあてるとほぼ一直線上に並ぶことを確認する。
- ・ $y$ は $x$ の一次関数とみることができることを押さえる。
- ・具体的な事象の中で、切片や傾きが何を意味しているのか考えさせたい。

【評】日にちと水の量の関係が一次関数とみることができることを見いだし、それを基にして、数日後の水の量を予測する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・「おじさんの家までの道のり」，「店にいた時間」，「店からおじさんの家までの道のり」，「かかった時間」など，グラフから分かることを確実に押さえておく。

- ・グラフの傾きで速さが分かることに気付かせる。

- ・面積が増加  $\Rightarrow$  一定  $\Rightarrow$  減少という順序で変化していくことを押さえる。

【評】身のまわりの事象を一次関数とみなして見通しをもって問題を解決する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・P. 89にある「電車のダイヤグラム」を扱い、さまざまな場面で一次関数が有効活用されていることを伝えたい。（デジタルコンテンツあり）

- ・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。

【評】一次関数に関するさまざまな問題を解決する活動を通して、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。

## 【 備 考 】

第1学年では、具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べ、関数関係について理解し、比例、反比例を関数として捉え直した。そこでは、変数と変域や座標について理解するとともに、比例、反比例の関係を表、式、グラフなどで表し、それらを関連付けながら変化や対応の特徴を考察することや、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することを学習している。

第2学年では、第1学年と同様に具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して、一次関数について考察する。これらの学習を通して、関数関係を見いだし考察し表現することができるようにする。

一次関数の学習は比例の学習の発展である。同時に、変化の割合に着目するなど、文字を用いた式によって関数をより深く学習する入り口ともなっている。

## 単元名 図形の調べ方

配当時間 16時間

- 単元の目標 (1) 平行線や角の性質や平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件、証明の必要性和意味及びその方法について理解したり、多角形の角についての性質を見いだしたりすることができる。
- (2) 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明したり三角形の合同条件などを基にして図形の性質を論理的に確かめたりすることができる。
- (3) 図形の性質などを証明することのよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

11230201\_001

【準備等】定規、三角定規、分度器、コンパス

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 平行な2直線に交わる直線によってできる角には、どんな性質があるか理解し、単元の学習課題をつかむ。[P. 94・P. 95]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平行な2直線に交わる直線によってできる角には、どんな性質があるか考え、話し合う。</li> <li>★ 平行な直線の性質を調べよう。</li> <li>○ 見つけた関係はいつでも成り立つのか考える。</li> <li>○ 図の中に見られる直線や角の間には、どんな関係があるか考え、話し合う。</li> </ul> <p>2・3 いくつかの直線が交わってできる角について調べる。[P. 96～P. 100]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2本が交わる直線をかき、その交点のまわりにできる4つの角の大きさを測る。</li> </ul> <p>★ 直線が交わってできる角の性質について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 対頂角の性質についてまとめる。</li> <li>○ 2直線にもう1つの直線が交わるときの、色々な角の位置関係について理解を深める。</li> <li>○ 平行な2直線をひく方法を振り返る活動を通して、平行線と同位角の関係について考える。</li> <li>○ 平行線の性質についてまとめる。</li> <li>○ 平行線になるための条件についてまとめる。</li> <li>○ 平行線の性質や平行線になる条件を使い、新たな性質を考え、話し合う。</li> <li>○ 学習したことがらをを使って問題を解く。</li> <li>○ 角と平行線についての練習問題を解き、理解を深める。</li> </ul> <p>4・5 三角形の内角の和や三角形の内角や外角の性質をつかみ、三角形を内角の大きさによって分類する。[P. 101～P. 103]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三角形の3つの角を1つの頂点に集めることによって、できる線分の関係を考える。</li> <li>★ 三角形の角の性質について考えよう。</li> <li>○ 錯角や同位角の関係から、三角形の3つの角の和が、<math>180^\circ</math>であることを説明する。</li> <li>○ 三角形の2つの内角の和に等しい角を調べ、その理由を考え、話し合う。</li> <li>○ 三角形の内角・外角の性質についてまとめる。</li> <li>○ 内角の大きさに着目して三角形を分類できることを理解する。</li> <li>○ 学習したことがらをを使って問題を解く。</li> </ul> <p>6 多角形の内角の和を求める。[P. 103～P. 105]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四角形、五角形、六角形の内角の和を求める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平行の定義は小学4年で学習している。</li> <li>・ 小学校で平行線の性質を学習している。</li> <li>・ 分度器を使って実際に角度を測らせ、教科書に記入させるとよい。</li> <li>【評】図形に親しみをもち、平行であることや図形の合同を示す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 4つの角で、1つの角に着目すると、残りの角は、その角と、となりあう角、向かいあう角に分けて考えることができることを確認する。</li> <li>・ 鉛筆などを実際に使って、観察、操作などの活動をさせてもよい。</li> <li>・ 対頂角という用語を押さえる。</li> <li>・ 同位角、錯角という用語を押さえる。</li> <li>・ P. 97の平行線のかき方から、同位角が等しければ2直線は平行であることを視覚的に理解させたい。</li> <li>・ 「対頂角」と「平行線と同位角の関係」を連携させて、平行線と錯角の関係についてもしっかりと理解させたい。</li> <li>【評】平行線の性質や平行線になる条件を基に新たな性質を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】対頂角、同位角、錯角の意味と対頂角の性質、平行線の性質、平行線になる条件を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ これまでに学んできた平行線と角の関係をを使うと、「三角形の内角の和が<math>180^\circ</math>である」ことを、経験的にではなく、論理的に説明できるように気付かせたい。</li> <li>・ 内角、外角という用語を押さえる。</li> <li>【評】三角形の1つの外角は、そのとなりになり2つの内角の和であることを見だし、説明する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 鋭角、鈍角、鋭角三角形、鈍角三角形という用語を押さえる。</li> <li>・ 多角形の1つの頂点からひいた対角線によって分けられる三角形の数で考えさせる。</li> </ul> |

|   |   |
|---|---|
| <p>★多角形の内角の和について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○七角形や八角形や九角形の内角の和を求める。</li> <li>○多角形の内角の和についてまとめる。</li> </ul> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○「<math>180^\circ \times n - 360^\circ</math>」について、どのような考え方をしたのか考え、話し合う。</p> <p>7 多角形の外角の和を求める。[P. 105～P. 107]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○任意の三角形や四角形をかき、実際に外角の和を測定し求める。</li> </ul> <p>★多角形の外角の和について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○五角形の外角の和を内角と外角の性質を使って求める。</li> <li>○多角形の外角の和についてまとめる。</li> </ul> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○凹四角形（くさび形四角形）のへこんだ部分の角の大きさについて、どんな求め方があるか考え、話し合う。</p> <p>○多角形の角についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>8 合同な図形の性質について調べる。[P. 108・P. 109]</p> <p>★合同な三角形の性質について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○△ABCとぴったり重なる三角形について考える。</li> </ul> <p>○合同な図形の性質についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2つの図形が合同であることを、記号を使って表す方法を理解する。</li> </ul> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>9・10 2つの図形が合同であることをとらえ、三角形の合同条件について調べる。[P. 109～P. 111]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○合同な三角形を作図する方法を考える。</li> </ul> <p>★三角形の合同条件について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な条件が与えられた上で、合同な三角形を作図する</li> <li>○三角形の合同条件についてまとめる。</li> </ul> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○三角形の合同についての練習問題を解き、理解を深める</p> <p>11・12 図形の性質を明らかにするしくみについて考える。<br/>[P. 112～P. 116]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○条件に合うたこ型を作図する。</li> <li>○たこ型から等しい角を見つけ、どうすれば等しいといえるか考え、話し合う。</li> </ul> <p>★図形の性質を明らかにするしくみについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○たこ型の四角形で、1組の向かいあう角が等しいことを考え、説明する。</li> <li>○正しいことを示すのに必要なことがらを理解する。</li> <li>○あることがらについて、仮定と結論を示す。</li> </ul> | <p>・帰納的な考え方から、(多角形の辺の数)－2＝(対角線によって分けられた三角形の数)という関係に気付かせたい。</p> <p>【評】n角形の内角の和を表す式から考え方を読みとり、説明したり、内角の和を様々な視点から求めたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・内角＋外角＝<math>180^\circ</math>になることと、それらの和は内角の和＋外角の和＝<math>180^\circ \times 5</math>になること理解させた上で、n角形の場合の外角を類推させるとよい。</p> <p>・P. 107にある「1周した結果は…」を扱い、多角形の外角の和が<math>360^\circ</math>であることの理解を深めさせたい。(デジタルコンテンツあり)</p> <p>・多様な考え方があるので、どのように考えたか説明させ、それぞれの考え方のよさを確認したい。</p> <p>【評】平行線の性質や多角形の角についての性質を用いて、角の大きさを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・第1学年で学習した、対称移動、回転移動、平行移動にも触れてよい。</p> <p>・合同の用語は、小学5年で、2つの図形がぴったり重なるとき、2つの図形は合同であると指導されている。</p> <p>・≡という記号を押さえる。</p> <p>・合同な図形を記号で示すときには、対応する頂点を順に並べることを押さえる。</p> <p>・三角形を決めるためには、3つの辺の長さ、3つの角の大きさのうち、いくつ必要なのかを考えさせるとよい。</p> <p>・デジタルコンテンツを使って、視覚的に合同な三角形のかき方を理解させることもできる</p> <p>・P. 111にある「2組の辺とその間にない角だと？」を扱い、2組の辺とその間にない角が等しい場合、合同とはいえないときがあることを確認したい。</p> <p>・理解を深める問題の際には、どの合同条件を根拠にしているのか明らかにさせたい。</p> <p>【評】三角形の決定条件をもとにして、合同な三角形をかくのに必要な条件を見いだす活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・<math>\angle ABC = \angle ADC</math>, <math>\triangle ABC \equiv \triangle ADC</math>などが挙げられるが、記号で説明できない生徒も多いと考えられるため、等しい角に印を付けさせるなど工夫させるとよい。</p> <p>・仮定、結論という用語を押さえる。</p> |
|---|---|

|  |   |
|--|---|
| <p>○ 仮定から結論を導くすじ道をまとめ、整理する。</p> <p>○ 証明のしくみを理解する。</p> <p>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>13・14 三角形の合同条件を使った証明の進め方を考える。<br/>[P. 117～P. 119]</p> <p>○ 与えられた図から、等しい長さの線分を見つけ、それを示すにはどうすればよいか考える。</p> <p>★ 三角形の合同条件を使った証明の進め方について考えよう。</p> <p>○ 結論を導くためのことがらを考える。</p> <p>○ 仮定や仮定から導かれることがらを考える。</p> <p>○ 証明の流れをまとめる。</p> <p>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>15・16 図形の性質を使った問題を解き、学習のまとめをする。<br/>[P. 120～P. 123]</p> <p>★ 平行と合同、証明に関する問題を解き、学習のまとめをしよう。</p> <p>○ 4章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。</p> <p>○ 4章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。</p> | <p>・ 説明の流れが分かるように、流れ図などを利用するとよい。</p> <p>・ 証明という用語を押さえる。</p> <p>・ デジタルコンテンツを使って、視覚的に角の二等分線のかき方を理解させることもできる</p> <p>・ 等しい辺や角に印を付けさせるとよい。</p> <p>・ 対応する頂点がそろうように並べてかかせるようにする。</p> <p>・ 結論を導くために必要な条件を逆算して、証明の道筋を見つける考え方を身に付けさせたい。</p> <p>【評】 与えられた条件のもとで図をかき、そこから新たな図形の性質を見いだす活動を通して、仮定と結論の理解を深め、仮定から結論を導く方法について見通しをもつ活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。</p> <p>【評】 平行と合同、証明に関するさまざまな問題を解決する活動を通して、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】

第1学年では、図形の作図や移動を取り扱っている。また、空間における直線や面の位置関係を知り、空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されているものと捉えたり、平面上に表現したり読み取ったりしている。さらに、扇形の弧の長さと面積、基本的な柱体、錐体及び球の表面積と体積が求められるようにしている。これらの学習を通して、図形についての豊かな感覚を育み、図形についての理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する力を養ってきている。

第2学年では、三角形や四角形などの多角形の角の大きさについての性質を、数学的な推論を用いて調べることができるようにする。その際、図形をよく観察したり、作図したりする操作や実験などの活動を通して、その推論の過程を他者に伝わるように分かりやすく表現できるようにする。

## 単元名 図形の性質と証明

配当時間 19時間

- 単元の目標 (1) 直角三角形の合同条件について理解するとともに、証明の必要性和意味及びその方法について理解することができる。
- (2) 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめて具体的な場面で活用したり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりすることができる。
- (3) 図形の性質などを証明することのよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

11230202\_001

【準備等】三角定規、コンパス、いろいろな幅のリボン、折りたたみ式のテーブル

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 2つの辺の長さが等しい三角形は、いつでも2つの角の大きさが等しくなるのかを考え、単元の学習課題をつかむ [P. 124・P. 125]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンパスを使って、2つの辺の長さが等しい三角形をかいたとき、2つの角が等しくなっているのかを調べる。</li> </ul> <p>★どんな説明が証明といえるのかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>P. 125にある2つの説明が証明といえるかについて考え話し合う。</li> </ul> <p>2・3 二等辺三角形のいろいろな性質（定義、定理）を見つけ、その証明をする。 [P. 126～P. 129]</p> <p>★二等辺三角形の性質を見つけて、証明しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二等辺三角形の2つの角が等しいことを、三角形の合同条件を使って証明する。</li> <li>二等辺三角形が鈍角三角形のときに、あらためて証明が必要かどうかを考え、話し合う。</li> <li>二等辺三角形の底角についてまとめる。</li> <li>二等辺三角形で、底角が等しいこと以外の性質を考え、証明する。</li> <li>二等辺三角形の頂角の二等分線についてまとめる。</li> <li>学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>与えられた図の角の大きさについて考え、話し合う。</li> </ul> <p>4 2角が等しい三角形は二等辺三角形であることを証明する。 [P. 129・P. 130]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リボンを使って三角形を作り、その角にはどのような関係があるか考える。</li> </ul> <p>★2角が等しい三角形について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2つの角が等しい三角形は二等辺三角形であることを証明する。</li> <li>2角が等しい三角形についてまとめる。</li> <li>学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>5 命題の逆とその真偽を考える。 [P. 131・P. 132]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あることがらの仮定と結論を入れ換え、もとのことがらと意味が変わることを理解する。</li> </ul> <p>★仮定と結論を入れかえたことがらについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>命題の逆について、正しい場合と正しいとは限らない場合があることを理解する。</li> <li>学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>6 正三角形の性質を見つけ、その証明をする。 [P. 132～P. 134]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正三角形の定義について理解する。</li> </ul> <p>★正三角形とその性質について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正三角形は二等辺三角形の特別なもので、二等辺三角形の性質をもつことを確認する。</li> <li>学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>特別な場合の二等辺三角形について考え、話し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>正三角形に近い三角形になったときでも、長さが等しい2つの辺に記号を付けるなどして二等辺三角形であることを意識させたい。</li> <li>作図した図形を実際に折らせて、気付いたことを発表させてもよい。</li> <li>2つの説明がどんな三角形でも成り立つ説明にはなっていないので、証明とはいえないことに気付かせたい。</li> </ul> <p>【評】どんな説明が証明といえるのかを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>証明されたことがらは、どんな二等辺三角形にもいえることを押さえる。</li> <li>定義という用語を押さえる。</li> <li>頂角、底辺、底角という用語を押さえる。</li> <li>定理という用語を押さえる。</li> <li>証明の流れの中で、なぜ辺や角の大きさが等しいのか一つ一つ根拠を述べさせたい。</li> </ul> <p>【評】二等辺三角形の性質を証明する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>比較する三角形は、どの三角形とどの三角形が合同といえるかを見付けさせるとよい。</li> </ul> <p>【評】二等辺三角形の性質を調べ、その証明の仕方について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>逆という用語を押さえる。</li> <li>反例という用語を押さえる。</li> <li>命題が正しくないことを示すには、反例を1つでも示せばよいことを確認する。</li> <li>小学校以来扱っていないので、二等辺三角形と正三角形の包摂関係について、丁寧に説明する。</li> <li>二等辺三角形の定理は、すべて正三角形についてもあてはまることを押さえる。</li> <li>二等辺三角形は、頂角や底角が<math>60^\circ</math>のときに正三角形になることを押さえる。</li> </ul> |



|  |  |
|--|--|
| <p>○二等辺三角形についての練習問題を解き、理解を深める</p> <p>7・8 直角三角形が合同になる条件を考え、それを利用していろいろな図形の性質を証明する。[P. 135～P. 138]</p> <p>○斜辺と1つの鋭角がそれぞれ等しい2つの直角三角形について、どうすれば合同であるといえるか考える。</p> <p>★2つの直角三角形は、どんな場合に合同になるかを考えよう。</p> <p>○斜辺と他の一辺がそれぞれ等しい2つの直角三角形について、どうすれば合同であるといえるか考える。</p> <p>○2つの三角形を裏返して辺を重ねた三角形はどんな三角形になるか考え、話し合う。</p> <p>○直角三角形の合同条件をまとめる。</p> <p>○直角三角形の合同条件を使った証明をする。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○直角三角形の合同についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>9・10 平行四辺形の定義を知り、その性質について考え、それを証明する。[P. 139～P. 142]</p> <p>○算数で学んだ平行四辺形の特徴について話し合う。</p> <p>★平行四辺形の性質を証明しよう。</p> <p>○平行四辺形の定義と性質についてまとめる。</p> <p>○平行四辺形の性質が成り立つことを証明する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○平行四辺形の性質についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>11・12 平行四辺形になるための条件を調べ、その性質を証明する。[P. 143～P. 146]</p> <p>○条件に合う四角形を作図し、どのような四角形になるか考える。</p> <p>★平行四辺形になるための条件について考えよう。</p> <p>○平行四辺形の性質の逆について証明し、条件となることを見いだす。</p> <p>○罫線の入ったノートに条件に合う手順で四角形を作図したとき、平行四辺形になるかどうかを考える。</p> <p>○平行四辺形になるための条件についてまとめる。</p> <p>○四角形で、ある1辺の長さが何cmになるかについて考え話し合う。</p> <p>○与えられた条件から、図の中の四角形がどのような四角形であるか予想し、証明する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>13・14 長方形、ひし形、正方形の定義を理解し、それらの包摂関係について考える。[P. 147～P. 149]</p> <p>○いろいろな幅のリボンを重ねてできる四角形について観察し、どんな四角形ができるか話し合う。</p> <p>★いろいろな四角形の性質について考えよう。</p> <p>○長方形、ひし形、正方形の定義を確認する。</p> <p>○ひし形や正方形は平行四辺形といえるかについて考え、話し合う。</p> <p>○四角形の対角線の性質についてまとめる。</p> <p>○ある条件が加わった平行四辺形は、どんな四角形になるか考える。</p> | <p>・P. 134にある「折り紙で正三角形をつくろう」を扱い、正三角形の性質の理解を深めたい(デジタルコンテンツあり)</p> <p>・斜辺という用語を押さえる。</p> <p>・直角三角形において、2つの角が分かっているため、もう1つの角も決定できることに気付かせる。</p> <p>・既習の三角形の合同条件を適用できることを確認する。</p> <p>・2つの三角形を裏返して辺を重ねると、二等辺三角形の底角が等しいことを根拠として、直角三角形の合同条件を導くことができることに気付かせる。</p> <p>・向かいあった2つの辺が平行で、2つの角が等しいことを確認する。</p> <p>・平行四辺形の定義と性質に分けて、板書するとよい。</p> <p>・定義と性質を混同しないように注意する。</p> <p>・平行四辺形ABCDを記号を使って、表現できることを押さえる。</p> <p>・P. 142にある「ミウラ折り」を扱い、平行四辺形の性質を利用して大きな発明がされたことを知らせ、図形への関心を深めさせたい。</p> <p>【評】平行四辺形の定義や性質を、記号を用いて表したり、辺の長さや角の大きさを求めたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・実際に図を丁寧にかかせることで、どんな四角形になるのか考えさせると同時に、得られる情報を確実に理解できるようにしたい。</p> <p>【評】いろいろな方法でかいた四角形が平行四辺形であることの原因をまとめ、平行四辺形になる条件について理解を深める活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・実際に作業する際に、できるだけ幅の違うリボンを用意するといろいろな種類の四角形を見つけやすい。</p> <p>【評】どんな四角形であるかいろいろな幅のリボンを重ねる作業を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・どの平行四辺形になる条件を根拠としているのかについても考えさせる。</p> <p>【評】平行四辺形に条件を付け加えると、どんな四角形になるかを見いだす活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|--|

|  |  |
|--|--|
| <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>15・16 底辺を共有する2つの三角形で、底辺と頂点を結ぶ直線が平行である場合の面積について考える。[P.150・P.151]</p> <p>○対角線の引かれた平行四辺形の中で面積の等しい三角形を考える。</p> <p>★面積を変えずに、図形の形を変える方法について考えよう。</p> <p>○底辺と高さが等しくなれば、面積が等しくなることを理解する。</p> <p>○底辺が共通な三角形についてまとめる。</p> <p>○四角形ABCDと△ABEの面積が等しい理由について考え、話し合う。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○平行線と面積についての練習問題を解き、理解を深める</p> <p>17 折りたたみ式テーブルやふみ台のしくみを考える。[P.152・P.153]</p> <p>○折りたたみ式テーブルの板と床がいつも平行になる理由を考える。</p> <p>★四角形の性質を利用して、身のまわりの問題を解決しよう。</p> <p>○テーブルを真横から見た図を使って、平行になる理由を証明する。</p> <p>○折りたたみ式のふみ台についても、足をのせる2つの板が平行になる理由について考え、話し合う。</p> <p>18・19 いろいろな図形の性質を使った問題を解き、学習のまとめをする。[P.154～P.157]</p> <p>★いろいろな図形の性質を使って問題を解き、学習のまとめをしよう。</p> <p>○5章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。</p> <p>○5章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。</p> | <p>・P.149にある「ユークリッドの原論」を扱い紀元前300年ごろには平行四辺形の性質がすでにまとめられていたことに触れ、数学の奥深さに関心をもたせたい。</p> <p>・△ABCと△DBCの面積が等しい場合は、<math>\triangle ABC = \triangle DBC</math>で表すことを押さえる。</p> <p>・合同の記号（≡）との違いを確認するとよい</p> <p>・平行線ではさまれた2つの三角形を模様などで分けて示すと、理解しやすい。</p> <p>【評】面積が等しい図形について、等積変形の考え方を根拠にして説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・具体物が用意できれば、具体物を操作して、平行になる様子を観察させて考えさせたい。</p> <p>・これまでに学習した四角形の性質を確認する</p> <p>【評】身のまわりに存在する平行四辺形について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。</p> <p>【評】図形の性質に関するさまざまな問題を解決する活動を通して、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】

三角形の合同条件を使って、図形の性質を演繹的に確かめ、論理的に考察し表現する力を養うことをねらいとしている。

小学校算数科において、第3学年では二等辺三角形の性質について、また、第4学年では平行四辺形の性質について、それぞれ図形の角や辺に着目し、実験、実測、観察などによって調べてきている。

中学校第2学年では、数学的に推論することによって、図形の性質を調べることができるようにする。さらに、調べる過程やその結果について説明し伝え合う活動を通して、適切に表現できるようにする。

## 単元名 場合の数と確率

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解し、簡単な場合について確率を求めることができる。  
 (2) 同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現したり、確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現したりすることができる。  
 (3) 場合の数をもとにして得られる確率のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

11230301\_001

【準備等】さいころ，電卓，コイン（10円硬貨），カードなど

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 1つのさいころを投げたときに出る目の事象を考え、どの事象がもっとも起こりやすいかを考える。[P. 158・P. 159]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1つのさいころを投げたとき、どんな目が出やすいのかについて考え、話し合う。</li> <li>★ 1の目が出る起こりやすさを調べよう。</li> <li>○ ペアやグループで1つのさいころを投げ、1の目が出た回数を記録する。</li> <li>○ 1の目が出た相対度数を求め、グラフに表す。</li> <li>○ 求めた相対度数はどんな値に近づいているか話し合う。</li> <li>○ 実験する他に、確率を求める方法はないか話し合う。</li> </ul> <p>2 場合の数から確率を求めることを考える。[P. 160～P. 162]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場合の数から、1の目が出る確率を求め、実験の結果と比較する。</li> <li>★ 実験によらない確率の求め方を考えよう。</li> <li>○ 確率の求め方についてまとめる。</li> <li>○ 玉を取り出すときの場合の数について考える。</li> <li>○ 玉を取り出すときの確率を求める。</li> <li>○ 確率の値の範囲について理解する。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○ 場合の数をもとにして求めた確率の意味について考え、話し合う。</li> <li>○ 確率の求め方についての練習問題を解き、理解を深める</li> </ul> <p>3 いろいろなことがらの場合の数を、もれや重なりがないように、順序よく整理して数え上げる方法を考える。[P. 163]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内放送でA、B、Cの3曲を流すとき、曲順には、どんな場合があるか考える。</li> <li>★ 場合の数を、もれや重なりがないように数えよう。</li> <li>○ 考えられるすべての場合を順序よく整理する方法を見いだす。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>4～6 いろいろな場合の起こる確率を求める。[P. 164～P. 166]</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場合の数が多いものに着目させるとよい。</li> <li>・ 正確な値に近づけるために、学級全体の記録を合計し、大きなデータにしてから相対度数を求めるようにする。</li> <li>【評】 1つのさいころを投げる実験から、ある事象の起こりやすさを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</li> <li>・ 同様に確からしいという用語を押さえる。</li> <li>・ 赤1～4，黄1～2，青1～3の起こりうる場合が9通りあることを確認する。</li> <li>・ 確率の問題を考える際には、起こりうる場合9個の玉はどれも手触りや重さが同じであり箱から取り出すとき、どの色の玉を取り出すのも同様に確からしいということに留意させたい。</li> <li>・ 青玉または黄玉については「または」の部分について起こりうる場合の確認をしたい。</li> <li>【評】 確率の求め方，確率の範囲について理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 曲順は自由に生徒に書かせてみるが、その後もれや重なりがないようにするためにはどのような工夫がいるのか考えさせる。</li> <li>・ 年次ごとに、電卓を使って計算させる。</li> <li>・ 樹形図という用語を押さえる。</li> <li>・ デジタルコンテンツを使って、視覚的に図を使った場合の数の考え方を理解させることもできる。</li> <li>・ 委員を選ぶ際に、選ばれる順番を考えるのではなく、2人の組み合わせを考えることに注意したい。</li> <li>・ チームの対戦なので、{AとB}と{BとA}という組み合わせは同じであることを押さえる。</li> <li>・ リーグ表を使って視覚的にも確認させたい。</li> <li>【評】 起こりうる場合を順序よく整理し、過不足なく数える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |

7]

★いろいろな確率を求めよう。

○ 2 枚の硬貨を投げるときの確率を考える。

○ 2 枚の硬貨を投げたときの表裏の出かたに対するけいたさんの解答について考え、話し合う。

○ 樹形図を使つての確率の求め方を知り、理解を深める。

○ 3 枚の硬貨を同時に投げるときの確率を考える。

○ 2 つのさいころを同時に投げるときの確率を考える。

○ ある事象が起こらない確率を理解する。

○ 2 枚のカードの組を取り出すときの確率を理解する。

○ 学習したことがらをを使って問題を解く。

7 くじ引きで、順番によってあたりやすさに違いがあるかどうか考える。[P. 168・P. 169]

○ 5 本のうち、あたりが 2 本入っているくじで、二人が順番に 1 本ずつひくとき、あたりやすさに違いがあるか考える。

★くじ引きでは、あたりやすさに違いがあるか考えよう。

○ 二人のあたりやすさを、確率を求めて比べる。

○ あたりの本数が異なるくじでも同じ結果になるか考える

○ くじをひく人が三人になった場合について考え、あたりやすさに違いがあるかどうかを話し合う。

○ 学習したことがらをを使って問題を解く。

8 確率に関する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 170・P. 171]

★確率の問題を解き、学習のまとめをしよう。

○ 6 章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。

○ 6 章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。

・ 2 枚の硬貨を A, B と区別して考えさせる。

・ 起こりうる場合が 4 通りになることを確認する。

・ 4 通りの起こりうる場合がどれも同様に確からしいことを確認する。

・ 「2 枚とも表」、「1 枚表で 1 枚裏」、「2 枚とも裏」の 3 通りでは、同様に確からしいとはいえないことを確認する。

・ 樹形図の使い方に不慣れな生徒もいるので、硬貨の表を○にするなどして、簡単に表すことができるように丁寧に指導したい。

・ 「少なくとも」という表現の意味を、教科書本文の内容に沿って理解させたい。

・ 表を使って、2 つのさいころを投げたときに起こりうる目の出かたの場合の数が 36 通りになることを確認する。

・ 2 つのさいころを A, B と区別して考えさせる。

・ 「違った目が出る確率」とは、「1－(同じ目が出る確率)」という余事象の考え方も押さえる。

・ 表を使ったり、数えあげたりして、問題解決させる。

【評】簡単な事象について、樹形図や表などを用いて確率を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・ ひいたくじはもとにもどさないことを押さえておく。

・ あたりくじを①, ②, はずれくじを 3, 4, 5 と区別し、樹形図で表すとよい。

【評】くじ引きの問題について、あたりの本数やくじをひく人数などの、条件を変える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する

・ 「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。

【評】確率に関するさまざまな問題を解決する活動を通して、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。

## 【 備 考 】

第 1 学年において、相対度数は、全体（総度数）に対する部分（各階級の度数）の割合を示す値で、各階級の頻度とみなされることが、多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することなどを学習している。

第 2 学年では、これらの学習の上に立って、同様に確からしいことに着目し、確率を求める方法を考察するとともに、確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができるようにする。

## 単元名 箱ひげ図とデータの活用

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 箱ひげ図や四分位範囲の必要性和意味を理解したり、コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し、箱ひげ図で表したりすることができる。
- (2) 箱ひげ図や四分位範囲を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。
- (3) 箱ひげ図や四分位範囲のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

11230302\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| <p>1 インターネットの契約をする会社を検討する場面で、通信速度の測定結果を示す図がどのようなことを表しているかを考える活動を通して、単元の学習課題をつかむ。[P. 172・P. 173]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通信速度の測定結果の図で、A社の図が表していることを考える。</li> <li>★図とデータを比較して、図が何を表しているか考えよう</li> <li>A社のデータから、最大値、最小値、中央値を求め、図と比較する。</li> <li>A社の図が表していることについて考え、話し合う。</li> </ul> <p>2 箱ひげ図について学び、データの分布のようすをくらすやすくする方法を考える。[P. 174～P. 176]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★箱ひげ図について考えよう。</li> <li>前時で考えたA社のデータから、四分位数について理解する。</li> <li>他の会社のデータから、四分位数を求める。</li> <li>学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>3 四分位範囲について学び、データの散らばりについて考える。[P. 176～P. 178]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★四分位数をもとにして、データの散らばりを調べよう。</li> <li>A社の通信速度の四分位範囲を考える。</li> <li>学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>A～D社の四分位範囲と範囲を見て、どの会社を選ぶべきかについて考え、話し合う。</li> </ul> <p>4・5 データを活用して問題を解決する。[P. 179～P. 180]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>20年ごとの7月の日最高気温を比較する場面で、それぞれの箱ひげ図から読み取れることを考える。</li> <li>★箱ひげ図を読みとろう。</li> <li>箱ひげ図と表から読み取れることを考える。</li> <li>箱ひげ図の一部を見て、説明が正しいかどうかについて考え、話し合う。</li> <li>箱ひげ図全体から、今後の気温の傾向について考え、話し合う。</li> </ul> <p>6・7 箱ひげ図に関する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 181～P. 183]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★箱ひげ図の問題を解き、学習のまとめをしよう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>最大値、最小値、中央値については、第1学年までに学習している。</li> <li>【評】新たな図の意味を分析する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</li> <li>四分位数という用語を押さえる。</li> <li>A社のデータを使って、第1～3四分位数がどこを表すのか、丁寧に説明したい。</li> <li>これまでに学んだ中央値が第2四分位数であることを押さえる。</li> <li>箱ひげ図という用語を押さえる。</li> <li>箱ひげ図は、複数のデータを比較するときに便利であることを押さえる。</li> <li>四分位範囲という用語とその求め方を押さえる。</li> <li>範囲は第1学年で学習している。</li> <li>四分位範囲は、箱ひげ図の箱の部分の範囲であることを図で示すとよい。</li> <li>四分位範囲のよさを知らせるとともに、最大値と最小値の差である範囲だけではどの会社がよいか判断ができないことに気付かせたい</li> <li>P. 178にある「箱ひげ図のよさ」を扱い、縦向きの箱ひげ図にも触れさせたい。(デジタルコンテンツあり)</li> <li>【評】箱ひげ図や四分位範囲をもとに、複数のデータの比較をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>日最高気温は、その日のもっとも高い気温であることを押さえる。</li> <li>個人追究の後、グループや全体場で意見を交流させる中で、他者の意見に対して批判的に考察させ、自分なりに判断させたい。</li> <li>箱ひげ図のひげの部分だけでは、正確な説明をすることができないことに気付かせたい。</li> <li>P. 180にある「コンピュータを使って」を扱い、コンピュータを使ったデータの活用についても理解を深めさせたい。(デジタルコンテンツあり)</li> <li>【評】箱ひげ図から読み取ったことを説明し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

- 7 章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み，理解を深める。
- 7 章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み，理解を深める。

- ・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。

【評】箱ひげ図に関するさまざまな問題を解決する活動を通して，「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。

・ P. 183にある「箱ひげ図から読みれないこと」を扱い，目的に応じて箱ひげ図とヒストグラムを使い分けることが大切であることを確認する。

#### 【 備 考 】

第 1 学年では，ヒストグラムや相対度数などについて学習している。

第 2 学年では，これに加えて四分位範囲や箱ひげ図を学習することで，複数の集団のデータの分布に着目し，その傾向を比較して読み取り，批判的に考察して判断する力を養う。

単元名 オリエンテーション

配当時間 1時間

単元の目標

## 標準的な展開例

12230101\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど   |
|---|---|
| <p>1 数学が社会の中でいかに用いられているか、数学を学ぶ必要性や学び方を理解したり、学ぶことの楽しさを実感したりする。</p> <p>★これから学ぶ数学について理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表紙裏の「この本の構成と使い方」を見て、これからの学習について知る。</li> <li>○第3学年の学習内容のあらましを読んで、学習を見通す</li> <li>○「この本の構成と使い方」を基に、これまでの学習の仕方について振り返り、より能率的な学習方法を進める方法を考え理解する。</li> <li>○既習の問題を解き、定着度を自己評価する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目次を基に、第1学年、第2学年とのつながりについても簡単に触れる。</li> <li>・「みんなで学ぼう編」、「自分から学ぼう編」の仕組みについても触れ、今後の学習方法の概要を説明する。</li> <li>・既習の問題を解く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

日常生活や社会で数学が用いられていることや数学の歴史・発見物語・エピソードなど、興味・関心をひく話題を提示し、数学を学習することの意義や必要性を実感させ、学習意欲を高めるための工夫としたい。

また、第1学年、第2学年に引き続き、既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだし、発展させる活動（数学的活動）を取り入れ、楽しみながら取り組んでいくことにも触れるようにする。さらに、これまでの学習について振り返り、中学校卒業後の進路も踏まえ数学をより能率的に学べるように考える位置付けとしたい。

なお、学び方については、内容が抽象的にならないように要点を押さえて具体的に話をすることが大切である。

## 単元名 式の展開と因数分解

配当時間 19時間

単元の目標 (1) 単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすることができたり、簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができたり、  
 (2) 既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解する方法を考察し表現することができたり、文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明することができたりする。  
 (3) 式の展開や因数分解をすることのよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

12230102\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 トランプマジックのしくみを考える場面で、選んだカードにかかれた数字が分かる理由を考える学習を通して、単元の学習課題をつかむ。[P.10・P.11]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カードの数字が8と3の場合について手順に従い、実際に計算する。</li> </ul> <p>★トランプマジックのしくみを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カードに書かれた数字のきまりについて考え、話し合う</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>カードに書かれた数字を、図を使って説明する方法を考え、発表する。</li> <li>2枚のカードの数を文字でおき、これからの学習について見いだす。</li> </ul> <p>2 多項式と単項式の乗法、除法の計算方法を理解し、その計算をする。[P.12・P.13]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長方形の花だんの面積を文字式で表す。</li> </ul> <p>★多項式と単項式の乗法、除法について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多項式と単項式の乗法の計算方法を既習事項を基に考え理解する。</li> <li>多項式と単項式の除法の計算方法を既習事項を基に考え理解する。</li> <li>学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>3・4 多項式どうしの乗法の計算方法を考え、その計算をする。[P.14・P.15]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長方形の花だんの面積を文字式で表す。</li> <li>学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>★多項式どうしの乗法の計算をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分配法則を使って式を展開する方法を考え、理解する。</li> <li>展開した式に同類項がある場合の計算方法を考え、理解する。</li> <li>2つの文字を含む、やや複雑な式を展開する方法を考え理解する。</li> <li>二項式と三項式の積を展開する方法を考え、理解する。</li> </ul> <p>5 乗法の公式を帰納的に類推させることで導き、その公式を使って式の展開をする。[P.16]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><math>(x+a)(x+b)</math>を展開した式から、<math>x</math>の係数や数の項の特徴を考える。</li> <li>★<math>(x+a)(x+b)</math>の展開について考えよう。</li> <li>面積図を基に乗法の公式を導く。</li> <li>乗法の公式を使って式を展開する方法を考え、理解する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>カードに書かれている数を変えて計算していくうちに、帰納的にきまりがあることに気付かせていくようにする。</li> <li>デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。</li> <li>【評】数の性質にまつわるきまりを見いだす活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>他にもこのようなきまりがあるのだろうかというような数の計算への興味・関心をもたせて、これからの学習の動機付けを行う。</li> <li>文字式への興味・関心をもたせて、これからの学習の動機付けを行う。</li> <li>多項式と単項式の乗法は、第3学年における式の学習の中心である多項式の乗法の前段階として位置付けられているので、十分な定着を図らせたい。</li> <li>いろいろな答えを発表させる中で、そのいずれもが正しいことから数の乗法と同じように分配法則が成り立つことに気付かせる。</li> <li>第1学年で学んだ(多項式)÷(数)と対比させて同じように計算できることを確認させる。</li> <li>花だんの面積をいろいろな式で発表させることで、展開の意味をとらえさせるようにする</li> <li>分配法則を繰り返し使えば展開できることを押さえる。</li> <li>展開という用語を押さえる。</li> <li><math>c+d</math>を1つのものとしてみるだけでなく、<math>a+b</math>に注目してもよいことに留意する。</li> <li>展開の仕方が同じでも、同類項がある場合は同類項をまとめて簡単にすることを押さえる</li> <li>計算に慣れたときには、文字の置き換えをせずに、左から順にかけ合わせて導くことができることを押さえる。</li> <li>□に入る数が負の数になることもあることに注意させる。</li> <li>デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。</li> <li>【評】公式を帰納的に類推する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li><math>x</math>の係数は2数の和、数の項は2数の積になることをつかませ、能率的に問題が解けるようにさせる。</li> </ul> |



- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 6 平方の公式や和と差の積の公式を使った式の展開について考え、その計算をする。[P. 17・P. 18]
  - ★平方の公式や和と差の積の公式を利用して式の展開について考えよう。
  - 面積図を基に、平方の公式を導く。
  - 平方の公式を使って式を展開する方法を考え、理解する
  - 面積図を基に和と差の積の公式を導く。
  - 和と差の積の公式を使って式を展開する方法を考え、理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 7 これまでに学んだ乗法の公式を使って、式を簡単にすることを考え、式の展開についてまとめる。[P. 18～P. 20]
  - これまでに学んだ乗法の公式をまとめる。
  - ★これまでに学んだ乗法の公式を使って式の計算をしよう
  - これまでに学んだ乗法の公式を使って、式を簡単にする方法を考える。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 乗法の公式についての練習問題を解き、理解を深める。
- 8 多項式を因数の積に表すことを考える。[P. 21・P. 22]
  - 多項式を因数の積に表すとどのようになるかを考える。
  - 因数分解について、その意味を理解する。
  - ★共通因数をくくり出して、因数分解しよう。
  - 共通因数をくくり出して、式を因数分解する方法を考え理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 9～11 乗法の公式を利用して因数分解する方法を考え、その計算をする。[P. 22～P. 25]
  - ★乗法の公式を利用して因数分解しよう。
  - 和と差の積を使って式を因数分解する方法を考え、理解する。
  - 平方の公式を使って式を因数分解する方法を考え、理解する。
  - $(x+a)(x+b)$ の展開の公式を使って式を因数分解する方法を考え、理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - これまでに学んだ因数分解の式をまとめる。
- 12・13 共通因数をくくり出して、さらに因数分解することや、置き換えを使った因数分解について考え、因数分解についてまとめる。[P. 26・P. 27]

- ・「 $x$ の2乗、たして $\Delta$ 、かけて $\square$ 」のように口頭で展開の練習をさせてから書かせてもよい。
- ・デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。
- ・一つの形を学んだら、それとよく似た形についても同様の手法で解決できるという見方ができるようにさせる。
- ・分数をふくむ係数の場合には、特に $2ab$ の項の部分の計算に注意する必要があることを押さえる。
- ・デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。
- ・P. 10のトランプマジックについて振り返らせる。
- ・第2項以降を展開する場合は、かつこの中で計算すると誤りが少ないことを押さえる。
- ・慣れていない生徒にも分かるよう、乗法の公式を視覚化させるなどの工夫をするとよい。
- 【評】乗法の公式を用いて多項式の展開の計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・P. 20にある「公式から公式を導く」を扱い、公式どうしが互いに関連していることを伝えたい。(デジタルコンテンツあり。)
- ・展開したものと積の形をしたものを数種類並べて等しいものを探すことにより、式の展開の逆が因数分解になることに気付かせる。
- ・因数、因数分解という用語を押さえる。
- ・慣れていない生徒にも分かるよう、乗法の公式を視覚化させるなどの工夫をするとよい。
- ・因数分解をする際には、まず最初に共通な因数に注目することが基本であることを押さえる。
- ・文字だけでなく数も共通因数になることに注意させる。
- 【評】共通因数をくくり出す活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・乗法の公式は、左辺と右辺を取りかえて、因数分解に利用することができることを確認する。
- ・慣れていない生徒にも分かるよう、因数分解の公式を視覚化させる工夫をするとよい。
- ・定数の項が積 $ab$ になることから、2数 $a$ 、 $b$ を見付ければよいことに気付かせる。
- ・積が正、負の場合に2数 $a$ 、 $b$ が同符号か異符号になる組み合わせを見付ければよいことに気付かせる。
- 【評】乗法の公式を用いて因数分解の計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する
- ・P. 25にある「素因数分解」を扱い、素因数分解の方法や、1より大きい素数でない自然数は、ただ一通りに素因数分解することができことを伝えたい。(デジタルコンテンツあり)

|   |  |
|---|--|
| <p>★これまでに学んだことを使っていろいろな式を因数分解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共通因数をくくり出し、さらに因数分解する方法を考える。</li> <li>○ 置き換えを使って式を因数分解する方法を考える。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○ 複雑な式の因数分解について話し合う。</li> <li>○ 因数分解についての練習問題を解き、理解を深める。</li> </ul> <p>14 隊列の変化を見ている場面で、連続する偶数の積に1をたした数のきまりを、文字式を利用して考える。[P. 28～P. 30]</p> <p>★式の計算を利用して、隊列が変化するしくみを解決しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <math>4 \times 6 + 1 = 5 \times 5</math>の式がどんな数量の関係を表した式か考えを話し合う。</li> <li>○ 連続する2つの偶数の積に1をたした数がどんな数になるか予想する。</li> <li>○ 予想が正しいか証明する。</li> <li>○ 他にはどんなことがいえるかを考える。</li> <li>○ 連続する2つの奇数の積に1をたすとどんな数になるかを考え、式の計算を使って証明する。</li> </ul> <p>15 これまでに学んだ式の展開や因数分解を利用して、数の計算を簡単にする方法や式の値を計算する方法を考える。[P. 30・P. 31]</p> <p>★因数分解や式の展開を利用して、数の計算をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 因数分解を利用して簡単に計算できる方法を考え、理解する。</li> <li>○ 展開を利用して簡単に計算できる方法を考え、理解する。</li> <li>○ 式を簡単にしてから代入して、式の値の計算をする方法を考える。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>16 式の計算を利用して、数の性質を調べる。[P. 31・P. 32]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道の面積と、道の真ん中を通る円周の長さと道幅の積をそれぞれ計算して比べる。</li> </ul> <p>★式の計算を利用して、図形の性質を証明しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図形の性質を証明する方法を考える。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>17 式の計算を利用して、数の性質を調べる。[P. 33]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一の位の数が5である2けたの自然数の2乗を筆算で計算する。</li> </ul> <p>★数の筆算からきまりを見付け出そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ きまりについて考え、話し合う。</li> <li>○ 予想の正しさを式の計算を使って証明する。</li> </ul> <p>18・19 式を展開や因数分解に関する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 34～P. 37]</p> <p>★式の展開や因数分解などについてまとめ、問題に取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。</li> <li>○ 1章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展開の場合と同様に、共通部分を一つの文字に置き換えるという考え方を利用させると共通因数を見付けやすいことを知らせる。</li> </ul> <p>【評】乗法の公式を用いて因数分解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までに得た知識を基に、文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明することができるようにし、そのよさや必要性についての理解を一層深めるため、単に説明が書けることだけではなく、その内容を相手に分かりやすく伝えることにも注意する。</li> </ul> <p>【評】数の性質にまつわるきまりの正しさを考える活動を通して、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字を使用することで、数の性質を知ることができることを通して、数学的な見方・考え方の有効性を感じ取らせる。</li> <li>・ 実際に筆算をして比較することで、よさを分からせる。</li> <li>・ 直接代入して、計算の煩雑さを比較してみるとよい。</li> <li>・ ことばの式を文字式で表し、それを展開を用いて簡単にすることによって解決する流れをつかませる。</li> </ul> <p>【評】文字式を用いて図形の性質を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P. 33にある「計算のしくみ」を扱い、類推によって新しい性質を見付け、帰納的に法則を推定し、それを証明するという手順を身に付けさせる。（デジタルコンテンツあり。）</li> <li>・ いろいろな自然数で、きまりを確かめさせてもよい。</li> </ul> <p>【評】文字式を用いて整数の性質を説明する活動を通して、「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。</li> </ul> <p>【評】式の展開や因数分解する活動を通して、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】  
第2学年では、文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力を養うとともに、簡単な整式の加法・減法、単項式の乗法と除法の計算について学習している。また、数量や数量の関係を捉え説明するのに文字を用いた式が活用できることや、目的に応じて簡単な式を変形することについて学習している。

第3学年では、これらの学習の上に立って、単項式と多項式の乗法、多項式を単項式で割る除法及び簡単な一次式の乗法の計算ができるようにする。さらに、公式を用いる簡単な式の展開と因数分解を取り扱い、これによって、文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明する力を養うようにする。

## 単元名 平方根

配当時間 16時間

単元の目標 (1) 数の平方根の必要性和意味を理解し、数の平方根を含む簡単な式を計算することや、具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすることができる。  
 (2) 既に学習した計算の方法と関連付けて、数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現したり数の平方根を具体的な場面で活用したりすることができる。  
 (3) 平方根のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

12230103\_001

【準備等】ものさし（定規），電卓

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど   |
|---|---|
| <p>1 いろいろな正方形をかき、その面積から一辺の長さを考える活動を通して、単元の学習課題をつかむ。[P. 38～P. 40]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○方眼にいろいろな正方形をかく。</li> <li>○正方形の面積から1辺の長さについて、どんなことがいえるか話し合う。</li> </ul> <p>★2乗するとaになる数を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2乗するとaになる数を考える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平方根の意味を理解し、いろいろな数の平方根を求める</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>2 2乗するとaになる数について考え、その数を表す。[P. 41・P. 42]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○正方形の面積から、1辺の長さがどんな数になるか考える。</li> </ul> <p>★平方根の意味をつかみ、平方根を求めたり根号を用いて表したりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平方根を根号を用いて表す方法を理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○根号を使わなくても表せる数があることを考え、理解する。</li> <li>○記号±を使って平方根を表す方法を理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>3 平方根の大小関係について考える。[P. 42・P. 43]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○面積の大小関係から、1辺の長さの大小がどうなるか考える。</li> </ul> <p>★平方根の大小について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○正の数の平方根の大小について考え、理解する。</li> <li>○平方根の大小についてまとめる。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平方根についての練習問題を解き、理解を深める。</li> </ul> <p>4 電卓を使って平方根のおよその値を求める。[P. 44・P. 45]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○正方形の1辺の長さを測る。</li> </ul> <p>★平方根の値について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○根号を使って表した数の、およその値を求める方法を考える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○電卓を用いて近似値を求める方法を理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒それぞれが自由にかいたものを基に発表し合うことで、「1辺の長さ」が正確に表せない場合があることに気付かせることよい。</li> </ul> <p>【評】かいた正方形の1辺の長さを考える活動を通して、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に向かう態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物では正の数にだけ着目することが多いため、正の数、負の数のそれぞれがあることを生徒自ら見いださせたい。</li> <li>・平方根という用語を押さえる。</li> <li>・「0の平方根は0だけである」という根拠として、「<math>x^2=0</math>」となる数xが0以外には存在しないことを理解させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記号√の読み方、根号という用語を押さえる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の図のように、コンパスでその長さを写しとることで、数直線上に表される1つの数であることを実感させる。</li> <li>・既習の平方根の意味や記号√の意味に基づいて、丁寧に説明する。</li> </ul> <p>【評】平方根を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年で学習した正の数・負の数の大小関係を簡単に復習してから取り組ませるとよい</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けた数の多い小数の2乗の計算を繰り返していけば、より近い値を求めることができることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】平方根の近似値を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。</li> <li>・根号をふくむ数も整数や分数と同じように数直線上に示されることを押さえることで、平方根の数としての理解を深めるようにする。</li> <li>・P. 45にある「平方根の値の覚え方」を扱い、</li> </ul> |

5 いろいろな数や小数について調べ、有理数と無理数について理解する。[P. 46・P. 47]

- ★有理数と無理数について考えよう。
- 有理数と無理数についてその意味を考え、理解する。
- 分数を小数で表し、その形によって分類する。

- 無限小数と循環小数についてその意味を考え、理解する
- 数を分類し、まとめる。

6 測定などによって得られた数の表し方について理解する [P. 48・P. 49]

- 線分の長さをmmの位まで測る。

- ★長さなどの測定して得られた値について考えよう。
- 近似値と誤差の意味を理解する。

- 真の値の範囲について考え、理解する。
- 有効数字の意味と有効数字をはっきりさせた表し方を理解する。

- 学習したことがらを使って問題を解く。

7 根号をふくむ式の乗除について考え、その計算をする。 [P. 50～P. 52]

- 縦と横がともに根号を含む数である長方形の面積の求め方を考え、正しいかどうかを確かめる方法を考え、話し合う。

- ★根号をふくむ式の乗法、除法について考えよう。

- $\sqrt{\quad}$ のついた数の積と商についてまとめる。
- 根号のついた数の積と商を考え、理解する。

- 根号の外にある数を、根号の中に入れてまとめる方法を考え、理解する。
- 学習したことがらを使って問題を解く。

8 根号のついた数とそうでない数との積の表し方や、素因数分解を使って、根号の中を簡単な数にすることを考える [P. 53・P. 54]

- ★素因数分解を利用して、 $\sqrt{\quad}$ の中をできるだけ簡単な数にしよう。

- 根号の中の数に因数としてふくまれている平方数を見付け、それを根号の外に出して、根号の中を簡単にする方法を考え、理解する。

- 素因数分解を使って、根号の中を簡単な数にする方法を考え、理解する。

- 工夫して積を計算する方法を考え、理解する。

- 学習したことがらを使って問題を解く。

9 分母に根号をふくむ分数と分母が有理数でそれに等しい分数があることを見いだす。 [P. 54]

- 分母に根号をふくむ分数と、分母が有理数でそれに等しい分数があることを既習事項を基にして考える。

- ★分母を根号を含まない形にすることについて考えよう。

- 分母を有理化する方法を考える。

- 学習したことがらを使って問題を解く。

10 これまでに学んだことを使って、根号をふくむ式の値を求める。 [P. 55]

- ★ $\sqrt{\quad}$ をふくむ式の値を求めよう。

- 根号をふくむ式の値を求める方法を考える。

- 学習したことがらを使って問題を解く。

平方根の近似値の見当をつけることは今後の学習の中でも大切なことを伝えたい。

- ・有理数や無理数の意味にふれることで、分数で表すことができる数とそうでない数という観点から数を分類させるようにする。

- ・有理数、無理数という用語を押さえる。
- ・分数を、有限小数や循環小数で表したり、循環小数を分数で表すことを通して、数の概念やその表し方の理解を深める。

- ・P. 47にある「循環小数と分数」を扱い、循環小数はいつでも分数で表すことができるのかどうかを考えさせたい。

- ・測定によって得られた値が真の値と等しいかどうか分からないことを基にして、近似値と誤差を理解させる。

- ・近似値、誤差、真の値という用語を押さえる

- ・有効数字という用語を押さえる。
- ・これまで用いてきた測定値、相対度数なども実際には誤差を含んだ近似値であったことを知らせ、今後資料を収集してその傾向を調べていくときには、生徒自ら意識できるようにしておく。

【評】 近似値や誤差に関する問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・近似値を求めてその積を計算して比べる方法や根号のついた有理数（根号を使わなくても表せる数）で確かめてみる方法を基に、予想が正しいことを類推させる。

- ・文字の式と同じように、記号 $\times$ を省いて書くことを確認する。

【評】 根号をふくむ式の計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・この変形が前時に学習したことの逆向きにみた関係であることを意識させることで、同じ数でも目的に応じて使い分けができるようにさせるとよい。
- ・素因数分解について簡単に復習し、本時の内容につなげるとよい。

- ・小学5年で学習した「分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても、分数の大きさは変わらない」という既習事項を提示して分母を有理化できることを類推させる。

- ・分母を有理化するという用語を押さえる。

- ・乗除の場合との考え方が異なることに注意さ

- およその数を使って平方根の値を求め、その数を見比べて、気付いたことを考え、話し合う。
- 根号をふくむ式の乗法、除法についての練習問題を解き理解を深める。
- 11 根号をふくむいろいろな式の計算について知り、その計算をする。[P. 56]
  - ★ 根号をふくむ式を変形して和や差について考えよう。
  - 根号のついた項をまとめる方法について考える。
  - 根号をふくむ式の計算について考える。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 12 根号のついた項をまとめたり根号をふくむ式の計算をしたりする。[P. 56・P. 57]
  - ★ 根号をふくむ式を変形して和や差について考えよう。
  - 根号のついた項をまとめる方法について考える。
  - 根号をふくむ式の計算について考える。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 13 根号をふくむ式の積の計算方法を考え、その計算をする[P. 57・P. 58]
  - ★ 根号をふくむ式の積について考えよう。
  - 根号をふくむ式の積を分配法則を用いて展開する方法を考え、理解する。
  - 乗法の公式を使って展開する方法を考え、理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 根号をふくむ式の計算についての練習問題を解き、理解を深める。
- 14 身のまわりの問題を、平方根を利用して考える。[P. 59～P. 61]
  - ★ 身のまわりの問題を、平方根を利用して考えよう。
  - ピザの面積を2倍にするためには、半径の長さがどれだけになるか考え、話し合う。
- 円の面積を何倍にするためには、半径の長さがどれだけになるかについて考える。
- 角材の問題について考える。
- 平方根を利用して練習問題を解き、理解を深める。
- 15・16 平方根に関する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 62～P. 65]
  - ★ 平方根についてまとめ、問題に取り組もう。
  - 2章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。
  - 2章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。

せる。

- ・ 小数点を移動するだけの関係になることを、話し合いを通して気付かせ、理解させるようにする。

- ・ 根号の中の数を簡単になるように変形してから計算する仕方を理解させ、その計算に習熟させる。

【評】 根号をふくむ式の計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 正の数の平方根をふくむ簡単な式の計算ができるようにするとともに、教科書にある具体的な場面で平方根を用いて表したり処理したりすることも大切にしたい。

- ・ 根号の中の数を簡単になるように変形してから計算する仕方を理解させ、その計算に習熟させる。

【評】 根号をふくむ式の計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 具体的問題解決の場面で活用できるようにし平方根をこれまでより多くの場面で問題の解決に活用できるようにする。
- ・ 分配法則、式の展開、乗法の公式を適用できるように、簡単に振り返るとよい。

【評】 根号をふくむ式の計算をする活動を通して、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 具体的問題解決の場面で活用できるようにし平方根をこれまでより多くの場面で問題の解決に活用できるようにする。

【評】 ピザの半径の長さを考える活動を通して「主体的に取り組む態度」を評価する。

- ・ できるだけ大きな角材を切り取るには、丸太の直径が正方形の対角線の長さになることに気付かせる。
- ・ 正方形の面積が(対角線の長さ)×(対角線の長さ)÷2であることをおさえる。

- ・ 「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。

【評】 平方根に関する問題を解く活動を通して「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。

## 【 備 考 】

第1学年では、取り扱う数の範囲を正の数と負の数に拡張して、正の数と負の数の必要性和意味を理解し、その四則計算について学習している。

第2学年では、文字を用いた式や方程式、関数、確率などについての学習を通して、数についての理解を一層深めている。

第3学年では、二次方程式を解く場合や、三平方の定理を活用して長さを求める場合には、有理数だけでは不十分なので、数の範囲を無理数にまで拡張する。新しい数として平方根を導入することで、これまで扱うことができなかった量を考察の対象とすることができる。このような正の数の平方根の必要性和意味を理解し、正の数の平方根を含む簡単な式の計算ができるようにするとともに、具体的な場面で平方根を用いて表したり処理したりすることを通して、それを具体的な場面で活用することができるようにする。

## 単元名 二次方程式

配当時間 13時間

単元の目標 (1) 二次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解することや、平方の形に変形したり因数分解したりして解くこと、解の公式を知りそれを用いて二次方程式を解くことができる。  
 (2) 平方根の考えや因数分解をもとにして、二次方程式を解く方法を考察し表現したり、二次方程式を具体的な場面で活用したりすることができる。  
 (3) 二次方程式のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

12230104\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 2次の項をふくむ方程式とその解について考え、単元の学習課題をつかむ。[P. 66～P. 68]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カレンダーに関する問題を考える。</li> <li>○開催日がどうすればわかるか考え、話し合う。</li> </ul> <p>★方程式をつくって、開催日を求めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○開催日を求めるために、方程式をつくって考える。</li> <li>○方程式を用いて説明する方法を考える。</li> <li>○二次方程式とその解について理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>2 二次方程式を平方根の意味に基づいて解くことを考え、その計算をする。[P. 69・P. 70]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ある数の求め方を考える。</li> </ul> <p>★二次方程式を平方根の意味に基づいて解くことを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○<math>ax^2=b</math>を平方根の意味に基づいて解く方法を考え、理解する。</li> <li>○<math>ax^2-b=0</math>の解き方を考え、理解する。</li> <li>○<math>(x+m)^2=k^2</math>の解き方を考え、理解する。</li> <li>○<math>(x+m)^2=n</math>の解き方を考え、理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>3 <math>x^2+px+q=0</math> (<math>p</math>は偶数)を<math>(x+m)^2=n</math>の形に変形して解を求める方法を考え、その計算をする。[P. 71]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○<math>x^2+px+q</math>を<math>(x+m)^2</math>の形に変形する方法を考える。</li> <li>★<math>x^2+px+q=0</math> (<math>p</math>は偶数)の解き方を考えよう。</li> <li>○<math>x^2+px+q=0</math>を<math>(x+m)^2=n</math>の形に変形して解く方法を理解する。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○二次方程式とその解き方についての練習問題を解き、理解を深める。</li> </ul> <p>4・5 二次方程式の解の公式を導き、それを使って二次方程式を解く。[P. 72～P. 74]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二次方程式を<math>(x+m)^2=n</math>の形に変形して解く。</li> <li>○式を<math>ax^2+bx+c=0</math>の形にしてから、解の公式を使う方程式の解き方を考える。</li> <li>○学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○二次方程式の解の公式についての練習問題を解き、理解を深める。</li> <li>○変形して解いたものと比較して<math>ax^2+bx+c=0</math>を変形して、解の公式を導くことを考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単に答えを求めればよいのではなく、効率のよい求め方についても意識させる。</li> <li>【評】カレンダーにまつわる問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・文字の次数に着目させ、今までに学習した方程式とは違う方程式が存在することに気付かせ、方程式自体の広がりを実感できるようにしたい。</li> <li>・「2乗すると256になる数」という表現から平方根の考えを引き出す。</li> <li>・二次方程式、解、二次方程式を解くという用語を押さえる。</li> <li>・解が正と負の2つあることを確認し、負の数が解に適さないことを確認して、解の吟味の学習へとつなげていきたい。</li> <li>【評】二次方程式の解を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・式の一部を1つのものとしてみることで、複雑な式を簡単な形にすることができるという考え方を身に付けさせる。</li> <li>・解が2つあることを代入して確かめるなどする。</li> <li>・解の表し方として、<math>x=\pm\sqrt{\quad}</math>という書き方は、正と負の2つの異なる数を意味している点を意識させる。</li> <li>・分数の平方根について、例を参考に丁寧に扱う。</li> <li>・得た解をもとの方程式に代入して、解になっていることを確かめさせるとよい。</li> <li>・平方の形に変形することで、平方根の考えを利用して解くことができるようになることを十分理解させたい。</li> <li>・形式的に単純な式の変形ができるよう、数の項を右辺に移項してから左辺を平方完成できるように考えさせるとよい。</li> <li>・デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。</li> <li>・単に複雑な計算問題を解くのではなく、式変形をして<math>ax^2+bx+c=0</math>とできれば、どのような二次方程式でも解くことができるという解の公式のよさを認識させる。</li> <li>【評】解の公式を導き、問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・<math>ax^2+bx+c=0</math>を変形して解の公式を導くことはかなり難しいため、具体的な数の場合と</li> </ul> |

- 二次方程式の解の公式を理解する。
  - ★ 解の公式を知り、それを使って二次方程式を解こう。
  - 二次方程式の解の公式についてまとめる。
  - 解の公式を使って、二次方程式を解く方法を考え、理解する。
- 6・7 因数分解を使って二次方程式を解く。[P. 75・P. 76]
- 因数の積が0になる場合の解をどうすれば求められるかを考える。
  - ★ 因数分解を使って二次方程式を解こう。
  - 因数分解を使って二次方程式を解く方法を考え、理解する。
  - 共通因数の考え方を基にして二次方程式を解く方法を考え、理解する。
  - 因数分解の公式の考えを基にして二次方程式を解く方法を考え、理解する。
  - 学習したことがらをを使って問題を解く。
- 8 見かけが複雑な形の二次方程式を $ax^2+bx+c=0$ の形に変形して、因数分解を利用して解き、その計算をする。[P. 77・P. 78]
- ★ 複雑な形の二次方程式を解こう。
  - $ax^2+bx+c=0$ の形に整理して解く方法を考える。
  - 学習したことがらをを使って問題を解く。
  - 二次方程式の誤った解き方について話し合う。
  - 二次方程式と因数分解についての練習問題を解き、理解を深める。
  - 今までに学習した解き方で二次方程式を解き、気付いたことや考えたことをまとめる。
- 9 道幅の問題や整数の問題を、二次方程式を利用して解く [P. 79～P. 82]
- 畑の通路の幅を、どうすれば求められるかを話し合う。
  - 道幅の問題について、条件に合った方程式をつくり、問題を解決する。
  - ★ 二次方程式を利用していろいろな問題を解こう。
  - 整数の問題について二次方程式を利用して解を求める方法を考える。
  - 解を吟味することを理解する。
  - 学習したことがらをを使って問題を解く。
- 10 容積や面積に関する問題を、二次方程式を利用して解く [P. 83]
- ★ 二次方程式を利用して容積や面積に関する問題を解こう
  - 容積や面積に関する問題について、二次方程式を利用した解の求め方を考える。
  - 学習したことがらをを使って問題を解く。
- 11 図形における動く点の問題を、二次方程式を利用して解く。[P. 84・P. 85]
- ★ 二次方程式を利用して動く点の問題を解こう。

対比させて、確認させる程度でよい。

- ・ 解の公式を使って二次方程式を解くとき、初めのうちは、 $a$ 、 $b$ 、 $c$ が何であるかを書かせるとよい。
- ・ 負の数を代入するときには、かっこをつけることを強調して指導する。
- ・ 根号の中が平方数になる場合は、最後まで計算するように指導する。
- ・ 根号の中が簡単にでき、その結果約分できる場合は、約分の仕方にも注意させる。
- ・ 因数分解を使って解く方法があることのよさに気付かせる。
- ・ 因数分解を使って解くことで得た解を実際に元の方程式に代入して、当てはまることを確認させる。
- ・ 両辺を $x$ でわるといった誤った方法で解かないように注意させる。
- ・ 解が一つになることがあることを確認させる
- ・ 誤りであることを共通理解させた上で、どこが誤りなのかということについて話し合わせる。
- 【評】二次方程式を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 自ら気付いたことをノートなどにまとめる活動を通して、それぞれの解き方のよさについて考えさせたい。
- ・ 具体的問題解決の場面で活用できるようにし方程式をこれまでより多くの場面で問題の解決に活用できるようにする。
- ・ 与えられた条件を数式に置き換えるとどうなるのかを読み取って、二次方程式を立式させる。
- ・ 「自分の考えを相手に伝える」、「方程式という数学的な表現を用いた説明文である」という意識を育て、計算の羅列やメモでないことを丁寧に指導する。
- ・ 公式を用いて解いた解については、実際にはあり得ない答えを出しても気付かないことが多いため、具体的な問題解決の場面で二次方程式を利用する場合には、得られた解が問題の答えとして適切であるかどうかを調べることは、これまでの一次方程式や連立方程式の利用以上に重要視する。
- ・ 実際に容器をつくらせてもよい。
- ・ 解に根号をふくむ場合は、およその値を確認させ、解の正しさを実感させる。
- 【評】二次方程式の解決方法を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ P. 85にある「ディオファントスの考えた解き方」を扱い、周の長さや面積から長方形の縦と横の長さを求める方法のよさに気付かせたい。
- ・ 問題文を読んで条件を理解し、数量関係をしっかりと把握させる。



|   |   |
|---|---|
| <p>○条件に合った方程式をつくり，動く点の問題を解決する手順を知る。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>12・13 二次方程式に関する問題を解き，学習のまとめをする。[P. 86～P. 89]</p> <p>★二次方程式についてまとめ，問題に取り組もう。</p> <p>○3章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み，理解を深める。</p> <p>○3章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み，理解を深める。</p> | <p>・問題場面を図に表す際には，点が動く前，○秒後，点が終点に着いたときのように複数書かせたり，コンピュータを用いたりして，連続的な動きを視覚的に捉えられるようにするとよい。</p> <p>・デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。</p> <p>・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。</p> <p>【評】二次方程式に関する問題を解く活動を通して，「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|---|---|

【 備 考 】

第1学年では一元一次方程式を，第2学年では，それとの関連を図りながら，簡単な連立二元一次方程式を学習している。

第3学年では二次方程式を解くことができ，それを具体的な問題解決の場面で活用できるようにし，方程式をこれまでより多くの場面で問題の解決に活用できるようにすることがねらいである。

単元名 関数 $y=ax^2$ 

配当時間 16時間

- 単元の目標 (1) 関数 $y=ax^2$ についてや、事象の中には関数 $y=ax^2$ として捉えられるものがあること、いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解することができる。
- (2) 関数 $y=ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、評、式、グラフを相互に関連付けたり、関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉えたりして、考察し表現することができる。
- (3) 関数 $y=ax^2$ のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

12230201\_001

【準備等】方眼紙、方眼黒板、電卓

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 ボールが斜面を転がることから分かる変化のようすを考察する活動を通して、式が<math>y=ax^2</math>で表される関数について理解し、単元の学習課題をつかむ。[P.90・P.91]</p> <p>○ ボールが斜面をころがる様子からわかることを調べる。</p> <p>★ ボールがころがり始めてからの時間と距離の関係を調べよう。</p> <p>○ ボールが転がり始めてからの時間と距離の関係を表にする。</p> <p>○ 表を基にして、対応する<math>x</math>と<math>y</math>の値の組を座標とする点を図にかき入れる。</p> <p>○ これまでに学んだ関数と比べてどんな違いがあるかについて考え、話し合う。</p> <p>2 <math>y=ax^2</math>の関数関係を表に表し、値の変化のきまりを見いだす。[P.92・P.93]</p> <p>○ <math>x</math>と<math>y</math>の関係を考えるために、<math>x^2</math>の値を表に書き入れてその関係を調べる。</p> <p>★ <math>y=ax^2</math>の形で表される関数について考えよう。</p> <p>○ 物体の落下について、その関係を調べる。</p> <p>○ <math>y=3x^2</math>の表を完成させ、<math>x</math>の値を2倍、3倍にした時に<math>y</math>の値が何倍になるか調べる。</p> <p>○ 関数<math>y=ax^2</math>の特徴をまとめる。</p> <p>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>3 関数<math>y=ax^2</math>の式の求め方を理解し、問題を解く。[P.94]</p> <p>★ <math>y</math>が<math>x</math>の2乗に比例している関数の式を求めよう。</p> <p>○ <math>y</math>が<math>x</math>の2乗に比例していることを基にして、<math>x</math>と<math>y</math>の関係を式に表す方法を考える。</p> <p>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○ 関数<math>y=ax^2</math>についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>4 関数<math>y=ax^2</math>をグラフに表し、その特徴を調べる。[P.95～P.97]</p> <p>○ 関数<math>y=x^2</math>の表を基にして、<math>x</math>と<math>y</math>の値の組を座標とした点をとる。</p> <p>★ 関数<math>y=x^2</math>のグラフについて考えよう。</p> <p>○ 関数<math>y=x^2</math>の表を基にして、<math>x</math>と<math>y</math>の値の組を座標とした点の特徴を調べる。</p> <p>○ 原点近くのグラフのようすを詳しく調べる。</p> <p>○ 関数<math>y=x^2</math>のグラフの形やその特徴をまとめ、理解する。</p> <p>5・6 関数<math>y=ax^2</math> (<math>a&gt;0</math>) で、<math>a</math>がいろいろな値をとるときのグラフの違いを調べる。[P.96～P.99]</p> <p>★ 関数<math>y=ax^2</math>のグラフについて考えよう。</p> <p>○ 関数<math>y=2x^2</math>の表を基にしてグラフをかき、関数<math>y=x^2</math>のグラフとの違いを調べる。</p> <p>○ <math>y=x^2</math>を基にして、<math>x</math>軸からの距離を調べることで、<math>y=ax^2</math>のグラフをかけることを見だし、理解する。</p> | <p>・ 具体的な事象を調べることで、関数<math>y=ax^2</math>の特徴を理解し、一次関数との共通点や相違点を明らかにすることをねらいとする。特に変化の割合やグラフの特徴などについて気付かせたい。</p> <p>【評】 ボールが転がり始めてからの時間と距離の関係を調べる活動を通して、「主体的に学びに向かう態度」を評価する。</p> <p>・ <math>x</math>と<math>y</math>の値だけから関係を式に表すことは困難であるため、<math>x^2</math>の値に注目させ、比例の場合と同じように<math>x^2</math>の値と<math>y</math>の値の間の関係を調べさせて、関係を見いださせる。</p> <p>・ 対応する<math>x^2</math>と<math>y</math>の値の商<math>y/x^2</math>が一定で、その値が定数<math>a</math>に等しいことを押さえる。その際、0でわることができないことに注意させる。</p> <p>・ 式を求める際、<math>x</math>と<math>y</math>の値が1組分かれば式が求められることに気付かせる。</p> <p>【評】 関数<math>y=ax^2</math>の特徴を調べたり表現したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 表、式、グラフは、関数の変化と対応の特徴をつかむ手だてとなるように、相互に関連付けながら指導したい。</p> <p>・ とった点の並び方や表の数値から、グラフは一直線にならないことを確認する。</p> <p>・ グラフの特徴として、「曲線になる」「原点を通る」ことに気付かせる。</p> <p>・ 細かくとると、それらの点全体がなめらかな曲線になることをP.97のグラフを参考にまとめるとよい。</p> <p>・ いろいろなグラフを比較することによって、関数<math>y=ax^2</math>のグラフは、<math>a</math>が正の場合、その値が大きくなると、グラフの開き方が小さ</p> |

- 関数 $y=-x^2$ のグラフをかき、関数 $y=x^2$ のグラフとの違いを調べる。
- 関数 $y=-x^2$ のグラフの形やその特徴を調べ、理解する
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 7 関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴について、定数 $a$ の値がいろいろな場合のグラフを基にまとめ、その理解を深める。  
[P.100・P.101]
- ★関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴をまとめよう。
- これまでに学習したことを基に、比例定数の違いによって、関数 $y=a^2$ のグラフにどんな違いがあるか調べる。
- 関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴から式を判断し、その理由を考え、話し合う。
- 関数 $y=ax^2$ のグラフについてまとめる。
- 8 関数 $y=ax^2$ の値の変化のようすについて調べる。[P.102～P.104]
- ボールで実験を行った写真から、どんなことがいえるか考え、話し合う。
- ★関数 $y=ax^2$ の値の増減について考えよう。
- 一次関数の増減のようすを振り返る。
- 関数 $y=ax^2$ と関数 $y=-ax^2$ の $y$ の値の増減について調べる。
- 関数 $y=ax^2$ で、グラフを基にして、 $y$ の値の増減について、考えをまとめる。
- 9 関数 $y=ax^2$ で、 $x$ の変域に制限があるとき、 $y$ の変域がどうなるか調べる。[P.105]
- ★ $x$ の変域に制限があるときの $y$ の変域について考えよう
- $x$ の変域に制限があるときの $y$ の変域をグラフを基に調べる。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 10 関数 $y=ax^2$ の変化の割合を調べる。[P.106・P.107]
- 関数 $y=x^2$ について、 $x$ の増加量が1のときの $y$ の増加量を調べる。
- ★関数 $y=ax^2$ の値の変化の割合を調べよう。
- 一次関数の変化のようすや変化の割合について振り返る
- 関数 $y=x^2$ の変化の割合について、グラフの2点を結んだ線分の傾きとの関係を調べる。
- 関数 $y=x^2$ の変化の割合の求め方を考える。
- 学習したことがらを使って問題を解く。
- 11 実際の場面では、変化の割合がどんなことを表しているか調べたり、これまでに学習してきた関数 $y=ax^2$ の特徴について一次関数 $y=ax+b$ と比較しながらまとめたりする。  
[P.108・P.109]
- ★平均の速さについて考えたり、一次関数と $y=ax^2$ をくらべよう。
- 平均の速さの概念や求める方法を考え、理解する。
- 学習したことがらを使って問題を解く。

- くなることに気付かせる。
- ・比例定数 $a$ について関数 $y=x^2$ の場合と比べ「絶対値が等しくなること」や「符号が反対になること」に気付かせ、グラフとしてどのような意味をもつか見いださせる。
- ・表、式、グラフを適切に選択したり、自分の表現を他者の表現と比較することにより、事象の考察を深められることを体験できるようにすることが重要である。
- ・放物線、放物線の軸、放物線の頂点という用語を押さえる。
- ・表、式、グラフを適切に選択したり、自分の表現を他者の表現と比較したりすることにより、事象の考察を深められることを体験できるようにすることが重要である。
- ・関数 $y=ax^2$ のグラフが、 $a$ の符号や $a$ の絶対値の大小による値の違いによってどのように変化するかをまとめさせる。
- 【評】関数 $y=ax^2$ のグラフをかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ $y$ の値の増減は、一次関数のように常に増加したり減少したりするのではないことに気付かせ、値の変化に関心をもたせる。
- ・ $a$ の値の符号と $x$ の変域という2つの観点から、場合分けして $y$ の値の変化をまとめるということを押さえる。
- ・ $y$ の変域を調べる際、 $x$ の最大と最小から短絡的に求めようとする人が多いので注意する必要がある。
- ・深く考えずに $y$ の変域の片方が0であるとする間違いもあるので、常にグラフと一体化させて考えさせることが大切である。
- ・一次関数の場合、変化の割合が $a$ と一致することはよく覚えているが、変化の割合の定義やグラフとの関連も振り返っておくとよい。
- ・この活動を通して、いつも変化の割合が比例定数の $a$ とはならないことに気付かせる。
- ・関数 $y=ax^2$ において、 $x$ の値が $p$ から $q$ まで増加するときの変化の割合が $a(p+q)$ という簡単な式で求められることについては、基本に基づいて求める方法をしっかりと身に付けさせてから「学びをいかそう」P.39・P.40を参考に取り上げててもよい。
- ・平均の速さが変化の割合と一致することを安易に覚えるだけでなく、現実事象と数学とのつながりを意識した上で理解させる。
- ・これまで扱った「速さ」については、等速運動のときの特殊な場合であることを押さえるとよい。

|  |   |
|--|---|
| <p>○ 一次関数<math>y=ax+b</math>と関数<math>y=ax^2</math>の特徴を比べ、自分の考えをまとめる。</p> <p>12 グラフの交点の座標を求めることを考える。[学びをいかそうP. 39・P. 40]</p> <p>○ 2つの直線の交点の座標の求め方を振り返る。</p> <p>★放物線と直線の交点の座標の求め方を考えよう。</p> <p>○ 放物線と直線の交点の座標を求める方法を考える。</p> <p>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>13 身のまわりにある関数<math>y=ax^2</math>について調べる。[P. 110～P. 113]</p> <p>★身のまわりにある関数<math>y=ax^2</math>について考えよう。</p> <p>○ 自動車の速さと制動距離の関係を表す関係の式を求め、制動距離がどのように変化しているか考え、話し合う。</p> <p>○ 時速と制動距離の関係を式に表し、表の値から制動距離の差を求め、どんなことが分かるか考え、話し合う。</p> <p>○ ふりこの長さや周期の関係について考え、理解する。</p> <p>○ 図形が移動するときの時間と重なる部分の面積の関係について考え、理解する。</p> <p>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>14 これまでに学んだ関数とは違う関数を考える。[P. 114・P. 115]</p> <p>★身のまわりにあるいろいろな関数について考えよう。</p> <p>○ グラフが階段状になる関数関係を考える。</p> <p>○ 底が階段状になっている直方体の水そうに一定の割合で水を入れたときの、時間と水面の高さの関係を表すグラフについて考え、話し合う。</p> <p>15・16 関数<math>y=ax^2</math>に関する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 116～P. 119]</p> <p>★関数<math>y=ax^2</math>についてまとめ、問題に取り組もう。</p> <p>○ 4章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。</p> <p>○ 4章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。</p> | <p>・「グラフの形」，「<math>y</math>の値の増減」，「変化の割合」だけにとどまらず，さまざまな観点を挙げ，既習の関数と比較しながら分類整理させるとよい。</p> <p>【評】関数<math>y=ax^2</math>の表，式，グラフとそれらの相互関係をまとめる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>・入試でよく取り扱われるため，学習事項として取り入れるとよい。</p> <p>・連立方程式の解と2直線の交点の座標の関係については第2学年で学習している。</p> <p>・2次の項を代入することは，これまで学習していないため，丁寧に扱う。</p> <p>・関数<math>y=ax^2</math>を用いて具体的な事象を捉え説明する際には，数量の関係を理想化したり単純化したりして考えることによって，関数<math>y=ax^2</math>とみなし，事象を捉え説明することも大切である。</p> <p>・数学的な表現を用いながら他者に説明するような場面を意図的に設ける。</p> <p>【評】身のまわりから関数関係を見つけ，説明する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・P. 113にある「ガリレオ・ガリレイ」を扱い，落下運動やふりこの性質について発見したガリレオが数学を大切にしていたことを伝えたい。</p> <p>・事象の中には既習の関数では捉えられない関数関係があることについても取り扱い，これらの学習を通して，一意対応としての関数の意味を明確にするとともに後の学習の素地となるようにしたい。</p> <p>・グラフにおいて同じ<math>x</math>の値に対する<math>y</math>の値を○や●で区別し，その値を含むか含まないかを示すことをきちんと押さえ，読み取れるように指導する。</p> <p>・<math>x</math>軸，<math>y</math>軸に目盛りや格子線のない座標軸を使うことが一般的であることに触れ，慣れさせておく必要がある。</p> <p>・デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。</p> <p>・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。</p> <p>【評】関数<math>y=ax^2</math>に関する問題を解く活動を通して，「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|---|

### 【 備 考 】

第1学年では，比例，反比例を学習し，第2学年では，一次関数を学習している。いずれにおいても，関数関係に着目し，その特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力を漸次高めてきている。

第3学年では，この学習の上に立って，具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して，関数 $y=ax^2$ について考察する。その際，表，式，グラフを相互に関連付けながら，変化の割合やグラフの特徴など関数の理解を一層深める。そして，これらの学習を通して，関数関係に着目し，その特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察することができるようになる。

また，日常の事象や社会の事象には既習の関数では捉えられない関数関係があることを学習することにより，関数の概念の広がりを実感できるようにし，中学校における関数についての学習内容を一層豊かにするとともに，後の学習の素地となるようにする。

## 単元名 図形と相似

配当時間 25時間

- 単元の目標 (1) 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件や、基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積の比や体積の比との関係について理解することができる。
- (2) 三角形の相似条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめたり、平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめたり、相似な図形の性質を具体的な場面で活用したりすることができる。
- (3) 図形と相似のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

12230202\_001

【準備等】 ものさし（定規），分度器，コンパス，巻末教具，はさみ，プラスチック製などの相似な四面体円柱，円錐など

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 形が同じ図形をかく活動を通して、それらの図形の性質を調べ、単元の学習課題をつかむ。[P. 120～P. 122]</p> <p>○与えられた図形と同じ形の図形をかく。</p> <p>★形が同じ図形について考えよう。</p> <p>○かいた図形を比べ、分かることを考え、話し合う。</p> <p>○図形の拡大・縮小についてまとめる。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>2・3 相似な図形の性質について調べ、相似比について理解する。[P. 123～P. 125]</p> <p>○相似な三角形の対応する辺の長さや角の大きさを比べる</p> <p>○相似な図形についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>★相似な図形について考えよう。</p> <p>○相似な図形の性質や相似の表し方をまとめる。</p> <p>○相似の表し方を理解する。</p> <p>○相似比について考え、理解する。</p> <p>○相似な図形で、比の性質を使って辺の長さや角度を求める方法を考える。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>4・5 2つの三角形がどんな場合に相似になるか考え、三角形の相似条件を見いだす。[P. 126～P. 128]</p> <p>○与えられた三角形と相似な三角形をかくには、どうしたらよいか考える。</p> <p>★2つの三角形は、どんな場合に相似になるかを考えよう</p> <p>○これまでに調べたことを基にして、三角形の相似条件を見い出す。</p> <p>○三角形の相似条件をまとめる。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○三角形の相似条件についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>6 三角形の相似条件を使った証明を考える。</p> <p>○2枚の折り紙の重なっていない部分にできる三角形について調べ、その関係を調べる。</p> <p>★三角形の相似条件を使って、図形の性質を証明しよう。</p> <p>○三角形の相似条件を根拠とした証明の方法を考え、理解する。</p> <p>○紙を折ってできる2つの直角三角形が相似であることについて考え、話し合う。</p> <p>7・8 いろいろな図形の性質を三角形の相似条件を利用して証明する。[P. 130・P. 131]</p> <p>★三角形の相似条件を使って、相似であることを証明しよう。</p> | <p>【評】方眼に与えられた図形と同じ図形をかく活動を通して、「主体的に学びに向かう態度」を評価する。</p> <p>・日常生活において使う「同じ形」から、本単元で学習する概念を明確化し、相似な図形のイメージをさせる。</p> <p>・相似という用語を押さえる。</p> <p>・<math>\sim</math>という記号を押さえる。</p> <p>・相似の記号「<math>\sim</math>」は、アルファベットのSを横に倒した形であると理解させると、誤りも少なくなる。</p> <p>【評】相似な図形の性質をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・合同の場合と同じように、相似の場合も対応する頂点の順に並べて表すことを押さえる。</p> <p>・相似比という用語を押さえる。</p> <p>・比例式の解き方を忘れていたことも考えられるため、振り返って理解させる。</p> <p>・これまでの学習体験を振り返り、3種類のかき方を見つけ出せるようにさせる。</p> <p>・まとめる際には、理解を一層明確にして覚えることを容易にするため、相似条件と合同条件とを対比させる形で考えていくとよい。</p> <p>【評】相似な三角形を見つけ、相似条件を答える活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <p>・相似であることを直観的にはつかみにくいため、実際に折り紙を手元に置いて、重ね方を変えても相似になることに気付かせ、証明につなげる。</p> <p>・どのように折っても、2つの直角三角形が相似となることを実感させ、相似になるわけや相似条件を考えさせ、口頭で説明させることをねらいとしている。</p> |

|   |  |
|---|--|
| <p>○対応する辺の比や角について成り立つ関係を調べ、相似条件を使った証明をする。</p> <p>○直角三角形の斜辺に頂点から垂線をひいたとき、相似な三角形の組を見つけ、どうして相似になるのかについて考え、話し合う。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p><br><p>○三角形の相似条件と証明についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>9・10 平行線と線分の比の関係について考える。[P.132～P.135]</p> <p>○ノートの横幅を3等分する方法を考え、話し合う。</p><br><p>★平行線と線分の比の関係について考えよう。</p> <p>○三角形の1つの辺に平行な直線をひき、そこにできる三角形が相似であるかどうか考えたり、線分の長さを求めたりする。</p> <p>○平行線と線分の比に関する定理を証明する。</p><br><p>○平行な線を上下にずらしても同じ関係が成り立つことについて考え、説明する。</p> <p>○平行線と線分の比に関する定理を証明する。</p><br><p>○平行線と線分の比についてまとめる。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>11 2つの直線が3つの平行な直線と交わるときの平行線にはさまれた線分の比の性質を証明し、それを利用して線分の長さを求める。[P.136・P.137]</p> <p>★平行線にはさまれた線分の比について考えよう。</p> <p>○2つの直線が3つの平行な直線と交わるときの平行線にはさまれた線分の比の性質を考え、証明する。</p><br><p>○平行線にはさまれた線分を縦に見る比と、横に見る比の違いを理解する。</p> <p>○平行線にはさまれた線分の比についてまとめる。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>12 平行線と線分の比の性質を利用して、図形の性質を証明する。[P.137・P.138]</p> <p>★三角形の角の二等分線と線分の比を証明しよう。</p> <p>○三角形の角の二等分線をひいた時の、線分の比が成り立つことを証明する。</p><br><p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>13 平行線と線分の比の性質の逆が成り立つかどうかを調べ証明する。[P.139・P.140]</p> <p>★線分の比と平行線について考えよう。</p> <p>○平行線と線分の比の定理の逆を証明する。</p><br><p>○線分の比と平行線についてまとめる。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>14 平行線と線分の比の性質の逆を使って図形の拡大図や縮図のかき方を知る。[P.140・P.141・P.144]</p> <p>★1点を中心にした拡大図や縮図をかこう。</p> <p>○1点を中心とする拡大によって、相似な図形が得られることを理解する。</p> | <p>・まず、対応する辺の比や角を見付け、相似条件を満たしていることを確認した上で、証明を考えていく。</p><br><p>・どのように折っても、2つの直角三角形が相似となることを実感させ、相似になるわけや相似条件を考えさせ、口頭で説明させることをねらいとしている。</p> <p>【評】三角形の相似条件を利用して図形の性質を証明する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p><br><p>・「長さを測らずに3等分するには」と問い掛けることで目的意識をもって考えさせるとよい。</p><br><p>・どんな場合でも相似な三角形に着目して、対応する辺がどれであるかをきちんとつかめるようにさせる。</p><br><p>・補助線の発見は難しいが、適切な誘導を加えることで生徒自ら証明の方法を発見できたという満足感を与えることが大切である。</p><br><p>・平行線と線分の比の定理を使えるように、補助線の引き方を考えさせる。</p> <p>・別解として、AC'を補助線としたときの証明も考えさせるとよい。</p> <p>・比の変形を基に、成り立つことを押さえておく。</p><br><p>・線分の位置関係に着目させ、既習の学習内容を振り返らせながら、どうすれば図の中の三角形と相似な三角形をつくることができるか考えさせるとよい。</p> <p>・デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。</p> <p>・二等辺三角形の場合を取り上げ、頂角の二等分線は、底辺を二等分することを振り返るとよい。</p><br><p>・ここでいう「逆」は、仮定と結論の部分をそっくり入れ替えたものとそのうちの一部分を入れ替えたものがあることを確認しておく。</p> <p>・仮定の条件がどの部分の比かを分かりやすくするために、印を付けるなどして図示するとよい。</p> |
|---|--|

|  |   |
|--|---|
| <p>○多角形以外でも同様に考えられることを理解する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○平行線と線分の比についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>15 三角形の2辺の中点を結んだ線分のもつ性質について調べる。[P. 142]</p> <p>○三角形の2辺の中点を結ぶ線分と他の1辺の間に、どんな関係があるか考える。</p> <p>★三角形の2辺の中点を結んだ線分のもつ性質について考えよう。</p> <p>○中点連結定理についてまとめる。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>16 中点連結定理を利用して問題を解く。[P. 142・P. 143]</p> <p>★中点連結定理を使って証明しよう。</p> <p>○四角形の各辺の中点を結んでできた四角形がどんな四角形になるか予想する。</p> <p>○平行四辺形になることを中点連結定理を使って証明する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○中点連結定理についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>17 相似な図形の面積には、どんな関係があるかを調べる。[P. 145～P. 147]</p> <p>○相似な図形の相似比を求め、面積の比を求める。</p> <p>★相似な図形の相似比と面積の比の関係について考えよう。</p> <p>○相似な図形の相似比と面積の比の間にどんな関係について考え、話し合う。</p> <p>○相似な三角形において、相似比と面積の比の関係を調べる。</p> <p>○相似比が1:kである五角形の面積の比がどうなるか考える。</p> <p>○相似比が1:kである図形の面積の比が1:k<sup>2</sup>であることを理解する。</p> <p>18 相似な多角形の面積の関係を調べ、これを利用して図形の面積を求める。[P. 147～P. 148]</p> <p>○相似比が2:3である2つの図形の面積の比が、2乗の比になることについて考え、説明する。</p> <p>○相似な図形の面積の比についてまとめる。</p> <p>★相似比を使って、相似な図形の面積を求めよう。</p> <p>○相似比を使って面積を求める方法を考える。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○相似な図形の面積についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>19 相似な立体の性質を調べる。[P. 149]</p> <p>★相似な立体の性質について考えよう。</p> <p>○1点を中心とする拡大を基にした相似な立体を用いて、相似な立体の性質を考え、理解する。</p> <p>○相似な立体の性質をまとめる。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>20・21 相似な立体の表面積の比や体積の比について調べる [P. 150～P. 152]</p> <p>★相似な立体の表面積の比と体積の比について考えよう。</p> <p>○相似比の分かる2つの直方体の表面積の比や体積の比を求める。</p> <p>○相似な立体の表面積の比と体積の比について考え、それを見いだす。</p> | <p>・相似の図形は、多角形だけでなく、曲線を含んだ図形についても考えられることにも触れる。</p> <p>・P. 144にある「平行線と線分の比の性質の利用」を扱い、平行線と線分の比の性質を使えば、P. 132にあるノートを3等分する方法を考えることができることを伝えたい。</p> <p>・平行線と線分の比の定理の特殊な場合に適用した問題であることに気付かせる。</p> <p>・平行の関係は容易に気付くが、長さの関係に気付かない場合もあるので、注意を向けさせる必要がある。</p> <p>・できた四角形は必ず平行四辺形になるが、長方形やひし形になる場合もあるため、第2学年で学習した「特別な平行四辺形」について振り返っておく。</p> <p>・必要に応じて、三角形の重心をはじめ、三角形の五心について簡単に触れてもよい。</p> <p>・P. 145の図形を使って考えさせる。</p> <p>・容易に予想がつくかもしれないが、時間を十分に確保する。</p> <p>【評】相似比から面積の比を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・多角形の例として五角形を扱い、それを一般化してまとめていく。</p> <p>・どのような図形でも、同じことがいえることを類推してまとめるようにする。</p> <p>【評】相似な図形の性質を使って面積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な図形の性質を用いて図形の計量ができるようにすることをねらいとする。</p> <p>・模型などを用いて空間的な位置関係を理解させる。</p> <p>・平面図形の相似の意味から類推して、立方体、直方体、柱体、錐体、球などの基本的な立体</p> |
|--|---|

- 相似な立体の表面積の比と体積の比についてまとめる。
  - 相似な立体の表面積や体積を相似比との関係を使って求める方法を考える。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
  - 相似な立体の表面積・体積についての練習問題を解き、理解を深める。
- 22・23 身近な問題を相似の考え方を使って解く。[P. 153～P. 155]
- ★相似な図形の性質を利用して、いろいろな問題を考えよう。
- 相似の関係を利用してどちらのアイスクリームが割安かについて考え、話し合う。
  - 別のアイスクリームの場合を考え、話し合う。
  - 相似の考え方を使って、2点間の距離を求める。
- 
- 2地点間の距離を、縮図を使って間接的に求める方法を理解する。
  - 学習したことがらを使って問題を解く。
- 24・25 三角形の相似条件や相似比に関する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 150～P. 153]
- ★図形と相似についてまとめ、問題に取り組もう。
- 5章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組む、理解を深める。
  - 5章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組む、理解を深める。

についての相似の意味が理解できるようにする。

- ・ 例題において比例式をつくる際、値をどのように使ったらよいか丁寧に指導する必要がある。
- 【評】相似な立体の表面積・体積などを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 日常生活で相似な図形を利用する場面で縮図を用いることがあるが、直接測ることができないという点で、興味、関心をもたせるようにする。

【評】相似な図形の性質を利用して問題解決の場面において利用する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。

【評】三角形の相似条件や相似比に関する問題を解く活動を通して、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。

#### 【 備 考 】

数学的な推論の過程に着目して図形の性質や関係を論理的に考察し表現することの意義は、一つには既習の図形の性質や関係を論理的に整理し、体系付け、組み立てていくことにある。その際、合同と相似は重要な概念である。第2学年では、数学的な推論の過程に着目して、図形の合同に基づいて三角形や平行四辺形の基本的な性質を見だし、論理的に確かめ説明することを学習している。

第3学年では、三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめ、数学的な推論の必要性や意味及び方法の理解を深め、論理的に考察し表現する力を養う。また、基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な図形の性質を用いて図形の計量ができるようにする。



## 単元名 円の性質

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 円周角と中心角の関係の意味を理解することができる。  
 (2) 円周角と中心角の関係を見いだしたり、円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用したりすることができる。  
 (3) 円の性質のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

12230203\_001

【準備等】三角定規、分度器、巻末教具「円周角の定理発見ディスク」、コンパス

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 スtringアートのかまりをさがし、同じ弧に対する円周角の大きさについて調べる活動を通して、単元の学習課題をつかむ。[P. 160～P. 161]</p> <p>○ Stringアートから角のかまりについて考える。</p> <p>★同じ弧に対する角について調べよう。</p> <p>○決められた弧ABに対し、弧ABを除いた円周上に点の位置をいろいろと変えて、円周角の大きさを測る。</p> <p>○自分で弧ABを決め、同じように円周角の大きさを測る。</p> <p>○同じ弧に対する円周角について、どのような関係があるかを考え、話し合う。</p> <p>2 円周上に点をとってできる角について調べる。[P. 162～P. 164]</p> <p>★円周上に点をとってできる角について考えよう。</p> <p>○同じ弧に対する円周角について、その性質をまとめる。</p> <p>○円周上の点について場合分けし、それぞれの場合について証明する。</p> <p>○円周角の定理についてまとめる。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>3 円周角の定理の特別な場合や円に内接する四角形、接線と弦のつくる角の性質について考える。[P. 164・P. 165]</p> <p>○弦ABが直径であるときの円周角が何度になるか考える。</p> <p>★円周角の定理の特別な場合について考えよう。</p> <p>○半円の弧に対する円周角の大きさについて考え、まとめる。</p> <p>○円に内接する四角形について、具体的な角度を求めるにはどうしたらよいか考え、話し合う。</p> <p>○円に内接する四角形の性質を考え、理解する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>4 弧と中心角の関係から、等しい弧に対する円周角について考える。[P. 165・P. 166]</p> <p>○等しい弧に対する中心角と円周角の大きさを求める。</p> <p>★等しい弧に対する円周角について考えよう。</p> <p>○弧と円周角についてまとめる。</p> <p>○等しい円周角に対する弧の長さについて考え、話し合う。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○円周角と中心角についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>5 円周角の定理の逆について調べる。[P. 167～P. 169]</p> <p>○三角定規を動かして、先端の点がどのような図形上にあるか考える。</p> <p>★円周角の定理の逆について考えよう。</p> <p>○円周角と円の内部や外部にできた角の大きさの関係を説明する。</p> <p>○円周角の定理の逆についてまとめる。</p> | <p>・観察、操作や実験などの活動を通して円周角と中心角の関係を見いだして理解し、それを用いて考察することができるようにすることをねらいとする。</p> <p>・P. 263の発見ディスクを用いて活動することが望ましい。</p> <p>【評】円周角や中心角を測定し、その関係を調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・第1学年の既習事項（おうぎ形、弧、中心角）について押さえ、円と角の関係についての基礎につなげる。</p> <p>・円周角という用語を押さえる。</p> <p>・第1学年の既習事項（おうぎ形、弧、中心角）について押さえ、円と角の関係についての基礎につなげる。</p> <p>・円周角と中心角の位置関係の場合分けによる証明は、その必要性を理解することを重視する。</p> <p>【評】円周角の定理を用いて実際の角度を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <p>・P. 47・P. 48の「学びをいかそう」にある円に内接する四角形、接線と弦をつくる角を取り扱ってもよい。</p> <p>・学習内容は高校の領域であるため、証明することを目的としないが、円周角の定理と関連することから取り扱ってもよい。</p> <p>・導いた過程を振り返って、中心角の大きさによらず結論が導かれることに気付かせる。</p> <p>・証明をするときには、四角形が円に内接するという前時（第4時）との関連から押さえることよい。</p> <p>【評】円周角の定理の逆を調べる活動を通して「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ABを直径とする円周上にあることと、4点が</p> |

|   |   |
|---|---|
| <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>○円周角の定理の逆についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>6 円の性質を使って問題を解決する方法を考える。[P. 170～P. 172]</p> <p>○海上にいる船から、海岸線にある目印を見渡す角度を基に、地図を使って船がある場所を探す方法を考える。</p> <p>○船の位置が、どうしたら見つけれられるかについて考え、話し合う。</p> <p>★円の性質を使って、作図しよう。</p> <p>○数学の問題に置き換えて、定規やコンパスを用いて解決する方法を考える。</p> <p>○条件にあてはまる点が、どんな円周上にあるかを話し合う。</p> <p>○作図を基に、船がある場所を求める。</p> <p>○円の性質を使って、船から見える2つの建物の位置関係から、船の位置を作図する方法について話し合う。</p> <p>7 円の性質を使って、円外の点からひいた円の接線を作図する方法を考える。[P. 173]</p> <p>★円周角の定理を利用して作図を考えよう。</p> <p>○円の性質を用いて、円外の点からひいた円の接線を作図する方法を考える。</p> <p>○円の接線ができる理由について考え、説明する。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>8 円の性質を証明の根拠として使う方法を考える。[P. 174]</p> <p>★円周角の定理を利用して証明しよう。</p> <p>○円周角の定理を使って相似な図形の証明をする方法を考える。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>9・10 円周角や円の性質に関する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 176～P. 179]</p> <p>★円の性質についてまとめ、問題に取り組もう。</p> <p>○6章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組み、理解を深める。</p> <p>○6章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組み、理解を深める。</p> | <p>同じ円周上にあることを丁寧に扱う。</p> <p>・話し合いを通して、どのような作図が必要かということを挙げさせ、数学的な問題に置き換えられるようにする。</p> <p>・デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。</p> <p>【評】船の位置を探す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・作図ができるだけでなく、「その図がなぜ正しいのか」について根拠を基にした説明ができるように促していく。</p> <p>・デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。</p> <p>【評】作図の方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・円周角の定理だけでなく、第2学年の証明で用いたさまざまな性質についてしっかりと復習しておく。</p> <p>【評】証明の方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・P. 175にある「星形の図形の先端にできる角の和」を扱い、星形の先端が円周上にあるとき、ないときにかかわらず、角の和は<math>180^\circ</math>になることを伝えたい。</p> <p>・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。</p> <p>【評】円周角に関する問題を解く活動を通して「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|---|---|

【備考】

円は、直線とともに最も身近な図形の一つであり、小学校から学習している。例えば、小学校算数科では、円の中心、半径及び直径、円周率、円の面積を学習してきている。中学校数学科においては、第1学年で円の接線について学習している。

中学校第3学年では、これらの学習の上に立って、数学的な推論の過程に着目し、円周角と中心角の関係について考察し、これによって円の性質の理解をより深めるとともに、円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用できるようにする。

## 単元名 三平方の定理

配当時間 13時間

単元の目標 (1) 三平方の定理の意味を理解することができる。  
 (2) 三平方の定理を見いだしたり、具体的な場面で活用したりすることができる。  
 (3) 三平方の定理のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

12230301\_001

【準備等】 定規、方眼黒板、コンパス、分度器、電卓、三角定規

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1・2 直角三角形のそれぞれの辺を1辺とする3つの正方形の面積の関係を調べる活動を通して、単元の学習課題をつかむ。[P.180～P.184]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三角形のしきつめの模様について、いえることを考える</li> <li>○ ピタゴラスの発見について、直角三角形のそれぞれの辺を1辺とする3つの正方形の面積を求める。</li> <li>○ 直角三角形の各辺をそれぞれ1辺とする正方形の面積の間に、どんな関係があるか考え、話し合う。</li> <li>○ 3つの正方形の、面積の関係をまとめる。</li> <li>★ 直角三角形の3辺の長さの関係について考えよう。</li> <li>○ 三平方の定理の証明をする。</li> <li>○ 三平方の定理を使って、2辺の長さが分かっている直角三角形の残りの辺の長さを求める方法を考え、理解する</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>3・4 三平方の定理の逆について考え、その定理を利用して問題を解く。[P.185～P.187]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3辺の長さが決まっている三角形をかき、どのような三角形になるか予想する。</li> <li>★ 三平方の定理の逆について考えよう。</li> <li>○ 2つの三角形が合同であることを証明する。</li> <li>○ 三平方の定理の逆についてまとめる。</li> <li>○ 三平方の定理の逆を使って直角三角形かどうかを判断する方法を考え、理解する。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○ 2つの正方形の面積の和と等しい正方形の1辺をかき入れ、なぜその線分が条件に合うのか考え、話し合う。</li> <li>○ 三平方の定理についての練習問題を解き、理解を深める</li> </ul> <p>5 三平方の定理を利用して、平面図形における線分の長さや面積を求める。[P.188～P.190]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 富士山の頂上から見わたせる範囲を考えよう。</li> <li>○ 富士山の頂上から見わたせる範囲を求めるにはどうすればよいかを考え、話し合う。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> <li>○ 自分の住んでいる地域で見渡せる範囲について調べる。</li> </ul> <p>6 三平方の定理を利用して、正三角形の高さや面積を求める。[P.191]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 正三角形の高さと面積を求めよう。</li> <li>○ 正三角形の高さの求め方を考える。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>7 三平方の定理を利用して、三角定規の辺の比や特別な角をもつ直角三角形の辺の長さを求める。[P.192]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三角定規になっている直角三角形について、3辺の長さの割合が、決まっている理由を考え、発表する。</li> <li>★ 三平方の定理を利用して、平面における線分の長さや面積を求めよう。</li> <li>○ 特別な角をもつ直角三角形の辺の長さについて、比を使って解く方法を理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入に当たっては、この定理にまつわる歴史的な背景や逸話の紹介等を通して、生徒の興味・関心を引き出す工夫をしたい。</li> <li>・ 話し合いを通して、3つの正方形の面積の間の関係を予想させる。<br/>【評】 直角三角形の3つの辺の長さについての観察や操作活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 三平方の定理は、直角三角形の辺の長さの間に成り立つ関係であることを押さえる。<br/>【評】 三平方の定理をまとめ、それを使って辺の長さを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 三平方の定理は、直角三角形の辺の長さの間に成り立つ関係であることを押さえる。</li> <li>・ 間接証明法である同一法を利用して証明するため、ゆっくりと丁寧に指導し、全体の流れを理解させる。</li> <li>・ 仮定と結論が入れ替わっていることを確認する。</li> <li>・ P.187にある「大矩」を扱い、測量や建築の場面で三平方の定理を利用した道具が使われていることを伝える。</li> <li>・ 事前に地域の建物について調べておくとうい</li> <li>・ 図形の中に適当な直角三角形を見いだしたり補助的に作り出したりする活動を通して、その重要性を理解させる。</li> <li>・ 二等辺三角形の頂点から底辺に垂線をひくと底辺を二等分することを振り返るとよい。</li> <li>・ 数値だけを覚えるのではなく、正方形や正三角形をそれぞれ直角三角形に二等分して、三平方の定理を利用すれば求められることに気付かせたい。</li> </ul> |

|   |  |
|---|--|
| <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>8 三平方の定理を利用して、円に関する問題を考える。[P. 193]</p> <p>★弦の長さを求める方法を考えよう。</p> <p>○円の中に直角三角形をつくり、円の弦の長さを求める方法を考える。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>9 三平方の定理を利用して、2点間の距離を求める方法を考える。[P. 194]</p> <p>★2点間の距離を求める方法を考えよう。</p> <p>○座標平面上の2点間の距離を計算で求める方法を考える</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>10 三平方の定理を利用して、空間における線分の長さを求める。[P. 195]</p> <p>★空間における線分の長さを求める方法を考えよう。</p> <p>○空間図形の中に直角三角形を見つけ、直方体の対角線を求める方法を考える。</p> <p>○学習したことがらを使って問題を解く。</p> <p>11 三平方の定理を利用して、正四角錐の高さや体積を求める。[P. 196・P. 197]</p> <p>★立体の高さや体積を求める方法を考えよう。</p> <p>○正四角錐の中に直角三角形をつくり、高さや体積を求める方法を考える。</p> <p>○根号をふくむ無理数を数直線上に表す方法を考え、話し合う。</p> <p>○三平方の定理の利用についての練習問題を解き、理解を深める。</p> <p>12・13 三平方の定理に関する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 198～P. 201]</p> <p>★三平方の定理についてまとめ、問題に取り組もう。</p> <p>○7章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組む、理解を深める。</p> <p>○7章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組む、理解を深める。</p> | <p>【評】三平方の定理を使って線分の長さを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <p>・図の中に直角三角形をつくることの重要性を押さえる。</p> <p>・座標平面上の2点間の距離の公式まで発展させる必要はないため、生徒の実態に応じて扱う程度にする。</p> <p>・三平方の定理を空間でも利用すること、また解決したい現実の場面を数学の対象とする際に理想化したり、単純化したりする経験をする事、それを基に解決に必要な図を自分でかくことなどが大切である。</p> <p>・他にも直角三角形がつかれないか考えさせるのもよい。</p> <p>・角錐の体積の求め方を振り返ることで、まず高さを求めなければならないという見通しをもたせる。</p> <p>【評】三平方の定理を利用して図形の面積や体積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。</p> <p>・角錐の体積の求め方を振り返ることで、まず高さを求めなければならないという見通しをもたせる。</p> <p>【評】三平方の定理に関する問題を解く活動を通して、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】

三平方の定理は直角三角形の3辺の長さの関係を表しており、数学において重要な定理であり、測量の分野でも用いられるなど活用される範囲が極めて広い定理である。指導に当たっては、ただ単に様々な図形の性質を証明することの延長として三平方の定理を扱うのではなく、直角三角形だからこそ成り立つ関係の美しさに触れられるような工夫と配慮が望まれる。

## 単元名 標本調査

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 標本調査の必要性和意味を理解したり、コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理したりすることができる。  
 (2) 標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現したり、簡単な場合について標本調査を行い母集団の傾向を推定し判断したりすることができる。  
 (3) 標本調査のよさに気付いて粘り強く考え、学んだことを生かそうとしたり、活用した問題解決の過程を振り返ろうとしたりしている。

## 標準的な展開例

12230302\_001

【準備等】乱数さい、乱数表、コンピュータ

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど   |
|---|---|
| <p>1・2 全数調査と標本調査について、その方法と必要性を考え単元の学習課題をつかむ。[P. 202～P. 205]</p> <p>○ 社会生活基本調査の仕組みを理解する。</p> <p>★ 調査の方法について考えよう。</p> <p>○ いろいろな調査について、全数調査か標本調査かを考え話し合う。</p> <p>○ 全数調査について、その必要性を考え、理解する。</p> <p>○ 標本調査について、その必要性を考え、理解する。</p> <p>○ 標本調査の仕組みを理解する。</p> <p>○ 学習したことがらをを使って問題を解く。</p> <p>3 集団から一部を取り出して調べることや、その方法について理解する。[P. 206～P. 208・P. 215]</p> <p>○ 標本として偏りなく取り出すにはどうすればよいか考える。</p> <p>★ 標本を抽出する方法について考えよう。</p> <p>○ 表計算ソフトや乱数さい、乱数表など、無作為に抽出する方法を理解する。</p> <p>○ 学習したことがらをを使って問題を解く。</p> <p>4 標本調査によって母集団の性質を推測し、標本調査に関する問題を解く。[P. 209～P. 211]</p> <p>★ 標本の性質から母集団の性質を推定しよう。</p> <p>○ 母集団の平均値と、無作為に抽出した平均値を比べる。</p> <p>○ 20回分の標本の平均をくらべたときどんなことがいえるかについて考え、話し合う。</p> <p>○ 標本と母集団の関係がどうなるか考える。</p> <p>○ 箱ひげ図で表したときにどんなことが読み取れるかについて考え、話し合う。</p> <p>5 実際に標本調査を行い、母集団の性質を推測する。[P. 212～P. 214]</p> <p>★ データを活用して問題を解決しよう。</p> <p>○ アンケートの方法を考える。</p> <p>○ 調査の対象について考える。</p> | <p>・ これまでの確率や統計の内容の指導が、資料の「整理」に重きをおく傾向があったことを見直し、整理した結果を用いて考えたり判断したりすることの指導を重視している。そのため、標本調査の必要性和意味を理解できるようにすることが大切である。</p> <p>・ デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。</p> <p>・ 全数調査という用語について押さえる。</p> <p>・ 標本調査、母集団、標本という用語について押さえる。</p> <p>【評】 全数調査や標本調査について理解し、調査の種類を分類する活動を通して、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ P. 205にある「国勢調査」を扱い、全数調査で人口の増減や年齢別の人口を知ることができることを伝える。(デジタルコンテンツあり)</p> <p>・ 無作為に抽出するという用語を押さえる。</p> <p>・ P. 215にある乱数表を紹介するとよい。</p> <p>・ デジタルコンテンツで視覚的に理解させることもできる。</p> <p>・ 母集団から無作為に抽出するには、母集団に含まれる人やものに一つずつ番号をつけて、その番号を抽出すればよいことを確認する。</p> <p>・ P. 208にある「選挙結果の予測」を扱い、無作為抽出しないと、調査の結果が正しく出ないことがあることを伝える。</p> <p>・ 日常生活や社会においては、さまざまな理由から収集できる資料が全体の一部分に過ぎない場合が少なくない。このような状況から生み出された考えが標本調査であり、全数調査と比較するなどして、標本調査の必要性和意味の理解を深めるような工夫が必要である。</p> <p>【評】 母集団から偏りなく抽出する方法について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 母集団の傾向を捉え説明することを通して標本調査を利用できるようにし、不確定な事象に関する情報に惑わされないようにすることが大切である。</p> |

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 標本調査を行った結果から、母集団の特徴や傾向などの性質を推測する方法を考え、理解する。</li> <li>○ 学習したことがらを使って問題を解く。</li> </ul> <p>6 標本調査に関する問題を解き、学習のまとめをする。[P. 216・P. 217]</p> <p>★ 標本調査についてまとめ、問題に取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 8 章の章末問題「学びをたしかめよう」に取り組む、理解を深める。</li> <li>○ 8 章の章末問題「学びを身につけよう」に取り組む、理解を深める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒自身が予測や判断の前提として、資料の信頼性に目を向けられるようにすることも大切である。</li> <li>・ 標本調査で推測することに重きを置くため、正確な結果を出すのではなく、推測の過程をきちんと実施することが大切である。</li> </ul> <p>【評】 標本調査から、母集団の性質を推測する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P. 214にある「魚の数を調べるには？」を扱い、魚のように全数調査をしにくい生き物でも、標識再捕獲法を使えば総数を推定できることを伝える。（デジタルコンテンツあり）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「自分から学ぼう編」やデジタルコンテンツも積極的に活用させる。</li> </ul> <p>【評】 標本調査に関する問題を解く活動を通して、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】

中学校数学科において第 1 学年では、目的に応じてデータを収集して整理し、ヒストグラムや相対度数などを用いてデータの傾向を読み取れることを学習している。また、多数回の試行によってデータを集めることにより、不確定な事象の起こりやすさに一定の傾向があることを調べる活動を通して、確率について学習している。第 2 学年では、四分位範囲や箱ひげ図を学習し、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断する力を養っている。また、同様に確からしいことを利用することで数学的に確率を求めることができる場合があることを学習している。

第 3 学年では、これらの学習の上に立って、母集団の一部分を標本として抽出する方法や、標本の傾向を調べることで、母集団の傾向が読み取れることを理解できるようにするとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現したり、母集団の傾向を推定し判断したりできるようにする。

# **令和 3 年度 知多地方教育計画案**

## **理科**

# 理 科

## 1 教科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

### ○「自然の事物・現象に関わり」について

理科は、自然の事物・現象を学習の対象とする教科であり、生徒が主体的に問題を見いだすために自然の事物・現象との関わりは不可欠である。また、学習意欲を喚起する点からも大切なことである。

### ○「理科の見方・考え方を働かせ」について

「見方・考え方」は学びの本質的な意義の中核をなすものであり、理科の学習においては、この「見方・考え方」を働かせながら、知識及び技能を習得したり、思考、判断、表現したりしていくものであると同時に、学習を通じて、「理科の見方・考え方」が豊かで確かなものとなっていくと考えられる。

### ○「見通しをもって観察、実験を行うこと」について

観察、実験を行う際、生徒に観察、実験を何のために行うか、観察、実験ではどのような結果が予想されるかを考えさせることなどであり、観察、実験を進める上で大切である。さらに、広く理科の学習全般においても、生徒が見通しをもって学習を進め、学習の結果、何が獲得され、何が分かるようになったかをはっきりさせ、一連の学習を自分のものとすることができるようにすることが重要である。

### ○「(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けようにする。」について

知識及び技能を育成するに当たっては、自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることが重要である。その際、日常生活や社会との関わりの中で、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感しながら、生徒が自らの力で知識を獲得し、理解を深めて体系化していくようにすることが大切である。また、観察、実験などに関する基本的な技能については、探究の過程を通して身に付けるようにすることが大切である。

### ○「(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。」について

…思考力、判断力、表現力等

科学的に探究する力を育成するに当たっては、自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈するなどの活動を行うことが重要である。その際、第1学年では自然の事物・現象に進んで関わり、それらの中から問題を見いだす活動、第2学年では解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動、第3学年では探究の過程を振り返る活動などに重点を置き、3年間を通じて科学的に探究する力の育成を図るようにする。

### ○「(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。」について

…学びに向かう力、人間性等



学びに向かう力，人間性等を育成するに当たっては，生徒の学習意欲を喚起し，生徒が自然の事物・現象に進んで関わり，主体的に探究しようとする態度を育てることが重要である。その際，自然体験の大切さや日常生活や社会における科学の有用性を実感できるような場面を設定することが大切である。このような主体的に探究する活動を通して，自然の美しさ，精妙さ，偉大さを改めて感得し，自然についての理解を深め，新たな問題を見いだそうとするなど，生徒の感性や知的好奇心などが育まれる。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 改訂の趣旨

#### ①平成 20 年改訂の学習指導要領の成果と課題を踏まえた理科の目標の在り方

- ・ P I S A 2015, T I M S S 2015 とともに科学的リテラシーの得点は良好な結果であり，理科を学ぶことに対する関心・意欲や意義・有用性に対する認識について改善が見られた。一方，諸外国と比べると肯定的な回答の割合が低い状況にあることや，「観察・実験の結果などを整理・分析した上で，解釈・考察し，説明すること」などの資質・能力に課題が見られる。
- ・課題に適切に対応できるよう，理科の学習を通じて育成を目指す資質・能力の全体像を明確化するとともに，理科教育の改善・充実を図っていくことが必要である。
- ・理科における「見方・考え方」を，「自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること」と示している。

#### ②理科の具体的な改善事項

- ・探究の過程全体を生徒が主体的に遂行できるようにすることを目指すとともに，生徒が常に知的好奇心を持って身の回りの自然の事物・現象に関わるようになることや，その中で得た気付きから疑問を形成し，課題として設定することができるようになることを重視すべきである。
- ・生徒自身が観察，実験を中心とした探究の過程を通じて課題を解決したり，新たな課題を発見したりする経験を可能な限り増加させていくことが重要である。
- ・「主体的な学び」，「対話的な学び」，「深い学び」の三つの視点から学習過程を更に質的に改善していくことが必要である。
- ・理科において育成を目指す資質・能力の実現を図り，生徒の興味・関心を高めていくためには，指導体制の強化や教員研修，実験器具等の整備の充実，I C T 環境の整備などの条件整備が求められる。

### (2) 改訂の要点

#### ①改善・充実した主な内容

- 〔第 1 分野〕・第 3 学年に加えて，第 2 学年においても，放射線に関する内容を扱うこと
- 〔第 2 分野〕・全学年で自然災害に関する内容を扱うこと
- ・第 1 学年において，生物の分類の仕方に関する内容を扱うこと

#### ②移行した主な内容

- 〔第 1 分野〕・電気による発熱（小学校第 6 学年から第 2 学年へ）
- ・圧力（第 1 学年から第 3 学年へ，第 1 学年から第 2 学年へ）
- 〔第 2 分野〕・葉・茎・根のつくりと働き（第 1 学年から第 2 学年へ）
- ・動物の体の共通点と相違点（第 2 学年から第 1 学年へ）
- ・生物の種類の多様性と進化（第 2 学年から第 3 学年へ）
- ・自然の恵みと火山災害・地震災害（第 3 学年から第 1 学年へ）
- ・自然の恵みと気象災害（第 3 学年から第 2 学年へ）

## 第 1 分野 理科

### 1 第 1 分野の目標

物質やエネルギーに関する事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察，実験などを行い，身近な物理現象，電流とその利用，運動とエネルギー，身の回りの物質，化学変化と原子・分子，化学変化とイオンなどについて理解するとともに，科学技術の発展と人間生活との関わりについて認識を深めるようにする。また，それらを科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 物質やエネルギーに関する事物・現象に関わり，それらの中の問題を見いだし見通しをもって観察，実験などを行い，その結果を分析して解釈し表現するなど，科学的に探究する活動を通して，規則性を見いだしたり課題を解決したりする力を養う。
- (3) 物質やエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり，科学的に探究しようとする態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようになる。

### 2 内容及び内容の取扱い

以下に示す内容は，アとして知識及び技能，イとして思考力，判断力，表現力等を身に付けるように指導することを示している。なお，学びに向かう力，人間性等は第 1 分野の目標の(3)を適用する。また，①②③④⑤⑥は内容の取扱いを表す。

#### (1) 身近な物理現象（第 1 学年）

身近な物理現象についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身近な物理現象を日常生活や社会生活と関連付けながら，光と音，力の働きについて理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付けること。

イ 身近な物理現象について，問題を見いだし見通しをもって観察，実験などを行い，光の反射や屈折，凸レンズの働き，音の性質，力の働きの規則性や関係性を見いだして表現すること。

① 全反射も扱い，光の屈折では入射角と屈折角の定性的な関係に触れること。また，白色光はプリズムなどによっていろいろな色の光に分かれることにも触れること。

② 物体の位置に対する像の位置や像の大きさの定性的な関係を調べること。その際，実像と虚像を扱うこと。

③ 音の伝わる速さについて，空気中を伝わるおよその速さに触れること。

④ ばねに加える力の大きさとばねの伸びとの関係を扱うこと。また，重さと質量との違いにも触れること。力の単位としては「ニュートン」を用いること。

#### (2) 身の回りの物質（第 1 学年）

身の回りの物質についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身の回りの物質の性質や変化に着目しながら，物質のすがた，水溶液，状態変化について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付けること。

イ 身の回りの物質について，問題を見いだし見通しをもって観察，実験などを行い，物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現すること。

① 有機物と無機物との違いや金属と非金属との違いを扱うこと。

② 異なる方法を用いても同一の気体が得られることにも触れること。

③ 水溶液については粒子のモデルと関連付けて扱い、質量パーセント濃度にも触れること。また、「溶解度」については、溶解度曲線にも触れること。

④ 物質の状態変化については粒子のモデルと関連付けて扱うこと。その際、粒子の運動にも触れること。

### (3) 電流とその利用（第2学年）

電流とその利用についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 電流、磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、電流、電流と磁界について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

イ 電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現すること。

① 「回路」については、直列及び並列の回路を取り上げ、それぞれについて二つの抵抗のつなぎ方を中心に扱うこと。

② 「電気抵抗」については、物質の種類によって抵抗の値が異なることを扱うこと。また、二つの抵抗をつなぐ場合の合成抵抗にも触れること。

③ 電力量を扱うこと。その際、熱量にも触れること。

④ 電流が電子の流れに関係していることを扱うこと。また、真空放電と関連付けながら放射線の性質と利用にも触れること。

⑤ 電流の向きや磁界の向きを変えたときに力の向きが変わることを扱うこと。

⑥ コイルや磁石を動かす向きを変えたときに電流の向きが変わることを扱うこと。

### (4) 化学変化と原子・分子（第2学年）

化学変化についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、物質の成り立ち、化学変化、化学変化と物質の質量について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

イ 化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現すること。

① 「物質を構成する原子の種類」を元素ということにも触れること。また、「記号」については、元素記号で表されることにも触れ、基礎的なものを取り上げる。その際、周期表を用いて多くの種類が存在していることにも触れること。

② 「化学式」及び「化学反応式」については、簡単なものを扱うこと。

③ 「酸化や還元」については、簡単なものを扱うこと。

### (5) 運動とエネルギー（第3学年）

物体の運動とエネルギーについての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、力のつり合いと合成・分解、運動の規則性、力学的エネルギーについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

イ 運動とエネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力のつり合い、合成や分解、物体の運動、力学的エネルギーの規

則性や関係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。

- ① 水中にある物体には、あらゆる向きから圧力が働くことにも触れること。また、物体に働く水圧と浮力との定性的な関係にも触れること。
- ② 物体に力が働くとき反対向きにも力が働くことにも触れること。
- ③ 「力が働く運動」のうち、落下運動については斜面に沿った運動を中心に扱うこと。その際、傾斜の角度が 90 度になったときに自由落下になることにも触れること。「物体の速さが変わる事」については、定性的に扱うこと。
- ④ 仕事の原理にも触れること。
- ⑤ 摩擦にも触れること。

(6) 化学変化とイオン（第 3 学年）

化学変化についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 化学変化をイオンのモデルと関連付けながら、水溶液とイオン、化学変化と電池について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

イ 化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。

- ① 「原子の成り立ち」については、原子が電子と原子核からできていることを扱うこと。その際、原子核が陽子と中性子でできていることや、同じ元素でも中性子の数が異なる原子であることにも触れること。また、「イオン」については、化学式で表されることにも触れること。
- ② pH に触れること。
- ③ 水に溶ける塩と水に溶けない塩があることに触れること。
- ④ 「金属イオン」については、基礎的なものを扱うこと。
- ⑤ 「電池」については、電極で起こる反応をイオンのモデルと関連付けて扱うこと。その際、「電池の基本的な仕組み」については、ダニエル電池を取り上げること。また、日常生活や社会で利用されている代表的な電池にも触れること。

(7) 科学技術と人間（第 3 学年）

科学技術と人間との関わりについての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 日常生活と社会と関連付けながら、エネルギーと物質、自然環境の保全と科学技術の利用について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

イ 日常生活や社会で使われているエネルギーや物質について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。

- ① 熱の伝わり方、放射線に触れること。また、「エネルギーの変換」については、その総量が保存されること及びエネルギーを利用する際の効率も扱うこと。
- ② 「様々な物質」については、天然の物質や人工的につくられた物質のうち代表的なものを扱うこと。その際、プラスチックの性質にも触れること。
- ③ 第 1 分野と第 2 分野の学習を生かし、第 2 分野の内容の「自然環境の保全と科学技術の利用」と関連付けて総合的に扱うこと。

### 3 「理科の見方・考え方」について

学習指導要領の理科の目標の柱書には、従前のものにはなかった「理科の見方・考え方を働かせ」という文言が追記されている。理科の学習においては、「理科の見方・考え方を働かせながら、知識及び技能を習得したり、思考、判断、表現したりしていくものであると同時に、学習を通して、「理科の見方・考え方」が豊かで確かなものになっていくと考えられる。

### (1) 理科の各領域における特徴的な見方

理科における「見方（様々な事象等を捉える各教科等ならではの視点）」については、理科を構成する領域ごとの特徴を見いだすことが可能である。その特徴的な視点を下図のように整理した。

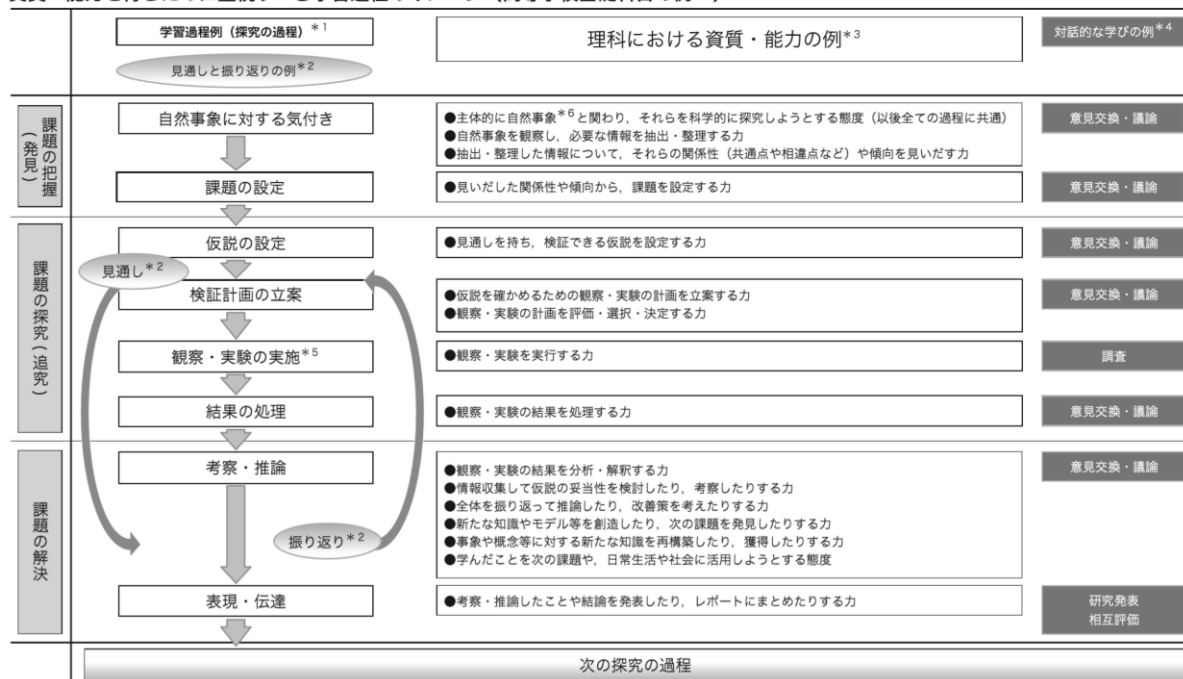
|        | 領 域  |                                 |                                    |                                       |
|--------|--|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|
|        | エネルギー                                      | 粒 子                             | 生 命                                | 地 球                                   |
| 見方     | 自然の事物・現象として主として量的・関係的な視点で捉える。              | 自然の事物・現象を主として質的・実体的な視点で捉える。     | 生命に関する自然の事物・現象を主として多様性・共通性の視点で捉える。 | 地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉える。 |
| 見方の整理例 | 電気に関する現象について、電流、電圧、抵抗(量)の関係をオームの法則の関係で捉える。 | 物質やその変化について、原子や分子を化学変化で実体的に捉える。 | 植物や動物の体のつくりについて、多様性と共通性の視点で捉える。    | 地層の重なりについて、時間的・空間的な視点で捉える。            |

### (2) 科学的に探究するために

#### ① 科学的に探究する学習

理科における「考え方」については、下図で示した探究の過程を通した学習活動の中で、科学的に探究する方法を用いて考えることとして整理することができる。

資質・能力を育むために重視すべき学習過程のイメージ（高等学校基礎科目の例\*7）



\*1 探究の過程は、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では、その過程の一部を扱ってよい。  
 \*2 「見直し」と「振り返り」は、学習過程全体を通してのみならず、必要に応じて、それぞれの学習過程で行うことも重要である。  
 \*3 全ての学習過程において、今までに身に付けた資質・能力（既習の知識及び技能など）を活用する力が求められる。  
 \*4 意見交換や議論の際には、あらかじめ個人で考えることが重要である。また、他者とのかわりの中で自分の考えをより妥当なものにする力が求められる。  
 \*5 単元内容や題材の関係で観察・実験が扱えない場合も、調査して論理的に検討を行うなど、探究の過程を経ることが重要である。  
 \*6 自然事象には、日常生活に見られる事象も含まれる。  
 \*7 小学校及び中学校においても、基本的には高等学校の例と同様の流れで学習過程を捉えることが必要である。

## ②指導の重点等の提示

3年間を通じて計画的に、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するため、各学年で主に重視する探究の学習過程の例を下のように整理した。また、学習指導要領解説における科学的に探究する学習の事例も示してある。ただし、これらはあくまでも事例であり、探究の学習過程はどの単元の、どの部分でも行ってもよいことに留意する。

- ・第1学年：自然の事物・現象に進んで関わり，その中から問題を見いだす。  
「光の反射・屈折」【解説 P.30,31】  
「身の回りの物質とその性質」【解説 P.36】
- ・第2学年：解決する方法を立案し，その結果を分析して解釈する。  
「回路と電流・電圧」【解説 P.41,42】  
「質量変化の規則性」【解説 P.51】
- ・第3学年：探究の過程を振り返る。  
「力と運動」【解説 P.55,56】  
「金属イオン」【解説 P.61,62】

## 4 評価の観点の趣旨

| 観 点           | 観 点 の 趣 旨  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | 物質やエネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現      | 物質やエネルギーに関する事物・現象から問題を見だし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。                      |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 物質やエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。  |

## 第2分野 理科

### 1 第2分野の目標

生命や地球に関する事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生命や地球に関する事物・現象についての観察，実験などを行い，生物の体のつくりと働き，生命の連続性，大地の成り立ちと変化，気象とその変化，地球と宇宙などについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 生命や地球に関する事物・現象に関わり，それらの中に問題を見いだし見通しをもって観察，実験などを行い，その結果を分析して解釈し表現するなど，科学的に探究する活動を通して，多様性に気付くとともに規則性を見いだしたり課題を解決したりする力を養う。
- (3) 生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようにする。

### 2 内容及び内容の取扱い

以下に示す内容は，アとして知識及び技能，イとして思考力，判断力，表現力等を身に付けるように指導することを示している。なお，学びに向かう力，人間性等は第2分野の目標の(3)を適用する。また，①②③④⑤は内容の取扱いを表す。

#### (1) いろいろな生物とその共通点（第1学年）

身近な生物についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら，生物の観察と分類の仕方，生物の体の共通点と相違点について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付けること。

イ 身近な生物についての観察，実験などを通して，いろいろな生物の共通点や相違点を見い出すとともに，生物を分類するための観点や基準を見い出して表現すること。

① 身近な生物の観察を扱うが，ルーペや双眼実体顕微鏡などを用いて，外見から観察できる体のつくりを中心に扱うこと。

#### (2) 大地の成り立ちと変化（第1学年）

大地の成り立ちと変化についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら，身近な地形や地層，岩石の観察，地層の重なりと過去の様子，火山と地震，自然の恵みと火山災害・地震災害について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付けること。

イ 大地の成り立ちと変化について，問題を見いだし見通しをもって観察，実験などを行い，地層の重なり方や広がり方の規則性，地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見い出して表現すること。

① 「身近な地形や地層，岩石などの観察」については，学校内外の地形や地層，岩石などを観察する活動とすること。

② 地層を形成している代表的な堆積岩を取り上げること。「地層」については，断層，

褶曲にも触れること。「化石」については、示相化石及び示準化石を取り上げること。

「地質年代」の区分は、古生代、中生代、新生代を取り上げること。

③ 「火山」については、粘性と関係付けながら代表的な火山を扱うこと。「マグマの性質」については、粘性を扱うこと。「火山岩」及び「深成岩」については、代表的な岩石を扱うこと。また、代表的な造岩鉱物も扱うこと。

④ 地震の現象面を中心に扱い、初期微動継続時間と震源までの距離との定性的な関係に触れること。また、「地球内部の動き」については、日本付近のプレートの動きを中心に扱い、地球規模でのプレートの動きにも触れること。その際、津波発生の仕組みについても触れること。

⑤ 「火山災害と地震災害」については、記録や資料などを用いて調べること。

### (3) 生物の体のつくりと働き（第2学年）

生物の体のつくりと働きについての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生物と細胞、植物の体のつくりと働き、動物の体のつくりと働きについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

イ 身近な植物や動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現すること。

① 植物と動物の細胞のつくりの共通点と相違点について触れること。また、細胞の呼吸及び単細胞生物の存在にも触れること。

② 光合成における葉緑体の働きに触れること。また、葉、茎、根の働きを相互に関連付けて扱うこと。

③ 各器官の働きを中心に扱うこと。「消化」については、代表的な消化酵素の働きを扱うこと。また、摂取された食物が消化によって小腸の壁から吸収される物質になることにも触れること。血液の循環に関連して、血液成分の働き、腎臓や肝臓の働きにも触れること。

④ 各器官の働きを中心に扱うこと。

### (4) 気象とその変化（第2学年）

身近な気象の観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象観測、天気の変化、日本の気象、自然の恵みと気象災害について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

イ 気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現すること。

① 「大気圧」については、空気中にある物体にはあらゆる向きから圧力が働くことに触れること。

② 気温による飽和水蒸気量の変化が湿度の変化や凝結に関わりがあることを扱うこと。また、水の循環に触れること。

③ 風の吹き方にも触れること。

④ 地球を取り巻く大気の動きに触れること。また、地球の大きさや大気の厚さにも触れること。

⑤ 「気象災害」については、記録や資料などを用いて調べること。



(5) 生命の連続性（第3学年）

生命の連続性についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生命の連続性に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物の成長と殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、生物の種類の多様性と進化について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

イ 生命の連続性について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生命の成長と殖え方、遺伝現象、生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。

- ① 染色体が複製されていることに触れること。
- ② 有性生殖の仕組みを減数分裂と関連付けて扱うこと。「無性生殖」については、単細胞生物の分裂や栄養生殖にも触れること。
- ③ 分離の法則を扱うこと。また、遺伝子の本体がDNAであることに触れること。
- ④ 進化の証拠とされる事柄や進化の具体例について扱うこと。その際、生物にはその生息環境での生活に都合のよい特徴が見られることに触れること。また、遺伝子に変化が起きて形質が変化することがあることに触れること。

(6) 地球と宇宙（第3学年）

身近な天体の観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、天体の動きと地球の自転・公転、太陽系と恒星について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

イ 地球と宇宙について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。

- ① 「太陽の南中高度の変化」については、季節による昼夜の長さや気温の変化に触れること。
- ② 「太陽の特徴」については、形、大きさ、表面の様子などを扱うこと。その際、太陽から放出された多量の光などのエネルギーによる地表への影響にも触れること。
- ③ 「惑星」については、大きさ、大気組成、表面温度、衛星の存在などを取り上げること。その際、地球には生命を支える条件が備わっていることに触れること。「恒星」については、自ら光を放つことや太陽もその一つであることも扱うこと。その際、恒星の集団としての銀河系の存在にも触れること。「太陽系の構造」については、惑星以外の天体が存在することにも触れること。
- ④ 「月の公転と見え方」については、月の運動と満ち欠けを扱うこと。その際、日食や月食にも触れること。また、「金星の公転と見え方」については、金星の運動と満ち欠けや見かけの大きさを扱うこと。

(7) 自然と人間（第3学年）

自然環境を調べる観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 日常生活と社会と関連付けながら、生物と環境、自然環境の保全と科学技術の利用について理解するとともに、自然環境を調べる観察、実験などに関する技能を身に付けること。

イ 身近な自然環境や地域の自然災害などを調べる観察，実験などを行い，自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について，科学的に考察して判断すること。

- ① 生態系における生産者と消費者との関係を扱うこと。また，分解者の働きについても扱うこと。その際，土壤動物にも触れること。
- ② 生物や大気，水などの自然環境を直接調べたり，記録や資料を基に調べたりするなどの活動を行うこと。また，気候変動や外来生物にも触れること。
- ③ 地域の自然災害を調べたり，記録や資料を基に調べたりする活動を行うこと。
- ④ 第1分野と第2分野の学習を生かし，第1分野の内容の「自然環境の保全と科学技術の利用」と関連付けて総合的に扱うこと。

### 3 「理科の見方・考え方」について

学習指導要領の理科の目標の柱書には，従前のものにはなかった「理科の見方・考え方を働かせ」という文言が追記されている。理科の学習においては，「理科の見方・考え方」を働かせながら，知識及び技能を習得したり，思考，判断，表現したりしていくものであると同時に，学習を通して，「理科の見方・考え方」が豊かで確かなものになっていくと考えられる。

#### (1) 理科の各領域における特徴的な見方

理科における「見方（様々な事象等を捉える各教科等ならではの視点）」については，理科を構成する領域ごとの特徴を見いだすことが可能である。その特徴的な視点を下図のように整理した。

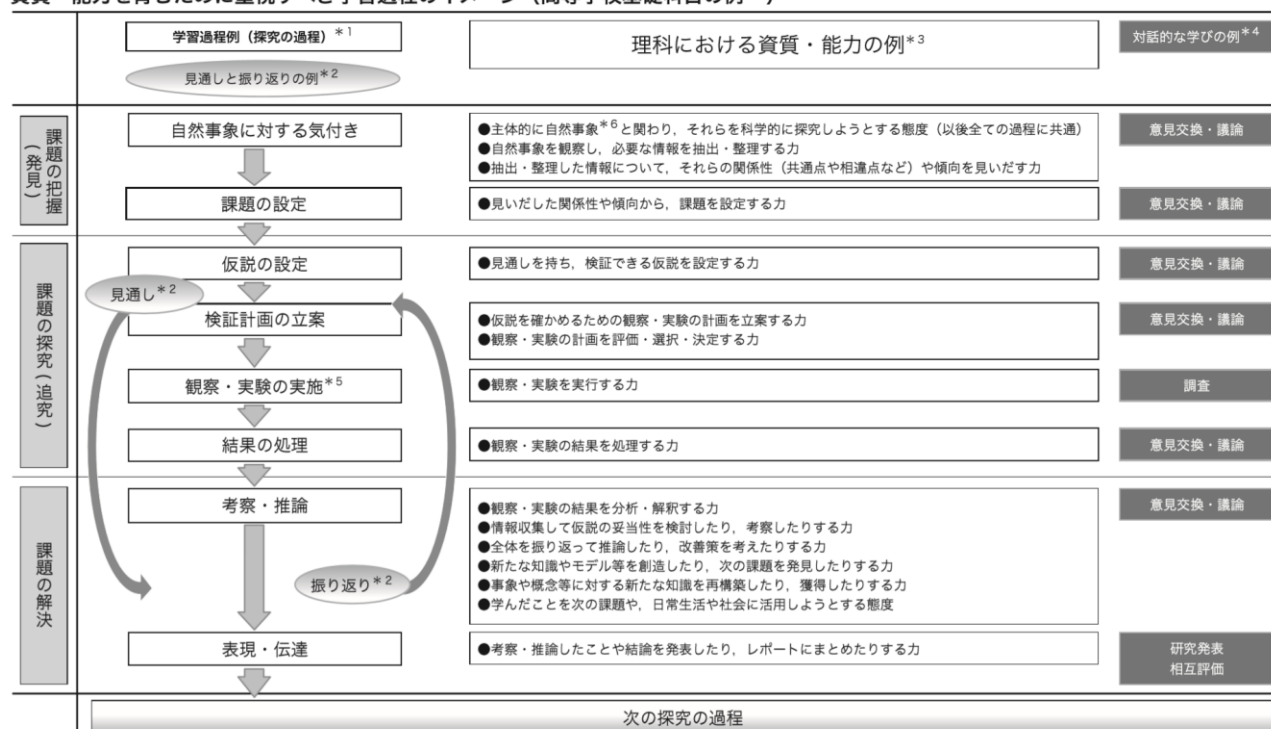
|        | 領 域  |                                      |   |  |
|--------|--|--------------------------------------|---|--|
|        | エネルギー                                      | 粒 子                                  | 生 命   | 地 球  |
| 見方     | 自然の事物・現象として主として <u>量的・関係的な視点</u> で捉える。     | 自然の事物・現象を主として <u>質的・実体的な視点</u> で捉える。 | 生命に関する自然の事物・現象を主として <u>多様性・共通性の視点</u> で捉える。 | 地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として <u>時間的・空間的な視点</u> で捉える。 |
| 見方の整理例 | 電気に関する現象について，電流，電圧，抵抗(量)の関係をオームの法則の関係で捉える。 | 物質やその変化について，原子や分子を化学変化で実体的に捉える。      | 植物や動物の体のつくりについて，多様性と共通性の視点で捉える。             | 地層の重なりについて，時間的・空間的な視点で捉える。                     |

## (2) 科学的に探究するために

### ① 科学的に探究する学習

理科における「考え方」については、下図で示した探究の過程を通した学習活動の中で、科学的に探究する方法を用いて考えることとして整理することができる。

資質・能力を育むために重視すべき学習過程のイメージ（高等学校基礎科目の例<sup>\*7</sup>）



- \*1 探究の過程は、必ずしも一方の流れではない。また、授業では、その過程の一部を扱ってもよい。  
 \*2 「見通し」と「振り返り」は、学習過程全体を通してのみならず、必要に応じて、それぞれの学習過程で行うことも重要である。  
 \*3 全ての学習過程において、今までに身に付けた資質・能力（既習の知識及び技能など）を活用する力が求められる。  
 \*4 意見交換や議論の際には、あらかじめ個人で考えることが重要である。また、他者とのかわりの中で自分の考えをより妥当なものにする力が求められる。  
 \*5 単元内容や題材の関係で観察・実験が扱えない場合も、調査して論理的に検討を行うなど、探究の過程を経ることが重要である。  
 \*6 自然事象には、日常生活に見られる事象も含まれる。  
 \*7 小学校及び中学校においても、基本的には高等学校の例と同様の流れで学習過程を捉えることが必要である。

### ② 指導の重点等の提示

3年間を通じて計画的に、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するために、各学年で主に重視する探究の学習過程の例を下のように整理した。また、学習指導要領解説における科学的に探究する学習の事例も示してある。ただし、これらはあくまでも事例であり、探究の学習過程はどの単元の、どの部分でも行ってもよいことに留意する。

- ・第1学年：自然の事物・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす。  
 「生物の特徴と分類の仕方」【解説 P.76】  
 「身近な地形や地層、岩石の観察」【解説 P.81】
- ・第2学年：解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する。  
 「葉・茎・根のつくりの働き」【解説 P.38】  
 「気象観測」【解説 P.94】
- ・第3学年：探究の過程を振り返る。  
 「遺伝の規則性と遺伝子」【解説 P.101,102】  
 「月や金星の運動と見え方」【解説 P.108】

#### 4 評価の観点の趣旨

| 観 点           | 観 点 の 趣 旨   |
|---------------|---|
| 知識・技能         | 生命や地球に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現      | 生命や地球に関する事物・現象から問題を見だし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。                      |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。  |

第1学年 理科 年間計画（標準105時間）

|                        | 単 元 名                   | 時間  | 備 考         |
|------------------------|-------------------------|-----|-------------|
| 一<br>学<br>期<br><br>3 6 | ○いろいろな生物とその共通点（2分野 単元1） | 2 4 | 小3，小4，小5    |
|                        | ○身のまわりの物質（1分野 単元2）      | 7   | 小3，小4，小5，小6 |
|                        | ○ゆとり                    | 5   |             |
| 二<br>学<br>期<br><br>4 2 | ○身のまわりの物質（1分野 単元2）      | 1 8 | 小3，小4，小5，小6 |
|                        | ○大地の成り立ちと変化（2分野 単元3）    | 2 2 | 小4，小5，小6    |
|                        | ○ゆとり                    | 2   |             |
| 三<br>学<br>期<br><br>2 7 | ○大地の成り立ちと変化（2分野 単元3）    | 4   | 小4，小5，小6    |
|                        | ○光・音・力（1分野 単元4）         | 2 3 | 小3，小6       |

第2学年 理科 年間計画（標準140時間）

|                        | 単 元 名                   | 時間  | 備 考         |
|------------------------|-------------------------|-----|-------------|
| 一<br>学<br>期<br><br>4 8 | ○化学変化と原子・分子（1分野 単元1）    | 3 1 | 小6          |
|                        | ○生物の体のつくりとはたらき（2分野 単元2） | 1 4 | 小3，小4，小6    |
|                        | ○ゆとり                    | 3   |             |
| 二<br>学<br>期<br><br>5 6 | ○生物の体のつくりとはたらき（2分野 単元2） | 2 2 | 小3，小4，小6    |
|                        | ○気象とその変化（2分野 単元3）       | 2 8 | 小4，小5       |
|                        | ○ゆとり                    | 6   |             |
| 三<br>学<br>期<br><br>3 6 | ○電気の世界（1分野 単元4）         | 3 3 | 小3，小4，小5，小6 |
|                        | ○ゆとり                    | 3   |             |

第3学年 理科 年間計画（標準140時間）

|                        | 単 元 名                            | 時間  | 備 考      |
|------------------------|----------------------------------|-----|----------|
| 一<br>学<br>期<br><br>4 8 | ○化学変化とイオン（1分野 単元1）               | 2 5 | 小6       |
|                        | ○生命の連続性（2分野 単元2）                 | 1 7 | 小5       |
|                        | ○ゆとり                             | 6   |          |
| 二<br>学<br>期<br><br>5 6 | ○生命の連続性（2分野 単元2）                 | 4   | 小5       |
|                        | ○地球と宇宙（2分野 単元3）                  | 2 3 | 小3，小4，小6 |
|                        | ○運動とエネルギー（1分野 単元4）               | 2 7 | 小5，小6    |
|                        | ○ゆとり                             | 2   |          |
| 三<br>学<br>期<br><br>3 6 | ○運動とエネルギー（1分野 単元4）               | 4   | 小5，小6    |
|                        | ○自然環境や科学技術と私たちの未来<br>（1・2分野 単元5） | 2 5 | 小6       |
|                        | ○ゆとり                             | 7   |          |

## 1 単 元 力と運動

## 2 単元の目標

- (1) 運動の規則性を日常生活や社会と関連付けながら、運動の速さと向き、力と運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。
- (3) 運動の規則性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 3 学習の計画 (11時間完了)

- 第1次 第1時 物体に働く力と物体の運動との関係についての学習の見通しをもつ。
- 第2次 第2時～第3時 記録タイマーを使って、運動する物体の速さの変化を調べる。
- 第3次 第4時(本時) 物体に働く力と速さの関係について仮説を立て、実験を計画する。
- 第5時 実験を行い、実験の結果をまとめる。
- 第6時 実験結果を基に、物体に働く力と速さの関係を考察する。
- 第4次 第7時 落下運動での物体の速さの増し方について調べる。
- 第5次 第8時～第9時 力が働かない物体の運動を調べ、等速直線運動について理解する。
- 第6次 第10時 慣性及び完成の法則について理解する。
- 第7次 第11時 作用と反作用について理解する。

## 4 本時の学習指導

## (1) 目 標

- 既習事項や生活体験を基に物体に働く力の大きさと速さの関係について仮説を立て、見通しをもって実験を計画しようとする。

## (2) 準備・資料

- 生 徒……タブレット端末、電子黒板
- 教 師……力学台車、板、台、重り、ワークシート、電子黒板、タブレット端末

## (3) 関 連

- 小3 理科 風やゴムの働き(風の強さやゴムの伸びから、物を動かす力の大きさを調べる)
- 1年 理科 力の働き(力の大きさや向き、つり合う条件を調べる実験を行う)

## (4) 学習過程

| 段階      | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項   |
|---------|---|----|---|
| 課題を把握する | <p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 物体の運動について話し合う。</p> <p>・ジェットコースターは、初めはゆっくりだけどだんだん速くなる。</p> <p>(2) 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>物体に働く力の大きさと速さの関係を調べる方法を考えよう。</p> </div> | 5  | <p>○ジェットコースターに乗った時の体験を聞いたり、動画を見せたりして、速さが増していく運動を想起させる。</p> <p>○前時に作製した「手でだんだん速く引いた時の記録タイマーのテープ」の写真を電子黒板に表示する。</p> <p>○写真を数枚見せることで、手で引いた時の力の大きさによって加速の仕方が違うことに気付かせる。</p> |



|             |  |    |  |
|-------------|--|----|--|
| 課題を追<br>究する | 2 これまで調べてきたことを基に仮説を立てる。<br>(1) 個人で力と速さの関係性を考える。<br>・力がかかれば物体は速くなる。<br>・物体にかかる力が大きければ速くなり小さければ速くならない。   | 10 | ○第3時の打点を記録したテープから、力と速さの関係について考えさせる。<br>○仮説を立てられない生徒に対しては、斜面が急なほど斜面と平行な分力が大きかったことを想起させる。                                  |
|             | (2) 学級全体で仮説について話し合う。<br>・物体が動く向きに加えられた力が大きいほど、物体の速さの増し方は大きくなるであろう。   | 20 | ○生徒の仮説を座席表に記入して内容を把握しておき、指名できるようにしておく。<br><b>評</b> 既習事項や生活経験から問題を見いだして仮説を立てている。(ワークシート)                                  |
|             | 3 仮説を検証する方法を立案する。<br>(1) グループで話し合って考える。<br>・斜面を下る台車の速さを調べる。<br>・力の大きさはばねばかりで測る。<br>・斜面の角度を変えてみる。   | 35 | ○仮説を証明するために、条件を統一して比較する必要があると助言する。<br>○理科室に用意してある実験器具を試しに使用してもよいことを伝える。<br><b>評</b> 課題解決のために、仮説に基づいた実験方法を立案している。(ワークシート) |
|             | (2) 検証方法を発表し、情報を共有する。<br>・ばねばかりで働く力の大きさを測定した台車に記録タイマーを付けて、 $5^{\circ}$ 、 $10^{\circ}$ の斜面でそれぞれ走らせて、瞬間の速さを求める。<br>・台車に乗せる重りを変えて、同じ斜面を走らせた時の瞬間の速さを求める。 | 45 | ○仮説を証明できる実験結果にならなかった場合は、もう一度実験を見直したり、実験が正しく行われたか確認したりするなど、探究の過程を振り返らせる。<br>○実験の様子動画を撮影し、結果を発表する際に活用することを伝える。             |
| まとめ         | 4 本時の学習を振り返り、次時の学習を見通す。<br>(1) 本時の学習を振り返る。<br>(2) 次時に行う実験の内容を確認する。   | 50 | ○アンケートフォームを生徒のタブレット端末に送信する。<br>○毎時間アンケートフォームによる自己評を行うことで、各観点の生徒の変容を見取る。  |

#### (5) 本時の評価規準

- 物体に働く力の大きさによって加速の仕方が違うことから、物体に働く力の大きさと速さの関係について仮説を立て、条件を制御した実験を計画している。(ワークシート)

### 5 備 考

#### (1) 学級の実態

- 本学級は、どの実験に対しても協力しながら積極的に行うことができるが、自分たちで仮説を立て、見通しをもって実験の計画をすることを苦手としている。また、ほとんどの生徒が記録タイマーの使い方を理解しており、物体の運動の様子を正しく測定することができる。

#### (2) 指導の力点

- 導入でこれまでの既習事項や生活体験を想起させることで、課題を見だし、それを解決するための仮説を立てさせる。また、実験器具を用意し、試しに操作してできるようにしておくことで、仮説を検証するための実験方法を協働で考えさせたい。
- 毎時間、自己評価をタブレット端末のアンケートフォーム機能を用いて実施することにより、学びの振り返りから新たな課題に気付かせたり、生徒の学習状況の把握に役立てたりしたい。

### 6 指導と評価

**単元名 生物の観察と分類(2分野 単元1－1章)**
**配当時間 6時間**

- 単元の目標** (1) いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察、生物の特徴と分類の仕方についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 生物の観察と分類の仕方についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 生物の観察と分類の仕方に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

**標準的な展開例**

10240101\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1～2 生物観察の基礎的な技能を身に付け、観察の計画を立てる。</p> <p>★タンポポのスケッチをしよう。</p> <p>○生物観察のポイントについて話し合う。</p> <p>○ルーペの使い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察するものが動かせるとき</li> <li>・観察するものが動かせないとき</li> </ul> <p>○双眼実体顕微鏡の使い方を知る。</p> <p>○スケッチの描き方を知る。</p> <p>○タンポポの花のスケッチを行う。</p> <p>3～4 生物観察を行い、結果をまとめる。</p> <p>★身近な生物を観察しよう。</p> <p>○生物観察の着眼点を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの生物に着目する。(タンポポの分布を調べる)</li> <li>・場所に着目する。(校舎裏に生息する生物の種類を調べる)</li> <li>・場所の違いに着目する。(日なたと日影の植物の大きさを比べる)</li> </ul> <p>○生物観察を行う。</p> <p>○観察結果をレポートにまとめる。</p> <p>○観察結果を発表し、共有する。</p> <p>5～6 観点や基準を自ら設定して、生物の分類を行う。</p> <p>★生物の仲間分けをしよう。</p> <p>○生物の分類の仕方を知る。</p> <p>○観点や基準を決めて生物を分類する。</p> <p>○分類した結果について話し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物を観察するときに、どんなことに注意を払うか話し合わせる。</li> <li>・教科書P.10～P.11を基に、観察のポイントを指導する。</li> </ul> <p>【評】生物観察のポイントについて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.12の基礎技能を基に指導する。</li> <li>・ルーペで太陽を見たり、観察するものを太陽にかざして見たりしないように指導する。</li> <li>・教科書P.13の基礎技能を基に指導する。</li> <li>・教科書巻頭の⑦を基に、スケッチの描き方を指導する。</li> </ul> <p>【評】タンポポの花のスケッチを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の支援は、着眼点の紹介に留め、目的は生徒自身に自由に決めさせる。</li> <li>・共通点や相違点に着目させるとよい。</li> <li>・グループで話し合わせてもよい。</li> </ul> <p>【評】生物観察の着眼点を決める活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に配慮し、必要に応じて活動場所を制限する。</li> <li>・結果の記録は、教科書P.16の様式でなくてもよい。</li> <li>・教科書P.17の「私のレポート」を参考に、結果をまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】観察結果をレポートにまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数グループで共有すると、個人の活動時間が確保できる。</li> </ul> <p>【評】観察結果を発表し、共有する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「疑問から探究してみよう」のページは、自然の事物・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす活動を重視する。</li> <li>・ここでは階級による分類は行わず、生徒独自の観点で分類を行うようにさせる。</li> <li>・教科書P.19の「考えよう」に取り組みせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分類した結果を基に、何を観点としているかどんな基準を設けているかを解説する。</li> <li>・色や大きさなど、分類をするために適切ではない観点もあることを押さえる。</li> <li>・教科書P.22の実習1に取り組みせる。</li> <li>・分類される生物は、いろいろな観点で分類できるように設定する。</li> <li>・観点や基準は、生徒自身に決めさせる。</li> <li>・基準は二つに限らず、複数考えられることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】観点や基準を決めて生物を分類する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士で結果を共有させ、いろいろな観点で分類できることに気付かせる。</li> </ul> |

・基準を変更することで、より細かく分類できることに気付かせる。

【評】分類した結果について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

#### 【 備 考 】

ここでは、さまざまな環境の中にそれぞれ特徴のある生物が生活していることを見いださせるとともに、適切な観察器具の扱い方や観察記録の取り方などを身に付けさせる。さらに、観察した生物などを比較して見いだしたさまざまな共通点や相違点を基にして、生物が分類できることを理解させるとともに、分類の仕方の基礎的な技能を身に付けさせることが主なねらいである。なお、身近な生物を観察することにより、生物に対する興味・関心を高めるようにすることが大切である。

生物の観察については、個々の生物の体のつくりや生活を観察し、生物の特徴を見いだすための観察の方法の基礎を養うとともに、さまざまな環境の中でそれぞれ特徴のある生物が生活していることを見いだして理解させることがねらいである。例えば、大きさ、色、形、生活場所の環境などに注目させて生物の特徴を見いださせることなどが考えられる。観察する生物の対象として、食材として扱われている生物や水中の小さな生物などを用いることも考えられる。また、観察器具の使い方に加えて、スケッチの仕方や観察記録の取り方を身に付けさせる。ここで行った観察記録は「生物の体の共通点と相違点」の学習で活用することが考えられる。

生物の特徴と分類の仕方については、いろいろな生物を比較して見いだした共通点や相違点を相互に関係付けて分類できることを理解させることがねらいである。

いろいろな生物を分類するためには、見いだした共通点や相違点などを基に、分類するための観点を選び、基準を設定することが必要であることを理解させる。また、この観点や基準を変えると、分類の結果が変わることがあることを見いださせ、幾つかの分類の結果を比較することを通して、生物の分類の仕方に関する基礎を身に付けさせる。

例えば、親しみのある20種類程度の生物を挙げさせて、これらの生物が生息している場所や、活動的な季節、色、形、大きさなどの姿、殖え方、栄養分のとり方などの特徴に基づいた観点を分類の基準を考えさせる。生息している場所を観点とした場合には、水中や陸上などを基準として設定することが考えられる。その後、別の生物を当てはめ、用いた観点や基準で分類できるかどうかを考えさせたり、他の観点や基準を検討させたりすることなどが考えられる。その際、分類の結果を分かりやすく表現させるようにする。これらの学習活動では、話し合いや発表を適宜行わせることにより、思考力、判断力、表現力等を育成することが大切である。

なお、ここでの分類は、観察及び資料等から見いだした観点や基準を基に行わせるものとし、目的に応じて多様な分類の仕方があり、分類することの意味に気付かせるような学習活動を設定することが重要であり、学問としての生物の系統分類を理解させることではないことに留意する。

<参考URL>

デジタル植物園 <http://www.kyoto-np.co.jp/kp/koto/96plant/new.plant.html>

身近な野草 <http://www.tcp-ip.or.jp/~jswc3242/index.html>

身近な植物図鑑 <http://sorairo-net.com/plant/>

## 単元名 植物の体の共通点と相違点(2分野 単元1ー2章)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) いろいろな植物の共通点と相違点に着目しながら、植物の体の共通点と相違点についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 植物の体の共通点と相違点についての観察、実験などを通して、いろいろな植物の共通点や相違点を見いだすとともに、植物を分類するための観点や基準を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 植物の体の共通点と相違点に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240102\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 いろいろな花のつくりの観察を行い、規則性や多様性を見いだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○花のつくりの違いについて話し合う。</li> <li>★花のつくりの共通点や相違点を調べよう。</li> <li>○花の各部のつくりを観察する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツツジ、アブラナ、エンドウなど</li> </ul> </li> <li>○花のつくりの共通点や相違点について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通点……めしべの本数、並び順</li> <li>・相違点……おしべの本数、がくの枚数、花弁のつくりなど</li> </ul> </li> </ul> <p>2 いろいろな花のめしべやおしべについて詳しく観察し、花の働きをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★めしべやおしべのつくりを観察しよう。</li> <li>○めしべのもとやおしべの先を詳しく観察する。</li> <li>○花のつくりについてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・めしべ、おしべ、花弁、がく</li> <li>・柱頭、子房、花柱、胚珠</li> <li>・やく、花粉</li> </ul> </li> <li>○花の働きについてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子房が果実になる。</li> <li>・胚珠が種子になる。</li> <li>・花粉が柱頭につくことを受粉という。</li> </ul> </li> </ul> <p>3～4 葉や根のつくりについて知り、葉や根のつくりを観点として植物を分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★葉や根のつくりをよく見て、植物を分類しよう。</li> <li>○いろいろな植物の葉脈を観察し、二つの仲間に分ける。</li> <li>○葉脈のつくりについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・網状脈</li> <li>・平行脈</li> </ul> </li> <li>○いろいろな植物の根を観察し、二つの仲間に分ける。</li> <li>○根のつくりについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主根、側根</li> <li>・ひげ根</li> </ul> </li> <li>○仲間分けの結果から、葉脈のつくりと根のつくりの関連性を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉脈が網状脈の植物は、根が主根と側根である。</li> <li>・葉脈が平行脈の植物は、根がひげ根である。</li> </ul> </li> <li>○離弁花類と合弁花類について知る。</li> <li>○果実ができる植物の分類についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・果実ができる植物は、まず双子葉類と単子葉類に分けられる。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実物を見ながら話し合わせる。</li> <li>・いろいろな花を分解し、台紙にセロハンテープで貼らせる。</li> <li>・花の外側から順に貼らせる。</li> <li>・合弁花の花弁やがくを分解するときには、無理に切り離さないようにさせる。</li> <li>・ツツジのめしべは子房がとれやすいので注意させる。</li> <li>・観察結果を、教科書P. 29の表のようにまとめさせる。</li> <li>・分解した花や結果の表を基に話し合わせる。</li> </ul> <p>【評】花のつくりの共通点や相違点について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 30の「やってみよう」に取り組ませる。</li> <li>・おしべの先端だけでなく、花粉の観察を双眼実体顕微鏡で行わせるとよい。</li> <li>・がくの一枚一枚は、がく片ということを押さえる。</li> </ul> <p>【評】花のつくりについてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 32の図5を参照させながら説明する</li> <li>・実物を用意し、葉脈のつくりに着目させて仲間分けを行わせる。</li> <li>・生徒自身にいろいろな葉を採取させてもよいが、被子植物以外の植物を採取してくる場合もあるので、注意する。</li> <li>・実物を用意することが望ましいが、採取が難しい場合は、写真でもよい。</li> <li>・葉脈を観察したのと同じ植物を用意する。</li> </ul> <p>【評】いろいろな植物の葉脈や根を観察し、二つの仲間に分ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・双子葉類、単子葉類について説明する。</li> <li>・離弁花類、合弁花類という分類は、双子葉類にだけ適用できることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】果実ができる植物の分類についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> |

|  |   |
|--|---|
| <p>・双子葉類は、さらに離弁花類と合弁花類に分けられる</p> <p>5～6 被子植物と裸子植物の違いを見いだし、仲間分けをする。</p> <p>○マツにも花はあるのか、どこが花なのかを話し合う。</p> <p>★マツの花はどのようなつくりをしているか調べよう。</p> <p>○マツの花を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雌花、胚珠</li> <li>・雄花、花粉のう、花粉</li> </ul> <p>○これまで見てきた花とマツの花との違いを見いだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花卉やがくがない。</li> <li>・雌花には子房がなく、胚珠がむき出し。</li> <li>・裸子植物……胚珠がむき出しになっている植物</li> <li>・被子植物……胚珠が子房の内部にある植物</li> <li>・種子植物……種子をつくって子孫を殖やす植物</li> </ul> <p>○マツ以外の裸子植物について知る。</p> <p>7 シダ植物の体のつくりを観察する。</p> <p>★種子をつくらない植物の体のつくりを調べよう。</p> <p>○種子をつくらない植物について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉や茎と根の区別がある植物をシダ植物といい、区別がない植物をコケ植物という。</li> </ul> <p>○シダ植物の体のつくりを観察する。</p> <p>○シダ植物の体のつくりについてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉、茎、根の区別がある。</li> <li>・胞子のうがあり、その中にある胞子で子孫を殖やしている。</li> </ul> <p>8 種子植物と、シダ植物やコケ植物の違いを見いだす。</p> <p>★種子植物と、シダ植物やコケ植物の同じ点や違う点をまとめよう。</p> <p>○コケ植物の体のつくりについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉、茎、根の区別がない。</li> <li>・根はなく、仮根がある。</li> <li>・雌株、雄株の区別がある。</li> </ul> <p>○種子植物と、シダ植物やコケ植物の共通点や相違点を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シダ植物もコケ植物も種子ではなく、胞子で殖える。</li> <li>・シダ植物は種子植物と同じく葉、茎、根の区別があるが、コケ植物にはない。</li> <li>・コケ植物には仮根がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マツの花をイメージできる生徒は少ないと考えられるため、マツの花の実物を見せるとよい。</li> <li>・雄花、雌花、りん片など、マツの各部分についての名称を知らせる。</li> <li>・ツツジやアブラナのおしべ、めしべと同じ働きをするのはどこかということを考えさせながら観察させる。</li> </ul> <p>【評】マツの花を観察する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツツジやアブラナとの違いや、雌花とめしべ雄花とおしべの違いについて話し合わせる。</li> <li>・花粉が胚珠につくと胚珠は種子となり、雌花はまつかさとなることを伝える。</li> </ul> <p>【評】これまで見てきた花とマツの花の違いを見いだす活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 39の写真を基に、裸子植物を紹介する。</li> <li>・藻類など、その他の植物の仲間があることを押さえる。</li> <li>・イヌワラビなどの観察を行わせて、葉と茎の区別に注意させる。</li> <li>・特に胞子のうに着目させる。</li> </ul> <p>【評】シダ植物の体のつくりについてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種子植物やシダ植物と比較しながら説明する</li> <li>・前時、本時の学習から、生徒自身に表現させる。</li> </ul> <p>【評】種子植物と、シダ植物やコケ植物の共通点や相違点を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|---|

# 【 備 考 】

ここでは、幾つかの植物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、植物にいろいろな共通点や相違点があることを見いだし、植物の体の基本的なつくりを理解させることがねらいである。

被子植物の花（両性花）を幾つか観察させ、そのつくりの共通点と相違点を見いだし、花の基本的なつくりについて理解させる。花のつくりについては、花の中心から、めしべ、おしべ、花卉、がく（がく片）の順に構成されていることを理解させる。また、めしべは柱頭、花柱、子房の3部分から成り立っていること、おしべにはやくがあることを理解させる。その際、胚珠が種子になることに触れる。なお、花粉の発芽や受精については「生命の連続性」で扱う。さらに、葉脈の形状、芽生えの様子、根の様子に関する共通点や相違点から、被子植物が単子葉類と双子葉類に分類できることを理解させる。さらに、マツなどの裸子植物の花を観察させて被子植物と比較して相違点を見いだし、種子植物が被子植物と裸子植物に分類できることを理解させる。種子をつくらない植物については胞子をつくることに触れる。

これらの学習を通して、植物に対する興味・関心を高め、植物を観察するときどのような点に注目すればよいかを考える力を身に付けさせることが大切である。

<参考URL>

理科便覧ネットワーク <http://www.hamajima.co.jp/rika-binran/>

## 単元名 動物の体の共通点と相違点(2分野 単元1ー3章)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) いろいろな動物の共通点と相違点に着目しながら、動物の体の共通点と相違点についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 動物の体の共通点と相違点についての観察、実験などを通して、いろいろな動物の共通点や相違点を見いだすとともに、動物を分類するための観点や基準を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 動物の体の共通点と相違点に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240103\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 動物の骨のつくりの違いに着目して仲間分けする。</p> <p>★ヒトと魚とエビの骨格の共通点と相違点を考えよう。</p> <p>○身近な生物の骨格を調べる。</p> <p>○魚やエビの骨格とヒトの骨格を比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魚はヒトと同じように、体の中に骨がある。</li> <li>・エビはヒトと違って体の中に骨がなく、外側に殻がある。</li> </ul> <p>○動物の骨格についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脊椎動物……背骨がある（体内に骨がある）。</li> <li>・無脊椎動物……背骨がない（体内に骨がない）。</li> <li>・外骨格……エビの殻のような体外にある骨格。</li> </ul> <p>○脊椎動物と無脊椎動物を分類する。</p> <p>2 いろいろな脊椎動物の特徴を調べる。</p> <p>★いろいろな脊椎動物の特徴を調べよう。</p> <p>○身近な脊椎動物の特徴を調べる。</p> <p>○調べた内容を共有する。</p> <p>3 脊椎動物をいろいろな観点で分類する。</p> <p>★脊椎動物を仲間分けしよう。</p> <p>○脊椎動物の特徴をもとに仲間分けをする。</p> <p>4 脊椎動物の特徴についてまとめる。</p> <p>★脊椎動物がそれぞれの種類によって異なる特徴をもつ理由を考えよう。</p> <p>○脊椎動物がもついろいろな特徴についてまとめる。</p> <p>○脊椎動物がもつ特徴と生活場所の関係について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上で生活する動物は、乾燥を防ぐために胎生であるか、殻のある卵を産む。</li> <li>・水中で生活する動物は、足がなく、水をかくためのひれを持っている。</li> </ul> <p>5 食べるものを観点として哺乳類を分類する。</p> <p>★シマウマとライオンの歯の違いについて考えよう。</p> <p>○シマウマとライオンの頭部の骨格標本の相違点や共通点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シマウマは臼歯が大きく、同じ大きさで並んでいる。</li> <li>・ライオンは犬歯が大きくとがっている。</li> </ul> <p>○歯の特徴が何に役立っているか話し合う。</p> | <p>・教科書P.47の「やってみよう」に取り組ませる。</p> <p>・エビの殻は骨格であることを説明する。</p> <p>【評】魚やエビの骨格とヒトの骨格を比較する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・分類をする場合は、骨格の中でも、特に背骨に着目することを押さえる。</p> <p>・教科書P.48の「活用しよう」に取り組ませる</p> <p>・教科書P.50の「やってみよう」に取り組ませる。</p> <p>・インターネットなどを活用して調べさせるとよい。</p> <p>・教科書P.50の「話し合おう」の表のようにまとめさせると、次時以降の活動につながる。</p> <p>【評】身近な脊椎動物の特徴を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・少人数のグループで、それぞれが調べた内容を共有させる。</p> <p>・生活場所、体の動かし方、呼吸の仕方、子の生まれ方、体の表面の様子を5点を観点として、仲間分けを行わせる。</p> <p>・複数の観点が共通する動物がいることに気付かせ、それらを同じ仲間として仲間分けをさせる。</p> <p>【評】脊椎動物の特徴をもとに仲間分けをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書P.52～P.54を基に説明し、まとめさせる。</p> <p>・いろいろな特徴から、脊椎動物は、魚類、両生類、は虫類、鳥類、哺乳類の五つの仲間に分けられることを押さえる。</p> <p>・教科書P.55の「話し合おう」に取り組ませる</p> <p>・特徴と生活場所や生活の仕方には関係があることに気付かせる。</p> <p>【評】特徴と生活場所の関係について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P.56の「話し合おう」に取り組ませる</p> <p>・歯以外の相違点や共通点についても取り上げる。</p> <p>【評】歯の特徴が何に役立っているか話し合う</p> |

- ・シマウマの臼歯……植物をすりつぶすため。
- ・ライオンの犬歯……動物の肉を切り裂くため。
- 肉食動物、草食動物、雑食動物についてまとめる。

#### 6 節足動物の特徴を調べる。

- ★バッタとカニの体のつくりの共通点や相違点を調べよう
- バッタとカニの体のつくりを調べる。

- バッタとカニの体のつくりの共通点や相違点をまとめる
  - ・共通点……足に節がある。体の外が殻のようなつくりで覆われている。
  - ・相違点……足の本数が違う。バッタには羽根がある。

#### 7 節足動物を分類する。

- ★節のあるあしをもつ動物を分類しよう。
- 節足動物について知る。
  - ・昆虫類
  - ・クモ・サソリ類
  - ・甲殻類
  - ・多足類
- 節足動物の違いについてまとめる。
  - ・あしの数が違う。
  - ・体の分け方が違う。
  - ・あしが付いている部分が違う。
  - ・昆虫類は気門と気管で呼吸する。甲殻類はえらで呼吸する。
- いろいろな節足動物を分類する。

#### 8 軟体動物の特徴を調べる。

- ★イカやアサリの体のつくりについて調べよう
- イカやアサリの体のつくりを観察する。

- イカやアサリの体のつくりについてまとめる。
  - ・内臓が外とう膜に覆われている。
  - ・骨格をもたない。
  - ・貝殻をもつものもいる。
  - ・えらで呼吸するものと肺で呼吸するものがある。
- その他の無脊椎動物について知る。
- 無脊椎動物の分類についてまとめる。

活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ヒトやサルのような雑食動物もいることを説明する。
- ・哺乳類以外の動物でも食べ物による分類ができることを押さえる。
- ・教科書P.57の「ハローサイエンス」を基に、歯以外にも特徴があることを押さえる。

- ・教科書P.59の観察3に取り組ませる。
- ・共通点や相違点を意識させる。
- ・結果の記録は教科書の様式にこだわらなくてもよい。

【評】 バッタとカニの体のつくりの共通点や相違点をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教科書P.60～P.61を基に説明する。
- ・脱皮や変態についても押さえる。

- ・節足動物の写真を用意し、どの仲間に分類されるかを考えさせる。

【評】 いろいろな節足動物を分類する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教科書P.62の「やってみよう」に取り組ませる。
- ・実物が用意できない場合は、写真やインターネットを基に調べさせる。
- ・時間に余裕があれば、イカの体の解剖を行ってもよい。

- ・教科書P.63を基にまとめさせる。
- ・共通点や相違点に着目してまとめさせる。

【評】 イカやアサリの体のつくりについてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教科書P.64を基に説明する。
- ・教科書P.64の表9を参考にまとめさせる。

#### 【 備 考 】

ここでは、動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、動物にいろいろな共通点や相違点があることを見いだし、動物の体の基本的なつくりを理解させることがねらいである。

さまざまな動物が、背骨の存在を基準とすると、脊椎動物と無脊椎動物に分類できることを理解させる。その際、例えば、魚の干物や煮干し、エビ、貝など入手しやすい食材などを用いて、背骨の有無について観察して比較させることが考えられる。

脊椎動物については、体の表面の様子、呼吸の仕方、生活場所、運動の器官、子の生まれ方などの特徴を分類の観点や基準とすると、五つの仲間（魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類）に分類できることを理解させる。さらに、哺乳類には肉食性のものや草食性のものがあり、体のつくりの相違点が見られることについて、骨格標本などを活用して気付かせることなども考えられる。その際、分類の観点や基準について、話し合いや発表を適宜行わせることなどが考えられる。

無脊椎動物については、体のつくりの特徴に基づいて分類される幾つかの仲間が存在することを、節足動物、軟体動物を中心に理解させる。その際、昆虫、エビ、イカなどの外部形態について観察させたり、調べた資料を基に比較させたりすることが考えられる。節足動物については、昆虫類や甲殻類などを例に、体が外骨格で覆われていて、節のあるあしをもっているという共通点があることなどを理解させる。また、軟体動物については、貝やイカなどを例に、節足動物とは異なってあしには節がないことや、水中生活をしているものが多いことなどを理解させる。また、無脊椎動物には、他にもミミズ、ウニやヒトデなど、さまざまなものが存在することについても触れる。

これらの学習を通して、動物に対する興味・関心を高め、動物を観察するときのどのような点に注目すればよいかを考える力を身に付けさせることが大切である。

<参考URL>

インターネット図鑑『自然界』 <http://www.knowledgelink.co.jp/services/index.html>

ハチュウ類・両生類・ホニユウ類図鑑 <http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/ikimono/default.htm>

## 単元名 生物の分類(2分野 単元1－4章)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の体の共通点と相違点についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に分類するための基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) いろいろな生物の共通点や相違点から、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 生物の体の共通点と相違点に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240104\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 検索表や特徴を基に、植物が分類できることを見いだす</p> <p>★植物の分け方を整理しよう。</p> <p>○樹形図について知る。</p> <p>○植物を分類するための樹形図を作る。</p> <p>○樹形図を活用して植物を分類する。</p> | <p>・教科書P. 36の図10を確認させ、樹形図を作成することを押さえる。</p> <p>・教科書P. 67の「やってみよう」に取り組ませる。</p> <p>・大きな分け方から小さな分け方になるように並べることを押さえる。</p> <p>・複数の植物を用意し、どの仲間に該当するか考えさせる。</p> <p>・種子や胞子、胚珠の様子、葉脈や根、花弁などの情報が分かるようにする。</p> <p>・時間があれば、必要な情報は生徒自身に調べさせるとよい。</p> <p>【評】樹形図を活用して植物を分類する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
| <p>2 検索表や特徴を基に、動物が分類できることを見いだす</p> <p>★動物の分け方を整理しよう。</p> <p>○動物を分類するための樹形図を作る。</p> <p>○樹形図を活用して動物を分類する。</p>                    | <p>・教科書P. 69の「やってみよう」に取り組ませる。</p> <p>・前時の活動内容を想起させる。</p> <p>・脊椎動物の分類の順番は、教科書P. 70の図2以外の順でもよい。</p> <p>・複数の動物の資料を用意し、どの仲間に該当するか考えさせる。</p> <p>・体のつくりが分かるような写真と、呼吸の仕方や子の生まれ方が分かるような資料を用意する。</p> <p>・時間があれば、必要な情報は生徒自身に調べさせるとよい。</p> <p>【評】樹形図を活用して動物を分類する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>     |

## 【 備 考 】

ここでは、植物や動物が、前章までで学習した共通点や相違点に基づいて、それぞれの仲間に分類できることを見いだして理解させることがねらいである。

共通点や相違点に基づいて植物を分類できることを見いだして理解させる際には、例えば、同じ種類の植物であれば生育する場所などによって形や大きさに違いがあっても、花のつくりや葉脈の形状などに共通点があることに気付かせる。

また、それらの共通点に基づいた分類表や検索表などを作らせ、その表を用いて、未知の植物がどの仲間に分類できるかを考えさせることなどが考えられる。

また、共通点や相違点に基づいて動物を分類できることを見いだして理解させる際には、例えば、幾つかの共通点や相違点を基に分類表や検索表などを作らせ、その表を用いて、未知の動物がどの仲間に分類できるかを考えさせることなどが考えられる。

これらの学習を通して、植物や動物に対する興味・関心を高め、動物を観察するときによいような点に注目すればよいかを考える力を身に付けさせることが大切である。

## &lt;参考URL&gt;

ハチュウ類・両生類・ホニユウ類図鑑 <http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/ikimono/default.htm>

進化する植物図鑑 <http://www.ha.shotoku.ac.jp/~kawa/KYO/SEIBUTSU/syokubutsu/SogoZukan/indextop.html>



## 単元名 さまざまな物質とその見分け方(1分野 単元2-1章)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、物質の固有の性質と共通の性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、それらを科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 身の回りの物質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の固有の性質と共通の性質などにおける規則性を見だし表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 身の回りの物質とその性質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240105\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 身の回りの物質に興味をもち、進んで調べようとする。</p> <p>○教科書P. 80の写真を見ながら話し合う。</p> <p>○身のまわりの物質を分類する。</p> <p>★台所にあるものを分類してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナイフ、スプーン、フォークなど</li> <li>・プラスチック製、金属製、木製など</li> </ul> <p>○物質は混合物と純粋な物質に分類されることを知る。</p> <p>2 見た目だけでは見分けにくい白色の粉末を見分ける方法を見いだす。</p> <p>★白い粉末(砂糖、食塩、片栗粉)を見分けるための方法を考えよう。</p> <p>○砂糖、食塩、片栗粉を見分けるには、どのような方法で実験を行えばよいか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色や粒の様子</li> <li>・におい</li> <li>・加熱したときの様子</li> <li>・石灰水の変化</li> <li>・水に入れたときの様子</li> </ul> <p>○砂糖、食塩、片栗粉を見分けるための実験の計画を立てる。</p> <p>○ガスバーナーの使い方を知る。</p> <p>3 白い粉末を見分けるための実験を行う。</p> <p>○白い粉末(砂糖、食塩、片栗粉)を見分けるための実験を行う。</p> <p>★白い粉末(砂糖、食塩、片栗粉)を見分けよう。</p> <p>○ガスバーナーの使い方を身に付ける。</p> <p>○実験結果をまとめる。</p> <p>4 実験結果を基に、白い粉末を見分ける方法をまとめる。</p> <p>○実験結果を基に、白色の粉末を見分ける方法を話し合う</p> <p>★3種類の粉末を見分ける方法をまとめよう。</p> <p>○有機物と無機物について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機物……炭素を含む物質(砂糖、デンプン、プラスチック、ロウ、エタノール、プロパンなど)</li> <li>・無機物……有機物以外の物質(食塩、鉄や銅などの金属、ガラス、水、酸素など)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じコップという用途でも、さまざまな材料からできていることに気付かせる。</li> <li>・教科書P. 81の図1を基に分類させ、分類した際の観点について話し合わせる。</li> <li>・用途や形に着目してものを区別する場合、そのものを物体といい、材料に着目してものを区別する場合、その材料を物質ということを理解させる。</li> </ul> <p>【評】身の回りの物質を分類する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの物質が混ざり合っていてできているものを混合物、1種類の物質でできているものを純粋な物質ということを理解させる。</li> </ul> <p>【評】物体や物質についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれも白色の粉末であることから、外見だけで区別することが難しい。このとき、どのような見分け方があるか考えさせる。</li> <li>・片栗粉がデンプンからつくられていることにも触れる。</li> <li>・小学校での活動を想起させ、物質を調べる方法を挙げさせる。</li> </ul> <p>【評】白い粉末を見分けるための方法について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 85の基礎技能を参考にし、ガスバーナーの使い方を演示し、説明する。</li> <li>・マッチの使い方についても押さえておくとうい。</li> <li>・水に溶けたかどうか、加熱したときの様子、石灰水の変化については、実験を行わせる。</li> <li>・石灰水を使うため、安全眼鏡を着用して実験を行わせる。</li> <li>・加熱器具は熱くなるので、やけどに気を付けさせる。</li> </ul> <p>【評】ガスバーナーの使い方を身に付ける活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の表を参考に、実験結果をまとめさせる。</li> <li>・それぞれの粉末の性質を比較すれば、見た目が似ている物質でも見分けることができるということを理解させる。</li> </ul> <p>【評】実験結果から、3種類の粉末を見分ける方法について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炭素や炭素を含む二酸化炭素などは、無機物に見分けることを知らせる。</li> <li>・無機物は燃やしても二酸化炭素が発生しないことを知らせる。</li> </ul> |

5 金属と非金属について知り、それぞれの性質について理解する。

○身のまわりにある金属について考える。

★金属に共通する性質について考えよう。

○金属の性質についてまとめる。

- ・電気を通す。
- ・金属光沢がある。
- ・展性と延性がある。
- ・熱をよく伝える。

○金属と非金属についてまとめる。

- ・金属……銅、銀、金、鉛など
- ・非金属……プラスチック、ガラス、紙、ゴム、砂糖、水、酸素など

6 物質を質量によって区別する方法を知る。

○質量について知る。

- ・質量……物質そのものの量
- ・単位……グラム(記号：g)、キログラム(記号：kg)

★質量を手がかりにして、物質を区別しよう。

○質量を手がかりに、物質を区別する方法を知る。

○密度の求め方を身に付ける。

- ・密度＝質量÷体積

○密度を求めることができれば、物質を見分けることができることを知る。

7 密度によって物質を見分けることができることを理解する。

○1円硬貨の材料を調べる方法を考える。

★1円硬貨の材料が何かを調べるための方法を考えよう。

- ・密度を使って調べる。

○メスシリンダーの使い方を身に付ける。

○1円硬貨の密度を調べる。

- ・電子てんびんを用いて、質量を調べる。
- ・メスシリンダーを用いて、体積を調べる。
- ・質量と体積から、密度を求める。

○実験の結果から、1円硬貨の材料を考える。

- ・密度の値から、材料はアルミニウムである。

○物質の水への浮き沈みは、水の密度との比較で決まることを知る。

【評】身のまわりにある金属について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・磁石に付く性質は、金属に共通した性質ではないことを押さえる。

・炭素には電気をよく通す性質があるが、非金属に区別されることを伝える。

・重さと質量の違いについては「光・音・力」の単元で詳しく扱う。

・質量だけでは物質を区別できないことを説明する。

・単位体積当たりの質量に着目させる。

・密度はふつう1立方センチメートル当たりの質量で表すが、気体の密度は1L当たりの質量(記号：g/L)で表すこともあることを知らせる。

【評】密度の求め方を身に付ける活動を通して「知識・技能」を評価する。

・教科書P.93の表1を示し、温度が変化すると密度も変化すること、温度が定まれば物質によって密度は特定の値を示すことを知らせる

【評】1円硬貨の材料を調べる方法を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教科書P.94の基礎技能を参考にさせ、メスシリンダーの使い方を演示し、説明する。

・1円硬貨の枚数が違っても、密度は同じ値が求められることを確認させる。

【評】1円硬貨の材料を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

## 【 備 考 】

ここでは、身の回りの物質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質には固有の性質と共通の性質があることを見だして理解させるとともに、物質はその性質に着目すると分類できることを見だして理解させること、また、加熱の仕方や実験器具の操作、実験結果の記録の仕方などの探究に関わる技能を身に付けさせることがねらいである。

観察、実験の際には、見通しをもって実験を計画させたり、根拠を示して表現させたりするなど、探究的な活動となるよう留意する。ここで扱う物質としては、身近な固体の物質などを取り上げ、それらについて密度や加熱したときの变化などを調べる観察、実験を行う。例えば、食塩や砂糖などの視覚的に区別しにくい身近な白い粉末をどのようにしたら区別できるかという問題を見いださせ、性質の違いに着目し課題を設定させる。設定した課題について、小学校での物質の性質に関する学習などを活用して、性質を調べる方法を考え実験を行わせ、結果を表などに整理し、調べた性質を基に区別し、根拠を示して表現させることなどが考えられる。その際、加熱したときの变化の違いなどに着目し、砂糖などの有機物は食塩などの無機物とは異なり、焦げて黒くなったり燃えると二酸化炭素が発生したりすることに気付かせる。また、金属などの物質を区別する学習活動において、物質の体積や質量に着目し、物質の密度を測定する実験を行い、求めた密度から物質を区別することに気付かせることが考えられる。金属については、電気伝導性、金属光沢、展性、延性などの共通の性質があることを扱う。

なお、観察、実験に当たっては、火傷などの事故が起こらないよう十分留意する。

## 単元名 気体の性質(1分野 単元2-2章)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、気体の性質や気体の種類による特性についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、それらを科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 気体の発生とその性質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、気体の性質や気体の種類による特性などにおける規則性を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 気体の発生とその性質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、気体の性質や気体の種類による特性などにおける規則性を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。

## 標準的な展開例

10240201\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 気体の捕集法とその特性について興味をもち、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○知っている気体を挙げる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・空気、酸素、二酸化炭素、窒素、水素、アンモニア、二酸化硫黄、塩素</li> </ul> </li> <li>★気体の性質と集め方をまとめよう。</li> <li>○気体の性質の調べ方について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・色、におい、リトマス紙の色の变化、物質を燃やす性質、燃える性質、石灰水の変化、水への溶け方</li> </ul> </li> <li>○気体を集める方法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水上置換法……水に溶けにくい気体</li> <li>・上方置換法……水に溶けやすく、空気より密度が小さい気体</li> <li>・下方置換法……水に溶けやすく、空気より密度が大きい気体</li> </ul> </li> <li>○水に溶けにくい気体は水上置換法がよい理由について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・空気が混入しないため、純粋な気体を捕集できる。</li> <li>・捕集した気体の体積が分かりやすい。</li> </ul> </li> </ul> <p>2 酸素や二酸化炭素を発生させ、その性質を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○酸素や二酸化炭素の発生実験を行う。</li> <li>★酸素や二酸化炭素を発生させ、その性質を調べよう。</li> <li>○酸素を発生させ、捕集する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水上置換法で捕集する。</li> </ul> </li> <li>○二酸化炭素を発生させ、捕集する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水上置換法で捕集する。</li> </ul> </li> <li>○酸素と二酸化炭素の性質を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・色やにおい……両方とも無色、無臭</li> <li>・火のついた線香の変化……酸素は激しく燃える、二酸化炭素は火が消える</li> <li>・石灰水の変化……酸素は変化しない、二酸化炭素は白く濁る</li> </ul> </li> </ul> <p>3 実験結果を基に、空気を構成している気体の性質について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★実験結果を基に、空気を構成している気体の性質についてまとめよう。</li> <li>○実験結果を基に、酸素や二酸化炭素の性質について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・酸素……水に溶けにくい。物質を燃やす性質（助燃性）はあるが、燃える性質（可燃性）はない。</li> <li>・二酸化炭素……水に少し溶けて、酸性を示す。石灰水を白くにごらせる性質がある。</li> </ul> </li> <li>○窒素の性質について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・無色、無臭、水に溶けにくい</li> </ul> </li> </ul> <p>4 水素やアンモニアの性質について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第6学年の「ものが燃える仕組み」での活動を想起させ、酸素や二酸化炭素を上げさせる</li> <li>・空気にはいろいろな気体が含まれていることを知らせ、空気と気体を混同しないように注意させる。</li> <li>・教科書P.100の基礎技能を参考にし、気体の性質の調べ方を演示、説明する。</li> <li>・気体には有毒なものもあるため、気体を発生させる際には必ず換気させ、においを調べる際には吸い込まないように注意させる。</li> <li>・教科書P.101の基礎技能を参考にし、気体の集め方を演示、説明する。</li> <li>・気体発生装置の中の空気が混入しないようにしばらく気体を発生させてから集めるように注意させる。</li> <li>・水に溶けやすい気体は、乾燥した器具を使って捕集することを説明する。</li> <li>・教科書P.27の基礎技能を参考にし、気体の性質の調べ方を演示、説明する。</li> <li>・教科書P.25の図1のように気体を発生させ、その気体の性質を調べる活動を行い、気体の性質の調べ方を習得させてもよい。</li> <li>【評】気体の集め方について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・教科書P.102の実験3の手順を説明する。</li> <li>・薬品が手についたらすぐに水で洗うよう指示する。</li> <li>・安全眼鏡を着用させる。</li> <li>・二酸化炭素は下方置換法でも捕集できることを知らせる。</li> <li>【評】酸素や二酸化炭素の性質を調べる実験を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・二酸化炭素の水溶液はBTB液を緑色から黄色に変化させることも知らせる。</li> <li>・二酸化炭素の水溶液を炭酸水ということを知らせる。</li> <li>【評】酸素や二酸化炭素の性質を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</li> <li>・窒素は、物質を燃やしたり燃えたりしないため、自動車のエアバック中の気体として利用されている。</li> </ul> |

|   |   |
|---|---|
| <p>★水素やアンモニアの性質についてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○水素の性質について知り、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・色やにおい……無色で無臭</li> <li>・水への溶けやすさ……溶けにくい</li> <li>・捕集した水素にろうそくの炎を入れると、水素は試験管の口のまわりで炎を出して燃える（可燃性がある）がろうそくの炎は消えてしまう（助燃性がない）。</li> <li>・金属にうすい塩酸やうすい硫酸を加えると発生する。</li> </ul> </li> <li>○アンモニアの性質について知り、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・色やにおい……無色、刺激臭</li> <li>・水に非常に溶けやすく、水溶液はアルカリ性を示す。</li> <li>・密度が空気より小さい。</li> <li>・有毒な気体である。</li> <li>・塩化アンモニウムと水酸化カルシウムの混合物を加熱する。</li> </ul> </li> <li>○アンモニアの噴水の実験を見て、理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェノールフタレイン液はアルカリ性で赤色を示す。</li> <li>・アンモニアの入った丸底フラスコに水が入って、フラスコ内のアンモニアが水に溶けたため、噴水が起こる。</li> </ul> </li> </ul> <p>5 塩素や塩化水素の性質について理解し、主な気体の性質についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題について知る。</li> <li>★いろいろな気体の性質についてまとめよう。</li> <li>○塩素の性質を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・黄緑色、刺激臭、密度は空気より大きい。</li> <li>・水に溶けやすく、水溶液は酸性を示す。</li> <li>・有毒な気体、殺菌作用や脱色作用がある。</li> </ul> </li> <li>○塩化水素の性質を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・無色、刺激臭、密度は空気より大きい。</li> <li>・水に溶けやすく、水溶液は酸性を示す。</li> <li>・有毒な気体である。</li> </ul> </li> <li>○硫化水素の性質を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・無色、腐卵臭、密度は空気より大きい。</li> <li>・水に溶けやすく、水溶液は酸性を示す。</li> <li>・有毒な気体である。</li> </ul> </li> <li>○二酸化硫黄の性質を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・無色、刺激臭、密度は空気より大きい。</li> <li>・水に溶けやすく、水溶液は酸性を示す。</li> <li>・密度は空気より大きい。</li> <li>・有毒な気体、殺菌作用や脱色作用がある。</li> </ul> </li> <li>○いろいろな気体の性質についてまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水素は水上置換法で捕集することを押さえる</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・アンモニアは上方置換法で捕集することを押さえる。</li> <li>・特有の鼻をさすようなにおいを刺激臭ということを押さえる。</li> </ul> <p>【評】水素やアンモニアの性質についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・フラスコ内のアンモニアが水に溶けると、フラスコ内の気圧が下がり、大気圧に押されているビーカーの水は、ガラス管内を上昇し、噴水が起こることを補足する。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 109のハローサイエンスを示しながら塩素の性質について知らせる。</li> <li>・水道水の消毒や漂白剤の原料として使われていることを知らせる。</li> <li>・塩化水素の水溶液を塩酸ということを押さえる。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 108の表2を基に、さまざまな気体の性質をまとめる。</li> </ul> <p>【評】気体の性質についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
|---|---|

### 【 備 考 】

ここでは、気体の発生や捕集などの実験を通して、気体の種類による特性を理解させるとともに、気体の発生法や捕集法、気体の性質を調べる方法などの技能を身に付けさせることがねらいである。

幾つかの気体を発生させて捕集する実験を行い、それぞれの気体の特性を調べる実験を行う。その際、水への溶けやすさ、空気に対する密度の大小など気体によって特性があり、それに応じた捕集法があることを理解させる。また、代表的な例を取り上げて、異なる方法を用いても同一の気体が得られることについても触れる。ここで取り扱う気体は、小学校で取り扱った気体と中学校理科の学習内容との関連を考慮して、生徒にとって身近な気体などから選ぶ。

なお、気体の実験では、適切な器具を用いて正しい方法で行い、容器の破裂や火傷などの事故が起こらないよう十分注意するとともに、理科室内の換気にも留意する。

<参考URL>

アンモニア噴水実験（NHK） [https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das\\_id=D0005401200\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005401200_00000)

## 単元名 水溶液の性質(1分野 単元2-3章)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、水溶液についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 水溶液について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や溶解における規則性を見だし表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 水溶液に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240202\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 溶液、溶質、溶媒の関係について知り、物質が溶けるということについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ものが溶けるという現象について考えよう。</li> <li>○ 溶液、溶質、溶媒について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溶解……物質が水などの液体に溶ける現象</li> <li>・ 溶液……物質が溶けて均一になっている液体</li> <li>・ 溶質……液体に溶けている物質</li> <li>・ 溶媒……溶質を溶かしている液体</li> <li>・ 水溶液……溶媒が水のときの溶液</li> </ul> </li> <li>○ コーヒーシュガーが水に溶ける様子を観察する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溶かす前と溶かした後では、全体の質量は変化しない</li> <li>・ 溶かした後では、全体が透明になっている。</li> <li>・ 溶かした後では、全体の色は均一である。</li> </ul> </li> <li>○ 物質が溶けることをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溶液は溶質の粒子が均一に散らばっている。</li> <li>・ どの部分も濃さが等しい。</li> <li>・ 溶質の粒子には質量があり、粒子の数は溶ける前後で変化しない。</li> <li>・ 溶液の質量＝溶媒の質量＋溶質の質量</li> </ul> </li> </ul> <p>2 溶液の濃度について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有色の水溶液は色の濃さで水溶液の濃さをある程度判断できることを知る。</li> <li>★水溶液の濃さは何によって決まるのか考えよう。</li> <li>○ 水溶液の濃さについて、粒子モデルを使って説明する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水溶液の質量が等しい場合</li> <li>・ 粒子の数（質量）が等しい場合</li> </ul> </li> <li>○ 濃度と質量パーセント濃度について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 濃度……溶液の質量に対する溶質の質量の比</li> <li>・ 質量パーセント濃度[%]</li> <li>＝溶質の質量[g]÷溶液の質量[g]×100</li> <li>＝溶質の質量[g]÷(溶媒の質量[g]＋溶質の質量[g])×100</li> </ul> </li> <li>○ 塩化ナトリウム水溶液の質量パーセント濃度を求める。</li> </ul> <p>3 溶解度を理解し、水溶液から溶質を取り出せることを見いだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ある質量の水に溶ける物質の質量には限度があることを振り返り、溶解度について知る。</li> <li>★溶解度を利用し、水溶液から溶質を取り出そう。</li> <li>○ 水溶液から塩化ナトリウムや硝酸カリウムなどの溶質を取り出すにはどうしたらよいか話し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書P. 112の写真をしたり、小学校での活動を想起させたりして、ものが溶けるという現象について簡単に押さえる。</li> <li>・ 溶質には、固体のほか、液体や気体の場合もあることを伝える。</li> <li>・ 溶媒がエタノールの場合は、エタノール溶液ということを知らせる。</li> </ul> <p>【評】 コーヒーシュガーが水に溶ける様子を観察する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書P. 114の図4のモデルについて説明する。</li> <li>教科書P. 115の図5のように、溶液を放置しておくと、混ぜなくてもやがて濃さが均一な溶液になることを捉えさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無色透明の水溶液は見た目では判断できないことに触れる。</li> <li>・ 教科書P. 116の図8のA, B, Cの各条件において、粒子の数や水溶液の質量を指定し、粒子モデルで表させる。</li> <li>・ 密度の学習では、体積をそろえて質量を比べたことを想起させる。</li> <li>・ 条件をそろえて比較をすることは、実験結果などを考察する上で大切な考え方であることを伝える。</li> </ul> <p>【評】 水溶液の濃さについて、粒子モデルを使って説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溶液の質量は溶媒の質量と溶質の質量の和として考えることができたことを想起させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書P. 117～P. 118の「例題」「練習」を基に考えさせる。</li> </ul> <p>【評】 塩化ナトリウム水溶液の質量パーセント濃度を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 塩化ナトリウムやミョウバンが溶ける量には限度があることを、小学校での学習から想起させる。</li> <li>・ 飽和、飽和水溶液、溶解度、溶解度曲線について説明する。</li> <li>・ 教科書P. 120の図10から、溶解度曲線は物質の種類によって異なること、溶解度は温度によって異なることを理解させる。</li> <li>・ 水に溶ける物質の質量の限度は、水の質量に比例することも押さえる。</li> <li>・ 教科書P. 120の図10を基に考えさせる。</li> </ul> <p>【評】 水溶液から溶質を取り出す方法について</p> |

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・水を冷却させると溶解度が小さくなるから、物質が水溶液中で飽和状態になって、溶質が出てくる。</li> <li>・水を蒸発させても溶質の量は変わらないから、そのうち、飽和状態になって、溶質が出てくる。</li> <li>○水溶液から塩化ナトリウムと硝酸カリウムを取り出すための実験の計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水溶液を冷却すると、硝酸カリウムは固体として出てくるが、塩化ナトリウムは固体としてほとんど出てこない。</li> <li>・水溶液から水を蒸発させると、硝酸カリウムも塩化ナトリウムも固体として出てくる。</li> </ul> </li> <li>4 水溶液から溶質を取り出す方法についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★水溶液から溶質を取り出そう。</li> </ul> </li> </ul> <p>○水溶液から溶質を取り出す実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験の結果をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩化ナトリウムは温度がどのように変化しても、溶け残りがあつた。</li> <li>・硝酸カリウムは温度が上がると全て溶け、下がると溶け残りがでた。</li> <li>・塩化ナトリウムも硝酸カリウムも水を蒸発させると白い固体がでた。</li> </ul> </li> <li>5 結晶と再結晶について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★水溶液から固体を取り出す方法についてまとめよう。</li> <li>○結晶について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則正しい形の固体</li> <li>・物質に固有の色や形を示す。</li> <li>・結晶の色や形は、物質を区別する手がかりになる。</li> </ul> </li> <li>○再結晶についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・固体の物質をいったん水などの溶媒に溶かし、その水溶液から再び結晶として物質を取り出す方法。</li> <li>・再結晶をすると純粋な物質が取り出せる。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>○溶解度を利用した計算問題に取り組む。</p> | <p>話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩化ナトリウムやミョウバンが溶ける量には限度があることを、小学校での学習から想起させる。</li> <li>・飽和、飽和水溶液、溶解度、溶解度曲線について説明する。</li> <li>・教科書P.44の図8から、溶解度曲線は物質の種類によって異なること、溶解度は温度によって異なることを理解させる。</li> <li>・水に溶ける物質の質量の限度は、水の質量に比例することも押さえる。</li> <li>・結晶についての説明につなげるため、蒸発させたあとの様子をルーペや双眼実体顕微鏡で観察させる。</li> </ul> <p>【評】水溶液から溶質を取り出す実験を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結晶の様子が上手く観察できなかった場合は教科書P.122の図11を参考にさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.123の図14を参考に、代表的な結晶の形について確認させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再結晶の方法として、水溶液を冷却する方法と水を蒸発させる方法があることを押さえる</li> <li>・水溶液を冷却する方法では、塩化ナトリウムのように温度によって溶解度が変わらない物質は再結晶させることができないことを押さえる。</li> <li>・教科書P.124の「例題」「練習」を用いて問題演習を行わせる。</li> </ul> <p>【評】溶解度を利用した計算問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
|--|--|

### 【 備 考 】

ここでは、物質の水への溶解を粒子のモデルと関連付けて理解させること、また、溶液の温度を下げたり、溶媒を蒸発させたりする実験を通して、溶液から溶質を取り出すことができることを溶解度と関連付けて理解させるとともに、再結晶は純粋な物質を取り出す方法の一つであることを理解させることがねらいである。

ここでは、物質の水への溶解を粒子のモデルを用いて微視的に捉えさせるようにするとともに、粒子のモデルで均一になる様子について説明させるようにする。また、水溶液の濃さの表し方に質量パーセント濃度があることにも触れる。

ここで行う実験としては、例えば、ミョウバンと食塩を取り上げ、ミョウバンはその水溶液の温度を下げることで、食塩は食塩水の水を蒸発させることにより結晶を取り出すことができることを扱い、溶解度と関連付けて理解させる。その際、溶解度曲線にも触れる。また、再結晶は少量の不純物を含む物質から溶解度の違いを利用して純粋な物質を得る方法であることを理解させる。

<参考URL>

ミョウバンの結晶作り（京都市青少年科学センター）

<http://www.edu.city.kyoto.jp/science/online/labo/44/>

## 単元名 物質の状態変化(1分野 単元2-4章)

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。

(2) 状態変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。

(3) 状態変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240203\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 物質の状態変化について興味をもち、学習課題をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身の回りにある物質を状態によって区別し、状態が変化する例を挙げる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨や雪、霧など。</li> <li>・水を冷やすと氷になる。</li> </ul> </li> <li>★物質の状態が変化することについて話し合おう。</li> <li>○物質の状態変化について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・温度によって変化する。</li> <li>・状態変化すると体積が変化する。</li> </ul> </li> <li>○物質の三つの状態について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・固体、液体、気体</li> <li>・温度の変化により、固体⇄液体⇄気体に変化する。</li> </ul> </li> <li>○温度計の使い方を知る。</li> </ul> <p>2 物質が状態変化するときの温度を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○水の状態変化について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水を加熱→100℃になると水蒸気に変化</li> <li>・水を冷却→0℃になると氷に変化</li> </ul> </li> <li>★状態変化するときの温度は、物質の種類によって決まっているか調べよう。</li> <li>○セタノールとパルミチン酸が固体から液体に変化するときの温度を調べる。</li> <li>○物質が状態変化するときの温度は、物質によって一定であることを知る。</li> </ul> <p>3 融点や凝固点、蒸発、沸騰、沸点について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★状態変化と温度との関係について考えよう。</li> <li>○グラフの表し方を知る。</li> <li>○固体⇄液体の状態変化と温度変化の関係についてグラフに表す。</li> <li>○液体⇄気体の状態変化と温度変化の関係についてグラフに表す。</li> <li>○状態変化についてまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4学年の「金属、水、空気と温度」の学習から、水が氷や水蒸気になったときのことを想起させる。</li> <li>・水以外の状態の変化についても考えさせる。</li> </ul> <p>【評】物質の状態変化について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の状態により、形や体積の変化のしやすさが異なることを説明する。</li> <li>・二酸化炭素などのように固体から気体へ、気体から固体へ変化することもあることを知らせる。</li> <li>・教科書P.128の基礎技能を基に、温度計の使い方を確認させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4学年の「金属、水、空気と温度」の学習を想起させ、水の状態変化と温度の関係について話し合わせる。</li> <li>・教科書P.128の図4を参考に、水が状態変化をしている間は、温度は変化せずに一定であることを説明する。</li> <li>・ビーカー内の水の温度が一定になるように、ガラス棒でかき混ぜながら加熱させる。</li> <li>・突沸を防ぐため、沸騰石は必ず加熱前に入れておくように指示する。</li> <li>・セタノールとパルミチン酸でも、状態変化している間の温度は一定であることを説明する</li> </ul> <p>【評】物質が状態変化するときの温度を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数のグループの結果を比較し、その結果が同値であることから、物質によって一定であることを説明する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.131の基礎技能を基に、グラフの表し方を説明する。</li> <li>・教科書P.130の「参考」の実験を演示し、その結果をグラフに記入させる。</li> <li>・記入したグラフを基に、パルミチン酸が溶けている間は、温度が変化せずに一定であることを確認させる。</li> <li>・教科書P.131の「参考」の実験を演示し、その結果をグラフに記入させる。</li> <li>・記入したグラフを基に、水やエタノールが沸騰している間は、温度が変化せずに一定であることを確認させる。</li> </ul> <p>【評】状態変化と温度変化の関係をグラフに表す活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・融点、凝固点、蒸発、沸騰、沸点について説明する。</li> <li>・融点や沸点は物質の種類によって決まってい</li> </ul> |

- 4 ロウが状態変化するときの体積や質量の変化を調べる。
- エタノールの状態変化について振り返る。
  - ★物質が状態変化するときの体積や質量の変化を調べよう
  - ロウが状態変化するときの体積や質量の変化を調べる。

- 状態変化と体積・質量の関係をまとめる。
  - ・状態変化しても、質量は変化しない。
  - ・状態変化によって、体積は変化する。

- 5 物質が状態変化するときの体積や質量の変化について理解する。
- 物質が状態変化するときの物質の体積や質量について振り返り、話し合う。
    - ・固体<液体<気体の順に体積は増加していく。
    - ・質量は変わらない。
  - ★物質の状態変化を粒子モデルを使って表そう。
  - 粒子モデルの表し方について話し合う。
    - ・固体、液体、気体を同じ体積で表したほうが比較がしやすい。
    - ・同じ体積の中に入っている粒子の数で説明ができる。
  - 物質の状態変化を粒子モデルを使ってまとめる。
    - ・状態変化では、物質をつくっている粒子と粒子の間隔が変化することによって、物質の体積は変化する。

- 水の状態変化について知る。

#### 6～8 液体同士の混合物を分けるための実験の計画を立てる

- ★水とエタノールの混合物からエタノールを取り出す方法を見いだそう。
- 水とエタノールの混合物からエタノールを取り出す方法について話し合う。
  - ・ろ過や再結晶では、取り出すことができない。
  - ・沸点の違いを利用する。
- エタノールを取り出す実験の計画を立てる。

- 水とエタノールの混合物からエタノールを取り出す実験を行う。

- 実験によって集めた液体の性質を調べる。
  - ・1本目の液体はエタノールの性質が多い。
  - ・3本目の液体は水の性質が多い。
  - ・沸点を利用すると、混合液を分けることができる。
- 蒸留について知る。

るため、物質を区別する手がかりになることを説明する。

- ・教科書P.134の図7を演示して、エタノールが気体に状態変化すると、体積が増えることを確認させる。
- ・ロウを加熱する際には、引火するおそれがあるので、十分注意させる。ホットプレートや電気鍋などを活用するとよい。
- ・溶けて液体の状態になっているロウを予め準備しておいてもよい。
- ・ピーカーを持つときは、火傷をしないように必ず軍手を着用させる。
- ・ピーカーが熱い状態で直に電子てんびんに置くと故障の原因となりやすいので、板などを間に挟むとよい。
- 【評】状態変化と体積・質量の関係をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・密度についても触れておく。

- ・それぞれの状態で、形の変えやすさと密度を表現するにはどうしたらよいか考えさせる。

- ・教科書P.138の図10を参照させながら、物質の状態変化の粒子モデルについて説明する。

- ・状態変化で物質の質量が変化しないのは、粒子の種類や数が変化しないためであることを捉えさせる。

- 【評】物質の状態変化を粒子モデルを使ってまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・液体の水が固体の氷に状態変化すると、氷のときの方が水のときよりも密度が小さくなることを押さえる。
- ・教科書「疑問から探究してみよう」のページは、自然の事物・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす活動を重視する。

- ・液体から固体を取り出す方法を想起させる。

- ・教科書P.141を基に、実験の計画を立てさせる。

- 【評】エタノールを取り出す実験の計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・出てくる物質や集めた液体を火に近づけないように指示する。
- ・加熱をやめるときは、試験管に集めた液体にガラス管の先が入らないように注意させる。
- 【評】水とエタノールの混合物からエタノールを取り出す実験を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・実験の結果から、1本目はエタノールの性質を、3本目は水の性質を示したことを押さえる。

- ・教科書P.145の図16を基に、混合物を加熱した場合、沸点や融点は決まった温度を示さないことを確認させる。

#### 【備考】

ここでは、物質の状態が変化する様子について、見通しをもって観察、実験を行い、物質の状態変化における規則性を見いださせ、粒子のモデルと関連付けて理解させることが主なねらいである。

状態変化と熱では、物質を加熱したり冷却したりすると状態が変化するものを観察し、状態が変化する前後の体積や質量を比べる実験を行い、状態変化は物質が異なる物質に変化するのではなくその物質の状態が変化する



ものであることや、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いださせ、粒子のモデルと関連付けて理解させることがねらいである。

粒子のモデルと関連付けて扱う際には、状態変化によって粒子の運動の様子が変化していることにも触れる。

なお、状態変化の様子を観察する際には、体積が変化することによって、容器の破損や破裂などの事故が起こらないように留意する。

物質の融点と沸点では、物質は融点や沸点を境に状態が変化することや、融点や沸点は物質によって決まっていること、融点や沸点の測定により未知の物質を推定できることを理解させるとともに、混合物を加熱する実験を行い、沸点の違いを利用して混合物から物質を分離できることを見いだして理解させることがねらいである。

純粋な物質では、状態が変化している間は温度が変化しないことにも触れる。また、沸点の違いを利用して混合物から物質を分離できることを見いださせるために、例えば、みりんや赤ワインなどの混合物からエタノールを分離する実験が考えられる。

日常生活や社会と関連した例としては、沸点の違いを利用して石油からさまざまな物質を取り出していることなどを取り上げることが考えられる。

<参考URL>

ドライアイス資料館 <https://www.sdk.co.jp/gaspro/dryice/>

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 単元名   | 身近にある地形・地層・岩石を観察しよう(2分野 単元3一序章)  | 配当時間 | 4時間 |
| 単元の目標 | (1) 大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連付けながら、身近な地形や地層、岩石の観察についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。<br>(2) 身近な地形や地層、岩石の観察について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性などを見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。<br>(3) 身近な地形や地層、岩石の観察に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。 |      |     |

## 標準的な展開例

10240204\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| 1 身の回りにある地形、地層、岩石の特徴について関心をもち、学習課題をつかむ。<br><b>★身の回りにある地形、地層、岩石などについて話し合おう。</b><br>○身の回りの地形、地層、岩石などについての調べ学習の計画を立てる。 | ・露頭について説明する。<br>・教科書P.156を基に、野外観察をする場合の服装や持ち物について確認させる。<br>・岩石採集の仕方や記録の取り方を確認させる。<br>・身近に観察できる地形や地層が無い場合は、岩石標本や校内に落ちている岩石を観察したり、インターネットを活用して調べたりさせる。<br><b>【評】</b> 身の回りの地形、地層、岩石などについての調べ学習の計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する  |
| 2～3 身の回りにある地形、地層、岩石について観察したり調べたりする。<br><b>★地形や地層、岩石について調べよう。</b>  | ・校外で観察実習を行う場合は、安全に十分配慮する。<br>・適切な観察対象が近隣に無い場合は、校内の岩石を採取して観察する、インターネットで調べる、岩石標本の観察をするなどの方法が考えられる。<br><b>【評】</b> 地形や地層、岩石について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。   |
| 4 地層のでき方や地層の広がり、しゅう曲や断層について理解する。<br><b>★地層がどうやってできるか考えよう。</b><br>○地層の広がりについて考える。<br>○大地の活動による地層の変化についてまとめる。         | ・風化、侵食、運搬、堆積などの作用によって岩石の粒から地層ができることを説明する。<br>・教科書P.159の「やってみよう」を実演し、粒の大きさと沈む速度の関連について確認させる。<br>・柱状図を基に地層の広がりを考えられることを確認させる。<br>・教科書P.160の「演習しよう」に取り組みせ地下の地層の様子を考えさせる。<br><b>【評】</b> 地層の広がりを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br>・傾いた地層やしゅう曲、断層などについて説明する。<br>・いずれも火山活動や地震などの大地の活動によって起きることを確認させる。<br><b>【評】</b> 地層の変化についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 |

## 【 備 考 】

ここでは、各学校の実態に応じて身近な地形や地層、岩石などを観察する。例えば、地域の地形や露頭の観察を行ったり、ボーリングコアや博物館の標本などを活用したりするなどして、地層の構成物の違いなどに気付かせ、地層の広がりなどについての問題を見だし、学校内外の土地の成り立ちや広がり、構成物などについて理解させる。その際、地形や地層、岩石の観察器具の基本的な扱い方や観察方法と、観察記録の仕方を身に付けさせる。

身近な地形や地層、岩石などの観察に当たっては、事前、事後の指導も含めて年間指導計画の中に位置付け、計画的に実施する。また、安全にも十分配慮し、自然環境の保全に寄与する態度を養うという観点から、岩石などの採取は必要最小限にするように指導する。

また、地形や地層、岩石などの観察などに基づいて地層の重なり方の規則性を扱い、地層のでき方を時間的な変化と関連付けて理解させるようにする。その際、野外の観察記録と地層が形成されるモデル実験の結果とを関連付けて考察させることも考えられる。

地層の広がり方の規則性については、例えば、離れた地点の幾つかの地層や剥離標本を比較したり、地域のボーリングコアなどを活用したりして問題を見だし、火山灰層や砂層などを手掛かりに解決させる活動などが考えられる。その際、地層に見られる断層、褶しゅう曲について、大地の変動と関連付けて触れる。

<参考URL>  
国土地盤情報検索サイトKuniJiban <http://www.kunijiban.pwri.go.jp/jp/index.html>

## 単元名 大地の歴史と地層(2分野 単元3-1章)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連付けながら、地層の重なりと過去の様子についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 地層の重なりと過去の様子について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性などを見いだし表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 地層の重なりと過去の様子に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240205\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1～3 堆積岩の種類やそれぞれの特徴を理解する。</p> <p>○教科書P. 162の写真を見ながら、大地をつくる岩石について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大地は岩石からできている。</li> <li>・堆積岩という。</li> </ul> <p>○堆積岩のでき方や主にできる場所についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長い年月の間に重みで圧縮され、水分が押しだされるなどしてできる。</li> </ul> <p>★堆積岩を同定しよう。</p> <p>○堆積岩を同定するためにはどのような方法があるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーペで粒の様子を調べる。</li> <li>・釘で硬さを調べる。</li> <li>・塩酸との反応を調べる。</li> </ul> <p>○堆積岩の特徴を調べる。</p> <p>○堆積岩を同定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・示された堆積岩の特徴を調べる。</li> <li>・岩石標本の特徴と比較し、岩石名を特定する。</li> </ul> <p>○堆積岩の特徴をまとめる。</p> <p>4 化石のでき方や地表への現れ方と、示相化石について理解する。</p> <p>★化石のでき方や化石から分かることについてまとめよう</p> <p>○化石のでき方についての理解を深める。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「疑問から探究してみよう」のページは、自然の事物・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす活動を重視する。</li> <li>・第6学年の「土地のつくりと変化」を想起させ、礫(れき)岩、砂岩、泥岩についてについて振り返らせる。</li> <li>・中学校で新たに学習する、凝灰岩、石灰岩、チャートについて簡単に説明する。</li> <li>・実際に堆積岩を見せて確認させるとよい。</li> <li>・教科書P. 163の図1を参照し、まとめさせる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所によってできる堆積岩が違ふことを捉えさせる。</li> <li>・堆積岩は水の働きがあるところではできることを確認させる。</li> <li>・教科書P. 164の図2を見させて、いろいろな場所で採取される岩石について確認させる。</li> </ul> <p>【評】堆積岩のでき方や主にできる場所についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積岩を示し、その堆積岩が礫(れき)岩、砂岩、泥岩、凝灰岩、石灰岩、チャートの内どれであるかを特定する活動を行うことを知らせる。</li> <li>・教科書P. 165を参考にさせる。</li> <li>・ハンマーで砕く方法については、岩石が飛び散り危険であるため、行わせない。</li> </ul> <p>【評】堆積岩を同定するための方法を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・礫(れき)岩、砂岩、泥岩、凝灰岩、石灰岩チャートの岩石標本を示し、それぞれの特徴を調べさせる。</li> <li>・うすい塩酸を使う際には、安全眼鏡を着用させ、安全に注意させる。</li> </ul> <p>【評】堆積岩の特徴を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下のような観点が基準となる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・丸みを帯びた大きな粒→礫(れき)岩</li> <li>・丸みを帯びた小さな粒→砂岩</li> <li>・粒は見られず、釘で傷がつく→泥岩</li> <li>・角張った粒→凝灰岩</li> <li>・塩酸と反応する→石灰岩</li> <li>・釘で傷がつかない→チャート</li> </ul> </li> </ul> <p>【評】堆積岩を同定する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 169の表1を基に、堆積岩の特徴をまとめさせる。</li> <li>・泥岩の粒は小さ過ぎて肉眼では見にくいことを確認させる。</li> <li>・石灰岩とチャートは見た目では区別することが難しいため、硬さや塩酸との反応が重要であることを説明する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の死骸だけでなく、糞や巣など、生活の跡が分かるものも化石ということを知らせる</li> <li>・教科書P. 171の図を基に説明する。</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 示相化石について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当時の環境を推定できる化石</li> </ul> </li> <li>○ 教科書P. 172図 5 を参考にしながら，それぞれの示相化石から推定できる当時の環境について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サンゴ……暖かくて浅い海</li> <li>・ シジミ……湖や河口</li> <li>・ ブナ……温帯のやや寒冷な地域</li> </ul> </li> </ul> <p>5 示準化石と地層年代について理解する。</p> <p>★化石や地層から大地の歴史について読み取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 示準化石について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地層が堆積した年代を知ることができる化石</li> <li>・ 地質年代……示準化石などを基に区別された歴史</li> </ul> </li> <li>○ 地質年代と主な示準化石をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古生代……三葉虫，フズリナ，ロボク</li> <li>・ 中生代……恐竜，アンモナイト，イチョウ</li> <li>・ 新生代……ビカリア，ナウマンゾウ，ブナ</li> </ul> </li> <li>○ 柱状図から大地の歴史を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書P. 173の「考えよう」に取り組む。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 化石については実物を示せるとよい。</li> <li>・ 生物の生息条件が限られるため，その化石から過去の環境を推定できることを説明する。</li> <li>・ 過去の環境の推定には，現在の生物の生態の観察が有効であることに気付かせる。</li> </ul> <p>【評】示相化石から推定できる当時の環境について話し合う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広い地域で生活し，限られた時代だけに存在した生物の化石であることを押さえる。</li> <li>・ 教科書P. 174を参考にして説明する。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の地層では，上下が逆転している場合もあることを説明する。</li> </ul> <p>【評】柱状図から大地の歴史を読み取る活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|---|

### 【 備 考 】

ここでは，地層を構成する堆積岩について扱う。小学校では礫（れき）岩，砂岩，泥岩を学習しているが，これらの岩石のほか，地域の実態に応じて，例えば，石灰岩，チャートなどを扱い，粒の大きさや構成物質の違いなどに気付かせる。

地層の堆積環境の推定には，地層の構成物やその粒の大きさ，形，及びそこに含まれる，サンゴ，シジミ，ブナなどの示相化石を用いる。その際，現在の堆積環境や生物の生態の観察が有効であることに気付かせる。

地層の生成年代としては，古生代，中生代，新生代の地質年代を扱う。また，地層の生成年代の推定には示準化石を用いる。示準化石の例として，古生代の三葉虫，フズリナ，中生代の恐竜，アンモナイト，新生代のビカリア，ナウマンゾウなど代表的なものを取り上げる。

<参考URL>

国立科学博物館 化石－ふしぎの旅－ <https://www.kahaku.go.jp/research/db/geology-paleontology/kaseki/index.html>

## 単元名 火山活動と火成岩(2分野 単元3－2章)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連付けながら、火山活動と火成岩についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。  
 (2) 火山について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見い出して表現するなど、科学的に探究することができる。  
 (3) 火山に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240206\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 火山の噴火と私たちの生活との関係に興味をもち、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本には現在も活動している火山があることを知り、私たちの生活に影響をおよぼしていることを理解する。</li> <li>★日本の火山についてまとめよう。</li> <li>○日本の主な火山や火山の分布についてまとめる。</li> <li>○噴火の仕組みについて理解する。</li> <li>○火山噴出物の種類と特徴についてまとめる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・火山ガス、火山灰、軽石、火山れき、火山弾、溶岩など</li> </ul> </li> </ul> <p>2 火山の形や噴火の様子の違いについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○火山の形について知る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・傾斜が緩やかな火山……伊豆大島</li> <li>・円すい状の火山……桜島、富士山</li> <li>・ドーム状の火山……雲仙岳、有珠山、昭和新山</li> </ul> </li> <li>★マグマの粘り気の違いと火山の形との関係について考えよう。</li> <li>○マグマの粘り気と火山の形の関連についてまとめる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り気が小さい……傾斜が緩やか</li> <li>・中間……円すい状</li> <li>・粘り気が大きい……ドーム状</li> </ul> </li> <li>○マグマの粘り気と噴火の関連についてまとめる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り気が大きい……爆発的な噴火</li> <li>・粘り気が小さい……穏やかな噴火</li> </ul> </li> </ul> <p>3 火山灰について調べ、火山灰によって含まれる鉱物の種類や割合が違うことを見いだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○マグマの粘り気と火山の形や噴火の様子が関係していたことを振り返る。</li> <li>★火山灰に含まれる粒について調べよう。</li> <li>○火山灰に含まれる鉱物を観察する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・色、形、大きさ、数の割合、割れ方</li> <li>・磁石に付くか付かないか</li> </ul> </li> <li>○火山灰に含まれる鉱物についてまとめる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・無色鉱物……石英、長石</li> <li>・有色鉱物……黒雲母、角閃石、輝石、カンラン石</li> <li>・その他の鉱物……磁鉄鉱</li> </ul> </li> </ul> <p>4～5 火成岩について知り、火山岩と深成岩の違いを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★マグマが冷えて固まった岩石のつくりについて調べよう</li> <li>○火成岩のでき方について知る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・マグマが冷えて固まってできた岩石を火成岩という。</li> </ul> </li> <li>○火山岩と深成岩のつくりをルーペで観察し、スケッチして違いを比べる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・火山岩……小さな粒の間に比較的大きな粒がある。</li> <li>・深成岩……粒の一つ一つの大きさが同じくらいである</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 178の写真や火山が噴火している様子の映像などで確認させるとよい。</li> <li>・第6学年の「土地のつくりと変化」を想起させる。</li> <li>・これから調べていく主な火山の分布や火山が日本列島に帯状になって連なっていることなどを確認させる。</li> <li>【評】日本の火山や火山の分布をまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・マグマとマグマだまりについて説明する。</li> <li>・実際に火山噴出物を見せるとよい。</li> <li>・火山噴出物の成分は、それぞれの火山によって異なることを押さえる。</li> <li>・教科書P. 181の図6を参考に火山の形を区別させる。</li> <li>・教科書P. 181の「やってみよう」を演示し、粘り気が大きい場合と小さい場合の形の違いについて説明する。</li> <li>・火山噴出物にも違いが見られることを押さえる。</li> <li>【評】マグマの粘り気と火山の形や噴火の関連についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・教科書P. 181の図5、図6を参考に火山の形を区別させる。</li> <li>・火山灰を2種類以上用意し、マグマの粘り気と火山灰に含まれる鉱物の種類や割合にも着目させる。</li> <li>・適当な火山灰がない場合は、園芸店で「赤土」「赤玉土」「黒土」等の火山灰起源の土を手に入れる方法もある。</li> <li>【評】火山灰に含まれる鉱物を観察する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・教科書P. 184の表1を参考にまとめさせる。</li> <li>・マグマの粘り気と火山灰の色の関係について押さえる。</li> <li>・火成岩を示し、堆積岩と比較させる。</li> <li>・深成岩の等粒状組織は堆積岩との違いが分かりやすい。</li> <li>・火山岩の例として安山岩を、深成岩の例として花こう岩を扱う。</li> <li>・一つ一つの粒にも着目させ、色や形から、火山灰に含まれる鉱物を想起させる。</li> <li>【評】安山岩と花こう岩のつくりを観察する活</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○火山岩と深成岩のつくりについてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・火山岩……斑状組織（石基，斑晶）</li> <li>・深成岩……等粒状組織</li> </ul> </li> <li>○火山岩，深成岩の違いについてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・火山岩……地表付近で短い時間に冷えて固まった。</li> <li>・深成岩……地下深くで長い時間にゆっくりと固まった</li> </ul> </li> </ul> <p>6 火成岩の分類や含まれる鉱物について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○火成岩の観察を振り返る。</li> </ul> <p>★火山岩や深成岩を分類しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○流紋岩と玄武岩の違いについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・色が違う。</li> <li>・含まれている鉱物が違う。</li> </ul> </li> <li>○火成岩の種類についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・火成岩は，つくりによって火山岩と深成岩の2種類に分けられる。</li> <li>・深成岩，火山岩は，色の違いによってそれぞれ3種類に分けられる。</li> </ul> </li> <li>○火成岩をつくる鉱物について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・火成岩の色は有色鉱物と無色鉱物の割合で決まる。</li> </ul> </li> </ul> | <p>動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短い時間で冷える場合と長い時間で冷える場合の結晶の成長の仕方の違いを説明する。</li> <li>・教科書P.188の「やってみよう」を演示したり，映像を見せたりする。</li> <li>・教科書P.186の図11を参考に，深成岩の地表への現れ方についても説明する。</li> </ul> <p>【評】火山岩，深成岩の違いについてまとめる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の観察を振り返らせ，火山岩と深成岩の違いを確認させる。</li> <li>・安山岩や閃緑岩は，岩石標本によっては，玄武岩や斑岩よりも黒く見えることに注意する。</li> <li>・教科書P.190の表2を参考に，火成岩はつくりの違いと造岩鉱物の種類や割合によって分類されていることに気付かせる。</li> <li>・造岩鉱物の割合の表の見方を説明する。</li> <li>・これまでに学習してきた，マグマの粘り気や火山の特徴と関連付けるとよい。</li> </ul> <p>【評】火成岩の種類についてまとめる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火山灰に含まれる鉱物を想起させる。</li> </ul> |
|--|--|

【 備 考 】

ここでは，観察記録や資料を活用して，火山の形，活動の様子及びその噴出物を地下のマグマの性質と関連付けて理解させることがねらいである。

マグマの性質については，粘性を扱い，粘性の違いにより噴火の様子や火山噴出物の様子も異なることを理解させる。例えば，溶岩がドーム状に盛り上がっている火山と，広く平らに広がっている火山とを比較し，岩石や火山灰などの観察を基に，火山の形の違いをマグマの性質と関連付けて，火山の形が異なる理由が粘性と関係があるという問題を見いださせる。その際，火山が形成されるモデル実験を行い，その結果と関連付けて考察させることが考えられる。

火山噴出物については，溶岩や軽石，火山灰などの色や形状を比較しながら観察させ，その結果をマグマの性質と関連付けて考察させる。その際，異なる火山の火山灰について，例えば，実体顕微鏡を用いてその中に含まれる火山ガラスや鉱物の色，形などを比較しながら調べさせる。

火成岩については，火山岩と深成岩があり，観察を通して共通点や相違点があること，それらがそれぞれの成因と深く関わっていることを理解させる。ここで取り上げる火成岩は，例えば，火山岩として安山岩や玄武岩など，深成岩として花こう岩や閃せん緑岩などが考えられる。その際，火山岩には斑状組織，深成岩には等粒状組織という共通点があることや，同じ組織であっても色の違いがあることなどに気付かせる。また，火成岩の組織については，結晶を生成させる実験を行うなどしてマグマの冷え方と関連付けて考察させる。さらに，造岩鉱物を取り上げ，火成岩の色の違いは，造岩鉱物の種類や含まれている割合の違いであることに気付かせる。

<参考URL>

日本の火山 <https://gbank.gsj.jp/volcano/index.htm>

地球の岩石図鑑(岩石標本) <http://www.ha.shotoku.ac.jp/~kawa/KYO/CHISITSU/GANSEKI/index.html>

## 単元名 地震と大地の変化(2分野 単元3－3章)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連付けながら、地震の伝わり方と地球内部の働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 地震について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地震の揺れの大きさや伝わり方の規則性などを見い出して表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 地震に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240207\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 地震によって起きる現象や地震に関する名称について理解する。</p> <p>★地震によってどんな現象が起きるか話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波</li> <li>・地割れ</li> <li>・液状化現象</li> </ul> <p>○隆起や沈降について理解する。</p> <p>○震源と震央について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震源、震央、震源域、震源距離、震央距離</li> </ul> <p>2 地震の揺れ方について理解する。</p> <p>○緊急地震速報について知る。</p> <p>★緊急地震速報の仕組みについて、考えよう。</p> <p>○地震の揺れ方について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期微動、P波、主要動、S波、初期微動継続時間</li> </ul> <p>○緊急地震速報の仕組みについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観測したP波の情報を基に、S波が到達する前に発令する。</li> </ul> <p>3 初期微動が始まる時刻から地震の揺れの伝わり方の特徴について考える。</p> <p>★初期微動が始まる時刻から地震の揺れの伝わり方を考えよう。</p> <p>○教科書P. 197の実習に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期微動が始まる時刻を、表を基に地図に書き込む。</li> <li>・47分10秒から10秒おきに、初期微動が始まったと思われる点を滑らかな曲線で結ぶ。</li> </ul> <p>○実習を基に、地震の揺れの伝わり方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠い場所ほど、地震が伝わるのに時間がかかる。</li> <li>・震央を中心に、全方向に伝わる。</li> </ul> <p>○P波の伝わる速さの求め方を確認する。</p> <p>4 初期微動継続時間から地震の揺れの伝わり方の特徴について考える。</p> <p>★初期微動継続時間から地震の揺れの伝わり方を考えよう。</p> <p>○教科書P. 199の実習に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震計の記録を基に、震央距離、P波が到達するまでの時間、S波が到達するまでの時間を表に書き込む。</li> <li>・初期微動継続時間を計算して表に書き込む。</li> </ul> <p>○実習を基に、地震の揺れの伝わり方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P波もS波も伝わるまでの時間が震源距離に比例する</li> <li>・S波よりもP波が早く到達する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が発表した現象について、詳しく補足説明する。</li> <li>・映像や画像を見せるとよいが、被害の出ている災害の映像の取り扱いには注意する。</li> <li>・災害については、「大地の躍動と恵み」の単元で詳しく扱うことを知らせる。</li> </ul> <p>【評】地震によって起きる現象を話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隆起によって海岸段丘や河岸段丘が、沈降によってリアス式海岸ができることを押さえる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 194の図6を参考に説明する。</li> <li>・震源域が広いほど大きな地震になりやすいことにも触れる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 196の「ハローサイエンス」を参考に、緊急地震速報の映像を見せたり、音声を聞かせたりして、緊急地震速報について確認させる。</li> <li>・緊急地震速報とは、地震の大きな揺れを、揺れる前に知らせるものであることを知らせる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P波の縦波とは上下方向の波ではなく、進行方向の疎密波であることに注意させる。</li> <li>・教科書P. 195の図8を基に、地震計の仕組みについても押さえる。</li> </ul> <p>【評】緊急地震速報の仕組みについて話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下の岩盤のつくりなどの影響で、時刻がずれる地点もあることを説明する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期微動が始まる時刻は、震央を中心に同心円状に広がっていくことに着目させる。</li> <li>・完全な同心円状にはならないが、ほぼ円状で考えられることを確認させる。</li> </ul> <p>【評】地震の揺れの伝わり方について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・S波も同様に計算できることを押さえる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期微動継続時間について振り返る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期微動継続時間は、震央距離に比例することに着目させる。</li> <li>・教科書P. 200の図11のように、P波、S波それぞれが到達するまでの時間を直線で結び、比例のイメージをもたせる。</li> </ul> |



- 初期微動についてまとめる。
  - ・ 震源から遠くなるほど、初期微動は遅く始まり、初期微動継続時間は長くなる。
- 5 震度とマグニチュードについて理解する。
  - ★ 震度とマグニチュードについてまとめよう。
  - 震度についてまとめる。
    - ・ 震度……地震の揺れの大きさ。0～7の10段階で表す
    - ・ 震度は震源からの距離が同じでも、地盤の固さ、地層のつくりなどによって異なる。
  - マグニチュードについてまとめる。
    - ・ マグニチュード(記号:M)……地震のエネルギーの大きさ(地震の規模)
    - ・ マグニチュードが2大きくなると、エネルギーは1000倍になる。
- 6 地震が起きる原因について理解する。
  - ★ 地震が起きる仕組みについてまとめよう。
  - 日本付近の地震の分布について話し合う。
    - ・ 日本海溝を境にして、大陸側で多く起こっている。
    - ・ 大陸側にいくにしたがって震源の深さが深くなる。
  - 海溝型地震についてまとめる。
    - ・ 大陸プレート、海洋プレートがあり、それぞれ動いている。
    - ・ プレートの移動にともなって、プレートの境界部分にひずみができ、岩石が崩れ落ちたり元に戻るようになぜたりする。
  - 内陸型地震についてまとめる。
    - ・ プレートの動きによって、大陸プレートの内部にひずみがたまる。
    - ・ ひずみがたまると、岩石が破壊されて断層ができ、地震が起きる。
    - ・ 繰り返し動く断層を活断層という。
  - 地震と火山の関わりについて知る。
    - ・ 海洋プレートが沈み込むとき、岩石の一部が溶けてマグマになる。
- 7 プレートの動きによって大地が形作られていることについて理解する。
  - ★ ヒマラヤ山脈はどうやってできたか話し合おう。
- プレートの動きによって、現在の地球の姿ができたことを知る。

【評】初期微動継続時間と震央距離の関係について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 教科書P. 202の図13, 14を基に、一般的には震源から遠くなるほど震度は小さくなることを押さえる。
- ・ 一般的にはマグニチュードが大きくなるほど震度も大きくなることを確認させる。
- ・ 教科書P. 203の図15のように、震央の位置がほとんど同じでもマグニチュードが異なると震度分布に差が出ることを押さえる。
- 【評】震度やマグニチュードについてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 教科書P. 204の図17を参考に話し合わせる。
- ・ 日本列島内陸部の地下浅いところで起こる地震と、海溝に沿った地下深いところで起きる地震があることを確認させる。
- ・ 教科書P. 205の図19を参照させながら、中央海嶺で地球内部から上昇してきたマグマが海洋プレートをつくり移動することを説明する
- ・ 教科書P. 205の図20を参照に海溝型地震が起きる仕組みの説明をする。
- ・ 津波の仕組みと合わせて説明するとよい。
- 【評】海溝型地震や内陸型地震についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する
- ・ 内陸型地震や火山もプレートの動きと関わりが深いことを確認させる。
- ・ ヒマラヤ山脈の衛星写真を示すとイメージさせやすい。
- ・ エベレストの頂上付近で海の生き物の化石が見つかることを知らせる。
- 【評】ヒマラヤ山脈の形成について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・ 教科書P. 207の図24を参考に、インド大陸の動きを説明する。
- ・ 教科書P. 208, P. 209の「ハローサイエンス」を基に、大陸移動説や、ハワイ諸島が日本に近づいていることを説明する。

## 【 備 考 】

ここでは、地震についての体験や地震計の記録、過去の地震の資料などを基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付かせるとともに、地震の原因をプレートの動きと関連付けて理解させ、地震に伴う土地の変化の様子を理解させることがねらいである。

地震の揺れについては、はじめに小さな揺れがあり、続いて大きな揺れがあることに気付かせる。また、同一の地震について、震源から距離の異なる場所に置かれた地震計の記録を基に揺れの伝わる速さを推定させたり、地震の揺れがほぼ同心円状に伝わることを捉えさせたりする。一般に震度は、震源からの距離によって異なることなどの規則性に気付かせる。なお、このとき初期微動継続時間の長さが震源からの距離に関係していることにも触れる。その際、「緊急地震速報」との関連に触れることも考えられる。また、地震の規模(マグニチュード)と観測地点の地震の揺れの強さ(震度)について理解させる。

地震の原因については、日本列島付近の震源の分布などから、プレートの動きによって説明できることを理解させる。その際、地球規模のプレートの動きと地震の分布に触れる。

地震による土地の変化については、地震の記録や写真を基に、断層などの急激な土地の変化が生じることや海底の平坦面が隆起する現象を扱う。地震によっては、海底の地形に急激な変化が起こり、津波が生じることについて触れる。また、水を含んだ砂層では液状化現象が起こることについて触れることも考えられる。

<参考URL>

気象庁 緊急地震速報について <https://www.data.jma.go.jp/svd/eeew/data/nc/>

京大防災研地震予知研究センター リアルタイム地震情報 <https://www.rcep.dpri.kyoto-u.ac.jp/recent/#ja>

## 単元名 大地の躍動と恵み(2分野 単元3－4章)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連付けながら、地震の伝わり方と地球内部の働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 地震について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地震の揺れの大きさや伝わり方の規則性などを見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 地震に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240301\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 火山の噴火や地震によって起きる災害について考える。</p> <p>★火山の噴火や地震によって起きる災害について考えよう</p> <p>○火山が噴火した場合や地震が起きた場合、どのような被害が起きるか話し合う。</p> <p>○調べ学習の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>火山、地震のどちらについて調べるか決める。</li> <li>調べる方法を考える。</li> </ul> <p>2～3 火山の噴火や地震によって起きる災害について調べ、起きる被害や被害を防ぐ方法についてまとめる。</p> <p>★火山の噴火や地震によって起きる災害について調べよう</p> <p>○調べ学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の災害の被害内容</li> <li>災害発生の様子（時間的経過や地域の特性）</li> <li>被害を防ぐための工夫</li> <li>災害に備えて自分ができること</li> </ul> <p>○調べた内容について話し合う。</p> <p>4 火山活動や地震によってもたらされている恩恵について考える。</p> <p>★火山活動や地震によってもたらされている恩恵について考えよう。</p> <p>○火山活動や地震によって、どのような恩恵を受けているか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>温泉</li> <li>景勝地</li> <li>地熱発電</li> </ul> <p>○自然からは、災害による被害だけではなく、恩恵も受けていることを確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書P.210～P.211の写真を基に、いろいろな被害を想像させる。</li> <li>住んでいる地域のハザードマップなどを提示するとよい。</li> </ul> <p>【評】火山の噴火や地震によって起きる被害について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>起きる被害や災害を防ぐ方法を調べることを知らせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットを活用する。</li> <li>自治体が公表しているハザードマップなどの防災情報を参考にさせる。</li> </ul> <p>【評】災害について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ発表、全体発表など、学級の実態に応じて発表させ、話し合わせる。</li> </ul> <p>【評】災害について調べてた内容について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】火山活動や地震によって受けている恩恵について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>風水害についても同様であることを確認する</li> </ul> |

## 【 備 考 】

ここでは、自然は、美しい景観、住みよい環境などの恩恵をもたらしていることを調べさせ、自然が人々の豊かな生活に寄与していることに気付かせる。また、資料などを基に、火山活動や地震による災害について調べさせ、火山活動や地震発生の仕組みと関連付けて理解させる。

火山活動による恩恵については、地形や景観、温泉、地熱などに触れることが考えられる。火山災害を扱う際は、例えば、ハザードマップなどから、集落や田畑、森林などに予想される被害を読み取る学習が考えられる。また、噴火警戒レベルを取り上げ、火山活動の状況から、人命に危険を及ぼす火山現象などを理解させることが考えられる。

地震災害を扱う際は、資料を基に地震によって生じた現象と被害の特徴との関係を整理させることが考えられる。例えば、津波については、その発生の基になる地震の規模や、震源の位置、沿岸の地形の特徴と被害の関係を整理させることが考えられる。

自然の恵み及び火山災害と地震災害を調べる場合は、例えば、大学などの防災研究機関、気象庁や地方の気象台などから情報を入手することが考えられる。さらに、図書館、博物館、科学館、ジオパークなどを利用したり、空中写真や衛星画像、情報通信ネットワークを通して得られる多様な情報を活用したりすることが考えられる。

<参考URL>

防災の手引き～いろんな災害を知って備えよう～ <http://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/index.html>

内閣府 防災情報のページ <http://www.bousai.go.jp/index.html>

## 単元名 光の性質(1分野 単元4-1章)

配当時間 12時間

単元の目標 (1) 光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。

(2) 光について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。

(3) 光に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240302\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 光の直進や光源の見え方について興味をもち、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ レーザーポインターから光の点までの道筋を話し合う。</li> <li>★ 光の道筋について考えよう。</li> <li>○ 光の進み方を見る。</li> </ul> <p>○ 光の進み方や光源の見え方についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 光の直進</li> <li>・ 光源、光線</li> </ul> <p>2～3 光が反射するときの法則を調べる。</p> <p>★ 光が反射するときの法則を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 光の反射について知る。</li> <li>・ 光の反射、入射角、反射角</li> <li>○ 実験のための計画を立てる。</li> </ul> <p>○ 入射角と反射角の関係を調べる実験を行う。</p> <p>○ 実験の結果を基に、入射角と反射角の関係についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入射角＝反射角</li> </ul> <p>4 物体の見え方について知る。</p> <p>★ 光源以外の物体をなぜ見ることができるのか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 物体の見え方について知る。</li> <li>・ 光源以外の物体は、光源からの光が物体の表面で反射して目に届くために見える。</li> <li>○ 乱反射したときの像の見え方について知る。</li> </ul> <p>5 反射による像の見え方について調べ、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 物体の像について知る。</li> <li>★ 物体の像はどこに見えるのか調べよう。</li> <li>○ 鏡に映った像の位置を確かめる実験を行う。</li> <li>・ 物体の像は、鏡の面をはさんで物体と線対称の位置に見える。</li> </ul> <p>○ 鏡による像の作図をする。</p> <p>○ 鏡に映る像について話し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レーザーポインターの光が直接目に入らないように注意させる。</li> <li>・ 教科書P. 227の「やってみよう」を演示する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水槽で反射したレーザーポインターの光にも注意させる。</li> <li>・ 光源の見え方について扱い、光源以外の物体の見え方については、反射について学習してから扱う。</li> </ul> <p>【評】 光の進み方や光源の見え方についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書「疑問から探究してみよう」のページは、自然の事物・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす活動を重視する。</li> <li>・ 第3学年の「光の性質」の単元を想起させたり、教科書P. 228の「やってみよう」を行わせたりして、光の反射について考えさせる。</li> <li>・ 語句について押さえ、反射の法則については実験を通して見い出させる。</li> <li>・ 「やってみよう」の結果や、ボールの跳ね返りなどから、仮説を立てさせる。</li> <li>・ 光源装置の使い方を押さえる。</li> <li>・ 入射角、反射角は、光線と鏡面に垂直な線との角度であることは繰り返し意識させる。</li> </ul> <p>【評】 入射角と反射角の関係を調べる実験を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 反射の法則について説明する。</li> </ul> <p>【評】 入射角と反射角の関係についてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書P. 233の図7を参考に考えさせる。</li> <li>・ 光源以外の物体を見ることができる理由について、話し合わせる。</li> </ul> <p>【評】 光源以外の物体を見ることができる理由について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目のつくりや物を見るための仕組みを簡単に説明する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物体をいろいろな場所から見ることができるのは、乱反射のためであることを説明する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鏡（反射）と、紙（乱反射）を比較して説明するとよい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書P. 235の「やってみよう」を行わせる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鏡の後ろに立てる鉛筆は、鏡に映る像と同じ太さで重ねるように伝える。</li> <li>・ 教科書P. 236の「チャレンジ」を参考に作図をさせる。</li> <li>・ 教科書P. 236～P. 237の「活用しよう」を基に作図させる。</li> <li>・ 全身を映す鏡の高さについては、小さな鏡でも遠くに離れると全身を映すことができると</li> </ul> |

- 6～7 光の屈折や屈折の規則性について探究する。
- 水中の物体がずれて見える現象を確認する。
  - ★ ガラスや水に当たった光は、どのような向きに進むか調べよう。
  - 屈折や屈折角という用語について知る。
  - 入射角と屈折角の関係を調べる実験を行う。
    - ・ 境界面での入射角と屈折角の関係について
    - ・ 空気中とガラス中での角度の関係について
  - 入射角と屈折角の関係についてまとめる。
    - ・ 空気→ガラス、水の場合 入射角>屈折角
    - ・ ガラス、水→空気の場合 入射角<屈折角
  - 屈折による像について確認する。
  - 全反射やその利用について知る。
- 8 凸レンズの原理やその働きについて理解を深める。
- レンズや凸レンズについて確認する。
    - ・ 光軸
  - 虫眼鏡で紙に光を集める。
  - ★ 凸レンズの働きについて調べよう。
  - 凸レンズの原理についてまとめる。
    - ・ レンズを通る光の進み方
- 9～11 凸レンズによってできる像と物体の位置関係について調べる。
- 凸レンズによる像の見え方について話し合う。
  - ★ 凸レンズによる像は、どのようにしてできるのか考えよう。
  - 凸レンズによってできる像を調べる実験の計画を立てる
    - ・ 焦点距離の2倍より遠い
    - ・ 焦点距離の2倍
    - ・ 焦点距離の2倍と焦点距離の間
    - ・ 焦点距離
    - ・ 焦点距離より近い
  - 凸レンズによってできる像を調べる実験を行う。
  - 凸レンズによってできる像についてまとめる。
    - ・ 実像，虚像
  - 凸レンズによってできる像について，作図を通して考える。
- 12 光の分散について理解する。
- ★ なぜ虹ができるのか考えよう。
  - 虹ができる理由について考える。
    - ・ 太陽光が反射している。
    - ・ 雨粒が関係している。

考える生徒がいると予想されるため，実際に鏡を使って試させる活動も取り入れるとよい

【評】 鏡に映る像について話し合う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

・ 教科書P.238の「やってみよう」を実際に行わせるとよい。

・ 教科書P.239の実験2を行わせる。

・ いろいろな角度(境界面に垂直に光を当てることを含む)で測定し考察に役立たせる。

【評】 入射角と屈折角の関係を調べる実験を通して，「知識・技能」を評価する。

・ 空気中の方が入射角，屈折角ともに角度が大きいことを押さえる。

【評】 入射角と屈折角の関係についてまとめる活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

・ 教科書P.241の「やってみよう」を実際に行わせる。

・ 教科書P.242の「チャレンジ」を基に作図の仕方も押さえる。

・ 実際にガラスから空気中へ進む光の角度を変化させ，全反射を示してもよい。

・ 光ファイバーについて説明する。

・ 身近なものでレンズを利用しているものを挙げさせる。

・ 第3学年の「光の性質」での学習を想起させる。

・ 像が最も小さく，明るくなった点が焦点であり，その時の距離を焦点距離ということを押さえる。

・ 太陽などの明るい光源を直接見ないように注意させる。

【評】 凸レンズの働きについて調べる活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ 教科書P.245の図28を実際に行わせたり作図させたりして，凸レンズを通る光の進み方を確認させる。

・ 焦点に集まるのは，光軸に平行な光であることを押さえる。

・ 教科書P.247の図32のように，近くの物体と遠くの物体では見え方が違うことを確認させる。

・ 凸レンズと物体の距離を変え，像の変化を調べさせる。

・ 光学台の使い方を説明する。

・ 教科書P.249の表を基に，結果をまとめさせる。

【評】 凸レンズによってできる像を調べる実験を通して，「知識・技能」を評価する。

・ 教科書P.252の図36を基に，像の見え方を説明する。

【評】 凸レンズによってできる像について，作図を通して考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

・ 雨上がりの空に虹を見たり，ホースから水を出して虹を作ったりした生活体験を想起させる。

・ 虹は自分が太陽を背にした時に見えることを説明する。

【評】 虹ができる理由について考える活動を通

○プリズムを使って光の分散について調べる。

○虹ができる理由について説明する。  
・雨粒などの空気中の水滴がプリズムの様に太陽光を分散している。

して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・光の分散という現象について説明する。
- ・白色光は、たくさんの色が混ざった光であることを押さえる。

【評】虹ができる理由について説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

### 【 備 考 】

ここでは、光の反射・屈折と凸レンズの働きについて主に扱う。光の反射・屈折では、光の進み方に関する身近な現象と関連させながら、光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの幾何光学的な規則性を見いだして理解させることがねらいである。

反射については、例えば、光を鏡で反射させる実験を行い、光の進む道筋を記録させ、入射角と反射角が等しいことを見いだして理解させるとともに、鏡に映る像を光の反射と関連させて理解させる。

屈折については、光が空気中からガラスや水に進むときは入射角よりも屈折角が小さくなるように進み、入射角を変化させるにつれて屈折角が変化することを見いだして理解させる。また、光がガラスや水から空気中に進むときは、入射角よりも屈折角が大きくなるように進むこと、さらに、入射角を大きくしていくと全反射が起こることを見いだして理解させる。このように光の屈折については、入射角と屈折角の定性的な大小関係に触れる。

凸レンズの働きでは、物体と凸レンズの距離を変え、実像や虚像ができる条件を調べさせ、像の位置や大きさ、像の向きについての規則性を定性的に見いだして理解させることがねらいである。

まずはじめに、凸レンズに平行光線を当て、光が集まる点が焦点であることを理解させる。次に、物体、凸レンズ、スクリーンの位置を変えながらいろいろ調節して、スクリーンに実像を結ばせ、凸レンズと物体の距離、凸レンズとスクリーンの距離、像の大きさ、像の向きの関係を見いだして理解させる。

また、物体を凸レンズと焦点の間に置き、凸レンズを通して物体を見ると拡大した虚像が見えることを理解させる。その際、日常生活や社会と関連付けて理解させるようにする。

凸レンズを用いてできる像を観察して、その結果を考察させる際、作図を用いることも考えられるが、定性的な関係を見いだすための補助的な手段として用いるようにする。

指導に当たっては、強い光源を直接目で見たり、凸レンズ越しに光源をみたりすることのないよう配慮する必要がある。また、光の色の指導にあたっては、色の見え方には個人差があることに配慮する必要がある。

<参考URL>

光のじっけん室 <https://global.canon/ja/technology/kids/experiment/index.html>

## 単元名 音の性質(1分野 単元4-2章)

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 音に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、音の性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。

(2) 音について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、音の性質の関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。

(3) 音に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240303\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 音と振動との関係に興味をもち、学習課題をつかむ。</p> <p>★音が出ている物体の様子や音の伝わり方を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音が出ている物体の様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・音が出ているものは振動している。</li> </ul> </li> <li>○音が出ている物体の名前について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音体または音源</li> </ul> </li> <li>○音が何によって伝わっているか話し合い、実験を行う。</li> <li>○音を伝えるものについてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・空気(気体)、水(液体)、糸(固体)</li> <li>・何も無い(真空)状態では伝わらない</li> </ul> </li> </ul> <p>2 音の伝わり方や音の速さについて調べる。</p> <p>★音の伝わり方について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○空気中の音の伝わり方について、理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・音が波として空気中を伝わって、鼓膜を振動させる。</li> </ul> </li> <li>○音の伝わる速さについて考える。</li> <li>○音の速さに関する問題に取り組む。</li> </ul> <p>3～4 発音体の振動の仕方と音の大小や高低との関係について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音の大小や高低と発音体の振動の仕方について話し合う <p>★音の大小や高低は発音体の振動の仕方とどのような関係があるか調べよう。</p> </li> <li>○モノコードの弦をはじく強さを変えて、音の大きさや高さとの関係を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・強くはじく……音が大きい</li> <li>・弱くはじく……音が小さい</li> <li>・音の高さは変わらない</li> </ul> </li> <li>○モノコードの弦の長さを変えて、音の大きさや高さとの関係を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・弦が長い……音が低い</li> <li>・弦が短い……音が高い</li> <li>・音の大きさは変わらない</li> </ul> </li> <li>○モノコードの弦の張り方の強さを変えて、音の大きさや高さとの関係を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・強く張る……音が低い</li> <li>・弱く張る……音が低い</li> <li>・音の大きさは変わらない</li> </ul> </li> <li>○結果を基に、音の大小と高低は、発音体の何と関係しているのか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・音の大小は振幅によって決まる。(弦をはじく強さ)</li> <li>・音の高低は振動数によって決まる。(弦の長さ、張り方、太さ)</li> </ul> </li> <li>○オシロスコープやコンピュータを用いて音を波形で表示し、理解を深める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・おんさやスピーカー、打楽器を用いて音を出し、触らせることによって振動していることに気付かせる。</li> <li>・音が出ているおんさを水につけたときの様子を観察させてもよい。</li> </ul> <p>【評】音が出ている物体の様子を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音が出ている物体を発音体、または音源ということを知らせる。</li> <li>・教科書P.259の「やってみよう」を行わせる</li> </ul> <p>【評】音を伝えるものについてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の活動を想起させる。</li> <li>・教科書P.260の図8を基に、空気中を音が鼓膜まで伝わる仕組みについて理解を深めさせる。</li> <li>・教科書P.261の「やってみよう」や、雷や花火などの音の伝わり方を基に、音が光よりも遅れて聞こえる現象を確認させる。</li> <li>・教科書P.261の「活用しよう」などの問題演習に取り組ませる。</li> </ul> <p>【評】音の速さに関する問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振幅や振動数について説明する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弦をはじくときの強弱がはっきりするようにモノコードにグラフ用紙を貼り、マス目で強弱を表すとよい。</li> <li>・弦の振幅にも着目させる。</li> <li>・モノコードの代わりに弦楽器を使う方法もある。</li> <li>・弦の振動の様子をタブレットなどを用いて動画で撮影し、観察する方法もある。</li> <li>・人力ではじく場合、はじく強さが一定ではないため、音の大きさは完全には比較できないことに注意させる。</li> </ul> <p>【評】弦の振動の仕方と音の大きさや高さとの関係を見いだす活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】音と発音体の関係について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音の高さが一定であるもの(リコーダーやピアノなど)を用いるとききれいな波形を観察することができる。</li> <li>・スマートフォン等のオシロスコープのアプリ</li> </ul> |

【 備 考 】

ここでは、音についての観察、実験を通して、音は物体の振動によって生じその振動が空気中などを伝わること、音の大小や高低は発音体の振動の振幅と振動数に関係することを見いだして理解させることがねらいである。

例えば、発振器に接続したスピーカーや太鼓、おんさなどの観察、実験を通して、物体が振動しているときに音が発生していることに気付かせる。また、二つの標準おんさの共鳴現象や真空鈴の実験を行い、音が空気中を伝わることや、空気など音を伝える物質の存在が必要であることを理解させる。その際、音が空気中を波として伝わることに触れ、空気中を伝わる音の速さについては、例えば、雷鳴や打ち上げ花火などの体験と関連付け、室温など一定の温度におけるおよその値を示す。

また、例えば、音の大きさと振幅の関係や音の高さと振動数の関係について問題を見だし、弦を用いて実験を行い、弦の振動では弦をはじく強さ、弦の長さや太さなどを変えて音を発生させ、音の大きさや高さを決める条件を見いだして理解させる。なお、このとき、条件を制御して行うことに留意させる。また、オシロスコープやコンピュータなどを用いて、音を波形で表示させ、音の大小と振幅、音の高低と振動数が関連することを見いだして理解させる

<参考URL>

楽器解体全書 [https://www.yamaha.com/ja/musical\\_instrument\\_guide/](https://www.yamaha.com/ja/musical_instrument_guide/)

音の授業で使えるオシロスコープアプリ「oscilloscope」 <https://futabagumi.com/archives/500.html>

## 単元名 力のはたらき(1分野 単元4-3章)

配当時間 7時間

単元の目標 (1) 力の働きに関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、力の働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。

(2) 力の働きについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、力の働きの規則性や関係性を見い出して表現するなど、科学的に探究することができる。

(3) 力の働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

10240304\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 力とその働きについて興味をもち、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○物体に力を加えたときの変化について話し合う。</li> <li>★物体に力を加えると、何が起きるか話し合おう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・止まっていた物体が動き出す。</li> <li>・動いていた物体が止まる。</li> <li>・物体が壊れる。</li> </ul> </li> <li>○力の働きについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・物体に力を加えると、運動の様子が変わったり、物体が変形したりする。</li> </ul> </li> </ul> <p>2 力の表し方について理解する。</p> <p>★力を矢印で表そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○力の三要素と矢印での表し方について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・力の作用点……矢印の始点</li> <li>・力の向き……矢印の向き</li> <li>・力の大きさ……矢印の長さ</li> </ul> </li> <li>○力の単位について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位の大きさ……ニュートン（記号：N）</li> <li>・1 N……100 g の物体に働く重力の大きさ</li> </ul> </li> <li>○力の矢印の作図問題に取り組む。</li> </ul> <p>3～4 つり合っている二つの力の関係について調べる。</p> <p>★二つの力がつり合うときの条件を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○どのような二つの力がつり合っているか予想する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きさが同じ。</li> <li>・向きが反対。</li> </ul> </li> <li>○二つの力のつり合いを調べる実験を行う。</li> <li>○つり合っている二つの力についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・向きが逆である。</li> <li>・一直線上にある。</li> <li>・大きさが等しい。</li> </ul> </li> <li>○つり合う力の作図問題に取り組む。</li> </ul> <p>5 いろいろな力について理解する。</p> <p>★いろいろな力についてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が知っているいろいろな力について話し合う。</li> <li>○いろいろな力について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・張力           ・抗力           ・摩擦力</li> <li>・弾性力       ・磁力           ・静電気力</li> </ul> </li> </ul> <p>6～7 力の大きさとばねののびとの関係について調べる。</p> <p>★ばねに働く力とばねの伸びの関係について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ばねに働く力とばねの伸びの関係について仮説を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・力が大きいほどばねも伸びる。</li> </ul> </li> <li>○力の大きさとばねの伸びの関係を調べる実験を行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 267の「やってみよう」を行わせて実際に変化を観察させる。</li> <li>・生徒の発言を、「運動の様子が変わる」「物体の形が変わる」に分類する。</li> <li>【評】物体に力を加えたときの変化について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 268の「やってみよう」を行わせて力の大きさ、向き、作用点によって、物体の運動に違いがあることに気付かせる。</li> <li>・圧力などの面全体に働く力は、一本の矢印にまとめることを押さえる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 269の図4を基に、地球の重力について触れる。</li> <li>・重力などの物体全体に働く力は、一本の矢印にまとめることを押さえる。</li> <li>・教科書P. 269の「演習しよう」に取り組ませる。</li> <li>・力の矢印の長さは、「1 Nの力を1 cmの矢印として」など、問題によって指定があることを確認させる。</li> <li>【評】力の矢印の作図問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 270の図7と図8などを基に、力がつり合っている状態について説明する。</li> <li>・力の三要素に着目させるとよい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力の大きさはばねばかりで測定できることを説明する。</li> <li>・引き合う場合でも押し合う場合でも条件は同じであることを確認させる。</li> <li>【評】つり合っている二つの力についてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・教科書P. 272の「演習しよう」に取り組ませる。</li> <li>【評】つり合う力の作図問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>【評】自分が知っているいろいろな力について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・磁力と静電気力は、物体同士が接触していなくても働く力であることを押さえる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 275の図20のように、実際にばねを手で引かせて考えさせるとよい。</li> <li>・10 g, 20 g ……のおもりを吊り下げると、ばねは0.1 N, 0.2 N ……の力で引かれたことに</li> </ul> |



|   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グラフの表し方を習得する。</li> <li>○ 実験の結果をグラフでまとめる。</li> <li>○ ばねに働く力とばねの伸びの関係についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ばねの伸びと力の大きさは比例する。</li> </ul> </li> <li>○ 重力、質量について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重力は力の大きさであり、ばねばかりで測り、測る場所（月面など）によって変わる。</li> <li>・ 質量は物体の量であり、上皿てんびんで測り、どこで測っても同じ。</li> </ul> </li> </ul> | <p>なることを押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重要な技能なので、しっかりと習得させる。</li> <li>・ 測定値を折れ線で結んでしまう生徒が多いため、直線か滑らかな曲線で結ぶことを押さえる。</li> </ul> <p>【評】 実験の結果をグラフでまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結果のグラフが、原点を通る直線であることから、力の大きさとばねの伸びが比例することに気付かせる。</li> <li>・ フックの法則について説明する。</li> </ul> <p>【評】 ばねに働く力とばねの伸びの関係についてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重力と質量の違いについてまとめさせる。</li> <li>・ 日常生活で使う「重さ」という言葉は、重力を表す場合と質量を表す場合の両方があることを押さえる。</li> </ul> |
|---|---|

### 【 備 考 】

ここでは、物体に力を働かせる実験を行い、その結果を分析して解釈することを通して力の働きやその規則性を見いださせ、力には大きさや向きによって表されることが、物体に働く2力のつり合う条件など、力に関する基礎的な性質やその働きを理解させるとともに、力に関する観察、実験の技能を身に付けさせることが主なねらいである。

力の働きについては、力の大きさによって力を加えた物体の変形の様子が異なることや動き出し方に違いがあることを見いだして理解させる。また、動いている物体に力を加えると、運動の様子が変わることを観察させる。これらのことを基にして、力の働きを見いださせるとともに、力には大きさと向きがあることを理解させる。

物体の変形については、実験によって力の大きさとばねの伸びが比例することを見いださせ、力の大きさはばねの変形の量で測定できることを理解させる。測定結果を処理する際、測定値には誤差が必ず含まれていることを踏まえた上で規則性を見いださせるように指導し、誤差の扱いやグラフ化など、測定値の処理の仕方の基礎を習得させることが大切である。

2力がつり合う条件については、実験によって2力がつり合うときのそれぞれの力の大きさと向きなどを調べ、つり合いの条件を見いだして理解させることが考えられる。その上で、2力のつり合いが身近に存在していることを理解させる。

重さについては、小学校の学習を踏まえながら、力の一種であることを理解させ、重さと質量の違いにも触れる。例えば、質量は場所によって変わらない量で、てんびんで測定することができる量であり、重さは物体に働く重力の大きさで、ばねばかりなどで測定することができる量であるとする。そして、おもりの質量が大きくなるとおもりに働く重力が大きくなることを理解させる。また、今後の理科の学習で、重さと質量を区別して使っていくことにも触れる。

力の大きさについては、単位としてニュートン（記号N）を用いる。1 Nの力とは、質量が約100gの物体に働く重力と同じ大きさであることに触れる。また、力には、大きさ、向き、作用点という要素があり、力を矢印の大きさと向きを用いて表すことができることを理解させる。なお、これらの学習の中で、身近なところに存在している力の具体例などにも触れ、生徒の興味・関心を高めることも大切である。

<参考URL>

## 単元名 化学変化と物質の成り立ち(1分野 単元1ー1章)

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、物質の分解、原子・分子についての基本的な概念や原理・法則などを理解したりするとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。

(2) 物質の成り立ちについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。

(3) 物質の成り立ちに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240101\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 化学変化、分解、熱分解について、実験を通して理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 物質を細かくしていくとどうなるかについて話し合う。</li> </ul> <p>★酸化銀を加熱するとどのような変化をするかを調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 酸化銀を加熱すると、どのような物質が発生するのかを予想する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酸素</li> <li>・ 銀</li> </ul> </li> <li>○ 実験の計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水上置換法で酸素を集める。</li> <li>・ 酸素は火のついた線香を入れて確認する。</li> <li>・ 金属である銀は金属光沢、電気伝導性、展性や延性という性質があるかを確認する。</li> </ul> </li> <li>○ 酸化銀を加熱して、発生する物質について調べる。</li> </ul> <p>○ 酸化銀を加熱したときの変化をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酸化銀を加熱すると銀と酸素というもとの物質とは異なる性質をもった別の物質に変化する。</li> </ul> </p> <p>○ 化学変化、分解、熱分解について知る。</p> <p>2～3 電気分解について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水に電流を流すと、どのような変化が起こるのか話し合う。</li> </ul> <p>★水に電流を流したときの変化を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電源装置の使い方を知る。</li> <li>○ 電気分解装置の使い方を知る。</li> <li>○ 水に電流を流して、発生する物質について調べる。</li> </ul> <p>○ 水に電流を流したときの変化をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水に電流を流すと、水が水素と酸素に分解される変化が起こる。</li> </ul> </p> <p>○ 電気分解について知る。</p> <p>4 分子について理解するとともに、原子の性質について理解する。</p> <p>★水の粒子は、水素の粒子や酸素の粒子とどのような関係があるか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水の粒子から、水素の粒子と酸素の粒子はどのようにしてできたのか話し合う。</li> </ul> <p>○ 分子と原子について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水の粒子は、水素の粒子や酸素の粒子とどのような関係があるのかについてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水は水分子が集まってできており、水分子は水素原子2個と酸素原子1個が結びついてできている。</li> </ul> </li> <li>○ 原子の性質について知る。</li> <li>○ 原子の大きさと質量について知る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの粒子についての学習を想起させたり、鉄などの実物を見せたりしながら考えさせるとよい。</li> <li>・ 酸化銀という名前から考えさせる。</li> <li>・ 水素など、酸素や銀以外の物質が出る場合も想定して準備しておく。</li> <li>・ 第1学年の「身のまわりの物質」を想起させながら、物質を調べる方法や気体の捕集方法を考えさせる。</li> <li>・ 試験管が割れるおそれがあるため、水が逆流しないようにガラス曲管を水槽から取り出してから火を消すように指導する。<br/>【評】酸化銀を加熱して発生する物質を調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 水に電流を流した時の様子を見せながら考えさせるとよい。</li> <li>・ 教科書P.13の基礎技能を参照させながら指導する。</li> <li>・ 教科書P.14の基礎技能を参照させながら指導する。</li> <li>・ うすい水酸化ナトリウム水溶液が手につかないように十分注意させる。<br/>【評】水に電流を流して発生する物質について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 発生した水素と酸素の体積比は2：1になることを押さえる。</li> <li>・ 自分の考えを図にかき表して、話し合わせるとよい。<br/>【評】水の粒子と、水素の粒子や酸素の粒子の関係について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 原子の3つの性質について押さえる。</li> <li>・ 原子は非常に小さいことを、1円硬貨などの例を挙げて捉えさせるとよい。</li> </ul> |

5 原子の種類と元素記号、周期表について理解する。

★原子の種類と元素記号について知ろう。

○原子の名前と記号について知る。

○周期表について理解する。

6 分子のモデルの表し方を知り、単体、化合物、物質の分類、さまざまな物質のモデルについて理解する。

★さまざまな分子のモデルをつくろう。

○分子について知る。

○いろいろな分子をモデルを用いて表す。

・1種類の原子でできている分子のモデル  
(水素分子、酸素分子、窒素分子、塩素分子)

・2種類の原子でできている分子のモデル  
(水分子、二酸化炭素分子、塩化水素分子、アンモニア分子)

○単体と化合物を知る。

○さまざまな物質のモデルについてまとめる。

○物質の分類をする。

7 物質は化学式で表すことができることを理解する。

★物質を原子の記号で表す方法を知ろう。

○化学式について知る。

・分子が集まってできている物質の化学式  
(水素分子、水分子)

・分子というまとまりをもたない物質の化学式  
(銅、塩化ナトリウム)

○さまざまな物質の化学式を知り、原子の種類や数を考える。

8 化学変化は化学反応式で表すことができることを知り、化学反応式の表し方を理解する。

★化学変化を化学式で表す方法を知ろう。

○原子のモデルカードを使って、水の電気分解を表す方法を考える。

○化学反応式のつくり方を知る。

○水の電気分解を化学反応式で表す。

○化学反応式から分かることをまとめる。

・それぞれの化学式から、反応前の物質と反応後に生じる物質が分かる。

・化学式の前につけた数字から、反応前の物質と反応後に生じる物質の原子や分子の数の関係が分かる。

・教科書P.20の表1の原子の名前と記号は今後の学習でよく使用するので、暗記させるとよい。

・教科書P.4～P.5にある周期表を参照させながら指導するとよい。

【評】原子の種類と元素記号、周期表についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・教科書の付録の原子のモデルカードを活用するとよい。

・教科書のP.25の図13を参照させながらまとめさせるとよい。

・分子が集まってできている物質か、分子というまとまりをもたない物質かは、物質によって決まっていることを押さえる。

【評】さまざまな分子のモデルについてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する

・物質は、1種類でできている純粋な物質と、いくつかの物質が混ざり合っている混合物に分類することができること、また、純粋な物質は、単体と化合物に分類することができることを理解させる。

・教科書の付録の原子のモデルカードを活用するとよい。

・化学式では、分子をつくる原子の種類と数、化合物をつくる原子の種類と数の比などを表すことを捉えさせる。

・教科書P.26の表2を参照させながら考えさせるとよい。

【評】さまざまな物質の化学式から、原子の種類や数を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・教科書の付録の原子のモデルカードを活用させるとよい。

・教科書P.27の「話し合おう」を参照させながら指導するとよい。

・化学反応式では、等号(=)を用いないこと矢印は反応が進む向きを表していることを押さえる。

・化学変化によって原子が新しくできたり、なくなったり、他の種類の原子に変わったりしないことを押さえる。

【評】水の電気分解を化学反応式で表す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

ここでは、物質を分解する実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、1種類の物質から2種類以上の元の物質とは異なる物質が生成することを見いださせ、物質は何からできているかについて考えさせるとともに、物質は原子や分子からできていることを理解させることが主なねらいである。

物質の分解については、熱を加えたり電流を流したりすることによって物質を分解する実験を行い、根拠を基に分析して解釈し、1種類の物質から2種類以上の元の物質とは異なる物質が生成することを見いだして理

解させることがねらいである。

化合物を分解する実験を通して、分解する前の物質と分解によって生成した物質の性質を比較して、性質が違ふことから異なる物質が生成したことを見いだして理解させる。例えば、熱によって物質を分解する実験では、変化の様子が明確なものとして酸化銀を扱うことなどが考えられる。また、日常生活との関連があるものとして、炭酸水素ナトリウムを扱うことなどが考えられる。電流を流すことによって物質を分解する実験では、水を扱うことなどが考えられる。

原子・分子については、物質を構成している単位として原子や分子があることを理解させ、物質の種類の違いは原子の種類の違いとその組み合わせによること及び原子や分子は記号で表されることを理解させることがねらいである。なお、「原子の種類」は元素、「記号」は元素記号を示している。例えば、原子の初歩的な概念を導入し、原子は質量をもった非常に小さな粒子として取り扱う。また、分子については、幾つかの原子が結び付いて一つのまとまりになったものであることを扱う。なお、元素については、周期表を用いて金属や非金属など多くの種類が存在することに触れる。物質やその変化を記述したり理解したりするために、世界共通の元素記号を用いることが有効であることに気付かせる。元素記号としては、基礎的なものとして、H, He, C, N, O, S, Cl, Na, Mg, Al, Si, K, Ca, Fe, Cu, Zn, Ag, Ba, Au など、その後の学習でよく使用するものを取り上げる。

## 単元名 いろいろな化学変化(1分野 単元1-2章)

配当時間 16時間

- 単元の目標 (1) 化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、化学変化、化学変化における酸化と還元、化学変化と熱についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 化学変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240102\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1～3 重曹(炭酸水素ナトリウム)を加えてカルメ焼きが膨らむときの化学変化について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カルメ焼きが膨らむ理由を考える。</li> </ul> <p>★炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○炭酸水素ナトリウムを加熱すると、どのような物質が発生するのかを予想する。</li> <li>○実験の計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・二酸化炭素は水上置換法で集める。</li> <li>・二酸化炭素は石灰水で確認する。</li> <li>・水は塩化コバルト紙で確認する。</li> </ul> </li> <li>○炭酸水素ナトリウムを加熱し、発生する物質について調べる。</li> <li>○炭酸水素ナトリウムを加熱してできた物質についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生した気体は、二酸化炭素である。</li> <li>・発生した液体は、水である。</li> <li>・加熱後に残った物質は炭酸ナトリウムである。</li> </ul> </li> <li>○炭酸水素ナトリウムの熱分解を化学反応式で表す。</li> <li>○カルメ焼きが膨らむ理由をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・重曹(炭酸水素ナトリウム)が熱分解して発生した二酸化炭素によってカルメ焼きが膨らむ。</li> </ul> </li> </ul> <p>4 物質が結び付く化学変化について調べる。</p> <p>★銅と硫黄を反応させるとどうなるのかを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○銅と硫黄を反応させると何ができるかを予想する。</li> <li>○銅と硫黄を反応させたときの変化を調べる。</li> <li>○銅と硫黄が結び付く化学変化を化学反応式で表す。</li> <li>○化合物と化合物について知る。</li> </ul> <p>5～6 物質が結び付いて、別の物質が生じることを調べる。</p> <p>★鉄と硫黄を反応させるとどうなるのかを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○鉄と硫黄を反応させると何ができるかを予想する。</li> <li>○鉄と硫黄を反応させたときの変化を調べる。</li> <li>○鉄と硫黄を反応させたときの、加熱前と加熱後の物質の性質を調べる。</li> <li>○鉄と硫黄が結び付く化学変化を化学反応式で表す。</li> <li>○鉄と硫黄の反応をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄と硫黄は、混ぜ合わせて加熱することで、結びつく</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重曹を含んだものと、含まないものを実際に焼いて見せてもよい。</li> </ul> <p>【評】炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化を予想する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年の「身のまわりの物質」を想起させながら、物質を調べる方法を考えさせる。</li> <li>・塩化コバルト紙の性質について押さえる。</li> </ul> <p>【評】炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化を調べる実験の計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験管が割れるおそれがあるため、生じた液体が加熱部分に流れないように試験管の口を下げることを確認させる。</li> <li>・水が逆流しないようにガラス曲管を水槽から取り出してから火を消すことを確認させる。</li> </ul> <p>【評】炭酸水素ナトリウムを加熱し、発生する物質を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加熱後に残った物質は炭酸水素ナトリウムではないことを押さえる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.37の図6と図7を用いて説明してもよい。</li> <li>・銅と硫黄の反応は、加熱しなくても穏やかに反応していくことを伝える。</li> </ul> <p>【評】銅と硫黄を反応させたときの変化を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有毒な気体が発生するため実験中は換気をさせる。</li> <li>・有毒な気体が出るのを防ぐために、試験管の口を脱脂綿で軽く塞いでおく。</li> <li>・硫化鉄に塩酸を加えると、有毒な硫化水素が発生するため、絶対に吸い込まないように注意させる。</li> </ul> <p>【評】鉄と硫黄が結び付く化学変化を化学反応式で表す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

|   |  |
|---|--|
| <p>化学変化が起こり，別の物質が生じる。</p> <p>7 酸素が結びつく化学変化について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>銅でできている10円硬貨が黒ずむ理由を考える。</li> <li>★銅と酸素が結びつくかを調べよう。</li> <li>加熱した銅に酸素を吹きかけたときの変化を調べる。</li> <li>銅と酸素が結びつく化学変化を化学反応式で表す。</li> </ul> <p>8 化学変化の前後の物質の性質の変化を調べる。</p> <p>★鉄は酸素と結びつくかを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スチールウール（鉄）を加熱したときの変化を予想する</li> <li>スチールウール（鉄）を加熱したときの変化を調べる。</li> <li>スチールウール（鉄）と加熱後の物質の性質の変化を調べる。</li> <li>スチールウール（鉄）を加熱したときの変化をまとめる <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄を加熱すると，空気中の酸素と結びつく化学変化が起こり，酸化鉄が生じる。</li> </ul> </li> </ul> <p>9 酸化，酸化物，燃焼について理解する。</p> <p>★酸化，酸化物，燃焼についてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>酸化と酸化物について知る。</li> <li>燃焼について知る。</li> <li>スチールウール（鉄）の燃焼，マグネシウムリボンの燃焼について調べる。</li> <li>スチールウール（鉄）の燃焼，マグネシウムリボンの燃焼を化学反応式で表す。</li> <li>酸化，酸化物，燃焼についてまとめる。</li> </ul> <p>10 穏やかな酸化といろいろな物質の燃焼について理解する</p> <p>★穏やかな酸化といろいろな物質の燃焼を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>穏やかな酸化について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄くぎのさび</li> <li>10円硬貨の黒ずみ</li> </ul> </li> <li>いろいろな物質の燃焼を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>炭素の燃焼</li> <li>水素の燃焼</li> </ul> </li> <li>いろいろな物質の燃焼を化学反応式で表す。</li> </ul> <p>11 有機物の分解と燃焼について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有機物と原子について知る。</li> <li>★有機物の分解と燃焼について知ろう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ゲッケイジュの葉を加熱したときの変化を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ゲッケイジュの葉（有機物）が熱分解して，炭素と水が生じる。</li> </ul> </li> <li>ブドウ糖を加熱したときの変化を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ブドウ糖（有機物）が燃焼して，二酸化炭素と水が生じる。</li> </ul> </li> <li>有機物の分解と燃焼をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>有機物が熱分解すると，炭素と水が生じる。</li> <li>有機物が燃焼すると，二酸化炭素と水が生じる。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>12 酸素を取り除く化学変化について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>銅線を加熱すると，酸化して酸化銅が生じることを確認する。</li> <li>★酸素を取り除く化学変化について知ろう。</li> <li>酸化銅を銅に戻す方法を考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>反応後の物質は，反応前の銅よりも質量が増えていることを押さえる。</li> <li>【評】銅と酸素が結びつく化学変化を化学反応式で表す活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>スチールウールは鉄を繊維状に加工したものであると伝える。</li> <li>前時の実験を想起したり，鉄や酸素の化学式を参考にしたりして，結果を予想させるとよい。</li> <li>勢いよく息をふきかけると，激しく燃焼することがあるので注意させる。</li> <li>薄い塩酸との反応を調べるとき，火気の近くで行わないようにさせる。</li> <li>【評】スチールウールと加熱後の物質の性質の変化を調べる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</li> <li>酸化は，化合の一部であることを伝える。</li> <li>燃焼は，酸化の一部であることを伝える。</li> <li>教師による演示実験を生徒に観察させるとよい。</li> <li>熱や光を出しながら激しく酸化していることを押さえる。</li> <li>【評】酸化，酸化物，燃焼についてまとめる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</li> <li>熱や光が発生しなくても酸化する例があることを知らせる。</li> <li>教師による演示実験を生徒に観察させるとよい。</li> <li>木炭の主な成分は炭素であることを知らせる</li> <li>水素と酸素が結びつく化学変化は，水の電気分解と逆の反応になっていることに気付かせる。</li> <li>【評】いろいろな物質の燃焼を化学反応式で表す活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>有機物には，加熱すると黒く焦げて炭ができたり，燃やすと二酸化炭素が生じたりするなどの性質があるという第1学年の「身のまわりの物質」の学習を想起させる。</li> <li>教師による演示実験を生徒に観察させるとよい。</li> <li>【評】有機物の分解と燃焼をまとめる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</li> <li>教師の演示実験を生徒に観察させてもよい。</li> <li>教科書の付録の原子のモデルカードを活用し</li> </ul> |
|---|--|

- 酸化銅をもとの銅に戻す方法を知る。
  - ・酸化銅と水素を反応させることで、銅を取り出すことができる。
- 還元について知る。
- 酸化銅と水素の反応を化学反応式で表す。
- 13 酸化物から酸素を取り除き、金属を取り出す化学変化について調べる。
  - 製鉄所での還元の利用について知る。
    - ・製鉄所では、鉄鉱石（酸化鉄）とコークス（炭素）を混ぜ合わせて加熱するという過程を経て金属の鉄が取り出されている。
  - ★酸化銅から銅を取り出せるか調べよう。
  - 酸化銅と炭素を混ぜ合わせて加熱すると、どのような物質が発生するのかを予想する。
  - 酸化銅の還元によって生じる物質を調べるための方法を考える。
    - ・二酸化炭素は水上置換法で集める。
    - ・二酸化炭素は石灰水で確認する。
    - ・銅は色と金属光沢で確認する。
  - 酸化銅と炭素の混合物を加熱し、生じる物質について調べる。
  - 酸化銅と炭素の混合物を加熱したときの化学変化の様子を化学反応式で表す。
- 14 酸素を取り除く化学変化について理解する。
  - ★二酸化炭素から炭素を取り出せるか考えよう。
  - 二酸化炭素から炭素を取り出せるかを考える。
  - 二酸化炭素のマグネシウムによる還元を知る。
  - 二酸化炭素のマグネシウムによる還元を化学反応式で表す。
  - 銅、炭素、マグネシウムと、酸素との結び付きの強さについて考える。
    - ・炭素の方が銅よりも酸素との結び付きが強い。
    - ・マグネシウムの方が酸素との結び付きが強い。
- 15 化学変化によって発生する熱や光の利用について知る。
  - ★化学変化によって発生する熱や光について知ろう。
  - 光や熱の発生を伴う化学変化を知る。
    - ・スチールウールの燃焼
    - ・鉄と硫黄の化合
    - ・マグネシウムの燃焼
    - ・水素の燃焼
  - 身の回りで見られる熱や光を利用したものについて話合う。
    - ・ガスバーナー    ・使い捨てカイロ    ・加熱式容器
    - ・ろうそく        ・花火
  - 使い捨てカイロの仕組みを調べる。
  - 使い捨てカイロの仕組みをまとめる。
- 16 化学変化では熱の出入りが伴うことを理解する。
  - ★化学変化では、熱の出入りが伴うことについてまとめよう。
  - 化学変化によって、熱が吸収されることもあるのかを話合う。
  - 水酸化バリウムと塩化アンモニウムを反応させて、熱が吸収される化学変化を調べる。
  - 発熱反応、吸熱反応、反応熱についてまとめる。
    - ・周りに熱を放出する反応を発熱反応という。
    - ・周りに熱を吸収する反応を吸熱反応という。

- て、考えさせるとよい。
- 【評】酸化銅をもとの銅に戻す方法を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教師の演示実験を生徒に観察させてもよい。
- ・酸化銅が水素によって還元されて銅となるとときには、同時に水素が酸化されて水となることを知らせる。
- ・教科書P. 51の図25を参照させながら指導するとよい。
- ・鉄鉱石の実物を見せるとよい。
- ・酸化銅や炭素の化学式から、結果を予想させるとよい。
- ・第1学年の「身のまわりの物質」を想起させながら、物質を調べる方法を考えさせる。
- 【評】酸化銅の還元によって生じる物質を調べるための方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・水が逆流しないようにガラス曲管を石灰水から取り出してから火を消すようにさせる。
- ・教科書の付録の原子のモデルカードを活用して、考えさせるとよい。
- ・教師による演示実験を生徒に観察させてもよい。
- ・前時の酸化銅と炭素の化学変化を想起させる
- 【評】銅、炭素、マグネシウムと、酸素との結び付きの強さについて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・前時までの実験を想起させる。
- ・弁当や飲料の加熱に発熱反応が利用されていることを知らせる。
- ・ろうそくや花火は、ロウや火薬が燃焼するときに発生する光を利用したものであることを知らせる。
- 【評】身の回りで見られる熱や光を利用したものについて話合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教科書P. 57の「やってみよう」を参照させながら指導するとよい。
- ・温度変化の違いから、周りに熱を放出する化学変化であることを理解させる。
- ・教科書P. 58の「やってみよう」を参照させながら指導するとよい。
- ・温度変化の違いから、周りに熱を吸収する化学変化であることを理解させる。
- 【評】発熱反応、吸熱反応、反応熱についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価

### 【 備 考 】

ここでは、物質同士が結び付く反応の実験及び酸化や還元の実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、2種類以上の物質が結び付いて反応前とは異なる物質が生成する反応があることや、酸化や還元は酸素の関係する反応であること、化学変化では熱の出入りが伴うことを見いだして理解させるとともに、化学変化を原子や分子のモデルと関連付けて理解させることが主なねらいである。

化学変化については、例えば、金属が酸素や硫黄と結び付く反応のように、反応前後の物質の色や形状などの違いが明確なものを取り上げる。また、物質同士が結び付いて生成した物質の性質を調べる方法を考えさせる際には、「(2)身の回りの物質」で学習したことを活用させるようにする。なお、硫黄を用いた実験では有害な気体が発生することもあるので、適切な実験の方法や条件を確認するとともに、理科室内の換気に十分注意する。

次に、物質同士が結び付く反応と、「(7)物質の成り立ち」で学習した分解における化学変化を、原子や分子のモデルを用いて考察させ、微視的に事物・現象を捉えさせるようにする。その際、模型を用いるなどして目に見えない原子や分子をイメージしやすいように工夫することが考えられる。

酸化と還元については、例えば、金属を酸化したり金属の酸化物を還元したりして生成する物質を調べる実験を行い、酸化と還元は酸素をやりとりする逆向きの反応であることに気付かせて理解させる。その際、酸化や還元の反応を原子や分子のモデルを用いて考察させ、反応の前後では原子の組み合わせが変わることに気付かせることが大切である。

化学変化と熱については、例えば、アルコールの燃焼やカイロなど、日常生活や社会で利用されているものを取り上げて学習に対する生徒の興味・関心を高め、科学を学ぶ有用性に気付くことができるように配慮するとともに、鉄粉の酸化を利用したカイロを生徒につくらせるなど、ものづくりを通して化学変化による発熱についての理解を深めるようにすることが考えられる。

化学変化による発熱については、例えば、エタノールなどを燃焼させると発熱すること、都市ガスやプロパンガスなどの有機物を燃焼し発生させた熱は調理や暖房などに利用されていることを理解させる。また、塩化アンモニウムと水酸化バリウムの反応のように、化学変化により吸熱する場合があることにも触れる。



## 単元名 化学変化と物質の質量(1分野 単元1-3)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、化学変化と質量の保存、質量変化の規則性についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 化学変化と物質の質量について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 化学変化と物質の質量に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240103\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 質量保存の法則について理解する。</p> <p>★化学変化の前後の物質の質量について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○密閉した容器の中で銅粉を酸化させたときの質量の変化を予想する。</li> <li>○密閉した容器の中で銅粉を酸化させたときの質量の変化を調べる。</li> <li>○質量保存の法則を知る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の出入りがない限り、化学変化の前後で物質全体の質量は変化しないことを質量保存の法則という。</li> </ul> </li> </ul> <p>2 沈殿が生じる化学変化における質量保存の法則について理解する。</p> <p>★硫酸ナトリウム水溶液と塩化バリウム水溶液を混ぜ合わせたときの質量の変化を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○硫酸ナトリウム水溶液と塩化バリウム水溶液を混ぜ合わせたときの質量の変化を予想する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子の組み合わせが変わるだけなので質量は変化しない。</li> </ul> </li> <li>○硫酸ナトリウム水溶液と塩化バリウム水溶液を混ぜ合わせたときの質量の変化を調べる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・反応の前後で物質全体の質量は変化しない。</li> </ul> </li> <li>○沈殿が生じる化学変化でも、質量保存の法則が成り立つことを知る。</li> </ul> <p>3 気体が生じる化学変化における質量保存の法則について理解する。</p> <p>★うすい塩酸に石灰石を入れたときの質量の変化を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○うすい塩酸に石灰石を入れたときの質量の変化を予想する。</li> <li>○うすい塩酸に石灰石を入れたときの、質量の変化を調べる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・容器を密閉した状態では、反応の前後で全体の質量は変化しない。</li> <li>・蓋をゆるめると容器から気体が出ていくため質量は減少する。</li> </ul> </li> <li>○気体が生じる化学変化でも、質量保存の法則が成り立つことを知る。</li> </ul> <p>4 銅と結び付く酸素の質量には、限度があることを理解する。</p> <p>★銅粉を繰り返し加熱したときの質量の変化を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○銅粉を繰り返し加熱したときの質量の変化を予想する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・銅と結び付く酸素の質量に限度がある。</li> <li>・質量はどこまでも増え続ける。</li> </ul> </li> <li>○銅粉を繰り返し加熱したときの質量の変化を調べる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・加熱回数が増えていくにしたがって、初めは粉末の質量が増えていくが、やがて粉末の質量が増えなくなる。</li> </ul> </li> <li>○実験の結果を表やグラフにまとめ、銅と結び付く酸素の質量には、限度があることを見いだす。</li> </ul> <p>5～7 化学変化における2つの物質の質量の間にある量的な</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・状態変化では体積が変化しても質量は変化しなかったことを想起させる。</li> <li>【評】密閉した容器の中で銅粉を酸化させたときの質量の変化を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・教師による演示実験を生徒に観察させるとよい。</li> <li>・質量保存の法則は、化学変化の他、物質の溶解や状態変化でも成り立つことを押さえる。</li> <li>・塩化バリウム水溶液は有毒であるため、手などにつかないように十分注意させ、手などについてしまったときはすぐに水で洗わせる。</li> <li>【評】硫酸ナトリウム水溶液と塩化バリウム水溶液を混ぜ合わせたときの質量の変化を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・うすい塩酸が手につかないように十分注意させ、手についてしまったときにはすぐに水で洗わせる。</li> <li>・容器が破裂するおそれがあるので、石灰石やうすい塩酸を入れる量には十分注意させる。</li> <li>【評】気体が生じる化学変化における質量保存の法則について知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・やけどをしないように十分注意させる。</li> <li>・薬さじについた粉末は、ステンレス皿にすべて戻すように伝える。</li> <li>・化学変化の前後では、全体の原子の種類や数は変わらず、物質全体の質量も変化しないことを押さえる。</li> <li>【評】銅と結び付く酸素の質量には、限度があることを見いだす活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

関係を見いだす。

★銅粉の質量と結び付く酸素の質量との関係を調べよう。  
○銅粉の質量と結び付く酸素の質量との間には、どのような関係があるのか話し合う。

○銅粉の質量と結び付く酸素の質量との関係を調べる実験の計画を立てる。  
・加熱する銅粉の質量を班ごとに変える。  
・実験の結果を表やグラフで整理する。  
○銅粉の質量と結び付く酸素の質量との関係を調べる。

○化学変化における物質の質量の比を知る。  
・銅の質量と結び付く酸素の質量の比は4 : 1である。  
・マグネシウムの質量と結び付く酸素の質量の比は3 : 2である。

・教科書「疑問から探究してみよう」のページは、解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動を重視する。

【評】銅粉の質量と結び付く酸素の質量との間にはどのような関係があるのか話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・やけどをしないように十分注意させ、実験中は必ず換気を行うように指導する。  
・実験結果を表に記録させ、各班のデータが揃ったところでグラフを作成させる。

【評】銅粉の質量と結び付く酸素の質量との関係を調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。  
・結び付く物質の質量の比は常に一定であることや、化合物をつくる成分の質量の比が常に一定であることを理解させる。  
・様々な化学変化において、反応する物質の質量の比は常に一定であることを押さえる。

#### 【 備 考 】

ここでは、化学変化の前後における物質の質量や化学変化に関する物質の質量について、見通しをもって、解決方法を立案して実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、化学変化の前後で物質の質量の総和が等しいこと及び反応する物質の質量の間には一定の関係があることの二つの規則性を見いだして理解させることが主なねらいである。

なお、量的な関係を見いだして理解させるため、測定値の誤差をできるだけ小さくするように注意深く実験することや、誤差を踏まえた上で実験結果を考察することなど、定量的な実験における方法を習得させるようにする。

化学変化と質量の保存については、化学変化の前後における物質の質量を測定する実験を行い、反応の前と後で物質の質量の総和が等しいことを見いだして理解させることがねらいである。取り上げる実験としては、反応が起きたことが捉えやすく質量を測定しやすいものがよい。

質量変化の規則性については、化学変化に関する物質の質量を測定する実験を行い、反応する物質の質量の間には、一定の関係があることを見いだして理解させることがねらいである。ここで見いだして理解させる「一定の関係」とは、一定の質量の物質に反応する他方の物質の質量には限度があり、その限度の質量は一方の質量に比例することである。このことから、互いに反応する物質の質量の比が一定であるという量的な関係を見いださせる。

<参考URL>

10min. ボックス 理科1分野 化学変化と質量 <http://www.nhk.or.jp/school/>

## 単元名 生物の細胞と個体(2分野 単元2-1章)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生物と細胞、植物の体のつくりと働き、動物の体のつくりと働きを理解したり、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 身近な植物や動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現することができる。
- (3) 生物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240104\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1～2 植物の体の微細なつくりについて理解する。</p> <p>★植物の体のつくりについて調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○植物を拡大していくと、どのようなつくりが見られるかを話し合う。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞 ・皮膚</li> </ul> </li> <li>○顕微鏡の使い方とプレパラートの作り方を確認する。</li> </ul> <p>○オオカナダモの葉の微細なつくりについて調べる。</p> <p>○植物の体のつくりについてまとめる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の体は、多数の細胞でできている。</li> <li>・植物の細胞には、核、葉緑体、液胞、細胞膜、細胞壁という構造が見られる。</li> </ul> </p> <p>3 動物の体の微細なつくりについて理解する。</p> <p>★動物の体のつくりについて調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ヒトの粘膜の微細なつくりについて調べる。</li> </ul> <p>○動物の体のつくりについてまとめる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の体は、多数の細胞でできている。</li> <li>・動物の細胞には、核、細胞膜という構造が見られる。</li> </ul> </p> <p>4 植物と動物の細胞の共通点と相違点を見いだす。</p> <p>★植物と動物の細胞のつくりを比べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○植物と動物の細胞の構造について確認する。</li> <li>○植物と動物の細胞の共通点と相違点について話し合う。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・核と細胞膜は、植物と動物の細胞に見られる共通の構造である。</li> <li>・細胞壁、液胞、葉緑体は、植物の細胞に見られる特有の構造である。</li> </ul> </li> </ul> <p>5 多細胞生物の組織、器官、個体、単細胞生物について理解する。</p> <p>★多細胞生物と単細胞生物についてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多細胞生物と単細胞生物について知る。</li> </ul> <p>○多細胞生物の組織、器官、個体についてまとめる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ形や大きさ、働きをもつ細胞からできているものを組織という。</li> <li>・何種類かの組織が組み合わさってできたものを器官という。</li> <li>・独立した一つの生物体のことを個体という。</li> </ul> </p> <p>○細胞呼吸（内呼吸）について知る。</p> | <p>【評】植物を拡大していくとどのようなつくりが見られるかを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 88～P. 89の基礎技能を参照しながら指導する。</li> <li>・中学校で初めて顕微鏡を扱うため、使い方を丁寧に指導する。</li> <li>・教科書P. 86の「観察1のステップ1」を参照しながら指導する。</li> </ul> <p>【評】オオカナダモの葉の微細なつくりについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 87の「観察1のステップ2」を参照しながら指導する。</li> <li>・頬の内側をこする力が弱いと細胞を観察できないことがある。</li> </ul> <p>【評】ヒトの粘膜の微細なつくりについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を想起させる。</li> </ul> <p>【評】植物と動物の細胞の共通点と相違点について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単細胞生物は、一つの細胞で生命を維持していることを押さえる。</li> <li>・教科書P. 90の図3を参照させながら指導する</li> </ul> <p>【評】多細胞生物の組織、器官、個体についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

ここでは、身近な生物の組織の観察、実験などを行い、全ての生物が細胞でできおり、細胞は生物体の構造の単位であること、細胞には様々な形のものがあること、どの細胞も共通の基本的なつくりをもっていること、また、植物と動物の細胞とで異なるつくりがあることを見いだして理解させるとともに、適切な観察器具の扱い方や観察記録の取り方などを身に付けさせることがねらいである。

<参考URL>

10min.ボックス 理科2分野 生物と細胞 <http://www.nhk.or.jp/school/>

## 単元名 植物の体のつくりとはたらき(2分野 単元2－2章)

配当時間 15時間

- 単元の目標 (1) 植物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、葉・茎・根のつくりと働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 植物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、植物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 植物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240105\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| <p>1～3 葉のつくりを理解する。</p> <p>★葉のつくりについて調べよう。</p> <p>○ムラサキツユクサの葉の表皮を観察する。</p> <p>○葉の表皮に見られるつくりをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向かい合った三日月形の細胞を孔辺細胞という。</li> <li>・二個の孔辺細胞に囲まれた隙間を気孔という。</li> <li>・気孔は、葉の裏側に多く存在している。</li> </ul> <p>○ツバキの葉の断面を観察する。</p> <p>○葉の断面に見られるつくりをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑色の粒は、葉緑体である。</li> <li>・大きな管は、葉脈である。</li> <li>・葉でつくられた栄養分が通る管を、篩管という。</li> <li>・根から吸い上げられた水や栄養分が通る管を道管という。</li> </ul> <p>○葉のつくりをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉は、たくさんの細胞が集まってできている。</li> <li>・葉の多くの細胞には、葉緑体が見られる。</li> <li>・葉には、維管束、気孔などのつくりがある。</li> </ul> <p>4～5 光合成には日光が必要なことと、光合成が葉の葉緑体で行われていることを理解する。</p> <p>★光合成が行われる条件を調べよう。</p> <p>○斑入りの葉で光合成が行われる条件を調べる。</p> <p>○観察の結果から分かることをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉の緑色の部分で光合成が行われている。</li> <li>・光合成には光が必要である。</li> </ul> <p>○光合成が行われる場所を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・核 ・細胞膜 ・細胞壁 ・葉緑体 ・液胞</li> </ul> <p>○オオカナダモの葉で光合成が行われる場所を調べる。</p> <p>○観察の結果から分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光合成は葉の細胞の中にある葉緑体で行われている。</li> </ul> <p>6～7 光合成には二酸化炭素が必要であることを見いだす。</p> <p>★光合成に必要な物質について調べよう。</p> <p>○光合成に必要な物質について話し合う。</p> <p>○光合成に必要な物質について調べる実験の計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光合成に二酸化炭素が使われるのならば、石灰水は白く濁らない。</li> <li>・光合成に二酸化炭素が使われるのならば、BTB液は黄色から青色に変化する。</li> </ul> <p>○光合成に二酸化炭素が使われているかどうかについて調べる。</p> <p>○光合成に必要な物質についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光合成は、二酸化炭素を原料として行われている。</li> </ul> <p>8 光合成の仕組みと栄養分の移動について理解する。</p> | <p>・教科書P.94の「観察2のステップ1」を参照させながら指導する。</p> <p>【評】ムラサキツユクサの葉の表皮を観察する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書P.96を参照させながら指導するとよい</p> <p>・気孔は、開いているときと、閉じているときがあることを押さえる。</p> <p>・教科書P.95の「観察2のステップ2」を参照させながら指導する。</p> <p>【評】ツバキの葉の断面を観察する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書P.97を参照させながら指導するとよい</p> <p>【評】葉のつくりをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書P.99の「やってみよう」を参照させながら指導する。</p> <p>【評】光合成が行われる条件を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】光合成が行われる場所を話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書P.101を参照させながら指導する。</p> <p>・緑色の部分が葉緑体であることを押さえる。</p> <p>・教科書「疑問から探究してみよう」のページは、解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動を重視する。</p> <p>・教科書P.105を参照させながらBTB液の性質を押さえ、光合成に二酸化炭素が使われたとすると、どのような結果になるのかを予想させておく。</p> <p>・対照実験について押さえる。</p> <p>【評】光合成に必要な物質について調べる実験の計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P.104～P.105を参照させながら指導する。</p> <p>【評】光合成に必要な物質について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

|  |   |
|--|---|
| <p>★光合成の仕組みと栄養分の移動についてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○光合成の仕組みをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・光合成は葉の葉緑体で行われる。</li> <li>・光合成は、光のエネルギーを利用している。</li> <li>・二酸化炭素と水から、デンプンなどの有機物と酸素を作る。</li> <li>・光合成に必要な水は、道管を通して受け取っている。</li> <li>・二酸化炭素や酸素は、気孔から出入りしている。</li> </ul> </li> <li>○葉で作られた栄養分の移動についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養分は、師管を通して体全体の細胞に移動する。</li> <li>・栄養分の一部は、根や茎、果実や種子に蓄えられる。</li> </ul> </li> </ul> <p>9 植物の呼吸について理解する。</p> <p>★植物の呼吸について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○植物が呼吸を行っているかについて調べる。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○植物の呼吸についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物は、一日中、呼吸を行っている。</li> <li>・昼間は、光合成を盛んに行っているため、全体としては二酸化炭素を取り入れて、酸素を出しているように見える。</li> </ul> </li> </ul> <p>10～11 植物の蒸散について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○根から吸い上げられた水はどこにいくのかを話し合う。</li> </ul> <p>★水は葉のどこからでていくのかについて調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○水は葉のどこからでていくのかについて話し合う。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○水は葉のどこからでていくのかについて調べる。</li> <li>○実験の結果から分かることを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉の裏側の方が、葉の表側よりも、たくさんの水が出ている。</li> </ul> </li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○蒸散についてまとめる。</li> </ul> <p>12～14 双子葉類と単子葉類の茎と根のつくりについて理解する。</p> <p>★植物の茎と根のつくりについて調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○双子葉類の茎と根の内部のつくりについて調べる。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○単子葉類の茎と根の内部のつくりについて調べる。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○植物の茎と根のつくりについてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水は、茎と根の道管を通して移動している。</li> <li>・茎の内部の水が通る道管は、双子葉類では円形に並んで分布し、単子葉類では全体に散らばって分布している。</li> </ul> </li> </ul> <p>15 根から吸い上げられた水や葉でつくられた栄養分の移動について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○茎の維管束について知る。</li> </ul> <p>★植物の体の中で、水や栄養分が移動する様子を説明しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○植物の体の中で水や栄養分が移動する様子をまとめる。</li> <li>○植物の体の中で水や栄養分が移動する様子を説明する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 108の図13を参照させながら指導するとよい。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 109の図14を参照させながら指導するとよい。</li> </ul> <p>【評】光合成の仕組みと栄養分の移動についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 110の「やってみよう」を参照させながら指導する。</li> </ul> <p>【評】植物が呼吸を行っているかを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸と光合成を関連付けて捉えさせる。</li> <li>・呼吸と光合成で、気体の出入りは逆であることを捉えさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 111の図15を参照させながら指導するとよい。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 112の図16を参照しながら指導し、水は葉からでていくことを押さえる。</li> </ul> <p>【評】水は葉のどこからでていくのかについて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 113を参照させながら指導する。</li> <li>・葉がない場合も少しだけ蒸散が行われることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】実験の結果から分かることを話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蒸散量と気孔の数を関連付けて考えさせる。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 116～P. 117を参照させながら指導する。</li> </ul> <p>【評】双子葉類の茎と根について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】単子葉類の茎と根について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・道管が内側、師管が外側にあることを押さえる。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 118を参照させながら指導する。</li> <li>・教科書P. 119の図22を参照させながら説明させるとよい。</li> </ul> <p>【評】植物の体の中で、水や栄養分が移動する様子を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】

ここでは、植物の葉、茎、根の観察、実験を通して、植物の体のつくりの共通性と多様性に気付かせるとともに、植物の体のつくりと働きを関連付けて捉えさせるなど、植物の生命を維持する仕組みについて理解させることがねらいである。

葉については、葉の構造を観察し、その観察結果と光合成、蒸散とを関連させて考察し、葉のつくりと働きについて理解させる。

葉の働きについては、光合成を行う器官であることや、光合成は光のエネルギーを利用して、二酸化炭素と水からデンプンなどの有機物と酸素を生じる反応であることを理解させる。さらに、呼吸により酸素が吸収され二酸化炭素が放出されていること、葉では気孔で気体の出入りが起こっていることを理解させる。

蒸散については、蒸散が行われると、吸水が起こることを実験の結果に基づいて理解させる。

茎や根の働きについては、水が根で吸収されること、水は根や茎にある維管束の中の道管を上昇することを茎

などの断面の観察やデータと関連付けて理解させる。また，光合成によって生じた有機物は篩管を通して他の部位に移動することを理解させる。

<参考URL>

10min. ボックス 理科2分野 植物のからだ <http://www.nhk.or.jp/school/>

## 単元名 動物の体のつくりとはたらき(2分野 単元2ー3章)

配当時間 16時間

- 単元の目標 (1) 動物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生命を維持する働き、刺激と反応についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 動物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240201\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 ヒトの器官系について理解する。</p> <p>★ヒトの器官系についてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消化系、呼吸系、循環系、排出系について知る。</li> <li>ヒトの器官系についてまとめる。</li> </ul> <p>2～5 唾液による消化について理解する。</p> <p>★唾液の働きについて調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デンプンは、唾液の働きによって、何に変わるかを予想する。</li> <li>唾液の働きを調べる実験の計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>デンプンと唾液</li> <li>デンプンと蒸留水</li> </ul> </li> <li>唾液の働きを調べる実験をする。</li> <li>唾液の働きについてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>デンプンは、唾液の働きによって、麦芽糖などに分解される。</li> </ul> </li> </ul> <p>6 栄養分を取り入れる仕組みについて理解する。</p> <p>★栄養分を取り入れる仕組みについてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デンプン、タンパク質、脂肪の消化についてまとめる。</li> <li>消化された栄養分の吸収についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ブドウ糖とアミノ酸は毛細血管に入る。</li> <li>脂肪酸とモノグリセリドはリンパ管に入る。</li> </ul> </li> </ul> <p>7 ヒトの呼吸について理解する。</p> <p>★ヒトの呼吸についてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトにとってなぜ呼吸が必要なのか話し合う。</li> <li>ヒトの呼吸器官や酸素と二酸化炭素の交換について知る</li> <li>ヒトの呼吸運動について調べる。</li> <li>ヒトの呼吸運動についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトの肺は横隔膜を使って空気を出し入れしている。</li> </ul> </li> </ul> <p>8～9 栄養分や酸素を運ぶ仕組みについて理解する。</p> <p>★血液の働きについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>血液の働きについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>酸素を運ぶ。</li> <li>栄養分を運ぶ。</li> </ul> </li> <li>心臓や血管のつくりについて知る。</li> <li>血液の循環や成分についてまとめる。</li> </ul> <p>10 不要な物質を排出する仕組みについて理解する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの器官系を構成する器官と働きを整理し、次時からの学習につなげさせる。</li> <li>【評】ヒトの器官系についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>教科書「疑問から探究してみよう」のページは、解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動を重視する。</li> <li>【評】デンプンは、唾液の働きによって、何に変わるかを予想する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>教科書P.123を参照させながらベネジクト液の性質を押さえ、デンプンがブドウ糖などに分解されたとすると、どのような結果になるのかを予想させておく。</li> <li>対照実験について押さえる。</li> <li>【評】唾液の働きを調べる実験の計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>唾液の働きを明らかにするためには、どの結果を比較するとよいか押さえる。</li> <li>【評】唾液の働きを調べる実験をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>唾液の中にはアミラーゼという消化酵素があることを押さえる。</li> <li>教科書P.127の図7を参照させながら指導するとよい。</li> <li>柔毛について押さえる。</li> <li>【評】養分を取り入れる仕組みについてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】ヒトにとってなぜ呼吸が必要なのか話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>肺胞の表面積が非常に大きくなっていることを押さえる。</li> <li>教科書P.131の「やってみよう」を参照させながら指導する。</li> <li>教師による演示実験を生徒に観察させるとよい。</li> <li>【評】血液の働きについて話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>動脈・静脈と、動脈血・静脈血の違いについて押さえる。</li> <li>【評】血液の循環や成分についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
| <p>★不要な物質を排出する仕組みについてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○細胞でできる体にとって不要な物質について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンモニア ・二酸化炭素</li> </ul> </li> <li>○アンモニアを排出する仕組みについてまとめる。</li> <li>○いろいろな物質がたどる経路について考える。</li> </ul> <p>11～12 ヒト以外の動物の体のつくりについて理解する。</p> <p>★魚やイカの体の器官を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ヒトと魚、ヒトとイカの共通点について話し合う。</li> </ul> <p>○魚の器官を調べる。</p> <p>○イカの器官を調べる。</p> <p>○ヒトと魚、ヒトとイカの器官の共通点について考える。</p> <p>13 情報を受け取る仕組みについて理解する。</p> <p>★刺激を受け取る器官についてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○感覚器官についてまとめる。</li> </ul> <p>14 刺激を受けてから反応するまでの経路について理解する</p> <p>★刺激を受けてから反応するまでの経路についてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○意識して起こる反応についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚器官→感覚神経→脊髄→脳→脊髄→運動神経→筋肉</li> </ul> </li> <li>○反射についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚器官→感覚神経→脊髄→運動神経→筋肉</li> </ul> </li> </ul> <p>15～16 行動の仕組みについて理解する。</p> <p>★ヒトはどのようにして体を動かしているのかを調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○骨格と筋肉の働きについて調べる。</li> <li>○刺激を受け取ってから反応するまでの時間を調べる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.136の「考えよう」に取り組みさせる</li> </ul> <p>【評】 いろいろな物質がたどる経路について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 ヒトと魚、ヒトとイカの共通点について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・器官を見つけることが難しい場合は、教科書P.138の図を参照させながら確認させる。</li> </ul> <p>【評】 ヒトと魚、ヒトとイカの器官の共通点について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目については豚の目を解剖する方法もある。</li> <li>・刺激が脳に送られると感覚が生じることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】 感覚器官についてまとめる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.143の「やってみよう」に取り組ませてもよい。</li> </ul> <p>【評】 意識して起こる反応や反射についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.147の「やってみよう」を参照させながら指導するとよい。</li> </ul> <p>【評】 刺激を受け取ってから反応するまでの時間を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】

ここでは、動物の消化、呼吸及び血液循環や外界の刺激に対する反応についての観察や実験などを通して、動物の体のつくりの共通性と多様性に気付かせるとともに、動物の体のつくりと働きを関連付けて理解させることが主なねらいである。

生命を維持する働きについては、動物の消化と吸収、呼吸、血液循環などの働きを、物質交換と関連付けて理解させることがねらいである。

刺激と反応については、動物が、外界の刺激に反応していることに気付かせるとともに、これらに関係するいろいろな感覚器官や神経系、運動器官のつくりと働きを関連付けて理解させることがねらいである。

<参考URL>

10min.ボックス 理科2分野 消化と吸収 <http://www.nhk.or.jp/school/>

10min.ボックス 理科2分野 心臓のつくりと血液 <http://www.nhk.or.jp/school/>

10min.ボックス 理科2分野 動物の反応 <http://www.nhk.or.jp/school/>



## 単元名 気象の観測(2分野 単元3－1章)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素、気象観測についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 気象観測について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現することができる。
- (3) 気象とその変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240202\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 気象要素について理解する。</p> <p>★気象要素についてまとめよう。</p> <p>○気象要素について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気温 ・湿度</li> <li>・風向 ・風速</li> <li>・気圧 ・雲量</li> </ul> <p>○気温や湿度と関係のある現象を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金属の伸び縮み</li> <li>・空気の乾燥</li> </ul> <p>○気圧について知る。</p> <p>○風向や風速を知る方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹き流しで調べる。</li> <li>・草木のなびき方で調べる。</li> </ul> <p>○風向や風速を調べる。</p> <p>○気象要素についてまとめる。</p> <p>2 圧力について理解する。</p> <p>★力のはたらく面積を変えて、スポンジのへこみ具合を調べよう。</p> <p>○力のはたらく面積を変えて、スポンジのへこみ具合を調べる。</p> <p>○へこみ具合が変化する理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力が働く面積が変わったから。</li> </ul> <p>○圧力についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・触れている面積が小さいほど、圧力は大きくなる。</li> </ul> <p>3 圧力の求め方や働く向きを理解する。</p> <p>★圧力の大きさを求めよう。</p> <p>○圧力の大きさの求め方を知る。</p> <p>○圧力の大きさを求める。</p> <p>○気体の圧力が働く向きを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる方向に同じように働く。</li> </ul> <p>4 大気圧について理解する。</p> <p>★大気圧について調べよう。</p> <p>○大気圧について知る。</p> <p>○空気の重さを調べる。</p> <p>○地表での大気圧の大きさを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1013hPa ・1気圧</li> </ul> <p>○吸盤を使って、大気圧の大きさを実感する。</p> <p>5 気象観測の計画の立て方を理解する。</p> <p>★気象観測の計画の立て方を考えよう。</p> <p>○どのような気象の変化を調べるのか知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の気象の変化 ・2～3日の気象の変化</li> <li>・急激な気象の変化 ・特徴的な気象の変化</li> <li>・四季の気象の変化</li> </ul> <p>○それぞれの気象の変化について、どのような気象要素をどれくらいの頻度で観測したらよいか話し合う。</p> <p>6～7 気象観測の方法を理解する。</p> | <p>・気象情報それぞれを気象要素ということを押さえる。</p> <p>・気圧の単位には、ヘクトパスカル (hPa) がよく使われることを押さえる。</p> <p>【評】気象要素と関係のある現象や、気象要素を知る方法を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書P.160の「やってみよう」を参照させながら指導してもよい。</p> <p>・教科書P.162の「やってみよう」を参照させながら指導するとよい。</p> <p>【評】へこみ具合が変化する理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・自分の言葉で圧力について説明させるとよい</p> <p>・圧力の単位には、パスカル (Pa) がよく使われることを押さえる。</p> <p>【評】圧力の大きさを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書P.163の「やってみよう」を参照させながら指導するとよい。</p> <p>・気象要素の気圧を、大気圧と呼ぶことを押さえる。</p> <p>・教科書P.164の「やってみよう」を参照させながら指導するとよい。</p> <p>・0.01gまで測れる電子天秤を使うとよい。</p> <p>【評】空気の重さを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書P.165の「計算しよう」を参照させながら、1013hPaとはどれくらいの力なのかを求めさせるとよい。</p> <p>・教科書P.165の「活用しよう」を参照させながら指導するとよい。</p> <p>・教科書P.166を参照させながら指導するとよい。</p> <p>【評】気象観測の計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

- ★気象要素を観測しよう。  
○気象観測の記録の仕方やグラフの作成方法を知る。

- 学校内の気象観測をする。  
・雲量 ・天気 ・気温 ・湿球温度 ・湿度  
・風向 ・風速 ・気圧

- ・教科書P. 168の「気象観測のデータを活用するために」を参照させながら指導するとよい
  - ・教科書P. 170の基礎技能を参照させながら指導するとよい。
  - ・同じ場所で、決まった時刻に3～4回、何日か続けて観測し、記録用紙に記録させる。
- 【評】学校内の気象観測をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

ここでは、主な気象要素である気温、湿度、気圧、風向、風速について理解させ、観測器具の基本的な扱い方や観測方法と、観測から得られた気象データの記録の仕方を身に付けさせることが主なねらいである。

気象要素については、気象観測を行うため、主な気象要素である気温、湿度、気圧、風向、風速についての表し方を理解させ、これらの気象要素の中から「気圧」を取り上げ、圧力は力の大きさと面積に関係があることを見いだして理解させることがねらいである。

気象観測については、継続的な気象観測を通して、様々な気象現象の中に規則性があることを見いだして理解させるとともに、観測方法や記録の仕方を身に付けさせることがねらいである。

## 単元名 空気中の水の変化(2分野 単元3－2章)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、霧や雲の発生についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 天気の変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 天気の変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240203\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1～2 空気中の水蒸気が結露する温度を調べる。</p> <p>○ どうして結露が見られるのかについて考える。</p> <p>★ 空気中の水蒸気が結露する温度を調べよう。</p> <p>○ 実験の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コップの温度を下げて調べる。</li> <li>・ コップの水に、少しずつ氷を加えていく。</li> <li>・ 温度計を使って結露する温度を測定する。</li> </ul> <p>○ 空気中の水蒸気が結露する温度を調べる。</p> <p>○ 露点について知る。</p> <p>○ 空気中の水蒸気が結露する温度についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空気中の水蒸気は、冷やされると、露点で結露し、液体の水となって現れる。</li> <li>・ 露点の温度は、空気によって異なる。</li> </ul> <p>3 水滴ができる仕組みについて理解する。</p> <p>★ 水滴ができる仕組みについてまとめよう。</p> <p>○ 水蒸気量について知る。</p> <p>○ 飽和水蒸気量について知る。</p> <p>○ 凝結について知る。</p> <p>○ 水滴ができる仕組みをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水蒸気が不飽和の空気の温度を下げていくと、露点に達し、水蒸気が凝結して水滴ができる。</li> </ul> <p>○ 湿度について知る。</p> <p>4 霧が発生する仕組みについて理解する。</p> <p>○ どのようなときに霧が見られるのかについて話し合う。</p> <p>★ 霧が発生する仕組みについて考えよう。</p> <p>○ 霧をつくる実験をする。</p> <p>○ 霧が発生する仕組みについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝の早い時間に見られる霧の発生する仕組み。</li> <li>・ 海や川の表面に見られる霧の発生する仕組み。</li> </ul> <p>5～6 雲が発生する仕組みについて理解する。</p> <p>○ 雲の発生している場所や、雲の発達する様子から空気の動きについて考える。</p> <p>★ 雲が発生する仕組みについて考えよう。</p> <p>○ 上空の気圧と気温について知る。</p> | <p>・ 教科書「疑問から探究してみよう」のページは、解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動を重視する。</p> <p>・ 窓ガラスやコップについた水滴から結露が温度と関わっていることを捉えさせ、結露と気象要素を関係付けて考えさせる。</p> <p>・ コップの水をどのようにすると温度調整が可能かについて考えさせるとよい。</p> <p>【評】 実験の計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 細かく砕いた氷を事前に用意しておく。</p> <p>・ 別の日にも同じ実験をさせる。</p> <p>【評】 空気中の水蒸気が結露する温度を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 教科書P. 176の表 2 を参照させながら指導するとよい。</p> <p>・ 1 立方メートルの空間に含むことができる水蒸気量は温度によって決まっていることを押さえる。</p> <p>・ 飽和水蒸気量は、温度が高いほど大きく、低いほど小さいことを押さえる。</p> <p>・ 教科書P. 177の図 3 を参照させながら指導するとよい。</p> <p>・ 水蒸気、露点、凝結という言葉を用いてまとめさせるとよい。</p> <p>【評】 水滴ができる仕組みをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 露点に達した空気の湿度が100%であることを押さえる。</p> <p>・ 教科書P. 179の「チャレンジ」を参照させながら指導するとよい。</p> <p>・ 教師による演示実験を生徒に観察させるとよい。</p> <p>・ 教科書P. 179の「ハローサイエンス」を参照させながら指導するとよい。</p> <p>【評】 霧が発生する仕組みについてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 教科書P. 180の図 6, 7 を参照させながら指導するとよい。</p> <p>・ 教科書P. 181の図 9 を参照させながら指導するとよい。</p> <p>・ 上昇した空気は周りの気圧が低くなるので膨張し、それに伴って気温が下がることを押さ</p> |

|   |  |
|---|--|
| <p>○雲のでき方を調べる。</p> <p>○雲が発生する仕組みについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雲は、空気が上昇する場所でできる。</li> <li>・空気が上昇すると、気圧が小さくなって膨張し、空気の温度が下がる。</li> <li>・空気が露点に達すると、水蒸気が凝結して液体の水になり、雲ができる。</li> </ul> <p>7 雨や雪のでき方について理解する。</p> <p>★雨や雪のでき方についてまとめよう。</p> <p>○雨や雪のでき方についてまとめる。</p> <p>8 地表を循環する水について理解する。</p> <p>★地表を循環する水についてまとめよう。</p> <p>○身の回りには、どのような水があるかについて考える。</p> <p>○地表を循環する水についてまとめる。</p> | <p>える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フラスコ内をぬるま湯でぬらし、飽和状態にしておく。</li> <li>・注射筒は大きめのものを使うとよい。</li> <li>・教科書P. 184の図10を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・空気の動き、気圧や温度の変化、空気の膨張を関連付けながらまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】雲が発生する仕組みについてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 185の図12を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・雨や雪のでき方を説明できるようにさせるとよい。</li> </ul> <p>【評】雨や雪のでき方についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】身の回りには、どのような水があるかについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 187の図14を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・地表に存在する水は、ほとんどが海水であることを押さえる。</li> </ul> |
|---|--|

# 【 備 考 】

ここでは、霧や雲の発生についての観察、実験を行い、大気中の水蒸気が凝結する現象を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けて理解させることがねらいである。例えば、窓や鏡、コップがくもるなど大気中の水蒸気が水滴に変化する現象から露点の測定を行う。

霧については、気温が下がると飽和水蒸気量が小さくなるため湿度が上がるという規則性を理解させ、気温の低下に伴って大気中の水蒸気が凝結して霧が発生することを理解させる。

雲の成因については、高度による大気圧の変化と、大気の上昇に伴う気温の低下を取り上げる。例えば、密閉された袋が高度変化に伴う気圧の低下によって膨らむ現象などを取り上げることが考えられる。

## 単元名 低気圧と天気の変化(2分野 単元3－3章)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、前線の通過と天気の変化についての基本的な概念や原理・原則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 天気の変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 天気の変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240204\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 気圧の変化と天気の関係について理解する。</p> <p>★気圧の変化と天気の関係について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 7日間の気象要素の観察記録のグラフの見方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・気温 ・気圧 ・天気 ・風速 ・風向</li> </ul> </li> <li>○ グラフの情報から、晴れのときと雨のときとでは、気圧はどちらの方が高いと言えるのかについて話し合う。</li> <li>○ グラフの情報から、気温、気圧、天気などが急に変化しているところについて話し合う。</li> </ul> <p>2 天気図から天気の変化を読み取ることができることに理解する。</p> <p>★天気図から天気の変化について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 天気図、等圧線、高気圧、低気圧、気圧配置について知る。</li> <li>○ 高気圧と低気圧についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低気圧の周辺では、雲が多く発生し、天気は曇りや雨になることが多い。</li> <li>・ 低気圧の中心付近では、上昇気流ができる。</li> <li>・ 高気圧の周辺では、雲ができにくく、晴れになることが多い。</li> <li>・ 高気圧の中心付近では、下降気流ができる。</li> <li>・ 風は、天気図上の高気圧から低気圧に向かって吹く。</li> </ul> </li> <li>○ 天気図から天気がどのように変化したのかについて考える。</li> </ul> <p>3 前線付近の暖気と寒気の動きと天気の変化の関係について理解する。</p> <p>★前線と天気の変化についてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前線面と前線について知る。</li> <li>○ 前線面と前線を再現する実験を行う。</li> <li>○ 前線の種類と天気の変化についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温暖前線と天気の変化</li> <li>・ 寒冷前線と天気の変化</li> <li>・ 停滞前線と天気の変化</li> </ul> </li> </ul> <p>4 前線が通過した時の気象要素の変化について調べる。</p> <p>★前線が通過した時の気象要素の変化を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前線が通過した時の気象要素の変化を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気温 ・湿度 ・風向 ・天気</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書P. 188の図 1 を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・ 晴れのときの方が気圧が高くなっていることを押さえる。</li> <li>・ 雨が降り始めたときに気圧が急に下がっていることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】 グラフの情報から分かることを話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書P. 190の図 3 と図 4 を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・ 天気図の等圧線が狭いほど強い風が吹くことを押さえる。</li> <li>・ 教科書P. 192の図 8 を参照させながら指導するとよい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2～3日連続した天気図と雲画像を用意しておくとうい。</li> <li>・ 教科書P. 191の図 5 を参照させながら指導してもよい。</li> </ul> <p>【評】 天気図から天気がどのように変化したのかについて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書P. 193の図 9 を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・ 前線付近では、上昇気流が生じて雲ができやすいことを押さえる。</li> <li>・ 教師による演示実験を生徒に観察させるとよい。</li> <li>・ 教科書P. 194～P. 195を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・ 教科書P. 197の十種雲形を参照させてもよい。</li> </ul> <p>【評】 前線の種類と天気の変化についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書P. 196を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・ 気圧については顕著な変化が見られない場合が多いことを押さえる。</li> </ul> <p>【評】 前線が通過した時の気象要素の変化を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

【 備 考 】

ここでは、前線の通過によって起こる気温、湿度、気圧、風向、天気の変化などを、暖気や寒気と関連付けて理解させることが主なねらいである。気象観測などのデータや天気図から、前線付近の暖気と寒気の動きに気付かせ、前線の通過に伴う天気の変化について理解させる。その際、高気圧、低気圧のまわりの風の吹き方に触れる。

前線の構造については、前線が通過する際の気温、湿度、気圧、風向、風速、天気の変化、雲の種類の観測結果や実際の経験と関連付けて理解させる。例えば、寒冷前線が通過する際の特徴として、短時間の比較的強い降雨、雷、通過後の気温の低下、風向の変化などの現象が観測できることから、寒冷前線に伴う暖気、寒気の入れ替わりを考察させることなどが考えられる。その際、暖気、寒気のぶつかり合いを表すモデル実験などの方法を工夫して前線の構造についての理解を深めることが考えられる。

<参考URL>

10min. ボックス 理科2分野 天気の変化 <http://www.nhk.or.jp/school/>

## 単元名 日本の気象(2分野 単元3-4章)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、日本の天気の特徴、大気の動きと海洋の影響についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するためのに必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 日本の気象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、日本の気象についての規則性や関係性を見だして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 日本の気象に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240205\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 地球規模の大気について理解する。</p> <p>○ 低気圧や高気圧が、西から東へ移動する理由を考える。</p> <p>★地球の大気について調べよう。</p> <p>○ 上空の風の流れや雲の動きを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中緯度地域（日本付近）では、西から東へ風が流れている。</li> <li>・ 中緯度地域と低緯度地域では風の流れと雲の動きが違う。</li> </ul> <p>○ 地球規模の大気の流れをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中緯度地域（日本付近）では、西寄りの風（偏西風）が吹いている。</li> <li>・ 低緯度地域では、東寄りの風（貿易風）が吹いている。</li> </ul> <p>○ 日本の気象に影響する気団を知る。</p> <p>2 日本付近で生じる大規模な風について理解する。</p> <p>★季節風が発生する仕組みをまとめよう。</p> <p>○ 季節風について知る。</p> <p>○ 季節風が発生する仕組みをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気圧の高い場所から、気圧の低い場所に向かって風が吹く。</li> </ul> <p>○ 陸地と海の温まりやすさを比べる実験をする。</p> <p>3 日本付近で生じる小規模な風について理解する。</p> <p>★海風や陸風が発生する仕組みを考えよう。</p> <p>○ 海風や陸風について知る。</p> <p>○ 海風や陸風が吹く理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昼は、陸の方が温まって陸上の気圧が低くなり、海から陸へと風が吹く（海風）。</li> <li>・ 夜は、陸の方が冷めて陸上の気圧が高くなり、陸から海へ風が吹く（陸風）。</li> </ul> <p>4～5 四季の天気の特徴を理解する。</p> <p>★四季の天気の特徴を調べよう。</p> <p>○ 四季の天気の特徴を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春の天気と秋の天気</li> <li>・ 梅雨や秋雨の天気</li> <li>・ 夏の天気</li> <li>・ 台風</li> <li>・ 冬の天気</li> </ul> <p>○ 調べた四季の特徴をまとめる。</p> <p>6 天気の変化を予測する。</p> <p>○ 天気予報の気象情報が提供される仕組みを知る。</p> <p>★天気を予測しよう。</p> <p>○ これからの天気の変化を予測する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天気 ・ 気温 ・ 湿度 ・ 風向 ・ 風速</li> </ul> <p>○ 天気の変化を確かめる。</p> | <p>・ 上空ではどのような風が吹いているのかに注目させる。</p> <p>・ 気象庁のウェブサイト内の「高層天気図」や「気象衛星画像」などを使って調べさせるとよい。</p> <p>【評】 上空の風の流れや雲の動きを調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 教科書P. 201を参照させながら、地球規模の大気の流れが生じる理由を紹介する。</p> <p>・ 気団それぞれの発生する場所、季節、性質を押さえる。</p> <p>・ 教科書P. 203を参照させながら指導するとよい。</p> <p>【評】 季節風が発生する仕組みをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 教科書P. 203の「やってみよう」を参照させながら指導するとよい。</p> <p>・ 前時で学習した季節風が吹く仕組みを想起させながら考えさせるとよい。</p> <p>【評】 海風や陸風が吹く理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 教科書P. 204～P. 209を参照させながら調べさせるとよい。</p> <p>・ 夏は、小笠原気団が発達し、南高北低の気圧配置になりやすいことを押さえる。</p> <p>・ 冬は、シベリア気団が発達し、西高東低の気圧配置になりやすいことを押さえる。</p> <p>【評】 四季の特徴をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 気象衛星、気象レーダー、アメダスなどからの情報が気象庁に集約されて、気象情報として提供されていることを押さえる。</p> <p>・ 教科書P. 211の「やってみよう」を参照させながら指導するとよい。</p> <p>【評】 これからの天気の変化を予測する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

ここでは、天気図や気象衛星画像などを資料として、日本の天気の特徴を気団と関連付けて理解させるとともに、日本の気象を日本付近の大気の動きや海洋の影響に関連付けて理解させることが主なねらいである。

日本の天気の特徴については、気団が発達したり衰退したりすることで、季節に特徴的な気圧配置が形成され、日本の天気に特徴が生じることを、天気図や気象衛星画像、気象データを比較することで理解させる。

日本付近の大気の動きについては、1週間程度の天気図や気象衛星画像の変化、上空の風向などの観測データ

を用いて捉えさせる。

日本の気象への海洋の影響については，日本の天気に影響を与える気団の性質や季節風の発生，日本海側の多雪などの特徴的な気象に，海洋が関わっていることを理解させる。

<参考URL>

10min. ボックス 理科2分野 日本の気象 <http://www.nhk.or.jp/school/>

気象庁 <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>



## 単元名 大気の躍動と恵み(2分野 単元3－5章)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、自然の恵みと気象災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 自然の恵みと気象災害について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象との関係性を見いだして表現するなど科学的に探究することができる。
- (3) 自然の恵みと気象災害に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240206\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1～2 気象災害とその対策について理解する。</p> <p>★気象災害について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○気象現象によって起きる現象や災害について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨によって起きる洪水や土砂崩れ</li> <li>・大雪によって起きる雪崩や路面凍結</li> <li>・台風によって起きる暴風や高波</li> </ul> </li> <li>○様々な気象災害とその対策について調べる。</li> </ul> <p>○調べた結果を発表する。</p> <p>3 気象現象によって、水や風の恩恵がもたらされていることを理解する。</p> <p>★気象現象による恵みについて調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○気象現象による恵みについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水田 ・湧水 ・風力発電 ・流水</li> </ul> </li> <li>○様々な気象現象による恵みについて調べる。</li> </ul> <p>○調べた結果を発表する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.213の図1を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・雨、雪、風に関して考えさせるとよい。</li> <li>【評】気象現象によって起きる現象や災害について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・インターネットで国土交通省や自治体で発行しているハザードマップを参照してもよい。</li> <li>・教科書P.214～P.216の「やってみよう」を参照させながら指導するとよい。</li> <li>【評】様々な気象災害とその対策について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.217の図4を参照させながら指導するとよい。</li> <li>【評】気象現象による恵みについて話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・身近なところで、水や風などによる恩恵がないかを探すようにさせる。</li> <li>・環境省、農林水産省、国土交通省などのウェブサイト調べさせるとよい。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

ここでは、気象現象は、住みよい環境や水資源などの恩恵をもたらしていることを調べさせ、自然が人々の豊かな生活に寄与していることに気付かせる。また、資料などを基に、台風や前線などによる大雨・大雪や強風による気象災害について調べさせ、天気の変化や日本の気象と関連付けて理解させる。

&lt;参考URL&gt;

国土交通省 <https://www.mlit.go.jp/>10min. ボックス 理科2分野 自然の恵みと災害 <http://www.nhk.or.jp/school/>

## 単元名 電流と電圧(1分野 単元4－1章)

配当時間 18時間

- 単元の目標 (1) 電流に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗、電気とそのエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 電流に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流のはたらきの規則性や関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 電流に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240301\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 回路に流れる電流について理解する。</p> <p>★電池に豆電球や発光ダイオード(LED)をつないで点灯させよう。</p> <p>○回路と電流について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気の流れを電流という。</li> <li>・電流の流れる道筋を回路(電気回路)という。</li> </ul> <p>○電池に豆電球をつないで点灯させる実験をする。</p> <p>○発光ダイオード(LED)をつないで点灯させる実験をする。</p> <p>○電流は、電池の＋極から－極に向かって流れていると決めていることを知る。</p> <p>2 乾電池のつなぎ方と、電源電圧の大きさの見いだす。</p> <p>○電源と電源電圧(電圧)について知る。</p> <p>★乾電池のつなぎ方と電源電圧の大きさの関係を調べよう</p> <p>○電圧計の使い方を知る。</p> <p>○乾電池のつなぎ方と電源電圧の大きさの関係を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乾電池を直列つなぎにすると、乾電池の数を増やすにつれて、電源電圧の大きさが増す。</li> <li>・乾電池を並列つなぎにすると、乾電池を増やしても、電源電圧の大きさは変化しない。</li> </ul> <p>3 電気用図記号と回路図について理解する。</p> <p>★回路図を描こう。</p> <p>○電気用図記号を知る。</p> <p>○回路図のかき方を知る。</p> <p>○回路図をかく。</p> <p>4～5 回路の各部分を流れる電流の大きさを理解する。</p> <p>★回路の各部分を流れる電流の大きさを調べよう。</p> <p>○電流の大きさと単位を知る。</p> <p>○回路の各部分を流れる電流の大きさを予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電流は豆電球で使われる。</li> <li>・電流の大きさはどこでも同じ。</li> </ul> <p>○実験の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に回路をつくる。</li> <li>・電流計を使って各点の電流の大きさを調べる。</li> </ul> <p>○電流計の使い方を知る。</p> <p>○回路の各部分を流れる電流の大きさを調べる。</p> <p>○回路の各部分を流れる電流の大きさをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一本道の回路では、回路の各部分の電流の値はどれも等しい。</li> </ul> | <p>・小学校での学習を想起させる。</p> <p>・豆電球の内部は金属線でつながっていることを知らせる。</p> <p>・豆電球が点灯しないつなぎ方の中には、電池や導線が非常に熱くなるものがあるので注意させる。</p> <p>・点灯し続けると、発光ダイオードが熱くなることがあるので、点灯するかどうかを確かめたら、すぐに電池を外させる。</p> <p>・発光ダイオード(LED)は長い端子を電池の＋極側につなぎ、短い端子を電池の－極側につないだときだけ点灯することを押さえる。</p> <p>【評】発光ダイオード(LED)をつないで点灯させる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書P.232の基礎技能を参照させながら指導するとよい。</p> <p>・ショート回路にならないように注意させる。</p> <p>【評】乾電池のつなぎ方と電源電圧の大きさの関係を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・回路を図で表すときは、電気用図記号を使うことを説明する。</p> <p>・教科書P.235の基礎技能を参照させながら指導するとよい。</p> <p>・導線は直線でかき、曲げるときは直角に曲げることを押さえる。</p> <p>【評】回路図をかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・乾電池や豆電球から出ていく電流の大きさや乾電池や豆電球に流れ込む電流の大きさを話し合わせる。</p> <p>【評】回路の各部分を流れる電流の大きさを調べる実験の計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P.238の基礎技能を参照させながら指導する。</p> <p>【評】回路の各部分を流れる電流の大きさを調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

6～7 回路の各部分の電圧の大きさを理解する。

★回路の各部分の電圧の大きさを調べよう。

- 電圧の大きさと単位を知る。
- 回路の各部分の電圧の大きさを予想する。
  - ・電圧は豆電球で使われる。
  - ・電圧の大きさはどこでも同じ。
- 実験の計画を立てる。
  - ・実際に回路をつくる。
  - ・電圧計を使って各部分の電圧の大きさを調べる。
- 回路の各部分の電圧の大きさを調べる。

- 回路の各部分の電圧の大きさをまとめる。
  - ・乾電池で豆電球を点灯するとき、電源電圧と豆電球の両端の電圧は等しい。

8～10 電熱線に加わる電圧と流れる電流の大きさとの間にある関係性を見いだす。

★電熱線に加わる電圧と流れる電流の大きさとの間にある関係を調べよう。

- 電熱線に加わる電圧と流れる電流の大きさを予想する。
  - ・電圧が大きくなるほど電流の大きさも大きくなる。

- 実験の計画を立てる。
  - ・電源の電圧を変えて電流の大きさを測定する。
  - ・電流計や電圧計を使い電流や電圧の大きさを調べる。
- 電源装置の使い方を知る。

- 電熱線に加わる電圧と流れる電流の大きさを調べる。

- 実験の結果から、電熱線に加わる電圧と流れる電流の大きさとの間にある関係を考える。
  - ・抵抗に流れる電流の大きさは、抵抗に加わる電圧に比例する。（オームの法則）

11 抵抗について理解する。

★抵抗の大きさを求めよう。

- 電流の流れにくさの程度を抵抗（電気抵抗）ということや、抵抗の単位を知る。

- 抵抗の大きさの求める。

- 導体、不導体（絶縁体）、半導体を知る。

12 直列回路の電流と電圧の大きさを理解する。

- 直列回路と並列回路を知る。

★直列回路の電流と電圧の大きさを調べよう。

- 直列回路の電流と電圧の大きさを予想する。
  - ・電流の大きさは、すべて同じ。
  - ・電圧の大きさは、抵抗の大きさによって変わる。
- 直列回路の電流と電圧の大きさを調べる。

- 直列回路の電流と電圧の大きさをまとめる。
  - ・直列回路では、回路のどの部分でも同じ大きさの電流が流れる。
  - ・直列回路では、各部分の電圧の和が、全体の電圧と等しい。

13 並列回路の電流と電圧の大きさを理解する。

★並列回路の電流と電圧の大きさを調べよう。

- 並列回路の電流と電圧の大きさを予想する。
  - ・電流の大きさは、各点で違う。
  - ・電圧の大きさは、同じ。
- 並列回路の電流と電圧の大きさを調べる。

【評】回路の各部分の電圧の大きさを予想する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教科書P. 240の図11のように回路図を用いてどの部分の電圧の大きさを調べるかを話し合わせるとうい。

【評】回路の各部分の電圧の大きさを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・教科書「疑問から探究してみよう」のページは、解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動を重視する。

【評】電熱線に加わる電圧と流れる電流の大きさを予想する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・電源装置を使うと、電圧の大きさを自由に變えることができることを伝える。

・教科書P. 245の基礎技能を参照させながら指導するとよい。

・電熱線が熱くなるので、やけどをしないように注意させる。

・実験の結果を表やグラフにまとめさせる。

【評】電熱線に加わる電圧と流れる電流の大きさを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・抵抗に流れる電流の大きさは、抵抗に加わる電圧に比例するという関係をオームの法則ということを説明する。

【評】実験の結果から、電熱線に加わる電圧と流れる電流の大きさとの間にある関係を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・2つの電熱線の電流の流れにくさは、抵抗の大きさで比べることを押さえる

・教科書P. 249の図15、教科書P. 249の「計算しよう」を参照させながら指導するとよい。

【評】抵抗の大きさを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・抵抗の値は、物質の種類によって異なることを押さえる。

・教科書P. 253の図19を見せながら考えさせるとよい。

・測定した値には誤差が含まれている可能性があるので、わずかな違いであれば、同じ値と判断してよいことを伝える。

【評】直列回路の電流・電圧の大きさを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・教科書P. 254の図20を見せながら説明するとよい。

・教科書P. 255の図21を見せながら考えさせるとよい。

・測定した値には誤差が含まれている可能性があるので、わずかな違いであれば、同じ値と

- 並列回路の電流と電圧の大きさをまとめる。
  - ・ 並列回路では、枝分かれした後の部分を流れる電流の大きさの和が、枝分かれする前や合流したあとの部分を流れる電流の大きさに等しくなっている。
  - ・ 各抵抗の両端に加わる電圧は同じ大きさで、電源電圧の大きさと等しくなっている。
- 14 回路全体の抵抗について理解する。
  - ★ 回路全体の抵抗について求めよう。
  - 抵抗を直列または並列につないだときの回路全体の抵抗はどうなるかを話し合う。
  - 抵抗を直列につなぐと、回路全体の抵抗はそれぞれの抵抗の和になることを知る。
  - 抵抗を並列につなぐと、回路全体の抵抗はそれぞれの抵抗よりも小さくなることを知る。
  - 回路全体の抵抗を求める。

15～17 電力と熱量の関係を見いだす。

- ★ 電力と熱量の関係について考えよう。
- 電気製品に表示されている「W」の表示を探す。

- 1 V の電圧を加えて 1 A の電流が流れたときの電力が 1 W であることを知る。
- 移動した熱の量を熱量ということを知る。
- 電熱線から発生する熱量は、電流を流した時間や電力とどのような関係があるのか予想する。
  - ・ 電流を流す時間が長いほど発生する熱量は多くなる。
  - ・ 電力が大きいほど、発生する熱量は多くなる。
- 実験の計画を立てる。
  - ・ 電力を変えて実験する。
  - ・ 水の上昇温度を調べる。
  - ・ 電流を流した時間を調べる。
- 電熱線から発生する熱量は、電流を流した時間や電力とどのような関係があるのか調べる。
- 実験の結果から、電熱線から発生する熱量は、電流を流した時間や電力とどのような関係があるのかを考える。
  - ・ 電熱線から発生する熱量は、電流を流した時間、電熱線の電力の両方に比例する。
- 1 W の電力で 1 秒間電流を流したときの熱量が 1 J であることを知る。

18 電力量について理解する。

- ★ 電力量を求めよう。
- 電力と電力量についてまとめる。
  - ・ 電力は、単位時間あたりに消費される電気エネルギーを表す。
  - ・ 電力量は、消費された電気エネルギーを表す。
  - ・ 電力量は、電力と時間の積である。
- 電力量の単位を知る。

- 電力量を求める。

判断してよいことを伝える。  
 ・ 教科書 P. 256 の図 22 を見せながら説明するとよい。

【評】 並列回路の電流・電圧の大きさをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する

- ・ 教科書 P. 257 の図 23 を参照させながら指導するとよい。
- ・ 教科書 P. 257 の図 24 を参照させながら指導するとよい。
- ・ 教科書 P. 258 を参照させながら指導するとよい。

【評】 回路全体の抵抗を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 教科書「疑問から探究してみよう」のページは、解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動を重視する

- ・ 事前に家庭で調べさせておくとうい。
- 【評】 電気製品に表示されている「W」の表示を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・ 教科書 P. 260, 261 を参照させながら指導するとよい。

- ・ 使用する時間や電力の大小で、発生する熱量にどのような違いがあるか想起させる。

【評】 実験の計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 電熱線がコップや温度計に直接触れないように注意させる。
- ・ 実験の結果を表やグラフにまとめさせる。
- 【評】 実験の結果から、電熱線から発生する熱量は、電流を流した時間や電力とどのような関係があるのかを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 電力量の単位は、熱量と同じく「J」が使われることを押さえる。
- ・ 日常生活では「ワット時」や「キロワット時」が使われることを押さえる。

【評】 電力量を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

## 【 備 考 】

ここでは、回路の作成や電流計、電圧計、電源装置などの操作技能を身に付けさせ、電流に関する実験を行い、その結果を分析して解釈し、回路の電流や電圧の規則性を見いだし理解させることが主なねらいである。また、電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることなどを観察、実験を通して理解させることが主なねらいである。

回路と電流・電圧については、簡単な直列回路や並列回路における電流や電圧に関する規則性を、実験を通して見いださせ、回路の基本的な性質を理解させることがねらいである。

電流・電圧と抵抗については、金属線などに加える電圧と流れる電流を調べ、それらの関係を見いだし、電気抵抗について理解させることがねらいである。

電気とそのエネルギーについては電流から熱や光などを取り出せること及び電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見いださせ日常生活や社会と関連付けて理解させることがねらいである。

## 単元名 電流と磁界(1分野 単元4-2章)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 電流と磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、電流がつくる磁界、磁界中の電流が受ける力、電磁誘導と発電についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 電流と磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 電流や磁界に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240302\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1～2 磁石の周囲に生じている磁力について理解する。</p> <p>★磁石の周囲に生じている磁力について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○磁力と磁極について知る。</li> <li>○棒磁石や電磁石の周囲に生じている磁力を調べる。</li> </ul> <p>○磁界、磁界の向き、磁力線について知る。</p> <p>3～4 まっすぐな導線のつくる磁界の規則性を見いだす。</p> <p>★まっすぐな導線に電流を流すと、どのような磁界ができるのか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○電磁石から鉄心を抜いたときの電磁石のはたらきを調べる。</li> <li>○まっすぐな導線に電流を流すと、どのような磁界ができるのか予想する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・導線一本一本の周囲に磁界ができる。</li> </ul> </li> <li>○実験の計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄粉と磁石を使って、導線の周囲の磁界を調べる。</li> </ul> </li> <li>○まっすぐな導線に電流を流すと、どのような磁界ができるのか調べる。</li> <li>○まっすぐな導線のつくる磁界の規則性をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・まっすぐな導線に電流を流すと、導線を中心とした同心円状の磁力線で表される磁界ができる。</li> <li>・電流の向きを逆にすると、磁界の向きも逆になる。</li> </ul> </li> </ul> <p>5 コイルに電流を流したとき導線がつくる磁界の規則性を理解する。</p> <p>★コイルにした導線に電流を流したときの磁界について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導線を巻いてコイルにし、電流を流すと磁力が強くなるわけを考える。</li> <li>○コイルに電流を流したときの、導線の周りにできる磁界を知る。</li> </ul> <p>6 磁界の中の電流に働く力の向きの規則性を理解する。</p> <p>★磁界の中で導線に電流を流すと、導線にはどのような力のはたらくか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○磁界の中で導線に電流を流すと、導線にはどのような力のはたらくかを予想する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・電流の大きさによって受ける力の大きさが変わる。</li> </ul> </li> <li>○電流が磁界から受ける力を調べる。</li> <li>○磁界の中の電流に働く力の向きをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・磁界の中の電流に働く力の向きは、電流の向きと磁界の向きのそれぞれに対して垂直になっている。</li> <li>・磁界を強くしたり、電流を大きくしたりすると、磁界の中の電流に働く力はより大きくなる。</li> </ul> </li> </ul> <p>7 モーターの仕組みについて理解する。</p> <p>★モーターの仕組みをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○モーターの中身を知る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄粉が目に入らないように注意させる。</li> </ul> <p>【評】棒磁石や電磁石の周囲に生じている磁力を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磁力線を表すときには、N極からS極の向きに矢印を付けることを押さえる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電流を流すと発熱するので、大きい電流を流したり、長時間電流を流したりしないようにさせる。</li> <li>・電磁石に電流を流すと、磁石と同じはたらきをすることから、導線を流れる電流は、周りに磁界をつくることを捉えさせる。</li> </ul> <p>【評】まっすぐな導線に電流を流すと、どのような磁界ができるのか調べる実験の計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発熱するので、大きい電流を流したり、長時間電流を流したりしないようにさせる。</li> </ul> <p>【評】まっすぐな導線に電流を流すと、どのような磁界ができるのか調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.272の図9のねじの例にふれて、電流の向きと磁界の向きとの関係を押さえる。</li> </ul> <p>【評】導線を巻いてコイルにし、電流を流すと磁力が強くなるわけを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.273の図12の右手の例にふれて、電流の向きと磁界の向きとの関係を押さえる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導線がどの方向に動くかを予想させてもよい</li> <li>・手回し発電機は、初めはゆっくりと回転させアルミニウムはくの動きを見て、回転する速さを調節させる。</li> </ul> <p>【評】磁界の中の電流に働く力の向きをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.277の図17を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・モーターには磁石やコイルが使われているこ</li> </ul> |

○ モーターが回転する仕組みをまとめる。

○ クリップを使った簡単なモーターづくりをする。

8～9 磁界の変化により電流が発生することを見いだす。

★ コイルや磁石を使って電流を発生させる方法を考えよう

- コイルや磁石を使って電流を発生させる方法を考える。
  - ・ 磁石をコイルの中で回転させる。
  - ・ 磁石をコイルの近くで動かす。

○ コイルや磁石を使って電流を発生させる実験をする。

○ コイルや磁石を使って電流を発生させる方法についてまとめる。

- ・ 磁石を使って、コイルの中の磁界を変化させたり、導線の周囲の磁界を変化させたりすると、コイルや導線に電流が流れる。

○ 電磁誘導と誘導電流について知る。

○ 発電機の仕組みを知る。

10 直流と交流について理解する。

★ 乾電池の電流とコンセントの電流との違いを調べよう。

- 乾電池の電流とコンセントの電流との違いを話し合う。
- 乾電池の電流とコンセントの電流との違いを調べる。

○ 乾電池の電流とコンセントの電流との違いをまとめる。

- ・ 乾電池の電流は、電流の向きが変わらない。
- ・ コンセントの電流は、電流の向きが交互に変わる。

○ 直流と交流について知る。

とを押さえる。

- ・ 教科書P.277の図18を参照させながら指導するとよい。

【評】モーターが回転する仕組みをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 教科書P.277の「チャレンジ」を参照させながら指導するとよい。

- ・ 手回し発電機の仕組みを生かして考えさせる

【評】コイルや磁石を使って電流を発生させる方法を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 検流計は磁石から離れた位置に置かせる。

【評】コイルや磁石を使って電流を発生させる実験をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ コイルと磁石の両方が静止しているときは、誘導電流は流れないことを押さえる。

- ・ 教科書P.281の図24を参照させながら指導するとよい。

- ・ 電源装置の交流端子につなぐことで、コンセントの電流と同様の電流が得られることを押さえる。

- ・ 発光ダイオード（LED）が熱くなることがあるので、やけどをしないように十分注意させる。

【評】乾電池の電流とコンセントの電流との違いをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 交流の周波数は、東日本では50Hz、西日本では60Hzであることを押さえる。

## 【 備 考 】

ここでは、磁力の働く空間として磁界を取り上げ、磁界と磁力線との関係、電流の磁気作用に関する基本的な概念を観察、実験を通して理解させるとともに、電流が磁界との相互作用で受ける力や電磁誘導の現象などの観察、実験を行い、その結果を分析して解釈し、電流と磁界の関係性や規則性を見いだして理解させることが主なねらいである。

電流がつくる磁界については、小学校での「磁石の性質」や「電流がつくる磁力」の学習と関連させながら磁界を磁力線で表すことを理解させるとともに、電流がつくる磁界について理解させることがねらいである。

磁界中の電流が受ける力については、磁界の中を流れる電流が磁界から力を受けることを、観察、実験を通して見いだして理解させることがねらいである。

電磁誘導と発電については、コイルと磁石の相互運動で誘導電流が得られることを観察、実験を通して見いだして理解させること、及び直流と交流の違いを理解させることがねらいである。

<参考URL>

10min. ボックス 理科1分野 電流と磁界 <http://www.nhk.or.jp/school/>

## 単元名 静電気と電流(1分野 単元4－3章)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 電流に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、静電気と電流についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 電流に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、静電気の規則性や関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 電流と静電気に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

11240303\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1～2 静電気の性質を理解する。</p> <p>★静電気の性質をまとめよう。</p> <p>○静電気と帯電について知る。</p> <p>○静電気による力について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帯電した物体同士の間には、引き合ったり、反発し合ったりする力が働く。</li> </ul> <p>○引き合ったり、反発し合ったりする理由を考える。</p> <p>○静電気が発生する仕組みを知る。</p> <p>○静電気と電流の関係を知る。</p> <p>○静電気の性質をまとめる。</p> <p>3 誘導コイルによる放電や真空放電を理解する。</p> <p>★放電や真空放電についてまとめよう。</p> <p>○放電について知る。</p> <p>○真空放電について知る。</p> <p>○放電や真空放電についてまとめる。</p> <p>4 電流の正体は、電子の流れであることを理解する。</p> <p>★クルックス管や導線を通れる電流の正体を考えよう。</p> <p>○クルックス管を使った真空放電を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金属板が十字形のクルックス管</li> <li>・蛍光板と電極板が入ったクルックス管</li> </ul> <p>○観察結果を基に電流の正体を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電流の正体は、電子の流れである。</li> </ul> <p>○放電管や導線での電子の移動についてまとめる。</p> <p>5 放射線について理解する。</p> <p>★放射線についてまとめよう。</p> <p>○エックス線（X線）について知る。</p> <p>○X線以外の放射線について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファ線（<math>\alpha</math>線）</li> <li>・ベータ線（<math>\beta</math>線）</li> <li>・ガンマ線（<math>\gamma</math>線）</li> </ul> <p>○放射線についてまとめる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・細かく裂いたポリエチレンの荷づくり紐と、ポリ塩化ビニルの管を使って、帯電を観察させるとよい。</li> <li>・引き合ったり、反発し合ったりする力を静電気力ということを押さえる。</li> </ul> <p>【評】静電気による力を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ種類の電気は反発し合い、異なる種類の電気は引き合うことを理解させる。</li> <li>・教科書P. 288の図5を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・一の電気をもつ粒子が移動することで、電気を帯びるようになることを伝える。</li> <li>・教科書P. 289の図6、7を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・静電気によって光る蛍光灯と、乾電池によって光る豆電球における、電子の移動の仕方を捉えさせる。</li> </ul> <p>【評】静電気の性質をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誘導コイルによる放電を観察させ、空気中を電流が流れることに気付かせる。</li> <li>・放電管内の空気の圧力を小さくすると、比較的小さい電圧でも空気中を電流が流れることを知らせる。</li> </ul> <p>【評】放電や真空放電についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による演示実験を、生徒に観察させるとよい。</li> <li>・クルックス管の一極から＋極に向かって、目には見えない何かが飛んでいることに気付かせる。</li> <li>・陰極線は一の電気をもった電子の流れであることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】観察結果を基に電流の正体を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 294の図15、16を参照させながら指導するとよい。</li> <li>・エックス線（X線）には、透過性があることを押さえる。</li> <li>・エックス線（X線）は、レントゲン撮影に利用されていることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】放射線についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

【 備 考 】

ここでは、静電気の性質及び静電気と電流は関係があることを見いださせ、電流が電子の流れに関係していることを理解させることがねらいである。例えば、異なる物質同士をこすり合わせると静電気が起こること、帯電した物体間には空間を隔てて力が働き、その力には引力と斥力の2種類があることを見いだして理解させる。また、静電気によってネオン管などを短時間なら発光させられることなど、電流によって起こる現象と同じ現象が起こる実験を行い、静電気が電流と関係があることを見いだして理解させる。

<参考URL>

10min. ボックス 理科1分野 静電気と電圧・電流 <http://www.nhk.or.jp/school/>



## 単元名 水溶液とイオン(1分野 単元1-1章)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 化学変化をイオンのモデルと関連付けながら、原子の成り立ちとイオンについて基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 水溶液とイオンについて、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。
- (3) 水溶液とイオンに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240101\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 固体のままでは電流が流れないが、水に溶かすと電流が流れるようになる物質があることを知る。</p> <p>★どんな物質を水に溶かすと電流が流れるか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○蒸留水と塩化ナトリウム(固体)には電流が流れないが塩化ナトリウム水溶液には電流が流れる様子を観察する</li> <li>○塩化ナトリウムを砂糖に変えた実験の様子を観察する。</li> </ul> <p>○水に溶かしたとき、電流が流れる物質とはどんなものか予想し、仮説を立てる。</p> <p>○次時に行く実験の計画を立てる。</p> <p>2 水溶液は、溶けている物質によって電流が流れるものと流れないものがあることを実験を通して見いだす。</p> <p>★どのような物質でも水に溶かして水溶液にすると電流が流れるか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の仮説を確認する。</li> <li>○実験の手順を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・うすい塩酸</li> <li>・うすい水酸化ナトリウム水溶液</li> <li>・塩化銅水溶液</li> <li>・エタノール水溶液</li> </ul> </li> <li>○水溶液の電気伝導性を調べる実験をする。</li> </ul> <p>3 水溶液に溶けている物質には、電解質と非電解質があることを理解する。</p> <p>★電流が流れる物質と流れない物質の特徴を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験記録の作成を行う。</li> </ul> <p>○実験記録を基に、電流が流れる水溶液の特徴について話し合う。</p> <p>○電解質と非電解質について知る。</p> <p>4 電解質を溶かした水溶液に、電流を流したときの変化を調べる実験の計画を立てる。</p> <p>★塩化銅水溶液に電流を流したらどうなるか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第2時で行った実験の電極付近での変化を想起する。</li> <li>○塩化銅水溶液に電流を流したときの電極付近の変化の様子を予想し、仮説を立てる。</li> <li>○次時に行く実験の計画を立てる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれでは電流が流れないのに、溶かすと電流が流れるという変化を押さえる。</li> <li>・砂糖ではどうなるか予想させて演示実験を行うとよい。</li> <li>・塩化ナトリウムと砂糖であることを伏せておいてもよい。</li> <li>・物質名、色、におい、固体・液体・気体、化学式など、多面的に考えさせるとよい。</li> </ul> <p>【評】水に溶かしたとき、電流が流れる物質とはどんなものか予想し、仮説を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説を検証するためにはどんな物質を用いるとよいか考えさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で行う実験が何を検証するものなのかを確認させてから実験を行うようにする。</li> <li>・保護眼鏡の着用の徹底など、安全面の配慮を忘れずに行う。</li> <li>・調べる水溶液を替えるときは、電極を蒸留水で洗うように指導する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃液の処理を確実にを行う。</li> </ul> <p>【評】水溶液の電気伝導性を調べる実験を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.10の「私のレポート」を参考にさせてもよい。</li> <li>・結果や考察など書かなければならない項目を示す。</li> <li>・電極付近で起きている変化や物質名、化学式など、多面的に考えさせるとよい。</li> <li>・水溶液の共通点や相違点に注目させる。</li> </ul> <p>【評】実験記録を基に話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験で扱わなかった物質では、どのような結果になるのかを考えさせるとよい。</li> <li>・電解質でも固体の状態では電流が流れないことを押さえる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気体や固体が発生していたことを想起させる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2時の実験から、物質名や化学式から考えると予想できそうなことに気付かせたい。</li> <li>・仮説を検証するためにはどんな実験を行うとよいか考えさせる。</li> </ul> <p>【評】塩化銅水溶液に電流を流したときの電極付近の変化の様子を予想し、仮説を立て、実験計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

5 電解質を溶かした水溶液に、電流を流したときの変化を調べる。

★塩化銅水溶液に電流を流したときの変化を調べよう。

○前時に立てた実験計画を確認する。

○塩化銅水溶液に電流を流したときの変化を調べる。

○実験結果を表にまとめる。

6 実験結果を基に電極付近で起こる化学変化について考える。

★電流を流したとき、塩化銅水溶液の電極付近ではどのような変化が起きているか考えよう。

○実験結果を基に、どんな変化が起きたのか話し合う。

○塩化銅水溶液に電流を流したときの変化についてまとめる。

・陽極には塩素が生じる。

・陰極には銅が生じる。

○物質は決まった極に生じることを見いだす。

○水溶液に電流を流すと決まった電極に物質が生じる理由を話し合う。

7 イオンの成り立ちや仕組みについて理解する。

★原子がどのようにしてイオンになるか考えよう。

○原子の成り立ちを知る。

○原子がどのようにして電気を帯びるか考える。

○原子がイオンになる仕組みをまとめ、イオン式の表し方について知る。

○様々なイオンについて知る。

8 電離をイオン式やイオンのモデルを用いて表す方法を理解する。

★電離をイオン式を使って表そう。

○電解質が水に溶けると、陽イオンと陰イオンに分かれることを理解する。

○電離をイオン式で表す方法を知る。

○電気分解において、水溶液中でイオンがどのようなはたらきをしているか知る。

・何を調べるために、どんな実験を行うのかを確認してから実験をさせる。

・塩素には毒性があるため、電流を流す時間を決めることで、発生させる量を最小限に留めさせる。

・廃液の処理を確実に行う。

・学級全体で結果を集約し、結果の妥当性について検証するのよい。

【評】塩化銅水溶液に電流を流したときの変化をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・塩化銅水溶液の化学式を提示し、結果と関係付けて考えさせる。

【評】実験結果を基に、どんな変化が起きたのか話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・電極を逆につなぎ替えても同様に、陰極には銅が付着し、陰極には塩素が付着することを説明する。

・塩化鉄水溶液や塩酸、水などに電流を流した場合にそれぞれの電極でどんな物質が生じるか示し、決まった極に生じていることを確認させる。

・第2学年の「電気分解」の内容を想起させるとよい。

・第2学年の「電気の世界」で+の粒子と-の粒子が引き合ったことを想起させるとよい。

【評】水溶液に電流を流すと決まった電極に物質が生じる理由を話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・電子の質量は、陽子や中性子と比べるときわめて小さいことを押さえる。

・第2学年の「電気の世界」で学習した静電気の内容を想起させるとよい。

・原子や電子をモデル化し、電子を失ったり受け取ったりする様子を視覚的に捉えさせるとよい。

・電子配置について紹介すると、なぜ移動する電子の個数が決まっているのか理解させやすい。

【評】原子がイオンになる仕組みをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・原子の数と電子の数が混同しないように、一つ一つの数字が何を表すのかを確実に押さえる。

・イオンには、原子団が、全体として電気を帯びたものもあることを説明する。

・非電解質は電離せず、分子のまま散らばっていることにも触れる。

・電解質の水溶液中にはイオンが存在するが、+の電気の量と-の電気の量が等しいため、水溶液全体では電気を帯びていないことを、モデルを使って理解させる。

・様々な物質を例に挙げて、電離をイオン式で表す練習をさせるとよい。

・教科書P.20の例題や練習を活用するとよい。

【評】電解質が水に溶けて電離することを、イオン式を用いて表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・P.21の「発展」を見せながら、説明するとよい。

### 【 備 考 】

ここでは、水溶液の電気伝導性を調べる実験を行い、溶けている物質には電解質と非電解質があることを見いださせるとともに、電解質水溶液に適切な電圧をかけ電流を流す実験を行い、陽極と陰極でそれぞれ決まった物質が生成することに気付かせ、イオンの存在やその生成が原子の成り立ちに関係することを理解させることがねらいである。

例えば、砂糖や食塩など身近な物質の水溶液や、うすい塩酸やうすい水酸化ナトリウム水溶液、塩化銅水溶液などに炭素電極を入れ、適切な電圧をかけ電流を流す実験を行い、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを実験から見いださせ、水溶液に溶けていた物質を電解質と非電解質に分類できることを理解させる。また、現象を捉えやすい電解質水溶液として、うすい塩酸や塩化銅水溶液などに適切な電圧をかけ電流を流す実験を行い、陽極と陰極に決まった物質が生成することに着目させ、電解質の水溶液中に電気を帯びた粒子が存在することを理解させ、イオンの概念を形成させる。また、イオンの生成と関連して、原子は電子と原子核からできていることを扱う。その際、原子核は陽子と中性子からできていること、同じ元素でも中性子の数が異なる原子があることに触れる。また、イオンは化学式で表されることにも触れる。

<参考URL>

不思議！水溶液のいろいろな性質（理科ネットワーク：国立科学技術振興機構） <https://rika-net.com/>  
10min. ボックス 理科1分野 水溶液とイオン <https://www.nhk.or.jp/school/>

## 単元名 酸・アルカリとイオン(1分野 単元1ー2章)

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 化学変化をイオンのモデルと関連付けながら、酸・アルカリ、中和と塩についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 酸・アルカリとイオンについて、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。
- (3) 酸・アルカリとイオンに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240102\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 酸性の水溶液に共通の性質やアルカリ性水溶液に共通の性質を調べる実験を計画する。</p> <p>★酸性の水溶液、アルカリ性水溶液に共通した性質を探そう。</p> <p>○酸性、中性、アルカリ性水溶液には、それぞれどんな性質があるか話し合う。</p> <p>○次時の実験の計画を立てる。</p> <p>2 酸性の水溶液に共通の性質やアルカリ性水溶液に共通の性質を調べる。</p> <p>★酸性の水溶液、アルカリ性水溶液に共通した性質を調べよう。</p> <p>○実験手順を確認する。</p> <p>○酸性、中性、アルカリ性水溶液の性質を調べる。</p> <p>○実験結果を記録してまとめる。</p> <p>3 酸性の水溶液に共通の性質やアルカリ性水溶液に共通の性質について理解する。</p> <p>★酸性の水溶液、アルカリ性水溶液に共通した性質は何か考えよう。</p> <p>○実験結果を基に、酸性水溶液に共通する性質とアルカリ性水溶液に共通する性質をまとめる。</p> <p>○酸性やアルカリ性の性質を示すものを考える。</p> <p>○次時の実験の計画を立てる。</p> <p>4 水溶液の性質を示すものの正体について調べる。</p> <p>★酸性・アルカリ性を示すものの正体を調べよう。</p> <p>○実験の手順を確認する。</p> | <p>・リトマス紙やBTB液などの指示薬が、液性によって何色に変化するか確認しておくとうよい。</p> <p>・身の回りにある酸性、中性、アルカリ性水溶液を例に出し共通点を考えさせるとよい。</p> <p>【評】酸性・中性・アルカリ性水溶液の性質について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・様々な実験を計画させ、酸性、中性、アルカリ性水溶液にどのような共通点があるのか調べられるようにする。</p> <p>・リトマス紙は小さく切って使用すると、節約につながる。</p> <p>・無色透明の水溶液ばかりなので試験管にシールを貼るなどして区別できるようにしておく</p> <p>・火を扱う際には、周囲に引火しやすいものがないか確認してから行わせる。</p> <p>・BTB液など、水溶液全体に影響がでしまう実験については最後に行うとよいことを伝える。</p> <p>【評】酸性、中性、アルカリ性水溶液の性質を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・共通している項目に色や印を付けておくとう見やすい。</p> <p>・班によって結果に違いがある場合は、どの結果が妥当なのか話し合うとうよい。</p> <p>・酸性・アルカリ性に共通する性質を扱ってもよい。</p> <p>・物質名や化学式などから多面的に考えられるとうよい。</p> <p>・電流が流れること以外に共通の性質が見られないことから、液性を決定付けるものは、イオンであることに気付かせたい。</p> <p>・食塩水は電気を通すが、中性であることを押さえる。</p> <p>【評】酸性やアルカリ性の性質を示すものを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P.21の「発展」でイオンが陽極と陰極に引き寄せられていることを参考にして、どんな方法を用いるとうイオンの移動を視覚化できるか考えさせるとよい。</p> <p>・青色リトマス紙は、古くなると赤色に近い色になってしまうが、お茶パックに塩化アンモ</p> |

○酸性・アルカリ性を示すものの正体を調べる。

○実験結果を記録してまとめる。

5 酸性・アルカリ性を示すものを理解する。

★酸性・アルカリ性を示すものの正体を考えよう。

○実験の結果を基に考察し、酸性・アルカリ性を示すものの正体を見いだす。

○酸とアルカリの定義を知る。

6 酸性やアルカリ性の強さを表す方法について理解する。

★酸性やアルカリ性の強さを数値で表す方法を知ろう。

○酸やアルカリの強さを数値で表す方法を知る。

○身近な水溶液のpHを調べる。

○様々な水溶液の酸性・アルカリ性の強さを表にまとめる

7 酸の水溶液とアルカリの水溶液を混ぜ合わせたときの反応について調べる。

★酸の水溶液とアルカリの水溶液を混ぜ合わせると、どのような変化が起きるのか調べよう。

○金属を入れた塩酸に、水酸化ナトリウム水溶液を加えていくと水素の発生量が減少する事象から、水溶液中でどのような変化が起こったか考える。

○実験の手順を確認する。

○塩酸と水酸化ナトリウム水溶液を混ぜ合わせたときの反応を調べる。

○実験結果を記録する。

8 イオン式とイオンのモデルを用いて、中和について考える。

★酸性やアルカリ性を示すイオンは、混ぜ合わせるとどうなるか考えよう。

○実験結果を基に、塩酸中の水素イオンと水酸化ナトリウム水溶液中の水酸化物イオンがどうなったか考える。  
・水素イオンと水酸化物イオンが合わさり、水ができた

○中和をイオン式で表す方法を知る。

○中和をイオンのモデルで用いて、中和について考える。

9 塩とは何かを理解する。

★中和によって生じる物質について考えよう。

○塩酸と水酸化ナトリウムの中和を例に、酸の陽イオンとアルカリの陰イオンが結びついて塩ができることを理解する。

○硫酸と水酸化バリウム、塩酸と水酸化カルシウムの中和

ニウムを少量入れて、密閉容器と一緒に保存しておくことができると青色に戻すことができる。

・ろ紙にどの程度の薬品をしみ込ませるかが、実験の成功に大きく関わるため、実験で用いる角形ろ紙の大きさに対して、何mL程度が適切か、予備実験で確認しておく。

【評】酸性・アルカリ性を示すものの正体を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・イオンの動きとリトマス紙の色の変化を関係付けて考えさせる。

・イオンのモデルを使いながら、電離したイオンがどう動いたのか確認させるとよい。

【評】実験の結果を基に考察し、酸性・アルカリ性を示すものの正体を見いだす活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・酸の水溶液に金属を入れると、水素が発生する理由についても考えさせるとよい。

・25℃、1気圧の条件下で示す値であることを紹介する。

・前時に予告しておき、調べてみたい水溶液を各自持ってこさせるとよい。ただし、初めから色がついている水溶液は適さないことを伝えておくとうい。

【評】身近な水溶液のpHを調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教師による演示実験を生徒に観察させて話し合わせるとよい。

・うすい塩酸とうすい水酸化ナトリウム水溶液を0.5規定で調整すると、時間短縮につながる。

・塩化ナトリウムの結晶を大きく成長させるために、ドライヤーを離してゆっくり水分を飛ばすようにさせるとよい。

・ホットプレートを使って蒸発させる方法もある。

【評】酸性とアルカリ性の水溶液を混合したときの反応を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・塩化ナトリウムの結晶は、ミョウバンの結晶と混同しやすいので、形の違いを写真等で黒板に示しておくとうい。

【評】実験結果を基に、塩酸中の水素イオンと水酸化ナトリウム水溶液中の水酸化物イオンがどうなったか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・塩酸と水酸化ナトリウム水溶液の中和は、発熱反応であることを押さえる。

【評】中和をイオン式で表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・中和と中性、混同しないように言葉の意味を確認する。

・酸の陰イオンとアルカリの陽イオンに着目させる。

・教師による演示実験を生徒に観察させる。

- によって生じる塩を調べる。
- 塩酸と水酸化カルシウムの中和を，化学反応式で表す方法を知る。
  - 中和の有用性についてまとめる。

- ・家庭学習として，本やインターネットで事前に調べさせておき，発表させる場としてもよい。
  - ・川の中和・土の中和など，生活に活かされている例を紹介する。
- 【評】中和の有用性についてまとめる活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

# 【 備 考 】

ここでは，様々な水溶液に適切な電圧をかけ，水溶液の電気伝導性や電極に生成する物質を調べる観察，実験や酸とアルカリの性質を調べる観察，実験及び中和反応の観察，実験を行い，その結果を分析して解釈し，イオンの存在やその生成が原子の成り立ちに関係することを理解させるとともに，酸とアルカリの特性や中和反応をイオンのモデルと関連付けて理解させることが主なねらいである。

原子の成り立ちとイオンについては，酸とアルカリの水溶液の特性を調べる実験を行い，酸とアルカリそれぞれに共通する性質を見いださせるとともに，その性質が水素イオンと水酸化物イオンによることを理解させることがねらいである。

例えば，うすい塩酸とうすい水酸化ナトリウム水溶液を中和させる実験を行い，中性になった液を蒸発乾固させると塩化ナトリウムの結晶が生じることを理解させる。塩酸と水酸化ナトリウム水溶液をイオンのモデルで表し，中和反応においては水素イオンと水酸化物イオンから水が生じることにより酸とアルカリがお互いの性質を打ち消し合うことや，塩化物イオンとナトリウムイオンから塩化ナトリウムという塩が生じることをイオンのモデルを用いて考察させ理解させる。その際，中性にならなくても中和反応は起きていることにも触れる。また，酸とアルカリの組合せにより，塩化ナトリウムのように水に溶ける塩のほか，硫酸バリウムのような水に溶けない塩が生じることにも触れる。

日常生活や社会と関連した例としては，土壌の改良などに中和が利用されていることを取り上げることが考えられる。

<参考URL>

理科ネットワーク <https://rika-net.com/>

10min. ボックス 理科1分野 酸・アルカリとイオン <https://www.nhk.or.jp/school/>

## 単元名 電池とイオン(1分野 単元1-3章)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 化学変化をイオンのモデルと関連付けながら、金属イオン、化学変化と電池についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 化学変化と電池について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関連性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。
- (3) 化学変化と電池に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240103\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 金属にうすい塩酸を加えたときの反応の違いを実験から見いだす。</p> <p>★金属をうすい塩酸に溶かしてみよう。</p> <p>○マグネシウムリボンにうすい塩酸を加えたときの様子について考える。</p> <p>○うすい塩酸に溶ける金属について話し合う。</p> <p>○亜鉛板と銅板にうすい塩酸を加えて反応を調べる。</p> <p>○実験結果をまとめる。</p> <p>2～4 金属の種類によって、陽イオンへのなりやすさに違いがあることを理解する。</p> <p>★金属の種類によるイオンへのなりやすさを考えよう。</p> <p>○金属が溶けているときにどのような変化が起きているか話し合い、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・亜鉛原子が電子を放出し、亜鉛イオンになる。</li> <li>・うすい塩酸の中で電離している水素イオンと電子が結びつき水素が発生している。</li> </ul> <p>○塩酸を加えると亜鉛は溶けるが、銅は溶けない理由について考える。</p> <p>○実験の手順を確認する。</p> <p>○銅と亜鉛の金属のイオンへのなりやすさを比べる実験を行う。</p> <p>○硫酸亜鉛水溶液に銅板を入れたとき、硫酸銅水溶液に亜鉛板を入れたときの変化について話し合い、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・銅より亜鉛の方がイオンになりやすい。</li> </ul> <p>○銀と銅のイオンへのなりやすさを比べる実験を観察する</p> <p>○ここまでの実験結果を踏まえて、銅、亜鉛、銀のイオンへのなりやすさを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・亜鉛&gt;銅&gt;銀</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による演示実験を生徒に観察させるとよい。</li> <li>・水素が発生していることから、化学反応式をつくらせる。</li> <li>・亜鉛板と銅板だけでなく他の金属を扱ってもよい。</li> <li>・これまでにやってきた実験を参考に考えさせるとよい。</li> </ul> <p>【評】うすい塩酸に溶ける金属を話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水溶液が手につかないように十分注意させ、手についてしまったときには、すぐに水で洗うように指導する。</li> <li>・気体が発生している試験管の近くに、火を近づけないように指導する。</li> <li>・気体が発生している様子についてもまとめさせる。</li> <li>・教科書「疑問から探究してみよう」のページは、探究の過程を振り返る活動を重視する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1章で学習した、イオンや電離について想起させ、モデルを使いながら、変化について考えさせる。</li> </ul> <p>【評】金属が溶けているときにどのような変化が起きているか話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「溶ける＝電子を放出しイオンになる」というまとめを踏まえて考えさせる。</li> <li>・1章で学習したときにイオンになりにくい原子があったことを思い出させるとよい。</li> </ul> <p>【評】塩酸を加えると溶ける金属と溶けない金属がある理由について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・銅板と亜鉛板の表面を紙やすりで磨いて、表面の汚れやさびを落としておく。</li> <li>・水溶液が手につかないように十分注意する。手についてしまったときには、すぐに水で洗うように指導する。</li> </ul> <p>【評】金属のイオンへのなりやすさを調べ、結果をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イオンや電子のモデルを用いて話し合わせる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による演示実験を生徒に観察させる。</li> <li>・銀白色の枝のようなものが銀であることを伝える。</li> <li>・これまでの学習内容を表や図に整理させてから考えさせる。</li> <li>・教科書P.53の「金属のイオン化傾向」を合わせて説明してもよい。</li> </ul> <p>【評】これまでの実験内容を振り返り、銅、亜鉛、銀のイオンへのなりやすさを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> |

- 探究の過程を振り返る。
- 5 化学変化を利用すれば、電気エネルギーを取り出せることを理解する。  
★化学電池を作ってみよう。  
○ボルタの装置を作ってモーターを動かす。
- 電流が流れる仕組みについて話し合う。
- ボルタの装置についてまとめ、欠点について知る。
- 6 ダニエル電池から電気エネルギーが取り出せる仕組みについて調べる。  
★ダニエル電池を作ってみよう。  
○実験の手順を知る。
- ダニエル電池でモーターを動かす実験を行う。  
○ダニエル電池とモーターをつないだときの様子をまとめる。
- 7 ダニエル電池の仕組みについて理解する。  
★ダニエル電池の仕組みを考えよう。  
○ダニエル電池の仕組みについて考える。
- ダニエル電池の仕組みについてまとめる。
- 乾電池の仕組みについて知る。
- 8 日常的に使用されている電池の種類とその用途について理解する。  
★生活に使われている電池の種類とその用途について考えよう。  
○さまざまな化学電池があることを知る。  
「一次電池」  
・マンガン乾電池 ・アルカリ乾電池 ・リチウム電池  
「二次電池」  
・鉛蓄電池 ・ニッケル水素電池 ・リチウムイオン電池  
○さまざまな電池がどこで使われているか考える。  
・鉛蓄電池……車のバッテリー  
・リチウムイオン電池……携帯電話  
○燃料電池について知る。

- ・教科書P. 52の「考えよう」に取り組ませる。
- ・電気エネルギーについて説明する。
- ・電極を変えたときのモーターの周り方の変化に注目させる。
- ・電流の正体は、電子の流れであることを想起させる。
- ・電極の様子の変化から、電極付近で起きている変化を考えさせる。
- ・金属のイオンへのなりやすさと関連付けて考えさせる。
- ・電子の受け渡しにより電流が流れていることを押さえる。
- 【評】電流が流れる仕組みについて話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ボルタの装置の欠点を改善したものに、ダニエル電池があることを知らせる。
- ・ボルタの装置の欠点について振り返り、ダニエル電池がその欠点をどのように解決したのかも注目させる。
- ・電極付近の様子に注目させる。
- ・それぞれの電極の変化をイオンや電子がどのようになっているか考えさせる。
- 【評】実験を行い、ダニエル電池とモーターをつないだときの様子をまとめる活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・どのようにして電流が流れているのかイオンや電子のモデルを用いて考えさせる。
- ・ボルタの装置の欠点をどのように解決したのかも考えさせるとよい。
- 【評】ダニエル電池の仕組みについて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ダニエル電池だけではなく、化学電池全般に起きている反応であることを理解させ、知識の一般化を図る。
- ・マンガン乾電池の外部は電極となる金属の層からできていること、内部には電解質の水溶液が含まれていることを説明する。
- ・一次電池と二次電池の違いを説明をする。
- ・実物を用意して見せるとよい。
- 【評】さまざまな電池がどこで使われているか考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教師による燃料電池の演示実験を生徒に観察させるとよい。

#### 【 備 考 】

ここでは、電解質水溶液と金属の化学変化の観察、実験を行い、その結果を分析して解釈し、金属の種類によってイオンへのなりやすさが異なること、電池においては、電極における電子の授受によって外部に電流を取り出していること、化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることを理解させることが主なねらいである。

金属イオンについては、金属を電解質水溶液に入れる実験を行い、化学変化において電子の授受が行われていることや、金属の種類によってイオンへのなりやすさが異なることを、イオンのモデルと関連付けて理解させることがねらいである。

金属を電解質水溶液中で反応させる実験を行い、イオンのモデルと関連付けて理解させるとともに、金属の種類に着目して問題を見いだすことが考えられる。



例えば、金属を電解質水溶液に入れる実験を行い、金属が水溶液に溶けたり水溶液中の金属イオンが金属として出てきたりすることなどを見だし、イオンのモデルと関連させて理解させることが考えられる。その上で、3種類程度の金属とその金属の塩の水溶液を用いてイオンへのなりやすさを比較する実験を計画し、見通しをもって観察、実験を行うことが考えられる。これまでの化学変化に関する学習の過程を踏まえて、イオンのモデルと関連付けて考えたり、得られた結果を表にまとめて分析したりして、金属のイオンへのなりやすさが異なることについて根拠を示して表現するとともに、探究の過程を振り返ることが考えられる。具体的には、考察が課題と対応しているか、根拠を基に結論を導いているか、他の物質ではどうなるかといった新たな問題を見いだしているかなどが考えられる。

また、「化学変化と電池」の「電池の基本的な仕組み」の理解に必要な基礎的な金属イオンを扱うことに留意する。

なお、生徒に実験を計画させる際には、事前に実験方法や安全性を確認することに留意する。

化学変化と電池については、電解質水溶液と2種類の金属などを用いて電池をつくる実験を行い、電極に接続した外部の回路に電流が流れることを見いださせるとともに、電極における変化にイオンが関係していること、電池においては化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることを理解させることがねらいである。

実用的な電池の例としてダニエル電池を取り上げ、例えば、その製作を行う。その際、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅水溶液、亜鉛板、銅板を用いて回路を形成すると、電圧が生じて電池になることを実験で確かめさせることなどが考えられる。また、金属のイオンへのなりやすさが異なることと電子の移動する向きを関連させながら、電池の電極における変化についてイオンのモデルを用いて表現させることを通して、電極で生じた電子が回路に電流として流れることを理解させる。日常生活や社会では、乾電池、鉛蓄電池、燃料電池など、さまざまな電池が使われていることに触れる。

## 単元名 生物の成長(2分野 単元2－1章)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 細胞分裂と生物の成長に関する事物・現象の特徴に着目しながら、細胞分裂と生物の成長について基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するための必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 細胞分裂と生物の成長について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、細胞分裂と生物の成長についての特徴や規則性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。
- (3) 細胞分裂と生物の成長に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 「標準的な展開例」

12240104\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 タマネギの根の先端に近い部分がよく伸びるを見いだす。</p> <p>★タマネギの根の伸び方を考えよう。</p> <p>○染色液で染色し、時間を置き伸長させてある、タマネギの根を観察する。</p> <p>○タマネギの根の先端に近い部分が、薄い色になっている理由を考える。</p> <p>○タマネギの根の先端に近い部分の細胞が、成長とともにどう変化していくか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>細胞の大きさが肥大する。</li> <li>細胞の数が増える。</li> </ul> <p>○次時に行う、観察の計画を立てる。</p> <p>2 タマネギの根の細胞の様子を観察し、成長の仕方を調べる。</p> <p>★細胞の様子を調べよう。</p> <p>○観察手順を確認する。</p> <p>○プレパラートを作成する。</p> <p>○タマネギの根の先端部と根元の細胞を顕微鏡で観察し、スケッチする。</p> <p>3 タマネギの根の成長の仕方を見いだす。</p> <p>★観察結果から根の成長について考えよう。</p> <p>○根の先端部と根元で細胞の大きさに違いがあることを見いだす。</p> <p>○根の先端部と根元で細胞の大きさに違いが見られる理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>細胞が大きくなった。</li> <li>細胞が増えている。</li> <li>細胞が小さくなっている。</li> </ul> <p>○細胞が増えないと根が伸びないことを見だし、細胞が増える方法を考える。</p> <p>○タマネギの根が成長する仕組みについてまとめる。</p> <p>4 細胞分裂の過程を見いだす。</p> <p>★観察結果から細胞分裂の過程を考えよう。</p> <p>○観察したタマネギの根の様子を基に、細胞内の核がどのように変化しているかを考え、時系列に並べる。</p> <p>○染色体の存在を知る。</p> <p>○体細胞分裂の過程について知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>第2学年の「生物と細胞」で学習した、生物の体は細胞からできていることを確認させる</li> <li>油性ペンで等間隔に印を付けて伸長させたタマネギなどの観察物を用意しておいてもよい</li> <li>染色液によって染まる部分がどこかを、第2学年の学習と関連付けて確認しておくともよい</li> </ul> <p>【評】タマネギの根の先端に近い部分の細胞が成長とともにどう変化していくか考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>染色液の名称や種類、役割について振り返らせる。</li> <li>うすい塩酸処理は、一つ一つの細胞を離して観察しやすくするために行うこと、また細胞を押し潰す操作は、細胞の重なりをなくし観察しやすくするために行うことを理解させる</li> <li>ここでは、保護眼鏡の着用という安全面での指導と、細胞が横ずれしないよう机に垂直な力を入れるという技能面の指導を行うとよい</li> <li>細胞の大きさと、細胞内の核の様子の変化に着目させる。</li> <li>2箇所(先端部と根元)の細胞の大きさに着目する際には10×10で観察させ、核の様子に着目する際には10×40で観察させる。</li> <li>視野に入っている細胞の一部をスケッチすればよいことを伝える。</li> </ul> <p>【評】タマネギの根の先端部の細胞を顕微鏡で観察する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>顕微鏡カメラ等で、細胞の様子をモニタに映し出し、大きさの違いを共有できるようにするとよい。</li> <li>大きくなっているだけでなく、小さい細胞が存在している理由についても考えさせる。</li> </ul> <p>【評】細胞の大きさに違いが見られる理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>細胞の核の様子を参考に考えさせる。</li> <li>核の様子の変化から、細胞分裂の順番を考えさせる。また、観察で見られた細胞の姿は、細胞分裂のどの段階か、教科書P.73の写真と比較して考えさせるとよい。</li> <li>染色体の役割や、染色体の数が種によって決まっていることを押さえる。</li> <li>理科ネットワークの体細胞分裂のアニメーション</li> </ul> |

○細胞が体細胞分裂するときの様子についてまとめる。

ョンなどを使いながら染色体の変化の様子を押さえる。

【評】実際の細胞の様子から体細胞分裂の段階をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

#### 【 備 考 】

ここでは、体細胞分裂の観察を行い、体細胞分裂の過程には順序性があることを見いだして理解させるとともに、多細胞生物は細胞の分裂によって成長することを理解させることがねらいである。

体細胞分裂については、染色体が複製されて二つの細胞に等しく分配され、元の細胞と同質の二つの細胞ができることを理解させる。体細胞分裂の順序性を見いださせる際には、染色体数が少なくて見やすい植物細胞を観察するとよい。さらに、例えば、映像などを活用して、体細胞分裂における染色体の動きを見せることなども考えられる。

成長については、植物の根端などの観察を行い、細胞分裂によって成長が起こることを理解させる。その際、細胞の数が増えるだけでなく、細胞自体が伸長、肥大していくことにも気付かせることが大切である。

<参考URL>

体感！植物で見る生殖の仕組み（理科ネットワーク：国立科学技術振興機構） <https://rika-net.com/10min.ボックス> 理科2分野 細胞分裂と成長 <http://www.nhk.or.jp/school/>

## 単元名 生物の殖え方(2分野 単元2－2章)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 生物の殖え方に関する事物・現象の特徴に着目しながら、細胞分裂と生物の成長、生物の殖え方についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録など基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 生物の殖え方について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の殖え方についての特徴や規則性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。
- (3) 生物の殖え方に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 「標準的な展開例」

12240105\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 単細胞のアメーバやミカヅキモなどの分裂および多細胞の動物の無性生殖について理解する。</p> <p>★受精によらない生殖方法を探ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生物の殖え方には、無性生殖と有性生殖があることを知る。</li> <li>○無性生殖の殖え方にはどんな方法があるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・半分に分かれる。</li> <li>・コピーをつくる。</li> <li>・1つの個体で卵を産む。</li> </ul> </li> <li>○動物の無性生殖について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゾウリムシ</li> <li>・ミカヅキモ</li> <li>・ヒドラ</li> </ul> </li> <li>○次時で行う植物の栄養生殖の調べ学習の計画を立てる。</li> </ul> <p>2 植物の無性生殖について調べる。</p> <p>★植物の無性生殖がどのように行われているか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○農業や園芸で利用されている栄養生殖について調べる。</li> <li>○調べた内容を発表し、知識を共有する。</li> </ul> <p>3 動物の受精と発生、有性生殖について理解する。</p> <p>★動物の有性生殖の仕組みについて探ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カエルを例に、どのようにして生殖を行うか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・精子と卵が合体して受精卵となる。</li> </ul> </li> <li>○カエルの受精卵がどのように変化するか考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・受精卵→胚→成体</li> </ul> </li> <li>○動物の有性生殖についてまとめる。</li> </ul> <p>4 花粉が生殖に重要な役割をもつことを見だし、植物の受精と発生について理解する。</p> <p>★花粉の役割について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ハウセンカがどのようにして生殖を行うのか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・受粉した後どうなる。</li> <li>・花粉にはどんな役割があるのかな。</li> </ul> </li> <li>○花粉の変化を観察する。</li> <li>○ハウセンカの花粉を3分おきに観察し、スケッチする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・無性生殖と有性生殖をする生物の例を出させる。有性生殖は多く出るが無性生殖はあまり出ないことが予想される。そこから無性生殖をする生物について学習しようという意欲をもたせたい。</li> <li>【評】無性生殖の生殖方法について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・見たことのない生物が多いため、無性生殖の様子の動画を用意し、見せるとよい。</li> <li>・あらかじめ農業や園芸で栄養生殖を利用して植物の候補を用意しておき、どれについてどういう項目で調べるかの計画を立てさせる。</li> <li>・調べる植物や項目など、前時に計画した内容を確認させる。</li> <li>・本やインターネットを活用して調べさせる。</li> <li>・教材提示装置や、プレゼンテーションのソフトを利用して、発表させるとよい。</li> <li>【評】栄養生殖を利用した身近な取組について調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・第5学年で学習した、メダカの雌雄の区別の仕方、卵の孵化の様子などを想起させる。</li> <li>・受精卵が胚を経て成体に至るまでの発生の過程を、デジタルコンテンツ等で示せると、興味付けるのに効果的である。</li> <li>・雌雄のある動物は、基本的にはカエルと同じ発生の仕方をするを押さえる。</li> <li>・発生と分化、幼生と成体、変態などの科学用語について、意味を踏まえて習得させる。</li> <li>【評】動物の有性生殖についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・胚珠が種子になることから、受粉の後花粉がどんな役割を果たすのか考えさせる。</li> <li>・寒天培地はあらかじめ準備しておき、柱頭の役割を果たしていることを押さえる。</li> <li>・花粉管の伸長のスピードが速いため、1時間内で観察が完了するハウセンカの花粉を扱うことが望ましいが、野花の花粉管の伸長を観察するのもよい。ただし、植物によっては、花粉管を伸長させる培地作りが難しい場合がある。</li> <li>・対物レンズと寒天培地が直接触れてしまわないように注意させる。</li> </ul> |

○被子植物の受精についてまとめる。

5 親の形質がどのようにして子に伝わるか見いだす。

★親から同じ種の子が生まれる理由を探ろう。

○形質、遺伝という科学用語とその意味を知る。

○親から同じ種の子が生じる理由について話し合う。

- ・ヒトからイヌが生じたら種が存続できない。
- ・ヒトの細胞からは、ヒトの細胞しか生じない。

○親の形質が子孫に現れる理由について話し合う。

- ・細胞内に設計図のようなものがある。
- ・染色体に形質のもとになるものがある。

6 有性生殖において、遺伝子がどのようにして伝わるか考える。

★有性生殖では、染色体がどのようにして親から子に伝えられるか考えよう。

○有性生殖では、染色体に含まれている遺伝子が、親から子にどのようにして伝えられるか考える。

- ・両親から精子と卵という形で伝えられる。

○受精をした時、染色体数が倍にならない理由について話し合う。

- ・精子と卵が半数ずつの染色体をもてば、受精卵が一人分の染色体をもつことになる。

○減数分裂について知る。

7 無性生殖と有性生殖では遺伝子の受け継がれ方が違うため、形質の現れ方に違いがあることを見いだす。

★無性生殖と有性生殖の違いについて考えよう。

○今までに学習してきた科学用語を想起する。

○無性生殖と有性生殖の違いについて話し合う。

○無性生殖と有性生殖の違いについてまとめる。

【評】培地上の花粉がどのような変化をするか調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・花粉にはどんな役割があったか発表させ、そこから被子植物の受精の仕方についてまとめさせる。

・形質には、毛色のように目に見えるものと、体質のように目に見えないものがあることを確認させる。

・なぜヒトからイヌが生じることがないのか、根本的な部分でたくさんの意見を出させたい

・無性生殖での遺伝と形質を例に出し、考えさせる。

・どの生物も受精卵から始まっていることについて触れ、生物の種や形質を決定付けるためには、何が必要か考えさせる。

【評】親の形質が子に伝わる理由について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・植物や動物など、親と同じ形質をもって生まれてくる子や違う形質をもって生まれてくる子、片方の親の形質が見られる子など、さまざまな例を出して考えさせる。

・教科書P.87の「演習しよう」に取り組みさせる

【評】受精後に染色体数が倍にならない理由について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・減数分裂と、体細胞分裂との違いを明確にする。

・科学用語から連想される特徴について考えさせたり、科学用語を使って違いについて説明させたりする。

・無性生殖では親と全く同じ子が誕生するのに対して、有性生殖では親に似ているが違う形質をもった子が生まれてくることに気付かせたい。

【評】無性生殖と有性生殖の違いについて話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・教科書P.89の表1を使って違いを整理させる

【 備 考 】

ここでは、生物の殖え方を観察し、有性生殖と無性生殖の違いを見いだして理解するとともに、生物が殖えていくときに親の形質が子に伝わることについて見いだして理解させることがねらいである。無性生殖については、単細胞生物の分裂や、栄養生殖に触れる。その際、実際に栄養生殖で殖えつつあるジャガイモやイチゴなどを提示したり、映像なども活用したりすることが考えられる。有性生殖については、無性生殖とは異なり、受精によって新しい個体が生じ、受精卵の体細胞分裂により複雑な体がつくられることを、カエルなどを例として捉えさせる。動物では、メダカやウニの発生の継続観察などを行わせることが望ましいが、映像などを活用することも考えられる。また、植物では、受精の様子を直接観察するのは困難であるので、花粉管の伸長の観察などを行わせたり、被子植物の受精の映像などを活用したりすることによって植物の生殖の過程を理解させることが考えられる。

親の形質が子に伝わることについては、無性生殖では体細胞分裂によって殖えることから、全ての子の形質は同一になることを見いだして理解させる。また、有性生殖では、減数分裂によって両親の染色体が半数ずつ生殖細胞に分配されて受精によって受け継がれることから、全ての子の形質が同じになるとは限らないことに気付かせることが大切である。

<参考URL>

体感！植物で見る生殖のしくみ（理科ネットワーク：国立科学技術振興機構） <https://rika-net.com>

## 単元名 遺伝の規則性(2分野 単元2－3章)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 遺伝の規則性と遺伝に関する事物・現象の特徴に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 遺伝の規則性と遺伝子について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、遺伝現象についての特徴や規則性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。
- (3) 遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

## 「標準的な展開例」

12240106\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 遺伝による生物の形質の伝わり方について興味をもち、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★親の形質が現れたり現れなかったりするわけを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○マツバボタンの遺伝において、花の赤色、白色という形質がどのように伝わるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤い花と白い花ができる。</li> <li>・ピンクの花ができる。</li> </ul> </li> <li>○マツバボタンの子に、片方の親の形質だけが生じる理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・白は薄い色だから赤に負けてしまう。</li> <li>・赤の方が強い。</li> </ul> </li> <li>○子に現れなかった形質が孫に現れる理由を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・白の遺伝子が眠っていた。</li> <li>・突然変異で出てきた。</li> <li>・赤と白を混ぜた子だから赤の力が弱くなった。</li> </ul> </li> <li>○対立形質、純系、自家受粉、他家受粉などの用語とその意味を知る。</li> </ul> <p>2 メンデルの実験結果から、形質の伝わり方の規則性を見い出す。</p> <p>★メンデルの実験結果から形質の伝わり方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○エンドウの純系をかけ合わせた場合、対立形質では子へどのようにして伝わるか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全て丸の種子</li> <li>・全てしわの種子</li> <li>・丸としわの種子が半分半分で生じる。</li> </ul> </li> <li>○メンデルの実験①の結果からどのような規則性があるか考え、顕性の法則について知る。</li> <li>○メンデルの実験②の結果からどのような規則性があるか考え、顕性形質と潜性形質の出現比が3:1になることを知る。</li> <li>○メンデルの実験①②から分かったことをまとめる。</li> </ul> <p>3 親から子への遺伝子の伝わり方について理解する。</p> <p>★純系の対立形質を組み合わせたとき、顕性形質のみしか現れない理由を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○遺伝子モデルを用いて、親から子への遺伝子の伝わり方について考える。</li> <li>○親から子への遺伝子の伝わり方を、遺伝子の記号を用いてまとめる。</li> </ul> <p>○分離の法則について知る。</p> <p>4～5 子から孫への遺伝子の伝わり方について理解する。</p> <p>★子で現れなかった潜性形質がどのようにして孫に伝わるのか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○遺伝子モデルを用いて、子から孫への遺伝子の伝わり方について考える。</li> <li>○子から孫への遺伝子の伝わり方を、遺伝子の記号を用いて考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.91の図1, 2のマツバボタンを参照させながら指導するとよい。</li> <li>・色が薄くなることなく、親の赤と同じ色の個体しか生じないことを押さえる。</li> <li>・教科書の写真は1つしか白くないが、花が沢山移っている写真を提示し、孫には白い花がある程度存在することを伝える。<br/>【評】マツバボタンの形質の伝わり方について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・同じ花、もしくは同じ個体の花における受粉が、自家受粉であることを確認させる。</li> <li>・前時に学習した用語の確認を行う。</li> <li>・種子以外の対立形質についても、写真や映像を用意しておく生徒はイメージしやすい。</li> <li>・4分の3や75%など、割合で表す方法も押さえる。</li> <li>【評】実験から見いだした規則性をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・遺伝子のモデル(カード・ボール等)を準備し、実際に操作しながら考えさせるとよい。</li> <li>・Aとa(ラージエーとスモールエー)の読み方を、実際に口に出させて習得させるとよい</li> <li>【評】親から子への遺伝子の伝わり方を、遺伝子の記号を用いてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・減数分裂と分離の法則の違いを明確にするため、言葉の意味を教科書で確認させる。</li> <li>・教科書「疑問から探究してみよう」のページは、探究の過程を振り返る活動を重視する。</li> <li>・教科書P.98を参考に考えさせるとよい。</li> <li>・分離の法則が理解できているか、机間指導で確認するとよい。</li> <li>・時間にゆとりがあれば、マツバボタンについても考えさせたい。</li> <li>【評】子から孫への遺伝子の伝わり方を、遺伝子の記号と関連付けて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <p>○ 孫では、顕性形質と潜性形質の出現比が 3 : 1 になることを理解する。</p> <p>○ メンデルの考え方が正しいかどうか確認するための、モデル実験の方法を知る。</p> <p>○ 遺伝子の伝わり方（子から孫へ）のモデル実験を行う。</p> <p>6 遺伝子の実体および遺伝子についての研究成果とその利用について知る。<br/>★ 遺伝子の研究がどのように役立てられているか調べよう</p> <p>○ DNA の存在を知る。</p> <p>○ 遺伝子の研究成果について調べ、まとめる。</p> | <p>・ 教科書 P. 100 の実験方法を参考に行う。</p> <p>・ 二人一組で実験を行うのがよい。</p> <p>・ 二つの封筒がそれぞれ花粉と胚珠を、2 枚から 1 枚を取り出す操作が減数分裂を表していることを確認させる。</p> <p>・ 親から子へ遺伝子の伝わり方を例にして方法を確認させるとよい。</p> <p>・ 初めは実験回数には触れずに実験を行い、3 : 1 に近づいた生徒とそうでない生徒の違いから、実験回数と結果の関係に気付かせたい</p> <p>・ 学級全体の数字を足すことで、実験回数を増やし、3 : 1 になることを確認させるとともに、実験回数が多いほど、理論値に近づくことに気付かせる。</p> <p>【評】 子から孫への遺伝の伝わり方の探究の過程を振り返る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ ブロッコリーやバナナ、キウイなどから DNA を取り出す演示実験を行う。</p> <p>・ 2 重らせん構造、4 種類の構成要素（塩基）についても触れさせるとよい。</p> <p>・ 研究成果のメリットだけではなく、環境への負荷等のデメリットについても考えさせるとよい。</p> <p>【評】 遺伝子の研究成果についてまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|--|

#### 【 備 考 】

ここでは、一つの形質に注目して、形質が子や孫にどのように伝わっていくかについて考察させ、遺伝の規則性を見いだして理解させる。

例えば、メンデルの交配実験の結果を分析して解釈し、子や孫の形質の表れ方には規則性があることに気付かせる。その際、染色体に関する図やモデルなどを活用して、その規則性は対になっている遺伝子が分かれて別々の生殖細胞に入ることによってもたらされることを取り上げる。その後、コインやカードなどを用いて交配のモデル実験を行わせて、規則性をもたらし仕組みを確認させることが考えられる。その際、交配のモデル実験における試行回数と得られる結果との関係に気付かせたり、モデル実験の操作や結果が何を意味するかなどを考えさせたりして、探究の過程を振り返らせることが考えられる。

このような学習を通して、分離の法則について理解させるとともに、生物は親から遺伝子を受け継ぎ、遺伝子は世代を超えて伝えられることを理解させる。その際、遺伝子の本体が DNA という物質であることにも触れる。

なお、現在、遺伝子や DNA に関する研究が進み、医療、食料、環境、産業など日常生活や社会に関わるさまざまな分野で、その研究成果が利用されるようになっている。このことについて、文献や情報通信ネットワークなどを活用して、理解を深めさせることが考えられる。

< 参考 URL >

生命の連続性（遺伝編）（理科ネットワーク：国立科学技術振興機構） <https://rika-net.com>  
10min. ボックス 理科 2 分野 遺伝と遺伝子 <https://www.nhk.or.jp/school/>

## 単元名 生物の種類の多様性と進化(2分野 単元2-4章)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物の種類の多様性と進化についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 生物の種類の多様性と進化について、資料を分析して解釈し、生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。
- (3) 生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240201\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 脊椎動物の五つの仲間の特徴から、五つの仲間の関係を見いだす。</p> <p>★脊椎動物の仲間がどのような順番で出現したのか考えよう。</p> <p>○脊椎動物の五つの仲間の関係を整理する。</p> <p>○脊椎動物の五つの仲間の特徴を比較する。</p> <p>○脊椎動物の五つの仲間が出現する年代を知る。</p> <p>2 脊椎動物がどのように誕生したのか根拠をもって考える</p> <p>★脊椎動物はどのようにして誕生したのか仮説を立てよう</p> <p>○始祖鳥について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・翼や羽毛がある。</li> <li>・歯や爪がある。</li> </ul> <p>○始祖鳥の特徴から鳥類がどのように誕生したのか考える</p> <p>○シーラカンスとカエルの共通点と相違点を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通点：幼生が鰓呼吸・水の中で生活、胸びれと前足の骨格</li> <li>・相違点：成体が肺呼吸・陸で生活</li> </ul> <p>○脊椎動物がどのように誕生したのか仮説を立てる。</p> <p>3 脊椎動物の仲間が、魚類から順番に進化してきたことを見いだす。</p> <p>★脊椎動物の系統樹を作ろう。</p> <p>○脊椎動物の前あしの骨格を比較をして、脊椎動物の仲間の変遷を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脊椎動物の仲間はすべて、基本的なつくりをもっていた過去の動物が変化して生じたものである。</li> </ul> <p>○脊椎動物の仲間を系統樹にまとめよう。</p> <p>○脊椎動物の進化の過程と進化について知る。</p> <p>4 進化とは、環境の変化による多様性と淘汰から起きていることを理解する。</p> <p>★進化がどうして起きるのか考えよう。</p> <p>○進化について説明する。</p> <p>○進化がどのようにして起きるのか話し合う。</p> | <p>・教科書P. 107の表を利用する。</p> <p>【評】脊椎動物の五つの仲間の関係を整理する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・哺乳類との共通点や生活場所の違いから、魚類・両生類・爬虫類・鳥類の順に出現してきたことに気付かせたい。</p> <p>・電子黒板などで始祖鳥のイラストを映し出し特徴ある部分を拡大しながら、始祖鳥がどのような動物なのか確認させる。</p> <p>・前時に学習した脊椎動物の五つの仲間の特徴を振り返りながら考えさせる。</p> <p>・出現した順番にも注目させる。</p> <p>・胸びれと前あしの骨格だけを見せるのではなく、全身骨格のイラストを用意しておくとうい。</p> <p>・必要に応じて拡大するなどして考える手助けとしたい。</p> <p>・前時と本時の内容を総合的に考えて仮説を立てさせる。</p> <p>【評】脊椎動物の誕生について仮説を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・相同器官について押さえる。</p> <p>・系統樹について知らせる。</p> <p>・植物を例に書き方を示す。</p> <p>・生徒が知っている脊椎動物を数種類提示し、それを系統樹にまとめさせる。</p> <p>・クジラやコウモリなど、さまざまな場所で生活する哺乳類を入れておくとうい。</p> <p>・正解を書くことが目的ではなく、これまでの情報を基に脊椎動物の進化について考えることが目的なので、系統樹の細かい部分については追究させない。</p> <p>【評】脊椎動物の仲間を系統樹にまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・生徒が書いた系統樹を基に現在正しいとされている進化についてまとめさせる。</p> <p>・生徒たちが進化という言葉をどのように捉えているか把握する。</p> <p>・必要に応じて例を出し、具体的なイメージをもたせる。</p> <p>・「なぜキリンの首が長いのか」など、形質に</p> |



- ・ 遺伝的変異の登場→多様性
- ・ 自然による遺伝的異変の固定→淘汰

特徴のある生物を例に出し、考えさせるとよい。

- ・ 生徒の意見をまとめながら、同じ種でもいろいろな形質をもつ生物が存在していたこと、環境によって限られた形質のみが現在まで残っていることに気付かせたい。

【評】進化がどのようにして起こるのか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

○地球上の進化の歴史についてまとめる。

#### 【 備 考 】

ここでは、例えば脊椎動物では、魚類をはじめとする五つの仲間の間には、魚類と両生類の幼生は鰓呼吸、魚類・両生類・爬虫類は変温動物、魚類・両生類・爬虫類・鳥類は卵生、魚類・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類は全て脊椎をもつというように段階的に共通性が見られることや、化石についての考察などから、現存している生物は過去の生物が変化して生じてきたことに気付かせる。その際、「(2) ア (イ) 地層の重なりと過去の様子」での示準化石などについての学習も踏まえながら、陸上生活をする生物は水中生活をするものから進化してきたことにも気付かせる。

進化の証拠とされる事柄の例としては、始祖鳥のように、爬虫類と鳥類の両方の特徴をもつ生物の化石があること、脊椎動物のひれとあしのように起源が同じ器官が見られることなどが挙げられる。また、例えば哺乳類では、コウモリは翼を用いて空中で飛翔し、クジラはひれを用いて水中で泳ぐなど、同じ前肢でも現在の生息環境に都合のよい特徴が見られることにも触れる。

また、遺伝子に変化が起きて形質が変化することがあることにも触れる。

これらの学習を通して、現存している多様な生物は進化によって生じたものであることを理解させ、生命の歴史の長さを認識させることにより、生命を尊重する態度を育てることが大切である。

<参考URL>

10min. ボックス 理科2分野 生物の進化 <https://www.nhk.or.jp/school/>

生物の進化（理科ネットワーク：国立科学技術振興機構） <https://rika-net.com/>

## 単元名 天体の1日の動き(2分野 単元3-1)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、日周運動と自転についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 天体の動きと地球の自転について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の動きと地球の自転についての特徴や規則性を見いだしたりするとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。
- (3) 天体の動きと地球の自転に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240202\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 天球について理解し、天体の位置の表し方を理解する。</p> <p>★星の位置の表し方をまとめよう。</p> <p>○宇宙について知っていることを話し合う。</p> <p>○地球からはるか遠く離れた天体の位置と、その見え方について考える。</p> <p>○天球の考え方を理解する。</p> <p>○地球上のある地点からの方位と、天体の位置の表し方をまとめる。</p> <p>2 太陽の1日の動きについて調べる。</p> <p>★太陽の1日の動きを調べよう。</p> <p>○太陽は、1日にどのような動きをするのか考える。</p> <p>○透明半球上に太陽の位置を記録する方法を知る。</p> <p>○太陽の1日の動きの観察を行う。</p> <p>3 太陽の1日の動きをまとめる。</p> <p>★太陽の動きの規則性を見い出そう。</p> <p>○太陽の観測結果を基に、太陽が1日を通じてどのように動いているか話し合う。</p> <p>○太陽の動きについてまとめ、南中高度について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東から昇り、南を通過して、西に沈む。</li> <li>・1時間で動く距離は一定。</li> <li>・毎日同じ時間に一番高い位置にくる。(南中する)</li> </ul> <p>○太陽の観測結果を基に、日の出の時刻を計算によって求める。</p> <p>4 星の1日の動きについて調べる。</p> <p>★星の1日の動きを調べよう。</p> <p>○星は、1日にどのような動きをするか考える。</p> <p>○星の動きを観察する方法を知る。</p> <p>○星の動きを観察する。</p> | <p>・太陽、月、星座等、小学校の学習を想起させるとよい。</p> <p>【評】宇宙について知っていることを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・星を見たときに、どこに見えるかやどれくらい離れているように感じるか考えさせるとよい。</p> <p>・教科書P.127の図1を基に、天球は、その大きさを自由に変えてモデル化することができることを捉えさせる。</p> <p>・教科書P.128の基礎技能を参照させる。</p> <p>・方角は、南を向いたとき左手が東にあたること、また高度は、げんこつ一個分で約<math>10^\circ</math>を測ることができるなど、体を使った覚え方を紹介するとよい。</p> <p>・朝、昼、晩の太陽の位置を想起させる。</p> <p>・フェルトペンの先の陰が、円の中心にくるようにして、太陽の位置を透明半球上に記録させる。</p> <p>・実際に観測する場合は、必ず遮光板を通して太陽を見させる。</p> <p>・観察が難しい場合は、コンピュータソフトを使って太陽の動きを確認するとよい。</p> <p>【評】太陽の1日の動きについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・太陽の道筋を、ビニールテープでなめらかにつないで考えさせる。</p> <p>・別の日に教員が記録しておいたものと比較させると規則性を見いだしやすい。</p> <p>【評】太陽の観測結果を基に、太陽が1日を通じてどのように動いているか話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・南中高度については、教科書P.132の図5を参考にする。</p> <p>・透明半球上で、太陽が1時間に何cm動いているかを調べて、日の出の時刻を、逆算できることに気付かせたい。</p> <p>【評】太陽の観測結果を基に、日の出の時刻を計算によって求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・太陽も恒星の一つであることを想起させ、太陽の動きを参考に考えさせる。</p> <p>・東西南北だけでなく、天頂付近の動きについても考えさせるとよい。</p> <p>・磁針の使い方を確認させる。</p> <p>・高度は、げんこつ一個分で約<math>10^\circ</math>を測ることができることを確認させる。</p> <p>・夜間に観測する場合は、必ず先生か保護者と一緒に行わせる。</p> |

- 5 星の1日の動きをまとめる。  
 ★星の1日動きを見いだそう。  
 ○観測結果をもとに、星の1日の動きを考えよう。
- 星や太陽の1日の動きをまとめる。  
 ・南の空では、太陽と同じように東から西へと動く。  
 ・北の空では、北極星を中心に反時計回りに動く。  
 ・全体では東から西に動いているといえる。
- 6 天体の日周運動の原因について考える。  
 ★天体が日周運動する原因は何か考えよう。  
 ○天体が日周運動をするわけについて考える。
- 地球儀を用いて太陽の日周運動を確かめる。
- 地球の自転による、天体の見え方について考える。
- 地球の自転による、昼夜の移り変わりについて考える。

- ・コンピュータソフトを用いて観測させる方法もある。
- 【評】星の1日の動きを観測する活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・透明半球上に観察結果の写しを貼り付け、空全体の動きを考察させるとよい。
  - ・透明半球の縁が地平線で、中心が観測者の位置であることを押さえる。
- 【評】星や太陽の1日の動きについてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・天体が動いているように見えるのは、地球が自転しているからであることを押さえる。
- 【評】天体が日周運動をするわけについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教科書P.138の「やってみよう」を行わせる
  - ・日の出や日の入りがどの方位で起こるのか、地球の自転と関連付けて考えさせる。
  - ・教科書P.139の図11を参考にとよい。
  - ・教科書P.139の図12を参考にとよい。

### 【 備 考 】

ここでは、観察した太陽や星の日周運動が、地球の自転によって起こる相対的な動きによるものであることを理解させることがねらいである。

例えば、透明半球を用いて太陽の日周運動の経路を調べたり、天球の各方位の星座の見かけの動きを観察したり、長時間にわたり撮影した星座の写真を活用したりして、太陽や星の天球上の見かけの動き方を調べ、それらの見かけの動きと地球が自転していることとを関連付けることが考えられる。その際、天体の動きを適切に記録できるようにすることも大切である。なお、観察記録を地球の自転と関連付けて考察させるためには、観察者の視点（位置）を、自転する地球の外に移動させる必要があることから、天球儀や地球儀を用いたモデル実験を行い、考察させることなどが考えられる。また、コンピュータソフトを用いて視覚的に捉えさせるなどの工夫が考えられる。

<参考URL>

10min. ボックス 理科2分野 日周運動と太陽 <https://www.nhk.or.jp/school/>

動画で見る月と太陽と宇宙（理科ネットワーク） <https://rika-net.com/>

サイエンスファンタジー（理科ネットワーク） <https://rika-net.com/>

宇宙と天文（理科ネットワーク） <https://rika-net.com/>

## 単元名 天体の1年の動き(2分野 単元3－2章)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、年周運動と公転について基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 天体の動きと地球の公転について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の動きと地球の公転についての特徴や規則性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。
- (3) 天体の動きと地球の公転に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

## 標準的な展開例

12240203\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 星や太陽が年周運動していることを理解する。</p> <p>★星や太陽の1年の動きについて探ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○季節による星座の見え方の変化について話し合う。</li> <li>○星座早見を使って各季節に見られる星座を調べる。</li> </ul> <p>○年周運動について知る。</p> <p>○黄道と黄道12星座について知る。</p> <p>2～3 地球の公転について理解する。</p> <p>★星や太陽の年周運動が起こる理由を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○星や太陽の年周運動が起こる原因について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・星が地球の周りを回っている。</li> <li>・地球の動きに原因がある。</li> </ul> </li> <li>○地球の動きが関係していることをどのようにモデル化するか考える。</li> </ul> <p>○星や太陽の年周運動を再現する。</p> <p>○星や太陽の年周運動が起こる理由についてまとめる。</p> <p>○季節による星座の移り変わりについて考える。</p> <p>○1か月でどれくらい動いて見えるのか考える。</p> <p>○公転による星座の見え方についてまとめる。</p> <p>4 地球が地軸を傾けたまま公転していることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○季節による太陽の変化について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏は南中高度が高く冬は低い。</li> <li>・夏は日の出が早く、日の入りが遅い。</li> <li>・冬は日の出が遅く、日の入りが早い。</li> </ul> </li> <li>★季節によって太陽の高さや出ている時間が変化する理由を考えよう。</li> <li>○観測結果を基に理由を考える。</li> </ul> <p>○太陽の日周運動の経路が変化する理由を確かめる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節によって見られる星座に違いがあることを想起させる。</li> <li>・巻末の星座早見を制作し、使い方を指導する</li> <li>・教科書P.141の「やってみよう」を参考に取り組ませる。</li> <li>・夜でないと見えないことを押さえる。</li> <li>【評】星座早見を使って各季節に見られる星座を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・星座早見を使って、同じ時刻に観察をしても日によって見える位置が違うことを捉えさせる。</li> <li>・太陽の外側に大きい天球をイメージできるように教室環境を工夫する。</li> <li>・誕生星座について説明するとよい。</li> <li>・星の動きに原因があるのか、地球の動きに原因があるのか2択に絞り話し合わせるとよい</li> <li>・太陽、星、地球の位置関係を押さえ、地球のどのような動きが原因となっているのか考えさせる。</li> <li>・前時の黄道のモデルを想起させる。</li> <li>・教科書P.144～P.145の「実験」を参考に再現させる。</li> <li>・星役の人はできるだけ離れて立つようにさせる。</li> <li>・地球を中心に固定すると著しく再現が困難なことに気付かせたい。</li> <li>【評】再現から星や太陽の年周運動が起こる理由についてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・教科書P.146の図4のように、太陽と地球と各月を代表する星座の位置関係をまとめさせる。</li> <li>・1年後同じ位置に見えることをヒントに考えさせるとよい。</li> <li>【評】1か月でどれくらい動いて見えるのか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】公転による星座の見え方についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する</li> <li>・教室に入ってくる日の光の違いや、下校時刻の違いなどから考えさせる。</li> <li>・透明半球にテープを貼ったものを用意し、季節による太陽の日周運動の経路の違いについて考えさせる。</li> <li>・地球儀を用意しておくヒントになる。</li> <li>・教科書P.149の「チャレンジ」を参考に確か</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <p>○ 太陽の日周運動の経路が変化する理由をまとめる。</p> <p>5 日本に四季が見られる理由を理解する。<br/>★ 日本に四季が訪れる理由を考えよう。</p> <p>○ 日本に四季が訪れる理由を話し合う。</p> <p>○ 光の差し込む角度によるエネルギーの違いを知る。</p> <p>○ 四季が訪れない国がある理由について話し合う。</p> | <p>める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地軸を傾けないとどうなるかも確かめるとよい。</li> </ul> <p>【評】 太陽の日周運動の経路が変化する理由をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤道直下の国には四季が訪れないことを紹介し、特定の条件がないと四季が訪れないことを押さえる。</li> <li>・ 前時の太陽の日周運動の経路の変化を参考にさせる。</li> </ul> <p>【評】 日本に四季がある理由を話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書P. 150の図12のように矢印の数をエネルギーとし、同じ面積で当たる矢印の数で比べる。</li> <li>・ 教科書P. 151の「チャレンジ」を行ってもよい。</li> <li>・ 四季が訪れない理由を考えることで、日本に四季が訪れる理由についてより理解させる。</li> </ul> <p>【評】 四季が訪れない国がある理由について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】

ここでは、同じ時刻に見える星座の位置が変わるのは、地球の公転による見かけの動きであることを理解させる。また、太陽の南中高度や、日の出、日の入りの時刻などが季節によって変化することを、地球の公転や地軸の傾きと関連付けて理解させることがねらいである。

例えば、同じ時刻に見える星座の位置を一定期間ごとに観察させ、星座の位置が東から西へ少しずつ移動することに気付かせる。そして、観察記録を、太陽を中心とした地球の公転と関連付けて考察させる。また、例えば、太陽を中心に公転する地球とその外側にそれぞれの季節の代表的な星座を描いた図を配したモデルを活用し、地球のモデルを動かすことにより、見える星座が変わっていくことから、年周運動と地球の公転の関連を理解させる。その上で、ある時刻のある方位に見える星座が季節によって異なることを説明させることなどが考えられる。「日周運動と自転」と同様、観察者の視点（位置）を公転する地球の外に移動させて考えさせることが大切である。その際、コンピュータシミュレーションを用いて視覚的に捉えさせるなどの工夫が考えられる。

地軸の傾きについては、例えば、季節ごとに太陽の南中高度を継続的に観測させ、それらの年周的な変化を、地軸が傾いていることと関連付けて理解させることが考えられる。その際、太陽の南中高度の変化に伴う昼夜の長さや気温の変化に触れ、さらに、四季の生じる理由を取り上げることなどが考えられる。

## 単元名 月や惑星の動きと見え方(2分野 単元3－3章)

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、月や惑星の運動と見え方についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。

(2) 月や惑星の動きと見え方について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、月や惑星の動きと見え方についての特徴や規則性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど科学的に探究することができる。

(3) 月や惑星の動きと見え方に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240204\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 月の形は、太陽・地球・月の位置関係により変化することを理解する。</p> <p>★月の形が変わる理由を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見たことのある月を出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・満月 ・半月 ・三日月</li> </ul> </li> <li>○日によって月の見え方が違う理由を考える。</li> </ul> <p>○月の公転について知る。</p> <p>○月の見え方の変化にどんな規則性があるのか調べるための条件を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ時刻で観察する。</li> <li>・同じ方角を観察する。</li> <li>・同じ形を観察する。</li> </ul> </p> <p>2 月の位置と形の変化を調べる。</p> <p>★月の満ち欠けの規則性を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の計画に従って月の観察を行う。</li> </ul> <p>○月の満ち欠けの規則性について話し合う。</p> <p>○太陽・地球・月の位置関係と月の満ち欠けについてまとめる。</p> <p>3 日食や月食が起こる原因を理解する。</p> <p>★日食や月食が起こるときの、太陽・地球・月の位置関係を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日食や月食がどんな現象か知っていることを話し合う。</li> </ul> <p>○太陽・地球・月の位置関係から、日食や月食が起こる仕組みを考える。</p> <p>4～6 金星の見える位置や形の変化について調べる計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○惑星について知る。</li> </ul> <p>★金星の見える位置や形の変化を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○金星がどのように見えるか話し合う。</li> </ul> <p>○金星の見える方や見える位置の変化にどんな規則性があるのか調べる方法を考える。</p> <p>○天体望遠鏡の使い方を知る。</p> <p>○計画に従って観察を行う。</p> <p>○規則性について話し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの見た月を想起させる。</li> </ul> <p>・月は太陽の光を反射して輝いていることを押さえ、太陽と月と地球の位置関係が理由であることに気付かせる。</p> <p>【評】日によって月の見え方が違う理由を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書P.154の図1のように、太陽・地球・月の位置関係や公転の向き、公転周期などを押さえる。</p> <p>・方角や時刻、形など、何かを固定して調べることで規則性が調べられることを押さえる。</p> <p>・コンピュータソフトを用いて観察を行うとよい。</p> <p>・同じ時刻で観察をした場合、太陽から離れると丸くなり、近づくと細くなることに気付かせる。</p> <p>【評】月の満ち欠けの規則性について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P.157の図4のような図を用いて、規則性と照らし合わせながら位置関係を確認していく。</p> <p>・教科書P.157の「チャレンジ」に取り組みせるとよい。</p> <p>・なぜ見えなくなるのかを考えさせることで、重なっていることに気付かせたい。</p> <p>・太陽・地球・月の大きさや距離を縮小した模型を用意すると考えやすい。</p> <p>【評】太陽・地球・月の位置関係から、日食や月食が起こる仕組みを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書「疑問から探究してみよう」のページは、探究の過程を振り返る活動を重視する。</p> <p>・教科書P.160の図9を使って説明する。</p> <p>・月の見え方と同じように、太陽・地球・金星の位置関係で考えることができることを押さえる。</p> <p>・月の規則性を調べる計画を想起させる。</p> <p>【評】金星の見える方や見える位置の変化にどんな規則性があるのか調べる方法を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・実際に観察できない場合は、コンピュータソフトを用いて観察を行わせる。</p> <p>・規則性を導き出せなかったり、規則性を証明</p> |

|   |   |
|---|---|
| <p>○金星の位置と形の変化についてまとめる。</p> <p>○金星の位置と形の変化を再現する方法を話し合う。</p> <p>7 金星の位置と形の変化について再現し、理解する。<br/>★金星の位置と形の変化についてまとめよう。<br/>○前時の計画を基に再現する実験を行う。<br/>○金星の見え方についてまとめる。</p> <p>8 惑星の位置と見え方について理解する。<br/>★金星以外の惑星の見え方をまとめよう。<br/>○火星や木星の動きを観察する。<br/>○火星や木星の動きについてまとめる。</p> <p>○太陽系について知る。</p> | <p>するのに不十分だった場合は、もう一度観察を行わせる。</p> <p>【評】金星の見え方や見える位置の変化にどんな規則性があるのか話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月と同様に形が変わっているのではなく、見え方が変化していることを押さえる。</li> <li>・見た目の大きさが変化していることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】金星の位置と形の変化についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月の満ち欠けを再現した時のことを想起させる。</li> <li>・観察者が地球であることを押さえる。</li> <li>・イラストや写真を用いてまとめさせるとよい</li> </ul> <p>【評】金星の見え方についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータソフトを用いて観察させる。</li> <li>・地球より太陽の外側にある惑星であることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】火星や木星の動きについてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
|---|---|

#### 【 備 考 】

ここでは、月が約1ヶ月周期で満ち欠けし、同じ時刻に見える位置が毎日移り変わっていくことを、月が地球の周りを公転していることと関連付けて理解させるとともに、金星の観測資料などから、金星の見かけの形と大きさの変化を、金星が地球の内側の軌道を公転していることと関連付けて理解させることがねらいである。

月の運動と見え方については、例えば、日没直後の月の位置と形を継続的に観察し、その観察記録や写真、映像などの資料を基に、月の見え方の特徴を見いだし、それを太陽と月の位置関係や月の運動と関連付けて考察し理解させる。また、日食や月食が月の公転運動と関わって起こる現象であることにも触れる。

金星の運動と見え方については、観測資料を基に金星の見かけの形と大きさが変化することを見いだしさせる。その上で、例えば、地球から見える金星の形がどのように変化するかという課題を解決するため、太陽と金星の位置関係に着目してモデル実験の計画を立てて調べさせる。その後、課題に対して実験方法や考察が妥当であるか探究の過程を振り返らせることが考えられる。その際、観察者の視点（位置）を移動させ、太陽、金星、地球を俯瞰するような視点と、地球からの視点とで考えさせることが大切である。

<参考URL>

10min. ボックス 理科2分野 月と惑星の満ち欠け <https://www.nhk.or.jp/school/>

金星の満ち欠けの原理（理科ネットワーク） <https://rika-net.com/>

## 単元名 太陽系と恒星(2分野 単元3－4章)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、太陽の様子、惑星と恒星についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。

(2) 太陽系と恒星について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、太陽系と恒星についての特徴や規則性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど科学的に探究することができる。

(3) 太陽系と恒星に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240205\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 太陽がどのような天体か調べる。</p> <p>★太陽について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○太陽について知っていることを話し合う。</li> <li>○太陽の表面の調べ方を知る。</li> <li>○太陽の表面を望遠鏡で調べる。</li> </ul> <p>2 太陽がどのような天体かまとめる。</p> <p>★太陽についてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○望遠鏡での観察結果を基に話し合う。</li> <li>○太陽のつくりと活動の様子をまとめる。</li> </ul> <p>3～4 太陽系の惑星と惑星以外の天体について理解する。</p> <p>★太陽系と太陽系の外側の天体について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○太陽系の天体について調べる。</li> <li>○調べた天体について発表する。</li> <li>○地球型惑星と木星型惑星の特徴について考える。</li> <li>○太陽系の惑星以外の天体について知る。</li> </ul> <p>5 太陽系の外側の天体や銀河系などについて理解する。</p> <p>★太陽系の外側の天体や銀河系などについて調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○太陽系の外側にある天体の写真を集める。</li> <li>○太陽系の外側にある天体についてまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽について興味関心をもたせる。</li> <li>・教科書P.172の「やってみよう」を参考にする。</li> <li>・絶対にファインダーや接眼レンズを直接のぞいてはいけないことを指導する。</li> <li>【評】太陽の表面を望遠鏡で調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・用語「黒点」について押さえる。</li> <li>・黒点の動きから太陽が球形であることや活動の活発さの指標になっていることを押さえる</li> <li>・教科書P.174の図4と図5を参考にさせる。</li> <li>・太陽の大きさを地球と比べて捉えさせる。</li> <li>【評】太陽のつくりと活動の様子をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・本やインターネットで調べさせる。</li> <li>・一人一つ天体を選ばせる。</li> <li>・調べる項目を決めておくことよい。</li> <li>・プロジェクターや電子黒板を使い、作った資料を見せながら発表させるとよい。</li> <li>【評】太陽系の天体について調べて発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・発表した内容を基にグループ分けをさせる。</li> <li>・何に注目して分けたかを押さえる。</li> <li>【評】地球型惑星と木星型惑星の特徴について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・「小惑星」「太陽系外縁天体」「衛星」「彗星」について押さえる。</li> <li>・インターネットを使って写真を集めさせる。</li> <li>・あらかじめ、星雲や星団、銀河などの調べる対象を決めさせておく。</li> <li>【評】写真を集める活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・天の川と銀河系のつくりやアンドロメダ銀河について押さえる。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

太陽の様子については、観察記録や資料に基づいて、太陽は太陽系で最も大きいこと、自ら光を放出している天体であること、球形で自転していることを見いだして理解させることがねらいである。

例えば、天体望遠鏡で太陽表面の黒点の観察を数日行い、それらの観察記録や写真、映像などの資料を基に、太陽表面の特徴を理解させる。その際、黒点の形状や動きなどの様子から、太陽は球形で自転していることを見いだして理解させることが考えられる。また、太陽から放出された多量の光や熱のエネルギーは、地球における大気の運動や生命活動に影響を与えていることにも触れる。なお、太陽の観察に当たっては、望遠鏡で直接太陽を見ることのないよう配慮する必要がある。

惑星と恒星については、観測資料などを基に、惑星と恒星などの特徴を見いだして理解させるとともに、太陽系の構造を理解させることがねらいである。

惑星の特徴については、大きさ、密度、大気組成、表面温度、衛星の存在を取り上げる。また、各惑星の特



徴を理解させるためには、惑星探査機や大型望遠鏡による画像などを活用することが考えられる。惑星は大きさによって、地球を代表とするグループと木星を代表とするグループに分けられることを見いださせ、大気組成や表面温度を比較することによって地球には生命を支える条件が備わっていることにも触れる。

太陽系の構造を取り上げる際に、太陽や各惑星の位置や大きさの関係をモデルとして表すことは、太陽系の構造を概観するために効果的である。さらに、太陽系には惑星以外にも、小惑星や彗星、冥王星などの天体が存在することにも触れる。

恒星の特徴については、自ら光を放つこと、太陽も恒星の一つであることを理解させる。また、太陽以外の恒星を観察しそれらが点にしか見えないことや常に相互の位置関係が変わらないことから、恒星は、太陽系の天体と比べて極めて遠距離にあることに気付かせて理解させる。その際、恒星が集団をなし銀河系を構成していることにも触れる。

## 単元名 力の規則性(1分野 単元4－1章)

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 力のつり合いと合成・分解を日常生活や社会と関連付けながら、水中の物体に働く力、力の合成・分解について基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。

(2) 力のつり合いと合成・分解について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力のつり合い、合成や分解の規則性や関係性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。

(3) 力のつり合いと合成・分解に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240206\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 水圧の働く向きや水の深さと水圧との関係を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手にポリエチレンの袋をかぶせて水に入れ、そのときの様子を話し合う。</li> <li>★水圧はどのように水中の物体に働くのか調べよう。</li> <li>○水圧の働く向きや、水の深さと水圧の関係を予想する。</li> <li>○水圧の働く向きや、水の深さと水圧の関係を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・向き……水中の物体にはあらゆる向きから水圧が働く</li> <li>・水圧はあらゆる物体の面に垂直に働く。</li> <li>・深さ……深いところほど大きい。</li> </ul> </li> </ul> <p>2 水の深さと水圧との関係について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の結果を振り返る。</li> <li>★深さが深いほど水圧が大きくなる理由を考えよう。</li> <li>○深さが深いほど水圧が大きくなる理由について話し合う <ul style="list-style-type: none"> <li>・水圧は上にある水の重さによって生じるため、深くなるほど大きくなる。</li> </ul> </li> </ul> <p>3 浮力について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ものが水中から浮き上がる現象を観察し、浮き上がる理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・浮力……水中の物体に働く上向きの力</li> </ul> </li> <li>★浮力の大きさは何によって決まるのか調べよう。</li> <li>○浮力の大きさは何によって決まるか話し合い、仮説を立てる。</li> <li>○仮説を確かめるための実験を計画する。</li> <li>○力の大きさは何によって決まるか確かめる実験を行い、結果をまとめる。</li> </ul> <p>4 水中に沈んだ物体の体積や深さと、浮力の大きさとの間にある関係性についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★浮力の大きさは何によって決まるのかまとめよう。</li> <li>○前時の実験結果を基に話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水中にある部分の体積が大きいほど浮力は大きくなる</li> <li>・物体を沈める深さは関係ない。</li> <li>・物質の質量は関係ない。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 189の図1を実際に行わせ、空気中との違いを話し合わせる。</li> <li>・手にポリエチレンの袋をかぶせて水に入れたときの様子から考えさせる。</li> <li>・水圧実験器のイラストを用いて、どのようにへこむか予想させてもよい。</li> <li>・水圧実験器の深さや向きを変えながら実験するように助言する。</li> <li>・教師による演示実験を生徒に観察させてもよい。</li> </ul> <p>【評】水圧の働く向きや水の深さと水圧の関係を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストを用いて振り返ることで、分かりやすくする。</li> <li>・第2学年の「気象観測（気圧）」の学習を想起させる。</li> <li>・教科書P. 189の図2の実験を見せるとイメージさせやすい。</li> <li>・下向きの水圧だけでなく、上下左右あらゆる向きの水圧が大きくなることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】深さが深いほど水圧が大きくなる理由について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 192の図8のような現象を演示する</li> <li>・ピンポン球とビーチボールでは沈めるときに必要な力の大きさが違うことを想起させる。</li> <li>・船の様に中に空気が閉じ込められていないものでも浮力が受けられることに気付かせる。</li> </ul> <p>【評】浮力について話し合い、仮説を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ばねばかりを使うなど、量的に比較することを押さえる。</li> </ul> <p>【評】仮説を確かめるための実験を計画する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金属を使った場合はさびないように、使用後は水を拭き取りよく乾燥させる。</li> <li>・前時に立てた仮説に沿って実験結果を分析させる。</li> <li>・水圧の大きさに関係するものだけではなく、水圧に関係すると考えていたが関係しなかったものにも触れる。</li> </ul> <p>【評】実験結果を基に、浮力の大きさが何によって決まるか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

|  |  |
|--|--|
| <p>○水圧が体積によって決まる理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物体の上面に働く水圧より下面に働く水圧の方が大きい<br/>ため、浮力が働く。体積が大きくなると、上面と下面の<br/>差が大きくなるので浮力が大きくなる。</li> </ul> <p>5 一直線上に働く二つの力の合力の規則性を理解する。</p> <p>○力の合成、合力について知る。</p> <p>★一直線上に働く二つの力の合力を求めよう。</p> <p>○一直線上に働く力の合力を調べる実験を行う。</p> <p>○一直線上に働く力の合力についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ向きの場合は、二つの力の大きさの和</li> <li>・反対向きの場合は、二つの力の大きさの差</li> <li>・反対向きの場合は、大きい方の力と同じ向きになる。</li> </ul> <p>6 異なる方向に働く二つの力の合力の規則性を理解する。</p> <p>★異なる方向に働く二つの力の合力を求めよう。</p> <p>○異なる方向に働く二つの力の合力の大きさと向きを考え<br/>る。</p> <p>○実験方法を知る。</p> <p>○実験を行い、結果をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四点を結ぶと平行四辺形になる。</li> <li>・合力は二つの力の和より小さくなる。</li> </ul> <p>7 異なる方向に働く力の合力の求め方を理解する。</p> <p>★異なる方向に働く三つの力を合成しよう。</p> <p>○異なる方向に働く二つの力の合力の求め方を知る。</p> <p>○異なる方向に働く二つの力の合力を図に表す。</p> <p>○異なる方向に働く三つの力の合力の求め方を知り、図に<br/>表す。</p> <p>8 分力の規則性を理解する。</p> <p>★力を分解しよう。</p> <p>○一つの力を二つの力に分ける方法を考える。</p> <p>○力の分解の方法、分力について知り、図に表す。</p> <p>○斜面上の物体に働く力について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面に対して平行方向に働く分力</li> <li>・斜面に対して垂直方向に働く分力</li> <li>・垂直抗力</li> <li>・摩擦力</li> </ul> <p>○斜面上の物体に働く重力の分力を図に表す。</p> | <p>・教科書P. 195の図11のイラストを参考に考え<br/>させるとイメージしやすい。</p> <p>【評】水圧が体積によって決まる理由を考える<br/>活動を通して、「主体的に学習に取り組む態<br/>度」を評価する。</p> <p>・二人で荷物を持つと一人分の力が軽くなるこ<br/>とや、大きな山車を多くの人で引くことで動<br/>かすことができることを想起させる。</p> <p>・教科書P. 197の「参考」を行わせる。</p> <p>・複数回、いろいろな力の大きさで実験を行う<br/>ことで、より正確な結果を得ることができる<br/>ことを押さえる。</p> <p>・イラストに矢印を入れるなど、力の向きを視<br/>覚化すると分かりやすい。</p> <p>【評】一直線上に働く力の合力についてまと<br/>める活動を通して、「思考・判断・表現」を評<br/>価する。</p> <p>・教科書P. 198の「調べよう」を参考に、二人<br/>で荷物を持ったときの力の向きによる違いを<br/>体験させる。</p> <p>・いろいろな角度で実験を行うと規則性を見つ<br/>けやすいことを伝える。</p> <p>・二つのばねばかりの角度が大きすぎたり小さ<br/>すぎたりすると結果が分かりにくくなること<br/>を伝える。</p> <p>・誤差を加味した上で、四点を結んだ図形がど<br/>んな図形に見えるか考えさせるとよい。</p> <p>【評】異なる方向に働く二つの力の合力の規則<br/>性を調べる活動を通して、「思考・判断・表<br/>現」を評価する。</p> <p>・三角定規二本を用いて直角を作ること意識<br/>させ、一方をスライドさせることで平行線を<br/>引く感覚をつかませるとよい。</p> <p>・教科書P. 201の「演習しよう」(a) (b)<br/>に取り組ませる。</p> <p>・力を二つにすると合力が求められることから<br/>三つを二つにすればよいことに気付かせる。</p> <p>・教科書P. 201の「演習しよう」(c)に取り<br/>組ませる。</p> <p>【評】異なる方向に働く複数の力の合力を図に<br/>表す活動を通して、「知識・技能」を評価す<br/>る。</p> <p>・荷物を二人で持ち上げる場面などを想起させ<br/>る。</p> <p>・力の合成で用いた平行四辺形の作図を参考に<br/>して考えさせる。</p> <p>・作図に慣れさせるため、自分で問題を作成さ<br/>せる。</p> <p>【評】力の分解を図に表す活動を通して、「知<br/>識・技能」を評価する。</p> <p>・斜面上の物体に働く力は、五種類あることに<br/>気付かせる。</p> <p>【評】斜面上の物体に働く力について考える活<br/>動を通して、「主体的に学習に取り組む態度<br/>」を評価する。</p> <p>・教科書P. 204の「演習しよう」に取り組ませ<br/>る。</p> |
|--|--|

# 【 備 考 】

ここでは、水中の物体に働く力、力の合成・分解について、見通しをもって観察、実験を行い、その結果を分析して解釈し、水中で圧力が働くことや物体に働く水圧と浮力との定性的な関係を理解し、合力や分力の規則性を見いだして理解させるとともに、力のつり合いと合成・分解に関する観察、実験の技能を身に付けさせることが主なねらいである。

水中の物体に働く力については、水圧に関する実験を行い、大気圧の学習と関連付けて水中では水圧が働くことを理解させるとともに、水中にある物体には浮力が働くことを理解させることがねらいである。

水圧については、観察、実験を通して、それが水の重さによることを関連付けて理解させる。また、水中にある物体にはあらゆる向きに圧力が働くことに触れる。例えば、ゴム膜を張った円筒を水中に沈める実験を行い、

深いところほどゴム膜のへこみが大きくなることから、水圧と水の深さに関係があることを捉えさせることが考えられる。このとき、ゴム膜の上にある水がゴム膜に力を及ぼしており、水圧は水の重さによって生じていることを理解させる。また、ゴム膜の向きを変えたときのへこみ方から、水圧があらゆる向きに働いていることにも気付かせるようにする。浮力については、例えば、ばねばかりにつるした物体を水中に沈めると、ばねばかりの示す値が小さくなることなどから、浮力が働くことを理解させる。このとき、浮力を、例えば水中にある直方体や円柱などの物体の上面と下面の水圧の差から定性的に捉えさせる。

力の合成・分解については、力の合成と分解についての実験を行い、その結果を分析して解釈し、力の合成と分解の規則性を理解させることがねらいである。その際、2力のつり合いの条件を基にして、力の合成と分解についての実験を行い、合力や分力の間の規則性を理解させる。例えば、ばねなどを同じ長さだけ伸ばす実験を一つの力や二つの力で行い、一つの力と同じ働きをする2力があることに気付かせる。その上で、ばねの力とつり合う他の2力のそれぞれの大きさと向きを調べさせ、その結果を、作図を用いて分析して解釈し、2力の合成について理解させる。さらに、力の合成の考え方とは逆に、一つの力と同じ働きをする二つの力を考えることができることから、一つの力は向きの異なる2つの力に分解できることを理解させる。この学習では、日常生活で目にする事物・現象と関連させながら様々な力が働いていることに気付かせるようにすることが大切である。

<参考URL>

力学の扉（理科ネットワーク：国立科学技術振興機構） <https://rika-net.com/>

力の合成・分解（理科映像教材コンテンツ） <https://www.torikyo.ed.jp/rika/>

## 単元名 力と運動(1分野 単元4ー2章)

配当時間 11時間

- 単元の目標 (1) 運動の規則性を日常生活や社会と関連付けながら、運動の速さと向き、力と運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 運動の規則性について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。
- (3) 運動の規則性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240207\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 速さについて理解する。</p> <p>★物体の運動について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○物体の運動を調べるためには、運動している物体の何に着目すればよいか考える。</li> <li>○さまざまな運動の例を基に、運動している物体の向きや速さがどのように変化しているか話し合う。</li> <li>○数値による速さの表し方を知る。</li> <li>○平均の速さと瞬間の速さの違いを知る。</li> <li>○速さの計算練習をする。</li> </ul> <p>2 記録タイマーの仕組みと、打点間隔による速さの求め方について理解する。</p> <p>★記録タイマーの使い方を身に付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○物体の運動のようすを記録する方法を考える。</li> <li>○記録タイマーの仕組みと使い方について知る。</li> <li>○記録用テープの処理の仕方と、0.1秒ごとの速さの求め方について知る。</li> </ul> <p>3 運動する物体の速さが時間とともにどのように変わっているかを理解する。</p> <p>★手を引いたときの手の速さの変化を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○記録用テープの打点間隔と、物体の速さとの間にはどのような関係があるか考える。</li> <li>○記録タイマーを使って手の運動を調べる。</li> <li>○打点が記録されたテープを処理する。</li> <li>○手の運動は、どのような速さの変化が生じたか考える。</li> </ul> <p>4～6 物体に働く力の大きさと速さの変化との間にある関係性を見いだす。</p> <p>★物体に働く力の大きさと速さの変化との関係を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○物体に力が働き続けた場合、物体はどのような運動をするか話し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動とは、スポーツを意味する運動に限らずさまざまな物体の動きのことを指すことを押さえる。</li> <li>・教科書P.207の「話し合おう」を基に考えさせる。</li> <li>・部活動等の身近な場面写真を使って考えさせる方法もある。</li> <li>【評】運動している物体の向きや速さがどのように変化しているか話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</li> <li>・単位の変換についても確認させるとよい。</li> <li>・瞬間とは限りなく0に近い短い時間であること、また、小学校で学んだ速さは平均の速さであることに気付かせる。</li> <li>・教科書P.208の「演習しよう」に取り組ませる。</li> <li>・ストロボスコープ等を用いて、手の運動などを演示して見せるとよい。</li> <li>・打点の時間間隔は、交流の周波数によってきまるため、知多半島（おもに西日本）では、60分の1秒ごとに1打点を付けるようになっていることを押さえる。</li> <li>・Hzという単位の意味についても押さえる。</li> <li>・6打点間隔が0.1秒間の移動距離であることを押さえる。その際、7打点と6打点間隔となることを押さえておくと、テープを処理する際のミス軽減につながる。</li> <li>【評】記録用テープの処理の仕方と、0.1秒ごとの速さの求め方についてまとめる活動を通して、「知識・理解」を評価する。</li> <li>・打点間隔、移動距離、速さなどの科学用語の意味を一つ一つ押さえながら考えさせる。</li> <li>・だんだん速くする、だんだん遅くするなどさまざまなパターンで運動を記録させるとよい</li> <li>・打点が記録されたテープは、6打点間隔（0.1秒間隔）ごとに鉛筆で印を付け、番号を振らせておくと、切り取った後に順番に並べやすいことを伝える。</li> <li>・罫線を活用して、テープをまっすぐノートに貼らせる。</li> <li>【評】記録タイマーを使って手の運動を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・加速、減速、等速などの用語について触れておくとよい。</li> <li>・教科書「疑問から探究してみよう」のページは、探究の過程を振り返る活動を重視する。</li> <li>・自転車をこいでいるときや坂道を下っているときの様子を想起させる。</li> <li>・教科書P.213の「やってみよう」に取り組ま</li> </ul> |

- 一定の力が働いているときの運動について知る。
- 物体に働く力の大きさと速さの変化との関係について仮説を立て、実験を計画する。
- 物体に働く力の大きさと速さの変化との関係について調べる。
- 実験結果をまとめる。
- 実験結果を基に、物体に働く力の大きさと速さの変化との関係について話し合う。
- 物体に働く力の大きさと速さの変化との関係についてまとめる。
  - ・物体に働く力が大きくなるほど速さは増す。
  - ・物体に力が働き続けているとき、速さは増し続ける。
- 7 物体に働く力の大きさと速さの変化との間にある関係性について理解を深める。
  - ★斜面の角度を大きくしたときの物体にかかる力の大きさと運動について考えよう。
  - 斜面角度を大きくしていったとき、速さと運動がどうなるか話し合う。
  - 落下運動について知る。
  - 速さが減っていく運動について考え、まとめる。
- 8 物体の運動の向きに力が働かないときの物体の速さの変化の規則性を調べる方法を見いだす。
  - ★力が働かない物体の運動について考えよう。
  - 力が働かない物体の運動について仮説を立てる。
  - 仮説を確かめる実験を計画する。
- 9 等速直線運動について理解する。
  - ★力が働かない物体の運動について調べよう。
  - 水平面上での台車の運動を調べる。
  - 打点が記録されたテープを処理し、グラフをかく。
  - 結果を基に、水平面上での台車の運動について話し合う

- せてもよい。
- ・教科書P. 214の図10, 11を見て考えさせるとよい。
- ・第3時に打点を記録したテープから、力と速さの関係性について考えさせる。
- ・教科書P. 213の「やってみよう」では難しいことを確認させる。
- ・1章で学習した、斜面上の物質に働く力を想起させる。
- 【評】物体に働く力の大きさと速さの変化との関係について仮説を立て、実験を計画する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・台車に働く力の大きさを測定するとき、ばねばかりが常に斜面に平行になるように指導する。
- ・仮説と違う結果が出た場合は、もう一度実験方法を見直したり、実験が正しく行われたか確認したりするなど、探究の過程を振り返らせる。
- ・斜面を下る台車の速さを計算し、時間と速さとの関係をグラフに表させるとよい。
- 【評】物体に働く力の大きさと速さの変化との関係について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・斜面の角度ではなく、物体に働く力に注目させる。
- 【評】物体に働く力の大きさと速さの変化との関係について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・働いている力の大きさが同じなら、速さの増し方が変わらないことを押さえる。
- ・前時の結果を想起させる。
- ・斜面の角度が $90^\circ$ を超えたらどうなるのか考えさせる。
- ・落下するときにはどんな力が働いているのか考えさせる。
- ・自由落下についても押さえる。
- ・教師による落下運動の演示実験を行い、速さの変化についてまとめさせる。
- ・速さが増す運動を参考に考えさせる。
- ・速さが増えるときと同じで、働き続けているとき、速さが減っていることを押さえる。
- ・摩擦力についても説明する。
- ・これまでに学習した、運動の向きに力が働く運動と反対向きに力が働く運動の様子を想起させる。
- ・ドライアイスの運動を観察させるとよい。
- ・これまでの実験で使ってきたもので考えさせる。
- ・摩擦力が働くことを想定した実験計画を立てさせる。
- ・なるべく摩擦の少ない場所で行わせる。
- ・台車を押す手が離れたところから処理させる
- ・時間と速さとの関係、時間と移動距離との関係の2種類のグラフを描かせる。なお、テープから求めた速さは、各区間の平均の速さといえるため、点を打つ場所に注意させる。
- 【評】水平面上での台車の運動を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・摩擦が0ではないため、完全な等速とはならないことを補足する。
- 【評】水平面上での台車の運動について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評

- 等速直線運動について知る。
- 10 慣性について理解する。
  - 電車が動き始めたとき、またブレーキをかけたときには中に乗っている人はどのような運動をするか考える。
  - ★ 電車の中でボールを離すとどうなるか考えよう。
  - 慣性と慣性の法則について知る。
  - 電車の中でボールを静かに離れたときのボールの運動について考える。
- 慣性に関わる実験を行う。
- 11 作用と反作用について理解する。
  - ★ 二つの物体間で働き合う力について考えよう。
  - ボートに乗っている人が、他のボートを押したときの運動について考える。
- 二つの物体間で、力がどのように働いているか考える。
- 作用反作用についてまとめる。

価する。

- ・ 走っている自動車の中など、日常生活を想起させて考える。
- ・ 慣性と慣性の法則の違いを押さえる。
- ・ 教科書P. 226の「考えよう」に取り組ませる

【評】 電車の中でボールを静かに離れたときのボールの運動について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 教科書P. 226の「活用しよう」に取り組ませる。

- ・ 片方が押した場合と両方が押した場合を考えさせると、力がどのように加わっているかイメージしやすい。
- ・ 力を矢印で表して考えてもよい。
- ・ 実際に、台車などに乗って壁や人を押す実験を行ってみるとよい。
- ・ 進行方向に力が加わらないと物体は動かないことから反作用の存在に気付かせたい。
- ・ 作用反作用と力のつり合いの違いについて押さえる。

【評】 作用反作用についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

# 【 備 考 】

ここでは、物体の運動に関する現象について、日常生活や社会と関連付けながら、見通しをもって観察、実験を行い、その結果を分析して解釈し、物体に働く力と物体の運動の様子、物体に力が働くときの運動と働かないときの運動についての規則性を見いだして理解させることが主なねらいである。その際、力と運動に関する観察、実験の技能を身に付けさせる。

運動の速さと向きについては、物体の運動の様子を詳しく観察し、物体の運動には速さと向きの要素があることを理解させることがねらいである。例えば、日常生活の中で見られる物体の多様な運動の観察を通して、物体の運動には速さと向きの要素があることを理解させる。このとき、振り子、放物運動をする物体、車などの物体の運動について、デジタルカメラで連続撮影した画像、ストロボ写真で撮影した画像、録画した動画のコマ送り画像を提示するなど、映像などを活用することによって、より効果的に生徒の理解を促す工夫をすることも考えられる。その際、物体に働く力と物体が運動することに関連して、力は物体同士の相互作用であることに気付かせ、物体に力を加えると力が働き返されることを日常生活や社会の経験と関連付けて理解させる。例えば、ローラースケートを履いた人同士で、一人がもう一人に力を働かせると二人とも動き出すことなどの体験と関連させ、互いに力が働き合うことに気付かせるとも考えられる。その際、作用・反作用の働きについて触れる。

力と運動については、運動の様子を記録する方法を習得させるとともに、物体に力が働くときの運動と働かないときの運動についての規則性を見いだして理解させることがねらいである。例えば、力学台車などを滑らかな水平面上で運動させ、一定の大きさの力を水平に加えたときの運動と力を加えないときの運動を比較する。また、加える力の大きさをいろいろと変えたときの運動の様子を予想して実験を行い、その結果を分析して解釈し、加える力が大きいほど速さの変わり方も大きいことを理解させる。それらの運動を記録タイマーで記録したテープから単位時間当たりの移動距離を読み取らせ、結果を表やグラフにして、それらを用いて分析して解釈し、「時間と速さ」の関係や「時間と移動距離」の関係の規則性を見いだして理解させる。そして、物体に力を加え続けたときには、時間の経過に伴って物体の速さが変わることを理解させる。このとき、課題に対して実験方法や考察が妥当であるか検討したり、新たな問題を見いだしたりするなど探究の過程を振り返らせることが考えられる。

一方、物体に力が働かないときには、運動している物体は等速直線運動を続け、静止している物体は静止をし続ける性質があること、すなわち、慣性の法則を理解させる。落下運動については、斜面に沿った台車の運動を中心に調べ、斜面上の台車の運動と斜面上を動く台車に働く力の大きさについて、実験を計画して行い、その結果を分析して解釈する活動が考えられる。その際、一定の力を加え続けた場合の水平面上の物体の運動と比較するなど探究の過程を振り返らせることも考えられる。また、斜面の角度が  $90^\circ$  の場合は自由落下となり、速さの変わり方が最も大きくなることについても触れる。なお、運動の変化の様子については、記録タイマーなどによる測定結果の考察だけでなく、物体の運動の様子を直接観察したり、録画した映像で確認したりして、その傾向を捉えさせる。

<参考URL>

力と運動 (理科ネットワーク) <https://rika-net.com/>  
 10min. ボックス 理科1分野 力の働き <https://www2.nhk.or.jp/school1/>

## 単元名 仕事とエネルギー(1分野 単元4-3)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 力学的エネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 力学的エネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究することができる。
- (3) 力学的エネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240208\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 理科でいう仕事について理解する。</p> <p>★仕事を求めよう。</p> <p>○理科でいう仕事について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物体に力を加えて、その力の向きに動かしたときの、力の大きさと力の向きに動いた距離との積をいう。</li> <li>物体に力を加えて、その力の向きに動かしたとき、力が物体に仕事をした、あるいは物体が力に仕事をされたという。</li> </ul> <p>○仕事の求め方について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事(J) = 力の大きさ(N) × 力の向きに動いた距離(m)</li> </ul> <p>○仕事の大きさを求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水平面上で摩擦が働かない場合</li> <li>水平面上で摩擦が働く場合</li> <li>重力のする仕事</li> <li>物体を持ち上げる仕事</li> </ul> <p>2～3 道具を使ったときの仕事の大きさについて理解する。</p> <p>★動滑車を使ったときの力の大きさと仕事の大きさを調べよう。</p> <p>○なぜ道具を使うのか考える。</p> <p>○動滑車を使ったときの仕事を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>力の大きさが2分の1倍になる。</li> <li>引っ張る距離が2倍になる。</li> </ul> <p>○動滑車を使ったときの仕事の大きさについて考える。</p> <p>○仕事の原理について知る。</p> <p>4 仕事率について理解する。</p> <p>★仕事率を求めよう。</p> <p>○ビルの屋上まで荷物を持ち上げる場合、エレベーターを使う場合と階段を使う場合とでは、どちらが短い時間で作業を終えられるか考える。</p> <p>○仕事率について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><math>W = J / s</math></li> </ul> <p>○仕事率の演習問題に取り組む。</p> <p>5 位置エネルギーの大きさは何に関係しているか調べる方法を見いだす。</p> <p>★位置エネルギーの大きさは何によって決まるか考えよう。</p> <p>○どんな落下運動があるか話し合う。</p> <p>○位置エネルギーの大きさは何によって決まるか仮説を立てる。</p> <p>○仮説を確かめる実験の計画を立てる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活でいう仕事について、普通どのような意味で使われているか話し合わせるとともに、理科では限られた意味で使われることを知らせる。</li> <li>仕事の向きと動く向きが異なる場合の仕事について説明する。</li> <li>仕事の単位は、熱量や電力量の単位と同じであることを説明する。</li> <li>説明と練習問題を混ぜながら指導するとよい。</li> <li>力を矢印で表させることにより、力の向きが分かるようにする。</li> <li>【評】仕事の大きさを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>力の大きさや仕事に関係していることを押さえる。</li> <li>メジャーやものさしをスタンドに固定すると測定しやすい。</li> <li>何cm糸を引いたか分かるように、どこで目盛りを読み取るか決めておく。</li> <li>【評】動滑車を使ったときの仕事を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>動滑車は、2本の糸で物体を引き上げるため糸を引く力の大きさは、物体に働く重力の大きさの2分の1倍になることを説明する。</li> <li>【評】動滑車を使ったときの仕事の大きさについて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>道具の質量や摩擦などの影響を考えない場合に成り立つことを説明する。</li> <li>道具を使ったほうが、仕事の効率がよいことに気付かせる。</li> <li>1馬力=約740W, 1000W=1kWなどの単位の変換について触れてもよい。</li> <li>教科書P.237の「考えよう」, 「演習しよう」に取り組ませる。</li> <li>【評】仕事率を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>いろいろな落下運動を出し合う中で、どの落下運動のエネルギーが大きいと考えさせ、仮説につなげる。</li> <li>ここでは、落下運動がもつエネルギーを位置エネルギーということにする。</li> <li>位置エネルギーの大きさを直接測定することは難しいため、位置エネルギーによって行われた仕事を位置エネルギーとして測定することを伝える。</li> <li>定量的に位置エネルギーを表すためには、教</li> </ul> |



- 6 位置エネルギーについて理解する。  
★位置エネルギーの大きさが何によって決まるか調べよう  
○前時に立てた計画に沿って位置エネルギーについて調べる。
- 実験結果をまとめる。
- 実験結果を基に、位置エネルギーが何によって決まるか考える。  
・位置エネルギーの大きさは、高さが高いほど大きく、質量が大きいほど大きい。
- 位置エネルギーについてまとめる。
- 7 運動エネルギーについて理解する。  
★運動エネルギーの大きさは物体の何によって決まるか考えよう。
- 運動エネルギーについて知る。  
・運動している物体が、静止するまでに他の物体に対して仕事をする働きを運動エネルギーという。
- 運動エネルギーの大きさが物体の何によって決まるか話し合う。
- 運動エネルギーの大きさが物体の何によって決まるか調べる。
- 実験結果を基に、運動エネルギーについてまとめる。  
・運動エネルギーは物体の速さが大きいほど大きく、質量が大きいほど大きい。
- 8 力学的エネルギーおよび力学的エネルギー保存の法則について理解する。  
★ジェットコースターが、運動を続けられる理由を考えよう。
- ジェットコースターが運動を続けられる理由を話し合う
- 斜面上を運動する物体の運動エネルギーはどのように変化しているか考える。
- 力学的エネルギーと力学的エネルギー保存の法則について知る。
- 振り子の運動では、おもりのもつ運動エネルギーと位置エネルギーはどのように変化しているか説明する。

科書P. 240の実験を行う必要がある。  
【評】仮説を確かめる実験の計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する

- ・球を転がす際に、手で勢いをつけないように指導する。
  - ・球の下の部分で高さの目盛りを見ることを押さえる。
  - ・結果をグラフにまとめさせる。
  - ・木片の移動距離が大きいほど、位置エネルギーは大きいといえることを押さえる。
- 【評】位置エネルギーについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・グラフから高さや質量が位置エネルギーと比例関係にあることも押さえる。

- ・生徒がイメージできるように、日常生活から例を示す。
- ・位置エネルギーの実験のイメージから「高さ」という意見が出た場合、水平方向の運動にもエネルギーがあることを考えさせるとよい  
また、高さを高くしたとき速さがどうなっていたか考えさせるとよい。
- 【評】運動エネルギーの大きさが物体の何によって決まるか話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教科書P. 243の「やってみよう」に取り組ませる。
  - ・木片の移動距離が大きいほど、運動エネルギーは大きいといえることを押さえる。
  - ・運動エネルギーは物体の速さの2乗に比例していることに触れるとよい。
- 【評】実験結果を基に、運動エネルギーについてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ジェットコースターの質量が変わらないため運動エネルギーの大きさは、速さで決まることを押さえる。
  - ・斜面上を運動するとき何が変化しているか考えさせる。  
運動エネルギーの変化とともに位置エネルギーも変化していることに気付かせる。
  - ・法則が成り立つのは、摩擦力や空気の抵抗による影響が無視できる場合であることを押さえる。
- 教科書P. 246の「活用しよう」に取り組ませる。
- 【評】振り子の運動では、おもりのもつ運動エネルギーと位置エネルギーはどのように変化しているか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

## 【 備 考 】

ここでは、力学的な仕事の定義を基に、仕事とエネルギー、力学的エネルギーに関する現象について、日常生活や社会と関連付けながら、見通しをもって観察、実験を行い、その結果を分析して解釈し、仕事とエネルギーの関係、位置エネルギーと運動エネルギーの互換性、力学的エネルギーの保存性を見いだして理解させることが主なねらいである。その際、衝突の実験で測定される力学的エネルギーを量的に扱うことができることを理解させるとともに、力学的エネルギーに関する観察、実験の技能を身に付けさせる。

仕事とエネルギーについては、仕事に関する実験を行い、日常の体験などと関連させながら力学的な仕事を定義し、単位時間当たりの仕事として仕事率を理解させる。また、外部に対して仕事をできるものは、その状態においてエネルギーをもっていることを、各種の実験を通して理解させることがねらいである。例えば、物体を重力に逆らって持ち上げる仕事をさせ、物体に加えた力の大きさとその向きに動かした距離の積として仕事は定量的に定義できることを理解させる。さらに、単位時間に行う仕事の量として仕事率を理解させる。仕事の単位としてジュール（記号J）を用い、関連する単位や日常用いられる単位にも触れる。そして、例えば、てこや滑車

などを挙げながら、道具を用いて仕事をするとき、加えた力より大きい力を外部に出すことはできるが、道具に与えた仕事以上の仕事を外部にすることはできないという仕事の原理にも触れる。

また、例えば、高いところにあるおもりや、引き伸ばされたばね、運動している物体は、他の物体に仕事をすることができることから、エネルギーをもっていることを理解させるとともに、力学的エネルギーには、位置エネルギーと運動エネルギーがあることを理解させる。位置エネルギーについては、例えば、物体を鉛直方向に落下させる衝突実験を行い、高いところにある物体ほど、また、質量が大きいほど、大きなエネルギーをもっていることを理解させる。運動エネルギーについては、例えば、水平面上を動く物体の衝突実験を行い、物体の質量が大きいほど、速さが速いほど、大きなエネルギーをもっていることを理解させる。その際、物体の高さや質量、速さなどの条件を制御して実験を行い、その結果を分析して解釈し、その規則性を見いだして理解させるようにする。

力学的エネルギーの保存については、力学的エネルギーに関する実験を行い、運動エネルギーと位置エネルギーが相互に移り変わることを見いださせ、摩擦力が働かない場合には力学的エネルギーの総量が保存されることを理解させることがねらいである。例えば、振り子の運動の様子を観察させ、物体の位置が低くなるに従って物体の運動は徐々に速くなること、最下点を過ぎて物体の位置が高くなるにしたがって物体の運動は遅くなることから、位置エネルギーと運動エネルギーとは相互に移り変わることに気付かせ、力学的エネルギーは保存されることを理解させる。

<参考URL>

力学的エネルギー（理科ネットワーク） <https://rika-net.com/>

10min. ボックス 理科1分野 力学的エネルギー <https://www.nhk.or.jp/school/>

## 単元名 エネルギーの移り変わり(1分野 単元4ー4)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 日常生活や社会と関連付けながら、エネルギーの変換について基本的な概念や原理・法則など理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 日常生活や社会で使われているエネルギーの変換について、見通しをもって観察、実験を行いその結果を分析して解釈するなど、科学的に探究することができる。
- (3) エネルギーの変換に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240301\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 様々なエネルギーがあることや、エネルギーは互いに移り変わることを理解する。</p> <p>★エネルギーの移り変わりについて探ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○エネルギーにはどのような種類があるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気エネルギー ・光エネルギー</li> <li>・熱エネルギー ・化学エネルギー</li> <li>・音のエネルギー ・弾性エネルギー</li> </ul> </li> <li>○エネルギーの移り変わりについて話し合う。</li> </ul> <p>○エネルギーの移り変わりについてまとめる。</p> <p>2 運動エネルギーがさまざまなエネルギーに移り変わるところを理解する。</p> <p>★運動エネルギーがどんなエネルギーに移り変わるか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手回し発電機を使って、さまざまなエネルギーの移り変わりを調べる。</li> <li>○身の回りで起こっているエネルギーの移り変わりについて考える。</li> </ul> <p>○エネルギー保存の法則について知る。</p> <p>3 エネルギー効率を高めることの重要性を認識する。</p> <p>★エネルギーの有効利用について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○エネルギーの損失について調べる。</li> </ul> <p>○エネルギーの利用効率についてまとめる。</p> <p>○熱の伝わり方について知る。</p> <p>4 地球上のエネルギーの移り変わりについて理解する。</p> <p>★地球規模で、エネルギーはどのように移り変わっているか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地球に降り注ぐ、太陽の光エネルギーのゆくえを知る。</li> <li>○地表に届いた光エネルギーは、どのようなエネルギーに移り変わっているか考える。</li> </ul> <p>○地球上のエネルギーは、その多くが太陽の光エネルギーが移り変わったものであることを知る。</p> <p>○日常生活や社会でどのようなエネルギーの移り変わりが見られるか話し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な例を提示し、それが何エネルギーか考えさせてもよい。</li> <li>・エネルギーの単位にはその種類に関係なく「J」が使われることを押さえる。</li> <li>・教科書のイラストを使い、何エネルギーが何エネルギーに変換されているか話し合わせる</li> </ul> <p>【評】エネルギーの移り変わりについて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.251の「ハローサイエンス」を見せ弾性エネルギーは位置エネルギーの一部であることを紹介する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.251の「やってみよう」に取り組ませる。</li> <li>・教科書P.252の「考えよう」に取り組ませる</li> </ul> <p>【評】身の回りで起こっているエネルギーの移り変わりについて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力学的エネルギー保存の法則を想起させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.253の「やってみよう」に取り組ませる。</li> <li>・照明器具を例にエネルギー効率について説明する。</li> </ul> <p>【評】エネルギーの利用効率についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放射では、目に見えない赤外線や紫外線などが放出されていることに触れる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の光合成による化学エネルギーへの変換雲の発生や対流による力学的エネルギーへの変換、光電池による電気エネルギーへの変換の3つのパターンで考えさせるとよい。</li> </ul> <p>【評】地表に届いた光エネルギーは、どのようなエネルギーに移り変わっているか考える活動を通して、「知識・理解」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球上のエネルギーの多くは、太陽の光エネルギーが基になっていることを押さえる。</li> <li>・教科書P.257の図18を参考にして考えさせる</li> </ul> |

## 【 備 考 】

実際の物体の運動では、摩擦力や空気の抵抗などが働くことに触れ、力学的エネルギー以外の音や熱などに変わり、力学的エネルギーは保存されないことを日常生活や社会と関連付けて理解させる。

<参考URL>

10min. ボックス 理科1分野 エネルギーの変換 <https://www.nhk.or.jp/school/>

エネルギーの変換(理科ネットワーク) <https://rika-net.com/>

## 単元名 生物と環境との関わり(2分野 単元5－1章)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 日常生活や社会と関連付けながら、自然界のつり合いについての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 生物と環境について、その関係を調べる観察、実験などを行い、科学的に考察して判断するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 生物と環境に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240302\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 食物連鎖について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境や生態系について知る。</li> <li>★生物同士は、食物をめぐるどのように関わっているのか考えよう。</li> <li>○食物連鎖、食物網について知る。</li> <li>○陸上や水中で生息している生物の、食べる・食べられるという関係について考える。</li> </ul> <p>2 食物連鎖における生物の数量的な関係の変化について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ある生物の数量が減少すると、他の生物の数量はどうなるのか考えよう。</li> <li>○生産者、消費者について知る。</li> <li>○生産者と消費者の数量的な関係について考える。</li> <li>○つり合いのとれた生態系において、ある生物の数量が増減したとき、他の生物がどのように数量変化するか話し合う。</li> </ul> <p>3～4 分解者および菌類や細菌類の働きについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★植物や動物の死骸や、排泄物の行方を考えよう。</li> <li>○生物の死骸、枯れ葉の行方について考える。</li> <li>○土壌中の微生物の働きを調べる。</li> <li>○実験結果を基に土壌中の微生物の働きについて話し合う</li> <li>○分解者および菌類や細菌類についてまとめる。</li> </ul> <p>5 生態系における炭素の循環について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★生態系において、物質がどのように循環しているか考えよう。</li> <li>○生態系における炭素の循環について考える。</li> <li>○生態系における物質の流れについてまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境には、生物や大気、水、土壌、光などの要素があることを押さえる。</li> <li>・第2学年で学習した、草食動物や肉食動物などを想起させる。</li> <li>・教科書P.266の「考えよう」に取り組ませる</li> <li>・矢印の始点、終点にはどんな生物が該当するか考えさせる。</li> <li>【評】生態系における食べる・食べられるという関係について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・水中を浮遊している生物をプランクトンと呼ぶことに触れる。</li> <li>・陸上及び水中の栄養段階を、ピラミッド形でまとめさせる。</li> <li>・教科書P.268の「考えよう」に取り組ませる</li> <li>【評】生物の数量変化するか話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・実際に分解者が枯れ葉を食べている様子を見せるとよい。</li> <li>・2～3日前に処理しておいたものを用意しておいてもよい。</li> <li>【評】土壌中の微生物の働きを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ヨウ素液に反応しなかった部分が、微生物の働きによって分解されたことを押さえる。</li> <li>【評】実験結果を基に土壌中の微生物の働きについて話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・教科書P.273のハローサイエンスについて触れ、生活と関連付けさせる。</li> <li>【評】生態系における炭素の循環について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・教科書P.274の「考えよう」に取り組ませる</li> </ul> |

## 【 備 考 】

ここでは、自然界では生態系の中で様々な生物が相互に関係しながら生活し、つり合いが保たれていることを見いださせることがねらいである。ここまでの学習を踏まえ、植物や光合成をする水中の小さな生物は、生産者として無機物から有機物を合成するが、無機物から有機物を合成する能力のない生物は消費者として、他の生物や生物の遺体や排出物などの有機物を摂取することが必要であることや、食物網を理解させるとともに、自然界で生活している生物の間のつり合いが保たれていることに気付かせる。

&lt;参考URL&gt;

10min. ボックス 理科2分野 自然環境の保全 <https://www2.nhk.or.jp/school/>  
 循環する自然と地球環境（理科ネットワーク） <https://rika-net.com/>

**単元名 自然環境と私たち(2分野 単元5－2章)**
**配当時間 6時間**

**単元の目標** (1) 日常生活や社会と関連付けながら、自然環境の保全についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。

(2) 自然環境の保全について、観察、実験などを行い、自然観察の保全について、科学的に考察して判断するなど、科学的に探究することができる。

(3) 自然環境の保全に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとする。

**標準的な展開例**

12240303\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1～3 人間生活と自然環境の関わりに興味をもち、身近な環境の状態を理解する。</p> <p>★人間の活動が自然環境にどんな影響を与えているか調べよう。</p> <p>○人間の活動が与えている影響について話し合う。</p> <p>○人間の活動が与えている影響について仮説を立て、調査の計画を立てる。</p> <p>○計画にしたがって調査を行う。</p> <p>○調査を基にレポートを作成する。</p> <p>○調査を基に人間の活動が与えている影響について話し合う。</p> <p>4～5 大気汚染や水質汚染、土壌汚染について理解する。</p> <p>★地球規模で起きている環境の変化について調べよう。</p> <p>○地球規模で起きている環境の変化について調べる計画を立てる。</p> <p>○計画にしたがって調べる。</p> <p>○調べた内容をまとめ、共有する。</p> <p>6 自然環境を保全する方法を考える。</p> <p>★自然を守るための方法を考えよう。</p> <p>○前時までに調べた内容を振り返り、自分たちの生活に与える影響について話し合う。</p> <p>○自然を守るための方法を考える。</p> <p>○実際に行われている事例を知る。</p> | <p>・教科書「疑問から探究してみよう」のページは、探究の過程を振り返る活動を重視する。</p> <p>・人間の活動で生じた物質が、大気や水、土壌など私たちを取り巻く身近な環境に変化を与えていることに気付かせる。</p> <p>【評】人間の活動が与えている影響について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・大気と水、土壌について計画を立てさせる。</p> <p>・必要であればインターネットを利用して調査方法を調べさせる。</p> <p>・校外での調査が難しい場合は、教科書P. 283の「参考」のように、インターネットを利用した調査を活用するとよい。</p> <p>・教科書P. 281の指標となる生物の写真を参照させるとよい。</p> <p>【評】人間の活動が与えている影響についての調査を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・調査方法が適切だったか振り返らせる。</p> <p>【評】調査を基にレポートを作成する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・あらかじめ調べる候補を用意しておいてもよい。</p> <p>・人の生活に与える影響や対策など、どんな項目で調べるか話し合わせる。</p> <p>・インターネットを利用して調べさせる。</p> <p>・壁新聞を作成したり、発表会を行ったりしてそれぞれが調べた内容を共有させる。</p> <p>【評】地球規模で起きている環境の変化について調べた内容をまとめ、共有する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・結局は自分たちの生活に返ってくることを押さえ、自然を守る方法を考えようという気持ちを高めさせる。</p> <p>・教科書P. 288の「考えよう」を参考に、ミクロレベル、ミドルレベル、マクロレベルでできることに分けて考えさせる。</p> <p>【評】自然を守るために自分たちにできることを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書P. 289の「ハローサイエンス」を紹介するとよい。</p> |

**【 備 考 】**

ここでは、身近な自然環境を調べる活動を行い、その観察結果や資料を基に、人間の活動などの様々な要因が自然界のつり合いに影響を与えていることについて理解させ、自然環境を保全することの重要性を認識させることがねらいである。なお、ねらいを実現するために「自然界のつり合い」についての学習を踏まえて行うことが重要である。

<参考URL>

10min. ボックス 理科2分野 自然環境の保全 <https://www.nhk.or.jp/school/>

森林変化の調査とシミュレーション（理科ネットワーク） <https://rika-net.com/>

## 単元名 自然災害と私たち(2分野 単元5－3章)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 日常生活や社会と関連付けながら、地域の自然災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 地域の自然災害について、観察、実験などを行い、科学的に考察して判断するなど、科学的に探究することができる。
- (3) 知己の自然災害に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240304\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1～2 身近な地域の自然災害について調べ、その対策について理解する。</p> <p>★身近な地域で発生した自然災害について調べよう。</p> <p>○身近な地域で発生した自然災害による被害について調べる。</p> <p>○調べた内容をまとめる。</p> <p>○調べたことを共有する。</p> <p>3 自然災害に対して、自分たちにできることを考える。</p> <p>★自分たちにできることを考えよう。</p> <p>○行政や国の取組について調べる。</p> <p>○中学校で学んだことが、自然災害から身を守るためにどのように役に立つか話し合う。</p> | <p>・インターネットや図書館、資料館などから資料を集めさせる。</p> <p>・過去の災害から、現在どんな対策が取られているかも調べさせる。</p> <p>・将来起こりうる災害やその対策について調べさせてもよい。</p> <p>【評】身近な地域で発生した自然災害による被害について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・壁新聞やレポート形式でまとめさせる。</p> <p>・災害の痕跡が残っている場所があるならば、その写真も使うとよい。</p> <p>【評】調べた内容をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・インターネットを活用して調べさせる。</p> <p>・教科書P.295のサイトを参考にするとよい。</p> <p>・これまでに学習してきたことと結ぶ付けさせることにより、授業の有用性についても理解させる。</p> <p>【評】中学校で学んだことが、自然災害から身を守るためにどのように役に立つか話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

ここでは、地域の自然災害を調べ、大地の変化の特徴を理解し、自然を多面的、総合的に捉え、自然と人間との関わり方について、科学的に考察して判断する能力や態度を身に付けさせることがねらいである。

例えば、活断層の存在、津波の痕跡や資料、火山灰の分布、洪水の痕跡などを基にして、生じた自然現象と被害との関係を認識させ、ハザードマップなどを基にその被害を最小限に食い止める方法を考察させるような学習が考えられる。その際、学習の成果を発表したり話し合ったりする機会を設けることも考えられる。

地域の自然災害を調べる際には、図書館、博物館、科学館、ジオパークなどを利用したり、空中写真や衛星画像、情報通信ネットワークを通して得られる多様な情報を活用したりして、時間的・空間的な見方から捉えさせ、自然災害と人間との関わり方についての認識を深めさせることが考えられる。

<参考URL>

国土交通省 <https://www.mlit.go.jp/>

10min. ボックス 理科2分野 自然の恵みと災害 <https://www.nhk.or.jp/school/>

単元名 エネルギー資源の利用と私たち(1分野 単元5-4章) 配当時間 4時間

単元の目標 (1) 日常生活や社会と関連付けながら、エネルギーとエネルギー資源についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。  
(2) 日常生活や社会で使われているエネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなど、科学的に探究することができる。  
(3) 日常生活や社会で使われているエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。

### 標準的な展開例

12240305\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 火力発電や水力発電、原子力発電の仕組みについて理解する。<br/>★発電方法の長所と短所を考えよう。<br/>○火力発電や水力発電、原子力発電について知る。</p> <p>○それぞれの発電方法の長所と短所について話し合う。</p> <p>2 放射線の性質とその利用について理解する。<br/>★放射線の性質と、その利用方法についてまとめよう。<br/>○放射線の基本的な性質について知る。</p> <p>○放射線による人体への影響について知る。</p> <p>○放射線の利用例について知る。</p> <p>○放射線についてまとめる。</p> <p>3～4 エネルギー資源の開発と有効な利用の仕方について理解する。<br/>○エネルギー資源の可採年数について知る。</p> <p>★エネルギーの活用の仕方について考えよう。<br/>○新しいエネルギー資源を利用した発電方法について調べる。</p> <p>○調べた内容をまとめる。</p> <p>○調べたことを基にどの発電方法が日本にとってよいのか話し合う。</p> <p>○エネルギーを有効に活用する仕組みについて知る。<br/>・コージェネレーションシステム<br/>・ヒートポンプ<br/>・揚水式の水力発電</p> | <p>・エネルギーの変換について押さえる。<br/>・インターネットを利用して調べさせてもよい</p> <p>・班ごとに担当する発電方法を決めて考えさせてもよい。<br/>【評】それぞれの発電方法の長所と短所について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・X線、赤外線、紫外線なども電磁波の一種であることを押さえる。<br/>・放射性物質は、自然界にふつうに存在しているため、生物は日常的に放射線にさらされていることを押さえる。<br/>・放射線が身近なところで使われていることに気付かせる。<br/>【評】放射線についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・火力発電で用いる化石燃料には限りがあること、また日本ではそのほとんどを輸入に頼っていることなどを押さえる。</p> <p>・興味をもった発電方法について調べさせる。</p> <p>・調べる項目を話し合って決めさせる。<br/>・壁新聞やレポートにまとめさせる。<br/>【評】新しいエネルギー資源を利用した発電方法について調べ、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>・長所や短所を考慮し、どの発電方法が日本にとってよいのか考えさせる。<br/>・電力を安定供給できるという視点を忘れないようにさせる。<br/>【評】調べたことを基にどの発電方法が日本にとってよいのか話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

エネルギー資源の利用については、日常生活や社会で利用している石油や天然ガス、太陽光など、エネルギー資源の種類や入手方法、水力、火力、原子力、太陽光などによる発電の仕組みやそれぞれの特徴について理解させる。その際、原子力発電では、ウランなどの核燃料からエネルギーを取り出していることに触れる。放射線については、核燃料から出ていたり、自然界にも存在し、地中や空気中の物質から出ていたり、宇宙から降り注いでいたりすることなどにも触れる。東日本大震災以降、社会において、放射線に対する不安が生じたり、関心が高まったりする中、理科においては、放射線について科学的に理解することが重要であり、放射線に関する学習を通して、生徒たちが自ら思考し、判断する力を育成することにもつながると考えられる。その際、他教科等との関連を図り、学習を展開していくことも考えられる。

<参考URL>

理科ネットワーク <https://rika-net.com/>

## 単元名 科学技術の発展と私たち(1分野 単元5ー5章)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 日常生活や社会と関連付けながら, さまざまな物質とその利用, 科学技術の発展についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けたりすることができる。

(2) 日常生活や社会で使われている物質について, 見通しをもって観察, 実験などを行い, その結果を分析して解釈するなど, 科学的に探究することができる。

(3) 日常生活や社会で使われている物質に関する事物・現象に進んで関わり, 見通しをもったり振り返ったりするなど, 科学的に探究しようとする。

## 標準的な展開例

12240306\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1～2 プラスチックの種類や特徴, 用途について理解する。</p> <p>○どんなものにプラスチックが使われているか話し合う。</p> <p>★プラスチックについて調べよう。</p> <p>○プラスチックの特徴について話し合う。</p> <p>○プラスチックの特徴について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工しやすい ・丈夫で軽い</li> <li>・腐食しにくい ・薬品に対する変化が少ない</li> </ul> <p>○さまざまなプラスチックがあることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PET ・PE</li> <li>・PP ・PS</li> </ul> <p>○どんな違いがあるか話し合う。</p> <p>○さまざまなプラスチックの違いについて調べる。</p> <p>○プラスチックについてまとめる。</p> <p>○さまざまな新素材について知る。</p> <p>3 限りある資源とその有効な利用について理解する。</p> <p>★資源の効率的な利用のためにできることを調べよう。</p> <p>○どのような資源がリサイクルされているか調べる。</p> <p>○自分たちにできることを考える。</p> <p>4 科学技術の発展の歴史について理解する。</p> <p>★科学技術の発展について調べよう。</p> <p>○人類が火や風など, 身の回りの事象を利用して生活を豊かにしてきたことについて知る。</p> <p>○科学技術の発展の歴史について知る。</p> <p>○人類が石油を利用するようになって, どのような生活の変化がもたらされたかについて情報を集める。</p> <p>5 情報・通信及びコンピュータの発展の歴史と現状について理解する。</p> <p>★情報を伝える手段の移り変わりについて考えよう。</p> <p>○情報を伝える手段の移り変わりについて考える。</p> | <p>・いろいろなものにプラスチックが使われていて, 私たちの生活に欠かせないものであることに気付かせる。</p> <p>・プラスチックが使われているものから考えさせる。</p> <p>・金属や木と比較させることで考えやすくさせる。</p> <p>【評】プラスチックの特徴について話し合う活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・特性を活かしてどんなものに使われているか考えさせるとよい。</p> <p>・それぞれで作られた製品を見せるとよい。</p> <p>・ここで出た違いを基に実験をさせる。</p> <p>・燃やす際には必ず換気を行う。</p> <p>・教科書P.311の「やってみよう」を参考にしてもよい。</p> <p>【評】さまざまなプラスチックの違いについて調べる活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・プラスチックゴミの問題についても押さえる</p> <p>【評】プラスチックについてまとめる活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・どんなよさがあり, どのところで使われているか押さえる。</p> <p>・どんな資源がどんな方法でリサイクルされているか調べさせる。</p> <p>・一人一資源を調べさせる。</p> <p>【評】どのような資源がリサイクルされているか調べる活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・リサイクルだけでなく, 3Rの観点からも考えさせる。</p> <p>【評】資源の効率的な利用のために自分たちにできることを考える活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書P.316の図や写真を参照させる。</p> <p>・産業革命後, エネルギー利用が加速していったことを押さえる。</p> <p>・あらかじめ本やインターネットから情報を集めておく方法もある。</p> <p>【評】石油の利用による生活の変化について情報を集める活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書P.318の図10を参考にさせる。</p> <p>・日本が開発した世界最高水準のスーパーコンピュータ「富岳」についても紹介するとよい</p> |



|   |   |
|---|---|
| <p>○現在の情報・通信機器には、どのような科学技術が利用されているか調べる。</p> <p>6 先端の科学技術とその恩恵について理解する。<br/> ★先端の科学技術とその恩恵について考えよう。<br/> ○医療や農業分野で使われている最先端の科学技術について知る。<br/> ○ロボット開発の現状と、今後の展望について考える。</p> <p>○今後科学技術がどんな発展を遂げていくのか話し合う。</p> | <p>・GPSについて触れる。<br/> 【評】情報・通信機器にどのような科学技術が利用されているか調べる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・今後人類が、ロボットに求めるものは何か考えさせるとよい。<br/> 【評】ロボット開発の現状と、今後の展望について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/> ・将来的に何ができるようになるか予想させるとよい。</p> |
|---|---|

#### 【 備 考 】

ここでは、具体例を通して科学技術の発展の過程や現代の状況について理解させるとともに、科学技術が人間の生活を豊かで便利にしていることを認識させることがねらいである。

例えば、科学技術が著しく発展した産業革命から現代までを中心に引き上げ、化石燃料のエネルギーを利用して連続的に大きな力を取り出すことができる蒸気機関が発明され、産業革命が起こり、工業が急速に進歩したことなどを理解させる。さらに、現代の科学技術の発展の状況を調べさせることも考えられる。

このような科学技術の発展により、現代社会では豊かで便利な生活を送ることができるようになっていることやこれからの科学技術の可能性を理解させる。例えば、資源やエネルギー資源の有効利用、防災、医療、農林水産業、工業、交通及び通信などに科学技術が役立っている平易な例について調べさせたり、ナノテクノロジー、人工知能、ロボット、宇宙開発、深海探査など最新の科学技術を調べさせたりすることが考えられる。コンピュータや情報通信ネットワークなどを利用したり、施設などを見学したりして情報を集め、整理してまとめさせたり、発表させたりすることが大切である。

学習を進める上では、科学技術の発展を振り返りながら、科学技術の有用性と活用の在り方について考えさせ、これからの科学技術の発展の方向性について、具体的な例を挙げ、科学的な根拠を基に検討させる。その際、科学技術の負の側面にも触れながら、それらの解決を図る上で科学技術の発展が重要であることにも気付かせる。

<参考URL>

「海洋研究の最先端」 (理科ネットワーク) <https://rika-net.com/>  
10min. ボックス 理科1 分野 科学技術の発達 <https://www.nhk.or.jp/school/>

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 単元名   | 科学技術の利用と自然環境の保全(1・2分野 単元5ー終章)  | 配当時間 | 1時間 |
| 単元の目標 | (1) 日常生活や社会と関連付けながら，科学技術の利用と自然環境の保全についての基本的な概念や原理・法則などを理解したり，科学的に探究するために必要な基本的な技能を身に付けたりすることができる。<br>(2) 科学技術の利用と自然環境の保全について，観察，実験などを行い，自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について，科学的に考察して判断するなど，科学的に探究することができる。<br>(3) 科学技術の利用と自然環境の保全に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとする。 |      |     |

## 標準的な展開例

12240307\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| 1 持続可能な社会の実現について考え，科学技術の利用の仕方について判断する。<br>○地球規模で取り組む必要がある課題の存在を知る。<br>★人類が活動を継続しつつ，環境や資源に関わる問題を解決するための取組について考えよう。<br>○持続可能な開発目標（SDGs）について知る。<br><br>○自分たちに取り組めることを考える。 | ・教科書P. 323の図2を参考にさせる。<br><br>・17の目標が示されている理由についても理解させる。<br>・生活に大きな変化を与えない，持続可能な取組であることを押さえる。<br>・自分の考えた取組がどの目標に当てはまるか意識させる。<br>【評】環境や資源に関わる問題を解決するための取組について考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 |

## 【 備 考 】

ここでは，私たちの日常生活や社会は，科学技術に依存している一方で，科学技術の利用が自然環境に対し影響を与え，自然環境を変化させていることを理解させる。その際，エネルギー資源など，私たちの生活を支えるための利用可能な資源は有限であることに気付かせる。さらに，限られた資源の中で自然環境との調和を図りながら，持続可能な社会を築いていくことが課題であることを認識させる。

# **令和 3 年度 知多地方教育計画案**

## **英語科**

# 外国語科

## 1 教科の目標

- (1) 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。「知識及び技能」
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり，これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。「思考力，判断力，表現力等」
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。「学びに向かう力，人間性等」

(1)は，外国語科における「何を理解しているか，何ができるか」という「知識及び技能」の習得に関わる目標として掲げたものである。本目標は，「外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解する」という「知識」の面と，その知識を「聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる」という「技能」の面とで構成されている。

(2)は，外国語科における「理解していること・できることをどう使うか」という「思考力，判断力，表現力等」の育成に関わる目標として掲げたものである。コミュニケーションを行う際は，その「目的や場面，状況など」を意識する必要がある，その上で，「簡単な情報や考えなどを理解」したり，理解したことを活用して「表現したり伝え合ったりする」ことが重要になってくる。「思考力，判断力，表現力等」の育成のためには，外国語を実際に使用することが不可欠である。

(3)は，外国語科における「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか」という「学びに向かう力，人間性等」の涵養に関わる目標として掲げたものである。「文化に対する理解」やコミュニケーションの相手となる「聞き手，読み手，話し手，書き手」に対して「配慮」しながら，「主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を身に付けることを目標としている。

## 2 新学習指導要領の要点

### (1) 各学校段階の学びを接続

令和2年度から全面実施された小学校学習指導要領では，小学校中学年に新たに外国語活動を導入し，三つの資質・能力の下で，英語の目標として「聞くこと」，「話すこと[やり取り]」，「話すこと[表現]」の三つの領域を設定し，音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーションを図る素地を育成した上で，高学年において「読むこと」，「書くこと」を加えた教科として外国語を導入し，五つの領域の言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することとしている。中学校段階では，こうした小学校での学びを踏まえ，五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することとしている。

### (2) 話すこと[やり取り]の領域を設定

互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動を一層重視する。

### (3) 取り扱う語数

「1,200語程度」の語から五つの領域別の目標を達成するための言語活動に必要な「1,600～1,800語程度」の語に改訂した。

### (4) 文，文構造及び文法事項の増加

表現をより適切でより豊かにするなどの目的で，「感嘆文のうちで基本的なもの」や「現在完了進行形」，「仮定法」など数項目を追加した。

### (5) 授業は英語で行うことを基本とする。

### 3 道徳との関連

外国語科における道徳教育の指導においては、学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、外国語科の目標と道徳教育との関連を明確に意識しながら、適切に指導を行う必要がある。外国語を通じて、我が国や外国の言語や文化に対する理解を深めることは、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながる。

### 4 外国語科における言語活動

小学校で学習した内容の定着の状況などの生徒の実態を踏まえながら、中学校の初年度の導入段階から必要な言語活動を通じた学習を繰り返し行い、小学校からの学びを中学校段階へ接続させる指導を行うことが求められている。

併せて、小学校の高学年で学んだ簡単な語句及び基本的な表現や、高学年における文字の認識、語順の違いなどへの気付き等の内容を、中学校の言語活動において繰り返し使用することによって、生徒が自分の考えなどを表現する際にそれらを活用し、話したり書いたり表現できるような段階まで確実に定着させることが重要である。

また、言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な言語活動を取捨選択して活用できるようにすることが必要である。このような言語活動を通して、生徒の「学びに向かう力、人間性等」を育成することが重要である。

# 英語学習を進めるに当たって

## 1 英語の学習指導でねらうもの

学習指導要領において、外国語科の目標を踏まえ、各学年の目標を次のように定める。

|  |
|--|
| <p>(1) 第1学年</p> <p>① 聞くこと<br/>はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>② 読むこと<br/>日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。</p> <p>③ 話すこと[やり取り]<br/>関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。</p> <p>④ 話すこと[発表]<br/>関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。</p> <p>⑤ 書くこと<br/>関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。</p>  |
| <p>(2) 第2学年</p> <p>① 聞くこと<br/>はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>② 読むこと<br/>日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>③ 話すこと[やり取り]<br/>日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。</p> <p>④ 話すこと[発表]<br/>日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようになる。</p> <p>⑤ 書くこと<br/>日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。</p> |
| <p>(3) 第3学年</p> <p>① 聞くこと<br/>はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。</p> <p>② 読むこと<br/>社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。</p> <p>③ 話すこと[やり取り]<br/>社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。</p> <p>④ 話すこと[発表]<br/>社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、そ</p>   |

の理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

⑤ 書くこと

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

## 2 小学校外国語活動、外国語科及び高等学校とのつながり

中学校の「書くこと」、「話すこと」という音声面の指導については、小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度など一定の素地が育成されることを踏まえ、言語の使用場面や言語の働きに配慮しなければならない。

高等学校においては、中学校における学習の基礎の上に、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成するための統合的な指導を行い、生徒のコミュニケーション能力を更に伸ばすことを目指している。

また、高等学校の指導要領には、「授業は英語で行うことを基本とする」と明記されており、中学校でも、その旨を十分に踏まえて授業を進めていくことを実践していかななくてはならない。

## 3 指導の留意事項

- (1) 言語材料については、学習段階に応じて平易なものから難しいものへと段階的に指導する。
- (2) 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して言語材料を継続して指導する。また、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導する。発音と綴りとを関連付けて指導する。
- (3) 文字指導に当たっては、生徒の学習負担に配慮しながら筆記体を指導することもできる。
- (4) 語、連語及び慣用表現については、運用度の高いものを用い、活用することを通して定着を図るようにする。
- (5) 継続的に辞書の使い方に慣れ、活用できるようにする。
- (6) 生徒の実態や教材の内容に応じて、コンピュータや情報通信ネットワーク、ICT 機器などを活用したり、ALT などの協力を得たりする。また、ペアワーク、グループワークなどの学習形態を適宜工夫する。

## 4 知多地方教育研究案外国語科の構成

- (1) 単元の構成
  - ① Stage Activity は既習事項の総復習であり、Unit からは独立して単元を構成した。
  - ② Let's Read は、1年生は3時間、2～3年生は4～5時間で構成した。
  - ③ Let's Listen, Let's Write, Grammar for Communication, Learning ～ in English, 学び方コーナーについては、Unit に含めて単元を構成した。
  - ④ Let's Talk については研究授業や公開授業で最も取り扱われる項目の一つと予測し指導案を作成する機会が比較的多いと考えた。Unit から独立した単元として構成し、「単元の目標」を明示し、授業構想の一助となるようにした。
- (2) 指導案  
各学年の指導案例に、学習活動及び、留意点について、さらに詳細に記述してある。2年生の指導案については、詳案（TT における特設授業等用）として示してある。
- (3) 単元の目標  
(1)は「知識及び技能」、(2)は「思考力、判断力、表現力」、(3)は「学びに向かう力、人間性等」を表す。
- (4) 評価  
「留意事項」内の評価については、上記(1)を「知識・技能」、(2)を「思考・判断・表現」、(3)を「主体的に学習に取り組む態度」と表記し、その時間に評価する主なものを記載した。

第1学年 英語科 年間計画（標準140時間）

|             | 単 元 名                                  | 時間 | 備 考   |
|-------------|--|----|---|
| 一<br>学<br>期 | Unit 0 Welcome to Junior High School   | 3  | 場面の表現，英語の音と文字   |
|             | 学び方コーナー①                               |    | 辞書の使い方①   |
|             | Unit 1 New School, New Friends         | 6  | I am.... I like.... Are you ~?<br>Do you...? can の文   |
|             | Unit 2 Our New Teacher                 | 9  | This[That, He, She]is.... Is ~?<br>What...? Who...? How do you...?<br>What do you...?   |
|             | Grammar for Communication 1            |    | be 動詞と一般動詞  |
|             | 学び方コーナー②                               |    | 単語の綴りと発音①   |
|             | Unit 3 Club Activities                 | 7  | Where...? When...? I want to....<br>How many...?  |
|             | Grammar for Communication 2            |    | 名詞  |
|             | Unit 4 Friends in New Zealand          | 8  | 命令文(Be[Come,Don't....]),<br>What time...? What+名詞...?   |
|             | Grammar for Communication 3            |    | 疑問詞   |
|             | Unit 5 A Japanese Summer Festival      | 7  | 前置詞(... is by the bench./<br>the bench under the tree), like...ing,<br>be good at...ing. enjoyed, went, ate,<br>saw, had, was |
|             | Stage Activity 1 “All about Me” Poster | 2  | 既習事項の総復習  |
|             | Small Talk! 1                          |    |   |
| 48          | 予備時間                                   | 6  |   |
| 二<br>学<br>期 | Unit 6 A Speech about My Brother       | 6  | be 動詞，一般動詞，<br>三人称単数現在形（肯定文，否定<br>文，疑問文）  |
|             | Let's Talk 1 お問い合わせ                    | 3  | Can I...? Can you...?<br>be 動詞，一般動詞   |
|             | 学び方コーナー③                               |    | 辞書の使い方②   |
|             | Grammar for Communication 4            |    | 三人称単数現在形  |
|             | Unit 7 Foreign Artists in Japan        | 6  | 三人称の表現，人称代名詞の目的<br>格，Which...?<br>Which... (, A or B)? Whose...?  |



|             |  |     |  |
|-------------|--|-----|--|
| 二<br>学<br>期 |  |     | mine, yours  |
|             | Let's Talk 2 体調                              | 3   | What's wrong? I have.... 命令文   |
|             | Let's Listen 1 留学生のプロフィール                    |     | 三人称単数現在形, want to  |
|             | Grammar for Communication 5                  |     | 人称代名詞  |
|             | Unit 8 A Surprise Party                      | 9   | When...? Which...? 現在進行形<br>(肯定文, 否定文)<br>感嘆文(How...!, What...!)                         |
|             | Let's Write 1 お祝い                            |     |  |
|             | 学び方コーナー④                                     |     | 単語のつづりと発音②   |
|             | Grammar for Communication 6                  |     | 現在進行形  |
|             | Unit 9 Think Globally, Act Locally           | 7   | 現在進行形, I want to....<br>want[try, need など]to<br>What do you want to...?<br>look + 形容詞    |
|             | Let's Talk 3 道案内                             |     | I'm looking for....<br>Go along this street. Turn left at....                            |
|             | Let's Listen 2 欠席した友達への電話連絡                  |     | 助動詞 can, need to   |
|             | Stage Activity 2 My Hero                     | 2   | 既習事項の総復習   |
|             | Let's Read 1 Let's Climb Mt. Fuji            | 3   | 既習事項の総復習   |
|             | Small Talk! 2                                |     |  |
| 56          | 予備時間   | 1 5 |  |
| 三<br>学<br>期 | Unit 10 Winter Vacation                      | 7   | What do you...? 一般動詞の過去形, 規則動詞・不規則動詞の過去形, 一般動詞の疑問文・否定文                                   |
|             | Let's Write 2 旅先からの便り                        |     | 一般動詞の過去形   |
|             | Unit 11 This Year's Memories                 | 6   | 一般動詞の過去形, be 動詞の過去形, There is[are].... 過去進行形   |
|             | Let's Talk 4 レストラン                           | 4   | What would you like? I'd like....<br>Would you like...? Yes, please.<br>[No, thank you.] |
|             | Let's Listen 3 ラジオDJのトーク                     |     | 動詞の過去形, There is[are]....  |
|             | Grammar for Communication 7                  |     | 動詞の過去形, 過去進行形  |
|             | Stage Activity 3 My Favorite Event This Year | 3   | 既習事項の総復習   |
|             | Learning LITERATURE in English               |     | 動詞の過去形, 過去進行形  |
|             | Let's Read 2 City Lights                     | 3   | 既習事項の総復習   |
| 36          | 予備時間   | 1 3 |  |

第2学年 英語科 年間計画（標準140時間）

|             | 単 元 名   | 時間 | 備 考  |
|-------------|---|----|--|
| 一<br>学<br>期 | Unit 0 My Spring Vacation                             | 2  | 動詞の過去形, 過去進行形,<br>There is [are]....                               |
|             | Unit 1 A Trip to Singapore                            | 8  | be going to, 助動詞 will, SVOO  |
|             | Let's Talk 1 ホテルでのトラブル                                | 4  | I have a problem with....<br>... doesn't work. I apologize for.... |
|             | Grammar for Communication 1                           |    | 五つの文構造   |
|             | Learning HOME ECONOMICS in English                    |    | 助動詞 will   |
|             | Let's Listen 1 機内放送                                   |    | be going to, 助動詞 will  |
|             | Unit 2 Food Travels around the World                  | 8  | 接続詞 when, if, that, because  |
|             | Let's Talk 2 ていねいなお願い                                 | 4  | May I...? Could you...?  |
|             | Grammar for Communication 2                           |    | 接続詞  |
|             | 学び方コーナー①  |    | 単語の覚え方   |
|             | Let's Listen 2 インタビュー                                 |    | 接続詞 when, because  |
|             | Unit 3 My Future Job                                  | 11 | 不定詞（目的・原因を表す副詞的用法）, 不定詞（形容詞的用法）<br>It is... + to                   |
|             | Let's Write 1<br>留守番電話のメッセージへの返答                      |    | 不定詞  |
|             | Grammar for Communication 3                           |    | 不定詞  |
|             | Learning TECHNOLOGY in English                        |    | 不定詞, It is... + to   |
|             | Stage Activity 1<br>A Message to Myself in the Future | 4  | 既習事項の総復習<br>Word Room（仕事）  |
|             | Let's Read 1 History of Clocks<br>Let's Listen 3 天気予報 | 5  | 既習事項の総復習   |
|             | 48 予備時間   | 2  |  |
| 二<br>学<br>期 | Unit 4 Homestay in the United States                  | 12 | have to, do not have to,<br>助動詞 must, must not<br>動名詞（目的語・主語）      |
|             | Let's Write 2 ホームステイのお礼状                              |    | 動名詞  |
|             | Grammar for Communication 4                           |    | 助動詞  |

|             |   |     |   |
|-------------|---|-----|---|
| 二<br>学<br>期 | 学び方コーナー②  |     | 音読の仕方   |
|             | Let's Listen 4 電車の運行情報                            |     |   |
|             | Unit 5 Universal Design                           | 1 0 | 疑問詞+ to,<br>主語+動詞+ (人) +疑問詞+ to<br>主語+ be 動詞+ 形容詞+ that   |
|             | Let's Write 3 電車の乗りかえ                             |     | Could you tell me how to get to...?<br>Take....   |
|             | Let's Listen 5 留守番電話                              |     | 疑問詞+ to   |
|             | Unit 6 Research Your Topic                        | 8   | 比較表現 (...er, the...est)<br>比較表現 (more..., the most...)<br>比較表現 (better, best)<br>比較表現 (as...as ~) |
|             | Let's Talk 4 買い物                                  |     | Shall I...? 比較表現  |
|             | Grammar for Communication 5                       |     | 比較表現  |
|             | Stage Activity 2<br>Research and Presentation     | 4   | 既習事項の総復習  |
|             | 学び方コーナー③  |     | 意見の述べ方  |
| 56          | Let's Read 2 A Glass of Milk                      | 5   | 既習事項の総復習  |
|             | Let's Listen 5 商品のコマーシャル                          |     |   |
|             | 予備時間  | 1 4 | 比較表現  |
| 三<br>学<br>期 | Unit 7 World Heritage Sites                       | 8   | 受け身 (平叙文・疑問文)<br>受け身 (by...付き)<br>受け身 (助動詞付き)   |
|             | Let's Talk 5 電話でのやり取り                             |     | Do you want to...?<br>I'd like to, but I can't.   |
|             | Grammar for Communication 6                       |     | 受け身   |
|             | Let's Listen 7 店内のアナウンス                           | 4   | 受け身   |
|             | Stage Activity 3<br>My favorite Place in Our Town |     | 既習事項の総復習<br>Word Room (場所)  |
|             | Let's Read 3<br>Pictures and Our Beautiful Planet |     | 既習事項の総復習  |
|             | 予備時間  | 1 6 |   |
|             |   |     |   |

第3学年 英語科 年間計画（標準140時間）

|             | 単 元 名   | 時間 | 備 考   |
|-------------|---|----|---|
| 一<br>学<br>期 | Unit 0<br>Three Interesting Facts about Languages | 3  | 受け身   |
|             | 学び方コーナー①  |    | 語い・表現の増やし方  |
|             | Unit 1 Sports for Everyone                        | 10 | 現在完了形（経験用法，平叙文，<br>経験用法，疑問文）<br>SVOC（C＝形容詞）（that 節）                                 |
|             | Let's Write 1 有名人への手紙                             |    | 現在完了形（経験用法），<br>SVOC(C＝形容詞)   |
|             | Let's Listen 1 ディスカッション                           |    | 現在完了形（経験用法）   |
|             | Unit 2 Haiku in English                           | 8  | 現在完了形（完了用法・継続用<br>法），現在完了進行形  |
|             | Let's Talk 1 はじめての出会い                             | 6  | Welcome to....<br>We've been looking forward to....<br>現在完了形，現在完了進行形                |
|             | Grammar for Communication 1                       |    | 現在完了形，現在完了進行形   |
|             | Learning SCIENCE in English                       |    | 受け身，現在完了形，現在完了進<br>行形   |
|             | Let's Listen 2 講演                                 |    | 現在完了形，現在完了進行形   |
|             | Unit 3 Animals on the Red List                    | 11 | It is ... (for+(人など))+to<br>want+(人など)+to<br>want+(人など)+to<br>let[help]+(人など)+動詞の原形 |
|             | Let's Write 2 記事への意見                              |    | I (do not) think....<br>I have two reasons. First, ....<br>Second, ....             |
|             | Grammar for Communication 2                       |    | 不定詞   |
|             | 学び方コーナー②  |    | 文章の組み立て方  |
|             | Stage Activity 1<br>My Activity Report            | 4  | 既習事項の総復習<br>Word Room（学校での活動，経験）  |
|             | Let's Read 1 A Mother's Lullaby                   | 5  | 既習事項の総復習  |
|             | Let's Listen 3 ラジオの災害情報                           |    |   |
| 48          | 予備時間  | 1  |   |
|             | Unit 4 Be Prepare and Work Together               |    | 間接疑問文   |

|             |   |     |   |
|-------------|---|-----|---|
| 二<br>学<br>期 |   | 8   | SVOO(what 節)<br>現在分詞, 過去分詞  |
|             | Let's Talk 2 町中での手助け                              | 4   | Can I help you? Shall I...?<br>Would you like me to...?<br>間接疑問文                                      |
|             | Learning CIVICS in English                        |     | 間接疑問文   |
|             | Let's Listen 4 テレビの国際ニュース                         |     | 現在分詞, 過去分詞  |
|             | Unit 5 A Legacy for Peace                         | 1 1 | 名詞を修飾する文 (接触節)<br>関係代名詞 who<br>関係代名詞 that[which] (主格・目的格)   |
|             | Let's Write 3 グラフや表の活用                            |     | 関係代名詞   |
|             | Grammar for Communication 3                       |     | 後置修飾  |
|             | Stage Activity 2 Discover Japan                   | 5   | 既習事項の総復習<br>Word Room (日本の行事, 日本の風物)  |
|             | Let's Listen 5<br>世界で働く人へのインタビュー                  |     | SVOO(what 節)  |
|             | Unit 6 Beyond Borders                             | 8   | 仮定法 (I wish I could[had] ....)<br>仮定法 (If + 主語+were..., ~.)<br>仮定法 (If+主語+動詞の過去形,...)<br>主語を説明する関係代名詞 |
|             | Let's Talk 3 食品の選択                                | 3   | I see your point, but....   |
|             | Grammar for Communication 4                       |     | 仮定法   |
|             | Let's Listen 6 中学校生活の思い出                          |     | 仮定法   |
|             | Stage Activity 3 Let's Have a Mini Debate         | 4   | 既習事項の総復習<br>Word Room (ディベートで仕える表現, ディベートの理論)   |
|             | 56 予備時間   | 1 3 |   |
| 三<br>学<br>期 | Let's Read 2 Power Your Future                    | 4   | 既習事項の総復習  |
|             | Let's Read 3<br>A Graduation Gift from Steve Jobs | 5   | 既習事項の総復習  |
|             | 学び方コーナー③  |     |   |
|             | 36 予備時間   | 2 7 |   |

# 第1学年O組 英語科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時（英語教室）

指導者 〇 〇 〇 〇

## 1 単 元 Unit 1 New School, New Friends

### 2 単元の目標

- (1) be動詞と一般動詞、助動詞canを用いた文の形・意味・用法や、その疑問文と答え方を理解することができる。さらに、互いを知るために、自分のことを伝えたり、相手のことを尋ねたりすることができる。
- (2) be動詞と一般動詞、助動詞canを用いて、即興で自分のことを伝えたり、相手のことを尋ねたりすることができる。
- (3) be動詞と一般動詞、助動詞canを用いて、互いのことを知るために、自分のことや相手のことについて、即興でコミュニケーションを行おうとする。

### 3 学習の計画 （6時間完了）

- 第1時 be動詞と一般動詞の用法を学習し、名前や好きなものなどについて伝え合う活動に取り組む。
- 第2時 be動詞と一般動詞の疑問文とその応答について学習し、出身地や好きなスポーツについて尋ねる活動に取り組む。
- 第3時（本時） 助動詞canを学習し、できることやできないことについて尋ねたり答えたりする活動に取り組む。
- 第4時 学習事項を用いて、自己紹介の文を考える活動に取り組む。
- 第5時 学習事項を用いて、パフォーマンステストに取り組む。
- 第6時 学習事項をまとめ、単元テストに取り組む。

### 4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - できることやできないことを尋ねたり答えたりすることができる。
- (2) 準備・資料
  - 教師……電子黒板、タブレット
- (3) 関 連
 

小5 英語 Unit4 He can bake bread well. (身近な人を紹介する)
- (4) 学習過程

| 段<br>階 | 学 習 活 動  | 時<br>間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|--------|--|--------|--|
| 導<br>入 | 1 挨拶をする。   | 10     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業前から英語の音楽を流しておくことで、英語学習への意欲を高め、学習する雰囲気づくりをする。</li> <li>○天候や日付など、簡単な質問に答えさせる。</li> <li>○タブレットを使って生徒が普段行っているスポーツや楽器の画像を見せ、口頭で英問英答を行う。</li> <li>○教科書のイラストについて、学習課題を用いて生徒に尋ね、英語で答えさせる。</li> <li>○教科書を持って教室内を周り、友達と会話活動をさせる。</li> <li>○本時の課題を伝える。</li> </ul> |
|        | 2 前時の復習をする。  |        |  |
|        | 3 本時の学習課題をつかむ。<br>○ Enjoy Communicationを行う。  | 10     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書のイラストについて、学習課題を用いて生徒に尋ね、英語で答えさせる。</li> <li>○教科書を持って教室内を周り、友達と会話活動をさせる。</li> <li>○本時の課題を伝える。</li> </ul>  |
|        | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           できることやできないことについて尋ねたり答えたりしよう。         </div> |        |  |
|        | 4 基本表現の学習をする。<br>○助動詞canと、その疑問文の形・意味   |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Enjoy Communication で会話した文を</li> </ul>  |

|            |  |    |   |
|------------|--|----|---|
| 言語材料の理解・練習 | <p>・用法を知る。</p> <p>5 本文の学習をする。</p> <p>(1) イラストを見ながら本文の内容に関する口頭導入を聞き、概要をつかむ。</p> <p>(2) 新出語句の発音練習と意味の確認をする。</p> <p>(3) イラストだけを見ながら本文を聞いて、内容を確認する。</p> <p>(4) ペアで本文の意味を確認する。</p> <p>(5) 本文の音読練習をする。</p> <p>・役割読み、ジェスチャー読みなどを行う。</p> | 25 | <p>用いて、助動詞canについて説明する。</p> <p>○ 一般動詞との違いや、助動詞の説明にも触れておく。</p> <p>○ イラストやジェスチャーを用いながら、英語で口頭導入を行う。</p> <p>○ 事前に巻末資料で発音のポイントを押さえておき、教師の口元や舌の動きを示してまねをさせる。</p> <p>○ Unit 0 で学習した音の連結を確認する。</p> <p>○ Can you に注目をさせ、メグができることとできないことを聞き取らせる。</p> <p>○ ペアで文章を読み合い、内容を細かく確認させる。</p> <p>○ 内容に関して簡単なクイズを出題する。</p> <p>○ さまざまな方法で繰り返し音読練習をさせる。</p> |
|            | <p>6 対話活動に取り組む。</p> <p>(1) 友達に尋ねたい内容を考え、ノートに書く。</p> <p>(2) 書いた文章を基に、ペアや級友との会話活動に取り組む。</p>  | 45 | <p>○ 友達の隠れた特技を探るために尋ねてみたい質問を考え、ノートに書かせる。</p> <p>○ 書いた内容を基にペアで尋ね合わせ、互いに友達の答えを書き取らせる。</p> <p>○ 学級全体で会話活動に取り組ませる。</p> <p>○ たくさんの友達に尋ねた結果をノートに書かせ、教師に提出させる。</p> <p>評助動詞canの疑問文を用いて尋ねたり、それに対して答えたりしている。<br/>(対話活動、ノート)</p>   |
|            | <p>7 本時を振り返る。</p> <p>(1) 助動詞canの肯定文や疑問文とその応答の仕方を再確認する。</p> <p>(2) 次時の予告を聞く。</p>  | 50 | <p>○ タブレットを使って、口頭で確認する。</p> <p>○ 本時の生徒自身の学習に向かう力について、自己評価を行わせる。</p> <p>○ 自己紹介の原稿を書く活動に取り組むことを伝える。</p>   |

(5) 本時の評価規準

- 友達ができることやできないことについて関心をもち、それについて尋ねたり、友達から尋ねられたことに対してジェスチャーを用いて答えたりしている。(対話活動、ノート)

## 5 備考

### (1) 学級の実態

- 生徒は英語の学習に対して意欲的で、級友との話し合い活動や発音練習などに主体的に取り組む様子が見られる。しかし、決められた活動に対しては積極的に取り組めるが、自分の言葉として話すことには、間違えることに対する恥ずかしさから、萎縮してしまう生徒もいる。

### (2) 指導の力点

- 本時の学習課題をつかませる際に、タブレットやデジタル教科書を用いて視覚的に新出表現に触れさせ、生徒の学習意欲を喚起させる。また、コミュニケーション活動中には、机間指導をしながら生徒の知識への理解度や学習に向かう力を把握し、的確なアドバイスをする。

## 6 指導と評価

## 第2学年〇組 英語科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時（英語教室）

指導者 T1 ○ ○ ○ ○

T2 ○ ○ ○ ○

### 1 単 元 Unit 3 My Future Job

#### 2 単元設定の理由

##### (1) 生徒観

本学級の生徒は、授業に熱心に取り組むことができる。男女ともに仲よく、明るくて活発な生徒が多い。また、思いやりがある生徒も多く、協力し合いながら活動したり、学習活動では分からないところを教え合ったりしながら課題に取り組んでいる様子も見られる。他の教科においても主体的に授業に臨む生徒たちである。しかし、筋道を立てて自分の考えを述べるのが苦手な生徒が多い。

そこで、今回はペア学習やグループ学習を通して、自分の考えを組み立て、分かりやすく発表する活動を取り入れた。さまざまな学習形態で生徒が話し合ったり、教え合ったりする中で、互いに英語の力を高めていけるようにしたい。

##### (2) 教材観

Unit 3では、2年生で扱う進路指導の題材である「職業」についての学習を進める設定で職業体験に至る準備や体験後のまとめレポートを取り上げている。本時の題材であるUnit Activityでは、生徒自身の職業体験で学んだことを発表することを目標に、発表内容の整理からペアでの短いやりとりを経て自身の職業体験で学んだことを筋道を立てて発表できるようにしていく。

ここでは、既習事項の不定詞の三つの用法や〈It is ~ for 人 to...〉などを用いて、自分の職業体験のエピソードを基に、そこから学んだことや自分の将来に向けて取り組んでいきたいことなどを整理して話すことが求められる。ペアやグループで伝え合う活動を通して、相手に分かりやすく伝える力を身に付けさせたい。

##### (3) 指導観

指導においては、まず教師が手本を見せ、どのような姿になることが望ましいかを示したい。発表時における発話のスピードや声の大きさ、聞き手の反応を確かめる問いかけなどのプレゼンテーションスキルを提示する。

また、深める段階では、ペアでの短い対話を基に、相手に分かりやすく発表するにはどうしたらよいかを考えさせ、実践させる。グループ内発表を通して、多くの級友の発表を聞くことで、自身の考えを深めたり、自分が言いたかったことのヒントを得たりする姿が見られることが望ましい。

#### 3 単元目標

- (1) 不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、行動の目的や、感情の原因などといった情報を整理して伝えたり理解したりすることができる。
- (2) 将来の夢やその実現に向けて行っていることについて、不定詞を使って情報を整理して伝え合うことができる。また、職業体験のレポートを読んで、その内容を理解するとともに、自分の考えの要点を述べるができる。
- (3) 将来の夢やその実現に向けて行っていることを、積極的に伝え合おうとする。また、これからの社会を想像し、自分の将来や夢のためにすべきことなどについて理解したり伝えたりしようとする。



#### 4 学習の計画 (11時間完了)

|          |  |
|----------|--|
| 第1時      | 不定詞の副詞的用法について理解する。   |
| 第2時      | 原因を表す不定詞の副詞的用法について理解する。  |
| 第3時      | さまざまな活動を通して、不定詞の副詞的用法についての理解を深める。  |
| 第4時      | 不定詞の形容詞的用法の理解を基に、職業体験のレポートを読む。   |
| 第5時      | 〈It is ～ for 人 to・・・〉の理解を基に、レポートの続きを読む。  |
| 第6時      | 職業体験のレポートを読み、AIについての自分の考えをまとめる。  |
| 第7時 (本時) | 自分の職業体験での経験をメモに書き出す。その後、ペアで職業体験で体験したことを伝え合う。ペアでの伝え合いを基に、自身の職業体験の様子や学んだことを整理し、グループ内で発表する。 |
| 第8時      | 留守番電話のメッセージへの返信を考える。   |
| 第9時      | 不定詞の復習をする。   |
| 第10時     | 情報技術の進歩について話し合う。   |
| 第11時     | 単元テストに取り組む。  |

#### 5 本時の学習指導

##### (1) 目標

- 職業体験で学んだことを、事実や意見を整理して分かりやすく発表することができる。
- 職業体験についての発表に向け、ペアと協力して主体的に取り組もうとする。

##### (2) 準備・資料

- 教師……ワークシート、和英辞書、電子黒板、タブレット

##### (3) 関連

- 1年 英語 Unit 9 (不定詞の名詞的用法を用いて将来の夢について話し合う)
- 3年 英語 Stage Activity 1 (今まで取り組んできたことを振り返り、活動報告を行う)
- 2年 総合的な学習の時間 職業体験

##### (4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動   | 時 間 | 指 導 上 の 留 意 事 項   |
|------|---|-----|---|
| つかかむ | <p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>(1) Tool Boxの確認をする。</p> <p>(2) 教師の職業体験の体験談を聞く。</p> <p>(3) プレゼンテーションスキルを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発話のスピードや音量</li> <li>○ 内容理解を促す問いかけ</li> <li>○ 画像や資料の提示</li> </ul> <p>(4) 本時の学習課題を把握する。</p> <p>職業体験で学んだことを整理し、分か</p> |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電子黒板のフラッシュカード機能を使って、繰り返し発音させる。【T1】</li> <li>○ 教師が話す内容についての簡単なメモを提示する。【T1】</li> <li>○ 体験にまつわる画像などを提示する。【T1, T2】</li> <li>○ 身振りや問いかけを交え、分かりやすく見せる。【T1】</li> <li>○ 教師によるプレゼンにどのような工夫がされていたかを考えさせる。【T1】</li> <li>○ 意見が出にくい場合は、ペアで相談させる。【T1】</li> <li>○ 本時の学習に見通しをもたせ、学習に対</li> </ul> |

|      |  |    |   |
|------|--|----|---|
|      | りやすく伝えよう。  | 7  | する意欲を喚起する。【T1】  |
| 練習する | 2 職業体験で体験したことを振り返る。<br>(1) 自分の職業体験についての情報を書き出す。<br>・行き先<br>・目的<br>・体験したこと<br>(2) ペアで体験したことを伝え合う。<br>S1: I went to a supermarket to work for a day.<br>S2: What did you do?<br>S1: I greeted customers, put products on the stands and so on.<br>S2: You have many things to do.<br>S1: They were very hard, but I enjoyed them.<br>(3) 発表の準備を行う。<br>○ 以下の評価ポイントを心がけて発表原稿を作成する。<br>・発話のスピードや音量<br>・聞き手への問いかけなどの工夫<br>・写真等の資料の効果的な提示<br>(4) ペアで発表の練習をする。 | 25 | ○ STEP1に取り組ませる。【T1】<br>○ 作文させるのではなく、語句で箇条書きにさせ、できるだけ多くの情報を書かせる。【T1, T2】<br><br>○ STEP2に取り組ませる。【T1, T2】<br>○ メモを基に、ペアで短い対話をさせる。<br>○ 机間指導をし、対話が進まないペアを中心に、支援を行う。【T1, T2】<br>○ 教科書のモデル対話を参考にさせる。【T1, T2】<br>○ ペアを替えて繰り返し対話させる。【T1, T2】<br><br>○ 前時までに準備させた職業体験に関する画像などを活用させる。【T1】<br>○ プレゼンテーションスキルを提示し、生徒に意識させる。【T1】<br><br>○ 早くできたペアから発表の練習をさせる。【T1】<br>評発表に向け、ペアと協力しながら主体的に取り組もうとしている。（観察） |
|      | 発表する   |    | 3 職業体験について発表する。<br>(1) 2 ペアで一つのグループをつくる。<br>○ 発表の順番を決める。<br>(2) 発表の手順を知る。<br>○ 発表者と聞き手の動きを知る。<br>○ 発表者は起立し、タブレットを持って発表する。<br>○ 聞き手は発表者の発表を以下の観点で評価する。<br>・発話のスピードと音量は適切か。<br>・聞き手への問いかけなどの工夫はあったか。<br>・写真等の資料の提示は効果的か。<br>○ コメントカードの書き方を知る。<br>・発表の評価（◎○△）をする。<br>・Your presentation is great.<br>・The pictures are very nice.  |



### 第3学年〇組 英語科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時（英語教室）

指導者 〇 〇 〇 〇

#### 1 単 元 Unit 1 Sports for Everyone

#### 2 単元の目標

- (1) 現在完了形や「make+（代）名詞+形容詞」の文、「SVOO（that）節」の文の形・意味・用法を理解することができる。そしてその理解を基に、相手の伝えたいことを理解したり、自分の伝えたいことを表現したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 簡単な語句や文を用いて、自分のことを伝えたり、相手のことを知るために尋ねたり、相手からの質問に答えたりすることができる。また、教科書本文の概要を捉えたり、簡単な語句や文を用いて話したりすることができる。
- (3) 現在完了形や「make+（代）名詞+形容詞」の文、「SVOO（that）節」の文を用いて、積極的に自分の経験や気持ちについて話したり、尋ねたりしようとする。また、障がい者スポーツについて書かれた文章の概要を捉えたり、人の気持ちの変化について簡単な語句や文を用いて伝えたりしようとする。

#### 3 学習の計画 （10時間完了）

- |         |   |
|---------|---|
| 第1時（本時） | 現在完了形の経験用法の形・意味・用法を知り、練習する。                       |
| 第2時     | 現在完了形の疑問文の形・意味・用法を知り、練習する。                        |
| 第3時     | 現在完了形の経験用法を用いたコミュニケーション活動に取り組む。                   |
| 第4時     | 「make+（代）名詞+形容詞」の用法を学習し、車いすテニスの選手に関する説明文の内容を読み取る。 |
| 第5時     | 「SVOO（that）節」の用法を学習する。                            |
| 第6時     | 障がい者スポーツを支える技術の進歩について書かれた記事を読んで、その内容を読み取る。        |
| 第7時     | 外国人のメッセージを聞いて、彼らをどこへ案内するかを考え、伝える活動に取り組む。          |
| 第8時     | 気持ちを伝えるファンレターの書き方を学習する。                           |
| 第9時     | 必要な情報をまとめて自分の意見を書く方法を学習する。                        |
| 第10時    | 学習事項をまとめ、単元テストに取り組む。                              |

#### 4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 現在完了形の経験用法を用いて、対話をすることができる。
- (2) 準備・資料
  - 教 師……電子黒板、タブレット
- (3) 関 連
 

2年 英語 Unit 5 Universal Design（ユニバーサルデザインの意義について考える）
- (4) 学習過程

| 段<br>階 | 学 習 活 動  | 時<br>間 | 指 導 上 の 留 意 事 項   |
|--------|--|--------|---|
| 導<br>入 | 1 挨拶をする。<br>2 One Minute Chatを行う。<br>(1) 「昨日したこと」を伝え合う。<br>(2) 別のペアに聞いた情報を伝える。<br>3 単元の学習課題を把握する。<br>○Unit1の表紙で質疑応答をする。<br>4 本時の学習課題をつかむ。<br>○Previewを開き、分かったことをペアで伝え合う。 |        | ○ペア同士の会話が続く表現を提供する。<br>○ペアから聞いたことを別のペアに伝えることで聞く意識を高めさせる。<br>○学習する内容について関心をもたせる。<br>○ペアで伝え、確認し合うことで現在完了形（経験）の用法に気付かせる。 |

|            |   |    |   |
|------------|---|----|---|
|            | 経験のあること・ないことについて英語を使って、表現しよう。   | 10 |   |
| 言語材料の理解・練習 | <p>5 基本表現の学習をする。</p> <p>(1) 現在完了形（経験）の形・意味・用法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スクリーンの画像を見て発声する。</li> <li>・ I have played tennis many times.</li> <li>・ I have never tried sky diving.</li> </ul> <p>(2) 過去進行形の口頭練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Practiceを使って口頭練習をする。</li> </ul> | 20 | <ul style="list-style-type: none"> <li>視覚教材を用いて「経験の有無」の導入をすることで生徒の関心を高める。</li> <li>テンポよく画像を出し英文を言わせる。</li> <li>主語が変わることでhaveからhasに変化することを理解させる。</li> <li>回数を表す表現や否定文で使うneverを確認する。</li> </ul> |
| 言語材料の追究    | <p>6 経験用法を使って、自分のことを表現する。</p> <p>(1) 自分の経験したことがあるもの、一度もしたことがないものを書く。</p> <p>(2) 自分の経験の有無をペアで伝え合う</p> <p>(3) 全体発表を行う。</p>  | 30 | <ul style="list-style-type: none"> <li>書いた英文に回数を表す表現や否定文で使うneverを使うことができたかを確認させる。</li> </ul> <p>評 現在完了形を用いて、ペアで自分のことを伝え合うことができる。（観察）</p>  |
| 言語材料の活用    | <p>7 本文の学習を知る。</p> <p>(1) 教師のオーラルイントロダクションを聞く。</p> <p>(2) 新出語句を確認する。</p> <p>(3) 音読練習を行う。</p> <p>(4) 内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジョシュの回答を確認する。</li> <li>アンケートに答える。</li> <li>ペアで回答を確認する。</li> <li>全体発表をする。</li> </ul>   | 45 | <ul style="list-style-type: none"> <li>視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> <li>視覚教材を用いて、クイズ形式で確認する。</li> </ul>                 |
| 整理         | <p>8 本時のまとめを行う。</p> <p>(1) 自己評価表を記入する。</p> <p>(2) 次時の予告を聞く。</p>   | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の取組を振り返り、自己評価をさせる。</li> <li>現在完了形の疑問文とその応答を学習することを伝える。</li> </ul>  |

(5) 本時の評価規準

- 現在完了形を理解し、自分の経験について、相手に正確に伝えている。（観察）

5 備 考

(1) 学級の実態

- 本学級では、ペアでの対話活動に主体的に取り組むことができる生徒が多い。しかし、新しく学習した表現を用いて自分の考えや思いを伝える活動には苦手意識をもつ生徒もいる。

(2) 指導の力点

- 現在完了形の経験用法を何度も繰り返し使うことで、新出文法への不安を軽減し、自信をもって発表できるようにさせたい。

6 指導と評価

# 『Bridge』

『Bridge』は令和3年度から始まる新しい中学校学習指導要領（平成29年3月告示）において追加された内容を，移行期間中に学習することができるように作成されたものである。しかし，令和2年度は新型コロナウイルスの影響で，6月から授業が始まり，かつ前年度の積み残しを実施する必要があった。そんな中で『Bridge』を活用する時間を確保できなかった学校も多いのではないかと考える。

知多カリ英語部としては，そのような状況下で『Bridge』を令和2年度に実施できなかった学校に，令和3年度及び4年度に，どの時期に，どのように活用することが望ましいかを提示する。未実施の学校は，難易度的にも「3年生での実施」が望ましいと考える。

本教材『Bridge』は，部活動，友達との待ち合わせ，携帯電話でのやり取りなど，中学生にとって身近な話題が集められている。そのため，文を読むだけでなく，読んだ内容について，自分が思ったり考えたりしたことを，クラスで話し合ったり，書いたりすることができるようになっている。生徒たちの英語の世界がいつそう広がっていくことを願い，本教材を主体的に活用していただければと思う。

## 別表「新学習指導要領対応 中学校外国語教材『Bridge』活用法」 活用パターン記号

- |   |  |
|---|--|
| 必 | ⇒ 必ず実施すべき項目（1年・2年の教科書でターゲットセンテンスを取り扱っている項目）。令和2年度の1，2年時で『Bridge』の該当内容が未実施ならば，必ず3年生で実施する。 |
| 教 | ⇒ 3年の教科書でターゲットセンテンスをカバーしている項目。表現力の促進や練習問題として効果的に活用できるとよい。                                |
| 家 | ⇒ 家庭学習や宿題として活用してもよいと考えられる項目。   |
| 受 | ⇒ 地図やグラフが活用され，受験対策としても効果的と考えられる項目。   |

新学年の新教科書では「復習」という形で学習漏れの箇所（未習なのに既習扱いと見なされる箇所。例えば，令和3年度3年生における受け身形など）はカバーできるようになっている。しかし，定着が不十分と考えられる場合は，下級学年の新教科書等を活用して定着を図るとよいだろう。

新学習指導要領対応 中学校外国語教材 『Bridge』

| 項目<br>番号 | Contents (目次)                       | 主な文法事項   | 教科書掲載     | 効果的なフォロー<br>アップ時期 | 活用パターン |
|----------|-------------------------------------|--|-----------|-------------------|--------|
| 1        | What a Wonderful Memory!            | How fast! (感嘆文)  | 1 年 Unit8 | 3 年 1 学期後半        | 必      |
| 2        | A Birthday Present                  | What a good idea! (感嘆文)  | 1 年 Unit8 | 3 年 Unit3 の後      | 教・家    |
| 3        | Join us!                            | We can help you enjoy tennis! (原形不定詞)  | 3 年 Unit3 | 3 年 Unit3 の後      | 教・家    |
| 4        | What a Great Movie!                 | What a surprising ending! (感嘆文)  | 1 年 Unit8 | 3 年 Unit3 の後      | 教・家    |
| 5        | Online English Lesson               | I'm sure that you'll enjoy my lessons.<br>(主語 + be 動詞 + 形容詞 + that)            | 2 年 Unit5 | 3 年 2 学期後半        | 必      |
| 6        | American Schools                    | Let me tell you about my school.<br>(let me tell you)                          | 3 年 Unit3 | 3 年 Unit3 の後      | 教・家    |
| 7        | If you had \$10,000...              | If I had \$10,000 for the party, I would have a famous chef... (仮定法)           | 3 年 Unit6 | 3 年 Unit6 の後      | 教・家    |
| 8        | http://www.magicmedicine            | The medicine lets you talk with animals.<br>(let + 人 + V)                      | 3 年 Unit3 | 3 年 Unit3 の後      | 教・家    |
| 9        | Meeting Friends                     | I have been waiting for 20 minutes.<br>(現在完了進行形)                               | 3 年 Unit2 | 3 年 Unit2 の後      | 教・家    |
| 10       | Can you help me?                    | I've been doing my homework since this morning. (現在完了進行形)                      | 3 年 Unit2 | 3 年 Unit2 の後      | 教・家    |
| 11       | A Time Machine                      | If we had a time machine, would you use it?<br>(仮定法)                           | 3 年 Unit6 | 3 年 Unit6 の後      | 教・家    |
| 12       | What can we do for the Environment? | If people didn't try to be eco-friendly, what would happen? (仮定法)              | 3 年 Unit6 | 3 年 Unit6 の後      | 教・家    |
| 13       | Super Robots                        | Everyone has been dreaming of super robots.<br>(現在完了進行形)                       | 3 年 Unit2 | 3 年 Unit5 の後      | 教・家    |
| 14       | Strange Events around the World     | Children will be happy that it's a funny race.<br>(主語 + be 動詞 + 形容詞 + that)    | 2 年 Unit5 | 3 年 Unit4 の後      | 必      |
| 15       | Headphones & Hearing Loss           | This will help you protect your ears.<br>(原形不定詞)                               | 3 年 Unit3 | 3 年 Unit3 の後      | 教・家    |
| 16       | Which Way is Best?                  | If I were you, I would ride this bus. (仮定法)                                    | 3 年 Unit6 | 3 年 3 学期          | 教・受    |
| 17       | Help the Store!                     | She asked her classmates what kind of store they want to go to. (SVOO)         | 3 年 Unit1 | 3 年 3 学期          | 教・受    |
| 18       | Cash or Cashless?                   | Small shops and restaurants often tell them that only cash is accepted. (SVOO) | 3 年 Unit1 | 3 年 3 学期          | 教・受    |

## 『Bridge』 授業や家庭学習での取り扱い方の一例

(教科書やワークシートを使用し、ターゲットセンテンスの学習が終了した段階での活用法)

- 1 『Bridge』の各右頁のQRコードを読み取り、本文を見ずに、一度聞く。<sup>活動時間【目安】</sup>【30秒～2分】
- 2 (自力で)本文を読み、CheckとTalkに取り組む。時間を計るとよい。【10分～15分】
- 3 Talkの箇所を4人グループで発表し合う。【2分】
- 4 グループでのよい意見を全体で共有する。【5分】
- 5 本文の大意を確認し、答え合わせと解説をする。(家庭学習では巻末のSample AnswersやWordsを見て自分で答え合わせをする)。【5分～10分】
- 6 Writeの箇所は宿題とし、巻末のSample Answersを見て、各自で答え合わせをする。

『Bridge』は、各頁、よく考えられた内容となっている。特に「思考力、判断力、表現力」を鍛えるには効果的であると考え。実施時期を考慮し、授業や家庭学習で計画的に実施していきたい。



## 単元名 Unit 0 Welcome to Junior High School

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 小学校で習った表現を用いて、挨拶や好きなもの、部活動について伝えたり、先生の指示を聞き取ったりすることができる。また、アルファベットや単語を声に出して読んだり、書いたり、自ら辞書を引くことができる。
- (2) 小学校で習った英語表現を用いて、挨拶や、好きなもの、部活動などについての考えや気持ちなどを伝えることができる。
- (3) 初対面の相手と知り合うために、好きなもの、入りたい部活動などを伝え合ったり、先生の指示を聞き取ってそれに合わせて動いたりしようとする。また、アルファベットの綴りや音を頼りに、文字や単語を読んだり書いたりしようとする。

## 標準的な展開例

10250101\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 Part1 1年生の英語学習の進め方の説明や、それぞれの場面で使用する表現について学習する。</p> <p>★英語学習の進め方を知り、小学校で習った英語表現を、それぞれの場面で使ってみよう。</p> <p>○教師の自己紹介を聞く。</p> <p>○これからの英語学習への取組方を知る。</p> <p>○友達と自己紹介をする活動に取り組む。</p> <p>○教室で使う英語について知る。</p> <p>○英語の指示に従って動作する活動に取り組む。</p> <p>2 Part2 英語の音と文字について学習する。</p> <p>★アルファベットの知識をもとに、単語を読んだり書き写したりしよう。</p> <p>○アルファベットの名前と音を確認する。</p> <p>○読み方の違いを確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が簡単な自己紹介を行い、小学校で習ったことを思い出させながら、生徒に自由に質問させる。</li> <li>・授業は基本的に英語で行うよう努める。</li> <li>・いくつかの問答を繰り返し、英語で授業を進める雰囲気づくりをする。</li> <li>・表紙裏の資料で、英語が使えるようになることで何ができるかを考えさせ、積極的に英語を学ぶための意欲付けを行う。</li> <li>・卒業した先輩が在籍中に英語を使っている様子などを動画で見せた後、中学校の到達目標を伝えることで3年間の見通しをもたせ、英語学習への意欲を高めさせる。</li> <li>・授業の進め方や、ノートやタブレットの使い方、課題への取組方などを伝える。</li> <li>・小学校で習った自己紹介の仕方や、好きなものの尋ね方、入りたい部活動の伝え方を確認する。</li> <li>・隣の友達に、自分の名前、好きなもの、入りたい部活動を伝える活動をさせる。</li> <li>【評】友達と会話をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・教科書で紹介されている表現に加え、授業でよく使う指示を紹介する。</li> <li>・“Simon Says”など、ゲーム性のある活動に取り組ませることで、英語による指示の定着を図る。</li> <li>【評】指示に従って動く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・アルファベットを電子黒板やタブレット等で提示しながら、モデルに続いて発音させる。</li> <li>・Vなど、日本語で違った読み方で定着しているアルファベットの発音に注意させる。</li> <li>・単語は主に音の足し算で成り立っていることに気付かせる。</li> <li>・同じ文字でも異なる発音をする単語を発音させ、違いに気付かせる。</li> <li>・巻末資料や発音の仕方の映像資料などを活用し、文字の発音についてAから順に説明し、一つ一つ発音させる。</li> <li>・舌の使い方や口の開け方を意識させる。</li> <li>・始めは“[k], [k], car”などと、フォニックスの読み方で練習する。</li> <li>・最終的には、文字だけを見て発音できるように、絵を示さないで練習する。</li> <li>・しっかりとリピートさせて、正しく発音できるようにさせる。</li> <li>・列ごとや個人で発音する機会を設け、一人一人が正しく発音できているか確認する。</li> <li>・chやphなど2文字で一つの音になるつながりも確認する。</li> </ul> |

|   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単語の書き取りをする。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単語や文の書き方を確認する。</li> </ul><br><p>3 学び方コーナー① 辞書の使い方を知る。</p> <p>★辞書の使い方を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 辞書の引き方を知る。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 辞書の見方を知る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語の音と綴りの関係を意識させ、それぞれの単語の発音練習をしてから、書く練習をさせる。</li> <li>・ 書き始めの位置や文字の高さに注意して書かせる。</li> <li>・ bとd, pとqなどの間違いやすい文字に注意させる。</li> <li>・ 単語や文を書くときのルールについて確認する。</li> </ul> <p>【評】 単語を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ単語でも、複数の品詞や意味があることを理解させる。</li> </ul> <p>【評】 辞書で語の意味を引く取組を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】  
授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。  
「アルファベットの名前と音」については、Unit1以降も、必要であれば何度も振り返るようにする。

## 単元名 Unit 1 New School, New Friends

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) be動詞と一般動詞, 助動詞canを用いた文の形・意味・用法や, その疑問文と答え方を理解することができる。さらに, お互いを知るために, 自分のことを伝えたり, 相手のことを尋ねたりすることができる。
- (2) be動詞と一般動詞, 助動詞canを用いて, 即興で自分のことを伝えたり, 相手のことを尋ねたりすることができる。
- (3) be動詞と一般動詞, 助動詞canを用いて, お互いのことを知るために, 自分のことや相手のことについて, 即興でコミュニケーションを行おうとする。

## 標準的な展開例

10250102\_001

【準備等】 デジタル教科書, 電子黒板, タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 Part1 自分についての伝え方を学習する。</p> <p>★名前や好きなものなどについて伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</li> <li>○ be動詞・一般動詞の形・意味・用法を知る。</li> <li>○ 基本表現の学習をする。</li> <li>○ 本文の学習をする。</li> <li>○ 本文の概要をつかむ。</li> <li>○ 新出語句を確認する。</li> <li>○ 本文の内容理解をする。</li> <li>○ 音読練習をする。</li> <li>○ 練習問題に取り組む。</li> </ul> <p>2 Part2 相手についての尋ね方や答え方を学習する。</p> <p>★出身地や好きなスポーツについて尋ねよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</li> <li>○ be動詞・一般動詞の疑問文とその応答の形・意味・用法を知る。</li> <li>○ 基本表現の学習をする。</li> <li>○ 本文の学習をする。</li> <li>○ 練習問題に取り組む。</li> </ul> <p>3 Part3 できることの伝え方や尋ね方を学習する。</p> <p>★できることやできないことについて尋ねたり答えたりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</li> <li>○ 助動詞canと, 疑問文の形・意味・用法を知る。</li> <li>○ 基本表現の学習をする。</li> <li>○ 本文の学習をする。</li> <li>○ 練習問題に取り組む。</li> </ul> <p>4 単元を通して学んだことを用いて, 自分の文を考える活動に取り組む。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校で習った表現で活動させる。</li> <li>・ 動詞にはbe動詞と一般動詞があることを確認し, その用法の違いに気付かせる。</li> <li>・ Key Sentenceを見せ, 日本語で簡単に疑問文の形・意味・用法を確認する。</li> <li>・ 日本文と英文の語順の違いに気付かせる。</li> <li>・ 電子黒板やタブレットで状況を確認する。</li> <li>・ 「メグは何歳で好きなものは何と言っているか」という聴取ポイントを与える。</li> <li>・ デジタル教科書等を活用して, 意味の確認をしながら行う。</li> <li>・ 事前に巻末資料で発音のポイントを押さえておき, 見本を示しながらまねをさせる。</li> <li>・ 正しく発音できていない場合は, ゆっくり発音させたり, 回数を増やしたりする。</li> <li>・ 内容理解ができたら音読を複数回行う。</li> <li>・ 一斉→個人→ペアの順で行う。</li> <li>・ ジェスチャーや大きな声を意識させる。</li> <li>・ Your Turnを行い, 基本表現の定着を図る。</li> <li>・ 文の書き方に注意して, 正しく自分の名前を紹介する英文を書かせる。</li> <li>【評】 自分のことについて書く活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒に尋ねたり, 自分のことを紹介したりしながら見本を示した後, 活動に取り組む。</li> <li>・ Key Sentenceを見せ, 日本語で簡単に疑問文の形・意味・用法を確認する。</li> <li>・ 疑問文の語尾が上がることや, 語と語の音の繋がりを意識して音読させる。</li> <li>・ Your Turnを行い, 基本文の定着を図る。</li> <li>・ 英文を書いた後は必ずペアで尋ね合わせ, 不特定多数の級友と行わせる。</li> <li>【評】 出身地や好きなスポーツについて尋ねたり答えたりする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イラストの活動について教師から尋ね, 答えさせる。</li> <li>・ 生徒から教師にも尋ねさせた後, 生徒同士で活動に組みませる。</li> <li>・ Key Sentenceを見せ, 日本語で簡単に形・意味・用法を確認する。</li> <li>・ canが動詞と一緒に使われることを知る。</li> <li>・ Your Turnを行い, 基本文の定着を図る。</li> <li>・ 英文を書いた後は必ずペアで尋ね合わせ, 不特定多数の級友と行わせる。</li> <li>【評】 できることやできないことについて尋ねたり答えたりする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |

|   |  |
|---|--|
| <p>★学習事項を使って、オリジナル文を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○パフォーマンステストの説明をする。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○学習事項を振り返る。</li> <li>○原稿用紙を作成する。</li> <li>○練習する。</li> </ul> <p>5 パフォーマンステストに取り組む。</p> <p>★学習事項を使ってパフォーマンステストに取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ALTに自己紹介をする。</li> </ul><br><p>6 単元のまとめ 単元テストに取り組む。</p> <p>★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元テストに取り組む。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTに自己紹介をすることを伝える。</li> <li>・自己紹介活動のルーブリック評価を示したり過去の先輩の動画を見せたりして、自己紹介に向けての意欲を高める。</li> <li>・マッピングを用いて内容を整理させる。</li> </ul> <p>【評】自己紹介のための原稿を作成する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介が終わった後、いくつか即興で質問をするようALTに伝えておく。</li> </ul> <p>【評】ALTからの質問への応答を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】ALTからの質問への応答を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p><br><p>【評】単元テストを通して、学習事項についての「知識・技能」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】  
 授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 2 Our New Teacher

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) This (That, He, She) is…を用いた文の形・意味・用法や、その疑問文と答え方を理解することができる。さらに、お互いを知るために、疑問詞WhatやWho, Howを用いて、疑問に思うことについて尋ねたりすることができる。
- (2) This (That, He, She) is…や、疑問詞WhatやWho, Howを用いて、即興で身近な人やものについて伝えあったり、お互いを知るために、疑問に思うことについて尋ね合ったりすることができる。
- (3) This (That, He, She) is…や、疑問詞WhatやWho, Howを用いて、お互いのことを知るために身近な人やものについて、また、お互いに疑問に思うことについて、即興でコミュニケーションを行おうとする。

## 標準的な展開例

10250103\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 Part1 身近な人やものについての伝え方を学習する。</p> <p>★身近な人やものについて伝え合おう。</p> <p>○Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</p> <p>○This (That, He, She) is…を用いた文の形・意味・用法や、その疑問文と答え方を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> | <p>・身近な人の写真を活用して、活動のモデルを示す。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で簡単に疑問文の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・be動詞の疑問文はbe動詞が主語の前に出ることを確認する。</p> <p>・Your Turnを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>・単元の最後に、身近な人やものについてのジェスチャーゲームを行うことを伝え、実際に使用する目的で文を考えさせる。</p> <p>【評】身近な人やものについての紹介文を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
| <p>2 Part2 知らない人やものについての尋ね方や答え方を学習する。</p> <p>★知らない人やものについて尋ねよう。</p> <p>○Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</p> <p>○疑問詞WhatやWhoを用いた文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p>                    | <p>・質問・応答を行い、生徒がやり方を理解したら生徒に答えさせる。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で簡単に疑問文の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・疑問詞の疑問文は語尾が下がることに気付かせる。</p> <p>・概要をつかませる。</p> <p>・Your Turnを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>【評】知らない人やものについて質疑応答する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>  |
| <p>3 Part3 普段行動についての尋ね方を学習する。</p> <p>★普段の行動について尋ねたり答えたりしよう。</p> <p>○Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</p> <p>○How (What) do you…?の文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p>                   | <p>・指導者が生徒全員に尋ねた後、生徒同士で活動に取り組ませる。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で簡単に形・意味・用法を確認する。</p> <p>・概要をつかませる。</p> <p>・Your Turnを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>【評】普段行動について尋ねたり答えたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>   |
| <p>4 Grammar for Communication be動詞と一般動詞について復習する。</p> <p>★be動詞と一般動詞について復習しよう。</p> <p>○be動詞と一般動詞について確認する。</p>   | <p>・問題に取り組ませ、基本表現の定着を図る。</p> <p>【評】練習問題への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</p>   |
| <p>5 学び方コーナー② 単語の綴りと発音の関係を学習する</p> <p>★単語の綴りと発音の関係を知ろう。</p> <p>○単語の綴りと発音の関係を確認する。</p>  | <p>・本文を振り返ったり、単語リストを用いたりして、多くの単語で確認する。</p> <p>【評】未習語の発音を推測する取組を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>   |
| <p>6 単元を通して学んだことを用いて、身近な人やものについてのジェスチャーゲームに取り組む。</p> <p>★ジェスチャーゲームに取り組もう。</p> <p>○ジェスチャーゲームの説明をする。</p> <p>○指導者のデモンストレーションクイズに答える。</p>  | <p>・活動のループリック評価を示して、ゲーム大会に向けての意欲を高める。</p>   |

|   |   |
|---|---|
| <p>○グループでやり方を確認する。</p> <p>7 ジェスチャーゲーム大会に向けて練習をする。<br/>★ジェスチャーゲーム大会に向けて練習しよう。<br/>○グループ内でゲームの練習をする。</p> <p>8 ジェスチャーゲーム大会に取り組む。<br/>★ジェスチャーゲーム大会に取り組もう。<br/>○ペアで身近なものや人についてのジェスチャーゲームを行う。</p> <p>9 単元のまとめ 単元テストに取り組む。<br/>★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。<br/>○単元テストに取り組む。</p> <p>○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</p> | <p>・ゲーム大会に向けた取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・身近な人やものについての写真を複数用意しておき、一枚ずつ写真を引いて出てきた写真についてジェスチャーで説明させる。<br/>・答える方は、文章で答えるようにさせる<br/>【評】ゲーム大会に向けた取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・グループ対抗での正解数を競う大会とすることで、生徒の意欲を刺激する。<br/>【評】ゲーム大会で使用している文法の確認を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>【評】ゲーム大会での即興でのやり取りを通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元テストを通して、学習事項についての「知識・技能」を評価する。</p> |
|---|---|

【 備 考 】  
授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。  
各パートのBeat by BeatやSounds and Lettersを用いて、音読の際のイントネーションや、発音をその都度確認すると、リスニング力につながることを伝えたい。

## 単元名 Unit 3 Club Activities

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 疑問詞WhereやWhen, How many…?を用いた文の形・意味・用法や、その疑問文と答え方を理解することができる。さらに、自分のことをよりよく知ってもらうために、want toを用いて、したいことや夢について伝え合うことができる。
- (2) 疑問詞WhereやWhen, How many…?を用いて、即興で場所や日時・数の情報について伝え合ったり、希望や夢について即興で伝え合ったりすることができる。
- (3) 疑問詞WhereやWhen, How many…?を用いて、場所や日時・数などの情報を伝え合ったり、希望や夢について伝え合ったりするなど、即興でコミュニケーションを行おうとする。

## 標準的な展開例

10250104\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 Part1 場所や時についての尋ね方を学習する。</p> <p>★場所や日時について尋ね合おう。</p> <p>○Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</p> <p>○疑問詞WhereやWhenを用いた文の形・意味・用法や、その疑問文と答え方を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> <p>2 Part2 したいことや夢の伝え方を学習する。</p> <p>★したいことや夢について伝え合おう。</p> <p>○Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</p> <p>○I want to の文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> <p>3 Part3 数の尋ね方と答え方を学習する。</p> <p>★物の数について尋ねたり答えたりしよう。</p> <p>○Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</p> <p>○How many…?の文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> <p>4 Grammar for Communication 名詞の使い方・形を学習する。</p> <p>★名詞の使い方・形を学習しよう。</p> <p>○名詞の使い方・形を学習する。</p> <p>5 単元を通して学んだことを用いて、Q&amp;A活動に取り組む</p> <p>★学習事項を使って、質疑応答を練習しよう。</p> <p>○パフォーマンステストの説明をする。</p> <p>○学習事項を振り返る。</p> <p>○ペアやグループで練習する。</p> | <p>・学校のさまざまな教室の画像をスクリーンに映し、何階にあるのかを答えさせる。</p> <p>・クラスの全員で1月から12月まで誕生日順に並ばせる活動をさせる。</p> <p>・誕生日を聞く会話以外にも、英語だけで挑戦させる。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で簡単に疑問文の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・カレンダーや地図などを持たせ、実際の会話に近い形で音読させる。</p> <p>・ペアで音読する際は、実際にビデオカメラを構えて会話させる。</p> <p>・Your Turnを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>【評】学校の施設やいつ練習するのかを尋ねる文を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・始めは指導者が質問・応答を行い、生徒がやり方を理解したら生徒に答えさせる。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で簡単に疑問文の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・Your Turnを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>【評】なりたいものや叶えたい夢を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教師が生徒全員に尋ねた後、生徒同士で活動に取り組みさせる。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で簡単に形・意味・用法を確認する。</p> <p>・Your Turnを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>【評】身の回りの物の数を尋ねる文を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書付属の問題や教師の自作した問題に取り組みせ、基本表現の定着を図る。</p> <p>【評】練習問題への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・既習の疑問詞を用いて、疑問文と答え方が載ったリストを作成し、生徒に配布する。</p> <p>・Q&amp;A活動のルーブリック評価を示したり、過去の先輩の動画を見せたりして、自己紹介に向けての意欲を高める。</p> <p>・Q&amp;Aを練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】Q&amp;Aを練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

- 6 パフォーマンステストに取り組む。  
 ★学習事項を使ってパフォーマンステストに取り組もう。  
 ○ALTからの質問に時間内に文で答える。

- ・生徒の反応を見ながら、分かりやすい表現に変えるようALTに伝えておく。
- ・将来したいことや、住んでいる場所、誕生日、兄弟姉妹が何人いるかなど、これまでに習った疑問文に答えさせる。

【評】ALTからの質問への応答を通して、「知識・技能」を評価する。

【評】ALTからの質問への応答を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- 7 単元のまとめ 単元テストに取り組む。  
 ★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。  
 ○単元テストに取り組む。

- Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。

【評】単元テストを通して、学習事項についての「知識・技能」を評価する。

#### 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各パート毎にあるBeat by BeatやSounds and Lettersを用いて、音読の際のイントネーションや、発音をその都度確認すると、リスニング力につながることを伝えたい。



## 単元名 Unit 4 Friends in New Zealand

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 命令文や疑問詞What+名詞…?を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。さらに、相手に対して指示や助言をしたり、知りたい時刻や相手の好きなものについて尋ねたり伝えたりすることができる。
- (2) 命令文や疑問詞What+名詞…?を用いて、相手の状況に合わせて即興で最適な指示や助言をしたり、知りたい時刻や相手の好きなものについて尋ねたり伝えたりすることができる。
- (3) 命令文や疑問詞What+名詞…?を用いて、相手の状況に合わせて指示や助言をしたり、知りたい時刻や相手の好きなものについて尋ねたり伝えたりするなど、即興でコミュニケーションを行おうとする。

## 標準的な展開例

10250105\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 Part1 指示や助言の伝え方を学習する。</p> <p>★相手に指示したり助言したりしよう。</p> <p>○Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</p> <p>○命令文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> <p>2 Part2 時刻の尋ね方や答え方を学習する。</p> <p>★時刻の尋ね方や答え方について伝え合おう。</p> <p>○Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</p> <p>○What time…? の文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> <p>3 Part3 好きなものの尋ね方と答え方を学習する。</p> <p>★お互いの好きなものを尋ねたり答えたりしよう。</p> <p>○Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</p> <p>○What+名詞…? の文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> <p>4 Grammar for Communication 疑問詞の使い方・形を学習する。</p> <p>★疑問詞の使い方・形を学習しよう。</p> <p>○疑問詞の使い方・形を学習する。</p> <p>5 単元を通して学んだことを用いて、自分の質問を考える活動に取り組む。</p> <p>★学習事項を使って、質問内容を考えよう。</p> <p>○パフォーマンステストの説明をする。</p> <p>○学習事項を振り返る。</p> <p>○質問のメモを作成する。</p> <p>6 パフォーマンステストに取り組む</p> <p>★学習事項を使ってパフォーマンステストに取り組もう。</p> <p>○1分以内にALTに対してインタビューをする。</p> | <p>・電子黒板に地図を映し、目的地を変えて複数回できるよう工夫する。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で簡単に疑問文の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・概要をつかませる。</p> <p>・Your Turnを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>【評】 標識の意味を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・質問だけのやりとりではなく、挨拶から行い会話の中でやりとりをさせる。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で簡単に疑問文の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・概要をつかませる。</p> <p>・Your Turnを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>・巻末資料の一日の生活を用いて、さまざまな活動の時間を尋ね合う活動を行う。</p> <p>【評】 一日の生活について尋ね合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教師が生徒全員に尋ねた後、生徒同士で活動に取り組みさせる。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で簡単に形・意味・用法を確認する。</p> <p>・概要をつかませる。</p> <p>・Your Turnを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>・巻末資料p152以降を用いて、ペアやグループでさまざまなテーマについて尋ね合わせる。</p> <p>【評】 相手の好きなものを尋ねる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書付属の問題や教師の自作した問題に取り組ませ、基本表現の定着を図る。</p> <p>【評】 練習問題への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・インタビュー活動のルーブリック評価を示したり、過去の先輩の動画を見せたりして、自己紹介に向けての意欲を高める。</p> <p>【評】 インタビューの内容を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・インタビュー内容をグループでまとめさせてALTの紹介ポスターを作らせる。</p> |

|  |   |
|--|---|
| <p>○ グループでALTについてのポスターを作る。</p> <p>7 聞き取ったことを共有する。<br/>★ポスターを基に，学級でALTについてシェアしよう。<br/>○各グループで発表の方法や役割を考える。</p> <p>○前に出てきて発表する。<br/>○最もよく調べられていたグループを表彰する。</p> <p>8 単元のまとめ 単元テストに取り組む。<br/>★学習事項をまとめ，単元テストに取り組もう。<br/>○単元テストに取り組む。</p> <p>○Unitの目標を振り返り，できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</p> | <p>【評】ALTへのインタビュー内容を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】ALTへのインタビューを通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ポスターを黒板に掲示したり，電子黒板に映したりして，グループで分担してインタビューした内容を発表する。</p> <p>・よい取組のグループを選ばせる。</p> <p>【評】ALTへのインタビュー内容を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】単元テストを通して，学習事項についての「知識・技能」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】  
授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。  
各パートにあるBeat by BeatやSounds and Lettersを用いて，音読の際のイントネーションや発音をその都度確認すると，リスニング力につながることを伝えたい。

## 単元名 Unit 5 A Japanese Summer Festival

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 前置詞やlike (enjoy)...ing, be good at...ingを用いた文、動詞の過去形の文の形・意味・用法を理解することができる。さらに、ものの場所や人の位置を伝えたり、お互いによく知るために、好きなことや得意なことを尋ねたり伝えたりすることができる。
- (2) 前置詞を用いて、ものの場所や人の位置を伝えたり、like (enjoy)...ing, be good at...ingを用いた文や動詞の過去形を用いた文で、お互いによりよく知るために、好きなことや得意なことを、過去の体験談などを即興で尋ねたり伝えたりすることができる。
- (3) 前置詞を用いて、ものの場所や人の位置を伝えたり、like (enjoy)...ing, be good at...ingや動詞の過去形を用いた文で、お互いをよりよく知るために、好きなものや得意なこと、過去に体験したことを伝え合うなど、即興でコミュニケーションを行おうとする。

## 標準的な展開例

10250106\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 Part1 ものの場所や人の位置の伝え方を学習する。</p> <p>★どこにあるか・どこにいるかを説明しよう。</p> <p>○Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</p> <p>○前置詞の形・意味・用法を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p>  | <p>・始めは教師が質問をして、生徒に指差しさせ生徒ができるようになってきたらペアで活動させる。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で簡単に疑問文の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・巻末資料p161を見て、ものの場所をイメージで捉えさせる。</p> <p>・前置詞+名詞の固まりであることを知る。</p> <p>・本文の概要をつかむ。</p> <p>・Your Turnを行い、基本本文の定着を図る。</p> <p>【評】ものの場所や人の位置を伝える文を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
| <p>2 Part2好きなことや楽しんでいること、得意なことの伝え方を学習する。</p> <p>★好きなことや楽しんでいること、得意なことを伝え合おう。</p> <p>○Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</p> <p>○like (enjoy)...ing, be good at...ingの文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> | <p>・電子黒板に動物の画像を映す。</p> <p>・ペアの片方が見て、もう一方の生徒にスリーヒントクイズを行う。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で簡単に疑問文の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・本文の概要をつかむ。</p> <p>・Your Turnを行い、基本本文の定着を図る。</p> <p>【評】好きなことや得意なことを伝える文を書く活動を通して「知識・技能」を評価する。</p>  |
| <p>3 Part3 自分が体験したことの伝え方を学習する。</p> <p>★体験したことを伝え合おう。</p> <p>○Enjoy Communicationを用いた活動を行う。</p> <p>○動詞の過去形の文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p>   | <p>・電子黒板に画像を載せ、教師が例を示す。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で簡単に形・意味・用法を確認する。</p> <p>・本文の概要をつかむ。</p> <p>・Your Turnを行い、基本本文の定着を図る。</p> <p>【評】自分が最近体験したことを書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>  |
| <p>4 単元を通して学んだことを用いて、英語での日記の書き方を学習する。</p> <p>★日記の書き方を学習しよう。</p> <p>○英語日記の型と定型表現を学習する。</p> <p>○マインドマップを用いて、伝えたい内容のアイディアを出す。</p> <p>○日本語で書いてみる。</p> <p>○英語に直す。</p>   | <p>・教師自作のプリントを準備して、日付や書き出しなどの日記の型の見本を示す。</p> <p>・5W1Hを意識して書くよう促す。</p> <p>・「行ったこと(事実)」「具体例(事実)」「感想」の3文構成で書くよう伝える。</p> <p>【評】英語日記作成への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>  |
| <p>5 単元を通して学んだことを用いて、「私だけの特別な夏休み」について話す活動に取り組む。</p> <p>★学習事項を使って、「私だけの特別な夏休み」について話そう。</p> <p>○パフォーマンステストの説明をする。</p>  | <p>・ルーズブリック評価を示したり、過去の先輩の動画を見せたりして、スピーチに向けての意欲を高める。</p>  |

|  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習事項を振り返る。</li> <li>○ ペアやグループで練習する。</li> </ul> <p>6 パフォーマンステストに取り組む</p> <p>★学習事項を使ってパフォーマンステストに取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1分程度で全体に向けてスピーチをする。</li> <li>○ 自己評価を行う。</li> <li>○ 取組や内容のおもしろかった友達を選ぶ。</li> </ul> <p>7 単元のまとめ 単元テストに取り組む。</p> <p>★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元テストに取り組む。</li> <li>○ Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A3の用紙を4等分にして、タイトルと3つの紹介したい内容の絵を描かせる。</li> <li>・ 聴衆に絵を見せながら話すように促す。</li> </ul> <p>【評】スピーチに向けての取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵を描いた用紙を見せながら行わせる。</li> </ul> <p>【評】スピーチの内容を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】スピーチの取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p><br><p>【評】単元テストを通して、学習事項についての「知識・技能」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】  
 授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。  
 各パートにあるBeat by BeatやSounds and Lettersを用いて、音読の際のイントネーションや、発音をその都度確認すると、リスニング力につながることを伝えたい。

## 単元名 Stage Activity 1 “All about Me” Poster

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) Unit5までの学習事項を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。また、自分が好きなことについて、読んだ内容を参考に情報を整理し、Unit5までの学習事項を用いて、つながりのある文章を書くことができる。
- (2) 自分のことを知ってもらうために、好きなことについて、情報を整理してつながりのある文章でポスターを書き、お互いに読んで感想を伝え合うことができる。
- (3) 自分のことを知ってもらうために、好きなことについて、情報を整理してつながりのある文章でポスターを書こうとし、お互いに読んで感想を伝え合おうとする。

## 標準的な展開例

10250107\_001

【準備等】デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 自己紹介ポスターを作成する。</p> <p>★自己紹介ポスターを作成しよう。</p> <p>○Step1でモデル文を読む。</p> <p>○Step2で自己紹介の内容を考える。</p> <p>○Step3でポスターを作成する。</p> <p>2 自己紹介ポスターを読んで感想を書く。</p> <p>★ポスターを読んだ感想を伝え合おう。</p> <p>○ポスターを読んで感想を書く活動を行う。</p> <p>○教師が指定したポスターを読みに行き、感想を書いた付箋を貼る。</p> <p>○生徒が自由に動き、読んだポスターへの感想を書いて、付箋を貼る。</p> <p>○時間がきたら、自分のポスターと貼られている付箋を持って自席に戻り、感想を読む。</p> <p>○巻末のCan Do Listを用いて、これまでの学習を振り返る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の組み立て方を伝える。</li> <li>自分で作成することが困難な生徒には、モデル文の単語を変えて作成してよいことを伝える。</li> <li>これまでに学習してきた表現をスクリーンに示しておき、たくさん使用して作成するように伝える。</li> <li>マインドマップを書かせてアイデアを関連付けさせる。</li> <li>質問を必ず一つ取り入れることを伝える。</li> <li>タブレットのアプリを使用し、ポスターの枠が作成されたものを使用する。</li> </ul> <p>【評】英文を作成する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教室内の四隅に作成したポスターを掲示し、読んだ内容についての感想や、質問への回答を書き付箋で貼らせる。</li> <li>読まなければいけないスペースを読む時間と自由に読みたいところへ読みに行く時間との二部構成とする。</li> <li>教師からのフィードバックを行う。</li> </ul> <p>【評】ポスターを読んで感想を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】ポスターの感想を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

作成したポスターを、教室や廊下に掲示したり、文化祭などで展示したりしたい。

Small Talk1のページを紹介し、今後の授業最初の活動として会話活動を日常的に行うとよい。

## 単元名 Unit 6 A Speech about My Brother

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 三人称単数現在形の肯定文、否定文、疑問文の形・意味・用法を理解することができる。三人称単数現在形などを用いて、家族や身近な人、友達などについて話されるスピーチの内容を聞き取ったり、尋ね合ったりして、分かったことを整理して書いたりすることができる。
- (2) 家族や身近な人、友達のことについて読んだり聞いたりして分かったことを整理したり、まとまりのあるスピーチをしたり、そのスピーチについてやり取りしたことを整理して紹介文を書いたりすることができる。
- (3) 家族や身近な人、友達のことについて読んだり聞いたりして分かったことを整理したり、まとまりのあるスピーチをしたり、そのスピーチについてやり取りしたことを整理して紹介文を書いたりしようとする。

## 標準的な展開例

10250201\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 Starting Out 自分と相手以外の人やものなどについての伝え方を学習する。</p> <p>★自分と相手以外の人やものなどについて聞き取ろう。</p> <p>○単元の最後に友達の紹介スピーチをしたり、質問をしたりすることを伝える。</p> <p>○ Warm-upを行う。</p> <p>○ Enjoy Listeningを行う。</p> <p>○ Previewを行う。</p> <p>2 Story1 スピーチを聞いて、自分と相手以外の人やものなどについての伝え方を学習する。</p> <p>★自分と相手以外の人やものなどについて伝えよう。</p> <p>○ Teacher's Talk を聞き、質問に答える。</p> <p>○ 本文と質問を聞き、問題に答える。</p> <p>○ 本文の学習をする。</p> <p>○ 三人称単数現在形の否定文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 基本表現の学習をする。</p> <p>○ Practiceに取り組む。</p> <p>○ 書く活動に取り組む。</p> <p>3 Story2 スピーチを聞いて、自分と相手以外の人やものがないことについての伝え方を学習する。</p> <p>★自分と相手以外の人やものがないことについて伝えよう。</p> <p>○ Teacher's Talk を聞き、質問に答える。</p> <p>○ 本文と質問を聞き、問題に答える。</p> <p>○ 本文の学習をする。</p> | <p>・ p63のUnit Activityを見せ、単元最後の目標を意識させる。</p> <p>・ 単元のループリック表などを作成して配布し評価の基準を事前に伝え、見通しをもって単元の学習をするように促す。</p> <p>・ ペアでジャンケンをしてメグ役とジョシュ役に分ける。</p> <p>・ p20を開かせ、人を紹介する言い方を思い出させる。</p> <p>・ 写真を指さしながら相手の目を見て紹介させる。</p> <p>・ 朝美の顔を電子黒板に掲示しながら、スピーチを聞き取らせる。</p> <p>【評】 家族などについて聞き取る取組を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 朝美が紹介している人物はどんな人かを話し合わせ、次の予告として紹介する。</p> <p>・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</p> <p>・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</p> <p>・ 閉本した状態でリスニングをさせ、卓也がなぜセブを留学先に選んだのかを聞き取らせる。</p> <p>・ 個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。</p> <p>・ 教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。</p> <p>・ Key Sentenceを見せ、日本語で三人称単数現在形の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・ 基本表現を本文で確認する。</p> <p>・ Practiceを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>・ 身近な人が決まった曜日にすることについて話したり書いたりする。</p> <p>【評】 身近な人が決まった曜日にすることについて話したり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</p> <p>・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</p> <p>・ 閉本した状態でリスニングをさせ、卓也がなぜ防水カメラを欲しがっているのかを聞き取らせる。</p> <p>・ 個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。</p> <p>・ 教師が質問をし、生徒に内容を答えさせるこ</p> |

|  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三人称単数現在形の否定文の形・意味・用法を知る。</li> <li>○ 基本表現の学習をする。</li> <li>○ Practiceに取り組む。</li> <li>○ 書く活動に取り組む。</li> </ul> <p>4 Mini Activity 友達へのインタビューと、インタビューしたことをまとめる活動をする。</p> <p>★友達にインタビューをして、内容をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習事項を用いたスピーチを聞いて問題に答える。</li> <li>○ ペアにインタビューをする。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ インタビューで分かったことをまとめる。</li> </ul> <p>5 Story3 スピーチに対する質問を聞いて、自分と相手以外の人やものについての尋ね方を学習する。</p> <p>★自分と相手以外の人やものについて尋ねよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Teacher's Talk を聞き、質問に答える。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本文と質問を聞き、問題に答える。</li> <li>○ 本文の学習をする。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三人称単数現在形の疑問文の形・意味・用法を知る。</li> <li>○ 基本表現の学習をする。</li> <li>○ Practiceに取り組む。</li> <li>○ 書く活動に取り組む。</li> </ul> <p>6 Unit Activity 友達の紹介スピーチに取り組む。</p> <p>★学習事項を使って、友達の紹介スピーチに取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4人グループでスピーチをする。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 追加で聞きたいことを、発表者や紹介された人に質問する。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達紹介のポスターを作成する。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相互評価を行う。</li> <li>○ 優れていたペアが全体の前で発表をする。</li> </ul> | <p>とで本文の概要を掴む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Key Sentenceを見せ、日本語で三人称単数現在形の否定文の形・意味・用法を確認する。</li> <li>・ 基本表現が本文のどこで使われているかを確認する。</li> <li>・ Practiceを行い、基本文の定着を図る。</li> <li>・ 身近な人が普段しないことについての文を話したり書いたりする。</li> </ul> <p>【評】身近な人が普段しないことについての文を話したり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習事項の確認として文法を意識させる。</li> <li>・ 単元の最後に行う友達紹介活動の準備としてのインタビューであることを認識させる。</li> <li>・ 活動は全て英語のみのやりとりで行わせる。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 完成したら、実際に相手を意識して練習させる。</li> </ul> <p>【評】友達へのインタビュー内容をまとめる取組を通して、「知識・技能」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</li> <li>・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</li> <li>・ 閉本した状態でリスニングをさせ、ハロハロの由来が何かを聞き取らせる。</li> <li>・ 個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。</li> <li>・ 教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。</li> <li>・ Key Sentenceを見せ、日本語で三人称単数現在形の疑問文の形・意味・用法を確認する。</li> <li>・ 基本表現が本文のどこで使われているかを確認する。</li> <li>・ Practiceを行い、基本文の定着を図る。</li> <li>・ 朝美に卓也のことを質問する文を書く。</li> </ul> <p>【評】本文の内容に対しての質問を考える取組を通して、「知識・技能」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原稿を読まず、話の要点だけを書いたメモを見て発表させる。</li> <li>・ 発表始めの挨拶と、終わりの感謝の言い方を事前に伝えて練習する。</li> <li>・ スピーチを聞く側は、あいづちを打ちながら聞くことを伝える。</li> <li>・ 型のあるポスターに情報を書き込ませる。</li> <li>・ ルーブリックを基に友達同士で評価を行う。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各グループで最もよかった人を選び、全体に対して発表をさせる。</li> </ul> <p>【評】スピーチの内容を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】スピーチへの取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|---|

#### 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各授業の帯活動として、p56を利用した会話練習を「スモールトーク」として定期的に行っていき、英語を言語として使用することに慣れさせていきたい。

各Story最後の書く活動では、タブレットで書かせた答えを教師用タブレットに提出させ、全員の文を提示しながら添削していくとよい。

## 単元名 Let's Talk 1 お問い合わせ ―許可する・依頼する―

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 身近な人に許可を求める表現や依頼する表現の意味や働きを理解したり、伝えたり、答えたりすることができる。また、英和辞典の構成要素について理解することができる。

(2) したいことや頼みたいことを伝えるために、その場の状況を考えながら、身近な人に許可を求めたり依頼したり、それに適切に応答したりすることができる。

(3) したいことや頼みたいことを伝えるために、その場の状況を考えながら、身近な人に許可を求めたり依頼したり、それに適切に応答したりしようとする。

## 標準的な展開例

10250202\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 Let's Talk1 身近な人への許可や依頼の仕方を学習する。</p> <p>★身近な人に許可を求めたり、依頼したりする方法を学習しよう。</p> <p>○STEP1を行う。</p> <p>○Today's Pointで許可・依頼の表現を学習する。</p> <p>○STEP2でモデル文を用いて練習をする。</p> <p>○STEP3を行う。</p> <p>2 学び方コーナー③ 辞書の使い方を知る。</p> <p>★辞書の構成要素を確認しよう。</p> <p>○辞書の構成要素を知る。</p> <p>○Let's Tryを行う。</p> <p>3 Grammar for Communication 三人称単数現在形の使い方・形を学習する。</p> <p>★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。</p> <p>○疑問詞の使い方・形を学習する。</p> <p>○単元テストに取り組む。</p> <p>○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでさまざまな会話内容を考える。</li> <li>・日本語で考えた後、英語ではどのように言ったらよいかを考えさせる。</li> <li>・Can I…?とCan you…?の違いを生徒に英語でいくつか質問しながら気付かせる。</li> <li>・Can I…?とCan you…?の違いを日本語で確認する。</li> <li>・場面を想像しながら音読して、意味を確認する。</li> <li>・ペアで実際に演技練習をして、指導者の下でミニスキットを発表する。</li> <li>・ジェスチャーを付けてスムーズに演じることができたら合格とする。</li> <li>・それぞれの場面が、Can I…?とCan you…?のどちらを使うのが自然かをペアで考えさせ、実際に対話をさせる。</li> <li>・Tool Boxの表現を用いて、質問に対する答えを工夫させる。</li> </ul> <p>【評】身近な人に依頼をしたり許可したりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ単語でも、複数の品詞や意味があることを理解させる。</li> <li>・品詞それぞれの特徴を説明する。</li> <li>・数えられる名詞と数えられない名詞があることに触れる。</li> <li>・文章を考える際には例文を活用することを伝える。</li> </ul> <p>【評】辞書で英文の内容に合った語の意味を引く取組を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書付属の問題や教師の自作した問題に取り組ませ、基本表現の定着を図る。</li> </ul> <p>【評】単元テストを通して、学習事項についての「知識・技能」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各授業の帯活動として、p56を利用した会話練習を「スモールトーク」として定期的に行っていき、英語を言語として使用することに慣れさせていきたい。



## 単元名 Unit 7 Foreign Artists in Japan

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 人称代名詞の目的格や疑問詞which, whose…? の形・意味・用法を理解することができる。自分と相手以外の人について話したり, どちらなのか, 誰のものを尋ねたりすることができる。  
 (2) 自分と相手以外の人について話したり, 文化や言葉, 食べ物などについて知るために情報を整理したり, 持ち主が誰なのかを尋ねたり答えたりすることができる。  
 (3) 自分と相手以外の人について話したり, 文化や言葉, 食べ物などについて知るために情報を整理したり, 持ち主が誰なのかを尋ねたり答えたりしようとする。

## 標準的な展開例

10250203\_001

【準備等】 デジタル教科書, 電子黒板, タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 Starting Out 自分と相手以外の人話を聞き取って, 単元全体の概要を学習する。<br/> <b>★</b>自分と相手以外の人話を聞き取ってみよう。<br/>         ○単元の最後に教科書のキャラクター紹介クイズ大会を行うことを伝える。</p> <p>○ Warm-upを行う。</p> <p>○ Enjoy Listeningを行う。</p> <p>○ Previewを行う。</p> <p>2 Story1 発表を聞いて, 自分と相手以外の人についての尋ね方を学習する。<br/> <b>★</b>自分と相手以外の人について尋ねよう。<br/>         ○Teacher's Talk を聞き, 質問に答える。</p> <p>○ 本文と質問を聞き, 問題に答える。</p> <p>○ 本文の学習をする。</p> <p>○ 人称代名詞の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 基本表現の学習をする。<br/>         ○Practiceに取り組む。<br/>         ○書く活動に取り組む。</p> <p>3 Story2 会話を聞いて, 文化や言葉, 食べ物などについて知るために, 疑問詞Whichを用いた尋ね方や答え方を学習する。<br/> <b>★</b>文化や言葉, 食べ物などについて, 疑問詞Whichを用いて尋ねたり答えたりしよう。<br/>         ○Teacher's Talk を聞き, 質問に答える。</p> <p>○ 本文と質問を聞き, 問題に答える。</p> <p>○ 本文の学習をする。</p> <p>○ 疑問詞Which…, (A or B)? の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 基本表現の学習をする。</p> <p>○ Practiceに取り組む。</p> | <p>・ p73のUnit Activityを見せ, 単元最後の目標を意識させる。</p> <p>・ 単元のループリック表などを作成して配布し評価の基準を事前に伝え, 見通しをもって単元の学習をするように促す。</p> <p>・ ペアでお互いに英語で話し合わせ, 表を完成させる。</p> <p>・ 海斗とメグの顔をスクリーンに掲示しながらスピーチを聞き取らせる。</p> <p>【評】 自分と相手以外の人話を聞き取る取組を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 海斗とメグが紹介している人物はどんな人かを話し合わせ, 次回の予告として紹介する。</p> <p>・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</p> <p>・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</p> <p>・ 閉本した状態でリスニングをさせ, 海斗がダイアン・吉日さんを知ったきっかけは何かを聞き取らせる。</p> <p>・ 個人で黙読させた後, ペアで内容確認を行わせる。</p> <p>・ 教師が質問をし, 生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。</p> <p>・ Key Sentenceを見せ, 日本語で人称代名詞の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・ 基本表現を本文で確認する。</p> <p>・ Practiceを行い, 基本文の定着を図る。</p> <p>・ 好きな有名人について, 話したり書いたりする。</p> <p>【評】 好きな有名人について話したり書いたりする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</p> <p>・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</p> <p>・ 閉本した状態でリスニングをさせ, 海斗は落語の特徴をどのように説明しているかを聞き取らせる。</p> <p>・ 個人で黙読させた後, ペアで内容確認を行わせる。</p> <p>・ 教師が質問をし, 生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。</p> <p>・ Key Sentenceを見せ, 日本語で疑問詞Which…, (A or B)?の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・ 基本表現が本文のどこで使われているかを確認する。</p> <p>・ Practiceを行い, 基本文の定着を図る。</p> |

|  |   |
|--|---|
| <p>○書く活動に取り組む。</p> <p>4 Mini Activity 学習事項を用いて、人について尋ねたり答えたりする活動を行う。<br/>★友達が欲しいものを聞いて、情報をまとめよう。<br/>○学習事項を用いた対話を聞いて問題に答える。</p> <p>○Speak &amp; Writeの基本表現を練習する。<br/>○ペアと一緒にお互いが欲しいものを選んで対話をする。</p> <p>○学級全体で会話活動を行う。</p> <p>5 Story3 会話を聞いて、持ち主が誰かを確認するために疑問詞Whoseを用いた尋ね方や答え方を学習する。<br/>★疑問詞Whoseを用いて尋ねたり答えたりしよう。<br/>○Teacher's Talk を聞き、質問に答える。</p> <p>○本文を聞き、ペアで内容について話し合う。<br/>○本文の学習をする。</p> <p>○疑問詞Whose…? の形・意味・用法を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○Practiceに取り組む。<br/>○書く活動に取り組む。</p> <p>6 Unit Activity 教科書のキャラクター情報を用いたスリーヒントクイズ大会に取り組む。<br/>★学習事項を使って、教科書キャラクター情報を用いたスリーヒントクイズに取り組もう。<br/>○4人グループを組み、それぞれ好きな教科書のキャラクターを選び、情報をまとめる。<br/>○グループ内でスリーヒントクイズを行う。</p> <p>○最もよく出来ていたクイズを作った人のキャラクターについて、グループで更に情報を探して、より詳しい情報でクイズを作成する。</p> <p>○各グループが全体に対してスリーヒントクイズを行う。</p> <p>○最も詳しく情報がまとめられていたグループを選ぶ。</p> | <p>・2つの教科や季節、食べ物のどちらが好きかについての文を話したり書いたりする。<br/>【評】どちらが好きかについての文を話したり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・学習事項の確認として文法を意識させる。<br/>・ペアで英語で話し合わせながら、答えを確認させる。<br/>・基本表現を教師に続けて練習させる。<br/>・まず始めに、教師が表の中から一人を選び、生徒に質問をさせることで、会話活動のモデルを示す。<br/>・生徒が表現に慣れるまで繰り返す。<br/>・ペアでお互いに一人の人物を選び、例に従って問題を出し合う。<br/>・教師が特定の人物を書いた紙を生徒に配り、その人物になりきって活動を行わせる。<br/>・会話をした人物には、表にサインを書いてもらい、全員のサインをもらえたら活動を終了し、着席させる。<br/>【評】友達が欲しいものを尋ねたり答えたりする取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。<br/>・画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。<br/>・聞き取れたことをペアで話し合わせる。<br/>・個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。<br/>・教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。<br/>・Key Sentenceを見せ、日本語で疑問詞Whose…? の形・意味・用法を確認する。<br/>・基本表現が本文のどこで使われているかを確認する。<br/>・Practiceを行い、基本文の定着を図る。<br/>・少し離れた場所にあるラケットの持ち主を尋ねる文を書く。<br/>【評】持ち主を尋ねる文を言ったり書いたりする活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・p10, 11のキャラクター紹介ページだけでなく各教科書のページも参考にするよう伝える。<br/>・途中で答えが分かっても最後のヒントが終わるまで答えないことを伝える。<br/>・既習事項を使って、1つ質問してもよいことを伝える。<br/>・グループで最もよいクイズを作った人を選ばせる。<br/>・最もよかったクイズを、グループで協力をして更に情報をまとめさせる。<br/>・各グループから全体に対してクイズを行わせる。<br/>【評】クイズの内容を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>【評】クイズへの取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|---|

# 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各授業の帯活動として、p56を利用した会話練習を「スモールトーク」として定期的に行っていき、英語を言語として使用することに慣れさせていきたい。

各Storyにおける最後の書く活動では、タブレットで書かせた答えを教師用タブレットに提出させ、全員文を提示しながら添削していくとよい。

## 単元名 Let's Talk 2 体調 ー説明する・指示するー

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 体調を尋ねたり、体の不調を説明したりする表現の意味や働きを理解したり、体調不良について伝えたり、指示をしたりすることができる。また、代名詞の形・意味・用法を理解し、使い分けることができる。
- (2) 体調不良という場面に対応するために、自分の体調を伝えたり、相手に声をかけたり、適切に応答して指示をしたりすることができる。また、留学生がどのような人かを理解するために、必要な情報を聞き取ったり、アドバイスを書いたりすることができる。
- (3) 体調不良という場面に対応するために、自分の体調を伝えたり、相手に声をかけたり、適切に応答して指示をしたりしようとする。

## 標準的な展開例

10250204\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 Let's Talk2 体調の尋ね方や説明の仕方を学習する。</p> <p>★相手の体調を尋ねたり、自分の体調を説明したりする方法を学習しよう。</p> <p>○STEP1を行う。</p> <p>○Today's Pointで基本表現を学習する。</p> <p>○STEP2でモデル文を用いて練習をする。</p> <p>○STEP3を行う。</p> <p>2 Let's Listen1 留学生のプロフィール</p> <p>★人に関する紹介を聞いて、基本情報やその人がどのような人かを確認しよう。</p> <p>○目的・場面・状況を確認する。</p> <p>○もし留学生が来るとしたらどんなことを知りたいか話合う。</p> <p>○STEP1を行う。</p> <p>○STEP2を行う。</p> <p>○STEP3を行う。</p> <p>3 Grammar for Communication 代名詞の形・意味・用法を学習する。</p> <p>★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。</p> <p>○代名詞の使い方・形を学習する。</p> <p>○Let's Tryに取り組む。</p> <p>○単元テストに取り組む。</p> <p>○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでさまざまな会話内容を考える。</li> <li>・日本語で考えた後、英語ではどのように言ったらいいかを考えさせる。</li> <li>・ペアでジェスチャーを付けながら実際に表現させる。</li> <li>・場面を想像しながら音読して、意味を確認する。</li> <li>・ペアで実際に演技練習をして、教師の下でミニスキットとして発表する。</li> <li>・ジェスチャーを付けてスムーズに演じることができたら合格とする。</li> <li>・Tool Boxの表現を用いて、症状を変えてミニスキットを作成させる。</li> <li>・タブレットでミニスキットを撮影し、1パターンを教師に動画で提出する。</li> </ul> <p>【評】 体調を説明したり指示したりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画像などの視覚的な情報を用いて英語で状況説明をする。</li> <li>・ペアで留学生が来たときのことをイメージして、聞きたいことをノートにメモさせる。</li> <li>・情報のメモの取り方を伝える。</li> <li>・英語での答えの確認の仕方を伝える。</li> <li>・1回目の後に、ペアで答えを英語で確認させる。</li> <li>・2回目で答えを確認させる。</li> <li>・留学生の手紙の内容をペアで話し合わせる。</li> <li>・留学生におすすめの場所を紹介する文を書かせる。</li> </ul> <p>【評】 留学生の情報を聞き取ったり伝えたりする取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書付属の問題や教師の自作した問題に取り組ませ、基本表現の定着を図る。</li> </ul> <p>【評】 単元テストを通して、学習事項についての「知識・技能」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各授業の帯活動として、p56を利用した会話練習を「スモールトーク」として定期的に行っていき、英語を言語として使用することに慣れさせていきたい。

## 単元名 Unit 8 A Surprise Party

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 現在進行形を用いた文や感嘆文の形・意味・用法を理解することができる。今していることについて、尋ねたり答えたり、その状況を書いたりすることができる。また、自分や相手の感動や驚きを理解したり伝えたりすることができる。
- (2) 現在の状況を知るために、人が今していることについて、簡単な語句や文を用いて尋ねたり答えたりすることができる。また、人がどのような気持ちであるかを知るために、感動や驚きの気持ちを聞き取ったり、読み取ったりすることができる。
- (3) 現在の状況を伝え合うために、人が今していることについて、簡単な語句や文を用いて尋ねたり答えたり、その状況を書いたりしようとする。また、人がどのような気持ちであるかを知るために、感動や驚きの気持ちを理解したり、自分の気持ちを伝えたりしようとする。

## 標準的な展開例

10250205\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| <p>1 Starting Out 今していることについての話を聞き取って、単元全体の概要を学習する。</p> <p>★今していることについての話を聞き取ってみよう。</p> <p>○単元の最後に実況レポート大会を行うことを伝える。</p> <p>○ Warm-upを行う。</p> <p>○ Enjoy Listeningを行う。</p> <p>○ Previewを行う。</p> <p>2 Story1 電話の内容を聞いて、今していることについての伝え方を学習する。</p> <p>★今していることについて伝えよう。</p> <p>○ Teacher's Talk を聞き、質問に答える。</p> <p>○ 本文と質問を聞き、問題に答える。</p> <p>○ 本文の学習をする。</p> <p>○ 現在進行形の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 基本表現の学習をする。</p> <p>○ Practiceに取り組む。</p> <p>○ 書く活動に取り組む。</p> <p>3 Story2 会話を聞いて、今していることについての尋ね方や答え方を学習する。</p> <p>★今していることについて尋ねたり答えたりしよう。</p> <p>○ Teacher's Talk を聞き、質問に答える。</p> <p>○ 本文と質問を聞き、問題に答える。</p> <p>○ 本文の学習をする。</p> <p>○ 現在進行形の疑問文の形・意味・用法を知る。</p> | <p>・ p83のUnit Activityを見せ、単元最後の目標を意識させる。</p> <p>・ 単元のループリック表などを作成して配布し評価の基準を事前に伝え、見通しをもって単元の学習をするように促す。</p> <p>・ レポート大会で用いる学校の日常の風景を1分程度の動画で撮影しておくことを伝える。</p> <p>・ ペアでお互いに英語で話し合わせ、表を完成させる。</p> <p>【評】 電話の相手が今していることについて聞き取る取組を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ メグが今何をしているかを話し合わせ、次回の予告として紹介する。</p> <p>・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</p> <p>・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</p> <p>・ 閉本した状態でリスニングをさせ、メグが翌日の何時にどこへ行けばいいかを聞き取らせる。</p> <p>・ 個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。</p> <p>・ 教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。</p> <p>・ Key Sentenceを見せ、日本語で現在進行形の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・ 基本表現を本文で確認する。</p> <p>・ Practiceを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>・ 自分と友達2人がそれぞれしていることをペアで話し合い、ノートに書く。</p> <p>・ それぞれ違う動詞を用いて書かせる。</p> <p>【評】 今していることについて話したり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</p> <p>・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</p> <p>・ 閉本した状態でリスニングをさせ、ジョシュが撮影しているのが写真なのか動画なのかを聞き取らせる。</p> <p>・ 個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。</p> <p>・ 教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。</p> <p>・ Key Sentenceを見せ、日本語で現在進行形の疑問文の形・意味・用法を確認する。</p> |

○ 基本表現の学習をする。

- Practiceに取り組む。
- 書く活動に取り組む。

4 Mini Activity 学習事項を用いて、今していることについて尋ねたり答えたりする活動を行う。

★ジェスチャークイズを行おう。

- 学習事項を用いた話を聞いて問題に答える。
- ペアで1分間ジェスチャークイズを行う。

- ペアを変えてジェスチャークイズを行う。
- 男子チームと女子チームに分かれジェスチャークイズを行う。

5 Story3 会話を聞いて、自分の気持ちを伝えるために、感動や驚きの表現の仕方を学習する。

★感動や驚きの気持ちを伝えよう。

- Teacher's Talk を聞き、質問に答える。

- 本文と質問を聞き、問題に答える。

- 本文の学習をする。

- 感嘆文の形・意味・用法を知る。

- 基本表現の学習をする。

- Practiceに取り組む。
- 書く活動に取り組む。

6 Unit Activity 学校の日常レポートに取り組む。

★実況レポーターになって学校の日常のレポートに取り組もう。

- 4人グループを組み、それぞれ撮影した動画を基に、3分程度で実況中継を行う。

- 最も印象的な動画を使っていた人を選び、グループで説明を補足する。

- グループ毎に全体に対して実況レポートを行う。

- 最も詳しく情報がまとめられていたグループを選び、表彰を行う。
- ルーブリック表を基に振り返りをする。

7 Let's Write! お祝いーグリーティングカード

★英語でグリーティングカードを作成しよう。

- ・ 基本表現が本文のどこで使われているかを確認する。
  - ・ Practiceを行い、基本本文の定着を図る。
  - ・ 本文のイラストについて何をしているのか尋ねる文を言ったり書いたりする。
- 【評】 今何をしているのかを話したり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 学習事項の確認として文法を意識させる。
  - ・ 全員起立させ、ペアの答えが当たったら座らせる。
  - ・ ペアを変えて何度か行わせる。
  - ・ 男子チームと女子チームに分けて、3分間に正解した数を競わせる。
  - ・ 男子チーム用のお題と、女子チーム用のお題を予め用意しておく。
  - ・ 各チームから1名代表者を選び、ジェスチャーを行わせ、同じチームのメンバーに疑問文で答えさせる。
- 【評】 ジェスチャークイズへの取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。
  - ・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。
  - ・ 閉本した状態でリスニングをさせ、メガはもらったプレゼントを気に入ったかどうかを聞き取らせる。
  - ・ 個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。
  - ・ 教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。
  - ・ Key Sentenceを見せ、日本語で感嘆文の形・意味・用法を確認する。
  - ・ 基本表現が本文のどこで使われているかを確認する。
  - ・ Practiceを行い、基本本文の定着を図る。
  - ・ 教師が電子黒板にかわいい動物やかっこいい動物、美しい花などを提示し、「なんと?な…だろう!」という文をペアで言い合い、ノートに書かせる。
- 【評】 感動や驚きの文を言ったり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 5分程度、個人で動画を見せながらレポートする練習を行わせる。
  - ・ グループ内で、撮影した動画を基に実況レポーターになりきってレポートをさせる。
  - ・ グループ内で最もよく実況できていたレポーターを選び、撮影した場所や時刻、写っている人たちがしていること、その場所と自分との関係や、その風景から感じることなどの情報を補足し、1分程度の実況中継をグループで1つ完成させる。
  - ・ タブレットで作成した動画を電子黒板に投影し、全体の前で発表させる。
- 【評】 実況レポートへの取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・ 最も詳しく実況レポートを行ったグループを選び、表彰する。
  - ・ 各自、ルーブリック表を基に自己評価をさせる。
- 【評】 実況レポートの内容を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

|  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グリーティングカードの書き方を学ぶ。</li> <li>○ グリーティングカードでよく使われる表現を学ぶ。</li> <li>○ STEP2を行う。</li> <li>○ Tool Boxを参考にして、自由にカード作りを行う。</li> </ul> <p>8 学び方コーナー4 単語のつづりと発音②</p> <p>★英語の子音の文字と音との関係を知り、英語らしい発音を学習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子音の発音を学習する。</li> <li>○ Let's Tryを行う。</li> </ul> <p>9 Grammar for Communication 現在進行形の形・意味・用法を学習する。</p> <p>★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在進行形の使い方・形を学習する。</li> <li>○ Let's Tryに取り組む。</li> <li>○ 単元テストに取り組む。</li> <li>○ Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を基に、カードの書き方の型を学ばせる。</li> <li>・教科書を基に表現を確認し、タブレットを用いて教科書にない表現を調べさせる。</li> <li>・お礼のカードを作成し、電子黒板によく出来ているものを提示して共有する。</li> <li>・各自で作成したいグリーティングカードを選択させ、作成させる。</li> </ul> <p>【評】グリーティングカードの作成を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・p6,7を参考に、フォニックスについて振り返る。</li> <li>・教師主導でアルファベットの発音の仕方や音の足し算で単語が構成されていることを確認する。</li> <li>・舌の使い方を確認する。</li> <li>・子音連結の間に母音を入れない読み方を練習させる。</li> </ul> <p>【評】子音連結に注意して単語の発音をする取組を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書付属の問題や教師の自作した問題に取り組ませ、基本表現の定着を図る。</li> </ul> <p>【評】単元テストを通して、学習事項についての「知識・技能」を評価する。</p> |
|--|---|

#### 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各授業の帯活動として、p56を利用した会話練習を「スモールトーク」として定期的に行っていき、英語を言語として使用することに慣れさせていきたい。

各Story最後の書く活動では、タブレットで書かせた答えを教師用タブレットに提出させ、全員の英文を提示しながら添削していくとよい。

グリーティングカードの学習においては、美術科と連携するとよい。例えば英語の授業で学習した表現を用いて、美術科の授業でカード作りを行う。クリスマスや正月に実際にカード交換をするなど、教科横断学習や生活に即した学習を行えるよう活動のゴールを工夫する。

## 単元名 Unit 9 Think Globally, Act Locally

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 不定詞（名詞的用法）や、〈look＋形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。また、行きたい国やそこでしたいことについて、お互いの考えを、尋ねたり答えたり、人やものの様子について、理解したり伝えたりすることができる。
- (2) 将来の夢や希望、世界や地域の問題を伝えるために、したいことやしようとしていることについて読み取ったり、自分の思いを伝え合ったり書いたりすることができる。また、人やものの様子を知るために、話し手や書き手の視覚的な判断について、聞き取ったり、読み取ったりすることができる。
- (3) 世界や地域の問題を知り、将来の夢や希望を伝えたりするために、したいことやする必要のあることについて、自分の思いを伝え合ったり書いたりしようとする。また、人やものの様子を説明するために、話し手の視覚的な判断を伝えようとする。

## 標準的な展開例

10250206\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 Starting Out 世界の子どもたちの実情を知り、単元全体の概要を学習する。</p> <p>★世界の子どもたちが今していることや、自分たちがしたいことを尋ね合ったり聞き取ったりしよう。</p> <p>○単元の最後にポスターを作成することを伝える。</p> <p>○ Warm-upを行う。</p> <p>○ Enjoy Listeningを行う。</p> <p>○ Previewを行う。</p> <p>2 Story1 スピーチを聞いて、したいことやしようとしていることの伝え方を学習する。</p> <p>★将来の夢や希望を伝えるために、したいことやしようとしていることについて伝えよう。</p> <p>○ Teacher's Talk を聞き、質問に答える。</p> <p>○ 本文と質問を聞き、問題に答える。</p> <p>○ 本文の学習をする。</p> <p>○ 不定詞（名詞的用法）の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 基本表現の学習をする。</p> <p>○ Practiceに取り組む。</p> <p>○ 書く活動に取り組む。</p> <p>3 Story2 会話を聞いて、相手のしたいことやする必要のあることについての尋ね方や答え方を学習する。</p> <p>★相手の希望を知るために、したいことや必要のあることについて尋ねたり答えたりしよう。</p> <p>○ Teacher's Talk を聞き、質問に答える。</p> <p>○ 本文と質問を聞き、問題に答える。</p> <p>○ 本文の学習をする。</p> | <p>・ p93のUnit Activityを見せ、単元最後の目標を意識させる。</p> <p>・ 単元のループリック表などを作成して配布し評価の基準を事前に伝え、見通しをもって単元の学習をするように促す。</p> <p>・ 世界的な問題や地域的な問題について、どんな問題提起をしたいかを考えながら学習を進めていくよう伝える。</p> <p>・ ペアでお互いに英語で話し合わせ、A?Cの全てのパターンについて会話をさせる。</p> <p>【評】 戸田先生とメグが話していることを聞き取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ メグはどのような人になりたいと言っているかを話し合わせて、次回の予告として紹介する。</p> <p>・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</p> <p>・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</p> <p>・ 閉本した状態でリスニングをさせ、メグが目標とする人がどんな人かを聞き取らせ、ペアで聞き取れたことを確認させる。</p> <p>・ 個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。</p> <p>・ 教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。</p> <p>・ Key Sentenceを見せ、日本語で不定詞（名詞的用法）の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・ 基本表現を本文で確認する。</p> <p>・ Practiceを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>・ 自分が目標とする人についてペアで話し合いノートに書く。</p> <p>【評】 目標とする人について話したり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</p> <p>・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</p> <p>・ 閉本した状態でリスニングをさせ、メグと海斗がしたいことを聞き取らせ、ペアで聞き取れたことを確認させる。</p> <p>・ 個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。</p> |

- 不定詞（名詞的用法）の疑問文の形・意味・用法を知る
  - 基本表現の学習をする。
  - Practiceに取り組む。
  - 書く活動に取り組む。
- 4 Mini Activity 学習事項を用いて、行きたい国とそこでしたいことを尋ねたり答えたりする活動を行う。
- ★行きたい国とそこでしたいことを尋ねたり答えたりする活動を行おう。
- Listenを行う。
  - Speak & Writeを行う。
  - 自分の行きたい国やそこでしたいことをテーマにスモールトークを行う。
  - ペアが行きたい国としたいことについて書く。
- ペアが行きたい国やしたいことの紹介をテーマに、スモールトークを違うペアと行う。
- 5 Story3 発表を聞いて、人やものの様子を伝える表現を学習する。
- ★人やものの様子を伝えよう。
- Teacher's Talk を聞き、質問に答える。
  - 本文と質問を聞き、問題に答える。
  - 本文の学習をする。
  - 〈look＋形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を知る。
  - 基本表現の学習をする。
  - Practiceに取り組む。
  - 書く活動に取り組む。
- 6 Unit Activity ポスターを作ろう。
- ★世界的問題や地域の問題についてのポスターを作成し、社会へ向けて問題提起をしよう。
- ポスターに書きたい内容を決める。
  - 内容について尋ね合おう。
  - ポスターを作成しよう。
  - 完成されたポスターを机上に置き、ギャラリーウォークを行う。
  - 最もよくできている作品に付箋を貼る。
  - ルーブリック表を基に振り返りをする。

- せる。
  - ・教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。
  - ・Key Sentenceを見せ、日本語で不定詞（名詞的用法）の疑問文の形・意味・用法を確認する。
  - ・基本表現が本文のどこで使われているかを確認する。
  - ・Practiceを行い、基本文の定着を図る。
  - ・学校のALTに日本で食べたいものや行きたい場所を尋ねる文を言ったり書いたりする。
  - 【評】食べたいものや行きたい場所を尋ねたり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・学習事項の確認として文法を意識させる。
  - ・教師が行きたい国やしたいことを話したり、全体に尋ねたりして活動の見本を示す。
  - ・質問から始めて1分間ペアで話し合わせる。
  - ・相手が話した内容について書き取らせる。
  - ・忘れた場合はもう一度英語で聞く時間を与える。
  - 【評】ペアの話を書きとる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
  - ・時間に余裕があれば違うペアと再度行う。
  - ・前のペアが話していた内容についても紹介できるとよい。
- ・教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。
  - ・画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。
  - ・閉本した状態でリスニングをさせ、教科書の写真についてどんなことを言っているかを聞き取らせ、ペアで聞き取れたことを確認させる。
  - ・個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。
  - ・教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。
  - ・Key Sentenceを見せ、日本語でlook＋形容詞を用いた文の形・意味・用法を確認する。
  - ・基本表現が本文のどこで使われているかを確認する。
  - ・Practiceを行い、基本文の定着を図る。
  - ・教師が電子黒板に普段の天気や他の教師の写真を提示し、どのように見えるかをペアで話し合い、ノートに書かせる。
  - 【評】普段の天気や他の教師の様子を話したり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
  - ・世界的な問題だけでなく、すぐに取り組みそうな地域的な課題や、学校内の課題にも目を向けるよう促す。
  - ・それぞれが考えた内容について、1分間でスモールトークとして尋ね合わせる。
  - ・タブレットを使用して、作成させる。
  - ・写真やイラストを活用させる。
  - 【評】ポスター作成への活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
  - ・完成したポスターを机上に置いた状態で、教室内に付箋を持って周らせ、気に入ったポスターに付箋を貼らせる。
  - ・各自、ルーブリック表を基に自己評価をさせ



- 7 単元テストに取り組む。  
★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。  
○単元テストに取り組む。
- Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。

る。

【評】単元テストを通して、学習事項についての「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各授業の帯活動として、p56を利用した会話練習を「スモールトーク」として定期的に行っていき、英語を言語として使用することに慣れさせていきたい。

各Story最後の書く活動では、タブレットで書かせた答えを教師用タブレットに提出させ、全員の文を提示しながら添削していくとよい。

SDGsの紹介を行い、各地域の国際交流センターなどがあれば担当の方と交渉をして、完成したポスターを掲示させてもらえると、より意味のある活動につなげることができる。また、その国際センターに掲示された様子を学校のHPなどで紹介したい。

## 単元名 Let's Talk 3 道案内 一質問する・説明する一

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 徒歩での道順を尋ねたり、教えたりする表現の意味や働きを理解し、地図を見ながら道を尋ねたり教えたりすることができる。また、情報を聞き取る方法の理解を基に、持ち物などについての話を聞いてメモをとることができる。
- (2) 相手が目的地へたどり着けるように、地図を見ながら適切に道案内をすることができる。また友達に情報を伝えるために、持ち物などについての話を聞いて、必要な情報のメモを取ることができる。
- (3) 相手が目的地へたどり着けるように、地図を見ながら適切に道案内をしようとする。また、友達に情報を伝えるために、持ち物などについての話を聞いて、必要な情報のメモを取ろうとする

## 標準的な展開例

10250207\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 Let's Talk3 徒歩での道順を尋ねたり、教えたりする方法を学習する。</p> <p>★徒歩での道順を尋ねたり、教えたりする方法を学習しよう。</p> <p>○STEP1を行う。</p> <p>○Today's Pointで基本表現を学習する。</p> <p>○STEP2でモデル文を用いて練習をする。</p> <p>○STEP3を行う。</p> <p>2 Let's Listen2 欠席した友達への電話連絡</p> <p>★友達にあとで伝えるべき情報を聞き取ろう。</p> <p>○目的・場面・状況を確認する。</p> <p>○校外学習や遠足のときの持ち物として考えられる物を話し合う。</p> <p>○STEP1を行う。</p> <p>○STEP2を行う。</p> <p>○STEP3を行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・閉本した状態で電子黒板に教科書の地図を映し、基本表現を用いて質問をする。</li> <li>・小学校で習った表現を思い出しながら、ペアでさまざまな会話内容を考えさせる。</li> <li>・日本語で考えた後、英語ではどのように言ったらいいかを考えさせる。</li> <li>・ペアで地図を指でなぞらせながら実際に表現させる。</li> <li>・場面を想像しながら音読をさせ、意味を確認する。</li> <li>・ペアで実際に演技練習をさせる。</li> <li>・練習が十分に行えたペアから教師の元へ来させて、教師に尋ねられた場所へ教師を案内する課題に挑戦する。</li> <li>・地図を指差しながらスムーズに案内することができたら合格とする。</li> <li>・Tool Boxの表現を用いて多様な表現を練習させる。</li> </ul> <p>【評】道順を案内する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画像などの視覚的な情報を用いて英語で状況説明をする。</li> <li>・1分間、英語で話し合わせる。</li> <li>・1回目が終わった後にペアで答えを英語で確認させる。</li> <li>・2回目でも答えを確認させる。</li> <li>・電話連絡を聞いて必要な情報をメモさせる。</li> <li>・Sound Boxを参考に、大切な情報が強く読まれていることを確認させる。</li> <li>・ペアで電話をする側と、メモをする側に分かれ、伝え合う練習をする。</li> </ul> <p>【評】電話の情報を聞き取ったり伝えたりする取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各授業の帯活動として、p56を利用した会話練習を「スモールトーク」として定期的に行っていき、英語を言語として使用することに慣れさせていきたい。

**単元名** Stage Activity 2 My Hero

**配当時間** 2時間

- 単元の目標** (1) Unit9までの学習事項を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。また、好きな有名人について、Unit 9までの学習事項を用いて、どんな人かを理解したり、有名人について尋ねたり説明したりすることができる。
- (2) 好きな有名人がどのような人かを伝えるために、その人についての質問をして答えたり、紹介する文章を書いたりすることができる。
- (3) 好きな有名人がどのような人かを伝えるために、その人についての質問をして答えたり、紹介する文章を書いたりしようとする。

**標準的な展開例**

10250208\_001

**【準備等】** デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 好きな有名人や憧れの人について尋ねたり説明したりする。</p> <p>★好きな有名人や憧れの人について尋ねたり説明したりしよう。</p> <p>○STEP1を行う。</p> <p>○STEP2で質問の仕方を学習する。</p> <p>○「Who is my hero?クイズ」を作成する。</p> <p>○STEP3を行う。</p> <p>2 「Who is my hero? クイズ」を行う。</p> <p>★「Who is my hero? クイズ」を行おう。</p> <p>○STEP3をペアやグループで行う。</p> <p>○STEP4で、各自で作ったクイズをレポートにまとめ、提出させる。</p> <p>○巻末のCan Do Listを用いて、これまでの学習を振り返る。</p> <p>○STEP2を行う。</p> <p>○STEP3を行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話を聞いて正しい方を選ばせる。</li> <li>・Tool Boxを参考にいろいろな質問と答え方を確認させる。</li> <li>・これまでに学習してきた表現をスクリーンに示しておき、たくさん使用して作成するように伝える。</li> </ul> <p>【評】クイズを作成する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで実際に演技練習をさせる。</li> <li>・練習が十分に行えたペアから教師の元へ来させて、教師に尋ねられた場所へ教師を案内する課題に挑戦する。</li> <li>・地図を指差しながらスムーズに案内することができたら合格とする。</li> <li>・Tool Boxの表現を用いて多様な表現を練習させる。</li> </ul> <p>【評】道順を案内する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始めに教師が全体にクイズを出し、見本を示す。</li> <li>・3分の時間をとる。</li> <li>・起立してクイズを出し合い、お互いに正解したペアから着席させる。</li> <li>・時間内に終わらなかったペアのクイズの答えを全員で考える。</li> </ul> <p>【評】クイズへの取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズを表面に書き、答えを裏面にまとめさせる。</li> <li>・提出されたクイズを学校内に掲示したり、HPにアップしたりする。</li> </ul> <p>【評】クイズのまとめの内容を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話連絡を聞いて必要な情報をメモさせる。</li> <li>・Sound Boxを参考に、大切な情報が強く読まれていることを確認させる。</li> <li>・ペアで電話をする側と、メモをする側に分かれ、伝え合う練習をする。</li> </ul> <p>【評】電話の情報を聞き取ったり伝えたりする取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

**【 備 考 】**

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

作成したクイズを、教室や廊下に掲示したり、学校のHPにアップしたりしたい。

Small Talk1のページを紹介し、今後の授業最初の活動として会話活動を日常的に行うとよい。

単元名 Let's Read 1 Let's Climb Mt. Fuji

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 図や表などの情報を基にした文章の読み方を理解することができる。また、図や表などの情報を基にして、まとまりのある文章の内容を読み取ることができる。  
(2) 書き手の考えを理解して適切な助言などができるように、図や表などの情報を基に、まとまりのある文章の概要を読み取ることができる。  
(3) 書き手の考えを理解して適切な助言などができるように、図や表などの情報を基に、まとまりのある文章の概要を読み取ろうとする。

## 標準的な展開例

10250209\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 メッセージのやり取りを聞いて全体の概要を掴む。<br/>★メッセージを読み取ろう。<br/>○Teacher's Talkを聞く。</p> <p>○新出語句を練習する。<br/>○全体のリスニングを行う。</p> <p>○本文の内容確認を生徒主体で行う。</p> <p>○本文と表を読み、空欄に入る語を考えさせる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の内容を画像やイラストを用いながら教師が英語で説明する。</li> <li>新出語句を確認する。</li> <li>本文全体のリスニングを行った後に、ペアで聞き取れたことを確認させ、話の概要を掴ませる。</li> <li>時間を決めて、黙読を行った後、ペアやグループで内容を確認させる。</li> <li>時間を決めて、ペアやグループで協力をして考えさせる。</li> <li>空欄に入る語の根拠を説明できるようにさせる。</li> </ul> <p>【評】長文を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
| <p>2 メッセージの内容に関する質問に答える。<br/>★メッセージの内容に関する質問に答えよう。<br/>○Teacher's Talkを聞く。</p> <p>○空欄に入る語と、その根拠の確認を行う。</p> <p>○本文の内容に関するQ&amp;Aを行う。</p>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>本文の内容を画像やイラストを用いながら、教師が英語で説明する。</li> <li>いくつか生徒に質問をしながら内容の復習を行う。</li> <li>図の読み取り方を確認する。</li> <li>教師が自作のQ&amp;Aを用意し、問題をペアで協力して解かせる。</li> <li>答えを壁に貼っておき、できた生徒から答え合わせをし、なぜその答えになるのか考えさせる。</li> </ul> <p>【評】Q&amp;Aへの取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>                           |
| <p>3 メッセージの内容に関する情報をまとめる。<br/>★メッセージの内容に関する情報をまとめよう。<br/>○教師からの質問に答える。</p> <p>○メッセージの内容についてまとめる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>本文の内容に関するQ&amp;Aを口頭で行う。</li> <li>全員を起立させ、答えられた生徒から座らせる。</li> <li>誰も答えられない場合は、座っている生徒を当てて答えさせる。</li> <li>答えられなかったら再度起立させる。</li> <li>自作のプリントを用意して、メッセージの内容についてペアやグループでまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】メッセージの内容をまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>                              |

### 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

作成したクイズを、教室や廊下に掲示したり、学校のHPにアップしたりしたい。

Small Talk2のページを紹介し、今後の授業最初の活動として会話活動を日常的に行うとよい。

## 単元名 Unit 10 Winter Vacation

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 過去形を用いた文の形・意味・用法を理解し、最近の出来事について、自分がしたことを、過去形などを用いて伝え合うことができる。また、絵はがきを読んで理解したり、絵はがきの構成や表現の理解を基に、旅先からの絵はがきを書いたりすることができる。
- (2) 冬休みの思い出を伝え合うために、過去の出来事を、簡単な語句や文を用いて尋ねたり答えたり書いたりすることができる。また、絵はがきを読んで概要を捉えたり、旅先からの絵はがきを書いたりすることができる。
- (3) 冬休みの思い出などを伝え合うために、過去の出来事を、簡単な語句や文を用いて尋ねたり答えたり書いたりしようとする。また、絵はがきを読んで概要を捉えたり、旅先からの絵はがきを書いたりしようとする。

## 標準的な展開例

10250301\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| <p>1 Starting Out 毎年冬休みに行っていることを振り返り単元全体の概要を学習する。</p> <p>★毎年していることや、過去の出来事を尋ね合ったり聞き取ったりしよう。</p> <p>○冬休みの思い出をペアやグループと共有することを伝える。</p> <p>○Warm-upを行う。</p> <p>○Enjoy Listeningを行う。</p> <p>○Previewを行う。</p> <p>2 Story1 話を聞いて、過去に自分がしたこと伝え方を学習する。</p> <p>★過去の出来事を伝えるために、自分がしたことを伝えよう。</p> <p>○Teacher's Talk を聞き、質問に答える。</p> <p>○本文と質問を聞き、問題に答える。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○規則動詞の過去形の形・意味・用法を知る。</p> <p>○基本表現の学習をする。</p> <p>○Practiceに取り組む。</p> <p>○書く活動に取り組む。</p> <p>3 Story2 話を聞いて、自分が過去にしたことを説明する方法を学習する。</p> <p>★過去の出来事を伝えるために、自分が経験したことを説明しよう。</p> <p>○Teacher's Talk を聞き、質問に答える。</p> <p>○本文と質問を聞き、問題に答える。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○不規則動詞の過去形の形・意味・用法を知る。</p> | <p>・pl07のUnit Activityを見せ、単元最後の目標を意識させる。</p> <p>・単元のルーブリック表などを作成して配布し評価の基準を事前に伝え、見通しをもって単元の学習をするように促す。</p> <p>・スモールトークとして毎年冬休みに行っていることを話し合わせる。</p> <p>【評】 クック先生と海斗が話していることを聞き取る取組を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・海斗はクック先生にどのようなことを尋ねているかを話し合わせ、次回の予告として紹介する。</p> <p>・教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</p> <p>・画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</p> <p>・閉本した状態でリスニングをさせ、クック先生が年末年始に行ったことを聞き取らせ、ペアで聞き取れたことを確認させる。</p> <p>・個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。</p> <p>・教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で規則動詞の過去形の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・基本表現を本文で確認する。</p> <p>・Practiceを行い、基本文の定着を図る。</p> <p>・中学校に入学してから行ったことを話し合いノートに書く。</p> <p>【評】 中学校に入学してから行ったことについて話したり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</p> <p>・画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</p> <p>・閉本した状態でリスニングをさせ、クック先生がしたこと聞き取らせ、ペアで聞き取れたことを確認させる。</p> <p>・個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。</p> <p>・教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。</p> <p>・Key Sentenceを見せ、日本語で不規則動詞の</p> |

- 基本表現の学習をする。
  - Practiceに取り組む。
  - 書く活動に取り組む。
- 4 Mini Activity 学習事項を用いて、自分がしたことを尋ねたり説明したりする活動を行う。
- ★ 最近行ったことを尋ねたり答えたりする活動を行おう。
- Listenを行う。
  - Speak & Writeを行う。
- 1週間以内にしたことをテーマにスモールトークを行う
- ペアがしたことについて書く。
- ペアがしたこと紹介をテーマに、スモールトークを違うペアで行う。
- 5 Story3 話を聞いて、過去の出来事を尋ねたり答えたりする表現を学習する。
- ★ 過去の出来事を尋ねたり答えたりしよう。
- Teacher's Talk を聞き、質問に答える。
- 本文と質問を聞き、問題に答える。
- 本文の学習をする。
- 過去形の疑問文の形・意味・用法を知る。
- 基本表現の学習をする。
- Practiceに取り組む。
  - 書く活動に取り組む。
- 6 Unit Activity 冬休みの思い出を尋ね合おう。
- ★ 冬休みの思い出を共有しよう。
- スモールトークとして冬休みの思い出を語る。
  - STEP1で、冬休みに自分がしたことを整理する。
- STEP2で、内容についてペアで1分間プレゼンテーションする。
- STEP3で、お互いに話し合ったことをノートにまとめる
- クラス内を自由に歩き回り、あと3人の冬休みの思い出をインタビューして集める。
- 尋ねた3人の冬休みについてまとめる。

- 過去形の形・意味・用法を確認する。
- ・ p118で不規則動詞の種類を確認する。
  - ・ 基本表現が本文のどこで使われているかを確認する。
  - ・ Practiceを行い、基本文の定着を図る。
  - ・ 遠足や校外学習などで行った場所を説明する文を言ったり書いたりする。
- 【評】 遠足や校外学習などで行った場所を説明する活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 学習事項の確認として文法を意識させる。
- ・ 教師が1週間以内に行ったことを話したり、全体に尋ねたりして活動の見本を示す。
- ・ 質問から始めて1分間ペアで話し合わせる。
- ・ 相手が話した内容について書き取らせる。
- ・ 忘れた場合はもう一度英語で聞く時間を与える。
- 【評】 ペアの話を書き取る取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 時間に余裕があれば違うペアと再度行う。
- ・ 前のペアが話していた内容についても紹介できるとよい。
- ・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。
- ・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。
- ・ 閉めた状態でリスニングをさせ、メグが正月にしたことにはどんなことがあるかを聞き取らせ、ペアで確認させる。
- ・ 個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。
- ・ 教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。
- ・ Key Sentenceを見せ、日本語で過去形の疑問文の形・意味・用法を確認する。
- ・ 基本表現が本文のどこで使われているかを確認する。
- ・ Practiceを行い、基本文の定着を図る。
- ・ p101のイラストを参考に、「あなたは冬休みに…しましたか」という文をそれぞれ考え、ノートに書かせる。
- 【評】 過去のことを尋ねる文を話したり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 1分間で簡単に話し合わせる。
- ・ スモールトークで、話したかったけど伝え方が分からなかった表現も考えさせる。
- ・ 一つの内容に関して、事実、事実、感想の順番で考えさせる。
- ・ 尋ね方をペアで一緒に考えて練習する。
- ・ 1分間自分のペアからの質問に答え、1分後に交代して行う。
- ・ 質問されたことについては、質問に対する答えに必ず1文以上付け加えて話すようにさせる。
- ・ ノートにまとめる際に、ペアで内容を確認し合いながらまとめてもよい。
- ・ 3つの枠が書かれたプリントを作成し、配布する。
- ・ 10分間で活動させ、表面が埋まったら、裏面を使って4人目以降も書かせる。
- ・ 聞きながらメモをさせる。
- 【評】 インタビューの内容を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 10分後、席に戻ってまとめさせる。

|   |   |
|---|---|
| <p>○ ルーブリック表を基に振り返りをする。</p> <p>7 Let's Write2 絵はがきの書き方を学習する。<br/>★旅先から絵はがきを書こう。<br/>○ STEP1で、英文の構成を学ぶ。</p> <p>○ STEP2で、設定を決めて、はがきを書く準備をする。</p> <p>○ STEP3で、実際にALTに向けてはがきを書く。</p> <p>○ はがきをALTに渡す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自、ルーブリック表を基に自己評価をさせる。</li> </ul> <p>【評】インタビューへの取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本物のポストカードがあれば、見本として電子黒板で紹介する。</li> <li>・内容については事実、事実、感想の順番で組み立てると書きやすいことを伝える。</li> <li>・マインドマップを活用して、内容のアイデアを広げさせる。</li> <li>・「正月に行ったところからALTに向けて手紙を書いた」という設定で考えさせる。</li> <li>・過去の生徒が書いたよい見本をいくつか生徒が見られる状態にしておき、真似をしてもよいこととする。</li> </ul> <p>【評】はがきを作成する取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したはがきを直接渡す機会を与える。</li> </ul> |
|---|---|

【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各授業の帯活動として、p100を利用した会話練習を「スモールトーク」として定期的に行っていき、英語を言語として使用することに慣れさせていきたい。

各Story最後の書く活動では、タブレットで書かせた答えを教師用タブレットに提出させ、全員分を提示しながら添削していくとよい。

パフォーマンステストとして、ALTと冬休みの思い出を話し合う場を設定したり、そこに友達も含めて3人で話し合ったりする場とすると尚よい。

時間を取ることができれば、Unit10の単元テストを単元末に行えるとよい。

## 単元名 Unit 11 This Year's Memories

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) be動詞の過去形や過去進行形, There is [are]…を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。また, be動詞の過去形を用いて, 一年の思い出について, 過去の状態や気持ちを尋ねたり答えたり, 過去進行形を用いて, 過去のある時点にしていたことについて, 理解したり伝えたり, There is [are]…の文などを用いて自分の町にある施設について尋ね合い説明することができる。
- (2) 一年の思い出を残すために, 過去の状態や気持ち, 過去のある時点にしていたことについて書かれた文章を聞いたり読んだりして, 情報を捉えたり, 伝えあったりすることができる。また, 自分の町を紹介するために, 町の施設について, 簡単な語句や文を用いて伝え合ったり書いたりすることができる。
- (3) 一年の思い出を残すために, 過去の状態や気持ち, 過去のある時点にしていたことについて, 簡単な語句や文を用いて伝え合ったり書いたりしようとする。また, 自分の町を紹介するために町の施設について, 簡単な語句や文を用いて説明しようとする。

## 標準的な展開例

10250302\_001

【準備等】 デジタル教科書, 電子黒板, タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 Starting Out 一年の思い出を振り返り, 単元全体の概要を学習する。<br/>★一年の思い出を振り返り, 自分たちがしたことを尋ね合ったり聞き取ったりしよう。<br/>○単元の最後に日記で思い出を残すことを伝える。</p> <p>○ Warm-upを行う。</p> <p>○ Enjoy Listeningを行う。</p> <p>○ Previewを行う。</p> <p>2 Story1 会話を聞いて, 過去の状態や気持ちの伝え方を学習する。<br/>★一年の思い出を伝え合うために, 過去の状態や気持ちを尋ねたり答えたりしよう。<br/>○ Teacher's Talk を聞き, 質問に答える。</p> <p>○ 本文と質問を聞き, 問題に答える。</p> <p>○ 本文の学習をする。</p> <p>○ be動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 基本表現の学習をする。<br/>○ Practiceに取り組む。<br/>○ 書く活動に取り組む。</p> <p>3 Story2 会話を聞いて, 新しい話題を始めるために, 「…がある」と尋ねたり答えたりする方法を学習する。<br/>★新しい話題を始めるために, 「…がある」と尋ねたり答えたりしよう。<br/>○ Teacher's Talk を聞き, 質問に答える。</p> <p>○ 本文と質問を聞き, 問題に答える。</p> <p>○ 本文の学習をする。</p> | <p>・ pl15のUnit Activityを見せ, 単元最後の目標を意識させる。</p> <p>・ 単元のループリック表などを作成して配布し評価の基準を事前に伝え, 見通しをもって単元の学習をするように促す。</p> <p>・ 巻末の資料を参考にして, ペアで英語で話し合わせる。</p> <p>・ 話し合ったことを表にまとめさせる。</p> <p>【評】 海斗とジョシュが話していることを聞き取る取組を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 一年間の出来事について, どのようなことを話しているかを話し合わせ, 次回の予告として紹介する。</p> <p>・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</p> <p>・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</p> <p>・ 閉本した状態でリスニングをさせ, 海斗の一年の思い出を聞き取らせ, ペアで聞き取れたことを確認させる。</p> <p>・ 個人で黙読させた後, ペアで内容確認を行わせる。</p> <p>・ 教師が質問をし, 生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。</p> <p>・ Key Sentenceを見せ, 日本語でbe動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を確認する。</p> <p>・ 基本表現を本文で確認する。</p> <p>・ Practiceを行い, 基本文の定着を図る。</p> <p>・ 昨日の天気についてペアで話し合い, ノートに書く。</p> <p>【評】 昨日の天気について話したり書いたりする活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。</p> <p>・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。</p> <p>・ 閉本した状態でリスニングをさせ, さくら湖の周辺には何があるかを聞き取らせ, ペアで聞き取れたことを確認させる。</p> <p>・ 個人で黙読させた後, ペアで内容確認を行わせる。</p> |



- There is [are] … の文の形・意味・用法を知る。
  - 基本表現の学習をする。
  - Practiceに取り組む。
  - 書く活動に取り組む。
- 4 Mini Activity 学習事項を用いて、自分の街にある施設を尋ねたり答えたりする活動を行う。
- ★地域の発展のために、自分の街にある施設の紹介文を英語で作ろう。
- Listenを行う。
  - Speak & Writeを行う。
- 学校の周りがある施設をペアで協力してたくさん出し、3分間でいくつ出せたかを他のペアと競い合う。
  - 出せた施設を、基本表現を用いてノートにまとめる。
- ALTの先生や自分の町を訪れた外国の人のために、自分の街を紹介する文を書く。
- 5 Story3 会話を聞いて、過去のある時点にしていたことを伝える表現を学習する。
- ★過去のある時点にしていたことを伝えよう。
- Teacher's Talk を聞き、質問に答える。
- 本文と質問を聞き、問題に答える。
- 本文の学習をする。
- 過去進行形を用いた文の形・意味・用法を知る。
  - 基本表現の学習をする。
  - Practiceに取り組む。
  - 書く活動に取り組む。
- 6 Unit Activity 日記で思い出を残そう。
- ★体験したことや感じたことを日記として残そう。
- 前の日曜日になっていたことを尋ね合う。
  - 内容について尋ね合う。
  - 日記の書き方を学習する。
  - 日記を書く。
  - 完成された日記を、ペアやグループで読み合い、コメントを書き合う。
  - ルーブリック表を基に振り返りをする。

- ・ 教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。
  - ・ Key Sentenceを見せ、There is [are] … の文の形・意味・用法を確認する。
  - ・ 基本表現が本文のどこで使われているかを確認する。
  - ・ Practiceを行い、基本文の定着を図る。
  - ・ 外国の友達に、学校の近くにあるものを探る文を言ったり書いたりする。
- 【評】外国の友達に、学校の近くにあるものを探る文を言ったり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 学習事項の確認として文法を意識させる。
  - ・ 教師が自分の地元の施設について話したり、学校の周りの施設について全体に尋ねたりして活動の見本を示す。
  - ・ 質問から始めて1分間ペアで話し合わせる。
  - ・ ペアで話した内容について書き取らせる。
  - ・ 忘れた場合はもう一度英語で聞く時間を与える。
  - ・ どのペアが一番多くの施設を出せたかを口頭で確認し、全体で共有する。
  - ・ ALTの先生や自分の町を訪れた外国の人のための、地域の施設の紹介文を書かせる。
  - ・ 施設を訪れる利点を必ず一つ以上含めて書かせる。
- 【評】町の施設の紹介文を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 教師の英語での本文説明を聞いて概要を掴ませる。
  - ・ 画像やジェスチャーを使用して視覚的に内容を掴めるよう工夫する。
  - ・ 閉本した状態でリスニングをさせ、昼食時に海斗が何を行っていたのかを聞き取らせ、ペアで聞き取れたことを確認させる。
  - ・ 個人で黙読させた後、ペアで内容確認を行わせる。
  - ・ 教師が質問をし、生徒に内容を答えさせることで本文の概要を掴む。
  - ・ 登校初日のメグの様子を日本語で尋ねる。
  - ・ Key Sentenceを見せ、日本語で過去進行形を用いた文の形・意味・用法を確認する。
  - ・ 基本表現が本文のどこで使われているかを確認する。
  - ・ Practiceを行い、基本文の定着を図る。
  - ・ 教師が電子黒板に昨日の昼1時頃の先生たちの様子を写真で提示し、何をしていたのかをペアで言い合い、ノートに書かせる。
- 【評】昨日の昼1時ごろの先生たちが行っていたことを話したり書いたりする活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・ 若あゆ日記などを参考に、行ったことを時系列で思い出させる。
  - ・ それぞれが思い出した内容について、1分間でスモールトークとして尋ね合わせる。
  - ・ 日記の型を伝える。
  - ・ 巻末の資料を活用して、書きたいことをマインドマップ等の思考ツールを活用してまとめさせる。
  - ・ 実際に前の日曜日の出来事を書かせる。
- 【評】日記への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・ 各自、ルーブリック表を基に自己評価をさせる。

【備考】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各授業の帯活動として、p100を利用した会話練習を「スモールトーク」として定期的に行っていき、英語を言語として使用することに慣れさせていきたい。

各Story最後の書く活動では、タブレットで書かせた答えを教師用タブレットに提出させ、全員分を提示しながら添削していくとよい。

今後の授業の導入時に行うスモールトークのテーマの一つとして、“What did you do yesterday?”を入れておくと、生徒は毎日日記を書くことによって、授業でも活用できることを実感する。そのような工夫をすることで日記を自主的に継続させ、自然に定着させていきたい。

## 単元名 Let's Talk 4 レストラン ―注文する―

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) レストランでの食事の注文の際に、注文をしたり質問に答えたりする表現を用いて、状況に合わせて食事の場面の対話をしたり、思い出などについて話す際に、過去に行った場所や体験したことなどについて、内容を聞き取ったりすることができる。また、過去形と過去進行形を用いた文の形・意味・用法を理解し、過去の出来事や状態について、過去にしたことやしていたことを伝えることができる。
- (2) レストランで食事をすることができるように、自分が注文したいものを伝えたり、質問に的確に答えたりすることができる。また、ラジオ番組でのDJの休暇中の体験やリスナーとのやり取りを聞いて、話の概要を聞き取ったり答えたりすることができる。
- (3) レストランで食事をすることができるように、自分が注文したいものを伝えたり、質問に的確に答えたりしようとする。また、ラジオ番組でのDJの休暇中の体験やリスナーとのやり取りを聞いて、話の概要を聞き取ったり答えたりしようとする。

## 標準的な展開例

10250303\_001

【準備等】デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 Let's Talk4 レストランなどで、注文をしたり質問に答えたりする方法を学習する。</p> <p>★レストランで、注文をしたり質問に答えたりしよう。</p> <p>○STEP1を行う。</p> <p>○Today's Pointで基本表現を学習する。</p> <p>○STEP2でモデル文を用いて練習をする。</p> <p>○STEP3を行う。</p> <p>2 Let's Listen3 ラジオDJのトーク</p> <p>★ラジオ番組でのDJの休暇の体験やリスナーとのやり取りを聞き取ろう。</p> <p>○目的・場面・状況を確認する。</p> <p>○自分が夏休みや冬休みにしたことを話し合う。</p> <p>○STEP1を行う。</p> <p>○STEP2を行う。</p> <p>○STEP3を行う。</p> <p>3 Grammar for Communication 過去形の形・意味・用法を学習する。</p> <p>★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。</p> <p>○過去形の使い方・形を学習する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板に提示した本文のイラストのみを見ながらリスニングをし、場面をイメージさせる。</li> <li>会話の内容をペアで話し合わせる。</li> <li>文に対応したイラストを線で結ばせ、どのような会話をペアで話し合わせる。</li> <li>電子黒板で映し出した学校の近くにあるレストランのメニュー表を用いて、基本表現の練習をする。</li> <li>英語版のメニュー表があれば活用する。</li> <li>巻末の資料を参考にして練習させる。</li> <li>場面を想像しながら音読をさせ、意味を確認する。</li> <li>ペアで実際に演技練習を繰り返す。</li> <li>Tool Boxから最低1つ以上の表現を入れるように指示する。</li> <li>練習が十分に行えたペアからタブレットで撮影をさせる。</li> <li>最も上手くできたと思う表現作品を教師に提出させる。</li> <li>教師は提出された動画を電子黒板に流し、まだ完成していないペアの参考となるようにする。</li> </ul> <p>【評】 レストランで注文するスキット作りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>画像などの視覚的な情報を用いて英語で状況説明をする。</li> <li>1分間、英語で行わせたい。</li> <li>電子黒板に使用できる表現を載せておく。</li> <li>1回目の後に、ペアで答えを英語で確認させる。</li> <li>2回目で答えを確認させる。</li> <li>リスナーとの対話を聞いて、内容の確認をさせる。</li> <li>タブレット上で書かせ、書けた生徒から教師に提出させる。</li> <li>教師は提出された意見を電子黒板に提示し、フィードバックを行う。</li> <li>Sound Boxを参考に、単語と単語を繋げて読まれていることを確認させる。</li> </ul> <p>【評】 ラジオのDJとリスナーの対話を聞き取ったり伝えたりする取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書付属の問題や教師の自作した問題に取り組ませ、基本表現の定着を図る。</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○Let's Tryの(1)に取り組む。</li> <li>○単元テストに取り組む。</li> </ul> <p>4 Grammar for Communication 過去進行形の形・意味・用法を学習する。</p> <p>★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○過去進行形の使い方・形を学習する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Let's Tryの(2)に取り組む。</li> <li>○単元テストに取り組む。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・不規則動詞について確認する。</li> </ul> <p>【評】単元テストを通して、学習事項についての「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書付属の問題や教師の自作した問題に取り組ませ、基本表現の定着を図る。</li> </ul> <p>【評】単元テストを通して、学習事項についての「知識・技能」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各授業の帯活動として、p100を利用した会話練習を「スモールトーク」として定期的に行っていき、英語を言語として使用することに慣れさせていきたい。

不規則動詞については、中学校で習う不規則動詞を一覧にしたプリントを作成し、クイズ形式で使用することで、まとめて覚えさせたい。

## 単元名 Stage Activity 3 My Favorite Event This Year

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 思い出に残った学校行事について、これまで習った学習事項を用いて発表することができる。また、物語の文章構成の理解を基に、物語のあらすじを聞き取ったり読み取ったりすることができる。
- (2) 思い出に残った学校行事について、情報を整理したり感想を考えたりしながら原稿を作成し、発表のポイントを意識して話すことができる。また、物語のあらすじを理解するために、物語の文章構成を意識することで話の概要を捉えたり、話の続きを考えたりすることができる。
- (3) 思い出に残った学校行事について、情報を整理したり感想を考えたりしながら原稿を作成し、発表のポイントを意識して話そうとする。

## 標準的な展開例

10250304\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 思い出に残った学校行事についての発表原稿を書く。</p> <p>★思い出に残った学校行事についての発表原稿を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目的・場面・状況を確認する。</li> <li>○STEP1を行う。</li> </ul> <p>○STEP2で発表の原稿を作成する。</p> <p>2 思い出に残った学校行事の発表を行う。</p> <p>★思い出に残った学校行事を発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○STEP3をペアやグループで行う。</li> </ul> <p>○巻末のCan Do Listを用いて、これまでの学習を振り返る。</p> <p>3 Learning LITERATURE in English 物語を読んで構成を理解する。</p> <p>★英語で書かれた文学作品を読んで、物語の構成を学習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Task1を行う。</li> </ul> <p>○Task2を行う。</p> <p>○Task3を行う。</p> <p>○Challengeを行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の目的を説明する。</li> <li>・発表を聞いて質問に答える。</li> <li>・Tool Boxや巻末の資料を参考にいろいろな表現を確認する。</li> <li>・これまでに学習してきた表現をスクリーンに示しておき、たくさん使用して作成するように伝える。</li> <li>・完成した生徒から発表の練習をさせる。</li> </ul> <p>【評】発表の原稿を作成する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始めに、ペアやグループで協力をして発表の練習をさせる。</li> <li>・教室の前で、全体に向けてスピーチを行わせる。</li> <li>・聞いている生徒は、発表者のよかったところをタブレット上で記入し、発表が終わったら教師に提出する。</li> </ul> <p>【評】発表への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は提出された感想を、発表者のタブレットへ送信する。</li> </ul> <p>【評】発表の内容を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで協力をして、物語のタイトルが何かを英語で話し合わせる。</li> <li>・クック先生の紹介を聞き、ペアで答えを確認させる。</li> <li>・答えとなるところで音源を止めながら、教師と一緒に答えを確認させる。</li> <li>・文章の構成を日本語で説明する。</li> <li>・文章構成を意識しながら物語を聞き、内容理解を深める。</li> <li>・ペアで協力をして、イラストを参考に物語の順番となるように文章を並べ替えさせる。</li> <li>・イラストを載せたプリントをタブレット上に配布し、オリジナルのClimaxやEndingを作らせる。</li> <li>・完成した物語を教師に提出させ、電子黒板で提示する。</li> </ul> <p>【評】物語のオリジナル文を作成する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各授業の帯活動として、p100を利用した会話練習を「スモールトーク」として定期的に行っていき、英語を言語として使用することに慣れさせていきたい。

実際に小学校の新入生説明会などでタブレットを使用して発表をすることができるなら行いたい。

発表の日に、小学校とSkypeやZoomなどを活用して、実際に小学6年生に向けて発表してもよい。

作成したオリジナル文を、教室や廊下に掲示したり、学校のHPにアップしたりしたい。

単元名 Let's Read 2 City Lights

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 時間の経過や場面の変化を捉えた読み方を理解し、活用して、登場人物の心情などを読み取ることができる。  
(2) 登場人物の心情などを理解するために、時間の経過や場面の変化に注意して物語を読むことができる。  
(3) 登場人物の心情などを理解するために、時間の経過や場面の変化に注意して物語を読もうとする。

## 標準的な展開例

10250305\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 物語を聞いて登場人物の特徴を掴む。<br/>★物語を読み取り、登場人物がどんな人かを確認しよう。<br/>○Teacher's Talkを聞く。</p> <p>○新出語句を練習する。<br/>○全体のリスニングを行う。</p> <p>○本文の内容確認を生徒主体で行う。</p> <p>○サイトトランスレーションを行い、全体の内容を確認する。</p> <p>○p126のReviewのRound1を行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の内容を画像やイラストを用いながら教師が英語で説明する。</li> <li>新出語句を確認する。</li> <li>本文全体のリスニングを行った後に、ペアで聞き取れたことを確認させ、話の概要を掴ませる。</li> <li>時間を決めて、黙読を行った後、ペアやグループで内容を確認させる。</li> <li>教科書の文章をチャンク毎に分けて、右に日本語、左に英語を載せたプリントを配布し、教師に続けてチャンク毎に音読させる。</li> <li>時間を設定し、ペアで確認をさせる。</li> <li>電子黒板を用いて、答えの確認と、なぜその答えになるのかの読み取りのポイントを解説する。</li> </ul> <p>【評】長文を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
| <p>2 物語の内容に関する質問に答える。<br/>★物語の内容に関する質問に答えよう。<br/>○Teacher's Talkを聞く。</p> <p>○ペアでサイトトランスレーションを行う。</p> <p>○p126のReviewのRound2を行う。</p> <p>○QRコードを読み取って、各自音読練習を行う。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>本文の内容を画像やイラストを用いながら、教師が英語で説明する。</li> <li>生徒に質問をしながら内容の復習を行う。</li> <li>時間を設定し、ペアでサイトトランスレーションを行わせる。</li> <li>片方が日本語を言った後、もう片方の生徒が英語に直していく。</li> <li>個人で考えさせた後、ペアやグループで学び合わせる。</li> <li>答えを壁に貼っておき、できた生徒から答え合わせをし、なぜその答えになるのかを考えさせる。</li> </ul> <p>【評】Q&amp;Aへの取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>  |
| <p>3 物語の続きを考える。<br/>★物語の続きを自由に考えよう。<br/>○ペアでサイトトランスレーションを行う。</p> <p>○教師からの質問に答える。</p> <p>○ReviewのRound3を行う。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>片方が日本語を言った後、もう片方の生徒が英語に直していく。</li> <li>言えないところはチェックを書き、ペアで一緒に音読させる。</li> <li>本文の内容に関するQ&amp;Aを口頭で行う。</li> <li>全員を起立させ、答えられた生徒から座らせる。</li> <li>誰も答えられない場合は、座っている生徒を当てて答えさせる。</li> <li>答えられなかったら再度起立させる。</li> <li>イラストのあるプリントをタブレット上に配布し、物語の続きをペアやグループで考えさせる。</li> <li>完成したペアから教師に提出させる。</li> </ul> <p>【評】物語の続きを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>       |

## 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

各授業の帯活動として、p100を利用した会話練習を「スモールトーク」として定期的に行っていき、英語を言語として使用することに慣れさせていきたい。

2年生の教科書から始まる長文の3段階読みを体験させることで、2年生の学習に繋げる。

単元名 Unit 0 My Spring Vacation

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 過去進行形を用いた文やThere is [are] … の文の形・意味・用法を理解し、それらの文を使い分けて自分の経験を伝えることができる。  
 (2) 思い出を伝えるために、自分の経験について、簡単な語句や文を用いて書いたり話したりすることができる。  
 (3) 自分の経験について、写真などを用いて分かりやすく伝えようとする。また、スピーチを聞き内容に関して積極的に質問しようとする。

### 標準的な展開例

11250101\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 自分の経験を伝えるスピーチについて学習する。</p> <p>★海斗のスピーチを読んで内容を理解しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 春休みの思い出に関するスピーチを読み、分かったことを話し合う。</li> <li>○ 過去進行形やThere is[are]… の文の復習をする。</li> </ul> <p>○ 本文についての問いに答える。</p> <p>○ 海斗のスピーチを参考に、自分の春休みの思い出についてのスピーチを考える。</p> <p>2 スピーチを発表する。</p> <p>★春休みの思い出を発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ メモを基に、写真などを提示しながらスピーチを発表する。</li> </ul> <p>○ 発表に関して質問をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文を読んで、分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</li> <li>・ Practiceを通して、過去進行形やThere is [are]… の文の用法を確認させる。</li> <li>【評】 過去進行形やThere is[are]… の文についての問いに答える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ Round1とRound2を通して内容を詳しく理解させる。</li> <li>・ Round3を通して、伝えたい内容を整理させ、スピーチのメモをつくらせる。</li> <li>・ タブレットで行った場所について調べさせる。また、行った場所や体験したことの写真などを用意するように伝える。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発音や強勢、表現や内容の工夫などについて、生徒間で相互評価させる。</li> <li>・ 生徒の実態に応じて原稿を書かせてもよい。</li> <li>【評】 発表における表現の工夫などを通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 疑問詞を使った疑問文の例などを提示し、活動を補助する。</li> <li>【評】 発表に対して質問をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

### 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 1 A Trip to Singapore

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) be going toや助動詞willを使った文, SV00やSV0Cの文の形・意味・用法を理解し, それらを使い分けて自分の予定や考えを説明したり, 観光名所や人物等についての紹介を読み取ったりすることができる。
- (2) 休暇や週末の予定について, 相手に質問したり, 自分のことを伝えたりすることができる。また, 旅行の楽しさや海外の文化や言語について報告する文書を読み取り, 感想などをまとまりのある文章で書くことができる。
- (3) 自分が立てた予定について説明したり, 相手の予定について知るために積極的に質問しようとしたりする。また, 旅行や海外の魅力についての文章についての自分の考えを書こうとする。

## 標準的な展開例

11250102\_001

【準備等】 デジタル教科書, 電子黒板, タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 Scene1 be going toの肯定文や疑問文とその応答について学習する。</p> <p>★友達に週末の予定を尋ねたり, 伝えたりしよう。</p> <p>○ Previewを通して, 分かったことを伝え合う。</p> <p>○ 本文を読んで, 概要を読み取る。</p> <p>○ be going toの肯定文や疑問文とその応答の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 週末の予定についてペアで伝え合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>Previewを視聴し, 分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</li> <li>本文の内容理解を通して, be going toの用法についてつかませる。</li> <li>Practiceに取り組み, 生徒の理解度を確認する。</li> <li>会話のきっかけとなる疑問文などを電子黒板やタブレットで提示するとよい。</li> </ul> <p>【評】 週末の予定について伝え合う活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p>                  |
| <p>2 Scene2 助動詞willを用いた文の形・意味・用法について学習する。</p> <p>★自分がその場で判断したことを友達に伝えよう。</p> <p>○ 新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○ 本文を読んで, 概要を読み取る。</p> <p>○ 助動詞willを用いた文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 助動詞willを使ってペアで会話をする。</p>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板やタブレットを用いて, テンポよく行う。</li> <li>本文の内容理解を通して, 助動詞willの用法についてつかませる。</li> <li>be going toとの違いに触れてもよい。</li> <li>Practiceを通して, 理解度を確認する。</li> <li>Plus Oneを活用するなど, 対話の場面を設定して活動を行う。</li> </ul> <p>【評】 その場で判断したことを伝え合う活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> |
| <p>3 Mini Activity さまざまな活動を通して, be going toや助動詞willを用いた文についての理解を深める。</p> <p>★休暇や週末の予定について質問したり答えたり, 自分の意志を伝えたりしよう。</p> <p>○ Listenに取り組む。</p> <p>○ Speak &amp; Writeの課題に取り組む。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じてメモを取るよう指示する。</li> <li>生徒の理解度に応じて, 発話量を増やさせてもよい。</li> <li>Tool Boxを活用させる。</li> </ul> <p>【評】 Speak &amp; Writeの活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p>   |
| <p>4 Read and Think1(1) SV00の文の形・意味・用法を学習する。</p> <p>★SV00の文を使って, 人や物を紹介しよう。</p> <p>○ SV00の文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 練習問題に取り組む。</p> <p>○ ペアになり, 教師が示した写真などについて, SV00の文を使って対話をする。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>SV00の文を写真などと共に複数提示し, 文型のルールに気付かせる。</li> <li>Practiceを通して, 理解度を確認する。</li> <li>電子黒板やタブレットを使って, 対話の場面設定を分かりやすく提示する。</li> <li>時間制限を設定し, 対話を続けさせる。</li> </ul> <p>【評】 SV00の用法についての練習問題を通して「知識・技能」を評価する。</p>                                       |
| <p>5 Read and Think1(2) 観光地を紹介する文章を読み取る</p> <p>★マーライオンの紹介文を読んで, その内容について話し合おう。</p> <p>○ 本文を読んで, 分かったことを話し合う。</p> <p>○ 本文についての問いに答える。</p> <p>○ マーライオンの特徴などについて, まとまりのある文章で説明する。</p>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</li> <li>Round1とRound2を通して, 本文の内容を詳しく理解させる。</li> <li>Round3を通して, 情報を整理させる。</li> <li>つなぎ言葉を使って, まとまりのある文章を作らせる。</li> </ul> <p>【評】 観光名所について説明する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>   |



6 Read and Think2 SVOC文の形・意味・用法を学習し、旅行について報告する文章を読み取る。

★SVOCの文を使って、人や物を紹介しよう。

○SVOCの文の形・意味・用法を知る。

○練習問題に取り組む。

○ペアになり、教師が示した写真などについて、SVOCの文を使って対話をする。

○本文を読んで、分かったことを話し合う。

○本文についての問いに答える。

○メグになったつもりで、朝美からのメールへの返事の内容を考える。

7 Unit Activity 夏休みの旅行計画を立て、紹介する。

★旅行の計画表を作り、ペアで紹介し合おう。

○旅行の予定表を作る。

○作った予定表を紹介し合う。

8 単元のまとめ 単元テストに取り組む。

★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。

○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。

・SVOCの文を写真とともに複数提示し、文型のルールに気づかせる。  
・Practiceを通して、理解度を確認する。  
・対話の場面設定を分かりやすく提示する。  
・時間制限を設定し、対話を続けさせる。

【評】SVOCの用法についての練習問題を通して「知識・技能」を評価する。

・分かったことをペアの生徒に伝えさせる。  
・Round1とRound2を通して、本文の内容を詳しく理解させる。

・Round3に取り組ませる。  
・生徒の実態に応じて、メール全文を書かせる活動を行ってもよい。

【評】メールの内容を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・STEP1とSTEP2に取り組ませる。

・対話例にならって、対話を行わせる。

【評】旅行の予定について伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】単元テストを通して、be going toや助動詞willを使った文、SV00やSVOCの文の用法についての「知識・技能」を評価する。

【評】単元テストを通して、be going toや助動詞willを使った文、SV00やSVOCの文を活用させ、「思考・判断・表現」を評価する。

#### 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Let's Talk 1 ホテルでのトラブル

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 苦情を言うときや謝罪するときの表現の意味やそれらの働きについて理解し、状況を伝えたり謝ったりすることができる。  
 (2) 飛行機に搭乗している状況で、機内放送から必要な情報を聞き取ることができる。  
 (3) 相手に合ったお土産を選ぶために、食品表示を理解し、誰にあげたいかを考えて理由とともに発表しようとする。

## 標準的な展開例

11250103\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 Let's Talk1 ホテルでトラブルについて苦情を言うときや謝罪するときの表現を学習する。<br/> <b>★</b>ホテルでのトラブルを解決しよう。<br/>         ○ホテルでのトラブルについて考える。</p> <p>○モデル対話の練習をする。</p> <p>○トラブルの場面を想定し、ロールプレイを行う。</p> <p>2 Grammar for Communication1 5つの文構造について学習する。<br/> <b>★</b>5つの文構造の分類について知ろう。<br/>         ○第4文型(SV00)と第5文型(SVOC)について復習する</p> <p>○ペアになり提示された文を分類する。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> <p>3 Learning HOME ECONOMICS in English 食品や食品表示に用いられる語彙を学習する。<br/> <b>★</b>相手に合わせて海外旅行のお土産を選ぶ。<br/>         ○誰にどのようなお土産を買うか話し合う。<br/>         ○お土産の食品表示を確認する。<br/>         ○お土産を買う相手とその理由を伝え合う。</p> <p>4 Let's Listen1 予定や近い未来についての情報を聞き取る。<br/> <b>★</b>機内放送から必要な情報を聞き取ろう。<br/>         ○機内での過ごし方について想像する。<br/>         ○離陸後の機内放送を聞き取る。</p> <p>○到着地の情報を聞き取る。</p> <p>○聞き取った情報を整理して伝える。</p> | <p>・STEP1に取り組みせ、ホテルで起こりうるトラブルを想像させる。<br/>         ・STEP2に取り組みせる。<br/>         ・重要な表現を確認し、どのような口調で話すべきかを考えさせる。<br/>         ・ペアでSTEP3に取り組みせる。<br/>         ・Tool Boxを活用させる。<br/> <b>【評】</b>トラブルの場面を想定した対話活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・例文を提示し、目的語と補語の違いについて押さえさせる。<br/>         ・例文を複数提示し、ペアで5つの文型に分類させる。<br/> <b>【評】</b>例文を5つの文型に分類する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br/>         ・Let's Tryに取り組みせる。<br/> <b>【評】</b>5文型についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ペアでTask1に取り組みせる。<br/>         ・Task2に取り組みせる。<br/>         ・グループでTask3に取り組みせる。<br/>         ・理由を含めて2文以上で自分の考えを伝えさせる。<br/> <b>【評】</b>お土産を買う相手とその理由を伝える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ペアで考えたことを話し合わせる。<br/>         ・STEP1に取り組みせる。<br/>         ・複数回聞かせ、放送内容の理解を促す。<br/>         ・STEP2に取り組みせる。<br/>         ・複数回聞かせ、大切だと思う情報はメモを取らせる。<br/>         ・STEP3に取り組みせる。<br/>         ・ペアでジョシュ役と父親役に分かれ、対話を行わせる。<br/>         ・生徒の実態に応じて、対話のモデルを提示してもよい。<br/> <b>【評】</b>機内放送を聞き取り、情報を伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 2 Food Travels around the World

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 接続詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、何かを行うときの時や条件を相手に伝えたり、好きな料理についての自分の考えとその理由を説明したりすることができる。
- (2) 日本や外国の料理について、自分の知っていることについての考えや事実などを相手に伝えることができる。また、料理や食文化の歴史や変化についての文章を読み取り、それに対する自分の考えを伝え合うことができる。
- (3) 好きな料理とその理由について説明したり、積極的に質問しようとしたりする。また、日本や外国の食文化やその歴史に関する文章について、自分の考えを書こうとする。

## 標準的な展開例

11250104\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 Scene1 接続詞whenを用いた文の形・意味・用法について学習する。</p> <p>★時間のあるときに何をするかを伝え合おう。</p> <p>○ Previewを通して、分かったことを伝え合う。</p> <p>○ Scene1の本文を読んで、概要を読み取る。</p> <p>○ 接続詞whenを用いた文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 接続詞whenを使って、ペアで会話をする。</p> <p>・ What do you usually do when you are free?</p> <p>2 Scene2 接続詞ifを用いた文の形・意味・用法について学習する。</p> <p>★さまざまな条件の下で、自分がどんな行動をするかを伝え合おう。</p> <p>○ 新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○ Scene2の本文を読んで、概要を読み取る。</p> <p>○ 接続詞ifを用いた文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 接続詞ifを使って、ペアで会話をする。</p> <p>・ What do you want to do if it is sunny tomorrow?</p> <p>3 Mini Activity さまざまな活動を通して、接続詞whenやifを用いた文についての理解を深める。</p> <p>★自由時間の過ごし方について伝え合ったり、自分の町について紹介したりしよう。</p> <p>○ Listenに取り組む。</p> <p>○ Speak &amp; Writeの課題に取り組む。</p> <p>4 Read and Think1 接続詞thatを使った文の形・意味・用法を学習する。</p> <p>★カレーの歴史の紹介文を読んで、その内容について話し合おう。</p> <p>○ 接続詞thatを使った文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 練習問題に取り組む。</p> <p>○ 本文を読んで、分かったことを話し合う。</p> <p>○ 本文についての問いに答える。</p> <p>○ カレーの歴史や変化などについて、まとまりのある文章で説明する。</p> <p>5 Read and Think2(1) 接続詞becauseを使った文の形・意味・用法を学習する。</p> <p>★理由を示しながら、自分の考えを述べよう。</p> <p>○ 接続詞becauseの文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 練習問題に取り組む。</p> <p>○ ペアになり、教師が示した題材についてbecauseの文を使って対話をする。</p> | <p>・ Previewを視聴し、分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</p> <p>・ 本文の内容理解を通して、接続詞whenの用法についてつかませる。</p> <p>・ Practiceに取り組みせ、生徒の理解度を確認する。</p> <p>・ 会話のきっかけとなる疑問文などを提示する。</p> <p>【評】 ペアでの会話活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</p> <p>・ 本文の内容理解を通して、接続詞ifの用法についてつかませる。</p> <p>・ Practiceを通して、理解度を確認する。</p> <p>・ Plus Oneを活用するなど、対話の場面を設定して活動を行う。</p> <p>【評】 ある条件の下での自分の行動を伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 必要に応じてメモを取るよう指示する。</p> <p>・ 生徒の理解度に応じて、発話量を増やさせてもよい。</p> <p>・ Tool Boxを活用させる。</p> <p>【評】 Speak &amp; Writeの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 接続詞thatの文を写真などとともに複数提示し、thatの役割に気づかせる。</p> <p>・ Practiceを通して、理解度を確認する。</p> <p>【評】 接続詞thatの用法についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</p> <p>・ Round1とRound2を通して、本文の内容を詳しく理解させる。</p> <p>・ Round3を通して、情報を整理させる。</p> <p>【評】 料理の歴史について説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 写真とともに複数の文を提示し、becauseの役割に気付かせる。</p> <p>・ Practiceを通して、理解度を確認する。</p> <p>・ 対話の場面設定を分かりやすく提示する。</p> <p>・ 時間制限を設定し、対話を続けさせる。</p> |

|   |  |
|---|--|
| <p>6 Read and Think2(2) 料理の歴史や変化についての文章を読む。<br/> ★料理についての紹介文を読み、その内容について話し合おう。<br/> ○本文を読んで、分かったことを話し合う。<br/> ○本文についての問いに答える。</p> <p>○本文を通して学んだことをまとめる。</p> <p>7 Unit Activity おすすめのレストランについて紹介する。<br/> ★おすすめのレストランをペアで紹介し合おう。<br/> ○ペアにお気に入りのレストランを紹介する。<br/> ○勧められたレストランについて書く。</p> <p>8 単元のまとめ 単元テストに取り組む。<br/> ★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。<br/> ○単元テストに取り組む。<br/> ○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</p> | <p>【評】接続詞becauseの用法についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</li> <li>・Round1とRound2を通して、本文の内容を詳しく理解させる。</li> <li>・Round3に取り組ませる。</li> <li>・本文の要約をさせてもよい。</li> </ul> <p>【評】本文から学んだことをまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・STEP1とSTEP2に取り組ませる。</li> <li>・STEP3に取り組ませる。</li> </ul> <p>【評】レストランを紹介する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元テストを通して、接続詞の用法についての「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】単元テストを通して、接続詞を活用させ「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】  
授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Let's Talk 2 ていねいなお願い

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 許可を求めたり、依頼をしたりする表現の意味やそれらの働きについて理解し、相手や場面に応じて自分の要望を伝えることができる。
- (2) 職業体験でのインタビューに同席している状況で、インタビューを聞き取り、その内容を理解することができる。
- (3) 看護師へのインタビューで得た情報をもとに、さらに質問したいことを考えようとする。

## 標準的な展開例

11250105\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 Let's Talk2 相手にていねいに許可を求めたり、依頼したりするときの表現を学習する。</p> <p>★相手にていねいをお願いしよう。</p> <p>○相手にお願いをする場面について考える。</p> <p>○モデル対話の練習をする。</p> <p>○お願いをする場面を想定し、ロールプレイを行う。</p> <p>2 Grammar for Communication2 接続詞について学習する</p> <p>★接続詞の使い方を復習しよう。</p> <p>○接続詞whenについて復習する。</p> <p>○ペアになり、カルタゲームを行う。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> <p>3 学び方コーナー1 単語の覚え方を学習する。</p> <p>★自分に合う単語の覚え方を知ろう。</p> <p>○単語の学習について情報交換をする。</p> <p>○単語を覚えるための3つの知識を学習する。</p> <p>○自分の学習方法を振り返る。</p> <p>4 Let's Listen2 インタビューを聞き、質問内容や答えを聞き取る。</p> <p>★看護師へのインタビューを聞き取ろう。</p> <p>○職業体験について想像する。</p> <p>○看護師へのインタビューを聞き取る。</p> <p>○インタビューの続きを聞き取り、情報をまとめる。</p> <p>○さらに質問したいことを考える。</p> | <p>・STEP1に取り組ませ、どのように写真撮影の依頼をするかを考えさせる。</p> <p>・STEP2に取り組ませる。</p> <p>・重要な表現を確認し、どのような口調で話すべきかを考えさせる。</p> <p>・ペアでSTEP3に取り組ませる。</p> <p>・Tool Boxを活用させる。</p> <p>【評】相手にお願いをする場面を想定した対話活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・例文を提示し、接続詞の機能について押さえさせる。</p> <p>・接続詞を含む例文の前半部を提示し、後半部が書かれたカードをとらせる。</p> <p>・Let's Tryに取り組ませる。</p> <p>【評】接続詞についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・グループで自分の単語の勉強について、方法や困っていることなどを自由に話させる。</p> <p>・「音」「つづり」「意味」の3つの知識の覚え方を提示する。</p> <p>・自分の単語の学習法について、3つの知識を意識しているかを振り返らせる。</p> <p>・できていること、できていないことを明らかにさせ、今後の学習法をまとめさせる。</p> <p>【評】自分に合った単語の学習法を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・職業体験でどんな仕事を体験したいかをペアで伝え合わせる。</p> <p>・STEP1に取り組ませる。</p> <p>・複数回聞かせ、放送内容の理解を促す。</p> <p>・STEP2に取り組ませる。</p> <p>・複数回聞かせ、大切だと思う情報はメモを取らせる。</p> <p>【評】インタビューを聞き取り、情報をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・STEP3に取り組ませる。</p> <p>・STEP2までに得た情報を基に、質問を考えさせる。</p> <p>【評】看護師への質問を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 3 My Future Job

配当時間 11時間

- 単元の目標 (1) 不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、行動の目的や、感情の原因などといった情報を整理して伝えたり理解したりすることができる。
- (2) 将来の夢やその実現に向けて行っていることについて、不定詞を使って情報を整理して伝え合することができる。また、職業体験のレポートを読んで、その内容を理解するとともに、自分の考えの要点を述べることができる。
- (3) 将来の夢やその実現に向けて行っていることを、積極的に伝え合おうとする。また、これからの社会を想像し、自分の将来や夢のためにすべきことなどについて理解したり伝えたりしようとする。

## 標準的な展開例

11250106\_001

【準備等】 デジタル教科書, 電子黒板, タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 Scene1 不定詞（副詞的用法）を用いた文の形・意味・用法について学習する。</p> <p>★よく行く場所とその目的を伝え合おう。</p> <p>○ Previewを通して、分かったことを伝え合う。</p> <p>○ Scene1本文を読んで、概要を読み取る。</p> <p>○ 不定詞を用いた文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 不定詞を使って、ペアで会話をする。</p> <p>2 Scene2 不定詞（原因を表す副詞的用法）を用いた文の形・意味・用法について学習する。</p> <p>★自分の気持ちを理由とともに相手に伝えよう。</p> <p>○ 新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○ Scene2本文を読んで、概要を読み取る。</p> <p>○ 不定詞を用いた文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 不定詞を使って、ペアで会話をする。</p> <p>3 Mini Activity さまざまな活動を通して、不定詞（副詞的用法）を用いた文についての理解を深める。</p> <p>★好きな教科や好きなことについて伝え合おう。</p> <p>○ Listenに取り組む。</p> <p>○ Speak &amp; Writeの課題に取り組む。</p> <p>4 Read and Think1 不定詞（形容詞的用法）を使った文の形・意味・用法を学習する。</p> <p>★不定詞を使って、物について詳しく説明しよう。</p> <p>○ 不定詞を使った文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 練習問題に取り組む。</p> <p>○ ペアになり、物当てクイズを出し合う。</p> <p>・ This is a thing to drink some tea.</p> <p>○ 本文を読んで、分かったことを話し合う。</p> <p>○ 本文についての問いに答える。</p> <p>○ 本文を参考に、自分の好きなことやそれを将来に生かすために何をすべきかをまとめる。</p> <p>5 Read and Think2(1) 〈It is…+to+動詞の原形〉を使った文の形・意味・用法を学習する。</p> <p>★身のまわりの簡単なことや難しいことを伝え合おう。</p> <p>○ 〈It is…+to+動詞の原形〉の用法を知る。</p> <p>○ 練習問題に取り組む。</p> <p>○ ペアで簡単なことや難しいことを伝え合う。</p> | <p>・ Previewを視聴し、分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</p> <p>・ 本文の内容理解を通して、不定詞（副詞的用法）の用法についてつかませる。</p> <p>・ Practiceに取り組ませ、生徒の理解度を確認する。</p> <p>・ さまざまな場所の写真を提示し、そこへ行く目的を考えさせる。</p> <p>【評】 ペアでの会話活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</p> <p>・ 本文の内容理解を通して、不定詞の用法についてつかませる。</p> <p>・ Practiceを通して、理解度を確認する。</p> <p>・ さまざまな場面絵を提示し、その場面に応じた気持ちやその理由を伝え合わせる。</p> <p>【評】 感情とその理由を伝え合う活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 必要に応じてメモを取るよう指示する。</p> <p>・ 生徒の理解度に応じて、発話量を増やさせてもよい。</p> <p>・ Tool Boxを活用させる。</p> <p>【評】 Speak &amp; Writeの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 不定詞の文を写真などとともに複数提示し、形容詞的用法のルールに気づかせる。</p> <p>・ Practiceを通して、理解度を確認する。</p> <p>・ 教師が示した物について、不定詞を含む文を用いて、ヒントを出させる。</p> <p>【評】 不定詞（形容詞的用法）についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</p> <p>・ Round1とRound2を通して、本文の内容を詳しく理解させる。</p> <p>・ Round3を通して、情報を整理させる。</p> <p>【評】 自分の将来について述べる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 写真とともに複数の文を提示し、〈It is…+to+動詞の原形〉のルールに気付かせる。</p> <p>・ Practiceを通して、理解度を確認する。</p> <p>・ 写真を提示するなどし、会話のトピックを提供する。</p> |

6 Read and Think2(2) 職業体験のレポートの続きを読み取る。

★職業体験のレポートの続きを読んで、その内容について話し合おう。

- 本文を読んで、分かったことを話し合う。
- 本文についての問いに答える。

- 本文を通して学んだことをまとめる。

7 Unit Activity 職業体験で学んだことをまとめる。

★職業体験で学んだことを伝え合おう。

- 職業体験先や体験内容を整理する。
- グループになり、職業体験について発表する。

8 Let's Write1 留守番電話のメッセージへの返信を考える。

★メッセージの内容を理解し、返信メールを書こう。

- メッセージを聞き取る。
- モデル文を読みとる。

- 返信メールを書く。

9 Grammar for Communication3 不定詞のまとめをする。

★不定詞の使い方を復習しよう。

- 不定詞の用法を復習する。
- ペアになり、不定詞を用いた例文を3つの用法に分類する。
- 練習問題に取り組む。

10 Learning TECHNOLOGY in English 情報技術の進歩について考える。

★情報技術の長所や短所を話し合い、その活用法について考えよう。

- スマートフォンの用途について話し合う。

- スマートフォンの長所や短所をまとめる。

- スマートフォンの活用の仕方を考える。

11 単元のまとめ 単元テストに取り組む。

★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。

- 単元テストに取り組む。
- Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。

【評】〈It is…+to+動詞の原形〉の用法についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・分かったことをペアの生徒に伝えさせる。
- ・Round1とRound2を通して、本文の内容を詳しく理解・整理させる。
- ・Round3に取り組ませる。
- ・AIについての資料などを提示するとよい。

【評】本文から学んだことをまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・STEP1とSTEP2に取り組ませる。

- ・STEP3に取り組ませる。

【評】職業体験について発表する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・STEP1に取り組ませる。

- ・STEP2に取り組ませる。

- ・内容をつかませるとともに、文章の構成に着目させる

- ・STEP3に取り組ませる。

- ・STEP2のモデル文の構成に沿って書かせる

【評】返信メールを書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・電子黒板やタブレット等を用いて、場面絵を示すなどして、使用場面を想起させる。

- ・例文を複数提示し、ペアで3つの用法に分類させる。

- ・Let's Tryに取り組ませる。

【評】不定詞についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・Task1に取り組ませる。

- ・スマートフォンの用途を不定詞の文を使って表現させる。

- ・Task2に取り組ませる。

- ・スマートフォンの長所や短所について、用途を選択させ、評価させる。

- ・Task3に取り組ませる。

- ・Task2で考えたスマートフォンの長所や短所を基に考えさせる。

【評】スマートフォンの活用の仕方を考えて書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】単元テストを通して、不定詞の用法についての「知識・技能」を評価する。

【評】単元テストを通して、不定詞を活用させ「思考・判断・表現」を評価する。

## 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

**単元名** Stage Activity1 A Message to Myself in the Future

**配当時間** 4時間

- 単元の目標** (1) 自分の好きなことや得意なことについて、伝え合ったり、書いたりすることができる。  
 (2) 自分の考えや他者からのアドバイスを基に、自分に向いている仕事について考え、まとめた文章を書くことができる。  
 (3) 相手に向いている職業をその理由とともに考え、伝えようとする。また、自分の将来について考え、未来の自分へのメッセージを書こうとする。

**標準的な展開例**

11250107\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| 1 自分の好きなことや得意なことを考える。<br>★自分の好きなことや得意なことを伝え合おう。<br>○自分の好きなことなどを書き出す。<br><br>○グループで考えたことを伝え合う。<br><br>2 向いている仕事について考える。<br>★グループのメンバーに向いている仕事を考えよう。<br>○相手の好きなことなどの情報から、向いている職業やその理由を考える。<br><br>○向いている仕事について伝え合おう。<br><br>○グループのメンバーからのアドバイスを基に、気付いたことや分かったことをまとめる。<br><br>3 未来の自分に向けたメッセージを書く。<br>★10年後の自分へのメッセージを書こう。<br>○モデル文を読み取る。<br><br>○自分に合うと思う仕事について考えて、10年後の自分のメッセージを書く。<br><br>4 メッセージを読んで感想を書く。<br>★メッセージを読み合い、相手の書いたメッセージの感想を書こう。<br>○ペアになり互いのメッセージを読む。<br><br>○メッセージを読んだ感想を書く。 | ・STEP1に取り組ませる。<br>・さまざまな角度から自分の好きなことや得意なことについて考えさせる。<br>・自分の好きなことなどについてなるべくたくさん発表させる。<br>・Tool Boxを活用させる。<br>【評】自分の好きなことや得意なことを伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する<br><br>・タブレットを活用し、さまざまな仕事について調べさせる。<br>・相手に伝える内容を簡単にメモさせる。<br>・教科書p51のWord Room1を参考にさせる。<br>・STEP2に取り組ませる。<br>・モデル対話やTool Boxを参考に、英語で会話させる。<br>・自分に向いている仕事について、今後したいことや、その仕事に就くために大切なことを考えさせる。<br>【評】相手に向いている仕事を考えて伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br><br>・モデル文を黙読させ、分かったことをペアで伝え合わせる。<br>・STEP3に取り組ませる。<br>・タブレットを活用し、自分が就きたい仕事について調べさせてもよい。<br>【評】10年後の自分へのメッセージを書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する<br><br>・タブレットを活用し、相手の就きたい仕事について調べさせてもよい。<br>・文意が伝わりにくい部分があるときは、相手に質問させる。<br>・感想を書くためのカードなどを配る。<br>・相手に対して肯定的な感想を書かせる。<br>【評】メッセージを読んで感想を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |

**【 備 考 】**

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。



## 単元名 Let's Read 1 History of Clocks

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 時間の経過を表す語句の意味や働きの理解を基に、時計がどのような歴史をたどって発展してきたかを捉えることができる。
- (2) 文章の大まかな流れを時間軸に沿ってまとめるために、時計が発展してきた歴史について書かれた文章の概要を捉えることができる。
- (3) 時計の歴史についての説明文を、時系列に整理しながら読もうとする。また、現代の時計の利点について、自身の経験と関連付けて考えようとする。

## 標準的な展開例

11250108\_001

【準備等】デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 約6000年前の時計について読み取る。</p> <p>★世界で最初の時計について読み取ろう。</p> <p>○時計について知っていることや実生活での関わりについて話し合う。</p> <p>○新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○第1段落～第2段落を読んで分かったことを話し合う。</p> <p>○本文の内容についての問いに答える。</p> <p>2 夜に使用する時計の仕組みについて読み取る。</p> <p>★太陽の光に頼らない時計の仕組みについて読み取ろう</p> <p>○新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○太陽時計の弱点について考える。</p> <p>○第3段落～第4段落を読んで分かったことを話し合う。</p> <p>○本文の内容についての問いに答える。</p> <p>3 機械時計の登場について読み取る。</p> <p>★機械時計の仕組みについて読み取ろう。</p> <p>○新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○第5段落～第6段落を読んで分かったことを話し合う。</p> <p>○本文の内容についての問いに答える。</p> <p>○時計の歴史を振り返り、場面絵を並び替える。</p> <p>4 説明文のまとめを読み取る。</p> <p>★現代の時計について、どんな点が利点になっているかを考えよう。</p> <p>○説明文の内容を振り返る。</p> <p>○現代の時計の便利な点について話し合う。</p> <p>5 Let's Listen3 天気予報を聞き取る。</p> <p>★天気予報を聞き取ろう。</p> <p>○天気に関わる用語を確認する。</p> <p>○天気予報を聞き取る。</p> | <p>・ペアやグループでPre-readingの問いについて意見を交換させる。</p> <p>・電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</p> <p>・電子黒板などで場面絵を提示しながら、本文を聞かせる。</p> <p>・ペアで本文を読んで分かったことを伝え合わせる。</p> <p>・In-readingの問いに答えさせる。</p> <p>【評】世界で最初の時計について読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</p> <p>・タブレットを用いて調べさせてもよい。</p> <p>・ペアやグループで太陽時計のデメリットについて話し合う。</p> <p>・電子黒板などで場面絵を提示しながら、本文を聞かせる。</p> <p>・ペアで本文を読んで分かったことを伝え合わせる。</p> <p>・In-readingの問いに答えさせる。</p> <p>【評】太陽時計に替わる時計の仕組みについて読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</p> <p>・電子黒板などで場面絵を提示しながら、本文を聞かせる。</p> <p>・ペアで本文を読んで分かったことを伝え合わせる。</p> <p>・In-readingの問いに答えさせる。</p> <p>・第1段落から第6段落までを通して読み、時計の発展を時系列に整理させる。</p> <p>・ペアで場面絵の並べ方を考えさせる。</p> <p>【評】時計の発展について時系列に整理する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・Post-readingに取り組ませる。</p> <p>・時計の歴史を時系列で整理させる。</p> <p>・ペアで自分の考えを伝え合わせる。</p> <p>・タブレットなどを利用し、調べ学習をさせてもよい。</p> <p>【評】現代の時計の利点について考え、伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・Before You Listenに取り組ませる。</p> <p>・タブレットを使って、さまざまな気象現象などについて調べてもよい。</p> <p>・STEP1に取り組ませる。</p> |

○週末のおすすめ観光地の情報を聞き取る。

○聞き取った情報を基に、週末の予定を伝え合う。

- ・複数回聞かせ、放送内容の理解を促す。
- ・STEP2に取り組ませる。
- ・複数回聞かせ、大切だと思う情報はメモを取らせる。
- ・STEP3に取り組ませる。
- ・ペアになり、天気予報の情報を基に、週末の予定を伝え合わせる。
- ・生徒の実態に応じて、話形を提示してもよい

【評】 天気予報を聞き取り、週末の予定を伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 4 Homestay in the United States

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) have to, must, 動名詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、すべきことやしてはいけないことを伝え合ったり、自分の経験を整理して話したり書いたりすることができる。
- (2) 自分のスケジュールや学校のルールについて、する必要があることやしなければならないことを、伝え合ったり書いたりすることができる。また、日米の生活習慣や文化のちがいを知り、ともに暮らすヒントを考えるために、事実や書き手の気持ちを整理して体験談の概要を捉えたり、解決策を考えて書いたりしている。
- (3) ホームステイの際にしなければならないことやしてはいけないことを、理解したり伝えたりしようとする。また、日本に来る予定の外国人に知ってもらうために、日本の習慣やマナーについて、簡単な語句や文を用いて伝え合ったり書いたりしようとする。

## 標準的な展開例

11250201\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 Scene1 have toを用いた文の形・意味・用法について学習する。</p> <p>★自分にとってする必要があることやしなくてもよいことを伝え合おう。</p> <p>○ Previewを通して、分かったことを伝え合う。</p> <p>○ 新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○ Scene1本文を読んで、概要を読み取る。</p> <p>○ have toを用いた文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ have toを使って、ペアで会話をする。</p>   | <p>・ Previewを視聴し、分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</p> <p>・ 電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</p> <p>・ 本文の内容理解を通して、have toの用法についてつかませる。</p> <p>・ Practiceに取り組みせ、生徒の理解度を確認する。</p> <p>・ 一日の生活を振り返らせ、have toを用いた文を考えさせるとよい。</p> <p>【評】 ペアでの会話活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>  |
| <p>2 Scene2 助動詞mustを用いた文の形・意味・用法について学習する。</p> <p>★しなければならないことやしてはいけないことを伝え合おう。</p> <p>○ 新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○ Scene2本文を読んで、概要を読み取る。</p> <p>○ 助動詞mustを用いた文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 助動詞mustを使って、ペアで会話をする。</p>   | <p>・ 電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</p> <p>・ 本文の内容理解を通して、助動詞mustの用法についてつかませる。</p> <p>・ Practiceを通して、理解度を確認する。</p> <p>・ さまざまな場面絵を提示し、その場面に応じて会話をさせる。</p> <p>【評】 しなければならないことやしてはいけないことを伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>  |
| <p>3 Mini Activity さまざまな活動を通して、have toやmustを用いた文についての理解を深める。</p> <p>★have toやmustを使ってさまざまな活動を行おう。</p> <p>○ Listenに取り組む。</p> <p>○ Speak &amp; Writeの課題に取り組む。</p>  | <p>・ 必要に応じてメモを取るよう指示する。</p> <p>・ 生徒の理解度に応じて、発話量を増やさせてもよい。</p> <p>・ Tool Boxを活用させる</p> <p>【評】 Speak &amp; Writeの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>  |
| <p>4 Read and Think1 動名詞（目的語）を使った文の形・意味・用法を学習する。</p> <p>★週末に楽しんだことややり終えたことを伝え合おう。</p> <p>○ 新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○ 動名詞を使った文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 練習問題に取り組む。</p> <p>○ ペアになり、週末に楽しんだことややり終えたことを伝え合う。</p> <p>・ I enjoyed fishing last Sunday.</p> <p>○ 本文を読んで、分かったことを話し合う。</p> <p>○ 本文についての問いに答える。</p> <p>○ 慎や奈美へのアドバイスを考え、ペアで伝え合う。</p> | <p>・ 電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</p> <p>・ 動名詞を用いた文を写真などとともに複数提示し、ルールに気付かせる。</p> <p>・ Practiceを通して、理解度を確認する。</p> <p>・ タブレットを用いて、話す内容に関連する写真などを提示させてもよい。</p> <p>【評】 動名詞（目的語）についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</p> <p>・ Round1とRound2を通して、本文の内容を詳しく理解させる。</p> <p>・ Round3を通して、情報を整理させる。</p> <p>・ 慎または奈美へのアドバイスを考えて書かせる。</p> |

- 5 Read and Think2(1) 動名詞（主語）を使った文の形・意味・用法を学習する。  
★楽しいと感じることやわくわくすることを伝え合おう。  
○新出語句の確認・練習を行う。
- 動名詞（主語）の用法を知る。
- 練習問題に取り組む。  
○ペアになり、楽しいと感じることやわくわくすることを伝え合う。
- 6 Read and Think2(2) ホームステイの体験談を読み取る  
★ホームステイの体験談を読んで、トラブルやその解決策について考えよう。  
○本文を読んで、分かったことを話し合う。  
○本文についての問いに答える。
- 本文を通して学んだことをまとめる。
- 7 Unit Activity 日本の習慣やマナーを伝える。  
★外国人旅行者に日本の習慣やマナーを伝えよう。  
○旅行者のブログを読み取る。
- ペアになって、旅行者へのアドバイスを考える。
- 旅行者に日本の習慣やマナーを伝えるためのメモを書く
- 8 Let's Write2 ホームステイのお礼状を書く。  
★お世話になった人に手紙で感謝の気持ちを伝えよう。  
○モデル文を読み取る。
- 手紙に書きたい内容についてメモを書く。  
○メモを基に手紙を書く。
- 9 Grammar for Communication4 助動詞のまとめをする。  
★助動詞の使い方を復習しよう。  
○助動詞の用法を復習する。
- ペアになり、助動詞を使用場面で分類する。
- 練習問題に取り組む。
- 10 学び方コーナー2 音読の仕方を知る。  
★効果的な音読の仕方について学ぼう。  
○文を大まかに捉える練習をする。
- 文の意味の区切りを捉える練習をする。
- 文を音読する。
- 11 Let's Listen4 電車の運行情報を聞き取る。  
★運行情報を聞き取り目的地への行き方を考えよう。  
○路線図を見て、場面を想像する。

【評】 ホームステイでのトラブルについて読み取り、アドバイスを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。
- ・写真とともに複数の文を提示し、動名詞（主語）のルールに気付かせる。
- ・Practiceを通して、理解度を確認する。
- ・タブレットを用いて、話す内容に関連する写真などを提示させてもよい。

【評】 動名詞（主語）の用法についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・分かったことをペアの生徒に伝えさせる。
  - ・Round1とRound2を通して、本文の内容を詳しく理解・整理させる。
  - ・Round3に取り組ませる。
  - ・本文中で紹介されたトラブルについて、自分ならどのように対応するかを考えさせる。
- 【評】 本文から学んだことをまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・STEP1に取り組ませる。
  - ・分かったことをペアで伝え合わせる。
  - ・STEP2に取り組ませる。
  - ・日本の習慣やマナーについて想起させるとよい。
  - ・STEP3に取り組ませる。
  - ・Tool Boxを活用させる。
- 【評】 日本の習慣やマナーを伝える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・STEP1に取り組ませる。
- ・内容をつかませるとともに、文章の構成に着目させる。
- ・STEP2に取り組ませる。
- ・STEP3に取り組ませる。
- ・STEP1のモデル文の構成に沿って書かせる。

【評】 手紙を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・電子黒板を用いて、場面絵を示すなどして、使用場面を想起させる。
  - ・場面絵を複数提示し、その場面合う助動詞を考えさせる。
  - ・Let's Tryに取り組ませる。
- 【評】 助動詞についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・Let's Readや1年時の教科書などを活用してもよい。
  - ・STEP1に取り組ませる。
  - ・未習語でも文字から音を想像させる。
  - ・STEP2に取り組ませる。
  - ・意味のかたまりごとに例文を区切らせる。
  - ・STEP3に取り組ませる。
  - ・相手に文の意味が伝わるように読ませる。
- 【評】 音読の仕方を学び、実践する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・路線図の見方を紹介したり、さまざまな都道

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○電車の運行情報を聞き取る。</li> <li>○運行情報を詳しく聞き取る。</li> <li>○目的地への行き方を考え、ペアで伝え合う。</li> </ul> <p>12 単元のまとめ 単元テストに取り組む。<br/>★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。<br/>○単元テストに取り組む。</p> <p>○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</p> | <p>府県の路線図を提示したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・STEP1に取り組ませる。</li> <li>・複数回聞かせ、放送内容の理解を促す。</li> <li>・STEP2に取り組ませる。</li> <li>・複数回聞かせ、大切だと思う情報はメモを取らせる。</li> <li>・STEP3に取り組ませる。</li> <li>・運行情報を基に、目的地へ行く方法を考えさせる。</li> <li>・生徒の実態に応じて話形を提示してもよい。</li> </ul> <p>【評】運行情報を聞き取り、情報を伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元テストを通して、have to, must, 動名詞の用法についての「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】単元テストを通して、have to, must, 動名詞を活用させ、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】  
授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 5 Universal Design

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 〈疑問詞＋to〉の文の形・意味・用法を理解し、物の使い方ややり方などといった情報を整理して伝えたり理解したりすることができる。
- (2) 身近なもの・ことについて、使い方ややり方を伝え合うことができる。また、誰もが過ごしやすい社会の実現に向けた取組が書かれた文章を読み、その内容を理解するとともに、自分の考えの要点を述べることができる。
- (3) 誰もが使いやすいものについて考えるために、相手の考えや気持ちなどを読み取ったり、簡単な語句や文を用いて自分の確信や喜びの気持ちなどを伝えたりしようとする。

## 標準的な展開例

11250202\_001

【準備等】デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 Scene1 〈疑問詞＋to〉を用いた文の形・意味・用法について学習する。</p> <p>★もの・ことの使い方ややり方を伝え合おう。</p> <p>○ Previewを通して、分かったことを伝え合う。</p> <p>○ Scene1本文を読んで、概要を読み取る。</p> <p>○ 〈疑問詞＋to〉を用いた文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 〈疑問詞＋to〉を使って、ペアで会話をする。</p> <p>2 Scene2 〈主語＋動詞＋（人）＋疑問詞＋to〉を用いた文の形・意味・用法について学習する。</p> <p>★自分が教えることができることを伝え合おう。</p> <p>○ 新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○ Scene2本文を読んで、概要を読み取る。</p> <p>○ 〈主語＋動詞＋（人）＋疑問詞＋to〉を用いた文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 〈主語＋動詞＋（人）＋疑問詞＋to〉を使って、ペアで会話をする。</p> <p>3 Mini Activity さまざまな活動を通して、〈疑問詞＋to〉を用いた文についての理解を深める。</p> <p>★身近なもの・ことについて、使い方ややり方を伝え合おう。</p> <p>○ Listenに取り組む。</p> <p>○ Speak &amp; Writeの課題に取り組む。</p> <p>4 Read and Think1(1) 〈主語＋be動詞＋形容詞＋that〉の文の形・意味・用法を学習する。</p> <p>★確信や喜びの気持ちを理解したり伝えたりしよう。</p> <p>○ 〈主語＋be動詞＋形容詞＋that〉を使った文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ 練習問題に取り組む。</p> <p>○ ペアになり、自分がうれしいと感じたことについて伝え合う。</p> <p>5 Read and Think1(2) ユニバーサルデザインについての文章を読み取る。</p> <p>★身の回りのユニバーサルデザインを紹介しよう。</p> <p>○ 本文を読んで、分かったことを話し合う。</p> <p>○ 本文についての問いに答える。</p> <p>○ 本文を参考に身の回りのユニバーサルデザインについて発表する。</p> | <p>・ Previewを視聴し、分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</p> <p>・ 本文の内容理解を通して、〈疑問詞＋to〉の用法についてつかませる。</p> <p>・ Practiceに取り組みせ、生徒の理解度を確認する。</p> <p>・ さまざまな物の写真を提示し、使い方ややり方を考えさせる。</p> <p>【評】 ペアでの会話活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</p> <p>・ 本文の内容理解を通して、不定詞の用法についてつかませる。</p> <p>・ Practiceを通して、理解度を確認する。</p> <p>・ 自分が人に教えることができることをペアで伝え合う。</p> <p>【評】 ペアでの会話活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 必要に応じてメモを取るよう指示する。</p> <p>・ 生徒の理解度に応じて、発話量を増やさせてもよい。</p> <p>【評】 Speak &amp; Writeの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 〈主語＋be動詞＋形容詞＋that〉の文を写真などと同時に複数提示し、ルールに気付かせる。</p> <p>・ Practiceを通して、理解度を確認する。</p> <p>・ I'm happy thatで始まる文をいくつか考えさせる。</p> <p>【評】 〈主語＋be動詞＋形容詞＋that〉についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</p> <p>・ Round1とRound2を通して、本文の内容を詳しく理解させる。</p> <p>・ Round3に取り組ませる。</p> <p>・ ユニバーサルデザインの例をいくつか提示する。</p> <p>【評】 ユニバーサルデザインについて発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

|  |  |
|--|--|
| <p>6 Read and Think2 ある人物の功績について書かれた文章から，ユニバーサルデザインについて考える。</p> <p>★ロナルド・メイスの功績について読み取り，自分の考えを伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文を読んで，分かったことを話し合う。</li> <li>○本文についての問いに答える。</li> </ul> <p>○本文を通して学んだことをまとめる。</p><br><p>7 Unit Activity 単元で学んだことを活用する。</p> <p>★自分がしてみたいことや興味があることについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○してみたいことや興味があることを考える。</li> <li>○してみたいことの実現の方法について相談する。</li> <li>○相談して分かったことをグループで発表する。</li> </ul><br><p>8 Let's Talk3 乗り物での道案内をする。</p> <p>★乗り物での行き方を尋ねたり，答えたりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目的の駅への行き方を考える。</li> </ul> <p>○モデル対話の練習をする。</p> <p>○現在地や行き方を変えて対話する。</p><br><p>9 Let's Listen5 留守番電話を聞き取る。</p> <p>★留守番電話を聞き，内容を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○メッセージを聞き取る。</li> </ul> <p>○電話での対話を聞き取る。</p> <p>○見たい映画やその他にしたいことを伝え合う。</p><br><p>10 単元のまとめ 単元テストに取り組む。</p> <p>★学習事項をまとめ，単元テストに取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元テストに取り組む。</li> <li>○Unitの目標を振り返り，できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</li> <li>・Round1とRound2を通して，本文の内容を詳しく理解・整理させる。</li> <li>・Round3に取り組ませる。</li> <li>・ユニバーサルデザインの活用事例などを提示したり，生徒に調べさせたりしてもよい。</li> </ul> <p>【評】本文から学んだことをまとめる活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・STEP1に取り組ませる。</li> <li>・STEP2に取り組ませる。</li> <li>・STEP3に取り組ませる。</li> <li>・タブレットを使って，調べ学習を行ってもよい。</li> </ul> <p>【評】自分が興味のあることについて発表する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・STEP1に取り組ませる。</li> <li>・シンガポールの写真を提示してもよい。</li> <li>・STEP2に取り組ませる。</li> <li>・Could you tell me how to get toの使い方を確認する。</li> <li>・STEP3に取り組ませる。</li> <li>・モデル文の構成に沿って会話をさせる。</li> </ul> <p>【評】乗り物での道案内をする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・STEP1に取り組ませる。</li> <li>・複数回聞かせ，放送内容の理解を促す。</li> <li>・STEP2に取り組ませる。</li> <li>・複数回聞かせ，大切だと思う情報はメモを取らせる。</li> <li>・STEP3に取り組ませる。</li> </ul> <p>【評】留守番電話について聞き取る活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p><br><p>【評】単元テストを通して，〈疑問詞＋to〉や感情の理由を表すthatの用法についての「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】単元テストを通して，〈疑問詞＋to〉や感情の理由を表すthatを活用させ，「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】  
 授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 6 Research Your Topic

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 身近なトピックについて、比較表現(…er, the …est)などの理解を基に、複数のものを比べて説明することができる。
- (2) 事実や気持ちを伝え合うために、複数のものを比較して、簡単な語句や文を用いて伝えたり相手からの質問に答えたりすることができる。
- (3) 身近なトピックを通して、調査や発表の効果的なやり方について考えるために、発表の内容について評価する文章の概要を捉えたり、程度が同じくらいのことを説明したりしようとする。

## 標準的な展開例

11250203\_001

【準備等】デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 Scene1 比較級・最上級(-er, -est型)について学習する。</p> <p>★比較級・最上級(-er, -est型)を使って複数のものを比べよう。</p> <p>○Previewを通して、分かったことを伝え合う。</p> <p>○本文を読んで、概要を読み取る。</p> <p>○比較級・最上級の形・意味・用法を知る。</p> <p>○比較級・最上級を使った文を作ってペアで伝え合う。</p> | <p>・Previewを視聴し、分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</p> <p>・本文の内容理解を通して、比較級・最上級の用法についてつかませる。</p> <p>・Practiceに取り組み、生徒の理解度を確認する。</p> <p>・タブレットを使って文を作るための情報を集めさせてもよい。</p> <p>【評】比較級・最上級を使った文を伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>         |
| <p>2 Scene2 比較級・最上級(more, most型)について学習する。</p> <p>★比較級・最上級(more, most型)を使って複数のものを比べよう。</p> <p>○新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○本文を読んで、概要を読み取る。</p> <p>○比較級・最上級を用いた文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○対話文を参考にペアで会話をする。</p>            | <p>・電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</p> <p>・本文の内容理解を通して、比較級・最上級の用法についてつかませる。</p> <p>・-er, -est型との違いに触れてもよい。</p> <p>・Practiceを通して、理解度を確認する。</p> <p>・Plus Oneを活用するなど、対話の場面を設定して活動を行う。</p> <p>【評】練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |
| <p>3 Mini Activity さまざまな活動を通して、比較級・最上級についての理解を深める。</p> <p>★比較級・最上級を使ってクイズを出し合おう。</p> <p>○Listenに取り組む。</p> <p>○Speak &amp; Writeの課題に取り組む。</p>  | <p>・必要に応じてメモを取るよう指示する。</p> <p>・生徒の理解度に応じて、発話量を増やさせてもよい。</p> <p>・Tool Boxを活用させる。</p> <p>・タブレットを使って、クイズを作るための情報を集めさせる。</p> <p>【評】Speak &amp; Writeの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>                                     |
| <p>4 Read and Think1(1) goodの比較級・最上級の用法を知る。</p> <p>★自分が一番好きな物について伝え合おう。</p> <p>○goodの比較級・最上級の文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> <p>○自分の一番好きな物についてペアで伝え合う。</p>   | <p>・例文を写真などとともに複数提示し、文型のルールに気づかせる。</p> <p>・Practiceを通して、理解度を確認する。</p> <p>・電子黒板やタブレットを使って、会話のお題を分かりやすく提示する。</p> <p>・時間制限を設定し、対話を続けさせる。</p> <p>【評】練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p>                                       |
| <p>5 Read and Think1(2) アンケート調査の結果報告を読み取る。</p> <p>★ジョシュが行った調査の報告を読んで、その内容について話し合おう。</p> <p>○本文を読んで、分かったことを話し合う。</p> <p>○本文についての問いに答える。</p> <p>○グラフから分かることについて、まとまりのある文章で説明する。</p>                             | <p>・分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</p> <p>・Round1とRound2を通して、本文の内容を詳しく理解させる。</p> <p>・Round3を通して、情報を整理させる。</p> <p>・具体的な数値やその結果に対する自分の感想などを、まとまりのある文章を作らせる。</p>   |



6 Read and Think2 〈as+原級+as〉の文の形・意味・用法を学習し、発表を評価する文章を読み取る。

★ 〈as+原級+as〉の文を使って、人や物を紹介しよう。

○ 〈as+原級+as〉の文の形・意味・用法を知る。

○ 練習問題に取り組む。

○ ペアになり、教師が示した写真などについて、〈as+原級+as〉の文を使って対話をする。

○ 本文を読んで、分かったことを話し合う。

○ 本文についての問いに答える。

○ 本文の内容をまとめる。

7 Unit Activity 目的地への交通手段を比較する。

★ 目的地への交通手段を比較し、行き方を決めよう。

○ 交通手段の情報を整理する。

○ 自分の意見をまとめる。

○ グループで意見を交換する。

8 単元のまとめ 単元テストに取り組む。

★ 学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。

○ 単元テストに取り組む。

○ Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。

【評】 グラフから分かることを説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・ 例文を写真とともに複数提示し、文型のルールに気付かせる。

・ Practiceを通して、理解度を確認する。

・ 対話のトピックを分かりやすく提示する。

・ 時間制限を設定し、対話を続けさせる。

【評】 〈as+原級+as〉の用法についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。

・ 分かったことをペアの生徒に伝えさせる。

・ Round1とRound2を通して、本文の内容を詳しく理解させる。

・ Round3に取り組ませる。

・ Point of Viewに取り組ませてもよい。

【評】 本文の内容をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・ STEP1に取り組ませる。

・ 交通手段の情報を基に、比較級・最上級の文を作らせる。

・ STEP2に取り組ませる。

・ 使用したい交通手段と理由を書かせる。

・ STEP3に取り組ませる。

・ モデル文を活用させ、できる限り英語でやり取りをさせる。

【評】 使いたい交通手段について伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する

【評】 単元テストを通して、比較級・最上級を使った文、〈as+原級+as〉の文の用法についての「知識・技能」を評価する。

【評】 単元テストを通して、比較級・最上級を使った文、〈as+原級+as〉の文を活用させ「思考・判断・表現」を評価する。

#### 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

**単元名** Let's Talk4 買い物

**配当時間** 3時間

- 単元の目標** (1) 好みや要望を伝える表現の意味や働きを理解し、それらを用いて、買い物のやり取りをすることができる。
- (2) 買い物でほしいものを探すことができるように、自分の好みや要望を、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。
- (3) 買い物でほしいものを探すことができるように、自分の好みや要望を、簡単な語句や文を用いて伝えようとする。

**標準的な展開例**

11250204\_001

**【準備等】** デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| 1 Let's Talk 4(1) 買い物に用いる会話表現を知る。<br>★モデル対話を参考に、買い物の会話をしよう。<br>○新出語句の確認・練習を行う。<br><br>○買いたいものについて整理する。<br><br>○モデル対話に沿って会話をする。<br><br><br>○スキットを作る。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</li> <li>STEP1に取り組みせ、自分が買いたいものの情報を整理させる。</li> <li>STEP2に取り組みせる。</li> <li>STEP1で整理した情報を基にペアで会話させる。</li> <li>【評】ペアでの対話活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>STEP3に取り組みせる。</li> <li>タブレットを使って、欲しい商品や買い物の舞台となる店などを調べさせてもよい。</li> <li>【評】スキットを作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |
| 2 Let's Talk 4(2) 買い物の場面の対話を演じる。<br>★買い物の場面のスキットを発表しよう。<br>○スキットの練習をする。<br><br><br>○スキットを発表する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>複数のペアからなるグループでスキットの練習をさせる。</li> <li>タブレットを使って互いに動画撮影をさせてもよい。</li> <li>各ペアのスキットを発表させる。</li> <li>【評】スキットを発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul>  |
| 3 Grammar for Communication5 比較表現について復習する。<br>★比較表現の用法をまとめよう。<br>○比較表現の用法について復習する。<br><br>○ペアになり、ヒントゲームを行う。<br><br><br>○練習問題に取り組む。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>例文を提示し、比較表現のポイントを押さえさせる。</li> <li>教師が提示した絵や写真について、比較表現を用いてヒントを出させる。</li> <li>生徒の実態に応じて、キーワードなどを同時に提示するとよい。</li> <li>【評】ヒントゲームへの取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>Let's Tryに取り組みせる。</li> <li>【評】比較表現についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul>  |

**【 備 考 】**

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Stage Activity2 Research and Presentation

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) Unit6までの学習事項を用いて、クラスで人気のあるものについて調査し、その結果をまとめて、発表することができる。
- (2) クラスで人気のあるものについて調査し、その結果を図やグラフを用いて分かりやすくまとめて発表することができる。
- (3) 聞き手のことを考えて分かりやすく伝えるために、クラスで人気のあるものについて調査し、その結果をまとめて発表しようとする。

## 標準的な展開例

11250205\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 人気があるものについて調査する。</p> <p>★クラスで人気があるものについて調査しよう。</p> <p>○グループで調査するトピックを決める。</p> <p>○調査で使う質問項目を考える。</p> <p>○クラスメートにインタビューをする。</p> <p>○インタビューの結果を集計する。</p> <p>2 調査結果をまとめる。</p> <p>★調査結果を図やグラフを用いてポスターにまとめよう。</p> <p>○インタビューの集計結果を分析する。</p> <p>○グループで発表内容をまとめ、発表用のポスターを作る。</p> <p>○ポスターセッションのやり方を知る。</p> <p>3 調査結果を報告する。</p> <p>★調査の結果をポスターセッション形式で発表しよう。</p> <p>○ポスターセッションのやり方を確認する。</p> <p>○発表を行う。</p> <p>4 学び方コーナー3 意見の述べ方を知る。</p> <p>★話し合いの際に用いられる表現を知ろう。</p> <p>○自分の立場をはっきりと示す表現を知る。</p> <p>○モデル対話を読み取る。</p> <p>○話題を決めて、ペアで話し合う。</p> | <p>・STEP1に取り組ませる。</p> <p>・どのようなトピックが考えられるか、いくつかの例を提示する。</p> <p>・教科書の例を参考に、質問項目を3つ以上作る。</p> <p>【評】調査の準備を行う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・STEP2に取り組ませる。</p> <p>・グループで分担させ、できるだけ多くの生徒から情報を得させる。</p> <p>・グループで調査結果の集計を行わせる。</p> <p>・集計ができたグループから発表の準備に取り組ませる。</p> <p>【評】インタビュー活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・STEP3に取り組ませる。</p> <p>・インタビュー結果の分析から分かったことの要点をまとめさせる。</p> <p>・集計した数値をグラフ化させたり、資料となる写真を集めさせたりするとよい。</p> <p>【評】発表の準備をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ポスターセッション形式での発表の仕方を説明する。</p> <p>・教科書のコラムを参考に、グループ数などに応じた実施方法をとる。</p> <p>・全員が全てのグループの発表を聞くことができるようにする。</p> <p>・生徒の実態に応じて、発表への評価やアドバイスをさせてもよい。</p> <p>【評】アンケート結果の発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・I think so.やI agree.といった賛成の立場を表す表現とI don't think so.やI disagree.といった反対の立場を表す表現を整理させる。</p> <p>・教科書のモデル対話の内容を読ませ、その内容についてペアで伝え合わせる。</p> <p>・写真などととも、話題の例を提示するとよい。</p> <p>【評】ペアで話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【備 考】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Let's Read2 A Glass of Milk

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 場面や登場人物の心情を表す表現の理解を基に、物語の流れに沿って登場人物の気持ちを読み取ることができる。  
 (2) 物語の場面や登場人物の心情の変化を読み取り、気持ちを込めた音読をすることができる。  
 (3) 気持ちを込めて音読することができるように、物語の場面や登場人物の心情の変化を読み取るうとする。

## 標準的な展開例

11250206\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| 1 物語の始まりを読み取る。<br>★登場人物の様子を読み取ろう。<br>○新出語句の確認・練習を行う。<br><br>○第1段落～第2段落を読んで分かったことを話し合う。<br><br>○本文の内容についての問いに答える。<br><br>2 飴売りの少年と女性のやり取りを読み取る。<br>★一杯の牛乳に込められた女性の思いやりを読み取ろう。<br>○新出語句の確認・練習を行う。<br><br>○第4段落～第5段落を読んで分かったことを話し合う。<br><br>○本文の内容についての問いに答える。<br><br>○第1段落から第5段落を通して、少年と女性の気持ちを考える。<br><br>3 物語の結末を読み取る。<br>★少年と女性のその後を読み取ろう。<br>○新出語句の確認・練習を行う。<br><br>○第6段落～第8段落を読んで分かったことを話し合う。<br><br>○本文の内容についての問いに答える。<br><br>4 気持ちを込めて音読する。<br>★A Glass of Milkの英語劇を上演しよう。<br>○グループで役割分担をする。<br><br>○グループで英語劇の練習をする。<br><br>○英語劇の発表をする。<br><br>5 Let's listen6 商品のコマーシャルを聞き取る。<br>★商品のコマーシャルを聞き、商品の特徴を聞き取ろう。<br>○商品のコマーシャルを聞き取る。<br><br>○新商品のコマーシャルを聞き取る。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</li> <li>電子黒板などで場面絵を提示しながら、本文を聞かせる。</li> <li>ペアで本文を読んで分かったことを伝え合わせる。</li> <li>本文の内容を確認する問いをいくつか提示する。</li> </ul> <p>【評】本文の内容についての問いに答える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</li> <li>電子黒板などで場面絵を提示しながら、本文を聞かせる。</li> <li>ペアで本文を読んで分かったことを伝え合わせる。</li> <li>本文の内容を確認する問いをいくつか提示する。</li> <li>ペアで少年と女性のそれぞれの気持ちを考えさせる。</li> <li>飴売りの少年の誠実さや女性の思いやりに共感させる。</li> </ul> <p>【評】ペアで登場人物の気持ちを考える活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</li> <li>電子黒板などで場面絵を提示しながら、本文を聞かせる。</li> <li>ペアで本文を読んで分かったことを伝え合わせる。</li> <li>Round1とRound2の問いに答えさせる。</li> <li>本文を通して読ませてから、問題に取り組ませる。</li> </ul> <p>【評】本文の内容についての問いに答える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナレーター・少年・女性の役割を分担させる</li> <li>物語から読み取った気持ちを、演技に生かさせる。</li> <li>生徒の実態に応じて、紙芝居などの表現方法を採用してもよい。</li> <li>各グループの発表を相互評価させる。</li> <li>評価させる際のポイント(感情表現・発音など)を提示する。</li> </ul> <p>【評】英語劇の発表を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>STEP1に取り組ませる。</li> <li>複数回聞かせ、放送内容の理解を促す。</li> <li>STEP2に取り組ませる。</li> <li>複数回聞かせ、大切だと思う情報はメモを取らせる。</li> </ul> |

○聞き取った情報を基に，買いたい商品を伝え合う。

- ・STEP3に取り組ませる。
  - ・教科書の例文を参考に，ペアで買いたい商品を伝え合わせる。
- 【評】コマーシャルを聞き取り，買いたい商品を伝え合う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 7 World Heritage Sites

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 世界遺産などについて、事実などを整理し、受け身（平叙文）などを用いて理解したり説明したりすることができる。
- (2) あるものを紹介するために、事実などを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
- (3) 行きたい世界遺産を紹介するために、どのような場所であるかの情報を整理し、簡単な語句や文を用いて話したり書いたりしようとする。

## 標準的な展開例

11250301\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 Scene1 受け身の用法について学習する。</p> <p>★受け身の文を使って人や物を説明しよう。</p> <p>○Previewを通して、分かったことを伝え合う。</p> <p>○本文を読んで、概要を読み取る。</p> <p>○受け身の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ペアで物当てゲームをする。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>Previewを視聴し、分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</li> <li>本文の内容理解を通して、受け身の用法についてつかませる。</li> <li>Practiceに取り組みせ、生徒の理解度を確認する。</li> <li>教員が示した物について受け身の文を使ってペアに説明させる。</li> </ul> <p>【評】受け身についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p>   |
| <p>2 Scene2 受け身の疑問文とその答え方について学習する</p> <p>★受け身の疑問文を使って短い会話をしよう。</p> <p>○新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○本文を読んで、概要を読み取る。</p> <p>○受け身の疑問文とその応答の文の形・意味・用法を知る</p> <p>○受け身の疑問文を使ってペアで会話をする。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</li> <li>本文の内容理解を通して、受け身の疑問文とその答え方についてつかませる。</li> <li>Practiceを通して、理解度を確認する。</li> <li>Plus Oneを活用するなど、対話の場面を設定して活動を行う。</li> </ul> <p>【評】受け身の文を使っての対話活動を通して「知識・技能」を評価する。</p>   |
| <p>3 Mini Activity さまざまな活動を通して、受け身の文についての理解を深める。</p> <p>★受け身の文を使って品物当てゲームをしよう。</p> <p>○Listenに取り組む。</p> <p>○Speak &amp; Writeの課題に取り組む。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じてメモを取るよう指示する。</li> <li>生徒の理解度に応じて、発話量を増やさせてもよい。</li> <li>Tool Boxを活用させる。</li> </ul> <p>【評】Speak &amp; Writeの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>  |
| <p>4 Read and Think1 byを用いる受け身の用法を学習する</p> <p>★ベネチアの問題についてさまざまな立場から考え、意見を伝え合おう。</p> <p>○新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○byを用いる受け身の文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○ペアになり、教師が示した写真などについて、受け身の文を使って対話をする。</p> <p>○本文を読んで、分かったことを話し合う。</p> <p>○本文についての問いに答える。</p> <p>○ベネチアの問題についてさまざまな立場から考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</li> <li>Practiceを通して、理解度を確認する。</li> <li>物当てクイズのように行ってもよい。</li> </ul> <p>【評】受け身の用法についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</li> <li>Round1とRound2を通して、本文の内容を詳しく理解させる。</li> <li>Round3に取り組ませる。</li> <li>生徒がどの立場で意見を述べるのかを明確にさせる。</li> </ul> <p>【評】ベネチアの問題について意見を伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
| <p>5 Read and Think2(1) 助動詞を含む受け身の用法を学習する。</p> <p>★日本の世界遺産についての文章を読み取ろう。</p> <p>○新出語句の確認・練習を行う。</p> <p>○助動詞を含む受け身の文の形・意味・用法を知る。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</li> <li>通常の受け身の文との違いを考えさせ、be動詞の原形が使われることに気付かせる。</li> <li>Practiceを通して、理解度を確認する。</li> </ul> <p>【評】助動詞を使った受け身の用法についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p>  |

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文を読んで、分かったことを話し合う。</li> <li>○本文についての問いに答える。</li> <li>○富士山について知っていることを書き出す。</li> </ul> <p>6 Read and Think2(2) 日本の世界遺産について調べてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★富士山について調べたことをプレゼンしよう。</li> <li>○富士山について、より詳しく調べる。</li> <li>○富士山についての紹介文を作る。</li> <li>○プレゼンに使う資料を準備する。</li> <li>○グループ内で富士山についてのプレゼンを発表する。</li> <li>○代表者によるプレゼンを行う。</li> </ul> <p>7 Unit Activity 世界遺産について調べて、分かったことと伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★自分が行きたい世界遺産を紹介しよう。</li> <li>○世界各地の世界遺産について知っていることを話し合う</li> <li>○自分が行きたい世界遺産についての資料を集める。</li> <li>○集めた資料についてペアで伝え合う。</li> <li>○グループ内で自分が行きたい世界遺産を紹介する。</li> </ul> <p>8 単元のまとめ 単元テストに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。</li> <li>○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>る。</li> <li>・分かったことをペアの生徒に伝えさせる。</li> <li>・Round1とRound2を通して、本文の内容を詳しく理解させる。</li> <li>・タブレットなどは使用せず、生徒自身が知っていることを書き出させる。</li> <li>・タブレットを使用させ、富士山について詳しく調べさせる。</li> <li>・タブレットで調べたことや生徒自身が知っていたことを整理させ、紹介文を書かせる。</li> <li>・タブレットを使用させ、富士山についての資料を集めさせたり作らせたりする。</li> <li>・グループはあらかじめ組んでおく。</li> <li>・他の模範となるような発表を抽出する。</li> <li>【評】富士山について調べたことを発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・プレゼンのどのような点が優れているかを学級に紹介する。</li> <li>・世界中の世界遺産についていくつか画像や映像などとともに紹介するとよい。</li> <li>・STEP1に取り組ませる。</li> <li>・電子黒板に世界各地の世界遺産を例示しておくとい。</li> <li>・タブレットを使用させ、資料画像などを準備させる。</li> <li>・STEP2に取り組ませる。</li> <li>・教科書のモデルを参考に会話させる。</li> <li>・STEP3に取り組ませる。</li> <li>・資料を見せながら発表させる。</li> <li>【評】自分が行きたい世界遺産を発表する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】単元テストを通して、受け身の用法についての「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】単元テストを通して、受け身を使った文を活用させ、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |
|--|--|

【 備 考 】  
 授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Let's Talk 5 電話でのやりとり

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 電話での対応の表現や好み・要望を伝える表現を用いて、電話で用件を伝えたり答えたりすることができる。
- (2) 電話で待ち合わせの約束などの相談ができるように、自分の好みや要望を伝えながら、用件を伝えたり答えたりすることができる。
- (3) 行きたい場所とその理由を考えられるように、イベント情報についてのアナウンスを聞いて、要点を捉えようとする。

## 標準的な展開例

11250302\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 Let's Talk5 電話で用件を伝える表現を学習する。</p> <p>★自分の好みや要望を伝えながら電話で用件を伝えよう。</p> <p>○対話の場面について想像する。</p> <p>○モデル対話の練習をする。</p> <p>○電話での会話の場面を想定し、ロールプレイを行う。</p> <p>2 Grammar for Communication6 受け身について学習する</p> <p>★受け身の文の形・意味・用法を復習しよう。</p> <p>○提示された写真について受け身を使って説明する。</p> <p>○練習問題に取り組む。</p> <p>3 Let's Listen7 店内のアナウンスを聞き取る。</p> <p>★アナウンスからイベントなどの情報を聞き取ろう。</p> <p>○デパートやショッピングセンターの様子について想像する。</p> <p>○ショッピングセンターでのアナウンスを聞き取る。</p> <p>○別のアナウンスを聞き取る。</p> <p>○聞き取った情報を基に自分の考えを伝える。</p> | <p>・STEP1に取り組ませる。</p> <p>・メグや海斗になったつもりで、対話の続きを考えさせる。</p> <p>・STEP2に取り組ませる。</p> <p>・重要な表現を確認し、どのような口調で話すべきかを考えさせる。</p> <p>・ペアでSTEP3に取り組ませる。</p> <p>・Tool Boxを活用させる。</p> <p>【評】電話での会話の場面を想定した対話活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・物当てクイズのように行ってもよい。</p> <p>・受け身の使い方や形について確認する。</p> <p>【評】受け身を使って提示された写真についてを説明する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・Let's Tryに取り組ませる。</p> <p>【評】受け身についての練習問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ペアで考えたことを話し合わせる。</p> <p>・STEP1に取り組ませる。</p> <p>・複数回聞かせ、放送内容の理解を促す。</p> <p>・STEP2に取り組ませる。</p> <p>・複数回聞かせ、大切だと思う情報はメモを取らせる。</p> <p>・STEP3に取り組ませる。</p> <p>・生徒の実態に応じて、対話のモデルを提示してもよい。</p> <p>【評】ショッピングセンターでのアナウンスを聞き取り、情報を伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。



**単元名** Stage Activity3 My Favorite Place in Our Town

**配当時間** 4時間

- 単元の目標** (1) Unit7までの学習事項を用いて、自分の町のおすすめの場所について、その場所の特徴やよい点を整理して、分かりやすくまとめることができる。
- (2) ALTの先生に町のおすすめの場所を紹介するために、その場所の特徴やよい点を整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
- (3) 自分の町について詳しく調べたり、お気に入りの場所の特徴やよい点を相手に伝わりやすいように発表しようとしたりする。

**標準的な展開例**

11250303\_001

**【準備等】** デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| 1 自分の町のよいところを見つける。<br><b>★</b> 町のおすすめの場所を考えよう。<br>○ALTの先生の話聞く。<br><br>○町のおすすめの場所をメモに書き出す。<br>○おすすめ場所についての情報を整理する。<br><br>○グループで自分のおすすめの場所を伝え合う。<br><br>2 おすすめの場所の紹介の準備をする。<br><b>★</b> 町紹介のマップを作ろう。<br>○おすすめ場所の所在地を確認する。<br>○おすすめ場所についての「情報カード」を作る。<br><br>3 町紹介の発表の練習をする。<br><b>★</b> 町の魅力を分かりやすくまとめよう。<br>○「情報カード」をグループ内で読み合う。<br><br>○町紹介の発表の練習をする。<br><br>4 ALTの先生に自分の町を紹介する。<br><b>★</b> 町のおすすめの場所をALTの先生に紹介しよう。<br>○ALTの先生に町のおすすめの場所を紹介する。<br><br>○活動を振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し聞かせ、聞こえたキーワードを書き出させる。</li> <li>・タブレットを使って調べさせてもよい。</li> <li>・その場所についての情報をできるだけたくさん書かせる。</li> </ul> <p><b>【評】</b> 町のおすすめの場所についての情報を整理する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書のモデル対話を参考に、英語で会話させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校区の地図などを電子黒板に提示する。</li> <li>・タブレットを使って、その場所に関する写真などを集めさせる。</li> <li>・おすすめ場所の情報を5文程度でまとめさせる。</li> </ul> <p><b>【評】</b> 「情報カード」を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班員のカードを参考に、自分のカードを修正させる。</li> <li>・タブレットでスライドを作るなど、分かりやすく伝えるための工夫をさせる。</li> </ul> <p><b>【評】</b> 町紹介の発表の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表後はALTの先生からのいくつかの質問に答えさせる。</li> </ul> <p><b>【評】</b> 町のおすすめの場所を紹介する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末のCAN-DOリストを活用し、本単元の学習状況を振り返らせる。</li> </ul> |

**【 備 考 】**

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

**単元名** Let's Read 3 Pictures and Our Beautiful Planet

**配当時間** 5時間

**単元の目標** (1) 時系列を表す文章構成や語句の理解を基に、ある人物の生涯について書かれた文章の内容を読み取ることができる。  
 (2) 文章の大きな流れを時系列に沿ってまとめたり、そこからわかる環境問題について考えを伝え合ったりするために、ある人物の生涯について書かれた文章の概要を捉えることができる。  
 (3) 人物の伝記を時系列に沿って読み、そこから学んだ環境問題について考えを伝え合ったり、今後の自分の行動について考えようとしたりする。

**標準的な展開例**

11250304\_001

**【準備等】** デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| 1 星野道夫とアラスカの関係の始まりについて読み取る。<br>★道夫がアラスカに渡ったきっかけについて読み取ろう。<br>○アラスカについて知っていることを話し合う。<br><br>○新出語句の確認・練習を行う。<br><br>○第1段落を読んで分かったことを伝え合う。<br><br>○本文の内容についての問いに答える。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループでPre-readingの問いについて意見を交換させる。</li> <li>・電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</li> <li>・電子黒板などで場面絵を提示しながら、本文を聞かせる。</li> <li>・ペアで本文を読んで分かったことを伝え合わせる。</li> <li>・In-readingの問いに答えさせる。</li> </ul> <b>【評】</b> 第1段落を読み取り、問題に答える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 |
| 2 道夫のアラスカでの生活について読み取る。<br>★道夫がアラスカでの生活で学んだことを読み取ろう。<br>○新出語句の確認・練習を行う。<br><br>○第2段落を読んで分かったことを話し合う。<br><br>○本文の内容についての問いに答える。                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</li> <li>・電子黒板などで場面絵を提示しながら、本文を聞かせる。</li> <li>・ペアで本文を読んで分かったことを伝え合わせる。</li> <li>・In-readingの問いに答えさせる。</li> </ul> <b>【評】</b> 星野道夫のアラスカでの生活について読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。  |
| 3 道夫の写真家としての歩みを読み取る。<br>★道夫がアラスカの写真を通して伝えたかったことを読み取ろう。<br>○新出語句の確認・練習を行う。<br><br>○第3段落～第4段落を読んで分かったことを話し合う。<br><br>○本文の内容についての問いに答える。                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</li> <li>・電子黒板などで場面絵を提示しながら、本文を聞かせる。</li> <li>・ペアで本文を読んで分かったことを伝え合わせる。</li> <li>・In-readingの問いに答えさせる。</li> </ul> <b>【評】</b> 星野道夫の写真家としての歩みについて読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。   |
| 4 地球の環境問題について読み取る。<br>★アラスカで起きている環境問題について読み取ろう。<br>○新出語句の確認・練習を行う。<br><br>○第5段落～第6段落を読んで分かったことを話し合う。<br><br>○本文の内容についての問いに答える。                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板やタブレットを用いて、テンポよく行う。</li> <li>・電子黒板などで場面絵を提示しながら、本文を聞かせる。</li> <li>・ペアで本文を読んで分かったことを伝え合わせる。</li> <li>・In-readingの問いに答えさせる。</li> </ul> <b>【評】</b> 環境問題について読み取る活動を通して「知識・技能」を評価する。  |
| 5 本文から学んだことをまとめる。<br>★地球の環境問題について、自分の考えを伝え合おう。<br>○本文の内容を振り返る。<br><br>○「星野道夫の人生」の中で最も印象に残った文をペアで伝え合う。<br><br>○ペアで環境問題について話し合う。                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Post-reading 1に取り組ませる。</li> <li>・本文の内容を前半と後半に分けさせる。</li> <li>・Post-reading 2に取り組ませる。</li> <li>・選んだ文に下線を引かせる。</li> <li>・その文を選んだ理由も併せてペアに伝えさせる。</li> </ul> <b>【評】</b> 本文の内容を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br>・Post-reading 3に取り組ませる。  |

○環境問題の解決のために自分ができることを伝え合う。

- ・教科書の資料を見て，分かることペアで話し合わせる。
  - ・グループをあらかじめ決めておく。
  - ・グループ内でそれぞれの考えを英語で発表させる。
  - ・タブレットを使って，各々の意見を裏付けるような資料を集めさせてもよい。
- 【評】環境問題について考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

**単元名** Unit 0 Three Interesting Facts about Languages

**配当時間** 3時間

- 単元の目標** (1) 今までに学習した文法の理解をもとに，あるテーマについて書かれた文章の内容を読み取ったり，行ってみたい国とそこで話されている言語について伝え合ったり書いたりする技能を身に付けることができる。
- (2) 行ってみたい国とそこで話されている言語について伝え合ったり書いたりするために，世界の言語について書かれた文章の情報を読み取ることができる。
- (3) 行ってみたい国とそこで話されている言語について伝え合ったり書いたりするために，世界の言語について書かれた文章の情報を読み取ろうとする。

**標準的な展開例**

12250101\_001

**【準備等】** デジタル教科書，電子黒板，タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 3年生の英語学習について説明を聞く。</p> <p>★英語学習の進め方を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の話聞く。</li> <li>○これからの英語学習への取組方を知る。</li> </ul> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○オーラルイントロダクションを行う。</p> <p>○新出語句を確認する。</p> <p>○音読練習をする。</p> <p>2 レポートの準備をする。</p> <p>★レポート作成の手順を確認し，レポートを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文の内容を復習する。</li> <li>○レポート作成の手順を確認し，興味のある国について紹介文を書く。</li> </ul> <p>3 レポート発表をする。 学び方コーナー①を学習する。</p> <p>★まとめたことについて発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアやグループなどでレポートを読み合う。</li> <li>○レポートの内容について質問する。</li> </ul> <p>○振り返り活動を行う。</p> <p>○学び方コーナー1で語いや表現の増やし方を確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の英語を用いて簡単な自己紹介をする。</li> <li>・教科書，ノート等の確認をしたり，授業の進め方や課題への取組方，評価の仕方等を伝えたりする。</li> <li>・分かったことをペアで伝え合わせる。</li> </ul> <p>【評】 本文を聞いて，内容について伝え合う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板やタブレットを用いて，テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで，文の構造や内容を理解させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Mini Activityに取り組みさせることでレポート作成に向けての準備を行わせる。</li> <li>・必要に応じて，タブレットを利用して調べさせる。</li> </ul> <p>【評】 紹介文を書く活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 紹介文を書く活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が例を示すことで，発表及び発表後の質疑応答の手順を確認する。</li> <li>・互いに質問をさせ，その質問に対して答えさせる。</li> </ul> <p>【評】 発表活動と質疑応答を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートへ記入させ，取組の振り返りをさせる。</li> </ul> <p>【評】 振り返り活動や語いや表現の増やし方への取組を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

**【 備 考 】**

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 1 Sports for Everyone

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 現在完了形や「make＋(代)名詞＋形容詞」の文, 「SV00 (that節)」の文の形・意味・用法を理解することができる。そしてその理解をもとに, 相手の伝えたいことを理解したり, 自分の伝えたいことを表現したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 簡単な語句や文を用いて, 自分のことを伝えたり, 相手のことを知るために尋ねたり, 相手からの質問に答えたりすることができる。また, 教科書本文の概要を捉えたり, 簡単な語句や文を用いて話したりすることができる。
- (3) 現在完了形や「make＋(代)名詞＋形容詞」の文, 「SV00 (that節)」の文を用いて, 積極的に自分の経験や自分の気持ち, そして自分が言われることなどについて話したり, 尋ねたりしようとする。また, 障がい者スポーツについて書かれた文章の概要を捉えたり, 人の気持ちの変化について簡単な語句や文を用いて伝えたりしようとする。

## 標準的な展開例

12250102\_001

【準備等】 デジタル教科書, 電子黒板, タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 Scene1 現在完了形（経験用法）の肯定文について学習する。</p> <p>★現在完了形を使って, 自分の経験を話そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Unit1の表紙の絵について質疑応答をする。</li> <li>○Previewを聞き, 分かったことをペアで伝え合う。</li> <li>○現在完了形（経験用法）の形・意味・用法を知る。</li> <li>○基本表現の学習をする。</li> <li>○Practiceに取り組む。</li> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> </ul> <p>2 Scene2 現在完了形の疑問文と答え方を学習する。</p> <p>★経験用法の疑問文を使って, 尋ねたり答えたりしてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○現在完了形（経験用法）の疑問文とその答え方の形・意味・用法を知る。</li> <li>○基本表現の学習をする。</li> <li>○Practiceに取り組む。</li> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> </ul> <p>3 Mini Activity 現在完了形の疑問文と答え方について復習する。</p> <p>★現在完了形の経験用法をたくさん使って, 相手に尋ねたり, 答えたりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Mini Activityに取り組む。</li> <li>○Listenに取り組む。</li> <li>○Speak &amp; Writeに取り組む。</li> <li>○振り返り活動を行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後学習する内容について関心をもたせる。</li> <li>・ペアで伝え合うことで, 現在完了形（経験用法）の用法に気付かせる。</li> <li>・視覚教材を用いて「経験の有無」を導入することで生徒の関心を高める。</li> <li>・回数を表す表現や否定文で使うneverを確認する。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> <li>【評】現在完了形を用いて, ペアで自分のことを伝え合う活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</li> <li>・視覚教材を用いて, 話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて, テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで, 文の構造や内容を理解させる。</li> <li>・視覚教材を用いて, 「～したことがありますか」の疑問文と答え方を導入することで, 疑問文の構造や答え方を理解させる。</li> <li>・疑問文で使うeverを確認する。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> <li>【評】現在完了形を用いて, ペアで経験を尋ねたり, 答えたりする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】現在完了形を用いて, ペアで経験を尋ねたり, 答えたりする活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・視覚教材を用いて, 話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて, テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで, 文の構造や内容を理解させる。</li> <li>・現在完了形の用法を事前に復習した後に活動をさせる。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> <li>【評】現在完了形を用いて, ペアで経験を尋ねたり, 答えたりする活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ワークシートへ記入させ, 取組の振り返りをさせる。</li> <li>【評】振り返り活動への取組を通して, 「主体</li> </ul> |

- 4 Read and Think1 「make+ (代)名詞+形容詞」の用法を学習し、車いすテニスの選手に関する説明文の内容を読み取る。  
★自分がうれしくなることやものを友達に伝えよう。  
○「make+ (代)名詞+形容詞」の形・意味・用法を知る。
- 基本表現の学習をする。
- Practiceに取り組む。  
○自分がうれしくなることやものをペアで伝え合う活動に取り組む。
- 本文の学習をする。  
○オーラルイントロダクションを行う。
- 新出語句を確認する。
- 音読練習をする。
- Roundに取り組む。
- 5 Read and Think2 (1) 「SV00 (that節)」の用法を学習する。  
★自分がよく人に言われることを友達に伝えよう。  
○「SV00 (that節)」の形・意味・用法を知る。
- 基本表現の学習をする。
- Practiceに取り組む。  
○自分がよく人に言われることをペアで伝え合う活動に取り組む。
- 6 Read and Think2 (2) 障がい者スポーツを支える技術の進歩について書かれた記事を読んで、その内容を読み取る。  
★障がい者スポーツを支える技術の進歩を読み取ろう。  
○本文の学習をする。  
○オーラルイントロダクションを行う。
- 新出語句を確認する。
- 音読練習をする。
- Round / Point of Viewに取り組む。
- 7 Unit Activity 外国人のメッセージを聞いて、彼らをどこへ案内するかを考え、伝える。  
★相手にぴったりのおもてなしプランを考えよう。  
○STEP1に取り組む。
- STEP2に取り組む。
- STEP3に取り組む。

的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・視覚教材を用いて、教師自身がうれしくなったり、悲しくなったりする事例を紹介し、「make+ (代)名詞+形容詞」の意味を推測させる。
- ・基本練習を基に、形容詞や代名詞の部分を変えて練習する。
- ・基本表現の定着を図る。
- ・ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。
- 【評】「make+ (代)名詞+形容詞」を用いて、ペアで自分のことを伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。
- ・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。
- ・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- ・ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。
- 【評】本文やRoundでの活動を通じて、「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】本文やRoundでの活動を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・事例を掲示し、「SV00 (that節)」の意味を推測させ、文の構成を理解させる。
- ・基本練習を基に、動詞の部分を変えて練習する。
- ・基本表現の定着を図る。
- ・ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。
- 【評】「SV00 (that節)」を用いて、ペアで自分のことを伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。
- ・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。
- ・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- ・ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。
- 【評】本文や各Round, Point of Viewでの活動を通じて「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】本文や各Round, Point of Viewでの活動を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- ・ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。

- 8 Let's Write1 英語での手紙の書き方を学習する。  
★英語での手紙の書き方や表現を知ろう。  
○STEP1でモデル文の内容を確認し、構成を理解する。  
○新出語句を確認する。
- 音読練習をする。
- STEP2でモデル文に使われている表現を確認する。
- STEP3でファンレターを書く。  
○Tool Boxでファンレターに使える表現を知る。
- ペアで、互いに作ったファンレターを読み合う。
- 振り返り活動を行う。
- 9 Let's Listen1 必要な情報をまとめて自分の意見を書く方法を学習する。  
★ディスカッションをして京都での訪問先を考えよう。  
○STEP1に取り組む。
- STEP2に取り組む。
- ペアで、互いの意見を発表し合う。
- 振り返り活動を行う。
- 10 単元のまとめ 単元テストに取り組む。  
★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。  
○単元テストに取り組む。  
○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。

【評】プランを考えて発表したり、メールを書いたりする活動を通じて、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】プランを考えて発表したり、メールを書いたりする活動を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。
- ・手紙の構成を確認しながら、内容をつかませる。
- ・気持ちを強調する表現やものを主語にした文に気付かせる。

- ・手紙を受け取る相手に合わせて、手紙の内容を考えることを伝える。

【評】ファンレターを書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【評】ファンレターを書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・手紙の内容や表現の工夫について、生徒同士で相互評価させる。
- ・ワークシートへ記入させ、取組の振り返りをさせる。

【評】振り返り活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・聞き取りのポイントを確認して、活動に取り組ませる。

【評】ディスカッションを聞く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・4人の意見を基に自分の意見を書かせる。
- 【評】意見を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。
- ・ワークシートへ記入させ、取組の振り返りをさせる。

【評】振り返り活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・単元テストを通して、現在完了形や「make+(代)名詞+形容詞」の文、「SV00 (that節)」の文の用法についての「知識・技能」を評価する。

- ・単元テストを通して、現在完了形や「make+(代)名詞+形容詞」の文、「SV00 (that節)」の文を活用させ、「思考・判断・表現」を評価する。

#### 【備考】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 2 Haiku in English

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 現在完了形の形・意味・用法を理解することができる。そしてその理解を基に、相手の伝えたいことを理解したり、自分の伝えたいことを表現したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 簡単な語句や文を用いて、自分のことを伝えたり、相手のことを知るために尋ねたり、相手からの質問に答えたりすることができる。また、教科書本文の概要を捉えたり、簡単な語句や文を用いて話したりすることができる。
- (3) 現在完了形を用いて、積極的に自分の現在までに完了した動作や現在まで続けていることなどについて話したり、尋ねたりしようとする。また、日本の伝統文化である俳句や海外の俳句について書かれた文章の概要を捉えたり、簡単な語句や文を用いて伝えたりしようとする。

## 標準的な展開例

12250103\_001

【準備等】 デジタル教科書, 電子黒板, タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 Scene1 現在完了形（完了用法）について学習する。</p> <p>★すでにし終えていることや、まだしていないことを表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Unit2の表紙の絵について質疑応答をする。</li> <li>○Previewを聞き、分かったことをペアで伝え合う。</li> <li>○コラムを読む。</li> <li>○現在完了形（完了用法）の形・意味・用法を知る。</li> <li>○基本表現の学習をする。</li> <li>○Practiceに取り組む。</li> <li>○モデル文を使って、ペアで質疑応答をする。</li> <li>○自分が今終えていることや終えていないことを書く。</li> <li>○ペアで発表し合う。</li> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> </ul> <p>2 Scene2 現在完了形（継続用法）について学習する。</p> <p>★現在完了形を使って、これまでずっと続いている状態について英語で表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○現在完了形（継続用法）の形・意味・用法を知る。</li> <li>○基本表現の学習をする。</li> <li>○Practiceに取り組む。</li> <li>○モデル文を使って、質疑応答をする。</li> <li>○ずっとほしいものやしたいことを書く。</li> <li>○ペアで発表し合う。</li> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> </ul> <p>3 Mini Activity 現在完了形の疑問文と答え方について学習する。</p> <p>★現在完了形の完了用法や継続用法を使って、今の状況や続いている状態について相手に尋ねたり、相手からの質問に答えたりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Mini Activityに取り組む。</li> <li>○聞き取り問題に取り組む。</li> <li>○モデル文を使って、ペアで対話活動を行う。</li> <li>○インタビューをして、相手がどの人物になっているかを</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後学習する内容について関心をもたせる。</li> <li>・ペアで伝え合うことで内容を理解し、現在完了形の用法に気付かせる。</li> <li>・日本語のまま英語になった日本文化を確認する。</li> <li>・視覚教材を用いて、時間の流れと動作の終了を提示し、完了用法の導入をする。</li> <li>・完了用法でよく使われるjust, already, yetを確認する。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> </ul> <p>【評】 現在完了形を用いて、互いに自分のことを伝え合う活動や相手に質問したり、答えたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚教材を用いて、時間の流れと動作の継続している場面を提示し、継続用法の導入をする。</li> <li>・継続用法でよく使われるfor, since, how longを確認する。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> </ul> <p>【評】 現在完了形を用いて、互いに自分のことを伝え合う活動や相手に質問したり、答えたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在完了形の用法を事前に復習した後に活動をさせる。</li> </ul> |



- 当てる。
- 質問を変え、質疑応答をする。
- ペアの答えをまとめる。
- ペアの情報を発表する。

- 振り返り活動を行う。

- 4 Read and Think1(1) 現在完了進行形について学習する
- ★ 現在完了進行形を使って、これまでずっと続けている動作について英語で表現しよう。
  - 現在完了進行形の形・意味・用法を知る。

- 基本表現の学習をする。

- Practiceに取り組む。
- モデル文を使って、現在完了進行形の文を作る。
- 「～時からずっと英語を勉強しています」という文を英語で書く。

- 5 Read and Think1(2) 俳句を英語で紹介した文を読んでその内容を読み取る。
- ★ 日本人が俳句を書き始めた起源や俳句の書き方を読み取ろう。
  - 本文の学習をする。
  - オーラルイントロダクションを行う。

- 新出語句を確認する。

- 音読練習をする。

- Roundに取り組む。

- コラムを読む。

- 6 Read and Think2(1) 英語の俳句について書かれた記事を読んで、その内容を読み取る。
- ★ 英語で俳句を書く方法を読み取ろう。
  - 本文の学習をする。
  - オーラルイントロダクションを行う。

- 新出語句を確認する。

- 音読練習をする。

- Round / Point of Viewに取り組む。

- 7 Read and Think2(2) 英語の俳句について書かれた記事を読んで、実際に英語で俳句を書く。
- ★ 英語で俳句を書こう。
  - 本文の内容を復習する。
  - 俳句を英語で書く。

- ペアやグループで発表する。

- 感想を伝え合う。

【評】 現在完了形を用いて、今の状況や続いている状態について相手に尋ねたり、相手からの質問に答えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。

【評】 振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 時間の経過と動作を表す2つの場面を視覚教材で見せることで意味と文の構成に気付かせる。
- ・ 継続用法との違いを考えさせることで、学習事項を定着させる。

- ・ 基本表現の定着を図る。

- ・ ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。

【評】 現在完了形を用いて、互いに自分のことを伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。
- ・ 電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。
- ・ 何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。
- ・ ペアで確認し合うことで、気付きを促す。
- ・ ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

【評】 本文やRoundでの活動を通じて、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】 本文やRoundでの活動を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 英語の歌詞の特徴を確認する。

- ・ 視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。
- ・ 電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。
- ・ 何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。
- ・ ペアで確認し合うことで、気付きを促す。
- ・ ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

【評】 本文や各Round, Point of Viewでの活動を通じて「思考・判断・表現」を評価する。

【評】 本文や各Round, Point of Viewでの活動を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 英語で俳句を書く方法を確認する。
- ・ 事前に教師が作成した俳句を紹介することで書くことへの関心を高める。
- ・ 簡単な単語や表現を使うことで、聞き手が理解しやすい俳句を作成することを確認する。
- ・ 英語で感想を書かせることで表現する力を高めさせる。

【評】 俳句を書く活動を通じて「知識・技能」

|  |  |
|--|--|
| <p>○振り返り活動を行う。</p> <p>8 Unit Activity お互いの知らない一面を知るために、自分や相手が好きなことや取り組んできたことについて、尋ね合って答えたり、伝えたりする。<br/>★クラスメイトの意外な！？○○歴を知ろう。</p> <p>○STEP1に取り組む。</p> <p>○STEP2に取り組む。</p> <p>○STEP3に取り組む。<br/>○友達の○○歴を書く。</p> <p>○書いた文を発表する。</p> <p>○単元テストに取り組む。<br/>○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</p> | <p>を評価する。</p> <p>【評】俳句を書く活動を通じて、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。</p> <p>【評】振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・例として教師が自分のことを紹介することで生徒に活動への関心をもたせる。</p> <p>・ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。</p> <p>【評】尋ね合ったり答えたりする活動を通じて「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・書いた文をペアで確認し合うことで、学習事項への理解を深める。</p> <p>【評】書く活動を通じて、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・全員参加になるように、発表された文について別の生徒にコメントをさせる。</p> <p>【評】単元テストを通して、現在完了形（完了用法・継続用法）と現在完了進行形の用法についての「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】単元テストを通して、現在完了形（完了用法・継続用法）と現在完了進行形を活用させ、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】  
授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Let's Talk 1 はじめての出会い

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 歓迎の気持ちを伝える表現の意味や働きを理解し、初対面の場面で、歓迎の気持ちを伝える表現を用いて言葉をかけたり、相手に質問をしたり答えたりする技能を身に付けることができる。
- (2) 初対面の場面で歓迎の気持ちを伝えられるように、相手の状況に配慮しながら言葉をかけたり相手に質問したり答えたりすることができる。
- (3) 初対面の場面で歓迎の気持ちを伝えられるように、相手の状況に配慮しながら言葉をかけたり相手に質問したり答えたりしようとする。

## 標準的な展開例

12250104\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 初対面の人を歓迎する表現を学習する。</p> <p>★初対面の人を歓迎する表現を使って気持ちを伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○STEP1に取り組む。</li> <li>○簡単なスキットを作る。</li> <li>○発表する。</li> <li>○STEP2に取り組む。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> </ul> <p>○新出語句を確認する。</p> <p>○音読練習をする。</p> <p>○STEP3に取り組む。</p> <p>○場面にあった表現を選ぶ。</p> <p>○Tool Boxで歓迎する表現や質問する表現を知る。</p> <p>○スキットを作る。</p> <p>○発表する。</p> <p>○振り返り活動を行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキットを作ることで生徒の興味を高める。</li> <li>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> <li>・声の大きさを変えることで、気持ちが入っている表現を理解させる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>・聞く人が理解しやすいように既習の表現やジェスチャーを使うことを確認する。</li> <li>【評】スキット作りの活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・発表を通じて、場面に応じた歓迎の言葉を理解させる。</li> <li>【評】発表活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。</li> <li>【評】振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |
| <p>2 Grammar for Communication1 現在完了形と現在完了進行形を復習する。</p> <p>★現在完了形と現在完了進行形を復習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Useに取り組む。</li> </ul> <p>○Formに取り組む。</p> <p>○Let's Try!に取り組む。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在完了形の3つの用法とそれぞれの用法で使われる語句を確認させる。</li> <li>・疑問文とその答え方、否定文の作り方を確認させる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>【評】問題への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul>   |
| <p>3 現在完了形のまとめ まとめテストに取り組む。</p> <p>★学習事項をまとめ、まとめテストに取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○まとめテストに取り組む。</li> <li>○現在完了形の学習を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>【評】まとめテストを通して現在完了形と現在完了進行形の用法についての「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】まとめテストを通して、現在完了形と現在完了進行形の用法についての「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul>   |
| <p>4 Learning SCIENCE in English 食物連鎖について学習する。</p> <p>★食物連鎖について英語で表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Task1に取り組む。</li> <li>○食べ物について考える。</li> </ul> <p>○動物と食べ物について考える。</p> <p>○Task2に取り組む。</p> <p>○食物連鎖表の空欄をうめる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が映像を使って例を示すことで、生徒の関心を高めたり、取組方を伝えたりする。</li> <li>・取組を通じて食物連鎖の関係を理解させる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> </ul>  |

- 食物連鎖について英語で表現する。
- 発表する。
- 教科書以外の食物連鎖を考える。
- 発表する。

#### 5 Learning SCIENCE in English 生態系に起こっている問題について学習する。

- ★生態系に起こっている問題を読み取ろう。
- Challengeに取り組む。
- 記事を読む。
- 問題を解く。
- 問題解決のための考えを書く。
- グループ発表する。

- 振り返り活動を行う。

#### 6 Let's Listen2 講演を聞く活動に取り組む。

- ★講演の内容を聞き取ろう。
- Before You Listenに取り組む。
- STEP1に取り組む。
- STEP2に取り組む。
- STEP3に取り組む。
- 話し手がいちばん伝えたいことを書く。
- グループで発表する。
- 振り返り活動を行う。

- ・教師が例文を示すことで、受身形の復習につなげる。
- ・ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。
- ・教師が映像でいくつか動物を見せることで、視野を広げさせる。
- 【評】食物連鎖について書いたり、発表したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- ・発表後に英語でリアクションをさせることでさまざまな視点から問題を考えさせる。
- 【評】生態系の問題について意見を書いたり、発表して意見交換したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。
- 【評】振り返り活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・他の例も映像を使って示すことで、日本の食についての現状を理解させる。
- ・聞き取りのポイントを確認して、活動に取り組ませる。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- ・聞き取りのポイントを確認して、活動に取り組ませる。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- 【評】講演を聞く活動を通して「知識・技能」を評価する。
- 【評】講演を聞く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・聞き取りのポイントを確認して、活動に取り組ませる。
- ・発表者の意見について、英語で感想を言わせる。
- ・ワークシートへ記入させ、取組の振り返りをさせる。
- 【評】振り返り活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 3 Animals on the Red List

配当時間 11時間

- 単元の目標 (1) It is … for + (人など) + to + 動詞の原形, want + (人など) + to + 動詞の原形, let [ help ] + (人など) + 動詞の原形の形・意味・用法を理解することができる。そしてその理解を基に、相手の伝えたいことを理解したり、自分の伝えたいことを表現したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 簡単な語句や文を用いて、自分のことを伝えたり、相手のことを知るために尋ねたり、相手からの質問に答えたりすることができる。また、教科書本文の概要を捉えたり、簡単な語句や文を用いて話したりすることができる。
- (3) It is … for + (人など) + to + 動詞の原形, want + (人など) + to + 動詞の原形, let [ help ] + (人など) + 動詞の原形を用いて、自分の考えを書いたり、話したり、伝えたりしようとする。また、絶滅のおそれのある動物について書かれた文章の概要を捉えたり、簡単な語句や文を用いて伝えたりしようとする。

## 標準的な展開例

12250105\_001

【準備等】デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 Scene1 It is … for + (人など) + to + 動詞の原形について学習する。</p> <p>★自分にとって大切なことやおもしろいことを英語で表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Unit3の表紙の絵について質疑応答をする。</li> <li>○Previewを聞き、分かったことをペアで伝え合う。</li> <li>○コラムを読む。</li> <li>○It is … for + (人など) + to + 動詞の原形の形・意味・用法を知る。</li> <li>○基本表現の学習をする。</li> <li>○Practiceに取り組む。</li> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> </ul> <p>2 Scene2 want + (人など) + to + 動詞の原形について学習する。</p> <p>★自分が相手にしてほしいことを英語で表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○want + (人など) + to + 動詞の原形の形・意味・用法を知る。</li> <li>○基本表現の学習をする。</li> <li>○Practiceに取り組む。</li> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> </ul> <p>3 Mini Activity Scene1とScene2で学習した文法を使った活動に取り組む。</p> <p>★人にしてもらいたいことを伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Mini Activityに取り組む。</li> <li>○Listenに取り組む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後学習する内容について関心をもたせる。</li> <li>・ペアで伝え合うことでIt is … for + (人など) + to + 動詞の原形の用法やwant + (人など) + to + 動詞の原形の形・用法・意味に気付かせる。</li> <li>・世界中で既に絶滅した動物や絶滅の危機にある動物がいることを確認する。</li> <li>・視覚教材を映しながら“It is interesting for me to study English.”のような文を繰り返し聞かせて導入をする。</li> <li>・何度も読むことで語順を理解させる。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> <li>【評】It is … for + (人など) + to + 動詞の原形を用いて、互いに自分のことを伝え合う活動や相手に質問したり、答えたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> <li>・視覚教材を映しながら、“I want the Dragons to win the game.”のような文を繰り返し聞かせて導入をする。</li> <li>・人の部分に代名詞を置くときは目的格がくることを確認する。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> <li>【評】want + (人など) + to + 動詞の原形を用いて、互いに自分のことを伝え合う活動や相手に質問したり、答えたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> <li>・Scene1とScene2で学習した内容を事前に復習した後に活動をさせる。</li> <li>・聞き取りのポイントを押さえ取り組ませる。</li> </ul> |

○ Speak & Writeに取り組む。

○ 作成した英文を発表する。

○ 振り返り活動を行う。

4 Read and Think1(1) let [ help ] + (人など) + 動詞の原形について学習する。

★自分が相手の何をするを手伝うことができるか英語で表現しよう。

○ let [ help ] + (人など) + 動詞の原形の形・意味・用法を知る。

○ 基本表現の学習をする。

○ Practiceに取り組む。

5 Read and Think1(2) 日本のトキについて書かれた記事を読んで、その内容を読み取る。

★トキと人間との関りと絶滅した理由を読み取ろう。

○ 本文の学習をする。

○ オーラルイントロダクションを行う。

○ 新出語句を確認する。

○ 音読練習をする。

○ Roundに取り組む。

6 Read and Think2(1) コンゴ民主共和国のゴリラについて書かれた文を読んで、その内容を読み取る。

★ゴリラが絶滅の危機に瀕している理由を読み取ろう。

○ 本文の学習をする。

○ オーラルイントロダクションを行う。

○ 新出語句を確認する。

○ 音読練習をする。

○ Roundに取り組む。

7 Read and Think2(2) コンゴ民主共和国のゴリラについて書かれた文を読んで、実際にできることを英語で書く。

★絶滅に瀕した動物のために、何ができるかを英語で書こう。

○ 本文の内容を復習する。

○ 自分の意見を英語で書く。

・ 質問を作る際はTool Boxを参考にさせる。

【評】学習した文法事項を用いて、相手の得意なことについて相手に尋ねたり、相手からの質問に答えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】人にしてもらいたいことを書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・ 発表者の英文にコメントを返すことで、即興のやりとりをさせる。

・ ワークシートへ記入させ、取組の振り返りをさせる。

【評】振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ 視覚教材を映しながら、“I helped my mother cook dinner.”のような文を繰り返し聞かせて導入をする。

・ 語順で人の後には動詞の原形を置くことを強調する。

・ 基本表現の定着を図る。

【評】let [ help ] + (人など) + 動詞の原形を用いて、互いに自分のことを伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・ 視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。

・ 電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。

・ 何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。

・ ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。

・ 問題の答えや書いた英文をペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

【評】本文や各Roundでの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】本文や各Roundでの活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ 視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。

・ 電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。

・ 何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。

・ ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。

・ 問題の答えや書いた英文をペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

【評】本文や各Roundでの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】本文や各Roundでの活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ 私たちの生活が動物の絶滅の危機に影響を与えていることを確認させる。

・ タブレットを使い、トキやゴリラ以外の動物について調べ、調べたことから意見を書かせてもよい。

・ 簡単な単語や表現を使うことで、聞き手が理

|   |  |
|---|--|
| <p>○ ペアやグループで発表する。<br/>○ 意見について議論をする。</p> <p>○ 振り返り活動を行う。</p> <p>8 Unit Activity 学習したことを生かして絶滅の危機に瀕している日本の動物についての記事を書く活動に取り組む。<br/>★絶滅の危機に瀕している動物を世界へ伝えよう。<br/>○ STEP1に取り組む。</p> <p>○ STEP2に取り組む。</p> <p>○ STEP3に取り組む。<br/>○ 自分の考えを記事に加える。</p> <p>○ 書いた記事をグループで読み合う。</p> <p>○ 全体発表をする。</p> <p>○ 振り返り活動を行う。</p> <p>9 Let's Write2 理由や根拠を含んだ英語での意見の書き方を学習する。<br/>★記事への意見を書こう。<br/>○ STEP1でモデル文の内容を確認し、構成を理解する。<br/>○ オーラルイントロダクションを行う。</p> <p>○ 新出語句を確認する。</p> <p>○ 音読練習をする。</p> <p>○ STEP2に取り組む。<br/>○ 賛成か反対かを決める。<br/>○ 理由を考える。</p> <p>○ STEP3で投稿文を書く。<br/>○ 理由や根拠を含んだ意見文を書く。</p> <p>○ 例を読んで、修正する。</p> <p>○ グループで、互いに作った意見文を読み合い、コメントする。<br/>○ 振り返り活動を行う。</p> <p>10 Grammar for Communication2 不定詞を復習する。<br/>学び方コーナー 2 文章の組み立て方を学習する<br/>★不定詞を復習し、論理的な文章の構成を知ろう。<br/>○ Useに取り組む。<br/>○ Formに取り組む。</p> | <p>解しやすい意見を作成することを確認する。</p> <p>・ 英語で感想を言わせることで表現する力を高めさせる。<br/>・ 友達の意見について簡単なやりとりをさせることで、聞く力と伝える力を高めさせる。<br/>【評】意見を書く活動を通して「知識・技能」を評価する。<br/>【評】意見を書く活動及び発表の活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。<br/>・ ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。<br/>【評】振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 前時に調べた動物が日本の動物ならば、それでもよいことを伝える。<br/>・ トキの記事を教師が映像を使って説明することで記事の書き方を理解させる。<br/>・ 書いた記事をペアで確認し合うことで、学習事項への理解を深めさせる。</p> <p>・ 書いた記事をペアで確認し合うことで、学習事項への理解を深めさせる。<br/>【評】書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。<br/>・ 英語で感想を言わせることで表現する力を高めさせる。<br/>・ 記事を電子黒板に映して発表させることで、情報を全員で共有する。<br/>・ ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。<br/>【評】書いた記事や振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 映像を使って導入することで、生徒の関心を高める。<br/>・ 電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。<br/>・ 何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</p> <p>・ 自分の立場で考えさせる。<br/>・ 教科書例以外の理由も書かせることで、表現力を高めさせる。</p> <p>・ 教師が意見文の構成例を示すことで、構成について理解させる。<br/>・ ペアで相互チェックさせることで、学習事項への理解を深めさせる。<br/>【評】意見文を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>【評】意見文を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>・ 意見文の内容や表現の工夫について、生徒同士で相互評価をさせる。<br/>・ ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。<br/>【評】意見文や振り返り活動への取組を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <p>・ どの場面で使う表現かについて確認させる。<br/>・ 目的語の後にto不定詞がくるか原形不定詞がくるかを確認させる。</p> |
|---|--|

|   |  |
|---|--|
| <p>o p46 Let' s Try!に取り組む。</p> <p>o p47文章の組み立て方を確認する。</p> <p>o Let' s Tryに取り組む。</p> <p>11 単元のまとめ 単元テストに取り組む。<br/>★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。<br/>o 単元テストに取り組む。<br/>o Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> </ul> <p>【評】問題への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が電子黒板を使って説明することで、生徒の理解につなげる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> </ul> <p>【評】パラグラフを正しい構成にする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】単元テストを通して、It is … for + (人など) + to + 動詞の原形, want + (人など) + to + 動詞の原形, let [ help ] + (人など) + 動詞の原形の用法についての「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】単元テストを通して、It is… for + (人など) + to + 動詞の原形, want + (人など) + to + 動詞の原形, let [ help ] + (人など) + 動詞の原形を活用させ、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】  
授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。



**単元名 Stage Activity 1 My Activity Report**
**配当時間 4時間**

**単元の目標** (1) Unit 3 までの学習事項を用いた文の形・意味・用法と活動報告の構成を理解することができる。そしてその理解を基に、自分の経験や他の人へのメッセージを即興で話したり、まとまりのある文章を書いて発表したりする技能を身に付けることができる。

(2) 部活動や委員会などの活動について知ってもらうために、活動報告の構成を理解した上で、経験や他の人へのメッセージを即興で話したり、内容についてのやり取りや原稿の推敲を通してまとまりのある文章を書いて発表したりすることができる。

(3) 部活動や委員会などの活動について知ってもらうために、活動報告の構成を理解した上で、経験や他の人へのメッセージを即興で話したり、内容についてのやり取りや原稿の推敲を通してまとまりのある文章を書いて発表したりしようとする。

**標準的な展開例**

12250106\_001

**【準備等】** デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 これまでの経験を報告する活動に取り組む。</p> <p>★自分の経験を振り返り、英語にしよう。</p> <p>○STEP1に取り組む。</p> <p>○STEP2に取り組む。</p> <p>○自分自身を振り返り、表にまとめる。</p> <p>○グループで発表し合う。</p> <p>○発表を聞いて、分かったことやもっと知りたいことを書く。</p> <p>2 活動報告を修正する。</p> <p>★級友の意見を聞き、よりよい活動報告にしよう。</p> <p>○STEP3に取り組む。</p> <p>○活動報告を文にする。</p> <p>○グループで発表する。</p> <p>○発表に対して質疑応答をする。</p> <p>○活動報告に修正をメモする。</p> <p>3 活動報告を書き直す。</p> <p>★みんなに思いが伝わる活動報告に仕上げよう。</p> <p>○STEP3の続きに取り組む。</p> <p>○前時の修正ポイントを確認する。</p> <p>○修正ポイントを押さえた活動報告を作成する。</p> <p>4 活動報告を発表する。</p> <p>★活動報告をみんなに伝えよう。</p> <p>○STEP4に取り組む。</p> <p>○振り返り活動を行う。</p> | <p>・聞き取りのポイントを示すことで、生徒が取り組みやすくする。</p> <p>・ペアで確認し合うことで理解を深めさせる。</p> <p>・Word Roomを参考に組み立てさせる。</p> <p>・教師が例を示すことで、生徒の円滑な取組につなげる。</p> <p>【評】発表への取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】発表後の取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・STEP2で書いたキーワードや発表したことを振り返らせる。</p> <p>・主語や文法、単語などの表現に気を付けさせる。</p> <p>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</p> <p>【評】書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教師が質問例を示すことで、生徒の円滑な取組につなげる。</p> <p>・ペアで確認し合うことで、活動報告に加える情報を理解させる。</p> <p>・教科書例を示すことで、修正ポイントをどのように自分の文章に反映させるかを理解させる。</p> <p>・教科書例を示すことで、まとまりのある文章を意識して書かせる。</p> <p>・書いた文章をペアで読み合うことで、間違いに気付かせる。</p> <p>【評】書く活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・発表後に英語でコメントをさせることで即興のやりとりにつなげる。</p> <p>【評】発表活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。</p> <p>【評】活動報告や振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

【 備 考 】

## 単元名 Let's Read 1 A Mother's Lullaby

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 場面や人物の心情を表す表現を理解し、それらを用いて、物語の流れに沿って場面の变化や登場人物の心情を読み取る技能を身に付けることができる。  
 (2) 気持ちをこめて音読することができるように、背景知識を使い、物語の流れに沿った場面の变化や登場人物の心情が書かれた文章の概要を捉えることができる。  
 (3) 気持ちをこめて音読することができるように、背景知識を使い、物語の流れに沿った場面の变化や登場人物の心情が書かれた文章の概要を捉えようとする。

## 標準的な展開例

12250107\_001

【準備等】デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| 1 p52 本文を精読し、場面を読み取る。<br>★どのような場面かを読み取ろう。<br>○広島への原爆投下について教師の話を聞く。<br><br>○本文の学習をする。<br>○オーラルイントロダクションを行う。<br><br>○新出語句を確認する。<br><br>○音読練習をする。       | ・原爆や第二次世界大戦について、映像を見せながら生徒に伝える。<br><br>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。<br>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。<br>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。<br>・発音や文の強勢、表現の工夫に気を付けて練習をさせる。<br>【評】音読への取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br>【評】音読への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。                           |
| 2 p53 本文を精読し、場面を読み取る。<br>★木の回想と少女の行動を読み取ろう。<br>○本文の学習をする。<br>○オーラルイントロダクションを行う。<br><br>○新出語句を確認する。<br><br>○音読練習をする。                                  | ・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。<br>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。<br>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。<br>・発音や文の強勢、表現の工夫に気を付けて練習をさせる。<br>【評】音読への取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br>【評】音読への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。  |
| 3 p54 本文を精読し、場面を読み取る。<br>★少女の思いを読み取ろう。<br>○本文の学習をする。<br>○オーラルイントロダクションを行う。<br><br>○新出語句を確認する。<br><br>○音読練習をする。<br><br>○音読発表をする。<br><br>○Reviewに取り組む。 | ・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。<br>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。<br>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。<br>・発音や文の強勢、表現の工夫に気を付けて練習をさせる。<br>【評】音読への取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br>【評】音読への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br>【評】音読発表への取組を通して、「知識・技能」を評価する。<br>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。 |
| 4 p55 本文を精読し、場面を読み取る。<br>★オバマのスピーチを読み、何ができるか考えよう。<br>○本文の学習をする。<br>○本文を聞き、分かったことをペアで伝え合う。<br><br>○新出語句を確認する。<br><br>○音読練習をする。                        | ・実際のスピーチの様子を見せ、生徒の関心を高める。<br>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。<br>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。  |

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の意見を書き、発表する。</li> <li>○自分に何ができるかを考えて書く。</li> <li>○グループで発表する。</li> </ul> <p>5 Let's Listen3 ラジオの災害情報を聞くリスニング問題に取り組む。</p> <p>★災害情報を聞き取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○p56のリスニング問題に取り組む。</li> <li>○Before You Listenに取り組む。</li> <li>○STEP1に取り組む。</li> <li>○STEP2に取り組む。</li> <li>○STEP3に取り組む。</li> </ul> <p>○Sound Boxを確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音や文の強勢、表現の工夫に気を付けて練習をさせる。</li> <li>【評】音読への取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】音読への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>・ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。</li> <li>・これから聞く活動への関心を高める。</li> <li>・要点を聞き取る際にメモをとるように指示する。</li> <li>【評】聞き取り活動への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ペアの相手が理解できるような表現を使わせる。</li> <li>・相手の説明が理解できたかを確認させる。</li> <li>【評】相手に伝える活動への取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |
|--|--|

【 備 考 】  
授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 4 Be Prepared and Work Together

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 間接疑問文, SV00(what節), 現在分詞や過去分詞の後置修飾の形・意味・用法を理解することができる。そしてその理解を基に, 相手の伝えたいことを理解したり, 自分の伝えたいことを表現したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 簡単な語句や文を用いて, 自分のことを伝えたり, 相手のことを知るために尋ねたり, 相手からの質問に答えたりすることができる。また, 教科書本文の概要を捉えたり, 簡単な語句や文を用いて話したりすることができる。
- (3) 間接疑問文, SV00(what節), 現在分詞や過去分詞の後置修飾の用法を用いて, 自分の考えを書いたり, 話したり, 伝えたりしようとする。また, 日本に住む外国人の防災について書かれた文章の概要を捉えたり, 簡単な語句や文を用いて伝えたりしようとする。

## 標準的な展開例

12250201\_001

【準備等】 デジタル教科書, 電子黒板, タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 Scene1 間接疑問文について学習する。</p> <p>★知りたいことや知っていることを表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Unit4の表紙の絵について質疑応答をする。</li> <li>○Previewを聞き, 分かったことをペアで伝え合う。</li> <li>○コラムを読む。</li> <li>○間接疑問文の形・意味・用法を知る。</li> <li>○基本表現の学習をする。</li> <li>○Practice1に取り組む。</li> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> </ul> <p>2 Scene2 SV00(what節)について学習する。</p> <p>★外国人に日本で何をしたいか教えてほしいと言ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○SV00(what節)の形・意味・用法を知る。</li> <li>○基本表現の学習をする。</li> <li>○Practice1に取り組む。</li> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> </ul> <p>3 Mini Activity Scene1とScene2で学習した文法を使った活動に取り組む。</p> <p>★歴史上の人物がしたことを伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Listenに取り組む。</li> <li>○Speak &amp; Writeに取り組む。</li> <li>○作成した英文を発表する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後学習する内容について関心をもたせる。</li> <li>・ペアで伝え合うことで話の内容や使われている文法事項に気付かせる。</li> <li>・世界中で起きている自然災害と防災について知る。</li> <li>・視覚教材を映しながら, “Do you know who this man is?” のようなクイズを出題して答えさせることで, 間接疑問文の使い方や語順を理解させる。</li> <li>・既習の疑問詞の意味を確認する。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> </ul> <p>【評】 間接疑問文を用いて, 互いに自分のことを伝え合う活動や相手に質問したり, 答えたりする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚教材を用いて, 話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて, テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで, 文の構造や内容を理解させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚教材を用いながらSV00(what節)を用いた会話を聞かせ, SV00(what節)の意味を推測させ, 語順を理解させる。</li> <li>・既習の動詞の変化を確認する。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> </ul> <p>【評】 SV00(what節)を用いて, 互いに自分のことを伝え合う活動や相手に質問したり, 答えたりする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚教材を用いて, 話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて, テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで, 文の構造や内容を理解させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Scene1とScene2で学習した内容を事前に復習した後に活動をさせる。</li> <li>・聞き取りのポイントを提示し取り組ませる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで, 生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>・ペアで伝え合うことで, 表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。</li> <li>・名前が出た生徒に知っているかを確認することで表現活動の時間を増やす。</li> </ul> <p>【評】 学習した文法事項を用いて, 自分の好き</p> |

- 振り返り活動を行う。

4 Read and Think1(1) 現在分詞を使った後置修飾について学習する。

- ★好きな人について情報を加えて伝えよう。
- 現在分詞を用いた文の形・意味・用法を知る。

- 基本表現の学習をする。
- Practiceに取り組む。

5 Read and Think1(2) 日本で地震の被害に遭った外国人の体験談を読み、その内容を読み取る。

- ★地震の際に外国人が困ったことを読み取ろう。
- 本文の学習をする。
- オーラルイントロダクションを行う。

- 新出語句を確認する。

- 音読練習をする。

- Roundに取り組む。

6 Read and Think2(1) 過去分詞を使った後置修飾について学習する。

- ★好きな人や物について情報を加えて伝えよう。
- 過去分詞を用いた文の形・意味・用法を知る。

- 基本表現の学習をする。
- Practiceに取り組む。

7 Read and Think2(2) 若葉市の外国人支援の取組に関する紹介文を読み、その内容を読み取る。

- ★若葉市が外国人のためにしていることを読み取ろう。
- 本文の学習をする。
- オーラルイントロダクションを行う。

- 新出語句を確認する。

- 音読練習をする。

- Round / Point of Viewに取り組む。

8 Unit Activity 学習したことを生かして、外国人のために標識の説明を書く活動に取り組む。

- ★標識の意味を外国人に伝えよう。
- STEP1に取り組む。

- STEP2に取り組む。

な人物や尊敬する人物について相手に尋ねたり、相手からの質問に答えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- 【評】友達が知っているかどうかを書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ワークシートへ記入させ、取組の振り返りをさせる。

【評】振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・現在分詞を用いて、「…している～を知っていますか」というクイズ形式で導入する。
- ・現在分詞の形を確認する。
- ・基本表現の定着を図る。

【評】現在分詞を用いて、好きな人について互いに伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。
- ・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。
- ・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- ・問題の答えや書いた英文をペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

【評】本文や各Roundでの活動を通じて、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】本文や各Roundでの活動を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・過去分詞を用いて、「…された～を知っていますか」というクイズ形式で導入する。
- ・過去分詞の形を確認する。
- ・基本表現の定着を図る。

【評】過去分詞を用いて、好きな人や物について互いに伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。
- ・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。
- ・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- ・ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

【評】本文や各Roundでの活動を通じて、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】本文や各Roundでの活動を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・問題の答えをペアで対話して確認することで表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。
- ・例を確認することで、説明を書くポイントを理解させる。

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の住んでいる場所の標識の説明を英語で書く。</li> <li>○ 標識の説明を発表する。</li> <li>○ 単元テストに取り組む。</li> <li>○ Unitの目標を振り返り，できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書いた説明をペアで確認し合うことで，生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>【評】説明を書く活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ タブレットを使って，自分の住む地域にある標識を探す。</li> <li>・ STEP2で書いた説明文を参考にさせる。</li> <li>・ 発表や発表の後に英語でコメントをさせることで，表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。</li> <li>【評】説明を書く活動及び発表の活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】単元テストを通して，間接疑問文，SV00 (what節)，現在分詞や過去分詞の後置修飾の用法についての「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】単元テストを通して，間接疑問文，SV00 (what節)，現在分詞や過去分詞の後置修飾の文を活用させ，「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |
|--|--|

【 備 考 】  
授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Let's Talk 2 町中での手助け

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 手助けを申し出る表現の意味や働きを理解し、それらを用いて言葉をかけたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けることができる。  
 (2) 困っている相手に対して状況に合った手助けができるように、相手の立場に立った具体的な提案を申し出たり、相手からの質問に答えたりすることができる。  
 (3) 困っている相手に対して状況に合った手助けができるように、相手の立場に立った具体的な提案を申し出たり、相手からの質問に答えたりしようとする。

## 標準的な展開例

12250202\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 相手の立場に立って、具体的な提案や申し出たり応じたりする表現を学習する。<br/> <b>★</b>相手の立場に立って、手助けをしよう。<br/>         ○STEP1に取り組む。<br/>         ○プロットを作る。</p> <p>○全体で確認する。<br/>         ○STEP2に取り組む。<br/>         ○オーラルイントロダクションを行う。</p> <p>○新出語句を確認する。</p> <p>○音読練習をする。</p> <p>○STEP3に取り組む。<br/>         ○ペアで取り組む場面を決める。<br/>         ○スキットを作る。</p> <p>○発表する。</p> <p>○振り返り活動を行う。</p>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の事例を紹介することで今後学習する内容について関心をもたせる。</li> <li>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> <li>・場面が重なりすぎないようにする。</li> <li>・教師が例を紹介することで生徒のスキット作りへの興味を高める。</li> <li>・Tool Boxを確認し、さまざまな表現を理解させる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>【評】スキット作りの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・感情を込めてセリフを言わせたり、ジェスチャーを使わせたりすることで発表を聞く生徒の関心を高める。</li> <li>・ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。</li> <li>【評】振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |
| <p>2 Learning CIVICS in English(1) 学校をよりよくするための公約を考える。<br/> <b>★</b>選挙と投票について知り、公約を考えてみよう。<br/>         ○Task1に取り組む。<br/>         ○聞き取り問題に取り組む。</p> <p>○ペアで選挙に行くか行かないかを伝え合う。</p> <p>○Task2に取り組む。<br/>         ○ペアで伝え合う。<br/>         ○全体で伝え合う。</p> <p>○Challengeに取り組む。<br/>         ○グループで学校をよりよくするための公約を考える。</p> <p>○グループで理由を含めた発表文を作成する。</p> <p>○グループでポスターを作成する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に身近にあった選挙を取り上げて、生徒に関心をもたせる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>・Tool Boxを確認し、さまざまな表現を理解させる。</li> <li>【評】意見を伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・例文を確認して、表現の仕方を理解させる。</li> <li>【評】資料を読み取って、意見を伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・教科書例を確認して取り組ませる。</li> <li>・Tool Boxを確認し、さまざまな表現を理解させる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>・発表を聞く人の関心を高めるポスターに仕上げさせる。</li> </ul>   |
| <p>3 Learning CIVICS in English(2) 学校をよりよくするための公約を発表する。<br/> <b>★</b>公約を聞き、投票しよう。<br/>         ○グループごとに発表をする。<br/>         ○グループ発表をする。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表グループには、声の大きさ、発音、強弱</li> </ul>   |



|  |  |
|--|--|
| <p>○ 質疑応答をする。</p> <p>○ 振り返り活動を行う。</p> <p>4 Let's Listen4 テレビの国際ニュースを聞き取る活動を行う。<br/>★概要や要点を押さえてテレビ番組を理解しよう。<br/>○ Before You Listenに取り組む。</p> <p>○ STEP1に取り組む。</p> <p>○ STEP2に取り組む。<br/>○ 画面を並べかえる。</p> <p>○ メモを完成する。</p> <p>○ STEP3に取り組む。<br/>○ ペアで発表する。</p> | <p>に気を付けて発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表を聞く生徒は、教科書例のようなワークシートに発表案、自分の評価、感想を書かせる。</li> </ul> <p>【評】発表活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表したグループと聞く生徒で質疑応答をさせることで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。</li> </ul> <p>【評】質疑応答の活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。</li> </ul> <p>【評】振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実際の首脳会談の様子を見せることで、学習内容への関心を高めさせる。</li> <li>聞き取りのポイントを確認した後に取り組ませる。</li> <li>それぞれの画面の特徴を確認した後に取り組ませる。</li> <li>ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>下線部の前後の語を確認することで聞き取りのポイントを理解させる。</li> <li>ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> </ul> <p>【評】メモを作成する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】  
授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 5 A Legacy for Peace

配当時間 11時間

- 単元の目標 (1) 接触節, 関係代名詞(who, that, which)の形・意味・用法を理解することができる。そしてその理解を基に, 相手の伝えたいことを理解したり, 自分の伝えたいことを表現したりする技能を身に付けることができる。
- (2) どのような人やものを伝えるために, 言葉に情報を加えて伝えたり, 相手からの質問に答えたりすることができる。また, 教科書本文の概要を捉えたり, 簡単な語句や文を用いて話したりすることができる。
- (3) 接触節, 関係代名詞(who, that, which)の用法を用いて, 自分の考えを書いたり, 話したり, 伝えたりしようとする。また, ガンディーについて書かれた文章の概要を捉えたり, 簡単な語句や文を用いて伝えたりしようとする。

## 標準的な展開例

12250203\_001

【準備等】 デジタル教科書, 電子黒板, タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 Scene1 接触節について学習する。</p> <p>★好きなものを詳しい情報を加えて伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Unit5の表紙の絵について質疑応答をする。</li> <li>○Previewを聞き, 分かったことをペアで伝え合う。</li> <li>○コラムを読む。</li> <li>○接触節の形・意味・用法を知る。</li> <li>○基本表現の学習をする。</li> <li>○Practiceに取り組む。</li> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> </ul> <p>2 Scene2 関係代名詞(who)について学習する。</p> <p>★詳しい情報を加えて友達や先生について説明をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○関係代名詞(who)の形・意味・用法を知る。</li> <li>○基本表現の学習をする。</li> <li>○Practiceに取り組む。</li> <li>○友達や先生を紹介する活動に取り組む。</li> <li>○関係代名詞を使って, 文を書く。</li> <li>○発表する。</li> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> </ul> <p>3 Mini Activity Scene1とScene2で学習した文法を使った活動に取り組む。</p> <p>★クイズを作って答え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Mini Activityに取り組む。</li> <li>○Listenに取り組む。</li> <li>○Speak &amp; Writeに取り組む。</li> <li>○クイズに取り組む。</li> <li>○クイズを作成する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後学習する内容について関心をもたせる。</li> <li>・ペアで伝え合うことで話の内容や使われている文法事項に気付かせる。</li> <li>・ガンディーの生涯を確認させる。</li> <li>・「私の大切なもの」と称した所有物の紹介をして, “This is a picture I took in America.” のような文を繰り返し聞かせる。</li> <li>・語の順番を理解させる。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> <li>【評】接触節を用いて, 互いに自分の好きなものを伝え合う活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</li> <li>・視覚教材を用いて, 話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて, テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで, 文の構造や内容を理解させる。</li> <li>・視覚教材を使って関係代名詞(who)を使った人物紹介を聞かせ, 説明していることや語順を理解させる。</li> <li>・whoの後の動詞の形を確認する。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> <li>・具体例を紹介し, 書き方を確認する。</li> <li>・ペアで発表させることで, 相手の言ったことを理解させる。</li> <li>【評】関係代名詞(who)を用いて作成した文を互いに伝え合う活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・視覚教材を用いて, 話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて, テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで, 文の構造や内容を理解させる。</li> <li>・Scene1とScene2で学習した内容を事前に復習した後に活動をさせる。</li> <li>・聞き取りのポイントを押さえて取り組ませる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで, 生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>・クイズの例を紹介することでクイズの作成方法を確認する。</li> <li>・ペアで確認し合うことで, 生徒自らの気付きを大切にする。</li> </ul> |

○ペアで出題し合う。

○振り返り活動を行う。

4 Read and Think1(1) 関係代名詞(主格のthat, which)について学習する。

★情報を加えて身の回りのものについて説明しよう。

○関係代名詞(主格のthat, which)の形・意味・用法を知る。

○基本表現の学習をする。

○Practiceに取り組む。

○自分の身の回りのものについて、詳しい情報を加えた紹介文を作り、ペアで伝え合う。

5 Read and Think1(2) ガンディーの南アフリカでの行動についての伝記を読み、その内容を読み取る。

★当時の南アフリカの状況を知り、ガンディーがしたことを読み取ろう。

○本文の学習をする。

○オーラルイントロダクションを行う。

○新出語句を確認する。

○音読練習をする。

○Roundに取り組む。

6 Read and Think2(1) 関係代名詞(目的格のthat, which)について学習する。

★詳しい情報を加えてものや人について説明をしよう。

○関係代名詞(目的格のthat, which)の形・意味・用法を知る。

○基本表現の学習をする。

○Practiceに取り組む。

○ものや人について、詳しい情報を加えた紹介文を作り、ペアで伝え合う。

7 Read and Think2(2) ガンディーのインドでの行動についての伝記を読み、その内容を読み取る。

★当時のインドの状況を知り、ガンディーがしたことを読み取ろう。

○本文の学習をする。

○オーラルイントロダクションを行う。

○新出語句を確認する。

○音読練習をする。

○Round / Point of Viewに取り組む。

○columnを読む。

8 Unit Activity 学習したことを生かして、尊敬したり憧れたりする人物について書く活動に取り組む。

★尊敬する人を伝えよう。

○STEP1に取り組む。

○STEP2に取り組む。

・ペアで出題し合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

【評】相手に尋ねたり、相手からの質問に答えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・ワークシートへ記入させ、取組の振り返りをさせる。

【評】振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・DVDなどの具体物を紹介して、“This is a DVD which makes people happy.”のような文を繰り返し聞かせる。

・先行詞を確認してthat(which)を選ばせる。

・基本表現の定着を図る。

【評】関係代名詞(主格のthat, which)を用いて、身の回りのものについて伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。

・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。

・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。

・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。

【評】本文や各Roundでの活動を通じて、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】本文や各Roundでの活動を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・指導者が好きな人を紹介して、“This is a baseball player that I like the best.”のような文を繰り返し聞かせる。

・先行詞を確認してthat(which)を選ばせる。

・基本表現の定着を図る。

【評】関係代名詞(目的格のthat, which)を用いて、身の回りのものについて伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。

・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。

・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。

・ペアで確認し合うことで、気付きを促す。

・ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

【評】本文や各Roundでの活動を通じて、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】本文や各Roundでの活動を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ガンディーの教えを受け継いだ政治家や活動家を知る。

・例を確認することで、表をまとめるポイントを理解させる。

・書いた紹介文をペアで確認し合うことで、生

|   |  |
|---|--|
| <p>○全体発表をする。</p> <p>○振り返り活動を行う。</p> <p>9 Let's Write3 グラフや表の活用を学習する。<br/>★資料から読み取ったことをレポートにまとめよう。<br/>○STEP1に取り組む。</p> <p>○STEP2に取り組む。</p> <p>○STEP3に取り組む。</p> <p>○発表をする。</p> <p>○振り返り活動を行う。</p> <p>10 Grammar for Communication3 後置修飾を復習する。<br/>★後置修飾を復習しよう。<br/>○Use / Point of Viewに取り組む。<br/>○Formに取り組む。</p> <p>○Let's Try!に取り組む。</p> <p>11 単元のまとめ 単元テストに取り組む。<br/>★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。<br/>○単元テストに取り組む。<br/>○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。</p> | <p>徒自らの気付きを大切にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表のためにタブレットを使って、画像を見付けさせ、用意させる。</li> <li>・発表や発表の後に英語でコメントや質疑応答をさせることで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。</li> </ul> <p>【評】説明を書く活動及び発表の活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。</li> </ul> <p>【評】発表活動や振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの構成とグラフの読み取り方を確認する。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>・書き方の例を示すことで、資料を見るポイントやレポートの書き方を理解させる。</li> <li>・Tool Boxを確認して、さまざまな表現方法を知らせる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>・発表や発表の後に英語でコメントをさせることで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。</li> </ul> <p>【評】説明を書く活動及び発表の活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。</li> </ul> <p>【評】発表活動や振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元で学習したことを確認させる。</li> <li>・本単元以外でも後置修飾があることに気付かせ、確認させる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> </ul> <p>【評】問題への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】単元テストを通して、接触節、関係代名詞(who, that, which)の用法についての「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】単元テストを通して、接触節、関係代名詞(who, that, which)を活用させ、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】  
授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Stage Activity 2 Discover Japan

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) Unit 5までの学習事項を用いた文の形・意味・用法を理解し、それらを用いて、日本や郷土の文化について書かれた文章を参考にしたりやり取りをしたりすることで、詳しい情報を加えながら紹介文を書く技能を身に付けることができる。
- (2) 日本を訪れる人に日本の魅力を知ってもらうために、日本や郷土の文化について書かれた文章を読んだり質問し合ったりして、詳しい情報を加えながらまとまりのある文章を書いて紹介することができる。
- (3) 日本を訪れる人に日本の魅力を知ってもらうために、日本や郷土の文化について書かれた文章を読んだり質問し合ったりして、詳しい情報を加えながらまとまりのある文章を書いて紹介しようとする。

## 標準的な展開例

12250204\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 日本文化を紹介する活動に取り組む。</p> <p>★外国人に日本文化を紹介しよう。</p> <p>○STEP1に取り組む。</p> <p>○STEP2に取り組む。</p> <p>○紹介したい日本文化のジャンルを選ぶ。</p> <p>○選んだジャンルから紹介したいものを決め、マッピングをする。</p> <p>○マッピングを基に紹介文を書く。</p> <p>○ペアで確認する。</p> <p>2 作成した紹介文を修正する。</p> <p>★クラスメートの意見を聞き、よりよい紹介文にしよう。</p> <p>○STEP3に取り組む。</p> <p>○ペアで紹介文を交換して読む。</p> <p>○発表に対して質疑応答をする。</p> <p>○紹介文に修正ポイントを加える。</p> <p>3 パンフレットを完成する。</p> <p>★外国人に伝わりやすいパンフレットにしよう。</p> <p>○STEP3に取り組む。</p> <p>○パンフレットの原稿を書く。</p> <p>○画像を選ぶ。</p> <p>○パンフレットを完成する。</p> <p>4 パンフレットをALTに発表する。</p> <p>★ALTに日本文化を伝えよう。</p> <p>○紹介文を発表する。</p> <p>○振り返り活動を行う。</p> | <p>・読み取りのポイントを示すことで、生徒が取り組みやすくする。</p> <p>・ペアで確認し合うことで、理解を深めさせる</p> <p>・p87 Word Room2の日本文化を確認する。</p> <p>・マッピング例を示すことで、生徒の円滑な取組につなげる。</p> <p>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</p> <p>・マッピングから英語にしている例を紹介することで、マッピングを有効に活用させる。</p> <p>【評】紹介文を書く活動への取組を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】紹介文を書く活動への取組を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</p> <p>・STEP2で書いた紹介文を振り返らせる。</p> <p>・指導者が質問やコメントの例を示すことで、生徒の円滑な取組につなげる。</p> <p>・ペアで確認し合うことで、活動報告に加える情報を理解させる。</p> <p>【評】紹介文の修正活動への取組を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】紹介文の修正活動への取組を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書例を示すことで、修正ポイントをどのよう文章に反映させるか理解させる。</p> <p>・教科書例を示すことで、まとまりのある文章を意識して書かせる。</p> <p>・書いた文章をペアで読み合うことで、間違いに気付かせる。</p> <p>・紹介文に合う絵を描かせたり、画像やイラストをタブレットを使って調べてプリントアウトさせたりする。</p> <p>【評】書く活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・グループで冊子にさせる。</p> <p>・大型テレビに発表者が紹介しているものを見せることで、聞く人の関心を高める。</p> <p>・発表後、ALTの質問に答える。</p> <p>【評】発表やALTとの対話活動への取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ワークシートへ記入させることで取組の振り返り</p> |

5 Let's Listen5 世界で働く人へのインタビューを聞く

★インタビューを聞いて、内容を理解しよう。

○Before You Listenに取り組む。

○STEP1に取り組む。

○STEP2に取り組む。

○年表を完成する。

○質問に答える。

○STEP3に取り組む。

○ペアで発表する。

○全体で発表する。

返りをさせる。

【評】活動報告や振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・実際に活躍する日本人を紹介することで、学習内容への関心を高めさせる。
- ・聞き取りのポイントを確認した後に取り組ませる。

- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。

【評】聞き取り活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・教科書例を参考に質問を考えさせる。

【評】質問を書く活動や発表活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【備考】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Unit 6 Beyond Borders

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 仮定法 (I wish I could [had] ….) , 仮定法 (If+主語+were …, ~.) , 仮定法 (If+主語+動詞の過去形, ….) と主語を説明する関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。そしてその理解を基に、相手の伝えたいことを理解したり、自分の伝えたいことを表現したりする技能を身に付けることができる。

(2) 国をこえて助け合いたいという気持ちや助け合うことの大切さ伝えることができる。また、教科書本文の概要を捉えたり、簡単な語句や文を用いて話したりすることができる。

(3) 仮定法 (I wish I could [had] ….) , 仮定法 (If+主語+were …, ~.) , 仮定法 (If+主語+動詞の過去形, ….) と主語を説明する関係代名詞を用いて、自分の考えを書いたり、話したり、伝えたりしようとする。また、国際状況について書かれた文章の概要を捉えたり、簡単な語句や文を用いて伝えたりしようとする。

## 標準的な展開例

12250205\_001

【準備等】 デジタル教科書, 電子黒板, タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 Scene1 仮定法 (I wish I could [had] ….) について学習する。</p> <p>★現実とは異なる「こうだったらいいな」を伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Unit6の表紙の絵について質疑応答をする。</li> <li>○Previewを聞き、分かったことをペアで伝え合う。</li> <li>○コラムを読む。</li> <li>○仮定法 (I wish I could [had] ….) の形・意味・用法を知る。</li> <li>○基本表現の学習をする。</li> <li>○Practiceに取り組む。</li> <li>○練習問題に取り組む。</li> <li>○仮定法 (I wish I could [had] ….) を使い文を書く。</li> <li>○発表する。</li> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> </ul> <p>2 Scene2 仮定法 (If+主語+were …, ~.) について学習する。</p> <p>★「もし○○だったら、～する」を伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○仮定法 (If+主語+were …, ~.) の形・意味・用法を知る。</li> <li>○基本表現の学習をする。</li> <li>○Practiceに取り組む。</li> <li>○練習問題に取り組む。</li> <li>○仮定法 (If+主語+were …, ~.) を使って文を書く。</li> <li>○発表する。</li> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> </ul> <p>3 Mini Activity Scene1とScene2で学習した文法を使った活動に取り組む。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後学習する内容について関心をもたせる。</li> <li>・ペアで伝え合うことで話の内容や使われている文法事項に気付かせる。</li> <li>・世界中の取組について知る。</li> <li>・アニメのキャラクターと道具を示しながら、“I wish I could fly.” のような文を繰り返し聞かせる。</li> <li>・wishの後の語は過去形になることに気を付けさせる。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>・具体例を紹介し、書き方を確認する。</li> <li>・ペアで発表させることで、相手の言ったことを理解させる。</li> <li>【評】 仮定法 (I wish I could [had] ….) を用いて、互いに現実とは異なる願望を伝え合う活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> <li>・大金の画像としたいことを表す画像を示し、“If I were rich, I would go to many countries.” のような文を何度も聞かせる。</li> <li>・主語がIでもwereを使うことを確認する。</li> <li>・基本表現の定着を図る。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>・具体例を紹介し、書き方を確認する。</li> <li>・ペアで発表させることで、相手の言ったことを理解させる。</li> <li>【評】 仮定法 (If+主語+were …, ~.) を用いて、互いに現実とは異なる架空の話の伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> </ul> |

★仮定法を使って、現実とは異なる自分の思いを伝え合おう。

- Mini Activityに取り組む。
- Listenに取り組む。

- Speak & Writeに取り組む。

- さまざまな場面で自分がしたいことを書く。

- ペアで伝え合う。

- 振り返り活動を行う。

4 Read and Think1(1) 仮定法(If+主語+動詞の過去形, ….)について学習する。

★「もし〇〇があったら、…する」を伝え合ってみよう。

- 仮定法(If+主語+動詞の過去形, ….)の形・意味・用法を知る。

- 基本表現の学習をする。

- Practiceに取り組む。
- 問題に取り組む。

- タイムマシンがあったらしてみたいことを書く。

- ペアで発表する。

5 Read and Think1(2) 日本の国際貢献についてのスピーチを読み、その内容を読み取る。

★日本がしていることや世界の国々の関係を読み取ろう。

- 本文の学習をする。
- オーラルイントロダクションを行う。

- 新出語句を確認する。

- 音読練習をする。

- Roundに取り組む。

6 Read and Think2(1) 主語を説明する関係代名詞について学習する。

★詳しい情報を加えてものや人について説明をしよう。

- 主語を説明する関係代名詞の形・意味・用法を知る。

- 基本表現の学習をする。

- Practiceに取り組む。
- 問題に取り組む。

- おすすめの店を紹介する文を書く。

- ペアで発表する。

- ・Scene1とScene2で学習した内容を事前に復習した後に活動をさせる。
- ・聞き取りのポイントを確認した後に取り組ませる。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- ・教師が例を紹介することで、書き方を確認する。
- ・ペアで発表させることで、相手の言ったことを理解させる。

【評】仮定法を用いて、自分の願望を相手に伝える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ワークシートへ記入させ、取組の振り返りをさせる。

【評】振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・アニメのキャラクターと道具を示しながら、“If I had どこでもドア, I would go to America.”のような文を繰り返し聞かせる。
- ・If節内では、過去形が使われることを確認する。

- ・基本表現の定着を図る。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- ・教師が例を示すことで、考え方や書き方を確認する。
- ・ペアで発表させることで、相手の言ったことを理解させる。

【評】仮定法(If+主語+動詞の過去形, ….)を用いて、自分の願望について伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。
- ・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。
- ・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- ・問題の答えや書いた英文をペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

【評】本文や各Roundでの活動を通じて、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】本文や各Roundでの活動を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・教師が画像を見せながらよく見るテレビ番組を紹介し、“The program that I often watch is 水曜日のダウンタウン.”のような文を繰り返し聞かせる。
- ・時制に気を付けさせる。

- ・基本表現の定着を図る。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- ・教師が例を示すことで、考え方や書き方を確認する。
- ・ペアで発表させることで、相手の言ったことを理解させる。



7 Read and Think2(2) 日本と世界との関わりについてのスピーチを読み、その内容を読み取る。

★日本と世界との関わりを読み取り、世界とよりよい関係を築くために何ができるか考えよう。

- 本文の学習をする。
- オーラルイントロダクションを行う。

○新出語句を確認する。

○音読練習をする。

○Round / Point of Viewに取り組む。

○columnを読む。

8 Unit Activity 世界を100人の村として考え、世界の現状について考える。そして単元テストに取り組む。

★学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。

○STEP1に取り組む。

○STEP2に取り組む。

○STEP3に取り組む。

○STEP2に自分の感想や考えを加えて書く。

○ペアで発表する。

○世界の現状をふまえて、自分たちがすべきことやできることを書く。

○グループで発表する。

○全体で発表する。

○単元テストに取り組む。

○Unitの目標を振り返り、できるようになったことや今後の学習の課題を設定する。

【評】主語を説明する関係代名詞を用いて、おすすめの店について伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。
- ・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。
- ・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。
- ・ペアで伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

【評】本文や各Roundでの活動を通じて、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】本文や各Roundでの活動を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・よりよい世界を築くために個人としてできることを知る。

- ・聞き取りのポイントを確認した後に取り組ませる。
- ・例を確認することで、文を書くポイントを理解させる。
- ・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。

- ・発表や発表の後に英語でコメントをさせることで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

- ・教師が例を示すことで、考えるポイントや書き方を確認させる。

- ・発表や発表の後に英語でコメントをさせることで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

【評】書く活動及び発表の活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】書く活動及び発表の活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【評】単元テストを通して、仮定法 (I wish I could [had] ….) , 仮定法 (If+主語+were …; ….) , 仮定法 (If+主語+動詞の過去形, ….) と主語を説明する関係代名詞の用法についての「知識・技能」を評価する

【評】単元テストを通して、仮定法 (I wish I could [had] ….) , 仮定法 (If+主語+were …; ….) , 仮定法 (If+主語+動詞の過去形, ….) と主語を説明する関係代名詞を活用させ、「思考・判断・表現」を評価する。

#### 【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Let's Talk 3 食品の選択

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 賛成や反対とその理由を述べる表現の意味や働きを理解し、食品の選択について、読んだ内容や自分の考えを整理して、賛成や反対とその理由を述べる表現を用いて、主張を伝え合う技能を身に付けることができる。
- (2) 議論を通して考えを深めることができるように、食品の選択について、読んだ内容や自分の考えを整理して、相手の意見を受けて主張を述べるができる。
- (3) 議論を通して考えを深めることができるように、食品の選択について、読んだ内容や自分の考えを整理して、相手の意見を受けて主張を述べ合おうとする。

## 標準的な展開例

12250206\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 相手の意見を受けて、意見を主張する表現を学習する。<br/>★国産野菜か輸入野菜、どちらを選ぶか議論しよう。<br/>○STEP1に取り組む。</p> <p>○STEP2に取り組む。</p> <p>○新出語句を確認する。</p> <p>○STEP3に取り組む。<br/>○オーラルイントロダクションを行う。</p> <p>○音読練習をする。</p> <p>○グループで議論する。</p> <p>○振り返り活動を行う。</p> <p>2 Grammar for Communication4 仮定法を学習する。<br/>★仮定法の復習をしよう。<br/>○Useに取り組む。<br/>○Formに取り組む。<br/>○Let's Try!に取り組む。</p> <p>3 Let's Listen6 中学校生活の思い出を学習する。<br/>★スピーチを聞いて、中学校生活の思い出を理解しよう。<br/>○Before You Listenに取り組む。</p> <p>○STEP1に取り組む。</p> <p>○STEP2に取り組む。</p> <p>○STEP3に取り組む。<br/>○中学校生活の思い出を書く。</p> <p>○グループで発表する。</p> <p>○振り返り活動を行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚教材を使って日本の食糧事情について示すことで、今後学習する内容について関心をもたせる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> <li>・国産野菜派、輸入野菜派に分けて、それぞれの立場から議論をさせる。</li> <li>・Tool Boxを確認しさまざまな表現を理解させる。</li> <li>・伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。</li> <li>【評】話し合い活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】話し合い活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。</li> <li>【評】振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・仮定法の使い方を確認させる。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>【評】問題への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・自身の中学校生活を振り返らせることで、学習する内容への関心をもたせる。</li> <li>・聞き取りのポイントを確認した後に取り組ませる。</li> <li>【評】聞く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・指導者の作成したスピーチを示したり、STEP 1, STEP2を確認したりすることで、書き方を確認する。</li> <li>・発表や質疑応答をさせることで表現力や相手の発言を理解する力を高めさせる。</li> <li>【評】書く活動や発表活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。</li> <li>【評】振り返り活動への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

【 備 考 】

## 単元名 Stage Activity 3 Let's Have a Mini Debate

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) Unit6までの学習事項を用いた文の形・意味・用法を理解し、それらを用いて、ある論題について賛成・反対の立場を決めて、主張とその理由を明確にしなが、意見を伝え合う技能を身に付けることができる。
- (2) 物事を論理的・多面的に考えて説得力のある主張ができるようになるために、社会的な話題について書かれた文章を参考に、賛成・反対の立場を決めてグループでディベートを行い、論点に沿った主張をすることができる。
- (3) 物事を論理的・多面的に考えて説得力のある主張ができるようになるために、社会的な話題について書かれた文章を参考に、賛成・反対の立場を決めてグループでディベートを行い、論点に沿った主張をしようとする。

## 標準的な展開例

12250207\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 議題についての意見を読む活動に取り組む。</p> <p>★議題にはどんな意見があるか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○STEP1に取り組む。</li> <li>○留学生の書いた文章を読む。</li> <li>○議題に対して、「賛成」の意見と「反対」の意見に分け、それぞれの反論を考える。</li> </ul> <p>2 ディベートの準備をする。</p> <p>★ディベートを知り、準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実際のディベート映像を見る。</li> <li>○STEP2に取り組む。</li> <li>○ディベートの手順を確認する。</li> <li>○グループ内で賛成・反対に分かれ、準備をする。</li> </ul> <p>3 グループでディベートを行う。</p> <p>★ディベートを練習してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○STEP3に取り組む。</li> <li>○教科書展開例を確認する。</li> <li>○グループ内でディベートをする。</li> <li>○STEP4に取り組む。</li> </ul> <p>4 全体でディベートを行う。</p> <p>★全員でディベートを創り上げよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の課題の確認をする。</li> <li>○ディベートを行う。</li> <li>○振り返り活動を行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚教材を示すことで話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・新出語句を確認する。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>【評】意見を分ける活動と反論を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・実際のディベート映像を見せることで、関心を高めさせる。</li> <li>・映像の内容の振り返りながら、ディベートの進め方や審判の判定の仕方の確認をさせる。</li> <li>・p105 Word Room3を使い、ディベートで使える表現を全体で確認する。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>【評】立場を主張する文を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ディベートの流れを全体で確認する。</li> <li>・グループ内で司会と審判を交代で行わせる。</li> <li>・相手の主張に対して、質問や反論ができるようにメモをとらせる。</li> <li>【評】ディベートへの取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ディベートを行って生じた課題を把握し、次時への準備をする。</li> <li>【評】ディベートを振り返る取組を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・グループ内で準備をさせる。</li> <li>・違うグループ同士でディベートを行う。</li> <li>・司会と審判は対戦していないグループから選出する。</li> <li>・対戦を見る生徒も各自で判定させるなど、全員参加型のディベートを行う。</li> <li>【評】ディベートへの取組を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】ディベートへの取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ワークシートへ記入させ、振り返りをさせる</li> <li>・p105 Word Room3を使い、さまざまな議題でもディベートができることを伝える。</li> <li>【評】ディベートや振り返り活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

【 備 考 】

## 単元名 Let's Read 2 Power Your Future

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 長所と短所を比較して述べる文章の構成を理解している。それらへの理解を基に、エネルギー問題について書かれた文章の内容を読み取る技能を身に付けることができる。
- (2) 自分にできることや感想などを述べることができるように、さまざまなエネルギー問題について書かれた説明文の概要を捉えることができる。
- (3) 自分にできることや感想などを述べることができるように、さまざまなエネルギー問題について書かれた説明文の概要を捉えようとする。

## 標準的な展開例

12250301\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 p106 本文を精読し、内容を読み取る。</p> <p>★化石燃料について読み取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○Pre-readingに取り組む。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> <li>○In-readingに取り組む。</li> </ul> <p>2 p107 本文を精読し、内容を読み取る。</p> <p>★再生可能エネルギーについて読み取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> <li>○In-readingに取り組む。</li> </ul> <p>3 p108 本文を精読し、内容を読み取る。</p> <p>★ジャマロバの発明について読み取り、私たちができるところを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文の学習をする。</li> <li>○オーラルイントロダクションを行う。</li> <li>○新出語句を確認する。</li> <li>○音読練習をする。</li> <li>○In-readingに取り組む。</li> </ul> <p>4 p109 単元のまとめをする。</p> <p>★本文のまとめをし、エネルギーの今後と私たちの生活について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Post-readingに取り組む。</li> <li>○各パラグラフに適した見出しを選ぶ。</li> <li>○エネルギー源の長所と短所をまとめる。</li> <li>○電気を節約するために、日常生活でできることを書く。</li> <li>○グループで発表をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元での学習内容について関心を高めさせる。</li> <li>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> <li>【評】音読への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>【評】問題への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> <li>【評】音読への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>【評】問題への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・視覚教材を用いて、話の内容を理解しやすくさせる。</li> <li>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</li> <li>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</li> <li>【評】音読への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>【評】問題への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</li> <li>【評】問題への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・生徒の日常生活で電気を無駄に使っている場面を振り返らせて文を書かせる。</li> <li>・伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。</li> </ul> |

○世界の一次エネルギーのグラフを見て，グループで感想を話し合う。

【評】発表への取組を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

・伝え合うことで，表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。

【評】発表への取組を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。

## 単元名 Let's Read 3 A Graduation Gift from Steve Jobs

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) メッセージを伝える文章の構成の理解を基に、生き方について書かれたスピーチの原稿を読み取る技能を身に付けることができる。
- (2) メッセージの要点を自分の言葉で伝えることができるように、テーマとエピソードを整理し、生き方について書かれたスピーチ原稿の要点を捉えることができる。
- (3) メッセージの要点を自分の言葉で伝えることができるように、テーマとエピソードを整理し、生き方について書かれたスピーチ原稿の要点を捉えようとする。

## 標準的な展開例

12250302\_001

【準備等】 デジタル教科書、電子黒板、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 p110 本文を精読し、内容を読み取る。</p> <p>★ジョブズの伝えたいことを読み取ろう。</p> <p>○スティーブ・ジョブズを知る。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○新出語句を確認する。</p> <p>○本文の概要を確認する。</p> <p>○音読練習をする。</p>   | <p>・視覚教材を用いて、ジョブズと彼の発明を紹介することで学習への関心を高めさせる。</p> <p>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</p> <p>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</p> <p>【評】音読への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】音読への取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>  |
| <p>2 p111 本文を精読し、内容を読み取る。</p> <p>★アップル社を作ったジョブズに起こったことについて読み取ろう。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○新出語句を確認する。</p> <p>○本文の概要を確認する。</p> <p>○音読練習をする。</p>  | <p>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</p> <p>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</p> <p>【評】音読への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】音読への取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>  |
| <p>3 p112 本文を精読し、内容を読み取る。</p> <p>★アップル退社後にジョブズがしたことと彼の伝えたいことを読み取ろう。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○新出語句を確認する。</p> <p>○本文の概要を確認する。</p> <p>○音読練習をする。</p>   | <p>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</p> <p>・視覚教材を用いて、ピクサーの作品を紹介しジョブズの功績を伝える。</p> <p>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</p> <p>【評】音読への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】音読への取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>   |
| <p>4 p113 本文を精読し、内容を読み取る。</p> <p>★ジョブズの伝えたいことを読み取ろう。</p> <p>○本文の学習をする。</p> <p>○新出語句を確認する。</p> <p>○本文の概要を確認する。</p> <p>○音読練習をする。</p> <p>○Round1に取り組む。</p> <p>○Round2に取り組む。</p> <p>○Round3-1に取り組む。</p> | <p>・電子黒板やタブレット等を用いて、テンポよく行う。</p> <p>・実際にジョブズが亡くなっていることを伝えることで、言葉の重みを理解させる。</p> <p>・何度も音読することで、文の構造や内容を理解させる。</p> <p>【評】音読への取組を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】音読への取組を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ペアで確認し合うことで、生徒自らの気付きを大切にする。</p> <p>【評】問題への取組を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・伝え合うことで、表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。</p> |

|   |   |
|---|---|
| <p>○ Round3-2に取り組む。</p> <p>5 学び方コーナー3 これからの英語学習法を考える。<br/>★今までの学習を振り返り，今後の学習の方法を考えよう</p> <p>○ Tip1に取り組む。<br/>○ Tip2に取り組む。<br/>○ Tip3に取り組む。<br/>○ 英語を学習して得たことやこれからの目標を伝える。</p> <p>○ 振り返り活動を行う。</p> | <p>【評】発表への取組を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 今までの学習の振り返りをさせる。<br/>・ 教科書以外にも学ぶ方法があることを知る。</p> <p>・ 伝え合うことで，表現する力や相手の言ったことを理解する力を高めさせる。<br/>・ ワークシートへ記入させることで取組の振り返りをさせる。</p> <p>【評】発表報告や振り返り活動への取組を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|---|---|

【 備 考 】  
授業内で効果的にタブレットやQRコードを活用する場面を設定する。宿題や家庭学習等でそれらを効果的に活用するように促す。



# **令和 3 年度 知多地方教育計画案**

## **音楽科**

# 音 楽 科

## 1 教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

音楽科の教科の目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して学習が行われることを前提とし、音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動によって、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指すことである。その上で、育成を目指す資質・能力として、(1)に「知識及び技能」の習得、(2)に「思考力、判断力、表現力等」の育成、(3)に「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関することを示すことによって構成されている。

なお、**表現及び鑑賞の幅広い活動**とは、多様な音楽活動を行うことを意味している。また、**音楽的な見方・考え方**とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付けること」であると考えられる。

**生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力**とは(1)、(2)、(3)を指す。この資質・能力を育成するため、学習の過程では、生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から、学んでいること、学んだことの意味や価値などを生徒が自覚できるように指導をすることが大切である。その際、音楽科の学習が、その後の学習や生活とどのように関わり、どのような意味や価値をもつのかといったことに生徒が意識を向けることのできる場面を、指導の過程に適切に位置付けるなどの工夫が必要である。

| A表現  |    |    | B鑑賞 |
|------|----|----|-----|
| 歌唱   | 器楽 | 創作 |     |
| 共通事項 |    |    |     |

内容の構成

(1)の、**曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解**することが「知識」の習得に関すること、**創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能**を身に付けることが「技能」の習得に関することである。

**曲想と音楽の構造や背景などとの関わり**を理解するとは、その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを感じ取りながら、自己のイメージや感情と音楽の構造や背景などとの関わりを捉え、理解することである。なお、**背景など**としているのは、歌唱分野における「歌詞の内容」も含んでいるからである。**音楽の多様性について理解**するとは、単に多くの音楽があることを知るだけではなく、人々の暮らしとともに音楽文化があり、そのことによって様々な特徴をもつ音楽が存在していることを理解することである。「知識」の習得に関する指導に当たっては、主に次の2点が重要である。1点目は、音楽を形づくっている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるようにすること、2点目は、音楽に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解できるようにすることである。

**創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能**とは、創意工夫の過程でもった音楽表現に対する思いや意図に応じて、その思いや意図を音楽で表現する際に、自ら活用できる技能のことである。「技能」の習得に関する指導に当たっては、一定の手順や段階を追って身に付けることができるようにするのみでなく、変化する状況や課題などに応じて主体的に活用できる技能として身に付けることができるようにすることが重要である。

(2)の、**音楽表現を創意工夫**することが表現領域に関すること、**音楽のよさや美しさを味わって聴く**

ことが鑑賞領域に関することである。

**音楽表現を創意工夫する**とは、音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽で表現するかについて思いや意図をもつことである。**音楽のよさや美しさを味わって聴く**とは、曲想を感じ取りながら、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情を、音楽の構造や背景などと関わらせて捉え直し、その音楽の意味や価値などについて自分なりに評価しながら聴くことである。いずれも、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることが必要である。その過程においては、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫することが大切である。

(3)の、**音楽活動の楽しさ**は、表現や鑑賞の活動に取り組む中で、イメージや感情が音楽によって喚起されるなどの情動の変化によってもたらされるものである。**音楽を愛好する心情**とは、生活に音楽を生かし、生涯にわたって音楽を愛好しようとする思いである。**音楽に対する感性**とは、音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取るとき心の働きを意味している。生徒が音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして自ら音や音楽を捉えていくとき、生徒の音楽に対する感性が働く。こうした学習を積み重ねることによって、音楽に対する感性は豊かになり、生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうことにつながっていく。このように、音楽に対する感性を豊かにしていくことは、音楽科の特質に関わる重要なねらいと言える。**音楽に親しんでいく態度**とは、音楽科の学習が基盤となって生涯にわたって音楽に親しみ、そのことが人間的成長の一側面となるような態度のことである。**豊かな情操を養う**ことは、一人一人の豊かな心を育てるという重要な意味をもっている。情操とは、美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心をいい、情緒などに比べて更に複雑な感情を指すものとされている。音楽によって培われる情操は、直接的には美的情操が中心となるが、美しさを受容し求める心は、美だけに限らず、より善なるものや崇高なるものに対する心、すなわち、他の価値に対しても通じるものである。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 改定の基本的な考え方

- ・感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図る。
- ・音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深める学習の充実を図る。

### (2) 目標の改善

#### ① 教科の目標の改善

音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と規定し、「(1)知識及び技能」「(2)思考力、判断力、表現力等」「(3)学びに向かう力、人間性等」について示した。その育成に当たっては、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、学習に取り組めるようにする必要があることを示した。

#### ② 学年の目標の改善

教科の目標の構造と合わせ、「(1)知識及び技能」「(2)思考力、判断力、表現力等」「(3)学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。

### (3) 内容構成の改善

「A表現」「B鑑賞」に示していた各事項を、「A表現」では「知識」「技能」「思考力、判断力、表現力等」に、「B鑑賞」では、「知識」「思考力、判断力、表現力等」に分けて示した。

### (4) 学習内容の改善・充実

#### ① 「知識」及び「技能」に関する指導内容の明確化

「知識」に関する指導内容については、「曲想と音楽の構造との関わり」などを理解することに関する具体的な内容を、歌唱、器楽、創作、鑑賞の領域や分野ごとに事項として示した。

「A表現」の「技能」に関する指導内容については、具体的な内容を、歌唱、器楽、創作の分野ごとに事項として示した。そのことによって、音楽における技能は、「思考力、判断力、表現力等」の育成と関わらせて習得できるようにすべき内容であることを明確にした。

## ② 鑑賞の指導内容の充実

「B鑑賞」に、「生活や社会における音や音楽の意味や役割」、「音楽表現の共通性や固有性」について考えることを事項として示した。

## ③ 〔共通事項〕の指導内容の改善

従前の趣旨を踏まえつつ、事項アを「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力、事項イを「知識」に関する資質・能力として示した。

## ④ 言語活動の充実

「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫すること」を、「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっての配慮事項として示した。

## ⑤ 歌唱教材及び器楽教材の選択の観点の改善

歌唱及び器楽の教材を選択する際の配慮事項として「生活や社会において音楽が果たしている役割を感じ取れるもの」を新たに示した。

## ⑥ 我が国や郷土の伝統音楽に関わる指導の充実

歌唱や器楽の指導において、我が国の伝統的な歌唱や和楽器を扱う際の配慮事項として、「生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること」を新たに示した。

# 3 評価の観点及びその趣旨

| 観点            | 観点の趣旨  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。(※1)</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。(※2)</li> </ul> |
| 思考・判断・表現      | 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。                           |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。   |

※ 「知識・技能」の観点の趣旨は、知識の習得に関すること(※1)と技能の習得に関すること(※2)とに分けて示している。これは、学習指導要領の指導事項を、知識に関する資質・能力(事項イ)と技能に関する資質・能力(事項ウ)とに分けて示していること、技能に関する資質・能力を「A表現」のみに示していること等を踏まえたものである。また、「A表現」の題材の指導に当たっては、「知識」と「技能」の評価場面や評価方法が異なることが考えられる。したがって、「A表現」の題材では、評価規準の作成においても「知識」と「技能」に分けて設定することを原則とする。なお「B鑑賞」の題材では、※2の趣旨に対応する評価規準は設定しない。

# 第1学年 音楽科

## 1 学年の目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

## 2 内容及び内容の取扱い

|             |  |
|-------------|--|
| A<br>表<br>現 | <p>歌<br/>唱</p> <p>ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり</p> <p>(イ) 声の音色の響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり</p> <p>ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能</p> <p>(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能</p> <p>〔歌唱教材〕…(ア) 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切で、生徒にとって親しみがもてたり意欲が高められたり、生活や社会において音楽が果たしている役割を感じ取れたりできるもの。</p> <p>(イ) 民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、生徒や学校、地域の実態を考慮して、伝統的な声や歌い方の特徴を感じ取れるもの。</p> <p>〔共通教材〕…我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの。なお、各学年において、以下の共通教材の中から1曲以上を含めること。</p> <p>「赤とんぼ」「荒城の月」「早春賦」「夏の思い出」「花」「花の街」</p> <p>「浜辺の歌」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変声期及び変声前後の声の変化について気付かせ、変声期の生徒を含む全ての生徒の心理的な面についても配慮するとともに、変声期の生徒については適切な声域と声量によって歌わせるようにすること。</li> <li>・相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。</li> </ul> |
|-------------|--|

|             |  |
|-------------|--|
| 器<br>楽      | <p>ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>(イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり</p> <p>ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能</p> <p>(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能</p> <p>〔器楽教材〕…(ア) 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切で、生徒にとって親しみがもてたり意欲が高められたり、生活や社会において音楽が果たしている役割が感じ取れたりできるもの。</p> <p>・生徒や学校、地域の実態などを考慮した上で、指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用いること。なお、3学年を通じて1種類以上の和楽器を取り扱うこと。</p> |
| 創<br>作      | <p>ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。</p> <p>(ア) 音のつながり方の特徴</p> <p>(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴</p> <p>ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。</p> <p>・即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際、理論に偏らないようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること。</p>  |
| B<br>鑑<br>賞 | <p>ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。</p> <p>(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠</p> <p>(イ) 生活や社会における音楽の意味や役割</p> <p>(ウ) 音楽表現の共通性や固有性</p> <p>イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>(イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり</p> <p>(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性</p> <p>〔鑑賞教材〕…我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切なもの。</p> <p>・言葉で説明する活動を取り入れ、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかにできるように指導を工夫すること。</p>   |

|      |  |
|------|--|
| 共通事項 | 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。   |
|      | ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。                  |
|      | イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。   |
|      | ・「音楽を形づくっている要素」については、指導のねらいに応じて、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などから、適切に選択したり関連付けたりして指導すること。          |
|      | ・「用語や記号など」については、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(9)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。 |

### 3 評価の観点及びその趣旨

| 観点            | 観点の趣旨   |
|---------------|---|
| 知識・技能         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</li> </ul> |
| 思考・判断・表現      | 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。           |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。  |

## 第2学年および第3学年 音楽科

### 1 学年の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱，器楽，創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや，音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み，音楽活動の楽しさを体験することを通して，音楽文化に親しむとともに，音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

### 2 内容及び内容の取扱い

|             |  |
|-------------|--|
| A<br>表<br>現 | <p>ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり</p> <p>(イ) 声の音色の響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり</p> <p>ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能</p> <p>(イ) 創意工夫を生かし，全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能</p> <p>〔歌唱教材〕…(ア) 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち，指導のねらいに照らして適切で，生徒にとって親しみがもてたり意欲が高められたり，生活や社会において音楽が果たしている役割が感じ取れたりできるもの。</p> <p>(イ) 民謡，長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち，生徒や学校，地域の実態を考慮して，伝統的な歌い方の特徴を感じ取れるもの。</p> <p>〔共通教材〕…我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち，我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの。なお，各学年において，以下の共通教材の中から1曲以上を含めること。</p> <p>「赤とんぼ」「荒城の月」「早春賦」「夏の思い出」「花」「花の街」</p> <p>「浜辺の歌」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変声期及び変声前後の声の変化について気付かせ，変声期の生徒を含む全ての生徒の心理的な面についても配慮するとともに，変声期の生徒については適切な声域と声量によって歌わせるようにすること。</li> <li>・相対的な音程感覚を育てるために，適宜，移動ド唱法を用いること。</li> </ul> |
|-------------|--|



|             |   |
|-------------|---|
| 器<br>楽      | <p>ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり</p> <p>(イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり</p> <p>ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能</p> <p>(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能</p> <p>〔器楽教材〕…(ア) 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切で、生徒にとって親しみがもてたり意欲が高められたり、生活や社会において音楽が果たしている役割が感じ取れたりできるもの。</p> <p>・生徒や学校、地域の実態などを考慮した上で、指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用いること。なお、3学年を通じて1種類以上の和楽器を取り扱うこと。</p> |
| 創<br>作      | <p>ア 創作表現に関わる知識を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。</p> <p>(ア) 音楽や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴</p> <p>(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴</p> <p>ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。</p> <p>・即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際、理論に偏らないようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること。</p>   |
| B<br>鑑<br>賞 | <p>ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。</p> <p>(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠</p> <p>(イ) 生活や社会における音楽の意味や役割</p> <p>(ウ) 音楽表現の共通性や固有性</p> <p>イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>(イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり</p> <p>(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性</p> <p>〔鑑賞教材〕…我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切なもの。</p> <p>・批評する活動を取り入れ、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかにできるよう指導を工夫すること。</p>  |

|      |  |
|------|--|
| 共通事項 | 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。   |
|      | ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働き生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。                   |
|      | イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。   |
|      | ・「音楽を形づくっている要素」については、指導のねらいに応じて、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などから、適切に選択したり関連付けたりして指導すること。          |
|      | ・「用語や記号など」については、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(9)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。 |

### 3 評価の観点及びその趣旨

| 観点            | 観点の趣旨  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</li> </ul> |
| 思考・判断・表現      | 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。     |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。   |

第1学年 音楽科 年間計画（標準45時間）

|                   | 単 元 名                        | 時間 | 備 考 |
|-------------------|------------------------------|----|-----|
| 一<br>学<br>期<br>16 | オリエンテーション                    | 1  |     |
|                   | 無理のない自然な声の出し方で歌おう            | 5  |     |
|                   | タンギングや左手の運指を身に付けよう           | 3  |     |
|                   | 日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう           | 3  |     |
|                   | 弦楽器の豊かな表現を鑑賞しよう              | 3  |     |
|                   | 評価テスト                        | 1  |     |
| 二<br>学<br>期<br>21 | 曲の形式を生かして歌おう                 | 3  |     |
|                   | 全体の構成を考えながら音楽をつくろう           | 2  |     |
|                   | 歌曲の形式の違いを鑑賞しよう               | 3  |     |
|                   | 右手の運指や低音の奏法を身に付けよう           | 2  |     |
|                   | 音楽のまとまりを生かして合わせて歌おう          | 5  |     |
|                   | 箏曲や尺八曲の多様な表現を鑑賞しよう           | 3  |     |
|                   | 箏の基本的な奏法を身に付けよう              | 2  |     |
|                   | 評価テスト                        | 1  |     |
| 三<br>学<br>期<br>8  | 民謡の特徴を捉えてふさわしい声で歌おう          | 2  |     |
|                   | わが国やアジア地域の多様で豊かな声による表現を鑑賞しよう | 2  |     |
|                   | 篠笛の基本的な奏法を身に付けて表現を工夫しよう      | 3  |     |
|                   | 評価テスト                        | 1  |     |

第2学年 音楽科 年間計画（標準35時間）

|                       | 単 元 名                       | 時間 | 備 考 |
|-----------------------|-----------------------------|----|-----|
| 一<br>学<br>期<br><br>12 | 曲にふさわしい発声で歌おう               | 3  |     |
|                       | サミングや息のコントロールを身に付けて表現を工夫しよう | 2  |     |
|                       | リズムパターンをつくろう                | 3  |     |
|                       | オーケストラやパイプオルガンによる表現を鑑賞しよう   | 3  |     |
|                       | 評価テスト                       | 1  |     |
| 二<br>学<br>期<br><br>14 | 箏の基本的な奏法を身に付けて表現を工夫しよう      | 3  |     |
|                       | 郷土のさまざまな芸能を味わいながら鑑賞しよう      | 2  |     |
|                       | 曲の形式を生かして歌おう                | 3  |     |
|                       | 曲想を味わいながら合わせて歌おう            | 5  |     |
|                       | 評価テスト                       | 1  |     |
| 三<br>学<br>期<br><br>9  | 雅楽の多様な表現を鑑賞しよう              | 2  |     |
|                       | 平調子の特徴を生かして音楽をつくろう          | 2  |     |
|                       | 曲の特徴を生かして歌おう                | 2  |     |
|                       | 曲の構成のよさや面白さを味わいながら鑑賞しよう     | 2  |     |
|                       | 評価テスト                       | 1  |     |

第3学年 音楽科 年間計画（標準35時間）

|                       | 単 元 名                         | 時間 | 備 考 |
|-----------------------|-------------------------------|----|-----|
| 一<br>学<br>期<br><br>12 | 曲想を感じ取り，曲の特徴を生かして歌おう          | 3  |     |
|                       | オーケストラの豊かな表現を鑑賞しよう            | 2  |     |
|                       | 言葉のリズムや抑揚を生かして表現してみよう         | 3  |     |
|                       | リコーダーの基本的な奏法を身に付けてアンサンブルを楽しもう | 3  |     |
|                       | 評価テスト                         | 1  |     |
| 二<br>学<br>期<br><br>14 | 曲の形式を生かして歌おう                  | 3  |     |
|                       | オペラやバレエを味わいながら鑑賞しよう           | 3  |     |
|                       | 曲想を味わいながら合わせて歌おう 1            | 4  |     |
|                       | CMソングをつくろう                    | 3  |     |
|                       | 評価テスト                         | 1  |     |
| 三<br>学<br>期<br><br>9  | 曲想を味わいながら合わせて歌おう 2            | 3  |     |
|                       | 歌舞伎や文楽の豊かな表現を鑑賞しよう            | 3  |     |
|                       | ギターの基本的な奏法を身に付けて表現を工夫しよう      | 3  |     |

第3学年 音楽科 年間計画（標準35時間）【旧教科書】

|                   | 単 元 名              | 時間 | 備 考 |
|-------------------|--------------------|----|-----|
| 一<br>学<br>期<br>12 | 歌詞の内容や曲想の変化を味わって   | 4  |     |
|                   | 音楽の構造と曲想との関わりを理解して | 3  |     |
|                   | 言葉や旋律の繰り返しを生かして    | 4  |     |
|                   | 評価テスト              | 1  |     |
| 二<br>学<br>期<br>14 | 総合芸術に親しもう1         | 4  |     |
|                   | 混声合唱の深まり           | 6  |     |
|                   | 言葉の特性や曲想を生かして      | 3  |     |
|                   | 評価テスト              | 1  |     |
| 三<br>学<br>期<br>9  | 総合芸術に親しもう2         | 3  |     |
|                   | 郷土の民謡や芸能           | 3  |     |
|                   | ギターの豊かな表現          | 2  |     |
|                   | 評価テスト              | 1  |     |

# 第1学年〇組 音楽科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時（音楽室）

指導者 〇 〇 〇 〇

## 1 題 材 曲の形式を生かして歌おう

### 2 題材の目標

- (1) 曲想と形式や歌詞との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために音域や強弱に応じた発声、鼻濁音の発音などを身に付けることができる。
- (2) 曲想と形式や歌詞との関わりについての知識や、音域や強弱に応じた発声、鼻濁音の発音などの技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫している。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する活動に主体的・協働的に取り組もうとする。

### 3 学習の計画 (3時間完了)

第1時（本時） 「夏の思い出」の歌詞や旋律のまとまりを理解して表現し、強弱の設定を生かして表現を工夫する。

第2時 「赤とんぼ」の曲想を感じ取りながら表現を工夫して歌唱する。

第3時 「夏の思い出」や「赤とんぼ」をこれまでの学習で得た知識や技能を生かして表現する。

### 4 本時の学習指導

#### (1) 目 標

- 言葉の抑揚と順次進行による旋律との関わりを理解し、それを生かして歌うことができる。
- 歌詞の内容や曲想に関心を持ち、内容を理解しようとしたり、言葉の抑揚やアクセントを生かして歌ったりする活動に主体的に取り組もうとしている。

#### (2) 準備・資料

- 教師……範唱音源、ワークシート
- 生徒……タブレット

#### (3) 関 連

2年 音楽 曲の形式を生かして歌おう（曲想と形式との関わりを理解して、強弱や音域に応じた声で歌おう）

3年 音楽 曲の形式を生かして歌おう（曲の形式を生かして表現を工夫しよう）

#### (4) 学習過程

| 段階     | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|--------|--|----|--|
| 課題をつかむ | <p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 発声練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「あくびのうた」を歌う。</li> <li>○音階練習をする。</li> </ul> <p>(2) 夏のイメージについて話し合う。</p> <p>(3) 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">歌詞や旋律のまとまりを意識して、夏の思い出を歌おう。</div> | 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○歌う姿勢について確認する。</li> <li>○生徒の状況に応じて、発声の仕方や身体の使い方、呼吸についても指導する。</li> <li>○よい点についての言葉掛けを行い、歌う雰囲気づくりをする。</li> <li>○学習する「夏の思い出」の歌詞に着目できるように、夏をイメージする言葉を発表する場を設ける。</li> <li>○課題を示すことで、本時の学習の見通しをもたせる。</li> </ul> |
| 追      | <p>2 「夏の思い出」を歌う。</p> <p>(1) 歌詞を読み合わせ、内容を理解する。</p> <p>(2) 主旋律を歌う。</p>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○旋律の反復や変化などを考えさせ、P. 84を参照しながら二部形式の補足説明をする。</li> <li>○タブレットでまなびリンクを活用して、尾瀬の情景を確認させる。</li> </ul>  |

|                                     |   |    |  |
|-------------------------------------|---|----|--|
| 究<br>す<br>る<br><br>ま<br>と<br>め<br>る | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 範唱を聴き、曲の感じをつかむ。</li> <li>○ 夏の思い出の主旋律を歌う。</li> </ul>  | 20 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小楽節ごとの強弱の設定を確かめ、旋律のまとまりを意識して表現させる。</li> </ul> <p>評曲の全体をつかんで、「夏の思い出」を歌唱している。(歌唱)</p>   |
|                                     | <p>3 言葉と旋律の関係を感じ取り、歌い方を工夫する。</p> <p>(1) 旋律の流れや休符を意識して歌う</p> <p>(2) 細かな強弱記号を確認し、「咲いている」や「水の辺り」の歌い方を工夫して歌う。</p> <p>(3) 「はるかな尾瀬 遠い空」(3～4小節目)と(最後)の違いを理解し、曲想や歌詞に込められた思いを感じ取って歌う。</p> <p>(4) 適切な速度で歌ったり、伴奏の変化を味わったりしながら歌う。</p>                 | 40 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 抑揚や間を工夫させながら詩を朗読させ順次進行に気付かせたり、休符なしの教師の意図的な範読で休符の意味に気付かせたりする。</li> <li>○ 教科書P.19を参照しながら、鼻濁音の発音の仕方を理解し、強弱の設定や音域の高低から曲の山場を考えながら歌わせる。</li> <li>○ 同じ歌詞だが、旋律や強弱、フェルマータ、テヌートなどによる違いがあることを知覚させる。</li> <li>○ いろいろな速度で歌ったり、同じ歌の旋律に付けられたピアノの伴奏の響きの違いを感じ取らせたりする。</li> </ul> <p>評言葉の抑揚と順次進行による旋律を感じ取って歌っている。(歌唱)</p> |
|                                     | <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 「夏の思い出」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級を二つに分けて歌い、互いの歌を聴き合う。</li> <li>○ 本時の感想を書く。</li> </ul> <p>(2) 次時の授業について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「赤とんぼ」を歌うことについて知る。</li> </ul> | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時で学んだ歌詞の情景を思い浮かべたり、曲想を感じさせたりしながら歌わせる。</li> </ul> <p>評本時で学習した内容を振り返って歌唱したり感想をまとめたりすることができる。(歌唱、ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次時は本時に学んだことをふまえ、「赤とんぼ」を歌うことを伝える。</li> </ul>   |

(5) 本時の評価規準

- 言葉の抑揚と順次進行による旋律との関わりを感じ取り、それを生かして歌っている。(歌唱)
- 歌詞の内容や曲想に関心をもち、自分の言葉で感じたことをまとめたり、言葉の抑揚やアクセントを生かして歌おうとしたりしている。(歌唱、ワークシート)

## 5 備 考

(1) 学級の実態

- 本学級の生徒は、音楽が好きな生徒が多く、歌詞を音読したり、歌を歌ったりする活動に積極的である。しかし、歌唱活動における工夫に関しては、何を工夫すればよいのか分からないと答える生徒も多い。よって、本時は具体的に工夫するポイントを明示して、歌唱表現を高めていきたいと考える。

(2) 指導の力点

- 発声練習を行うことで、弱くてもしっかりと響く声が出せるようにする。
- 言葉と旋律との関係を感じ取らせるために、教師による意図的な範読をしたり、同じ歌詞のところの歌い方を比較させたりしながら学習させる。
- 教師が一方的に歌詞の意味を教えるのではなく生徒が自主的に考えたり、発表しやすくしたりするために、タブレットの写真などの視覚教材を効果的に活用し、歌唱活動につなげていく。

## 6 指導と評価



## 第2学年〇組 音楽科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時 (音楽室)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 題材 平調子の特徴を生かして音楽をつくろう

### 2 題材の目標

- (1) 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴を理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けることができる。
- (2) 平調子の構成音による特徴やリズムパターンの反復や組み合わせの特徴についての知識や、課題に沿った音やリズムパターンを選択する技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫することができる。
- (3) 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

### 3 学習の計画 (2時間完了)

- 第1時 例示されたリズムを活用し五つの音から自由に音を選択して、4小節の短い旋律をつくる。
- 第2時(本時) 4小節の短い旋律を二つつくって組み合わせ、「さくらさくら」の前奏または後奏として表現する。

### 4 本時の学習指導

- (1) 目標
  - 平調子の構成音による特徴やリズムパターンの反復や組み合わせの特徴を生かしながら、二つの旋律をつくり、組み合わせでまとまりのある創作表現を創意工夫することができる。
  - 創作した作品を、よりまとまりのある創作表現にするための学習に主体的・協働的に取り組もうとする。
- (2) 準備・資料
  - 教師……平調子に調弦した箏、ワークシート
- (3) 関連
  - 1年 音楽 日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう(言葉のリズムやまとまりを意識して音を選び、言葉のつながり方を工夫して短い旋律をつくる)
  - 3年 音楽 CMソングをつくろう(言葉のリズムや抑揚を捉えて言葉を選び、つなげ方を工夫してCMソングをつくる)

#### (4) 学習過程

| 段階     | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項   |
|--------|--|----|---|
| 課題をつかむ | 1 本時の学習内容をつかむ。<br>(1) 前時の復習をする。<br>○ 五つの音を確認する。<br>○ 口唱歌で「あ」～「え」のリズムパターンを確認する。<br>○ グループで交代しながら順番に前時で創作したメロディーを弾く。<br>(2) 学習課題をつかむ。<br>二つの旋律をつくって「さくらさくら」につなげよう。 | 10 | ○ 箏は3人のグループに1面ずつ配置する。<br>○ 平調子であることを思い出させる。<br><br>○ 2拍のリズムは、「ターアー」と発音し、正確に2拍伸ばすことを確認する。<br>○ 弾きながら口唱歌を唱えさせる。<br>○ 前時の工夫点を確認させる。<br>○ 旋律を二つづくり、それを「さくらさくら」の前奏または後奏にすることを知らせる。 |
|        | 2 「さくらさくら」の構成を理解する。<br>(1) リズムパターンの用いられ方とその効果を確認する。<br>・ 最初と最後は「う」が、中間部は「あ」「え」が繰り返されることで、戻ってきた感じが出る。<br>・ 「い」が最後の方で一回だけ使われているので終わる感じが出る。                         |    | ○ リズムパターンと「五つの音」の用いられ方を確認することを知らせる。<br>○ 教科書の〇に記号を書かせ、気付いたことはワークシートに記入させる。<br>○ 最後の小節のリズムは「あ」～「え」以外であることを理解させる。<br>○ 用いられ方だけでなく、効果についても考えるように促すことで、自分の創作にも生かせるようにする。          |

|   |  |    |  |
|---|--|----|--|
| 究<br>す<br>る<br><br><br><br><br><br>ま<br>と<br>め<br>る | (2) 「五つの音」の用いられ方とその効果を確認する。<br>・隣通しでつながっている部分が多く、穏やかな音楽に感じられる。<br>・「う」のリズムパターンでは同じ音が繰り返されているので、戻ってきた感じがする。   | 23 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ オクターブ違う音も同じ音だと考えさせる。</li> <li>○ 音の上下の動きに注目させる。</li> <li>○ リズムパターンとの関連性を考えさせる。</li> </ul>  |
|   | 3 4小節の旋律を二つをつくる。<br>(1) リズムパターンと「五つの音」からリズムや音を選択して「作品1」をつくる。<br>(2) 「作品1」とのつながりを考えながら、「作品2」をつくる。<br>(3) 二つの旋律をつなげて演奏し、グループで意見交換する。<br>・真ん中の部分だけリズムが繰り返されていて、安定感がある<br>・作品の最後が終わる感じのため後奏が合っている。 | 40 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「さくらさくら」の分析などを生かして、根拠や意図をもって創作させる。</li> <li>○ 発展としてリズムを変えることも可能だと伝える。</li> <li>○ リズムや音を選択した理由をワークシートに記入させる。</li> <li>○ 意見交換をした上で、「さくらさくら」の前奏にするか後奏にするかを根拠をもって決定させる。</li> </ul>  |
|   | 4 つくった作品を演奏し、作品を見直す。<br>(1) 二つのグループ合同で発表交流をする。<br>○ 前奏または後奏として「さくらさくら」を演奏する。<br>○ 作品の感想を伝え合う。<br>(2) 作品を見直し、修正する。<br>○ できた生徒から箏を弾いて確かめる。<br>○ グループで意見交換をする。<br>(3) 学習のまとめをする。                  | 50 | <p><b>評</b>まとまりのある旋律を創意工夫してつくっている。(発表交流, ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発表して意見交換をした上で作品を見直し、仕上げることを知らせる。</li> <li>○ 感想はワークシートに記入し、全員の発表が終わってから行わせる。</li> <li>○ 「さくらさくら」の演奏に自信がない生徒の発表では、別の箏で他の生徒と一緒に演奏し、サポートさせる。</li> <li>○ 今の作品のよさを生かして修正させる。</li> </ul> <p><b>評</b>よりまとまりのある作品にするために、グループで協力して作品を修正している。(発表交流, ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時からの創作活動を振り返らせる。</li> </ul> |

#### (5) 評価規準

- 平調子の構成音やリズムパターンの反復や組み合わせの特徴を生かしながら、二つの旋律をつくり、組み合わせて「さくらさくら」につなげ、まとまりのある創作表現を創意工夫している。(発表交流, ワークシート)
- 創作した作品をよりまとまりのある創作表現にするために、グループで意見交換をしながら、主体的に作品を修正しようとしている。(発表交流, ワークシート)

### 5 備 考

#### (1) 学級の実態

- 本学級の生徒は学習に対する意欲が高く、歌唱や器楽の活動に真剣に取り組むことができる。また、パート練習などのグループ活動では協力して表現を高めようとする姿勢が見られる。しかし、楽譜を読むのが苦手なために、創作に対して消極的なイメージをもつ生徒も多い。

#### (2) 指導の力点

- 1年生時で学習した「さくらさくら」を分析することで、音やリズムの組み合わせの仕方とその効果を知り、創作の際に手がかりとなるイメージをもたせる。
- 二つの旋律を組み合わせる「さくらさくら」につなげることを目標にすることで、全体の構成を意識し、根拠や意図をもって音やリズムを選択させる。
- グループ活動で作品を聴き合い意見交換をすることで、さまざまな音とリズムの組み合わせとその効果を知り、さらに自分の創作の客観的な評価を聞くことで、作品を修正するための手がかりをもたせたい。

### 6 指導と評価

### 第3学年〇組 音楽科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時 (音楽室)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 題材 オペラやバレエを味わいながら鑑賞しよう

#### 2 題材の目標

- (1) オペラ「アイーダ」の音楽の特徴と、物語の進行や登場人物の心情、舞台の表現との関わりについて理解することができる。
- (2) 音楽の特徴と、物語の進行や登場人物の心情、舞台の表現との関わりについての知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に、主体的・協働的に取り組もうとする。

#### 3 学習の計画 (3時間完了)

- 第1時 オペラ「アイーダ」第2幕第2場の場面設定を確認し、音楽の特徴と舞台の表現との関わりを理解しながら鑑賞する。
- 第2時(本時) 各登場人物の心情を想像し、物語の進行に応じた表現を聴き取り、その特徴を理解してよさや魅力などを考え、発表・交流する。
- 第3時 バレエ「白鳥の湖」について、音楽の特徴とバレエの表現との関わりを理解しながら鑑賞し、オペラとバレエを比較することで、自分なりの価値意識を考える。

#### 4 本時の学習指導

##### (1) 目標

- オペラ「アイーダ」の音楽の特徴と、物語の進行や登場人物の心情との関わりについて理解することができる。
- 舞台芸術における音楽の意味や役割について考え、オペラ「アイーダ」の音楽のよさや美しさを味わって聴く活動に主体的・協働的に取り組もうとする。

##### (2) 準備・資料

- 教師……鑑賞映像、ワークシート、デジタル教科書、ホワイトボード
- 生徒……タブレット

##### (3) 関連

- 1年 音楽 歌曲の形式の違いを鑑賞しよう(曲想の変化を物語の進行と関わらせながら鑑賞し、曲全体の構成を理解して、登場人物の心情を聴き取る)
- 2年 音楽 雅楽の多様な表現を鑑賞しよう(さまざまな雅楽の共通点や相違点を考えながら鑑賞し、雅楽の背景を理解して表現の特徴を聴き取る)
- 3年 音楽 歌舞伎や文楽の豊かな表現を鑑賞しよう(歌舞伎の音楽の特徴を舞台の表現と関わらせ、多様な表現を聴き取ったり、音楽と人形の表現とを関連付けて文楽を鑑賞したりする)

##### (4) 学習過程

| 段階    | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|-------|---|----|--|
| 課題をつか | 1 本時の学習課題を知る。<br>(1) 前時の復習をする。<br><br>(2) 本時の課題をつかむ。<br>登場人物の心情と音楽との関わりを聴き取ろう<br>(3) 各登場人物と声の種類を確認する。 |    | ○ 物語や登場人物を確認し、総合芸術としてのオペラの特徴を思い出させる。<br><br>○ 最後に「アイーダ」のよさや魅力を紹介文にしてまとめることを知らせる。<br>○ デジタル教科書P.34「主な登場人物とそ |

|                  |  |    |  |
|------------------|--|----|--|
| む                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○各登場人物とその声の種類を知る。</li> <li>○それぞれの声を聴いて、声の種類による音域や特徴を理解する。</li> </ul>  | 13 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○声の種類によってよく演じられる役割を他のオペラ作品の例を挙げて知らせる。</li> <li>○人物を分担をして鑑賞し、班での交流の後に、全体に発表することを伝える。</li> <li>○班長は班員の希望を聞いた上で、できるだけその班員の声の音域に近い登場人物を割り振るなど、根拠をもって決定させる。</li> <li>○6名以上の班については、音楽的に注目したい人物に複数割り振ったり、神官や合唱の担当をつくらせたりする。</li> <li>○担当でない登場人物についても、気付いたことがあればワークシートにメモを記入させる。</li> <li>○声だけでなくオーケストラの表現も聴き取るように促す。</li> <li>○疑問点やもっと詳しく知りたい内容について、納得いくまで話し合わせる。</li> </ul> |
| 追<br>究<br>す<br>る | <p>2 各登場人物の心情を想像し、物語の進行に応じた表現を聴き取る。</p> <p>(1) グループで、班員それぞれがどの登場人物に特に注目して鑑賞するかを班で話し合い、決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイダ      ・ラダメス</li> <li>・アムネリス    ・アモナスロ</li> <li>・エジプト王</li> </ul> <p>(2) 担当の登場人物に特に注目しながら鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【後半：エジプト王やラダメスによるアリアから】を鑑賞し、気付いたことをワークシートに記入する。</li> </ul> <p>(3) グループで交流し、意見を交換し話し合いながらワークシートを完成させる。</p> <p>(4) グループで、特に全体に伝えたい内容をホワイトボードにまとめ、代表者が発表し、全体で交流する。</p> | 40 | <p><b>評</b>音楽と物語の進行や登場人物の心情との関わりを理解している。</p> <p>(発表・ワークシート)</p>  |
| ま<br>と<br>め<br>る | <p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 第2幕第2場の主な場면을鑑賞する。</p> <p>(2) オペラ「アイダ」のよさや魅力をワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他の人に作品を紹介するような文章としてまとめる。</li> </ul>  | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○後半部分を中心に鑑賞させる。</li> <li>○今回の授業を通して発見したという感動が伝わるように書かせる。</li> </ul> <p><b>評</b>音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを理解し伝えようとしている。</p> <p>(ワークシート)</p>   |

#### (5) 本時の評価規準

- 登場人物の心情を表現しているオペラ「アイダ」の音楽の特徴を、物語の進行や心情の変化とともに理解することができる。 (発表・ワークシート)
- 舞台芸術における音楽の意味や役割について考え、オペラ「アイダ」の音楽のよさや美しさを理解し、紹介する活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。 (ワークシート)

## 5 備 考

### (1) 学級の実態

- 本学級の生徒は、学習に対する意欲は高く、歌を歌ったりリコーダーを吹いたりする活動には積極的である。しかし、各班には音楽活動の経験が少ない生徒もあり、互いの歌唱を聴いてアドバイスをし合う活動は活発ではない。今回の授業では、鑑賞に当たって特に注目する登場人物を分担し、その心情と音楽の関わりを調べることで、自信をもって鑑賞に取り組ませたい。

### (2) 指導の力点

- 生徒たちが特に注目する登場人物を自ら決定することで、責任感をもちながら自信をもって鑑賞活動に取り組ませる。
- 作品のよさや美しさを紹介文という形で表現することを意識させることで、主体的に協働してさまざまな面から作品の魅力を聴き取るように促す。

## 6 指導と評価

単元名 **オリエンテーション**配当時間 **1時間**

単元の目標 (1) 歌詞の内容を調べたり話し合ったりして内容を把握するとともに、明るく伸びやかに歌うことができる。  
 (3) 音楽の楽しさを味わい、授業に積極的に参加しようとする。また、年間の学習内容や音楽室の使い方を知り、目標をもって今後の授業に意欲的に取り組もうとする。

## 標準的な時間例

10260101\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど   |
|---|---|
| <p>1 楽しく授業に取り組むことができる雰囲気をつくり、音楽の学習に対する意欲をもつ。</p> <p>★授業に積極的に参加し、音楽のすばらしさを味わおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各小学校で共通している既習曲を歌う。</li> <li>○学習に必要な約束やきまり、音楽室の使い方を確認する</li> <li>○教科書を概観して、年間の学習内容や学習方法を知る。</li> </ul> <p>○校歌を歌唱する。</p> <p>○校歌の歌詞内容について、込められている想いを話し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を概観する際、テーマごとの扉ページを利用し、音楽の魅力に迫る発問をするなど音楽学習への喚起をさせたい。</li> <li>・校歌については本授業では導入的な位置付けとし、今後の授業の最初で継続的に歌うなど定着を図りたい。</li> </ul> <p>【評】既習曲や校歌を歌唱する活動を通して、「技能」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

各小学校での既習曲、学習内容を把握するとともに、生徒の実態を把握する。また、教科書を概観し、中学校での学習内容を知らせることにより、学習への意欲を喚起させ、積極的に授業に参加しようとする心構えをもたせる。

【共通事項】音色・旋律

## 単元名 無理のない自然な声の出し方で歌おう

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けることができる。
- (2) 声の音色や響き、音域と声の出し方との関わりを理解し、音域に応じた発声、母音の発音、歌う姿勢などの技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫することができる。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10260102\_001

【教材名】青空へのぼろう アニー・ローリー ◆希望という名の花を

(P.6～P.13)

【準備等】範唱音源、タブレット、デジタル教科書

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 「青空へのぼろう」の歌詞の内容、歌詞と旋律のまとまりとの関係を理解する。</p> <p>★「青空へのぼろう」を歌おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「青空へのぼろう」の歌詞を読み合わせ、歌詞の反復やまとまりを確かめながら内容を理解する。</li> <li>○「Let's Sing!歌うための準備」で歌うための姿勢や息のコントロールを参照し、各自で確認しながら歌唱する</li> </ul> <p>2 母音の発音や歌う姿勢、音域や強弱に応じた声の出し方を身に付けて表現する。</p> <p>★「青空へのぼろう」の全体の構造を理解し、曲想の変化を感じ取りながら表現を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Let's Sing!歌うための準備」の「母音の発音」を参照し、二分音符や付点二分音符などの音の長さのときの母音の発音に注意して歌う。</li> <li>○「青空へのぼろう」の全体の構造を理解し、曲想の変化を感じ取りながら表現を工夫する。</li> </ul> <p>○グループで確かめ合った内容を紹介して表現を発表し、学級全体で交流する。</p> <p>3 「アニー・ローリー」の旋律のまとまりを理解し、音域やオクターブ跳躍する際の発声などを身に付けて表現する</p> <p>★「アニー・ローリー」を歌おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「アニー・ローリー」の歌詞を確認し、旋律のまとまりを意識しながら歌う。</li> </ul> <p>○旋律のまとまりから全体の構造をとらえ、曲想の変化を感じ取りながら表現を工夫する。</p> <p>4～5 「青空へのぼろう」と「アニー・ローリー」の学習で得た知識や技能を生かして表現をもう一度工夫する。</p> <p>★グループごとに、表現を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループごとに、声の出し方や発音、歌う姿勢など、理解したり身に付けたりすることを確かめながら表現する</li> </ul> <p>○グループごとに確認し合った内容を紹介し、表現を発表しながら学級全体で交流する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットでまなびリンクを活用してA～Dの範唱を調べさせる。</li> <li>・教科書P.8を参照し、範唱を聴かせたり旋律と歌詞の関係を考えながら歌わせたりする。</li> </ul> <p>・B後半の「のぼろうよ」の音域や、Cのフォルテを意識させる。</p> <p>・歌詞と旋律のまとまりとの関係、強弱の設定や曲の山場を意識させて歌わせる。</p> <p>【評】声の音色や出し方、母音の発音、歌う姿勢などに気をつけて歌唱活動に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・グループの発表を整理し、学級全体で表現してもよい。</p> <p>【評】創意工夫してグループごとの歌唱表現に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・デジタル教科書を活用して、オクターブ跳躍する箇所の例示を確認させる。</p> <p>「青空へのぼろう」の活動を参考にして、音域やオクターブ跳躍する際の声の出し方、母音の発音などを再確認させる。</p> <p>【評】旋律のまとまりを意識しながら歌唱表現に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】グループごとに表現の工夫を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>【評】表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、主体的に歌唱表現を創意工夫する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「青空へのぼろう」を主教材にして、歌唱の基礎的な技能を身に付ける。「無理のない自然な声の出し方」とは、旋律のまとまりを感じ取りながら音域や強弱に応じた声の出し方、子音・母音の発声などを身に付けて表現することを目指す。また、Let's Sing!「歌うための準備」で姿勢や息のコントロール、母音の発音などを理解しながら技能を身に付けたり、「アニー・ローリー」や「希望という名の花を」では歌唱表現に必要なさまざまな技能を身に付けたりすることを目指す。

【共通事項】音色・旋律・強弱・構成

## 単元名 タンギングや左手の運指を身に付けよう

配当時間 3時間

単元の目標 (1) リコーダーの音色や響きと奏法の関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するためのタンギングや左手の運指などの技能を身に付けることができる。  
 (2) リコーダーの音色と奏法との関わり、曲想と音楽の構造との関わりを理解し、タンギングや左手の運指などの技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。  
 (3) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10260103\_001

【教材名】 リズム de ゴー しりとり歌 チャイニーズ・ダンス 喜びの歌 ◆オーラ・リー ◆メリーさんの羊 ◆カノン1 (P. 4～P. 9)

【準備等】 範奏音源、鑑賞音源、タブレット、ワークシート

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 タンギングやソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーとの関係を理解して、「リズム de ゴー」や「しりとり歌」を演奏する。<br/> <b>★</b>「リズム de ゴー」と「しりとり歌」を演奏しよう。<br/>         ○リコーダーの各部の名称、指穴の番号と指番号、ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーとの関係を理解し姿勢やかまえ方などを身に付ける。<br/>         ○ソプラノ・リコーダーまたはアルト・リコーダーの同じ運指で「リズム de ゴー」を演奏する。<br/>         ○ソプラノ・リコーダーまたはアルト・リコーダーの同じ運指で「しりとり歌」を演奏する。</p> <p>2 左手の運指を身に付けて、「チャイニーズ・ダンス」や「喜びの歌」を演奏する。<br/> <b>★</b>「チャイニーズ・ダンス」と「喜びの歌」を演奏しよう<br/>         ○2～4人のグループで「チャイニーズ・ダンス」を演奏する。<br/>         ○2～4人のグループで「喜びの歌」を演奏する。<br/>         ○グループごとに演奏を発表し、注意点などをワークシートにまとめる。</p> <p>3 「オーラ・リー」または「メリーさんの羊」のどちらかを選択し、まとめの演奏を発表する。<br/> <b>★</b>まとめの演奏を発表しよう。<br/>         ○2～4人のグループで「オーラ・リー」または「メリーさんの羊」のどちらかを選択し、まとめの演奏を発表する。<br/>         ○注意点などをワークシートにまとめる。</p> | <p>・教科書P.4「各部の名称」やP.5「姿勢とかまえ方」「指穴と番号と指番号」を参照し、ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの持ち方を確認させる。<br/>         ・タブレットでまなびリンクを活用して、タンギングの模範演奏を確認させる。<br/>         ・音程の違いを聴き取りながらタンギングを身に付けて表現させる。<br/> <b>【評】</b> 音色や響きを工夫し、タンギングや運指などを身に付けて表現する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・タブレットでまなびリンクを活用して、タンギングや左手の運指などを確認させる。<br/> <b>【評】</b> グループ演奏の練習に取り組む活動を通して、「技能」を評価する。<br/> <b>【評】</b> 他グループの演奏を、表現に関わる知識や技能と関連付けて鑑賞する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・タブレットでまなびリンクを活用して、「メリーさんの羊」についてタンギングや左手の運指を確認させる。<br/> <b>【評】</b> 今まで得た知識や技能を生かして曲を演奏する活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/> <b>【評】</b> 自分たちの演奏や他のグループの演奏を聴いて、音楽的な観点から感じたことをワークシートにまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

姿勢とかまえ方、指穴の番号と指番号を確認し、「リズム de ゴー」でタンギングを身に付けて演奏する。また、ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーを同じ運指で演奏することから関係性を理解し、「しりとり歌」「チャイニーズ・ダンス」を表現する。学習のまとめとして、アルト・リコーダーで「喜びの歌」「オーラ・リー」を、ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーのアンサンブルで「メリーさんの羊」を演奏する。カノン1で合わせて演奏することもできる。

【共通事項】 音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ

## 単元名 日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 言葉の抑揚やリズムによる音のつながり方の特徴を理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために歌詞の言葉の抑揚に基づいて音を選択する技能を身に付けることができる。
- (2) 言葉の抑揚やリズムによる音のつながり方の特徴を理解し、歌詞の言葉の抑揚に基づいて音を選択する技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫することができる。
- (3) 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10260104\_001

【教材名】 日本語の抑揚を活用する旋律づくり (P. 32～P. 33)

【準備等】 タブレット、デジタル教科書、ワークシート

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 七五調の言葉のまとまりを感じ取り、五線譜を参照しながら短い旋律を表現する。</p> <p>★言葉の抑揚を感じ取り、旋律で表現しよう。</p> <p>○七五調の言葉のまとまりを感じ取り、リズムをつけて表現する。</p> <p>○短い歌詞の抑揚を感じ取り表現する。</p> <p>○五線譜を参照しながら短い旋律を表現する。</p> <p>2 七五調の言葉や作った歌詞にリズムや音程をつけて旋律をつくる。</p> <p>★自分で決めた言葉にリズムや音程をつけて、旋律で表現しよう。</p> <p>○身の回りの七五調の言葉や作った歌詞をさまざまなリズムで表現する。</p> <p>○七五調の言葉や作った歌詞に、言葉の抑揚を考えて線で表す。</p> <p>○言葉の抑揚に合わせ、指定された3音から選択して旋律をつくる。</p> <p>3 作った旋律を発表し、5音の旋律に作りかえる。</p> <p>★創作した旋律を広げよう。</p> <p>○作った旋律を発表し、言葉のリズムや抑揚をどのように生かしたか説明する。</p> <p>○選択する音を5音に変えて旋律を作りかえる。</p> | <p>・身の回りの七五調の言葉を探して、発表させる。</p> <p>・タブレットでまなびリンクを活用して、拍のカウントを聞きながら歌詞のリズムを確かめさせる。</p> <p>・活動2を参考にして、「青い空には 白い雲」のリズムと抑揚を関連させながら表現させる。</p> <p>・活動3を参考にして、歌わせたりリコーダーで表現させたりする。</p> <p>・抑揚や選択する音を変え、旋律がどのように変わったか自分の考えをワークシートにまとめさせる。</p> <p>【評】 旋律を変えて、どのように変わったか自分の言葉で説明する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <p>・活動1を参考にして、教科書やワークシートに歌詞とリズムを記録させる。</p> <p>・活動2を参考にして、教科書やワークシートに抑揚を線で表して記入させる。</p> <p>・タブレットでまなびリンクを用いて、ワークシートを活用してもよい。</p> <p>・リコーダーやキーボードを用いて「ミ・ソ・ラ」の3音で表現させる。</p> <p>【評】 3音から選択して旋律をつくる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・メトロノームで拍を聴き取りながら発表させる。</p> <p>・必要に応じて、七五調の言葉をつなげたり繰り返したりして、4小節や8小節の旋律をつくらせてもよい。</p> <p>【評】 学習を生かして旋律をつくりかえる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>【評】 選択音を増やし、旋律をつくりかえる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元では、七五調の短い歌詞を作り、言葉の抑揚やまとまりなどを生かして短い旋律を作る学習を展開する。「日本語の抑揚を生かした」とは、言葉の抑揚を指定された3音「ミ・ソ・ラ」の選択に活用することで、七五調の歌詞を旋律のまとまりと関連させて工夫することを目指すものである。また、旋律のまとまりは言葉のリズムとも関連するため、これらを合わせて創作表現を工夫する。

【共通事項】 音色・リズム・旋律・構成



## 単元名 弦楽器の豊かな表現を鑑賞しよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想とリトルネッロ形式やソネットとの関わりについて理解することができる。  
 (2) 曲想とリトルネッロ形式やソネットとの関わりを理解したり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。  
 (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10260105\_001

【教材名】「春」第1楽章 「秋」第1楽章 ◆弦楽合奏のセレナード

(P. 38～P. 43)

【準備等】鑑賞音源、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| <p>1 「春」第1楽章が弦楽合奏による表現であることを確認し、ソネットと音楽の関係を理解しながら鑑賞する。<br/> ★「春」第1楽章を聴こう。<br/> ○「春」第1楽章の冒頭部を視聴する。</p> <p>○春の様子を表したソネットがつけられていることを理解し、それを音楽でどのように表しているか考える。</p> <p>2 「春」第1楽章がリトルネッロ部とエピソード部によって音楽全体が構成されていることを理解し、ソネットとの関係を整理しながら曲想を感じ取りながら価値意識を考える。<br/> ★「春」第1楽章の構成を知ろう。<br/> ○ソネットとリトルネッロ形式の関係を確認する。</p> <p>○曲想の変化とリトルネッロ形式やソネットとの関わりを理解し、気がついたことや面白いと思ったことをワークシートにまとめる。</p> <p>○ワークシートの内容を発表し合い、他者の考えを参考にしながらまとめの鑑賞をしてワークシートを整える。</p> <p>3 「秋」第1楽章の曲想とリトルネッロ形式との関わりを理解しながら鑑賞する。<br/> ★「春」第1楽章と「秋」第1楽章を聴き比べてみよう。<br/> ○「秋」のソネットを確認する。<br/> ○リトルネッロ部を聴取し、気がついたことや面白いと思ったことをワークシートに記録する。</p> <p>○ワークシートの内容を発表し合い、他者の考えを参考にしながら再度鑑賞をする。<br/> ○「春」と「秋」の似ているところ、違っているところについて気がついたことや聴き取ったことを発表し合う。</p> <p>○「春」第1楽章と「秋」第1楽章のそれぞれについて自分なりに考えた魅力やよさなどをワークシートにまとめる。</p> | <p>・弦楽合奏による表現であることを確認させる</p> <p>タブレットでまなびリンクを活用して、弦楽合奏で演奏されていることを確かめさせる。<br/> ・タブレットでまなびリンクを活用して、B～Eの演奏を聴かせることでソネットをどのように表しているかを考えさせる。<br/> 【評】ソネットが音楽でどのように表しているか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ソネットAを前半と後半に分け、後半部分が反復されていることと、B以降のソネットはエピソード部につけられていることを確認させる。<br/> ・リトルネッロ部やエピソード部を確認しながら聴取させ、気がついたことなどメモを取りながら鑑賞させる。<br/> 【評】曲想と音楽との構造の関わりを理解して鑑賞する活動を通して、「知識」を評価する</p> <p>【評】他者の考えを参考にして自分なりに考えて鑑賞する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・エピソード部をはさんで5回往復していることを理解させる。<br/> 【評】「秋」第1楽章を鑑賞する活動を通して「知識」を評価する。<br/> ・ワークシートの内容を交流することで、他者の聴き方や考え方を参考にさせる。<br/> 【評】「春」と「秋」の比較鑑賞をした意見を発表交流する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br/> 【評】これまでの学習をワークシートにまとめる活動を通して、「知識」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「春」第1楽章を主教材にして、曲想とリトルネッロ形式による音楽の構造との関わりを理解したり、ソネットを音楽でどのように表しているかを聴き取ったりしながら、音楽に対する価値意識を考える学習を展開する。そして「秋」第1楽章と比較鑑賞することで、曲想とリトルネッロ形式やソネットとの関連について理解を深める。また、「弦楽合奏のセレナード」では、弦楽合奏による表現の豊かさを味わって鑑賞する。

【共通教材】音色・旋律・強弱・形式・構成

## 単元名 曲の形式を生かして歌おう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と形式や歌詞との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために音域や強弱に応じた発声、鼻濁音の発音などを身に付けることができる。
- (2) 曲想と形式や歌詞との関わりについての知識や、音域や強弱に応じた発声、鼻濁音の発音などの技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を工夫することができる。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10260201\_001

【教材名】夏の思い出 赤とんぼ ◆この道 (P. 14～P. 19)

【準備等】範唱音源、ワークシート、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 「夏の思い出」の歌詞や旋律のまとまりを理解して表現し、強弱の設定を生かして表現を工夫する。</p> <p>★「夏の思い出」を歌おう。</p> <p>○「夏の思い出」の歌詞を読み合わせ、内容を理解したり作詞者が思い浮かべた情景を想像したりする。</p> <p>○歌詞と旋律の関係を4小節ごとで捉え、表現する。</p> <p>○強弱の設定に基づいて工夫する内容を教科書やワークシートにまとめ、発表する。</p> <p>2 「赤とんぼ」の曲想を感じ取りながら表現を工夫して歌唱する。</p> <p>★「赤とんぼ」の曲想を感じ取りながら歌おう。</p> <p>○「赤とんぼ」が一部形式であることを理解する。</p> <p>○「赤とんぼ」の曲想を感じ取りながら表現する。</p> <p>3 「夏の思い出」や「赤とんぼ」をこれまでの学習で得た知識や技能を生かして表現する。</p> <p>★「夏の思い出」や「赤とんぼ」の表現を工夫して歌おう。</p> <p>○「夏の思い出」や「赤とんぼ」の表現の工夫をワークシートに整理し、グループで発表する。</p> <p>○これまでに得た知識や技能を生かして、歌唱する。</p> | <p>・旋律の反復や変化などを考えさせ、P. 84を参照しながら二部形式の補足説明をする。</p> <p>・タブレットでまなびリンクを活用して、尾瀬の情景を確認させる。</p> <p>・小楽節ごとの強弱の設定を確かめ、旋律のまとまりを意識して表現させる。</p> <p>【評】「夏の思い出」を歌唱する活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>・P. 19を参照しながら、鼻濁音の発音の仕方を理解し、強弱の設定や音域の高低から曲の山場を考えながら歌わせる。</p> <p>【評】「夏の思い出」の表現の工夫を考えて発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・歌詞の内容、跳躍進行を多用した旋律とそのまとまり、一部形式などについて「夏の思い出」と比較しながら理解させる。</p> <p>【評】「赤とんぼ」を歌唱する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・「赤とんぼ」の旋律の特徴や形式を生かした表現の工夫について考えさせ、教科書やワークシートにまとめさせる。</p> <p>【評】「赤とんぼ」の表現の工夫を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】曲にふさわしい表現の工夫を考えてグループで発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでに得た知識や技能を生かして歌唱する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>【評】主体的・協働的に歌唱する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「夏の思い出」を主教材にして、順次進行を多用した旋律、旋律のまとまりと二部形式との関係を理解して曲想を感じ取りながら表現することを目指す。そして、日本語の発音、強弱や音域に応じた発声などの基礎的な技能を身に付けながら表現を工夫する。「赤とんぼ」では一部形式や跳躍進行が多用されていることなどを理解して表現を工夫し、「この道」ではこれらの学習を生かして歌詞と旋律のまとまりとの関係に着目する。

【共通事項】リズム・旋律・強弱・形式・構成

## 単元名 全体の構成を考えながら音楽をつくろう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について、表現したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けることができる。
- (2) 言葉のリズムの反復や重なり方などの特徴を理解し、テーマに沿って言葉のリズムを感じ取りながら擬音語・擬声語などを選択する技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫することができる。
- (3) 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10260202\_001

【教材名】擬声語や擬態語を活用する音楽づくり

(P. 34～P. 35)

【準備等】デジタル教科書

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 自然や動物、物が発する音や、様子を表す言葉を理解し例示のテーマと言葉で表現する。</p> <p>★テーマを表現してみよう。</p> <p>○自然や動物、物が発する音や、様子を表す言葉を理解する。</p> <p>○例示のテーマと言葉で表現する。</p> <p>2 グループでストーリーを検討し、構成や全体のまとまりを考えて音楽をつくる。</p> <p>★グループで音楽をつくろう。</p> <p>○グループでテーマを検討し、擬音語や擬声語などの候補を決める。</p> <p>○グループでストーリーを検討し、構成や全体のまとまりを考えて音楽をつくる。</p> <p>○グループでつくった音楽を発表する。</p> | <p>・教科書の例を参照し、知っている擬音語・擬声語などを発表させる。</p> <p>・ア～エの分担を決めて、例示されたストーリーを表現させる。</p> <p>分担を変えて表現させたり、構成や全体のまとまりを検討し直したりさせながら、表現を工夫させる。</p> <p>・デジタル教科書を活用して、例示を学級全体で参照しながら、反復や重なり方を検討させる。</p> <p>【評】グループごとに例示されたテーマやストーリーに沿った表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】主体的・協働的に音楽をつくる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】言葉のリズムや反復や重なり方などを工夫し、擬音語・擬声語を選択して作った音楽を発表する活動を通して、「技能」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元では、擬音語・擬声語などを使って簡単なストーリーを表現する。ストーリーと関連する四つの擬音語・擬声語を選び、それらを重ねたり反復させたりして表現を工夫する。さらに、担当するア～エの擬音語・擬声語を表現する際に、声の音色やリズム、速さや強弱などを工夫し、他の担当との関わりを感じ取りながら表現することも考えられる。

【共通事項】音色・リズム・テクスチャ・構成

## 単元名 歌曲の形式の違いを鑑賞しよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 歌曲の形式の相違や特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解することができる。
- (2) 歌曲の形式の相違や特徴と歴史的背景との関わりを理解したり生かしたりしながら、作曲当時の歌曲の意味や形式の違いについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10260203\_001

【教材名】魔王（シューベルト） 魔王（ライヒャルト） ◆野ばら（シューベルト）

(P. 44～

【準備等】ワークシート、デジタル教科書

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 シューベルトの「魔王」の物語の内容や三人の登場人物の行動や心情を理解し、表現の特徴を聴き取る。</p> <p>★登場人物ごとの表現を理解して、「魔王」を鑑賞しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「魔王」の物語のあらすじを理解する。</li> <li>○登場人物ごとに表現を聴取し、それぞれの特徴を学級全体で交流しながらワークシートにまとめる。</li> </ul> <p>2 音楽の構造を理解し、曲想を感じ取りながらシューベルトの「魔王」を鑑賞する。</p> <p>★音楽の構造と曲想を関わらせて、「魔王」を鑑賞しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各登場人物の表現の特徴と曲想の変化を関わらせながら鑑賞する。</li> <li>○通作歌曲による形式を理解し、「魔王」の面白さや魅力などについて自分なりの考えをワークシートにまとめる</li> </ul> <p>3 ライヒャルトの「魔王」とシューベルトの「魔王」を比較鑑賞する</p> <p>★2つの「魔王」を聴き比べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ライヒャルトの「魔王」を鑑賞する。</li> <li>○ライヒャルトの「魔王」とシューベルトの「魔王」を比較して、感じたことをワークシートにまとめる。</li> <li>○ワークシートの内容を発表して交流し、再度鑑賞して自分の考えを整理する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・語り手やピアノ伴奏の表現についても聴き取り、まとめさせる。</li> </ul> <p>【評】登場人物ごとの表現の特徴を聴取しながら鑑賞する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書を活用して、簡易譜に聴き取った特徴を記入し、発表内容を整理する。</li> </ul> <p>【評】登場人物の表現の特徴や音楽の構造と曲想の変化の関連を意識して鑑賞する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ物語で、別の作曲者が作った作品であることをおさえる。</li> <li>・有節歌曲による形式を理解させ、違いを意識しながらライヒャルトの「魔王」の面白さや魅力などについてまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】2曲の「魔王」を聴き比べ、それぞれのよさや美しさを味わって鑑賞する活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「魔王」（シューベルト）を主教材にして、各登場人物の表現の特徴と通作歌曲による音楽の構造を理解し、曲想を感じ取りながら音楽に対する価値意識を考える学習を展開する。この学習を生かして「魔王」（ライヒャルト）では、有節歌曲による音楽の構造を理解し、音楽の特徴を聴き取りそれぞれの曲想を味わいながら鑑賞することを目指す。「野ばら」（シューベルト）は、他の作品と比較鑑賞することで学習の深まりを期待する。

【共通事項】旋律・テクスチャ・強弱・形式・構成

## 単元名 右手の運指や低音の奏法を身に付けよう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) アルト・リコーダーの音色や響きと奏法との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かし、他の声部の音を聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) アルト・リコーダーの音色や響きと奏法との関わりを理解し、他の声部の音を聴きながら他者と合わせて演奏する技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。
- (3) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10260204\_001

【教材名】 うみ アメージング・グレイス ◆ ロング・ロング・アゴー ◆ ソナタK. 331 (P. 10～P. 11)

(P.

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 アルト・リコーダーの右手の運指と息の出し方を身に付けて演奏する。</p> <p>★「うみ」「アメージング・グレイス」を演奏しよう。</p> <p>○アルト・リコーダーの右手の運指と息の出し方を確認する。</p> <p>○右手の運指と息の出し方を生かして、「うみ」を演奏する。</p> <p>○右手の運指と息の出し方を生かして、「アメージング・グレイス」を演奏する。</p> <p>2 アルト・リコーダーの新たな右手の運指を身に付けて演奏する。</p> <p>★「ロング・ロング・アゴー」または「ソナタK. 331」を演奏しよう。</p> <p>○「ロング・ロング・アゴー」または「ソナタK. 331」を演奏する。</p> <p>○演奏する際の注意点などをワークシートにまとめる。</p> | <p>・練習1を用いて右手の運指と息の出し方を確認させる。</p> <p>・グループごとに演奏させてもよい。</p> <p>【評】右手の運指と息の出し方を考えて「アメージング・グレイス」を演奏する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・曲に入る前に、練習2で右手の運指を確認させてもよい。</p> <p>【評】右手の運指や息の出し方を意識して演奏する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】右手の運指や息の出し方の工夫をワークシートにまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「うみ」「アメージング・グレイス」ではアルト・リコーダーの右手の運指を確認し、息の出し方を工夫しながら演奏する。「ロング・ロング・アゴー」では、アルト・リコーダーの音色を聴き取りながら、低い音を表現する奏法を身に付けることを目指す。「ソナタK. 331」では、旋律のまとまりを工夫し、互いの音を聴き取りながら合わせて演奏する。

【共通事項】 音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ

## 単元名 音楽のまとまりを生かして合わせて歌おう

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。  
 (2) 曲想と音楽の構造との関わりを理解し、全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫することができる。  
 (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10260205\_001

【教材名】明日を信じて 飛び立とう君の空へ

(P. 20～P. 23)

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど   |
|---|---|
| <p>1 「明日を信じて」の主旋律を担当するパートを確認する<br/>           ★「明日を信じて」を歌おう。<br/>           ○「明日を信じて」の範唱を聴取し、主旋律の現れ方を確認する。<br/>           ○女声と男声のパートに分かれて歌う。</p> <p>2～3 曲の山場や各パートの役割を考え、曲想の変化を感じ取りながらパートごとに表現を工夫する。<br/>           ★「明日を信じて」の表現を工夫して歌おう。<br/>           ○各パートで主旋律の現れ方や強弱の設定などを確認し、曲の山場の表現の工夫を考え、ワークシートにまとめる<br/>           ○パートごとに考えた表現の工夫を発表し、表現する。</p> <p>○学級として表現を工夫する内容を整理し、まとめの表現をする。</p> <p>4～5 これまでの学習で得た知識や技能を生かして「飛び立とう君の空へ」の表現を工夫する。<br/>           ★「飛び立とう君の空へ」を歌おう。<br/>           ○「飛び立とう君の空へ」の範唱を聴取し、主旋律の現れ方を確認する。</p> <p>○「明日を信じて」の表現の工夫を「飛び立とう君の空へ」に生かし、学級全体で表現を工夫した内容を整理して表現をする。</p> | <p>・主旋律を意識させるため、主旋律を担当している場合は手を上げて歌わせてもよい。<br/>           【評】それぞれのパートを歌唱する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>【評】曲の山場の表現の工夫を考え発表し、表現する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>           ・必要に応じて、P. 21「指揮をしてみよう」を活用して強弱を意識した指揮の仕方を説明する。</p> <p>・デジタル教科書を活用し、P. 25「変声と混声合唱」を提示し、パートの役割を確認しながら活動させる。<br/>           【評】「明日を信じて」の表現の工夫を生かして「飛び立とう君の空へ」を合唱する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「明日を信じて」を主教材にして、パートの役割を理解し全体の響きや各声部を聴取しながら表現を工夫する。そして、楽曲全体の構造（1 冒頭 8 小節：斉唱、2 続く 8 小節：混声合唱、3 これ以降）を演奏形態の変化とともにとらえ、曲想の変化を感じ取りながら合唱で表現する技能を身に付ける。「飛び立とう君の空へ」では、「明日を信じて」と音楽の構造を比較し、担当するパートの役割を確認しながら表現を工夫する。

【共通事項】旋律・テクスチャ・強弱・構成

## 単元名 箏曲や尺八曲の多様な表現を鑑賞しよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解することができる。
- (2) 箏や尺八の音色や調弦による響き、音楽の構造などの特徴とその多様性を理解したり生かしたりしながら、箏曲と尺八曲との共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10260206\_001

【教材名】六段の調 鹿の遠音 ◆日本とアジアをつなぐ音

(P. 48～P. 53)

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 箏の音色、奏法と表現の特徴を聴き取り、箏曲「六段の調」が段物による構造であることを理解して、曲想の変化を感じ取りながら鑑賞する。</p> <p>★箏曲「六段の調」を聴こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○箏の発音原理や奏法に着目しながら箏曲「六段の調」の初段を鑑賞する。</li> <li>○初段冒頭をP. 49の唱歌を表現しながら鑑賞し、後押しや引ききなどの奏法と関わる音色の変化や旋律の装飾を聴き取る。</li> <li>○段物について理解し、曲想の変化を感じ取りながら聴き取った各段の表現の特徴をワークシートにまとめる。</li> <li>○ワークシートの内容を交流し、再度鑑賞して自分のワークシートを整理する。</li> </ul> <p>2 尺八曲「鹿の遠音」が日本の尺八によって表現されることを理解し、曲想を感じ取りながら鑑賞する。</p> <p>★尺八曲「鹿の遠音」を聴こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の尺八による表現、尺八の発音原理や奏法などに着目しながら尺八曲「鹿の遠音」を鑑賞する。</li> <li>○箏曲「六段の調」と比較しながら鑑賞し、気がついたことをワークシートにまとめて交流する。</li> </ul> <p>3 箏曲「六段の調」と尺八曲「鹿の遠音」の特徴や多様性について理解して鑑賞する。</p> <p>★箏曲と尺八曲を聴き比べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○もう一度尺八曲「鹿の遠音」を鑑賞し、箏曲「六段の調」と尺八曲「鹿の遠音」の特徴をワークシートにまとめる。</li> <li>○整理した内容を発表し合い、それぞれを鑑賞してよさやおもしろさについて考え、再度ワークシートを整理する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平調子」とその構成音を理解し、箏またはピアノなどで響きを聴き取らせる。</li> <li>・デジタル教科書を活用して唱歌を確認しながら表現させる。</li> </ul> <p>【評】段物による構造などの箏曲の特徴について理解して鑑賞する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の演奏者の表現や、生田流と山田流の表現を聴き比べさせる。</li> </ul> <p>【評】比較鑑賞から共通性や固有性を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて尺八の種類、奏法、基本となる音階などについて補足説明する。</li> </ul> <p>【評】音色や響き、音楽の特徴を考えながら比較鑑賞する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】箏と尺八の特徴をまとめる活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「六段の調」では、箏の発音原理や様々な奏法などに着目し、音楽の構造となる「段物」による構成を理解して鑑賞する。そして、楽曲全体の曲想や各段の曲想の変化を感じ取りながら箏曲の特徴を理解し聴き深める。また、Let's Try!で箏の演奏を体験したり「鹿の遠音」と比較鑑賞したりすることで、我が国の音楽の多様性を理解する。さらに、「日本とアジアをつなぐ音」ではグージョン（古箏）やカヤグムと比較し、共通性や固有性からそれぞれの特徴を理解する学習へと発展させる。

【共通事項】音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・構成

## 単元名 箏の基本的な奏法を身に付けよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 箏の音色と奏法との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するための右手の使い方や縦譜の読み方などの技能を身に付けることができる。  
 (2) 箏の音色と奏法との関わりを理解し、右手の使い方や縦譜の読み方などの技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。  
 (3) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10260207\_001

【教材名】「練習曲 1」「練習曲 2」「さくらさくら」(P. 36～P. 40)

【準備等】タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 箏の各部の名称や弦名、角爪と丸爪の違い、平調子の調弦を理解し、奏法を身に付けて「練習曲 1」と「練習曲 2」を表現する。<br/>       ★箏を弾いてみよう。<br/>       ○P. 36「各部の名称」や「弦名」を実際の箏で確認し、平調子の響きを聴き取る。<br/>       ○P. 37「爪」を参照し実際に爪をはめ、右手の使い方を理解しながら表現する。<br/>       ○P. 38「姿勢とかまえ方」「親指による基本的な奏法」を参照し、右手の使い方を確認する。<br/>       ○「練習曲 1」「練習曲 2」を表現する。</p> <p>2 縦譜の読み方を理解し、「さくらさくら」の曲想を感じ取りながら右手の使い方を身に付けて演奏する。<br/>       ★「さくらさくら」を弾こう。<br/>       ○P. 40「さくらさくら」の縦譜の読み方を理解し、右手の親指を使って表現する。<br/>       ○少人数で「さくらさくら」を演奏し、確認し合ったことや表現の際に注意したことをワークシートにまとめる。</p> | <p>・タブレットでまなびリンクを活用して、平調子の音を確認させる。<br/>       ・タブレットでまなびリンクを活用して、右手の使い方を確認させる。<br/>       ・演奏する際の気をつける点をワークシートにまとめさせてもよい。<br/>       【評】箏の演奏の仕方に気をつけて「練習曲 1」と「練習曲 2」を表現する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>【評】弦の弾き方や姿勢などを工夫し、「さくらさくら」を表現する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>       【評】主体的・協働的に学習に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

箏の各部の名称、柱の立て方、爪の付け方、生田流と山田流の違いを理解し、右手の親指による基本的な奏法を身に付ける。「練習曲 1」「練習曲 2」では、かまえ方、爪の付け方、親指の動きなどを、まなびリンクを活用し確かめながら演奏する。また、二つの練習曲を合わせて演奏し、平調子の響きを味わいながら基本的な奏法を身に付ける。「さくらさくら」では、縦譜の読み方を理解し曲想を感じ取りながら表現を工夫する。

【共通事項】音色・リズム・速度・旋律



単元名 民謡の特徴を捉えてふさわしい声で歌おう 配当時間 2時間

単元の目標 (1) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。  
 (2) 声の音色や民謡の表現に応じた発声との関わりを理解し、囃ことばや作業の動作に応じた拍節の取り方や、音頭一同形式で合わせて歌う技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫することができる。  
 (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

### 標準的な展開例

10260301\_001

【教材名】ソーラン節 かりぼし切り歌 ◆谷茶前 (P. 28～P. 31)

【準備等】ワークシート、デジタル教科書、範唱音源

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 「ソーラン節」の歌う目的や作業の動作との関連を理解し、「ソーラン節」の表現を工夫する。<br/> <b>★</b>「ソーラン節」を歌ってみよう。<br/>         ○「ソーラン節」の歌詞の内容を理解し、旋律を歌う。<br/>         ○「ソーラン節」の範唱を鑑賞し、自分たちの表現との相違点を整理する。<br/>         ○声の出し方や音頭一同形式による表現を理解し、「ソーラン節」の表現を工夫する。</p> <p>2 「ソーラン節」と「かりぼし切り歌」を比較し、共通性や固有性を考え、歌い方の特徴を理解して表現をする。<br/> <b>★</b>「かりぼし切り歌」を歌ってみよう。<br/>         ○「かりぼし切り歌」の旋律を、P. 29の「民謡譜例」を参照しながら聴き取る。<br/>         ○「ソーラン節」との共通性、またそれぞれの固有性についてグループで話し合い、ワークシートにまとめて発表・交流する。<br/>         ○「かりぼし切り歌」の範唱を参考にしながらグループごとに表現を工夫する。</p> <p>○グループごとに「かりぼし切り歌」を発表する。</p> | <p>・手拍子を打ちながら「ソーラン節」を表現させてもよい。<br/>         ・自分たちの表現と比べて気がついたことをワークシートにまとめさせる。<br/> <b>【評】</b> 声の出し方や音色、表現などを聴き取る活動を通して、「技能」を評価する。<br/>         ・グループごとに「ソーラン節」の背景を調べ音頭一同に分かれて表現させる。<br/>         ・グループごとに表現を工夫して、「ソーラン節」を発表させる。<br/>         必要に応じてニシン漁の様子や「沖揚げ音頭」などを紹介してもよい。<br/> <b>【評】</b> 自分たちのソーラン節を工夫して発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・デジタル教科書を活用し、楽譜を提示し、拍節の現れ方や旋律装飾を学級全体で確認させる。<br/>         ・「かりぼし切り歌」の譜例を用意し、工夫した点は楽譜に直接記入させてもよい。<br/> <b>【評】</b> 自分たちの表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。<br/> <b>【評】</b> 工夫した表現を発表する活動を通して、「技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

「ソーラン節」は、もともとニシン漁で歌われた仕事歌で、声の出し方や旋律装飾の仕方、歌い合わせ方（音頭一同形式）などの特徴を感じ取って表現を工夫することができる。また、同じ仕事歌である「かりぼし切り歌」と比べ、拍節の現れ方や旋律の装飾やまとまりなどから特徴を理解し表現を工夫する。「谷茶目」では、言葉の特性、歌や伴奏との合わせ方などの特徴をとらえて学習する。

【共通事項】音色・リズム・旋律・テクスチャ・構成

単元名 **わが国やアジア地域の多様で豊かな声による表現を鑑賞しよう** 配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の声による表現の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解することができる。  
 (2) 我が国やアジア地域の歌唱表現の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性を理解したり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、我が国やアジア地域の声による表現のよさや美しさを味わって聴くことができる。  
 (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

### 標準的な展開例

10260302\_001

【教材名】日本とアジアの声によるさまざまな表現

(P. 54～P. 55)

【準備等】鑑賞音源、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 「天台声明」「八木節」「江差追分」を視聴し、表現の仕方などを確認し、特徴を聴き取りまとめる。<br/> <b>★</b>「天台声明」「八木節」「江差追分」を聴いて、特徴をまとめよう。<br/>         ○「天台声明」「八木節」「江差追分」を視聴し、表現される場所や場面、表現の仕方などを確認する。</p> <p>○「天台声明」「八木節」「江差追分」の表現の特徴を聴き取りまとめる。</p> <p>2 「ケチャ」「ホーミー」「布農（ブヌン）族の合唱」を視聴し、表現の仕方などを確認し、「天台声明」「八木節」「江差追分」と比較しながら特徴を取りまとめる。<br/> <b>★</b>「ケチャ」「ホーミー」「布農（ブヌン）族の合唱」を聴いて、特徴をまとめよう。<br/>         ○「ケチャ」「ホーミー」「布農（ブヌン）族の合唱」を視聴し、表現の仕方などを確認する。</p> <p>○「天台声明」「八木節」「江差追分」と比較しながら、表現の特徴を取りまとめる。</p> | <p>・必要に応じてインターネットを活用したり、補足説明を加えたりする。<br/>         気付いた点は発表し、学級全体で意見交流させる。</p> <p>・声の出し方、拍節の現れ方、声や伴奏との合わせ、表現される場所や場面、その他に気がついたこと、の項目で整理しながら聴き取り内容を発表して交流させる。<br/> <b>【評】</b>それぞれの表現の特徴を聴き取りまとめる活動を通して、「知識」を評価する。</p> <p>・表現される場所や場面、表現の仕方など気がついたことを発表させ、ワークシートにまとめさせる。<br/>         必要に応じてタブレットを用いてインターネットを活用したり補足説明を加えたりする。<br/> <b>【評】</b>音楽の多様性を理解しながら表現の仕方などをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・それぞれの特徴から共通性などを考え、ワークシートを整理する。<br/> <b>【評】</b>比較しながらそれぞれの特徴を取りまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

本単元では、「天台神明」「八木節」「江差追分」を教材にして、声の出し方や合わせ方、伴奏の楽器との関係などからそれぞれの特徴を聴き取る。また、アジア地域の声による表現として「ケチャ」「ホーミー」「布農（ブヌン）族の合唱」と比較し、表現の共通性や固有性から多様性を理解しながら鑑賞する。そして、人々の暮らしとどのように関わっているかを考え、日本とアジア地域の音楽や芸能の豊かさを味わう。

【共通事項】音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱・構成

**単元名 篠笛の基本的な奏法を身に付けて表現を工夫しよう**
**配当時間 3時間**

- 単元の目標** (1) 篠笛の音色と奏法との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するためのかまえ方や音の出し方、運指などの技能を身に付けることができる。
- (2) 篠笛の音色と奏法との関わりを理解し、かまえ方や音の出し方、運指などの技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。
- (3) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

**標準的な展開例**

10260303\_001

**【教材名】** たこたこあがれ ◆ ひらいたひらいた ◆ さくらさくら (P. 18～P. 23)

**【準備等】** タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど   |
|---|---|
| <p>1 篠笛の各部の名称や姿勢やかまえ方を知り、低い音域「呂」, 「六」の運指で音の出し方を身に付ける。</p> <p>★篠笛を吹いてみよう。</p> <p>○篠笛の各部の名称や、ふさわしい姿勢、かまえ方を知る</p> <p>○低い音域「呂」, 「六」の運指で音の出し方を身に付ける。</p> <p>2 低い音域「呂」, 「五・六」の運指、さし指（指打ち）の奏法を身に付け、短い旋律を表現する。</p> <p>★「たこたこあがれ」を演奏してみよう。</p> <p>○P. 20「たこたこあがれ」を演奏する。</p> <p>○注意点などをワークシートにまとめる。</p> <p>3 高い音域「甲」や新しい音を用いて演奏する。</p> <p>★「ひらいたひらいた」「さくらさくら」を演奏してみよう。</p> <p>○P. 20「ひらいたひらいた」またはP. 21「さくらさくら」を表現する。</p> <p>○発表後に注意点などをワークシートにまとめる。</p> | <p>・P. 18「各部の名称」やP. 19「姿勢とかまえ方」を参照させる。</p> <p>・タブレットでまなびリンクを活用してP. 19「吹いてみよう」を確認し、音を出させる。</p> <p>【評】篠笛の音を出す活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・音の出し方、運指、さし指（指打ち）において注意点をワークシートにまとめさせる。</p> <p>【評】「たこたこあがれ」を演奏し、注意点を考えてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・音の出し方、運指、さし指（指打ち）において注意点をワークシートにまとめさせる。</p> <p>【評】篠笛を演奏する上での注意点をワークシートにまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

**【 備 考 】**

篠笛のかまえ方や手孔（指孔）の塞ぎ方、唇の形（引き方）などの基本的な奏法を、まなびリンクを参照しながら身に付ける。「たこたこあがれ」ではさし指（指打ち）を身に付け、「ひらいたひらいた」でこれらの技能を生かして表現する。「さくらさくら」では、新しい音を加え篠笛の音色や響きを味わいながら表現を工夫する。

**【共通事項】** 音色・速度・旋律

**単元名 曲にふさわしい発声で歌おう**
**配当時間 3時間**

- 単元の目標** (1) 声の音色や響き，言葉の特性と発声との関わりを理解するとともに，工夫を生かして表現するための基礎的な発声や発音，身体の使い方を身に付けることができる。
- (2) 歌唱表現に関わる知識や技能を生かしながら，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

**標準的な展開例**

11260101\_001

**【教材名】** 生命が羽ばたくとき 語り合おう (上 P.6～P.11)

**【準備等】** 範唱音源，パート別音源

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| 1～2 歌詞の内容や演奏形態を生かして，表現を工夫しながら「生命が羽ばたくとき」を合唱する。<br><b>★</b> 歌詞の内容を味わって歌おう。<br>○歌詞の内容を理解しながら，それぞれの声部の旋律を表現する。<br><br>○言葉のリズムや旋律のまとまりをとらえて表現を工夫する。<br><br>○旋律の音域や強弱の設定にふさわしい声の出し方を話し合いながら練習する。<br><br>3 声部の役割を理解して，表現を工夫しながら「語り合おう」を合唱する。<br><b>★</b> 声部の役割を理解して歌おう。<br>○範唱を聴き，表現を工夫したい点について考える。<br>○歌詞の内容や強弱の設定を理解し，主旋律を表現する。<br><br>○それぞれの声部ごとに練習をする。<br>○各声部による和音の響きを感じ取り，声部の役割を生かして表現を工夫する。 | ・歌詞を音読し，内容を理解させる。<br><br>・強弱の設定や繰り返しの仕方などを確認しながら，それぞれの声部の旋律を歌わせる。<br>・言葉のリズムや休符を意識し，旋律のまとまりを感じ取りながら歌わせる。<br><b>【評】</b> 曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。<br>・出だしは語りかけるような雰囲気を感じ取らせたい。<br>・旋律の音域や強弱に応じた声の出し方を意識して歌わせる。<br><b>【評】</b> 発声や強弱を楽曲に合わせて歌唱する活動を通して，「技能」を評価する。<br><br>・歌詞の内容や強弱の設定を確認して，主旋律を全員で歌わせる。<br>・旋律が繰り返されていることを理解し，形式を感じ取りながら表現させる。<br><b>【評】</b> 曲想の変化と関わらせて歌唱表現を工夫する活動を通して，「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br><br>・主旋律との関わりを確認しながら，各声部を合わせる。<br>・和音の響きや形式をとらえ，声部の役割を考えながら全体で表現を工夫させる。<br><b>【評】</b> 声部の役割を理解して合唱する活動を通して，「技能」を評価する。 |

**【 備 考 】**

混声三部合唱で表現するために必要な基礎的な技能を身に付けさせたい。「生命が羽ばたくとき」は，歌詞の内容を味わいながら，音域に応じた声の出し方や強弱の設定などを生かして表現を工夫させる。「語り合おう」は，主旋律と他の旋律との関わりから声部の役割を理解し，表現を工夫させる。

**【共通事項】** 音色・リズム・旋律・強弱・構成

単元名 **サミングや息のコントロールを身に付けて表現を工夫しよう** 配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 曲想と音楽の関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするための息のコントロールやサミングなどの技能を身に付けることができる。  
 (2) 曲想と音楽の構造との関わり方を理解し、演奏技能を使って、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫することができる。  
 (3) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。

### 標準的な展開例

11260102\_001

【教材名】 サムのひとりごと ◆誰も知らない私の悩み ◆レヴェル・プレイン ◆カノン2 優しき流れ  
 (P. 12～P. 13)

【準備等】 範奏音源、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 サミングの方法を身に付け、正しい運指でサミングを生かして表現する。<br/> <b>★サミングや息のコントロールを使って演奏しよう。</b><br/>         ○ サミングの2つの方法を理解する。<br/>             ・ 親指を少しずらす方法<br/>             ・ 爪を立てる方法<br/>         ○ サミングがなめらかにできるように練習をする。</p> <p>○ 「サムのひとりごと」を練習する。</p> <p>2 曲想を生かして演奏を工夫する。<br/> <b>★曲にふさわしい演奏を工夫しよう。</b><br/>         ○ 「誰も知らない私の悩み」、「レヴェル・プレイン」を練習する。</p> <p>○ 発表交流を行う。</p> | <p>・ 教科書P. 12を使って理解させる。タブレットでまなびリンクを活用し、サミングの2つの方法を確認させることもできる。<br/>         ・ 親指以外の運指が大きくずれないように注意させる。<br/>         ・ 隙間の開き方によって音が変わるので、自分の音を確かめながら練習させる。<br/>         ・ 安定した音を出せているか、一人一人順番に確認していくとよい。<br/> <b>【評】</b> サミングの方法を理解し、なめらかに発音する活動を通して、「技能」を評価する。<br/>         ・ タブレットでまなびリンクを活用して、模範演奏を確認させる。<br/>         ・ サミングが必要な音が分かるよう、楽譜に書き込ませる。<br/>         ・ 腹式呼吸やタンギングにも注意させる。<br/> <b>【評】</b> 楽器の種類や楽曲の特徴に合わせて表現を工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ ブレスやフレーズに注意させることで、曲想を意識させる。<br/>         ・ 旋律のまとまりを考えることで、表現の工夫をさせる。<br/>         ・ ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの構造や、音色の違いに合わせた息のコントロールを考えられるとよい。<br/>         ・ 曲想の違いに合わせた演奏方法の工夫を聴き取らせる。<br/>         ・ ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの音色の違いに合わせた曲の工夫も聴き取らせる。<br/> <b>【評】</b> 身に付けた表現の幅を楽しみ、演奏活動に対しての意欲や関心を高めているか、発表交流の活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

「サムのひとりごと」では、ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーでサミングや息のコントロールを身に付けて表現する。また、これらの技能を生かして「誰も知らない私の悩み」「レヴェル・プレイン」を演奏することで、曲想の変化とフレーズとの関係を捉えながら、曲にふさわしい器楽表現の工夫ができることを目指す。

【共通事項】 音色・速度・旋律

## 単元名 リズムパターンをつくろう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 音素材の特徴及び構成上の特徴を理解するとともに、創意工夫を生かした表現で、旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けることができる。
- (2) リズムの反復や変化などによるリズムパターンの特徴を理解し、条件に沿って八分音符をつなげる技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を工夫することができる。
- (3) 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11260103\_001

【教材名】 八分音符と四分音符を組み合わせるリズム創作

(上 P. 26～P. 27)

【準備等】 範唱音源、タブレット、ワークシート

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 8小節のリズムパターンをつくる。</p> <p>★基本リズムをつないで変化の違いを感じ取ろう。</p> <p>○八分音符による「基本のリズム」を表現し、理解する。</p> <p>○条件を理解し、リズムを変化させる。</p> <p>○リズムを繰り返したり組み合わせたりして、8小節のリズムパターンをつくり、演奏する。</p> <p>2 16小節のリズムパターンをつくる。</p> <p>★曲にふさわしいリズムパターンをつくろう。</p> <p>○「オーラ・リー」の曲想とその変化を感じ取る。</p> <p>○条件に沿ってつくったリズムを使って、曲にふさわしいと思うリズムパターンをつくる。</p> <p>3 「オーラ・リー」に合わせてつくったリズム・パターンを表現し、交流する。</p> <p>★曲に合わせてリズム・パートを発表しよう。</p> <p>○作品の意図を説明し、発表し合う。</p> | <p>・「はじめに」を活用し、速度の設定と発音を確認して、基盤となる拍や拍子を感じ取らせる。</p> <p>・「活動1」を活用させる。「い」～「は」の三種類のつなげ方を理解し、表現することで雰囲気や「基本のリズム」との違いを感じ取らせる。</p> <p>・タブレットでまなびリンクを活用して、3種類のリズムを聴かせることができる。</p> <p>【評】条件に沿って八分音符をつなげる活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・「活動2」を活用させる。リズムの反復と組み合わせによる8小節の構成を理解しながら表現し、リズム・パートのまとまりを感じ取らせる。</p> <p>・タブレットでまなびリンクを活用して、構成例を示すことができる。</p> <p>【評】リズムの反復や組み合わせを工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「活動3」を活用し、歌ったりリコーダーで演奏したりしながら、4小節のまとまりをとらえさせる。</p> <p>【評】リズムの反復や組み合わせを工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「活動4」を活用させる。活動の途中で中間発表を行い、他のグループの工夫を参考にさせ、再考させる。</p> <p>・「チャレンジ」を参考にして、身近にある打楽器での表現を考えさせることで、リズムを刻むのに適している楽器について考えさせることができる。</p> <p>【評】条件に沿ってリズム・パートをつくる活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・完成した作品はまなびリンクのワークシートを活用して記録させる。</p> <p>【評】条件に沿いながら創意工夫をして協働的にリズム・パートをつくる活動への「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

指定された回数で八分音符をつなげ、八分音符と四分音符によるリズムを数種類つくることを基盤にして学習を展開する。さらに、「オーラ・リー」の雰囲気や曲想を感じ取りながら、リズムの繰り返しや組み合わせを工夫したリズム・パートを生かした表現を工夫することで、まとまりのある創作表現を目指す。

【共通事項】 リズム・旋律・テクスチャ・構成

## 単元名 オーケストラやパイプオルガンによる表現を鑑賞しよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解することができる。  
 (2) 曲想と動機の現れ方、ソナタ形式やフーガの構造との関わりについての知識を得たり生かしたりしながら、曲に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。  
 (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11260104\_001

【教材名】交響曲第5番ハ短調 小フーガト短調

(上 P. 34～P. 39)

【準備等】鑑賞映像

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1～2 「交響曲第5番ハ短調」を鑑賞する。<br/> ★オーケストラによる表現を味わおう。<br/> ○「交響曲第5番ハ短調」第1楽章を鑑賞する。</p> <p>○反復して現れる動機のリズム、第1主題と第2主題の旋律の表れ方を理解する。<br/> ○ソナタ形式を理解し、鑑賞する。<br/> ・第1主題と第2主題の現れ方<br/> ・展開部の響き<br/> ・再現部の現れ方<br/> ・動機の現れ方<br/> ○第2～4楽章を比較鑑賞し、発表交流する。</p> <p>3 「小フーガト短調」を鑑賞する。<br/> ★パイプオルガンの豊かな表現を味わおう。<br/> ○「小フーガト短調」の構造を理解する。<br/> ○パイプオルガンで表現されていることを確認し、作曲家や楽曲の背景を理解する。<br/> ○主題と応答の現れ方を聴取し、音楽の構成をとらえる。</p> <p>○「交響曲第5番ハ短調」と「小フーガト短調」の曲想の違いを楽しむ。</p> | <p>・オーケストラで表現されていることを確認して、第1楽章の第1主題の動機がどのように反復・変化されているかを考え、発表交流させる。</p> <p>・動機のリズムが全楽章にわたって用いられていることを取り扱うこともできる。</p> <p>・提示部・展開部・再現部・コーダごとに鑑賞し、ソナタ形式から生まれる曲想についてまとめさせる。</p> <p>【評】楽曲の構造を理解し、曲想との関わりを感じ取る活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>・他の楽章も動機のリズムによって音楽が構成されていることを手掛かりに鑑賞させるとよい。</p> <p>【評】動機の現れ方やソナタ形式に関連する曲想を感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・パイプオルガンの演奏を試聴し、機能や仕組みを理解して表現の特徴を感じ取らせる。</p> <p>・主題と応答について、調や音域の違い、四つの声部の関わりなどを理解して、聴き取らせる。</p> <p>・それぞれの楽曲の魅力やおもしろさについて発表交流させる。</p> <p>【評】自分の価値意識を述べることで、楽曲のよさやおもしろさを味わう活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「交響曲第5番ハ短調」では、第1楽章の動機が反復・変化して現れることを理解し、曲想を感じ取りながら音楽の価値について考えていく。「小フーガト短調」では、主題と応答の繰り返しや、四つの声部（ソプラノ、アルト、テノール、バス）によるフーガの構成について理解し、それぞれの曲想を味わいながら鑑賞していく。

【共通事項】音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱・形式・構成

## 単元名 箏の基本的な奏法を身に付けて表現を工夫しよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 箏曲と音楽の構造との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するための右手の使い方や押し手などの技能を身に付けることができる。
- (2) 曲想と音楽の構造との関わりを理解し、右手の使い方や押し手などの技能を使って、器楽表現を創意工夫することができる。
- (3) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11260201\_001

【教材名】 荒城の月 (P. 40～P. 41)

【準備等】 範唱音源, タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 右手の親指による奏法を確認する。</p> <p>★「さくらさくら」を演奏して右手の奏法を復習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平調子</li> <li>・爪の弾き方</li> <li>・姿勢</li> </ul> <p>○「練習曲1」「練習曲2」「さくらさくら」を演奏し、復習する。</p> <p>2 「押し手」の奏法を身に付ける。</p> <p>★左手の奏法を使って曲を表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○押し手による音程の変化を確認する。</li> <li>○押し手の奏法を理解し、楽譜中の強押しをする音や弦を確認する。</li> <li>○強押しの仕方を工夫する。</li> </ul> <p>3 「荒城の月」の演奏表現を工夫する。</p> <p>★「荒城の月」を演奏しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○曲想を感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・二部形式による4小節のまとまり</li> </ul> </li> <li>○音楽の構造を生かしながら表現を工夫する。</li> <li>○発表交流を行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットでまなびリンクを活用して、右手の使い方を確認する。</li> <li>・平調子の音の並びを確認し、響きを聴き取らせる。</li> <li>・楽譜の読み方を確認させる。</li> <li>・調弦された音より高い音を出すための奏法であることを確認させる。</li> <li>・強押しと弱押しの音程の変化の違いを聴き取らせ、理解させる。</li> <li>・弦を押す加減や柱からの距離によって音程が変化することに気付かせ、正しい音程で演奏できるように練習させる。</li> <li>【評】押し手の奏法を理解し、正しい音程で演奏する活動を通して、「技能」を評価する。</li> <li>・ピアノ演奏や歌唱表現から二部形式を理解させる。</li> <li>・小グループで箏を交互に演奏し、互いに聴き合いながら表現の工夫を交流させる。</li> <li>・曲のまとまりや演奏する速度の違いによる曲想の変化を味わう。</li> <li>【評】楽曲の特徴に合わせて演奏表現を工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

二部形式である「荒城の月」を主教材にして、右手の親指の動きの確認や、「押し手」による左手の奏法を身に付けながら、我が国の音楽のよさを味わうことを目指す。

【共通事項】 音色・リズム・速度・旋律・形式



単元名 郷土のさまざまな芸能を味わいながら鑑賞しよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 郷土の伝統音楽の特徴と多様性を理解することができる。  
 (2) 郷土の伝統音楽における表現の特徴とその多様性についての知識を得たり生かしたりしながらそれらの共通性や固有性について考え、よさや美しさを味わって聴くことができる。  
 (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

### 標準的な展開例

11260202\_001

【教材名】郷土の音楽や芸能 「鹿踊」「獅子舞」等

(上 P. 46～P. 49)

【準備等】鑑賞映像、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 「鹿踊」と「獅子舞」を鑑賞する。<br/>           ★郷土の芸能のよさを味わおう。<br/>           ○「鹿踊」と「獅子舞」の音楽と踊りを確認する。</p> <p>○「鹿踊」と「獅子舞」に使用されている楽器や特徴的なリズムを聴き取る。</p> <p>○「鹿踊」と「獅子舞」の表現の特徴やそれぞれのよさを考える。</p> <p>2 「鹿踊」「獅子舞」と各地のさまざまな音楽・芸能を比較鑑賞する。<br/>           ★さまざまな伝統舞踊や祭りの音楽を聴き比べよう。<br/>           ○「龍踊」「虎舞」「地域の音楽や伝統」を鑑賞する。</p> | <p>・唱歌や音頭一同形式の表現方法、生活とのつながりを理解しながら、比較鑑賞させる。</p> <p>・タブレットを活用して、まなびリンクで映像資料を鑑賞させることができる。</p> <p>【評】表現の特徴を聴き取る活動を通して、「知識」を評価する。</p> <p>・それぞれの表現の特徴をまとめ、演じられる目的などからよさや面白さなどをまとめさせる。</p> <p>【評】表現の特徴を聴き取り、共通性や固有性について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・比較鑑賞することで、共通性や固有性を考えさせる。</p> <p>・校区の伝統舞踊や祭りの音楽などを事前に録画しておいて、比較鑑賞の教材として活用することも考えられる。</p> <p>【評】我が国の音楽文化に愛着をもち、生活とかわる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

舞と囃子による表現の特徴を聴き取ったり、各地の音楽や芸能を比較したりして、表現の共通性や固有性について考えたり、くらしとともにある伝統音楽の豊かさを味わったりすることを目指す。

【共通事項】音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱・構成

## 単元名 曲の形式を生かして歌おう

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 歌詞と旋律のまとまり、二部形式との関係を理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うための発声、発音、身体を使い方などの技能を身に付けることができる。  
 (2) 曲想と形式や歌詞との関わりを理解し、音域や強弱に応じた発声、子音や母音の発音などの技能を得たり生かしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫できる。  
 (3) 歌唱表現に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11260203\_001

【教材名】 浜辺の歌 早春賦 (上 P. 14～P. 19)

【準備等】 範唱音源

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1～2 「浜辺の歌」の歌詞の背景や旋律のまとまり、形式について理解し、強弱の設定を生かして表現する。<br/> <b>★</b>曲の形式を生かす工夫をしながら歌おう。<br/>         ○歌詞が表す情景を想像し、拍子や速度が生み出す雰囲気を感じ取って表現する。</p> <p>○歌詞と旋律の関係を4小節ごとで捉え、二部形式を意識しながら表現する。</p> <p>○強弱の設定を生かしながら表現を工夫する。</p> <p>3 言葉と旋律のかかわりを大切にして、「早春賦」を歌唱する。<br/> <b>★</b>曲の形式を生かして「早春賦」を歌おう。<br/>         ○「早春賦」の形式を理解する。<br/>         ○前時までの学習を生かして表現する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の背景を知り、情景を想像したり、現代的な表現に書き直させたりする。</li> <li>・打ち寄せる波の情景を表すような伴奏にも注目させる。</li> <li>・冒頭4小節のまとまりを確認し、楽典「形式」P. 84を参考にしながら、二部形式による楽節のまとまりを理解し、ワークシートに整理させる。</li> <li>・aとa'の旋律の違いやbの旋律の特徴などを感じ取らせる。</li> <li>【評】曲の形式を生かして歌う活動を通して、「技能」を評価する。</li> <li>・小楽節ごとの強弱の設定を確認し、二部形式を意識しながら歌唱させる。</li> <li>・鼻濁音の発音や音域に応じた音色の工夫を考え、グループ発表を行わせる。</li> <li>【評】音楽の構造を生かして表現を工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・「浜辺の歌」と比較しながら、曲の構成を理解させる。</li> <li>・表現を工夫する内容、発音や発声についての留意点などをワークシートや楽譜に整理し、表現する。</li> <li>【評】曲にふさわしい歌唱表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】活動に主体的・協働的に取り組む様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

「浜辺の歌」を主教材とし、強弱や音域に応じた発声と声の音色、旋律のまとまりや反復、拍子や強弱の設定、二部形式による楽曲全体の構成などについて学んでいく。「早春賦」では、二部形式の共通性を生かしながら表現を工夫していく。

【共通事項】 リズム・旋律・強弱・形式・構成

## 単元名 曲想を味わいながら合わせて歌おう

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 曲想と楽曲の構造との関わりを理解するとともに、全体の響きや声部の声などを聴きながら合唱を歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 曲想と楽曲の構造との関わりを理解したり、他の声部を聴きながら他者と合わせて歌う技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい表現を創意工夫している。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11260204\_001

【教材名】 そよぐ風の中で 等 (上 P. 20～P. 23)

【準備等】 範唱音源, パート別音源

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 楽曲の構造を確認し、練習計画を立てる。</p> <p>★曲想を味わいながら合唱しよう。</p> <p>○範唱音源を聴いて、課題をつかむ。</p> <p>○主旋律の現れ方や声部の役割を理解する。</p> <p>○楽曲の構成を確認する。</p> <p>○練習計画を立てる。</p> <p>2 パートごとに表現しながら、担当するパートの役割を理解する。</p> <p>★それぞれの役割を考えて歌おう。</p> <p>○それぞれのパートごとに練習する。</p> <p>○主旋律の現れ方、他声部との関係、強弱の設定を確認しそれぞれのパートの役割を考えながら練習する。</p> <p>3 学級で交流しながら楽曲にふさわしい表現を工夫する。</p> <p>★パートごとの工夫を学級の表現に生かそう。</p> <p>○パートごとの活動内容を発表交流する。</p> <p>○拡大楽譜に書き込むなどして、学級としての表現をまとめる。</p> <p>4 指揮で曲想を表現する。</p> <p>★歌唱のよさを引き出せるような指揮をしてみよう。</p> <p>○思いや意図を生かすような表現を引き出す指揮を創意工夫する。</p> <p>○全体の響きを確かめながら合唱をする。</p> <p>5 学級としての表現をまとめる。</p> <p>★合唱全体の響きを味わいながら歌おう。</p> <p>○声部の役割を理解し、全体の響きを味わいながら合唱する。</p> | <p>・パートに分かれ、主旋律を担当するところを確認しながら歌唱させる。</p> <p>・楽曲全体を部分に分け、斉唱や主旋律の移り変わり、和音としての表現、オブリガートなどの音楽の構成を理解させる。</p> <p>・パートリーダーを中心に、曲想に合わせた表現の工夫を練習できるよう、計画させる。</p> <p>・ソプラノ、アルト、男声のそれぞれのパートに求められる特性を理解させて、パートを選ばせる。</p> <p>・自分たちだけでなく、他のパートの役割も考えさせながら、生徒主体でパート練習を進めさせる。</p> <p>・パートで検討した内容を楽譜に書き込みながら活動させる。</p> <p>・合同パート練習を行ったり、全体で合唱したりする場面の設定も考えられる。</p> <p>【評】 声部の役割を生かして楽曲の特性を表現する技能を身に付ける活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・強弱や速度の設定を理解させ、楽曲の構成を生かした表現の工夫を話し合いながら練習させる。</p> <p>・P. 22 「Let's Try! 指揮をしてみよう」を参考にさせる。</p> <p>・拍を明確に示したり、強弱の表し方を工夫することで、曲想を表現するための指揮ができることを体験させる。</p> <p>・指揮の基礎・基本を体験することで、指揮の見方も同時に学ばせる。</p> <p>・和音の響きを感じ取りながら表現させる。</p> <p>【評】 歌唱の工夫や指揮体験を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・歌詞の内容や演奏形態の変化から生まれる曲想について話し合いながら練習させる。</p> <p>・学級としての表現を生かせる指揮者や伴奏者を選出する。</p> <p>【評】 主体的・協働的に合唱を楽しむ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

混声三部合唱を主教材として、構造と関わらせて曲想の変化を感じ取ったり、主旋律を生かした表現を工夫したりすることで、合唱を歌唱表現する技能を身に付けさせる。また、合唱が取り入れられる学校行事を意識し、表現を引き出すために必要な指揮の仕方を指導することもできる。

【共通事項】 速度・旋律・テクスチュア・強弱

**単元名 雅楽の多様な表現を鑑賞しよう**
**配当時間 2時間**

- 単元の目標** (1) 雅楽の音楽的な特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解することができる。
- (2) 雅楽に関する知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

**標準的な展開例**

11260301\_001

**【教材名】** 雅楽「越天楽」 舞楽「左舞・右舞」 (上 P. 40～P. 45)

**【準備等】** 鑑賞映像、デジタル教科書

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 雅楽に用いられる楽器の特徴や演奏の仕方を理解し、旋律やリズムの合わせ方、楽曲全体の構成などから雅楽のよさを味わう。</p> <p>★雅楽について知ろう。</p> <p>○「越天楽」の表現の特徴をとらえる。</p> <p>○旋律やリズムの合わせ方を理解する。</p> <p>○歴史的背景を理解し、表現の特徴を整理しながら聴き深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲が進むにつれ、徐々にテンポが速くなっている。</li> <li>・4拍子のように聴こえる。</li> <li>・4拍目は他の拍に比べ、長めに演奏されている。</li> </ul> <p>2 左舞と右舞の歴史的背景や「越天楽」との関係を理解して鑑賞する。</p> <p>★雅楽の多様な表現を鑑賞しよう。</p> <p>○左舞「万歳楽」と右舞「狛鉾」を鑑賞する。</p> <p>○自分なりに考えたよさや魅力をまとめる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書を活用して、P. 41「管弦」を提示し、用いられる楽器を、吹きもの・弾きもの・打ちものに分類した上で、冒頭を聴取させる。</li> <li>・楽器の音色、鞆鼓のリズム、龍笛や箏の旋律の関わり方、笙の音の重なり方を理解させる。</li> <li>・P. 42「序破急」「雅楽の種類」を参照して、雅楽の歴史的背景や我が国における役割や意味を理解させる。</li> <li>・楽器の加わり方や減り方、演奏している人数などにも着目しながら楽曲を鑑賞させる。</li> </ul> <p>【評】「越天楽」の表現の豊かさについてワークシートに記述する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P. 42「舞楽」を参照して、歴史的背景を理解し、鑑賞して気が付いたことを教科書の表を使って整理させる。</li> </ul> <p>【評】我が国の音楽文化に関心をもち、歴史的背景を知る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「越天楽」「万歳楽」「狛鉾」から一つを選び、よさや魅力をまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】我が国の音楽文化の知識を活用して、そのよさを根拠をもって批評する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

**【 備 考 】**

雅楽「越天楽」を鑑賞し、拍の表われ方や速度の変化、音楽の構成などに注目しながら、特徴を理解する。また、左舞と右舞の違いを比較鑑賞し、我が国における音楽文化の歴史的背景を理解する。

【共通事項】 音色・リズム・旋律・テクスチュア・構成

## 単元名 平調子の特徴を生かして音楽をつくろう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴を理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けることができる。
- (2) 平調子の構成音による特徴やリズムパターンの反復や組み合わせの特徴についての知識や、課題に沿った音やリズムパターンを選択する技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫することができる。
- (3) 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11260302\_001

【教材名】平調子の特徴を生かして音楽をつくろう

(上 P. 28～P. 29)

【準備等】範奏音源、デジタル教科書

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 指定されたリズムパターンで旋律をつくる。</p> <p>★平調子の音を使って旋律をつくろう。</p> <p>○活動1の条件を理解する。</p> <p>○楽器で表現したり口ずさんだりして、音の響きやリズムの特徴を感じ取る。</p> <p>○五つの音から自由に音を選択し、「あ」～「い」～「あ」～「う」のリズムパターンを使って旋律をつくる。</p> <p>○互いの演奏を聴いて、感想を発表し合う。</p> <p>2 4小節の短い旋律を二つつくって表現する。</p> <p>★「さくらさくら」を参考にして、短い旋律をつくろう。</p> <p>○「さくらさくら」で条件1がどのように用いられているか理解し、創作の参考とする。</p> <p>○五つの音とリズムを自由に選んで表現する。</p> | <p>・平拍子に基づく五つの音と四つのリズムパターンを使うことを理解させる。</p> <p>・口唱歌することで、我が国の音楽の伝承方法にも触れさせる。</p> <p>【評】構成音やリズムパターンの特徴を理解し課題に沿った選択をする活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・リコーダーや箏で確かめさせることで、音の選択の参考にする。</p> <p>・デジタル教科書を活用して、生徒が選んだ音を入力することで実際に旋律を聴取し、創作のための条件を確認することができる。</p> <p>・半音を多用したり、ミヤシで終始させると、「平調子の特徴」が生かせることに気付かせる。</p> <p>【評】条件に沿って「平調子の特徴」を生かした旋律をつくるために創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P. 29を活用して、平調子から生まれる旋律の特徴や、リズムの反復、組み合わせによる曲想のまとまりを確認させる。</p> <p>【評】平調子の構成音による特徴、リズムパターンの反復や組み合わせの特徴を理解する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <p>・つくった旋律をグループで交流させて、相互評価させる。</p> <p>・つくった旋律を「さくらさくら」の前奏または後奏として表現を楽しむこともできる。</p> <p>【評】条件を生かして、まとまりのあるよりよい旋律をつくる活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

平調子に基づく五つの音と、「あ」～「え」の四つのリズム・パターンを用いた4小節の短い旋律をつくる活動を通して、平調子の特徴を生かした楽曲の構成の仕方を理解させる。「さくらさくら」に実際に用いられているリズムパターンや構成音を曲想と関わらせながら前奏として創作することで、表現を工夫してまとまりのある創作作品をつくることを目指す。発展的な学習として、8小節の長さにしたたり、新しいリズムを考えたりする活動も考えられる。

【共通事項】音色・リズム・旋律・構成

**単元名 曲の特徴を生かして歌おう**
**配当時間 2時間**

- 単元の目標** (1) 言葉の発音と5度の跳躍に応じた発声との関わりを理解するとともに、全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 言葉の発音と音域に応じた発声との関わりを理解し、全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

**標準的な展開例**

11260303\_001

**【教材名】** You Can Fly! (上 P.12～P.13)

**【準備等】** 範唱音源、パート別音源、デジタル教科書

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 主旋律を担当するパートを確認する。</p> <p>★他声部との響き合いを大切に歌おう。</p> <p>○模範演奏を聴き、曲の雰囲気をつかむ。</p> <p>○パートに分かれて前半を歌い、主旋律を担当しているパートを確認する。</p> <p>○同じように後半を歌い、主旋律を担当しているパートを確認する。</p> <p>2 曲の山場とパートの役割を考え、曲にふさわしい表現を追究する。</p> <p>★曲にふさわしい表現を工夫して豊かな合唱をしよう。</p> <p>○曲の山場を考える。</p> <p>○響きやバランスを感じ取りながら、グループとしての表現を工夫する。</p> | <p>・主旋律の現れ方や強弱の設定などから、楽曲の特徴を考えさせる。</p> <p>【評】これまでの合唱活動で得た知識や技能を生かして楽曲分析する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <p>・主旋律を担当しているところを考えながら音取りをしていく。</p> <p>・各パートの練習用音源を活用し、音取りを丁寧に行わせる。</p> <p>・教科書に主旋律と考えた部分をマーキングさせる。</p> <p>・デジタル教科書を活用し、楽譜を提示しながら、学級全体で主旋律を担当するパートを確認できる。</p> <p>【評】各パートの役割を生かすための工夫を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・各パートの主旋律の現れ方や強弱の設定などから、曲の山場を考える。</p> <p>・後半の5度の跳躍や英語の発音、発声を意識しながら、曲にふさわしい表現を工夫する。</p> <p>・各パート数名ずつのグループで、これまでの学習で整理した内容を生かし、表現を工夫する。</p> <p>・工夫した内容を楽譜に書き込ませ、グループとしての表現を確認させる。</p> <p>・グループで歌唱表現を発表し合うことで、曲にふさわしい表現を追究させる。</p> <p>・シンコペーションと歌詞の関わりや男声の高音域の表現技能、休符による曲想の表現について考えながら追究させる。</p> <p>【評】仲間とともに曲にふさわしい表現を模索しながら練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

**【 備 考 】**

英語の発音、印象的な5度の跳躍、曲の山場に注目しながら、主旋律を担当するパートを確認し、全体の響きを考えながら歌唱表現する技能を身に付ける。シンコペーションのリズムや旋律の反復、強弱の変化と効果を工夫しながら、主体的・協働的に合唱活動に取り組むことを目指す。

**【共通事項】** リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱・構成

**単元名 曲の構成のよさや面白さを味わいながら鑑賞しよう**
**配当時間 2時間**

- 単元の目標** (1) 曲想とリズムや旋律の反復による音楽の構造との関わりを理解することができる。  
 (2) 曲想とリズムや旋律の反復による音楽の構造との関わりについての知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。  
 (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

**標準的な展開例**

11260304\_001

**【教材名】** ボレロ ◆組曲「惑星」から第1曲「火星」

(上 P. 30～P. 33)

**【準備等】** 鑑賞映像、タブレット、デジタル教科書

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| 1 「ボレロ」の構成を理解しながら鑑賞する。<br>★繰り返される主題やリズム、巧みなオーケストレーションの効果を味わおう。<br>○「ボレロ」の冒頭部を視聴し、オーケストラ演奏であることを理解する。<br>○スネアドラムなどによるリズムの反復を聴き取る。<br>○AとBの二つの主題の反復を聴き取る。  | ・タブレットを活用し、まなびリンクで演奏映像を鑑賞する。<br>・「小太鼓のリズム」の譜例を参考にし、実際に叩くことでリズムを確認させる。<br>・「AとBの二つの主題」の譜例を参考にしながら、タブレットを活用して、「まなびリンク」で冒頭のA・A・B・Bの反復を聴かせる。<br>・舞曲であり、元はバレエ音楽として作曲されたことを確認させる。<br><b>【評】</b> 構成と関連する曲想を感じ取る活動を通して、「知識」を評価する。   |
| 2 「ボレロ」の曲想を感じ取るとともに、「火星」を鑑賞し、それぞれの楽曲について価値意識を考える。<br>★「ボレロ」の鑑賞を基に、「火星」を鑑賞してよさを味わおう。<br>○「ボレロ」の曲想を感じ取り、自分なりの価値意識を考える。<br>○「火星」を鑑賞し、繰り返されるリズムの特徴や三つの主題に応じた曲想の変化を味わって鑑賞する。<br>○「ボレロ」と「火星」の共通性や固有性を整理し、自分なりの価値意識をもつ。 | ・さまざまな楽器の音色の組み合わせ、楽曲全体にわたる強弱の変化にも着目し、楽曲の魅力やよさをまとめ、発表交流させる。<br><b>【評】</b> 表現の特徴や固有性を理解して自分の価値意識をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br>・「ボレロ」と同様に反復するリズムが生かされた構成になっていることを理解するとともに、「火星」の固有性から生まれる雰囲気や曲想を聴き取らせる。<br><b>【評】</b> 「ボレロ」の鑑賞を基盤にして「火星」の特徴を理解する活動を通して、「知識」を評価する。<br>・それぞれの魅力やよさをワークシートに整理し、発表交流させる。<br><b>【評】</b> それぞれの楽曲のよさや美しさを味わう学習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |

**【 備 考 】**

「ボレロ」を主教材とし、曲想と音楽の構造との関わりを理解して、音楽に対する価値意識を考える学習を目指す。また、「ボレロ」の構成の仕方を基盤として、「火星」との共通性や固有性を考え、より豊かに曲想を感じ取ることをねらうこともできる。

**【共通事項】** 音色・リズム・旋律・テクスチャ・強弱・構成

**単元名 曲想を感じ取り、曲の特徴を生かして歌おう**
**配当時間 3時間**

- 単元の目標** (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 曲想と旋律のまとまりや音楽の構造との関わりについての知識や、他の声部や伴奏を聴きながら合わせて歌う技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

**標準的な展開例**

12260101\_001

**【教材名】** 旅立ちの日に 帰れソレントへ (下 P.6～P.11)

**【準備等】** 範唱音源、パート別音源、デジタル教科書、タブレット、ワークシート

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 「旅立ちの日に」の歌詞の内容や演奏形態を理解し、旋律のまとまりを考え、担当するパートの表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「旅立ちの日に」の冒頭が斉唱の表現であることを聴き取る。</li> <li>○9小節目からリピートまでの演奏形態の変化を、楽譜を参照しながら確かめる。</li> <li>○冒頭からリピートまでの主旋律を歌って確認する。</li> <li>★パートの表現を工夫しよう<br/>担当するパートを決め、主旋律を意識しながら冒頭からリピートまでを歌う。</li> <li>○冒頭からリピートまでの旋律のまとまりを考え、歌いながらパート内で交流する。</li> </ul> <p>2 後半部分の速度の設定を工夫し、曲の山場（クライマックス）を意識して表現する。</p> <li>★曲の山場を意識して表現しよう。</li> <li>○Piu mosso以降を歌い、他のパートとの関係や自分のパートの役割を考える。</li> <li>○Piu mossoをさまざまな速度で歌い、気が付いたことを楽譜やワークシートに書き込んだり、パートごとに発表したりする。</li> <li>○まとめたことを学級全体で交流し、他のパートの表現を聴き工夫する。</li> <p>3 「帰れソレントへ」の歌詞の内容を理解し、旋律のまとまりや速度の設定などを生かしながら表現を工夫する。</p> <li>★「帰れソレントへ」を独唱で表現しよう。</li> <li>○「帰れソレントへ」の歌詞の内容を理解し、8小節目のまとまりを意識しながら歌う。</li> <li>○rit.やa tempo、フェルマータなどの速度に関する用語や記号を確認し、伴奏とともに表現を工夫する。</li> <li>○同主調転調について理解し、歌詞の内容や旋律のまとまりとの関係を考えながら表現する。</li> <li>○曲想の変化と関わらせて曲の山場（クライマックス）を意識し、独唱で表現する。</li> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まなびリンクを活用して聴取させる。</li> <li>・休符を意識させる。</li> <li>・まなびリンクを活用して聴取させ、演奏形態の変化による効果を感じ取らせる。</li> <li>・8小節目ごとの強弱の違いを意識させる。</li> </ul> <p>【評】歌唱活動を通して、「関心・意欲・態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書でP.8の楽譜を明示し、交流した内容を書き加えて確認させる。</li> <li>・息つぎの位置を確認し、すばやく目立たないようにさせる。</li> </ul> <p>【評】曲想と旋律のまとまりや音楽の構造との関わりについて理解し、他の声部を聴きながら合わせて歌う技能を身に付ける活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットのメトロノーム機能を活用し、? =90, 116, 120の三つの速さで表現し、速度が速くなる効果を考えさせる。</li> </ul> <p>【評】曲想と音楽の構造との関わりについての知識を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表されたことを整理し、実際に歌ってみたり、まなびリンクで範唱を聴いたりして工夫する内容をまとめる。</li> </ul> <p>【評】歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伴奏から拍子感や速度を感じ取り、旋律を歌わせる。</li> <li>・デジタル教科書を活用して楽譜を提示し、速度の設定や曲の山場（クライマックス）などを確認させる。</li> </ul> <p>【評】曲想と旋律のまとまりとの関わりについて理解し、伴奏を聴きながら歌う技能を身に付けて表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫したことや曲の山場（クライマックス）を楽譜に書き込ませ、グループで交流させながら活動を指示する。</li> </ul> <p>【評】曲想と旋律のまとまりや音楽の構造との関わりを理解し、伴奏を聴きながら合わせて</p> |



歌う技能を得たり生かしたりしながら，曲にふさわしい歌唱表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

「旅立ちの日に」を主教材にして，曲想とその変化を感じ取りながら音楽の構造や歌詞との関係を考え，速度の変化などを生かして合唱表現するために必要な技能を身に付ける。「帰れソレントへ」では，速度の変化を転調や強弱とともに活用して表現を工夫し，ピアノ伴奏と合わせて歌う技能を身に付ける。

【共通事項】リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱・構成

## 単元名 オーケストラの豊かな表現を鑑賞しよう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解することができる。  
 (2) 曲想と音楽の構造と音楽で表そうとしている内容との関わりについての知識を得たり生かしたりしながら、曲の演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。  
 (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲の演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開

12260102\_001

【教材名】ブルタバ（モルダウ）（下 P. 26～P. 31）

【準備等】鑑賞音源 タブレット デジタル教科書 ワークシート

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 「ブルタバ」が川の様子や流域の情景などを表していることを確認し、これと関わる音楽全体の構成を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『ブルタバの主題』までを視聴し、川の様子や流域の情景をオーケストラで表していることを確認する。</li> </ul> <p>★情景と音楽との関わりを感じ取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲全体を鑑賞し、各場面の情景を言葉や絵で表現する</li> </ul> <p>○『ブルタバの二つの水源』について、情景を音楽でどのように表しているか考えながら聴取し、聴き取ったことや気が付いたことをワークシートにまとめる。</p> <p>○まとめた内容を発表する。</p> <p>2 曲想の変化を音楽で表そうとしている内容と関わらせながら鑑賞し、自分なりの価値意識を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『ブルタバの主題』『森一狩り』までを聴取し、情景を音楽でどのように表しているか考えながら聴取し、聴き取ったことや気が付いたことをワークシートにまとめる。</li> <li>『森の（田舎の）結婚式』『月、水の精の踊り』までを聴取し、同様に聴き取ったことや気が付いたことをワークシートにまとめる。</li> <li>教科書P. 26「楽曲について」などを参照し、スメタナの祖国への思いを理解して『ブルタバの主題』（後半再現）から終わりまでを鑑賞する。</li> <li>曲想の変化と音楽で表そうとしている内容との関わりを整理し、「ブルタバ」について自分が考えた魅力やよさなどをワークシートにまとめる。</li> <li>ワークシートの内容を発表したり他者の発表を聞いたりして交流し、まとめた鑑賞をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>川の情景を表している音楽であることを確認させる。また、教科書P. 26の内容を確認し、ブルタバ川の情景や人々の生活を音楽で表現したことを理解させる。</li> <li>感じ取った情景を絵や文で表現するところでは、音楽を聴きながらクイズ形式で、絵と表題を結びつける活動に置き換えるなど、生徒の実態に合わせて工夫したい。</li> <li>タブレットを用いてまなびリンクを活用させ音色や音型を確認させる。</li> </ul> <p>【評】曲想と音楽の構造との関わりについてワークシートにまとめる活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットを用いてまなびリンクを活用させる。</li> <li>演奏に対する評価も行いながらワークシートに記入させる。</li> </ul> <p>【評】曲想の変化と音楽で表そうとしている内容との関わりをワークシートにまとめる活動を通して、「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『聖ヨハネの急流』『ブルタバの広々とした流れ』『ビシェフラトのモチーフ』の曲想とその変化を感じ取り、スメタナが音楽で表そうとした思いを想像させる。</li> </ul> <p>【評】曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、発表交流する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】「ブルタバ」のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> |

## 【 備 考 】

「ブルタバ（モルダウ）」は、自然や文学的な内容などをオーケストラで表す交響詩である。本単元では、「ブルタバ」を主教材にして、曲想と音楽の構造との関わりを理解して、音楽に対する価値意識を変える学習を展開する。音楽で表している情景に加えて歴史的背景との関わりを理解し、オーケストラの豊かな表現を鑑賞させたい。

【共通事項】音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱・構成

## 単元名 言葉のリズムや抑揚を生かして表現してみよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 言葉のリズム、反復や組み合わせによるつながり方の特徴を理解するとともに、課題に沿った言葉を選択し組み合わせる技能を身に付けることができる。
- (2) 言葉のリズムや反復の組み合わせによるつながり方の特徴についての知識や、課題に沿った言葉を選択し組み合わせる技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫することができる。
- (3) 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260103\_001

【教材名】言葉のリズムや重なり方を活用する旋律づくり (下 P. 22～P. 23)

【準備等】メトロノーム、ワークシート、タブレット、デジタル教科書

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 言葉のつながり方を工夫しながら3種類のラーメンの旋律をつくって表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○速度の設定と八分音符を【ツ】と発音することを確認し基盤となる拍を感じ取る。</li> <li>○「基本のリズム」を意識しながら、例示の「みそラーメン」の旋律を表現する。</li> <li>○「みそラーメン」の旋律を表現し、言葉とリズムの関係を理解する。</li> </ul> <p>★3種類のラーメンを表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各自で例示の3種類のラーメンの旋律をつくる。</li> <li>○つくった旋律をグループ内で発表し合い、自分の作品をもう一度検討する。</li> </ul> <p>2 言葉や旋律の重なり方を理解し、指定された言葉から選択して旋律をつくり表現する。</p> <p>★具材の言葉のリズムを生かして旋律をつくらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「もやし」「ラーメン」「煮卵」の言葉のリズムによる例示の旋律を表現する。</li> <li>○例示の旋律と「みそラーメン」の旋律を合わせて表現し重なり方を理解する。</li> <li>○各自でトッピングの言葉を選び、旋律をつくる。</li> <li>○つくった旋律をグループ内で発表し合い、自分の作品をもう一度検討する。</li> </ul> <p>3 つくった旋律をさまざまに重ねて表現し、ラーメンに関係する言葉を選び直したり、リズムや反復の仕方を変えたりして、もう一度旋律をつくり直す。</p> <p>★旋律を重ねて表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動1と活動2でつくった旋律の重ね方を工夫し表現する。</li> <li>○表現して気が付いたことや面白い作品になったものをワークシートにまとめる。</li> <li>○これまでの学習を生かして、ラーメンの種類やトッピングの言葉を変えたり、つくった旋律をつくり直したりする。</li> <li>○少人数のグループ内で、旋律のつなげ方や重ね方を工夫して表現する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まなびリンクを活用し、「基本のリズム」を聴かせる。メトロノームで指定された速度を提示し、表現させる。</li> <li>・まなびリンクを活用し、例示されている「みそラーメン」の三つの旋律を聴かせる。学級全体または少人数のグループで表現させて再確認させる。</li> <li>・メトロノームで速度を確認しながら、「ツ」「ター」「ツク」で表現するグループと、「みそラーメン」の旋律を表現するグループに分け、交互に表現させる。</li> <li>・ワークシートに記入させる。</li> </ul> <p>【評】言葉のリズムを理解し、課題に沿った言葉を選択する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検討した作品を再度グループで交流させたりグループの代表作を決めて学級全体で発表し合ったりさせる。</li> <li>・デジタル教科書P. 22活動1で、生徒がつくった作品を提示しながら表現してもよい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まなびリンクを活用し、例示の旋律を聴かせる。</li> <li>・メトロノームで速度を確認しながら、ラーメンの旋律を「ツ」「ター」「ツク」で表現するグループと、具材の言葉のリズムを「ツ」「ター」「ツク」で表現するグループに分け交互に表現させる。</li> <li>・ワークシートに記入させる。</li> </ul> <p>【評】言葉のリズムを理解し、課題に沿った言葉を選択する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検討した作品を再度グループで交流させたりグループの代表作を決めて学級全体で発表し合ったりさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強弱やバランスなどを工夫させる。</li> <li>・交流したことは板書し、全体で共有させる。</li> </ul> <p>【評】旋律をつくるための知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらためてワークシートに記入する。</li> </ul> <p>【評】まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

【 備 考 】

本ユニットでは、ラーメンに関する言葉を選択して、言葉のリズムを生かして反復させたり組み合わせたりし、まとまりのある旋律をつくる学習を展開する。「言葉を生かし」とは、言葉のリズムや抑揚を感じ取り、旋律のつながり方や反復によるまとまりを考えることである。いくつかの言葉の組み合わせや旋律の重なり方を工夫し、ラーメンに関する言葉による短い作品をつくらせたい。

【共通事項】リズム・テクスチャ・構成

単元名 **リコーダーの基本的な奏法を身に付けてアンサンブルを楽しもう** 配当時間 **3時間**

単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きを聴きながら合わせて演奏する技能を身に付けることができる。  
 (2) 曲想と音楽の構造との関わりについての知識や全体の響きを聴きながら合わせて演奏する技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫している。  
 (3) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

### 標準的な展開例

12260104\_001

【教材名】きらきら星 浜辺の歌 威風堂々 ◆カノン3 うぐいすのカノン (P. 14～P. 15)

【準備等】ワークシート、タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの音色や響き、旋律のまとまりを聴き取りながら表現を工夫する。<br/> <b>★</b>「きらきら星」をグループで演奏しよう。<br/>         ○「きらきら星」を表現する際に必要なアルト・リコーダーの新しい運指を確認し、上のパートをソプラノ・リコーダーまたはアルト・リコーダーで、下のパートをアルト・リコーダーで表現する。<br/>         ○「きらきら星」の4小節の旋律のまとまりやブレスの位置などを生かし、2～4人のグループで上下のパートをそれぞれ聴き取りながら合わせて演奏する。</p> <p>2 二部形式による旋律のまとまりを生かし、ソプラノ・リコーダーまたはアルト・リコーダーで表現を工夫する。<br/> <b>★</b>「きらきら星」と「浜辺の歌」をグループで発表しよう。<br/>         ○グループでソプラノ・リコーダーまたはアルト・リコーダーの分担を様々に変え、「浜辺の歌」を表現する。<br/>         ○4小節の旋律のまとまり、rit.の効果などを考え、ブレスの位置なども含めて表現を工夫する。</p> <p>○グループで「きらきら星」と「浜辺の歌」の演奏を発表し、発表後に工夫したことや注意したことなどをワークシートにまとめる。</p> <p>3 様々な運指やサミングを生かして表現を工夫する。<br/> <b>★</b>「威風堂々」をグループで演奏しよう。<br/>         ○「威風堂々」を表現する際に必要なアルト・リコーダーの新しい運指を確認し、上のパートをソプラノ・リコーダーまたはアルト・リコーダーで、下のパートをアルト・リコーダーで表現する。<br/>         ○繰り返しを確認し、4小節の旋律のまとまりやブレスの位置などを生かして表現を工夫する。<br/>         ○グループで発表し、発表後に工夫したことや注意したことなどをワークシートにまとめる。</p> | <p>・タブレットで動画を撮影することにより、全体の響きを客観的に聴かせる。<br/> <b>【評】</b> 創意工夫を生かし、全体の響きを聴きながら合わせて演奏する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・新しい運指を確認させる。</p> <p>・二部形式を生かした表現を考えさせる。<br/>         ・タブレットで撮影し、全体の響きや表現の効果を感じ取らせる。<br/> <b>【評】</b> 曲想と音楽の構造との関わりを理解し、創意工夫を生かして全体の響きを聴きながら合わせて演奏したり、まとめたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・全員が両パートを演奏できるように上下のパートを入れ替えて練習させる。<br/> <b>【評】</b> 曲想と音楽の構造との関わりを理解し全体の響きを聴きながら合わせて演奏する技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/> <b>【評】</b> 器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーを用いて、「きらきら星」ではリコーダー・アンサンブルを、「浜辺の歌」では二部形式を生かした表現を工夫させる。「威風堂々」では、リコーダーの組み合わせも工夫しながら、アンサンブルで表現させる。学習状況により、さらに、「カノン3 うぐいすのカノン」を表現することでアンサンブルの楽しさを味わわせることもできる。

【共通事項】音色・旋律・テクスチャ・形式・構成

## 単元名 歌詞の内容や曲想の変化を味わって【旧】

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と形式や歌詞との関わりについて理解するとともに、音域や強弱に応じた発声、子音や母音の発音などを身に付けることができる。
- (2) 曲想と形式や歌詞との関わりについての知識や、音域や強弱に応じた発声、子音や母音の発音などの技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260105\_001

【教材名】花 荒城の月 指揮をしてみよう (下 P.4～P.9)

【準備等】範唱音源

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 「花」の歌詞の内容を理解し、それぞれの声部の旋律を歌う。</p> <p>★どんな情景を歌っているのかイメージして歌おう。</p> <p>歌詞を朗読し、情景を話し合う。</p> <p>○歌詞の内容を確認し、雰囲気や曲想を感じ取って歌う。</p> <p>2 歌詞の内容や、曲想を生かした表現を工夫する。</p> <p>○歌詞の内容と音楽の関係をとらえ、曲想を生かした表現を工夫する。</p> <p>★歌詞の内容や、曲想を生かした表現を工夫しよう。</p> <p>3 「荒城の月」の歌詞の内容を理解し、七五調の歌詞と旋律とのかかわりを考える。</p> <p>○範唱を聴く。</p> <p>★歌詞の特徴を生かして「荒城の月」を歌おう。</p> <p>○歌詞を朗読し、七五調の歌詞のまとまりと、旋律との関わりを感じ取り、表現を工夫する。</p> <p>4 原曲と補作編曲との違いを理解し、それぞれの曲想を感じ取って歌う。</p> <p>○山田耕筰の補作編曲を参照し、音や音符、強弱の設定の違いを確認する。</p> <p>★曲想の違いを感じ取って歌おう。</p> <p>○原曲と補作編曲との曲想の違いを感じ取って歌う。</p> <p>○「花」「荒城の月」の指揮をする。</p> | <p>・日本歌曲の名曲であることを理解させる。</p> <p>・歌詞を音読し、情景をイメージさせる。</p> <p>・1番と2・3番の旋律やリズムの違いを感じ取らせる。</p> <p>・声部を決めて二部合唱させる。</p> <p>【評】歌詞の内容を確認し、イメージをふくらませて歌唱する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・楽曲の形式をとらえ、それぞれの表現を工夫させる。</p> <p>・速度や強弱の設定と、声部の役割について考えさせる。</p> <p>・声部の役割や形式、テクスチュアを生かして二部合唱させる。</p> <p>【評】歌詞の内容や曲想に合わせた表現を工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・範唱を聴いて、楽曲のイメージをつかむ。</p> <p>・歌詞を朗読し、歌詞の内容や表している情景を想像させる。</p> <p>【評】歌詞の内容を確認し、七五調の歌詞と旋律の関わりを考え歌唱する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・原曲と補作編曲の違いを理解させる。</p> <p>【評】原曲と補作編曲との曲想の違いを感じ取って歌う活動を通して、「技能」を評価する</p> <p>・強弱やフレーズに気を付けながら、それぞれの曲にあった指揮を考えさせる。</p> <p>【評】曲にあった指揮の表現をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

歌詞の内容、楽曲全体の構成と曲想との関わりを意識しながら表現させる。「花」では、声部や伴奏の役割を確認し、拍子や強弱などが生み出す雰囲気を味わわせながら、二部合唱で表現を工夫させる。「荒城の月」では、七五調の歌詞と旋律との関係を知覚して、二部形式を感受しながら表現を工夫させる。

【共通事項】音色・リズム・速度・旋律・テクスチュア・強弱・形式

## 単元名 音楽の構造と曲想との関わりを理解して【旧】

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想とリズムや旋律の反復による音楽の構造との関わりについて理解することができる。  
 (2) 曲想とリズムや旋律の反復による音楽の構造との関わりについての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。  
 (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開

12260106\_001

【教材名】ボレロ 組曲「惑星」から第1曲「火星」

(下 P. 24～P. 27)

【準備等】鑑賞音源、鑑賞映像

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1～2 楽曲について知り「ボレロ」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作曲者や、時代背景を知る。</li> <li>○ 楽曲の形式について理解する。</li> </ul> <p>★繰り返される二つの主題やリズム、巧みなオーケストレーションの効果について話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽曲を聴き、気付いたことや諸要素から醸し出される効果について話し合う。</li> <li>○ 音楽のよさや、美しさを味わって鑑賞する。</li> </ul> <p>3 楽曲について知り、組曲「惑星」から第1曲「火星」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作曲者や時代背景を知る。</li> </ul> <p>★「火星」を聴こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽曲の形式について理解する。</li> <li>○ 繰り返される特徴のあるリズムや三つの主題に応じた曲想の変化を味わって鑑賞する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 舞曲であり、元はバレエ音楽として作曲されたことを留意させる。</li> <li>・ 展開をせずただ二つの主題がくり返されるだけであるが、巧みなオーケストレーションによって生み出される豊かな表現を味わわせる</li> </ul> <p>【評】「ボレロ」の構成を理解し、それと関連する曲想を感じ取って聴く活動を通して、「知識」を評価する。</p> <p>【評】「ボレロ」の表現の特徴や表現の固有性を理解して自分の価値意識を述べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】「ボレロ」の鑑賞を基盤にして「火星」の構成や特徴を理解する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近代のオーケストラの響きを味わわせ、数多くの管楽器、打楽器を取り入れた表現の工夫を感じ取らせる。</li> </ul> <p>【評】「ボレロ」と「火星」の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】「ボレロ」や「火星」のよさや美しさを味わって聴く活動に主体的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「ボレロ」では、二つの主題の反復、スネアドラムや弦楽器などで繰り返されるリズムによって、音楽が構成されていることを理解させ、それらが生み出す雰囲気や曲想を感じ取らせる。また楽曲全体にわたる強弱の設定や、多様な楽器の響きの組み合わせの効果についても感じ取らせたい。

「火星」では、5拍子による特徴あるリズムの繰り返しの中で現れる三つの主題が曲想に応じて変化していく効果を感じ取らせたい。

【共通事項】音色・リズム・旋律・テクスチャ・強弱・構成

## 単元名 言葉や旋律の繰り返しを生かして【旧】

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復，変化，対照などの構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解するとともに，課題に沿った音や旋律の組み合わせを選択する技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の反復，変化，対照などの構成上の特徴についての知識や，課題に沿った音や旋律の組み合わせを選択する技能を得たり生かしたりしながら，まとまりのある創作表現を創意工夫することができる。
- (3) 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260107\_001

【教材名】CMソングをつくろう (下 P. 40～P. 43)

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1～2 自分の住む地域の名物や名所のキャッチコピーを決め言葉のリズムや抑揚，音階の特徴を生かして短い旋律をつくる。</p> <p>○ 地域の名物や名所のキャッチコピーを考える。</p> <p>★キャッチコピーで旋律をつくろう。</p> <p>○ 言葉のリズムや「ミ」「ソ」「ラ」の三音または「レ」「ミ」「ソ」「ラ」「ド」の五音を使って旋律をつくらせる。</p> <p>○ つくった旋律を発表し，言葉や音階の特徴を生かす工夫をする。</p> <p>3～4 旋律の繰り返し方を理解し，CMソングを完成させ，発表し，全体の構成を考える。</p> <p>○ 旋律の繰り返し方を理解し，CMソングをつくる。</p> <p>★CMソングをつくろう。</p> <p>○ CMソングを発表する。</p> <p>○ それぞれの作品の工夫した点を発表し，その効果について話し合う。</p> <p>○ 話し合った内容を生かし，表現をさらに工夫する。</p> <p>○ 完成したCMソングを発表し，味わう。</p> | <p>【評】 音を選択して旋律をつくる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 発表交流することで，つくった旋律にさらに工夫をさせる。</p> <p>【評】 言葉や音階の特徴を生かす表現を創意工夫する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 繰り返しによる効果を感じ取らせる。</p> <p>【評】 CMソングをつくる活動を通して，「知識」を評価する。</p> <p>・ 繰り返しの効果を理解し，全体の構成を工夫させる。</p> <p>【評】 全体の構成を工夫する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 CMソングを創作表現するための知識や技能を得たり生かしたりしながら，まとまりのある創作表現を創意工夫する学習を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> |

## 【 備 考 】

言葉のリズムや抑揚を生かした旋律がつくれるように，促音（っ），拗音（や・ゆ・よ・わ），長音（ー・う）などのリズムを確かめて旋律を考えさせたい。また，旋律を繰り返して音楽をつくらせることの効果を生かし，全体の構成を理解させる。

【共通事項】リズム・旋律・構成



## 単元名 曲の形式を生かして歌おう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けることができる。
- (2) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりの知識や、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260201\_001

【教材名】花 荒城の月 (下 P.12～P.19)

【準備等】範唱音源 ワークシート

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 「花」の歌詞を読み合わせ、内容を理解したり表している情景を想像したりする。</p> <p>★どんな情景を歌っているのかイメージして歌おう。</p> <p>○「花」の歌詞を読み合わせ、内容を理解したり表している情景を想像したりする。</p> <p>○歌詞と旋律の関係を4小節でとらえながら表現する。</p> <p>2 「花」が二部形式であることを理解し、強弱の設定や曲の山場（クライマックス）を生かして表現を工夫する。</p> <p>★形式を理解し、強弱を生かした表現を工夫しよう。</p> <p>○二部形式について小楽節ごとのまとまりをワークシートに整理し、強弱の設定を確かめながら表現する。</p> <p>○鼻濁音の発音を確認したり、強弱や音域の高低から曲の山場（クライマックス）を考えたりしながら歌う。</p> <p>○重唱や少人数のグループで、ワークシートに工夫する内容を整理しながら表現する。</p> <p>3 「荒城の月」の形式を理解し、曲想を感じ取りながら表現する。</p> <p>★形式や歌詞の特徴を生かして「荒城の月」を歌おう。</p> <p>○「荒城の月」の滝廉太郎原作や山田耕筰補作編曲と「花」を比較し、二部形式を生かした工夫をワークシートにまとめ、表現を工夫する。</p> <p>○ワークシートの内容を発表交流し、「花」で身に付けた発音や発声の仕方を生かして、「荒城の月」を独唱や重唱、少人数のグループで表現する。</p> | <p>・日本歌曲の名曲であることを理解させる。</p> <p>・歌詞を音読し、情景をイメージさせる。</p> <p>・ワークシートに、歌詞を分かりやすい文章に書き直させる。</p> <p>・1番と2・3番の旋律やリズムの違いを感じ取らせる。</p> <p>・声部を決めて二部合唱させる。</p> <p>・冒頭の4小節のまとまりを確認し、旋律の回復、変化、対照について整理させる。</p> <p>【評】曲想と歌詞の関わりについて理解し、曲にふさわしい発声や発音などを身に付けて歌唱表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・各フレーズが「続く感じ」か「終わる感じ」かを感じ取らせ、ブレスの位置もあわせて確認させる。</p> <p>・3番のフェルマータは、身体活動等を通して感覚を身に付けさせる。</p> <p>【評】強弱と二部形式の関わりについて理解し音域や強弱に応じた発声、鼻濁音の発音を身に付けて歌唱表現する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・声部の役割や形式、強弱を生かして二部合唱させる。</p> <p>【評】曲にふさわしい歌唱表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・原作と補作編曲の比較では、拍子にも注目させ、指揮などの身体活動を通して感覚的にも違いを感じさせる。</p> <p>・歌詞を朗読させ、七五調の歌詞のまとまりと旋律との関わりを感じ取らせる。</p> <p>【評】曲想と形式や歌詞との関わりについて理解し、曲にふさわしい発声や発音を身に付けて歌唱表現する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>【評】表現に関わる知識や技能を生かしながら曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して発表交流する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「花」を主教材にして、旋律のまとまりや形式と七五調の歌詞との関係を理解し、曲想を感じ取りながら表現することを目指す。また、日本語の子音や母音の発音、強弱や音域に応じた発声などの技能を身に付けながら表現を工夫する。

「荒城の月」は滝廉太郎の原作と山田耕筰補作編曲とを比較し、形式を生かして表現を工夫する。

【共通事項】音色・リズム・旋律・強弱・形式

## 単元名 オペラやバレエを味わいながら鑑賞しよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 音楽の特徴と、物語の進行や登場人物の心情、舞台の表現との関わりについて理解することができる。
- (2) 音楽の特徴と、物語の進行や登場人物の心情、舞台の表現との関わりについての知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に、主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260202\_001

【教材名】オペラ「アイーダ」から第2幕第2場 バレエ「白鳥の湖」から (下 P.32～P.37)

【準備等】鑑賞映像、デジタル教科書、タブレット、ワークシート

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 オペラ「アイーダ」第2幕第2場の場面設定を確認し、音楽の特徴と舞台の表現との関わりを理解しながら鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○オペラについて知る。</li> <li>★オペラ「アイーダ」を味わおう。</li> <li>○「アイーダ」の第2幕第2場の場面設定を理解し、【前半：凱旋を祝う場面（エジプト王やラダメスによるアリアが始まる前まで）】の音楽の役割や特徴を考えながら視聴する。</li> <li>○音楽の役割や特徴について考えたことを発表し合った後再度、【前半：凱旋を祝う場面】を視聴する。</li> </ul> <p>2 各登場人物の心情を想像し、物語の進行に応じた表現を聴き取り、その特徴を理解してよさや魅力などを考え、発表・交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★登場人物の心情と音楽との関わりを聴き取ろう。</li> <li>○各登場人物の心情を想像し、【後半：エジプト王やラダメスによるアリアから】を視聴して、登場人物ごとの表現の特徴を聴き取り、ワークシートにまとめる。</li> </ul> <p>○まとめた内容を発表交流し、第2幕第2場を鑑賞して、オペラ「アイーダ」のよさや魅力などをワークシートに記述する。</p> <p>3 バレエ「白鳥の湖」について、音楽の特徴とバレエの表現との関わりを理解しながら鑑賞し、オペラとバレエを比較することで、自分なりの価値意識を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★バレエの表現と音楽の特徴との関わりを見つけ、オペラと比較しよう</li> <li>○バレエ「白鳥の湖」の視聴する場面の設定を理解し、音楽の役割とバレエの表現との関わりを考えながら視聴する。</li> </ul> <p>○オペラ「アイーダ」第2幕第2場とバレエ「白鳥の湖」を比較しながら視聴し、音楽と舞台の表現との関わりをワークシートにまとめる。</p> <p>○まとめた内容を発表し合い、再度比較しながら視聴した後、それぞれの魅力についてワークシートを整理する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラが総合芸術であることを理解させる。</li> <li>・P.34を参照し、必要なことをワークシートに記述させる。</li> </ul> <p>【評】オペラ「アイーダ」の特徴と、物語の進行や登場人物の特徴、舞台の表現との関わりについて理解する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書P.34「主な登場人物とその声の種類」を提示し、各登場人物の心情とともに声の種類について確認させる。</li> </ul> <p>【評】オペラ「アイーダ」の音楽の特徴と、物語の進行や登場人物の心情との関わりについて理解する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <p>【評】鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、舞台芸術における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】オペラ「アイーダ」のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気が付いたことや考えたことを教科書やワークシートに記述させる。</li> </ul> <p>場面に応じた速度や強弱の変化と効果について考え、オペラ「アイーダ」の見方・考え方を活用しながら鑑賞する。</p> <p>【評】音楽の特徴と、物語の進行や登場人物の性格、舞台の表現との関わりについて理解する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを使用して、各自で見たい場面を視聴させてもよい。</li> </ul> <p>【評】鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、オペラ「アイーダ」やバレエ「白鳥の湖」の音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽と舞台上の表現を比較し、音楽の役割などを理解しながらそれぞれのよさや魅力などを考えさせる。</li> </ul> <p>【評】舞台芸術における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴</p> |

く学習に主体的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

「アイーダ」では、音楽と舞台の表現との関わりについて理解させ、舞台芸術での音楽の意味や役割・効果、物語の進行に応じた音楽と舞台との関わりなどを考える。そのため、場面設定や登場人物の心情を理解して曲想を感じ取りながら舞台の表現とともに鑑賞する。バレエ「白鳥の湖」では、オペラ「アイーダ」と比較しながら音楽とバレエや物語との関わりを理解して味わいながら鑑賞する。これらの鑑賞活動を通して、「さまざまな舞台芸術」で取り上げられている舞台芸術を鑑賞して音楽の意味や役割への理解を深めさせたい。

【共通事項】 音色・速度・旋律・テクスチュア・強弱

## 単元名 曲想を味わいながら合わせて歌おう1

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 曲想と全体の構成との関わりについて理解し、全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260203\_001

【教材名】大地讃頌 合唱コンクール曲 (下 P.78～P.79)

【準備等】範唱音源、パート練習用音源、録音録画機器(タブレット)

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 楽曲の全体の構成を理解する。</p> <p>★楽曲の全体の構成を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○範唱を聴取し、フレーズのまとまりを基本にして、全体の構成をとらえる。</li> <li>○パートを決め、主旋律の担当、強弱の設定、曲の山場（クライマックス）などを考えながらパートごとに歌う。</li> </ul> <p>2 パート練習で表現を工夫する。</p> <p>★パートで表現を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○パートに分かれて歌い、主旋律の担当、速度や強弱の設定などを確認しながら、2番以降の表現を工夫する。</li> <li>○パートごとに工夫した内容を発表し、表現しながら交流する。</li> </ul> <p>3 曲の構成と曲想の変化との関係や、パートの役割を生かして表現を工夫する。</p> <p>★少人数のグループで表現を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各パート数名ずつのグループで表現し、曲想の変化について交流する。</li> <li>○最後の部分の速度や強弱等の設定を生かして表現を工夫する。</li> <li>○グループで検討した内容を楽譜やワークシートにまとめその内容を発表したり歌唱表現したりして交流する。</li> </ul> <p>4 学級としての表現を工夫する。</p> <p>★まとめの表現をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでに学習した内容を生かして、全体の合唱を表現する。</li> <li>○学級として表現を工夫する内容を楽譜に記入し、確認しながらまとめの表現をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容をしっかりと理解させ、心に訴える合唱を目指させる。</li> <li>・パート決めは個人の希望を優先させるものの全体のバランスや適正を考慮して教師が助言する。</li> </ul> <p>【評】曲想と全体の構成との関わりについて理解しているか、歌唱表現の活動を通して、「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれのパートの役割をしっかりと果たして歌唱できるまで練習させる。</li> </ul> <p>【評】楽曲の表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、ふさわしい発音や発声についてアドバイスする。</li> <li>・タブレットの録画機能を活用させる。</li> </ul> <p>【評】楽曲の表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】曲想と全体の構成との関わりについて理解したり、全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を身に付けたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】楽曲の表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「大地讃頌」や合唱コンクール曲を教材にして速度や強弱の設定を生かし、曲の山場（クライマックス）や担当するパートの役割を考えながら合唱で表現する技能を身に付けさせる。そして、曲想と曲全体の構成との関わりを理解し、全体の響きや他のパートを聴取して指揮やピアノ伴奏も含めて混声三部合唱や混声四部合唱の表現を工夫させる。

【共通事項】音色・速度・旋律・テクスチャ・強弱・構成

## 単元名 CMソングをつくろう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復，変化，対照などの構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解するとともに，創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な，課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の反復とその効果などの構成上の特徴についての知識や，課題に沿った音や旋律の組合せを選択する技能を得たり生かしたりしながら，まとまりのある創作表現を創意工夫することができる。
- (3) 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260204\_001

【教材名】CMソングをつくろう (下 P. 24～P. 25)

【準備等】ワークシート，タブレット

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 自分の住む地域の名物や名所のキャッチコピーを決め，言葉のリズムや抑揚，音階の特徴を生かして短い旋律をつくる。</p> <p>★名物や名所に合う旋律をつくろう。</p> <p>○地域の名物や名所のキャッチコピーを考える。</p> <p>○言葉のリズムや「ミ」「ソ」「ラ」の三音または「レ」「ミ」「ソ」「ラ」「ド」の五音を使って旋律をつくらせる。</p> <p>○つくった旋律を発表し，言葉や音階の特徴を生かす工夫をする。</p> <p>2 旋律の繰り返し方を理解し，つくった旋律を用いて全体の構成を考えながら表現する。</p> <p>★CMソングをつくろう。</p> <p>○例の全体の構成を表現し，反復の効果を理解する。</p> <p>○例を参考にして，つくった旋律を用いて全体の構成を考えながら創作する。</p> <p>○それぞれの作品の工夫した点とCMソングを発表し，その効果について話し合う。</p> <p>3 構成の仕方をもう一度工夫し，CMソングを発表する。</p> <p>★工夫したCMソングを発表しよう。</p> <p>○前時の話し合いや記録をもとに，構成の仕方をもう一度工夫する。</p> <p>○完成したCMソングを発表し，味わう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級全体で取り上げる「地域名」を確認し，考えられる「名物や名所」をあげさせる。</li> <li>・短い歌詞は七五調になるように工夫させる。</li> <li>・言葉のリズムだけでなく抑揚を生かすことのできることを伝える。</li> <li>・生徒の実態に応じて五音で旋律をつくらせる</li> </ul> <p>【評】課題に沿った音や旋律の組み合わせを選択する活動を通して，「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表交流することで，つくった旋律にさらに工夫をさせる。</li> </ul> <p>【評】言葉のリズムや抑揚を生かした旋律づくりを創意工夫するための学習に主体的に取り組む活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のグループで例示された全体の構成を表現し，気付いたことやおもしろいことを発表交流させる。</li> <li>・各自で全体の構成を考えてCMソングの表現を工夫し，どんな雰囲気になったかをワークシートにまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】旋律の反復とその効果や旋律の組み合わせを選択してまとまりのある創作表現を行う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表をタブレットで記録させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創意工夫の過程が分かるようにワークシートに記入させる。</li> </ul> <p>【評】まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくったCMソングがどんな雰囲気だと感じたかを発表交流させる。</li> </ul> <p>【評】旋律の反復とその効果などから構成上の特徴を理解し，それが生み出す雰囲気を感じ受ける活動を通して，「知識」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

地域の名物や名所を紹介するキャッチコピーを考え，それを説明する歌詞とともに言葉のリズムや抑揚を生かして短い旋律をつくる。促音（っ），拗音（や・ゆ・よ・わ），長音（ー・う）などのリズムを確かめて旋律を考えさせたい。また，キャッチコピーの印象を強めるために紹介したいものを繰り返すことで音楽を構成し，CMソングを完成させる。

【共通事項】音色・リズム・旋律・構成

## 単元名 総合芸術に親しもう1【旧】

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 音楽の特徴と、物語の進行や登場人物の心情、舞台の表現との関わりについて理解することができる。
- (2) 音楽の特徴と、物語の進行や登場人物の心情、舞台の表現との関わりについての知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260205\_001

【教材名】オペラ「アイダ」から第2幕第2場 くらしとともにあるさまざまな音楽 (下 P. 28～P. 32)

(下 P.

【準備等】鑑賞映像、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 オペラ「アイダ」から第2幕第2場を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○オペラについて知る。</li> <li>★オペラ「アイダ」(抜粋)を味わおう。</li> <li>○第2幕第2場を鑑賞し、感想を話し合う。</li> </ul> <p>2～3 オペラの特徴的な表現やよさについて調べ学習をし、レポートを発表する。</p> <p>★オペラについて関心ある音楽の要素からテーマを決め、調べたり鑑賞したりしてレポートを作成しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書や資料を使って調べる。</li> </ul> <p>○テーマに応じた観点に絞って「アイダ」を鑑賞し、レポートにまとめ、発表する。</p> <p>○調べた特徴や表現のすばらしさをもとに「アイダ」を味わう。</p> <p>4 さまざまな総合芸術の音楽表現を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ジンジュ(京劇)、ミュージカル、バレエを鑑賞する。</li> <li>★さまざまな総合芸術を味わおう。</li> <li>○それぞれの音楽表現の特徴について話し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラが総合芸術であることを理解させる。</li> <li>・物語のあらすじや、主な登場人物を理解させてから鑑賞させる。</li> <li>【評】オペラ「アイダ」の音楽の特徴と、物語の進行や登場人物の心情、舞台の表現との関わりについて理解する活動を通して、「知識」を評価する。</li> <li>・「オペラ」に関して各自テーマを決めさせ、レポートを作成させる。</li> <li>・登場人物やオーケストラ、舞台の豊かな表現を知覚させる。</li> <li>・「オペラ」に関する諸要素から関心あるテーマを各自に決めさせ、レポートを作成させる</li> <li>・登場人物やオーケストラ、舞台の豊かな表現を知覚させる。</li> <li>【評】関心をもった要素に着目して、オペラについて調べたり、発表したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・それぞれの総合芸術が、その国の人々のくらしとともにあることや、音楽の多様性、音楽と他の芸術との関わりについても理解させる</li> <li>【評】それぞれの鑑賞活動や、話し合い活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

「アイダ」では、物語の内容を理解させ、音楽と舞台との関わりに着目して鑑賞させる。オペラにおける音楽の役割や効果、物語の進行に応じた音楽と舞台との関わりなどを理解し、総合芸術の豊かな表現を味わわせて鑑賞させる。「くらしとともにあるさまざまな音楽」では、ジンジュ(京劇)、ミュージカル、バレエを鑑賞させる。これら総合芸術の鑑賞活動を通して、音楽と他の芸術との関わりや、音楽の多様性への理解を深めさせる。

【共通事項】音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱

## 単元名 混声合唱の深まり【旧】

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 曲想と全体の構成との関わりについての知識や、全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260206\_001

【教材名】 時を越えて 旅立ちの日に 大地讃頌 合唱コンクール曲 (下 P.20～P.23)

【準備等】 範唱音源、パート練習用音源、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| <p>1 3年間の集大成として、仲間とともに合唱活動に取り組む。</p> <p>★心に響く合唱をつくりあげよう。</p> <p>○モデル演奏を聴いて、イメージを話し合う。</p> <p>○歌詞の内容を把握し、パートを決めて練習する。</p> <p>2 パート練習で表現を深める。</p> <p>○共鳴を意識して響く声を工夫し、パート練習で表現を深める。</p> <p>★表現を深めよう。</p> <p>○互いに気付いたことを指摘し合い、よりよい合唱表現を追究する。</p> <p>3～4 調和のとれた響きを大切に、合唱表現を工夫する。</p> <p>○声の響きや、ハーモニーを意識して合唱練習する。</p> <p>★響きを大切にして合唱しよう。</p> <p>5～6 表現を深め、全体の響きを味わいながら合唱する。</p> <p>○自分たちの合唱を録音し、それを聴くことで、さらによりよい表現を工夫する。</p> <p>★全体の響きを味わいながら歌おう。</p> | <p>・歌詞の内容をしっかりと理解させ、心に訴える合唱を目指させる。</p> <p>・パート決めは個人の希望を優先させるものの全体のバランスや適正を考慮して教師が助言する。</p> <p>【評】歌詞の内容を十分に理解し、パート練習で歌唱する活動を通して「技能」を評価する</p> <p>・それぞれのパートの役割をしっかりと果たして歌唱できるまで練習させる。</p> <p>・歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫させる。</p> <p>【評】パート練習での歌唱活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・確かな音程をとらせる。</p> <p>・ハーモニーのバランスに気を付けさせる。</p> <p>・姿勢について気を付けさせる。</p> <p>・曲の出だしや山場、また終わり方などは十分に練習させ、仕上げさせる。</p> <p>・歌詞の内容と表現との関わりも留意させる。</p> <p>【評】合唱をつくりあげる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・全員が心をついに、豊かな表現で合唱させる</p> <p>・コンクールや発表を意識した演奏を心がけさせる。</p> <p>【評】より豊かな響きをめざして、合唱する活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>【評】曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と旋律のまとまりや、強弱の設定を考慮して表現を工夫させる。

【共通事項】 音色・速度・旋律・テクスチャ・強弱・構成

## 単元名 言葉の特性や曲想を生かして【旧】

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 曲想と旋律のまとまりや音楽の構造との関わりについての知識や、他のパートの声や伴奏などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260207\_001

【教材名】 帰れソレントへ Top of the world (下 P.10～P.13)

【準備等】 範唱音源

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 「帰れソレントへ」の歌詞の内容を理解し、強弱や速度調の変化などから曲想をつかんで歌唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌詞を朗読する。</li> <li>○ 範唱を聴いて、楽曲のイメージをつかむ。</li> <li>○ 同主調転調について知る。</li> <li>★ 転調による効果について話し合おう。</li> <li>○ 速度や強弱、同主調転調を生かした歌唱表現を工夫する</li> </ul> <p>2 曲想の変化を生かし、感情を込めて独唱（斉唱）する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 速度や強弱、転調を生かした表現を工夫する。</li> <li>★ 感情を込めて独唱しよう。</li> <li>○ 友達同士で互いの歌を聴き合い、よりよい歌唱表現を追究する。</li> </ul> <p>3 「Top of the world」の言葉の特性を理解し、ビート感などを感じ取って表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二分の二拍子の拍子感やAllegroの速度を感じ取って歌う。</li> <li>★ 「Top of the world」を歌おう。</li> <li>○ 英語の歌詞の内容や発音、歌詞のまとまりを感じ取り旋律を歌う。</li> <li>○ 曲想とその変化を味わい、表現を工夫し歌う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カンツォーネ（イタリア歌曲）の名曲であることを理解させる。</li> <li>・ 歌詞の内容と速度や強弱、同主調転調を生かした表現を工夫させる。</li> <li>【評】 歌詞の内容と曲の特徴を生かした表現を工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】 速度や強弱、転調を生かした歌唱活動を通して、「技能」を評価する。</li> <li>・ 歌詞の内容と速度の変化、強弱が関連していることに気付かせ、感情を込めて楽曲にふさわしい表現で独唱（斉唱）させる。</li> <li>【評】 よりよい歌唱表現を追究する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 伴奏から拍子感や速度を感じ取り、旋律を歌わせる。</li> <li>・ 歌詞を朗読し、歌詞の内容を理解させる。</li> <li>【評】 歌詞の特徴を生かした歌唱活動を通して「技能」を評価する。</li> <li>・ 英語の発音を意識しながら旋律を歌わせる。</li> <li>・ 反復記号を確認し、曲の盛り上がる部分を考えながら表現を工夫する。</li> <li>【評】 歌唱表現を工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 歌詞の内容や曲想とその変化を味わいながら歌わせる。</li> <li>【評】 曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

「帰れソレントへ」では歌詞とリズムの反復、速度や強弱の設定、同主調転調などが生み出す雰囲気味わわせながら、イタリア語の表現を工夫させる。「Top of the world」では、英語の歌詞と関係する旋律のまとまりを理解して、斉唱や独唱で表現させる。2分の2拍子の拍子感、シンコペーションのリズム、言葉と関係するリズムなどを感じ取り、曲想を味わいながら表現を工夫させる。

【共通事項】 音色・リズム・速度・旋律・強弱・構成



## 単元名 曲想を味わいながら合わせて歌おう2

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 曲想と全体の構成との関わりについての知識や全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。
- (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260301\_001

【教材名】時を越えて (下 P. 20～P. 21)

【準備等】ワークシート、タブレット、デジタル教科書

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 「時を越えて」の全体の構成を理解する。</p> <p>★「時を越えて」の全体の構成を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 番の範唱を聴取し、8 小節のまとまりを基本にして、全体の構成をとらえる。</li> <li>○ 主旋律の担当、強弱の設定、曲の山場（クライマックス）などを考えながら、パートごとに歌う。</li> </ul> <p>○ 再度、範唱を聴取して、曲想の変化を感じ取りながら全体の構成を理解する。</p> <p>2 「時を越えて」の 2 番かっこ以降の表現を工夫する。</p> <p>★ 2 番かっこ以降の表現を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ パートに分かれて歌い、主旋律の担当、速度や強弱の設定などを確認しながら、2 番かっこ以降の表現を工夫する。</li> <li>○ パートごとに工夫した内容を発表し、表現しながら交流する。</li> </ul> <p>3 曲の構成と曲想の変化との関係や、パートの役割を生かして表現を工夫する。</p> <p>★ グループで表現を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各パート数名ずつのグループで表現し、曲想の変化について交流する。</li> <li>○ 最後の 4 小節の速度と強弱の設定を生かして表現を工夫する。</li> </ul> <p>○ グループで検討した内容を教科書やワークシートにまとめ、その内容を発表したり歌唱で表現したりして交流する。</p> <p>○ 学級として表現を工夫する内容を楽譜に記入し、確認しながらまとめの表現をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休符が付されていても、4（8）小節のまとまりを感じて歌わせる。</li> <li>・ デジタル教科書を活用して楽譜を提示し、学級全体で確認させる。</li> <li>・ 考えた内容を教科書に記録しながら活動させる。</li> </ul> <p>【評】 曲想と全体の構成との関わりについて理解し、全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う活動を通して、「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 番かっこ以降が 26～33 小節の旋律が反復・変化していることを確認させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パートの重なり方や役割、全体の構成について考えながら表現させる。</li> <li>・ タブレットの録画機能を活用させる。</li> </ul> <p>【評】 「時を越えて」の表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて、ふさわしい発音や発声についてアドバイスする。</li> </ul> <p>【評】 「時を越えて」の表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 「時を越えて」の表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する活動に主体的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル教科書を活用して楽譜を提示し、学級全体で確認させる。</li> </ul> <p>【評】 曲想と全体の構成との関わりについて理解し、全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

「時を越えて」を教材にして速度や強弱の設定を生かし、曲の山場（クライマックス）や担当するパートの役割を考えながら合唱で表現する技能を身に付けさせる。そして、曲想と曲全体の構成との関わりを理解し、全体の響きや他のパートを聴取して指揮やピアノ伴奏も含めて混声三部合唱の表現を工夫させる。

【共通事項】音色・速度・旋律・テクスチャ・強弱・構成

## 単元名 歌舞伎や文楽の豊かな表現を鑑賞しよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 我が国の郷土や伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解できる。
- (2) 歌舞伎や文楽の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性についての知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260302\_001

- 【教材名】歌舞伎「勧進帳」 文楽「義経千本桜」から ◆Let's Try! 長唄「勧進帳」をうたおう ◆物語を表現するアジアの芸能や音楽 (下 P.38~P.45)
- 【準備等】鑑賞映像、タブレット、ワークシート

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 歌舞伎「勧進帳」の場面設定を確認し、音楽の特徴と舞台の表現との関わりを理解しながら鑑賞する。</p> <p>★長唄の特徴と舞台の表現との関わりを理解しよう。</p> <p>○歌舞伎「勧進帳」のあらすじを理解し、『1 登場』までの長唄の特徴を聴き取りながら視聴する。</p> <p>○長唄の役割、演奏に使われる楽器、演奏される場所などを確認し、音楽の特徴と舞台の表現との関わりについて考える。</p> <p>○音楽の特徴と舞台の表現について考えたことを発表し合った後、再度、『1 登場』までを視聴する。</p> <p>2 弁慶と富樫の心情を想像し、物語の進行に応じた音楽の特徴や役割を考え、発表交流する。</p> <p>★物語の進行に応じた音楽の特徴と役割を考えよう。</p> <p>○『2 読み上げ』の場面を、弁慶または富樫の心情を想像しながら視聴し、聴き取った長唄の特徴、長唄の役割や効果などを考えワークシートにまとめ発表交流する。</p> <p>○『3 折檻』『4 詰合い』『5 延年の舞』『6 飛び六法』の各場面も同様に視聴し、聴き取った音楽の特徴、音楽の役割や効果などを考えワークシートに記入する。</p> <p>3 文楽「義経千本桜」の義太夫節の特徴と人形の演技との関わりを理解しながら鑑賞し、歌舞伎と文楽それぞれの音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性を整理し自分なりの価値意識を考える。</p> <p>★歌舞伎と文楽を比べてそれぞれの魅力を見つけよう。</p> <p>○文楽「義経千本桜」の視聴する場面の設定を理解し、音楽の役割と人形の表現との関わりを考えながら視聴する。</p> <p>○気が付いたことや考えたことを発表交流した後、再度視聴する。</p> <p>○歌舞伎と文楽を比較し、それぞれの魅力についてワークシートにまとめる。</p> | <p>・歌詞の上に唄の動きを線で書き入れたり、別の色で三味線の音の動きを線で書き入れたりすることで、長唄の旋律の特徴を生徒自身で見つけさせる。</p> <p>・タブレットを使用してもよい。</p> <p>・囃子の有無による雰囲気の違いや、囃子の楽器の音色の聴き分けなどの活動も音楽の特徴の理解につながる。</p> <p>【評】歌舞伎「勧進帳」の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <p>【評】歌舞伎「勧進帳」のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】歌舞伎「勧進帳」の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <p>・タブレットを使用し、必要に応じて各場面を再度鑑賞させる。</p> <p>【評】歌舞伎の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性についての知識を得たり生かしたりしながら、音楽のよさや美しさを味わって聴く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・気付いたことや考えたことをワークシートに記述させる。</p> <p>【評】音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性についての知識を得たり生かしたりしながら、歌舞伎や文楽の音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】歌舞伎や文楽の音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【備 考】

歌舞伎「勧進帳」では、唄、三味線、囃子（笛・小鼓・大鼓・太鼓）による表現と舞踊や演技との関連をとらえながら鑑賞し、音楽の特徴とその多様性を理解する。そして、長唄や舞台の表現の特徴を理解し、歌舞伎のよさや美しさを考えながら鑑賞する。これと文楽「義経千本桜」を比較し、音楽表現の共通性や固有性を考えながら鑑賞し、音楽の表現の多様性を理解する。また、P.44~45『Let's Try! 長唄「勧進帳」をうたおう』やP.52~53「物語を表現するアジアの芸能や音楽」を活用して、音楽の多様性の理解を深めそれぞれの表現を聴取させて

もよい。

【共通事項】 音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱

単元名 **ギターの基礎的な奏法を身に付けて表現を工夫しよう** 配当時間 **3時間**

単元の目標 (1) ギターの音色と奏法との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するための右手の使い方や左手の運指などの技能を身に付けることができる。  
 (2) ギターの音色と奏法の関わりについての知識や右手の使い方や左手の運指などの技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。  
 (3) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

### 標準的な展開例

12260303\_001

【教材名】 アニー・ローリー Happy Birthday to You (P. 28～P. 31)

【準備等】 タブレット、(ギター・レスト, 足台)

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 ギターのかまえ方や各部の名称、指の名称を理解し、ふさわしい姿勢やかまえ方、右手の使い方を身に付ける。<br/> <b>★</b>ギターの基礎を確認しよう。<br/>         ○教科書P. 28「姿勢とかまえ方」P. 29「各部の名称（クラシック・ギター）」を参照し、姿勢やかまえ方を理解する。<br/>         ○教科書P. 29「指の名称」を参照し、右手の記号を理解しながら任意の開放弦を弾いて確認する。<br/>         ○アポヤンド奏法とアル・アイレ奏法を、教科書P. 30「右手の使い方」のまなびリンクを活用し、i（人さし指）で第⑥弦などを弾いて確認する。</p> <p>2 第6・5・4弦を使った左手の運指を身に付けて表現する。<br/> <b>★</b>「アニー・ローリー」を弾こう。<br/>         ○教科書P. 29「指の名称」を参照して左手の記号を理解し弦を押さえる指や位置を確かめ、教科書p. 31の譜例を演奏する。<br/>         ○「アニー・ローリー」を演奏し、重要なことや注意点をワークシートに記録し、二人一組で交互に演奏する。</p> <p>3 チューニング（調弦）の方法や第3・2・1弦を使った左手の運指を身に付けて表現する。<br/> <b>★</b>「Happy Birthday to You」を弾こう。<br/>         ○教科書P. 30「チューニング（調弦）」を参照し、チューナーを使って調弦する。<br/>         ○左手の運指を確認しながら、P. 31の譜例や「Happy Birthday to You」を演奏し、重要なことや注意点をワークシートに記入する。</p> | <p>・補助器具としてギター・レストや足台を使用させてもよい。</p> <p>【評】 ギターの音色と奏法との関わりを理解し右手の使い方の技能を身に付けて器楽表現する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・右手p（親指）、アポヤンド奏法で演奏させる。</p> <p>・右手の使い方と左手の運指を確認し合いながら演奏させる。<br/>         【評】 右手の使い方や左手の運指など理解し、器楽表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・タブレットのチューニング機能を用いさせてもよい。<br/>         ・二人一組でギターを使い交互に演奏させる。<br/>         【評】 「Happy Birthday to You」の表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら器楽表現を創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>         【評】 表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

クラシック・ギターの各部の名称、右手と左手の指の名称を確認し、まなびリンクを活用しながらアポヤンド奏法とアル・アイレ奏法を理解させる。「アニー・ローリー」では、右手の使い方と左手の運指等の技能を、「Happy Birthday to You」では、ギターの音色や響きを聴き取りながらアポヤンド奏法で演奏させる。

【共通事項】 音色・速度・旋律

## 単元名 総合芸術に親しもう2【旧】

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 我が国の伝統音楽の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解することができる。
- (2) 能や文楽の音楽の特徴1と、その特徴から生まれる音楽の多様性についての知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260304\_001

【教材名】 能「羽衣」キリから 能の音楽を体験しよう 文楽「義経千本桜」から (下 P.3  
3～P.37)

【準備等】 鑑賞映像、タブレット

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 能について知り、「羽衣」キリを鑑賞する。</p> <p>○ 能について知る。</p> <p>○ 能「羽衣」のあらすじを知る。</p> <p>★キリを鑑賞し、能の特徴について話し合おう。</p> <p>○ 学習したことを念頭にキリを鑑賞する。</p> <p>○ 感じ取ったことを基に、能の特徴について話し合う。</p> <p>2 能の音楽を体験する。</p> <p>○ キリ（終結部分）の歌詞を確認する。</p> <p>○ シテの表現や、謡と囃子による表現に挑戦する。</p> <p>3 文楽について知り、「義経千本桜」から二段目大物浦の段を鑑賞する。</p> <p>○ 文楽について知る。</p> <p>○ 文楽「義経千本桜」のあらすじを知る。</p> <p>★大物浦の段を鑑賞し、文楽の特徴について話し合おう。</p> <p>○ 学習したことを念頭に「義経千本桜」を鑑賞する。</p> <p>○ 感じ取ったことを基に、文楽の特徴について話し合う。</p> | <p>・ 能が総合芸術であることを理解させ、歴史的な背景について留意させる。</p> <p>・ 物語のあらすじを理解させる。</p> <p>・ タブレットを活用し、テーマを決めて調べ学習をさせ、レポート発表をさせてもよい。</p> <p>【評】 能やその歴史的な背景を理解し、話し合う活動を通して、「知識」を評価する。</p> <p>・ 地謡の声色や詞（ことば）の特徴的な表現、旋律装飾、拍子合、平ノリなどについて理解させる。</p> <p>・ 囃子の手（リズムパターン）や謡との合わせ方、間合いなどに留意して練習させる。</p> <p>【評】 能楽（謡）の体験活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 文楽が総合芸術であることを理解させ、歴史的な背景について留意させる。</p> <p>・ 物語のあらすじを理解させる。</p> <p>【評】 文楽や歴史的な背景を理解し鑑賞する活動を通して、「知識」を評価する。</p> <p>【評】 文楽の特徴について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

能「羽衣」キリからでは、羽衣伝説に関係する物語の内容を理解し、音楽と舞台との関わりに着目して鑑賞させる。「Let's Try! 能の音楽を体験しよう」では、我が国の伝統的な歌唱の特徴を感じ取らせながら謡（うたい）を表現させる。そして、文楽「義経千本桜」からでは、文楽の表現の特徴を理解して鑑賞し、総合芸術の多様な表現を理解して鑑賞させる。

【共通事項】 音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱

## 単元名 郷土の民謡や芸能【旧】

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 声の音色及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、創意工夫しを生かした表現で歌うために曲種に応じた発声の技能を身に付けることができる。  
 (2) 声の音色及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し、曲種に応じた発声を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫することができる。  
 (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260305\_001

【教材名】 子守歌 谷茶前 くらしとともにあるさまざまな音楽 (下 P. 18～P. 19)

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| 1 「子守歌」を歌う。<br>○歌詞を音読し、内容を理解する。<br>○声の出し方を工夫する。<br>○曲想や発声を生かして、子守歌を歌う。                              | ・歌詞を音読し、言葉の意味や内容を理解させる。<br>・赤ちゃんをあやすときの呼びかけやあやし言葉であることに気付かせる。<br>・「ねんねころころこや～」や「ナンチャマシマシ～」の歌い方を工夫させる。<br>【評】曲種に応じた発声や言葉の特性を理解し曲種に応じた発声で歌唱表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。  |
| 2 「谷茶前」を歌う。<br>○歌詞の大意を知る。<br>★音階の違いや楽曲の背景などを生かして、表現を工夫しよう。<br>○曲の特徴や雰囲気にあった表現を工夫する。<br>○伴奏を加えて歌う。   | ・音楽の背景や歌詞の大意を理解させる。<br>・「子守歌」と「谷茶前」を比較し、歌う目的や音階の違いなどに留意して歌唱させる。<br>・曲想を生かした演奏を心がけさせる。<br>【評】曲種に応じた発声を生かして歌唱表現を創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br>・アルトリコーダーや打楽器の伴奏を練習させる。<br>・曲想を生かした演奏を心がけさせる。<br>【評】歌唱表現に主体的・協働的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |
| 3 「天台声明」「布農族の合唱」「ゴスペル」「ブルガリアの女声合唱」を鑑賞する。<br>○諸外国の音楽の特徴を知る。<br>○我が国と諸外国の音楽の違いを話し合う。<br>○それぞれの楽曲を味わう。 | ・我が国と諸外国の声の出し方や音楽の特徴や多様性を理解させる。<br>【評】声の音色及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて話し合う活動を通して、「知識」を評価する。   |

## 【 備 考 】

「子守歌」では、赤ちゃんをあやす声の出し方で表現を工夫させたり、旋律の繰り返しによる構成を理解させたりする。「谷茶前」は、踊りや楽器の演奏とともに歌い合わせるため、歌と囃し言葉や伴奏楽器などとの関わりに着目させて表現を工夫させる。くらしとともにあるさまざまな音楽では、鑑賞活動だけではなく身近な地域の民謡や芸能、祭りの音楽などを調べる活動を通して、表現する機会や目的、保存の現状など音楽の背景も理解させるようにしたい。

【共通事項】 音色・リズム・旋律・テクスチャ・強弱

**単元名** ギターの豊かな表現【旧】

**配当時間** 2時間

- 単元の目標** (1) 曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史について理解することができる。
- (2) 曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史について理解し、曲や演奏に対する評価とその根拠を考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 鑑賞に関する知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠を考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

**標準的な展開例**

12260306\_001

**【教材名】** アランフェス協奏曲 (下 P. 38～P. 39)

**【準備等】** 鑑賞音源、鑑賞映像

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| 1 楽曲について知り「アランフェス協奏曲」を鑑賞する。<br>○ 作曲者や、協奏曲について知る。<br><b>★</b> ギター協奏曲を味わおう。<br>○ 第1楽章を鑑賞する。<br><br>2 ギターとオーケストラとの豊かな表現を味わいながら、第2～3楽章を鑑賞する。<br>○ ギターの奏法に着目しながら鑑賞する。<br><br>○ 第2～3楽章を鑑賞する。<br>○ 感想を話し合う。 | ・独奏楽器をギターとする協奏曲の演奏形態を確認し、第1楽章を鑑賞させる。<br><b>【評】</b> 曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、鑑賞する活動を通して、「知識」を評価する。<br><br>・ギターの音色や奏法などについて理解させる<br><br>・カデンツァの豊かな表現や、楽曲の特徴を生かした表現を味わわせる。<br><br><b>【評】</b> 曲や演奏に対する評価とその根拠を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |

**【 備 考 】**

協奏曲の特徴をつかみ、独奏楽器（ギター）とオーケストラとの関係を理解させ、ギターの音色や表現を味わいながら鑑賞させる。楽曲全体に表れるスペイン情緒あふれるリズムや旋律などによる曲想を感じ取らせたい。

**【共通事項】** 音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱・形式

# **令和 3 年度 知多地方教育計画案**

## **美術科**



# 美術科

## 1 教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

教科の目標は、小学校図画工作科における学習経験と、そこで培われた豊かな感性や、表現及び鑑賞に関する資質・能力などを基に、中学校美術科に関する資質・能力の向上と、それらを通した人間育成の一層の深化を図ることをねらいとし、高等学校芸術科美術、工芸への発展を視野に入れつつ、目指すべきところを総括的に示したものである。

教科の目標は、教科で何を学ぶのかを明確に示すとともに、具体的に育成することを目指す資質・能力を(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。教科の目標の実現に向けては、これらの(1)、(2)、(3)を相互に関連させながら育成できるよう確かな実践を一層推進していくことが求められる。

### ○教科の目標(1)

育成することを目指す「知識及び技能」について示している。前半部分は、造形的な視点を豊かにするために必要な知識に関するもの、後半部分は、創造的に表す技能に関するものであり、教科の目標(1)は、この二つから構成されている。

### ○教科の目標(2)

育成することを目指す「思考力、判断力、表現力等」について示している。美術科において育成する「思考力、判断力、表現力等」とは、表現の活動を通して育成する発想や構想に関する資質・能力と、鑑賞の活動を通して育成する鑑賞に関する資質・能力であり、教科の目標(2)は、大きくはこの二つから構成されている。

### ○教科の目標(3)

育成することを目指す「学びに向かう力、人間性等」について示している。教科の目標(1)及び(2)に関する資質・能力を、どのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。主体的に美術の学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、美術の創造活動の喜び、形や色彩などによるコミュニケーションを通して生活や社会と主体的に関わること、美術文化の継承と創造に向かう態度、豊かな感性や情操など、情意や態度等に関するものが含まれる。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 改訂の趣旨

中央教育審議会答申における成果と課題と受け、改訂の具体的な方向性が示され、美術科はそれに基づき、改訂が行われた。

(成果)

- ・創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること。

- ・生活の中の造形や美術の働き，美術文化に関心を持って，生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むこと。

(課題)

- ・感性や想像力等を豊かに働かせて，思考・判断し，表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成すること。
- ・生活を美しく豊かにする造形や美術の働き，美術文化についての実感的な理解を深め，生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること

(具体的な方向性)

- ・感性や想像力等を働かせて，表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう，内容の改善を図る。
- ・生活を美しく豊かにする造形や美術の働き，美術文化についての理解を深める学習の充実を図る。

(2) 改訂の要点

① 目標の改善

教科の目標では，感性や想像力を働かせ，造形的な視点を豊かにもち，生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを一層重視する。

- (1) 「知識及び技能」については，造形的な視点を豊かにするために必要な知識と，表現における創造的に表す技能に関するもの。
- (2) 「思考力，判断力，表現力等」については，表現における発想や構想と，鑑賞における見方や感じ方などに関するもの。
- (3) 「学びに向かう力，人間性等」については，学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情，豊かな感性や情操などに関するもの。

② 内容の改善

教科の目標の改善に基づき内容を整理するとともに，次のような視点を重視して改善を図る。

ア 表現領域の改善

- ・「A表現」の内容を育成する資質・能力を一層明確にする観点から，項目を発想や構想に関する資質・能力と技能に関する資質・能力の二つの観点から整理する。
- ・主体的で創造的な表現の学習を重視し，表現の学習において，生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描き，豊かに発想や構想をすることを重視して改善を図った。

イ 鑑賞領域の改善

- ・「B鑑賞」の内容を，アの「美術作品など」に関する事項と，イの「美術の働きや美術文化」に関する事項に分けて示した。

ウ 〔共通事項〕の改善

- ・感性や造形感覚などを高めていくことを一層重視し，〔共通事項〕を造形的な視点を豊かにするために必要な知識として整理し，表現や鑑賞の学習に必要な資質・能力を育成する観点から改善を行った。

エ 各学年の内容の取扱いの新設

- ・第1学年，第2学年及び第3学年のそれぞれに各学年の内容の取扱いを新たに示し，発達の特性を考慮して，各学年においての学習内容や題材に配する時間数を十分検討するとともに，「思考力，判断力，表現力等」を高めるために，言語活動の充実を図るようにする。

# 第1学年 美術科

## 1 学年の目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

## 2 内容

|         |  |
|---------|--|
| A<br>表現 | <p>(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。</p> <p>ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p> <p>イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 構成や装飾の目的や条件などを基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生みし、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ること。</p> <p>(イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ること。</p> <p>(ウ) 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ること。</p> |
|         | <p>(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。</p> <p>ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。</p> <p>(イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。</p>   |
| B<br>鑑賞 | <p>(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。</p> <p>ア 美術作品などの見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。</p> <p>(イ) 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。</p> <p>イ 生活の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。</p> <p>(イ) 身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。</p>  |

|      |   |
|------|---|
| 共通事項 | <p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解すること。</p> <p>イ 造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。</p> |
|------|---|

### 3 内容の取扱いと指導上の配慮事項

(1) 〔共通事項〕の指導に当たっては，生徒が造形を豊かに捉える多様な視点をもてるように，以下の内容について配慮すること。

ア 〔共通事項〕のアの指導に当たっては，造形の要素などに着目して，次の事項を実感的に理解できるようにすること。

(ア) 色彩の色味や明るさ，鮮やかさを捉えること。

(イ) 材料の性質や質感を捉えること。

(ウ) 形や色彩，材料，光などから感じる優しさや楽しさ，寂しさなどを捉えること。

(エ) 形や色彩などの組み合わせによる構成の美しさを捉えること。

(オ) 余白や空間の効果，立体感や遠近感，量感や動勢などを捉えること。

イ 〔共通事項〕のイの指導に当たっては，全体のイメージや作風などに着目して，次の事項を実感的に理解できるようにすること。

(ア) 造形的な特徴などを基に，見立てたり，心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること。

(イ) 造形的な特徴などを基に，作風や様式などの文化的な視点で捉えること。

(2) 「A表現」の指導に当たっては，主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して，生徒が夢と目標をもち，自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにすること。

(3) 「A表現」の指導に当たっては，生徒の学習経験や資質・能力，発達の特性等の実態を踏まえ，生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法，材料などを選択し創意工夫して表現できるように，次の事項に配慮すること。

ア 見る力や感じ取る力，考える力，描く力などを育成するために，スケッチの学習を効果的に取り入れるようにすること。

イ 美術の表現の可能性を広げるために，写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図るようにすること。

ウ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式，漫画やイラストレーション，図などの多様な表現方法を活用できるようにすること。

エ 表現の材料や題材などについては，地域の身近なものや伝統的なものも取り上げるようにすること。

(4) 各活動において，互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにすること。

(5) 互いの個性を生かし合い協力して創造する喜びを味わわせるため，適切な機会を選び共同で行う創造活動を経験させること。

(6) 「B鑑賞」の題材については，国内外の児童生徒の作品，我が国を含むアジアの文化遺産についても取り上げるとともに，美術館や博物館等と連携を図ったり，それらの施設や文化財などを積極的に活用したりするようにすること。

(7) 創造することの価値を捉え，自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに，必要に応じて，美術に関する知的財産権や肖像権などについて触れるようにすること。

また、こうした態度の形成が、美術文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮すること。

#### 4 安全指導

事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などを徹底するものとする。

#### 5 学校における鑑賞のための環境づくり

- (1) 生徒が造形的な視点を豊かにもつことができるよう、生徒や学校の実態に応じて、学校図書館等における鑑賞用図書、映像資料などの活用を図ること。
- (2) 生徒が鑑賞に親しむことができるよう、校内の適切な場所に鑑賞作品などを展示するとともに、学校や地域の実態に応じて、校外においても生徒作品などの展示の機会を設けるなどすること。

#### 6 第1学年の評価の観点の趣旨

| 観 点           | 観点の趣旨  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。<br>・意図に応じて表現方法を工夫して表している。  |
| 思考・判断・表現      | 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。   |

## 第 2・3 学年 美術科

### 1 学年の目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

### 2 内容

|         |  |
|---------|--|
| A<br>表現 | <p>(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。</p> <p>ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p> <p>イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。</p> <p>(イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。</p> <p>(ウ) 使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。</p> |
|         | <p>(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。</p> <p>ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。</p> <p>(イ) 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すこと。</p>   |
| B<br>鑑賞 | <p>(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。</p> <p>ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。</p> <p>(イ) 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。</p> <p>イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。</p> <p>(イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。</p>              |

|      |   |
|------|---|
| 共通事項 | <p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。</p> <p>イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。</p> |
|------|---|

### 3 内容の取扱いと指導上の配慮事項

- (1) 〔共通事項〕の指導に当たっては、生徒が造形を豊かに捉える多様な視点をもてるように、以下の内容について配慮すること。
  - ア 〔共通事項〕のアの指導に当たっては、造形の要素などに着目して、次の事項を実感的に理解できるようにすること。
    - (ア) 色彩の色味や明るさ、鮮やかさを捉えること。
    - (イ) 材料の性質や質感を捉えること。
    - (ウ) 形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること。
    - (エ) 形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉えること。
    - (オ) 余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢などを捉えること。
  - イ 〔共通事項〕のイの指導に当たっては、全体のイメージや作風などに着目して、次の事項を実感的に理解できるようにすること。
    - (ア) 造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などに関連付けたりして全体のイメージで捉えること。
    - (イ) 造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること。
- (2) 「A表現」の指導に当たっては、主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにすること。
- (3) 「A表現」の指導に当たっては、生徒の学習経験や資質・能力、発達の特性等の実態を踏まえ、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料などを選択し創意工夫して表現できるように、次の事項に配慮すること。
  - ア 見る力や感じ取る力、考える力、描く力などを育成するために、スケッチの学習を効果的に取り入れるようにすること。
  - イ 美術の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図るようにすること。
  - ウ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式、漫画やイラストレーション、図などの多様な表現方法を活用できるようにすること。
  - エ 表現の材料や題材などについては、地域の身近なものや伝統的なものも取り上げるようにすること。
- (4) 各活動において、互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにすること。
- (5) 互いの個性を生かし合い協力して創造する喜びを味わわせるため、適切な機会を選び共同で行う創造活動を経験させること。
- (6) 「B鑑賞」の題材については、国内外の児童生徒の作品、我が国を含むアジアの文化遺産についても取り上げるとともに、美術館や博物館等と連携を図ったり、それらの施設や文化財などを積極的に活用したりするようにすること。
- (7) 創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、美術に関する知的財産権や肖像権などについて触れるようにすること。また、こうした態度の形成が、美術文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮すること。

### 4 安全指導

事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などを徹底するものとする。

### 5 学校における鑑賞のための環境づくり

- (1) 生徒が造形的な視点を豊かにもつことができるよう、生徒や学校の実態に応じて、学校図書館等に

おける鑑賞用図書、映像資料などの活用を図ること。

- (2) 生徒が鑑賞に親しむことができるよう、校内の適切な場所に鑑賞作品などを展示するとともに、学校や地域の実態に応じて、校外においても生徒作品などの展示の機会を設けるなどすること。

## 6 第2・3学年の評価の観点の趣旨

| 観 点           | 観点の趣旨   |
|---------------|---|
| 知識・技能         | ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。<br>・意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。  |
| 思考・判断・表現      | 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。   |



第1学年 美術科 年間計画(標準45時間)【美術1】

|             | 単 元 名        | 領 域・分 野   | 配当時間 | 備 考                  |
|-------------|--------------|-----------|------|----------------------|
| 一<br>学<br>期 | 絵や彫刻との出会い    | オリエンテーション | 1    | P. 6, 7 中学美術の世界へようこそ |
|             | 見つめると見えてくるもの | 絵や彫刻など    | 5    | P. 60鉛筆で描く・水彩で描く     |
|             | なぜか気になる情景    | 絵や彫刻など    | 6    | P. 71三原色・絵の具の混色と重色   |
|             | 美のタイムトラベル    | 鑑賞        | 1    |                      |
| 14          | 評価テスト        | テスト       | 1    |                      |

|             | 単 元 名        | 領 域・分 野   | 配当時間 | 備 考                      |
|-------------|--------------|-----------|------|--------------------------|
| 二<br>学<br>期 | 人の暮らしを豊かに    | オリエンテーション | 1    |                          |
|             | 自然の美しさから生まれた | 鑑賞        | 1    | P. 68, 69自然界や身の回りにある形や色彩 |
|             | 折って、切って、巻いて  | デザインや工芸など | 4    |                          |
|             | 学びの言葉 松任谷由実  | オリエンテーション | 1    |                          |
|             | 文字っておもしろい    | デザインや工芸など | 4    | P. 63文字の基本               |
|             | 暮らしに息づく土の造形  | デザインや工芸など | 6    | P. 65材料を知ろう, P. 67焼き物を作る |
| 18          | 評価テスト        | テスト       | 1    |                          |

|             | 単 元 名     | 領 域・分 野   | 配当時間 | 備 考 |
|-------------|-----------|-----------|------|-----|
| 三<br>学<br>期 | 屏風, 美のしかけ | 鑑賞        | 1    |     |
|             | 広がる模様の世界  | デザインや工芸など | 5    |     |
|             | 材料に命を吹き込む | 絵や彫刻など    | 6    |     |
| 13          | 評価テスト     | テスト       | 1    |     |

第2学年 美術科 年間計画(標準35時間)【美術2・3上】

|             | 単 元 名           | 領 域・分 野   | 配当時間 | 備 考(資 料)           |
|-------------|-----------------|-----------|------|--------------------|
| 一<br>学<br>期 | 多彩な表現に挑むのはなぜだろう | オリエンテーション | 1    | 上P. 2～4学びの実感と広がり   |
|             | 視点の冒険           |           | 5    |                    |
|             | つくって使って味わう工芸    | デザインや工芸など | 5    | 上P. 57木でつくる/金属でつくる |
|             | 手から手へ受け継ぐ       | 鑑賞        | 1    | 下P. 53受け継ぐ伝統と文化    |
| 13          | 評価テスト           | テスト       | 1    |                    |

|             | 単 元 名          | 領 域・分 野   | 配当時間 | 備 考          |
|-------------|----------------|-----------|------|--------------|
| 二<br>学<br>期 | 浮世絵はすごい        | 鑑賞        | 1    | 上P. 54北斎の大波  |
|             | ジジジチカピカ ポップポップ | デザインや工芸など | 3    |              |
|             | 瞬間の美しさを形に      | 絵や彫刻など    | 7    | 上P. 56人物をつくる |
|             | なんでこれが美術なの？    | 鑑賞        | 1    |              |
| 13          | 評価テスト          | テスト       | 1    |              |

|             | 単 元 名        | 領 域・分 野   | 配当時間 | 備 考              |
|-------------|--------------|-----------|------|------------------|
| 三<br>学<br>期 | ひと目で伝えるための工夫 | デザインや工芸など | 5    | 上P. 64色彩の特徴を深く知る |
|             | 水と筆を操る       | 絵や彫刻など    | 2    | 上P. 55水墨画の表現     |
|             | 暮らしやすさのデザイン  | デザインや工芸など | 1    |                  |
| 9           | 評価テスト        | テスト       | 1    |                  |

第3学年 美術科 年間計画(標準35時間)【美術2・3下】

|             | 単 元 名          | 領 域・分 野   | 配当時間 | 備 考             |
|-------------|----------------|-----------|------|-----------------|
| 一<br>学<br>期 | 時代を超えて美を探究する思い | オリエンテーション | 1    | 下P. 2～4学びの探究と未来 |
|             | あの日を忘れない       | 鑑賞        | 2    |                 |
|             | イメージを追い求めて     | 絵や彫刻など    | 7    | 下P. 56石を彫る      |
|             | 仏像に宿る心         | 鑑賞        | 2    | 下P. 54仏像の種類     |
| 13          | 評価テスト          | テスト       | 1    |                 |

|             | 単 元 名         | 領 域・分 野   | 配当時間 | 備 考         |
|-------------|---------------|-----------|------|-------------|
| 二<br>学<br>期 | 私の色 みんなの色     | デザインや工芸など | 4    | 下P. 56布を染める |
|             | 今を生きる私へ       | 絵や彫刻など    | 7    |             |
|             | 笑顔が生まれる鉄道デザイン | 鑑賞        | 1    |             |
| 13          | 評価テスト         | テスト       | 1    |             |

|             | 単 元 名       | 領 域・分 野   | 配当時間 | 備 考 |
|-------------|-------------|-----------|------|-----|
| 三<br>学<br>期 | 魅力を伝えるパッケージ | デザインや工芸など | 3    |     |
|             | 心がはっと なごむもの | デザインや工芸など | 5    |     |
| 9           | 評価テスト       | テスト       | 1    |     |

第3学年（令和3年度）美術科 年間計画（標準35時間）【旧：美術2・3下】

|             | 単 元 名          | 領 域・分 野   | 配当時間 | 備 考                  |
|-------------|----------------|-----------|------|----------------------|
| 一<br>学<br>期 | 美を探し求めて        | オリエンテーション | 1    | (参) 夢をかたちにするデザイン     |
|             | ここでシャッターを切った理由 | 鑑賞        | 1    |                      |
|             | 私との対話          | 絵や彫刻など    | 7    |                      |
|             | 刻まれた祈り         | デザインや工芸など | 2    | (参) 仏像の種類, 日本の世界文化遺産 |
| 12          | 評価テスト          | テスト       | 1    |                      |

|             | 単 元 名         | 領 域・分 野   | 配当時間 | 備 考 |
|-------------|---------------|-----------|------|-----|
| 二<br>学<br>期 | 魅力が伝わるパッケージ   | デザインや工芸など | 6    |     |
|             | デザインで変える現在と未来 | 鑑賞        | 2    |     |
|             | 空想の世界の誘い      | 絵や彫刻など    | 5    |     |
| 14          | 評価テスト         | テスト       | 1    |     |

|             | 単 元 名         | 領 域・分 野   | 配当時間 | 備 考  |
|-------------|---------------|-----------|------|------|
| 三<br>学<br>期 | 自然を愛でる空間      | 鑑賞        | 1    |      |
|             | 自分たちの生活の場を飾ろう | デザインや工芸など | 5    | 共同制作 |
|             | 「ゲルニカ」は語る     | 鑑賞        | 2    |      |
| 9           | 評価テスト         | テスト       | 1    |      |

第3学年〇組 美術科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時 (美術室)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 今を生きる私へ (絵や彫刻など)

2 単元の目標

- (1) 描画材料の特性や技法を生かし、主題に適した表現方法を工夫するなど、創造的に表現することができる。
- (2) 自分の姿や心の中を見つめて考えたことを基に主題を生み出し、顔の描写や画面の構図を工夫し、表現の構想を練ることができる。他者の作品から心情や意図を感じ取り、自分の価値感と比較しながら、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 自分の姿や心の中を表現した作品に関心をもち、主体的に創造的な工夫をしたり、技法や材料の特性を生かした表現をしたりしようとする。

3 学習の計画 (7時間完了)

- 第1次 第1時 自画像を鑑賞し、主題を考え、構想を練る。
- 第2次 第2時 (本時) 自分の心情や顔の表情、構図を考えながら下絵を描く。
- 第3次 第3時～第6時 描画材料の特性を生かし、制作を進める。
- 第4次 第7時 完成した作品を鑑賞をする。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 自分の心情から主題を決め、構図を考えたアイデアスケッチを描くことができる。
  - 主題を基に画面構成をし、下絵を描くことができる。
- (2) 準備・資料
  - 生徒……鉛筆、消しゴム、ワークシート、資料となる写真等
  - 教師……参考作品、アイデアスケッチシート、A4イラストボード、タブレット、付箋
- (3) 関 連
  - 1年 美術 人間っておもしろい (絵や彫刻など・身近な人のその人らしさから主題を生み出し、表現する)
  - 2年 美術 視点の冒険 (絵や彫刻など・視点や構図、描画材料の生かし方などを工夫して表現する)
  - 3年 美術 あの日を忘れない (鑑賞・絵に込められた作者の訴えに関心をもち、見方や感じ方を深める)

(4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|------|---|----|--|
| つかむ  | 1 前時の学習を基に構想をまとめる。<br>(1) ワークシートの記載内容から主題を決める。<br>○ 自分の性格や特性、心情、夢、将来の自分などを基に主題を決める。<br>(2) 本時の目標を知る。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         主題を決め、画面構成を考えて下絵を描こう。                     </div> | 8  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時に記入したウェビングマップを基に、どのような自分の姿や心情を主題にするのかワークシートに記述させる。</li> <li>○ 参考作品を提示し、表現の工夫に着目させる。</li> <li>○ 主題設定をするときに自分の思いを反映させることに留意させる。</li> <li>○ 持参した資料を組み合わせ、主題に迫る工夫をしてもよいことを伝える。</li> </ul> |
| 発想する | 2 主題を基にアイデアスケッチをする。<br>(1) 画面構成を考える。<br>○ 自分の姿を画面のどの位置に配置するか考える。<br>○ 主題に合った背景のイメージや構   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ タブレットで自分を撮影し、表情や視線に気を付けて、画面構成に生かすようにさせる。</li> <li>○ 主題と表情との関連を意識させる。</li> </ul>   |

|                  |   |    |   |
|------------------|---|----|---|
| 発<br>想<br>す<br>る | 成を考える。<br>(2) ワークシートにアイデアスケッチをし、構図を決める。<br>○自分の姿の配置<br>・大きさ<br>・表情、視線<br>○背景のイメージ<br>・部活や趣味などの愛用品<br>・将来の姿、願望<br>(3) 相互鑑賞をする。<br>○アイデアスケッチをグループ（4人）で交換する。<br>○付箋にそれぞれの観点で記入し、どの部分のことかが分かるようにアイデアスケッチの中に貼る。<br>・工夫点…黄緑<br>・改善点…ピンク | 30 | ○主題に合った背景を考えさせる。<br><br>○おおよその配置やイメージを決めさせ、短時間でアイデアスケッチをさせる。<br><br><b>評</b> 自分の姿や表情、背景等などと主題との関連を意識し、構図を考えてアイデアスケッチを描いている。（ワークシート）<br><br>○付箋（2色）をグループに配付し、工夫点は黄緑、改善点はピンクに記入させる。<br><br>○改善点は、アドバイスとして捉えさせ、互いの作品批判にならないように留意させる。 |
|                  | 3 アイデアスケッチを基に下絵を描く。<br>○イラストボードに下絵を描く。<br>・全体の位置から部分へ<br>・自分の姿、顔の向き、表情など<br>・背景<br>・線や形の流れ、筆勢   | 45 | ○自分の心情を作品に表現することを意識させる。<br>○アイデアスケッチを参考にして、全体から部分へ向かって描かせる。<br><b>評</b> 主題を意識して自分の姿や背景の下絵となる輪郭を描いている。（下絵）   |
|                  | 4 本時の振り返りと次時の学習内容を確認し、後片付けをする。<br>(1) 本時を振り返り、今後の制作への見通しをもつ。<br>(2) ペンを使い、線の粗密によって制作を進めていくことを確認する。<br>(3) 各用具、作品を回収する。  | 50 | ○制作過程表に本時の振り返りを記述させる。<br>○黒のボールペンや水性ペンを次時に準備させる。<br>○タブレットとイラストボードを回収する。  |

- (5) 本時の評価規準  
○主題に沿った自分の姿や構図のアイデアスケッチを描いている。（ワークシート）  
○アイデアスケッチや持参した資料を基に自分の姿と夢や心の中の世界を画面構成し、描写をしている。（下絵）

## 5 備 考

### (1) 学級の実態

- 本学級の生徒は、どの教科学習においても落ち着いて取り組むことができる。作品に対する思いや願いや感じ取る力は高いが、どのような表現の工夫をすれば自分が意図することが表現できるかが分からず、手が止まってしまう傾向がある。2年時のドライポイント制作では、線で形態や質感を表現することに興味をもち、制作を楽しむ姿が多く見られた。

### (2) 指導の力点

- 自分自身をよく見つめ、「自己とは何か」を自分に問いかけながら、外見だけでなく内面の部分を表現させたい。そのため、主題設定の段階を大切にし、ウェビングマップを取り入れ、自分と向き合わせ自己理解を深めさせることとした。
- 作品を互いに鑑賞し、改善点や工夫点を話し合い、自分の作品を客観的に考える場面を設けた。

## 6 指導と評価

# 第1学年〇組 美術科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時（美術室）

指導者 〇 〇 〇 〇

## 1 単 元 鑑賞との出会い（鑑賞）

### 2 単元の目標

- (1) さまざまな表現方法のよさや特徴を知ることができる。
- (2) 作品から感じ取ったイメージや感想を表現するとともに、自分とは違う見方や感じ方を広げ、深めることができる。
- (3) 自分なりの感性で鑑賞し、作品に親しもうとする。

### 3 学習の計画 （2時間完了）

第1時 鑑賞の仕方を知るとともに、作品に対する自分の考えを表現する。

第2時（本時） 自分の好きな作品の特徴を分析し、互いに考えを説明し合う。

### 4 本時の学習指導

#### (1) 目 標

- 自分の好きな作品を分析するとともに、いろいろな見方や感じ方を広げることができる。
- 美術作品に親しみをもち、意欲的に作品を鑑賞しようとする。

#### (2) 準備・資料

- 教師……アートカード（40枚9セット）、鑑賞ワークシート、進行表、黒板掲示物、参考作品（9セット）、アートカードの拡大版

#### (3) 関 連

- 1年 美術 屏風、美のしかけ（鑑賞・作品のよさや美しさ、作者の意図や構図など表現の工夫を感じ取る）
- 2年 美術 浮世絵はすごい（鑑賞・日本の美術作品のよさや美しさ、作者の心情や意図を味わう）
- 3年 美術 あの日を忘れない（鑑賞・絵に込められた作者の訴えに関心をもち、見方や感じ方を深める）

#### (4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|------|---|----|--|
| 興味付け | 1 教師が選んだ作品を見比べる。<br>○四つの作品を提示し、教師の選んだ「テーマ」を探る。<br>・人がある ・暗い色合い<br>・何か考えている ・寂しい感じ | 5  | ○アートゲームを行うため、3～4人のグループに分けておく。<br>○参考作品（4作品）をグループにそれぞれ配付する。その4つの作品を比較させる。<br>○共通点は色や形が似ているだけでなく、「寂しい感じ」のように印象などにも目を向けさせる。 |
| 課題の  | 2 本時の課題を知る。<br>学芸員になったつもりで、自分の美術館のテーマを決めて、作品を選ぼう。                                 |    | ○アートゲームの手順や約束事を確認する。   |

|       |   |    |  |
|-------|---|----|--|
| 把握    | ○アートゲームの方法を知る。  | 7  |  |
| 課題の追究 | <p>3 アートゲームを行い、美術作品のよさや特徴を見つける。</p> <p>〈手順〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①全てのカードを表向きにして並べる。</p> <p>②自分の美術館のテーマを決めて、順番に4枚取る。</p> <p>③各自集めたカードを提示する。</p> <p>④テーマや選んだ理由をワークシートに記入する。</p> <p>⑤美術館のテーマを当て合う。</p> <p>⑥美術館のテーマや選んだ理由を発表する。</p> </div> | 40 | <p>○黒板にゲームの流れを提示し、分かりやすくする。</p> <p>○学芸員になったつもりで、絵を選ばせる。</p> <p>○黒板にカードの拡大版を貼って、テーマを当てさせる。</p> <p>○ワークシートと進行表の説明をする。</p> <p>○司会者を指名し、全員がスムーズに発表できるよう進行表に従ってテーマの当て合いを行わせる。</p> <p><b>評</b>多くの作品について自分の感じたことを発言したり、自分が選んだカードについて見方を発表したりしている。(アートゲーム)</p> |
| まとめ   | <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 友達の発表を聞いて、気付いたことを書く。</p> <p>(2) 本時の感想を発表する。</p> <p>(3) 自己評価をし、ワークシートに記入する。</p>   | 50 | <p>○生徒の気付きを発表させ、考えや見方の違いを捉えさせる。</p> <p>○自分なりに作品のよさや特徴を感じることが鑑賞では大切であることに気付かせる。</p> <p><b>評</b>友達の発表を聞いて、いろいろな見方や感じ方があることをワークシートに記入している。(ワークシート)</p>  |

#### (5) 本時の評価規準

- 作品のよさや特徴に気付くとともに、鑑賞者によっていろいろな見方や感じ方があることを理解し、美意識を高めている。(ワークシート)
- 自ら作品を選んだり、美術館のテーマ設定を考えたりして積極的にアートゲームに参加し、意見交換をしながら、作品鑑賞をしようとしている。(アートゲーム)

### 5 備 考

#### (1) 学級の実態

本学級の生徒の中で、「鑑賞は好き」と答えた生徒の多くは、小学生時に経験したアートゲームを挙げている。理由は、「カードゲームみたいで面白い」「遊び感覚でできる」「たくさんの絵が見られる」「自分で考えるのが楽しい」などと答えている。そして、「鑑賞は嫌い」と答えた生徒の多くは、「感想が苦手」「感じたことを言葉で表現するのが下手」と理由を挙げている。作品制作においては、対象物をよく見て描いたり、制作に丁寧に取り組んだりすることができる。

#### (2) 指導の力点

- ゲーム的要素と自分の考えを表現する要素を含んだ上級編のアートゲームを用いることで、楽しみながら考えたり発表したりできるようにした。
  - 発表を通して、作品の見方や感じ方は鑑賞者によって、さまざまあることに気付かせるようにした。

### 6 指導と評価



## 単元名 絵や彫刻との出会い(オリエンテーション)

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わうことができる。  
(3) 作者の心情や意図と表現の工夫などを主体的に感じ取ろうとする。

## 標準的な展開例

10270101\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| <p>1 小学校の図画工作科での学習内容を確認するとともに、第1学年での学習内容を知り、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校での学習内容を発表する。</li> <li>○ 第1学年での制作や鑑賞の計画とその内容を知り、関心をもったことをワークシートに記入する。</li> <li>★ 作品を見て感じたことを発表しよう。</li> <li>○ 教科書図版の参考作品を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「種まく人」ゴッホ</li> </ul> </li> <li>○ ゴッホについて知る。</li> <li>○ 鑑賞した感想をワークシートに記入したり、発表したりする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校での学習内容を想起させる。</li> </ul> <p>【評】 小学校での学習内容を制作した作品や技法などの観点で想起し、発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴッホの作品の変遷や浮世絵の影響、色彩の組み合わせに着目させ、作品から受けた印象を言葉にさせる。</li> <li>・ オランダからフランスに移り住んだ過程で、描き方や色彩が変化するさまや、画家が表現したいという意識の変化を追っている点や、図版から見て取れる荒々しいタッチにも着目させる。</li> <li>・ 作品から分かったことだけでなく、他の人の意見を聞いて、考えたことも書くようにさせる。</li> </ul> <p>【評】 作品の造形的なよさや美しさ、対象のイメージなどを感じ取り、自分の思いや考えをもって説明し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

中学校の美術と出会う本単元では、教科書の作品例や参考作品の鑑賞を通して、構図や色彩、描き方の効果を感じ取らせたり、画家の生き方に触れさせたりすることで、主体的に表現活動を行う意欲を喚起したい。

ゴッホの作品（教科書P. 70～72）を鑑賞し、感想を説明し合う活動を通して、作者や作品に対しての見方を深めさせたい。

美術の授業に意欲的に取り組もうとする気持ちをもたせることが、オリエンテーションのねらいである。中学校最初の授業ということで、以下の点についても指導したい。

- ・ 美術室の施設や設備の扱い方
- ・ 授業を進める上での約束事
- ・ 制作した作品を大切に扱うことなど

生徒は作品を鑑賞するときに「上手か下手か」といった技能面を重視しがちであるが、「自分らしく表現できているか」という観点も重要であることに気付かせたい。また、制作過程を大切にすることで、学習を深めようとする意欲や態度が重要であることを理解させたい。

## 単元名 見つめると見えてくるもの(絵や彫刻など)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 形や色彩, 明暗, 質感などが感情にもたらす効果や, 造形的な特徴などを基に, よさや美しさ印象などを全体のイメージで捉えることを理解することができる。
- (2) 身近なものを見つめ感じ取った形や色彩, 質感の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し, 全体と部分との関係などを考え, 創造的な構成を工夫し, 心豊かに表現する構想を練ることができる。造形的なよさや美しさを感じ取り, 作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして, 見方や感じ方を広げることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい, 楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り, 作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10270102\_001

【準備等】筆記用具, 描画材料

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 参考作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の作品から作者が自然や身近なものからどのような特徴や美しさを感じ取ったのかを話し合う。</li> </ul> <p>★身近なものをよく観察し特徴や美しさを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>素材の質感を表すのに何が必要かを考える。</li> </ul> <p>2 主題を決める。</p> <p>★モチーフを選択し, 主題を決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然や身近なものをさまざまな視点から観察したり, スケッチしたりして自分が注目した特徴や美しさをまとめる。</li> </ul> <p>3~4 主題を基にスケッチし, 制作をする。</p> <p>★そのものから感じ取った特徴や美しさを表現するために有効な描き方を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>形や色彩, 明暗, 質感に着目し, 自分なりの方法でスケッチを描く。</li> </ul> <p>5 鑑賞会を行う。</p> <p>★友達の作品の魅力や工夫したところを感じ取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者の作品を鑑賞し, 友達が対象から感じ取った形や色彩, 質感などの特徴や美しさを表現するためにどのような表現の工夫をしたかを話し合い, 見方や感じ方を広げる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>作者が対象からどのような特徴や美しさを感じ取ったのか, どこからそう思ったのかを考えさせる。</li> <li>「造形的な視点」について確認をする。</li> </ul> <p>【評】身近なものの特徴や美しさや形や色彩, 質感などの工夫を考え, 鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然や身近なものの中から見つけた形や色彩の特徴や美しさを上げさせ, モチーフを選択させる。</li> </ul> <p>【評】身近なものの特徴や美しさなどをとらえて表現することに関心をもち, 意欲的に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用する描画材料について, その特徴や使用方法を確認させる。</li> <li>形や色彩, 明暗, 質感等の特徴や美しさを表現するのに有効な線の強さや水加減などを考えさせる。</li> </ul> <p>【評】形や色彩, 明暗, 質感に着目し, 特徴, 印象, 美しさをとらえ, 線の強さや水加減などを工夫して表す活動から「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達が対象から感じ取った形や色彩, 質感などの特徴や美しさは何か, 特徴や美しさを表現するためにどのような工夫をしたかを想像しながら鑑賞させる。</li> </ul> <p>【評】身近なものの特徴や美しさなどを基に, 形や色彩, 質感などの工夫を考え, 鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元は, 入学したばかりの生徒に写実的な表現のみを追究させ, 苦手意識をつくらないようにしたい。図式的な表現様式を用いていても, よく観察し, よさや美しさを感じ取り, スケッチをする対象に愛着がもてるような指導を行いたい。また, さまざまな描画材を体験することを通して基礎的な技能を身に付け, 対象のもつよさや美しさを深く感じ取ることの大切さや, 自分なりの表し方を工夫するなど表現の多様さや豊かさに触れさせ, 表現することを愛好していけるように指導したい。

単元名 **なぜか気になる情景(絵や彫刻など)**配当時間 **6時間**

- 単元の目標** (1) 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴や全体の様子などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解することができる。水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すことができる。
- (2) 身近な場所を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、場所のイメージなどを基に主題を生み出し、構図などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして見方や感じ方を広げることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく身近な場所の特徴や美しさなどを基に構想を練ったり意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10270103\_001

【準備等】画用紙、画板、デジタルカメラ、筆記用具、色鉛筆、絵の具

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 参考作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の作品を鑑賞し、それぞれの作者が対象からどんな特徴や美しさに惹かれたのか、何を感じ取ったのかについて話し合う。</li> <li>★なぜか気になる情景とは何だろう。</li> <li>○『新しい世界』の作者が表しこと、構図や色の使い方の工夫について話し合う。</li> </ul> <p>2 主題を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○通学路、学校の中で気になるところを思い起こす。</li> <li>★主題を決めよう。</li> <li>○通学路や校内を歩き、気になるところをスケッチしたりカメラで撮影したりする。</li> </ul> <p>3～5 主題を基にスケッチし、制作をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○写真やスケッチを基に、主題を生かす形や色彩、構図などを考える。</li> <li>★主題を生かす構図、色調、制作手順を考えながら作品制作を進めよう。</li> <li>○主題に適した表現方法で、見通しをもって制作を進める。</li> </ul> <p>6 鑑賞会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★形や色彩、構図などに着目しながら鑑賞し、作者が主題を表現するためにどんな工夫をしたか考えよう。</li> <li>他者の作品を鑑賞し、友達が情景から感じ取った形や色彩、全体の様子や表現上の工夫について話し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>作品を鑑賞し、それぞれの作者が対象からどんな特徴や美しさに惹かれたのか、何を感じ取ったのかを考えさせる。</li> <li>・「造形的な視点」について確認させる。</li> <li>【評】身近な場所のイメージなどを基に、形や色彩、構図などの工夫を考えながら鑑賞している活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・通学路、学校の中で気になる場所の状況を思い出させる。</li> <li>・視点を工夫しながらスケッチしたり、撮影をしたりする活動を通して自分が何に惹かれていたのかを明らかにさせる。</li> <li>【評】気になる場所を見つけ、その特徴をとらえて表すことに関心をもち、意欲的に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・主題を生かす形、色彩、構図などをスケッチを繰り返させながらまとめさせる。</li> <li>・主題を生かす構図、色調、制作手順を考えながら作品制作を進めさせる。</li> <li>【評】身近な場所のイメージを基に、形や色彩、構図などの工夫を考え、構想を練る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】形や色彩、全体的な様子などに着目し、そこから生じるイメージをとらえ、絵の具の使い方を工夫して表す活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・他者が情景から気になった形や色彩、全体の様子は何か。またそれらを表現するためにどのような工夫をしたかを考えながら鑑賞させる。</li> <li>【評】身近な場所のイメージなどをもとに、形や色彩、構図などの工夫を考えながら鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

普段、見慣れたものや場所でも、ふと足を止めて形や色彩、全体の様子に着目すると普段気が付かなかった発見があったり、それらが何かに見えてきたりする。本単元は、こうした情景に対して自分なりの意味付けや価値付けは自分の価値観を顕在化させ自分を見つめ直すことにつながる。本題材では自分がなぜその情景に惹かれていたのかを自問自答していく中で表現主題を明らかにし、主題に合った表現方法を工夫しながら表現できるよう指導していきたい。

## 単元名 美のタイムトラベル(鑑賞)

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 形や色彩, 模様, 材料, 場所などが感情にもたらす効果や, 造形的な特徴などを基に, よさや美しさ, 印象などを全体のイメージで捉えることを理解することができる。  
 (2) 日本及び諸外国の文化遺産などから, よさや美しさなどを感じ取り, 人々の願いや, 作者の意図と表現の工夫, 美術文化について考えるなどして, 見方や感じ方を広げることができる。  
 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい, 楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り, 人々の願いや, 作者の意図と表現の工夫, 美術文化について考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10270104\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 作品鑑賞を通して美術の起源や美術と人間との関わりを考える。</p> <p>★美術の起源や美術と人間との関わりを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 旧石器時代から人類が世界中で多くの造形物を生み出してきたことを知る。</li> <li>○ 日本でも縄文の時代から創造性豊かな造形物を生み出していることを知る。</li> </ul> <p>○ 『ラスコー洞窟壁画』を鑑賞し, 何が描かれているのかを確認する。</p> <p>○ 『ラスコー洞窟壁画』がどのような材料でどのように制作されたのか話し合う。</p> <p>○ なぜ, 古代人は暗い洞窟の中に巨大な動物の絵を描いたのかを話し合う。</p> <p>○ 人間と造形との関わりを理解し, なぜ美術が生まれたのかを考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界中に多くの遺産があることを知らせ, 人類が残した造形物に興味をもたせる。</li> <li>・ 日本にも大切な遺産(造形物)が遺されていることを伝え, 興味をもたせる。</li> </ul> <p>【評】原始美術の造形的なよさ, 意図と工夫などに関心を持ち, 意欲的に鑑賞に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラスコーの洞窟壁画には何が描かれているかを確認させる。</li> </ul> <p>【評】形や色彩, 模様, 材料や場所に着目し, 印象などをとらえる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「造形的な視点」を確認する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 暗い洞窟の中になぜ巨大な動物の絵を描いたのかを想像させる。</li> </ul> <p>【評】原始美術の造形的なよさや美しさ, 当時の人々の願いや, 作者の意図と工夫, 美術文化について考え, 鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間が生きていく上で, 造形活動が欠かせないものであったことを理解させる。</li> </ul> <p>【評】原始美術の造形的なよさや美しさ, 当時の人々の願いや, 作者の意図と工夫, 美術文化について考え, 鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> </p> |

## 【 備 考 】

何千年, 何万年前に人類がつくったとされる造形物の中には未だにつくられた目的や役割が解明されていないものも少なくない。しかし, 残された造形物からは現代の私たちが見ても, 迫力や生命力を感じ取ることができる。本単元ではこうした迫力や生命力を放つ謎のバールに包まれた造形物を鑑賞することから, 美術の起源や美術と人間との関わりを考えるきっかけとしたい。

単元名 人の暮らしを豊かに(デザインや工芸など)

配当時間 1時間

単元の目標 (1) さまざまなデザインの「装飾性・伝達性・機能性」を考え、生活の中に生きるデザインの有用性や役割について理解することができる。  
(3) 生活の中にあるデザインに気付き、そのデザインの担う「装飾性・伝達性・機能性」を見つけようとする。

### 標準的な展開例

10270201\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| <p>1 生活の中にあるデザインを認識し、生徒同士などで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活の中にあるデザインを想起する。</li> <li>★デザインが果たす役割とは何だろう。</li> <li>○教科書の作品について考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁紙の模様（ウィリアム・モリス）</li> <li>・ポスター（亀倉雄策）</li> <li>・スツール（柳宗理）</li> </ul> </li> <li>○生活の中のデザインを観点ごとに分け、生徒それぞれの生活様式を伝え合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの作品のよさを話し合う。それぞれのよさが「装飾性・伝達性・機能性」につながっていることに気付かせる。</li> </ul> <p>【評】さまざまなデザインの「装飾性・伝達性・機能性」を考え、生活の中に生きるデザインの有用性や役割について理解する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「装飾性・伝達性・機能性」の観点で生活の中のデザインを見直すことで、生徒それぞれの大切にしている感性が分かる。伝え合うことで、互いのことをより知ることができ、他者理解にもつながる。</li> </ul> <p>【評】生活の中にあるデザインに気付き、そのデザインの担う「装飾性・伝達性・機能性」を見つけようとする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

本単元では、生徒それぞれがさまざまなデザインに囲まれて生活していることに気付き、今後の制作の意欲付けにしていくことを目的としている。「装飾性・伝達性・機能性」を観点として生活を見直すことで、生活の中のデザインに気付かせていきたい。また、生徒間で意見を共有することにより生活様式の多様性にも気付かせていきたい。

## 単元名 自然の美しさから生まれた(鑑賞)

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 形の規則性や連続性、構造などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや特徴、印象などを全体のイメージで捉えることを理解することができる。  
 (2) 自然の造形を取り入れた形や構成の美しさなどを感じ取り、作者の意図と工夫や、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。  
 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく自然の造形を取り入れた形や構成の美しさなどを感じ取り、作者の意図と工夫や、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10270202\_001

【準備等】参考資料、ワークシート、視聴覚機器、タブレット、筆記用具

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 自然の中の幾何学的な美しさを感じ取り、その美しさを生かした造形が暮らしをどのように彩っているか考える。</p> <p>★自然物の美しさを発見し、日常生活のどのようなところで生かされているか考えよう。</p> <p>○教科書のオウムガイとバチカン美術館、蜂の巣とハニカムランプ、ひとよ茸とひとよ茸ランプ、雪の結晶と組子のコースターを鑑賞し、自然物のどのような特徴が作品や製品に生かされているのかを考える。</p> <p>○ギリシアのパルテノン神殿、ミロのビーナス、モナリザ、最後の晩餐、富嶽三十六景神奈川沖浪裏、トヨタのロゴ、人工衛星の壁、航空機、ブロッコリー、シダ、雲、多肉植物などの写真を見せ、フィボナッチ数列(黄金比)ハニカム構造、フラクタル構造の3つに分類しながら、鑑賞する。</p> <p>○インターネットなどを利用し、フィボナッチ数列(黄金比)、ハニカム構造、フラクタル構造を活用しているものを探す。見つけた活用例を紹介し合う。</p> <p>○自然の美しさの幾何学的な特徴や活用した作品を鑑賞しての感想をまとめる。</p> | <p>・自然物と自然物の美しい特徴を利用した作品を鑑賞し、作者が自然物の何に惹かれたのかを明らかにさせ、「造形的な視点」を確認させる。</p> <p>【評】自然の造形を取り入れたデザインのよさや美しさ、作者の意図と工夫について考え、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・作者が作品に取り入れた美しさがフィボナッチ数列(黄金比)、ハニカム構造、フラクタル構造3つに整理されることを伝える。</p> <p>【評】形の規則性や連続性、構造などに着目し美しさや特徴、印象などをとらえる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・フィボナッチ数列(黄金比)、ハニカム構造、フラクタル構造のものの写真を複数提示し、写真を3つに分類させることを通して、それぞれの特徴をつかませる。</p> <p>【評】使う目的や条件などを基に、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え表現の構想を練る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・フィボナッチ数列(黄金比)、ハニカム構造、フラクタル構造が身近なところでどのように活用されているか見つけ、紹介させる。</p> <p>【評】自然の造形を取り入れた形や構成の美しさなどに関心をもち、意欲的に鑑賞に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・自然の中の幾何学的な美しさを利用した作品を鑑賞しての感想をまとめさせる。</p> |

## 【 備 考 】

自然が作り出す幾何学的な美しさやその生命の神秘に私たちは目を奪われる。オウムガイなどに見られるフィボナッチ数列(黄金比)や蜂の巣に見られるハニカム構造、ひとよ茸や雪の結晶などに見られるフラクタル構造などは自然界が生み出した芸術作品と言える。また、自然界の中にはその儚さ故に人の心を惹きつけるものもある。ひとよ茸は一夜だけそのかさを開き、翌日には柄だけを残してしまうという儚さがある。私たちはこうした自然の美しさを暮らしの中に取り入れてきた。本単元は、こうした自然界の美を取り入れたデザインを鑑賞したり、身近なところにある自然の美しさから生まれたデザインを探したりする活動を通して自然の魅力に気付かせたい。

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 単元名   | 折って、切って、巻いて(デザインや工芸など)   | 配当時間 | 4時間 |
| 単元の目標 | (1) 紙の特性、形や色彩、構成などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解することができる。<br>(2) 紙の特性やよさ、加工方法、飾る場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考えたり、表現する構想を練ることができる。紙の特性と装飾の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして見方や感じ方を広げることができる。<br>(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく紙の特性と装飾の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。 |      |     |

## 標準的な展開例

10270203\_001

【準備等】さまざまな種類の紙、カッターマット、カッター、定規、筆記用具、はさみ、のり

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 参考作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の作品を鑑賞し、紙にどのような加工を施した作品かを分析しながら、作品の作り方についてもイメージする。</li> </ul> <p>★紙の可能性について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>掬花の仕組み・開くと飛び出す仕組み・じゃばら折りの折り方を実際に体験する。</li> </ul> <p>2 主題を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な素材、大きさの紙に「折る、切る、巻く」の加工を施し、どのような装飾ができるかを試す。</li> </ul> <p>★紙でつくるよさはどこにあるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紐でつくるよさについて話し合う。</li> <li>複数の試作ができたところで、装飾をする場所を決定して、装飾場所に合わせて、加工方法を組み合わせるなどしてアイデアを深める。</li> </ul> <p>3 主題を基に構想を練り、制作をする。</p> <p>★主題に合った表現を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試作品を元に、装飾する場所に併せて、紙の色、紙の種類を選択し、本制作を進める。</li> </ul> <p>4 鑑賞会を行う。</p> <p>★紙で表現するよさを感じ取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>完成した作品を設置し、作品のコンセプトを発表し、感想を述べ合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「折る、切る、巻く」の加工方法によって紙がさまざまな表情を見せることをつかませる</li> </ul> <p>【評】紙の特性やよさ、加工方法、飾る場面をもとに、美しさなどの工夫を考えながら鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「折る、切る、巻く」加工によってできる陰影に美しさがあることと、光を透過させる紙の特徴も理解させる。</li> </ul> <p>【評】紙の特性やよさを生かしてデザインすることに関心を持ち、意欲的に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「折る、切る、巻く」のそれぞれの加工方法によってどんな装飾が可能かを考え、その後加工方法を組み合わせた作品も考えさせる。</li> <li>「造形的な視点」を確認させる。</li> <li>試作にタイトルを付けさせることで、主題をまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】紙の特性やよさ、加工方法、飾る場面をもとに、美しさなどの工夫を考え、構想を練ったり鑑賞したりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>装飾する場所や主題に合った紙の選択ができるようにさせる。</li> </ul> <p>【評】紙の特性、形や色彩、構成に着目し、美しさなどをとらえ、加工方法を工夫して見通しをもって表す活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品のコンセプトについて「折る・切る・巻く」の加工方法をどのように組み合わせで作ったのかを交えながら説明させる。</li> </ul> <p>【評】紙の特性やよさ、加工方法、飾る場面をもとに、美しさなどの工夫を考えながら鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【備 考】

本単元は、私たちの身の回りには現在数千種類もの紙があると言われ、さまざまところで利用されている。紙は可塑性に富み、折ったり、曲げたり、加工方法を組み合わせることによって多様な表現が可能となる。また、光の透過性もあり、光の当て方しだいでさらにその表現は広がりを見せる。本題材ではさまざまな紙に触れさせ、紙の特性を生かした表現を試すことができるよう指導したい。

単元名 学びの言葉松任谷由実(オリエンテーション)

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 発想や構想の手立てとして、身近なものを見つめ直し、独自の視点で再構築していくことが大切であると理解することができる。  
(3) 生活の中で気になる物事を考え組み合わせて、独自の発想を見つけようとする。

### 標準的な展開例

10270204\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 身近にある些細なことから発想や構想のヒントを見つけ出し、まとめる方法を考える。</p> <p>★アイデアを練る練習をしよう。</p> <p>○学びの言葉を読み、イメージを具現化する手立てを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣の席の生徒同士で、意見交換し方法を模索する。</li> </ul> <p>○発想・構想の手立てを参考にして、アイデアを練ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェビングマップの制作</li> <li>・アイデアを練る</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大枠のテーマ設定を教師側で提示してから考えさせる。</li> </ul> <p>【評】生活の中で気になる物事を考え組み合わせて、独自の発想を見つけようとする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 58. 59の行程を参考にする。</li> <li>・ウェビングマップで出てきた内容で気になるものをいくつかマークさせ、それらの融合を試みさせる。</li> </ul> <p>【評】発想や構想の手立てとして、身近なものを見つめ直し、独自の視点で再構築していく活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

アイデアを練る際に、何から考えてよいか分からずつまずく生徒がいる。本単元では、アイデアの種をどのように生み出すかを考えていく時間としたい。

教科書P. 58. 59参照



## 単元名 文字って面白い(デザインや工芸など)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 文字や文字が意味するものの形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に伝達する内容を全体のイメージで捉えることを理解することができる。
- (2) 文字の意味やイメージを基に、伝える相手や場面などから主題を生み出し、分かりやすさと形や色彩などとの調和を考え、表現する構想を練ることができる。文字の意味と分かりやすさとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく文字の意味と分かりやすさとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10270205\_001

【準備等】画用紙、レタリング字典、筆記用具、絵の具、ペン

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど   |
|---|---|
| <p>1 参考作品を鑑賞し、主題を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の「こんなに違う文字の形」を鑑賞し、それぞれの書体から受けるイメージやその書体が使用される場面を考える。</li> <li>★文字のデザインの工夫を考え、主題を決めよう。</li> <li>教科書の絵文字を鑑賞し、絵文字がどのようなつくりになっているかを確認する。</li> </ul> <p>○絵文字に使用する漢字を選び、マインドマップを利用してその漢字の意味やイメージを広げる。</p> <p>○図マインドマップで浮かんだ漢字の意味やイメージを基にアイデアスケッチを行う。</p> <p>2～3 主題を基に下描き・彩色を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★形や色彩に着目し、伝達するイメージを捉え、絵の具などを工夫して彩色をしよう。</li> <li>○塗作用のケント紙に下描き、もしくは下絵の転写をし、ポスターカラーなどで彩色する。</li> </ul> <p>4 鑑賞会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★絵文字の意味やイメージを伝えるために、作者が工夫したところを見つけよう。</li> <li>○お互いの作品を鑑賞し、絵文字がどのようなつくりになっているかやどんな工夫がされているかについて話し合い、見方を広げる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な書体を鑑賞させ、大きく二分される漢字の書体に気付かせる中で、書体の特徴をつかませる。</li> <li>・「造形的な視点」を確認させる。</li> <li>・絵文字には点画の形を文字の意味やイメージに合ったイラストに置き換えたもの、部首を文字の意味やイメージに合ったイラストに置き換えたもの、文字の意味やイメージを背景で表したものなどがあることを気付かせる、またこれらを組み合わせても絵文字ができることを知らせる。</li> <li>【評】文字の意味やイメージ、伝える場面をもとに、わかりやすさと形や色彩などの工夫を考えながら、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・浮かんだ言葉をイラストに置き換える際に様々な視点から見た映像を思い起こさせる。</li> <li>【評】意味や美しさなどを考えて、文字をデザインすることに関心をもち、意欲的に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>【評】文字の意味やイメージ、伝える場面をもとに、わかりやすさと形や色彩などの工夫を考え、構想を練る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・彩色が美しくできるように彩色の順番にも気を付けながら作業を進めさせる。</li> <li>【評】文字や文字が意味するものの形や色彩に着目し、伝達するイメージを捉え、絵の具などを工夫して見通しをもって表す活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・友達が選んだ文字のどのような意味やイメージを絵文字で伝えようとしていたのか、またどのようなつくりになっているのかを考えながら鑑賞させる。</li> <li>【評】文字の意味やイメージ、伝える場面をもとに、わかりやすさと形や色彩などの工夫を考えながら鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

文字は形（書体）によって人に与える印象が大きく変わってくる。また、文字の持つ意味やイメージを踏まえて文字に絵を加えることで、文字の意味やイメージがより鮮明になってくる。本単元は文字の形（書体）による印象の違いを捉えさせることに加え、文字の意味やイメージを踏まえて、文字の一部を絵に変えたり、文字を絵で構成したりすることで文字の意味やイメージを楽しく伝えるおもしろさを実感できるよう指導したい。

## 単元名 暮らしに息づく土の造形(デザインや工芸など)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 焼き物の材料、形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、温かさなどを全体のイメージで捉えることを理解することができる。
- (2) 焼き物の特性や美しさなどを基に、使う場面や使う人の気持ちなどから主題を生み出し、使いやすさと美しさなどとの調和を考え、表現する構想を練ることができる。焼き物のよさや使いやすさとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく焼き物のよさや使いやすさの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10270206\_001

【準備等】陶土、釉薬、へら、延べ棒、たた板、焼き物に必要な用具、筆記用具、型押しの材料

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 参考作品を鑑賞し、焼き物ならではのよさについて考える。</p> <p>○ 陶芸作品のできるまでについて解説を聞く。</p> <p>★ 焼き物ならではのよさは、どこにあるのだろうか。</p> <p>○ 教科書の大皿を鑑賞し、この器のよさについて考える</p> <p>○ 様々な形や色の器を用意し、それらに合う料理を考える。</p> <p>○ 焼き物ならではのよさについて話し合う。</p> <p>2～5 主題を決め、構想を練り、制作する。</p> <p>★ 焼き物ならではのよさを生かした作品制作をしよう。</p> <p>○ 指示された形を、道具を使わずに粘土でつくる。</p> <p>○ 板状の粘土を利用し、どのような器の形ができるかをイメージさせる。</p> <p>○ 加工体験を踏まえて、どのようなものを盛る器にするのかを決め、アイデアスケッチの中で形、色（釉薬）、大きさを決める。</p> <p>○ アイデアスケッチを元に板状の粘土を使って制作を進める。</p> <p>○ 削りや加飾など表現の工夫と効果を考えながらイメージした作品に近づける。</p> <p>○ 釉薬の種類や特性、焼成色見本を参考に表現方法を考えて施釉する。</p> <p>6 鑑賞会を行う。</p> <p>★ 焼き物ならではの美しさや使いやすさを感じ取り、伝え合おう。</p> <p>○ 家で料理を盛った状態の写真を撮影し、その写真と作品を鑑賞し、料理を盛ってみての感想を伝え合う。</p> | <p>・ 土から焼き物ができるまでの大きな流れを伝える。</p> <p>・ いちごが盛られたこの大皿について形や釉薬の2つの視点でよさを発見させる。</p> <p>・ さまざまな形、大きさ、色の器を見せ、どんな料理が合うかを考えさせる中で、料理に合った形、釉薬があることをつかませる。</p> <p>・ 「造形的な視点」について確認させる。</p> <p>【評】 焼き物の特性や美しさ、使う場面や使う人の気持ちを基に、使いやすさなどの工夫を考えながら、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 授業者が指示した形（球体・立方体、紐）を短時間で作らせたり、切り糸を使って粘土を切らせたりする活動を通して、粘土の特性に気付かせる。</p> <p>【評】 焼き物のよさや使いやすさなどを生かしてつくることに関心をもち、意欲的に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 板状の粘土にさまざまな道具で加工を加え、構想を練らせる。</p> <p>・ 加工体験を踏まえて、器のデザインをまとめさせる。</p> <p>・ どのようなものを盛る器なのか、誰がどのような場面で使うものなのかを考えながら器のデザインを考えさせる。</p> <p>【評】 焼き物の特性や美しさ、使う場面や使う人の気持ちなどを基に、使いやすさなどの工夫を考えながら、構想を練る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 生徒の表現意図に併せて表現材料を選ばせ、作業を進めさせる。</p> <p>【評】 焼き物の材料、形や色彩などに着目し温かさなどをとらえ、加工方法を工夫して見通しをもって表す活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 焼成見本を見せ、自分のイメージに合った釉薬をかけさせる。</p> <p>・ 料理を実際に盛ってみて分かったことや家族からの感想などを交えた発表をさせながら互いの作品を鑑賞させる。</p> <p>【評】 焼き物の特性や美しさ、使う場面や使う人の気持ちなどをもとに、使いやすさなどの工夫を考えながら、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

【 備 考 】

器を購入するときに私たちは見た目の美しさやデザイン性だけでなく、器を手にとって無意識のうちに機能性を確認する。このように工芸品は美しさやデザイン性だけでなく機能性も求められる。本単元では、どのような場所で、誰が使うものなのかをよく考え使う人が使いやすいデザインを考えさせたい。また、1200度を超える温度で焼成されるため作品の形が変わったり、大きさが縮んだりする。イメージする器を作るときには焼成による変形や縮みを踏まえて成形をさせたい。さらに、使用する粘土や釉薬によって作品の仕上がりが大きく異なるため、作品イメージに合わせて使用する粘土や釉薬を考えさせ、焼き物の奥深さに触れさせたい。

## 単元名 屏風、美のしかけ(鑑賞)

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 構図、余白、折りによる空間や奥行き表現などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解することができる。
- (2) 日本の文化遺産である屏風などから、よさや美しさを感じ取り、余白や折りなどの作者の意図と工夫、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、余白や折りなどの作者の意図と工夫、美術文化について考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10270301\_001

【準備等】 参考資料、ワークシート、視聴覚機器、筆記用具

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 美のしかけを知り、作者の意図をくみ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 屏風の役割と名称の確認をする。また、屏風と衝立の違いも確認する。</li> <li>○ 俵屋宗達「風神雷神図屏風」と尾形光琳の「燕子花図屏風」を鑑賞し共通点を探る。</li> <li>○ 俵屋宗達の「風神雷神図屏風」のどちらが風神でどちらが雷神なのかを確認する。</li> </ul> <p>★ 折りや余白などの構図の工夫によってどのような効果があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 俵屋宗達の「風神雷神図屏風」では、折りや余白などの構図の工夫によってどのような効果があるのかを話し合う。</li> <li>○ 俵屋宗達が風神と雷神を画面の隅に描いた理由を考える。</li> <li>○ 尾形光琳は「燕子花図屏風」にどんな工夫をしかけたのかを探る。</li> <li>○ 尾形光琳の「燕子花図屏風」では、折りや余白などの構図の工夫によってどのような効果があるのかを話し合う。</li> <li>○ 学習を振り返り、画面に描かれているものやそのポーズ、構図、余白、折りによる空間や奥行き表現などに作者の意図が隠されていることを確認する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書に掲載されている二つの屏風名と屏風独自の名称を確認させる。</li> <li>・ 7世紀に朝鮮半島から入ってきた屏風の役割を確認させる。</li> <li>【評】 屏風の表現のよさや見え方の変化などに関心を持ち、意欲的に鑑賞に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 琳派の二人の代表作を鑑賞させて、共通点を探らせる。</li> <li>・ 見たものをそのまま描いたのではなく、デザイン性があることに気付かせる。</li> <li>・ 俵屋宗達の「風神雷神図屏風」を鑑賞し、気が付いたことを発表させる。</li> <li>【評】 屏風の表現のよさや美しさ、余白や折りなどの作者の意図と工夫、美術文化について考え、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 「造形的な視点」を確認させる。</li> <li>・ 風神と雷神が画面の隅に配置されている理由を考えさせる。この時、教科書を折り曲げたり、パソコン上などで風神と雷神の場所を変えたりしながら、その理由を考えさせる。</li> <li>・ 燕子花図屏風に同じ燕子花の絵が描かれていることに気付かない場合は型紙によって同じ燕子花が描かれていることを生徒に伝え、その場所を探させる。</li> <li>【評】 屏風の表現のよさや美しさ、余白や折りなどの作者の意図と工夫、美術文化について考え、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 「造形的な視点」を確認させる。</li> <li>・ 琳派の二人が、見たものをそのまま描くのではなく、デザイン性を重んじて構図や余白、折りによる空間や奥行き表現を工夫していたことを再確認させる。</li> <li>【評】 構図、余白、折りによる空間や奥行き表現などに着目し、その効果をとらえる活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

7世紀頃に朝鮮半島から伝えられた屏風には、部屋の仕切りや風よけの役割とともに、美しい絵が描かれ、美術品としても愛されてきた。折り曲げて飾られる屏風は、折ることで立体感が生まれ、さらに正面からだけでなく左右に視点を変えることで絵に変化が生まれ、鑑賞者が楽しめるように工夫されている。また、琳派の起源ともなった俵屋宗達や尾形光琳の屏風の特徴はその大胆なデザイン性にある。本単元では、俵屋宗達の風神雷神図の大胆な配置や尾形光琳の燕子花図屏風の型紙を利用した構成など作者が屏風にしかけた工夫を仲間とともに読み解き、作者のねらいに迫る楽しさを感じ取れるよう指導したい。

## 単元名 広がる模様の世界(デザインや工芸など)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 自然物や人工物などの形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解することができる。  
 (2) 身近な自然物などの特徴やイメージ、用いる場面などから主題を生み出し、形や色彩の構成を工夫したり、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考えたり、表現する構想を練ることができる。装飾や使いやすさとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。  
 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく装飾や使いやすさとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10270302\_001

【準備等】画用紙、布、ワークシート、筆記用具、絵の具

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 参考作品を鑑賞する。<br/> <b>★植物の形や色彩をどのように変化させて模様にしたのだろう。</b><br/>         ○教科書の作品を鑑賞し、それぞれの作品が何をどのように変化させたものなのかを考える。</p> <p>2 主題を決め、スケッチを行う。<br/>         ○教科書の「つながる模様のつくり方」を利用して模様のつなげ方を学ぶ。</p> <p><b>★身近な自然物などから、形や色彩の構成の工夫を考え、構想を練ろう。</b><br/>         ○模様を使用する場所を決めるとともに、自然物や人工物から模様にするモチーフを決定する。<br/>         ○選めたモチーフをさまざまな角度からスケッチする。<br/>         ○図ケッチしたものを形の特徴を生かしながら単純化し模様の基本形をつくる。</p> <p>3～4 スケッチを基に、連続する模様を決め、制作をする。<br/>         ○連続する模様に使われる技法について説明を受ける。</p> <p><b>★自然物などの形や色彩の美しさなどをとらえ連続模様を表現しよう。</b><br/>         ○模様の基本形を並べて、連続する模様を確認し、配置の仕方や色彩について考えをまとめたり、基本形の形を見直したりする。<br/>         ○模様を使用する場所に合わせて、材料を選び、本制作を進める。</p> <p>5 鑑賞会をする。<br/> <b>★主題を表現するための工夫を発見し、互いのよさを伝え合おう。</b><br/>         ○お互いの作品を鑑賞し、単純化したものや、連続する模様にする際に工夫されたことについて話し合い、見方を広げる。</p> | <p>・「造形的な視点」について確認させる。<br/>         伝統模様の単純化と構成の工夫に気づかせる</p> <p>【評】身近な自然物などの特徴やイメージ、使う場所などをもとに、形や色彩の構成の工夫を考えながら、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・連続模様のつくり方について説明し、実際に簡単な模様づくりを行わせて、連続する模様の作り方を捉えさせる。<br/>         【評】自然物の特徴などを生かして模様をデザインすることに関心をもち、意欲的に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・主題を生かす視点、構図、色調を考えながら作品制作を進めさせる。</p> <p>【評】身近な自然物などの特徴やイメージ、使う場所などをもとに、形や色彩の構成の工夫を考え、構想を練る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・連続する模様をつくる際に使われる技法を紹介し、生徒が技法を選択できるようにする。</p> <p>・基本形を並べることで分かるよさや問題点に気付かせる。</p> <p>・版や型紙、トレーシングペーパーなどを表現に合わせて活用させる。<br/>         【評】自然物や人工物などの形や色彩の特徴に着目し、美しさなどをとらえ、材料や用具の扱い方を工夫して見通しをもって表す活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・友達がモチーフをどのように単純化させたのか、また、主題を表現するためにどのような工夫をしたのかを考えさせて鑑賞させる。<br/>         【評】身近な自然物などの特徴やイメージ、使う場所などをもとに、形や色彩の構成の工夫を考えながら、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【備 考】

着物を着る機会が減り、日本の伝統模様を目にする機会も減っている。しかし、模様は平安時代頃より衣類、建築、工芸品などに多く用いられてきている。模様の中には、その起源がシルクロードを経て中国や西アジアにとどまらずヨーロッパに遡るものもあり、こうした日本の伝統模様を紐解いていくと模様にはさまざまな思いが込められていることやその思いから日本人の生活や美意識が垣間見えてくる。簡素で精練された形は、現代の美意識にも通じ、今日もさまざまなところで活用されている。身の回りの自然物や人工物の形や色彩の特徴を生か

しながら単純化や構成をして，使用する場面にあった新しい模様を考えさせたい。

## 単元名 材料に命を吹き込む(絵や彫刻など)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 材料の形や色彩、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、何かに見立てたりするなど全体のイメージで捉えることを理解することができる。
- (2) 材料を見つめ感じ取った形や色彩、質感の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10270303\_001

【準備等】和紙、色紙、画筆、ローラー、絵皿、筆拭き、筆洗い、筆記用具、書道用具

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 参考作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の作品から作者がさまざまな材料の形や色彩、質感からどのような見立てを行ったのかを想像しながら作品を味わう。</li> <li>★材料の特徴をどのように生かしているだろうか。</li> <li>「森の賢人」は材料の特徴を生かしてどのような見立てを行っているかを話し合う。</li> </ul> <p>2 主題を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木の枝や石、廃材などの形や色彩、質感などをさまざまな視点から観察し、動物の形や色彩、質感との共通点を探す。</li> <li>★素材の形や色・質感を生かすような作品のコンセプトにしよう。</li> <li>ワークシートを活用し、アイデアスケッチを繰り返したり、必要に応じて、加工方法や用具の扱いについてメモをしたりしながら、作品のコンセプトをまとめる。</li> </ul> <p>3～5 主題を基に材料の加工方法を考え制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★制作意図に応じた効果的な加工方法や構成を考えて制作しよう。</li> <li>材料の特徴を理解し、制作意図に応じた効果的な加工方法や構成を考える。</li> <li>材料の切断、研磨、接合などを工夫して制作を行う。</li> <li>制作意図に応じて着色したり、塗装したりする。</li> </ul> <p>6 鑑賞会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★友達の作品を鑑賞し形や色彩、質感などの工夫を見つけよう。</li> <li>友達が素材からどのような見立てを行い、どのような表現上の工夫をしたかについて話し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>作品を鑑賞し、それぞれの作者が素材の形、色彩、質感などからどのような見立てを行ったのか考えさせる。</li> <li>「造形的な視点」を確認させる。</li> <li>【評】材料の特徴やイメージをもとに、形や色彩、質感などの工夫を考えながら、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>木の枝や石、廃材などの形や色彩、質感の中に見られる動物の形や色彩、質感との共通点を見つけさせる。</li> <li>見つけた共通点をもとにどのような作品にするのかアイデアをまとめさせる。</li> <li>【評】身近な材料などの形や色彩の特徴をもとに見立てて表すことに関心を持ち、意欲的に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>材料の特徴を理解し、材料の切断や研磨、接合などを工夫して作品制作を行わせる。</li> <li>【評】形や質感などの材料の特徴に着目し、何かに見立てたりしてイメージをとらえ、粘土の扱いや接着方法を工夫して表現する活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>友達が素材の形や色彩、質感からどのような見立てを行ったのか、また、見立てを生かすためにどのような工夫をしたかを想像しながら鑑賞させる。</li> <li>【評】材料の特徴やイメージをもとに、形や色彩、質感などの工夫を考えながら、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

日本人は古来より対象を他のものになぞらえて表現するという「見立て」を生活の中に取り入れてきた。枯山水の庭園はその一例である。「見立て」は身の回りの素材を見つめて感じ取った形・色彩・質感などの特徴と既知のイメージとの共通点を探す作業を通して行われ、分析的な思考が活用されている。また、「見立て」には、自分のイメージを他者に共感してもらうというおもしろさがある。マルセル・デュシャンの「泉」、鈴木康博や田中達也の作品が高い評価を得ているのは、この共感を促すための手だてが適切であったからだと言える。本単元は、共感を促すために素材の形・色彩・質感だけでは補えない部分をどのように表現するのかをしっかりと考えるように指導したい。

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 単元名   | 多彩な表現に挑むのはなぜだろう(オリエンテーション)  | 配当時間 | 1時間 |
| 単元の目標 | (1) 世界美術の歩みにおける絵画の歴史や作風について理解することができる。<br>(2) 作品の造形的な美しさ、作者の心情や意図について考えることができる。<br>(3) 第1学年での学習を振り返るとともに、絵画における自己表現の素晴らしさに関心をもち、理解を深め、第2学年の学習に意欲をもって取り組もうとする。 |      |     |

## 標準的な展開例

11270101\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| <p>1 第1学年での学習内容を確認するとともに、第2学年での学習内容を知り、学習計画を立てる。</p> <p>○ 第1学年での学習内容を想起し、発表させる。</p> <p>○ 教科書の作品を鑑賞し、作者の心情や意図について考えたり、ワークシートに記入したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「星月夜」フィンセント・ファン・ゴッホ</li> <li>・「印象―日の出」クロード・モネ</li> </ul> <p>★ 作者が表現したかったことは何だろう。</p> <p>○ 二つの作品を見比べ、作者の心情や意図について考え、意見を発表したり、ワークシートに記入したりする。</p> <p>○ 作品のよさを感じながら、これからの学習に興味をもてるようにする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技法や作品から考えさせ、第2学年の制作や鑑賞の計画を知らせる。</li> </ul> <p>【評】 第1学年の学習内容を制作した作品や技法などの観点で想起し、発表する活動を通して「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品の原寸大の部分を観察し、表現したかったことを想像させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画家たちが描き表したかった生き生きとした心の叫びを実感を伴って感じ取らせる。</li> <li>・ 作品のよさや力強さを感じ取らせるために、実際に筆を持たせて作品を上からなぞってみたりさせてもよい。</li> </ul> <p>教科書上P. 60～P. 63「世界の美術の歩み」のページを参考にして、西洋における絵画の歴史に新しい世界を導き出した印象派の作風について解説する。</p> <p>【評】 美術作品のよさや美しさ、作者の心情や意図を発表したり、ワークシートに記入したりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1学年の学習からさらに発展させ、第2学年では、自己表現におけるそれぞれの主題が大切になることを知らせ、今後の学習に興味をもたせる。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

本単元では、第1学年での学習を振り返ったり、確認したりして、さらに意欲的に授業に取り組めるようにさせたい。

第2学年から年間35時間の授業実施となるので、1時間の授業の流れや約束を確認し、授業への心構えや時間を有効に利用する方法についても考えさせたい。

また、教科書上P. 60～P. 63「世界の美術の歩み」のページを参考にして、西洋における絵画の歴史にも触れておきたい。

各学校の実態に合わせ、鑑賞作品を選択したい。スライドやビデオ、プロジェクターなどの視聴覚機器やコンピュータを有効に活用するとよい。



## 単元名 視点の冒険(絵や彫刻など)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 形や色彩などが感情にもたらす効果や、見上げる、見下ろす、近づくなど視点の位置による見え方の違いなどを基に、そこから生じる印象の変化を全体のイメージで捉えることができる。
- (2) 視点の違いや構図の工夫によるイメージの変化を基に主題を生み出し、構図などの効果を考え創造的な構成を工夫し、心豊かに表現できる。造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に視点の違いによるイメージの変化などを基に構想を練ったり、意図に応じて表現方法を工夫して創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11270102\_001

【準備等】画用紙、タブレット、筆記用具、絵の具

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 作品を鑑賞し、主題を考え、構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の参考作品を鑑賞し、作者の表現の意図や工夫などを考える。</li> </ul> <p>★視点を变えることにより、どのように印象が変わるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視点を工夫して、撮影した校内の風景画像などを鑑賞する。</li> </ul> <p>2 視点を工夫して、構図を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視点を工夫して構図を練らせ、描きたい場所を見付けさせる。</li> </ul> <p>★視点を工夫して、構図を考えよう。</p> <p>3～4 下絵を描き、彩色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どのような視点で表すかを考え作品の主題を生み出し、下絵を描く。</li> </ul> <p>★視点を变えて、作品の主題を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絵の具や筆の効果を生かして、彩色する。</li> </ul> <p>5 鑑賞会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いの作品について鑑賞会を行う。</li> </ul> <p>★作品から視点の違いや構図の工夫を感じ取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主題と視点の工夫について発表し合い、視点を变えることのよさや面白さを感じ取り味わう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「どんな場所から見ているか」、「どんな感じがするか」などについて考えさせ発表させる。</li> <li>作者の表現の意図や工夫などについて考えさせる。</li> <li>身近な風景の中にも視点を变えて見ると意外な感じ方ができることに気付かせる。</li> </ul> <p>【評】視点の違いによるイメージの変化を生かして表すことに関心をもち、主体的に創造的な工夫をして表したり、表現の工夫を感じ取ったりする活動を通して、「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>描き始める前に、視点を变えながら効果を確かめさせ、構図を練らせる。</li> <li>カメラなどを用いて視点の変化による構図の変化を感じ取らせることもできる。</li> </ul> <p>【評】視点の違いや構図の工夫によるイメージの変化を基に構図などの効果を考え、構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視点を变えることで新鮮な感じを受け感動した場所などから作品の主題を生み出させる。</li> <li>必要に応じて一点透視図法などを指導する。</li> <li>主題のイメージに合うように、絵の具の濃淡や筆のタッチなどを工夫させる。</li> <li>必要に応じて色彩による遠近の表し方などを指導する。</li> </ul> <p>【評】見上げる、見下ろす、近づくなど、視点の位置による見え方の違いに着目し、そこから生じる印象の変化を捉え、絵の具などの特性を生かして表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どのような視点で風景を捉え、どのようなイメージをもって表現の工夫をしたかなどについて発表させる。</li> <li>他者の作品のよさや表現の工夫に共感して味わえるよう、肯定的な見方で鑑賞会が行えるよう工夫する。</li> </ul> <p>【評】視点の違いや構図の工夫による造形的なよさや美しさイメージの変化を感じ取るなどして、見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【備 考】

本単元は、見慣れた風景でも視点を变えて見ることにより、違った感じ方やおもしろさ、意外な美しさなどを感じ取ることができる。よさや美しさは身近なところにもあり、見る側の視点や姿勢、気持ちのもち方により様々な発見があることに気付かせる。導入においては、提示資料のしている場所を当てさせたりどのような感じがするかなどを述べさせたりすることで、視点を变えて見ることのおもしろさや見え方の違いによる感じ方などを実感させる。

## 単元名 つくって使って味わう工芸(デザインや工芸など)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表すことができる。
- (2) 材料のよさや美しさを基に、使う場面や機能などから主題を生み出し、使いやすさや機能と材料の特性や効果などとの調和を総合的に考え、表現を構想できる。使う目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に材料の特性や機能性などを生かしてつくることを考えて構想を練ったり、意図に応じて表現方法を創意工夫し見通しをもって創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11270103\_001

【準備等】木材、皮革、金属、木工やすり、紙やすり、電動糸のこ、ニス、染料、筆記用具、色鉛筆、絵の具、彫刻刀

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 身近なものがどんな材質でつくられているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な暮らしの中にある、さまざまな材料でつくられたものについて思い出す。</li> <li>★どんな材質からつくられているだろう。</li> </ul> <p>○材料の特性や、つくられたものの機能性とデザインとの関連などについて考えながら鑑賞する。</p> <p>2 手づくりのよさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手づくりのよさについて意見を出し合う。</li> <li>★手づくりのよさは何だろう。</li> </ul> <p>○材料のよさや美しさ、使う場面や機能などからつくりたいものを考え、主題を生み出す。</p> <p>3～4 主題を基に制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主題を基にアイデアスケッチをしながら構想を練る。</li> <li>★主題にあった材料を選択しよう。</li> <li>○材料や用具を準備し、制作の手順などの見通しをもつ。</li> <li>○素材に合った表現を工夫して、必要に応じて柔軟に計画を修正するなどしながら制作を行う。</li> </ul> <p>5 鑑賞会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○鑑賞会をする。</li> <li>★作品を鑑賞して、材料の特徴や機能性の工夫を感じ取る。</li> <li>○生活を美しく豊かにするデザインや工芸の働きについて話し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なものがどんな材質でつくられているか考えさせる。</li> <li>・さまざまな材質でつくられたものを提示し、感触なども感じ取らせながら鑑賞させる。<br/>鞆（皮）、くつ（皮、布、ゴムなど）<br/>コップ（ガラス）、お皿（焼き物）、<br/>キーホルダー（金属、プラスチック）、鉛筆立て（寄木）など</li> <li>・素材の特徴をまとめた資料を用意し、材料の特性と作品のデザインとの関係について考えさせる。</li> </ul> <p>【評】材料の特性や機能性などを考えてデザインすることに関心をもち、主体的に創造的な工夫をして表したり、表現の工夫を感じ取ったりする活動を通して、「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大量生産されたものと手づくりでできているものとを比較して考えさせてもよい。</li> <li>・つくり手の思いが込められていることや、使うときの喜びなどについて気付かせる。</li> <li>・ワークシートに記入させながら、つくりたいものと、材料と機能性、効果的な表現方法、手順などについて考えを整理させ、適宜アドバイスする。</li> </ul> <p>【評】材料のよさや美しさ、使う場面や機能などを基に、材料の特性や効果を考え構想を練ることを通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題に基づいて、様々な材料を選択できる環境を設定する。</li> <li>・生徒の思いを第一にしながら、多様な表現方法が同時に可能かどうかを考え、安全面などにも配慮しながら場の設定をする。</li> <li>・素材を体験する中で計画通りいかない場合があることも考えられるため、生徒の考えを聞きながら柔軟に対応する。</li> <li>・用具の取り扱いには十分注意させ、安全に気を付けながら取り組ませる。</li> </ul> <p>【評】材料の特性や質感、加工方法などに着目し、材料の持ち味を捉え、材料や用具の特性を生かし、見通しをもって表す活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの作品を使ってみるなどしながら鑑賞し合う。</li> <li>・他者の作品のよさや表現の工夫に共感して味わえるよう、肯定的な見方で鑑賞会を行う工夫する。</li> <li>・生活を美しく豊かにするための美術の働きや日本の伝統工芸のよさや美しさについて考えさせる。</li> </ul> <p>【評】材料の特性と機能性との調和の取れたよさや美しさ、手づくりのよさやつくり手の心</p> |

と使う人の心を感じ取り，美術文化の継承と創造などについて考え，見方や感じ方を深める活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

私たちの生活は，自然から得た材料，金属や皮など，さまざまな材料でつくられたものを使って生活している。それらの素材の特徴とその材料の特性を生かしたもののよさなどに気づかせる。また，一つずつ手作業で丁寧につくられたものは，大量生産されたものにはない魅力がある。本単元では，材料や技法の特性を生かしながら制作することで，手づくりのよさを味わわせ，それらを実際に使う喜びや心を込めてつくる喜びを感じ取らせる。

## 単元名 手から手へ受け継ぐ(鑑賞)

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 形や色彩, 材料などが感情にもたらす効果や, 造形的な特徴や技法などを基に, 全体のイメージや作風で捉えることができる。
- (2) 人の手による技の素晴らしさや工芸作品の美しさなどを感じ取り, 作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして, 美意識を高め, 見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に人の手による技の素晴らしさや工芸作品の美しさなどを感じ取り, 作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11270104\_001

【準備等】 参考資料, ワークシート, タブレット, 視聴覚機器, 筆記用具

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 伝統工芸品のよさに触れ, 未来について考える。</p> <p>○ 伝統工芸品に触れながら鑑賞し, 形や色彩, つや, 手触り, 重さ, 使い心地など, 感想を話し合わせる。</p> <p>★ 伝統工芸品をじっくり見て鑑賞し, 技の伝承について考えよう。</p> <p>○ 教科書の他作品も鑑賞し, 伝統工芸品の特徴やよさ, 美しさなどを感じ取る。</p> <p>○ つくる人の思いや使う人の思いについて触れる。</p> <p>○ 日本各地の伝統工芸品について知る。</p> <p>○ 手から手へ受け継がれる技や, 私たちの生活の中に生きる伝統工芸品のよさや未来について考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の伝統工芸品で適切なものを選んで鑑賞教材として生徒に提示する。</li> <li>・ 提示する資料として, 大量生産によりつくられた身の回りのものと比較鑑賞させるなどの工夫をするとうい。</li> <li>※ 南部鉄瓶とやかん, 漆器とプラスチックのカップなど</li> <li>・ 実際にお湯を沸かしてみたり, お茶を入れて飲んでみたりする工夫もあるとうい。</li> <li>【評】 工芸作品とそれらを生み出す手による技の素晴らしさなどに関心を持ち, 生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして見方や感じ方を深める活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 身近なものと比較して考えさせることで伝統工芸品の特徴やよさ, 美しさ, 素晴らしさなどに気付かせやすくする。</li> <li>・ 形, 色彩, 材料, 技法, 印象などの具体的な視点を与えて比較鑑賞させる。</li> <li>【評】 形や色彩, 材料, 技法などに着目し, 作風や印象などで捉える活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ あらかじめ地域の伝統工芸品作家の方に取材をした, 制作に対する思いや制作の様子などを紹介する。</li> <li>・ 作家本人に来ていただいてお話していただくこともよい。</li> <li>・ 教科書の作者の言葉を参考に授業者が説明することもよい。</li> <li>・ 伝統工芸品を使っている人の感想や様子を合わせて紹介する。</li> <li>・ 教科書下P.53「受け継ぐ伝統と文化」について取り上げ, 日本各地の伝統工芸品についても紹介する。</li> <li>・ 後継者が少なくなっている現状を知らせ, 生活スタイルが変化していく中で, 優れた伝統工芸品の技が受け継がれ, 生活の中に大切にされていくという価値観を広めていくためにはどうあればよいかを話し合わせる。</li> <li>【評】 人の手による技の素晴らしさや作品の美しさを感じ取り, 作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして, 美意識を高め見方や感じ方を深める活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

本単元は, 安価な素材で大量生産されるものや, 消費することで便利さを追求したりするものが多く出回る世の中にあって, 素材にこだわり, 自然や地域の文化を生かしながら一つ一つが人の手による技と, 心を込めてつくられた日本の伝統工芸品のよさや美しさ, つくる人の思いなどの素晴らしさを感じ取らせる題材である。伝統工芸品のよさは本物に触れることで感じ取ることができる。生徒には本物の色やつや, 手触り, 重さ, 形などのよさを実感させながら味わわせ, つくる心と使う心を大切にしていけることを学ばせる。

## 単元名 浮世絵はすごい(鑑賞)

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 構図や色彩が感情にもたらす効果や、線、彫りや摺りなどの特徴を基に、作品の印象などを全体のイメージや浮世絵の作風などで捉えることができる。
- (2) 浮世絵の表現のよさや美しさを感じ取り、版画としての特性、制作者たちの意図と創造的な工夫などや美術文化の継承と創造について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に浮世絵の表現のよさや美しさを感じ取り、版画としての特性、制作者たちの意図と創造的な工夫などや美術文化の継承と創造について考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11270201\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 浮世絵を鑑賞して、感じたことを話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品の部分を原寸大で切り取ったものがどの浮世絵のどの部分かを探す。</li> </ul> <p>★作品の部分から、どのように制作されたものか考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正解を確認しながら、木版画の凸版技術で表現されていることに気付く。</li> </ul> <p>○浮世絵の制作工程や優れた技に触れる。</p> <p>○制作された当時の色合いを鑑賞し、感じたことを発表し合う。</p> <p>○他の浮世絵を味わう。</p> <p>○浮世絵の魅力について考える。</p> <p>○浮世絵を鑑賞して感じたことや考えたことを発表し合う</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の「神奈川沖浪裏」の富士山や船の一部、人の部分を切り取った資料を作成して提示し、原寸大の作品の中から見付けさせる。</li> <li>「凱風快晴」や「駿州江尻」などの部分の拡大を示すのもよい。</li> <li>作品の部分を示しながら、木版画の技法を示し、浮世絵の技術の高さに気付かせる。</li> </ul> <p>【評】浮世絵の表現のよさや特性などに関心を持ち、美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深める活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複製版の制作動画や資料を使って、浮世絵の下絵、彫り、摺りの工程の様子を示す。</li> <li>摺りの工程から発展させて、「神奈川沖浪裏」のベロ藍の鮮やかさを感じ取らせ、ベロ藍が使われる歴史について触れる。</li> </ul> <p>※青の色について：植物由来の顔料は発色や色の定着に難があり、常に試行錯誤の繰り返しだった。水によく溶け、鮮やかな色を保ちながら濃淡で遠近感を表現しやすく、変色することがない舶来のプルシアン・ブルー（ベロ藍）が用いられることになった歴史などに触れる。</p> <p>【評】構図や色彩、線、彫りや摺りの特徴に着目して、浮世絵の作風や作品の印象などを捉える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「雲母摺り」や「毛割」の技法になどに触れ教科書の他の作品も味わわせる。</li> <li>浮世絵のモチーフや構図、作風などについて注目させながら作品の魅力を考えさせる。</li> </ul> <p>※発展的にジャポニスムなどに触れて浮世絵の魅力を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習を通して浮世絵の表現のよさや美しさ、日本の美術文化への愛情や誇りなどについて感じたり考えたりした意見を交流させたい。</li> </ul> <p>【評】浮世絵としての表現のよさや美しさを感じ取り、版画としての特性、制作者たちの意図と創造的な工夫、美術文化の継承と創造について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元は、浮世絵は日本独特の美術作品で、優れた技術で制作され、また西洋の多くの画家たちに影響を与えるほどの魅力をもっている。この題材を通して日本の美術文化に愛情や誇りをもち、継承と創造についての考えを深めさせたい。しかし、中学生にとって浮世絵は、古く感じてどちらかといえばなじみがなく、すぐに興味をもてない作品ではないと思われる。そこで、導入では、作品の部分に注目させながら優れた技に気付かせ、展開では作品に表現されたモチーフや動き、色、作風などに視点を広げさせながら味わわせるなどして、生徒の興味や関心を引き付けながら展開していく工夫が必要である。

## 単元名 ジジジチカピカ ポップポップ(デザインや工芸など)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 光の形や色彩の変化が感情にもたらす効果などを基に、空間に与える印象を全体のイメージで捉えることができる。材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追究して制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表すことができる。
- (2) 光がつくり出す空間の美しさを基に、使う場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて光の色や影の効果など調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ることができる。光がつくり出す空間の美しさや機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に光や影の効果などを基に構成や装飾の目的や機能を考えて構想を練ったり、意図に応じて自分の表現方法を追究し見通しをもって創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11270202\_001

【準備等】LEDライトなどの光源、ケント紙、加工粘土、タブレット、筆記用具、はさみ

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 作品を鑑賞し、イメージを膨らませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然光や人工の光による作品を鑑賞し、感じたことを発表する。</li> </ul> <p>★ 光の印象は作品のどのような工夫から生じるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 影に注目して鑑賞し、感じたことを発表する。</li> <li>○ 教室を暗くして参考作品を提示し、光と影や空間の変化の面白さや美しさを鑑賞し、感じたことをまとめる。</li> <li>○ 光源とさまざまな材料を組み合わせるなどして、作品へのイメージを膨らませる。</li> </ul> <p>2 構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時で体験したことや設置空間を基に主題を生み出し、空間を飾るイメージや材料、光と影の効果を考え構想を練る。</li> </ul> <p>★ 光と影の効果を考え、作品の構想を練ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アイデアスケッチをし、解説文を書く。</li> </ul> <p>○ 主題を基に選択した材料を使い、見通しをもって制作する。</p> <p>3 鑑賞会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教室を暗くし、鑑賞会を行い、表現の意図や工夫について発表し合い、よさや美しさを感じ取り味わう。</li> </ul> <p>★ 作品を鑑賞し、光や影の効果を感じ取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 光や影の効果によって豊かな生活を生み出す美術の働きについて考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木漏れ日や教会の窓、スタンドグラスなどの自然光や、蝋燭による明かり、LEDライトによるスタンド、提灯などを視聴覚機器により提示し、それぞれどんな感じがするか感じたことを発表させる。</li> <li>・ 教科書の作品を活用し、影にも注目させる。</li> <li>・ 材料による遮光、反射、透過、拡散などの光の表情と空間の変化を感じ取らせる。</li> <li>・ 光源や様々な材料を自由に選択させ、光や影と材料との関係を把握させる。</li> <li>・ カメラやタブレットを活用して記録させる工夫をする。</li> </ul> <p>【評】 光や影の効果を生かしてデザインすることに関心を持ち、主体的に創造的な工夫をして表したり、表現の工夫を感じ取ったりする活動を通して、「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんな場面にどのような演出をするか、またどのような材料でどのような効果を使って表現するかなど、計画を練らせる。</li> <li>・ 表したいイメージをアイデアスケッチさせるとともに解説文を記述させ、構想を明確にさせる。</li> </ul> <p>【評】 光がつくり出す空間の美しさ、使う場面などを基に、光の色や影の効果を考え構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主題を効果的に表せるよう、安全性や機能性を十分に考えて制作させる。</li> <li>・ 接合が困難な材料や、壊れやすい材料などについては注意を促し、実現可能な手段や計画であるかを確認する。</li> </ul> <p>【評】 光の形や色彩の変化に着目し、空間に与える印象を捉え、材料や用具の特性を生かし見通しをもって表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者の作品のよさや表現の工夫に共感して味わえるよう、肯定的な見方で鑑賞会が行えるよう工夫する。</li> <li>・ 生活を美しく豊かにするための美術の働きについて考えさせる。</li> </ul> <p>【評】 光や影がつくり出す造形的なよさや美しさ、空間に与える印象などを感じ取り、生活や社会を美しく豊かにする働きについて考えるなどして見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

光や明かりによって人は温かさや安らぎなどを感じる。また光によって生まれる影は不思議な世界をつくりだ

す。本単元では、光と影を効果的にデザインし、空間を飾って楽しむ学習を行う。導入では、光について自然光や人工の光などの美しさを感じ取らせるなどして、制作への意欲をもたせる。また展開では、教室を暗室にするなどして光や影の効果を体験させながら構想を練らせていく。

## 単元名 瞬間の美しさを形に(絵や彫刻など)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 関節や重心の位置に着目し、「のびる」「ためる」などの動きの感じや躍動感をとらえ、材料や用具の特性を生かしながら、創造的に人物を表現することができる。
- (2) 人物の瞬間の動きから感じ取ったことを基に、主題を生み出し、単純化や強調、構成の仕方などを考え、表現の構想を練ることができる。造形的なよさや美しさ、人物の瞬間の動きから感じ取ったことを基にした主題と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。
- (3) 人物の動きを立体で表すことに関心をもち、主体的に創造的な工夫をして表したり、表現の工夫などを感じ取ったりしようとする。

## 標準的な展開例

11270203\_001

【準備等】加工粘土、針金、麻ひも、しゅろ縄、板、芯材、ラジオペンチ、へら、タブレット、筆記用具、スケッチ用具、絵の具

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 参考作品を見て、躍動感や緊張感を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書図版などの参考作品を鑑賞し、人の動きの躍動感や緊張感のある場面に共感する。</li> </ul> <p>★静止している彫刻から、なぜ動きを感じるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見たことや経験したことから自分が表したい動きのある場面を想像し、友だちにポーズをとってもらうなどして体の傾きやねじれの様子などを観察する。</li> </ul> <p>2 制作の主題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どのような瞬間の動きを表すのか考え、制作の主題を生み出す。</li> </ul> <p>★制作の主題に合わせて、体の表現方法を考えよう。</p> <p>3～6 手順に従って、制作する。</p> <p>★手順を考え、見通しをもって制作しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心棒や粘土での制作手順、成形や着色の技法について見通しをもつ。</li> <li>心棒を針金でつくり、プロポーションや、関節の位置、曲げる角度を検討する。</li> <li>台座と心棒を固定する。</li> <li>加工粘土等で成形する。</li> <li>動きが感じられる形になっているか確かめながら、強調や省略も意識してつくり込む。</li> <li>成形の道具や技法を工夫したり、削ったりして細部までつくり込む。</li> <li>絵の具で着色したり、ニスでつやを出したりして仕上げる。</li> </ul> <p>7 鑑賞会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞会をする。</li> </ul> <p>★作品の表現の工夫について話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いの作品について鑑賞会を行い、表現の意図や創造的な工夫などについて発表し合い、そのよさや楽しさを感じ取り味わう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>参考作品から動きを感じるところを発表させる。どのような部分から感じられるかを考えさせる。</li> <li>体の傾き、重心がかかった足首と頭の位置関係に着目させる。ポーズを取る際、体をねじったり傾きを変えたりして動きを感じるポーズを探させる。<br/>【評】美術の創造活動の喜びを味わい、人の動きを深く見つめて感じ取ったことや考えたことを基にした彫刻表現や鑑賞の活動を通して「主体的に取り組む態度」を評価する。</li> <li>手足の長さなどのプロポーションや、ポーズをどう強調したり省略したりすると主題が表しやすいか考えさせる。<br/>【評】人の動きから感じ取ったイメージなどを基に主題を生み出し、形や重心の効果などを考え構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>針金はラジオペンチなどを2本使用して関節部分で曲げさせる。</li> <li>さまざまな方向から動きや形を確認させる。</li> </ul> <p>※360°で見てみよう。を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>台座に固定する針金は、縦と横など2方向以上で固定し、心棒がぐらつかないようにさせる。</li> <li>関節部分で形が曲がることや、動きが強調されるような形のつながり方やねじれを意識させながら、成形させる。</li> <li>指先の方向や形など細部にまで気を配らせ、躍動感や緊張感のある表現を目指させる。</li> <li>下地や薄い色から着色するなどの着色手順を理解させる。</li> <li>【評】関節や重心の位置に着目し、「のびる」「ためる」などの動きの感じや躍動感を捉え材料の特性を生かして表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>他者の作品のよさや表現の工夫に共感して楽しめるように肯定的な見方で鑑賞会が行えるように工夫する。</li> <li>【評】造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

本単元は、静止した粘土彫刻の中に、相反する一瞬の人の動きの躍動感や緊張感などが生き生きと表現できるおもしろさを感じ取らせながら制作に取り組ませる。人の体の頭部や胴体、手足などが密接に関連して動いていることを体の関節や重心の位置などに着目させて感じ取らせる。また、「のびる」「ためる」などの動きを感じさせる要素を意識させながら実際にポーズをとらせるなどして、躍動感を感じさせる動きの特徴を理解させる。



そして、その動きを表現するための、台座、心棒、針金の曲げ、粘土での形成、仕上げ、着色といった一連の制作の手順について見通しをもって取り組ませる。

単元名 **なんでこれが美術なの？(鑑賞)**配当時間 **1時間**

- 単元の目標 (1) 物と場所、大きさ、形や色彩が感情にもたらす効果や、造形的な特徴や制作の様子などを基に全体のイメージや作風などで捉えることができる。
- (2) 現代美術の美しさ、面白さを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に現代美術の面白さや考え方などに関心をもってよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11270204\_001

【準備等】 参考資料、ワークシート、タブレット、視聴覚機器、筆記用具

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 現代美術作品を鑑賞し、感じたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルコンテンツ資料で現代美術作品に触れ、感じたことを発表し合う。</li> </ul> <p>★現代美術作品から、作者の思いを感じ取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の参考作品を鑑賞し、気になる作品とその感想、疑問に思ったこと、おもしろいと感じたところなどを発表し合う。</li> </ul> <p>○PCやタブレットを活用して調べてみたい作者や作品を選び、作品の特徴と作者の表現の意図などについてまとめる。</p> <p>○なぜこのような作品を表現したのか、作者の思いを考える。</p> <p>○作者や作品について調べたことや、作者の考えについてまとめたレポートを発表し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルコンテンツを活用して作家や作品を紹介し、現代美術作品について第一印象をもたせる。</li> <li>どの作品のどんなところが気になったかや、どんな部分に疑問をもったか、おもしろさを感じたかなどを問いかけながら鑑賞させる。<br/>【評】現代美術の面白さや考え方などに関心を持ち、そのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などを考えるなどの見方や感じ方を深める活動を通して「主体的に取り組む態度」を評価する。</li> <li>教科書上P.63を参照させ、20世紀以降の芸術の流れについて触れるとともに、インスタレーションの表現などについても事前に説明しておく。<br/>【評】物と場所、大きさ、形や色彩、制作の様子などに着目し、イメージを捉える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>作品を見る側の人に問いかけたり、何を意味するかを考えさせたりするなど、作品や行為の背景にある作者たちの深い考えについて気付かせる。</li> <li>作品について調べたレポートを発表し合わせる。</li> <li>作品のおもしろさや作者の思い、考えについてまとめたレポートの文を確認し、他の現代美術作品にも関心を持ち、新たな見方や感じ方を深めている生徒の考えを取り上げて紹介する。<br/>【評】現代美術の美しさ、面白さなどを感じ取り、作者の表現意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

本単元は、20世紀以降の芸術家には、「この作品は何を意味しているのだろう」と見る人の思考を揺さぶったり、すでにあるものに新たな意味を加えたりして新しい表現を生み出してきた人たちがいる。この題材では、そうした芸術家たちの芸術に対する考え方や表現の意図に触れさせ、作品の見方や感じ方を深めさせることをねらいとしている。

## 単元名 ひと目で伝えるための工夫(デザインや工芸など)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 形や色彩が感情にもたらす効果や、具体物や行為を表す形の特徴などを基に、伝達するイメージなどを捉えることができる。
- (2) 伝えたい内容やイメージなどを基に、伝える相手や場面などから主題を生み出し、形や色彩などによる伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現する構想を練ることができる。伝えたい内容やイメージとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に伝える目的や機能を考えてひと目で分かるピクトグラムの構想を練ったり、意図に応じて自分の表現方法を追究し見通しをもって創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11270301\_001

【準備等】画用紙、タブレット、筆記用具、色鉛筆、絵の具

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 参考作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近に見られるピクトグラムやサインなどにはどんなものがあり、どんな役割をもっているか発表し合う。</li> </ul> <p>★親しみのあるピクトグラムの特徴は何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○参考作品を鑑賞し、その役割や形、色彩などの特徴を考える。</li> </ul> <p>2～4 主題を基に構想を練り、制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近にある問題で解決したい事柄や、多くの人に発信したい内容、場面などから主題を生み出す。</li> </ul> <p>★身近なピクトグラムをつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主題を基に構想を練り、アイデアスケッチをする。</li> </ul> <p>○互いのアイデアスケッチについて客観的な視点をもって批評し合い、よりよいデザインを追究する。</p> <p>○アイデアスケッチを再考し、決まったデザインについて描画材料の特性を生かし、見通しをもって制作する。</p> <p>5 鑑賞会を行う。</p> <p>★作品のよさや表現の工夫を感じ取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○鑑賞会を行い、表現の意図や工夫について発表し合い、よさや美しさを感じ取り味わう。</li> </ul> <p>○ピクトグラムやサインの効果によって豊かな生活を生み出すなどの美術の働きについて考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の近くや生徒が通る場所にある標識のマークなどに注目させ、身近な生活の中にあるデザインの役割に気付かせる。</li> <li>・公共施設や交通機関などで見られるサインやピクトグラムなどの参考資料を提示し、その役割やデザインの特徴などを考えさせ、まとめる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・単純な形</li> <li>・遠くからもよくわかる形や色</li> <li>・注意を示すのは黄色</li> <li>・使われる色の数が少ない など</li> </ul> </li> </ul> <p>【評】ひと目で伝わるピクトグラムなどをデザインすることに関心をもち、主体的に創造的な工夫をして表したり、表現の工夫を感じ取ったりする活動を通して、「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決意識をもたせ、主題を明確にさせてから制作に臨ませる。</li> <li>・PCやタブレットを使って構想を練ることもできる。</li> <li>・瞬時に必要なことを伝えるためのデザインとして、単純化や省略、強調などを用いて形を工夫させ、伝える意味を考えて彩色の工夫をさせる。</li> <li>・伝えたい内容が瞬時に伝わるか、親しみやすさやユーモア、多くの人の目に留まりやすいかなど、改善を加える点がないか互いのアイデアについて意見を述べさせる。</li> </ul> <p>【評】伝えたい内容やイメージ、伝える場面などを基に、形や色彩などによる伝達の効果を考え構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な描画材料を選択させる。</li> </ul> <p>【評】具体物や行為を表す形の特徴などに着目し、伝達のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かし、見通しをもって表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の作品のよさや表現の工夫に共感して味わえるよう、肯定的な見方で鑑賞会を行う工夫する。</li> <li>・生活を美しく豊かにするための美術の働きについて考えさせる。</li> </ul> <p>【評】伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなど見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元は、導入において、日常生活でよく見かけるピクトグラムやサインを鑑賞させ、それらが多くの人に瞬時にメッセージを伝え、生活を円滑にするための役割を担っていることや、洗練された形や色を使い、美術の働きによって生み出されたものであることにも気付かせる。制作においては、身近で、デザインによってよりよい

生活が期待される場所や内容の構想を十分に考えさせる。また、客観的な視点ももたせながら取り組ませることも大切である。

## 単元名 水と筆を操る(絵や彫刻など)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 墨、和紙、筆などの材料や用具の特性を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして、描く順序などを総合的に考えながら、創造的に表現することができる。
- (2) 自然物や身の回りのものや様子から、感じ取ったことや墨の効果などを基に主題を生み出し、単純化や強調、構図や墨の生かし方などを考え、創造的な構成を工夫し、表現の構想を練ることができる。墨の効果を生かした表現の造形的なよさや美しさ、感じ取ったことや墨の効果などを基にした主題と創造的な表現の工夫などを味わうことができる。
- (3) 墨の特性を生かした表現に関心を持ち、主体的に創造的な工夫をして表現したり、表現の工夫を感じ取ったりしようとする。

## 標準的な展開例

11270302\_001

【準備等】和紙、半紙、絵皿、筆記用具、書道用具

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 参考作品を鑑賞し、感じたことを発表し合う。墨を使ってさまざまな表現を試みる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の参考作品や墨を使って表現した作品を鑑賞し、感じたことを発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「秋冬山水図・冬景図」雪舟</li> <li>「ソフト・ステップ2」エンドレ・ペノベック</li> <li>「コービー・ブライアント」茂本ヒデキチ</li> </ul> </li> </ul> <p>★墨を使って、さまざまな方法で表現してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>墨を使ってさまざまな表現を試みる。</li> </ul> <p>○表したいものやイメージを基に主題を生み出す。</p> <p>2 主題を基に墨を使って表現する。鑑賞会を行い、水墨画のよさや美しさを感じ取る。</p> <p>★墨を使って、主題を効果的に表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主題を基に墨を使って表現する。</li> </ul> <p>○互いの作品について鑑賞会を行い、表現の意図や工夫について発表し合い、水墨画のよさや美しさを感じ取り味わう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な水墨画の技法については、教科書上 P.55「水墨画の表現」を参考にする。</li> <li>墨によるさまざまな技法によって表現された作品を用意し、墨の特性や効果を感じ取らせる。</li> </ul> <p>【評】墨などの表現の特性を生かして表すことに関心を持ち、主体的な表現の工夫を感じ取る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水墨画の基本となる技法を練習させる。</li> <li>没骨法、破墨法、積墨法など、墨の濃淡や紙の種類によるにじみの違いを繰り返し練習させる。</li> <li>墨の効果や身近なことなどから感じ取ったことを基に主題を見付けさせる。</li> </ul> <p>【評】表したいものやイメージを基に、墨の濃淡や線などの効果を考え構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主題を効果的に表せるよう、墨の濃淡や紙の特性を生かしたり、技法を組み合わせたりさせる。</li> <li>色紙や巻物など、表現の形式を意図に合わせて選んだりさせることもできる。</li> </ul> <p>【評】水加減による濃淡や筆の運びによる線の勢いなどに着目し、墨などの単色により作り出されるイメージを捉える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品への思いや表現の工夫などについて互いに発表させる。</li> <li>他者の作品のよさや表現の工夫に共感して味わえるよう、肯定的な見方で鑑賞会が行えるよう工夫する。</li> </ul> <p>【評】墨による作品や伝統文化のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元は、墨は、濃淡、ぼかし、かすれなどを生かすことで、さまざまな表現をすることができる。墨の性質や技法について親しみをもって学ばせる。日常感じていることなどを基に表現するだけでなく、水の量や筆の動かし方などをいろいろ試すことからイメージを豊かに広げ、主題を捉えさせる方法も考えられる。墨という単色で、多彩な表現の広がりを感じ取らせるために、紙の種類や大きさ、取り入れる技法などの幅を広げ、イメージに合わせて選択させたい。

## 単元名 暮らしやすさのデザイン(デザインや工芸など)

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追究して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って創造的に表すことができる。  
 (2) 機能と美しさとの調和を基に、使う人や場所、社会との関わりなどから主題を生み出し、人への優しさと形や色彩の美しさなどとの調和を総合的に考え、表現する構想を練ることができる。使う目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。  
 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に使う人の立場や気持ちを考えて構想を練ったり、意図に応じて自分の表現方法を追究し見通しを持って創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

11270303\_001

【準備等】画用紙、ワークシート、筆記用具、色鉛筆、絵の具

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 暮らしやすさのデザインについて考え、作品カードにまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで持ち寄った暮らしやすさのデザインについての製品や調べてきたレポートなどを鑑賞し合う。</li> </ul> <p>★暮らしやすさのデザインと何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>暮らしやすさを追求した実際の製品や建物や環境におけるデザインの画像や動画などに触れて理解を深める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのものを、問題意識をもって見直し、不便さや使いにくさの改善や、使う人や場面などから主題を生み出す。</li> <li>問題解決のためのアイデアや、暮らしやすさを考えたデザインについて、文字やアイデアスケッチで表現する。</li> <li>アイデアスケッチの中から表現したいものを選び、マケットとして制作するための計画を立てる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>材料や用具の特性を生かし、制作手順などの見通しをもつて表す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品カードに作品についての解説を記入する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞会を行い、互いの作品の表現の意図や工夫について発表し合い、よさや美しさを感じ取り味わう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前に教科書図版の参考作品などで暮らしやすさのデザインに触れ、関連ある製品を準備させたり、身近にあるユニバーサルデザインについて調べたりさせる。</li> <li>製品や資料の形や色彩、材料の特徴や用途、機能、使い心地などについてワークシートにまとめさせる。</li> <li>あらかじめ用意していた製品などにも触れさせながら鑑賞させる。</li> <li>画像や動画を準備し、紹介する。</li> </ul> <p>【評】 使う人の立場や気持ちを考えてデザインすることに関心を持ち、主体的に創造的な工夫をして表したり、表現の工夫を感じ取ったりする活動を通して、「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題意識をもたせることで、生活の中や身の回りのものを新たな視点で見直させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用する人の気持ちや機能、使いやすさ、安全性に配慮しつつ、形や色彩などの効果を生かすよう促す。</li> <li>使いやすさや効果的な材料、制作の見通しについて考えさせる。</li> </ul> <p>【評】 機能と美しさの調和、使う人や場面などを基に、形や色彩の美しさ、人へのやさしさなどの効果を考え構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品をさらによくするための改善点などを振り返らせながら考えさせる。</li> </ul> <p>【評】 形や色彩、材料などに着目し、材料や用具の特性を生かし、制作手順などの見通しをもち、意図に応じて創造的に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の作品について、機能、使う人、場面、形や色彩、材質の特徴などの視点で確かめさせ、カードに記入させる。</li> <li>他者の作品のよさや表現の工夫に共感して味わえるよう、肯定的な見方で鑑賞会を行う工夫する。</li> </ul> <p>【評】 形と色彩、機能との調和のとれたよさや美しさを感じ取り、誰もが安全で豊かに暮らすためのデザインの働きや、作者の表現の意図と創造的な工夫について考えるなどして見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元は、年齢や障がいの有無にかかわらず、だれもが暮らしやすくなるための製品や建物、環境におけるデザインであるユニバーサルデザインについて考えさせる。実際にそうした製品に触れさせることや、生活や社会の中で使われているものの画像や動画を見せるなどして、使う人の気持ちを考えたデザインへの関心や理解を深めさせる。

単元名 時代を超えて美を探究する思い(オリエンテーション)

配当時間 1時間

単元の目標

- (2) 美術を通し自分自身と向き合い、自分と社会、自然がどのような関わりにあるのかを考え、これからの美術の意味や役割、可能性について自分の意見をもつことができる。
- (3) 第1・2学年の学習を振り返るとともに、美術の授業への関心を高め、意欲的に取り組もうとする。

標準的な展開例

12270101\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 既習内容を確認するとともに、第3学年の学習内容を知り、学習計画を立てる。</p> <p>★時代を超えて探究される美とは何だろう。</p> <p>○「ガウディの作品群」に込められた思いやよさを文章や言葉などで表現し、ワークシートに書き発表する。</p> <p>○第3学年の学習内容を知り学習計画を立て、それぞれの活動の目標をワークシートに記入する。</p> | <p>・時代を超えて引き継がれた美意識を感じ捉え国籍や住む地域を越えた美術文化の継承と創造について考えさせる。</p> <p>【評】参考作品から美しさや引き継がれた思いを感じ取ったり、作者や引き継いだ人々の思いを考え書いたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・学習内容から美術と社会や自然の関わりについて理解させ、意欲的に活動する気持ちを高めたい。</p> <p>【評】第3学年の目標を意欲的に書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

【 備 考 】

第1・2学年での学習内容を振り返り、美術と社会、自然との関わりや、美術の果たす役割、可能性について考え、第3学年では、さらに発想・構想力、技能を高めたい。

言語活動としては、美術と社会とのかかわりに着目し、参考作品に込められた思いを文章や言葉で表現することで発表や話し合い活動が活発に行えるようにするとよい。

義務教育最後の学年であることの自覚をもたせ、意欲的に授業に取り組もうとする気持ちを高めたい。また、作品をつくる経験から得た発想・構想力や作品に託した作者の心情や意図を感じ取る力を、生涯にわたり生かせるようにさせたい。

**単元名** あの日を忘れない(鑑賞)

**配当時間** 2時間

**単元の目標** (1) 形や色彩などが感情にもたらす効果や、物の組み合わせや構図などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることができる。  
 (2) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の訴えたいことや表現の意図と創造的な工夫、社会における美術の力について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。  
 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に絵に込められた作者の訴えたいことや表現の意図と創造的な工夫、社会における美術の力について考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

**標準的な展開例**

12270102\_001

**【準備等】** 参考資料、ワークシート、視聴覚機器、筆記用具

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| 1 主題に基づいて表現の工夫や表現意図について考える。<br>○ 作者の言葉から強く表したかったことを感じ取る。<br>★ 作者が強く表したかったことを考えよう。<br>○ 作品の大きさや描かれているものから感じる表現の工夫について考える。<br>○ 作者の生きた時代や社会的背景など一層幅広い視点から捉えた作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考え、美に対する鋭敏な感覚を働かせながら見方や感じ方を深める。<br><br>2 見方や感じ方を深める。<br>★ 生活や社会における美術の働きについて考えよう。<br>○ 生活や社会の中の美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。<br><br>○ 造形的な特徴などを基に、見立てたり心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えながら振り返る。 | ・ 主題に基づいた表現の工夫や表現意図について考えさせる。<br>・ 全体のイメージや作風、作品の大きさなどで捉え見方を深めさせる。<br>・ 東日本大震災やゲルニカの空爆などの背景を踏まえ、作品を深く味わわせ、作者の内面や生き方を推し量ったり作品の構成や表現方法などを研究させたりする。<br><b>【評】</b> 形や色彩、材料などの性質及び、それらが感情にもたらす効果や、物の組み合わせや構図や色彩などを基に、全体のイメージや作風などを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br>・ 自分の生き方との関わりで美術を捉えられるよう、見方や感じ方を深めさせる。<br><b>【評】</b> 作者の訴えたいことや表現の意図、創造的な工夫、社会における美術の在り方について考えるなどして、見方や感じ方を深める活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br>・ 主題に基づいた表現の工夫や作者の表現意図について考えさせ、全体に着目してイメージで捉え、これからの制作に生かせるよう言葉かけをする。<br><b>【評】</b> 造形的な美しさなどを感じ取り、未来の人類の幸福などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 |

**【 備 考 】**

本単元は、自然災害の脅威や戦争の惨劇への怒りや悲しみから生まれた作品から、作者の訴えたいことなどに関心をもち、社会における美術の力などについて考える。形や色彩、作品の大きさなどの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりできるようにすることが大切である。作風などから自分が捉えたことを他者と伝え合うなどして深めさせたり、文献などを調べて理解したことなどから、さらに、イメージが広がるような活動を通して理解を深めたりすることなどが考えられる。



## 単元名 イメージを追い求めて(絵や彫刻など)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 形が感情にもたらす効果や、性質、立体感、量感や動勢などの造形的な特徴や置かれている空間などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることができる。
- (2) 表したいイメージなどを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、形や質感、重心などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に感情やイメージなどを形で表そうと単純化や省略、強調、形や質感、重心などを考え構想を練ったり、意図に応じて自分の表現方法を追究して創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12270103\_001

【準備等】 木材、石材、加工粘土、紙やすり、木工やすり、参考資料、ワークシート、視聴覚機器、筆記用具、絵の具、彫刻刀、身近材料

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 作品について話し合う。</p> <p>★作品やタイトルから感じ取ったことを発表しよう。</p> <p>○作品とタイトルから感じ取れることを話し合う。</p> <p>○造形的な特徴などから何かに見立てたり、心情などに関連付けたりしながら話し合い、イメージで捉えることを理解する。</p> <p>2 イメージを基に主題を決める。</p> <p>○複数の視点から物を深く見つめたりものの本質について想像させたりして主題を生み出す。</p> <p>★イメージを大切に、主題を考えよう。</p> <p>○何を強調し、何を省略して表すかを取捨選択し、内面や本質を捉え直しながら構想を練る。</p> <p>3～6 主題を基に制作をする。</p> <p>★イメージに合った材料を選び、制作しよう。</p> <p>○加工しやすさや感情にもたらす効果を考えて材料や用具を選択する。</p> <p>○主体的に材料や用具に関連付けたり総合的に扱ったりするなどして材料や用具の特性を生かしながら創造的に表す。</p> <p>7 鑑賞会をする。</p> <p>★鑑賞会を行い、作品について深く捉えてみよう。</p> <p>○作品の構成や表現方法などを探り、そのよさを深く感じる。</p> <p>○主題から表現の意図と創造的な工夫などについて考え、次回の制作につなげる。</p> | <p>・造形の要素の特徴やタイトルなどから全体のイメージや作風で捉えさせる。</p> <p>・これまでに経験した表現を振り返りながら、自分の表したい感じが表現できるか確認させる。</p> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に形や質感、重心などを考え構想を練り、意図に応じて自分の表現方法を追究して創造的に表し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・感じ取ったイメージや自己を見つめて生じた感情などを言葉にして書きとどめ、それを基に主題を考えさせる。</p> <p>・表現の組立てを工夫するために、部分や全体に着目して構成の仕方を試行錯誤させる。</p> <p>【評】形や立体感、量感や動勢、置かれている空間などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・イメージの表現の可能性を考えて材料や方法を選ぶよう言葉かけをし、制作させる。</p> <p>【評】表したいイメージなどを基に主題を生み出し、形や質感、重心などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・創造的に表すことができるように、新しいことに挑戦させる。</p> <p>【評】材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追究して創造的に表し、制作の順序などを総合的に考え、見通しをもって表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・多様な見方や感じ方ができるようにして鑑賞を深めさせる。</p> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・表現の学習と関連させながら発想や構想をする学習に結び付けるなどして見方や感じ方を深めさせる。</p> <p>【評】造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

【 備 考 】

本単元は、自分が表したいイメージを追究するために、様々な工夫をして、豊かに表現する。造形的な視点を豊かにもち、対象や事象などからイメージを捉えることができるようにするために、最初の直感的なイメージも大切にしながら、見立てたり心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えることについて実感を伴いながら理解できるようにし、さらに見方を変えるなどして新たな視点に気付いたり深められたりする。自分が感じたイメージを他者と伝え合ったり、根拠について話し合ったりするなどの活動が大切である。

## 単元名 仏像に宿る心(鑑賞)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 形や材料などの性質、それらが感情にもたらす効果や、顔や手の表情や、質感、空間などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることができる。
- (2) 受け継がれてきた表現の特質などから仏像彫刻のよさや美しさを感じ取り、愛情を深めるとともに、作者の意図と創造的な工夫、美術文化の継承と創造などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に仏像彫刻のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、作者の意図と創造的な工夫、美術文化の継承と創造などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12270104\_001

【準備等】 参考資料、ワークシート、視聴覚機器、筆記用具

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 全体のイメージを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 仏像の魅力はどこから感じられるのかを考える。</li> </ul> <p>★ 仏像の細部や全体から魅力について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 顔や手の表情に込められた思いを話し合う。</li> </ul> <p>○ 顔や手の表情がもたらす効果や、形や材料、質感、空間などに視点を当て自己との対話を重ねながら造形的なよさや美しさなどを感じ取る。</p> <p>2 美術文化の流れを知る。</p> <p>★ 日本美術の流れから、人々の思いを感じ取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本文化の時代的なおおまかな流れや表現の特質を見ていき、日本美術の概括的な変遷を捉えることを通して、各時代における人々の感じ方や考え方、生き方や願いなどを感じ取る。</li> <li>○ 仏像の造形の要素などに着目し、材料の性質や質感、構成の美しさを理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仏像の顔や手の表情から全体のイメージを捉えさせる。</li> <li>・ 仏像の造形に着目させる。</li> </ul> <p>【評】 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に美術を通した文化の継承と創造について考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作者の内面や生き方を推し量ったり創造性などについて感じ取り考たりして、主題と表現の工夫を関連させて捉えさせる。</li> </ul> <p>【評】 顔や手の表情がもたらす効果や、形や材料、質感、空間などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飛鳥時代や奈良時代から時代を経て次第に変容していき、平安時代や鎌倉時代に日本的な美術文化を誕生させてきたという独自の流れと関連付けて考えさせる。</li> <li>・ 仏像の表現の特質を一層明確になるよう文化的な視点で捉えさせる。</li> </ul> <p>【評】 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、美術を通した美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深める活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元は、仏像の造形は、時代や作者によって表現の特徴が異なり、様々な祈りに応える姿を現すために仏師が試行錯誤し表現を磨いてきたものである。空間の効果、量感や動勢などを捉えることが重要な視点である。仏像の祈りの造形は遠い過去から現代に続く美術の長い歴史の中で、先人の努力や知恵が受け継がれて発展していく中でつくられたものである。先人の感性や美意識を生かし、新たな感じ方や感性を育てることにつなげる。探究活動や修学旅行などを通して実感を伴いながら理解できるようにする。

単元名 (旧)美を探し求めて(オリエンテーション)

配当時間 1時間

単元の目標

- (2) 美術を通し自分自身と向き合い、自分と社会、自然とどのような関わりにあるのか考え、これからの美術の意味や役割、可能性について自分の意見をもつことができる。
- (3) 第1・2学年の学習を振り返るとともに、美術の授業への関心を高め、意欲的に取り組もうとする。

標準的な展開例

12270105\_001

【準備等】教科書、ワークシート

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 既習内容を確認するとともに、第3学年の学習内容を知り、学習計画を立てる。</p> <p>★伊勢崎淳や新垣優香は、作品を通して何を伝えたかったのだろう。</p> <p>○参考作品に込められた思いやよさを文章や言葉などで表現し、ワークシートに書き発表する。</p> <p>○第3学年の学習内容を知り学習計画を立て、それぞれの活動の目標をワークシートに記入する。</p> | <p>・伊勢崎淳、新垣優香はともに伝統を大切にしながらも、新しい表現を組み合わせ、自分らしい表現をしていることに気付かせる。</p> <p>・作者の思いを考えることで、表現することの責任や喜びを感じ取らせたい。</p> <p>【評】参考作品から美しさや力強さを感じたり作者の思いを考え書いたりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・学習内容から美術と社会や自然の関わりについて理解させ、意欲的に活動する気持ちを高める。</p> <p>【評】第3学年の目標を意欲的に書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

【 備 考 】

第1・2学年での学習内容を振り返り、美術と社会、自然との関わりや、美術の果たす役割、可能性について考え、第3学年では、さらに発想・構想力、技能を高めたい。

言語活動としては、美術と社会とのかかわりに着目し、参考作品に込められた思いを文章や言葉で表現することで発表や話し合い活動が活発に行えるようにするとよい。

義務教育最後の学年であることの自覚をもたせ、意欲的に授業に取り組もうとする気持ちを高めたい。また、作品をつくる経験から得た発想・構想力や作品に託した作者の心情や意図を感じ取る力を、生涯にわたり生かせるようにさせたい。

教科書下P.6～P.7「夢をかたちにするデザイン」も、参考資料として取り上げるとよい。

単元名 (旧)ここでシャッターを切った理由(鑑賞)

配当時間 1時間

単元の目標

- (2) 作者がその場所、その瞬間でシャッターを切った表現の意図や撮影の工夫を感じ取り、自分の意見や考えをもって味わうことができる。  
 (3) 写真表現の効果や作者の心情や意図と撮影の工夫などに関心を持ち、そのよさを主体的に感じ取ろうとする。

標準的な展開例

12270106\_001

【準備等】教科書、ワークシート

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 写真作品を鑑賞し、感じたことや考えたことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の写真作品を見比べて感想を発表する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>「渋谷」本城直季</li> <li>「夕暮れの河を渡るカリブー」星野道夫</li> <li>「99cent」アンドレアス・グルスキー</li> </ul> </li> <li>アングルやシャッター速度、ピントなど撮影の工夫を理解する。</li> <li>★作者がここでシャッターを切った理由を考えよう。</li> <li>写真作品を鑑賞し、作者の心情や意図と表現の工夫について考え、ワークシートに書き発表する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ写真作品でも受ける印象が異なることに気付かせる。</li> </ul> <p>【評】写真作品を鑑賞し、表現の違いに興味をもち積極的に意見を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書P.53「写真撮影の第1歩」を活用し、技法と効果について理解させる。</li> <li>撮影技法の工夫や効果に着目をさせることで作者の表現したかったことを考えさせる。</li> </ul> <p>【評】写真作品を鑑賞し、表現や撮影の工夫などを感じ取り、自分なりの意見や考えをもつ活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

【備 考】

本単元では、構図や動き、明暗などの表現から、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、自分の見方や考え方で味わわせたい。

言語活動としては、参考作品を鑑賞し感想を発表することで構図や動きの効果に着目させたい。

自分の考えたことを発表する際、撮影技法の工夫から感じられるイメージを感じ取ってから作者の思いを考えさせるとよい。

本単元を2時間完了で展開する場合は、小グループに分かれてデジタルカメラやタブレットを使った撮影技法を体感させるとよい。

## 単元名 (旧)私との対話(絵や彫刻など)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 描画材料の特性や技法を生かし、主題に適した表現方法を工夫しながら、制作することができる。
- (2) 心の状態や性格の特徴などを見つめて主題を生み出し、顔の描写や画面の構図を工夫し、発想や構想を練ることができる。作者の心情や意図を感じ取り、自分の姿を通して表現された作品の造形的なよさや美しさを味わうことができる。
- (3) 自分の姿を見つめ、感じ取ったことや考えたことを主題にした作品に関心をもち、技法や材料の特性を生かした表現をしようとする。

## 標準的な展開例

12270107\_001

【準備等】教科書、ワークシート、描画用紙、鉛筆、ペン、鏡

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 な ど  |
|---|--|
| <p>1 自画像を鑑賞し、主題を考え、主題を練る。</p> <p>★作者は、自画像を通して何を表現しているのだろう。</p> <p>○教科書の参考作品を鑑賞し、作者の心情や意図を考え、意見を発表する。</p> <p>○自画像の制作過程を理解し、構想を練る。</p> <p>★今の私、本当の私の姿は何だろう。</p> <p>○自分の性格や特性などをワークシートに記入する。</p> <p>2 下絵を描く。</p> <p>★下絵を描こう。</p> <p>○ワークシートを基に自分の心情や顔の表情、構図を考えながら描く。</p> <p>3～6 描画材料の特性を生かし、描写する。</p> <p>★ペンで表現しよう。</p> <p>○鏡を見ながら、顔の形や明暗を観察し描写する。</p> <p>7 完成した作品を鑑賞する。</p> <p>★作者はどのような心情だろう。</p> <p>○作品を批評し合い、作品の表現と作者の心情との関係を考え、意見を発表する。</p> | <p>・顔の表情や構図、色彩や技法に着目させ、意見を発表させる。</p> <p>【評】作者の心情や意図を想像して意見を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ペンを使用し、線の粗密で明暗を表現することを理解させる。</p> <p>・自分の楽しみや不安、行動や環境について着目させる。</p> <p>・全体から部分へ向かって描写させる。</p> <p>【評】ワークシートに自分の姿を表す言葉を記入する活動や、表情や構図を考えた下絵を描く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・自分の心情を表現することに心がけ、描写させる。</p> <p>【評】ペンの特性を生かして描写をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ペンの勢いや密度から、どのような心情を表現しているか考えさせる。</p> <p>【評】作品に作者の心情が、どのように表現されているか批評し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元では、自画像を描くことを通して、自分の姿を見つめ、身体的な特徴だけでなく、心の状態、性格の特徴などを把握して主題を創造させたい。また、技法や材料の特性を生かしたり、表現方法を工夫したりして描写させたい。

言語活動としては、作者の心情と表現との関係を考え、意見を発表したりワークシートに記入したりすることで作品の制作に生かしたい。

主題への思いを大切にするため、一人一人の想像力・構成力・技能などを考慮しながらも、表面的な技法だけにとらわれすぎないように制作させたい。

本単元を、8時間で展開する場合、鉛筆の精密デッサンに透明水彩絵の具による淡彩画表現を用いる展開も考えられる。生徒の実態に合わせて各学校で単元を再構成するとよい。また、粘土や木材を使った彫刻単元として取り扱うこともできる。

単元名 (旧)刻まれた祈り(鑑賞)

配当時間 2時間

単元の目標

- (2) 仏像の造形的なよさや美しさ、表現の特徴、作者の願いなどを味わい、美術文化を継承し創造していくことへの意義を感じ取ることができる。
- (3) 仏像の造形的なよさや美しさ、作者の願いなどに関心を持ち、主体的に美術文化への理解を深めようとする。

標準的な展開例

12270108\_001

【準備等】教科書、ワークシート

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 仏像を鑑賞し、時代や種類、作者の違いによる仏像の特徴を理解する。</p> <p>★仏像を鑑賞しよう。</p> <p>○ 仏像を鑑賞し、身に付けているものやポーズから受けた印象を発表する。</p> <p>○ 仏像の種類や時代によって、表現が異なることを理解する。</p> <p>○ 各仏像を鑑賞し、表現の違いから受けるイメージをワークシートに書き発表する。</p> <p>2 それぞれの仏像のよさや美しさ、作者の願い、創造的な表現の工夫などを感じ取り、作品から受ける思いについて意見を述べ合う。</p> <p>★仏像の創造的な特徴やそこに込められた思いを探ろう。</p> <p>○ 仏像の表情や動きから、どのような思いが込められているかをワークシートに書き発表する。</p> | <p>・教科書P. 24～P. 29の仏像を見て気付いたことを発表させることで、素材や表現、身に付けているものが仏像によって異なることに気付かせる。</p> <p>【評】仏像を鑑賞し、身に付けているものやポーズなど気付いたことを発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書P. 55「仏像の種類」を参考に各仏像の特徴を理解させる。</p> <p>・鑑賞した仏像についてワークシートにまとめ発表する。</p> <p>・ワークシートには仏像の特徴や祈りの意味だけでなく、そこに根付いた文化や歴史についても書き込み、理解を深めさせる。</p> <p>【評】仏像の造形的なよさや美しさ、創造的な表現方法から感じられるイメージを文章で書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P. 25の仏像を比較させ、服装や表情、ポーズに注目させてから、どのような場面でどのような音を奏でているか考えさせる。</p> <p>【評】仏像のポーズや表情を深く読み取り、感じたことを文章に書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

#### 【 備 考 】

本単元では、仏像の表現の特徴や細部と全体から受ける印象などから、込められた願いや創造的な表現の工夫などを感じ取り、継承されてきた仏像に対する理解や見方を深める。

言語活動としては仏像の造形的なよさや美しさ、創造的な表現の工夫や作者の意図を考え、感想を発表したり話し合ったりさせるとよい。

文化財の保護にも着目し「文化財の保存と修復」教科書下P. 49、守り伝える活動にも関心をもたせたい。

本単元を地域にある文化財への見学会や、貸出資料を使い鑑賞会を実施するなどして、実物や等身大の作品を見ることで作品に込められた思いを直接感じ取らせるとよい。

単元名 **私の色 みんなの色(デザインや工芸など)** 配当時間 **4時間**

単元の目標 (1) 形や色彩の構成、布の質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴や染色の技法などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解することができる。材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追究して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表すことができる。  
 (2) 構成や装飾を基に、使う場面や飾る場所、イメージなどから主題を生み出し、形や色彩、染色の技法の効果から美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさを総合的に考え、表現する構想を練ることができる。身に着けたり空間を飾ったりする物の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。  
 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に形や色彩、染色の技法の効果から美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさを総合的に考え構想を練ったり、意図に応じて自分の表現方法を追究して見通しをもって創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

### 標準的な展開例

12270201\_001

【準備等】画用紙、布、染料、絵の具、参考資料、ワークシート、視聴覚機器、筆記用具、絵の具

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 染料の表現方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>天然染料や化学染料などの染めの魅力を考える。</li> </ul> <p>★染料の魅力とは、何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身に着けたり空間を飾ったりするなど身に着ける人や場面を考えて発想を膨らませる。</li> </ul> <p>2 主題を基に構想を練る。</p> <p>★使うことを想像して、主題を決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楽しんだり、心地よさを感じたりする使い道や使う人たちの気持ちなどの条件から主題を生み出す。</li> <li>機能と造形的な美しさとの調和を総合的に考えて構想を練る。</li> </ul> <p>3 主題を基に、制作する。</p> <p>★素材や染料の特性を生かしながら制作しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>布の特性や感情にもたらす効果、用具の機能面としての特性を生かしながら創造的に表す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>生地どんな模様をつけたいか考え、ねらいとする表現効果に応じて手順などを考えて表す。</li> </ul> <p>4 作品を鑑賞する。</p> <p>★それぞれの作品の美しさを感じ取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品を比較するなどして、機能と造形的な美しさとの調和を総合的に読み取り、見方や感じ方を深める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>布の性質や質感、形や色彩などの組合せによる構成の美しさなどについて理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意図に合う染料を使った新たな表現方法の工夫を考えさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>布や染料の性質や効果、イメージなどを生かし、目的と美しさなどとの調和を総合的に考えさせる。</li> </ul> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい主体的に形や色彩、染色の技法の効果の美しさなどとの調和を総合的に考え構想を練り、意図に応じて自分の表現方法を追究して創造的に表し見通しをもって表す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どのような場面でどのように使用したいのかななどを深く検討させる。</li> <li>主題を基に、表現の意図や思い、美しさを効果的に表しているかを総合的に考えさせる。</li> </ul> <p>【評】形や色彩の構成、布の質感、染色の技法を基に、全体のイメージや美しさなどで捉えることを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>染色の表現方法や布の質感など材料の生かし方を学び、新しいことに挑戦して創造的に表すことを大切にさせる。</li> </ul> <p>【評】使う場面や飾る場所などを基に、イメージなどから主題を生み出し、形や色彩、染色の技法の効果の美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どのような形が生まれるかは正確には予想ができないが、行為を意図的に行わせて、ねらいとする表現効果に応じて手順などを考えさせる。</li> </ul> <p>【評】材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を追究して創造的に表し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受け手や使い手の美意識や美的選択能力などつくり手に対する積極的な働きかけが含まれていることを伝えながら考えさせる。</li> </ul> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>捉えたイメージなどをこれからの表現の構想に生かせるよう、目的と美しさなどとの調和を総合的に考えさせる。</li> </ul> |



【評】身に着けたり空間を飾ったりする物の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元は、いつ、どこで、どのように使うかを想像して色や模様を考え、染めの味わいを楽しみながら表現を工夫する。材料には、地肌の特徴や質感による人間の感覚や感情に強く働きかける特性がある。材料の性質や質感を捉えさせるためには、実際に材料を手にとらせ、その感触などを十分に確かめさせるとともに材料の可変性などに気付かせることが大切である。また、布などがもつ温かみなどの感情にもたらす効果には、一人一人の感じ方が異なるものと、多くの人が共通に感じるものがあることに留意することもある必要である。

## 単元名 今を生きる私へ(絵や彫刻など)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 構図や顔の角度、表情やしぐさ、背景や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、自分の印象などを全体のイメージで捉えることを理解することができる。材料の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表すことができる。
- (2) 自分の姿を深く見詰め感じ取ったことや心の内面などを基に主題を生み出し、構図や表情などの効果を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に自分の姿から感じ取ったことや心の内面などを基に構想を練ったり、構図や表情など意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12270202\_001

【準備等】画用紙、加工粘土、新聞紙などの紙類、粘土板、へら、鏡、参考資料、ワークシート、視聴覚機器、筆記用具、色鉛筆、絵の具

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 参考作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考作品を鑑賞し、作者の心情や表現の意図について話し合う。</li> <li>★作品のイメージや印象から感じたことを発表しよう。</li> <li>様々な構図や背景、色彩の工夫を知る。</li> </ul> <p>2 自己と向き合い、主題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★心の内面や顔のイメージを基に主題を考えよう。</li> <li>自己と向き合い、自分の生き方と照らし合わせながら、自分の気持ちや性格、夢や思い出などについて考え、主題を生み出す。</li> <li>主題を基に構図や色彩などを試行錯誤し、創造的な構成を工夫して構想を練る。</li> </ul> <p>3～6 主題を基に制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★主題を基にして、制作しよう。</li> <li>材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて創意工夫して表す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現方法の特性などから効果的に描いたりつくったりする手順を総合的に考え、計画を立てて表す。</li> </ul> <p>7 鑑賞会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★友達作品を鑑賞して、自己の作品を振り返ろう。</li> <li>自分や友達作品を鑑賞し、その心情や表現の意図と表現の工夫などについて考え、発表し批評し合う。</li> <li>表現や鑑賞の活動から、自己を深く知り人生観と関わらせながら新しい価値をつくりだす。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>作者の生きた時代や社会的背景など一層幅広い視点から捉えさせる。</li> <li>参考作品や表現方法の工夫を提示しながら形や色彩、材料などに視点を当てさせる。<br/>【評】美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を生み出し、構図や表情などの効果を考え構想を練り、意図に応じて創意工夫して表現の学習に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>鏡を見て表面的に捉えるだけではなく自分自身の気持ちや心の中を見つめさせる。<br/>【評】形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、表情や印象など全体のイメージで捉えることを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>これまで学んだことも生かせるよう資料提示や言葉かけを工夫し生徒の表現意欲を高め、自分の意図に合う表現方法を模索させる。<br/>【評】心の内面や自分の姿を深く見詰め感じ取ったことや考えたこと、夢や想いなどの心の世界などを基に主題を生み出し、構図や表情などの効果を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>生徒がどのような考えでその手順を行っているかを正しく見取り、制作意図がより美しく効果的に生かせるよう考えさせる。<br/>【評】絵の具や用具などの特性を生かし、意図に応じて創意工夫して表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>作者の内面や生き方、作品の構成や表現方法など、そのよさを深く感じ取らせる。</li> <li>主題に基づきながら自分の作品についての過程を振り返らせる。<br/>【評】美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

本単元は、表面的に捉えるだけではなく、自己と向き合い生き方や気持ち、夢や思い出などから深く自己を理解し、自分の感情や物の考え方、価値観に気付くことができるようにする。過激な表現に偏重するのではなく自分の生き方と照らし合わせて表現することの意味や創造的な工夫を考えさせたい。表現の活動を通して、自己の夢や目標を形や色彩、材料などによって具体的な形としてつくりだしたり可視化したりすることで、自己の肯定的認識を高め、未来へのあこがれなどを思い描き自己挑戦し続けながら、自己実現を果たしていく意欲や態度を養うことが大切である。

## 単元名 笑顔が生まれる鉄道デザイン(鑑賞)

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 形や色彩, 材料などの性質, それらが感情にもたらす効果や, 造形的な特徴などを基に, 全体のイメージなどで捉えることができる。
- (2) 目的や条件との調和のとれた洗練された美しさを感じ取り, 乗車する人の立場, 作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして, 心地よく生活するための視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして, 美意識を高め, 見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい, 主体的に目的や条件との調和のとれた洗練された美しさを感じ取り, 乗車する人の立場, 作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして, 心地よく生活するための視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12270203\_001

【準備等】 参考資料, ワークシート, 視聴覚機器, 筆記用具

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 作品から地域の特色を捉える。</p> <p>★鉄道のデザインから地域の特色や社会との関わりについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が住む場所を含めた様々な地域の特色や材料にはどのようなものがあるのかを知る。</li> <li>○地域の特色を取り入れた工夫や地域の材料などを活用したデザインは使う人にどのような効果をもたらすのか話し合う。</li> </ul> <p>○生活を心豊かにする造形や美術の働きについて考え, 人にとってどのように機能するのか再認識し, 見方や感じ方を深める。</p> <p>○造形的な特徴などを基に, 見立てたり心情などと関連付けたりして全体のイメージを捉える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特色や文化などから作風や様式を捉えさせる。</li> <li>・環境や使う人, 社会との関わりなどから考え材料の組合せや目的と美しさなどの調和を考えさせる。</li> </ul> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい主体的にデザインが社会に果たす役割などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組む活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような造形や美術の働きが, 明るい開放感や落ち着いた雰囲気, 心が躍るような楽しさ, 精神的な温かみやくつろぎを与えてくれるか考えさせる。</li> <li>・鉄道の造形の要素に着目して感じ取ったり, 旅へと向かう心を楽しませる仕掛けや全体に着目してイメージを捉えたりさせる。</li> </ul> <p>【評】地域や社会の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り, 心地よく生活できる視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして, 見方や感じ方を深める活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元は, 各地域には独特の材料があり, それらの地域の材料の特性を生かした表現方法や題材を工夫して指導することが大切である。その際, 地域の伝統的な工芸, 民芸など, 地域の材料とそれに伴う表現技術, 伝統工芸家や作家など経験豊かな人材などもあわせて活用するなどして, 美術が生活に根差し, 伝統や文化の創造の礎となっていることを, 学習を通して深めることも大切である。また, 表現方法などから自分が感じたイメージを他者と伝え合ったり, 根拠について話し合ったりするなどして, 他者とイメージを共有したり新たな視点に気付いたりする活動も大切である。

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 単元名   | (旧)魅力が伝わるパッケージ(デザインや工芸など)   | 配当時間 | 6時間 |
| 単元の目標 | (1) 紙や絵の具などの特徴を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして、形成や着彩の順序などを総合的に考えながら、創造的に表現できる。<br>(2) 中身のイメージを多くの人に伝えるために、形や色彩などの効果を生かしてわかりやすさの美しさ等を考え、表現の構想を練ることができる。伝えることと形や色彩などとの調和のとれた洗練された美しさ、作り手の意図などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。<br>(3) パッケージデザインに関心を持ち、主体的に造形的な工夫を表したり、表現の工夫などを感じ取ったりしようとする。 |      |     |

## 標準的な展開例

12270204\_001

【準備等】教科書、ワークシート、画用紙、色鉛筆、絵の具、糊、ボンド

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| 1 飴のパッケージの参考作品を鑑賞し、主題を決め、スケッチを描く。<br>★キャンディボックスをデザインしよう。<br>飴のイメージについて意見を発表し、主題を決定する。<br><br>○ワークシートにアイデアスケッチを描く。<br><br>2～5 主題を基に制作する。<br>★アイデアスケッチを基に制作する。<br>○箱の展開図が印刷された画用紙に下描きをする。<br><br>○ポスターカラーで着彩し、展開図通りに切り出し、箱型に組み立てる。<br><br>6 完成した作品を鑑賞する。<br>★作品の批評をしてみよう。<br>ワークシートを使い、作者の意図や創造的な工夫について批評し合う。 | ・飴のイメージを話し合うことでアイデアを膨らませやすくする。<br>【評】参考作品のよさや飴のイメージを積極的に発言する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br>・飴の味や形など、何からイメージしたか、飴のどのような特徴を表現しているかを言葉で書き加えさせる。<br>・色鉛筆を使い、配色も考えさせる。<br>【評】飴の魅力が伝わるように形や配色を工夫し、アイデアスケッチする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br><br>・箱の正面を意識させて下描きをさせるとよい<br><br>・平塗りの技法でしっかり着彩させる。<br>・糊やボンドを使用し箱型にさせる。<br>【評】形や色彩、用具を工夫しながら見通しをもって創造的に表現する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br><br>・完成作品からどんなイメージが伝わってくるか、他者の意見に耳を傾けたり、自分のイメージを発表したりさせることで客観的に自分の作品を振り返らせたい。<br>【評】それぞれのパッケージのよさやイメージを批評し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 |

## 【 備 考 】

本単元では、中身のイメージが多くの人に伝わるように、魅力的な装飾や配色などを考え、材料や用具の生かし方などを工夫してパッケージをデザインさせたい。

言語活動としては、飴のイメージを話し合ったり、完成作品からどんなイメージが伝わってくるか、他者の意見に耳を傾けたり、自分のイメージを伝えたりさせるとよい。

本単元を8時間完了で展開する場合はパッケージの形もアイデアスケッチで考えさせてから制作させてもよい。

単元名 (旧)デザインで変える現在と未来(鑑賞)

配当時間 2時間

単元の目標

- (2) 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさ、作者の意図などを感じ取り、生活の中のデザインの働きについて自分の意見や考えをもって理解することができる。
- (3) 問題を解決したり、未来を志向したりするためのデザインのよさや表現の工夫などに関心を持ち、主体的にデザインの働きについて理解しようとする。

標準的な展開例

12270205\_001

【準備等】教科書、ワークシート

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 教科書の参考作品を鑑賞し、デザインによって変化したことについて考える。</p> <p>○参考作品の感想をワークシートに記入し発表させる。</p> <p>★デザインによってどんなことが変わったのか考えよう。</p> <p>○参考作品を鑑賞し、改善されたことや期待できること、作者の意図についてワークシートに書き、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドレ・ユアハーン「アートプロジェクト(リオデジャネイロ)」</li> <li>・坂 茂 「コンテナ多層仮設住宅プロジェクト」</li> <li>・ピーター・ヘンドリクス, ハンス・ヘンドリクス「Qドラム」</li> <li>・高橋智隆「小型ロボット」</li> <li>・国内自動車メーカー+日本デザインセンター原デザイン研究所「笑うクルマ」</li> </ul> <p>2 デザインの果たす役割について考える。</p> <p>★生活の中のデザインについて考えよう。</p> <p>○日頃使っている道具や家具のデザインを思い出し、それぞれのよさや工夫されていることをワークシートに書き発表する。</p> <p>★デザインの果たす役割とは何だろう。</p> <p>○デザインをしていく中で必要なことや役割をワークシートに書き発表する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考作品の感想を発表させる。</li> </ul> <p>【評】参考作品について積極的に意見を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解決したり、未来を志向したりするためのデザインがあることを理解させる。</li> <li>・アートプロジェクトでは町中をカラフルに塗ることで住民がどんな思いをもつか考えさせる。</li> <li>・コンテナでは短時間で建設できる利点について注目させる。</li> <li>・Qドラムは形と素材に注目させる。</li> <li>・小型ロボットや笑うクルマはコミュニケーションがとれることに注目させる。</li> </ul> <p>【評】デザインの効果について自分なりの意見もち、発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインされたものの中で生活していることに気づき、使いやすさや安全面などを考え作られていることを理解する。</li> </ul> <p>【評】生活を振り返り、積極的に物のよさを書き発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P.6～P.7「夢をかたちにするデザイン」を活用し、未来に向けた提案についても考えさせたい。</li> </ul> <p>【評】生活の中のデザインの働きや未来のデザインについて自分の意見や考えを書き、発表することを通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元では、さまざまなデザインから、課題の解決や心豊かな生活のためのデザインの働きについて理解し、自分の見方で味わわせたい。

言語活動としては、参考作品を鑑賞し感想を発表する中で形や色彩による効果について考えさせるとよい。関連として「デザインと環境」や「自分たちの生活の場を飾ろう」を取り上げるとより深まる。

単元名 (旧)空想の世界への誘い(絵や彫刻など)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 形や色彩, 材料の特性, 技法など効果的な表現方法を工夫することができる。  
(2) 内面の世界を「心の風景」としてとらえ, 作品の主題を生み出すことができる。作品を見て, 主題をどのように表現しようとしているか, 批評し合うことができる。  
(3) 自分の思いや内面を想像力豊かに表現しようとする。

### 標準的な展開例

12270206\_001

【準備等】教科書, ワークシート, 鉛筆, 消しゴム, 画用紙

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 心の中のイメージを言葉で表すとともに, これから制作する作品の主題を決定する。<br/>★自分の心の中のイメージを膨らませよう。<br/>○心の中のイメージを具体化させ主題を決定するために思い付いた言葉をワークシートに記入する。</p> <p>○思い付いた言葉を整理し, 主題を決定する。</p> <p>2～4 表現に関わるさまざまな方法を知り, 自己の思いや内面を鉛筆画で表現する。<br/>★自分の心の中のイメージを表現しよう。<br/>○教科書で透視図法などの遠近法を理解する。<br/>○鉛筆の表現方法を知る。<br/>○遠近法や鉛筆の表現方法などを工夫し主題を表現する。</p> <p>5 完成した作品を鑑賞する。<br/>★さまざまな心の中のイメージを鑑賞しよう。<br/>○ワークシートを使い作者の思いや創造的な工夫についてまとめ, 批評し合う。</p> | <p>・心の中にあるイメージを具体化させる手段として, 自分の心を象徴する「もの」を言葉で考えさせるとよい。<br/>【評】自分の思いや内面を積極的に表現する活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・主題を決定する過程で, マッピングを書かせるなど工夫して, 発想を整理させる。<br/>【評】主題を表現するために構想を練る活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・画面の中での横方向の線は安定感を, 縦方向の線は緊張感を生み出すことに気付かせるとよい。</p> <p>・P. 12の参考作品から透視図法を学ばせるとよい。</p> <p>・表現方法としては鉛筆画の場合, 点描, 線描などが考えられる。</p> <p>・ワークシートなどに簡単なアイデアスケッチを描かせてから本制作に入るとよい。<br/>【評】自分自身の内面世界を捉え, 形や材料の特性, 技法などを生かし, スケッチをする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・自己の思いに対する表現の反省を基に自己評価させる。</p> <p>・生徒の作品を相互鑑賞で批評させる場合, 自分のクラスの作品より他クラスの作品で批評させた方が意見が出やすい。<br/>【評】他の作品を鑑賞し, 形や色彩の効果, 技法など「心の中のイメージ」を表現するための工夫について批評し合う活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

本単元では, 自分の心と向き合い, 浮かんだ風景に潜む自分の思いを感じ取り, 画面構成の仕方や画材の使用方法を工夫して表現させたい。制作を通して自己を深く見つめさせ, 自己を表現することの喜びを十分味わわせたい。

言語活動としては, 主題を決定する過程でマッピングを活用させるとよい。

ここでは最も基本的な鉛筆表現を例に示した。本単元を6～9時間完了で展開する場合は, その他にも次のような表現方法が考えられる。

- ・水彩画
- ・レリーフ (彩色なし, 単色彩)
- ・版画 (木版画, ドライポイント)

単元名 **魅力を伝えるパッケージ(デザインや工芸など)** 配当時間 **3時間**

単元の目標 (1) 形や色彩、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、意図を全体のイメージなどで捉えることを理解することができる。材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表すことができる。  
 (2) 伝える目的や条件、中身のイメージなどを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。  
 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に伝える目的や条件、中身のイメージなどからパッケージをデザインすることの構想を練ったり、意図に応じて表現方法を創意工夫して見通しをもって創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

### 標準的な展開例

12270301\_001

【準備等】画用紙、ケント紙、両面テープ、透明コートフィルム、参考資料、ワークシート、視聴覚機器、筆記用具、色鉛筆、絵の具

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 パッケージデザインについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品のイメージや中身との関係について考え、作り手の気持ちを感じ取る。</li> </ul> <p>★パッケージデザインにおいて大切なこととは、どんなことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>形や色彩などパッケージの造形の要素などに着目し、実感を伴いながら理解する。</li> </ul> <p>2 伝える目的や条件を基に構想を練り、制作する。</p> <p>★伝える内容に合わせて、主題を考え制作しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの伝える相手や内容、地域や社会との関わりなどから主題を生み出す。</li> <li>情報や気持ちなどを分かりやすく美し・的確に伝えるという効果と美しさなどとの調和を考え構想を練る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>イメージの表現の可能性を考えて材料や方法を選ぶ。</li> <li>よりよいもの、より美しいものを目指して試行錯誤を続けるなど創意工夫を続け、創造的に表す。</li> </ul> <p>3 作品を鑑賞をする。</p> <p>★鑑賞をして、見方や感じ方を深めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デザインについて作り手や使い手の美意識や美的選択能力などを読み取り、見方や感じ方を深める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>造形の要素などに着目し、形や色彩などの組合せによる構成の美しさなどについて実感を伴いながら理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や社会との関わりなどといった客観的な視点をもたせて生産者の心情や意図などについて考えさせる。</li> <li>本物の製品やパッケージなどを目の前で提示したり実際に使ってみたりして実感を伴わせながら理解させる。</li> </ul> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え構想を練り、意図に応じて表現方法を創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたい内容を生徒にとって価値ある内容にし、伝える必要性を実感させる。</li> <li>内容や雰囲気などにふさわしい構成や配色、文字の取り入れ方など、美的秩序がもたらす効果を捉えさせる。</li> </ul> <p>【評】形や色彩、質感などの性質や、造形的な特徴などを基に、全体の意図やイメージなどで捉えることを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>強く表したいことを心の中に思い描かせ、表現方法を模索させる。</li> <li>創造的に表すことができるように、表現方法や材料の生かし方を学び新しいことに挑戦させる。</li> </ul> <p>【評】伝える目的や条件、中身のイメージなどを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常で幅広く利用された同じ目的でつくられた他の作品と比較させる。</li> </ul> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝える相手や中身のイメージを考え、主題を基に単純化や省略、強調、材料との組み合わせや、目的と美しさなどとの調和を総合的に考えさせる。</li> </ul> <p>【評】伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

【 備 考 】

本単元は、商品や中身の特徴を分かりやすく表すなど、パッケージにはさまざまな働きがあり、手に取る人や受け取る人の気持ちを想像しながら中身の魅力や気持ちを伝えるパッケージを考える。表現の活動において、制作の過程や完成段階などで学級全体やグループなど学習形態を工夫し、一人一人がパッケージについての自分の思いや工夫したことなどを発表してより互いを高めていく。アイデアスケッチでは、必要な情報を選択し、単純化や強調をしながら必要とされる伝達の意図が明確に伝わるように構成することを大切にする。



## 単元名 心がほっと なごむもの(デザインや工芸など)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 形や色彩, 材料などの性質, それらが感情にもたらす効果や, 造形的な特徴などを基に, 遊び心などを全体のイメージで捉えることを理解することができる。
- (2) 使う目的や条件などを基に, 使用する者への作用, 機知やユーモアなどから主題を生み出し, 使いやすさや機能と遊び心などとの調和を総合的に考え, 表現の構想を練ることができる。使いやすさや機能と遊び心などとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り, 表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして, 美意識を高め, 見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に使いやすさや機能と, 遊び心などを生かして, 使う人のことを考えたものをデザインすることを基に構想を練ったり, 意図に応じて表現方法を創意工夫して見通しをもって創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12270302\_001

【準備等】加工粘土, 木材, 陶土, 釉薬, 粘土板, へら, 木工用接着剤, 木工やすり, 参考資料, ワークシート, 視聴覚機器, 筆記用具, 絵の具, 身辺材料

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 参考作品を鑑賞する。</p> <p>★参考作品から使いやすさや遊び心を感じ取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○参考作品から使うときのよさや楽しさがどこから感じられるのか考える。</li> <li>○使用する場所や使う人にどのような気持ちになってほしいかを想像する。</li> </ul> <p>2 主題を考える。</p> <p>★生活を楽しく豊かにするをテーマに構想を練ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な人に対する使い道や使われる場所や場面, 使用する人々を楽しく豊かにする機知から主題を生み出す。</li> <li>○美しさを効果的に表し, 材料の性質を生かして総合的に考えながら構想を練る。</li> </ul> <p>3～4 主題を基に, 制作する。</p> <p>★材料の特性を考え, 主題を基に制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○材料の特性が感情にもたらす効果を考える。</li> </ul> <p>○主体的に材料や用具を関連付けたり総合的に扱ったりするなどして表す。</p> <p>5 鑑賞会をする。</p> <p>★作品を鑑賞して, 見方や感じ方を深めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○同じ目的でつくられた他の作品と比較するなどして, 見方や感じ方を深める。</li> </ul> <p>○造形の要素などに着目させて, 色彩の色味や明るさ, 鮮やかさや材料の性質や質感などについて実感を伴いながら理解する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色彩, 材料や光などの性質や, 感情にもたらす効果などについて理解させる。</li> <li>・使用する場所や使う人との関わりなどから考えさせる。</li> </ul> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい主体的に使いやすさや機能と, 形や色彩などの効果を総合的に考え構想を練り, 意図に応じて表現方法を創意工夫し見通しをもって表す表現の学習に取り組む活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機知やユーモアに富んだ遊び心などから人々の心を和ませる視点をもたせる。</li> <li>・材料のもつ性質や, それらが感情にもたらす効果を理解させ, 材料をこだわって吟味し厳選させる。</li> </ul> <p>【評】形や色彩, 材料などの性質及び, それらが感情にもたらす効果や, 造形的な特徴などを基に, 全体のイメージや遊び心などで捉えることを理解する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自らが感じた必要性から工夫が行われるよう, 自分の意図に合う表現方法を模索させる。</li> </ul> <p>【評】使う目的や条件などを基に, 使用する者への作用などから主題を生み出し, 使いやすさや機能と, 形や色彩などの効果を総合的に考え, 表現の構想を練る活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現意図に基づいて納得のいくまで材料や用具, 表現方法を創意工夫させる。</li> </ul> <p>【評】材料や用具の特性を生かし, 意図に応じて表現方法を創意工夫して, 制作の順序などを総合的に考えながら, 見通しをもって表す活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題とともに洗練された美しさなどを読み取らせる。</li> </ul> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい, 主体的に作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組む活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色彩, 材料の性質や感情にもたらす効果などについて理解したことを振り返らせる。</li> </ul> <p>【評】使いやすさや機能の調和のとれた美しさなどを感じ取り, 作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして, 美意識を高め, 見方や感じ方を深める活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

【 備 考 】

本単元は、使用する場所や、使う人にどのような気持ちになってほしいかを想像しながら、材料の特性を生かし、温かみや遊び心が感じられるものを考え、思いを込める必要がある。材料の性質や質感を捉えさせるためには、実際に材料を手にとらせ、その感触などを十分に確かめさせるとともに材料の可変性などに気付かせることが大切である。表現する活動では、自らの作品の形や色彩、材料などがもつ感情にもたらす効果が、多くの人が共感できるかどうかを検討するなど、客観的な捉え方を重視することが中心となる。

単元名 (旧)自然を愛でる空間(鑑賞)

配当時間 1時間

単元の目標

- (2) 伝統的な日本建築に見られる自然を生かした造形的なよさや美しさ、表現の特質などを感じ取り、自然との共生の視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きや、日本の美術のよさなどを理解することができる。
- (3) 伝統的な日本建築の空間表現の特質などに関心をもち、主体的に日本の美術を理解しようとする。

標準的な展開例

12270303\_001

【準備等】教科書、ワークシート

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 桂離宮の庭や建物を鑑賞し、日本の自然や四季風土を生かした設えや装飾から日本人の美意識や文化について考える。</p> <p>★桂離宮の構造から日本人が大切にしていたことは何だろう。</p> <p>○月波楼の昼と夜の姿を比較し感じたことをワークシートにまとめ、発表する。</p> <p>○自然を利用した設えを理解し、日本人が大切にしてきたことをワークシートにまとめ話し合う。</p> | <p>・月波楼から見える池の水面に注目させ、昼と夜のそれぞれのよさを引き出せる構造になっていることに気付かせる。</p> <p>【評】伝統的な日本建築の空間表現に興味をもち、積極的にワークシートにまとめたり意見を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書P. 43「自然の形から発想した設え」を活用し、自然を利用した設えを理解させるとよい。</p> <p>・教科書P. 48～P. 49「日本の世界文化遺産」も鑑賞することで日本の文化にも興味をもたせる。</p> <p>【評】生活を美しく豊かにする美術の働きや、日本の美術のよさなどを自分なりにワークシートにまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

【備 考】

桂離宮から自然を生かした建築や装飾の工夫や日本の美意識などを感じ取り、生活の中の美術の働きや、美術文化を継承し創造することの意義を理解させたい。

言語活動としては桂離宮の自然を愛でる空間の工夫点から日本人の美意識について考え、ワークシートに書いたり発表したりすることで話し合いを深めさせるとよい。

本単元は、「デザインと環境」教科書下P. 44～P. 45と関連付け、環境と造形の関わりについて考えさせるのもよい。

## 単元名 (旧)自分たちの生活の場を飾ろう(デザインや工芸)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 形や色彩, 材料を工夫しながら見通しをもって創造的に表現することができる。  
 (2) 伝えたい内容や機能, 生活をする者の気持ちなどを基に構想を練ることができる。他者の意見に耳を傾けたり, 自らの考えを主張したりすることで表現の可能性と環境に与える美術の働きやその力について考えを深めることができる。  
 (3) 創造活動の喜びを味わい, 目的や機能を考えながら協調性を発揮し, 共同制作に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12270304\_001

【準備等】教科書, ワークシート, ポスターカラー, 画用紙, セロハンテープ

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 グループで「みんなが“安らぐ生活空間”」のイメージを考える。<br/> <b>★</b>身近な環境や空間を生かした演出やデザインにはどのようなものがあるのだろう。<br/>         ○参考作品を鑑賞し, 感じたことを自分の言葉で具体的に文章にしたり発表したりする。</p> <p><b>★</b>「みんなが“安らぐ生活空間”」をつくろう。<br/>         ○「みんなが“安らぐ生活空間”」はどこにつくればよいのか考える。</p> <p>○「みんなが“安らぐ生活空間”」を表現するための方法を文章やスケッチにまとめる。</p> <p>2 下絵を完成させる。<br/> <b>★</b>下絵を完成させよう。<br/>         ○グループでアイデアをまとめて下絵を描く。</p> <p>3～4 それぞれの作品を着彩し完成させ, 校舎内に設置する</p> <p><b>★</b>制作, 設置しよう。<br/>         ○作品を工夫して組み立て, 校舎内に設置する。</p> <p>5 完成した作品を鑑賞する。<br/> <b>★</b>作品を批評してみよう。<br/>         ○ワークシートを使い, 作者の願いや創造的な工夫について批評し合う。</p> | <p>・美しさや目的, 機能に着目させ意見を積極的に発表させる。<br/> <b>【評】</b>美しさや目的, 機能を考えながら感じたことを積極的に発表することを通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「みんなが“安らぐ生活空間”」を制作するために必要なものを考えさせる。<br/>         ・設置する場所を決定させる。(階段, 天井, 窓ガラス, 中庭, 壁面)<br/>         ・伝えたい内容を意識しながら発想・構想をさせる。<br/>         ・互いの意見を交換したり協調したりする。さらに, 自己主張する中で主題を決定させる。<br/> <b>【評】</b>伝えたい内容や生活をする者の気持ちなど“安らぐ生活空間”を考えた構想を練ることを通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・全体のデザインが決定したらグループごとに下絵の制作をさせる。</p> <p>・形や色彩, 材料の特徴が校舎内のさまざまな空間にどのような影響を与えるかを考えさせる。<br/> <b>【評】</b>形や色彩, 材料や用具を工夫しながら見通しをもって創造的に表現する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・校舎内に設置された完成作品からどんなメッセージが伝わってくるか, 他者の意見に耳を傾けたり, 自らの考えを確認したりさせる。</p> <p>・創造的な表現の工夫について批評し合うことで, 表現力の向上を目指す。<br/> <b>【評】</b>表現の可能性と環境に与える美術の働きについて互いの考えを批評し合う活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

## 【備 考】

本単元は, 卒業を迎える3年生を対象に実施する。共同制作で学校環境を自分たちの手で居心地のよい空間に変える計画を立てさせたい。そして, 一緒に生活する者の気持ちを考える視点の大切さや, 美術が与える影響や働きを理解させたい。

言語活動としては, 完成作品からどんなメッセージが伝わってくるか他者の意見に耳を傾けたり, 自らの考えを確認させたりし, 創造的な表現の工夫について話し合ったり, 批評し合ったりさせるとよい。

関連として「デザインで変える現在と未来」教科書下P. 46～P. 47を前時に実施すると公共空間への理解が深まる。

ここでは平面作品を例にした。本単元を6時間完了で展開する場合は, 立体作品で校内を装飾する。その際, 試行錯誤しながら, 空間より効果的に演出できるようそれぞれの分担作品の組み合わせを工夫させる。

単元名 (旧)「ゲルニカ」は語る(鑑賞)

配当時間 2時間

単元の目標

- (2) 「ゲルニカ」の造形的なよさや美しさ、描かれた背景、作者の心情や意図と工夫、美術が社会に与える影響などを感じ取り、自分の意見や考えをもって味わうことができる。
- (3) 「ゲルニカ」の造形的なよさや作者の心情や意図と表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとする。

### 標準的な展開例

12270305\_001

【準備等】教科書、参考資料、ワークシート

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 「ゲルニカ」の表現方法や時代背景について理解し、作者の心情について考える。</p> <p>★「ゲルニカ」について知ろう。</p> <p>○「ゲルニカ」を見て、感想を発表する。</p> <p>○ピカソの生涯や表現技法について理解する。</p> <p>2 「ゲルニカ」を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫などを感じ取り、作者の思いについて話し合う。</p> <p>★「ゲルニカ」の表現を探ろう。</p> <p>○「ゲルニカ」に描かれているものをワークシートに書き出し発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛</li> <li>・馬</li> <li>・死んだ子供を抱えた母親</li> <li>・剣</li> <li>・花 など</li> </ul> <p>★「ゲルニカ」を通して作者は何を伝えたかったのだろうか。</p> <p>○作者の思いをワークシートに書き話し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品のサイズや制作時間などから、ピカソの思いの強さを感じ取らせる。</li> <li>・白黒の表現やデフォルメされた表現に興味をもたせたい。</li> </ul> <p>【評】「ゲルニカ」の感想を積極的に発表したり文章でまとめたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピカソは「青の時代」や「バラ色の時代」, 「キュビズム」など表現の挑戦をし続けた人物であることを理解させる。</li> <li>・「ゲルニカ」を描くきっかけになった事件や時代背景について理解させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・描かれているものをすべて書き出し、それぞれがどんな表現をされ、そこからどんな印象を受けるか考えさせる。</li> </ul> <p>【評】「ゲルニカ」の表現の工夫を感じ取り、それぞれのイメージを書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・激しい表現の中に「花」が静かに咲いていることに注目をさせ、作者の怒りや悲しみだけの表現ではないことに気付かせたい。</li> </ul> <p>【評】「ゲルニカ」に描かれているものから作者の思いについて意見を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

### 【 備 考 】

本単元では、形や色彩、構図や描き方、制作過程から、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、自分の見方や考え方で味わわせたい。

言語活動としては鑑賞を通して作品のイメージや細部の特徴を書き出すことで、作者の思いを追求させることに生かしたい。

ピカソの生涯や技法についても参考作品を用意して紹介をすると、「ゲルニカ」に使用されている技法や表現方法に興味をもちやすい。

**令和 3 年度 知多地方教育計画案**

**保健体育科**

# 保 健 体 育 科

## 1 保健体育科でねらうもの

### 学習指導要領の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

この目標は、「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」を育成することを目指すとともに，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現することを目指すものである。体育や保健の見方・考え方とは，生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ，「運動やスポーツを，その価値や特性に着目して，楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え，自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」であると考えられる。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 保健体育科改訂の趣旨

#### ① 改訂の基本的な考え方

ア 生涯にわたって健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から，運動や健康に関する課題を発見し，その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して，『知識・技能』，『思考力・判断力・表現力等』，『学びに向かう力・人間性等』を育成することを目指す。

イ 体育科，保健体育科における学習過程については，これまでも心と体を一体として捉え，自己の運動や健康についての課題の解決に向け，積極的・自主的・主体的に学習することや，仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を重視してきた。これらを引き続き重視するとともに，保健体育科で育成を目指す『知識・技能』，『思考力・判断力・表現力等』，『学びに向かう力・人間性等』の三つの資質・能力を確実に身に付けるために，その関係性を重視した学習過程を工夫する。

ウ 体育については，児童生徒の発達の段階を踏まえて，学習したことを実生活や実社会に生かし，豊かなスポーツライフを継続することができるよう，小学校，中学校，高等学校を通じて系統性のある指導ができるように示す。保健においては，健康な生活と疾病の予防，心身の発育・発達と心の健康，健康と環境，傷害の防止，社会生活と健康等の保健の基礎的な内容について，小学校，中学校，高等学校を通じて系統性のある指導ができるように示す。

#### ② 改善の具体的事項

ア 体育分野については，「生涯にわたって運動やスポーツに親しみ，スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し，実践することができるよう，『知識・技能』，『思考力・判断力・表現力等』，『学びに向かう力・人間性等』の育成を重視する観点から内容等の改善

を図る。また、保健分野との一層の関連を図った内容等について改善を図る。

(ア) 各領域で身に付けたい具体的な内容を、資質・能力の三つの柱に沿って明確に示す。特に、『思考力・判断力・表現力等』及び『学びに向かう力・人間性等』の内容の明確化を図る。また、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう配慮する。

(イ) 体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識し、運動やスポーツの習慣化につなげる観点から、体づくり運動の内容等について改善を図る。

(ウ) スポーツの意義や価値等の理解につながるよう、内容等について改善を図る。特に東京オリンピック・パラリンピック競技大会がもたらす成果を次世代に引き継いでいく観点から、知識に関する領域において、オリンピック・パラリンピックの意義や価値等の内容等について改善を図る。

(エ) グローバル化する社会の中で、我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から、日本固有の武道の考え方に触れることができるよう、内容等について一層の改善を図る。」としている。

イ 保健分野については、「個人生活における健康・安全についての『知識・技能』，『思考力・判断力・表現力等』，『学びに向かう力・人間性等』の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る。その際、心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容等を充実する。また、個人生活における健康課題を解決することを重視する観点から、健康な生活と疾病の予防の内容を学年ごとに配当するとともに、体育分野との一層の関連を図った内容等について改善を図る。」としている。

## (2) 内容及び内容の取扱いの改善

ア 体育については、体育分野において育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する観点から、運動に関する「知識及び技能」，運動課題の発見・解決等のための「思考力，判断力，表現力等」，主体的に学習に取り組む態度等の「学びに向かう力，人間性等」に対応した内容を示すこととした。

イ 3年間の見通しをもった年間指導計画の作成及び指導計画の実施・評価・改善等を重視した「カリキュラム・マネジメント」を実現する観点及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する観点から、小学校から高等学校までの12年間を見通して、各種の運動の基礎を培う時期，多くの領域の学習を経験する時期，卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期といった発達の段階のまとまりを踏まえ、小学校段階との接続及び高等学校への見通しを重視し、系統性を踏まえた指導内容の見直しを図ることとした。

ウ 豊かなスポーツライフの実現を重視し、スポーツとの多様な関わり方を楽しむことができるようにする観点から、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう、共生の視点を踏まえて指導内容を示すこととした。

エ 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する基礎を培うことを重視し、指導と評価の一体化を一層推進する観点から、(1)知識及び技能（「体づくり運動」は知識及び運動），(2)思考力，判断力，表現力等，(3)学びに向かう力，人間性等の指導内容を一層明確にするため、解説において、従前、技能及び思考・判断で示していた例示を、全ての指導内容で示すこととした。



## 第 1・2 学年 保健体育科

### 1 学年の目標

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

### 2 体育分野の領域及び内容の取扱い

下記の各事項は、各領域及びその内容である運動種目等について、その履修の仕方を示したものである。「A体づくり運動」及び「H体育理論」については、それぞれの学年で履修させることとし、その他の領域については、第1学年又は第2学年のいずれかの学年で履修させることもできることとしている。第1学年及び第2学年で全ての領域を履修させ、基礎的な知識や技能を習得させ、第3学年で選択した領域について自主的に取り組むことができるよう配慮することが大切である。

| 領域及び領域の内容              | 1 年 | 2 年 | 内容の取扱い               |   |
|------------------------|-----|-----|----------------------|---|
| 【A体づくり運動】              | 必修  | 必修  | ア、イ必修（各学年7単位時間以上）    | 「A体づくり運動」の運動については、「B器械運動」から「Gダンス」までにおいても関連を図って指導することができること。   |
| ア 体ほぐしの運動              |     |     |                      |   |
| イ 体の動きを高める運動           |     |     |                      |   |
| 【B器械運動】                | 必修  |     | 2年間でアを含む②選択          | 「B器械運動」の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからエまでの中からアを含む二を選択して履修できるようにすること。   |
| ア マット運動                |     |     |                      |   |
| イ 鉄棒運動                 |     |     |                      |   |
| ウ 平均台運動                |     |     |                      |   |
| エ 跳び箱運動                |     |     |                      |   |
| 【C陸上競技】                | 必修  |     | 2年間でア及びイのそれぞれのの中から選択 | 「C陸上競技」の運動については、ア及びイに示すそれぞれの運動の中から選択して履修できるようにすること。   |
| ア 短距離走・リレー・長距離走又はハードル走 |     |     |                      |   |
| イ 走り幅跳び又は走り高跳び         |     |     |                      |   |
| 【D水泳】                  | 必修  |     | 2年間でア又はイを含む②選択       | 「D水泳」の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからエまでの中からア又はイのいずれかを含む二を選択して履修できるようにすること。<br>水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること。 |
| ア クロール                 |     |     |                      |   |
| イ 平泳ぎ                  |     |     |                      |   |
| ウ 背泳ぎ                  |     |     |                      |   |
| エ バタフライ                |     |     |                      |   |

|  |    |                   |   |  |
|--|----|-------------------|---|--|
| 【E 球技】                                   | 必修 | 2 年間でア～ウ<br>全てを選択 | 「E 球技」の運動については、第 1 学年及び第 2 学年においては、アからウまでを全ての生徒に履修させること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、学校や地域の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。 |  |
| ア ゴール型                                   |    |                   |   |  |
| イ ネット型                                   |    |                   |   |  |
| ウ ベースボール型                                |    |                   |   |  |
| 【F 武道】                                   | 必修 | 2 年間でア～ウ<br>から①選択 | 「F 武道」の運動については、アからウまでの中から一を選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などについても履修させることができること。  |  |
| ア 柔道                                     |    |                   |   |  |
| イ 剣道                                     |    |                   |   |  |
| ウ 相撲                                     |    |                   |   |  |
| 【G ダンス】                                  | 必修 | 2 年間でア～ウ<br>から選択  | 「G ダンス」の運動については、アからウまでの中から選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、その他のダンスについても履修させることができること。   |  |
| ア 創作ダンス                                  |    |                   |   |  |
| イ フォークダンス                                |    |                   |   |  |
| ウ 現代的なリズム<br>のダンス                        |    |                   |   |  |
| 【H 体育理論】                                 | 必修 | 必修                | (1) 第 1 学年必修<br>(2) 第 2 学年必修<br>(各学年 3 単位<br>時間以上)  | 第 1 学年及び第 2 学年の内容の「H 体育理論」については、(1) は第 1 学年、(2) は第 2 学年で取り上げること。 |
| (1) 運動やスポーツ<br>の多様性                      |    |                   |   |  |
| (2) 運動やスポーツ<br>の意義や効果と<br>学び方や安全な<br>行い方 |    |                   |   |  |

### 3 評価の観点の趣旨

| 観点                | 観点の趣旨   |
|-------------------|---|
| 知識・技能             | 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解するとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現          | 運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。   |
| 主体的に学習に<br>取り組む態度 | 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。  |

## 第3学年 保健体育科

### 1 学年の目標

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

### 2 体育分野の領域及び内容の取扱い

下記の各事項は、各領域及びその内容である運動種目等について、その履修の仕方を示したものである。第3学年では、「A体づくり運動」及び「H体育理論」については、全ての生徒に履修させることとし、その他の領域については、「B器械運動」、「C陸上競技」、「D水泳」及び「Gダンス」のまとまりの中から1領域以上、「E球技」及び「F武道」のまとまりの中から1領域以上を選択し履修することができるようにすることとしている。

第3学年で選択した領域について自主的に取り組むことができるよう配慮することが大切である。

| 領域及び領域の内容              | 3年                  | 内容の取扱い          |   |
|------------------------|---------------------|-----------------|---|
| <b>【A体づくり運動】</b>       | 必修                  | ア、イ必修（7単位時間以上）  | 「A体づくり運動」のアの運動については、「B器械運動」から「Gダンス」までにおいても関連を図って指導することができること。                                   |
| ア 体ほぐしの運動              |                     |                 |   |
| イ 実生活に生かす運動の計画         |                     |                 |   |
| <b>【B器械運動】</b>         | B, C, D, G, から①以上選択 | ア～エから選択         | 「B器械運動」の運動については、第3学年においては、アからエまでのの中から選択して履修できるようにすること。  |
| ア マット運動                |                     |                 |   |
| イ 鉄棒運動                 |                     |                 |   |
| ウ 平均台運動                |                     |                 |   |
| エ 跳び箱運動                |                     |                 |   |
| <b>【C陸上競技】</b>         |                     | ア及びイのそれぞれの中から選択 | 「C陸上競技」の運動については、ア及びイに示すそれぞれの運動の中から選択して履修できるようにすること。   |
| ア 短距離走・リレー・長距離走又はハードル走 |                     |                 |   |
| イ 走り幅跳び又は走り高跳び         |                     | ア～オから選択         | 「D水泳」の運動については、第3学年においては、アからオまでのの中から選択して履修できるようにすること。な<br>水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことが |
| <b>【D水泳】</b>           |                     |                 |   |
| ア クロール                 |                     |                 |   |
| イ 平泳ぎ                  |                     |                 |   |
| ウ 背泳ぎ                  |                     |                 |   |
| エ バタフライ                |                     |                 |   |

|                  |                     |                        |  |
|------------------|---------------------|------------------------|--|
| オ 複数の泳法で泳ぐ又はリレー  |                     |                        | できるが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること。   |
| 【E球技】            | E, F, から①以上選択       | ア～ウから②選択               | 「E球技」の運動については、第3学年においては、アからウまでの中から二を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、学校や地域の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。 |
| ア ゴール型           |                     |                        |  |
| イ ネット型           |                     |                        |  |
| ウ ベースボール型        |                     |                        |  |
| 【F武道】            |                     | ア～ウから①選択               | 「F武道」の運動については、アからウまでの中から一を選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などについても履修させることができること。  |
| ア 柔道             |                     |                        |  |
| イ 剣道             |                     |                        |  |
| ウ 相撲             |                     |                        |  |
| 【Gダンス】           | B, C, D, G, から①以上選択 | ア～ウから選択                | 「Gダンス」の運動については、アからウまでの中から選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、その他のダンスについても履修させることができること。   |
| ア 創作ダンス          |                     |                        |  |
| イ フォークダンス        |                     |                        |  |
| ウ 現代的なリズムのダンス    |                     |                        |  |
| 【H体育理論】          | 必修                  | (1)第3学年必修<br>(3単位時間以上) |  |
| (1)文化としてのスポーツの意義 |                     |                        |  |

### 3 評価の観点の趣旨

| 観点            | 観点の趣旨  |
|---------------|--|
| 知識・技能         | 選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義についての考え方を理解するとともに、選択した領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現      | 生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。                    |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。  |

## 保健体育科 保健分野

### 1 学年の目標

- (1) 個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

保健の見方・考え方については、疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること」であると考えられる。

### 2 保健分野の内容

#### (1) 健康な生活と疾病の予防

健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。

- (ア) 健康の成り立ちと疾病の発生要因
- (イ) 生活習慣と健康
- (ウ) 生活習慣病などの予防
- (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康
- (オ) 感染症の予防
- (カ) 健康を守る社会の取組

イ 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

#### (2) 心身の機能の発達と心の健康

心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。

- (ア) 心身機能の発達
- (イ) 生殖に関わる機能の成熟
- (ウ) 精神機能の発達と自己形成
- (エ) 欲求やストレスへの対処と心の健康

イ 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

#### (3) 傷害の防止

傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。

- (ア) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因
- (イ) 交通事故などによる傷害の防止
- (ウ) 自然災害による傷害の防止
- (エ) 応急手当の意義と実際

イ 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

#### (4) 健康と環境

健康と環境について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康と環境について理解を深めること。

(ア) 身体の環境に対する適応能力・至適範囲

(イ) 飲料水や空気の衛生的管理

(ウ) 生活に伴う廃棄物の衛生的管理

イ 健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

### 3 保健分野の内容の取扱い

- (1) 内容の(1)のアの(ア)及び(イ)は第1学年、(1)のアの(ウ)及び(エ)は第2学年(1)のアの(オ)及び(カ)は第3学年で取り扱うものとし、(1)のイは全ての学年で取り扱うものとする。内容の(2)は第1学年、(3)は第2学年、(4)は第3学年で取り扱うものとする。
- (2) 内容の(1)のアについては、健康の保持増進と疾病の予防に加えて、疾病の回復についても取り扱うものとする。
- (3) 内容の(1)のアの(イ)及び(ウ)については、食育の観点も踏まえつつ健康的な生活習慣の形成に結び付くように配慮するとともに、必要に応じて、コンピュータなどの情報機器の使用と健康との関わりについて取り扱うことも配慮するものとする。また、がんについても取り扱うものとする。
- (4) 内容の(1)のアの(エ)については、心身への急性影響及び依存性について取り扱うこと。また、薬物は、覚醒剤や大麻等を取り扱うものとする。
- (5) 内容の(1)のアの(オ)については、後天性免疫不全症候群(エイズ)及び性感染症についても取り扱うものとする。
- (6) 内容の(2)のアの(ア)については、呼吸器、循環器を中心に取り扱うものとする。
- (7) 内容の(2)のアの(イ)については、妊娠や出産が可能となるような成熟が始まるという観点から、受精・妊娠を取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わないものとする。また、身体の機能の成熟とともに、性衝動が生じたり、異性への関心が高まったりすることなどから、異性の尊重、情報への適切な対処や行動の選択が必要となることについて取り扱うものとする。
- (8) 内容の(2)のアの(エ)については、体育分野の内容の「A体づくり運動」の(1)のアの指導との関連を図って指導するものとする。
- (9) 内容の(3)のアの(エ)については、包帯法、止血法など傷害時の応急手当も取り扱い、実習を行うものとする。また、効果的な指導を行うため、水泳など体育分野の内容との関連を図るものとする。
- (10) 内容の(4)については、地域の実態に即して公害と健康との関係を取り扱うことにも配慮するものとする。また、生態系については、取り扱わないものとする。
- (11) 保健分野の指導に際しては、自他の健康に関心をもてるようにし、健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うものとする。

### 3 評価の観点の趣旨

| 観点            | 観点の趣旨   |
|---------------|---|
| 知識・技能         | 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。                      |
| 思考・判断・表現      | 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。                          |

## 第1・2学年 単元の配列例（標準105時間）

保健体育科の単元の配列については、「2 体育分野の領域及び内容の取扱い」で示した内容を踏まえて、各学校の実態に応じて、単元の配列を組み立てることとする。

### 1学期（35時間）

| 単 元 名  | 配当時間 | 備 考       |
|--------|------|-----------|
| 体づくり運動 | 4    |           |
| 保健     | 5    |           |
| 陸上競技   | 6    |           |
| 器械運動   | 10   |           |
| 水泳     | 10   | 2学期実施分を含む |

### 2学期（42時間）

| 単 元 名  | 配当時間 | 備 考 |
|--------|------|-----|
| 体育理論   | 3    |     |
| 保健     | 5    |     |
| 球技     | 14   |     |
| 体づくり運動 | 4    |     |
| 武道     | 10   |     |
| 陸上競技   | 6    |     |

### 3学期（28時間）

| 単 元 名 | 配当時間 | 備 考 |
|-------|------|-----|
| 保健    | 6    |     |
| ダンス   | 9    |     |
| 球技    | 13   |     |

※ 〈各分野に当てる授業時数〉

3学年間で各分野に当てる授業時数は、体育分野267単位時間程度、保健分野48単位時間程度を配当すること

※ 令和3年度の保健については、2年生は旧教科書を使用することとする。

### 第3学年単元の配列例（標準105時間）

保健体育科の単元の配列については、「2 体育分野の領域及び内容の取扱い」示した内容を踏まえて、各学校の実態に応じて、単元の配列を組み立てることとする。

#### 1学期（35時間）

| 単 元 名  | 配当時間 | 備 考       |
|--------|------|-----------|
| 体づくり運動 | 4    |           |
| 保健     | 6    |           |
| 陸上競技   | 5    |           |
| 器械運動   | 10   |           |
| 水泳     | 10   | 2学期実施分を含む |

#### 2学期（43時間）

| 単 元 名  | 配当時間 | 備 考 |
|--------|------|-----|
| 体育理論   | 3    |     |
| 保健     | 6    |     |
| 球技     | 14   |     |
| 体づくり運動 | 4    |     |
| 武道     | 9    |     |
| 陸上競技   | 7    |     |

#### 3学期（27時間）

| 単 元 名 | 配当時間 | 備 考 |
|-------|------|-----|
| 保健    | 4    |     |
| ダンス   | 9    |     |
| 球技    | 14   |     |

※ 〈各分野に当てる授業時数〉

3学年間で各分野に当てる授業時数は、体育分野267単位時間程度、保健分野48単位時間程度を配当すること。

※ 令和3年度、令和4年度の保健については、旧教科書を使用することとする。



第1学年〇組 保健体育科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時 (体育館)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単元 球技 (ネット型：バドミントン)

2 単元の目標

- (1) バドミントンの特性や成り立ちを理解し、空いた場所をめぐる攻防を展開することができる。
- (2) 適切な自己の課題を発見し、合理的な課題の解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の動きについて考えたことを仲間に伝えることができる。
- (3) タスクゲームやメインゲーム、課題練習などに積極的に取り組みとともに、課題解決に向けた話し合いに参加しようとしたり、仲間の学習を援助したりすることができる。

3 学習の計画 (12時間完了)

- 第1次 第1時 試しのゲームを行う。
- 第2次 第2時～第5時 スキルアップドリルやタスクゲームを通して、基本的なラケット操作と定位置に戻る動きを身に付ける。
- 第3次 第6時～第7時 相手が操作しやすい位置にシャトルを打ち、ラリーを続ける。
- 第4次 第8時 (本時) 得点につながる攻撃について考え、ゲームを行う。  
第9時～第11時 空いた場所をめぐる攻防について考え、ゲームを行う。
- 第5次 第12時 リーグ戦を行う。

4 本時の学習指導

(1) 目標

- 相手が返球しにくい場所への攻撃について考え、繰り返し試すことができる。

(2) 準備・資料

- 生徒……学習プリント、筆記用具
- 教師……ラケット、シャトル、支柱、ネット、タイマー、得点板、タブレット端末

(3) 関連

- 1年 保健体育 球技 (ベースボール型：ソフトボール) (基本的なバット操作と走塁での攻撃をする)
- 3年 保健体育 球技 (ネット型：バレーボール) (空いている場所を作り出して攻撃したり、その攻撃に対応して守ったりする)

(4) 学習過程

| 段階     | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|--------|--|----|--|
| 課題をつかむ | 1 本時の学習内容を確認する。<br>(1) チームごとに集合、整列する。<br>(2) 準備運動を行う。<br>・ ネットを挟んでペアでラリー<br>(3) 本時の学習課題をつかむ。<br>得点につながる攻撃をしよう。 | 10 | ○ 服装チェック、健康観察を行う。<br>○ 主運動につながる簡単な準備運動を全体で行う。その後、チームに分かれてラケットを使った運動に取り組ませる。<br>○ 身に付けさせたい攻撃の動きについて考えられるように発問を投げ掛ける。<br>○ 課題に対する自分なりの考えをもって試しのゲームに取り組むことを伝える。 |
|        | 2 試しのゲームを行う。<br>・ 1 ゲーム 1分30秒のシングル戦  | 20 | ○ 自分の考えたことを、試しのゲームの中で試させる。   |
|        | 3 チームごとに課題練習を行う。   |    |  |

|         |   |    |  |
|---------|---|----|--|
| 課題を追究する | <p>(1) 自分の考えを修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 試しのゲームを通して、自分の考えを見直し、修正した考えを書く。</li> </ul> <p>(2) 個々の考えをチームで共有する。</p> <p>(3) 共有した考えを基に、修正した動きを試す。</p> | 35 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えをもてない生徒には、どんな状況で得点を取ることができたかを振り返らせるように個別に声掛けを行う。</li> <li>○ 個々の考えをチーム内で発表させる。</li> <li>○ 得点につながる動きになるように生徒同士で声掛けができている姿を称賛する。</li> <li>○ チーム内で仲間の動きを観察させたり、必要に応じて、タブレット端末で仲間の動きを記録させたりする。</li> </ul> <p>評 相手が返球しにくい場所について考え、繰り返し試している。(課題練習)</p> |
|         | <p>4 修正した考えを確認するメインゲームを行う。</p> <p>(1) 1 ゲーム 1 分30秒のシングル戦を行う。</p> <p>(2) メインゲームを通して見直した考えを学習プリントに記述する。</p>   | 45 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 得点につながる動きについて称賛して回り、意識付けを行う。</li> <li>○ 自己の考えを見直した結果を記述させる。</li> </ul> <p>評 相手が返球しにくい場所を見付けるために繰り返し試し、学習プリントに記述したり、チームの仲間に伝えたりしている。(課題練習、学習プリント)</p>  |
|         | <p>5 本時の学習のまとめを行う。</p> <p>(1) 学習プリントに振り返りを記入する。</p> <p>(2) 次時の学習予定を知る。</p>  | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 健康状態を確認する。</li> <li>○ 本時の学習の振り返りをさせ、次時の活動の見通しをもたせる。</li> </ul>  |

#### (5) 本時の評価規準

- 得点につながる攻撃について考えたことを試したり、チームの仲間に伝えたりしている。

(課題練習、学習プリント)

## 5 備 考

### (1) 学級の実態

- 本学級は用具を操作する「ネット型」を経験している生徒は若干名である。そこで、中学校1年生の段階におけるバドミントンの学習では、自分と味方の適切な位置取りを考えることが必要なダブルス戦ではなく、相手の返球に備えた自分の適切な位置取りを考えるシングル戦で学習を進めていく。そして、ラケット操作を身に付けることと、「相手側コートからきたシャトルを相手コートに返す」ための動きを身に付け、高めることをねらいとして学習を行っていく。

### (2) 指導の力点

- 学習内容を「得点につながる攻撃の動き」とし、自分で考えたことをゲームや課題練習で繰り返し試しながら修正していくという流れにしている。タブレット端末やチームの仲間の客観的視点を取り入れながら思考させていくことで、学習課題の合理的な解決に向けて工夫することができるように学習過程を構成している。

第3学年〇組 保健体育科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 健康な生活と病気の予防

2 単元の目標

- (1) 健康な生活と病気の予防について理解を深めることができる。
- (2) 健康な生活と病気の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを他者に伝えることができる。
- (3) 健康な生活と病気の予防について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。

3 学習の計画 (6時間完了)

- |     |         |                       |
|-----|---------|-----------------------|
| 第1次 | 第1時     | 感染症の原因について知る。         |
| 第2次 | 第2時     | 感染症の予防について考える。        |
|     | 第3時     | 性感染症の予防について考える。       |
|     | 第4時(本時) | エイズの予防について考える。        |
| 第3次 | 第5時     | 個人の健康を守る社会の取組について考える。 |
| 第4次 | 第6時     | 医薬品の有効利用について考える。      |

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - エイズの感染原因、感染経路、予防法を知り、共生社会を目指すために必要なことについて考え、他者に伝えることができる。
- (2) 準備・資料
  - 教師……ワークシート、タブレット端末、エイズ患者・H I V感染者の報告数のグラフ、エイズ患者への偏見・差別に関する資料
- (3) 関 連
  - 1年 保健体育 健康な生活と病気の予防(健康の成り立ちと病気の起こる要因について考えを深める)
  - 2年 保健体育 健康な生活と病気の予防(生活習慣などの予防について考えを深める)
- (4) 学習過程

| 段階     | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|--------|--|----|--|
| 課題をつかむ | 1 本時の学習問題をつかむ。<br>(1) エイズについて知っていることを発表する。<br>・HIVが原因である。<br>・治療薬がない。<br>・うつる病気である。<br>(2) 学習課題をつかむ。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         エイズについて正しく理解し、今後の自分の行動を考えよう。                     </div> | 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでに学習して知っていることや見聞きしたことについて発表させる。</li> </ul>  |
| 課題を追   | 2 エイズについて調べる。<br>(1) 個人で調べ学習を進める。<br><br>(2) 全体で情報を共有する。<br>・HIVが引き起こす病気である。<br>・H I Vは感染力が弱い。   | 20 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書やタブレット端末を利用して調べ、分かったことをワークシートに要点を絞って記述させる。</li> <li>○感染原因や感染経路、感染の予防だけでなく、社会の取組や海外の話題についても調べてもよいことを伝える。</li> <li>○調べたことを基に発表させ、内容を補足しながら板書する。</li> <li>○エイズはH I Vというウイルスが引き起こす</li> </ul> |

|                  |   |    |  |
|------------------|---|----|--|
| 究<br>す<br>る      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染経路は、性的接触による感染、血液を介しての感染、母子感染に限られる。</li> <li>・感染予防には、不特定多数との性的接触をしないことが大切である。</li> <li>・潜伏期間が長い。</li> <li>・男性の感染者の割合が多い。</li> </ul>            | 30 | <p>免疫の病気であること、H I Vに感染すると、リンパ球が破壊され免疫が低下することで、さまざまな病気に感染しやすくなることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ H I Vは感染力が弱く、ふだんの生活から感染することはほとんどないことを押さえる。</li> <li>○ 日本のエイズ患者、H I V感染者報告数のグラフを提示し、感染者の多くが男性であることを確認する。その上で、感染リスクを少なくするために、コンドームを正しく使用することの大切さを伝える。</li> </ul> <p>評エイズの感染原因、感染経路、予防法について理解している。（ワークシート）</p> |
| 深<br>め<br>る      | <p>3 共生社会を目指すために、自分たちの今後の行動について考える。</p> <p>(1) H I V感染者、エイズ患者が受けてきた偏見や差別についての事例を読む。</p> <p>(2) 偏見や差別をなくしていくために必要なことについて、グループでブレインストーミングやブレインライティングを行い、意見を出し合う。</p> <p>(3) 代表者が発表する。</p> | 45 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料を提示し、エイズに対する誤った認識から、差別や偏見に苦しんでいる人がいることを伝える。</li> <li>○ グループで自由に意見を出させる。</li> <li>○ 進行役と書記を決めてスムーズに進めていくことで、全員が自分の意見を出せるようにする。</li> </ul> <p>評エイズ患者への偏見や差別をなくし、共生社会を目指すために必要なことについて自分の意見をもつことができる。（話し合い活動）</p>   |
| ま<br>と<br>め<br>る | <p>4 本時を振り返る。</p> <p>(1) 本時を振り返り、感想を書く。</p> <p>(2) 次時の予告を聞く。</p>  | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次時は個人の健康を守るための社会の取組について学習することを伝える。</li> </ul>   |

#### (5) 本時の評価規準

- エイズについての正しい知識をもち、共生社会を目指すための今後の生き方について自分なりの考えをもち、他者に伝えている。（話し合い活動）

### 5 備 考

#### (1) 学級の実態

- これまでの経験や、テレビやインターネットを通じて見聞きしたことを基に発表できる生徒が多い。しかし、その内容については誤った情報や大まかな情報が含まれており、正確性に欠けることもある。そこで、調べ学習に取り組み、学んだ内容を活用し、共生社会を目指すために必要なことについて考えさせる。

#### (2) 指導の力点

- タブレット端末を利用して調べ学習を行うことで、エイズについてより多くの情報を取得し、周りと共有できるようにさせる。
- 深める場面でブレインストーミングやブレインライティングを行うことで、生徒一人一人が学習課題について思考し、自分の意見をもたせるようにする。話し合い活動の中で、エイズについての理解を深め、エイズ患者との共生していくための方法や今後の自分の生き方について考えさせたい。

### 6 指導と評価

単元名 体づくり運動(体ほぐしの運動・体の動きを高める運動) 配当時間 8時間

単元の目標 (1) 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができる。  
(2) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。  
(3) 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助したり、一人一人の違いに応じた動きなどを認めたり、話し合いに参加したり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300101\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 体づくり運動の特性を知り、学習の見通しをもつ。<br/>★体づくり運動の特性を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方を知る。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</li> </ul> <p>2～4 体ほぐしの運動をする。<br/>★心と体をほぐしながら、楽しく運動をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○用具を用いた運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・短縄・大縄</li> <li>・バランスボールなど</li> </ul> </li> <li>○心が弾むような運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスウォームアップなど</li> </ul> </li> <li>○ストレッチ運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチ</li> <li>・ペアストレッチなど</li> </ul> </li> <li>○走ったり跳びはねたりする運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・馬跳び</li> <li>・ジョギングなど</li> </ul> </li> <li>○動きを合わせたり、対応したりする運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスくずし</li> <li>・じゃんけんおんぶなど</li> </ul> </li> <li>○集団で挑戦するような運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・円形椅子</li> <li>・組縄跳び</li> </ul> </li> </ul> <p>5 自己の体力や健康の状態を知り、運動の計画を立てる。<br/>★体の動きを高める計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の体力や健康状態を知る。</li> <li>○体の動きを高める計画を立て、伝え合う。</li> </ul> <p>6～7 体の動きを高める運動をする。<br/>★計画に従って体力を高める運動をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体の柔らかさを高める運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアストレッチ</li> <li>・ストレッチ体操など</li> </ul> </li> <li>○巧みな動きを高める運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラダートレーニングなど</li> </ul> </li> <li>○力強い動きを高める運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイトトレーニングなど</li> </ul> </li> <li>○動きを持続する能力を高める運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・エアロビック体操</li> <li>・インターバルトレーニングなど</li> </ul> </li> </ul> <p>8 単元のまとめをする。<br/>★体づくり運動を実生活に取り入れる工夫をしよう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動は、「体ほぐしの運動」と「体の動きを高める運動」から構成されていることを理解させる。</li> <li>・自己の健康や体力の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</li> <li>・体の状態のみならず、心の状態も確かめながら、体調の変化などに気を配らせる。</li> <li>・体がほぐれると心がほぐれたり、心がほぐれると体がほぐれたりするように、自己の心と体は互いに関係していることに気付かせる。</li> <li>・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を意識させる。</li> <li>・リズムに乗って心が弾むような運動を意識させる。</li> <li>・ペアでストレッチをしたり、緊張を解いて脱力したりする運動を意識させる。</li> <li>・いろいろな条件で、歩いたり走ったり跳びはねたりする運動を意識させる。</li> <li>・仲間と動きを合わせたり、対応したりする運動を意識させる。</li> <li>・仲間を尊重し、全員で助け合って課題を達成することを意識させる。</li> <li>・気付いたことを学習カードに記入させる。<br/>【評】体ほぐしの運動を通して、「知識（・運動）」「主体的に学習に取り組む態度」「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・身体測定や体力テストの結果を反映させる。</li> <li>・自分に必要な体力が何かを気付かせ、バランスのとれた体力向上に向けての計画を立てさせる。<br/>【評】体の動きを高める計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・自己の健康や体力の状態に応じて、体力を高める運動を行わせる。</li> <li>・筋肉や関節の体のどの部位を解緊しているのかを意識させる。</li> <li>・可動範囲を徐々に広げたり、負荷の少ない動的な運動から始めたりして行わせる。</li> <li>・ゆっくりした動きから素早い動き、小さい動きから大きい動き、弱い動きから強い動き、易しい動きから難しい動きへと運動を発展させるようにする。</li> <li>・繰り返すことのできる最大の回数などを手がかりにして、無理のない運動の強度と反復回数を選んで行うようにさせる。</li> <li>・心拍数や疲労感などを手がかりにして、無理のない運動の強度と時間を選んで行うようにさせる。<br/>【評】体の動きを高める運動を通して、「知識（・運動）」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・【評】単元のまとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

体づくり運動は、体ほぐしの運動と体の動きを高める運動及び実生活に生かす運動の計画で構成され、自他の

心と体と向き合って、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、心と体をほぐしたり、体の動きを高める方法を学んだりすることができる領域である。本単元では、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高め方法などを理解するとともに、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにする。

また、体育分野と保健分野の相互の関連を図るため、「ストレスへの対処」など保健分野の指導との関連を図った指導を行うようにする。

## 単元名 器械運動(マット運動)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行ったり、条件を変えた技や発展技を行ったり、それらを組み合わせたりすることができる。
- (2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) マット運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めたり、仲間の学習を援助したり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300102\_001

【準備等】 マット、セーフティマット、踏み切り板、学習カード、学習資料、ビデオ（DVD）

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 マット運動の特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★マット運動の特性を知ろう。</p> <p>○ マット運動の特性や成り立ちを知る。</p> <p>○ 学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○ 学習カードや学習資料の使い方を知る。</p> <p>○ マナーや安全な運動の仕方を知る。</p> <p>○ 体ほぐし運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蛙とび</li> <li>・ゆりかご</li> </ul> <p>○ 既習の技を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前転</li> <li>・開脚前転</li> <li>・後転</li> <li>・開脚後転</li> <li>・側方倒立回転</li> <li>・頭倒立など</li> </ul> <p>2～5 基本的な技や発展技の練習をする。</p> <p>★新しい技に挑戦しよう。</p> <p>○ 簡単な技で体をほぐす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前転</li> <li>・後転</li> </ul> <p>○ 補強運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブリッジ</li> <li>・首倒立</li> <li>・壁倒立</li> </ul> <p>○ 基本的な技を練習する。</p> <p>＜回転系・接転技群＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前転 ・開脚前転</li> <li>・後転 ・開脚後転</li> </ul> <p>＜回転系・ほん転技群＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・側方倒立回転 ・倒立ブリッジ</li> <li>・頭はね起き</li> </ul> <p>＜巧技系・平均立ち技群＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片足平均立ち</li> <li>・頭倒立 ・補助倒立</li> </ul> <p>○ 発展技の練習をする。</p> <p>＜回転系・接転技群＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伸膝前転 ・倒立前転</li> <li>・跳び前転</li> <li>・伸膝後転 ・後転倒立</li> </ul> <p>＜回転系・ほん転技群＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・側方倒立回転跳び1/4ひねり（ロンダート）</li> <li>・前方倒立回転 ・前方倒立回転跳び</li> </ul> <p>＜巧技系・平均立ち技群＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片足正面水平立ち ・Y字バランス</li> <li>・倒立</li> </ul> <p>○ 活動を振り返り、まとめをする。</p> <p>6～9 技を組み合わせ、練習する。</p> <p>★技の組み合わせを考えよう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マット運動の特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・ 技の名称や行い方、関連して高まる体力については単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・ 基本的な技の出来映えを高めていくこと、条件を変えた技や発展技に挑戦することを押さえておく。</li> <li>・ 技のポイントや練習方法が分かるような学習資料を準備する。</li> <li>・ マットの配置や使い方、練習時の約束、補助の仕方等について説明する。</li> <li>・ マット運動の技につながるような運動をさせる。</li> <li>・ 示範やビデオ等により、技を確認させる。</li> <li>・ 学習カードに自己評価させる。</li> <li>・ 前転や後転等を準備運動として取り入れる。</li> <li>・ 合わせて首や手首などががしやすい部位のストレッチを重点的に行わせる。</li> <li>・ 補強運動として、巧技系の技を行わせる。</li> <li>・ グループで、互いに教え合いながら練習させる。</li> <li>・ ロイター板を使用し、斜面を作ったり、壁際にマットを置いて壁を利用できるようにしたりするなど、段階に応じた練習場所を準備しておく。</li> <li>・ 滑らかに回転すること、バランスよく姿勢を保って静止することなど、技の質を高めることを意識させる。</li> <li>・ 学習カードを利用し、技のポイントを確認しながら練習させ、自己評価させる。</li> <li>・ 自己の技能・体力の程度の高まりに応じて、学習した基本的な技の中から発展した技を行うようにさせる。</li> <li>【評】 基本的な技や、発展技の練習を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 学習カードを利用し、技の出来映えを確認し技のポイントをまとめさせる。</li> <li>【評】 話し合いの活動や学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

|   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な技で体をほぐす。</li> <li>○条件を変えた技を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前後開脚からの前転</li> <li>・後転した後両足でジャンプ</li> <li>・回転した後片足立ちなど</li> </ul> </li> <li>○技の組み合わせを考え、練習する。</li> <br/> <li>○活動を振り返り、まとめをする。</li> </ul> <p>10 発表会をする。</p> <p>★美しい演技をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○組み合わせた技の練習をする。</li> <li>○組み合わせた技の発表をする。</li> <li>○お互いに評価し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・回転系の技は、基本的な技の開始姿勢や終末姿勢、組み合わせの動きや手の着き方などの条件を変えて行わせる。</li> <li>・巧技系の技は、姿勢、体の向きなどの条件を変えて行わせる。</li> <li>・基本的な技、条件を変えた技、発展技の中から、いくつかの技を「はじめーなかーおわり」に組み合わせることを押さえる。</li> <li>・技と技のつながりを滑らかにし、一連の動きになるよう意識させる。</li> <li>・技と技のつながりの滑らかさや、一連の動きの出来映えについて話し合わせる。</li> <li>【評】技の組み合わせを考えたり、出来映えについて話し合ったりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <br/> <li>・発表会に向けて、組み合わせた技の確認をさせる。</li> <li>【評】発表会を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・仲間のよいところを認め合わせる。</li> <li>【評】単元全体の活動や発表会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |
|---|--|

【 備 考 】

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの技がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本単元ではマット運動の技がよりよくできるようにする。

条件を変えた技…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P. 66参照



## 単元名 器械運動(鉄棒運動)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、鉄棒運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行ったり、条件を変えた技や発展技を行ったり、それらを組み合わせたりすることができる。
- (2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 鉄棒運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めたり、仲間の学習を援助したり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300103\_001

【準備等】鉄棒、補助具、学習カード、学習資料

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 鉄棒運動の特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★鉄棒運動の特性を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方を知る。</li> <li>○学習カードや学習資料の使い方を知る。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</li> <li>○体ほぐし運動をする。</li> <li>○既習の技を確認する。</li> </ul> <p>2～5 基本的な技や発展技の練習をする。</p> <p>★新しい技に挑戦しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な技で体をほぐす。</li> <li>○基本的な技を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;支持系・前方支持回転技群&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・前方かかえ込み回り ・前方支持回転</li> <li>・転向前下り ・踏み越し下り</li> <li>・膝かけ振り上がり ・前方膝かけ回転</li> <li>・膝かけ上がり</li> </ul> </li> <li>&lt;支持系・後方支持回転技群&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・逆上がり ・後方支持回転</li> <li>・後ろ振り跳びひねり下り</li> <li>・膝かけ振り逆上がり ・後方膝かけ回転</li> </ul> </li> <li>&lt;懸垂系・懸垂技群&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・懸垂振動(順手・片逆手)</li> <li>・後ろ振り跳び下り</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○発展技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;支持系・前方支持回転技群&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・前方伸膝支持回転 ・支持跳び越し下り</li> <li>・前方ももかけ回転 ・ももかけ上がり</li> <li>・け上がり</li> </ul> </li> <li>&lt;支持系・後方支持回転技群&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・後方伸膝支持回転 ・後方浮き支持回転</li> <li>・棒下振り出し下り ・後方ももかけ回転</li> </ul> </li> <li>&lt;懸垂系・懸垂技群&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・懸垂振動ひねり ・前振り跳び下り</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○活動を振り返り、まとめをする。</li> </ul> <p>6～9 技を組み合わせ、練習する。</p> <p>★技の組み合わせを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な技で体をほぐす。</li> <li>○条件を変えた技を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・開始姿勢</li> <li>・終末姿勢</li> <li>・組み合わせ</li> <li>・鉄棒の握り方</li> </ul> </li> <li>○技の組み合わせを考え、練習する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技の出来映えを高めていくこと、条件を変えた技や発展技に挑戦することを押さえておく。</li> <li>・鉄棒運動の特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技の名称や行い方、関連して高まる体力については単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・技のポイントや練習方法が分かるような学習資料を準備する。</li> <li>・練習時の約束、補助の仕方等について説明する。</li> <li>・鉄棒運動の技につながる運動をさせる。</li> <li>・示範や学習資料等により、技を確認させる。</li> <li>・学習カードに自己評価させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備運動として、前時の簡単な技を取り入れる。</li> <li>・仲間の練習の様子を観察し、良かった点などを教え合ったり、話し合ったりするようにさせる。</li> <li>・適宜、補助具を使用させる。</li> <li>・学習カードを利用し、技のポイントを確認しながら練習させ、自己評価させる。</li> <li>・初めは低鉄棒で行わせ、技能に応じて高鉄棒でも挑戦させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の技能・体力の程度の高まりに応じて、学習した基本的な技の中から発展した技を行うようにさせる。</li> </ul> <p>【評】基本的な技や、発展技の練習を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを利用し、技の出来映えを確認し技のポイントをまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】話し合いの活動や学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前方支持回転技群の技は、開始姿勢や終末姿勢、組み合わせの動きや鉄棒の握り方などの条件を変えて行わせる。</li> <li>・後方支持回転技群の技は、開始姿勢や終末姿勢、組み合わせの動きなどの条件を変えて行わせる。</li> <li>・懸垂技群の技は、組み合わせの動きや握り方などの条件を変えて行わせる。</li> <li>・同じグループや異なるグループの基本的な技条件を変えた技、発展技の中から、いくつかの技を「上がる一回る一下りる」に組み合わせることを押さえる。</li> <li>・技と技のつながりを滑らかにし、一連の動きに</li> </ul> |

○活動を振り返り，まとめをする。

10 発表会をする。

★美しい演技をしよう。

○組み合わせた技の練習をする。

○組み合わせた技の発表をする。

○お互いに評価し合う。

なるよう意識させる。

・技と技のつながりの滑らかさや，一連の動きの出来映えについて話し合わせる。

【評】技の組み合わせを考えたり，出来映えについて話し合ったりする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

・発表会に向けて，組み合わせた技の確認をさせる。

【評】発表会を通して，「知識・技能」を評価する。

【評】単元全体の活動や発表会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

器械運動は，マット運動，鉄棒運動，平均台運動，跳び箱運動で構成され，器械の特性に応じて多くの技がある。これらの技に挑戦し，その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本単元では，鉄棒運動の技がよりよくできることや自己に適した技で演技することができるようにする。

鉄棒運動の主な技の例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P. 68～P. 69参照

## 単元名 器械運動(平均台運動)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、平均台運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行ったり、条件を変えた技や発展技を行ったり、それらを組み合わせたりすることができる。
- (2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 平均台運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めたり、仲間の学習を援助したり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300104\_001

【準備等】平均台、低い平均台、マット、セーフティマット、踏み切り板、ラインテープ、学習カード、学習資料

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 平均台運動の特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★平均台運動の特性を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平均台運動の特性や成り立ちを知る。</li> <li>○学習のねらいや進め方を知る。</li> <li>○学習カードや学習資料の使い方をを知る。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</li> <li>○体ほぐし運動をする。</li> <li>○簡単な技に挑戦する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>＜体操系・歩走グループ＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・前方歩 ・後方歩</li> </ul> </li> <li>＜バランス系・ポーズグループ＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・立ちポーズ（両足・片足）</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>2～5 基本的な技や発展技の練習をする。</p> <p>★平均台に慣れ、基本的な技をゆっくり、大きくできるようにしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な技で体をほぐす。 <ul style="list-style-type: none"> <li>＜体操系・歩走グループ＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・前方歩 ・後方歩</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○基本的な技を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>＜体操系・跳躍グループ＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・伸身跳び（両足踏切） ・開脚跳び（片足踏切）</li> </ul> </li> <li>＜バランス系・ポーズグループ＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・立ちポーズ（両足・片足）</li> <li>・座臥・支持ポーズ</li> </ul> </li> <li>＜バランス系・ターングループ＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・両足ターン</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○発展技を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>＜体操系・歩走グループ＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・前方ツーステップ ・前方走</li> <li>・後方ツーステップ</li> </ul> </li> <li>＜体操系・跳躍グループ＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・かかえ込み跳び ・開脚跳び下り</li> <li>・かかえ込み跳び下り ・前後開脚跳び</li> <li>・片手支持跳び上がり</li> </ul> </li> <li>＜バランス系・ポーズグループ＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・片足水平バランス ・V字ポーズ</li> <li>・片膝立ち水平支持ポーズ</li> </ul> </li> <li>＜バランス系・ターングループ＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・片足ターン（振り上げ型、回し型）</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○活動を振り返り、まとめをする。</li> </ul> <p>6～9 技を組み合わせ、練習する。</p> <p>★技の組み合わせを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な技で体をほぐす。</li> <li>○条件を変えた技を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム</li> <li>・姿勢</li> <li>・組み合わせ</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技の出来映えを高めていくこと、条件を変えた技や発展技に挑戦することを押さえておく。</li> <li>・平均台運動の特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技の名称や行い方、関連して高まる体力については単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・技のポイントや練習方法が分かるような学習資料を準備する。</li> <li>・マットの配置や平均台の使い方、練習時の約束や補助の仕方等について説明する。</li> <li>・平均台運動の技につながるような運動を取り入れる。</li> <li>・示範や学習資料等により、技を確認させる。</li> <li>・平均台の幅や高さに慣れさせるとともに、興味をもたせるようにする。</li> <li>・学習カードに自己評価をさせる。</li> <li>・準備運動として、前時の簡単な技を取り入れる。</li> <li>・仲間の練習の様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>・平均台に見立てて床にラインテープで10cm幅に示したものや、低い平均台を利用して、恐怖心を取り除くための場作りを心がける。</li> <li>・学習カードを利用し、技のポイントを確認しながら練習させ、自己評価させる。</li> <li>・自己の技能・体力の程度の高まりに応じて、学習した基本的な技の中から発展した技を行うようにさせる。</li> <li>【評】基本的な技や、発展技の練習を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・学習カードを利用し、技の出来映えを確認し技のポイントをまとめさせる。</li> <li>【評】話し合いの活動や学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・歩走グループの技は、姿勢、動きのリズムなどの条件を変えて行わせる。</li> <li>・跳躍グループの技は、姿勢、組み合わせの動きなどの条件を変えて行わせる。</li> <li>・ポーズグループの技は、姿勢などの条件を変えて行わせる。</li> <li>・ターングループの技は、姿勢などの条件を変</li> </ul> |

○技の組み合わせを考え、練習する。

○活動を振り返り、まとめをする。

10 発表会をする。

★美しい演技をしよう。

○組み合わせた技の練習をする。

○組み合わせた技の発表をする。

○お互いに評価し合う。

えて、行わせる。

・同じグループや、異なるグループの基本的な技、条件を変えた技、発展技の中から、いくつかの技を「上がる－なかの技－下りる」に組み合わせることを押さえる。

・技と技のつながりを滑らかにし、一連の動きになるよう意識させる。

・技と技のつながりの滑らかさや、一連の動きの出来映えについて話し合わせる。

【評】技の組み合わせを考えたり、出来映えについて話し合ったりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・発表会に向けて、組み合わせた技の確認をさせる。

【評】発表会を通して、「知識・技能」を評価する。

【評】単元全体の活動や発表会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの技がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本単元では、平均台運動の技がよりよくできることや自己に適した技で演技することができるようにする。

平均台運動の主な技の例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P.69～P.70参照

## 単元名 器械運動(跳び箱運動)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、跳び箱運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行ったり、条件を変えた技や発展技を行ったりすることができる。
- (2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 跳び箱運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めたり、仲間の学習を援助したり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300105\_001

【準備等】跳び箱、マット、踏み切り板、距離調節器、セーフティマット、学習カード、学習資料

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 跳び箱運動の特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★跳び箱運動の特性を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○跳び箱運動の特性や成り立ちを知る。</li> <li>○学習のねらいや進め方を知る。</li> <li>○学習カードや学習資料の使い方を知る。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</li> <li>○体ほぐし運動をする。</li> <li>○既習の技を確認する。</li> </ul> <p>2～5 基本的な技や条件を変えた技の練習をする。</p> <p>★今できる技を美しくしたり、変化を付けたりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な技で体をほぐす。</li> <li>○基本的な技を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;切り返し系・切り返し跳びグループ&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・開脚跳び ・かかえ込み跳び</li> </ul> </li> <li>&lt;回転系・回転跳びグループ&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・頭はね跳び</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○条件を変えた技を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・着手位置 ・姿勢</li> </ul> </li> <li>○活動を振り返り、まとめをする。</li> </ul> <p>6～9 発展技の練習をする。</p> <p>★難しい技に挑戦しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な技で体をほぐす。</li> <li>○基本的な技や条件を変えた技を確認する。</li> <li>○発展技を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;切り返し系・切り返し跳びグループ&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・開脚伸身跳び ・屈伸跳び</li> </ul> </li> <li>&lt;回転系・回転跳びグループ&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・前方屈腕倒立回転跳び ・前方倒立回転跳び</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○活動を振り返り、まとめをする。</li> </ul> <p>10 発表会をする。</p> <p>★美しい演技をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発表する技の練習をする。</li> <li>○技の発表をする。</li> <li>○お互いに評価し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技の出来映えを高めていくこと、条件を変えた技や発展技に挑戦することを押さえておく。</li> <li>・跳び箱運動の特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技の名称や行い方、関連して高まる体力については単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・技のポイントや練習方法が分かるような学習資料を準備する。</li> <li>・跳び箱・マットの配置や使い方、練習時の約束、補助の仕方等について説明する。</li> <li>・跳び箱運動の技につながるような運動をさせる。</li> <li>・示範や学習資料により、技を確認させる。</li> <li>・学習カードに自己評価させる。</li> <li>・準備運動として、既習の簡単な技を取り入れる。</li> <li>・仲間の練習の様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>・跳び箱の高さや置き方を工夫するなど段階に応じた練習場所を準備しておく。</li> <li>・安全のため、切り返し系の技の着手技術を全体指導しておく。</li> <li>・学習カードを利用し、技のポイントを確認しながら練習させ、自己評価させる。</li> <li>・着手位置、姿勢など条件を変えて行わせる。</li> <li>【評】基本的な技や、条件を変えた技の練習を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・学習カードを利用し、技の出来映えを確認し技のポイントをまとめさせる。</li> <li>【評】話し合いの活動や学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すようにさせる。</li> <li>【評】自己の課題に応じた方法を選んだり、仲間と課題や出来映えを伝え合ったりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・技の滑らかさについて話し合わせる。</li> <li>【評】発表会を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】単元全体の活動や発表会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの技がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本単元では、跳び箱運動の技がよりよくできることや自己に適した技で演技することができるようにする。

跳び箱運動の主な技の例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P. 70～P. 71参照

## 単元名 陸上競技(短距離走・リレー)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、短距離走・リレーの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、滑らかな動きで速く走ったり、バトンの受渡しでタイミングを合わせたりすることができる。
- (2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 短距離走・リレーに積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ったり分担した役割を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300106\_001

【準備等】ストップウォッチ、スターティングブロック、バトン、カラーコーン、赤旗、白旗、学習カード

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 短距離走・リレーの特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★短距離走の特性を知ろう。</p> <p>○短距離走・リレーの特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○正しい走法を知り、短い距離を走る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腕振り</li> <li>・ももあげ</li> <li>・クラウチングスタート</li> </ul> <p>○100mの計測をし、これからの学習の見通しをもつ。</p> <p>2 100mを走り、チーム分けをする。</p> <p>★100mを速く走ろう。</p> <p>○走り方やスタートの仕方を工夫して、短い距離を走る。</p> <p>○100mの計測をし、チーム分けをする。</p> <p>3～5 リレーの練習をする。</p> <p>★スピードに乗ったバトンパスをしよう。</p> <p>○チームごとにバトンパスの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンディングパス</li> <li>・ジョギングパス</li> <li>・テイクオーバーゾーンを利用したパス</li> </ul> <p>○1回目のリレーをする。</p> <p>○リレーを振り返り、チームごとに課題を決め、練習をする。</p> <p>○2回目のリレーをする。</p> <p>6 100m走・リレーの競技会をする。</p> <p>★記録の向上を目指そう。</p> <p>○係を分担し、競技会の運営方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出発</li> <li>・計時</li> <li>・決勝</li> <li>・監察</li> </ul> <p>○100m走の競技会をする。</p> | <p>・リレー練習の一環として、短距離走の練習を位置付ける。</p> <p>・短距離走・リレーの特性や成り立ちを説明する。</p> <p>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</p> <p>・個人やチームの課題を決め、達成のための練習を工夫すること知らせる。</p> <p>・自分に合ったピッチとストライドで速く走ることを意識させる。</p> <p>・クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていくように意識させる。</p> <p>・クラウチングスタートで行わせる。</p> <p>・仲間の様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。</p> <p>・前時の記録を参考にさせることによって、意欲を引き出すようにする。</p> <p>・工夫する点を学習カードに記入させる。</p> <p>・自分に合ったスターティングブロックの位置を調節させる。</p> <p>【評】走り方やスタートの仕方を工夫する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・前時の記録から、タイム順で走らせる。</p> <p>・100m走のタイムを参考にして、チームの力がほぼ均等になるように配慮する。</p> <p>【評】100mを走る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・練習方法を工夫して、タイムの向上を目指すこと知らせる。</p> <p>・バトンの渡し手と受け手のタイミングが重要なので、慣れるまでは順番を変えずにバトンパスの練習をさせる。</p> <p>・ダッシュマークを利用して練習させる。</p> <p>・前走者と次走者のスピードを正確につかませダッシュマークを付けさせる。</p> <p>・リレーのタイムを計り、100m走のタイムとの合計の差に気付かせる。</p> <p>・課題を明確にさせるため、基本的な動きや効率のよい動きについて確認した後、反省をさせる。</p> <p>・ダッシュマークの距離は良かったかななどについて話し合わせ、練習を工夫させる。</p> <p>【評】チームごとに課題を決め、練習する活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・1回目の振り返りを生かして、課題を意識させる。</p> <p>【評】リレーをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・競技会の運営などを協力して行わせる。</p> <p>・第2時の記録を参考にし、目標タイムを設定</p> |

|  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ バトンパスの練習をする。</li> <li>○ リレーの競技会をする。</li> <li>○ 活動を振り返り，まとめをする。</li> </ul> | <p>させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダッシュマークの確認をさせる。</li> <li>・ スピードに乗ったバトンパスを意識させる。</li> <li>・ リレーは2組以上に分かれて行わせ，競技者と審判を交代して行わせる。</li> <li>・ 仲間の健闘やフェアに競う姿を認め合うようにさせる。</li> </ul> <p>【評】 リレーの競技会をする活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 活動を振り返り，まとめをする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 単元全体の活動や競技会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】  
短距離走・リレーでは，自己の最大スピードを高めたり，スピードを生かしたバトンパスでリレーをしたりして，個人やチームのタイムを短縮したり，競走したりできるようにする。本単元では，記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい，基本的な動きや効率の良い動きを身に付けることができるようにする。

## 単元名 陸上競技〈長距離走〉

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、長距離走の特性や成り立ち、技術の名称や行い方に関連して高まる体力などを理解するとともに、ペースを守って走ることができる。
- (2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 長距離走に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ったり、分担した役割を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300107\_001

【準備等】ストップウォッチ、カラーコーン、学習カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 長距離走の特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★長距離走の特性を知ろう。</p> <p>○長距離走の特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○正しい走法を知り、長い距離を走る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・走る姿勢</li> <li>・呼吸法</li> </ul> <p>○1000m走（1500m走）の計測をする。</p> <p>2～5 長距離走をする。</p> <p>★自分に合ったペースをつかみ、ペースを守って長い距離を走り通そう。</p> <p>○前時の記録を参考にして、目標タイムを設定する。</p> <p>○ペアでペースをつかむ練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペースランニング</li> <li>・時間走</li> <li>・インターバルトレーニング</li> </ul> <p>○1000m走（1500m走）の計測をする。</p> <p>6 1000m走（1500m走）の競技会をする。</p> <p>★記録の向上を目指そう。</p> <p>○係を分担し、競技会の運営方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出発合図</li> <li>・計時</li> <li>・決勝</li> </ul> <p>○1000m走（1500m走）の競技会をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人やペアで自分の課題に合った練習を工夫して、学習を進めることを知らせる。</li> <li>・長距離走の特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・長距離走では、自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり競走したりすることを伝える。</li> <li>・自分に合ったピッチとストライドで、上下運動の少ない動きで走ることを意識させる。</li> <li>・呼吸に一定のリズムをもたせて走ることの大切さを伝える。</li> </ul> <p>・ペース通りで走り通すことが記録の向上につながることを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の記録を参考にさせることによって、意欲を引き出すようにする。</li> <li>・基本的な動きや効率のよい動きについて確認し、意識して練習させる。</li> <li>・ペースタイムのスピード感をつかませる。</li> <li>・ペース配分を考えさせ、目標距離を設定させる。</li> <li>・工夫した点を学習カードに記入させる。</li> </ul> <p>【評】 ペースをつかむ練習を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・記録の近い集団で走らせる。</p> <p>【評】 1000m（1500m）を走る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・係を分担し、競技会の運営などを協力して行わせる。</li> <li>・計時係には、ラップタイムを言わせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標タイムを設定させ、意欲化を図る。</li> <li>・仲間の健闘やフェアに競う姿を認め合うようにさせる。</li> </ul> <p>【評】 1000m（1500m）の競技会をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 活動を振り返り、まとめをする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 単元全体の活動や競技会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

長距離走では、自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり競走したりできるようにする。本単元では、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率の良い動きを身に付けることができるようにする。

走る距離は、1000～3000m程度を目安とするが、生徒の技能・体力の程度や気候等に応じて弾力的に扱うようにする。



## 単元名 陸上競技〈ハードル走〉

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、ハードル走の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができる。
- (2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) ハードル走に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ったり、分担した役割を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300108\_001

【準備等】ストップウォッチ、スターティングブロック、巻き尺、ハードル、学習カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 ハードル走の特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★ハードル走の特性を知ろう。</p> <p>○ハードル走の特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○80m走を計測する。</p> <p>○ハードリングのフォームでストレッチをする。</p> <p>○80mハードル走を計測する。</p> <p>2～5 80mハードル走をする。</p> <p>★滑らかにハードルを越そう。</p> <p>○1台目のハードルを越す練習をする。</p> <p>○3台目までを3歩のリズムで走る練習をする。</p> <p>○正しいフォームを身に付けるための練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り上げ脚</li> <li>・抜き足の練習</li> </ul> <p>○3歩のリズムで走る練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なったインターバル<br/>6.0m 6.5m 7.0m 7.5m 8.0m</li> </ul> <p>○自分にあったインターバルで、ハードル走の計測をする</p> <p>6 80mハードル走の競技会をする。</p> <p>★記録の向上を目指そう。</p> <p>○係を分担し、競技会の運営方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出発</li> <li>・計時</li> <li>・決勝</li> <li>・監察</li> <li>・器具</li> </ul> <p>○80mハードル走の競技会をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハードル走の特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・個人の課題を決め、達成のための練習を工夫することを知らせる。</li> <li>・80m走を計測し、学習意欲を引き出させる。</li> <li>・ハードリングの空中姿勢を作り、1・2・3のリズムで上体を前傾にし、伸ばしている足の反対の腕を前へ出すようにさせる。</li> <li>・柔軟性を高めるとともに、練習中のけが予防のために準備運動の一環として継続的に行うようにする。</li> <li>・インターバルの長短やハードルの高低の違う場を設定する。</li> <li>・3歩のリズムを意識して行わせるが、4、5歩のリズムになってもよいことを伝える。</li> <li>・遠くから踏み切り、勢いよくハードルを走り越すように意識させる。</li> <li>・ハードルを越すときには、前傾姿勢になるように意識させる。</li> <li>・インターバルは6～8mを目安とし、生徒の段階に応じるようにする。</li> <li>・1台目のハードルからリズムカルな走りで、ハードルを越すように意識させる。</li> <li>・リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことを意識させる。</li> <li>・仲間のハードルを越す様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>・抜き足の膝を折りたたんで横に寝かして前に運ぶことを意識させる。</li> <li>・抜き足の膝を胸に引きつけるように意識させる。</li> <li>・振り上げ脚は、素早く降ろすように意識させる。</li> <li>・始めは歩いた状態で行わせ、徐々にスピードを上げて行わせる。</li> <li>【評】正しいフォームを身に付ける練習を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・3歩のリズムで走ることができるインターバルを選択させる。</li> <li>・同じインターバルで練習をする仲間と教え合うようにさせる。</li> <li>【評】ハードルを越すフォームで、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・係を分担し、競技会の運営などを協力して行わせる。</li> <li>・前時までの記録を参考に、目標タイムを設定させる。</li> </ul> |

○活動を振り返り，まとめをする。

- ・ 仲間の健闘やフェアに競う姿を認め合うようにさせる。
- 【評】ハードル走の競技会を通して，「知識・技能」を評価する。
- 【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】単元全体の活動や競技会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

ハードル走では，ハードルを越えながらインターバルを一定のリズムで走り，タイムを短縮したり競走したりできるようにする。本単元では，記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい，基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。

指導に際しては，ハードル走の距離は50m～80m程度，その間にハードルを5台～8台程度置くことを目安とするが，体力の程度やグラウンドの大きさに応じて弾力的に扱うようにする。

## 単元名 陸上競技〈走り幅跳び〉

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、走り幅跳びの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶことができる。
- (2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 走り幅跳びに積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ったり、分担した役割を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300109\_001

【準備等】 ラインカー、ロイター板、跳び箱、赤旗、巻き尺、学習カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 走り幅跳びの特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★走り幅跳びの特性を知ろう。</p> <p>○走り幅跳びの特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○走り幅跳びの計測する。</p> <p>2～5 走り幅跳びの練習をする。</p> <p>★踏切線に合わせて跳躍をしよう。</p> <p>○ロイター板、跳び箱を使った練習をする。</p> <p>○助走マークを使って、踏み切りを合わせる練習をする。</p> <p>○自分に合った助走距離で練習をする。</p> <p>○自分に合った助走距離で走り幅跳びの計測をする。</p> <p>6 走り幅跳びの競技会をする。</p> <p>★記録の向上を目指そう。</p> <p>○係を分担し、競技会の運営方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計測</li> <li>・審判</li> <li>・記録</li> </ul> <p>○走り幅跳びの競技会をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・器具の準備の仕方や安全面についての確認をする。</li> <li>・走り幅跳びの特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・個人の課題を決め、達成のための練習を工夫することを知らせる。</li> <li>・試しの跳躍をし、学習意欲を引き出させる。</li> <li>・踏切線を意識せず、実際に跳んだ距離を計測させる。</li> <li>・踏切線に合わせて跳躍をすることを伝える。</li> <li>・目安となるように3 m、4 m、5 mの印を付ける。</li> <li>・助走距離は5 m～15 mとする。</li> <li>・踏切線に跳び箱1段目を置き、その手前1.2 m～1.5 mにロイター板を準備させる。</li> <li>・ロイター板から跳び箱を駆け上がるようなイメージをもたせる。</li> <li>・慣れてきたら、ロイター板、跳び箱を使った走り幅跳びの記録を取らせる。</li> <li>・助走は、5～7歩とし、助走距離は5 m～15 mとする。</li> <li>・助走の開始地点に助走マークを付けさせる。</li> <li>・ロイター板、跳び箱を使った練習を参考にし駆け上がるようなイメージをもたせる。</li> <li>【評】 踏み切りを合わせる姿を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと意識して練習させる。</li> <li>・スピードに乗った助走から、踏切線に合わせて踏み切ることができているかを仲間同士で観察をさせる。</li> <li>・自己に適した距離、歩数を意識させる。</li> <li>・踏切線の前でスピードを落とさないように意識させる。</li> <li>・工夫した点を学習カードに記入させる。</li> <li>【評】 自分に合った助走距離で練習をする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・仲間の跳ぶ様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>【評】 踏切線に合わせて踏み切る活動を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・係を分担し、競技会の運営などを協力して行わせる。</li> <li>・踏切線を越えた場合は、審判係が赤旗を上げるようにさせる。</li> <li>・前時までの記録を参考に、目標の距離を設定させる。</li> <li>・仲間の健闘やフェアに競う姿を認め合うようにさせる。</li> <li>【評】 競技会を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】 活動を振り返り、まとめをする活動を通</li> </ul> |

して、「思考・判断・表現」を評価する。  
【評】単元全体の活動や競技会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

走り幅跳びでは、助走スピードを生かして素早く踏み切り、より遠くへ跳んだり、競争したりできるようにする。本単元では、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。

スピードに乗った助走とは、最大スピードの助走ではなく、踏み切りに移りやすい範囲でスピードを落とさないように走ることである。

## 単元名 陸上競技〈走り高跳び〉

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、走り高跳びの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶことができる。
- (2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 走り高跳びに積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ったり、分担した役割を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300110\_001

【準備等】支柱、バー、ゴム、跳び箱、ロイター板、セーフティーマット、学習カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 走り高跳びの特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★走り高跳びの特性を知ろう。</p> <p>○走り高跳びの特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○走り高跳びの計測をする。</p> <p>2～5 走り高跳びの練習をする。</p> <p>★自分に合った跳び方を身に付けよう。</p> <p>○低い高さで跳び方の練習をする。(はさみ跳び)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイター板を使つてのはさみ跳び</li> <li>・5歩助走からのはさみ跳び</li> </ul> <p>○低い高さで跳び方の練習をする。(ベリーロール)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・跳び箱を使つてのベリーロール</li> <li>・5歩助走からのベリーロール</li> </ul> <p>○自分に合った跳び方で練習をする。</p> <p>○自分に合った跳び方で計測をする。</p> <p>6 走り高跳びの競技会をする。</p> <p>★記録の向上を目指そう。</p> <p>○係を分担し、競技会の運営方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計測</li> <li>・審判</li> <li>・補助</li> </ul> <p>○走り高跳びの競技会をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・器具の準備の仕方や安全面についての確認をする。</li> <li>・走り高跳びの特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・個人の課題を決め、達成のための練習を工夫することを知らせる。</li> <li>・試しの跳躍をし、学習意欲を引き出させる。</li> <li>・安心して跳躍ができるように、バーはゴムを使うようにする。</li> <li>・はさみ跳び、ベリーロール2種類の跳び方を練習するが、計測の時は自分に合った跳び方でよいことを伝える。</li> <li>・ロイター板を使い、余裕のあるジャンプの中で練習をさせる。</li> <li>・踏みきった脚と同じ側の腕を高く上げるように意識させる。</li> <li>・リズムを作るため、5歩の助走で跳ぶようにさせる。</li> <li>・踏み切りでは、足裏全体で力強く踏み切るようにさせる。</li> <li>・抜き足を横に開きながら、素早く胸に引きつけるようにさせる。</li> <li>・振り上げた脚と同じ側の腕を高く上げるように意識させる。</li> <li>・上体をバーと平行な位置関係に保つようにさせる。</li> <li>・踏みきった脚を後方に開くように引き上げるようにさせる。</li> <li>【評】正しいフォームを身に付ける練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・仲間の跳び方の様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>・リズムカルな助走から力強い踏み切りに移ることを意識させる。</li> <li>・脚と腕のタイミングを合わせて踏み切り、大きな動作で跳ぶようにさせる。</li> <li>・工夫した点を学習カードに記入させる。</li> <li>【評】自分に合った跳び方の練習をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】バーを越えるフォームで、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・係を分担し、競技会の運営などを協力して行わせる。</li> <li>・前時までの記録を参考に、目標の高さを設定させる。</li> <li>・仲間の健闘やフェアに競う姿を認め合うようにさせる。</li> <li>【評】高跳びの競技会を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
|  | 【評】単元全体の活動や競技会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |
|--|---|

【 備 考 】

走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切り、より高いバーを越えたり、競争したりできるようにする。本単元では、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。

## 単元名 水泳

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付けることができる。  
 (2) 泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができる。  
 (3) 水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ったり、分担した役割を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300111\_001

【準備等】 ビート板、プルブイ、ストップウォッチ、学習カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 水泳の特性を知り、学習の見通しをもつ。<br/> <b>★</b>水泳の特性を知ろう。<br/>         ○水泳の特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○水慣れをする。<br/>         ・水中歩行・ボビング<br/>         ・けのび・伏し浮き・背浮き<br/>         ○スタートの練習</p> <p>○既習の泳ぎの確認をする。<br/>         2～5 平泳ぎの練習をする。<br/> <b>★</b>平泳ぎで長く泳ごう。</p> <p>○キックの練習をする。<br/>         ・壁を使っのキック<br/>         ・ビート板を使っのキック<br/>         ・けのびの姿勢からのキック</p> <p>○呼吸の練習をする。<br/>         ・水中を歩きながらの呼吸練習<br/>         ・ビート板を使っの呼吸練習</p> <p>○長く泳ぐ練習をする。</p> <p>○平泳ぎの計測をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> <p>2～5 クロールの練習をする。<br/> <b>★</b>クロールで速く泳ごう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人やバディの課題を決め、達成のための練習を工夫することを知らせる。</li> <li>・水泳の特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・水泳の事故防止の心得を指導する。</li> <li>・常時バディでの活動を意識させるなど、安全面について確認をする。</li> <li>・水中歩行をしたり、浮きやすい姿勢を保ったりすることで、水に慣れさせる。</li> <li>・水中で、安全に立つ感覚をつかませる。</li> <li>・スタートは水中で脚を壁に付ける姿勢をとらせる。</li> <li>・壁をしっかりと蹴るように意識させる。</li> <li>・抵抗の少ない流線型（ストリームライン）の姿勢を意識させる。</li> <li>・クロールと平泳ぎの泳力チェックを行う。</li> <li>・平泳ぎで泳ぐ距離は、50～100m程度を目安とする。</li> <li>・足首をしっかりと曲げてキックを打つ意識をもたせる。</li> <li>・カエル足で長く伸びたキックが打てるように意識させる。</li> <li>・ビート板を使ったキックの場合でも、姿勢が水平になるように意識させる。</li> <li>・水中からのスタートも意識させて、けのびからのキックの練習をさせる。</li> <li>・水中を歩きながらの呼吸練習で、顔を上げるタイミングをつかませる。</li> <li>・ビート板を使った呼吸の練習では、肘をしっかりと伸ばし、けのびの姿勢を崩さないように意識させる。</li> <li>・バディで泳ぎ方の様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>・手の動き（プル）や足の動き（キック）と呼吸動作を合わせた一連の動き（コンビネーション）を中心に教え合わせる。</li> <li>・プルの動作は、水中で手のひらが肩より前で両手で逆ハート型を描くように水をかくように意識させる。</li> <li>・プルのかき終わりと同時に口を水面上に出して息を吸い、キックの蹴り終わりに合わせて伸び（グライド）をとるように意識させる。</li> <li>・ターンの練習も随時行わせる。</li> <li>・ターンでは、両手で同時に壁にタッチし、膝を胸のほうに横向きに抱え込み蹴り出すようにさせる。</li> </ul> <p>【評】長く泳ぐ練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br/>         ・泳ぐ距離は50m以上を目標とする。<br/>         【評】平泳ぎのフォームと泳いだ距離を通して「知識・技能」を評価する。<br/>         ・計測の様子を観察し、長く泳ぐための泳ぎ方のポイントを学習カードにまとめさせる。<br/>         【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>         ・クロールで泳ぐ距離は、25～50m程度を目安とする。<br/>         ・足の甲までしっかりと伸びたキックをさせる。</p> |

|   |   |
|---|---|
| <p>○キックの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁を使つてのキック</li> <li>・ビート板を使つてのキック</li> <li>・けのびの姿勢からのキック</li> </ul> <p>○呼吸の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水中を歩きながらの呼吸練習</li> <li>・ビート板を使つての呼吸練習</li> </ul> <p>○速く泳ぐ練習をする。</p> <p>○クロールの計測をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> <p>6～9 バタフライの練習をする。</p> <p>★バタフライでバランスよく泳ごう。</p> <p>○キックの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁を使つてのキック</li> <li>・ビート板を使つてのキック</li> <li>・けのびの姿勢からのキック</li> </ul> <p>○呼吸の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビート板を使つての呼吸練習</li> </ul> <p>○バランスをとって泳ぐ練習をする。</p> <p>○バタフライの計測をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一定のリズムで強いキックが打てるように意識させる。</li> <li>・ビート板を使ったキックの場合でも、姿勢が水平になるように意識させる。</li> <li>・水中からのスタートも意識させて、けのびからのキックの練習をさせる。</li> <li>・水中で息を吐ききらせ、顔を横に向けるように意識させる。</li> <li>・ビート板を使った呼吸の練習では、肘をしっかり伸ばすように意識させる。</li> <li>・プルとキックのタイミングに合わせて、ローリングをしながら横向きで呼吸のタイミングをとらせる。</li> <li>・バディ同士で泳ぎ方の様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>・手の動き（プル）や足の動き（キック）と呼吸動作を合わせた一連の動き（コンビネーション）を中心に教え合わせる。</li> <li>・プルの動作は、水中で肘を曲げて、S字を描くように意識させる。</li> <li>・プルの練習をしたい場合は、プルブイを足に挟ませ腕の力のみで進む練習をしてもよいこととする。</li> <li>・ターンの練習も随時行わせる。</li> <li>・ターンでは、片手でプールの壁にタッチし、膝を胸のほうに横向きに抱え込み蹴り出すようにさせる。</li> </ul> <p>【評】速く泳ぐ練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・速く泳ぐことを目標とさせる。</p> <p>【評】クロールのフォームとタイムを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計測の様子を観察し、速く泳ぐための泳ぎ方のポイントを学習カードにまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バタフライで泳ぐ距離は、25～50m程度を目安とする。</li> <li>・足の甲までしっかり伸ばしたキックをさせる。</li> <li>・キックは腰を中心にして、膝を曲げ、両足の甲で水を後方に押し出すように意識させる。</li> <li>・ビート板を使ったキックの場合でも、姿勢が水平になるように意識させる。</li> <li>・水中からのスタートも意識させて、けのびからのキックの練習をさせる。</li> <li>・呼吸とのタイミングについて説明をする。</li> <li>・ビート板を使った呼吸の練習では、肘をしっかり伸ばすように意識させる。</li> <li>・2キック目に口を水面上に出し息を吸うようにさせる。</li> <li>・バディで泳ぎ方の様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>・手の動き（プル）や足の動き（キック）と呼吸動作を合わせた一連の動き（コンビネーション）を中心に教え合わせる。</li> <li>・水中で手のひらが肩より前の状態から、鍵穴（キーホール）の形を描くように水をかかせる。</li> <li>・プルのかき終わりのタイミングをとる2キック目に呼吸するようにさせる。</li> <li>・ターンの練習も随時行わせる。</li> <li>・ターンでは、両手で同時に壁にタッチし、膝を胸のほうに横向きに抱え込み蹴り出すようにさせる。</li> </ul> <p>【評】バランスよく泳ぐ練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスよく泳ぐことを目標とさせる。</li> </ul> <p>【評】バタフライのフォームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計測の様子を観察し、バランスよく泳ぐためのポイントを、学習カードにまとめさせる。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・背泳ぎで泳ぐ距離は、25～50m程度を目安とする。</li> </ul> |
|---|---|



6～9 背泳ぎの練習をする。

★背泳ぎでバランスよく泳ごう。

- キックの練習をする。
  - ・ビート板を使つてのキック
  - ・ビート板無しでのキック
- プルの練習をする。
  - ・立った状態での練習

○バランスをとって泳ぐ練習をする。

○背泳ぎの計測をする。

○活動を振り返り、まとめをする。

10 水泳の競技会をする。

★記録の向上を目指そう。

- 係を分担し、競技会の運営方法を知る。
  - ・出発
  - ・計時
  - ・記録
- 競技会をする。

○活動を振り返り、まとめをする。

- ・足の甲までしっかり伸びたキックをさせる。
- ・腹の上にビート板をのせ、腰が下がらないようにキックをさせる。
- ・両手を頭上で組んで、腰が「く」の字に曲がらないように背中を伸ばし、水平に浮いてキックが打てるように意識させる。
- ・どちらかの手のかきに合わせて呼吸するようにさせる。
- ・立った状態でプルの練習をし、呼吸のタイミングをつかませる。
- ・プルの動作は、肘が肩の横で、60～90度曲がるように意識させる。
- ・空中では、手・肘を高く伸ばした直線的なりカバリーの動きをさせる。
- ・バディで泳ぎ方の様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。
- ・手の動き（プル）や足の動き（キック）と呼吸動作を合わせた一連の動き（コンビネーション）を中心に教え合わせる。
- ・ターンの練習は随時行わせる。
- ・ターンでは、片手でプールの壁にタッチし、膝を胸のほうに横向きに抱え込み蹴り出すようにさせる。
- 【評】 バランスよく泳ぐ練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・バランスよく泳ぐことを目標とさせる。
- 【評】 背泳ぎのフォームから、「知識・技能」を評価する。
- ・計測の様子を観察し、バランスよく泳ぐための泳ぎ方のポイントを学習カードにまとめさせる。
- 【評】 活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・係を分担し、競技会の運営などを協力して行わせる。

- ・前時までの記録を参考に、目標の距離を設定させる。
- ・仲間の健闘やフェアに競う姿を認め合うようにさせる。
- 【評】 競技会を通して、「知識・技能」を評価する。
- 【評】 活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】 単元全体の活動や競技会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

- (1) 水泳の運動種目は、第1学年及び第2学年において、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ及びバタフライの中からクロールまたは平泳ぎを含む二を選択して履修できるようにする。また、本展開例では、2～5時でクロールまたは平泳ぎを選択、6～9時で背泳ぎまたはバタフライを選択する構成となっている。
- (2) 水泳は、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライなどから構成され、浮く、進む、呼吸をするなどのそれぞれの技能を組み合わせによって成立している運動で、それぞれの泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本単元では、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、泳法を身に付けることができるようにする。
- (3) 着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方については、安全への理解を一層深めるため、各学校の実態に応じて取り扱うことができるものとする。

## 単元名 球技(ゴール型)〈バスケットボール〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、バスケットボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方に関連して高まる体力などを理解するとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) バスケットボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ったり、作戦などについての話し合いに参加したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めたり、仲間の学習を援助したり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300112\_001

【準備等】バスケットボール、ビブス、カラーコーン、学習カード、デジタルタイマー

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 バスケットボールの特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★バスケットボールの特性を知ろう。</p> <p>○バスケットボールの特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な行動の仕方を知る。</p> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～6 基本的な技能を練習する。</p> <p>★基本的な技能を身に付けよう。</p> <p>○ドリブルの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグザグドリブル</li> <li>・ドリブルリレーなど</li> </ul> <p>○パスの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェストパス</li> <li>・ショルダーパス</li> <li>・オーバーヘッドパス</li> </ul> <p>○シュートの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリブルシュート</li> <li>・ジャンプシュート</li> <li>・セットシュート</li> </ul> <p>○ストップ、ターンの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストライドストップ</li> <li>・ジャンプストップ</li> <li>・ピボットターン</li> </ul> <p>○オフェンス有利の簡易ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3対2</li> <li>・4対3 など</li> </ul> <p>7～11 空いたスペースを使った作戦を考え、チーム練習をする。</p> <p>★空間をうまく利用しよう。</p> <p>○基本的な技能の確認をする。</p> <p>○空間を使った作戦を考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボールの特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・攻撃を重視し、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開できることをねらいとする。</li> <li>・学習カードには、パスやシュート、個人的技能のポイントを記載し、練習時に有効に活用できるようにする。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利き手だけでなく反対の手も使わせる。</li> <li>・リレーなどを取り入れることによって、意欲化を図る。</li> <li>・パスではスナップをきかせるように意識させる。</li> <li>・パス練習では、キャッチも意識して練習をさせる。</li> <li>・バウンズパスなども随時入れるように練習をさせる。</li> <li>・リングやバックボードをねらい、弧を描くようにシュート練習をさせる。</li> <li>・ドリブルシュートでは、ドリブルからスムーズな動きでシュートに入れるように練習させる。</li> <li>・ドリブルシュートで2拍子のステップを意識してシュートの練習をさせる。</li> <li>・ピボットターンでは、フロントターン、バックターンの両方が使えるように練習させる。</li> </ul> <p>【評】ボール操作の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことを意識させる。</li> <li>・守備者がいない状態でシュートを打つことを意識させる。</li> <li>・簡易ゲームで気付いたことを学習カードに記入させる。</li> </ul> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリブルやパス、シュートなどの基本的な技能の練習をさせる。</li> <li>・攻撃面では、チーム内で空間をうまく利用できるように話し合わせ、作戦を立てさせる。</li> <li>・マークを外して、フリーな状態でボールをもらうことができる位置取りを意識させる。</li> <li>・守備面では、ボールを持っている人をマークできるような位置取りを考えさせる。</li> </ul> <p>【評】作戦を考える活動を通して、「思考・判</p> |

|  |  |
|--|--|
| <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>12～14 リーグ戦をする。<br/>★チームの特徴を生かしてゲームをしよう。<br/>○チームで作戦を立て、練習をする。</p> <p>○ルールを確認する。<br/>○リーグ戦をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <p>断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技能の習熟度に合わせて、人数やコート of 広さ、ルール等を工夫する。</li> <li>・攻撃側は空間をうまく利用できるような作戦を意識させる。</li> <li>・守備側は、空いている場所を作らないような位置取りをさせる。</li> </ul> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・チームの特徴を生かした作戦を考え、チームごとに練習をさせる。</p> <p>・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。</p> <p>【評】リーグ戦を通して、「知識・態度」を評価する。</p> <p>・ゲームを振り返り、次時に生かせるようなまとめをさせる。</p> <p>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】

バスケットボールは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。本単元では、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ゴール型)〈ハンドボール〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、ハンドボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) ハンドボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ったり、作戦などについての話し合いに参加したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めたり、仲間の学習を援助したり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300113\_001

【準備等】 ハンドボール、ビブス、カラーコーン、学習カード、デジタルタイマー

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 ハンドボールの特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★ハンドボールの特性を知ろう。</p> <p>○ハンドボールの特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な行動の仕方を知る。</p> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～6 基本的な技能を練習する。</p> <p>★基本的な技能を身に付けよう。</p> <p>○ドリブルの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグザグドリブル</li> <li>・ドリブルリレー</li> </ul> <p>○パスの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショルダーパス</li> <li>・アンダーハンドパス</li> <li>・ラテラルパス</li> </ul> <p>○シュートの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャンプシュート</li> <li>・ステップシュート</li> <li>・倒れ込みシュート</li> </ul> <p>○オフェンス有利の簡易ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3対2</li> <li>・4対3</li> <li>・5対4 など</li> </ul> <p>7～11 空いたスペースを使った作戦を考え、チーム練習をする。</p> <p>★空間をうまく利用しよう。</p> <p>○基本的な技能の確認をする。</p> <p>○空間を使った作戦を考える。</p> <p>○簡易ゲームをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドボールの特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・攻撃を重視し、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開できることをねらいとする。</li> <li>・学習カードには、パスやシュート、個人的技能のポイントを記載し、練習時に有効に活用できるようにする。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利き手だけでなく反対の手も使わせる。</li> <li>・リレーなどを取り入れることによって、意欲化を図る。</li> <li>・パスではスナップをきかせるように意識させる。</li> <li>・パス練習では、キャッチも意識して練習をさせる。</li> <li>・バウンドさせたパスなども随時入れるように練習をさせる。</li> <li>・ボールをキャッチしてから3歩のリズムでシュートに入れるような足運びをさせる。</li> <li>・ドリブルからのシュートやパスからのシュートなど、条件を変えて練習させる。</li> </ul> <p>【評】 ボール操作の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことを意識させる。</li> <li>・守備者がいない状態でシュートを打つことを意識させる。</li> <li>・簡易ゲームで気付いたことを学習カードに記入させる。</li> </ul> <p>【評】 簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリブルやパス、シュートなどの基本的な技能の練習をさせる。</li> <li>・攻撃面では、チーム内で空間をうまく利用できるように話し合わせ、作戦を立てさせる。</li> <li>・マークを外して、フリーな状態でボールをもらうことができる位置取りを意識させる。</li> <li>・守備面では、ボールを持っている人をマークできるような位置取りを考えさせる。</li> </ul> <p>【評】 作戦を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技能の習熟度に合わせて、人数やコート広さ、ルール等を工夫する。</li> <li>・攻撃側は空間をうまく利用できるように作戦を意識させる。</li> </ul> |

12～14 リーグ戦をする。

★チームの特徴を生かしてゲームをしよう。

○チームで作戦を立て、練習をする。

○ルールを確認する。

○リーグ戦をする。

○活動を振り返り、まとめをする。

・守備側は、空いている場所を作らないような位置取りをさせる。

【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・チームの特徴を生かした作戦を考え、チームごとに練習をさせる。

・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。

【評】リーグ戦を通して、「知識・技能」を評価する。

・ゲームを振り返り、次時に生かせるようなまとめをさせる。

【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

### 【 備 考 】

ハンドボールは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。本単元では、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ゴール型)〈サッカー〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、サッカーの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) サッカーに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ったり、作戦などについての話し合いに参加したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めたり、仲間の学習を援助したり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300114\_001

【準備等】 サッカーボール、ピブス、カラーコーン、学習カード、タイマー

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 サッカーの特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★サッカーの特性を知ろう。</p> <p>○サッカーの特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な行動の仕方を知る。</p> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～6 基本的な技能の練習する。</p> <p>★基本的な技能を身に付けよう。</p> <p>○ドリブルの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インサイドを使ったドリブル</li> <li>・アウトサイドを使ったドリブル</li> <li>・インサイド、アウトサイドを使ったドリブル</li> <li>・ドリブルリレー</li> </ul> <p>○パスの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インサイドキック</li> <li>・インステップキック</li> <li>・インフロントキック</li> </ul> <p>○シュートの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリブルシュート</li> <li>・パス交換からのシュート</li> </ul> <p>○個人的技能の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘディング</li> <li>・リフティング</li> <li>・トラッピング</li> <li>・スローイング</li> </ul> <p>○ミニゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2対2</li> <li>・3対3</li> <li>・4対4 など</li> </ul> <p>7～11 空いたスペースを使った作戦を考え、チーム練習をする。</p> <p>★空間をうまく利用しよう。</p> <p>○基本的な技能の確認をする。</p> <p>○空間に走り込む練習をする。</p> <p>○空間を使った作戦を考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカーの特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・攻撃を重視し、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開できることをねらいとする。</li> <li>・キックや、個人的技能のポイントを記載し、練習時に有効に活用できるようにする。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足の内側、外側を意識して活用させる。</li> <li>・リレーなどを取り入れることによって、意欲化を図る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インサイドキックでは、距離を短めに設定し正確なパスを出すことを意識させる。</li> <li>・インステップキックは、足の甲でボールを捉えるように意識させる。</li> <li>・インフロントキックは、ボールの下部中心を捉えるように意識させる。</li> <li>・インサイドキックやインステップキック、インフロントキックを状況によって使い分けさせる。</li> <li>・ヘディングは額の中央でボールを捉えるようにさせる。</li> <li>・リフティングは、生徒の技能の発達段階に合わせて、足の甲やもも、頭を使って練習させる。</li> <li>・トラッピングは、浮いたボールを中心に行わせる。</li> </ul> <p>【評】 ボール操作の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことを意識させる。</li> <li>・ボールに触る回数を増やすために、人数を少なくしてミニゲームを行う。</li> <li>・ミニゲームで気付いたことを学習カードに記入させる。</li> </ul> <p>【評】 ミニゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリブルやパス、シュートなどの基本的な技能の練習をさせる。</li> <li>・4対3、5対4など攻撃側が数的に有利な状況の中で、空いている空間に走り込む練習をさせる。</li> <li>・マークを外して、フリーな状態でボールをもらうことができる位置取りを意識させる。</li> <li>・攻撃面では、チーム内で、空間をうまく利用</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
| <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>12～14 リーグ戦をする。<br/>★チームの特徴を生かしてゲームをしよう。<br/>○チームで作戦を立て、練習をする。</p> <p>○ルールを確認する。<br/>○リーグ戦をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <p>できるように話し合わせ、作戦を立てさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・守備面では、ボールを持っている人をマークできるような位置取りを考えさせる。</li> </ul> <p>【評】作戦を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技能の習熟度に合わせて、人数やコートの広さ、ルール等を工夫する。</li> </ul> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの特徴を生かした作戦を考え、チームごとに練習をさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。</li> </ul> <p>【評】リーグ戦を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームを振り返り、次時に生かせるようなまとめをさせる。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】

サッカーは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。本単元では、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームが展開できるようにする。

**単元名 球技(ネット型)〈バレーボール〉**
**配当時間 14時間**

- 単元の目標** (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) バレーボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ったり、作戦などについての話し合いに参加したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めたり、仲間の学習を援助したり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

**標準的な展開例**

13300115\_001

**【準備等】** バレーボール、支柱、ネット、得点板、学習カード、学習資料、デジタルタイマー

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 バレーボールの特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★バレーボールの特性を知ろう。</p> <p>○バレーボールの特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○学習カードや資料の使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</p> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～6 バレーボールの基本的な技能を練習する。</p> <p>★基本的な技能を身に付けよう。</p> <p>○パスの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーバーハンドパス</li> <li>・アンダーハンドパス</li> </ul> <p>○サーブの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンダーハンドサーブ</li> <li>・サイドハンドサーブ</li> <li>・オーバーハンドサーブ</li> </ul> <p>○スパイクの練習をする。</p> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>7～11 三段攻撃の練習をし、簡易ゲームをする。</p> <p>★三段攻撃をしよう。</p> <p>○基本の動きの確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パス</li> <li>・レシーブ</li> <li>・サーブ</li> <li>・スパイク</li> </ul> <p>○三段攻撃の練習をする。</p> <p>○簡易ゲームのめあてや作戦を確認する。</p> <p>○簡易ゲームをする。</p> | <p>・ネットを挟んで、攻撃を組み立てたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームの特性を理解させる。</p> <p>・バレーボールの特性や成り立ちを説明する。</p> <p>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</p> <p>・空いた場所への返球、相手の打球に備えた準備姿勢など、ネット型の球技特有の動きや特性について考えさせる。</p> <p>・ルールについては、随時教えていく。</p> <p>・1チーム6～8人で構成する。</p> <p>・ボールに正対してパスを受けるようにする。</p> <p>・返球方向へ腕や体を向けさせる。</p> <p>・2人組でのパス、チームでのパス、ネットを挟んでのパスなどさまざまな練習方法を提示する。</p> <p>・ボールの中心をとらえたサーブを打つことを意識させる。</p> <p>【評】 基本的な技能の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ラリーが続くようにレシーブはワンバウンドさせてから受けてよいなど、ルールを工夫させる。</p> <p>・簡易ゲームで気付いたことを学習カードに記入させる。</p> <p>【評】 簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・対人パス、扇形パス、ランニングパスなどチームに合った練習の仕方を工夫させる。</p> <p>・ねらったところへボールを操作することを意識させる。</p> <p>・レシーブ → トス → スパイクの動きを確認する。</p> <p>【評】 三段攻撃がスムーズにいくよう、声をかけ合うなど協力する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・三段攻撃を意識させる。</p> <p>・レシーブ・パス・サーブを中心とした基本技能習得のためのゲームを行う。</p> <p>・技能の習熟度に応じてネットの高さや、コート広さ、ルール等を工夫する。</p> <p>・相手側のコートの隅やネット際など、空いた場所に返球させる。</p> <p>・守備側は、空いている場所をつくらないような位置取りをする。</p> <p>【評】 簡易ゲームを通して、「知識・技能」を</p> |



|  |   |
|--|---|
| <p>○活動を振り返り，まとめをする。</p> <p>12～14 リーグ戦をする。</p> <p>★チームの特徴を生かしてゲームをしよう。</p> <p>○チームで作戦を立て，練習をする。</p> <p>○ルールを確認する。</p> <p>○リーグ戦でゲームをする。</p> <p>○活動を振り返り，次時の練習計画を立てる。</p> | <p>評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを利用し，次時の課題や，自分のチームに必要な技能・練習法について話し合わせる。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの特徴を生かす練習方法を考え，チームごとに練習をする。</li> <li>・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。</li> </ul> <p>【評】リーグ戦を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自チームの短所を補う練習や，長所を生かした攻撃の仕方について話し合いながら，計画を立てさせる。</li> </ul> <p>【評】チームの特徴に合った作戦や練習方法を考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】

バレーボールは，コート上でネットを挟んで相対し，身体を操作してボールを空いている場所へ返球し，一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。本単元では，基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて，作戦に応じた技能で仲間と連携し，ゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ネット型)〈卓球〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、卓球の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 卓球に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ったり、作戦などについての話し合いに参加したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めたり、仲間の学習を援助したり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300116\_001

【準備等】ラケット、ボール、卓球台、卓球用ネット、得点板、学習カード、学習資料、デジタルタイマー

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 卓球の特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★卓球の特性を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○卓球の特性や成り立ちを知る。</li> <li>○学習のねらいや進め方を知る。</li> <li>○学習カードや資料の使い方を知る。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</li> <li>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</li> </ul> <p>2～4 卓球の基本的な技能を練習する。</p> <p>★基本的な技能を身に付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ラケット・ボールに慣れる練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラケットの握り方の確認</li> <li>・ボールつき・壁打ち</li> <li>・ラケットの両面を使ってボールを打つ</li> </ul> </li> <li>○サービスの練習をする。</li> <li>○ストロークの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォアハンドドライブロング</li> <li>・バックハンドショート</li> </ul> </li> <li>○ラリーゲームをする。</li> </ul> <p>5～7 コートの空いた場所をねらったゲームをする。</p> <p>★打ち方に強弱をつけて攻撃しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な技能の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス</li> <li>・ストローク</li> </ul> </li> <li>○強弱をつけた打ち方を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット際をねらう。</li> <li>・コートの手前や奥をねらう。</li> </ul> </li> <li>○簡易ゲームをする。</li> </ul> <p>8～11 攻撃に必要な技能を使った簡易ゲームをする。</p> <p>★ゲームで得点を取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループごとの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技能の確認</li> <li>・サービス</li> <li>・ストローク</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットを挟んで、攻撃を組み立てたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームの特性を理解させる。</li> <li>・卓球の特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・空いた場所への返球、相手の打球に備えた準備姿勢など、ネット型の球技特有の動きや特性について考えさせる。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> <li>・シングルス・ダブルスどちらでも対応できるように、できるだけ6人以上の偶数人数のグループにする。</li> <li>・ペンホルダーグリップ、シェイクハンドグリップの両方を経験させ、自分に合う握り方を見つけさせる。</li> <li>・生徒1人に1つのラケットとボールを持たせて練習させる。</li> <li>・ボールをラケットの中心付近で捉えることを意識させる。</li> <li>・サービス時の反則についても触れておく。</li> <li>・それぞれのストロークの正確な打点を知らせる。</li> <li>・フォアハンドの練習をした後にバックハンドの練習もするようにさせる。</li> <li>【評】基本的な技能の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・学習したストロークを使って、より長くラリーを続けたペアが勝ちとする。</li> <li>・2人組でネットを挟んで打ち合いをする。</li> <li>・サービスから始め、相手が打ちやすいように返球し、長くラリーが続くようにさせる。</li> <li>・ボールを強く打ったり、弱く打ったりして、コートの空いた場所へ返球できるようにさせる。</li> <li>【評】強弱をつけた打ち方の練習を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・基本的な技能や強弱をつかって得点をとることが意識できる声掛けをする。</li> <li>・打ち返した後は常に定位置に戻り、相手からの返球に備えた準備姿勢をとるように意識させる。</li> <li>・簡易ゲームで気付いたことを学習カードに記入させる。</li> <li>【評】学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

|   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 攻撃に必要な技能を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ つつつき</li> <li>・ ドライブ</li> <li>・ スマッシュ</li> </ul> </li> <li>○ 簡易ゲームをする。</li> <br/> <li>○ 活動を振り返り、まとめをする。</li> <br/> <li>12～14 リーグ戦をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>★特徴を生かしたゲームをしよう。</li> <li>○ 作戦を確認し、グループで練習をする。</li> <li>○ ルールの確認をする。</li> <li>○ リーグ戦でゲームをする。</li> </ul> </li> <br/> <li>○ 活動を振り返り、次時の練習計画を立てる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの技能が必要な場面を説明する。</li> <li>【評】 攻撃に必要な技能の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <br/> <li>・ 練習した攻撃の方法をゲームで行うよう、意識させる。</li> <li>【評】 簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 学習カードを利用し、攻撃に必要な技能が身に付いたか振り返りをする。</li> <li>【評】 活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <br/> <li>・ 自分の作戦に合った練習をする。</li> <br/> <li>・ 正規のルールでゲームをさせる。</li> <li>・ 守備の際には、相手の動きに合わせて、コート上の空いている場所をカバーするよう意識させる。</li> <li>・ 相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。</li> <li>【評】 リーグ戦を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 自分の特徴を生かした作戦が効果的であったかを振り返り、次時の活動に反映させる。</li> <li>【評】 次時の練習計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】 単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |
|---|---|

【 備 考 】  
卓球は、コート上でネットを挟んで相対し、身体やラケットを操作してボールを空いている場所へ返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。本単元では、基本的な技能を発展させて、作戦に応じた技能でゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ネット型)〈ソフトテニス〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、ソフトテニスの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) ソフトテニスに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ったり、作戦などについての話し合いに参加したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めたり、仲間の学習を援助したり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300117\_001

【準備等】ラケット、ボール、ネット、得点板、学習カード、学習資料

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 ソフトテニスの特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★ソフトテニスの特性を知ろう。</p> <p>○ソフトテニスの特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○学習カードや学習資料の使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</p> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～4 ソフトテニスの基本的な技能を練習する。</p> <p>★基本的な技能を身に付けよう。</p> <p>○ラケット・ボールに慣れる練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラケットの握り方の確認</li> <li>・ボールつき（1人、2人組）</li> <li>・ワンバウンドのボール打ち</li> </ul> <p>○サービスの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンダーハンドサービス</li> <li>・オーバーハンドサービス</li> </ul> <p>○ストロークの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォアハンドストローク</li> <li>・バックハンドストローク</li> </ul> <p>○ラリーゲームをする。</p> <p>5～7 コートの空いた場所をねらったゲームをする。</p> <p>★打ち方に強弱をつけて攻撃しよう。</p> <p>○基本的な技能の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス</li> <li>・ストローク</li> </ul> <p>○強弱をつけた打ち方を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット際をねらう。</li> <li>・コートの手前や奥をねらう。</li> </ul> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>8～11 攻撃に必要な技能を使った簡易ゲームをする。</p> <p>★ゲームで得点を取ろう。</p> <p>○グループごとの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技能の確認</li> <li>・ラリー</li> <li>・サービス</li> </ul> <p>○攻撃に必要な技能を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボレー</li> <li>・ロビング</li> <li>・スマッシュ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットを挟んで、攻撃を組み立てたり、防御を工夫したりして、ボールを打ち合うゲームの特性を理解させる。</li> <li>・ソフトテニスの特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・空いた場所への返球、相手の打球に備えた準備姿勢など、ネット型特有の動きや特性について考えさせる。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> <li>・1グループは、偶数の人数で構成する。</li> <li>・ウェスタングリップとイースタングリップの違いを知らせる。</li> <li>・生徒1人に1つのラケットとボールを持たせて練習させる。</li> <li>・サービスで得点になるコートの範囲やサービス時のルールについて説明する。</li> <li>・ラケットの中心付近でボールをとらえることを意識させる。</li> <li>・返球方向へラケットの面を向けるよう、意識させる。</li> <li>【評】基本的な技能の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・学習したストロークを使って、より長くラリーを続けたペアの勝ちとする。</li> <li>・2人組でネットを挟んで打ち合いをする。</li> <li>・サービスから始め、相手が打ちやすいように返球し、長くラリーが続くようにする。</li> <li>・ボールを強く打ったり、弱く打ったりして、コートの空いた場所へ返球できるようにさせる。</li> <li>【評】強弱をつけた打ち方の練習を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・基本的な技能や、強弱を使って得点をとるようなことが意識できる声掛けをする。</li> <li>・打ち返した後は常に定位置に戻り、相手からの返球に備えた準備姿勢をとるように意識させる。</li> <li>・簡易ゲームで気付いたことを学習カードに記入させる。</li> <li>【評】学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・それぞれの技能が必要な場面を説明する。</li> <li>【評】攻撃に必要な技能の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

|   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○簡易ゲームをする。</li> <li>○活動を振り返り，まとめをする。</li> </ul> <p>12～14 ダブルスでリーグ戦をする。</p> <p>★仲間との連携を生かしたゲームをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアで作戦を確認し，練習をする。</li> <li>○ルールを確認する。</li> <li>○リーグ戦でゲームをする。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○活動を振り返り，次時の練習計画を立てる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習した攻撃の方法をゲームで行うよう，意識させる。</li> <li>【評】簡易ゲームを通して，「知識・技能」を評価する。</li> <li>・学習カードを利用し，攻撃に必要な技能が身に付いたか振り返りをさせる。</li> <li>【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ダブルスのペアで考えた作戦に合った練習をさせる。</li> <li>・正規のダブルスのルールでゲームをさせる。</li> <li>・守備の際には，味方の動きに合わせて，コート上の空いている場所をカバーさせる。</li> <li>・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。</li> <li>【評】リーグ戦を通して，「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ペアで立てた作戦が効果的であったかを振り返り，次時の活動に反映させる。</li> <li>【評】次時の練習計画を立てる活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |
|---|--|

【 備 考 】

ソフトテニスは，コート上でネットを挟んで相対し，身体やラケットを操作してボールを空いている場所へ返球し，一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。本単元では，基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて，作戦に応じた技能で仲間と連携し，ゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ネット型)〈バドミントン〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、バドミントンの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) バドミントンに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ったり、作戦などについての話し合いに参加したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めたり、仲間の学習を援助したり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300118\_001

【準備等】ラケット、シャトル、支柱、ネット、得点板、学習カード、学習資料

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 バドミントンの特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★バドミントンの特性を知ろう。</p> <p>○バドミントンの特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○学習カードや資料の使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</p> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～4 バドミントンの基本的な技能を練習する。</p> <p>★基本的な技能を身に付けよう。</p> <p>○ラケット・シャトルに慣れる練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・止まってシャトルを打つ。</li> <li>・移動しながらシャトルを打つ。</li> <li>・ラケットの両面を使ってシャトルを打つ。</li> </ul> <p>○サービスの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショートサービス</li> <li>・ロングサービス</li> </ul> <p>○ストロークの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンダーハンドストローク</li> <li>・オーバーヘッドストローク</li> </ul> <p>○ラリーゲームをする。</p> <p>5～7 コートの空いた場所をねらったゲームをする。</p> <p>★打ち方に強弱をつけて攻撃しよう。</p> <p>○基本的な技能の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス</li> <li>・ストローク</li> </ul> <p>○強弱をつけた打ち方を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット際をねらう。</li> <li>・コートの手前や奥をねらう。</li> </ul> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>8～11 攻撃に必要な技能を使った簡易ゲームをする。</p> <p>★ゲームで得点を取ろう。</p> <p>○グループごとの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技能の確認</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットを挟んで、攻撃を組み立てたり、防御を工夫したりしてシャトルを打ち合うゲームの特性を理解させる。</li> <li>・バドミントンの特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・空いた場所への返球、相手の打球に備えた準備姿勢など、ネット型の球技特有の動きや特性について考えさせる。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> <li>・1 グループは、偶数の人数で構成する。</li> <li>・ウェスタングリップとイースタングリップの違いを知らせる。</li> <li>・生徒1人に1つのラケットとシャトルを持たせて練習させる。</li> <li>・サービスで得点になるコートの範囲やサービス時のフォルトについて説明する。</li> <li>・ラケットの中心付近でシャトルを捉えることを意識させる。</li> <li>・アンダーハンドストロークについては、フォアハンドストローク、バックハンドストロークどちらの打ち方も練習させる。</li> <li>・オーバーヘッドストロークについては、フォアハンドストロークのみ練習させる。</li> <li>・返球方向へラケットの面を向けるよう、意識させる。</li> <li>・ラケットハンドと同じ側の足を前方に踏み出しながら打つようにさせる。</li> <li>【評】基本的な技能の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・学習したストロークを使って、より長くラリーを続けたペアの勝ちとする。</li> <li>・2人組でネットを挟んで打ち合いをする。</li> <li>・サービスから始め、相手が打ちやすいように返球し、長くラリーが続くようにさせる。</li> <li>・シャトルを強く打ったり、弱く打ったりしてコートの空いた場所へ返球できるようにさせる。</li> <li>【評】強弱をつけた打ち方の練習を通して「知識・技能」を評価する。</li> <li>・基本的な技能や強弱をつかって得点をとるようなことが意識できる声掛けをする。</li> <li>・打ち返した後は常に定位置に戻り、相手からの返球に備えた準備姿勢をとるように意識させる。</li> <li>・簡易ゲームで気付いたことを学習カードに記入させる。</li> <li>【評】学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラリー</li> <li>・サービス</li> </ul> <p>○攻撃に必要な技能を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアピン</li> <li>・プッシュ</li> <li>・スマッシュ</li> <li>・ドロップ</li> </ul> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> <p>12～14 ダブルスでリーグ戦をする。</p> <p>★仲間との連携を生かしたゲームをしよう。</p> <p>○ペアで作戦を確認し、練習をする。</p> <p>○ルールを確認する。</p> <p>○リーグ戦でゲームをする。</p> <p>○活動を振り返り、次時の練習計画を立てる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの技能が必要な場面を説明する。</li> </ul> <p>【評】攻撃に必要な技能の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習した攻撃の方法をゲームで行うよう、意識させる。</li> </ul> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを利用し、攻撃に必要な技能が身に付いたか振り返りをする。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダブルスのペアで考えた作戦に合った練習をさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正規のダブルスのルールでゲームをさせる。</li> <li>・守備の際には、味方の動きに合わせて、コート上の空いている場所をカバーさせる。</li> <li>・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。</li> </ul> <p>【評】リーグ戦を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで考えた作戦が効果的であったかを振り返り、次時の活動に反映させる。</li> </ul> <p>【評】次時の練習計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|--|

#### 【 備 考 】

バドミントンは、コート上でネットを挟んで相対し、身体やラケットを操作してシャトルを空いている場所へ返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。本単元では、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ベースボール型)〈ソフトボール〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、ソフトボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) ソフトボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ったり、作戦などについての話し合いに参加したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めたり、仲間の学習を援助したり、健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300119\_001

【準備等】 バット、ボール、ベース、グローブ、ティー、学習カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 ソフトボールの特性を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★ソフトボールの特性を知ろう。</p> <p>○ソフトボールの特性や成り立ちを知る。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な行動の仕方を知る。</p> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～6 基本的な技能の練習する。</p> <p>★基本的な技能を身に付けよう。</p> <p>○キャッチボールをする。</p> <p>○走塁の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一塁までの走塁</li> <li>・ベースランニングなど</li> </ul> <p>○守備の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴロの捕球</li> <li>・フライの捕球</li> <li>・シートノックなど</li> </ul> <p>○バッティングの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ティーバッティング</li> <li>・トスバッティングなど</li> </ul> <p>7～11 簡易ゲームをする。</p> <p>★打ったり守ったりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な技能の練習をする。</li> <li>○ティーボールゲームをする。</li> </ul> <p>○スローピッチソフトボールゲームをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトボールの特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・攻撃を重視して、易しい投球を打ち返したり定位置で守ったりする攻防を展開できることをねらいとする。</li> <li>・打ち方や守り方などの基本的な技能のポイントを記載し、練習時に有効に活用できるようにする。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本となるグラブの使い方（キャッチング）やボールの握り方や投げ方を確認する。</li> <li>・ゴロやフライなども取り入れることにより、捕球の練習にもなることを意識させる。</li> <li>・全力で走りながら、タイミングを合わせて塁を駆け抜けさせる。</li> <li>・塁上に止まる場合は、減速したり反転したりして止まるようにさせる。</li> <li>・ゴロの捕球では、低い姿勢でボールの正面に入り、両足を前後にやや開いて捕球することを意識させる。</li> <li>・フライの捕球では、打球の落下点に入り、ボールの落下に合わせて胸に引きつけ捕球することを意識させる。</li> <li>・地面と水平になるようにバットを振り抜くようにさせる。</li> <li>・投球の方向と平行に立ち肩越しにバットを構えるように意識させる。</li> <li>・タイミングを合わせてボールを打ち返すように意識させる。</li> </ul> <p>【評】基本的な技能の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッチボールを中心に練習させる。</li> <li>・ティーボールゲームは、止まっているボールを思い切り遠くへ飛ばしたり、打球の方向を考えたりして打つゲームである。</li> <li>・ポジションの役割に応じてベースカバーやバックアップの基本的な動きを意識させる。</li> <li>・スローピッチソフトボールゲームは、ピッチャーがゆっくり山なりの打ちやすいボールを投げ、バッターがそれを打つ。守備は10人でアウトを取りやすくしたゲームである。</li> <li>・外野の人数を増やしたり、内野の人数を増やしたりしてヒットゾーンを狭くしてゲームをさせる。</li> <li>・簡易ゲームで気付いたことを学習カードに記入させる。</li> </ul> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |



12～14 リーグ戦をする。

★チームの特徴を生かしてゲームをしよう。

○チームで作戦を立て、練習をする。

○ルールを確認する。

○リーグ戦をする。

○活動を振り返り、まとめをする。

・チームの特徴を生かした作戦を考え、チームごとに練習をさせる。

・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。

【評】リーグ戦を通して、「知識・技能」を評価する。

・ゲームを振り返り、次時に生かせるようなまとめをさせる。

【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

ソフトボールは、身体やバットの操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し、一定の回数内で相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。本単元では、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームが展開できるようにする。

## 単元名 武道(柔道)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 柔道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ったり、分担した役割を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300120\_001

【準備等】柔道着、学習カード、学習資料、ラインテープ、タイマー

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 柔道の特性について知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★柔道の特性を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○柔道の歴史・礼儀・作法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史</li> <li>・礼</li> <li>・正座</li> </ul> </li> <li>○柔道着の扱い方を知る。</li> <li>○グループ分けをする。</li> </ul> <p>2 相手の動きに応じた基本動作の練習をする。</p> <p>★基本動作や受け身を身に付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本動作の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢と組み方</li> <li>・進退動作</li> <li>・崩しと体さばき</li> </ul> </li> <li>○受け身の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・後ろ受け身</li> <li>・横受け身</li> <li>・前回り受け身</li> </ul> </li> </ul> <p>3～4 固め技（抑え技）の練習をする。</p> <p>★抑え技で攻防を楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○抑え技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・けさ固め</li> <li>・横四方固め</li> </ul> </li> <li>○抑え技の試合をする。</li> </ul> <p>5～8 グループで投げ技の練習をする。</p> <p>★自分の得意技を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○支え技系の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・膝車</li> <li>・支え釣り込み足</li> </ul> </li> <li>○刈り技系の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大外刈り</li> </ul> </li> <li>○まわし技系の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体落とし</li> <li>・大腰</li> </ul> </li> <li>○得意技を見つけよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の技の中から得意技を決める。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道は相手と組み合って、基本となる技や得意技、連続技を用いて相手と攻防を展開しながら、互いに「一本」を目指して勝敗を競い合う運動であることを理解させる。</li> <li>・柔道の始まりについて触れる。</li> <li>・伝統的な行動の仕方を理解させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道着の着方やたたみ方、保管場所等を指示する。</li> <li>・身長や体重を考慮した4～5人編制のグループで活動することを伝える。</li> <li>・けがの予防のため、毎時間受け身の練習を行う。</li> <li>・相手の動きに応じやすい自然体で組ませるようにさせる。</li> <li>・進退動作では、すり足、歩み足、継ぎ足で体の移動をするようにさせる。</li> <li>・崩しでは、相手の体勢を不安定にし、技をかけやすい状態をつくるようにさせる。</li> <li>・受け身では、投げられた際に安全に身を処するための動作であることを理解させる。</li> <li>・あごを引き、頭を上げることを徹底させる。</li> <li>・受け身の練習では細心の注意をするようにする。</li> </ul> <p>【評】基本動作や受け身の練習に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・固め技には、抑え技、絞め技、関節技があるが、生徒の心身の発達段階から、中学校では抑え技のみを扱うようにする。</li> <li>・取は、「けさ固め」「横四方固め」の抑え技を練習させる。</li> <li>・受は、抑えられた状態から、相手を体側や頭方向に返すようにさせる。</li> <li>・背中合わせの長座の姿勢から試合をする。</li> <li>・ぶつからないように、回る方向を決めて始める。両膝は畳についているようにさせる。</li> </ul> <p>【評】抑え技の練習や試合を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・投げ技では、2人1組の対人で、崩し、体さばき、受け身を活用して、投げ技の基本となる技を扱うようにする。</li> <li>・グループで協力したり、話し合わせたりして技の練習をさせる。</li> <li>・引き手は必ず最後まで引いておくことを徹底しておく。</li> <li>・投げ技の練習は、低い位置（片膝立ち）から投げたり、ゆっくりしたスピードで投げたりと段階を踏んだ練習を行うように工夫させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同体になって倒れないようにする。</li> <li>・受け身は、あごを引き頭を上げることを徹底させる。</li> <li>・初めは、相手を背中に乗せたおいてから投げさせ、「取」「受」とも慣れさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の技の中から、得意技を選び、練習をさ</li> </ul> |

- ・技のかけ方などを話し合う。

9～10 簡単なルールで試合をする。

★得意技を使って、一本を取ろう。

○ルールを確認する。

- ・一本・・・背中が畳に付いた場合
- ・技あり・・・もう少しで背中がつきそうな場合

○試合をする。

○単元のまとめをする。

せる。

- ・練習の仕方を工夫して活動しているグループを紹介する。
- ・基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりすることを意識して話し合わせる。

- ・気付いたことを学習カードに記入させる。

【評】グループでの話し合い活動や学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ラインテープを用いて、柔道場を4つの区分に分ける。

- ・試合時間や押さえ込みの時間を確認させる。

- ・同じ階級のグループ対抗とする。

- ・一本を目指して、積極的に技をかけるよう助言をする。

- ・仲間の試合を観察し、よいところを認め合ったり、助言し合ったりさせる。

【評】試合を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・感想の発表や自己評価などをさせる。

【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】単元全体の活動や試合で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

### 【 備 考 】

柔道では、基本動作や基本となる技ができるようになり、得意技を身に付け、相手の動きの変化に対応した攻防ができるようにする。また、伝統的な行動の仕方を守ることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、礼に代表される伝統的な考え方を学ぶようにさせる。

## 単元名 武道(剣道)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 剣道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ったり、分担した役割を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300121\_001

【準備等】竹刀、防具、手ぬぐい、赤旗、白旗、学習カード、タイマー

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 剣道の特性について知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★剣道の特性を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○剣道の歴史・礼儀・作法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史</li> <li>・立礼や蹲踞</li> <li>・竹刀の各部の名称や納め方</li> </ul> </li> <li>○防具の扱い方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・垂れ、胴、手ぬぐい、面の順で防具を着ける。</li> </ul> </li> <li>○グループ分けをする。</li> </ul> <p>2～3 基本動作の練習をする。</p> <p>★基本動作や基本打突を身に付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本動作の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・構え</li> <li>・体さばき</li> </ul> </li> <li>○基本打突の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・素振り</li> <li>・正面打ち</li> <li>・左右面打ち</li> <li>・胴打ち</li> <li>・小手打ち</li> </ul> </li> </ul> <p>4～6 しかけ技と応じ技の練習をする。</p> <p>★相手の動きに応じた技を身に付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二段の技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小手一面</li> <li>・面一胴</li> </ul> </li> <li>○引き技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き胴</li> </ul> </li> <li>○抜き技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・面抜き胴</li> </ul> </li> </ul> <p>7～8 グループで技の練習をする。</p> <p>★簡易な攻防をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習の技を確認し、練習する。</li> <li>○グループで簡易な攻防のある練習をする。</li> </ul> <p>9～10 簡単な試合をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道は竹刀を使って、基本となる技や得意技を用いて相手と攻防を展開しながら、互いに「一本（有効打突）」を目指して相手の構えを崩して打ったり、受けたりして勝敗を競い合う運動であることを理解させる。</li> <li>・剣道の始まりについて触れる。</li> <li>・相手を直接竹刀で打つことから、相手を尊重するマナーが重要であることを理解させる。</li> <li>・竹刀の各部の名称などを確認する。</li> <li>・伝統的な行動の仕方を理解させる。</li> <li>・防具の着脱・しまい方を確実に身に付けさせる。</li> <li>・防具は正座をして着用するようにさせる。</li> <li>・4～5人編制のグループとし、単元を通して活動することを伝える。</li> <li>・技の基本となる体の動き、竹刀の動きや形を正しく理解させる。</li> <li>・段階的な指導の関連から「突き技」は扱わないようにする。</li> <li>・構えでは、相手の動きに応じた自然体で中段に構えるようにさせる。</li> <li>・体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足をするようにさせる。</li> <li>・竹刀の動きや形を正しく理解させる。</li> <li>・素振りでは、発声・竹刀さばきを同時に行うようにさせる。</li> <li>・正面打ちが打突の仕方の基本となるため、段階的に習得させる。</li> <li>・受け方では、面打ちをした生徒が進みやす体さばきを意識させる。</li> </ul> <p>【評】基本動作や基本打突の練習に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しかけ技は、二段の技、引き技を、応じ技では、抜き技を扱うようにする。</li> <li>・二つの技の連続ではあるが、一本一本を確実に打ち込ませる。</li> <li>・最初の打ち込みに対して隙ができたところへ次の打ち込みをするようにさせる。</li> <li>・はじめはゆっくり行わせ、慣れるに従ってスピードを上げるようにさせる。</li> <li>・相手と接近した状態から始めさせる。</li> <li>・竹刀のつばとつばが触れ合った状態から、送り足で、後方あるいははななめ後方へ退きながら打突するようにさせる。</li> <li>・相手の面を打つときに、体をかわして胴を打つようにさせる。</li> <li>・相手の小手を打つときに、体をかわして面を打つようにさせる。</li> </ul> <p>【評】しかけ技や応じ技の練習を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対人での練習を通して、技の動きを正しく行えるようにさせる。</li> <li>・基本動作や基本となる技のポイントを確認させながら、練習をさせる。</li> <li>・気付いたことを学習カードに記入させる。</li> </ul> <p>【評】技の練習やグループでの話し合い活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

|  |  |
|--|--|
| <p>★一本を取ろう。</p> <p>○ルールを確認する。<br/>○試合をする。</p> <p>○単元のまとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・試合者は、立礼をして前進し、剣先が触れるところで蹲踞する。</li> <li>・「はじめ」の合図で開始させる。</li> <li>・一本を目指して、積極的に技をかけるよう助言をする。</li> <li>・仲間の試合を観察し、よいところを認め合ったり、助言し合ったりさせる。</li> </ul> <p>【評】試合を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想の発表や自己評価などをさせる。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動や試合で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】  
 剣道では、基本動作や基本となる技を確実に身に付け、基本動作や基本となる技を用いて、相手の動きの変化に対応した攻防ができるようにする。また、伝統的な行動の仕方を守ることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、礼に代表される伝統的な考え方を学ぶようにさせる。

## 単元名 武道(相撲)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、相撲の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、押したり寄ったりするなどの簡易な攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 相撲に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ったり、分担した役割を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたり、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ったりしようとする。

## 標準的な展開例

13300122\_001

【準備等】まわし、学習カード

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 相撲の特性について知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★相撲の特性を知ろう。</p> <p>○相撲の歴史・礼儀・作法を知る。</p> <p>○まわしの付け方を知る。</p> <p>○グループ分けをする。</p> <p>2～3 基本動作の練習をする。</p> <p>★基本動作を身に付けよう。</p> <p>○蹲踞姿勢と塵浄水の練習をする。</p> <p>○四股、伸脚、腰割りの練習をする。</p> <p>○中腰の構えから運び足の練習をする。</p> <p>○調体と仕切りからの立ち合いの練習をする。</p> <p>○受け身の練習をする。</p> <p>4～6 押し、寄り、いなしの練習をする。</p> <p>★押し、寄り、いなしを身に付けよう。</p> <p>○押しの練習をする。</p> <p>○寄りの練習をする。</p> <p>○いなしの練習をする。</p> <p>7～8 投げ技の練習をする。</p> <p>★投げ技を身に付けよう。</p> <p>○出し投げの練習をする。</p> <p>○グループで協力し、投げ技の練習をする。</p> <p>9～10 簡単な試合をする。</p> <p>★基本となる技を積極的に活用しよう。</p> | <p>・相撲は素手で相手と直接組み合って、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開しながら、相手を崩して押ししたり、寄ったり、投げたりして勝敗を競い合う運動である。</p> <p>・相撲の始まりについて触れる。</p> <p>・伝統的な行動の仕方を確認する。</p> <p>・まわしの付け方を学習カードを利用して説明する。</p> <p>・4～5人編制のグループとし、単元を通して活動することを伝える。</p> <p>・蹲踞姿勢から塵浄水に入れるようにする。</p> <p>・四股の構えから、膝を伸ばして真横にゆっくり上げ、つま先から踏み降ろすようにさせる。</p> <p>・腰割りでは、四股の姿勢から両手で押すようにさせる。</p> <p>・中腰の構えからすり足で、かかとから小刻みに前進させる。</p> <p>・調体では、右手の肘を右体側に、右攻めの姿勢をとり、右手を突き上げながら、右足を踏み込ませる。(左も同様に行わせる。)</p> <p>・仕切りでは、四股の姿勢から腰を深くおろし両肘を膝頭に置かせる。</p> <p>・立ち合いでは、片方ずつ両手が着いたら立ち上がるようにさせる。</p> <p>・受け身では、頭が地面に触れないように手・肘・肩・背中の順に着かせる。</p> <p>【評】基本動作の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・2人1組の対人で、中腰の構えや運び足を用いて押し、寄りの技ができるようにする。なお、段階的な指導の関連から「突き」は扱わないようにする。</p> <p>・押しは、相手の両脇の下を押し、擦り足で前に進むように練習させる。</p> <p>・寄りとは、相手のまわしを取って、それを強く引きつけて体を密着させ、相手の重心をくずし、土俵の外に出すように練習させる。</p> <p>・いなしは、体を開いて押しを横にかかわすように練習させる。</p> <p>【評】押し、寄り、いなしの練習を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・2人1組の対人で、中腰の構えや運び足、受け身を用いて投げ技ができるようにする。</p> <p>・寄りから体を開き、側方に出すように投げさせる。</p> <p>・基本動作や基本となる技のポイントを確認させながら練習させ、出し投げの仕方のこつを見つけさせる。</p> <p>・気付いたことを学習カードに記入させる。</p> <p>【評】投げ技の練習を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

- ルールを確認する。
- 試合をする。

- 単元のまとめをする。

- ・ グループ対抗で試合をさせる。
- ・ 仲間の試合を観察し、よいところを認め合ったり、助言し合ったりさせる。
- 【評】 試合を通して、「知識・技能」を評価する。
- 【評】 活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】 単元全体の活動や試合で評価し合うを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

相撲では、基本動作や基本となる技を確実に身に付け、基本動作や基本となる技を用いて、相手の動きの変化に対応した攻防ができるようにする。また、伝統的な行動の仕方を守ることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、礼に代表される伝統的な考え方を学ぶようにさせる。

単元名 **ダンス(フォークダンス, 創作ダンス, 現代的なリズムのダンス)** 配当時間 **9時間**

単元の目標 (1) 感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、関連して高まる体力を理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をすることができる。  
 (2) 表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。  
 (3) ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助したり、交流などの話し合いに参加したり、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めたり、健康・安全に気を配ったりしようとする

### ①フォークダンスと創作ダンスの展開例

13300123\_001

【準備等】CDラジカセ, CD, 小道具(新聞紙, 布, ゴムなど), 学習資料, 学習カード, 鑑賞カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 ダンスの特性を知り、学習の見通しをもつ。<br/> <b>★ダンスの特性を知ろう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンスの特性や成り立ちを知る。</li> <li>○学習のねらいや進め方を知る。</li> <li>○学習カードや学習資料の使い方をを知る。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</li> <li>○音楽のリズムに合わせてダンスウォームアップをする。</li> </ul> <p>2～3 フォークダンスをする。<br/> <b>★伝承されてきた踊りの特徴をとらえて踊ろう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンスウォームアップをする。</li> <li>○既習のダンスを踊る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>＜民謡＞                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿波踊り ・ソーラン節 ・エイサー</li> </ul> </li> <li>＜フォークダンス＞                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイム・マイム ・コロブチカ ・グスタフス・スコール</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○民謡やフォークダンスを大づかみに覚えて踊る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>＜民謡＞                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・花笠音頭 ・春駒 ・炭坑節 ・鹿児島おはら節</li> </ul> </li> <li>＜フォークダンス＞                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オクラホマ・ミクサー ・バージニア・リール</li> <li>・ドードレブスカ・ポルカ</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○民謡やフォークダンスの難しい踊り方を取り出して踊る             <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体練習</li> <li>・グループ練習</li> </ul> </li> <li>○みんなで踊り、交流をする。</li> </ul> <p>4～5 いろいろな題材による即興表現をする。<br/> <b>★テーマに合わせて、全身を使って表現しよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンスウォームアップをする。</li> <li>○与えられたテーマに合わせて即興的に表現する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガム ・風船 ・ボール</li> </ul> </li> <li>○小グループで即興表現をする。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃんけん ・風に揺れる木 ・花と蝶</li> </ul> </li> <li>○活動を振り返り、まとめをする。</li> </ul> <p>6～8 グループで作品を創作する。<br/> <b>★テーマを決めて作品を作ろう。</b></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージを捉えた表現や踊りでの交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにする運動であることを知らせる。</li> <li>・ダンスの特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・感じたことを個性に応じて表現することになるので、正しい鑑賞態度と、恥ずかしがらずに全身を使って表現することが大切であることを知らせる。</li> <li>・曲を流し、毎時間の授業の始めにウォーミングアップとして行わせる。</li> <li>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。<br/> <b>【評】</b>ダンスを踊る姿を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・資料やVTRなどで踊りを紹介し、日本や外国の風土や風習、歴史などの踊りの由来を理解させる。</li> <li>・始めは、民謡やフォークダンスそれぞれの曲調や踊りの特徴を感じ、大づかみに覚えて踊るようにさせる。</li> <li>・難しいステップや動き方を取り出して練習させる。</li> <li>・全体指導した後は、小グループに分かれ、教え合いながら練習させる。</li> <li>・仲間のよい動きや表現などを指摘し合うよう指示する。<br/> <b>【評】</b>みんなで踊り、交流する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。</li> <li>・BGMを流し、リズムに乗りながら即興表現をさせる。</li> <li>・動きが思いつかない場合は、仲間の動きをまねるように指示をする。</li> <li>・2人組, 3人組などの小グループで活動させる。</li> <li>・毎時間異なるテーマで、グループは固定せず多くの仲間とかかわることができるようにする。</li> <li>・テーマからイメージを広げ、動きを誇張したり、繰り返したり、動きに変化を付けたりして、ひと流れの動きで表現させる。<br/> <b>【評】</b>即興表現をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・学習カードに記入させる。<br/> <b>【評】</b>振り返りの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |



|  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンスウォームアップをする。</li> <li>○多様なテーマの中から題材を選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>＜身近な生活や日常動作＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツいろいろ</li> <li>・働く人々</li> </ul> </li> <li>＜対極の動きの連続＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・走るー跳ぶー転がる</li> <li>・走るー止まる</li> </ul> </li> <li>・伸びるー縮む</li> </ul> </li> <li>○多様な感じ＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・激しい</li> <li>・急変する</li> <li>・軽快な</li> <li>・やわらかい</li> <li>・鋭い</li> </ul> </li> <li>○群（集団）の動き＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・集まるーとび散る</li> <li>・磁石</li> <li>・エネルギー</li> <li>・対決</li> </ul> </li> <li>○もの（小道具）を使う＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞紙</li> <li>・布</li> <li>・ゴム</li> </ul> </li> <li>○題材からイメージを出し合う。</li> <li>○イメージに合った動きを創作する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スローモーション</li> <li>・ダイナミックな動き</li> <li>・緩急や強弱</li> <li>・変化やめりはり</li> <li>・密集や分散</li> </ul> </li> <li>○ダンスの構成を考え、練習する。</li> </ul> <p>9 発表会をする。</p> <p>★大きく美しい表現で作品を発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンスウォームアップをする。</li> <li>○鑑賞の観点を知る。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○グループで練習する。</li> <li>○作品を発表する。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○感想を発表し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。</li> <li>・1グループ3～5人とする。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインストーミングを行い、言葉に表すことでイメージを広げさせる。</li> <li>・体を動かしながら、いろいろな動きを創作させる。</li> </ul> <p>【評】動きを創作する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマにふさわしい変化と起伏や場の使い方で、「はじめーなかーおわり」の構成で表現して踊るよう伝える。</li> </ul> <p>【評】構成を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。</li> <li>・鑑賞カードを使用し、鑑賞を行うことを知らせる。</li> <li>・表現したいことが分かる、動きの工夫がされている、作品の構成がよい、気持ちを合わせているなど、鑑賞の観点を押さえておく。</li> <li>・自分たちで創作した作品の動きを確認する。</li> </ul> <p>【評】発表する姿を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】感想を発表し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動や発表会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|---|

#### 【 備 考 】

- (1) ダンスは、「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることを楽しみや喜びを味わうことのできる運動である。ここでは、イメージを捉えたり深めたりする表現、伝承されてきた踊り、リズムに乗って全身で踊ることや、これらの踊りを通じた交流や発表ができるようにする。
  - (2) 標準的な展開例として、①フォークダンスと創作ダンス②フォークダンスと現代的なリズムのダンスの2つを示した。2つの展開例のうち、1つを選択して履修することを基本とする。
- 創作ダンスの多様なテーマと題材や動きの例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P.171参照  
日本の民謡、外国のフォークダンスの踊りと動きの例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P.172～P.173参照  
現代的なリズムのダンスのリズムと動きの例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P.174参照

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 単元名   | ダンス(フォークダンス, 創作ダンス, 現代的なリズムのダンス)  | 配当時間 | 9時間 |
| 単元の目標 | (1) 感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、関連して高まる体力を理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をすることができる。<br>(2) 表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。<br>(3) ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助したり、交流などの話し合いに参加したり、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めたり、健康・安全に気を配ったりしようとする |      |     |

## ②フォークダンスと現代的なリズムのダンスの展開例

13300124\_001

【準備等】CDラジカセ、CD、学習資料、学習カード、鑑賞カード

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 ダンスの特性を知り、学習の見通しをもつ。<br/>★ダンスの特性を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンスの特性や成り立ちを知る。</li> <li>○学習のねらいや進め方を知る。</li> <li>○学習カードや学習資料の使い方をを知る。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</li> <li>○音楽のリズムに合わせてダンスウォームアップをする。</li> </ul> <p>2～3 フォークダンスをする。<br/>★伝承されてきた踊りの特徴をとらえて踊ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンスウォームアップをする。</li> <li>○既習のダンスを踊る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>＜民謡＞                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿波踊り ・ソーラン節 ・エイサー</li> </ul> </li> <li>＜フォークダンス＞                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイム・マイム ・コロブチカ ・グスタフス・スコール</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○民謡やフォークダンスを大づかみに覚えて踊る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>＜民謡＞                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・花笠音頭 ・春駒 ・炭坑節 ・鹿児島おはら節</li> </ul> </li> <li>＜フォークダンス＞                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オクラホマ・ミクサー ・バージニア・リール</li> </ul> </li> <li>・ドープレブスカ・ポルカ</li> </ul> </li> <li>○民謡やフォークダンスの難しい踊り方を取り出して踊る             <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体練習</li> <li>・グループ練習</li> </ul> </li> <li>○みんなで踊り、交流をする。</li> </ul> <p>4～5 いろいろなリズムに乗って自由に弾んで楽しく踊る。<br/>★リズムに乗って楽しく踊ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンスウォームアップをする。</li> <li>○簡単な繰り返しのリズムで踊る。</li> <li>○音楽に合わせて、全身で自由に弾んで踊る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・揺れる ・回る ・ステップを踏んで手をたたく</li> <li>・ストップを入れる</li> <li>・相手の動きに合わせる、ずらす</li> <li>・手をつなぐ</li> </ul> </li> <li>○活動を振り返り、まとめをする。</li> </ul> <p>6～8 変化のある動きを組み合わせるリズムに乗って、続けて踊る。<br/>★リズムに乗って続けて踊ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンスウォームアップをする。</li> <li>○リズムに変化を付けて踊る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体練習</li> <li>・グループ練習</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージを捉えた表現や踊りでの交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにする運動であることを知らせる。</li> <li>・ダンスの特性や成り立ちを説明する。</li> <li>・技術の名称や行い方、関連して高まる体力については、単元を通して理解できるようにする。</li> <li>・感じたことを個性に応じて表現することになるので、正しい鑑賞態度と、恥ずかしがらずに全身を使って表現することが大切であることを知らせる。</li> <li>・曲を流し、毎時間の授業の始めにウォーミングアップとして行わせる。</li> <li>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。<br/>【評】ダンスを踊る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・資料やVTRなどで踊りを紹介し、日本や外国の風土や風習、歴史などの踊りの由来を理解させる。</li> <li>・始めは、民謡やフォークダンスそれぞれの曲調や踊りの特徴を感じ、大づかみに覚えて踊るようにさせる。</li> <li>・難しいステップや動き方を取り出して練習させる。</li> <li>・全体指導した後は、小グループに分かれ、教え合いながら練習させる。</li> <li>・仲間のよい動きや表現などを指摘し合うよう指示する。<br/>【評】みんなで踊り、交流する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。</li> <li>・自然な弾みやスイングなどの動きで気持ちよく音楽のビートに乗るようにさせる。</li> <li>・ロックやヒップホップなどのリズムの特徴をとらえさせる。</li> <li>・体幹（重心部）を中心に全身でリズムをとらせる。</li> <li>・1人で自由にリズムに乗ったり、複数で対応しながら踊ったりして工夫させる。<br/>【評】リズムに乗って踊る姿を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】振り返りの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。</li> <li>・シンコペーションやアフタービート、休止や倍速など、リズムに変化を付けて踊るようにさせる。</li> </ul> |

- 変化のある動きを組み合わせ続けて踊る。
  - ・短い動きの繰り返し
  - ・対立する動きの組み合わせ
  - ・ダイナミックなアクセントを加える

#### 9 交流会をする。

##### ★楽しく踊って交流しよう。

- ダンスウォームアップをする。
- グループで練習する。

#### ○交流会をする。

- 感想を発表し合う。

- ・1 グループ3～5人とする。
- ・リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせる工夫をさせる。

【評】動きに変化を付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・活動中、「見る－見せる」の一方的な関係ではなく、仲間やグループ間で動きを見せ合っ

て交流させる。  
【評】動きを組み合わせる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。

- ・変化を付けて組み合わせた踊りをグループで確認する。

【評】交流会を通して、「知識・技能」を評価する。

【評】感想を発表し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】単元全体の活動や交流会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

- (1) ダンスは、「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることを楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。ここでは、イメージを捉えたり深めたりする表現、伝承されてきた踊り、リズムに乗って全身で踊ることや、これらの踊りを通じた交流や発表ができるようにする。

- (2) 標準的な展開例として、①フォークダンスと創作ダンス②フォークダンスと現代的なリズムのダンスの2つを示した。2つの展開例のうち、1つを選択して履修することを基本とする。

創作ダンスの多様なテーマと題材や動きの例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P. 171参照

日本の民謡、外国のフォークダンスの踊りと動きの例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P. 172～P. 173参照

現代的なリズムのダンスのリズムと動きの例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P. 174参照

## 単元名 運動やスポーツの多様性【中1】

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 運動やスポーツが多様であることについて理解することができる。  
 (2) 運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。  
 (3) 運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

13300125\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 運動やスポーツの必要性和楽しさについて考える。<br/> <b>★</b>人はなぜ運動やスポーツを行うのか考えよう。<br/>         ○運動やスポーツを行う理由について考える。</p> <p>○運動やスポーツの変化について調べる。</p> <p>○スポーツ基本法について知る。</p> <p>○学習内容をまとめる。</p> <p>2 運動やスポーツへの多様な関わり方を考える。<br/> <b>★</b>運動やスポーツへの関わり方にはどのような楽しさや魅力があるかを考えよう。<br/>         ○運動やスポーツを行う以外の関わり方について考える。<br/>             ・見る   ・支える   ・知る</p> <p>○関わり方を自分の生活に生かす方法を考える。</p> <p>○学習内容をまとめる。</p> <p>3 運動やスポーツの多様な楽しみ方について考える。<br/> <b>★</b>運動やスポーツを楽しむためにはどのようなことが大切か考えよう。<br/>         ○学校以外で行っている運動やスポーツについて考える。</p> <p>○豊かなスポーツライフを実現するために必要なことを考える。</p> <p>○学習内容をまとめる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動のある生活が豊かに生きるために必要であることに気付かせる。</li> <li>・運動やスポーツの楽しさには、「競争や記録の更新を目指す」「自然と親しむ」「仲間と交流する」「感情を表現する」などがあることを押さえる。</li> <li>・関心のある運動やスポーツについて、移り変わりを調べさせる。</li> <li>・運動やスポーツの移り変わりが多様であることを押さえて話し合わせる。</li> <li>・時代的な移り変わりのほか、発生した地域、国柄によっても競技の特質が異なることを知らせる。</li> </ul> <p>【評】移り変わりを調べ、まとめる活動を通して、「知識（・技能）」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツが、競技だけでなく、体づくり運動やダンス、野外活動などの身体運動などを含めて、広い意味で用いられていることについても触れる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツの歴史・記録などを書物やインターネットなどを通して「知る」という関わり方があることについても触れる。</li> </ul> <p>【評】関わり方について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今できること、将来できそうなことについて話し合わせる。</li> <li>・運動やスポーツへの関わり方を自分の生活に生かすための方法をまとめさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自分に合った運動やスポーツの楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であることに気付かせる。</li> <li>・ルールやマナーを守ってフェアに競い合うことや年齢や機会に応じてルールを変更すること、試合後に互いの健闘をたたえ合うことの大切さについて触れる。</li> <li>・生涯にわたって運動やスポーツに関わるためには、仲間・空間（場所）・時間が欠かせないことを理解させる。</li> </ul> <p>【評】単元全体を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元では、運動やスポーツは人々が求める必要性や楽しさによって支えられ発展してきたこと、運動やスポーツには、行う、見る、支える、知るなどの多様な関わり方があること、運動やスポーツには自分に合った楽しみ方や工夫があることについて理解できるようにする。

## 単元名 健康な生活と病気の予防【中1】

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 健康な生活と病気の予防について理解を深めることができる。  
 (2) 健康な生活と病気の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともにそれらを他者に伝えることができる。  
 (3) 健康な生活と病気の予防についての学習に自主的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

13300126\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 健康の成り立ちについて考える。<br/> <b>★健康の成り立ちについて考えよう。</b><br/>         ○私たちの健康の成り立つ要因について考える。</p> <p>○主体と環境の諸要因について考える。<br/>         ・主体の要因…生まれつき備わっているもの、生後に身に付けるもの<br/>         ・環境の要因…物理的環境要因、科学的環境要因、生物学的環境要因、社会的・文化的環境要因<br/>         ○健康の成り立ちについてまとめる。</p> <p>2 運動と健康について考える。<br/> <b>★運動と健康について考えよう。</b><br/>         ○運動が心身に及ぼす影響について考える。</p> <p>○年齢や生活環境に応じた運動について考える。</p> <p>○運動と健康についてまとめる。</p> <p>3 食生活と健康<br/> <b>★食生活と健康について考えよう。</b><br/>         ○健康によい食生活について話し合う。</p> <p>○多くの食品を組み合わせたバランスのよい食事の必要性について考える。</p> <p>○健康づくりのための食生活について考える。</p> <p>4 休養・睡眠と健康について考える。<br/> <b>★休養・睡眠と健康について考えよう。</b><br/>         ○どのようなときに疲れを感じるか話し合う。</p> <p>○休養・睡眠のとり方について考える。</p> <p>○休養・睡眠の効果についてまとめさせる。</p> <p>5 調和のとれた生活について考える。<br/> <b>★調和のとれた生活について考えよう。</b><br/>         ○自分の生活について振り返る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界保健機関（WHO）の健康の定義について理解させる。</li> <li>・病気は、主体の要因と環境の要因が関わり合って発生することを理解させる。</li> <li>・社会生活や自然環境の変化と現代の健康問題とのつながりについても触れる。</li> </ul> <p>【評】健康の成り立ちについてまとめる活動を通して、「知識（・技能）」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの経験から、運動するとどのような気分になったか話し合わせる。</li> <li>・体だけでなく、精神的にも影響があることに気付かせる。</li> </ul> <p>【評】運動の効果や弊害について考えさせる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力を維持し、健康を保持増進するためには適度な運動をすることが大切であることを理解させ、日常生活の中で運動量を増やすための方法について考えさせる。</li> <li>・日常生活の中で体を動かす時間をつくる習慣を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことが大切であることに気付かせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の保持増進のために、どのような食生活をすればよいか、グループで話し合わせる。</li> <li>・1日に必要なエネルギー量は年齢や運動量に応じて異なることに気付かせる。</li> <li>・自分が1日にとる食品の種類と量の目安を理解させる。</li> <li>・栄養の過不足があるとどのような障害が出てくるのかを理解させる。</li> <li>・自分の食生活の課題を見付け、食生活全般について対策を立てさせる。</li> </ul> <p>【評】自分の食生活の課題を見付け、対策を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疲労には、精神的疲労と身体的疲労があり、自分が気付いていない疲労の現れ方もあることに気付かせる。</li> <li>・疲労の原因についても触れる。</li> <li>・休養や睡眠には疲労を回復し、健康な状態を維持する効果があることを理解させる。</li> <li>・疲労回復の方法や疲労を蓄積させないための自分に合った方法について考えさせる。</li> </ul> <p>【評】疲労を回復させる方法について考えさせる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の保持増進のために、日常生活でどのような工夫をしていけばよいかを考えさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活を振り返らせ、現代社会においては体を動かす必要性が減ってきていること、</li> </ul> |

○調和のとれた生活について考える。

○適度な体型の維持について考える。

睡眠時間が短くなっていること，人間関係の複雑化によるストレスを抱えていることなどに気付かせる。

- ・健康の保持増進のためには，適切な運動，食事，睡眠の調和のとれた生活を送ることが必要であることを理解させる。

【評】調和のとれた生活を送ることの必要性について考えさせる活動を通して，「知識（・技能）」を評価する。

- ・近年，若者の痩せや肥満が問題になっていることに触れ，さまざまな健康問題を防ぐためにも，適度な体型の維持が必要であることを理解させる。

【評】単元全体を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

本単元では，人間の健康は，主体と環境が関わり合って成り立つこと，健康を保持増進し，病気を予防するためには，それに関わる要因に対する適切な対策があることについて理解できるようにする。

「食生活と健康の関わり」，「休養及び睡眠と健康」の指導においては，必要に応じて，スマートフォンなどの情報機器の使用と健康の関わりについて取り扱うことも配慮するようにする。

## 単元名 心身の発達と心の健康【中1】

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすることができる。
- (2) 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを他者に伝えることができる。
- (3) 心身の機能の発達と心の健康について、学習に自主的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

13300127\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 体の発育・発達について考える。</p> <p>★中学生の時期の発育・発達の特徴を知ろう。</p> <p>○体の発育について知る。</p> <p>○体の器官の発育・発達についてまとめる。</p> <p>2 呼吸器官・循環器官の発育・発達について考える。</p> <p>★呼吸器官・循環器官の発育について知ろう。</p> <p>○呼吸器官の発育・発達について知る。</p> <p>・呼吸数 ・肺活量</p> <p>・ガス交換</p> <p>○循環器官の発育・発達について知る。</p> <p>○身体機能の発達と運動について考える。</p> <p>○体力を高めるための生活の仕方について話し合う。</p> <p>3～4 生命を生み出す体への成熟について考える。</p> <p>★生命を生み出す体への成熟について知ろう。</p> <p>○性腺の発育・発達について考える。</p> <p>・ホルモン ・内分泌腺</p> <p>・性腺刺激ホルモン</p> <p>○生命を生み出す体への成熟について考える。</p> <p>・射精 ・精通</p> <p>・月経 ・初経</p> <p>○射精の起こる仕組みについて知る。</p> <p>○排卵と月経の起こる仕組みについて知る。</p> <p>・排卵 ・受精 ・妊娠</p> <p>○体の成熟と心の成熟について考える。</p> <p>5 思春期の心の変化への対応について考える。</p> <p>★思春期の心の変化について考えよう。</p> <p>○思春期の心の変化について知る。</p> <p>○異性に対する理解と尊重について考える。</p> <p>○責任ある行動について話し合う。</p> | <p>・中学生の時期は、第2発育急進期にあたること、始まる時期や程度に個人差や男女差があることを確認させる。</p> <p>・発育と発達の違いについて押さえる。</p> <p>【評】各器官の発育・発達についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・酸素がどのように体の中に取り入れられるのか、呼吸器官の仕組みについて資料を基に説明し、理解させる。</p> <p>・循環器官の発育には、拍出量や心拍数が関係していることを、資料を基に説明し、理解させる。</p> <p>・長時間運動を続けることで、呼吸器官・循環器官がよりよく発達することから、中学生期の運動が大切であることを理解させる。</p> <p>・自分の生活の仕方と体力テストの結果等から体力を高めるための生活の仕方について考えさせる。</p> <p>【評】体力を高めるための生活の仕方について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・思春期に現れる男女の体の変化について話し合わせ、この変化には性腺が大きく関わっていることを理解させる。</p> <p>・生殖器官の成熟が進むと、男子では射精、女子では月経が見られ、新しい生命を生み出すことができる体へと成長していくことを説明し、理解させる。</p> <p>・精巣の成熟により、精巣の中で常に精子が作られていることを、資料を基に理解させる。</p> <p>・性的な興奮を受けたときに射精が起こることを理解させる。</p> <p>・卵巣の成熟により、約1か月に1度ずつ周期的に排卵が起こることを、資料を基に説明し理解させる。</p> <p>・排卵が始まって数年は周期が不安定であることを補足し、中学生の時期は不安定な時期であることを知らせる。</p> <p>【評】排卵と月経、受精の関係についてまとめる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・生命を生み出し、育んでいくためには、体の成熟に加えて、心の成熟や経済的・社会的自立が必要であることを押さえる。</p> <p>・思春期は、体とともに心も大きく変化することを理解させる。</p> <p>・性への意識や行動には個人差と男女差があることを確認させ、お互いの違いを理解して付き合っていくことが大切であることを押さえる。</p> <p>・異性に対する理解と尊重について、グループで意見交換をさせる。</p> <p>・性に関する情報をどんなものから得るか話し合わせる。また、性に関する情報に振り回されないようにするにはどうしたらよいか、意</p> |

- 思春期の心の変化への対応についてまとめる。
- 6 考える心・感動する心の発達について知る。
  - ★心の働きについて知ろう。
  - 心の働きについて考える。
    - ・知的機能 ・情意機能 ・社会性
  - 知的機能の発達について知る。
  - 情意機能の発達について知る。
    - ・感情 ・意志
  - 目標達成に向けて、気持ちをコントロールする上で大切なことについてまとめる。
- 7 人との関わりと自分らしさについて考える。
  - ★社会性の発達と自分らしさについて考えよう。
  - 社会性の発達と自立について考える。
  - 自分らしさについて考える。
  - 自己形成のために必要な心がけについてまとめる。
- 8 欲求への対処について考える。
  - ★心の健康を保つ方法を考えよう。
  - 欲求について考える。
    - ・生理的欲求 ・社会的欲求
    - ・自己成長を求める欲求
  - 欲求への対処について知る。
- 9 ストレスへの対処について考える。
  - ★ストレスについて知ろう。
  - ストレスの原因について考える。
  - ストレスについて知る。
  - ストレスへの対処の方法について話し合う。
  - 心身の発達と欲求やストレスについて考える。
  - ストレスを抱えているときにどのような行動をすればよいのか考え、まとめる。
- 10 心と体の関わりについて考える。
  - ★心と体の関わりについて考えよう。
  - 心と体のつながりを感じた経験について話し合う。

見交換させる。  
 【評】責任ある行動について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・心の発達には脳が大きな役割を担っており人や社会とのさまざまな関わりや学習体験などによって変化していくことを理解させる。
  - ・これまでにさまざまな知識が身に付いてきたことを振り返らせながら、知的機能の発達について確認させる。
  - ・思春期の頃は、自分の願いや理想の実現のために、より強い意志をもつようになることを説明する。
- 【評】心の働きについてまとめる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・小学生の頃と比べて、周りの人との関わり方が変化し、社会性が発達していることに気付かせる。
  - ・思春期に、周りから自分がどう見られているかを意識したり、自分と友達を比較して悩んだりすることは、自然なことであり、自分らしさを発揮することにつながることを確認させる。
- 【評】自分らしさについて考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- ・人との関わりや自分らしさについてまとめさせる。

- ・欲求の段階と発達の仕方について、理解させる。
  - ・欲求をもつことは、人間が何かをしようとする行動の基になっていることを捉えさせる。
- 【評】人間の欲求について考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- ・欲求の種類や強さには個人差があることを押さえる。
  - ・欲求不満の状態が、満たされない欲求を実現しようとする原動力になることもあることに触れる。
  - ・欲求不満の状態に上手に対処するには、欲求を実現させるための現実的な方法を見つけたり、さらに努力を重ねて自分を成長させたりするなどして適切な解決を目指すことが大切であることを理解させる。

- ・中学生の悩みや心配事とその原因について話し合わせる。
  - ・適度なストレスは、張りのある生活を送る上では役立つことを確認させる。
  - ・ストレスへの対処について、少人数のグループでブレインストーミングを行わせる。
  - ・ストレスに対処するためには、自分で解決することの他に、友達や家族、学校の先生や医師などの専門家に相談したり助けてもらったりする方法もあることを伝える。
- 【評】ストレスの対処法について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・思春期は心と体が不安定になりやすい時期であることを理解させる。
- 【評】心身の発達と欲求やストレスについて考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・自分の経験を振り返らせ、考えさせる。
- ・プラスの影響とマイナスの影響の両方を考えさせ、発表させるようにする。



○心と体の関わりについて知る。

○心と体の健康について知る。

○心と体の調和を保つための工夫について考える。

- ・心と体は、脳や神経の働きを通じて、互いに密接に影響し合っていることを確認させる。
  - ・心の健康な人は、前向きに努力できる人、周りの人を認め、よい関係を築くことができる人であることを押さえる。
  - ・心の調和を保つために、すぐに取り入れられそうなことを考えさせる。
- 【評】単元全体を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

本単元では、健康の保持増進を図るための基礎として、心身の機能は生活経験などの影響を受けながら年齢とともに発達することについて理解できるようにする。また、これらの発達の仕方とともに、心の健康を保持増進する方法についても理解できるようにする。

生殖に関わる機能の成熟についての指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮する。

「ストレスへの対処」は、「体づくり運動」の体ほぐし運動との関連を図って指導するようにする。

**単元名 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方【中2】**
**配当時間 3時間**

- 単元の目標** (1) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解することができる。  
 (2) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。  
 (3) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組もうとする。

**標準的な展開例**

13300128\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 運動やスポーツが心身や社会性に及ぼす効果について考える。<br/> <b>★</b>運動やスポーツを行うことによって、体や心にどのような効果があるのか考えよう。<br/>         ○運動やスポーツが体に及ぼす効果について考える。<br/>           ・体力や運動の技能の維持, 向上<br/>           ・生活習慣病の予防</p> <p>○運動やスポーツが心や社会性に及ぼす効果について考える。<br/>           ・達成感を得る   ・自信を高める<br/>           ・ストレス解消   ・リラックス効果</p> <p>○学習内容をまとめる。</p> <p>2 運動やスポーツの学び方について考える。<br/> <b>★</b>運動やスポーツの学び方について考えよう。<br/>         ○技術・技能, 戦術・作戦について知る。</p> <p>○運動やスポーツの学び方について考える。</p> <p>○自分が経験したスポーツや知っているスポーツに当てはめて、技術・技能や戦術・作戦について考える。</p> <p>○学習内容をまとめる。</p> <p>3 安全な運動やスポーツの行い方について考える。<br/> <b>★</b>運動やスポーツの安全な行い方について考えよう。<br/>         ○自分が行っている運動やスポーツについて、安全に行うことができているかを振り返る。<br/>         ○安全に運動やスポーツを行うための方法を考える。<br/>           ・体調管理   ・準備運動<br/>           ・水分・塩分補給   ・整理運動 など<br/>           運動やスポーツの「安全な行い方チェックリスト」を作成する。</p> <p>○野外活動の安全な行い方について考える。</p> <p>○学習内容をまとめる。</p> | <p>・運動やスポーツは、心身の発達やその機能の維持, 体力の向上などの効果があることを理解させる。</p> <p>・運動を続けると骨が丈夫になること, 筋力や全身持久力が高まること, 身体を巧みに動かす能力が向上することを理解させる。</p> <p>・食生活の改善と関連させることで肥満予防の効果が期待できることを理解させる。運動やスポーツの効果は、心身両面へ期待できることを理解させる。</p> <p>・運動やスポーツは、ルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることを押さえる。</p> <p><b>【評】</b>運動やスポーツの意義についてまとめる活動を通して、「知識（・技能）」を評価する。</p> <p>・技術・技能, 戦術・作戦の意味を押さえる。</p> <p>・技能は個人の体力と関連しており、体力によってその人に合う技術は異なることを理解させる。</p> <p>・運動やスポーツの学び方には、課題を合理的に解決するための一定の方法があることを理解させる。</p> <p>・よい動きを見付けたり、振り返ったりする際に、互いの動きを観察したり教え合ったりすることが大切であることに触れる。</p> <p>・自分が経験したスポーツや興味のあるスポーツから選択し、技術・技能や戦術・作戦について整理してまとめさせる。</p> <p><b>【評】</b>運動やスポーツにおいて効果的に上達するための工夫について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・技術・技能や戦術・作戦を意識して、運動領域の学習を進めることが大切であることを確認させる。</p> <p>・体育の授業や運動部活動の様子などを想起させ、話し合わせる。</p> <p>・安全に配慮して運動やスポーツを行うことで試合の成績やトレーニング効果を高めることにも通じることを理解させる。</p> <p>・ともに活動する仲間の安全にも配慮することが重要であることを理解させる。</p> <p>・熱中症の予防と対策について押さえる。</p> <p>・野外活動に潜む危険性について十分に理解させる。</p> <p>・自分の経験と照らして、特に自分が留意することをまとめさせる。</p> <p><b>【評】</b>単元全体を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

**【 備 考 】**

本単元では、運動やスポーツを行うことは、心身の発達や社会性を高める効果が期待できること、運動やスポーツを行う際は、健康・安全に留意する必要があることについて理解できるようにする。

## 単元名 健康な生活と病気の予防【中2】

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 生活習慣病とその予防や喫煙と健康について理解を深めることができる。  
 (2) 生活習慣病とその予防や喫煙と健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともにそれらを他者に伝えることができる。  
 (3) 生活習慣病とその予防や喫煙と健康についての学習に自主的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

13300129\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 生活習慣病の予防について考える。<br/> <b>★</b>生活習慣病について考えよう。<br/>         ○生活習慣の変化について考える。</p> <p>○生活習慣病について知る。<br/>         ・がん ・心臓病 ・脳卒中 ・糖尿病</p> <p>○生活習慣病の予防や早期発見の重要性について考える。</p> <p>○自分の生活を振り返り、生活習慣病の予防について分かったことをまとめる。</p> <p>2 がんの予防について考える。<br/> <b>★</b>がんの予防について考えよう。<br/>         ○がんの特徴や実態、原因について考える。</p> <p>○がんの予防について考える。</p> <p>3 喫煙と健康について考える。<br/> <b>★</b>喫煙と健康について考えよう。<br/>         ○喫煙による体への影響について話し合う。<br/>         ・ニコチン ・タール ・一酸化炭素<br/>         ・依存症</p> <p>○受動喫煙の害について考える。</p> <p>○未成年者の喫煙の害について考える。</p> <p>○喫煙の健康への影響、未成年者の喫煙の害、受動喫煙による害についてまとめる。</p> <p>4 飲酒と健康について考える。<br/> <b>★</b>飲酒と健康について考えよう。<br/>         ○飲酒による体への影響について考える。<br/>         ・エチルアルコール ・急性中毒<br/>         ・アルコール依存症</p> <p>○長期間にわたる飲酒による体への影響</p> | <p>・昔と比べて生活習慣が大きく変化してきていることを理解させる。</p> <p>・不適切な生活習慣が主な原因と言われる病気を具体的に説明する。</p> <p>・メタボリックシンドロームについて触れる。</p> <p>・生活習慣病は、毎日の生活習慣と深い関わりがあることを理解させる。</p> <p>・健康によい習慣が生活習慣病の予防につながることに気付かせる。</p> <p>・健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養、睡眠の調和のとれた生活が必要であることを理解させ、実践への意欲をもたせる。</p> <p>【評】生活習慣病の予防についてまとめる活動を通して、「知識（・技能）」を評価する。</p> <p>・がんについて知っていることについて話し合う。</p> <p>・主ながんの種類やがんができる仕組みについて説明する。</p> <p>【評】がんについて話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・日本人のがんの原因の資料を活用し、がんの原因は、がんの種類によって異なることを理解させる。</p> <p>・生活習慣を整え、ワクチン接種などによって感染リスクを減らすことで、ある程度がんの予防が可能であることを理解させる。</p> <p>・感染の検査やがん検診が早期発見につながることを説明する。</p> <p>・がんの治療法についても触れる。</p> <p>・たばこに含まれる有害物質の作用により、毛細血管の収縮、心臓への負担、運動能力の低下など様々な急性影響が現れること、また、常習的な喫煙により、肺がんや心臓病などさまざまな病気を起こしやすくなることも理解させる。</p> <p>・受動喫煙によって肺がんや喘息などにかかりやすくなることや、胎児の発育に影響があることを説明する。</p> <p>・公共の場所や職場、街なかでの受動喫煙の防止が進められており、近年は、完全禁煙を実施する施設も増えてきていることにも触れる。</p> <p>・未成年者の喫煙は、心身に大きな影響を及ぼし、依存症になりやすいことを理解させる。</p> <p>【評】喫煙の害についてまとめる活動を通して「知識・（技能）」を評価する。</p> <p>・エチルアルコールが脳などの中枢神経に作用するために、思考力、自制力の低下や運動障害などが起こることを理解させる。</p> <p>・急激な多量飲酒は、死に至ることがあることにも触れる。</p> <p>・一気飲みの危険性を強調する。</p> <p>・常習的な飲酒によってアルコール依存症になり、生活や健康に重大な障害をもたらすこと</p> |

|  |   |
|--|---|
| <p>○未成年者の飲酒の害について考える。</p> <p>5 薬物乱用と健康について考える。<br/>★薬物乱用と健康について考えよう。<br/>○薬物乱用について知る。<br/>○薬物乱用の害について考える。</p> <p>○薬物乱用の社会的影響について考える。</p> <p>○薬物乱用についてまとめる。</p> <p>6 喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけについて考える。<br/>★喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけについて考えよう。<br/>○喫煙，飲酒，薬物乱用のきっかけについて話し合う。</p> <p>○喫煙，飲酒，薬物などを断るための適切な対処法について考える。</p> | <p>を押さえる。<br/>・未成年者の飲酒は，健全な発育・発達を妨げアルコール依存症になりやすいことを理解させる。<br/>【評】未成年者の喫煙や飲酒が禁止されている理由を考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・薬物乱用の意味を押さえる。<br/>・薬物の種類について例を挙げて説明する。<br/>・薬物乱用を繰り返してしまう理由について考えさせ，薬物依存症について考えさせる。<br/>・薬物乱用は，社会への適応能力や責任感の発達が妨げられ，暴力，非行，犯罪など家庭・学校・社会にも深刻な影響を及ぼすことがあることを理解させる。<br/>・危険ドラッグが増えており，社会的問題を引き起こしていることにも触れる。<br/>【評】薬物乱用についてまとめる活動を通して「知識（・技能）」を評価する。</p> <p>・喫煙，飲酒，薬物乱用を始めるきっかけを確認し，身近な問題として考えさせる。<br/>・喫煙や飲酒，薬物乱用のきっかけには，自分自身によるものと周りの環境によるものがあることを理解させる。<br/>・ロールプレイングをし，どのようなきっかけに対しても，強い意志と適切な行動選択をすることが必要であることを理解させる。<br/>【評】単元全体を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】  
体育分野との関連を図る観点から，フェアプレイに反するドーピングの健康への影響についても触れるようにする。

## 単元名 傷害の防止【中2】

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすることができる。  
 (2) 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを他者に伝えることができる。  
 (3) 傷害の防止についての学習に主体的に取り組むことができる。

## 標準的な展開例

13300130\_001

【準備等】包帯、三角巾、マネキン、AED（トレーニングキット）

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 傷害の発生要因と防止について考える。<br/> <b>★</b>傷害の発生要因と防止について考えよう。<br/>         ○中学生の傷害の特徴について考える。</p> <p>○傷害の起こり方について考える。<br/>         ・人的要因<br/>         ・環境要因</p> <p>○傷害の防止について考える。</p> <p>○傷害の起こり方と防止についてまとめる。</p> <p>2 交通事故の要因と傷害の防止について考える。<br/> <b>★</b>交通事故の要因と傷害の防止について考えよう。<br/>         ○交通事故の要因について考える。<br/>         ・人的要因<br/>         ・環境要因</p> <p>○安全な行動と危険予測について考える。</p> <p>○交通環境の整備について考える。</p> <p>3 犯罪被害の防止について考える。<br/> <b>★</b>犯罪被害の防止について考えよう。<br/>         ○中学生に起こる犯罪被害について考える。</p> <p>○犯罪被害の人的要因とその対策について考える。<br/>         ・人的要因<br/>         ・環境要因</p> <p>○犯罪被害の環境要因とその対策について考える。</p> <p>4 自然災害による傷害の防止について考える。<br/> <b>★</b>自然災害による傷害の防止について考えよう。<br/>         ○自然災害による危険について考える。<br/>         ・一次災害<br/>         ・二次災害</p> <p>○自然災害への備えについて考える。</p> <p>○自然災害が発生した場合の行動について考える。</p> | <p>・今までにどのような場面でけがを経験したのかを振り返らせ、中学生のけがの種類やその原因について考えさせる。<br/> <b>【評】</b>中学生の傷害の発生要因を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・人的要因には、人間の心身の状態や行動の仕方があることについて理解させる。</p> <p>・環境要因には、道路や場所、施設・設備の状態や気象条件、法律・規則などがあることについて理解させる。</p> <p>・傷害を防止するには、危険を予測することが大切であることを理解させる。また、人的要因と環境要因に適した対策を取ることが必要であることを押さえる。</p> <p>・傷害の起こり方やその防止には、人的要因と環境要因が関わり合っていることを理解させる。</p> <p>・傷害の発生要因で学んだことを生かして考えさせる。<br/> <b>【評】</b>交通事故の要因について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・交通事故を防ぐためには、危険を予測し、人的要因と環境要因それぞれへの対応が重要であることを理解させる。</p> <p>・自転車や自動車の特性についても触れる。</p> <p>・交通事故を防ぐ道路環境への対策には、道路標識の設置や交通規則の実施など、交通環境の改善が必要であることを理解させる。</p> <p>・中学生においては、通学路を含む地域社会で犯罪に巻き込まれて傷害を受けることがあることを押さえる。</p> <p>・人的要因として、危険な行動、不安定な心身の状態などがあることを押さえる。</p> <p>・インターネットを利用した犯罪についても触れる。</p> <p>・犯罪被害を防止するためには、危険を予測し判断して、犯罪を避ける行動をとる必要があることを理解させる。</p> <p>・安全を守るための地域の取組についても触れる。</p> <p><b>【評】</b>犯罪被害の要因と対策について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・地震が起きたときなどを想起させ、考えさせる。</p> <p>・二次災害は、津波や土砂崩れ、地割れ、火災などがあることを理解させる。</p> <p>・自然災害による傷害を防止するためには、地域のハザードマップなどを確認し、災害が起こったときにどのような危険があるのかを把握しておく必要があることを理解させる。</p> <p>・災害発生時の対処の仕方を身に付けるための避難訓練の実施や非常持ち出し袋の準備など日頃からの備えの大切さを理解させる。</p> <p>・地震についての情報は、緊急地震速報で知る</p> |

|   |  |
|---|--|
| <p>○ 自然災害による傷害の防止についてまとめる。</p> <p>5 応急手当の基本について知る。<br/>★ 傷害が発生したときの応急手当の手順や方法について理解しよう。<br/>○ 応急手当の意義と目的について考える。</p> <p>○ 応急手当の手順について考える。</p> <p>○ 傷害が発生したときの応急手当についてまとめる。</p> <p>6～7 心肺蘇生法について知る。<br/>★ 心肺蘇生の正しい方法を身に付けよう。<br/>○ 人が倒れているときの生命を救う手当について知る。</p> <p>○ 心肺蘇生法の手順を実習をする。</p> <p>8 出血があるときの応急手当の基本について知る。<br/>★ 出血があるときの応急手当の方法を身に付けよう。<br/>○ 傷の手当の基本について確認する。</p> <p>○ 包帯を使った応急手当の実習をする。</p> <p>○ 出血が多いときの止血法について知る。</p> <p>9 外傷の応急手当について知る。<br/>★ 外傷の正しい応急手当の方法を身に付けよう。<br/>○ 打撲傷、脱臼、捻挫、骨折について理解する。</p> <p>○ 外傷の応急手当の基本について実習をする。</p> | <p>ことができることを押さえる。</p> <p>・ 周りの状況を的確に判断し、安全に行動することの大切さを理解させる。<br/>【評】 自然災害による傷害の防止についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 医師の診療を受けるまでの一時的な手当で、治療ではないことを理解させる。<br/>・ 応急手当の目的は、生命の救助、けがや病気の悪化防止、傷害者の苦痛を和らげ、励ますことであることを理解させる。<br/>・ 傷害が発生したときに、どのように行動するとよいのか、グループごとに想定させ考えさせる。<br/>・ 校内のAEDの設置場所やAEDの仕組みについて押さえる。<br/>【評】 応急手当の手順について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 心肺蘇生は心肺が停止してる人に行うことを理解させる。<br/>・ 心肺蘇生は心肺が停止してから1秒でも早く行うことが重要であることを理解させる。<br/>・ 傷病者を発見した場合は、まず周囲の状況が安全かどうか確認することが大切であることを理解させる。<br/>・ 感染防止器具がない場合には、胸骨圧迫だけ行ってもよいことを伝える。<br/>【評】 心肺蘇生法の実習を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 切り傷、擦り傷、刺し傷の応急手当について確認する。<br/>・ 包帯の巻き方について確認する。<br/>・ 出血があるときの手当には、血液からの感染防止のため、他の人の血液に触れないようにビニル手袋などを使用して手当を行うとよいことを確認する。<br/>【評】 包帯を使った応急手当の実習を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>・ 直接圧迫止血法について理解させる。</p> <p>・ 打撲傷、脱臼、捻挫、骨折の状態について理解させる。<br/>・ 外傷の状態によっては、すぐに救急車を呼び医療機関で治療を受ける必要があることを押さえる。<br/>・ 身近なものを使って、患部を固定できることについても説明する。<br/>・ 打撲傷、脱臼、捻挫などの応急手当の方法についても確認する。<br/>・ 外傷のある応急手当はR I C Eが基本であることを知らせる。<br/>・ R I C E法について理解させる。<br/>【評】 外傷の応急手当について実習する活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>【評】 単元全体を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】  
本単元では、傷害の発生にはさまざまな要因があり、それらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できること、応急手当は傷害の悪化を防止することができることを理解できるようにする。  
心肺蘇生については、効果的な指導を行うため、水泳など体育分野との関連を図る。また、学校の実態に応じて消防署などの関係機関と連携して行うとよい。

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 単元名   | 体づくり運動(体ほぐしの運動・実生活に生かす運動の計画)   | 配当時間 | 8時間 |
| 単元の目標 | (1) 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。<br>(2) 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。<br>(3) 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合ったり、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしたり、話し合いに貢献したり、健康・安全を確保したりしようとする |      |     |

## 標準的な展開例

12300101\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。<br/> <b>★</b>体づくり運動の特性を知ろう。<br/>         ○学習のねらいや進め方を知る。<br/>         ○マナーや安全な運動の仕方を知る。</p> <p>2～4 体ほぐしの運動をする。<br/> <b>★</b>ねらいに合った体ほぐしの運動をしよう。<br/>         ○ねらいに応じた動きの組み合わせをする。<br/>         ○ねらいに応じて、動きを組み合わせ、運動をする。<br/>         　・用具を用いた運動<br/>         　・心が弾むような運動<br/>         　・ストレッチ運動<br/>         　・走ったり跳んだりする運動<br/>         　・動きを合わせたり、対応したりする運動<br/>         　・集団で挑戦する運動</p> <p>5 自己の健康や体力の実態と実生活に応じた運動の計画を立て、話し合う。<br/> <b>★</b>実生活に生かす運動の計画を立てよう。<br/>         ○自分の体力や健康状態を知る。<br/>         ○実生活に生かす運動の計画を立てる。</p> <p>6～7 体力の向上を図る運動をする。<br/> <b>★</b>計画に従って、運動を実践しよう。<br/>         ○立てた計画で、体力の向上を図るための運動をする。<br/>         　・健康に生活するための体力の向上を図る運動<br/>         　・運動を行うための体力の向上を図る運動</p> <p>8 単元のまとめをする。<br/> <b>★</b>体づくり運動を実生活に生かしていこう。</p> | <p>・自己の課題に応じた運動の取組方を工夫できるようにする。<br/>         ・体の状態のみならず、心の状態も捉え、健康を維持したり自己や仲間の安全を保持したりするようにさせる。</p> <p>・自己や他者の心や体は互いに影響し合っていることに気付かせたり、心や体によってコミュニケーションをとったりして行うように意識させる。<br/>         ・気付いたことを学習カードに記入させる。<br/> <b>【評】</b>体ほぐしの運動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・身体測定や体力テストの結果を反映させる。<br/>         ・健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を話し合わせる。<br/>         ・①ねらいは何か、②いつ、どこで運動するのか、③どのような運動を選ぶのか、④どの程度の運動強度、時間、回数で行うかなどに着目させ、計画を立てさせる。<br/> <b>【評】</b>実生活に生かす運動の計画を立てる活動を通して、「知識（・運動）」「思考・判断・表現」を評価する。<br/>         ・自己や仲間の体調や体力に応じて段階的に運動するようにさせる。<br/>         ・運動不足の解消や体調維持、調和のとれた体力の向上を図るなどの健康に生活するための体力をバランスよく高めさせる。<br/>         ・気付いたことを学習カードに記入させる。<br/> <b>【評】</b>体力を高める運動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br/> <b>【評】</b>単元のまとめをする活動を通して、「知識（・運動）」「思考・判断・表現」を評価する。<br/> <b>【評】</b>単元全体を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て、取り組むことができるようにす

## 単元名 器械運動(マット運動)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行ったり、条件を変えた技や発展技を行ったり、それらを構成し演技したりすることができる。
- (2) 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) マット運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えたり、互いに助け合い教え合ったり一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保しようとする。

## 標準的な展開例

12300102\_001

【準備等】 マット、セーフティーマット、ロイター板、学習カード、学習資料、ビデオ (DVD)

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★3年生のマット運動のねらいを知ろう。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○学習カードや資料の使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</p> <p>○体ほぐし運動をする。</p> <p>○既習の技を確認する。</p> <p>2～5 今できる技をより大きく美しくしたり、新しい技に挑戦したりする。</p> <p>★自分に合った技をより大きく美しくしよう。</p> <p>○簡単な技で体をほぐす。</p> <p>○補強運動をする。</p> <p>○基本的な技を練習する。</p> <p>＜回転系・接転技群＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開脚前転 ・倒立前転</li> <li>・開脚後転</li> </ul> <p>＜回転系・ほん転技群＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・側方倒立回転 ・倒立ブリッジ</li> <li>・頭はねおき</li> </ul> <p>＜巧技系・平均立ち技群＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片足正面水平立ち ・倒立</li> </ul> <p>○発展技を練習する。</p> <p>＜回転系・接転技群＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伸膝前転 ・跳び前転</li> <li>・伸膝後転 ・後転倒立</li> </ul> <p>＜回転系・ほん転技群＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・側方倒立回転跳び1/4ひねり (ロンダート)</li> <li>・前方倒立回転 ・前方倒立回転跳び</li> </ul> <p>＜巧技系・平均立ち技群＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片足側面水平立ち ・Y字バランス</li> <li>・倒立ひねり</li> </ul> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> <p>6～9 技の構成を考え、練習する。</p> <p>★技の構成を考えよう。</p> <p>○簡単な技で体をほぐす。</p> <p>○条件を変えた技を練習する。</p> <p>○技の構成を考え、練習をする。</p> | <p>・基本的な技の出来映えを高めていくこと、条件を変えた技や発展技に挑戦することを押さえておく。</p> <p>・3年生では、基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技・発展技を行うこと、それらを構成し演技することを押さえておく。</p> <p>・技のポイントや練習方法が分かるような学習資料を準備する。</p> <p>・マットの配置や使い方、練習時の約束、補助の仕方等について説明する。</p> <p>・マット運動の技につながるような運動を取り入れる。</p> <p>・示範やビデオ等により、技を確認させる。</p> <p>・学習カードに自己評価させる。</p> <p>・前転・後転等は準備運動として取り入れる。</p> <p>・首や手首などがをしやすい部位のストレッチを重点的に行わせる。</p> <p>・補強運動として、巧技系の技を行わせる。</p> <p>・グループで互いに教え合ったり、話し合ったりしながら練習させる。</p> <p>・ロイター板を使用し、斜面を作ったり、壁際にマットを置いて壁を利用できるようにしたりするなど、段階に応じた練習場所を準備しておく。</p> <p>・滑らかに回転すること、バランスよく姿勢を保って静止することなど、技の質を高めることを意識させる。</p> <p>・学習カードを利用し、技のポイントを確認しながら練習させ、自己評価させる。</p> <p>・自己の技能・体力の程度の高まりに応じて、学習した基本的な技の中から発展した技を行うようにさせる。</p> <p>【評】 基本的な技や発展技の練習を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・学習カードを利用し、技の出来映えを確認し技のポイントをまとめさせる。</p> <p>【評】 話し合いの活動や学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・回転系の技は、基本的な技の開始姿勢や終末姿勢、組み合わせの動きや支持の仕方などの条件を変えて行わせる。</p> <p>・巧技系の技は、姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止するようにさせる。</p> <p>・自己に適した技を選び、構成を考えさせる。</p> <p>・基本的な技、条件を変えた技、発展技の中か</p> |



○活動を振り返り，まとめをする。

10 発表会をする。

★美しい演技をしよう。

- 構成した技の練習をする。
- 構成した技の発表をする。

○お互いに評価し合う。

ら，技の静止や組み合わせの流れに着目して「はじめ—なか—おわり」に用いる技を構成することを押さえる。

【評】技の構成を考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

・技と技のつながりの滑らかさや，一連の動きの出来映えについて話し合わせる。

・発表会に向けて構成した技の確認をさせる。

【評】発表会を通して，「知識・技能」を評価する。

【評】単元全体の活動や発表会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

器械運動は，マット運動，鉄棒運動，平均台運動，跳び箱運動で構成され，器械の特性に応じて多くの技がある。これらの技に挑戦し，その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本単元ではマット運動の技の中から自己に適した技で演技することができるようにする。

条件を変えた技・・・中学校学習指導要領解説（保健体育編）P. 76～P. 77参照

## 単元名 器械運動(鉄棒運動)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、鉄棒運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行ったり、条件を変えた技や発展技を行ったり、それらを構成し、演技したりすることができる。
- (2) 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 鉄棒運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えたり、互いに助け合い教え合ったり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300103\_001

【準備等】鉄棒、補助具、学習カード、学習資料

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。<br/>★3年生の鉄棒運動のねらいを知ろう。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○学習カードや資料の使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</p> <p>○体ほぐし運動をする。</p> <p>○既習の技を確認する。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な技の出来映えを高めていくこと、条件を変えた技や発展技に挑戦することを押さえておく。</li> <li>3年生では、基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技・発展技を行うこと、それらを構成し演技することを押さえておく。</li> <li>技のポイントや練習方法が分かるような学習資料を準備する。</li> <li>練習時の約束、補助の仕方等について説明する。</li> <li>鉄棒運動の技につながるような運動を取り入れる。</li> <li>示範や学習資料等により、技を確認させる。</li> <li>学習カードに自己評価させる。</li> </ul>                         |
| <p>2～5 今できる技をより大きく美しくしたり、新しい技に挑戦したりする。<br/>★自分に合った技をより大きく美しくしよう。<br/>○簡単な技で体をほぐす。</p> <p>○基本的な技を練習する。<br/>         &lt;支持系・前方支持回転技群&gt;<br/>         ・前方支持回転 ・踏み越し下り<br/>         ・前方膝かけ回転 ・膝かけ上がり<br/>         &lt;支持系・後方支持回転技群&gt;<br/>         ・後方支持回転 ・後ろ振り跳びひねり下り<br/>         ・後方膝かけ回転<br/>         &lt;懸垂系・懸垂技群&gt;<br/>         ・懸垂振動(順手・片逆手)<br/>         ・後ろ振り跳び下り</p> <p>○発展技を練習する。<br/>         &lt;支持系・前方支持回転技群&gt;<br/>         ・前方伸膝支持回転 ・支持跳び越し下り<br/>         ・前方ももかけ回転 ・ももかけ上がり<br/>         ・け上がり<br/>         &lt;支持系・後方支持回転技群&gt;<br/>         ・後方伸膝支持回転 ・後方浮き支持回転<br/>         ・棒下振り出し下り ・後方ももかけ回転<br/>         &lt;懸垂系・懸垂技群&gt;<br/>         ・懸垂振動ひねり ・前振り跳び下り</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>準備運動として、既習の簡単な技を取り入れる。</li> <li>仲間の練習の様子を観察し、良かった点などを教え合ったり、話し合ったりしながら練習させる。</li> <li>適宜、補助具を使用させる。</li> <li>学習カードを利用し、技のポイントを確認しながら練習させ、自己評価させる。</li> <li>始めは低鉄棒で行わせ、技能に応じて高鉄棒でも挑戦させる。</li> <li>自己の技能・体力の程度の高まりに応じて、学習した基本的な技の中から発展した技を行うようにさせる。</li> <li>【評】基本的な技や発展技の練習を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |
| <p>6～9 技の構成を考え、練習する。<br/>★技の構成を考えよう。<br/>○簡単な技で体をほぐす。<br/>○条件を変えた技を練習する。<br/>         ・開始姿勢<br/>         ・終末姿勢<br/>         ・組み合わせの動き<br/>         ・鉄棒の握り方</p> <p>○技の構成を考え、練習をする。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>前方支持回転技群の技は、開始姿勢や組み合わせの動き、鉄棒の握り方などの条件を変えて行わせる。</li> <li>後方支持回転技群の技は、開始姿勢や終末姿勢、組み合わせの動きなどの条件を変えて行わせる。</li> <li>懸垂技群の技は、組み合わせの動きや握り方などの条件を変えて行わせる。</li> <li>自己に適した技を選び、構成を考えさせる。</li> <li>同じグループや異なるグループの基本的な技</li> </ul>  |

○活動を振り返り，まとめをする。

10 発表会をする。

★美しい演技をしよう。

○構成した技の練習をする。

○構成した技の発表をする。

○お互いに評価し合う。

条件を変えた技，発展技の中から，技の組み合わせの流れに着目して「上がる一回る一下りる」に構成し演技することを押さえる。

・技と技のつながりを滑らかにし，一連の動きになるよう意識させる。

【評】技の構成を考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

・技と技のつながりの滑らかさや，一連の動きの出来映えについて話し合わせる。

・発表会に向けて，構成した技の確認をさせる

【評】発表会を通して，「知識・技能」を評価する。

【評】単元全体の活動や発表会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

器械運動は，マット運動，鉄棒運動，平均台運動，跳び箱運動で構成され，器械の特性に応じて多くの技がある。これらの技に挑戦し，その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本単元では，鉄棒運動の技がよりよくできることや自己に適した技で演技することができるようにする。

鉄棒運動の主な技の例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P. 77～P. 78参照

## 単元名 器械運動(平均台運動)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、平均台運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行ったり、条件を変えた技や発展技を行ったり、それらを構成し演技したりすることができる。
- (2) 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 平均台運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えたり、互いに助け合い教え合ったり一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300104\_001

【準備等】平均台、低い平均台、マット、セーフティマット、踏み切り板、ラインテープ、学習カード、学習資料

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。<br/>★3年生の平均台運動のねらいを知ろう。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○学習カードや資料の使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</p> <p>○体ほぐし運動をする。</p> <p>○既習の技を確認する。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な技の出来映えを高めていくこと、条件を変えた技や発展技に挑戦することを押さえておく。</li> <li>3年生では、基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技・発展技を行うこと、それらを構成し演技することを押さえておく。</li> <li>技のポイントや練習方法が分かるような学習資料を準備する。</li> <li>マットの配置や平均台の使い方、練習時の約束や補助の仕方等について説明する。</li> <li>平均台運動の技につながるような運動を取り入れる。</li> <li>示範や学習資料等により、技を確認させる。</li> <li>学習カードに自己評価をさせる。</li> </ul>          |
| <p>2～5 今できる技をより大きく美しくしたり、新しい技に挑戦したりする。<br/>★自分に合った技をより大きく美しくしよう。<br/>○簡単な技で体をほぐす。</p> <p>○基本的な技を練習する。<br/>         &lt;体操系・歩走グループ&gt;<br/>         ・前方歩 ・後方歩<br/>         &lt;体操系・跳躍グループ&gt;<br/>         ・伸身跳び(両足踏切) ・開脚跳び(片足踏切)<br/>         &lt;バランス系・ポーズグループ&gt;<br/>         ・立ちポーズ(両足・片足)<br/>         ・座臥・支持ポーズ<br/>         &lt;バランス系・ターングループ&gt;<br/>         ・両足ターン</p> <p>○発展技を練習する。<br/>         &lt;体操系・歩走グループ&gt;<br/>         ・前方ツーステップ ・前方走<br/>         ・後方ツーステップ<br/>         &lt;体操系・跳躍グループ&gt;<br/>         ・かかえ込み跳び ・開脚跳び下り<br/>         ・かかえ込み跳び下り ・前後開脚跳び<br/>         ・片足踏み切り跳び上がり<br/>         &lt;バランス系・ポーズグループ&gt;<br/>         ・片足水平バランス ・V字ポーズ<br/>         ・片膝立ち水平支持ポーズ<br/>         &lt;バランス系・ターングループ&gt;<br/>         ・片足ターン(振り上げ型・回し型)</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>準備運動として、前時の簡単な技を取り入れる。</li> <li>仲間の練習の様子を観察し、良かった点などを教え合ったり、話し合ったりしながら練習させる。</li> <li>床にラインテープで10cmに示したものや、低い平均台を利用して、恐怖心を取り除くための場作りを心がける。</li> <li>学習カードを利用し、技のポイントを確認しながら練習させ、自己評価させる。</li> <li>自己の技能・体力の程度の高まりに応じて、学習した基本的な技の中から発展した技を行うようにさせる。</li> <li>【評】基本的な技や、発展技の練習を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |
| <p>6～9 技の構成を考え、練習する。<br/>★技の構成を考えよう。<br/>○簡単な技で体をほぐす。<br/>○条件を変えた技を練習する。<br/>         ・姿勢<br/>         ・リズム<br/>         ・組み合わせ</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習カードを利用し、技の出来映えを確認し技のポイントをまとめさせる。</li> <li>【評】話し合いの活動や学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>歩走グループの技は、姿勢、動きのリズムなどの条件を変えて行わせる。</li> <li>跳躍グループの技は、姿勢、組み合わせの動きなどの条件を変えて行わせる。</li> <li>ポーズグループの技は、姿勢の条件を変えて行わせる。</li> <li>ターングループの技は、姿勢の条件を変えて</li> </ul>   |

○技の構成を考え、練習する。

○活動を振り返り、まとめをする。

10 発表会をする。

★美しい演技をしよう。

○構成した技の練習をする。

○構成した技の発表をする。

○お互いに評価し合う。

行わせる。

・自己に適した技を選び、構成を考えさせる。

・同じグループや異なるグループの基本的な技条件を変えた技、発展技の中から、技の組み合わせの流れや技の静止に着目して「上がる一なかの技一下りる」に構成し演技することを押さえる。

【評】技の構成を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・技と技のつながりの滑らかさや、一連の動きの出来映えについて話し合わせる。

・発表会に向けて、構成した技の確認をさせる

【評】発表会を通して、「知識・技能」を評価する。

【評】単元全体の活動や発表会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの技がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本単元では、平均台運動の技がよりよくできることや自己に適した技で演技することができるようにする。  
平均台運動の主な技の例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P. 79～P. 80参照

## 単元名 器械運動(跳び箱運動)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、跳び箱運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行ったり、条件を変えた技や発展技を行ったりすることができる。
- (2) 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 跳び箱運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讀えたり、互いに助け合い教え合ったり一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300105\_001

【準備等】跳び箱、マット、踏み切り板、距離調節器、セーフティマット、学習カード、学習資料

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★3年生の跳び箱運動のねらいを知ろう。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○学習カードや資料の使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</p> <p>○体ほぐし運動をする。</p> <p>○既習の技を確認する。</p> <p>2～5 基本的な技や条件を変えた技を練習する。</p> <p>★自分に合った技をより大きく美しくしよう。</p> <p>○簡単な技で体をほぐす。</p> <p>○基本的な技を練習する。</p> <p>＜切り返し系・切り返し跳びグループ＞</p> <p>・開脚跳び ・かかえ込み跳び</p> <p>＜回転系・回転跳びグループ＞</p> <p>・前方屈腕倒立回転跳び</p> <p>○条件を変えた技を練習する。</p> <p>・着手位置 ・姿勢</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> <p>6～9 発展技の練習をする。</p> <p>★難しい技に挑戦しよう。</p> <p>○簡単な技で体をほぐす。</p> <p>○基本的な技や条件を変えた技を確認する。</p> <p>○発展技を練習する。</p> <p>＜切り返し系・切り返し跳びグループ＞</p> <p>・開脚伸身跳び ・屈伸跳び</p> <p>＜回転系・回転跳びグループ＞</p> <p>・前方倒立回転跳び ・側方倒立回転跳び</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> <p>10 発表会をする。</p> <p>★美しい演技をしよう。</p> <p>○発表する技の練習をする。</p> <p>○技の発表をする。</p> <p>○お互いに評価し合う。</p> | <p>・基本的な技の出来映えを高めていくこと、条件を変えた技や発展技に挑戦することを押さえておく。</p> <p>・3年生では、基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技・発展技を行うことを押さえておく。</p> <p>・技のポイントや練習方法が分かるような学習資料を準備する。</p> <p>・跳び箱・マットの配置や使い方、練習時の約束、補助の仕方等について説明する。</p> <p>・跳び箱運動の技につながるような運動を取り入れる。</p> <p>・示範や学習資料等により、技を確認させる。</p> <p>・学習カードに自己評価させる。</p> <p>・準備運動として、既習の技を取り入れる。</p> <p>・仲間の練習の様子を観察し、良かった点などを教え合ったり、話し合ったりしながら練習させる。</p> <p>・跳び箱の高さや置き方を工夫するなど段階に応じた練習場所を準備しておく。</p> <p>・安全のため、切り返し系の技の着手技術を全体指導しておく。</p> <p>・学習カードを利用し、技のポイントを確認しながら練習させ、自己評価させる。</p> <p>・着手位置、姿勢など条件を変えて行わせる。</p> <p>【評】基本的な技や、条件を変えた技の練習を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・学習カードを利用し、技の出来映えを確認し技のポイントをまとめさせる。</p> <p>【評】話し合い活動や学習カードの記入を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すようにさせる。</p> <p>【評】発展技の練習を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・技の滑らかさについて話し合わせる。</p> <p>【評】発表会を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動や発表会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの技がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本単元では、跳び箱運動の技がよりよくできることや自己に適した技で演技することができるようになる。

跳び箱運動の主な技の例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P.80参照

## 単元名 陸上競技(短距離走・リレー)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、中間走へのつながりを滑らかにして速く走ったり、バトンの受渡りで次走者のスピードを十分高めたりすることができる。
- (2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 短距離走・リレーに自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしたり、自己の責任を果たそうとしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300106\_001

【準備等】ストップウォッチ、スターティングブロック、バトン、カラーコーン、赤旗、白旗、学習カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど  |
|--|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★短距離走・リレーのねらいを知ろう。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○正しい走法を確認し、短い距離を走る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腕振り</li> <li>・ももあげ</li> <li>・クラウチングスタート</li> </ul> <p>○100m走の計測をし、これからの学習の見通しをもつ。</p> <p>2 100mを走り、チーム分けをする。</p> <p>★100mで自己最高記録を目指そう。</p> <p>○試しの記録を参考にして、本時の目標を立てる。</p> <p>○走り方やスタートの仕方を工夫して、短い距離を走る。</p> <p>○100m走の計測をし、チーム分けをする。</p> <p>3～4 リレーの練習をする。</p> <p>★オーダーを工夫し、テイクオーバーゾーンを有効に使おう。</p> <p>○チームごとに課題を見つけ、バトンパスの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンディングパス</li> <li>・ジョギングパス</li> <li>・テイクオーバーゾーンを利用したパス</li> </ul> <p>○1回目のリレーをする。</p> <p>○1回目のリレーを振り返り、チームごとに課題を決め、練習をする。</p> <p>○2回目のリレーをする。</p> <p>5 100m走・リレーの競技会をする。</p> <p>★最高記録を出そう。</p> <p>○係を分担し、競技会の運営方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出発</li> <li>・計時</li> <li>・決勝</li> <li>・監察</li> </ul> <p>○100m走の競技会をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リレー練習の一環として、短距離走の練習を位置付ける。</li> <li>・個人やチームの課題を決め、達成のための練習を自分たちで工夫することを知らせる。</li> <li>・後半でスピードが著しく低下しないように、力みのないリズムカルな動きで走ることを意識させる。</li> <li>・スタートダッシュでは地面を力強くキックして、徐々に上体を起こして加速することを意識させる。</li> <li>・クラウチングスタートで行わせる。</li> <li>・仲間の様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>・前時の記録を参考にさせることによって、意欲を引き出すようにする。</li> <li>・工夫する点を学習カードに記入させる。</li> <li>・自分にあったスターティングブロックの位置を調節させる。</li> </ul> <p>【評】走り方やスタートの仕方を工夫させる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の記録から、タイム順で走らせる。</li> <li>・100m走のタイムを参考にし、チームの力がほぼ均等になるように配慮する。</li> </ul> <p>【評】100mを走る活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーダーや練習方法を工夫して、タイムの向上を目指すことを知らせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バトンの渡し手と受け手のタイミングが重要なので、慣れるまでは順番を変えずにバトンパスの練習をさせる。</li> <li>・ダッシュマークを利用して練習させる。</li> <li>・前走者と次走者のスピードを正確につかませダッシュマークを付けさせる。</li> <li>・リレーのタイムを計り、100m走のタイムとの合計の差に気付かせる。</li> <li>・お互いが最高速度になったときに、バトンの受け渡しができているかなを確認させる。</li> <li>・中間走へのつながりを滑らかにし、速く走ること意識して、話し合わせる。</li> <li>・オーダーを変えるなど練習方法を工夫させる</li> </ul> <p>【評】チームごとに、課題を決め練習をする活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目の振り返りを生かして、課題を意識させる。</li> </ul> <p>【評】リレーをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・係を分担し、競技会の運営などを協力して行わせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2時の記録を参考に、目標タイムを設定さ</li> </ul> |

|   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○バトンパスの練習をする。</li> <li>○リレーの競技会をする。</li> <li>○活動を振り返り，まとめをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>せる。</li> <li>・ダッシュマークの確認をさせる。</li> <li>・スピードに乗ったバトンパスを意識させる。</li> <li>・リレーは2組以上に分かれて行わせ，競技者と審判を交代して行わせる。</li> <li>・勝敗や記録だけでなく，学習に取り組んできた過程と関連付けて仲間とよいところなどを評価し合うようにさせる。</li> <li>【評】リレーの競技会をする活動を通して，「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】単元全体の活動や競技会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |
|---|---|

【 備 考 】  
短距離走・リレーでは，合理的なフォームを身に付けたり，個人やリレーチームのタイムを短縮したり，競走したりできるようにする。本単元では，記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい，短距離走・リレー特有の技能を身に付けることができるようにする。



## 単元名 陸上競技〈長距離走〉

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、自己に適したペースを維持して走ることができる。  
 (2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。  
 (3) 長距離走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしたり、自己の責任を果たそうとしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300107\_001

【準備等】ストップウォッチ、カラーコーン、学習カード

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。<br/> <b>★</b>長距離走のねらいを知ろう。<br/>         ○学習のねらいや進め方を知る。<br/>         ○正しい走法を知り、長い距離を走る。<br/>           ・腕振り<br/>           ・呼吸法<br/>         ○1000m走（1500m走）の計測をする。</p> <p>2～4 長距離走をする。<br/> <b>★</b>長い距離をより速く安定したペースで走り通そう。<br/>         ○前時の記録を参考にして、目標タイムを設定する。<br/>         ○ペアで練習方法を工夫して、長い距離を走る。<br/>           ・ペースランニング<br/>           ・時間走<br/>           ・折り返し持久走</p> <p>○1000m走（1500m走）の計測をする。</p> <p>5 1000m走（1500m走）の競技会をする。<br/> <b>★</b>記録の向上を目指そう。<br/>         ○係を分担し、競技会の運営方法を知る。<br/>           ・出発合図<br/>           ・計時<br/>           ・決勝<br/>         ○1000m走（1500m走）の競技会をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人やペアの課題を決め、達成のための練習を自分たちで工夫することを知らせる。</li> <li>・リズムカルに腕を振り、力みのないフォームで軽快に走ることを意識させる。</li> <li>・呼吸を楽にしたり、走りのリズムを作ったりする呼吸法を取り入れて走ることを伝える。</li> <li>・ペース通りで走り通すことが記録の向上につながることを知らせる。</li> <li>・前時の記録を参考にさせることによって、意欲を引き出すようにする。</li> <li>・自己に適したペースを維持して走るための練習方法について話し合わせる。</li> <li>・ペースタイムのスピード感をつかませる。</li> <li>・ペース配分を考えさせ、目標距離を設定させる。</li> <li>・工夫した点を学習カードに記入させる。</li> <li>【評】練習方法を工夫させる活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・記録の近い集団で走らせる。</li> <li>【評】1000m（1500m）を走る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・係を分担し、競技会の運営などを協力して行わせる。</li> <li>・計時係には、ラップタイムを言わせる。</li> <li>・目標タイムを設定させ、意欲化を図る。</li> <li>・勝敗や記録だけでなく、学習に取り組んできた過程と関連付けて仲間とよいところなどを評価し合うようにさせる。</li> <li>【評】1000m（1500m）走の競技会をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】単元全体の活動や競技会で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【 備 考 】

長距離走では、自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競走したりできるようにする。本単元では、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率の良い動きを身に付けることができるようにする。

走る距離は、1000～3000m程度を目安とするが、生徒の技能・体力の程度や気候等に応じて弾力的に扱うようにする。

## 単元名 陸上競技〈ハードル走〉

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができる。  
 (2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。  
 (3) ハードル走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしたり、自己の責任を果たそうとしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300108\_001

【準備等】ストップウォッチ、スターティングブロック、巻き尺、ハードル、学習カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。<br/> <b>★</b>ハードル走のねらいを知ろう。<br/>         ○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○80m走を計測する。<br/>         ○正しい走法を確認し、ハードリングのフォームでストレッチをする。</p> <p>○80mハードル走を計測する。<br/>         2～4 80mハードル走をする。<br/> <b>★</b>スピードを維持して、ハードルを低く越そう。</p> <p>○1台目のハードルを越す練習をする。</p> <p>○3台目までを3歩のリズムで走る練習をする。</p> <p>○短い距離を、スピードを維持してハードルを越す練習をする。<br/>         ・30mハードル走</p> <p>○80mハードル走の練習をする。<br/>         ・異なったインターバル<br/>         6.0m 6.5m 7.0m 7.5m 8.0m</p> <p>○自分にあったインターバルで、ハードル走の計測をする</p> <p>5 80mハードル走の競技会をする。<br/> <b>★</b>最高記録を出そう。<br/>         ○係を分担し、競技会の運営方法を知る。<br/>         ・出発<br/>         ・計時<br/>         ・決勝<br/>         ・監察<br/>         ・器具<br/>         ○80mハードル走の競技会をする。</p> | <p>・個人の課題を決め、達成のための練習を工夫することを知らせる。<br/>         ・80m走を計測し、学習意欲を引き出させる。<br/>         ・ハードリングの空中姿勢を作り、1・2・3のリズムで上体を前傾にし、伸ばしている足の反対の腕を前へ出すようにさせる。<br/>         ・柔軟性を高めるとともに練習中のけが予防のために準備運動の一環として継続的に行うようにする。</p> <p>・インターバルの長短やハードルの高低の違う場を設定する。<br/>         ・3歩のリズムを意識して行わせるが、4、5歩のリズムになってもよいことを伝える。<br/>         ・遠くから踏み切り、ハードルを低く走り越すように意識させる。<br/>         ・ハードル越すときには、前傾姿勢になるように意識させる。<br/>         ・スタートダッシュから1台目のハードルを勢いよく走り越すことを意識させる。<br/>         ・インターバルは6～8mを目安とし、生徒の段階に応じるようにする。<br/>         ・1台目のハードルからスピードを維持して、ハードルを低く越すように意識させる。<br/>         ・スピードを維持した走りからハードルを低く越すことを意識させる。<br/>         ・仲間のハードルを越す様子を観察し、良かった点などを教え合ったり、話し合ったりしながら練習させる。<br/>         ・スタートダッシュからスピードを維持して3台のハードルを越すことを意識させる。<br/>         ・抜き足の膝を折りたたんで横に寝かして前に運ぶことを意識させる。<br/>         ・抜き足の膝を胸に引きつけるように意識させる。<br/>         ・振り上げ脚は、素早く降ろすように意識させる。</p> <p>【評】スピードを維持してハードルを越す練習を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br/>         ・3歩のリズムで走ることができるインターバルを選択させる。<br/>         ・同じインターバルで練習をする仲間を観察をし、教え合うようにさせる。<br/>         ・3～5歩のリズムで、最後のハードルまでスピードを維持して走ることが意識させる。<br/>         【評】ハードル走の計測を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・係を分担し、競技会の運営などを協力して行わせる。</p> <p>・前時までの記録を参考に、目標タイムを設定させる。</p> |

○活動を振り返り，まとめをする。

- ・勝敗や記録だけでなく，学習に取り組んできた過程と関連付けて仲間とよいところなどを評価し合うようにさせる。
- 【評】ハードル走の競技会を通して，「知識・技能」を評価する。
- 【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】単元全体の活動や競技会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

ハードル走では，ハードルを低く素早く越えながらインターバルをリズムカルにスピードを維持して走り，タイムを短縮したり競争したりできるようにする。本単元では，記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい，基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。

指導に際しては，ハードル走の距離は50m～100m程度，その間にハードルを5台～10台程度置くことを目安とするが，体力の程度やグラウンドの大きさに応じて弾力的に扱うようにする。

## 単元名 陸上競技〈走り幅跳び〉

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。  
 (2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。  
 (3) 走り幅跳びに自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしたり、自己の責任を果たそうとしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300109\_001

【準備等】ラインカー、ロイター板、ゴム、跳び箱、赤旗、巻き尺、学習カード

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。<br/> <b>★</b>走り幅跳びのねらいを知ろう。<br/>         ○学習のねらいや進め方を知る。<br/>         ○走り幅跳びの計測をする。</p> <p>2～4 走り幅跳びの練習をする。<br/> <b>★</b>自分に合った跳び方を見つけよう。<br/>         ○空間動作の練習をする。<br/>           ・ゴムを使った練習<br/>           ・ロイター板、跳び箱を使った練習<br/>         ○短い助走距離から跳び方の練習をする。</p> <p>○自分に合った跳び方で練習をする。</p> <p>○自分に合った跳び方で計測をする。</p> <p>5 走り幅跳びの競技会をする。<br/> <b>★</b>最高記録を出そう。<br/>         ○係を分担し、競技会の運営方法を知る。<br/>           ・計測<br/>           ・審判<br/>           ・記録<br/>         ○走り幅跳びの競技会をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・器具の扱い方や安全面について確認をする。</li> <li>・個人の課題を決め、達成のための練習の工夫をすることを知らせる。</li> <li>・試しの跳躍をし、学習意欲を引き出させる。</li> <li>・1・2年の学習を振り返り、踏切線に合わせて跳躍させる。</li> <li>・はさみ跳び、そり跳び、2種類の跳び方から自分に合った跳び方を選ぶようにさせる。</li> <li>・はさみ跳び、そり跳びの紹介をする。</li> <li>・踏切線を越えたところにゴムを設置する。</li> <li>・膝を引き上げ、高く跳び上がることを意識させる。</li> <li>・踏切線に跳び箱1段目を置き、その手前1.2m～1.5mにロイター板を準備させる。</li> <li>・ある程度上達してきたら、跳び箱を除いて跳躍させる。</li> <li>・はさみ跳び、そり跳びのどちらで練習をしてもよいこととする。</li> <li>・助走距離は5m～15mとし、助走マークを付けさせる。</li> <li>・踏み切り前3～4歩からリズムアップして踏み切りに移らせる。</li> <li>・踏み切りでは上体を起こして、地面を踏みつけるようにキックするよう意識させる。</li> <li>【評】短い助走距離からの練習をする姿を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶことを意識して、話し合わせる。</li> <li>・仲間の跳び方の様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>・振り上げ脚を素早く引き上げるように意識させる。</li> <li>・脚を前に投げ出す着地動作を意識させる。</li> <li>・工夫した点を学習カードに記入させる。</li> <li>【評】自分に合った跳び方の練習をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・リズムカルな助走から力強く踏み切っている仲間同士で確認させる。</li> <li>【評】空間動作で「知識・技能」を評価する。</li> <li>・係を分担し、競技会の運営などを協力して行わせる。</li> <li>・踏切線を越えた場合は、審判係が赤旗を上げるようにさせる。</li> <li>・前時までの記録を参考に、目標の距離を設定させる。</li> <li>・勝敗や記録だけでなく、学習に取り組んできた過程と関連付けて仲間とよいところなどを評価し合うようにさせる。</li> <li>【評】競技会を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】単元全体の活動や競技会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

【 備 考 】

走り幅跳びでは，助走のスピードとリズムカルな動きを生かして力強く踏み切り，より遠くへ跳んだり，競争したりできるようにする。本単元では，記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい，基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。

## 単元名 陸上競技〈走り高跳び〉

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶことができる。
- (2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 走り高跳びに自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしたり、自己の責任を果たそうとしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300110\_001

【準備等】支柱、バー、跳び箱、ロイター板、セーフティーマット、学習カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★走り高跳びのねらいを知ろう。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○走り高跳びの計測をする。</p> <p>2～4 走り高跳びの練習をする。</p> <p>★自分に合った跳び方をマスターしよう。</p> <p>○助走を生かした踏み切りの練習をする。</p> <p>○自分に合った跳び方で練習をする。</p> <p>○自分に合った跳び方で計測をする。</p> <p>5 走り高跳びの競技会をする。</p> <p>★最高記録を出そう。</p> <p>○係を分担し、競技会の運営方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計測</li> <li>・審判</li> <li>・補助</li> </ul> <p>○走り高跳びの競技会をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・器具の扱い方や安全面について確認をする。</li> <li>・個人の課題を決め、達成のための練習の工夫することを知らせる。</li> <li>・試しの跳躍をし、学習意欲を引き出させる。</li> <li>・1・2年の学習を振り返り、はさみ跳びかベリロールのどちらかで跳躍させる。</li> <li>・はさみ跳び、ベリロール、背面跳びの3種類の跳び方から、自分に合った跳び方を選択するようにさせる。</li> <li>・助走は全力で走らず、リズムよく走らせる。</li> <li>・リズムカルな助走から真上に伸び上がるような踏み切りを意識させる。</li> <li>・助走のスピードと踏み切りについて気付いたことを学習カードに記入させる。</li> <li>【評】踏み切りの練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶことを意識させる。</li> <li>・仲間の跳び方の様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>《はさみ跳び》</li> <li>・振り上げる脚はバーを越えた瞬間に下に振り下ろすように意識させる。</li> <li>・踏み切った脚は横から上に上げるように意識させる。</li> <li>《ベリロール》</li> <li>・振り上げる脚がバーを中心に回るように越していくことを意識させる。</li> <li>・踏みきった脚は膝を横に開くように膝を上へ上げて越すように意識させる。</li> <li>【評】自分に合った跳び方の練習をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】バーを越えるフォームで、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・係を分担し、競技会の運営などを協力して行わせる。</li> <li>・前時までの記録を参考に、目標の高さを設定させる。</li> <li>・勝敗や記録だけでなく、学習に取り組んできた過程と関連付けて仲間とよいところなどを評価し合うようにさせる。</li> <li>【評】競技会を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】単元全体の活動や競技会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

## 【備 考】

走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切り、はさみ跳びや背面跳びなどの跳び方で、より高いバーを越えたり、競争したりできるようにする。本単元では、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本

的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。

背面跳びの指導に際しては、個々の生徒の技能や器具・用具等の安全性などの条件が十分に整っており、さらに生徒が安全を考慮した段階的な学び方を身に付けている場合に限って実施することとする。

## 単元名 水泳

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。  
 (2) 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。  
 (3) 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしたり、自己の責任を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300111\_001

【準備等】 ビート板、プルブイ、ストップウォッチ、学習カード

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。<br/> <b>★</b>水泳のねらいを知ろう。<br/>         ○学習のねらいや進め方を知る。</p> <p>○水慣れをする。<br/>         ・水中歩行・ボビング<br/>         ・けのび・伏し浮き・背浮き<br/>         ○既習の泳法を確認する。</p> <p>2～7 複数の泳法で泳ぐ練習をする。<br/> <b>★</b>複数の泳法で泳ごう。<br/>         ○泳力チェックをし、課題を決める。</p> <p>○クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライの中から2種目を選択し、練習をする。</p> <p>○複数の泳法で泳ぐ練習をする。</p> <p>○複数の種目での計測をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> <p>8～9 リレーの練習をする。<br/> <b>★</b>リレーのタイムを短縮しよう。<br/>         ○25mの計測をし、チーム分けをする。</p> <p>○練習方法を話し合い、リレーの練習をする。</p> <p>○リレーをする。</p> | <p>・水泳の事故防止に関する心得について指導する。<br/>         ・常時バディでの活動を意識させるなど、安全面について確認をする。<br/>         ・水中歩行をしたり、浮きやすい姿勢を保ったりすることで、水に慣れさせる。<br/>         ・水中で、安全に立つ感覚をつかませる。<br/>         ・1・2年の学習を振り返り、既習の泳法で泳がせる。</p> <p>・クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライの4種目の泳力チェックをし、泳ぐ種目を決めさせる。<br/>         ・泳ぐ距離は、25～50m程度を目安とする。<br/>         ・学習カードに泳ぎ方のポイントなどを記載しておく。<br/>         ・プルとキック、呼吸のバランスを意識させ練習させる。<br/>         ・水中からのスタート・ターンの練習も随時行わせる。<br/>         ・水泳の得意な生徒に関しては、2種目以上泳いでもよいこととする。<br/>         ・「複数の泳法で泳ぐ」とは、4種目から2～4種目を選択し、続けて泳ぐことである。<br/>         ・手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることを意識して、効率的に泳ぐための技術的なポイントについて話し合わせる。<br/>         ・泳ぐ距離は、25～100mとし、2種目以上で続けて泳ぐことを目標とする。<br/>         ・バディで泳ぎ方の様子を観察し、良かった点などを教え合うようにさせる。<br/>         【評】複数の泳法で泳ぐ練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br/>         ・バランスよく安定したペースで泳ぐことを目標とさせる。<br/>         【評】複数の泳法で泳ぐフォームと距離で、「知識・技能」を評価する。<br/>         ・計測の様子を観察し、バランスを保ち、安定したペースで泳ぐためのポイントを学習カードにまとめさせる。<br/>         【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>         ・スタートや引き継ぎは水中で行わせる。</p> <p>・計測する種目は、速く泳ぐことができる種目を選択させる。<br/>         ・25mのタイムを参考にして、チームの力がほぼ均等になるように配慮する。<br/>         ・泳ぐ順番を変えるなど工夫させる。<br/>         ・リレーの練習の参考になるよう、リレーやメドレーリレーのルールなどを確認する。<br/>         ・チームで協力して、タイムを短縮できるように練習方法を工夫させる。<br/>         【評】リレーの練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br/>         ・泳ぐ距離は、個人で25mを目安とさせる。</p> |



|   |  |
|---|--|
| <p>○活動を振り返り，まとめをする。</p> <p>10 競技会をする。</p> <p>★最高記録を出そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○係を分担し，競技会の運営方法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出発</li> <li>・計時</li> <li>・決勝</li> <li>・監察</li> </ul> </li> <li>○競技会をする。</li> </ul> <p>○活動を振り返り，まとめをする。</p> | <p>【評】リレーを通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて自己の活動を振り返って学習カードにまとめるようにする。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・係を分担し，競技会を行わせる。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの記録を参考に，目標タイムを設定させる。</li> <li>・勝敗や記録だけでなく，学習に取り組んできた過程と関連付けて仲間とよいところなどを評価し合うようにさせる。</li> </ul> <p>【評】競技会を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動や競技会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】

水泳は，クロール，平泳ぎ，背泳ぎ，バタフライなどから構成され，浮く，進む，呼吸をするなどのそれぞれの技能を組み合わせによって成立している運動で，それぞれの泳法を身に付け，続けて長く泳いだり，競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本単元では，記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい，効率的に泳ぐことができるようにする。

## 単元名 球技(ゴール型)〈バスケットボール〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしたり、作戦などについての話し合いに貢献したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしたり、互いに助け合い教え合ったり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300112\_001

【準備等】 バスケットボール、ビブス、カラーコーン、学習カード、デジタルタイマー

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見直しをもつ。</p> <p>★3年生のバスケットボールのねらいを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定したボール操作</li> <li>・空間を作り出す動き</li> </ul> </li> <li>○学習カードの使い方を知る。</li> </ul> <p>○マナーや安全な行動の仕方を知る。</p> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～4 基本的な技能の練習をする。</p> <p>★安定したボール操作をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ドリブルの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグザグドリブル</li> <li>・ドリブルリレーなど</li> </ul> </li> <li>○パスやシュートの練習をする。</li> </ul> <p>○ランニングパスからのシュート練習をする。</p> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>5～8 連携プレーの練習をする。</p> <p>★空間を作り出す動きをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な技能の確認をする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○空間を作り出す練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4対3</li> <li>・5対4など</li> </ul> </li> </ul> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>9～11 チームに合った練習をする。</p> <p>★チームに合った作戦を考え、練習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チームに合った作戦を考え、練習をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、空間を作り出したりして攻防を展開できることをねらいとする。</li> <li>・パスやシュートなど、個人的技能のポイントを記載し、練習時に有効に活用できるようにする。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利き手だけでなく反対の手も使わせる。</li> <li>・リレーを取り入れることによって、意欲化を図る。</li> <li>・リングやバックボードをねらい、弧を描くようにシュート練習をさせる。</li> <li>・ドリブルシュートでは、ドリブルからスムーズにシュートできるように練習させる。</li> <li>・ドリブルシュートで2拍子のステップを意識してシュートの練習をさせる。</li> <li>・仲間からのパスを受けてシュートを打つ練習をさせる。</li> <li>・味方が操作しやすいパスを送ることを意識させる。</li> </ul> <p>【評】パスやシュートの練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリブルやパス、シュートなどの基本的な技能の練習をさせる。</li> <li>・パスを出した後には次のパスを受ける動きをするように意識させる。</li> <li>・ゴール前に空間を作り出すために、守備者を引きつけるような動きを意識させる。</li> <li>・ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れるような動きを意識させる。</li> <li>・スクリーンなども活用させる。</li> </ul> <p>【評】空間を作り出す練習を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空間を作り出す動きを意識させて簡易ゲームを行わせる。</li> </ul> <p>【評】簡易ゲームを通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・攻撃の際は、味方から離れる動きや人のいない場所に移動できる位置取りを意識させる。</li> <li>・守備の際は、相手の動きに対して、相手をマークして守る動きと所定の空間をカバーして守ることができる位置取りを意識させる。</li> <li>・自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦を考えさせる。</li> </ul> <p>【評】チームに合った練習をする活動を通して</p> |

|   |   |
|---|---|
| <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>○活動を振り返り，まとめをする。</p> <p>12～14 リーグ戦をする。<br/>★チームの特徴を生かしてゲームをしよう。<br/>○ルールを確認する。<br/>○リーグ戦をする。</p> <p>○活動を振り返り，まとめをする。</p> | <p>「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム練習を生かしたゲームを行う。</li> </ul> <p>【評】簡易ゲームを通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを利用し，チームの作戦についての振り返りと，次時に向けての課題を記入させる。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。</li> </ul> <p>【評】リーグ戦を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームを振り返り，次時に生かせるようなまとめをさせる。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|---|---|

【 備 考 】  
バスケットボールは，ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し，シュートを放ち，一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。本単元では，作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ゴール型)〈ハンドボール〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) ハンドボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしたり、作戦などについての話し合いに貢献したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしたり、互いに助け合い教え合ったり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300113\_001

【準備等】ハンドボール、ビブス、カラーコーン、学習カード、デジタルタイマー

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 1, 2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★3年生のハンドボールのねらいを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定したボール操作</li> <li>・空間を作り出す動き</li> </ul> </li> <li>○学習カードの使い方を知る。</li> </ul> <p>○マナーや安全な行動の仕方を知る。</p> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～4 基本的な技能の練習をする。</p> <p>★安定したボール操作をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ドリブルの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグザグドリブル</li> <li>・ドリブルリレー</li> </ul> </li> <li>○パスやシュートの練習をする。</li> </ul> <p>○ランニングパスからのシュートの練習をする。</p> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>5～8 連携プレーの練習をする。</p> <p>★空間を作り出す動きをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な技能の確認をする。</li> </ul> <p>○空間を作り出す練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4対3</li> <li>・5対4など</li> </ul> </p> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>9～11 チームに合った練習をする。</p> <p>★チームに合った作戦を考え、練習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チームに合った作戦を考え、練習をする。</li> </ul> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、空間を作り出したりして攻防を展開できることをねらいとする。</li> <li>・パスやシュートなど、個人的技能のポイントを記載し、練習時に有効に活用できるようにする。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> </ul> <p>・利き手だけでなく反対の手も使わせる。</p> <p>・リレーを取り入れることによって、意欲化を図る。</p> <p>・パスではスナップをきかせるように意識させる。</p> <p>・パス練習では、キャッチも意識して練習をさせる。</p> <p>・ボールをキャッチしてから3歩のリズムでシュートに入れるような足運びをさせる。</p> <p>・仲間のパスからシュートする練習をさせる。</p> <p>・味方が操作しやすいパスを送ることを意識させる。</p> <p>【評】パスやシュートの練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ドリブルやパス、シュートなどの基本的な技能を練習させる。</p> <p>・パスを出した後に次のパスを受ける動きをするように意識させる。</p> <p>・ポストを使って空間を作り出すように意識させる。</p> <p>【評】空間を作り出す練習を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・空間作り出す動きを意識させて簡易ゲームを行わせる。</p> <p>【評】簡易ゲームを通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・攻撃の際は、守備者を引きつけるような位置取りを意識させる。</p> <p>・守備の際は、相手の動きに対して、相手をマークして守る動きと所定の空間をカバーして守ることができる位置取りを意識させる。</p> <p>・自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦を考えさせる。</p> <p>【評】チームに合った作戦を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・チーム練習を生かしたゲームを行う。</p> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・学習カードを利用し、チームの作戦についての振り返りと、次時に向けての課題を記入さ</p> |

12～14 リーグ戦をする。  
 ★チームの特徴を生かしてゲームをしよう。  
 ○ルールを確認する。  
 ○リーグ戦をする。

○活動を振り返り、まとめをする。

せる。  
 【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。

【評】リーグ戦を通して、「知識・技能」を評価する。

・ゲームを振り返り、次時に生かせるようなまとめをさせる。

【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

# 【 備 考 】

ハンドボールは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。本単元では、作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ゴール型)〈サッカー〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) サッカーに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしたり、作戦などについての話し合いに貢献したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしたり、互いに助け合い教え合ったり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300114\_001

【準備等】 サッカーボール、ピブス、カラーコーン、学習カード、タイマー

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見直しをもつ。</p> <p>★3年生のサッカーのねらいを知ろう。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定したボール操作</li> <li>・空間を作り出す動き</li> </ul> <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な行動の仕方を知る。</p> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～4 基本的な技能の練習をする。</p> <p>★安定したボール操作をしよう。</p> <p>○ドリブルの練習をする。</p> <p>○パスやシュートの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インサイドキック</li> <li>・インステップキック</li> <li>・インフロントキック</li> </ul> <p>○個人的技能の練習をする。</p> <p>○ミニゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2対2</li> <li>・3対3</li> <li>・4対4</li> </ul> <p>5～8 連携プレーの練習をする。</p> <p>★空間を作り出す動きをしよう。</p> <p>○基本的な技能の確認をする。</p> <p>○空間を作り出す練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4対3</li> <li>・5対4 など</li> </ul> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>9～11 チームに合った練習をする。</p> <p>★チームに合った作戦を考え、練習しよう。</p> <p>○チームに合った作戦を考え、練習をする。</p> | <p>・仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、空間を作り出したりして攻防を展開できることをねらいとする。</p> <p>・キックなど個人的技能のポイントを記載し、練習時に有効に活用できるようにする。</p> <p>・ルールについては、随時教えていく。</p> <p>・足の内側、外側を意識して練習させる。</p> <p>・リレーなどを取り入れることによって、意欲化を図る。</p> <p>・インサイドキックでは、距離を短めに設定し正確なパスやシュートを打つことを意識させる。</p> <p>・インステップキックは、足の甲でボールを捉えるように意識させる。</p> <p>・インフロントキックは、ボールの下部中心を捉えるように意識させる。</p> <p>・インサイドキックやインステップキック、インフロントキックを状況によって使い分けさせる。</p> <p>・仲間のパスからシュートを打つ練習も随時取り入れさせる。</p> <p>・ヘディングは額の中央でボールを捉えるようにさせる。</p> <p>・リフティングは、生徒の技能の発達段階に合わせて、足の甲やもも、頭を使って練習させる。</p> <p>・トラッピングは、浮いたボールを中心に行わせる。</p> <p>【評】パスやシュートの練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・味方が操作しやすいパスを送ることを意識させる。</p> <p>・パスを出した後に次のパスを受ける動きをするように意識させる。</p> <p>【評】ミニゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ドリブルやパス、シュートなどの基本的な技能の練習をさせる。</p> <p>・ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけるような動きを意識させる。</p> <p>・ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れるような動きを意識させる。</p> <p>【評】空間を作り出す練習を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・空間を作り出す動きを意識させて簡易ゲームを行わせる。</p> <p>【評】簡易ゲームを通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・攻撃の際は、味方から離れる動きや人のいな</p> |

|   |   |
|---|---|
| <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>○活動を振り返り，まとめをする。</p> <p>12～14 リーグ戦をする。<br/>★チームの特徴を生かしてゲームをしよう。<br/>○ルールを確認する。<br/>○リーグ戦をする。</p> <p>○活動を振り返り，まとめをする。</p> | <p>い場所に移動できる位置取りを意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・守備の際は，相手の動きに対して，相手をマークして守る動きと所定の空間をカバーして守ることができる位置取りを意識させる。</li> <li>・自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦を考えさせる。</li> </ul> <p>【評】チームに合った作戦を考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム練習を生かしたゲームを行う。</li> </ul> <p>【評】簡易ゲームを通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを利用し，チームの作戦についての振り返りと，次時に向けての課題を記入させる。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。</li> </ul> <p>【評】リーグ戦を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームを振り返り，次時に生かせるようなまとめをさせる。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|---|---|

【 備 考 】  
サッカーは，ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し，シュートを放ち，一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。本単元では，作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ネット型)〈バレーボール〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしたり、作戦などについての話し合いに貢献したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしたり、互いに助け合い教え合ったり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300115\_001

【準備等】 バレーボール、支柱、ネット、得点板、フラフープ、学習カード、学習資料、デジタルタイマー

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★3年生のバレーボールのねらいを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作戦に応じたボール操作</li> <li>・ポジションに応じた役割</li> </ul> </li> <li>○学習カードや資料の使い方を知る。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</li> </ul> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～4 基本技能の確認をする。</p> <p>★ねらった場所へボールを操作しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○パスの練習をする。</li> </ul> <p>○サーブの練習をする。</p> <p>○スパイクの練習をする。</p> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>5～8 連携プレーの練習をする。</p> <p>★ポジションを意識した攻防をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チームごとに集まり、ポジションの役割、攻撃の方法を話し合う。</li> <li>○基本の動きの確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・パス</li> <li>・レシーブ</li> <li>・サーブ</li> <li>・スパイク</li> </ul> </li> <li>○連携プレーの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・三段攻撃</li> <li>・ネット際の攻防</li> <li>・速攻</li> <li>・移動攻撃</li> <li>・役割を意識した守備位置への移動など</li> </ul> </li> </ul> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> <p>9～11 チームに合った練習をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットを挟んで、攻撃を組み立てたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームの特性を確認させる。</li> <li>・空いた場所への返球、相手の打球に備えた準備姿勢など、ネット型特有の動きや特性について考えさせる。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> <li>・ネットの張り方やボールなどの道具の扱い方を確認する。</li> <li>・1チーム6～8人で編成する。</li> <li>・1・2年時の学習を振り返りながら練習させる。</li> <li>・攻撃につなげるために次のプレイをしやすい高さや位置にパスするよう意識させる。</li> <li>・ボールをねらった場所に打てるよう、フラフープなどの目標物をコートに置いて練習させる。</li> <li>・コートの隅やネット際など、空いた場所を意識してサーブを打たせる。</li> <li>・サーブレシーブの練習も同時に行う。</li> <li>・腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込ませる。</li> <li>・レシーブの練習も同時に行う。</li> </ul> <p>【評】練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手側のコートのねらった場所へ返球するよう意識させる。</li> </ul> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に拾う役、トスを上げる役、打ち返す役など、コート内での位置取りやポジションを話し合いで決めさせる。</li> <li>・対人パス、扇形パス、ランニングパスなどチームに合った練習の仕方を工夫させる。</li> <li>・レシーブ→トス→スパイクの一連の流れを確認する。</li> <li>・ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりする。</li> <li>・味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーする。</li> </ul> <p>【評】連携プレーの練習を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジションの役割に応じて、パスしたり、打ち返したりすることを意識させる。</li> <li>・チーム練習を生かしたゲームを行う。</li> </ul> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを利用し、本時の課題についての振り返りと次時の課題について話し合う。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |



|  |  |
|--|--|
| <p>★チームに合った作戦を立て、練習をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チームに合った作戦を考え、練習する。</li> </ul> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> <p>12～14 リーグ戦をする。</p> <p>★チームの特徴を生かしてゲームをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時で話し合ったことを確認し、チーム練習をする。</li> </ul> <p>○リーグ戦でゲームをする。</p> <p>○活動を振り返り、次時の計画を立てる。</p> | <p>【評】自分たちの作戦に合った動きができるよう助け合い教え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム練習を生かしたゲームを行う。</li> </ul> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを利用し、自チームの作戦についての振り返りと、次時に向けての課題や練習方法について話し合う。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時、ゲームを始める前に話し合いをし、本時の課題を確認させる。</li> <li>・ゲームの前に、ルールの確認をする。</li> <li>・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。</li> </ul> <p>【評】リーグ戦を通して、「知識・理解」を評価する。</p> <p>【評】チームの特徴や、メンバー一人一人の役割を意識した作戦や練習計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】

バレーボールは、コート上でネットを挟んで相対し、身体を操作してボールを空いている場所へ返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。本単元では、作戦に応じたボール操作で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ネット型)〈卓球〉

配当時間 14時間

単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。

(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

(3) 卓球に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしたり、作戦などについての話し合いに貢献したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしたり、互いに助け合い教え合ったり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300116\_001

【準備等】 ラケット、ボール、卓球台、卓球用ネット、得点板、ビニールテープ、学習カード、学習資料、デジタルタイマー

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。<br/>★3年生の卓球のねらいを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作戦に応じたボール操作</li> <li>・ポジションに応じた役割</li> </ul> </li> <li>○学習カードや資料の使い方を知る。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</li> </ul> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～4 基本技能の確認をする。<br/>★ねらった場所へボールを操作しよう。<br/>○サービスの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ストロークの練習をする。</li> <li>○攻撃に有効な技能を確認する。</li> </ul> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>5～8 ダブルスのコンビネーションの練習をする。<br/>★コンビネーションを生かした攻撃や防御をしよう。<br/>○グループ練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技能の確認</li> <li>・ラリー</li> </ul> </p> <p>○コンビネーションの練習をする。</p> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>9～11 ダブルスのゲームをする。<br/>★ペアの連携を生かしたゲームをしよう。<br/>○ペアに合った作戦を立て、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ルールを確認する。</li> <li>○簡易ゲームをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットを挟んで、攻撃を組み立てたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームの特性を確認する。</li> <li>・空いた場所への返球、相手の打球に備えた準備姿勢など、ネット型特有の動きや特性について考えさせる。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> <li>・ネットの張り方や道具の扱い方を確認する。</li> <li>・1グループは、偶数の人数で構成する。</li> <li>・1・2年時の学習を振り返りながら練習させる。</li> <li>・ボールをねらった場所に打てるよう、コートの手前や角にビニールテープで目印のマークを付けて練習させる。</li> <li>・二人一組で練習を行わせる。</li> <li>・空いた場所を作るよう意識させる。</li> <li>・腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込ませる。</li> <li>【評】練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・相手側のコートのねらった場所へ返球するよう意識させる。</li> <li>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・コートを縦半分に分けて、ダブルスのペア同士で向かい合いながら打ち合いをする。</li> <li>・ラリーを続ける中で、つつつきやドライブ、スマッシュなどの打ち方も入れていくよう指示する。</li> <li>・1球ずつ交互に打たせる。</li> <li>・味方が次に動きやすい場所へ移動することを意識させる。</li> <li>・味方の動きや相手の攻撃に合わせて、コート上の空いた場所をカバーする動きも意識させる。</li> <li>・相手側のコートから球を打ち込んでもらい、練習したコンビネーションを意識しながら返球するようにさせる。</li> <li>【評】ペアで練習する姿を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・コンビネーションを考えながらプレーすることを意識させる。</li> <li>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ペアの長所を生かした作戦を立てるようにさせる。</li> <li>・声をかけ合ってお互いのポジションを確認しながら練習させる。</li> <li>・正規のダブルスのルールでゲームをさせる。</li> <li>・作戦やコンビネーションを生かしたゲームをするよう意識させる。</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
| <p>○活動を振り返り，まとめをする。</p> <p>12～14 リーグ戦をする。<br/>★ペアの特徴を生かしてゲームをしよう。<br/>○リーグ戦でゲームをする。</p> <p>○活動を振り返り，次時の作戦を立てる。</p> | <p>【評】簡易ゲームを通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで立てた作戦が効果的であったかを振り返らせる。</li> </ul> <p>【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で立てた作戦を意識させて，ゲームをさせる。</li> <li>・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。</li> </ul> <p>【評】リーグ戦を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】話し合い活動や学習カードを通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】

卓球は，コート上でネットを挟んで相対し，身体やラケットを操作してボールを空いている場所へ返球し，一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。本単元では，基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて，作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ネット型)〈ソフトテニス〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) ソフトテニスに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしたり、作戦などについての話し合いに貢献したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしたり、互いに助け合い教え合ったり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300117\_001

【準備等】 ラケット、ボール、ネット、得点板、フラフープ、学習カード、学習資料

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見直しをもつ。<br/>★3年生のソフトテニスのねらいを知ろう。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。<br/>・作戦に応じたボール操作<br/>・ポジションに応じた役割</p> <p>○学習カードや資料の使い方を知る。<br/>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</p> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～4 基本技能の確認をする。<br/>★ねらった場所へボールを操作しよう。<br/>○サービスの練習をする。</p> <p>○ストロークの練習をする。<br/>○攻撃に有効な技能を確認する。</p> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>5～8 ダブルスの連携プレーの練習をする。<br/>★フォーメーションを生かした攻撃や防御をしよう。<br/>○グループ練習をする。<br/>・基本的な技能の確認<br/>・ラリー</p> <p>○フォーメーションの練習をする。<br/>・平行陣<br/>・雁行陣</p> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>9～11 ダブルスのゲームをする。<br/>★ペアの連携を生かしたゲームをしよう。<br/>○ペアに合った作戦を立て、練習する。</p> <p>○ルールを確認する。<br/>○簡易ゲームをする。</p> | <p>・ネットを挟んで、攻撃を組み立てたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームの特性を確認する。</p> <p>・空いた場所への返球、相手の打球に備えた準備姿勢など、ネット型特有の動きや特性について考えさせる。</p> <p>・ルールについては、随時教えていく。</p> <p>・ネットの張り方や道具の扱い方を確認する。</p> <p>・1 グループは、偶数の人数で構成する。</p> <p>・1・2年時の学習を振り返りながら練習させる。</p> <p>・ボールをねらった場所に打てるよう、フラフープなどの目標物をコートに置いて練習させる。</p> <p>・2人1組で練習を行わせる。</p> <p>・空いた場所を作るよう意識させる。</p> <p>・腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込ませる。</p> <p>【評】練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・相手側のコートのねらった場所へ返球するよう意識させる。</p> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・コート縦半分に分けて、ダブルスのペア同士で向かい合いながら打ち合いをする。</p> <p>・ラリーを続ける中で、スマッシュやボレーなどの打ち方も入れていくよう指示する。</p> <p>・ペアの適性や相手に応じてどのフォーメーションを使うとよいか説明する。</p> <p>【評】ペアで練習する姿を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・コート上に空いた空間を作らないよう、フォーメーションを考えながらプレーすることを意識させる。</p> <p>・相手側のコートからボールを打ち込んでもらい、練習したフォーメーションを意識して返球させる。</p> <p>・味方の動きに合わせてコート上の空いた場所をカバーする動きも意識させる。</p> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ペアの長所を生かした作戦を立てるようにさせる。</p> <p>・フォーメーションに応じた位置に動くことを意識させる。</p> <p>・声をかけ合ってお互いのポジションを確認しながら練習をさせる。</p> <p>・正規のダブルスのルールでゲームをさせる。</p> <p>・作戦やフォーメーションを生かしたゲームをするよう意識させる。</p> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

|  |  |
|--|--|
| <p>○活動を振り返り，まとめをする。</p> <p>12～14 リーグ戦をする。<br/>★ペアの特徴を生かしてゲームをしよう。<br/>○リーグ戦でゲームをする。</p> <p>○活動を振り返り，次時の作戦を立てる。</p> | <p>・ペアで立てた作戦が効果的であったかを振り返らせる。<br/>【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・前時で立てた作戦を意識させて，ゲームをさせる。<br/>・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。<br/>【評】リーグ戦を通して，「知識・技能」を評価する。<br/>【評】話し合い活動や学習カードを通して「思考・判断・表現」を評価する。<br/>【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】  
ソフトテニスとは，コート上でネットを挟んで相対し，身体やラケットを操作してボールを空いている場所へ返球し，一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。本単元では，作戦に応じたボール操作で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ネット型)〈バドミントン〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) バドミントンに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしたり、作戦などについての話し合いに貢献したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしたり、互いに助け合い教え合ったり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300118\_001

【準備等】ラケット、シャトル、支柱、ネット、得点板、フラフープ、学習カード、学習資料

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見直しをもつ。</p> <p>★3年生のバドミントンのねらいを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作戦に応じたシャトル操作</li> <li>・ポジションに応じた役割</li> </ul> </li> <li>○学習カードや資料の使い方を知る。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</li> </ul> <p>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</p> <p>2～4 基本技能の確認をする。</p> <p>★ねらった場所へシャトルを操作しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○サービスの練習をする。</li> </ul> <p>○ストロークの練習をする。</p> <p>○攻撃に有効な技能を確認する。</p> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>5～8 ダブルスの連携プレーの練習をする。</p> <p>★フォーメーションを生かした攻撃や防御をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技能の確認</li> <li>・ラリー</li> </ul> </li> <li>○フォーメーションの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイドバイサイド</li> <li>・トップアンドバック</li> </ul> </li> </ul> <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>9～11 ダブルスのゲームをする。</p> <p>★ペアの連携を生かしたゲームをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアに合った作戦を立て、練習する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットを挟んで、攻撃を組み立てたり、防御を工夫したりしてシャトルを打ち合うゲームの特性を確認する。</li> <li>・空いた場所への返球、相手の打球に備えた準備姿勢など、ネット型特有の動きや特性について考えさせる。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> <li>・ネットの張り方や道具の扱い方を確認する。</li> <li>・1グループは、偶数の人数で構成する。</li> <li>・1・2年時の学習を振り返りながら練習させる。</li> <li>・シャトルをねらった場所に打てるよう、フラフープなどの目標物をコートに置いて練習させる。</li> <li>・2人1組で練習を行わせる。</li> <li>・空いた場所を作るよう意識させる。</li> <li>・腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込ませる。</li> <li>【評】練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・相手側のコートのねらった場所へ返球するよう意識させる。</li> <li>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・コートを縦半分に分けて、ダブルスのペア同士で向かい合いながら打ち合いをする。</li> <li>・ラリーを続ける中で、スマッシュやヘアピンなどの打ち方も入れていくよう指示する。</li> <li>・サイドバイサイドは防御に適したフォーメーションであることを伝える。</li> <li>・左右に位置し、攻撃に備えさせる。</li> <li>・コートの前後に空いた場所ができないようにする。</li> <li>・トップアンドバックは攻撃に適したフォーメーションであることを伝える。</li> <li>・前後に位置し、2人で攻撃する。</li> <li>・左右コートの隅に空いた場所ができないようにする。</li> <li>・相手側のコートからシャトルを打ち込んでもらい、練習したフォーメーションを意識して返球させる。</li> <li>・味方の動きに合わせてコート上の空いた場所をカバーする動きも意識させる。</li> <li>【評】ペアで練習する姿を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・コート内に空いた空間を作らないよう、フォーメーションを考えながらプレーすることを意識させる。</li> <li>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ペアの長所を生かした作戦を立てるようにさせる。</li> <li>・フォーメーションに応じた位置に動くことを</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ルールを確認する。</li> <li>○ 簡易ゲームをする。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動を振り返り，まとめをする。</li> </ul><br>12～14 リーグ戦をする。<br>★ペアの特徴を生かしてゲームをしよう。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ リーグ戦でゲームをする。</li> </ul><br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動を振り返り，次時の作戦を立てる。</li> </ul> | 意識させる。<br>・声をかけ合ってお互いのポジションを確認しながら練習をする。<br>・正規のダブルスのルールでゲームをさせる。<br>・作戦やフォーメーションを生かしたゲームをするよう意識させる。<br>【評】簡易ゲームを通して，「知識・技能」を評価する。<br>・ペアで立てた作戦が効果的であったかを振り返らせる。<br>【評】活動を振り返り，まとめをする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。<br><br>・前時で立てた作戦を意識させて，ゲームをさせる。<br>・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。<br>【評】リーグ戦を通して，「知識・技能」を評価する。<br>【評】話し合い活動や学習カードを通して「思考・判断・表現」を評価する。<br>【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |
|--|--|

【 備 考 】  
バドミントンは，コート上でネットを挟んで相対し，身体やラケットを操作してシャトルを空いている場所へ返球し，一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。本単元では，作戦に応じたシャトル操作で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。

## 単元名 球技(ベースボール型)〈ソフトボール〉

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防することができる。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしたり、作戦などについての話し合いに貢献したり、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしたり、互いに助け合い教え合ったり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300119\_001

【準備等】 バット、ボール、ベース、グローブ、ティー、学習カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見直しをもつ。</p> <p>★3年生のソフトボールのねらいを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定したバット操作と走塁での攻撃</li> <li>・安定したボール操作と連携した守備</li> </ul> </li> <li>○学習カードの使い方を知る。</li> <li>○マナーや安全な行動の仕方を知る。</li> <li>○試しのゲームをし、めあてをつかむ。</li> </ul> <p>2～4 基本的な技能の練習をする。</p> <p>★安定したバット操作やボール操作をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○キャッチボールをする。</li> <li>○走塁の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベースランニング</li> </ul> </li> <li>○守備の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴロの捕球</li> <li>・フライの捕球など</li> </ul> </li> <li>○バッティングの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ティーバッティング</li> <li>・トスバッティング</li> <li>・易しい投球からのバッティングなど</li> </ul> </li> </ul> <p>5～8 連携した守備の練習をする。</p> <p>★得点を防ぐ守備を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○シートノックからの守備の練習をする。</li> <li>○走者がいる状態での守備の練習をする。</li> <li>○簡易ゲームをする。</li> </ul> <p>9～11 チームに合った練習をする。</p> <p>★チームに合った作戦を考え、練習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チームに合った作戦を考え、練習をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・易しい投球に対する安定した打撃により出塁や進塁、得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻防を展開できることをねらいとする。</li> <li>・打ち方や守り方などの基本的な技能のポイントを記載し、練習時に有効に活用できるようにする。</li> <li>・ルールについては、随時教えていく。</li> <li>・ゴロやフライなども取り入れることにより、捕球の練習にもなることを意識させる。</li> <li>・スピードを落とさず円を描くように塁間を走らせる。</li> <li>・ゴロの捕球では、低い姿勢でボールの正面に入り、両足を前後にやや開いて捕球することを意識させる。</li> <li>・フライの捕球では、打球の落下点に入り、ボールの落下に合わせて胸に引きつけ捕球することを意識させる。</li> <li>・捕球場所へ最短距離で移動して、ボールを捕らせる。</li> <li>・身体の軸を安定させて、バットを振り抜かせる。</li> <li>・ボールの高さやコースなどにタイミングを合わせてボールを捕らえるように意識させる。</li> <li>・ねらった方向にボールを打ち返すように意識させる。</li> </ul> <p>【評】基本的な技能の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらった方向へステップを踏みながら無駄のない一連の動きでボールを投げさせる。</li> <li>・仲間の送球に対して塁上でタイミングよくボールを受けたり、中継したりさせる。</li> <li>・味方から送球を受けるために、走者の進む先の塁に動かせる。</li> <li>・打球や走者の位置に応じて、中継プレイに備える動きをさせる。</li> <li>・ポジションに応じて、ダブルプレイに備える動きをさせる。</li> </ul> <p>【評】練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携した守備ができるように意識させる。</li> </ul> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・攻撃面では、犠牲バントやヒットエンドランスクイズなどを状況に応じて使うように意識させる。</li> <li>・守備面では、ベースカバーや中継プレイ、バックアップなどを状況に応じて使い分けるように意識させる。</li> </ul> |



|   |   |
|---|---|
| <p>○簡易ゲームをする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> <p>12～14 リーグ戦をする。<br/>★チームの特徴を生かしてゲームをしよう。<br/>○ルールを確認する。<br/>○リーグ戦をする。</p> <p>○活動を振り返り、まとめをする。</p> | <p>【評】チームに合った作戦を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・チーム練習を生かしたゲームを行う。</p> <p>【評】簡易ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・学習カードを利用し、チームの作戦についての振り返りと、次時に向けての課題を記入させる。</p> <p>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・相手や仲間の素晴らしいプレイやフェアなプレイを認め合うことを意識させる。</p> <p>【評】リーグ戦を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ゲームを振り返り、次時に生かせるようなまとめをさせる。</p> <p>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元全体の活動やリーグ戦で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|---|---|

【 備 考 】  
ソフトボールは、身体やバットの操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し、一定の回数内で相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。本単元では、作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームが展開できるようにする。

## 単元名 武道(柔道)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 柔道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしたり、自己の責任を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300120\_001

【準備等】柔道着，学習カード（学習資料付き），ラインテープ，タイマー

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り，学習の見通しをもつ。</p> <p>★基本動作の確認をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 礼儀・作法の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史</li> <li>・ 礼</li> <li>・ 正座</li> </ul> </li> <li>○ グループ分けをし，学習の進め方を知る。</li> <li>○ 基本動作の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進退動作</li> <li>・ 姿勢と組み方</li> <li>・ 崩しと体さばき</li> <li>・ 受け身</li> </ul> </li> </ul> <p>2～3 固め技（抑え技）の練習をする。</p> <p>★連絡した抑え技をかけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 抑え技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抑え技を確認する。</li> </ul> </li> <li>○ 連絡した抑え技の練習をする。</li> <li>○ 抑え技の試合をする。</li> </ul> <p>4～6 グループで投げ技の練習をし，自分の得意技を身に付ける。</p> <p>★自分の得意技を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既習の投げ技を練習する。</li> <li>○ 新しい技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小内刈り</li> <li>・ 大内刈り</li> <li>・ 釣り込み腰</li> <li>・ 背負い投げ</li> </ul> </li> <li>○ 投げ技の連絡を練習する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「精力善用・自他共栄」の意味を理解させ，相手を尊重し練習に取り組もうとする意識を高める。</li> <li>・ 嘉納治五郎が，人間教育を目的として作ったことに触れる。</li> <li>・ 相手を尊重し，自らを律する気持ちを礼という形で表現することを理解させる。</li> <li>・ 身長や体重を考慮した4～5人編制のグループとする。</li> <li>・ 進退動作では，すり足，歩み足，継ぎ足で体の移動をするようにさせる。</li> <li>・ 相手の動きに応じやすい自然体で組ませるようにさせる。</li> <li>・ 体さばきでは，自分が技をかけやすい状態をつくるようにさせる。</li> <li>・ 崩しでは，相手の不安定な状態をつくるようにさせる。</li> <li>・ 受け身では，あごを引き，頭を上げることを徹底させる。</li> <li>・ 後ろ受け身，横受け身，前回り受け身の仕方を確認する。</li> <li>【評】基本動作の練習を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 連絡技とは，技をかけたときに，相手の防御に応じて，さらに効率よく相手を投げたり抑えたりするためにかける技であることを理解させる。</li> <li>・ 固め技は，生徒の心身の発達段階から，中学校では抑え技のみを扱うようにする。</li> <li>・ けさ固め，横四方固め，上四方固めの形を確認する。</li> <li>・ 取は相手の動きの変化に応じながら，けさ固め，横四方固め，上四方固めの連絡を行うようにさせる。</li> <li>・ 受はけさ固め，横四方固め，上四方固めで抑えられた状態から，相手の変化に応じながら相手を体側や，頭方向に返すことによって逃げるようにさせる。</li> <li>・ 背中合わせの長座の姿勢から試合をする。</li> <li>・ ぶつからないように，回る方向を決めて始める。</li> <li>・ 両膝は，畳に付いているようにさせる。</li> <li>【評】連絡した抑え技の練習や試合を通して，「知識・態度」や「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ グループで協力したり話し合わせたりして技の練習をさせる。</li> <li>・ 崩しや体さばきを活用して技をかけることを意識させる。</li> <li>・ 引き手は必ず最後まで引いておくことを徹底しておく。</li> <li>・ 支え技系，刈り技系，まわし技系とそれぞれ系統別に技の練習をさせる。</li> <li>・ 投げ技の練習は，低い位置から投げたり，ゆっくりしたスピードで投げたりと段階を踏んだ練習を行うように工夫させる。</li> <li>・ 受は前回り受け身をとることを確認する。</li> <li>・ 技の連絡については，二つの技を同じ方向に</li> </ul> |

- ・大内刈り→大外刈り
- ・釣り込み腰→大内刈り
- ・大内刈り→背負い投げ

7～8 連絡技の練習をする。

★相手の動きに応じた連絡技に挑戦しよう。

○連絡技の練習をする。

○見取り稽古をする。

9～10 グループ対抗で試合をする。

★一本を取ろう。

○ルールを確認する。

○試合をする。

○単元のまとめをする。

かける場合と、二つの技を違う方向にかける場合に分けて練習させる。

- ・始めのうちは、連絡する技を、あらかじめ取に知らせてから練習をさせる。
- ・崩しや体さばき、連絡技を生かして、相手の動きや反応に応じた技を使うことを意識させる。
- ・身に付けた新しい技や連絡技を積極的に用いて練習をさせる。
- ・投げ技から抑え技への連絡も連絡技であることを教える。

【評】連絡技の練習をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・基本となる技、得意技や連絡技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりすることを意識して、話し合わせる。

・友達の練習の様子を見て、相手との距離の取り方や、相手の隙を突く方法などを意識させる。

・技のかけ方など、良かった点を伝えさせる。

・気付いたことを学習カードに記入させる。

【評】見取り稽古の活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・正規のルールに近い方法で試合を運営する。

・同じ階級のグループ対抗とする。

・仲間の試合を観察し、よいところを認め合ったり、助言し合ったりさせる。

【評】試合を通して、「知識・技能」を評価する。

【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】単元全体の活動や試合で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

柔道では、勝敗を競う楽しさや喜び味わい、技を高めることによって得意技を身に付け、相手の動きの変化に応じた攻防を展開できるようにする。また、伝統的な行動の仕方を大切にすることや、自己の責任を果たすことなどに意欲をもち、健康や安全を確保するとともに、見取り稽古の仕方などを学ぶようにさせる。

見取り稽古とは、武道特有の練習方法であり、他人の稽古を見て、相手との間合の取り方や相手の隙について勢いよく技をしかける機会、技のかけ方や武道特有の「気合」などを学ぶことである。

連絡技とは、技をかけたときに、相手の防御に応じて、更に効率よく相手を投げたり抑えたりするためにかける技のことである。

## 単元名 武道(剣道)

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどを攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 剣道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしたり、自己の責任を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300121\_001

【準備等】竹刀、防具、手ぬぐい、赤旗、白旗、学習カード、タイマー

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★基本動作を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○礼儀・作法の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・礼儀</li> <li>・作法</li> </ul> </li> <li>○防具の扱い方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・防具の着脱・しまい方</li> </ul> </li> <li>○基本動作の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・構え</li> <li>・体さばき</li> </ul> </li> </ul> <p>2～3 基本打突の練習をする。</p> <p>★基本打突を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本打突の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・素振り</li> <li>・正面打ち</li> <li>・左右面打ち</li> <li>・胴打ち</li> <li>・小手打ち</li> </ul> </li> </ul> <p>4～6 しかけ技と応じ技の練習をする。</p> <p>★相手の動きに応じた技を身に付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二段の技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・面一面</li> </ul> </li> <li>○引き技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き面</li> </ul> </li> <li>○出ばな技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出ばな面</li> </ul> </li> <li>○払い技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・払い面</li> </ul> </li> <li>○抜き技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小手抜き面</li> </ul> </li> </ul> <p>7～8 グループで練習し、自分の得意技を身に付ける。</p> <p>★自分の得意技を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習の技の練習をする。</li> </ul> <p>○見取り稽古し、得意技の練習をする。</p> <p>9 グループで対抗試合をする。</p> <p>★得意技を使って、一本を取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ルールを確認する。</li> <li>○試合をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を直接竹刀で打つことから、相手を尊重するマナーが重要であることを確認させる。</li> <li>・伝統的な行動の仕方を確認させる。</li> <li>・防具は正座をして着用させる。</li> <li>・構えでは、相手の動きの変化に応じた自然体で中段に構えさせる。</li> <li>・体さばきでは、相手の動きの変化に応じて体の移動や竹刀操作を行わせる。</li> <li>・基本打突の仕方では、相手に対しての距離を近くしたり遠くしたりして打つように意識させる。</li> <li>・基本打突の受け方では、応じ技へ発展するように受けたりするように意識させる。</li> <li>【評】基本打突の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・相手が打ちやすいように約束事を決めて練習をさせる。</li> <li>・最初の面打ちに相手に対応して隙ができたときに面を打たせる。</li> <li>・相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面を退きながら打たせる。</li> <li>・相手が打とうとして手元を上げた（下げた）ときに隙ができた面を打たせる。</li> <li>・相手の竹刀を払ったとき、隙ができた面を打たせる。</li> <li>・相手が小手を打つとき、体をかわしたり、竹刀を頭上に振りかぶったりして面を打たせる</li> <li>【評】しかけ技と応じ技の練習を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・二人一組の対人で、体さばきを用いてしかけ技の基本となる技や応じ技の基本となる技を高めさせる。</li> <li>・相手の構えを崩し、しかけたり応じたりすることを意識させて、効果的な方法を話し合いながら練習させる。</li> <li>・グループで話し合い、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>・自己の技能・体力の程度に応じた得意技を身に付けさせる。</li> <li>・気付いた点を学習カードに記入させる。</li> <li>【評】グループで練習し、自分の得意技を身に付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・正規のルールに近い方法で試合をする。</li> <li>・グループ対抗とする。</li> <li>・仲間の試合を観察し、よいところを認め合ったり、助言し合ったりさせる。</li> <li>【評】試合を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul> |

○単元のまとめをする。

【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。  
【評】単元全体の活動や試合で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

剣道では、勝敗を競う楽しさや喜び味わい、技を高めることによって得意技を身に付け、相手の動きの変化に応じた攻防を展開できるようにする。また、伝統的な行動の仕方を大切にすることや、自己の責任を果たすことなどに意欲をもち、健康や安全を確保するとともに、見取り稽古の仕方などを学ぶようにさせる。

見取り稽古とは、武道特有の練習方法であり、他人の稽古を見て、相手との間合の取り方や相手の隙について勢いよく技をしかける機会、技のかけ方や武道特有の「気合」などを学ぶことである。

## 単元名 武道(相撲)

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手を崩し、投げたりいなしたりするなどの攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 相撲に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしたり、自己の責任を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保したりしようとする。

## 標準的な展開例

12300122\_001

【準備等】まわし、学習カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★基本動作の確認をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○礼儀・作法の確認をする。</li> <li>○まわしの付け方を確認する。</li> <li>○基本動作の確認をする。</li> </ul> <p>2～4 押し、寄り、前さばきの練習をする。</p> <p>★押し、寄り、前さばきを身に付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習の技の確認をする。</li> <li>○押し、いなしの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・押し</li> <li>・いなし</li> </ul> </li> <li>○寄り、巻き返しの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄り</li> <li>・巻き返し</li> </ul> </li> </ul> <p>5～6 投げ技、ひねり技の練習をする。</p> <p>★投げ技、ひねり技を身に付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習の技の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出し投げ</li> </ul> </li> <li>○投げ技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上手投げ</li> <li>・下手投げ</li> </ul> </li> <li>○ひねり技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・突き落とし</li> </ul> </li> </ul> <p>7～8 グループで練習し、自分の得意技を身に付ける。</p> <p>★自分の得意技を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習の技の練習をする。</li> <li>○見取り稽古し、得意技の練習をする。</li> </ul> <p>9 グループで対抗試合をする。</p> <p>★得意技を積極的に活用しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ルールを確認する。</li> <li>○試合をする。</li> <li>○単元のまとめをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的な行動の仕方を確認する。</li> <li>・まわしの付け方を学習カードを利用して確認する。</li> <li>・蹲踞姿勢、塵浄水、四股、伸脚、腰割り、調体、運び足、仕切りや立ち合い、受け身の確認をする。</li> <li>・押し、寄り、いなしの確認をさせる。</li> <li>・押しは、中腰の構えで、相手の両脇下に手の平を押し当て、肩下に額を当てて、小刻みに押して前に進ませる。</li> <li>・いなしでは、押しに対し体を開き、相手の攻めの方向にいなすようにさせる。</li> <li>・寄りでは、相手のまわしを取って、引きつけさせる。</li> <li>・巻き返しでは、寄りに対し相手の差し手を逆に下手に差し替えさせる。</li> <li>【評】押し、寄り、前さばきの練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</li> <li>・二人一組の対人で、中腰の構えや運び足、受け身を用いて投げ技ができるようにする。</li> <li>・寄りから上手（下手）でまわしを取り、体を開いて投げるようにさせる。</li> <li>・脇に手を当てて、斜め下の方へ押すようにさせる。</li> <li>【評】投げ技、ひねり技の練習を通して、「知識・技能」の評価をする。</li> <li>・二人一組の対人で、立ち合いからの流れの中で相手の動きの変化に応じて基本となる技を高めさせる。</li> <li>・自己の技能・体力に応じた得意技を身に付けさせる。</li> <li>・相手を崩し、投げたりひねったりすることを意識させて、話し合わせる。</li> <li>・グループで話し合い、良かった点などを教え合うようにさせる。</li> <li>・気付いた点を学習カードに記入させる。</li> <li>【評】グループで練習し、自分の得意技を身に付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・正規のルールに近い方法で試合をする。</li> <li>・グループ対抗とする。</li> <li>・仲間の試合を観察し、よいところを認め合ったり、助言し合ったりさせる。</li> <li>【評】試合を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul> |

【評】単元全体の活動や試合で評価し合うを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

相撲では、勝敗を競う楽しさや喜び味わい、技を高めることによって得意技を身に付け、相手の動きの変化に応じた攻防を展開できるようにする。また、伝統的な行動の仕方を大切にすることや、自己の責任を果たすことなどに意欲をもち、健康や安全を確保するとともに、見取り稽古の仕方などを学ぶようにさせる。

見取り稽古とは、武道特有の練習方法であり、他人の稽古を見て、相手との間合の取り方や相手の隙について勢いよく技をしかける機会、技のかけ方や武道特有の「気合」などを学ぶことである。

単元名 **ダンス(フォークダンス, 創作ダンス, 現代的なリズムのダンス)** 配当時間 **9時間**

単元の目標 (1) 感じを込めて踊ったり, みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい, ダンスの名称や用語, 踊りの特徴と表現の仕方, 交流や発表の仕方, 運動観察の方法, 体力の高め方などを理解するとともに, イメージを深めた表現や踊りを通した交流や発表をすることができる。  
 (2) 表現などの自己や仲間の課題を発見し, 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。  
 (3) ダンスに自主的に取り組むとともに, 互いに助け合い教え合ったり, 作品や発表などの話し合いに貢献したり, 一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしたり, 健康安全を確保したりしようとする。

### ①フォークダンスと創作ダンスの展開例

12300123\_001

【準備等】CDラジカセ, CD, 小道具(椅子, 楽器, ロープ, 傘など), 学習資料, 学習カード, 鑑賞カード

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り, 学習の見通しをもつ。<br/> <b>★</b>3年生のダンスのねらいを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方を知る。</li> <li>○学習カードや学習資料の使い方を知る。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</li> </ul> <p>○音楽のリズムに合わせてダンスウォームアップをする。</p> <p>2～4 フォークダンスをする。<br/> <b>★</b>伝承されてきた踊りの特徴をとらえて踊ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンスウォームアップをする。</li> <li>○既習のダンスを踊る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;民謡&gt;                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・花笠音頭 ・春駒 ・炭坑節</li> <li>・鹿児島おはら節</li> </ul> </li> <li>&lt;フォークダンス&gt;                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オクラホマ・ミクサー ・バージニア・リール</li> <li>・ドードレブスカ・ポルカ</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○民謡やフォークダンスを大づかみに覚えて踊る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;民謡&gt;                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・よさこい鳴子踊り ・越中おわら節</li> <li>・こまづくり唄 ・大漁唄い込み</li> </ul> </li> <li>&lt;フォークダンス&gt;                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンキー・ディンキー・パーリー・ブー</li> <li>・ハーモニカ ・オスローワルツ</li> <li>・ラ・クカラーチャ</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○グループごとに曲目を選択し, 工夫して踊る。</li> </ul> <p>○みんなで踊り, 交流をする。</p> <p>5～6 いろいろな題材による即興表現をする。<br/> <b>★</b>テーマに変化をつけて, 全身を使って表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンスウォームアップをする。</li> <li>○小グループで即興表現をする。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・風 ・波 ・洗たく物</li> </ul> </li> </ul> <p>○活動を振り返り, まとめをする。</p> <p>7～8 グループで作品創作をする。<br/> <b>★</b>イメージを深めて作品を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンスウォームアップをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージを深めた表現や踊りでの交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにする運動であることを知らせる。</li> <li>・感じたことを個性に応じて表現することになるので, 正しい鑑賞態度と, 恥ずかしがらずに全身を使って表現することが大切であることを知らせる。</li> <li>・曲を流し, 毎時間の授業の始めにウォーミングアップとして行わせる。</li> <li>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。<br/> <b>【評】</b>ダンスを踊る姿を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・資料やVTRなどで踊りを紹介し, 日本や外国の風土や風習, 歴史などの踊りの由来を理解させる。</li> <li>・始めは, 民謡やフォークダンスそれぞれの曲調や踊りの特徴を感じ, 大づかみに覚えて踊るようにさせる。</li> <li>・グループで教え合いながら練習させる。<br/> <b>【評】</b>フォークダンスを練習する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・仲間のよい動きや表現などを伝え合うよう指示する。</li> <li>・日本や外国の文化的な背景や情景を思い浮かべながら踊り, 交流させる。<br/> <b>【評】</b>みんなで踊り, 交流する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</li> <li>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。</li> <li>・2～3人の小グループで活動させる。</li> <li>・毎時間異なるテーマで, グループは固定せず多くの仲間とかかわることができるようにする。</li> <li>・主要場面を中心とした「ひと流れの動き」で表現させる。</li> <li>・緩急や強弱の動きの変化を付けたり, 列・円などの空間の使い方を工夫したりする。<br/> <b>【評】</b>即興表現をする活動を通して, 「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・学習カードに記入させる。<br/> <b>【評】</b>振り返りの活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。</li> </ul> |



- 表したいテーマの中から題材を選ぶ。
    - <身近な生活や日常動作>
      - ・出会いと別れ
      - ・街の風景
      - ・綴られた日記
    - <対極の動きの連続>
      - ・ねじる－回る－見る
    - <多様な感じ>
      - ・静かな
      - ・落ち着いた
      - ・重々しい
      - ・力強い
    - <群（集団）の動き>
      - ・大回り－小回り
      - ・主役と脇役
    - ・迷路
    - ・都会の孤独
  - <もの（小道具）を使う>
    - ・椅子
    - ・楽器
    - ・ロープ
    - ・傘
  - <はこびとストーリー>
    - ・起承転結
    - ・物語
- 題材からイメージを出し合う。

- イメージに合った動きを創作する。
  - ・すれ違ったり、くっついたり、離れたたり
  - ・視線を決めるなど変化や連続のあるひと流れの動き
  - ・対照を明確にするような構成
  - ・ダイナミックな空間の変化
  - ・「もの」とのかかわり方に着目
  - ・ストーリー性のあるはこび
- ダンスの構成を考え、練習する。

#### 9 発表会をする。

- ★大きく美しい表現で作品を発表しよう。
  - ダンスウォームアップをする。
  - 鑑賞の観点を知る。
- グループで練習する。
- 作品を発表する。
- 感想を発表し合う。

- ・グループは、個や群を表現することができる人数構成にする。

- ・ブレインストーミングを行い、言葉に表すことでイメージを広げさせる。
- ・個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて表現することを意識させる

- ・体を動かしながら、いろいろな動きを創作させる。
- 【評】動きを創作する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・変化や起伏のある「はじめ－なか－おわり」の構成でひとまとまりの作品として表現して踊るよう伝える。
- ・表したい内容のテーマにふさわしいイメージを深めて表現できるように、躍り込んで仕上げさせる。
- 【評】構成を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。
- ・表現したいことがわかる、動きの工夫がされている、作品の構成がよい、気持ちを合わせているなど、鑑賞の観点を押さえておく。
- ・自分たちで創作した作品の動きを確認する。
- 【評】発表する姿を通して、「知識・技能」を評価する。
- 【評】感想を発表し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】単元全体の活動や発表会で評価し合うを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

- (1) ダンスは、「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることを楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。ここでは、イメージを捉えたり深めたりする表現、伝承されてきた踊り、リズムに乗って全身で踊ることや、これらの踊りを通じた交流や発表ができるようにする。
  - (2) 標準的な展開例として、①フォークダンスと創作ダンス②フォークダンスと現代的なリズムのダンスの二つを示した。二つの展開例のうち、一つを選択して履修することを基本とする。
- 創作ダンスの表したいテーマと題材や動きの例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P.180参照  
 日本の民謡、外国のフォークダンスの曲目と動きの例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P.181参照  
 現代的なリズムのリズムと動きの例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P.182参照

単元名 **ダンス(フォークダンス, 創作ダンス, 現代的なリズムのダンス)** 配当時間 **9時間**

単元の目標 (1) 感じを込めて踊ったり, みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい, ダンスの名称や用語, 踊りの特徴と表現の仕方, 交流や発表の仕方, 運動観察の方法, 体力の高め方などを理解するとともに, イメージを深めた表現や踊りを通して交流や発表をすることができる。  
(2) 表現などの自己や仲間の課題を発見し, 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。  
(3) ダンスに自主的に取り組むとともに, 互いに助け合い教え合ったり, 作品や発表などの話し合いに貢献したり, 一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしたり, 健康安全を確保したりしようとする。

## ②フォークダンスと現代的なリズムのダンスの展開例

12300124\_001

【準備等】CDラジカセ, CD, 学習資料, 学習カード, 鑑賞カード

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 1・2年生の学習を振り返り, 学習の見直しをもつ。<br/>★3年生のダンスのねらいを知ろう。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。<br/>○学習カードや学習資料の使い方を知る。<br/>○マナーや安全な運動の仕方を知る。</p> <p>○音楽のリズムに合わせてダンスウォームアップをする。</p> <p>2～4 フォークダンスをする。<br/>★伝承されてきた踊りの特徴をとらえて踊ろう。<br/>○ダンスウォームアップをする。<br/>○既習のダンスを踊る。<br/>＜民謡＞<br/>・花笠音頭 ・春駒 ・炭坑節<br/>・鹿児島おはら節<br/>＜フォークダンス＞<br/>・オクラホマ・ミクサー ・バージニア・リール<br/>・ドードレブスカ・ポルカ<br/>○民謡やフォークダンスを大づかみに覚えて踊る。<br/>＜民謡＞<br/>・よさこい鳴子踊り ・越中おわら節<br/>・こまづくり唄 ・大漁唄い込み<br/>＜フォークダンス＞<br/>・シンキー・ディンキー・パーリー・ブー<br/>・ハーモニカ ・オスローワルツ<br/>・ラ・クカラーチャ<br/>○グループごとに曲目を選択し, 工夫して踊る。</p> <p>○みんなで踊り, 交流をする。</p> <p>5～6 変化とまとまりを付けて自由に弾んで楽しく踊る。<br/>★リズムに乗って全身で踊ろう。<br/>○ダンスウォームアップをする。<br/>○簡単なリズムの取り方や動きで踊る。</p> <p>○いろいろなビートで踊る。</p> <p>○活動を振り返り, まとめをする。</p> <p>7～8 変化とまとまりを付けて自分たちのダンスを創る。<br/>★ダンスを創って楽しく踊ろう。<br/>○ダンスウォームアップをする。<br/>○動きに変化を付けて踊る。<br/>・全体練習<br/>・グループ練習</p> | <p>・イメージを深めた表現や踊りでの交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにする運動であることを知らせる。</p> <p>・感じたことを個性に応じて表現することになるので, 正しい鑑賞態度と, 恥ずかしがらずに全身を使って表現することが大切であることを知らせる。<br/>・曲を流し, 毎時間の授業の始めにウォーミングアップとして行わせる。</p> <p>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。<br/>【評】ダンスを踊る姿を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・資料やVTRなどで踊りを紹介し, 日本や外国の風土や風習, 歴史などの踊りの由来を理解させる。<br/>・始めは, 民謡やフォークダンスそれぞれの曲調や踊りの特徴を感じ, 大づかみに覚えて踊るようにさせる。</p> <p>・グループで教え合いながら練習させる。<br/>【評】フォークダンスを練習する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。<br/>・仲間のよい動きや表現などを伝え合うよう指示する。<br/>・日本や外国の文化的な背景や情景を思い浮かべながら踊り, 交流させる。<br/>【評】みんなで踊り, 交流する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。<br/>・音楽のリズムに同調して踊らせる。<br/>・体幹部を中心としたシンプルに弾む動きで踊らせる。<br/>・ロックでは, 全身でビートに合わせて弾むようにさせる。<br/>・ヒップホップでは, 膝の上下動に合わせて腕を動かしたりストップするようにしたりしながら踊らせる。<br/>【評】踊る姿を通して, 「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br/>【評】振り返りの活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。<br/>・リズムの取り方や動きの連動のさせ方を組み合わせさせて踊らせる。<br/>・1グループ3～5人とする。</p> |

- 自分たちのダンスを創り，練習する。
  - ・簡単なリズム
  - ・軽快なロック
  - ・動きの変化
  - ・まとまり

9 交流会をする。

- ★楽しく踊って交流しよう。
  - ダンスウォームアップをする。
  - グループで練習する。
- 交流会をする。
- 感想を発表し合う。

- ・リズムの特徴をとらえ，変化とまとまりをつけて踊るよう意識させる。

【評】踊る活動を通して，「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・選曲については，グループごとにさせてもよい。
- ・一人一人の能力を生かす動きや相手と対応する動きなどを取り入れながら，仲間とかかわりをもって踊ることに留意させる。

【評】ダンスを創る活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・軽快な音楽に合わせて心と体をほぐす。
- ・自分たちで創った踊りをグループで確認する

【評】交流会を通して，「知識・技能」を評価する。

【評】感想を発表し合う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【評】単元全体の活動や交流会で評価し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

- (1) ダンスは，「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」で構成され，イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で，仲間とともに感じを込めて踊ったり，イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。ここでは，イメージを捉えたり深めたりする表現，伝承されてきた踊り，リズムに乗って全身で踊ることや，これらの踊りを通じた交流や発表ができるようにする。

- (2) 標準的な展開例として，①フォークダンスと創作ダンス②フォークダンスと現代的なリズムのダンスの二つを示した。二つの展開例のうち，一つを選択して履修することを基本とする。

創作ダンスの表したいテーマと題材や動きの例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P. 180参照

日本の民謡，外国のフォークダンスの曲目と動きの例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P. 181参照

現代的なリズムのリズムと動きの例示…中学校学習指導要領解説（保健体育編）P. 182参照

## 単元名 文化としてのスポーツの意義【中3】

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 文化としてのスポーツの意義について理解することができる。  
 (2) 文化としてのスポーツの意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。  
 (3) 文化としてのスポーツの意義についての学習に自主的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12300125\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 スポーツの文化的意義について考える。<br/> <b>★</b>スポーツの文化的意義について考えよう。<br/>         ○運動やスポーツを行う理由について考える。</p> <p>○現代生活におけるスポーツの文化的意義を知る。</p> <p>○スポーツの憲章と振興計画について知る。</p> <p>○学習内容をまとめる。</p> <p>2 国際的なスポーツ大会の文化的な役割について考える。<br/> <b>★</b>国際的なスポーツ大会の果たす役割を考えよう。<br/>         ○国際的なスポーツ大会にはどんなものがあるか考える。<br/>         　・オリンピック・パラリンピック<br/>         　・ラグビーワールドカップ<br/>         ○国際的なスポーツ大会の意義と役割について考える。</p> <p>○メディアの発達とスポーツについて考える。<br/>         オリンピック・パラリンピックが「平和の祭典」と言われるのはなぜかについて話し合う。<br/>         　・オリンピック・パラリンピックは世界中で放映される（国際理解）<br/>         　・国も人種も違う選手が戦った後に握手をしている（世界平和）</p> <p>○学習内容をまとめる。</p> <p>3 人々を結びつけるスポーツについて考える。<br/> <b>★</b>スポーツにはなぜ人々を結びつける力があるのか考えよう。<br/>         ○スポーツは世界の言葉であることを知る。</p> <p>○人々を結びつけるスポーツの文化的な働きについて考える。</p> <p>○学習内容をまとめる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の学習「運動やスポーツの必要性和楽しさ」を想起させる。</li> <li>・現代生活におけるスポーツは、健やかな心身の育成や多様な人々との豊かな交流などよりよく生きていくためにかけがえのない文化としての意義をもっていることを理解させる。</li> <li>・ユネスコの国際憲章において、スポーツを行うことは全ての人に保障されるべき基本的な権利という考えが示されていることを押さえる。</li> <li>・日本では、スポーツを推進するためのスポーツ基本計画が示されていることを押さえる。</li> </ul> <p>【評】スポーツの文化的意義についてまとめる活動を通して、「知識（・技能）」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生や高校生が中心の大会であるユースオリンピックについても触れる。</li> <li>・オリンピズムの3つの理念を押さえる。</li> <li>・オリンピック・パラリンピックの価値について押さえる。</li> <li>・国際的なスポーツ大会が、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解させる。</li> <li>・オリンピックの理念とシンボルの意味を押さえた上で、「平和の祭典」と言われる理由を具体的な場面から話し合わせる。</li> <li>・メディアの発達によって、スポーツ大会の果たす役割が一層大きくなっていることも確認させる。</li> </ul> <p>【評】国際的なスポーツ大会の役割について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年のオリンピック・パラリンピック東京2020について触れる。</li> <li>・「スポーツ」という言葉は、世界中で通用する言葉として受け入れられていることを押さえる。</li> <li>・スポーツが、民族や国、人種や性別、障がいの有無などの違いを超えて人々をつなぐことができるのはなぜか考えさせる。</li> <li>・使用する用具やルール、行い方などの工夫をすることで、仲間とともに喜びや感動などを共有できること、見る人や支える人たちとの連帯感が味わえることを押さえる。</li> <li>・今日ではスポーツの種類が多様化し、自分に合ったスポーツを選べるようになってきていることにも触れる。</li> <li>・生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るためには、人と人のつながりが欠かせないことを伝える。</li> </ul> <p>【評】単元全体を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

本単元では、現代生活においてスポーツの文化的意義が高まってきていること、国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な役割が重要になってきていること、文化としてのスポーツが人々を結び付ける重要な役割を担っ

ていることなどについて理解できるようにする。

## 単元名 健康な生活と病気の予防【中3】

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 健康な生活と病気の予防について理解を深めることができる。  
 (2) 健康な生活と病気の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともにそれらを他者に伝えることができる。  
 (3) 健康な生活と病気の予防についての学習に自主的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12300126\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 感染症の原因について知る。<br/> <b>★</b>感染症について知ろう。<br/>         ○感染症の例について話し合う。<br/>           ・インフルエンザ ・はしか ・結核<br/>         ○感染症の原因と発病について知る。<br/>           ・細菌<br/>           ・ウイルス<br/>         ○感染症に関する条件について考える。<br/>         ○感染症についてまとめる。</p> <p>2 感染症の予防について考える。<br/> <b>★</b>感染症の予防について考えよう。<br/>         ○感染症を予防するための原則を知る。<br/>         ○体を守る仕組みについて理解する。<br/>           ・免疫 ・リンパ球 ・予防接種<br/>         ○感染症の予防，体を守る仕組みについてまとめる。</p> <p>3 性感染症の予防について考える。<br/> <b>★</b>性感染症について知り，予防策を考えよう。<br/>         ○主な性感染症とその症状について知る。<br/>         ○性感染症の予防について考える。<br/>           ・性的接触の連鎖<br/>           ・コンドームの正しい使用<br/>         ○性感染症とその予防についてまとめる。</p> <p>4 エイズの予防について知る。<br/> <b>★</b>エイズについて理解しよう。<br/>         ○エイズとH I Vについて知る。<br/>         ○エイズの予防について考える。<br/>           ・性的接触の連鎖<br/>           ・コンドームの正しい使用<br/>         ○「ともに生きる」ことについて話し合う。</p> <p>5 個人の健康を守る社会の取組について考える。<br/> <b>★</b>個人の健康を守る社会の取組について考えよう。<br/>         ○さまざまな公衆衛生活動について知る。<br/>         ○保健機関・医療機関の役割と利用について考える。<br/>         ○健康を守る活動への積極的な参加について考える。</p> | <p>・感染症について，知っていることを発表させる。<br/>         ・細菌とウイルスの違いや，主な感染症の病原体，感染経路，主な症状などを理解させる。<br/>         ・感染と発病の違いを正しく理解させる。<br/>         ・病原体の感染や発病には，自然環境条件，社会環境条件などの環境の条件と主体の条件が複雑に関係していることを理解させる。<br/> <b>【評】</b> 感染症についてまとめる活動を通して，「知識（・技能）」を評価する。</p> <p>・感染症を予防するための三原則について具体的な対策方法を理解させる。<br/>         ・免疫の仕組みについて理解させ，予防接種についても触れる。<br/>         ・自分の生活を振り返らせ，改善点を考えさせる。<br/> <b>【評】</b> 感染症の予防についてまとめる活動を通して，「知識（・技能）」を評価する。</p> <p>・性感染症は，感染経路が性的接触であることや，主な性感染症の潜伏期間や症状，特徴について押さえる。<br/>         ・近年，性感染症の感染者数の増加と青少年の感染が社会問題になっていることについても触れる。<br/>         ・正しい知識と予防方法を身に付けることが大切であることを理解させる。<br/> <b>【評】</b> 性感染症とその予防についてまとめる活動を通して「知識（・技能）」を評価する。</p> <p>・性感染症は，感染経路が性的接触であることと，主な性感染症の潜伏期や症状について押さえる。<br/>         ・性感染症の感染者が低年齢化していることについて押さえる。<br/>         ・正しい知識と予防方法を身に付けることが大切であることを理解させる。<br/>         ・エイズに対する偏見や差別で苦しんでいる人がいることを科学的に考え，判断しながら，H I V感染者とともに生きることについて話し合わせる。<br/> <b>【評】</b> 「ともに生きる」ことについて話し合う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・個人の健康は，さまざまな公衆衛生活動によって支えられていることを確認する。<br/>         ・保健所や保健センターの主な役割について説明し，健康の保持増進，病気の予防には保健機関を有効に利用することが必要であることを理解させる。<br/>         ・病院と診療所の違いについて理解させる。<br/>           ・かかりつけ医をもつことのよさについても触れる。<br/>         ・私たちが参加できる健康を支えるための活動</p> |

|   |  |
|---|--|
| <p>○個人の健康を守る社会の取組についてまとめる。</p> <p>6 医薬品の有効利用について考える。</p> <p>★医薬品の有効利用について考えよう。</p> <p>○医薬品の種類と作用について知る。</p> <p>・主作用 ・副作用</p> <p>○医薬品の利用について考える。</p> | <p>にはどのようなものがあるか考える。</p> <p>【評】単元全体を通して、「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・医薬品には、主作用と副作用があることを説明し、適切に服用する必要があることを理解させる。</p> <p>・事前に自宅にある市販薬の取扱説明書を準備させ、記載事項を確認させる。</p> <p>・望ましい効果を得るためには、薬の飲み方など使用上の注意を確認してから利用することを理解させる。</p> <p>・医薬品を購入するときの注意点やお薬手帳の利用についても押さえる。</p> <p>【評】医薬品の有効な利用の仕方について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|---|--|

【 備 考 】

性感染症及びエイズの予防についての指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮する。また、健康の保持増進と疾病の予防に加えて、疾病の回復についても取り扱うものとする。

## 単元名 健康と環境【中3】

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 健康と環境について理解することができる。  
 (2) 健康と環境に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどと関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができる。  
 (3) 健康と環境についての学習に自主的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12300127\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 環境への適応能力について考える。<br/> <b>★</b>適応能力について考えよう。<br/>         ○私たちの体の適応能力について考える。</p> <p>○適応能力の限界について考える。<br/>         ・熱中症 ・低体温症<br/>         ○適応能力の限界についてまとめる。</p> <p>2 快適な環境の条件について考える。<br/> <b>★</b>快適な環境の条件について考えよう。<br/>         ○快適な温熱条件について考える。<br/>         ・気温 ・湿度 ・気流</p> <p>○快適な明るさについて考える。</p> <p>○快適な生活環境の条件についてまとめる。</p> <p>3 空気の汚れと換気について考える。<br/> <b>★</b>空気の汚れと換気について考えよう。<br/>         ○二酸化炭素と空気の汚れについて考える。</p> <p>○定期的な換気について考える。</p> <p>○一酸化炭素の害について考える。</p> <p>○空気の衛生的管理についてまとめる。</p> <p>4 水の役割と飲料水の条件について考える。<br/> <b>★</b>水の役割と飲料水の条件について考えよう。<br/>         ○体内の水分の割合と役割について考える。</p> <p>○飲料水の条件とその確保について考える。</p> <p>○生活に必要な水について考える。<br/>         ・生活用水 ・公共用水 ・産業用水<br/>         ○飲料水の衛生的管理についてまとめる。</p> <p>5 生活に伴う廃棄物の処理について考える。<br/> <b>★</b>生活に伴う廃棄物の処理について考えよう。<br/>         ○生活雑排水・し尿の処理について考える。</p> <p>○ごみの処理について考える。</p> <p>○廃棄物の衛生的管理について考える。</p> <p>○生活に伴う廃棄物の衛生的管理についてまとめる。</p> <p>6 環境問題への取組について考える。<br/> <b>★</b>環境問題への取組について考えよう。<br/>         ○環境問題について知っていることを話し合う。<br/>         ・大気汚染 ・水質汚濁 ・土壌汚染 ・騒音<br/>         ・振動 ・悪臭 ・地盤沈下<br/>         ○環境汚染の健康への影響について考える。</p> | <p>・気温の高いときや低いときに起こる体の変化について考えさせる。<br/>         ・暑さや寒さに対する適応能力には限界があることに気付かせる。<br/>         ・体の適応能力を超えた環境は、健康や生命に影響を及ぼすことを理解させる。<br/> <b>【評】</b>適応能力の限界についてまとめる活動を通して、「知識（・技能）」を評価する。</p> <p>・暑さ、寒さはどのようなときに感じるかをグループで話し合わせる。<br/> <b>【評】</b>快適な温熱条件について話し合わせる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・快適で能率がよい生活を送るための室内の温度、湿度、気流や明るさには一定の範囲があることを理解させる。</p> <p>・二酸化炭素濃度の増加により体へさまざまな影響を及ぼすことを確認させる。<br/>         ・換気回数と二酸化炭素濃度の関係を示したグラフを提示し、換気の必要性を理解させる。<br/>         ・一酸化炭素の性質を理解させる。<br/>         ・身近なところに一酸化炭素の発生源があることを確認させる。<br/> <b>【評】</b>空気の衛生的管理についてまとめる活動を通して、「知識（・技能）」を評価する。</p> <p>・水が生命の維持や健康にとって大切な働きをしていることに気付かせる。<br/> <b>【評】</b>体内での水分の役割について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・水道法による水質基準により、飲料水の条件が確保されていることを確認させる。<br/>         ・さまざまな用途で水が使われていることを確認させる。<br/>         ・水質基準や水道施設の整備により、飲料水が衛生的に管理されていることを理解させる。</p> <p>・生活排水やし尿がどのように処理されるのか自分の居住地区をもとに考えさせる。<br/>         ・焼却施設や埋め立て地の処理能力が限界であることを確認し、生活廃棄物の処理問題を身近な問題として捉えさせる。<br/>         ・廃棄物の種類により衛生的に処理する必要があることを理解させる。<br/> <b>【評】</b>生活に伴う廃棄物の衛生的管理についてまとめる活動を通して、「知識（・技能）」を評価する。</p> <p>・廃棄物によって自然環境が汚染されていくことにつなげる。</p> <p>・公害による健康被害についても確認し、公害</p> |



○ 環境汚染への対策について考える。

○ 環境汚染と健康についてまとめる。

対策面で貴重な経験や技術をもつ日本が、積極的な役割を果たすことが期待されていることにも触れる。

- ・ 環境汚染への対策について、グループで話し合わせる。
- ・ 一人一人が環境汚染の対策に取り組むことの大切さを理解させる。

【評】単元全体を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

令和 3 年度 知多地方教育計画案

# 技術科

# 技 術 ・ 家 庭 科

## 1 教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 改定の趣旨

#### ① 家庭科、技術・家庭科の目標の在り方

家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、児童生徒の学習への関心や有用感が高いなどの成果が見られる。一方、家庭生活や社会環境の変化によって家庭や地域の教育機能の低下等も指摘される中、家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。また、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる。目標とする資質・能力については、実践的・体験的な活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見いだして課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することを基本的な考え方とする。

#### ② 具体的な改善事項

家庭科、技術・家庭科家庭分野については、次の3点から示し方を改善することが求められる。

第一には、小・中・高等学校の内容の系統性の明確化である。児童生徒の発達を踏まえ、小・中・高等学校の各内容の接続が見えるように、小・中学校においては、「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」に関する三つの枠組みに整理することが適当である。また、この枠組みは、「生活の営みに係る見方・考え方」も踏まえたものである。

第二には、空間軸と時間軸という二つの視点からの学校段階に応じた学習対象の明確化である。空間軸の視点では、家庭、地域、社会という空間的な広がりから、時間軸の視点では、これまでの生活、現在の生活、これからの生活、生涯を見通した生活という時間的な広がりから学習対象を捉えて指導内容を整理することが適当である。

第三には、学習過程を踏まえた改善である。生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視し、この過程を踏まえて基礎的な知識・技能の習得に係る内容や、それらを活用して思考力・判

断力・表現力等の育成に係る内容について整理することが適当である。

## (2) 改定の要点

### ① 目標の改善

教科目標及び分野目標については、今回の改訂の基本方針を踏まえ、育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にし、全体に関わる目標を柱書として示すとともに、(1)として「知識及び技能」を、(2)として「思考力、判断力、表現力等」を、(3)として「学びに向かう力、人間性等」の目標を示す。また、(1)から(3)までに示す資質・能力の育成を目指すに当たり、質の高い深い学びを実現するために、技術・家庭科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることを示す。

### ② 内容の改善

内容については、項目ごとに、育成する資質・能力を三つの柱に沿って示すことが基本となるが、特に「学びに向かう力、人間性等」については、教科目標及び各分野目標においてまとめて示すこととした。また、内容構成や履修方法等については、以下のように改善を図った。

#### ア 技術分野

##### ○内容構成の改善

現代社会で活用されている多様な技術を「A材料と加工の技術」、「B生物育成の技術」、「Cエネルギー変換の技術」、「D情報の技術」の四つに整理し、全ての生徒に履修させる。なお、各内容を示す順序は、各学校における指導学年などを規定するものではないが、小学校における学習との接続を重視する視点から、生物育成の技術に関する内容とエネルギー変換の技術に関する内容の順序を入れ替えた。

##### ○履修方法の改善

技術に関する教育を体系的に行うために、第1学年の最初に扱う内容の「生活や社会を支える技術」の項目は、小学校での学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容としても指導する。

##### ○社会の変化への対応

指導内容については、生活や社会において様々な技術が複合して利用されている現状を踏まえ、各技術に関連した専門分野における重要な概念等を基にしたものとする。

#### イ 家庭分野

##### ○内容構成の改善

今回の改訂では、小・中・高等学校の内容の系統性を明確にし、各内容の接続が見えるように、小・中学校においては、従前の四つの内容を「A家族・家庭生活」、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」の三つの内容としている。

##### ○履修方法の改善

内容の「A家族・家庭生活」の(1)については、小学校家庭科の学習を踏まえ、家族・家庭の機能について扱うとともに、中学校における学習の見通しを立てさせるためのガイダンスとして、第1学年の最初に履修させることとしている。また、「生活の課題と実践」に係る「A家族・家庭生活」の(4)、「B衣食住の生活」の(7)及び「C消費生活・環境」の(3)については、これらの三項目のうち、一以上を選択して履修させ、他の内容と関連を図り扱うこととしている。

##### ○社会の変化への対応

少子高齢社会の進展に対応して、家族や地域の人々とよりよく関わる力を育成するために、「A家族・家庭生活」においては、幼児との触れ合い体験などを一層重視するとともに、高齢者など地域の人々と協働することに関する内容を新設している。

# 技 術 分 野

## 1 技術分野の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

### ○技術の見方・考え方を働かせる

技術の開発・利用の場面で用いられる「生活や社会における事象を，技術との関わりの視点で捉え，社会からの要求，安全性，環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること」などの技術ならではの見方・考え方を働かせ学習することを示している。

### ○ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して

社会の問題解決の過程になぞらえ，科学的な知識等を踏まえて設計・計画し，身体的な技能等を用いて製作・制作・育成を行うといった「ものづくり」が行う。この活動では，知識及び技能や思考力，判断力，表現力等とともに，それらを複合的に活用して人間の願いを具体的な形として実現する資質・能力を育成することができる。

### ○技術を工夫し創造しようとする実践的な態度

技術分野として育成を目指す学びに向かう力，人間性等が，安心，安全で便利な生活の実現や持続可能な社会の構築のために，主体的に技術に関わり，技術を工夫し創造しようとする実践的な態度であることを示している。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 改定の趣旨

#### ①平成20年改訂の学習指導要領の成果と課題を踏まえた目標の在り方

○技術・家庭科技術分野においては，社会，環境及び経済といった複数の側面から技術进行评估し具体的な活用方法を考え出す力や，目的や条件に応じて設計したり，効率的な情報処理の手順を工夫したりする力の育成について課題がある。

○社会の変化等に主体的に対応し，よりよい生活や持続可能な社会を構築していくため，技術の発達を主体的に支え，技術革新を牽引することができるよう，技術进行评估，選択，管理・運用，改良，応用することが求められる。

○目標とする資質・能力については，実践的・体験的な活動を通して，生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り，それらに係る技能を身に付けるとともに，生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定しそれを解決する力や，よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度等を育成することを基本的な考え方とする。

#### ②具体的な改善事項

#### ア 指導内容の示し方の改善

- 技術の仕組みや役割，進展等を，科学的に理解することで，「技術の見方・考え方」に気づき，課題の解決に必要な知識・技能を習得させる内容（「生活や社会を支える技術」）
- 習得した知識・技能を活用して，生活や社会における技術に関わる問題を解決することで，理解の深化や技能の習熟を図るとともに，技術によって問題を解決できる力や技術を工夫し創造しようとする態度を育成する内容（「技術による問題解決」）
- 自らの問題解決の結果と過程を振り返ることで，身に付けた「技術の見方・考え方」に沿って生活や社会を広く見つめなおす内容（「社会の発展と技術」）

#### イ 教育内容の見直し

- 生活や社会において様々な技術が複合して利用されている現状を踏まえ，材料，加工，生物育成，エネルギー変換，情報等の専門分野における重要な概念等を基にした教育内容とする。
- 急速な発達を遂げている情報の技術に関しては，従前からの計測・制御に加えて，双方向性のあるコンテンツに関するプログラミングや，ネットワークやデータを活用して処理するプログラミングも題材として扱うことが考えられる。
- 知的財産を創造・保護・活用していこうとする態度や使用者・生産者の安全に配慮して設計・製作したりするなどの倫理観の育成を重視する。あわせて，我が国に根付いているものづくりの文化や伝統的な技術の継承，技術革新及びそれを担う職業・産業への関心，経済的主体等として求められる働くことの意義の理解，他者と協働して粘り強く物事を前に進めようとする事，安全な生活や社会づくりに貢献しようとする事等を重視する。

#### (2) 改定の要点

##### ① 目標の改善

育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にし，技術・家庭科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることについて示した。

##### ② 内容の改善

##### ア 内容構成の改善

現代社会で活用されている多様な技術を「A材料と加工の技術」，「B生物 育成の技術」，「Cエネルギー変換の技術」，「D情報の技術」の四つに整理し，全ての生徒に履修させる。なお，各内容を示す順序は，各学校における指導学年などを規定するものではないが，小学校における学習との接続を重視する視点から，生物育成の技術に関する内容とエネルギー変換の技術に関する内容の順序を入れ替えた。

##### イ 履修方法の改善

技術に関する教育を体系的に行うために，第1学年の最初に扱う内容の「生活や社会を支える技術」の項目は，小学校での学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容としても指導する。分野目標の実現に向け，高等学校との関連を踏まえるとともに，現代社会で活用されている多くの技術がシステム化されている実態に対応するために，第3学年で取り上げる内容の「技術による問題の解決」の項目では，他の内容の技術も含めた統合的な問題について取り扱う。

##### ウ 社会の変化への対応

指導内容については，生活や社会において様々な技術が複合して利用されている現状を踏まえ，各技術に関連した専門分野における重要な概念等を基にしたものとする。

年間計画の作成に当たっては、3 学年間を見通した全体的な年間計画を検討すること。その際、各項目に配当する時間数及び履修学年については、地域、学校、生徒の実態等に応じて適切に定めること。

第1学年で「A 材料と加工に関する技術」と「D 情報の技術」の(1)(2)を履修させる例である。

(2) 年間計画例② ※令和3年度、令和4年度については、旧教科書を用いて実施する。

「D情報の技術」の(2)を履修させる例である。

(3) 年間計画例③ ※令和3年度、令和4年度については、旧教科書を用いて実施する。

|    |      |      |
|----|------|------|
| 学期 | 1 学期 | 2 学期 |
|----|------|------|

|   |      |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |            |    |    |    |    |    |    |                  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|---|------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|------------|----|----|----|----|----|----|------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 週 | 1    | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13         | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20               | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 |
|   | カ・バ・ |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 双方向性のあるコンテ |    |    |    |    |    |    | 計測・制御のプログラミングによる |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |

第〇学年〇組 技術・家庭科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時 (木工室)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 材料と加工の技術の原理・方法と仕組み

2 単元の目標

- (1) 材料の特性や材料に適した加工法や工具や機器の使用方法について理解し、簡単な製作品を製作できる技術を身に付けることができる。
- (2) 材料と加工の技術によって最適化されていることに気付くことができる。
- (3) 主体的に材料と加工の技術について考え、理解しようとする。

3 学習の計画 (5時間完了)

- |     |          |                       |
|-----|----------|-----------------------|
| 第1次 | 第1時      | 材料と加工に関する技術について知る。    |
| 第2次 | 第2時 (本時) | 材料の特徴を知る。             |
| 第3次 | 第3時      | 材料に適した加工法を知る。         |
| 第4次 | 第4時      | 製作品を丈夫にする方法を知る。       |
| 第5次 | 第5時      | 最適化されていることや工夫点について知る。 |

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 材料の基本的な特徴を理解することができる。
  - 材料の特徴を生かした利用方法を考えることができる。
- (2) 準備・資料
  - 教師……ワークシート、同じ寸法の板材 (木材、金属、プラスチック)、ベンチの実物または図版
- (3) 関 連
  - 技・家 材料と加工の技術による問題解決 (マルチラックの製作をする)
- (4) 学習過程

| 段階               | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項   |
|------------------|--|----|---|
| 気<br>付<br>く      | 1 木材、プラスチック、金属の板材に触ってみて、気付いたことを発表する。<br>・ 重さが違う<br>・ 金属は冷たい  | 8  | ○ 観察はグループで行わせ、グループ内で意見を出し合った後に代表者に発表させる。<br>○ 木材、金属とプラスチックの違いに注目させ、実際に触れることを伝える。                                    |
| つ<br>か<br>む      | 2 本時の学習課題をつかむ。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">木材、プラスチック、金属の特性を調べ、製品にどのように利用されているか考えよう。</div>    | 10 | ○ 材料の特性から製品にどのように利用されているか調べることを学習課題とさせる。  |
| 確<br>か<br>め<br>る | 3 ベンチを設置した人が設定した理由を考える。<br>・ 公園に来た人にゆっくり過ごしてもらいたい<br>・ 丈夫で長く使える<br>・ 水に強く、屋外に置ける<br>・ 軽くて、移動させやすい<br>・ 汚れてもきれいにできる<br>・ 同じ形のものがたくさん作れる | 20 | ○ 材料の異なるベンチの図版を提示する。<br>○ どんな材料を使っているのか、その理由を考えさせる。<br>○ 使用目的や使用条件を考えさせ、設置者の設定理由を考えさせる。<br>○ 班で話し合いながらワークシートに記入させる。 |
|                  | 4 材料の特性をまとめる。  |    |   |



|                  |   |    |   |
|------------------|---|----|---|
| 確<br>か<br>め<br>る | <p>(1) 木材の特性をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽いわりに丈夫</li> <li>・木目があり，肌触りがよい</li> </ul> <p>(2) 金属の特性をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かたくて丈夫</li> <li>・触ると冷たい</li> </ul> <p>(3) プラスチックの特性をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽いわりに丈夫である</li> <li>・熱でやわらかくなるものもある</li> </ul>  | 30 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○材料の強さ，重さ，加工のしやすさ，耐久性，熱や電気に対する性質，見た目や触り心地を，板材を使って確認させる。</li> <li>○耐水性や生産性については補足説明する。</li> </ul> <p><b>評</b>材料の基本的な特性をまとめている。<br/>(発表，ワークシート)</p>  |
| 深<br>め<br>る      | <p>5 材料の特徴を生かした利用方法を考える。</p> <p>(1) テーブル，家具，椅子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○木材を利用したもの。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・木目があり，肌触りがよい</li> <li>・切断しやすく，削りやすい</li> </ul> </li> <li>○プラスチックを利用したもの。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽い</li> <li>・同じ物が大量に作れる</li> </ul> </li> </ul> <p>(2) 自動車</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○金属を利用している部分 <ul style="list-style-type: none"> <li>・溶かして成形できる</li> <li>・曲げたり伸ばしたりできる</li> </ul> </li> </ul> <p>(3) スプーン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○プラスチックを利用している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・着色して成形できる</li> <li>・同じ物を大量に作れる</li> </ul> </li> <li>○金属を利用している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・かたくて丈夫</li> <li>・溶かして成形できる</li> </ul> </li> </ul> | 45 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な製品を一つ挙げて，どのような材料が使われているのか考え，材料の特性を生かしているのか考えさせる。</li> <li>○一つの製品の中にもいろいろな材料が利用されていることにも着目させる。</li> <li>○材料の入手のしやすさ，価格，環境への負荷なども考えさせる。</li> </ul> <p><b>評</b>材料の特徴を生かした利用方法を考えている。<br/>(ワークシート)</p> |
| ま<br>と<br>め<br>る | <p>5 本時の学習のまとめをする。</p> <p>(1) 材料の基本的な特徴についてまとめる。</p> <p>(2) 自己評価をする。</p>  | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートに自分が気付いた材料の特徴をまとめさせる。</li> <li>○観点に沿って，言葉で表現させる。</li> </ul>   |

(5) 本時の評価規準

- ベンチを設置した理由を考え，材料の基本的な特徴をワークシートにまとめている。  
(発表，ワークシート)
- 製品から材料の特性を生かした利用方法を考えることができている。  
(ワークシート)

## 5 備 考

(1) 学級の実態

- 本学級は，探求心が旺盛な生徒が多く，活発な話し合いをすることができる。その反面，注意力を欠く場面が多いため，安全には配慮する必要がある。

(2) 指導の力点

- グループで材料の観察をしたり，ベンチを設置した人の設定した理由を考えたりして，話し合い活動を行うことにより，主体的・対話的で深い学びの実現を図り，自分の考えだけでなく，仲間の意見も取り入れ，多角的に物事が考えられるようにする。

## 6 指導と評価

第〇学年〇組 技術・家庭科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時（技術室）

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 生物育成の技術による問題解決

2 単元の目標

- (1) 植物の生長の状態に合わせて、適切な管理作業を行う技能を身に付けることができる。
- (2) 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定し、それに対する改善および修正の力を身に付けることができる。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善しようとする。

3 学習の計画 （7時間完了）

- 第1次 第1時 生物を育てる技術と私たちの関わりについて調べ、これからの生物育成について考える。
- 第2次 第2時（本時） 生物を育てる目的を考え、生物の成長に合わせた栽培計画を立てる。
- 第3時 栽培の準備をする。
- 第4時～第6時 成長の状態に合わせて生物を管理し、栽培記録にまとめる。
- 第3次 第7時 生物育成の技術による問題解決方法を振り返り、改善・修繕する方法について考える。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 栽培する植物に適した栽培条件や管理方法を知り、栽培計画を立てることができる。
- (2) 準備・資料
  - 教師……栽培計画表，ワークシート，教材提示装置
- (3) 関 連
  - 1年 理科 葉と日光（光合成のしくみについて調べる）
- (4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|------|--|----|--|
| つかむ  | 1 栽培する目的を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜を育てて食べたい。</li> <li>・花を育てて飾りたい。</li> </ul> 2 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             生物の成長に合わせた育成計画を立てよう。           </div> | 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○野菜や鉢植えの草花を用意し、栽培目的の違いに気付かせる。</li> <li>○栽培計画表を作成する理由を伝える。</li> </ul>                                |
| 確かめる | 3 栽培計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 栽培する植物を決定する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培時期</li> <li>・栽培場所</li> </ul> </li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書P.106～P.108（旧P.160～P.162）の栽培カレンダーを見て、自分が栽培したいと思う作物を選ばせる。</li> <li>○栽培時期は、同じになるようにする。</li> </ul> |

|                  |  |    |  |
|------------------|--|----|--|
| 確<br>か<br>め<br>る | (2) 栽培計画を立てるために必要な内容を調べ、話し合う。<br>○ 準備するもの<br>・ 土, 肥料, 種, 苗, 容器, 支柱, ひも<br>○ 植物を管理する作業<br>・ 種まき, 定植時期<br>・ 摘芽, 摘しん<br>○ 環境を管理する作業<br>・ 土作り, かん水, 施肥<br>・ 病虫害の防除 | 20 | ○ 学校での栽培が可能かどうかを栽培場所などから検討させる。<br>○ 栽培する植物によって準備するものや管理作業が変わってくることを確認する。<br>○ 用意した資料やインターネットなどを利用して調べさせる。<br>○ 調べた内容をワークシートに記入させていく。<br>○ グループになって話し合わせ, 課題や注意することはないか確認させる。<br><br>評栽培計画に必要な内容を資料などを用いて調べている。(ワークシート) |
| 深<br>め<br>る      | (3) 栽培計画表を完成させる。<br>・ 土作り, 種まき<br>・ 定植時期<br>・ かん水, 施肥<br>・ 摘芽, 摘しん<br>・ 収穫   | 40 | ○ 各種の管理作業をできるだけ細かく記入させるようにする。<br>○ 授業のみでなく日頃の管理も大切であることを確認する。<br>評調べた内容を生かして栽培計画表を作成している。(育成計画表)   |
| ま<br>と<br>め<br>る | 4 本時のまとめをする。<br>(1) 栽培計画表を発表する。<br>(2) 本時の自己評価をする。   | 50 | ○ 教材提示装置を利用して, 代表生徒に育成計画表の発表をさせる。<br>○ 本時の自己評価をワークシートに文章で書かせる。   |

#### (5) 本時の評価規準

- 栽培計画作りに必要な内容を資料などを用いて調べ, 調べた知識や技術を生かして育成計画表を作成している。(ワークシート, 育成計画表)

## 5 備 考

### (1) 学級の実態

- 作物の栽培体験については, 小学校で行ったアサガオの体験ぐらいしか覚えていない生徒がほとんどであり, 家庭で日常的に栽培をしている生徒はほとんどいない。このことから, 作物を育てた経験はあるものの, 水やり程度の知識しかないことが分かる。しかし, 中学生となり心が成長してきたこの時期は, 多くの生徒は作物を育てることに興味を示すようになり, 興味をもって育成技術が学べると考える。

### (2) 指導の力点

- 栽培計画表を作成することで, 生徒がその後の管理作業を見通しをもって行えるよう, 計画表の内容について指導・助言を行いたい。また, 作成した栽培計画表が, 育成作業を振り返る際に栽培計画表の内容とその効果について評価したり, 次に生物を育成する機会に学んだことを生かす活動につなげたりするものになるよう指導・助言していきたい。

## 6 指導と評価

第〇学年〇組 技術・家庭科学習指導案

令和〇年〇月〇日 〇曜日 第〇時 (技術室)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 エネルギー変換の技術による問題解決

2 単元の目標

- (1) 構想に基づいて設計し、電気回路の回路図や組立図にまとめることができる技能を身に着けることができる。
- (2) 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題解決の結果を評価し、改善及び修正する力を身に付けることができる。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善しようとする。

3 学習の計画 (11 時間完了)

- 第1次 第1時(本時) 生活や社会におけるエネルギー変換の技術の問題を解決するための課題を設定する。
- 第2次 第2時～第5時 電気回路を用いた製品の設計要素を検討して製作、点検・調整を行う。
- 第6時～第10時 機構モデルを用いた製品の設計要素を検討して製作、点検・調整を行う。
- 第3次 第11時 エネルギー変換の技術による問題解決について、解決過程について評価し、改善・修正する方法について考える。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見することができる。
  - 問題を解決するために、自分なりの課題を設定することができる。
- (2) 準備・資料
  - 教師……ワークシート・付箋
- (3) 関 連
 

技・家 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み
- (4) 学習過程

| 段階  | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|-----|---|----|--|
| つかむ | <p>1 生活や社会においてエネルギーが活用されている例を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暗くなると点灯する街灯</li> <li>・災害時に活躍するロボット</li> </ul> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     生活や社会における問題を発見し、課題を設定しよう。                 </div> | 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書 P170 (旧 P92, 93) の挿絵を参考に活用例を考えさせる。</li> <li>○光, 熱, 動力などのエネルギー変換の技術に着目させる。</li> <li>○身近な問題について考えることで、生活に活用しようとする意識を高める。</li> <li>○防災ブザーを例に全員で考えることで、技術の見方・考え方を身に付けさせる。</li> </ul> |

|                  |   |    |  |
|------------------|---|----|--|
| 確<br>か<br>め<br>る | 3 身の回りにある技術に対して問題を発見し課題を設定する。<br>(1) 「あったらいいな」「不便だな」と思うところを話し合う。<br>(2) グループで問題を決める。<br>・ベビーカーの段差<br>・夏場の暑さ対策<br>・農業の収穫作業 | 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題に対して具体的な現状と理想の姿を話し合わせる。</li> <li>○多様な見方・考え方を共有させるため、身近な問題、地域や社会の問題についてそれぞれ1つずつ選択させる。</li> </ul> <p>評「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見している。(話し合い・ワークシート)</p> |
| 深<br>め<br>る      | 4 問題について、課題を設定する。<br>(1) 課題の5Wを話し合う。<br>(2) 課題を付箋に貼り、表にまとめる。<br>(3) 1H(どのように)を基に、解決方法を話し合う。<br><br>5 グループ毎に発表して考えを共有する。   | 35 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○5W1H(When・Who・Where・What・Why・How)を意識させて課題を考えさせることで、具体的な問題の解決方法につなげる。</li> <li>○同じ問題でもグループ毎に考え方が違うことに着目させ、多様な見方・考え方の力を身に付けさせる。</li> </ul>           |
| ま<br>と<br>め<br>る | 6 本時を振り返る。<br>(1) ワークシートに記入する。<br>・自分なりの課題を設定して身の回りの技術に対して問題意識をもつことができた。<br>(2) 自己評価をする。                                  | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートに本時で学習したことへの感想を記入させる。</li> <li>○自己評価は観点に沿って言葉で表現させる。</li> </ul> <p>評問題を解決するために、自分なりに身近な題に目を向けようとしている。(ワークシート)</p>                            |

(5) 本時の評価規準

○話し合いの中で、多様な「技術の見方・考え方」を身に付け、問題を見つけている。

(ワークシート)

○身近な問題について自分なりの解決方法を考えるている。(ワークシート)

## 5 備 考

### (1) 学級の実態

○様々な便利な道具に囲まれ、不自由なく生活を過ごせる世代だが、問題に目を向け、自ら課題解決をしようとする生徒は少ない。多少の困難を感じても「このままでいいや」というように追求していく姿勢が見られない。話し合い活動は活発に行うことができる。

### (2) 指導の力点

○グループで話し合わせることで多様な「技術の見方・考え方」があることに気付かせたい。また、5W1Hを用い問題解決に向けて考えることで思考を段階的に深める方法を身に付けさせたい。

## 6 指導と評価

第〇学年〇組 技術・家庭科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時（コンピュータ室）

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決

2 単元の目標

- (1) 情報通信ネットワークの構成と、情報の利用するための基本的な仕組みを理解したり、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身につけることができる。
- (2) 問題を発見し課題を設定し、情報処理の手順を具体化し、コンテンツのプログラムの制作の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正する力を身に付けることができる。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善しようとする。

3 学習の計画 (7時間完了)

- |     |         |                        |
|-----|---------|------------------------|
| 第1次 | 第1時     | 双方向性のあるコンテンツのプログラムとは。  |
| 第2次 | 第2時     | 問題を発見し、課題を設定する。        |
|     | 第3時     | コンテンツを構想する。            |
|     | 第4時     | 施設予約確認システムを検討する。       |
|     | 第5時（本時） | 施設予約確認システムを制作する。       |
|     | 第6時     | 施設予約確認システムをバージョンアップする。 |
| 第3次 | 第7時     | 問題解決の評価、改善・修正。         |

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグができる技能を身に付けることができる。
- (2) 準備・資料
  - 生徒……ワークシート
  - 教師……センサカー、電池、USBケーブル、通信用ケーブル
- (3) 関 連
 

技・家 情報の技術の原理・法則と仕組み
- (4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|------|--|----|--|
| つかむ  | 1 前時の確認をする。  | 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの学習を確認し、前時までの学びを確認する。</li> <li>○教材提示装置で施設予約システムをスクリーンに投影し、イメージさせる。</li> </ul>          |
|      | 2 本時の学習課題をつかむ。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     コンピュータ室が空いていたら予約ができるシステムをつくろう。                 </div> |    |  |
| 確かめる | 3 前時に引き続きグループで最適なプログラムについて検討をする。<br>(1) 課題を確認する。<br><br>(2) フローチャートを使って、プログラムの流れを考える。  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教師画面を転送し、プログラムの作成方法を説明する。</li> <li>○二人一組で取り組ませる。</li> <li>○フローチャートについても簡単に説明する。</li> </ul> |

|   |  |    |   |
|---|--|----|---|
|   |  | 15 | <p>評フローチャートを使って，プログラムの流れを考えている。<br/>(プログラムの制作作業，プログラム)</p>  |
| 深 | 4 各グループで施設予約確認システムを制作する。<br>(1) プログラムを制作し，予約システムを動かす。<br>(2) 制作したプログラムを修正する。 |    | <p>○ 前回制作した課題からプログラムの作り方を確認する。<br/>○ 何度も挑戦させ，間違いに気付かせ，修正させる。<br/>○ よりよいプログラムにするために修正を行わせる。</p> <p>評目的に合ったプログラムに修正している。<br/>(プログラムの制作，プログラム)</p> <p>○ プログラムの組み方を簡単に説明させる。<br/>○ 教材提示装置で生徒作品をスクリーンに投影し，鑑賞させる。</p> <p>評情報処理の手順を具体化する力を身に付けている。(プログラム，ワークシート)</p> |
| め | 5 改良したプログラムについて発表する。   | 40 |   |
| る |  |    |   |
| ま | 6 本時の学習のまとめをする。<br>(1) 本時のプログラムについてまとめる。<br>(2) 本時の自己評価をする。                  | 50 | <p>○ ワークシートに自分が気付いたことをまとめさせる。<br/>○ 本時の学習内容をワークシートにまとめさせる。</p>  |
| と |  |    |   |
| め |  |    |   |
| る |  |    |   |

(5) 本時の評価規準

- フローチャートを使って，プログラムを考えることができ，情報処理の手順を具体化している。  
(プログラムの制作，プログラム，ワークシート)
- 目的とする動作に少しでも近付けるために，プログラムを修正している。  
(プログラムの制作，プログラム)

## 5 備 考

(1) 学級の実態

- 本学級の生徒は，小学校でプログラミング言語 **Scratch** を学習している。学習したことが生かせるように，**Scratch** を使用して，プログラムの制作を行う。  
生活の中には数多くのコンピュータを使用して制御されている製品があふれていることを知っている。しかし，プログラミングに対して苦手意識をもっている生徒もいる。グループで協力しながら課題を解決するような授業展開とし，学習に意欲的に取り組めるようにしたい。

(2) 指導の力点

- フローチャートを使ってプログラムの流れを考える活動を通して，思考力や判断力を身に付けさせたい。
- 生徒同士が学び合う場面を設定することで，主体的・対話的で深い学びの実現を図り，自分の考えだけでなく，仲間の意見も取り入れ，多角的に物事が考えられるよう，二人一組のグループで活動させる。

## 6 指導と評価

単元名 技術分野のガイダンス A(1), B(1), C(1), D(1)

配当時間 2時間

単元の目標

(3) 3 学年間の技術分野の学習に見通しをもち、主体的に学習に取り組もうとする。

標準的な展開例

15280101\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 技術分野のガイダンス 1</p> <p>★技術分野のガイダンス 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身の回りの製品に込められた技術の工夫やアイデアを調べる。</li> <li>○身の回りの製品に込められた技術の工夫やアイデアを発表する。</li> <li>○技術の発展による生活や産業の変化を調べる。</li> <li>○身の回りの製品などを「技術の見方・考え方」の視点で観察する。</li> </ul> <p>2 技術分野のガイダンス 2</p> <p>★技術分野のガイダンス 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○PDCAサイクルに沿って問題の解決を行うことを確認する</li> <li>○社会における問題解決もPDCAサイクルの流れであることを知る。</li> <li>○3 学年間の学習内容を確認する。</li> <li>○技術分野の学習を生かして、3 年後にできるようになりたいことを内容ごとにまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を参考に、身の回りの製品に込められた技術や技術の発達について調べさせ、技術分野の学習への関心を高める。</li> <li>・「技術の見方・考え方」とは、「生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること」であることを押さえる。</li> <li>・設計・製作を中心としたものづくりではなく「技術による問題解決」に取り組むことを知らせる。</li> <li>・3 学年間で学習する材料と加工、生物育成、エネルギー変換、情報の技術について、見通しをもたせる。</li> </ul> <p>【評】3 学年間の学習内容を確認する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

【 備 考 】

技術分野の学習への興味・関心を高め、3 年間の学習の見通しをもたせる。実践的・体験的な活動を通して、生活や社会における問題を解決していくことの重要性を気付かせ、よりよい生活や持続可能な社会を構築するための資質、能力を身に付けさせていきたい。



単元名 材料と加工の技術の原理・方法と仕組み A(1)ア, イ

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 材料の特性や材料に適した加工法や工具や機械の使用方法について理解し、簡単な製作品を製作できる技術を身に付けることができる。  
(2) 材料と加工の技術によって最適化されていることに気付くことができる。  
(3) 主体的に材料と加工の技術について考え、理解しようとする。

標準的な展開例

15280102\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 身の回りの材料と加工の技術</p> <p>★材料と加工に関する技術について知ろう。</p> <p>○身の回りの製品を見て、なぜその材料が使われているかを考える。</p> <p>・木材 ・金属 ・プラスチック</p> <p>○身の回りの製品に使われている材料と加工の技術について調べる。</p> <p>2 木材, 金属, プラスチックの特性</p> <p>★材料の特徴を知ろう。</p> <p>○木材, 金属, プラスチックの特性について調べる。</p> <p>○木材, 金属, プラスチックがどのような製品に利用されているかまとめる。</p> <p>3 材料を加工するのに適した加工方法</p> <p>★材料に適した加工法を知ろう。</p> <p>○工具や機械を加工の特性や方法に応じて分類する。</p> <p>○材料と目的に応じた工具や機器を選択する。</p> <p>○工具や機器を安全に使用方法や技術室の安全のため<br/>のきまりを調べる。</p> <p>○簡単な加工体験を行う。</p> <p>4 丈夫な製品を作るために</p> <p>★製作品を丈夫にする方法を知ろう。</p> <p>○製品を丈夫にするための材料と加工の技術の工夫について調べる。</p> <p>・構造を丈夫にする方法</p> <p>・部品を丈夫にする方法</p> <p>○部材の組み合わせや接合の方法などを工夫して製品を丈夫にするための方法を考える。</p> <p>5 材料と加工の技術の工夫を読み取ろう</p> <p>★最適化されていることや工夫点について知ろう。</p> <p>○材料と加工の技術に込められた問題解決の工夫について考える。</p> | <p>・身の回りの製品を観察させ、使われている材料に着目させる。</p> <p>【評】身の回りの製品を見て、なぜその材料が使われているかを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・製品に使われている材料は、材料の特性、加工の段階、目的とする製品の機能に適した加工がされていることに気付かせ、材料と加工法について関心をもたせる。</p> <p>【評】身の回りの製品に使われている材料と加工の技術について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書P. 22を参照して、材料の違うベンチについてワークシートにまとめる。</p> <p>教科書P. 23を参照して、材料の特徴をワークシートにまとめる。</p> <p>【評】木材, 金属, プラスチックの特性について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書P. 24～P. 29の技術のとびらを参照し、ワークシートにまとめる。</p> <p>【評】木材, 金属, プラスチックがどのような製品に利用されているかまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・技術室にある工具について調べ、同じ加工方法でも使う材料に適した工具や機器を使い分けることの重要性を身に付けさせる。</p> <p>・材料や加工方法によって工具や機器を選択する必要があることを知らせる。</p> <p>【評】材料と目的に応じた工具や機器を選択する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・作業の安全性について確認させる。</p> <p>・簡単な加工体験を行うことで、本題材（材料と加工の技術による問題解決）における製作品の完成度を高めることにもつなげる。</p> <p>【評】簡単な加工体験を行う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ボール紙等で作った四角形のフレームを用いて、構造や部品によって丈夫さの違いを比較させるようにする。</p> <p>・耐震構造の建物や身の回りの製品を例にとって丈夫な構造の工夫が見つけられるようにする。</p> <p>【評】部材の組み合わせや接合の方法などを工夫して製品を丈夫にするための方法を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・身の回りの製品が材料と加工の技術によって最適化されていることに気付かせる。</p> <p>【評】材料と加工の技術に込められた問題解決の工夫について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

○身近な製品の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。

・使用者の視点だけではなく、開発者の視点でも考えられるように配慮する。

【評】身近な製品の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」の評価をする。

【評】身近な製品の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

ここでは、家具や食器などの身の回りの製品、家屋、高層建築物、橋梁などの構造物に用いられている材料と加工の技術や、日本の伝統的な材料と加工の技術の仕組み、開発の経緯や意図を調べる活動などを通して、主な材料や加工についての科学的な原理・法則と、材料の製造方法や成形方法などの基礎的な技術の仕組みを理解させるとともに、材料と加工の技術の見方・考え方に気付かせることが大切である。また、こうした活動を通して、進んで材料と加工の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとする態度の育成を図ることが重要である。

単元名 材料と加工の技術による問題解決 A(2)ア, イ

配当時間 14時間

単元の目標 (1) 製作に必要な図の描き方を理解し、安全・適切な製作や検査・修正することができる技能を身に付けることができる。  
(2) 問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えることができる。  
(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善しようとする。

標準的な展開例

15280103\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 問題を見出し、課題を設定しよう。<br/>★身近な生活から問題を見出し、課題を設定しよう。<br/>○身近な生活や学校などで、材料と加工の技術によって解決できる問題を見つける。<br/>○発見した問題を解決するための課題を設定する。</p> <p>2 製作品を構想し、設計しよう。<br/>★製作品の構想を具体化しよう。<br/>○課題を解決するための、使用目的や使用条件に合わせて製作品の構想を具体化する。<br/>・機能の検討<br/>・材料の検討<br/>・構造の検討<br/>・加工方法の検討</p> <p>○構想を繰り返し評価し、修正を行う。</p> <p>3～4 読み取ろう！図面は設計者からのメッセージ。<br/>★製作に必要な図の表し方を知ろう。<br/>○等角図の描き方について知る。</p> <p>○第三角法による正投影図の描き方について知る。</p> <p>○基本練習を行う。<br/>・等角図と第三角法による正投影図</p> <p>○図面に寸法を記入する。<br/>・寸法記入の方法<br/>・寸法の記入</p> <p>○アイデアを等角図で描く。</p> <p>5 製作の計画を立てよう。<br/>★製作のための計画を作ろう。<br/>○製作に必要な図を基に、部品表、材料取り図を作成し、製作に必要な材料を準備する。<br/>○製作工程表を作成する。</p> <p>○工程ごとに使用する工具や機器を調べる。</p> <p>6 けがきを行う。<br/>★けがきをしよう。<br/>○けがきの方法を調べ、けがきを行う。<br/>・木材…さしがね、すじけびき<br/>・金属…直定規、けがき針、センタポンチとハンマ</p> | <p>・「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を見いだすことができるように配慮する。<br/>・先輩の製作品や教科書などを参考に考えさせる。<br/>・製品調査や家族へのインタビューなどを行うこともできる。<br/>・イメージマップなどの思考ツールを活用し、自分の考えをまとめさせる。<br/>【評】発見した問題を解決するための課題を設定する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・製作品の構想を具体化する際は、製作品の形、大きさ、使いやすさ、丈夫さだけではなく、製作時間、かかる費用、使える材料などの制約条件や使用後、環境への負荷などについても考えさせる。<br/>【評】課題を解決するための、使用目的や使用条件に合わせて、製作品の構想を具体化する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P.43(旧P.44)を使って、実際に作図しながら製作品を立体的に表す方法を伝えるようにする。<br/>【評】第三角法による正投影図の描き方について知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>・教科書P.43(旧P.45)の例題を使って、等角図と第三角法による正投影図の変換ができるように練習する。<br/>【評】等角図と第三角法による正投影図を描く活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>・教科書P.44(旧P.46)を使って、寸法記入の方法を伝える。<br/>・線の太さ、寸法線や寸法補助線、寸法数値の記入法について実際に図に書き込ませながら伝えるようにする。<br/>・アイデアを斜眼紙に描く。3D-CADソフトウェアを使って製図してもよい。<br/>【評】アイデアを等角図で描く活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・部品表を作成し、切り代と削り代を考え、材料取り図を作成し、材料を準備させる。<br/>・製作工程表を作成させ、作業の見通しをもたせる。<br/>【評】製作工程表を作成する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>・製作工程表に使用する工具や機器を記入させる。</p> <p>・材料に適したけがき用の工具とけがきの方法について説明する。<br/>・切り代や削り代を考慮して仕上がり寸法線や切断線をけがくようにする。</p> |

- ・プラスチック…直定規，鉛筆，油性ペン

7～8 切断を行う。

★材料を切断しよう。

- 切断に使用する工具を確認する。
  - ・木材…両刃のこぎり，糸のこ盤
  - ・金属…金切りばさみ，弓のこ
  - ・プラスチック…プラスチックカッタ，弓のこ
- 安全に配慮して作業を行う。

- 正確に切断できたか検査する。
  - ・さしがね，直角定規

9～10 部品加工を行う。

★部品加工をしよう。

- 部品を加工する方法について知り，部品加工を行う。
  - ・木材…かんな，やすり，ドレッサ，ベルトサンダ，卓上ボール盤
  - ・金属…やすり，卓上ボール盤，折り台，打ち木，折り曲げ機，タップとダイス
  - ・プラスチック…やすり，曲げ用ヒータ
- 安全に配慮して作業を行う。

- 部品が正確に仕上がっているか検査する。
  - ・さしがね，直角定規
  - ・定盤

11 仮組み立てを行う。

★仮組み立てをしよう。

- 仮組み立てをする。
- 接合部のけがきをする。

- 下穴あけをする。

12 組み立てを行う。

★組み立てをしよう。

- 接合に使用する工具の確認をする。
  - ・くぎ接合…げんのう
  - ・ねじ接合…ドライバ，ナット回し，スパナ
  - ・接着剤による接合…接着剤 固定具
- 安全に配慮して作業を行う。

- 正確に接合できたか検査する。
  - ・さしがね，直角定規

13 表面処理を行う。

★表面処理をして仕上げよう。

- 表面処理について知る。
  - ・素地の調整
  - ・塗装

- 安全に配慮して作業を行う。

【評】けがきの方法を調べ，けがきを行う活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・材料に適した切断の工具と方法について説明する。
- ・切断線を切断する。

- ・安全に配慮して，クランプや保護眼鏡を使用する。

【評】安全に配慮して材料を切断する活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・仕上がり寸法線の内側まで食い込んだ場合は新たな仕上がり寸法を決め，製作図の寸法を修正する。影響を受けるそのほかの部品の仕上がり寸法も変更する。欠けた場合は，教科書P. 55(旧P. 67)を参考に固定させる。

- ・材料に適した工具や機器を用いてそれぞれの仕組みを効果的に活用しながら加工させる。

- ・仕上がり寸法線まで，正確に加工させる。

- ・ベルトサンダや卓上ボール盤を使う場合は，保護眼鏡や防じんマスクを使い安全に作業ができるように配慮する。

【評】安全に配慮して部品加工を行う活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・仕上がり寸法通りに仕上がっていない場合は教科書P. 59(旧P. 66, P. 67)を参考に，修正させる。

- ・固定具や粘着テープなどを利用して仮組み立てを行い，不具合がないか確かめ，組み立ての順番を考えさせる。

- ・製作品の内側になる面にけがきをする。

【評】接合部のけがきをする活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・下穴は，四つ目ぎり材料面に垂直にあける

- ・卓上ボール盤，ハンドドリルや電動ドリルを使う場合は，保護眼鏡やクランプを使い安全に作業ができるように配慮する。

【評】下穴あけをする活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・材料に適した接合方法と工具について説明する。

- くぎ接合…修正のための，くぎ抜き，くぎしめの使い方も説明する。

- ・安全に配慮して，保護眼鏡を使用する。酢酸ビニル樹脂系エマルジョン形接着剤…はみ出した接着剤は水で濡らした布でふき取る

【評】安全に配慮して接合する活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・教科書P. 65(旧P. 66, P. 67)を参考に，修正させる。

- ・材料に適した表面処理の方法について説明する。

- 木材…必要に応じて目止めについても説明をする。

- 金属，プラスチック…研磨，洗浄，塗装についても説明をする。

- ・安全に配慮して作業を行わせる。素地の調整…マスク・保護眼鏡を使用する。

- 塗装…換気をよくして作業をする。引火しやすい塗料や薄め液を使うときは，火気に注意する。

【評】安全に配慮して表面処理をする活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- 14 問題解決の評価，改善・修正をする。
- ★製作品の評価，改善・修正をしよう。
  - 材料と加工の技術による問題解決を振り返る。
  - 解決結果及び解決過程を評価する。

○改善・修正する方法について考える。

- ・問題解決の評価の観点を決め，その評価の観点に基づいて評価させる。
- ・製作品の品質
- ・製作の工程
- 【評】解決結果及び解決過程を評価する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】改善・修正する方法について考える活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

#### 【 備 考 】

ここでは，生活や社会の中から見いだした問題を材料と加工の技術によって解決する活動を通して，材料と加工の技術の見方・考え方を働かせて，問題を見いだして課題を設定し解決する力を育成するとともに，製作に必要な図をかき，安全・適切な製作や検査・点検等ができるようにすることが大切である。また，こうした活動を通して，自分なりの新しい考え方や捉え方によって，解決策を構想しようとする態度や，自らの問題解決とその過程を振り返り，よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度の育成を図ることが重要である。

**単元名 社会の発展と材料と加工の技術 A(3)ア, イ**
**配当時間 2時間**

**単元の目標** (1) 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、材料と加工の技術の概念について理解することができる。  
 (2) 技術を評価し、適切な選択と選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えることができる。  
 (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術を工夫し創造しようとする。

**標準的な展開例**

15280104\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 な ど   |
|--|---|
| 1 材料と加工の技術の最適化。<br>★材料と加工の技術の最適化について考えよう。<br>○自分の問題解決における最適化の場면을振り返る。<br><br>○社会の問題解決における最適化と比較する。<br>・社会からの要求<br>・安全性<br>・環境への配慮<br>・経済性<br><br>2 これからの材料と加工の技術。<br>★これからの材料と加工の技術について考えよう。<br>○問題解決の中で、自分が選択した技術について振り返る<br>○持続可能な社会の構築のために、これからの材料と加工の技術について考える。<br><br>○未来に向けた技術の改良、応用について考える。 | ・機能性、耐久性、環境への負荷、製品の安全性などの視点で振り返りをさせる。<br>【評】自分の問題解決における最適化の場면을振り返る活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br>・社会における材料と加工の技術は、さまざまな制約条件の基で折り合いを付け、効果が最も目的に合ったものになるように工夫されていることに気付かせる。<br>・技術や生活の向上や産業の継承と発展に貢献していることに気付かせる。<br>【評】社会の問題解決における最適化と比較する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br><br>・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術の評価し、選択、管理・運用していくことの大切さについて考えさせる。<br>【評】持続可能な社会の構築のために、これからの材料と加工の技術について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br>・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術の改良・応用していくことの大切さについて考えさせる。<br>【評】未来に向けた技術の改良、応用について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |

**【 備 考 】**

ここでは、材料と加工の技術の原理・法則と仕組みにおける材料と加工の技術の見方・考え方の気付きや、材料と加工の技術による問題の解決の学習を踏まえ、社会の発展のための材料と加工の技術の在り方や将来展望を考える活動などを通して、生活や社会に果たす役割や影響に基づいて材料と加工の技術の概念を理解させるとともに、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力を育成することが重要である。また、こうした活動を通して、材料と加工の技術を工夫し創造していこうとする態度の育成を図ることが重要である。

## 単元名 生物育成の技術の原理・法則と仕組み B(1)アイ

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 動植物の成長段階に応じて、生育に適した管理技術について理解することができる。  
 (2) 生物育成の技術について考え、理解することができる。  
 (3) 主体的に生物育成の技術について考え、理解しようとする。

## 標準的な展開例

15280201\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 生物育成の技術の目的を知り、地域の特産品を調べ、どのような技術が用いられているか調べ、まとめる。<br/> <b>★</b>生物育成の技術とは何だろう。<br/>         ○生物育成の技術の目的を知る。<br/>           ・食料の生産<br/>           ・燃料、材料の生産<br/>           ・健康、医療など<br/>           ・自然環境の保全<br/>         ○生物を育てる技術についてまとめる。<br/>           ・育成環境を整える技術<br/>           ・生物の成長を管理する技術<br/>           ・生物の特徴を改良する技術<br/>         ○地域の特産品を調べ、どのような技術が用いられているか調べ、まとめる。</p> <p>2 作物の育成環境を調節する技術について調べ、体験する<br/> <b>★</b>スプラウトの育成を通し、作物の育成環境を調節する技術を体験しよう。<br/>         ○作物の育成環境を調整する技術について調べる。<br/>           ・光      ・温度      ・水分      ・土（養分）</p> <p>○スプラウトの育成を行い、育成環境を調整する技術を体験する。</p> <p>3 作物の成長を管理する技術について調べ、その目的についてまとめる。<br/> <b>★</b>作物の成長を管理する技術についてまとめよう。<br/>         ○作物の成長を管理する技術について調べる。</p> <p>○作物の成長を管理する技術とその目的についてまとめる<br/>           ・種まき・・・育成場所の提供<br/>           ・間引き・・・通風・日当たり改善、苗の選択<br/>           ・摘芽・・・栄養管理<br/>           ・追肥・・・栄養管理、品質向上、収量増大など</p> <p>4 人と動物との関わりについて知り、動物や水産生物を健康に育てるための技術について調べる。<br/> <b>★</b>動物や水産生物を育てる技術についてまとめよう。<br/>         ○人と動物との関わりについて知る。</p> <p>○家畜としての動物の利用方法を調べる。</p> <p>○動物を健康に育てるための技術を調べる。</p> <p>○水産生物を安定的に供給するための養殖の技術について知る。</p> | <p>・身の回りで育てられている生物が、どのような目的で育てられているのかを考えさせる。</p> <p>・食料生産だけではないことに気付かせる。</p> <p>・作物の栽培、家畜の飼育、養殖などを例に考えさせる。</p> <p>・地域の特産物では、どのように技術が最適化されているか考えさせる。<br/> <b>【評】</b> 地域の特産品を調べ、どのような技術が用いられているか調べる活動を通して、「知識及び技能」を評価する。</p> <p>・育成環境を調整する技術を用いることで、これまで栽培できなかった地域で栽培したり、収穫時期を調節したりできるようになることを伝える。<br/> <b>【評】</b> 作物の育成環境を調節する技術について調べる活動を通して、「知識及び技能」を評価する。</p> <p>・スプラウトの育成では、育成の条件を変えることで、どのような成長の変化があるのか比較を行わせる。<br/>         ・光（照度）<br/>         ・光（日長時間）<br/>         ・温度<br/>         ・水分<br/>         ・養分<br/> <b>【評】</b> スプラウトを育成する活動を通して、「知識及び技能」を評価する。</p> <p>・基本的な管理する技術についてまとめさせる</p> <p>・健康に育成するために、生育に適した時期や育成状況を見ながら、目的に応じて作物やその周辺に手を加えることの必要性を伝える。<br/> <b>【評】</b> 作物の成長を管理する技術について調べる活動を通して、「知識及び技能」を評価する。</p> <p>・動物を育てるための育成環境を調整する技術や成長を管理する技術について調べさせ、植物との共通点や違いに気付かせる。</p> <p>・動物を育てる技術については、痛みやストレスを減らすという動物福祉の視点を取り上げる。</p> <p>・生産者の話などから、技術に込められた問題解決の工夫を読み取らせる。<br/> <b>【評】</b> 動物を健康に育てるための技術について調べる活動を通して、「知識及び技能」を評価する。</p> <p>・水産生物を育てるための育成環境を調整する技術や成長を管理する技術について調べさせ植物や動物との共通点や違いに気付かせる。</p> |

|   |   |
|---|---|
| <p>○水産生物を健康に育てるための技術を調べる。</p> <p>5 生物育成の技術に困られた問題解決の工夫について考えて、まとめる。</p> <p>★生物育成の技術の工夫を読み取ろう。</p> <p>○生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について考える。</p> <p>○食料の生産における問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。</p> | <p>・生産者の話などから、技術に込められた問題解決の工夫を読み取らせる。</p> <p>【評】水産生物を安定的に供給するための養殖の技術について調べる活動を通して、「知識及び技能」を評価する。</p> <p>・生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について、社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性などに着目させ、技術が最適化されてきたことに気付かせる。</p> <p>【評】生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について考える活動を通して、「思考力・判断力・表現力等」を評価する。</p> <p>・消費者の視点だけではなく、生産者の視点でも考えられるように配慮する。</p> <p>【評】主体的に生物育成の技術について考え、理解する活動を通して、「学びに向かう人間性等」を評価する。</p> |
|---|---|

【 備 考 】

生活や社会を支える多くの技術のうち「生物育成の技術」に関心をもち、技術の仕組みや役割を理解することが中心である。その際に、家庭菜園で用いられる伝統的な技術や、農林水産業や海洋産業などで用いられる大規模な生産技術などを「技術の目」で見つめることを意識させる。「技術の目」すなわち「技術の見方・考え方」に気付かせることで、学習の意欲を高め、知識や技能の習得を促し、技術的な考え方（思考力、判断力、表現力等）や技術的な問題解決能力を育てる。

ここで扱う「原理・法則」とは、作物の栽培、家畜の飼育水産生物の栽培などに概ね共通するものを指す。例えば、作物の生育にとって「光」は重要な環境要因である。この「光」の管理が露地栽培でも、施設栽培でも、家庭菜園でも、植物工場でも、重要となる。自然の太陽光とLEDなどの人工光とでは、光の波長が異なるために成長の度合いも変化し、そのため、作物が成長する仕組みや特性（短日性・長日性など）を知ることが必要である。

「光」の管理と、生物の成長の仕組みや特性との関係は、家畜の飼育や魚類の養殖でも同様に考えることができる。このように共通性のある「原理・法則」や技術の仕組みを理解することが目標である。



単元名 生物育成の技術による問題解決 B(2)アイ

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 植物の生長の状態に合わせて、適切な管理作業を行う技能を身に付けることができる。  
 (2) 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定し、それに対する改善および修正の力を身に付けることができる。  
 (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善しようとする。

標準的な展開例

15280202\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 生物を育てる技術と私たちの関わりについて調べ、これからの生物育成について考える。<br/> <b>★</b>生物を育てる技術と私たちの関わりについての課題を設定しよう。<br/>                     ○家庭、学校、地域、社会における生物育成の技術によって解決できる問題を見つける。<br/>                     ○発見した問題を解決するための課題を設定する。</p> <p>2～3 生物の特徴に応じた栽培計画をまとめる。<br/> <b>★</b>生物の育成計画を立てよう。<br/>                     ○生物を育てる目的を考え、生物の成長に合わせた育成計画を立てる。<br/>                         ・販売用、自家消費用<br/>                         ・食用、観賞用、加工用、飼料用など<br/>                     ○作物やその品種に応じた育て方を調べ、栽培計画表にまとめる。</p> <p>4～6 成長の状態に合わせて生物を管理し、栽培記録にまとめる。<br/> <b>★</b>成長段階に合わせて適切に育成しよう。<br/>                     ○安全に配慮し、成長の状態に合わせて、適切な管理作業を行う。(ミニトマトの場合)<br/>                         ・定植<br/>                         ・支柱立て<br/>                         ・誘引<br/>                         ・かん水<br/>                         ・元肥、追肥<br/>                         ・摘芽、摘芯、受粉<br/>                         ・健康管理、病虫害駆除<br/>                         ・収穫<br/>                     ○管理作業の内容を、栽培記録表にまとめる。</p> <p>7 生物育成の技術による問題解決方法を振り返り、改善・修繕する方法について考える。<br/> <b>★</b>設定した課題について問題解決の評価、改善・修正を行おう。<br/>                     ○生物育成の技術による問題解決を振り返り、解決結果および解決過程を評価、改善・修正する方法について考える。</p> | <p>・「技術の見方・考え方」を働かせて問題を見いだすことができるように配慮する。<br/>                     ・これまでの栽培経験や先輩の栽培記録の確認や地域の生産者へのインタビューなどを行うことも視野に入れさせる。<br/> <b>【評】</b>「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する活動を通して、「思考力・判断力・表現力等」を評価する。</p> <p>・自分が育てる生物に適した育成計画表を作成させる。<br/> <b>【評】</b>育成する作物に適した環境条件について考える活動を通して、「思考力・判断力・表現力等」を評価する。<br/>                     ・育成に必要な条件や管理作業の時期、作業内容などを調べさせる。<br/>                     ・育成計画を倫理観（病虫害の駆除や予防のために農薬を使用したかどうかの表示や消費者に対する安全や環境への負荷の配慮）や知的財産の視点ももたせる。<br/> <b>【評】</b>育成する目的に合わせて、栽培計画を立てる活動を通して、「思考力・判断力・表現力等」を評価する。</p> <p>・作物の栽培は、年間を通して適切な時期に実施する。<br/>                     ・収穫量を増やすことや希望する時期に収穫することができるように品種を選択し管理作業を行わせる。</p> <p>・ミニトマトの栽培は年間の適切な時期に実施するため、1単位時間を通して管理作業を行うのではなく、例えば、授業時間の中で15分以内等と決めておき、残り時間は育成記録を付けさせたり、動物や水産生物の育成についての原理・法則について扱ったりする。<br/> <b>【評】</b>植物の成長の状態に合わせて、適切な管理作業を行う活動を通して、「知識及び技能」を評価する。</p> <p>・問題解決の評価の観点を決め、その評価の観点に基づいて評価させる。<br/>                         ・品質<br/>                         ・収量<br/>                         ・安全性<br/>                         ・環境への配慮<br/>                         ・費用<br/>                         ・育成計画や管理作業の振り返り</p> |

【評】育成の過程や問題解決の結果を評価し、改善および修正する活動を通して、「思考力・判断力・表現力等」を評価する。  
【評】よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返り改善する活動を通して、「学びに向かう力、人間性等」を評価する。

【 備 考 】

栽培または飼育を伴った問題解決に実際に取り組む。問題解決の「問題」を地球温暖化や地産地消といったスケールの大きなものにすると、生徒一人ひとりの個人課題を設定しにくくなる。また、学習指導要領解説では、個人の課題を「育成環境の調節方法を構想し、栽培または飼育によって解決できるものを設定」と説明している。そのことから、ここでの「問題」とは、育てた作物の利用目的や、要求される品質や収量と捉えるのがよい。

理想では、生徒一人ひとりが生物育成の技術の目で生活や社会を見つめ、「地球温暖化を解決するために、学校にグリーンカーテンを作りたい」「家庭でも有機栽培をやってみたい」という問題を見いだせることが望ましい。それを授業で取り組む個人の課題に落とし込むときには、「授業で扱える範囲で考えよう」と前置きするようにして、生徒が育成環境の調整方法（光、土、温度などの管理方法）を考えて、失敗を恐れずに挑戦できるように、収量や品質の目標を「個人の課題」として設定するとよい。

育成計画を考える上では、生徒が栽培したことない未経験の作物ならば、計画を白紙から考えるのは困難である。そこで、教師が基本形を示して、それを修正させるようにしたり、管理作業の工夫によって品質が変わる事例を示したりすることで、育成計画を考えやすくする。また、あまり詳細に計画を考えさせず、生物の成長の段階に合わせた大まかな計画を立てるだけでも、十分に問題解決の学習が整理すると考えられる。生徒が品種を選択できるならば、より深い問題解決につなげることができる。

動物の飼育や水産生物の栽培を扱う場合、作物の収穫にあたる場面で生命倫理の問題が生じることが懸念される。そこで、「出荷するまでの飼育や養殖」のように、授業で可能な範囲での問題解決に取り組むよう、指導計画を工夫することが必要となる。

## 単元名 社会の発展と生物育成の技術 B(3)アイ

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 生物育成の技術の概念について理解することができる。  
 (2) これからの生物育成の技術について最適化を意識して考えることができる。  
 (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成の技術を工夫し創造しようとする。

## 標準的な展開例

15280203\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較する。<br/> <b>★</b>生物育成の技術の最適化について考えよう。<br/>         ○自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較する。<br/>           ・社会からの要求<br/>           ・安全性<br/>           ・環境への負荷<br/>           ・経済性</p> <p>○生物育成の技術のプラス面、マイナス面について考え、これからどのように技術の最適化を図っていくとよいかをまとめる。</p> <p>2 持続可能な社会の構築のために、これからの生物育成の技術について考える。<br/> <b>★</b>これからの生物育成の技術について考えよう。<br/>         ○持続可能な社会の構築のために、これからの生物育成の技術について考える。</p> | <p>・社会における生物育成の技術は、さまざまな制約条件の基で折り合いを付け、効果が最も目的に合ったものになるように工夫されていることに気付かせる。<br/> <b>【評】</b>自分の問題解決における最適化の場面を振り返る活動を通して、「知識及び技能」を評価する。</p> <p>・生物育成の技術のプラス面、マイナス面を考えさせる際は、生産者の立場と消費者の立場の両方の立場から考えさせる。<br/> <b>【評】</b>生物育成の技術の最適化について考える活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」を評価する。</p> <p>・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術を評価し、選択、管理、運用、改良応用していくことの大切さについて考えさせる。<br/> <b>【評】</b>これからの生物育成の技術について考える活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」を評価する。<br/> <b>【評】</b>よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成の技術を工夫し創造しようとする活動を通して、「学びに向かう力、人間性等」を評価する。</p> |

## 【 備 考 】

生物育成の技術は、生活に浸透し、様々な場面で活用されている。その多くは生徒の身近で見つけることができるが、手元に届く前の段階で利用されていることも多くある。

## ★生物育成技術の利用目的例

- ・食料の生産
- ・生活を豊かにする・・・花壇の整備、ハーブや観葉植物の育成、ペットの飼育、楽器の材料生産など
- ・環境の保全や復元・・・森林の管理、海洋環境の保全、屋上緑化の取り組みなど
- ・医療品の生産・・・ワクチンの生産、生薬の生産など
- ・燃料や材料の生産・・・森林資源の育成・活用、バイオ燃料の原料生産など

こうした技術は、人の手で、実践されることもあれば、機械化、自動化によって利用される場合もある。いずれにしても、「生物を育てる原理・法則や基礎的な仕組み、見方・考え方」は共通だが、実践や利用の仕方によって、社会に果たす役割や及ぼす影響は異なってくる。

生物育成の技術が果たす役割や影響（プラスとマイナス）は、実習を通して感じたことや理解したことに関連付けることで、より理解が深まる。経験した事実を基盤にすれば、他人事ではなく自分自身の出来事として、社会での技術利用を想像しやすくなる。

最新技術の開発には、必ず生産者たちの問題意識が基になっている。授業を通して、こうした問題意識を読み解くとともに、様々な立場（生産者、二次加工業者、消費者など）からその技術の役割や影響（プラス・マイナス）を考える学習も考えられる。最近では、作物や家畜の育成から加工・販売までを担う、いわゆる六次産業も盛んになってきている。経済的な側面だけではなく、社会の豊かさや環境保全、安心・安全、エネルギー、生命倫理など、様々な視点から技術のあり方を考えることが大切になる。

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 単元名   | エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み C(1)アイ   | 配当時間 | 8時間 |
| 単元の目標 | (1) 利用目的に合わせたエネルギー変換の技術の仕組みと特徴と用途を理解することができる。<br>(2) エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性などに着目して考えることができる。<br>(3) 主体的にエネルギー変換の技術について考え、理解しようとする。 |      |     |

標準的な展開例

15280204\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 生活のや社会の中で利用されているエネルギー変換、効率について知る。<br/> <b>★</b>エネルギー変換の技術について調べよう。<br/>                     ○生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について調べる。<br/>                     ○エネルギー変換効率について知る。<br/>                         ・【家庭分野】消費生活・環境と関連付ける。</p> <p>2 様々な発電方法の仕組みと特徴について調べ、適切な発電構成割合について考える。<br/> <b>★</b>発電の仕組みと特徴についてまとめよう。<br/>                     ○発電の仕組みと特徴についてまとめる。<br/>                     ○さまざまな発電方法のプラス面、マイナス面について調べ、適切な発電構成割合について自分なりに考える。</p> <p>3 電源の特徴、送電・配電について調べる。<br/> <b>★</b>電源を供給する仕組みについてまとめよう。<br/>                     ○電源の種類と特徴についてまとめる。<br/>                     ○送電・配電について調べる。</p> <p>4 電気エネルギーの仕組みを調べ、回路図で表す。<br/> <b>★</b>電気回路について考えよう。<br/>                     ○電気エネルギーを利用する仕組みを調べる。<br/>                     ○電気回路について、電気用図記号を用いた回路図で表す</p> <p>5 電気を安全に使うための技術について調べ、安全な使い方について考える。<br/> <b>★</b>電気機器を安全に使用するための技術について考えよう<br/>                     ○電気を安全に使うための技術の工夫について調べ、まとめる。<br/>                         ・漏電<br/>                         ・感電<br/>                     ○電気機器の安全な使い方について考える。</p> | <p>・身の回りの製品のエネルギー変換の流れを考えさせる。<br/>                     ・身の回りの製品のエネルギー損失に気付かせる。<br/>                     エネルギー変換効率を高めることは、環境への負荷を減らすことにつながることを伝える</p> <p>【評】生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について調べる活動を通して「知識及び技能」を評価する。</p> <p>【評】発電の仕組みと特徴についてまとめる活動を通して、「知識及び技能」を評価する。<br/>                     ・さまざまな発電方式の特徴、エネルギー変換効率、二酸化炭素排出量、発電にかかる費用などを比較しながら、適切な発電方法について自分なりに考えさせる。<br/>                     【評】さまざまな発電方法に込められた技術の工夫について考える活動を通して、「思考力判断力、表現力等」を評価する。</p> <p>・コンセントや電池を例に、電源の種類を調べさせる。<br/>                     【評】電源の種類と特徴や、送電・配電の仕組みについてまとめる活動を通して、「知識及び技能」を評価する。<br/>                     ・発電所からの送電・配電の仕組みについて調べさせる。<br/>                     【評】送電・配電の技術の工夫について考える活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」を評価する。</p> <p>・身の回りにある電気機器を調べさせ、電気エネルギーを利用する仕組みをまとめさせる。<br/>                     【評】電気回路の仕組みについて調べる活動を通して、「知識及び技能」を評価する。<br/>                     ・身の回りの機器の回路を調べさせ、回路図にまとめさせる。<br/>                     【評】簡単な電気回路を回路図で表す活動を通して、「知識及び技能」を評価する。</p> <p>・電気機器の構造や安全に関する表示を観察して、その意味を調べさせ、適切な使用方法についてまとめさせる。<br/>                     【評】電気機器の安全な使い方について調べる活動を通して、「知識及び技能」を評価する</p> <p>・電気による自己を防ぐ方法を具体的にまとめさせる。<br/>                     漏電・感電の危険性について知らせ、電気機器を安全に使用するための技術の工夫についてまとめさせる。<br/>                     【評】電気による事故を防ぐ方法について考える活動を通して、「思考力、判断力、表現力</p> |

- 6 機械が運動を伝える仕組みや、回転運動を伝える仕組みの特徴について調べる。  
★運動エネルギーへの変換と回転運動を伝える仕組みについてまとめよう。  
○機械が運動を伝える仕組みについて調べる。
- 機械の運動の種類とエネルギー変換についてまとめる。  
・直線運動  
・回転運動  
・揺動運動  
○回転運動を伝える仕組みの特徴と用途を調べる。  
○回転速度と回転力の関係を調べる。
- 7 リンク装置やカム装置の仕組みについてまとめ、機械の保守点検ができるようになる。  
★機械が動く仕組みを理解し、保守点検ができるようになる。  
○往復直線運動や揺動運動などを伝えるリンク装置やカム装置の仕組みを調べる。
- 流体を用いて動く機械や熱エネルギーで動く機械を調べる。
- 機械の共通部品について知る。
- 機械を安全に利用するために保守点検が必要であることを知る。
- 身近な機械の保守点検をする。
- 8 身近な製品の問題解決の工夫から、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。  
★エネルギー変換の技術の工夫について考えよう。  
○エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について考える。
- 身近な製品の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。

等」を評価する。

- ・自転車や身の回りの機器などに使用されている運動を伝える仕組みや部品を調べさせる。  
【評】機械が運動を伝える仕組みについて調べる活動を通して、「知識及び技能」を評価する。
- 【評】運動の種類とエネルギー変換について理解している。
- ・自転車を例に、回転運動を伝える仕組みを調べ、回転速度と回転力の関係についてまとめさせる。  
【評】回転運動を伝える仕組みの特徴と用途を調べる活動を通して、「知識及び技能」を評価する。
- ・自転車や身の回りの機器などに使われている往復直線運動や揺動運動を伝えるためのリンク機構やカム機構の仕組みと利用例を調べさせる。  
【評】リンク機構やカム機構について調べる活動を通して、「知識及び技能」を評価する。
- ・油圧ショベルやパワーアシストロボットなどの流体を用いて動く機械や、蒸気機関などの熱エネルギーで動く機械の仕組みについて調べさせる。  
【評】熱や水、空気などの流体を用いたエネルギー変換の特性について調べる活動を通して「知識及び技能」を評価する。
- ・機械の共通部品があることで作業効率が高まることに気付かせる。
- ・飛行機や自転車の点検などから、保守点検（メンテナンス）の大切さに気付かせる。  
【評】機械の共通部品と保守点検の大切さについてまとめる活動を通して、「知識及び技能」を評価する。
- ・自転車を用いて日常点検をさせる。
- 【評】エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について考える活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」を評価する。
- ・エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について、社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性などに着目させ、技術が最適化されてきたことに気付かせる。  
【評】主体的にエネルギー変換の技術について考える活動を通して、「学びに向かう力、人間性等」を評価する。

## 【 備 考 】

生活や社会を支える技術のうち「エネルギー変換の技術」に関心をもち、技術の仕組みや役割を理解することが中心である。

生徒の「技術」に対するイメージは電気やコンピュータに向きがちなものである。しかし、電気機器の仕組みを見ると、電気回路だけではなく、ものを動かす部分（いわゆる機械の要素）や安全を保つ部分などが組み合わさっていることに気付くことができる。このような気付きを通して、電気製品や交通機関、産業機械などを「技術の目」で見つめ、エネルギー変換の技術に対する興味・関心を高めることが大切である。

身の回りの家電製品やシステム、電車、自転車、飛行機、産業機械などがどのような仕組みで働いているのか。そのような原理・法則が利用されているのか。電気エネルギーはどこから供給され、まずどの部品がどのように動作するのか。その動作が次にどう伝達されるのか。最終的にどのような仕事ができるのか。スムーズに動作するための工夫や、安全に動作するための工夫は何か。そういったことを調べることで、エネルギー変換の技術に用いられる原理・法則や、基礎的な技術の仕組みを理解していく。

学習指導要領解説では、「共通部品や製品企画など役割について理解」することや、「安全で正しい使用方法を守ることとともに、保守点検が必要であることについても理解」することが示されている。また、電気安全に

ついては、定格表示、安全に関する表示の意味、屋内配線における漏電、感電、加熱および短絡による事故の防止法を指導することとされている。

これらの内容は、個別の知識・技能を扱うだけでなく、安全に関する法令や標準化のための規格（JISなど）がある理由や、その意義を理解させることが大切である。さらに、安全に対する意識を高めることも、ここでの大切な学習である。それは、開発者の意図をたどる学習と重なる面もあり、エネルギー変換の技術に関する「見方・考え方」に気付かせるよい機会となる。

単元名 エネルギー変換の技術による問題解決 C(2)アイ

配当時間 11時間

- 単元の目標 (1) 構想に基づいて設計し、電気回路の回路図や組立図にまとめることができる技能を身に付けることができる。  
 (2) 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題解決の結果を評価し、改善及び修正する力を身に付けることができる。  
 (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善しようとする。

標準的な展開例

15280205\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 生活や社会におけるエネルギー変換の技術の問題を解決するための課題を設定する。<br/> <b>★</b>問題を発見し、課題を設定しよう。<br/>                     ○生活や社会における光、熱、動力などのエネルギー変換の技術によって解決できる問題を見つける。</p> <p>○発見した問題を解決するための課題を設定する。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「技術の見方・考え方」を働かせて問題を見いだすことができるように配慮する。</li> <li>・「あったらいいな」「不便だな」の視点で問題を見つけさせる。</li> <li>・問題発見・課題設定のために、5W1Hを用いて整理させる。</li> <li>・いつ ・誰が</li> <li>・どこで ・何を</li> <li>・何のために</li> <li>・どのように</li> </ul> <p>【評】「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する活動を通し、「思考力、判断力、表現力等」を評価する。</p> |
| <p>2～5 電気回路を用いた製品の設計要素を検討して製作、点検・調整を行う。<br/> <b>★</b>電気回路を設計・製作しよう。<br/>                     ○設計要素を検討する。<br/>                         ・電源<br/>                         ・制御<br/>                         ・負荷<br/>                     ○構想をまとめ、製作に必要な図を描く。</p> <p>○プロトタイプ（試作）、シミュレーションを行う。<br/>                     ○目的の電気回路が決まったら、安全に配慮し、製作、実装、点検・調整を行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用目的・使用条件に合わせて設計要素を検討させる。</li> <li>・機能面だけでなく安全性や環境への負荷についても考えさせる。</li> <li>・適切な工具の使い方を指導し、製作、実装、点検・調整を行わせる。</li> </ul> <p>【評】構想に基づいて設計し、機構モデルの回路図や組立図にまとめる活動を通し、「知識及び技能」を評価する。</p> <p>【評】構想に基づいて、製作の計画を立てる活動を通し、「思考力、判断力、表現力等」を評価する。</p>                                    |
| <p>6～10 機構モデルを用いた製品の設計要素を検討して製作点検・調整を行う。<br/> <b>★</b>機構モデルを設計・製作しよう。<br/>                     ○設計要素を検討する。<br/>                         ・動力源<br/>                         ・運動を伝える仕組み<br/>                         ・仕事をする仕組み<br/>                     ○構想をまとめ、製作に必要な図を描く。</p> <p>○プロトタイプ（試作）、シミュレーションを行う。</p> <p>○目的の機構の動きが決まったら、安全に配慮し、製作、実装、点検・調整を行う。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用目的・使用条件に合わせて設計要素を検討させる。</li> <li>・機能面だけでなく、安全性や環境への負荷にもについても考えさせる。</li> <li>・適切な工具の使い方を指導し、製作、実装、点検・調整を行わせる。</li> </ul> <p>【評】構想に基づいて設計し、機構モデルの回路図や組立図にまとめる活動を通し、「知識及び技能」を評価する。</p> <p>【評】構想に基づいて、製作の計画を立てる活動を通し、「思考力、判断力、表現力等」を評価する。</p>                                 |
| <p>11 エネルギー変換の技術による問題解決について、解決過程について評価し、改善・修正する方法について考える。<br/> <b>★</b>問題解決の評価、改善・修正についてまとめよう。<br/>                     ○エネルギー変換の技術による問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の評価の観点を決め、その評価の観点に基づいて評価させる。</li> <li>・機能 ・利便性（使いやすさ）</li> <li>・安全性 ・環境への配慮</li> <li>・費用など</li> <li>・知的財産権を創造、保護及び活用することの大切さや技術に関わる倫理観についても触れ</li> </ul>  |

る。  
【評】製作の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正する活動を通し、「思考力、判断力、表現力等」を評価する。  
【評】よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりする活動を通し、「学びに向かう力、人間性等」を評価する。

### 【 備 考 】

エネルギー変換の技術によって、生活や社会における問題を解決することが求められている。生徒が自分の生活で使うための装置（LEDミニ懐中電灯、ミニ首振り扇風機）の設計でもよいし、社会における問題を解決するための装置を小型モデルで設計する学習（自動点灯する街灯のモデルなど）でもよい。程度の差はあっても、生活や社会における問題を解決するために、電気回路や力学的な機構などを設計することが、学習の中心となる。

実際にエネルギー変換の技術を用いた製作品を設計するとき、次の三つの分けて考えるとよい。

- a 電気回路の設計
  - ・電源、負荷、スイッチに何を用いて、どう配線するか。
- b 力学的な機構などの設計
  - ・モータの動力をどう伝えて、どんな動きを実現するか。
- c 保持部や配線の設計
  - ・各部分を適切な位置に保持し、リード線などの安全に配線するにはどうしたらよいか。

この三つをすべて完璧に設計させるには中学生では困難である。しかし、三つに分けて考えることが技術の「見方・考え方」にもつながり、自分で保守点検する際の糸口にもつながる。キット教材を利用して、三つのうち一つをピックアップして設計させることも考えられる。この三つがうまくかみ合うことで、すぐに壊れることなく、丈夫で安定移動させる製作品が完成することを理解させたい。

回路や機構は、基本回路などをまねることから創造が始まる。教科書の基本と、生徒のアイディアをうまく組み合わせることで生徒の設計力を高め、知的財産を尊重する態度が育ち、問題解決能力の基盤をつくることができる。



単元名 社会の発展とエネルギー変換の技術 C(3)アイ

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) エネルギー変換の技術の概念について理解することができる。  
 (2) エネルギー変換についてプラス面、マイナス面を考慮しながら技術の最適化について考えることができる。  
 (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術を工夫し創造しようとする。

標準的な展開例

15280206\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 エネルギー変換の技術のプラス面、マイナス面についてこれからどのように技術の最適化を図っていくとよいかについて考える。</p> <p>★エネルギー変換の技術の最適化についてまとめよう。</p> <p>○自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会からの要求</li> <li>・安全性</li> <li>・環境への負荷</li> <li>・経済性</li> </ul> <p>○エネルギー変換の技術のプラス面、マイナス面について考え、これからどのように技術の最適化を図っていくとよいかをまとめる。</p> <p>2 持続可能な社会を実現するための技術について考える</p> <p>★これからのエネルギー変換の技術についてまとめよう。</p> <p>○持続可能な社会の構築のために、これからのエネルギー変換の技術について考える。</p> | <p>・社会におけるエネルギー変換の技術は、さまざまな制約条件の基で折り合いを付け、効果が最も目的に合ったものになるように工夫されていることに気付かせる。</p> <p>【評】エネルギー変換の技術の概念について理解する活動を通して、「知識及び技能」を評価する。</p> <p>・エネルギー変換の技術は、生活や社会を豊かにする光の側面がある一方で、環境への負荷や事故の危険性などの影の側面があることも伝える。</p> <p>【評】エネルギー変換の技術の最適化について考える活動を通して、「思考力、判断力、表現力」を評価する。</p> <p>・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて技術の評価し、選択、管理・運用、改良・応用していくことの大切さについて考えさせる。</p> <p>【評】これからのエネルギー変換の技術について考える活動を通して、「学びに向かう力、人間性等」を評価する。</p> <p>【評】よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術を工夫し創造する活動を通して、「学びに向かう力、人間性等」を評価する。</p> |

【 備 考 】

エネルギー変換の技術は、歴史的にも急速に発達しており、今ではその役割も大きくなっている。技術の進展を生徒がイメージしやすいのは「照明器具」や「移動手段」が想定される。照明器具は、ロウソクやガス灯から電球、LEDなどへと進化して、消費するエネルギー量の大きさ、性能なども変化してきた。移動手段は、人や動物の力、風力などからガソリンエンジン車、ハイブリッド車などへと変化して、移動効率の向上だけでなく、エネルギーを自己生産できるようになってきた。

しかし、いずれの技術も、ある問題を解決していても、新たな問題が生じている点で共通している。例えば、過去には雪の多い地方で信号機をLEDに変えたところ、雪が解けずに信号を視認できなくなったという問題がある。技術は利用される場所の環境や文化などによって、その役割と影響は異なる。

このようにエネルギー変換の技術の役割や影響について理解する際は、具体的な事例を取り上げてプラス・マイナスを評価するとよい。その際、授業での体験や経験を基盤にしながら、地域差や立場の違いなども踏まえて創造させることで、技術に対する理解が深まる。そして新たな技術の活用方法や、新しい技術の開発について、多くの考えが生み出されるようになる。

最新技術が開発される背景には、様々な問題意識や人々の願いが込められている。しかし、生徒の目に映るのは「コンピュータ」や「材料」の方が多し。製品の内部に隠されている電気回路や機構などの技術が、生活を静かに支えている。また、見えにくく気付かれにくいことが、環境の安全などに関する新たな問題を生むこともあることに気付かせる。

このようなエネルギー変換の技術の役割や役割を、実際の事例に基づいて理解させることで、技術のプラス・マイナスを適切に評価しやすくなり、エネルギー変換の技術の上手な生かし方や、新しい技術開発（改良・応用）で気をつけたいことなどを考えやすくなる。

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 単元名   | 情報の技術の原理・法則と仕組み D(1)ア, イ, D(2)ア  | 配当時間 | 5時間 |
| 単元の目標 | (1) 情報の表現, 記録, 計算, 通信などについての科学的な原理・法則を理解したり, 情報のデジタル化や処理の自動化, システム化, 情報のセキュリティなどに関わる基本的な技術の仕組みを理解することができる。<br>(2) 情報の安全を確保するために必要な判断や対応をする力を身に付けることができる。<br>(3) 進んで情報の技術と関わり, 主体的に理解し, 技能を身に付けようとする。 |      |     |

標準的な展開例

15280301\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など |
|---|------------|
| 1 情報の技術とは何だろう。<br>★情報の技術によって生活や社会がどのように変化したか考えよう。<br>2 情報通信ネットワークの仕組み。<br>★情報通信ネットワークの仕組みを知ろう。<br>3 安全に利用するための情報モラル。<br>★安全に利用するための情報モラルを知ろう。<br>4 安全に利用するための情報セキュリティ。<br>★安全に利用するための情報セキュリティについて考えよう。<br>5 情報の技術の工夫を読み取ろう。<br>★身の回りにある情報の技術の工夫点について考えよう。 |            |

【 備 考 】

ここでは, 生活や産業に用いられている情報の処理や提供を行うサービス, 電気製品やそれらを組み合わせたシステムに用いられている情報の技術の仕組み, 開発の経緯や意図を調べる活動などを通して, 情報の表現, 記録, 計算, 通信などについての科学的な原理・法則と, 情報のデジタル化や処理の自動化, システム化, 情報セキュリティなどに関わる基礎的な技術の仕組み, 及び情報モラルの必要性について理解させるとともに, 情報の技術の見方・考え方に気付かせることが大切である。また, こうした活動を通して, 進んで情報の技術と関わり, 主体的に理解し, 技能を身に付けようとする態度の育成を図ることが重要である。

単元名 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決 D(2)ア、イ 配当時間 7時間

単元の目標 (1) 情報通信ネットワークの構成と、情報の利用するための基本的な仕組みを理解したり、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けることができる。  
(2) 問題を発見し課題を設定し、情報処理の手順を具体化し、コンテンツのプログラムの制作の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正する力を身に付けることができる。  
(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善しようとする。

標準的な展開例

15280302\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 双方向性のあるコンテンツのプログラムとは何だろう。<br/>★双方向性のあるコンテンツを知ろう。<br/>○双方向性のあるコンテンツにはどのようなものがあるか調べる。<br/>・Webページ<br/>・SNS<br/>○コンテンツに利用されているメディアの例とその特徴をまとめる。<br/>・文字<br/>・音声<br/>・静止画<br/>・動画<br/>○双方向性のあるコンテンツの基本的な仕組みについて考える。</p> <p>2 問題を発見し、課題を設定しよう。<br/>★問題を発見し、双方向性のコンテンツを利用して、課題を設定しよう。<br/>○双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決できる問題を見つける。<br/>○発見した問題を解決するための課題を設定する。</p> <p>3 コンテンツを構想しよう。<br/>★設定した課題を解決するために、コンテンツを構想し、設計しよう。<br/>○問題を解決するためのコンテンツに必要な情報を収集し解決策を具体化する。<br/>・構想の具体化<br/>・情報処理の手順の整理<br/>・必要な機能の整理</p> <p>4～6 コンテンツのプログラムを制作しよう。<br/>★課題を解決するプログラムを制作しよう。<br/>○安全で適切なプログラムの制作を行う。</p> <p>○プログラムの動作確認を行う。</p> <p>○プログラムのデバッグを行う。</p> <p>○プログラムの動作の確認を行う。</p> <p>7 問題解決の評価、改善・修正。</p> | <p>・コンテンツに利用されているメディアの例とその特徴を整理させる。教科書P. 221 (IDP. 219～221) 参照。</p> <p>・情報処理の手順を表現する図として、アクティビティ図やフローチャートについて説明する。<br/>【評】双方向性のあるコンテンツの基本的な仕組みについて考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「技術の見方・考え方」を働かせて問題を見いだすことができるように配慮する。<br/>・身近なコンテンツが解決している問題を参考に、必要な機能、対象者、使用する環境、使用時の安全性などについても考えさせる。<br/>【評】発見した問題を解決するための課題を設定する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・利用者の立場を意識し、メディアの特徴を生かして、利用しやすい構成になるように考えさせる。<br/>アクティビティ図を用いることで、複数の情報処理の手順を統合して全体の構想を確認できることを伝える。<br/>グループでコンテンツを制作する場合は、役割分担と制作計画を立てさせる。<br/>制作環境や制作時間を考慮させる。<br/>【評】問題を解決するためのコンテンツに必要な情報を収集し、解決策を具体化する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・文字、音声、静止画、動画などコンテンツの制作に必要な素材を準備させる。<br/>・アクティビティ図を確認しながらプログラムを制作させる。<br/>・完成したプログラムを実行して、目的の動作をしているか確かめさせる。<br/>・目的の動作と異なる場合は理由を考えさせ、デバッグさせる。<br/>【評】プログラムのデバッグを行う活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>・修正の結果が目的の動作をしているか確認させる。目的の動作をしていない場合は、再度デバッグさせる。<br/>【評】プログラムの動作の確認を行う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

- ★コンテンツのプログラムの評価、改善、修正をしよう。
- 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決を振り返る。
  - 解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える。

【評】解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

【 備 考 】

ここでは、生活や社会の中から見いだした問題を情報通信ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決する活動を通して、情報の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決する力を育成するとともに、情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みを理解させ、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができるようにすることが大切である。また、こうした活動を通して、自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度や、自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度の育成を図ることが重要である。

単元名 計測・制御のプログラムによる問題解決 D(3)ア, イ

配当時間 14時間

単元の目標 (1) 計測・制御システムの基本的な構成を理解し、課題を解決するために、安全で適切なプログラムの制作とデバッグができる技能を身に付けることができる。  
(2) 計測・制御システムの制作の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正することができる  
(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善しようとする。

標準的な展開例

15280303\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 計測・制御システムとは何だろう。<br/>★計測・制御システムについて知ろう。<br/>○身の回りにある自動的に仕事をする機器を調べる。</p> <p>○計測・制御システムにおけるプログラムを調べる。<br/>・コンピュータ<br/>・仕事を行う部分</p> <p>○計測・制御システムの構成と情報の流れを調べる。<br/>・センサ<br/>・インターフェース</p> <p>2 問題を発見し、課題を設定しよう。<br/>★問題を発見し、計測・制御システムを使用して課題を設定しよう。<br/>○計測・制御のプログラミングによって解決できる問題を見つける。<br/>○発見した問題を解決するための課題を設定する。</p> <p>3 計測・制御システムを構想しよう。<br/>★解決するための計測・制御システムを構想しよう。<br/>○問題を解決するための計測・制御システムに必要な情報を収集し、解決策を具体化する。<br/>○解決策をフローチャートやアクティビティ図を用いて手順を構想する。</p> <p>4～7 計測・制御システムのプログラムを制作しよう。<br/>★計測・制御システムのプログラムの作り方を知ろう。<br/>○計測・制御システムのプログラムの制作の練習を行う。</p> <p>○停止する位置を変えるプログラムの制作を行う。</p> <p>○制作したプログラムの試走を行う。</p> <p>○実行の結果、改善・修正してプログラムの書き直しをする。</p> <p>○適切な動作であるか確認をする。</p> <p>○距離によって段階的に停車するプログラムの制作を行う</p> <p>○制作したプログラムの実行を行う。</p> <p>○実行の結果、改善・修正してプログラムの書き直しをする。</p> <p>○適切な動作であるか確認をする。</p> <p>8～13 問題を解決するための計測・制御システムのプログラムを制作しよう。<br/>★課題を解決するプログラムの制作をしよう。<br/>○センサの確認をする。</p> | <p>・人が操作しなくても自動的に反応する装置や機器を考えさせる。<br/>・目的の仕事を実行するためにはプログラムによってコンピュータがモータなどの仕事を行う部分の制御をしていることを説明する</p> <p>【評】計測・制御システムにおけるプログラムを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・自動運転技術などの計測・制御システムを例に、情報処理の手順を考えさせる。<br/>【評】計測・制御システムの構成と情報の流れを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「技術の見方・考え方」を働かせて問題を見いだすことができるように配慮する。<br/>・社会からの要求、使用者の安全、利便性などの視点から実現したい自動化、システム化を考えさせる。<br/>【評】発見した問題を解決するための課題を設定する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・情報の「技術の見方・考え方」を働かせて、解決策を具体化できるように支援する。<br/>・フローチャートやアクティビティ図を用いて情報処理の手順を整理させ、計測・制御システムを構想させる。<br/>【評】解決策をフローチャートやアクティビティ図を用いて手順を構想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・フローチャートやアクティビティ図を確認しながらプログラムを制作させる。<br/>・練習のプログラムを元に、プログラムを制作させる。<br/>・完成したプログラムを実行して、目的の動作をしているか確かめさせる。<br/>・異なる動きをした場合は、理由を考えさせ、デバッグさせる。<br/>【評】適切な動作であるか確認をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>・前回のプログラムを元に、プログラムを制作させる。<br/>・完成したプログラムを実行して、目的の動作をしているか確かめさせる。<br/>・異なる動きをした場合は、理由を考えさせ、デバッグさせる。<br/>【評】適切な動作であるか確認をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・使用するセンサの数値を確認するプログラムを制作して、どのような数値が返ってくるのか確認させる。</p> |

|   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○システムの準備をする。</li> <li>○問題を解決するためのプログラムの制作を行う。</li> <li>○制作したプログラムの実行をする。</li> <li>○実行の結果、改善・修正してよりよいプログラムにできるように書き直しをする。</li> <li>○適切な動作であるか確認をする。</li> </ul> <p>14 問題解決の評価、改善・修正。</p> <p>★計測・制御システムの評価、改善・修正しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○計測・制御のプログラミングによる問題解決を振り返り解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作するプログラムに合うように、必要な部品を組み立てさせる。</li> <li>・フローチャートやアクティビティ図を確認しながらプログラムを制作させる。</li> <li>・完成したプログラムを実行して、目的の動作をしているか確かめさせる。</li> <li>・異なる動きをした場合は、理由を考えさせ、デバッグさせる。</li> <li>・目的の動きをした場合は、更に精度を上げさせたり、より分かりやすいプログラムにさせたりする。</li> </ul> <p>【評】適切な動作であるか確認をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の評価の観点を決め、その評価の観点に基づいて評価させる。</li> <li>・安全性</li> <li>・環境への配慮</li> <li>・正確性</li> <li>・使いやすさ</li> <li>・制作工程が適切か</li> <li>・誤りは少ないか</li> <li>・著作権への配慮</li> </ul> <p>【評】計測・制御のプログラミングによる問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】計測・制御のプログラミングによる問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|---|---|

#### 【 備 考 】

ここでは、生活や社会の中から見いだした問題を計測・制御のプログラミングによって解決する活動を通して、情報の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決する力を育成するとともに、計測・制御システムの仕組みを理解させ、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができるようにすることが大切である。また、こうした活動を通して、自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度や、自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度の育成を図ることが重要である。

単元名 社会の発展と情報の技術 D(4)ア、イ

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 生活や社会に果たす役割や影響に基づいた情報の技術の概念について理解することができる。  
(2) よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を評価し、適切に選択、管理・運用し、新たな発想に基づいて改良、応用することができる。  
(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造しようとする

標準的な展開例

15280304\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 情報の技術の最適化。<br/>★情報の技術の最適化について考えよう。<br/>○自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較する。<br/>・社会からの要求<br/>・安全性<br/>・環境への負荷<br/>・経済性<br/>○情報の技術のプラス面、マイナス面について考え、これからどのように技術の最適化をはかっていくとよいかまとめる。</p> <p>2 これからの情報技術。<br/>★これからの情報技術について考えよう。<br/>○持続可能な社会の構築のために、これからの情報の技術について考える。</p> | <p>・社会における情報の技術は、さまざまな制約条件の基で折り合いを付け、効果が最も目的に合ったものになるように工夫されていることに気付かせる。</p> <p>・情報の技術は、生活や社会を豊かにする光の側面がある一方で、不正アクセスなどの危険性のような影の側面があることも伝える。<br/>【評】情報の技術のプラス面、マイナス面について考え、これからどのように技術の最適化をはかっていくとよいかまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>【評】情報の技術のプラス面、マイナス面について考え、これからどのように技術の最適化をはかっていくとよいかまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術を評価し、選択、管理・運用、改良応用していくことの大切さについて考えさせる。<br/>【評】持続可能な社会の構築のために、これからの情報の技術について考える活動を通して「知識・技能」を評価する。<br/>【評】持続可能な社会の構築のために、これからの情報の技術について考える活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> |

【 備 考 】

ここでは、情報の技術の原理・法則と仕組みにおける情報の技術の見方・考え方の気付きや、双方向性のあるコンテンツのプログラミング及び計測・制御のプログラミングにおける情報の技術による問題の解決の学習を踏まえ、社会の発展のための情報の技術の在り方や将来展望を考える活動などを通して、生活や社会に果たす役割や影響に基づいて情報の技術の概念を理解させるとともに、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術の評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力を育成することが大切である。また、こうした活動を通して、情報の技術を工夫し創造していこうとする態度の育成を図ることが重要である。

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 単元名   | 技術分野の学習を終えて A(3), B(3), C(3), D(4)   | 配当時間 | 1時間 |
| 単元の目標 | (3) 技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割を知り, 学んだ技術分野の学習を今後の生活に生かしていくことの大切さに気づき, 進んで行動しようとする。 |      |     |

標準的な展開例

15280305\_001

| 学 習 活 動                              | 留 意 事 項 な ど |
|--------------------------------------|-------------|
| 1 学んだことを社会に生かす。<br>★技術分野の学習を将来に生かそう。 |             |

【 備 考 】

技術の見方・考え方を働かせて, さまざまな問題解決に取り組むことを通して, 技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築するための資質・能力を身につけてきた。3年間の技術分野の学習を振り返り, 学習してきたことを, さらに深めるために, 社会の中で技術に携わる人々がどのような思いで技術と向き合っているかを知り, 学んだことを社会に生かすことについて考えさせ, これから技術とどのように関わっていきたい考えさせる。



令和 3 年度 知多地方教育計画案

# 家庭科

# 技 術 ・ 家 庭 科

## 1 教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 改定の趣旨

#### ① 家庭科、技術・家庭科の目標の在り方

家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、児童生徒の学習への関心や有用感が高いなどの成果が見られる。一方、家庭生活や社会環境の変化によって家庭や地域の教育機能の低下等も指摘される中、家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。また、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる。目標とする資質・能力については、実践的・体験的な活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見いだして課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することを基本的な考え方とする。

#### ② 具体的な改善事項

家庭科、技術・家庭科家庭分野については、次の3点から示し方を改善することが求められる。

第一には、小・中・高等学校の内容の系統性の明確化である。児童生徒の発達を踏まえ、小・中・高等学校の各内容の接続が見えるように、小・中学校においては、「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」に関する三つの枠組みに整理することが適当である。また、この枠組みは、「生活の営みに係る見方・考え方」も踏まえたものである。

第二には、空間軸と時間軸という二つの視点からの学校段階に応じた学習対象の明確化である。空間軸の視点では、家庭、地域、社会という空間的な広がりから、時間軸の視点では、これまでの生活、現在の生活、これからの生活、生涯を見通した生活という時間的な広がりから学習対象を捉えて指導内容を整理することが適当である。

第三には、学習過程を踏まえた改善である。生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視し、この過程を踏まえて基礎的な知識・技能の習得に係る内容や、それらを活用して思考力・判

断力・表現力等の育成に係る内容について整理することが適当である。

## (2) 改定の要点

### ① 目標の改善

教科目標及び分野目標については、今回の改訂の基本方針を踏まえ、育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にし、全体に関わる目標を柱書として示すとともに、(1)として「知識及び技能」を、(2)として「思考力、判断力、表現力等」を、(3)として「学びに向かう力、人間性等」の目標を示す。また、(1)から(3)までに示す資質・能力の育成を目指すに当たり、質の高い深い学びを実現するために、技術・家庭科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることを示す。

### ② 内容の改善

内容については、項目ごとに、育成する資質・能力を三つの柱に沿って示すことが基本となるが、特に「学びに向かう力、人間性等」については、教科目標及び各分野目標においてまとめて示すこととした。また、内容構成や履修方法等については、以下のように改善を図った。

#### ア 技術分野

##### ○内容構成の改善

現代社会で活用されている多様な技術を「A材料と加工の技術」、「B生物育成の技術」、「Cエネルギー変換の技術」、「D情報の技術」の四つに整理し、全ての生徒に履修させる。なお、各内容を示す順序は、各学校における指導学年などを規定するものではないが、小学校における学習との接続を重視する視点から、生物育成の技術に関する内容とエネルギー変換の技術に関する内容の順序を入れ替えた。

##### ○履修方法の改善

技術に関する教育を体系的に行うために、第1学年の最初に扱う内容の「生活や社会を支える技術」の項目は、小学校での学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容としても指導する。

##### ○社会の変化への対応

指導内容については、生活や社会において様々な技術が複合して利用されている現状を踏まえ、各技術に関連した専門分野における重要な概念等を基にしたものとする。

#### イ 家庭分野

##### ○内容構成の改善

今回の改訂では、小・中・高等学校の内容の系統性を明確にし、各内容の接続が見えるように、小・中学校においては、従前の四つの内容を「A家族・家庭生活」、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」の三つの内容としている。

##### ○履修方法の改善

内容の「A家族・家庭生活」の(1)については、小学校家庭科の学習を踏まえ、家族・家庭の機能について扱うとともに、中学校における学習の見通しを立てさせるためのガイダンスとして、第1学年の最初に履修させることとしている。また、「生活の課題と実践」に係る「A家族・家庭生活」の(4)、「B衣食住の生活」の(7)及び「C消費生活・環境」の(3)については、これらの三項目のうち、一以上を選択して履修させ、他の内容と関連を図り扱うこととしている。

##### ○社会の変化への対応

少子高齢社会の進展に対応して、家族や地域の人々とよりよく関わる力を育成するために、「A家族・家庭生活」においては、幼児との触れ合い体験などを一層重視するとともに、高齢者など地域の人々と協働することに関する内容を新設している。

# 家 庭 分 野

## 1 家庭分野の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

### ○生活の営みに係る見方・考え方を働かせる

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することを示している。

### ○衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して

理論のみの学習に終わることなく、調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して学習することにより、習得した知識及び技能を生徒自らの生活に生かすことを意図している。

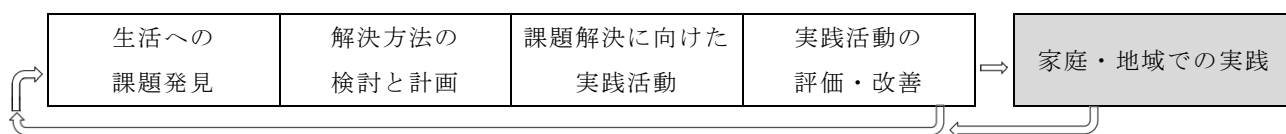
### ○生活を工夫し創造する資質・能力

この資質・能力とは、「何ができるようになるか」であり、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立に必要なものについて示したものである。

(1)の目標は、主として家庭生活に焦点を当て、家族・家庭、衣食住、消費や環境などに関する内容を取り上げ、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けることを示している。

(2)の目標は、次のような学習過程を通して、習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育成することにより、課題を解決する力を養うことを明確にしたものである。

### 家庭科、技術・家庭科（家庭分野）の学習過程の参考例



(3)の目標は、(1)及び(2)で身に付けた資質・能力を活用し、自分と家族、家庭生活と地域との関わりを見つめ直し、家族や地域の人々と協働して生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うことを明確にしたものである。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 改訂の趣旨

#### ① 平成 20 年改訂の学習指導要領の成果と課題を踏まえた目標の在り方

- 家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、学習への関心や有用感が高い。
- 家庭生活や社会環境の変化により、家族への関心が低く、地域、家庭実践、社会参画が十分ではないことに課題が見られる。
- 今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められている。

#### ② 具体的な改善事項

##### ア 指導内容の示し方の改善

- 小・中・高等学校の内容の系統性の明確化
- 空間軸と時間軸という二つの視点からの学校段階に応じた学習対象の明確化
- 学習過程を踏まえた改善

##### イ 教育内容の見直し

- 人とよりよく関わる力を育成するための学習活動、食育を一層推進するための中学生の栄養と献立、調理や食文化などに関する学習活動の充実
- 金銭の管理に関する内容や、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容の充実
- 衣食住の生活において、日本の生活文化を継承する学習活動の充実
- 学習した知識・技能を実生活で活用するために、家庭や地域社会と連携を図った「生活の課題と実践」に関する内容の充実

### (2) 改訂の要点

#### ① 目標の改善

育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にし、質の高い深い学びを実現するために、技術・家庭科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることについて示した。

#### ② 内容の改善

##### ア 内容構成の改善

小・中学校ともに、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の三つの内容となった。中学校における空間軸の視点は、主に家庭と地域、時間軸の視点は、主にこれからの生活を展望した現在の生活としている。

##### イ 履修方法の改善

「A 家族・家庭生活」の(1)アは、小学校の学習を踏まえ、ガイダンスとして第 1 学年の最初に履修させる。また、「生活の課題と実践」に係る「A 家族・家庭生活」(4)、「B 衣食住の生活」(7)及び「C 消費生活・環境」(3)については、これら三項目のうち、一以上を選択して履修させ、他の内容と関連を図り取り扱うこととする。

##### ウ 社会の変化への対応

家族・家庭生活、食育の推進、日本の生活文化、自立した消費者の育成に関する内容の充実

##### エ 知識及び技能を実生活で活用することに関する内容の充実

##### オ 家族・家庭の機能と生活の営みに係る見方・考え方との関連を図る内容の充実

### 3 内容及び内容の取扱い

|  |
|--|
| A 家族・家庭生活  |
| <p>(1) 自分の成長と家族・家庭生活</p> <p>ア 自分の成長と家庭生活との関わり，家族・家庭の基本的な機能，家族や地域の人々との協力・協働</p> <p>(2) 幼児の生活と家族</p> <p>ア(ア) 幼児の発達と生活の特徴，家族の役割</p> <p>(イ) 幼児の遊びの意義，幼児との関わり方</p> <p>イ 幼児との関わり方の工夫</p> <p>(3) 家族・家庭や地域との関わり</p> <p>ア(ア) 家族の協力と家族関係</p> <p>(イ) 家庭生活と地域との関わり，高齢者との関わり方</p> <p>イ 家庭関係をよりよくする方法及び地域の人々と協働する方法の工夫</p> <p>(4) 家族・家庭生活についての課題と実践</p> <p>ア 家族，幼児の生活又は地域の生活についての課題と計画，実践，評価</p>   |
| <p>内容の取り扱い</p> <p>(1) のアについては，家族・家庭の基本的な機能が A から C までの各内容に関わっていることや，家族・家庭や地域における様々な問題について，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承，持続可能な社会の構築等を視点として考え，解決に向けて工夫することが大切であることに気付かせるようにする。</p> <p>(1)，(2) 及び (3) については，相互に関連を図り，実習や観察，ロールプレイングなどの学習活動を中心とするよう留意する。</p> <p>(2) については，幼稚園，保育所，認定こども園などの幼児の観察や幼児との触れ合いができるよう留意する。</p> <p>(3) のアの(イ)については，高齢者の身体の特徴についても触れる。</p>  |
| B 衣食住の生活   |
| <p>(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴</p> <p>ア(ア) 食事が果たす役割</p> <p>(イ) 中学生の栄養の特徴，健康によい食習慣</p> <p>イ 健康によい食習慣の工夫</p> <p>(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事</p> <p>ア(ア) 栄養素の種類と働き，食品の栄養的特質</p> <p>(イ) 中学生の 1 日に必要な食品の種類と概量，献立作成の方法</p> <p>イ 中学生の 1 日分の献立の工夫</p> <p>(3) 日常食の調理と地域の食文化</p> <p>ア(ア) 用途に応じた食品の選択</p> <p>(イ) 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理</p> <p>(ウ) 材料に適した加熱調理の仕方，基礎的な日常食の調理</p> <p>(エ) 地域の食文化，地域の食材を用いた和食の調理</p> <p>イ 日常の 1 食分のための食品の選択と調理計画及び調理の工夫</p> <p>(4) 衣服の選択と手入れ</p> <p>ア(ア) 衣服と社会生活との関わり，目的に応じた着用や個性を生かす着用，衣服の選択</p> <p>(イ) 衣服の計画的な活用，衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ</p> |

|  |   |
|--|---|
| <p>イ 日常着の選択や手入れの工夫</p> <p>(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作</p> <p>ア 製作する物に適した材料や縫い方，用具の安全な取扱い</p> <p>イ 生活を豊かにするための資源や環境に配慮した布を用いた物の製作計画及び製作の工夫</p> <p>(6) 住居の機能と安全な住まい方</p> <p>ア(ア) 家族の生活と住空間との関わり，住居の基本的な機能</p> <p>(イ) 家族の安全を考えた住空間の整え方</p> <p>イ 家族の安全を考えた住空間の整え方の工夫</p> <p>(7) 衣食住の生活についての課題と実践</p> <p>ア 食生活，衣生活，住生活についての課題と計画，実践，評価</p> | <p>内容の取り扱い</p> <p>(1)のアの(ア)については，食事を共にする意義や食文化を継承することについても扱う。</p> <p>(2)のアの(ア)については，水の働きや食物繊維についても触れる。</p> <p>(3)のアの(ア)については，主として調理実習で用いる生鮮食品と加工食品の表示を扱う。(ウ)については，煮る，焼く，蒸す等を扱う。また，魚，肉，野菜を中心として扱い，基礎的な題材を取り上げる。(エ)については，だしを用いた煮物又は汁物を取り上げる。また，地域の伝統的な行事食や郷土料理を扱うこともできる。</p> <p>食に関する指導については，技術・家庭科の特質に応じて，食育の充実に資するよう配慮する。</p> <p>(4)のアの(ア)については，日本の伝統的な衣服である和服について触れる。また，和服の基本的な着装を扱うこともできる。さらに，既製服の表示と選択に当たっての留意事項を扱う。(イ)については，日常着の手入れは主として洗濯と補修を扱う。</p> <p>(5)のアについては，衣服等の再利用の方法についても触れる。</p> <p>(6)のアについては，簡単な図などによる住空間の構想を扱う。また，ア及びイについては，内容の「A家族・家庭生活」の(2)及び(3)との関連を図る。さらに，アの(イ)及びイについては，自然災害に備えた住空間の整え方についても扱う。</p> |
| <p>C 消費生活・環境</p> <p>(1) 金銭の管理と購入</p> <p>ア(ア) 購入方法や支払い方法の特徴，計画的な金銭管理</p> <p>(イ) 売買契約の仕組み，消費者被害，物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理</p> <p>イ 情報を活用した物資・サービスの購入の工夫</p> <p>(2) 消費者の権利と責任</p> <p>ア 消費者の基本的な権利と責任，消費生活が環境や社会に及ぼす影響</p> <p>イ 自立した消費者としての消費行動の工夫</p> <p>(3) 消費生活・環境についての課題と実践</p> <p>ア 環境に配慮した消費生活についての課題と計画，実践，評価</p>                | <p>内容の取り扱い</p> <p>(1)及び(2)については，内容の「A家族・家庭生活」又は「B衣食住の生活」の学習との関連を図り，実践的に学習できるようにする。(1)については，中学生の身近な消費行動と関連を図った物資・サービスや消費者被害を扱う。アの(ア)については，クレジットなどの三者間契約についても扱う。</p>  |

#### 4 評価の観点の趣旨

| 観点            | 観点の趣旨   |
|---------------|---|
| 知識・技能         | 家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。                    |
| 思考・判断・表現      | これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。                      |



## 5 題材の配列例（第1・2学年 標準35時間 第3学年 標準17・5時間）

年間計画の作成に当たっては、3学年間を見通した全体的な年間計画を検討すること。その際、各項目に配当する時間数及び履修学年については、地域、学校、生徒の実態等に応じて適切に定めること。また、内容のA(3)のエ、B(3)のウ、C(3)のイの事項のうち1又は2事項を選択して履修させること。

### (1) 年間計画例①

自立と共生を目指して、衣食住の生活から始まり家庭・地域・社会と視野を広げる例

|             | 週   | 1         | 2 | 3                       | 4 | 5 | 6                   | 7                | 8                                    | 9 | 10 | 11 | 12 | 13                          | 14                | 15                              | 16         | 17   | 18 | 19   | 20 | 21 | 22           | 23 | 24               | 25 | 26   | 27            | 28 | 29 | 30           | 31                | 32 | 33 | 34 | 35 |
|-------------|-----|-----------|---|-------------------------|---|---|---------------------|------------------|--------------------------------------|---|----|----|----|-----------------------------|-------------------|---------------------------------|------------|------|----|------|----|----|--------------|----|------------------|----|------|---------------|----|----|--------------|-------------------|----|----|----|----|
| 1<br>学<br>年 | 内容  | ガイ<br>ダンス |   | 食事の役割<br>と中学生の<br>栄養の特徴 |   |   | 中学生に必要な栄養を<br>満たす食事 |                  |                                      |   |    |    |    | 日常食の調理と地域の食文化／<br>消費者の権利と責任 |                   |                                 |            |      |    |      |    |    |              |    |                  |    |      |               |    |    | 生活の課題<br>と実践 |                   |    |    |    |    |
|             | 項目  | A(1)      |   | B(1)                    |   |   | B(2)                |                  |                                      |   |    |    |    | B(3)C(2)                    |                   |                                 |            |      |    |      |    |    |              |    |                  |    |      |               |    |    | B(7)C(3)     |                   |    |    |    |    |
|             | 時間数 | 2         |   | 4                       |   |   | 7                   |                  |                                      |   |    |    |    | 18                          |                   |                                 |            |      |    |      |    |    |              |    |                  |    |      |               |    |    | 4            |                   |    |    |    |    |
| 2<br>学<br>年 | 内容  | 衣服の選択と手入れ |   |                         |   |   |                     |                  | 生活を豊かにするための布を<br>用いた製作／消費者の権利と<br>責任 |   |    |    |    |                             |                   | 住居の機能と安全な住ま<br>い方／消費者の権利と責<br>任 |            |      |    |      |    |    | 金銭の管理と購<br>入 |    |                  |    |      | 消費者の権利<br>と責任 |    |    |              | 家族家<br>庭生活<br>と地域 |    |    |    |    |
|             | 項目  | B(4)      |   |                         |   |   |                     |                  | B(5)C(2)                             |   |    |    |    |                             |                   | B(6)C(2)                        |            |      |    |      |    |    | C(1)         |    |                  |    |      | C(2)          |    |    |              | A(1)              |    |    |    |    |
|             | 時間数 | 8         |   |                         |   |   |                     |                  | 8                                    |   |    |    |    |                             |                   | 8                               |            |      |    |      |    |    | 5            |    |                  |    |      | 4             |    |    |              | 2                 |    |    |    |    |
| 3<br>学<br>年 | 内容  | 幼児の生活と家族  |   |                         |   |   |                     | 生活の<br>課題と<br>実践 | 幼児の生活と家族                             |   |    |    |    |                             | 家族地<br>域との<br>関わり |                                 | 学習を<br>終えて |      |    |      |    |    |              |    |                  |    |      |               |    |    |              |                   |    |    |    |    |
|             | 項目  | A(2)      |   |                         |   |   |                     | ABC              | A(2)                                 |   |    |    |    |                             | A(3)              |                                 | ABC        | 指導時数 |    | A    | B食 | B衣 | B住           | C  | 生活の<br>課題と<br>実践 |    | 合計   |               |    |    |              |                   |    |    |    |    |
|             | 時間数 | 6         |   |                         |   |   |                     | 2                | 6                                    |   |    |    |    |                             | 3                 |                                 | 0.5        |      |    | 19.5 | 29 | 16 | 8            | 9  | 6                |    | 87.5 |               |    |    |              |                   |    |    |    |    |

### (2) 年間計画例②

食育の充実を通して自立から共生、これからの生活へと視野を広げる年間計画

|      | 学期  | 1 学期                    |                 |               |   |   |                    |   |           |   |    |               | 2 学期 |        |          |      |    |                     |           |    |          |    |          | 3 学期 |                    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|------|-----|-------------------------|-----------------|---------------|---|---|--------------------|---|-----------|---|----|---------------|------|--------|----------|------|----|---------------------|-----------|----|----------|----|----------|------|--------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
|      | 週   | 1                       | 2               | 3             | 4 | 5 | 6                  | 7 | 8         | 9 | 10 | 11            | 12   | 13     | 14       | 15   | 16 | 17                  | 18        | 19 | 20       | 21 | 22       | 23   | 24                 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |
| 1 学年 | 内容  | ガイダンス                   | 食事の役割と中学生の栄養の特徴 |               |   |   | 中学生に必要な栄養を満たす食事    |   |           |   |    | 日常食の調理と地域の食文化 |      |        |          |      |    | 衣服の選択と手入れ／消費者の権利と責任 |           |    |          |    | 金銭の管理と購入 |      |                    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|      | 項目  | A(1)                    | B(1)            |               |   |   | B(2)               |   |           |   |    | B(3)          |      |        |          |      |    | B(4) C(2)           |           |    |          |    | C(1)     |      |                    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|      | 時間数 | 1                       | 4               |               |   |   | 6                  |   |           |   |    | 10            |      |        |          |      |    | 8                   |           |    |          |    | 6        |      |                    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|      |     |                         |                 |               |   |   |                    |   |           |   |    |               |      |        |          |      |    |                     |           |    |          |    |          |      |                    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 2 学年 | 内容  | 住居の機能と安全な住まい方／消費者の権利と責任 |                 |               |   |   | 生活を豊かにするための布を用いた製作 |   |           |   |    | 家族・家庭生活と地域    |      |        | 幼児の生活と家族 |      |    |                     | 生活の課題と実践  |    | 幼児の生活と家族 |    |          |      | 家族・家庭や地域との関わり（高齢者） |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|      | 項目  | B(6) C(2)               |                 |               |   |   | B(5)               |   |           |   |    | A(1)          |      |        | A(2)     |      |    |                     | A(4) B(7) |    | A(2)     |    |          |      | A(3)               |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|      | 時間数 | 7                       |                 |               |   |   | 8                  |   |           |   |    | 3             |      |        | 6        |      |    |                     | 2         |    | 5        |    |          |      | 4                  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|      |     |                         |                 |               |   |   |                    |   |           |   |    |               |      |        |          |      |    |                     |           |    |          |    |          |      |                    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 3 学年 | 内容  | 消費者の権利と責任               |                 | 日常食の調理と地域の食文化 |   |   |                    |   | 生活の課題と実践  |   |    | 食文化環境         |      | 学習を終えて |          |      |    |                     |           |    |          |    |          |      |                    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|      | 項目  | C(2)                    |                 | B(3)          |   |   |                    |   | B(7) C(3) |   |    | B(3) C(2)     |      | ABC    |          | 指導時数 |    | A                   | B食        | B衣 | B住       | C  | 生活の課題と実践 |      | 合計                 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|      | 時間数 | 3                       |                 | 7             |   |   |                    |   | 4         |   |    | 2             |      | 1.5    |          |      |    | 20.5                | 29        | 16 | 7        | 9  | 6        |      | 87.5               |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|      |     |                         |                 |               |   |   |                    |   |           |   |    |               |      |        |          |      |    |                     |           |    |          |    |          |      |                    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |

### (3) 年間計画例③

身近な生活の自立として衣食住から始まり課題と実践に総合的に取り組む例

|      | 学期  | 1 学期      |               |   |   |             |   |                 |   |   |                 |    | 2 学期                         |                         |    |          |    |      |       |    |    |    |                         |          |       |    | 3 学期 |    |    |    |    |    |          |    |    |    |  |
|------|-----|-----------|---------------|---|---|-------------|---|-----------------|---|---|-----------------|----|------------------------------|-------------------------|----|----------|----|------|-------|----|----|----|-------------------------|----------|-------|----|------|----|----|----|----|----|----------|----|----|----|--|
|      | 週   | 1         | 2             | 3 | 4 | 5           | 6 | 7               | 8 | 9 | 10              | 11 | 12                           | 13                      | 14 | 15       | 16 | 17   | 18    | 19 | 20 | 21 | 22                      | 23       | 24    | 25 | 26   | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32       | 33 | 34 | 35 |  |
| 1 学年 | 内容  | ガイダンス     | 衣服の選択と手入れ     |   |   |             |   |                 |   |   |                 |    | 生活を豊かにするための布を用いた製作／消費者の権利と責任 |                         |    |          |    |      |       |    |    |    | 住居の機能と安全な住まい方／消費者の権利と責任 |          |       |    |      |    |    |    |    |    | 金銭の管理と購入 |    |    |    |  |
|      | 項目  | A (1)     | B (4)         |   |   |             |   |                 |   |   |                 |    | B (5) C (2)                  |                         |    |          |    |      |       |    |    |    | B (6) C (2)             |          |       |    |      |    |    |    |    |    | C (1)    |    |    |    |  |
|      | 時間数 | 2         | 9             |   |   |             |   |                 |   |   |                 |    | 9                            |                         |    |          |    |      |       |    |    |    | 9                       |          |       |    |      |    |    |    |    |    | 6        |    |    |    |  |
| 2 学年 | 内容  | 消費者の権利と責任 | 家族・家庭や地域との関わり |   |   | 生活の課題と実践    |   | 食事の役割と中学生の栄養の特徴 |   |   | 中学生に必要な栄養を満たす食事 |    |                              | 日常食の調理と地域の食文化／消費者の権利と責任 |    |          |    |      |       |    |    |    |                         |          |       |    |      |    |    |    |    |    |          |    |    |    |  |
|      | 項目  | C (2)     | A (1) (3)     |   |   | A (4) C (3) |   | B (1)           |   |   | B (2)           |    |                              | B (3) C (2)             |    |          |    |      |       |    |    |    |                         |          |       |    |      |    |    |    |    |    |          |    |    |    |  |
|      | 時間数 | 4         | 3             |   |   | 2           |   | 4               |   |   | 5               |    |                              | 17                      |    |          |    |      |       |    |    |    |                         |          |       |    |      |    |    |    |    |    |          |    |    |    |  |
| 3 学年 | 内容  | 幼児の生活と家族  |               |   |   |             |   |                 |   |   |                 |    |                              | 地域との関わり（高齢者）            |    | 生活の課題と実践 |    |      |       |    |    |    |                         |          |       |    |      |    |    |    |    |    |          |    |    |    |  |
|      | 項目  | A (2)     |               |   |   |             |   |                 |   |   |                 |    |                              | A (3)                   |    | ABC      |    | 指導時数 | A     | B食 | B衣 | B住 | C                       | 生活の課題と実践 | 合計    |    |      |    |    |    |    |    |          |    |    |    |  |
|      | 時間数 | 12. 5     |               |   |   |             |   |                 |   |   |                 |    |                              | 2                       |    | 3        |    |      | 19. 5 | 26 | 18 | 9  | 10                      | 5        | 87. 5 |    |      |    |    |    |    |    |          |    |    |    |  |

【旧教科書】題材の配列例（第1・2学年 標準35時間 第3学年 標準17.5時間）

年間計画の作成に当たっては、3学年間を見通した全体的な年間計画を検討すること。その際、各項目に配当する時間数及び履修学年については、地域、学校、生徒の実態等に応じて適切に定めること。また、内容のA(3)のエ、B(3)のウ、C(3)のイの事項のうち1又は2事項を選択して履修させること。

(1) 年間計画例①

生活の自立から共生へと段階的に視野を広げる年間計画

|      | 学期  | 1 学期     |   |          |   |        |   |            |   |          |    |             |    | 2 学期      |    |          |    |      |    |             |    |    |    |    |    | 3 学期 |    |       |    |      |    |    |    |    |    |    |  |
|------|-----|----------|---|----------|---|--------|---|------------|---|----------|----|-------------|----|-----------|----|----------|----|------|----|-------------|----|----|----|----|----|------|----|-------|----|------|----|----|----|----|----|----|--|
|      | 週   | 1        | 2 | 3        | 4 | 5      | 6 | 7          | 8 | 9        | 10 | 11          | 12 | 13        | 14 | 15       | 16 | 17   | 18 | 19          | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25   | 26 | 27    | 28 | 29   | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |  |
| 1 学年 | 内容  | ガイダンス    |   | 食生活と栄養   |   |        |   | 献立作りと食品の選択 |   |          |    | 調理と食文化      |    |           |    | 生活の課題と実践 |    |      |    | 調理と食文化      |    |    |    |    |    |      |    |       |    |      |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 項目  | A(1)     |   | B(1)     |   |        |   | B(2)       |   |          |    | B(3)        |    |           |    | B(3)ウ    |    |      |    | B(3)        |    |    |    |    |    |      |    |       |    |      |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 時間数 | 2        |   | 5        |   |        |   | 9          |   |          |    | 9           |    |           |    | 4        |    |      |    | 6           |    |    |    |    |    |      |    |       |    |      |    |    |    |    |    |    |  |
| 2 学年 | 内容  | 衣生活と自立   |   |          |   | 住生活と自立 |   |            |   | 生活の課題と実践 |    | 生活を豊かにするために |    |           |    | 私たちの消費生活 |    |      |    | 環境に配慮した消費生活 |    |    |    |    |    |      |    |       |    |      |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 項目  | C(1)     |   |          |   | C(2)   |   |            |   | C(3)イ    |    | C(3)        |    |           |    | D(1)     |    |      |    | D(2)        |    |    |    |    |    |      |    |       |    |      |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 時間数 | 7        |   |          |   | 6      |   |            |   | 3        |    | 10          |    |           |    | 6        |    |      |    | 3           |    |    |    |    |    |      |    |       |    |      |    |    |    |    |    |    |  |
| 3 学年 | 内容  | 家庭・家族と地域 |   | 幼児の生活と家族 |   |        |   |            |   |          |    |             |    | これからの私と家族 |    |          |    |      |    |             |    |    |    |    |    |      |    |       |    |      |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 項目  | A(2)     |   | A(3)     |   |        |   |            |   |          |    |             |    | A(2)      |    | 指導時数     |    | A(1) |    | A           |    | B  |    | C  |    | D    |    | 課題と実践 |    | 合計   |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 時間数 | 3        |   | 13.5     |   |        |   |            |   |          |    |             |    | 1         |    |          |    | 2    |    | 17.5        |    | 29 |    | 23 |    | 9    |    | 7     |    | 87.5 |    |    |    |    |    |    |  |

(2) 年間計画例②

食育の充実を通して自立から共生、これからの生活へと視野を広げる年間計画

|      | 学期  | 1 学期      |            |   |   |      |             |   |   |   |    |                     |        | 2 学期       |        |      |      |        |              |    |           |          |           |      |    | 3 学期 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|------|-----|-----------|------------|---|---|------|-------------|---|---|---|----|---------------------|--------|------------|--------|------|------|--------|--------------|----|-----------|----------|-----------|------|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
|      | 週   | 1         | 2          | 3 | 4 | 5    | 6           | 7 | 8 | 9 | 10 | 11                  | 12     | 13         | 14     | 15   | 16   | 17     | 18           | 19 | 20        | 21       | 22        | 23   | 24 | 25   | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |  |
| 1 学年 | 内容  | ガイ<br>ダンス | 食生活と栄<br>養 |   |   |      | 献立作りと食品の選択  |   |   |   |    |                     | 調理と食文化 |            |        |      |      | 衣生活と自立 |              |    |           |          | 私たちの消費生活  |      |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 項目  | A(1)      | B(1)       |   |   | B(2) |             |   |   |   |    | B(3)                |        |            |        |      | C(1) |        |              |    |           | D(1)     |           |      |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 時間数 | 1         | 4          |   |   | 9    |             |   |   |   |    | 7                   |        |            |        |      | 8    |        |              |    |           | 6        |           |      |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 2 学年 | 内容  | 住生活と自立    |            |   |   |      | 生活を豊かにするために |   |   |   |    | 環境に配<br>慮した消<br>費生活 |        |            | 調理と食文化 |      |      |        | 生活の課題と<br>実践 |    | ガイ<br>ダンス | 家庭・家族と地域 |           |      |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 項目  | C(2)      |            |   |   |      | C(3)        |   |   |   |    | D(2)                |        |            | B(3)   |      |      |        | B(3)ウ        |    | A(1)      | A(2)     |           |      |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 時間数 | 7         |            |   |   |      | 8           |   |   |   |    | 3                   |        |            | 6      |      |      |        | 4            |    | 1         | 6        |           |      |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 3 学年 | 内容  | 幼児の生活と家族  |            |   |   |      |             |   |   |   |    | 生活の<br>課題と<br>実践    |        | 調理と食<br>文化 |        |      |      |        |              |    |           |          |           |      |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 項目  | A(3)      |            |   |   |      |             |   |   |   |    | A(3)                |        | B(3)       |        | 指導時数 |      | A(1)   | A            | B  | C         | D        | 課題と<br>実践 |      | 合計 |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 時間数 | 12.5      |            |   |   |      |             |   |   |   |    | 2                   |        | 3          |        |      |      | 2      | 18.5         | 29 | 23        | 9        | 6         | 87.5 |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |  |

(3) 年間計画例③

生活全体を見直し消費生活と環境に配慮した生活を工夫し創造する力を身に付ける年間計画

|      | 学期  | 1 学期     |          |   |          |   |   |   |            |   |    |    |        | 2 学期      |    |      |    |             |                    |    |    |    |                      |      |    | 3 学期   |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |  |
|------|-----|----------|----------|---|----------|---|---|---|------------|---|----|----|--------|-----------|----|------|----|-------------|--------------------|----|----|----|----------------------|------|----|--------|----|----|----------|----|----|----|----|----|----|----|--|
|      | 週   | 1        | 2        | 3 | 4        | 5 | 6 | 7 | 8          | 9 | 10 | 11 | 12     | 13        | 14 | 15   | 16 | 17          | 18                 | 19 | 20 | 21 | 22                   | 23   | 24 | 25     | 26 | 27 | 28       | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |  |
| 1 学年 | 内容  | ガイダンス    | 家庭生活と消費  |   |          |   |   |   |            |   |    |    | 衣生活と自立 |           |    |      |    | 生活を豊かにするために |                    |    |    |    | 生活の課題と実践/環境に配慮した消費生活 |      |    | 住生活と自立 |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 項目  | A(1)ア    | D(1)D(2) |   |          |   |   |   |            |   |    |    | C(1)   |           |    |      |    | C(3)        |                    |    |    |    | C(3)/D(2)            |      |    | C(2)   |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 時間数 | 2        | 8        |   |          |   |   |   |            |   |    |    | 7      |           |    |      |    | 7           |                    |    |    |    | 3/1                  |      |    | 7      |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      |     |          |          |   |          |   |   |   |            |   |    |    |        |           |    |      |    |             |                    |    |    |    |                      |      |    |        |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 2 学年 | 内容  | 食生活と栄養   |          |   |          |   |   |   | 献立作りと食品の選択 |   |    |    |        |           |    |      |    |             | 調理と食文化/環境に配慮した消費生活 |    |    |    |                      |      |    |        |    |    | 生活の課題と実践 |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 項目  | B(1)     |          |   |          |   |   |   | B(2)       |   |    |    |        |           |    |      |    |             | B(3)/D(2)          |    |    |    |                      |      |    |        |    |    | B(3)ウ    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 時間数 | 7        |          |   |          |   |   |   | 12         |   |    |    |        |           |    |      |    |             | 11/1               |    |    |    |                      |      |    |        |    |    | 4        |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      |     |          |          |   |          |   |   |   |            |   |    |    |        |           |    |      |    |             |                    |    |    |    |                      |      |    |        |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 3 学年 | 内容  | 家庭・家族と地域 |          |   | 幼児の生活と家族 |   |   |   |            |   |    |    |        | これからの私と家族 |    |      |    |             |                    |    |    |    |                      |      |    |        |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 項目  | A(2)     |          |   | A(3)     |   |   |   |            |   |    |    |        | A(2)      |    | 指導時数 |    | A(1)        | A                  | B  | C  | D  | 課題と実践                |      | 合計 |        |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      | 時間数 | 4        |          |   | 12.5     |   |   |   |            |   |    |    |        | 1         |    |      |    | 2           | 17.5               | 30 | 21 | 10 | 7                    | 87.5 |    |        |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |  |
|      |     |          |          |   |          |   |   |   |            |   |    |    |        |           |    |      |    |             |                    |    |    |    |                      |      |    |        |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |  |

# 第〇学年〇組 技術・家庭科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

## 1 題 材 住まいの役割と安全な住まい方

### 2 題材の目標

- (1) 家族の生活と住空間の関わりと住居の機能，家族の安全を考えた住まい方について基礎的・基本的な知識と技能を身に付けることができる。
- (2) 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。
- (3) よりよい住生活の実現に向けて，住居の機能と安全な住まい方について課題の解決に主体的に取り組む，改善し，工夫し実践しようとする。

### 3 学習の計画 (6時間完了)

- |     |         |                           |
|-----|---------|---------------------------|
| 第1次 | 第1時     | 住まいの役割を考え，学習課題をつかむ。       |
|     | 第2時     | 住まいと気候風土との関わりについて考える。     |
| 第2次 | 第3時     | 健康で快適な室内環境について考える。        |
|     | 第4時     | 住まいの安全について考える。            |
|     | 第5時(本時) | 災害に備えた住まい方について知る。         |
| 第3次 | 第6時     | 持続可能な住生活を目指して，自分の考えをまとめる。 |

### 4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 家族が安全に住むために，自分の住まいを点検し，災害に備えた対策を工夫することができる。
  - 災害対策と安全な住まい方について，問題を見だし，課題を設定し，課題を解決しようとする。
- (2) 準備・資料
  - 生徒……住まいのチェックカード(前時の課題)
  - 教師……ワークシート，震災対策実践計画書，大震災の様子の写真・映像，非常持ち出し袋，地震防災DVD，視聴覚機器
- (3) 関 連
 

2年 技・家 生活を豊かにするために(防災に役立つ布製品を製作する)
- (4) 学習過程

| 段階   | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項   |
|------|---|----|---|
| つかむ  | 1 近年起こった大震災について，感じたことを話し合う。<br>○ 東日本大震災<br>○ 阪神淡路大震災 など<br>2 本時の学習課題をつかむ。<br>住まいの災害対策を工夫しよう。  | 10 | ○ 大震災の写真や映像を紹介し，震災対策の必要性を実感させる。<br>○ 震災時の様子について，感じたことを自由に発表させることにより，地震の恐ろしさを確認させる。  |
| 確かめる | 3 震災対策について考える。<br>(1) 家庭での取組を発表する。<br>・ 非常持ち出し袋の準備<br>・ ガラス飛散防止フィルムの使用<br>・ 家具の転倒防止<br>・ 避難場所の確認<br>(2) 地震防災DVDを視聴し，災害時の被害を少なくするための対策について |    | ○ 事前に調査したことを基に，各家庭での震災対策を発表させる。<br>○ 住まいとしての対策だけでなく，食料や燃料などの物的対策や津波災害時の避難場所の確認などについても発表させ，防災意識を高めさせる。<br>○ 愛知県防災局の地震防災DVDを活用して，震災対策の方法について確認する。 |

|                  |  |    |   |
|------------------|--|----|---|
| 確<br>か<br>め<br>る | 話し合う。<br>・寝室の安全確保<br>・家具や家電製品の固定<br>・出入り口の確保 など  | 25 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の家庭内事故の学習を踏まえ、落下物への対策や、ガラスの飛散防止などにも気付かせる。</li> <li>○二次災害としての火災対策についても考えさせる。</li> </ul> <p>評災害時の被害を少なくするための対策を考えて書き、発表している。<br/>(発表, ワークシート)</p>   |
| 深<br>め<br>る      | <p>4 家庭の震災対策について、家庭実践の計画を立てる。</p> <p>(1) 「住まいのチェックカード」を基に、自分の住まいを点検する。</p> <p>(2) 自分の家庭での震災対策の実践計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の部屋の本棚を整理する。</li> <li>・寝ている場所ときに物が落ちてこないよう、家具の配置を変える。</li> <li>・ベッドの下に非常持ち出し袋を置く。</li> </ul> | 45 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の家庭の様子を振り返り、どんな場所にどんな危険が想定されるかを具体的に点検させる。</li> <li>○「自分でできること」「家族の協力が必要なこと」に分けて、それぞれどんな対策が可能かを考えてワークシートにまとめさせる。</li> <li>○視聴したDVDや話し合いの内容を参考にして、具体的な実践計画を立てさせる。</li> <li>○実践計画を立てる際には、生徒のプライバシーに十分配慮する。</li> </ul> <p>評自分の家庭の住まい方を点検し、安全対策を考えている。<br/>(実践計画書)</p> |
| ま<br>と<br>め<br>る | <p>5 本時の学習のまとめをする。</p> <p>(1) 震災対策についてまとめる。</p> <p>(2) 学習を振り返り、自分の生活に生かせることを考える。</p>   | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○防災意識を高めさせ、家庭実践への意欲を喚起する。</li> </ul>   |

#### (5) 本時の評価規準

- 家族が安全に住むために、自分の住まいを点検し、災害に備えた対策を工夫している。  
(発表, ワークシート)
- 災害対策安全な住まい方について、問題を見だし、課題を設定し、課題を解決しようとしている。  
(実践計画書)

### 5 備 考

#### (1) 学級の実態

- 東日本大震災後、この地域の東海地震や東南海地震、南海地震への対策が進められる中で、生徒たちの地震防災への意識も高まってきている。各家庭でも、避難所の確認や非常持ち出し袋の準備、家具の転倒防止、家屋の耐震補強等を進めている家庭もある。しかし、それらは親が行っている対策であり、生徒自身が主体性をもって取り組んでいるとは言えない状況である。

#### (2) 指導の力点

- 東日本大震災の写真や映像を見せることで、大震災を身近に感じさせ、地震防災の必要性を実感させる。
- 事前に各家庭での震災対策について調べさせ、それを発表させることで、家庭での震災対策の実践に向けての意識付けにしたい。さらに、計画したことを家庭実践させることで、家族の防災意識の高揚を図りたい。
- 愛知県防災局の地震防災DVDを活用し、そこから得た情報を、各家庭における取組への参考にさせ、具体的な実践計画書を完成させたい。

### 6 指導と評価

単元名 食事の役割と中学生の栄養の特徴

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 食事の役割と中学生に必要な栄養の特徴について、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。  
 (2) 自分の食習慣について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。  
 (3) よりよい食生活の実現に向けて、食事の役割と中学生の栄養の特徴について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

標準的な展開例

15290101\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 食事の果たす役割について考える。<br/> <b>★</b>食事の役割について考えよう。<br/>                 ○食事の果たす役割について話し合う。<br/>                     ・生活のリズムをつくる<br/>                     ・体をつくり、エネルギーになる<br/>                     ・触れ合いの場となる<br/>                     ・文化を伝える</p> <p>2 食生活を振り返り、課題を見つける。<br/> <b>★</b>健康によい食習慣を考えよう。</p> <p>○食生活を振り返り、自分の課題を見つける。<br/>                     ・食事のリズム           ・食生活への参加<br/>                     ・偏食、残食           ・孤食、個食<br/>                 ○心身の健康によい食習慣について話し合い、続けたい食習慣と改善したい食習慣とそれぞれの理由を発表する。<br/>                     ・食事のリズム           ・朝食抜き<br/>                     ・食品の種類           ・塩分、糖分の摂取</p> <p>3 栄養素の種類と働きを調べる。<br/> <b>★</b>栄養素の種類と働きを知ろう。<br/>                 ○五大栄養素の種類と働きをまとめる。<br/>                     ・炭水化物           ・脂質<br/>                     ・たんぱく質           ・無機質<br/>                     ・ビタミン</p> <p>○体内での水の働きをまとめる。</p> <p>4 中学生に必要な栄養素の特徴を調べる。<br/> <b>★</b>中学生に必要な栄養の特徴を考えよう。<br/>                 ○1日に必要なエネルギーや栄養素の量を知る。<br/>                     ・食事摂取基準<br/>                 ○中学生に必要な栄養の特徴をまとめる。<br/>                     ・エネルギー、たんぱく質、カルシウム</p> | <p>・生活の中で食事が果たしている役割を考えさせ、食事の役割をまとめさせる。<br/>                 ・教科書P.94～P.95の資料を活用し、伝統料理や郷土料理を簡単に紹介するとよい。<br/>                 ・教科書P.23の資料を活用し、朝食と健康の関係についても考えさせる。<br/> <b>【評】</b>食事の役割を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>                 ・さまざまな視点から食生活を振り返らせ、自分の課題を考えさせる。<br/>                 ・健康によい食習慣を身に付け、日常生活で実践することの大切さに気付かせる。</p> <p>・健康の保持増進のためには、食事に加え、運動、休養も重要な要素であるが、ここでは食事を中心に考えさせる。<br/> <b>【評】</b>続けたい食習慣と改善したい食習慣を発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。<br/>                 ・栄養素の体内での主な3つの働きと五大栄養素を関連させてまとめさせる。<br/>                 ・炭水化物では食物繊維についても触れ、消化されないが、腸の調子を整え、健康の保持のために必要であることに気付かせる。<br/> <b>【評】</b>栄養素の種類と働きを説明する活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>                 ・中学生の平均体重を示し、水の割合を具体的にイメージさせ、生命維持のために必要な成分であることに気付かせる。<br/>                 ・食事摂取基準から、中学生の時期の栄養の特徴を考えさせる。<br/>                 ・食事摂取基準の意味と表の見方を補説する。</p> <p>・身長や体重の増加の特徴や活動量など、中学生の体の成長について確認する。<br/>                 ・成人との比較をさせると理解させやすい。<br/> <b>【評】</b>成人と比較して中学生が多く必要とするエネルギーや栄養素の種類とその理由を説明する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

【 備 考 】

単元名 中学生に必要な栄養を満たす食事

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 栄養素や食品の栄養的な特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解し、1日分の献立作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、食品を適切に選ぶことができる。  
(2) 中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立について問題を見いだして課題を設定し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。  
(3) よりよい食生活の実現に向けて、中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組み、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

標準的な展開例

15290102\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 食品に含まれる栄養素を調べ、学習課題をつかむ。<br/>★食品に含まれる栄養素を知ろう。</p> <p>○主な栄養素を多く含む食品を調べ、まとめる。</p> <p>○食品成分表を基に、身近な食品に含まれる栄養素を調べる。</p> <p>2～3 中学生の食品群別摂取量の目安を調べる。<br/>★何をどのくらい食べればよいかを調べよう。</p> <p>○6つの食品群の特徴をまとめる。</p> <p>○身近な食品を6つの食品群に分類する。</p> <p>○食品群ごとに1日に必要な食品の種類と概量をつかむ。<br/>・食品群別摂取量の目安</p> <p>4～5 中学生に必要な栄養を満たす、1日分の献立を作成する。<br/>★中学生に必要な栄養を考えて、献立を立てよう。<br/>○1食分の献立の作成手順を知る。<br/>・主菜 ・主食<br/>・副菜 ・汁物 等</p> <p>○1日分の献立を作成する。</p> <p>○作成した献立を発表し合う。</p> | <p>・食品に含まれる栄養素から食品名を当てるクイズを出題するなど、食品の栄養的特質について関心をもたせる。</p> <p>・まとめると6つの食品群になることを知らせる。</p> <p>・実際に食べる量で考える必要があることを理解させる。</p> <p>・教科書P.102～P.105の食品成分表を使って、食品成分表の使い方を説明し、数値を調べさせる。</p> <p>・一つの食品には多くの栄養素が含まれ、食品によって特徴があることに気付かせる。<br/>【評】身近な食品の栄養的な特質について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <p>・実際に、献立に使われている食品を用意し、それらを食品群に分類したり、計量したりする活動を通して、1日に必要な食品の概量を実感させる。</p> <p>・6つの食品群、そこに多く含まれる栄養素、体内での3つの働きの関係を確認する。<br/>【評】食品を食品群に分類する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・食品群別摂取量の目安とは何か、その使い方を説明する。</p> <p>・教科書P.36～P.37の実物大の資料を活用したり、食品の実物や模型、食品カードを使って生徒に実際に操作させたりして、意欲化を図る。</p> <p>【評】食品を計量したり概量をイメージしたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・小学校での学習を振り返り、1食分の献立の例などを挙げさせるようにする。</p> <p>・献立を考える際には、栄養、嗜好、調理法、季節、費用などの点から検討する必要があるが、ここでは、主に栄養を考えた食品の組み合わせを中心に考えさせる。</p> <p>・「食品の選択」と関連付けて指導を進めると生徒の関心・意欲が高まるとともに、栄養面を考えた食事づくりを意識化できる。その際には、肉、魚、野菜を使った献立を作らせる</p> <p>・1日3食のうちいくつかを指定して残りの献立を作らせるなどして、1日分の献立について全体的な栄養のバランスを考えさせる。</p> <p>・グループ内で発表させ意見を交換し合うことの他にも、掲示の形で発表させ付箋紙に意見を書かせるなどの工夫が考えられる。<br/>【評】献立を作成する活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

【 備 考 】

## 単元名 調理のための食品の選択と購入

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。  
 (2) 食品の選択について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。  
 (3) 食品の選択について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

## 標準的な展開

15290103\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 食品の選択と購入について考える。<br/> <b>★食品の適切な選択について考えよう。</b></p> <p>○食品を選択する観点について知る。<br/>       ・食品の選択<br/>       ・購入時の注意点</p> <p>○食品の表示について調べ、まとめる。<br/>       ・食品の表示やマーク</p> <p>○用途に応じた食品の選択について考える。</p> <p>2 生鮮食品の特徴を知る。<br/> <b>★生鮮食品の特徴を知ろう。</b><br/>       ○生鮮食品の特徴と表示の内容、品質の見分け方を知る。<br/>       ・旬<br/>       ・栄養素の特徴<br/>       ・表示</p> <p>3 加工食品の特徴を知る。<br/> <b>★加工食品の特徴を知ろう。</b><br/>       ○加工食品の特徴と表示の内容、品質の見分け方を知る。<br/>       ・加工の目的<br/>       ・加工食品の表示<br/>       ・食品添加物</p> <p>4 食品の保存と食中毒の防止について考える。<br/> <b>★食品の適切な保存方法を知り、食中毒の防止について考えよう。</b><br/>       ○食品のさまざまな保存方法を知る。</p> <p>○食中毒の防止について考える。</p> | <p>・調理実習で使用する食品を取り上げ、用途に応じて選択するために必要な情報を収集・整理し、適切な選択をするための工夫を考えることができるようにする。</p> <p>・調理実習で使用する生鮮食品や加工食品の表示調べを行い、主体的な学習となるように配慮する。</p> <p>・加工食品については、表示内容を理解して良否を見分けられるようにする。</p> <p>・教科書P.47～P.49を参考に、生鮮食品や加工食品の表示やマークについて考えさせる。</p> <p>・食に関する安全性の問題や環境への影響についても考えさせる。</p> <p>【評】必要な情報を収集・整理し、用途に応じて食品を選択をする活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・主として調理実習で用いる生鮮食品を扱う。</p> <p>・鮮度・品質・衛生などの観点から良否を見分けられ、原産地などの表示も参考にできるようにする。</p> <p>【評】日常食と関連付け、用途に応じた生鮮食品の選択について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・主として調理実習で用いる加工食品を扱う。</p> <p>・加工食品は生徒に身近な物を扱う。</p> <p>・加工の目的や加工方法を押さえ、生鮮食品との比較から加工食品の意義についても触れ、加工食品の適切な使用についても考えられるようにする。</p> <p>【評】日常食と関連付け、用途に応じた加工食品の選択について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・保存方法と食品の腐敗や食中毒の原因を関連付けて扱い、適切な保存と計画的な購入の必要性に気付かせる。</p> <p>・保存方法と食品の腐敗や食中毒の原因を関連付けて扱い、適切な保存と計画的な購入の必要性に気付かせる。</p> <p>・食品によって保存方法や保存温度が異なることを理解させる。</p> <p>・細菌増殖の条件を確認し、適切に食品を保存することの重要性に気付かせる。</p> <p>【評】適切な食品の保存方法をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> |

【 備 考 】

単元名 日常食の調理と地域の食文化

配当時間 14時間

単元の目標 (1) 日常食の調理に必要な基礎的・基本的な事項と地域の食文化について理解するとともに、それらに係る技能を身に付けることができる。  
(2) 食生活について課題を設定し、食材を生かして、日常食の調理を工夫し実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。  
(3) よりよい食生活の実現に向けて、日常食の調理や地域の食文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、食生活を工夫し創造し、実践しようとする。

標準的な展開

15290104\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 調理の流れと手順を考え、学習課題をつかむ。<br/>★安全と衛生に気を付けて、調理実習をしよう。</p> <p>○調理の流れをまとめる。<br/>・計画→準備→調理→試食→後片付け→反省<br/>○調理に必要な用具や熱源の取扱い方と手入れの方法を知る。<br/>・調理用具 ・計量器 ・調理用熱源</p> <p>○安全で衛生的に作業するための注意点を確認する。<br/>○実習時の約束事を知り、グループを作る。</p> <p>2 野菜・いもの種類や特徴、野菜を使った料理の調理法を調べ、実習計画を立てる。<br/>★野菜の性質を調べ、実習計画を立てよう。<br/>○野菜・いもの種類や特徴について調べる。<br/>・野菜・いもの性質<br/>・野菜・いもの調理方法<br/>○野菜・いもを使った料理の実習計画を立てる。<br/>・調理法<br/>・調理手順<br/>・作業分担<br/>・材料購入分担</p> <p>3～4 野菜・いもを使った料理を手順よく調理する。<br/>★計画に従って○○○（野菜の料理名）を作ろう。<br/>○身支度をし、実習計画を確認する。<br/>・調理手順と作業分担<br/>・調理の要点<br/>○材料、調理用具の準備と計量をする。<br/>○計画に従って実習する。</p> <p>○盛り付け、配膳をし、試食する。<br/>・出来栄への評価と反省<br/>○後片付けをして、点検する。</p> <p>5 肉の種類や特徴、肉を使った料理の調理法を調べ、実習計画を立てる。<br/>★肉の性質を調べ、実習計画を立てよう。<br/>○肉の種類や特徴について調べる。<br/>・肉の性質<br/>・肉の調理方法<br/>○肉を使った料理の実習計画を立てる。<br/>・調理法<br/>・調理手順<br/>・作業分担<br/>・材料購入分担</p> | <p>・調理の手順について、安全で能率的な方法を考えさせる。<br/>・調理の目的に応じた食品の選択を工夫させる</p> <p>・調理の目的や食材に合った基本的な調理操作を習得できるようにする。<br/>・環境に配慮した調理や後片付けができるように助言する。<br/>・反省を次回に生かすようにする。</p> <p>・師範や動画を見せて理解させ、実習の中で習熟させる。<br/>・果物や野菜の皮むき等をさせてもよい。<br/>・調理用熱源は、主に電気とガス用の器具を効率よく安全に取り扱えるようにする。</p> <p>【評】調理用熱源や包丁・まな板などを取り扱う際の注意点について説明する活動を通して「知識・技能」を評価する。<br/>・野菜・いもの特性や調理方法を理解できない場合は、図や写真などを活用して理解させる</p> <p>【評】野菜・いもの性質を説明する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・野菜・いもの調理については生食も可能なものもあるが、加熱によって食べやすくなり、食べ方の工夫ができることに気付かせるためにも、加熱調理が望ましい。<br/>【評】野菜・いもの調理に関心を持ち、調理技術を習得するための、実習計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。<br/>・調理実習が手順よく進められない場合には、次の作業を具体的に指示する。</p> <p>【評】野菜・いもを使って基本的な調理操作をする活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。<br/>・ふきんやまな板、ごみの処理も適切にできるようにする。<br/>・時間があればグループ内でよかった点や改善したい点について話し合わせ、次の実習につなげる。<br/>・肉の性質や調理方法を理解できない場合は、図や写真などを活用して理解させる。</p> <p>【評】肉の性質を説明する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・肉の調理は、煮る、焼く、蒸すなどの加熱調理を扱う。<br/>・実習材料は価格と品質を十分吟味することを押さえる。<br/>【評】肉の調理に関心を持ち、調理技術を習得するための、実習計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り</p> |



- 6～7 肉を使った料理を手順よく調理する。  
★計画に従って〇〇〇（肉の料理名）を作ろう。  
○身支度をし、実習計画を確認する。  
・調理手順と作業分担  
・調理の要点  
○材料、調理用具の準備と計量をする。  
○計画に従って実習する。

- 盛り付け、配膳をし、試食する。  
・出来栄の評価と反省  
○後片付けをして、点検する。

- 8 魚の種類や特徴、魚を使った料理の調理法を調べ、実習計画を立てる。

- ★魚の性質を調べ、実習計画を立てよう。  
○魚の種類や特徴について調べる。  
・魚の性質  
・魚の調理方法  
  
○魚を使った料理の実習計画を立てる。  
・調理法  
・調理手順  
・作業分担  
・材料購入分担

- 9～10 魚を使った料理を手順よく調理する。  
★計画に従って〇〇〇（魚の料理名）を作ろう。  
○身支度をし、実習計画を確認する。  
・調理手順と作業分担  
・調理の要点  
○材料、調理用具の準備と計量をする。  
○計画に従って実習する。

- 盛り付け、配膳をし、試食する。  
・出来栄の評価と反省  
  
○後片付けをして、点検する。

- 11 地域の食文化や地域の食材を使った料理の調理法を調べ実習計画を立てる。

- ★地域の食文化や食材を調べ、実習計画を立てよう。  
○地域の食材や郷土料理について調べる。

- 地域の食材（または季節の食材）を使った料理の実習計画を立てる。

- 12～13 地域の食材（または季節の食材）を使った料理を手順よく調理する。

- ★地域の食材を生かしておいしい料理（和食）を作ろう。

- 身支度をし、実習計画を確認する。  
・調理手順と作業分担  
・調理の要点  
○材料、調理用具の準備と計量をする。  
○計画に従って実習する。

- 盛り付け、配膳をし、試食する。

組む態度」を評価する。

- ・調理実習が手順よく進められない場合には、次の作業を具体的に指示する。

- ・生の食品の扱いについては、食中毒予防のために、安全で衛生的な扱いをさせる。

【評】肉を使った基本的な調理操作をする活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ふきんやまな板、ごみの処理も適切にできるようにする。

- ・時間があればグループ内でよかった点や改善したい点について話し合わせ、次の実習につなげる。

- ・魚の性質や調理方法を理解できない場合は、図や写真などを活用して理解させる。

- ・魚は鮮度の低下が早いことを知らせ、購入の際の鮮度の見分け方についても確認する。

【評】魚の性質を説明する活動を通して、「知識・理解」を評価する。

- ・魚の調理は、煮る、焼くなどの加熱調理を扱う。

- ・実習材料は価格と品質を十分吟味することを押さえる。

【評】魚の調理に関心をもち、調理技術を習得するための、実習計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・調理実習が手順よく進められない場合には、次の作業を具体的に指示する。

【評】魚を使って基本的な調理操作をする活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・時間があればグループ内でよかった点や改善したい点について話し合わせ、次の実習や家庭実践につなげる。

- ・ふきんやまな板、ごみの処理も適切にできるようにする。

- ・地域との連携を図り、地域の食材を生かした和食の調理実習につながるように配慮する。

- ・「食事が果たす役割」との関連を図り、食事には文化を伝える役割もあることを確認する

- ・教科書P.91の資料を活用して、地域の伝統野菜について触れるとよい。

【評】地域の食材や郷土料理にはどんなものがあるかを説明する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・地域または季節の食材を扱う意義について理解させる。

- ・地域の伝統的な行事食や郷土料理を扱うこともできる。

- ・1回目の実習で扱うことで、以降の実習で地域でとれる肉、魚、野菜などの食材に目を向かせることができる。

- ・地域の実態に応じて、地域の伝統的な行事食や郷土料理などを調理題材として扱う。

【評】地域の食材を生かした調理を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・時間があればグループ内でよかった点や改善

|   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・出来栄の評価と反省</li> <li>○後片付けをして、点検する。</li> </ul> <p>14 よりよい食生活を目指して、自分にできることを考える</p> <p>★食生活を取り巻く問題について学び、持続可能な食生活のためにできることを考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食生活を取り巻く問題について、知っていることを発表する。</li> <li>○食生活を取り巻く問題について、調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の安全性</li> <li>・食料自給率</li> <li>・食べ残し</li> <li>・食品の流通</li> </ul> </li> <li>○自分にできることを考え、家庭実践計画を立てる。</li> </ul> | <p>したい点について話し合わせ、家庭実践につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふきんやまな板、ごみの処理も適切にできるようにする。</li> <li>・食生活を取り巻くさまざまな問題を、いろいろな角度から考えさせる。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P. 96～P. 99の図や資料から調べさせる</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・「衣食住の生活についての課題と実践」と関連付けて扱うことも考えられる。</li> </ul> <p>【評】食生活をよりよくするための実践計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |
|---|---|

【 備 考 】

単元名 衣服の選択と手入れ

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 衣服の社会生活との関わり, 目的に応じた着用, 選択, 手入れに必要な, 基礎的・基本的な事項を理解しているとともに適切にできる。  
 (2) 衣服の選択や日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し, 解決策を構想し実践を評価・改善し, 考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。  
 (3) よりよい衣生活の実現に向けて, 衣服の選択と手入れについて, 課題の解決に主体的に取り組んだり, 振り返って改善したりして, 生活を工夫し創造し, 実践しようとする。

標準的な展開

15290105\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 自分の衣生活を振り返り, 学習課題をつかむ。<br/> <b>★</b>衣服の目的に応じた着方や個性を生かした着方を考えながら, 衣服の働きをまとめよう。<br/>                 ○自分の衣生活を振り返る。</p> <p>○衣服の働きを調べ, 目的に応じた衣服の着用の仕方をまとめる。<br/>                 ・社会生活上の働き<br/>                 ・T. P. O. に応じた着方<br/>                 ・環境に配慮した着方</p> <p>2 自分らしい着方を工夫する。<br/> <b>★</b>個性を生かした服装について知り, 自分らしい着方を考えよう。<br/>                 ○自分らしい着方を考える。<br/>                 ・色, 柄, 襟の形<br/>                 ・My コーディネイト</p> <p>○グループで発表し合う。</p> <p>3 日本の衣文化を調べる。<br/> <b>★</b>日本の伝統的な衣文化について知ろう。<br/>                 ○日本の伝統的な衣文化について知る。<br/>                 ・文化 ・T. P. O.</p> <p>○和服と洋服<br/>                 ・構成 ・着方 ・たたみ方</p> <p>4 衣服計画と必要な衣服の選択について考える。<br/> <b>★</b>衣服計画を立てよう。<br/>                 ○衣服計画の立て方を知る。<br/>                 ○着ていない衣服の活用方法を考える。<br/>                 ・リフォーム ・リユース</p> <p>5 衣服の選択の仕方を調べる。<br/> <b>★</b>既製服を適切に選ぼう。<br/>                 ○手持ちの衣服の活用を考えながら, 表示や縫製の良否, 手入れの方法や価格など, 既製服の適切な選択方法を知る。<br/>                 ・予算<br/>                 ・手持ちの服との組み合わせ<br/>                 ・品質チェック<br/>                 ・購入場所<br/>                 ・表示<br/>                 ・試着のポイント</p> <p>○既製服の表示について調べる。<br/>                 ・サイズ表示<br/>                 ・取り扱い表示<br/>                 ・組成表示<br/>                 ・原産国表示</p> <p>○採寸の仕方について知る。</p> <p>6～7 衣服の手入れをする。</p> | <p>・目的に応じて衣服の着方が違う点に着目させ衣服の社会生活上の働きを考えさせる。</p> <p>・自分が衣生活にどのように関わっているかを確認させ, その話し合いを基に学習課題につなげるようにする。</p> <p>・小学校で学習した保健衛生上の働きと生活活動上の働きを確認し, 目的に応じて衣服の着方が違う点に着目させ, 衣服には社会生活上の働きがあることを理解させる。<br/> <b>【評】</b>衣服と社会生活との関わりを考える活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・色や形などの調和や自分らしさを考えた着方を工夫させる。</p> <p>・コンピュータを活用して衣服の組み合わせの工夫をさせたり, 流行についての話し合いをさせたりするとより効果的な学習が期待できる。<br/> <b>【評】</b>自分らしい着方を考える活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <p><b>【評】</b>自分らしい着方について発表する活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・和服の構成やたたみ方から, 和服の特徴や文化について理解させる。</p> <p>・和服と社会生活との関わりについて, 和服を着る場面を考えさせるなどして理解させ, 衣文化の継承について考えられるようにする。</p> <p>・実際に浴衣などの和服を見せたり, 着装をさせたりして洋服との比較ができるようにする</p> <p><b>【評】</b>日本の伝統的な衣文化について考える活動を通して, 「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・衣服の入手については購入するだけでなく, 環境に配慮する視点から, 譲り受けたり, リフォームしたりする方法にも触れる。</p> <p>・衣服調べをして必要な衣服の数量を把握し, 過不足や処分の方法を考えさせ, 計画的な活用の必要性に気付かせる。</p> <p>・よく着るものとあまり着ないものについて, それぞれ理由を話し合わせる。<br/> <b>【評】</b>衣服の計画的な活用を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・衣服を自分で管理することの大切さを知らせ既製服の適切な選択方法を理解させる。</p> <p>・表示を理解して衣服の選択に生かせるようにする。</p> <p><b>【評】</b>衣服の選択方法を考える活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・衣服を快適に着用するために, 手入れが必要</p> |

★衣服の適切な手入れをしよう。

○手入れの必要性を考える。

○衣服材料と手入れの方法について知る。

- ・洗濯機による洗濯
- ・まつり縫いによる裾上げ
- ・ミシンによるほころび直し
- ・収納の方法
- ・ブラシかけ
- ・スナップ付け
- ・アイロンかけ

○衣服材料や汚れ、状態に応じた日常着の洗濯や補修の実習をする。

であることに気付かせ、手入れの実習をさせる。

- ・洗濯については、手洗いを基礎とし、洗濯機を適切に活用できるようにする。
- ・主として洗濯と補修を扱うようにする。
- ・日常着の手入れについては、自分の衣服の素材に適した方法を考えられるようにする。
- ・洗濯については、環境に配慮した水や洗剤の適切な使い方を考えさせるなど、循環型社会への関心が深まるようにする。

・しみ抜きやまつり縫いなど、衣服の補修に必要な実習ができるようにする。

【評】衣服材料や汚れに応じた洗濯や、状態に応じた補修をする活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 生活を豊かにするために

配当時間 10時間

単元の目標 (1) 製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。  
(2) 製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けることができる。  
(3) よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする

標準的な展開

15290106\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 身近にある布を使った製品を観察して、学習課題をつかむ。</p> <p>★布を使って生活が豊かになる物を考えよう。</p> <p>○生活の中であるかと思う物を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カバー類</li> <li>・ウォールポケット</li> <li>・バッグ</li> <li>・衣服</li> </ul> <p>2 布を使った物の製作計画を立てる。</p> <p>★作る物を決め、製作計画を立てよう。</p> <p>○生活場面での活用方法を考え、作る物を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイルカバー</li> <li>・トートバッグ</li> <li>・ブックカバー</li> <li>・防災リュック</li> <li>・ハーフパンツ</li> </ul> <p>等</p> <p>○製作の手順を考え、製作計画を立てる。</p> <p>3 製作のための準備をする。</p> <p>★用具の扱い方や作業の仕方について知ろう。</p> <p>○製作に向けて必要な事項をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計測と型紙の選び方</li> <li>・布の選び方</li> <li>・用具、機械の準備と使い方</li> <li>・裁断の仕方</li> <li>・しるし付けの仕方</li> <li>・まち針の打ち方</li> <li>・ミシン縫い</li> </ul> <p>等</p> <p>4～9 計画に従って製作する。</p> <p>★計画に従って〇〇〇（作品名）を作ろう。</p> <p>○型紙を配置する。</p> <p>○縫い代をとり、布を裁断する。</p> <p>○仮縫いをする。</p> <p>○本縫いをする。</p> <p>○仕上げる。</p> <p>10 持続可能な衣生活について考える。</p> <p>★持続可能な衣生活の課題と解決策を考えよう。</p> <p>○資源や環境と衣服との関わりを知る。</p> <p>○資源や環境に配慮した衣生活の工夫について考える。</p> | <p>・補修の技能を生かした製作品を考えさせる。</p> <p>・室内の整理整頓や美化に役立っている布の製品や自分の衣服を持ち寄り観察させる。その中で、基本的な構成に気付かせる。</p> <p>・計画内容を確認し、安全で能率よく実践できるよう、今後の学習の見通しをもたせる。</p> <p>・完成後に活用することにより自分や家族の生活がより豊かになるような物を設定する。その際、生徒が製作の目的を明確にもつことができ、生徒の個性や工夫が生かせるよう配慮する。</p> <p>・補修の技術を生かしてできる作品を扱うこととする。</p> <p>・生活に必要な材料や用具、製作手順や時間などの見通しをもたせる。</p> <p>【評】製作計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・手縫いやミシン縫い、アイロンなど基礎的・基本的な知識や技能を活用させる。</p> <p>【評】製作に必要な基礎的事項をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・製作を通して、自分や家族の生活を豊かにすることの大切さを実感させるとともに、成就感を味わわせる。</p> <p>・ミシンの操作については、姿勢や動作が作業の正確さや能率に関係することや、作業環境の整備が安全に影響することなどを知らせ、留意させる。</p> <p>・アイロンの取り扱いについては、使用中は火傷などに留意させ、使用後の点検を確実に行う。</p> <p>【評】布製品を製作する活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・衣生活の自立に向けて、自分にできることを具体的に考えさせる。</p> <p>・衣服の生産から廃棄までの流れを押さえ、衣服の活用について考えられるようにする。</p> <p>・衣生活が環境に与える影響から、衣服の着方の工夫や手入れの方法について考えられるようにする。</p> <p>【評】資源や環境に配慮した衣生活について考える活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

【 備 考 】

単元名 住まいの役割と安全な住まい方

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 家族の生活と住空間の関わりと住居の機能、家族の安全を考えた住まい方について基礎的・基本的な知識と技能を身に付けることができる。  
(2) 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。  
(3) よりよい住生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について課題の解決に主体的に取り組む、改善し、工夫し実践しようとする。

標準的な展開例

15290107\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 住まいの役割を考え、学習課題をつかむ。<br/>★住まいの役割や特徴を考え、家族の生活との関わりを考えよう。<br/>○住まいの役割について話し合う。</p> <p>○生活行為と住空間について調べる。</p> <p>○自分の家族に合った住空間の構想を考える。</p> <p>2 住まいと気候風土との関わりについて考える。<br/>★和式の住まいの特徴を考えよう。</p> <p>○和式の住まいの特徴を知り、現代にも受け継がれていることを理解する。</p> <p>○日本各地の住まいと住まい方の特徴をまとめる。<br/>・気候風土や文化による違い</p> <p>3 健康で快適な室内環境について考える。<br/>★室内環境を快適にする方法を考えよう。</p> <p>○室内環境の条件について復習する。<br/>・明るさ<br/>・湿度（カビ、ダニの発生）<br/>・温度<br/>・音 等</p> <p>○快適な室内環境を整える方法を話し合う。<br/>・室内の換気<br/>・音の工夫</p> <p>4 住まいの安全について考える。<br/>★家族が安心して暮らせるように工夫しよう。<br/>○家庭内の事故の種類とその原因を調べる。</p> <p>○家庭内の事故を防ぐ方法を話し合う。<br/>・家族が安心して暮らせる住まい<br/>・バリアフリー<br/>・ユニバーサルデザイン</p> <p>5 災害に備えた住まい方について考える。<br/>★住まいの災害対策を工夫しよう。<br/>○起こりうる自然災害に対して、災害に備えた住まい方を考える。</p> <p>○家族みんなが安全に住むために、自分にできる工夫を考え、家庭実践の計画を立てる。<br/>・災害対策<br/>・火災対策</p> | <p>・住空間と生活行為との関係を理解させ、家族がどのような生活を重視するかで住まい方が異なることに気付かせる。</p> <p>・写真、雑誌、広告など、さまざまな住まいの例を具体的に提示し、住まいに関心をもたせる。</p> <p>・住宅に関する鳥瞰図のような図を活用して住空間を想像しやすくし、住空間と生活行為との関わりを具体的に考えさせる。</p> <p>・家族そろっての時間を重視したいなど、どのような生活をしたいかをイメージさせるとよい。</p> <p>【評】住居の基本的な機能について、家族の生活を住空間との関わりについて学ぶ活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・住まいや住まい方は気候風土や文化によって異なり、日本国内でも違いがあることに気付かせる。</p> <p>・和式の住まいと洋式の住まいの特徴を比較するなどして、和式の住まい方が現代にも受け継がれていることを理解させる。</p> <p>・日本各地の特徴ある住まいを紹介する。</p> <p>【評】住文化の継承について、課題の解決に主体的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・室内の空気の汚染が及ぼす影響を取り上げ、室内環境を整える必要性に気付かせ、改善方法を考えさせる。</p> <p>・小学校で学習した快適な室内環境（明るさ、湿度、音）の整え方を確認し、さらに化学物質、一酸化炭素、カビ、ダニなどによる室内空気の汚染について、調べさせる。</p> <p>・人工的な方法に頼りすぎない工夫を考えさせる。</p> <p>・教室を自宅と想定して、換気や音に関わる実験や実習を行うと効果的である。</p> <p>【評】室内の空気環境など、家族の安全を考えた住空間の整え方について話し合う活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・家庭内事故の具体例から、安全管理の方法を考えさせる。</p> <p>・幼児や高齢者などさまざまな年齢で構成される家族みんなの目線に立つことの重要性に気付かせる。</p> <p>・室内の写真や住空間の図などから危険な箇所を考えさせたり、過去の災害の例から必要な備えを検討させたりするとよい。</p> <p>【評】家庭内事故の予防方法を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・災害の特徴を知らせ、住まいの災害対策を具体的に考えさせる。</p> <p>・幼児や高齢者などさまざまな年齢で構成される家族みんなの目線に立つことの重要性に気付かせたい。</p> <p>・計画を基に実践した内容について、レポートを提出させたり、ポスター形式の発表をさせたりするなど、工夫した報告をさせる。</p> <p>【評】自然災害への備え方などについて、話し</p> |

・防犯対策

- 6 持続可能な住生活を目指して、自分の考えをまとめる。
- ★家族が暮らしやすい住まいを工夫しよう。
  - 自分の住まいや家の周囲の様子について気になる点を発表する。
    - ・整理整頓
    - ・汚れ
    - ・日差しの強さ
  - 中学生ができる解決方法を考える。
  - 家族が心地よく住むために、家庭実践の計画を立てる。

合いを基に家庭実践計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・具体例を挙げて、持続可能に住もうためにできることを考えさせる。
- ・環境に配慮した住まい方を発表させる。

- ・計画を基に実践した内容について、実践報告書に結果や考察を書かせ、教室掲示の形で発表させるなど工夫し、報告させる。
- ・長期休業などを利用して、実践を継続させてもよい。

【評】よりよい住生活を目指して、住居の機能と安全な住まい方について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 私たちの消費生活

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理の必要性や売買契約の仕組み、消費被害の背景とその対策について理解するとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。
- (2) 物資・サービスの購入について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。
- (3) よりよい生活の実現に向けて、金銭管理と購入について、課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

標準的な展開例

15290201\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 自分や家族の消費生活を振り返り、学習課題をつかむ。</p> <p>★消費者としての自覚をもって、商品を購入しよう。</p> <p>○自分や家族の消費生活を振り返る。</p> <p>○消費している商品には、物資とサービスがあることを知る。</p> <p>○契約について知る。</p> <p>2 購入方法と支払方法の特徴について知る。</p> <p>★購入方法や支払方法の特徴を知ろう。</p> <p>○販売方法の種類を知り、特徴をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗販売</li> <li>・無店舗販売</li> </ul> <p>○商品を購入する際の支払い方法を調べ、特徴をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前払い</li> <li>・即時払い</li> <li>・後払い</li> </ul> <p>3 バランス良く計画的な金銭の管理について知る。</p> <p>★計画的な金銭管理の必要性を考えよう。</p> <p>○収入と支出のバランスを考える。</p> <p>○クレジットカードと三者間契約について知る。</p> <p>○自分と家族の生活とお金との関わりを考える。</p> <p>4 消費者トラブルとその対策について知る。</p> <p>★消費者トラブルに遭わないための方法や対策について考えよう。</p> <p>○消費者トラブルの実例を取り上げ、その解決方法について考える。</p> <p>○悪質商法の種類や特徴をまとめ、未然に防ぐための対応を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪質な訪問販売</li> <li>・キャッチセールス</li> <li>・アポイントメントセールス</li> <li>・マルチ商法</li> <li>・催眠商法</li> </ul> <p>○消費者に関わる法律について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者契約法</li> <li>・製造物責任法（PL法）</li> <li>・特定商取引に関する法律</li> </ul> <p>○消費者トラブルに遭ってしまったときにどうしたらよいかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者保護のための相談機関（国民生活センター、消費生活センター）</li> <li>・消費者を救う制度（クーリング・オフ制度）</li> </ul> <p>○クーリング・オフの通知の仕方を知り、実際に書く。</p> | <p>・自分の消費に使える金銭には限りがあることや優先順位を考えた計画的な支出が必要であることに気付かせる。</p> <p>・朝起きてから登校するまでに消費したものを振り返らせるなどして、自分たちが消費している物の多様性に気付かせる。</p> <p>【評】消費生活を振り返る活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・法律によって保護された約束事であることを確認し、消費者としての自覚をもたせる。</p> <p>【評】売買の契約について確認する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・通信販売や訪問販売については、具体例を挙げ、生徒の関心を高めさせる。</p> <p>・販売方法と関連させて、商品の支払い方法を考えさせたり、サービスにおける支払い方法を考えさせたりするとよい。</p> <p>・具体的な買い物場面を取り上げ、購入方法や支払い方法について考えさせる。</p> <p>【評】購入方法や支払い方法の特徴を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・欲しい商品が本当に必要か、自分や家族の中での優先順位についても考えさせる。</p> <p>・社会とも関連させながら、三者間契約の仕組みや特徴について理解させる。</p> <p>・電気製品の故障など、急で大きな支出が必要になったとき、どのように支出を調整するかまた商品を購入する際に重視する観点について話し合わせる。</p> <p>【評】商品購入に関する話し合い活動を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・中学生に関わりの深いトラブル事例を取り上げて、調べさせる。</p> <p>【評】消費者トラブルに遭わないための対策を考える活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・地域の消費生活センターで調べる活動を取り入れることもできる。</p> <p>・クーリング・オフによる契約の解除は、電話や口頭ではなく、文書で通知し、その際、内</p> |



○ 売買の契約をする際の注意点をまとめる。

5 商品の選択と購入のプロセスについて知る。

★適切な商品の選択と購入について知ろう。

- 商品を適切に選択，購入する方法について考える。
- 商品を選択するときの情報について話し合う。
  - ・ コマーシャル
  - ・ 広告
  - ・ インターネット
  - ・ 口コミ
  - ・ 表示，マーク
  - ・ 販売員の説明
- 商品選択のポイントを押さえ，どのようなことを重視して購入するとよいか話し合う。
  - ・ 安全性・機能
  - ・ 価格
  - ・ アフターサービス
  - ・ 環境への配慮
- 商品選択のシミュレーションを行う。

容証明郵便で送ることが確実であることを確認する。

- ・ 注意点に対して，具体的な断り方について考えさせる。

【評】注意点と具体的な対策について考える活動を通して，「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 意思決定のプロセスを押さえる。

- ・ 多様な商品を提示し，商品を選ぶときのポイントを考えさせる。

【評】商品選択ポイントを話し合う活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・ 教科書P.196の意思決定のプロセスを用いて商品購入についてシミュレーションさせる。

【評】商品選択のシミュレーション活動を通して，「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

## 【 備 考 】

<参考URL>

国民生活センター <http://www.kokusen.go.jp>

愛知暮らしWEB <https://www.pref.aichi.jp/kenmin/shohiseikatsu/index.html>

## 単元名 責任ある消費者になるために

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解するとともに、それらに係る技能を身に付けることができる。
- (2) 自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。
- (3) よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

## 標準的な展開例

15290202\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など   |
|--|--|
| <p>1 消費者としてできることを考える。</p> <p>★消費者の権利と責任について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○消費者の権利と責任について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・8つの権利</li> <li>・5つの責任</li> </ul> </li> <li>○生活の中で、消費者の権利と責任が当てはまる場面を考える。</li> <li>○消費者基本法について知る。</li> </ul> <p>2 省エネルギーと持続可能な社会について考える。</p> <p>★環境に配慮した消費生活を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分や家族のエネルギー消費が環境に与える影響について知り、エネルギー消費を減らす方法について考える。</li> <li>○循環型社会を目指すための消費生活を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3R（リデュース、リユース、リサイクル）</li> </ul> </li> </ul> <p>3 持続可能な消費生活について考える。</p> <p>★自分の生活を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○持続可能な社会を目指して、自分や家族ができることを考える。</li> <li>○消費生活について振り返り、学習のまとめをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者の権利と責任については、中学生の消費行動や具体的な事例と関連させて考えさせる。</li> <li>・購入した商品に欠陥があった場合はどうするかなど、具体的に考えさせる。</li> <li>【評】消費者の権利と責任が当てはまる場面を考える活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・消費者は権利の主体であることに着目させ、自分の生活を振り返り、消費者としての自覚を高めさせるようにする。</li> <li>【評】自立した消費者としての消費活動を振り返る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・循環型社会について説明し、循環型社会の具体例を考えさせる。例えば、使い捨て容器とリサイクル可能な容器、食品の包装などを取り上げ、価格、利便性、環境との関わりなどの点から比較し検討させる。</li> <li>・家庭でできる省エネルギーについて冷暖房やシャワーなど具体例を挙げ考えさせる。</li> <li>【評】自分の生活が環境に及ぼす影響とその対策について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・分別して出されたごみがどうなるか考えさせる。</li> <li>・自分が実践できる取組を具体的に考えさせる</li> <li>【評】環境に配慮した消費生活を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・自分の生活の在り方を考えさせ、工夫し実践することの大切さを理解させる。SDGsについて説明し、環境に配慮した消費生活が持続可能な社会を形成する基盤であることに気付かせる。</li> <li>【評】持続可能な社会のために自分ができることを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・これからの生活を展望して、一人一人が環境に配慮した生活を送る必要性について気付かせる。</li> <li>・長期休業などを利用して、実践を継続させたい。</li> <li>【評】環境に配慮した消費行動をまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

【 備 考 】

単元名 家族・家庭と地域

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 自分の成長と家族や家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能について理解しているとともに、家族や地域の人々と協力・協同して家庭生活を営む必要があることに気付くことができる。
- (2) 家族・家庭や地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。
- (3) よりよい生活の実現に向けて、地域の生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域の人々と協働し、実践しようとする

標準的な展開例

15290301\_001

| 学 習 活 動  | 留 意 事 項 など  |
|--|---|
| <p>1 自分の成長や家庭生活、小学校家庭科の学習内容を振り返り、中学校での学習に見通しをもつ。</p> <p>★中学校の家庭科で何を学ぶのか考えよう。</p> <p>○家庭、学校、地域での生活を振り返るとともに、小学校の学習内容や習得した知識と技術について話し合う。</p> <p>○今の自分ができていることを点検して、3年後の自分をイメージして、自分なりの課題を見つける。</p> <p>○自分と家族の1日の生活を振り返り、家庭における自分の役割に気付く。</p> <p>○各内容と家族・家庭の基本的な機能が関連していることに気付く。</p> <p>2 自分と家族の生活を振り返り、中学生としての自立について考える。</p> <p>★家族の一員である自覚をもとう。</p> <p>○中学生になった自分と家族の生活を振り返り、家庭における自分の役割を考える。</p> <p>3 地域の活動などを調べ、自分や家族がどのように関わっているか考える。</p> <p>○地域の活動などを調べる。</p> <p>○自分や家族が地域とどのように関わっているか考える。</p> | <p>・小学校家庭科の内容をどのくらい家庭で実践できたか、またその時の家族の反応など、家庭生活にどう生かしたかについても思い出させる。</p> <p>・教科書P.10～P.13を用いて3年間の学習の見通しをもたせる。</p> <p>・教科書P.14を用いて自分の生活を振り返らせるとよい。</p> <p>・家庭生活を振り返らせるときには、プライバシーに十分配慮する。</p> <p>【評】自分の成長と家庭生活との関わりを振り返らせる活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・家族の一員としてできることを具体的に考えさせる。</p> <p>【評】家族における自分の役割を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・家庭生活は、地域の人々の中で成り立っており、相互の関わりによって生活をよりよくできることに気付かせる。</p> <p>【評】地域の活動や自分との関わりについて考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・日常生活から、具体的な事例を挙げさせ、地域の人々との関わりを考えさせる。地域との関わりについて課題を設定し、解決策を構想させる。</p> <p>【評】自分や家族の地域との関わり方について課題の解決を構想させる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |

【 備 考 】

単元名 幼児の生活と家族

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) 幼児の発達と生活の特徴と遊びの意義を理解し、幼児と関わることができる。  
 (2) 幼児とのよりよい関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして問題を解決する力を身に付けることができる。  
 (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

標準的な展開例

15290302\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| <p>1 自分の幼い頃を振り返り、幼い頃の夢、エピソードをまとめる。<br/> <b>★</b>自分の幼い頃を振り返ろう。<br/>                     ○自分の幼児期を思い出し、幼いころの夢、エピソードなどをまとめる。</p> <p>2 幼児の体の発達の特徴を知る。<br/> <b>★</b>幼児の体の発達を知ろう。<br/>                     ○幼児の体の発達について考える。<br/>                         ・身体の発達<br/>                         ・運動機能<br/>                         ・生理的機能</p> <p>3 幼児の心の発達の特徴を知る。<br/> <b>★</b>幼児の心の発達を知ろう。<br/>                     ○幼児の心の発達について考える。<br/>                         ・言葉の発達<br/>                         ・認知の発達<br/>                         ・情緒の発達<br/>                         ・社会性の発達</p> <p>4 幼児の1日の生活を知る。<br/> <b>★</b>幼児の1日の生活を知ろう。<br/>                     ○幼児の1日の生活を自分たちの生活と比較することで、幼児の特徴を理解する。<br/> <br/>                     ○幼児の観察をする計画を立てる。</p> <p>5 支えられて身に付ける生活習慣について知る。<br/> <b>★</b>幼児の生活習慣を知ろう。<br/>                     ○幼児の生活習慣がどのように身に付いていくか考えよう<br/>                         ・基本的生活習慣<br/>                         ・社会的生活習慣<br/> <br/>                     ○幼児の成長を支える家族の役割を考える。</p> | <p>・幼い頃好きだった物などをまとめさせたり、インタビューや写真、ビデオなどを手がかりにしたりして振り返ることができるようにする。<br/>                     ・幼児期を振り返らせることで、家族やそれに関わる人々に支えられてきたことにも気付かせる。<br/>                     ・生徒のプライバシーには十分配慮する。<br/> <b>【評】</b>自分の幼い頃を振り返り、家族の役割について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・身体の発達や運動機能、生理的機能の発達の概要とそれを支えている生活の重要性について分かるようにする。<br/>                     ・体の運動機能の発達には、一般的な方向や順序があるとともに個人差があることに気付かせる。<br/> <b>【評】</b>幼児の身体の発達を調べる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・言葉、認知、情緒の発達の概要とそれを支えている生活の重要性について分かるようにする。<br/>                     ・心の発達には、年齢や生活体験によって個人差があることに気付かせる。<br/>                     ・心の発達には家族や身近な人への信頼関係を形成することが大切であることに気付かせる<br/> <b>【評】</b>幼児の心の発達の特徴や、それを支える家族の役割をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・幼児と中学生の1日の生活を比較させて、幼児の特徴に気付かせる。<br/> <b>【評】</b>幼児の発達と生活の特徴を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>                     ・幼児のいる場所を考えたり、観察の方法を考えたりさせる。<br/> <b>【評】</b>幼児の観察について、計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・基本的生活習慣については、生活の自立を目指し、幼児の心身の発達に応じて身に付けさせる必要があることを理解させる。<br/> <b>【評】</b>幼児の発達と生活の特徴について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。<br/>                     ・生活習慣の習得については、幼児の心身の発達に応じて、周囲の大人が適切に関わり、身に付けさせる必要があることに気付かせる。<br/> <b>【評】</b>家族の役割や、幼児の発達段階に応じた関わり方を考える活動を通して、「思考・判</p> |

6 幼児の生活と遊びについて知る。

★幼児の遊びについて知ろう。

○幼児の生活やいろいろな遊びを観察し、遊びで育つ力について考える。

○遊び道具や遊び場所について調べ、遊び道具の役割や遊ぶ環境について考える。

○遊び道具の製作計画を立てる。

7～8 幼児の遊びを豊かにする、おもちゃを製作する。

★幼児のおもちゃを作ろう。

○遊び道具の製作をする。

○幼児に合った接し方や遊びを工夫し、幼児と触れ合う方法を考える。

9～10 幼児との関わり方の工夫について考え、幼児との触れ合い活動をする。

★幼児と触れ合おう。

○幼児と関わるときの注意点を思い出す。

○幼児と触れ合う。

○触れ合い活動を振り返り、幼児との関わり方について学んだことをまとめ、発表する。

11 子どもにとっての家族について考える。

★子どもを育てる環境としての家族の役割を考えよう。

○家族の立場になって言葉を考える。

○子どもが育つ環境としての家族の役割を考える。

断・表現」を評価する。

- ・幼児にとっての遊びは生活そのものであり、身体の発達や運動機能、言語、情緒、社会性などの発達を促していることが分かるようにする。
- ・幼児期に適切で十分な遊びを経験することが子どもの成長にとって重要であることに気付かせる。
- ・発達段階や子どもによって、遊びの種類や遊び方、友達との関わり方などが異なる特徴をもっていることに気付かせる。
- ・幼児の心身の発達を踏まえ、幼児が興味をもって楽しく遊べる道具になるよう工夫させる

・安全性、丈夫さ、発達段階、興味・関心、創造性、大きさなどについても考えさせる。

【評】遊び道具の製作計画を立てる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・発達段階に応じたおもちゃを製作させる。

【評】幼児の発達段階に応じた遊び道具を製作する活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

・幼児と触れ合うことの良さに気付くなど、幼児との関わりが積極的に行えるようにする。

【評】幼児との関わり方について課題の解決策を構想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・身なり、服装、言葉遣い、安全など幼児と関わる時に注意することを確認する。

・うまく幼児と関われない生徒がいれば、教師が間に入り、きっかけをつくるように支援する。

・幼児と触れ合う活動が困難な場合には、視聴覚教材やロールプレイングなどを活用するとよい。

【評】幼児と触れ合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・幼児との触れ合い活動を振り返り、幼児との関わり方について話し合ったり、訪問時の様子をレポートにまとめたりすることで、幼児への理解を深めるようにさせる。

【評】触れ合い活動を評価・改善し、考察したことをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・生活の中で、親やそれに代わる人が愛情をもって接し、幼児との基本的な信頼関係を形成することが大切であることに気付かせる。

・教科書P. 250の例を取り上げるとよい。

・幼児の立場、大人の立場、どちらの言葉も考えさせる。

【評】家族の立場から幼児との関わり方について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・信頼する家族または、それに代わる人との温かな関わりの中で育てることが大切であると気付かせる。

【評】家族の役割を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

## 単元名 これからの家族と地域

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 家族の互いの立場や役割、家族関係がよりよくなること、家庭生活と地域との相互の関わり、高齢者など地域の人々と協働することの大切さ、介護など高齢者との関わりについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けることができる。

(2) 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々との関わりなどについて課題を設定し解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題解決しようとする力を身に付けることができる。

(3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

## 標準的な展開例

15290303\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 家族との関わりについて考え、課題をつかむ。</p> <p>★家族との関わりについて考えよう。</p> <p>○家族との関わりや、これからの自分の家庭生活について考える。</p> <p>○家族関係をよりよくする方法を考える。</p> <p>2 家族や地域の高齢者との関わりについて考える。</p> <p>★高齢者について理解しよう。</p> <p>○高齢者の体の特徴を理解する。</p> <p>○高齢者の体の特徴を踏まえ、関わり方を考える。</p> <p>3 地域での協働について考える。</p> <p>★地域との関わりを考えよう。</p> <p>○地域の活動などを調べ、自分や家族がどのように関わっているか考える。</p> <p>○地域のためにできることを考える。</p> | <p>・家族の互いの立場や役割を理解し、協力して家族関係をよりよくすることが大切であることに気付かせる。</p> <p>【評】家族の役割や立場について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・家族関係をよりよくするためにどのような方法があるか、家族の一員としてどのようなことができるのか、具体的に考えさせ、実践できるようにさせる。</p> <p>・生徒に関わりの深い課題を取り上げ、ロールプレイングなどを通して、具体的に考えさせる。</p> <p>・生徒のプライバシーには十分に配慮する。</p> <p>【評】家族関係をよりよくする方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・高齢者の体の特徴を挙げさせることで、どのように関わるのが適切か考えさせる。</p> <p>【評】高齢者の体の特徴を考える活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・高齢者との関わり方を体験的な活動を通して考えさせる。</p> <p>【評】高齢者との関わり方について課題を見つけ、解決する活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・家庭生活は地域の人々とのつながりの中で成り立っており、相互の関わりによって生活をよりよくできることに気付かせる。</p> <p>・日常生活から具体的な事例を挙げさせ、地域の人々との関わりを考えさせる。</p> <p>・自分の地域の活動について考えさせる。</p> <p>・高齢者など地域の人々との関わりについても触れるようにする。</p> <p>【評】家庭生活と地域とのつながりを調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・地域のためにできることを物語やロールプレイングなどを通して、具体的に考えさせる。</p> <p>・生徒のプライバシーには十分に配慮する。</p> <p>【評】地域との関係をよりよくするためにできることを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> |

【 備 考 】

単元名 エコクッキングに挑戦しよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解するとともに、それらに係る技能を身に付けることができる。  
 (2) 自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。  
 (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、自分や家族の消費生活について、課題の解決に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとする。

標準的な展開例

15290304\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など   |
|---|--|
| 1～2 「私たちの食生活」を主とした課題を見つけ、その課題を解決するための工夫を考える。<br>★エコクッキングにチャレンジしよう。<br>○エコクッキングの計画を立てる。<br><br>○立てた計画をグループで発表し合い、見直す。<br><br>3 家庭で実践したことをまとめ、発表し合う。<br>★実践報告をしよう。<br>○実践のまとめをグループで発表し合い、さらなる課題や改善点を話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的をもち、個性や工夫を生かせるようにする。</li> <li>・各自の課題の解決を目指した問題解決的な学習を進めさせる。<br/>学習した知識と技能を活用し、家庭で実践する意義にも気付かせる。</li> <li>【評】環境に配慮した調理の仕方を工夫する活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・家庭で実践して分かったこと、これからの生活でさらに工夫して生かしたいことまで考えさせる。</li> <li>【評】自分の実践を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul> |

【 備 考 】

**令和 3 年度 知多地方教育計画案**

**特別の教科 道徳**



# 道徳教育

参考文献：小学校学習指導要領解説総則編 以下『小総則』と略記する。

中学校学習指導要領解説総則編 以下『中総則』と略記する。

## 1 道徳教育の目標（小総則 P. 24，中総則 P. 24）

学校における道徳教育は，特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳科はもとより，各教科，外国語活動（小学校），総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童生徒の発達の段階を考慮して，適切な指導を行わなければならない。

### 【小学校 道徳教育の目標】

教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。



### 【中学校 道徳教育の目標】

教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，人間としての生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

学校における道徳教育は，児童生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としており，児童生徒一人一人が将来に対する夢や希望，自らの人生や未来を拓いていく力を育む源となるものでなければならない。

### 【道徳教育を進めるに当たっての留意事項】（小総則 P. 28，中総則 P. 28）

- ア 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭，学校，その他社会における具体的な生活の中に生かす
- イ 豊かな心をもつ
- ウ 伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛し，個性豊かな文化の創造を図る
- エ 平和で民主的な国家及び社会の形成者として，公共の精神を尊び，社会及び国家の発展に努める
- オ 他国を尊重し，国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する
- カ 未来を拓く主体性のある日本人を育成する

## 2 道徳教育推進上の配慮事項（小総則 P. 128，中総則 P. 131）

### (1) 道徳教育の指導体制

各学校においては，道徳教育の目標を踏まえ，道徳教育の全体計画を作成し，校長の方針の下に，道徳教育推進教師を中心に，全教師が協力して道徳教育を展開すること。

- ① 校長が道徳教育の方針を明示することにより，全教師が道徳教育の重要性について認識を深めるとともに，学校の道徳教育の重点や推進すべき方向について共通に理解し，具体的な指導を行うことができる。
- ② 道徳教育推進教師が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する上での中心となり，全教師の参画，分担，協力の下に，その充実が図られるよう働きかけていくことが望まれる。道徳教育推進教師の役割としては，以下に示すような事柄が考えられる。
  - ・道徳教育の指導計画の作成に関すること
  - ・全教育活動における道徳教育の推進，充実に関すること
  - ・道徳科の充実と指導体制に関すること
  - ・道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
  - ・道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
  - ・道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること

- ・道徳教育の研修の充実に関すること
- ・道徳教育における評価に関すること など

## (2) 道徳教育の全体計画

道徳教育の全体計画の作成に当たっては、児童生徒、学校及び地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針や内容との関連を踏まえた各教科、外国語活動（小学校）、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。

### ① 全体計画の意義

道徳教育の全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画である。

全体計画は、特に次の諸点において重要な意義をもつ。

- ・人格の形成及び国家、社会の形成者として必要な資質の育成を図る場として学校の特色や実態及び課題に即した道徳教育が展開できる
- ・学校における道徳教育の重点目標を明確にして取り組むことができる
- ・道徳教育の要として、道徳科の位置付けや役割が明確になる
- ・全教師による一貫性のある道徳教育が組織的に展開できる
- ・家庭や地域社会との連携を深め、保護者や地域住民の積極的な参加や協力を可能にする

### ② 全体計画の内容

#### 基本的把握事項

- ・教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策
- ・学校や地域の実態と課題、教職員や保護者の願い
- ・児童生徒の実態や発達の段階等

#### 具体的計画事項

- ・学校のエデュケーショナル・ビジョン、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標
- ・道徳科の指導の方針
- ・年間指導計画を作成する際の観点や重点目標に関わる内容の指導の工夫、校長や教頭等の参加、他の教師との協力的な指導等を記述
- ・各教科、外国語活動（小学校）、総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育の指導の方針、内容及び時期
- ・特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導との関連
- ・学級、学校の人間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針
- ・家庭、地域社会、関係機関、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等との連携の方法や方針
- ・道徳教育の推進体制



#### 別葉の作成

- ◆必要な各事項について文章化したり、具体化したりしたものを加えるなどの工夫をし、年間を通して具体的に活用しやすいもの
- ・各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの
- ・道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
- ・道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

### ③ 全体計画作成上の創意工夫と留意点

ア 校長の明確な方針の下に道徳教育推進教師を中心として全教師の協力・指導体制を揃える

イ 道徳教育や道徳科の特質を理解し、教師の意識の高揚を図る

- ウ 各学校の特色を生かして重点的な道德教育が展開できるようにする
- エ 学校の教育活動全体を通じた道德教育の相互の関連性を明確にする
- オ 家庭や地域社会，学校間交流，関係諸機関等との連携に努める
- カ 計画の実施及び評価・改善のための体制を確立する

(3) 各教科等における指導の基本方針（小総則 P. 21，中総則 P. 22）

各教科等は，各教科等の目標に基づいてそれぞれに固有の指導を充実させる過程で，道德性が養われ，育まれることを考え，見通しをもって指導することが重要である。各教科等の指導を通じて児童生徒の道德性を養うためには，教師の用いる言葉や児童生徒への接し方，授業に望む姿勢や熱意といった教師の態度や行動による感化とともに，道德教育と各教科の目標，内容及び教材との関わり，学習活動や学習態度への配慮といった視点が挙げられる。

**3 指導内容の重点化**（小総則 P. 138，中総則 P. 141）

**【小学校】**

児童の発達段階や特性等を踏まえるとともに，学校，地域社会等の実態や課題に応じて，学校としての指導の重点に基づき各学年段階の指導内容についての重点化を図ることが大切である。

(1) 各学年を通じて配慮すること

小学校においては，生きる上で基盤となる道德的価値観の形成を図る指導を徹底するとともに自己の生き方についての指導を充実する観点から，各学年を通じて，自立心や自律性，生命を尊重する心，他者を思いやる心の育成に配慮することが大切である。

(2) 学年段階ごとに配慮すること

各学年を通じて配慮することに加えて，各学年段階においては，次の事項に留意することが求められる。

ア 第1学年及び第2学年

挨拶などの基本的な生活習慣を身に付けることや善悪を判断し，してはならないことをしないこと，社会生活上のきまりを守ることにについて配慮して指導に当たることが求められる。

イ 第3学年及び第4学年

善悪を判断し，正しいと判断したことを行うこと，身近な人々と協力し助け合うこと，集団や社会のきまりを守ることに配慮して指導に当たることが求められる。

ウ 第5学年及び第6学年

相手の考え方や立場を理解して支え合うこと，法やきまりの意義を理解して進んで守ること，集団生活の充実に努めること，伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重することに配慮することが大切になる。

**【中学校】**

小学校における道德教育の指導内容を更に発展させ，中学生という発達の段階や特性等を踏まえるとともに，学校，地域社会等の実態や課題に応じて，学校としての指導の重点に基づき指導内容についての重点化を図ることが大切である。

(1) 自立心や自律性を高め，規律ある生活をする

(2) 生命を尊重する心や自分の弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること

(3) 法やきまりの意義に関する理解を深めること

(4) 自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養うこと

(5) 伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重すること，国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けること

**4 豊かな体験活動の充実といじめの防止**（小総則 P. 141，中総則 P. 143）

(1) 学校や学級内の人間関係や環境を整えること

児童生徒の道德性の多くの部分は，日々の人間関係の中で養われる。学校や学級における人的な環境は，主に教師と児童生徒及び児童相互，生徒相互の関わりにおいて形成される。

また，児童生徒の道德性を養う上で，言語環境の充実，整理整頓され掃除の行き届いた校舎や教室の整備，各種掲示物の工夫など，物的な環境も大切である。

## (2) 豊かな体験の充実

学校外の様々な人や事物に出会う体験活動は、児童生徒の世界を広げ、実生活や実社会の生きた文脈の中で様々な価値や自己の生き方について考えることができる貴重な経験となる。

児童生徒に体験活動を通して道德教育に関わるどのような内容を指導するのか指導の意図を明確にしておくことが必要であり、実施計画にもこのことを明記することが求められる。

## (3) 道德教育の指導内容と児童生徒の日常生活

日常生活において、物事を多面的・多角的に考え、自らの判断により、適切な行為を選択し、実践するなど、道德教育の指導内容が児童生徒の日常生活に生かされるようにすることが大切である。

特に、いじめの防止や安全の確保といった課題についても、道德教育や道德科の特質を生かし、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うことで、児童生徒がそれらの課題に主体的に関わることができるようにしていくことが大切である。

### ア いじめの防止

いじめの防止等と道德教育との関連を考えた場合、いじめ防止対策推進法第15条に「児童等の豊かな情操と道德心を培い、心の通う対人交流の能力の素地を養うことがいじめの防止に資することを踏まえ、全ての教育活動を通じた道德教育及び体験活動等の充実を図らなければならない」と示されている。

なお、道德教育の全体計画を立案するに当たっても、いじめの防止等に向けた道德教育の進め方について具体的に示し、教職員の共通理解を図ることが大切である。

### イ 安全の確保

自律的に判断することやよく考えて行動し、節度、節制に心掛けることの大切さ、生きている喜びや生命のかけがえのなさなど生命の尊さの自覚、力を合わせよりよい集団や社会の実現に努めようとする社会参画の精神などを深めることが、自他の安全に配慮して安全な行動をとったり、自ら危険な環境を改善したり、安全で安心な社会づくりに向けて学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加し、貢献したりするなど、児童生徒が安全の確保に積極的に関わる態度につながる。交通事故及び犯罪、自然災害から身を守ることや危機管理など安全に関する指導に当たっては、学校の安全教育の目標や全体計画、各教科等との関連などを考えながら進めることが大切である。

## 5 家庭や地域社会との連携（小総則 P. 144，中総則 P. 147）

### (1) 道德教育に関わる情報発信

学校で行う道德教育をより強化・充実するためには、家庭や地域社会との連携、協力が重要になり、学校と家庭や地域社会との間に、児童生徒の道德性を養う上での共通理解を図ることが不可欠である。

道德教育は学校が主体的に行う教育活動であることから、学校が道德教育の方針を家庭や地域社会に伝え、理解と協力を得るようにしなければならない。

具体的には、学校通信や学校のホームページなどで道德教育の全体計画を示したり、道德教育の成果としての児童生徒のよさや成長の様子を知らせたりすることなどが考えられる。

### (2) 家庭や地域社会との相互連携

学校の道德教育の充実を図るためには、学校の実態に応じて相互交流の場を設定することが望まれる。

〔例〕

- ・学校での道德教育の実情について説明したり、家庭や地域社会における児童生徒のよさや成長などを知らせてもらったりする情報交換会を定例化する
- ・児童生徒の道德性の発達や学校、家庭、地域社会の願いを交流し合う機会をもつ
- ・情報交換会で把握した問題点や要望などに着目した講演会を開催する
- ・情報交換会や講演会を学校だけでなく、地域の公民館等で行う
- ・学校運営協議会制度などを活用して、学校の道德教育の成果などを具体的に話し合ったり報告したりする中で、学校が家庭や地域社会と連携する方法を検討する

## 特別の教科 道徳（道徳科）

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 以下『小解説』と略記する。

中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 以下『中解説』と略記する。

### 1 道徳科の目標（小解説 P. 16，中解説 P. 13）

#### (1) 道徳科の目標

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目指す。

##### 【小学校】

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



##### 【中学校】

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

#### (2) 道徳性を養うために行う道徳科における学習の具体的な目標

##### ① 小学校における具体的な目標

- ア 道徳的諸価値について理解する
- イ 自己を見つめる
- ウ 物事を多面的・多角的に考える
- エ 自己の生き方についての考えを深める

##### ② 中学校における具体的な目標

- ア 道徳的諸価値についての理解を基にする
- イ 自己を見つめる
- ウ 物事を広い視野から多面的・多角的に考える
- エ 人間としての生き方についての考えを深める

#### (3) 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳教育は道徳性（人間としてよりよく生きようとする人格的特性）を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度を養うことを求めている。

これらの道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではない。一人一人の児童生徒が、道徳的価値を自覚し、小学校においては自己の生き方についての考えを深め、中学校においては人間としての生き方について深く考え、日常生活や今後出会うであろう様々な場面及び状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。

- ・道徳的判断力は、それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり、人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力である。的確な道徳的判断力をもつことによって、それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。
- ・道徳的心情は、道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるとも言える。それは、道徳的行為への動機として強く作用するものである。
- ・道徳の実践意欲と態度は、道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味する。道徳の実践意欲は、道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられ

た具体的な道徳的行為への身構えとすることができる。

## 2 指導計画作成上の配慮事項（小解説 P. 72，中解説 P. 70）

### （1）年間指導計画の意義 ※\_\_\_\_\_は、中学校のみに記載

年間指導計画は、道徳科の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、各教科等の年間指導計画との関連をもちながら、児童生徒の発達の段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画である。

#### 年間指導計画の重要な意義

- ・小学校においては6年間、中学校においては3年間を見通した計画的、発展的な指導を可能にする。
- ・個々の学級において道徳科の学習指導案を立案するよりどころとなる。
- ・学級相互、学年相互の教師間の研修などの手掛かりとなる。

### （2）年間指導計画の内容

#### ① 各学年の基本方針

#### ② 各学年の年間にわたる指導の概要

- ・指導の時期      ・主題名      ・ねらい      ・教材      ・主題構成の理由
- ・学習指導過程と指導の方法      ・他の教育活動等における道徳教育との関連      など

※校長や教頭などの参加や保護者や地域の人々の参加・協力の計画などを示すことも考えられる。

※指導の時期，主題名，ねらい及び教材を一覧にした配列表だけでは年間指導計画としては機能しにくいいため，一覧表を示す場合においても，学習指導過程等を含むものなど，各時間の指導の概要が分かるようなものを加えることが求められる。

#### ③ 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

- ・主題の設定と配列を工夫する
- ・計画的，発展的な指導ができるように工夫する
- ・重点的な指導ができるように工夫する
- ・各教科等，体験活動等との関連的指導を工夫する
- ・複数時間の関連を図った指導を取り入れる
- ・特に必要な場合には他学年段階の内容を加える（小学校）
- ・時期，時数の変更やねらいの変更等，計画の弾力的な取扱いについて配慮する
- ・年間指導計画の評価と改善を計画的に行うようにする

## 3 道徳科の指導（小解説 P. 78，中解説 P. 76）

### （1）指導の基本方針 ※\_\_\_\_\_は、中学校のみに記載

道徳教育においては，各教科，外国語活動（小学校），総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら，年間指導計画に基づき，児童生徒や学級の実態に即し，道徳科の特質に基づく適切な指導を展開しなければならない。そのためには，以下のような指導の基本方針を，小学校においては確認する必要がある，中学校においては明確にして指導に当たる必要がある。

#### 【小学校】

- ① 道徳科の特質を理解する
- ② 教師と児童，児童相互の信頼関係を基盤におく
- ③ 児童の自覚を促す指導方法を工夫する
- ④ 児童の発達や個に応じた指導を工夫する
- ⑤ 問題解決的な学習，体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする
- ⑥ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

#### 【中学校】

- ① 道徳科の特質を理解する
- ② 信頼関係や温かい人間関係を基盤におく
- ③ 生徒の内面的な自覚を促す指導方法を工夫する

- ④ 生徒の発達や個に応じた指導方法を工夫する
- ⑤ 問題解決的な学習，体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする
- ⑥ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

#### 4 指導の配慮事項 ※\_\_\_\_\_は，中学校のみに記載（小解説 P. 87，中解説 P. 86）

##### (1) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制

道徳科は，主として児童を周到に，生徒をよく理解している学級担任が計画的に進めるものであるが，学校の道徳教育の目標の達成に向けて，学校や学年として一体的に進めるものでなくてはならない。そのために，指導に際して全教師が協力し合う指導体制を充実することが大切になる。

##### (2) 道徳科の特質を生かした計画的・発展的な指導

各教科等で行う道徳教育は，全体計画によって計画的に行うものもあれば，児童生徒の日々の教育活動の中で見られる具体的な行動の指導を通して対処的に行うものもある。道徳科の指導は，学校の道徳教育の目標に向かって，教育活動全体を通じて行う道徳教育との関連を図りながら計画的・発展的に行うものである。

##### (3) 児童が主体的に道徳性を養うため，生徒が主体的に道徳性を育むための指導

道徳教育の本来の使命に鑑みれば，特定の価値観を押し付けたり，主体性をもたず言われるままに行動するように指導したりすることは，道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。むしろ，多様な価値観の中，時に対立がある場合を含めて，人間としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い，いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢こそ道徳教育が求めるものと言える。

##### (4) 多様な考え方を生かすための言語活動

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言語は，知的活動だけでなく，コミュニケーションや感性，情緒の基盤である。道徳科においても，その言葉を生かした教育についての充実が図られなければならない。

##### (5) 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

道徳科の特質を生かすことに効果があると判断した場合には，多様な方法を活用して授業を構想することが大切である。道徳科の特質を生かした授業を行う上で，各教科等と同様に問題解決的な学習や体験的な学習等を有効に活用することが重要である。その際，中学校では生徒の発達の段階や特性等を考慮した上で，人間としての生き方について多面的・多角的に考え，話し合いや討論することを通して，主体的かつ自発的な学習を展開できるように創意工夫することが求められる。

##### (6) 情報モラルと現代的な課題に関する指導

社会の情報化が進展する中，児童生徒は，学年が上がるにつれて，次第に情報機器を日常的に用いる環境の中に入っており，学校や児童生徒の実態に応じた対応が学校教育の中で求められる。これらは，学校の教育活動全体で取り組むべきものであるが，道徳科においても同様に，情報モラルに関する指導を充実する必要がある。

また，現代社会を生きる上での課題を扱う場合には問題解決的な学習を行ったり，小学校では話し合いを，中学校では討論を深めたりするなどの指導方法を工夫し，課題を自分との関係で捉え，その解決に向けて考え続けようとする意欲や態度を育てることが大切である。

##### (7) 家庭や地域社会との連携による指導

道徳科は全教育活動を通じて行う道徳教育の要であり，その授業を公開することは，学校における道徳教育への理解と協力を家庭や地域から得るためにも，極めて大切である。

また，道徳科は家庭や地域社会との連携を進める重要な機会となる。その実施や教材の開発，活用などに，保護者や地域の人々の参加や協力を得られるよう配慮していくことが考えられる。

#### 5 道徳教育・道徳科における評価の意義（小解説 P. 107，中解説 P. 109）

##### (1) 道徳教育における評価の意義

- ・他者との比較ではなく児童生徒一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面，進歩の様子などを把握し，年間や学期にわたって児童生徒がどれだけ成長したかという視点を大

切にすることが重要である。

- ・教師が児童生徒一人一人の人間的な成長を見守り，児童生徒自身の自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し，それを勇気付ける働きをもつようにすることが求められる。

(2) 道徳科における評価の意義

- ・児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要がある。
- ・道徳科において養うべき道徳性は，児童生徒の人格全体に関わるものであり，数値などによって不用意に評価してはならない。
- ・授業における指導のねらいと関わりにおいて，児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉えて，個々の成長を促すとともに，授業者の指導を評価し，改善に努めることが大切である。

6 道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価

(小解説 P.109，中解説 P.111)

(1) 評価の基本的態度

- ・道徳科で養う道徳性は，児童生徒が将来いかに人間としてよりよく生きるか，いかに諸問題に適切に対応するかといった個人の問題に関わるものである。よって小・中学校それぞれの段階でどれだけ道徳的価値を理解したかなどの基準を設定することはふさわしくない。
- ・教師と児童生徒との人格的な触れ合いによる共感的な理解を基盤として，その上で児童生徒の成長を見守り，努力を認めたり，励ましたりすることによって，児童生徒が自らの成長を実感し，更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指す。
- ・道徳性は，極めて多様な児童生徒の人格全体に関わるものであることから，評価に当たっては，個人内の成長の過程を重視すべきである。

(2) 道徳科における評価

① 道徳科に関する評価の基本的な考え方

- ・道徳性の諸様相である道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度のそれぞれについて分節し，学習状況を分析的に捉える観点別評価を通じて見取ろうとすることは，道徳科の評価として妥当ではない。
- ・道徳科の目標に掲げる学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を，一定のまとまりの中で，児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ，学習活動全体を通して見取ることが求められる。
  - 個々の内容項目ごとではなく，大きくくりなまとまりを踏まえた評価
  - 他の児童生徒との比較による評価ではなく，児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め，励ます個人内評価として記述式で行う。

〈重視するポイント〉

- ・学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ，自律的に思考する中で，一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

② 個人内評価として見取り，記述により表現することの基本的な考え方

ここに挙げる視点はいずれについても例示であり，指導する教師一人一人が，質の高い多様な指導方法へと指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにするという道徳科の評価の趣旨を理解したうえで，学校の状況や児童生徒一人一人の状況を踏まえた評価を工夫することが求められる。

ア「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている」ことに関する視点の例

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることに着目する。
- ・自分と違う立場や考え方，感じ方を理解しようとしていることに着目する。



- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしていることに着目する。
  - イ 「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている」 ことに関する視点の例
    - ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目する。
    - ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目する。
    - ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めていることに着目する。
    - ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしていることに着目する。
  - ウ 発言が多くない生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒が、教師や他の児童（生徒）の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしたりしている姿に着目するなど、発言や記述ではない形で表出する生徒の姿に着目するということも重要。
  - エ 年間や学期を通じて、当初は感想文や質問紙に、感想をそのまま書いていただけであった児童（生徒）が、学習を重ねていく中で、読み物教材の登場人物に共感したり、自分なりに考えを深めた内容を書くようになったりすることや、既習の内容と関連づけて考えている場面に着目するなど、一単位時間の授業だけでなく、生徒が一定の期間を経て、多面的・多角的な見方へと発展していたり、道徳的価値の理解が深まったりしていることを見取るという視点もある。
- ③ 評価のための具体的な工夫
- 児童生徒が学習活動を通じて多面的・多角的な見方へと発展させていることや、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めていることを見取るための様々な工夫が必要である。
- ア 学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したものや道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したものを評価に活用すること、作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握することなどが考えられる。
- 評価に当たっては、記録物や実演自体など成果物そのものに優劣を付けて評価するわけではないことに注意することが必要である。
- イ 児童生徒が行う自己評価や相互評価は、それ自体が児童生徒の学習活動であり、教師が行う評価活動ではない。しかし、児童生徒自身がよい点や可能性に気付くことを通じ、主体的に学ぶ意欲を高めることなど、学習の在り方を改善していくことに役立つものとして、効果的に活用し学習活動を深めていくことは重要である。年度当初に自らの課題や目標を捉えるための学習を行ったり、年度途中や年度末に自分自身を振り返る学習を工夫したりすることも考えられる。
- ウ 年に数回、教師が交代で学年の全学級を回って授業を行うことは、教師が専門教科など、得意分野に引きつけて授業を展開できたり、何度も同じ教材で授業を行うことにより指導力の向上につながったりするなど指導面の利点がある。また、学級担任が自分のクラスの授業を参観することが可能となり、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をより多面的・多角的に把握することができるといった評価の改善の観点からも有効である。
- ④ 児童生徒の状況に応じた指導と評価
- 発達障害等のある児童生徒や海外から帰国した児童生徒、外国人の児童生徒など、いわゆる外国につながる児童生徒に対する指導や評価を行う上では、学習の過程で考えられる「困難さの状態」を把握した上で必要な配慮が求められる。評価に当たっては、配慮を伴った指導を行った結果として、多面的・多角的な見方へ発展させていたり道徳的価値を自分のこととして捉えていたりしているか見取る必要がある。

7 道徳科の授業に対する評価 ※\_\_\_\_\_は、中学校に記載（小解説 P.115，中解説 P.117）

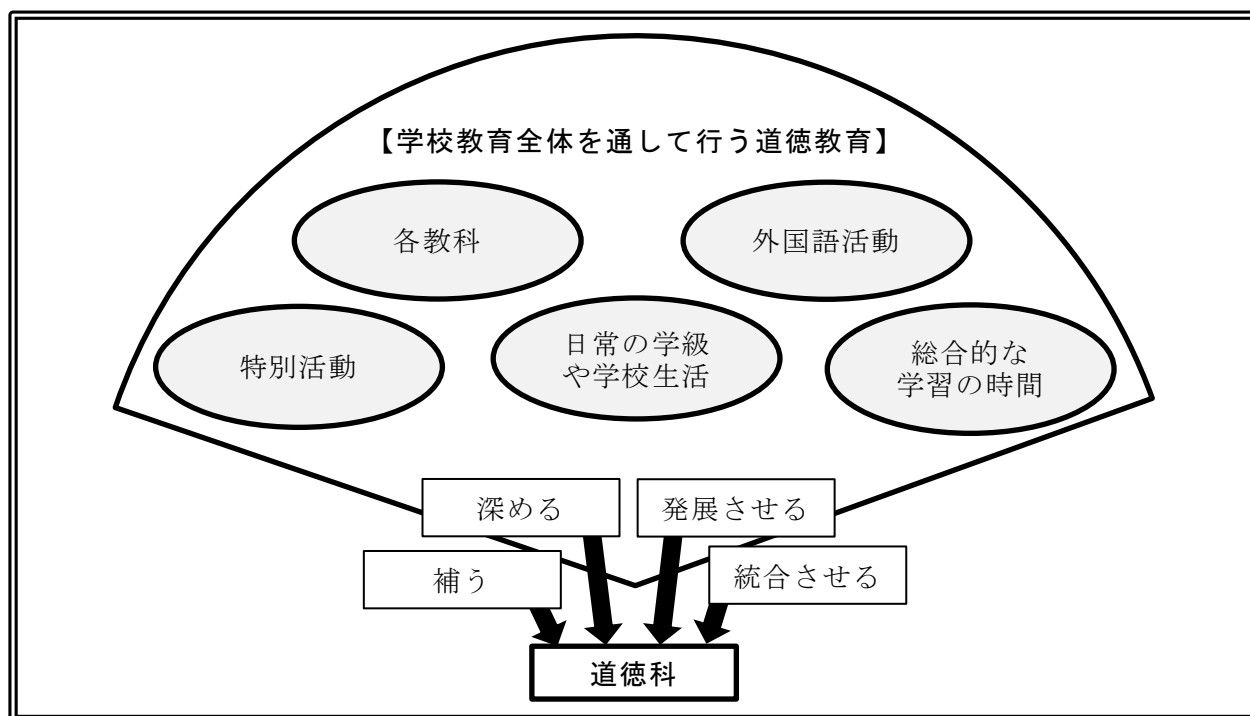
- ・学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の生き方について（中：人間としての生き方について）考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
- ・発問は、児童生徒が広い視野から多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
- ・児童生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童生徒の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。
- ・自分自身との関わりで、物事を広い視野から多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- ・ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童生徒の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
- ・特に配慮を要する児童生徒に適切に対応していたか。

# 道徳科の授業を構成する手立て

## 1 教育課程編成の一般方針

道徳教育は、学校や児童生徒の実態などを踏まえ設定した目標を達成するために、あらゆる教育活動を通じて、適切に行われなくてはならない。

道徳科は、各活動における道徳教育の要として、それらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たす。



### 【小学校の時期】

6年間の発達の段階を考慮するとともに、幼児期の発達の段階を踏まえ、中学校の発達の段階への成長の見通しをもつ



### 【中学校の時期】

3年間の発達の段階を考慮するとともに、特に中学校に入学して間もない時期には小学校高学年段階における指導との接続を意識しつつ、また学年が上がるにつれて高等学校等における人間としての在り方・生き方に関する教育への見通しをもつ

道徳科においては、発達の段階を前提としつつも、指導内容や指導方法を考える上では、個々人としての特性等から捉えられる個人差に配慮することも重要となる。児童生徒の実態を把握し、指導内容、指導方法を決定してこそ、適切に指導を行うことが可能となる。

## 2 道徳科の授業に取り組む基本的な構え

道徳科の指導は、学校の道徳教育の目標を達成するために行うものであることから、道徳教育推進教師を中心として、道徳教育の全体計画や道徳科の年間指導計画に基づく道徳科の指導を行う必要がある。言うなれば、年間指導計画に基づいて様々な内容項目を取り扱うことで、計画的に児童生徒の心を育てていくことが道徳科の役割である。

また、道徳科の目標を達成するためには、児童生徒がすでに分かっていることを再確認するのではなく、授業で取り扱う内容項目について「なぜそのことが大切なのか」「分かっているのになぜ行おうことができないのか」といったことについて考えたり議論したりすることが重要となる。

### 3 授業構想・指導案作成の流れ（例）

#### (1) 主題名＝1時間の授業が概観できるような言葉で表される

道徳科の主題は、指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものである。原則として年間指導計画における主題名を記述し、指導する視点を表すアルファベットと内容項目を主題名の後に明記する。

#### (2) 主題設定の理由（略案等では省くことが多い）

児童生徒の肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉え方を心掛けるようにする。

抽象的な捉え方をするのではなく、児童生徒の学習場面を予想したり、発達の段階や指導の流れを踏まえたりしながら、より具体的で積極的な教材の生かし方を記述する。

#### ① 価値観＝ねらいや指導内容についての教師の捉え方

学年段階ごとに示されている内容項目は、その全てが道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育における学習の基本となるものである。それぞれの内容項目の発展性や特質及び児童生徒の発達の段階などを全体にわたって理解し、児童生徒が主体的に道徳性を養うことができるようにしていく必要がある。

#### ② 児童観・生徒観＝価値観に関連する児童生徒の学習状況や実態と教師の児童生徒観

道徳科の授業を行う際に、学級担任として児童生徒一人一人のよさを発見し、その道徳性の発達段階について正確に把握しておくことが肝要である。実態を把握する方法としては、生活場面での観察、道徳授業での観察、日記や作文等の生活記録の読み取り、調査、カウンセリング、検査などが考えられる。

#### ③ 教材観＝使用する教材の特質や取り上げた意図及び教材を生かす具体的な活用方法

教科用図書や副読本等の教材について、授業者が児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討する。道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、道徳教育の特性を鑑みれば、多様な教材を併せて活用することが重要となる。

教材について、ねらいとの関わりで道徳的価値がどのように含まれているかについて検討する際には、指導者自身が、教材の構造や表現の意図、そこに含まれる道徳的価値や人間性を深く理解することが大切である。

#### (3) 本時のねらい

年間指導計画を踏まえてねらいを記述する。本時の授業でねらいとする道徳的価値について明記し、複数の道徳的価値をねらいとして構成しないように留意する。

#### (4) 関連

年間指導計画を基に、同一学年で複数時間行う内容項目について、その教材名と主題名を確認する。複数時間行わない内容項目については、学習指導案作成上での記述は省略する。

#### (5) 学習指導過程

**道徳科の授業＝道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てる＝道徳性を養う時間**

(小) ねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習指導過程となるようにする。

(中) ねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習指導過程となるようにする。

#### ① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

〈ねらい〉

教材の登場人物の心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。

### 〈指導方法の効果〉

教材の登場人物の心情と自分との関わりについて、多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法である。登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

### 〈留意事項〉

教師に明確な主題設定がなく、指導観に基づく発問でなければ、登場人物の心情理解のみの指導になりかねない。

|    |  |
|----|--|
| 導入 | <b>道徳的価値に関する内容の提示</b><br>教師の話や発問を通して、本時で扱う道徳的価値へ方向付ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・価値への方向付け</li> <li>・教材への方向付け</li> </ul>  |
| 展開 | <b>登場人物への自我関与</b><br>教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、自分との関わりで考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡潔に「あらすじ」を確認する。</li> <li>・教材を基に、主人公等の思いや考え方に共感させる。</li> <li>・級友の価値観と照らし合わせることで、自分の感じ方や考え方の位置を知らせ、自分の価値観を深化させる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <b>教師の主な発問（例）</b><br/> <b>〔共感的活用〕</b><br/>         主人公等の考え方、感じ方に共感させることによって、自分の現在の価値観に気付かせ自覚を促す方法。         <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのとき主人公はどのような気持ちだっただろう。</li> <li>・そのとき主人公は何を考えていただろう。</li> <li>・そのとき主人公は何を悩んでいただろう。</li> </ul> <b>〔感動的活用〕</b><br/>         教材が深い感銘を与える場合、生徒の感動を特に重視しながら、ねらいとする価値把握を図る方法。         <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に残ったところはどこだろう。</li> <li>・なぜそこが心に残ったのだろう。</li> <li>・なぜ皆を感動させるのだろう。</li> </ul> <b>〔範例的活用〕</b><br/>         主人公等の行った道徳的行為を、児童生徒に一つの手本や範例として受け取らせる方法。         <ul style="list-style-type: none"> <li>・手本にしたいところはどのようなところか。</li> <li>・見習いたいところはどのようなところか。</li> <li>・どうしてこんな立派な行為ができたのだろう。</li> </ul> <b>〔批判的活用〕</b><br/>         主人公等の行為や考え方を児童生徒に批判させ、互いの意見を交わすことにより道徳的な考え方、感じ方を深めさせる方法。         <ul style="list-style-type: none"> <li>・このときの主人公の考えをどう思うか。</li> <li>・この主人公の行為をどう思うか。</li> <li>・この行為をした主人公をどう思うか。</li> </ul> </div> <b>価値の内面的自覚を図る</b><br>本時の授業を踏まえ、各自で道徳的価値に関わる自分の在り方や生き方を振り返り、交流する。 |
| 終末 | <b>まとめ</b><br>教師による説話や、個人内評価などでまとめる。   |

## ② 問題解決的な学習

### 〈ねらい〉

問題解決的な学習を通して、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

### 〈指導方法の効果〉

児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問によって、価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

- ・出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効
- ・他者と対話や協同しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性
- ・問題解決の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決プロセスに価値がある
- ・考え、議論する中で図られるコミュニケーション自体に道徳的価値がある

### 〈留意事項〉

明確なテーマ設定の下で、

- ・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。
- ・「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。
- ・議論し、探求するプロセスが重視されているか。

といった検討や準備がなければ、単なる「話し合い」の時間になりかねない。

### 【パターン１】

|    |  |
|----|--|
| 導入 | <b>問題の発見</b><br>教材や日常生活から道徳的な問題を見つける。  |
| 展開 | <b>問題の探求</b><br>発見した問題について、グループなどで「なぜ問題となっているのか」「問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのか」などについて、多面的・多角的に考え、議論を深める。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <b>教師の主な発問（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ思いやりは大切なのだろうか。</li> <li>・どうすれば思いやりを表現できるだろうか。</li> <li>・同じ場面に出会ったら、自分ならどのように行動するか。</li> <li>・なぜそのように行動するのか。</li> <li>・よりよい解決方法はないだろうか。</li> </ul> </div> <b>問題の解決</b><br>問題の探求を踏まえ、問題に対する自分なりの考えや解決方法を導き出す。 |
| 終末 | <b>まとめ</b><br>本時を振り返り、学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。  |

### 【パターン２】

|    |   |
|----|---|
| 導入 | <b>道徳的価値の想起</b><br>個人的な経験や具体的な事例から道徳的価値を考える。  |
| 展開 | <b>道徳的な問題の状況の分析</b><br>教材を読んで、道徳的問題の状況を分析する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <b>教師の主な発問（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは何が問題になっていますか。</li> <li>・何と何で迷っていますか。</li> </ul> </div> <b>複数の解決策の構想</b><br>問題場面对し、様々な解決策を構想する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <b>教師の主な発問（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公はどうしたらよいのだろう。</li> <li>・自分ならどうしただろう。</li> </ul> </div> <b>シミュレーション</b><br>考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。 |

|    |  |
|----|--|
| 終末 | <b>まとめ</b><br>今後の生活でどのように生かせるかを問い、価値の内面化から道徳的实践へと促す。 |
|----|--|

### ③ 体験的な活動

#### 〈ねらい〉

役割演技などの体験的な活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

#### 〈指導方法の効果〉

役割演技などの体験的な活動を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解し、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどういう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための実践的な資質・能力を養うことができる。

- ・心情と行為をすり合わせることで、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことに有効である。
- ・体験的な活動を通して、取り得る行為を考えたり、選択させたりすることで、内面も強化していくことが可能である。
- ・実際の行為の難しさやその対処法を考え、議論する中で図られるコミュニケーション自体に道徳的価値がある。

#### 〈留意事項〉

明確なテーマの下での検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒指導・生活指導になりかねない。

- ・心情と行為との葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。
- ・問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。

#### 【パターン１（役割演技）】

|    |   |
|----|---|
| 導入 | <b>教材の提示</b><br>教材の概要の説明や登場人物の確認などを行う。<br><div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>提示の例</b><br/>         ・電車の中で席を譲るか譲らないかという葛藤場面       </div>   |
| 展開 | <b>道徳的な問題場面の提示</b><br>ペア・インタビューなどを通して、登場人物の心情を理解し、何が問題になっているのか、状況を把握する。<br><br><b>再現の役割演技</b><br>グループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤を理解するとともに、取り得る行動を多面的・多角的に考える。<br><br><b>新たな場面の提示</b><br>同様の新たな問題場면을提示し、グループで何が問題になっているかを考え、取り得る行動を多面的・多角的に考える。<br><br><b>解決の役割演技</b><br>新たに提示された場面について考えた取り得る行動を、役割演技を通して再現し、解決を図る。 |
| 終末 | <b>まとめ</b><br>感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、自分の取り得る行動について振り返る。   |

### 【パターン2（道徳的行為）】

|    |  |
|----|--|
| 導入 | <b>道徳的価値に関する内容の提示</b><br>分かっているにもかかわらず実践できない道徳的行為を想起し、理由を考える。  |
| 展開 | <b>教材の提示</b><br>道徳的価値の含まれた映像教材を視聴し、登場人物の行動に想いを巡らせ、行動の意味やその際の心情を考える。<br><br><b>自分の行動を振り返る</b><br>教材を踏まえ、なかなか実践できない道徳的行為について、実践するには勇気がいることなど、気持ちと行動をつなげることの難しさや大切さを考える。<br><br><b>体験的な活動</b><br>これまでの授業を踏まえ、実際に問題場面を設定し、道徳的な行為を体験する。体験を通して実生活における道徳的な問題の解決に見通しをもつ。 |
| 終末 | <b>まとめ</b><br>体験をした感想を交流したり、今後の生活にどのようにつなげていくかを考えたりする。   |

### 【パターン3（問題解決的な学習＋体験的な活動）】

|    |   |
|----|---|
| 導入 | <b>道徳的価値の考察</b><br>道徳的価値の本当の意味や意義を考える。  |
| 展開 | <b>道徳的な問題の状況の分析</b><br>教材を読んで、道徳的問題の状況を分析する。<br><div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>教師の主な発問（例）</b><br/>         ・ここでは何が問題になっていますか。<br/>         ・何と何で迷っていますか。       </div> <b>複数の解決策の構想</b><br>問題場面に対し、様々な解決策を構想する。<br><div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>問題解決への示唆（例）</b><br/>         ・自分が同じようにされてもよいか。<br/>         ・いつ、どこで、誰にでも同じようにするのか。<br/>         ・それで皆が幸せになれるか。       </div> <b>体験的な活動</b><br>自分ならどのように行動するかということを、役割演技などを通して実際に経験する。 |
| 終末 | <b>まとめ</b><br>導入における根本的な問いに対し、自分なりの結論を出す。   |

## ④ その他、道徳科に生かす指導方法の工夫

### ア 話し合いの工夫

- ・児童生徒相互の考えを深める中心的な学習活動であり、道徳科においても重要な役割を果たす。考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話し合いが行われるよう工夫する。
- ・話すことと聞くことが並行して行われ、友達の考え方についての理解を深めたり自分の考えを明確にしたりすることができる。

### イ 書く活動の工夫

- ・児童生徒が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として、重要な役割をもつ。
- ・自分自身とじっくりと向き合ったり自分なりにじっくりと考えたりすることができる。
- ・1冊のノートなどを活用することによって、学習を継続的に深めていくことができ、



児童生徒の成長の記録として活用したり，評価に生かしたりすることもできる。

ウ 動作化，役割演技等の表現活動の工夫

- ・児童生徒に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技の工夫
- ・動きやせりふ，言葉を模倣して理解を深める動作化の工夫
- ・音楽，所作，その場に応じた身のこなし，表情などで自分の考えを表現する工夫

エ 板書を生かす工夫

- ・教師の伝えたい内容を示したり，その順序や構造を示したり，内容の補足や補強をしたりするなど，板書は多様な機能をもっている。
- ・思考の流れや順序を示すような順接的な板書，違いや多様さを対比的，構造的に示す板書，中心部分を浮き立たせる板書などの工夫が大切である。

オ 説話の工夫

- ・説話とは，児童生徒がねらいの根底にある道徳的価値を一層主体的に考えられるようにするものである。
- ・教師の体験談や願い，様々な事象についての所感，日常生活における問題や身近な話題，関心や視野を広げる時事問題，ことわざや格言，心に残る標語，地域の自然や伝統文化に関することなどが考えられる。

指導案について

主題名は、原則として年間指導計画に記載されているものを記述する。

算用数字は、1桁の場合は全角、2桁以上の場合は半角で表記する。

四つの視点を表すアルファベットと内容項目を記述する。  
※番号は記述しなくてもよい。

第5学年〇組 道徳科学習指導案  
令和〇年〇月〇日 〇曜日 第〇時  
指導者 〇 〇 〇 〇

1 主題名 人のために役立つ C 勤労、公共の精神

2 主題設定の理由

(1) 価値観

勤労は、日々の糧を自ら得て自立することを目的とする。単に自分の生活の維持向上を目的とするだけではなく、働くことで得られる達成感や満足感は人の役に立つうれしさややりがいをもたらす。同時に社会への奉仕活動など公共のために役立つ活動を積み重ねることで、今日の地域社会や国家がつけられている。そこで、働くことの意義を理解し、自分の充実感を得るためだけでなく、よりよい社会をつくるために社会に奉仕しようとする意欲や態度を養いたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、校外学習やメディアを通して様々な仕事があることを知っている。また、勤労は、自分や家族の生活を支えていることや人の役に立つことにも気が付いている。学校生活の中では、仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して仕事を成し遂げた際の喜びや手応えを感じ始めている。働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうことで、勤労は、公共のために役立つことであることを捉えさせたい。同時に、皆のために働こうとする意欲をもたせ、進んで公共のために役立とうとする態度を培うことができるようにしたい。

(3) 教材観

本教材は、常滑の陶業のために尽力した伊奈長太郎の話である。長太郎は茶器を焼く家に生まれた。長太郎は土管やタイルを焼く事業を広めようと考え、アメリカへ渡り、陶業界を視察した。帰国後、長太郎はアメリカで学んだことを惜しみなく工場の参観者に見せた。5年がかりで生み出した陶土を掘るときにくずの利用方法も躊躇なく公表した。学びや研究の成果を常滑の人や国のために還元する長太郎がいたからこそ、今のわたしたちの便利な生活がある。地域に実在した人物の話なので、児童は関心をもちやすいであろう。長太郎を児童とかけ離れた偉人として扱うのではなく、長太郎の生き方と児童の生き方をつなげて考えさせたい。

3 本時のねらい

- 働くことや社会に奉仕することの意義を理解し、公共のために役立とうとする気持ちを高める。

4 準備・教材

- 教材名「それでええじゃないか」 出典「明るい心」
- 教師・・・ワークシート

5 関連

道徳 「お父さんは救急救命士」（働くことの意義）

6 学習指導過程

| 段階  | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|-----|---|----|--|
| 導 入 | 1 写真を見て、登場人物について知る。<br>○この写真は、何の写真でしょう。<br>・製品<br>・工場や働く人<br>・常滑工場の地図   | 4  | ○伊奈長太郎の会社に関わりのある写真を掲示する。<br>○写真を掲示することで、教材への興味付けをする。   |
|     | 2 教材を読み、話し合う。   |    | ○範読し、あらすじを確認する。  |
| 展 開 | 長太郎は、どんな気持ちで工場を丁寧に説明したのでしょうか。   |    |  |
|     | ・アメリカで知った工場のすばらしさを多くの人に知ってほしい。<br>・全国から来た参加者の期待に応えたい。<br>・自分の技術を受け継ぐ人を育てたい。<br>・この技術が皆のためになってほしい。                           | 15 | ○かつての日本の工場と、アメリカの最先端の工場との違いを押さえる。<br>○最先端の技術を参観者に伝えたいという長太郎の気持ちについて考えさせる。  |
| 開 発 | 長太郎は、どんな思いで「それでええじゃないか」と言ってきたのだろう。  |    |  |
|     | ・もうけることより、人のためになる方がよい。<br>・常滑の人たちが喜んでくれたらうれしい。<br>・常滑が発展し、人々の暮らしがよくなればよい。<br>・この技術が人々のためになってほしい。<br>・この技術が知れ渡り、国が豊かになってほしい。 |    | ○公共のために役立てたいという長太郎の気持ちを感じ取らせる。<br>○学級全体で話し合わせる。<br>補長太郎はアメリカの工場で何を学んで来たのだろう。<br>補長太郎は、どんな気持ちで陶土に変える技術を雑誌に発表したのだろう。 |

指導する内容項目を端的に表す言葉は、すべて記述する。

- (1) 価値観
- (2) 児童観（生徒観）
- (3) 教材観と明記する。

- (1) 学習指導要領の内容や解説の内容項目についての記述を十分に踏まえること。
- (2) この時期にこのねらいを取り上げる理由を児童生徒の具体的な実態を踏まえて述べる。
- (3) 教材の取り扱い方や効果的な活用について明記する。

- (1) 年間指導計画を踏まえてねらいを記述する。
- (2) 本時の授業でねらいとする道徳的価値について明記する。
- (3) 複数の道徳的価値をねらいとして構成しないように留意する。

教科書以外の資料を用いるときは、出典を書く。

複数時間行う内容項目についての同学年の道徳の関連を示す。  
「教材名」（主題名）複数時間行わないときは省略し、「5 学習指導過程」とする。

児童生徒の活動に対応した指導上の留意事項を書き、「○」で書き始める。  
・指導の要点や方法  
・発問の意図  
・視聴覚機器の使用  
・教材を示すときの注意事項  
・その他留意しておきたいこと

基本発問は、四角囲みをする。

中心発問は、二重線で囲む。

補助発問は、点線の野線で囲み補で書き始める。

|   |   |    |  |
|---|---|----|--|
| 展<br><br>開  |   | 32 | 評長太郎の考えから、人の役に立つことのすばらしさに気付いている。<br>(話し合い)   |
|   | 人の役に立つということは、どんなことだろう。  |    |  |
| 終<br><br>末  | 3 気付いたことを基に、自己を見つめる。  | 40 | ○ 中心発問から出た、人の役に立つという視点から、公共の精神についての考えを深める。<br>○ 長太郎が惜しむことなく技術を公開したことを押さえる。   |
|   | 今日の授業でどんなことを学びましたか。   |    |  |
|   | ・働くことは、お金をもうけるだけでなく、人のためになる。<br>・生活の中で、人のためになることをしてみたい。<br>・困っている人がいたら、助けてあげたい。 | 45 | ○ 授業で感じたことや考えたことを、ワークシートに自分の言葉でまとめさせる。<br>○ ワークシートに記入している内容を机間指導で把握する。<br>評働くことの意義や公共の役に立つことについて考えている。<br>(ワークシート) |
| 7 本時の評価<br>○ 働くことは、単にお金儲けをするだけでなく、公共のために役に立つ側面があるということについて考えている。<br>(話し合い、ワークシート)   |   |    |  |
| 8 備 考<br>○ 知多半島出身の著名な人物に着目し、自分たちの住む地域に近いところで大きな社会貢献をした人物を取り上げることで、親しみを感じながら学習できるようにする。<br>○ 補助発問を用意し、長太郎の気持ちに深く迫ることで、社会に奉仕することの意義について、より一層考えられるようにする。 |   |    |  |
| 9 指導と評価   |   |    |  |

- 価値の把握の発問は、四角囲みをする。
- 経過予定時間を学習の区切りごとに示す。また、罫線で区切る。
- 価値の自覚の発問は、四角囲みをする。
- 「評」には、学習活動の流れの中での評価の観点を記述する。評価方法については（ ）内に略記する。
- 本時の学習を通して目標がどの程度達成できたかを確かめる観点を示す。評価方法については、右詰で（ ）内に略記する。

指導後の反省を記入して保存しておきたい。

- ・ 主題を取り上げる時期はよかったか。
- ・ 教材は適切であったか。
- ・ ねらい、内容、時間に問題はなかったか。

1～7に書かなかったことで、本時の指導上必要なことがらを示す。

- ・ 教科用図書を使用せず、副読本等を使用した意図
- ・ 特殊な指導形態をとった場合の根拠
- ・ 他領域、教科との関わり
- ・ 学校の現職教育の主題を踏まえた授業構成や手だて
- ・ 事前や事後の指導の工夫
- ・ その他、板書計画や座席表等

道徳科の学習指導過程には特に決められた形式はない。

一般的には「導入→展開→終末」と各段階を設定する方法が広く行われている。「導入→展開（前段）→展開（後段）→終末」や「方向付け→価値の追求・把握→価値の自覚→まとめ」といった設定をすることもある。

学習指導案には、児童生徒がねらいとする道徳的価値の自覚を深めるために、教材を活用して、どのような手順で指導をすすめるのかを示す。

1 ----- 児童生徒の認識過程をふまえた各段階における児童生徒の活動

- ----- 具体的な学習活動
- ・ ----- 予想される児童生徒の反応（具体的な学習活動を明記する必要があるときは○の位置から書き始める）

基本発問

人間関係を把握したり、状況をつかんだりするための補助的な発問。  
教材により省略することもある。

中心発問

本時のねらいとする価値に迫るための多様な価値観を引き出す発問。  
読み物教材中の主人公等が「ねらい」とする価値を十分把握できず、悩んだり苦しんだりする場面で設定されることが多い。

価値の把握の発問

本時のねらいを把握することができる、主人公の気持ちを問う発問。  
主人公が本時のねらいとする価値に気がつき、よりよく生きていこうとする場面で設定されることが多い。

価値の自覚の発問

本時に学んだことを通し、今までの自分自身を振り返る発問。  
基本的には、主人公と同じような経験を問い、今までの生活を振り返らせることになるが、対話や小集団による話し合い、主人公へ手紙を書かせるなどの工夫をすることで指導効果を高めることができる。

補助発問

本時のねらいにせまるために、本音を引き出し、考え方を深めるため、掘り起こしや切り返しの追発問で、中心発問に対して設定する。

◆ 発問に対して児童生徒の予想される発言は……

- ・ 共感や批判で分類したり、価値観により類型化したりするなど工夫して記す。
- ・ 価値の低いものから順に記す。
- ・ 体言止めの文末には句点を付けない。

第1学年〇組 道徳科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 いじめとどう向き合うか C 公正, 公平, 社会正義

2 本時のねらい

○いじめをなくすために何が重要か深く考え, いじめに向き合おうとする態度を育てる。

3 準備・教材

○教材名「あなたならどうしますか」

○教師・・・学習プリント, 本文の拡大コピー, ペン

4 学習指導過程

| 段階  | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|-----|--|----|--|
| 導 入 | 1 「正義の味方」とは, どのような人か意見を出し合う。<br>・悪と戦う。<br>・皆を助ける。<br>・正しいことを実行する。  | 3  | ○イメージの湧かない生徒には「正義」の言葉の意味を考えさせる。<br>○正義について抱いているイメージを確認し, 展開部分への方向付けをする。  |
| 展 開 | 2 教材を読み, 話し合う。<br>「ある日の放課後」と「ある日の昼休み」の話の中で, 問題だと感じる部分はどこですか。<br>・成績がいいからと人のことをバカにする康太の態度<br>・ウザいからと, 裕也が康太のコンパスを隠すこと<br>・康太がコンパスを探しているのに, 見向きもしない裕也の態度<br>・歩美の1年生に対する言葉の言い方<br>・集まるとすぐにおしゃべりする1年生バレー部員<br>・歩美を陥れようと, 部員にもちかける愛の提案<br>・歩美を陥れる提案をなんとなく賛成してしまう1年生部員         | 16 | ○範読前に話が二つあることを伝える。<br>○3～4人のグループで議論させる。<br>○グループに本文の拡大コピーとペンを配付し, 問題とを感じる部分に線を引かせ, 議論の活発化を図る。<br>○拡大コピーに線を引く際は, どこが問題かをグループ内で発表してから線を引くよう指示する。<br>○問題だと感じる部分については, なぜその行動や考え方が問題なのか, 理由を明確にさせる。<br>○いじめに関する問題点でないものも認め, 幅広く意見を出させる。  |
|     | 正人や葉月にその問題を解決できると思いますか。<br>・解決できない。人それぞれの性格があるから, 正人や葉月にできることに限界がある。<br>・解決できない。注意すると自分がいじめの標的になってしまう。<br>・解決できない。皆がなんとなく賛成する中で, 別の行動をする勇気がない。<br>・解決できる。部長と協力して1年生の雰囲気を変える。<br>・解決できる。自分で解決できなくても, 先生や親などに相談して助けてもらえる。<br>・解決できる。見て見ぬふりは, 後から自分が後悔するので, 何とかしようと行動すると思う。 |    | ○問題が解決できる, 問題が解決できないだけでなく, その理由を明確にして議論させる。<br>○正人や葉月が解決できるかどうか, 分からないという意見も認めるが, なぜそう思うのか理由を明確にさせる。<br>○グループを巡回指導する中で, 補助発問を投げかけ, 議論を広げさせたり深めさせたりする。<br>補誰かに相談するのも自身にリスクがあるが, 怖さはないだろうか。<br>○「解決できない」に意見が偏った場合は, 解決できるようになるには, 何が必要か考えさせる。<br>○各グループごとに議論した内容を発表させ, クラスで共有する。 |

|                                      |  |    |  |
|--------------------------------------|--|----|--|
| 展<br><br><br><br>開<br><br><br>終<br>末 | ・解決できる。いじめは絶対にいけないという強い気持ちがあれば行動できる。   | 35 | ○グループからの意見が出そろった後、他のグループへの質問がないか問いかける。   |
|                                      | <b>いじめを目の当たりにしたとき、解決できる人とはどういう人なのだろう。</b>  |    |  |
|                                      | ・自分一人では解決できなくても、先生や親に相談できる人<br>・見て見ぬふりをせずに、積極的に関わろうとする人<br>・人を陥れたり、差別したりすることを許さない人<br>・いじめを絶対に許さないという強い意志をもっている人       | 43 | ○学習プリントに意見を記入させ、グループで意見交換させる。<br>○全体場で発表させる。<br>○いじめ問題の処世術が出た場合でも、いじめを解決したいという気持ちがあるの行動ということを確認し、肯定的に受け止める。<br><b>評</b> いじめを解決するために、何が必要か考えている。（学習プリント、発表） |
|                                      | 3 自分自身について振り返る。  |    |  |
|                                      | <b>自分がいじめを目の当たりにしたとき、どのように行動したいと思いますか。</b>   |    |  |
|                                      | ・自分はいじめに荷担しないようにしたい。<br>・自分では解決できないと思っても、先生や親に頼って解決したい。<br>・見て見ぬふりをせずに、解決させられるように行動したい。<br>・いじめを絶対に許さないという勇気をもって行動したい。 | 48 | ○学習プリントに意見を記入させ、全体場で発表させる。<br><br><b>評</b> いじめにどう向き合うか、自分の考えをもっている。<br>（学習プリント、発表）   |
|                                      | 4 本時の振り返りをする。  | 50 | ○本時で深く考えさせられたことや、考えが変わったことを記入させる。  |

## 5 本時の評価

○いじめをなくすために、自身がどうするべきか考えている。（学習プリント、発表）

## 6 板書計画

|   |  |   |  |  |  |
|---|--|---|--|--|--|
| <p>あなたならどうしますか</p> <p>○正義の味方とはどんな人？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪と戦う。</li> <li>・皆を助ける。</li> <li>・正しいことを実行する。</li> </ul>   |  | <p><b>問題点</b></p>   |  | <p><b>解決できるか</b></p>   |  |
| <p>いじめを目の当たりにしたとき、解決できる人とはどういう人だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分一人では解決できなくても、先生や親に相談できる人</li> <li>・見て見ぬふりをせずに、積極的に関わろうとする人</li> <li>・人を陥れたり、差別したりすることを許さない人</li> <li>・いじめを絶対に許さないという強い意志をもっている人</li> </ul> <p>自分がいじめを目の当たりにしたとき、</p> <p>どのように行動したいと思いますか</p> |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・裕也がコンパスを隠したこと</li> <li>・すぐおしゃべりする一年生部員</li> <li>・歩美を陥れようと、部員にもちかける愛の提案</li> </ul> |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・解決できない。（解決しようとする自分がいじめられる）</li> <li>・解決できる（先生に相談）</li> <li>・解決できる。（部長と協力）</li> <li>・解決できない。（皆がなんとなく賛成する中で、別の行動をする勇気がない）</li> <li>・解決できる（自分は断る意志をもつ）</li> <li>・解決できる（友達に相談する）</li> <li>・解決できる（そういうを良くないと思う部員はいる）</li> </ul> |  |

# 第1学年O組 道徳科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 かけがえのない命 D 生命の尊さ

2 本時のねらい

- 他の命との関係性の側面から、生命の重さ、大切さについて考え、生き物に対する感謝と尊敬の心を育む。

3 準備・教材

- 教材名「いのちを考える」
- 教師・・・書画カメラ、ワークシート
- 絵本『いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日』坂本義喜作（講談社）

4 関 連

道徳 「あなたが うまれた ひ」（命のかけがえのなさ）

道徳 「よく生きること、よく死ぬこと」（限りある命を生きる）

5 学習指導過程

| 段階     | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項   |
|--------|--|----|---|
| 導<br>入 | 1 人間にとっていなくなったら困る生き物とその理由を話し合う。<br>・マグロ、イカ、ウナギ、サザエ、鶏、牛、豚（人間が食べるため）<br>・ウサギ、犬（人間が飼うため）                                  | 5  | ○生徒同士の顔が見えるように、机の向きをコの字型にして授業を行う。<br>○人間、動物、植物などすべての生き物に共通していることは何かを問い、「命」に目を向けさせる。   |
|        | 2 教材を読み、話し合う。  |    |   |
| 展<br>開 | 「なぜ殺してはいけないのか」を、自分たちなりに考えよう。   |    |   |
|        | ・人間の都合で失ってしまった命に謝罪と感謝をすることで、大事な命をいただいていることに気付いてほしいから。<br>・人間の最小限の生活にとって必要なものをいただき、それ以外を残すことが、地球上のすべての命を大切にすることにつながるから。 | 30 | ○人間の命だけでなく、すべての生き物の命の尊さにも目を向けさせ、「人間が生きていくために必要な分だけ感謝していただく」ことを押さえる。<br><div>補「いのちなしには生きられない」という言葉を、どのように受け止めましたか。</div> <div>補「いのち」のどんなところが「同じ」なのだろう。</div> |
|        | 3 生活を振り返り、自己を見つめる。   |    |   |
|        | これから「かけがえのない命」を守るために、どんなことを心がけたらよいでしょう。  |    |   |
| 終<br>末 | ・何でもむやみに殺すのではなく、大事な命をいただいていることを忘れないようにしたい。<br>・もっと生きているものを保護し、人間との共存を図るべきだ。  | 40 | ○多様な意見を尊重しつつ、命について考えたことを広く発言させ、受け止める。<br>評すべての生き物に命があり、かけがえのない命を大切にしようとしている。<br>(発表、ワークシート)   |
|        | 4 本時のまとめをする。<br>○絵本『いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日』を聞く。(約7分)  | 50 | ○書画カメラで絵本を提示する。<br>○絵本の読み聞かせをして、余韻をもって授業を終える。   |

6 本時の評価

- 生かされていることに感謝し、自他の生命の重さや尊さについて自分なりに考えを広げたり深めたりしている。（発表、ワークシート）

# 第1学年O組 道徳科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 誠実な行動 A 自主, 自律, 自由と責任

2 本時のねらい

○誠実な行動についての話し合いを通して, 自分の行動に責任をもつための判断力と意欲を育む。

3 準備・教材

○教材名「裏庭での出来事」

○教師・・・場面絵, ワークシート

4 関 連

道徳 「自分で決める」(自由と責任)

5 学習指導過程

| 段階     | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|--------|--|----|--|
| 導<br>入 | 1 失敗したときに正直に謝れなかった経験を話し合う。<br>・学校で, 宿題や提出物などの忘れ物をしたとき。   | 3  | ○具体的な体験とそのときの気持ちを述べさせ, 教材への方向付けをする。  |
| 展<br>開 | 2 教材を読み, 話し合う。   |    | ○場面絵を提示しながら教師が範読する。  |
|        | 先生に言いに行こうとするが, すぐに行かなかった健二をどう思いますか。  |    |  |
|        | ・よくない。割ったから正直に話すべき。<br>・仕方ない。ボールを当てて割ったなんて言ったら, 余計に叱られるから。   | 15 | ○なぜ健二はすぐに行動できなかったのかを問い, 健二の葛藤を想起させる。   |
|        | あなたが健二なら, 先生に言いに行くことができますか。  |    |  |
| 開      | ・できない。雄一のことを考えると, 大輔の態度は納得がいかない。<br>・できる。自分だけでも誠実な態度を見せることで, 先生にも気持ちが伝わるから。<br>・自分だけ誠実な態度をすれば, 仲間に入れてもらえなくなるかもしれないという気持ちがある。 | 35 | ○単なる二択ではなく, 理由を考えさせることで, 生徒が「誠実」をどのようにとらえているのかを把握し, 補助発問をする。<br>補健二の気持ちが揺れたのは, どのようなことを恐れていたからだろう。<br>補自分の間違いを謝ることで, どのようなことが得られるのだろう。 |
|        | 3 生活を振り返り, 自己を見つめる。  |    |  |
|        | 誠実な行動をとるために, これからあなたが必要だと思うことはなんですか。   |    |  |
| 終<br>末 | ・友達の誘惑についつられてしまいそうになるが, 気持ちを抑えて, きっぱり断る気持ち<br>・相手のことばかり気にするのではなく正しいことを正しいと言える態度<br>・自分の行動に対しての責任感                            | 45 | ○自分の考えを深め広げるために, 行動面ではなく, 心情面に目を向けさせた上で自分事として捉えさせる。<br>評自分の行動に責任をもち, 誠実に伝えることの大切さについて, 自分の言葉で考えている。(発表, ワークシート)                        |
|        | 4 本時のまとめをする。<br>○本時で大切だと思ったこと, 学んだことワークシートに記入する。   | 50 | ○これまでの話し合いを踏まえて, 自分の考えを書かせる。   |

6 本時の評価

○登場人物の行動や心情を通して, 人の弱さを克服して, 誠実に言動することの大切さに気付いている。  
(発表, ワークシート)

第2学年〇組 道徳科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 SNSの安全な使い方 A 節度、節制

2 本時のねらい

- SNSトラブルの原因は、欲望や衝動に負けてしまう人の心の弱さであることに気付き、節度をもってSNSを利用しようとする態度を育てる。

3 準備・教材

- 教材名「SNSとどうつき合う？」
- 教師・・・学習プリント、掲示物（拡大したSNS画面）

4 関 連

道徳 「留学で考えさせられたお金」（自制心をもつ）

5 学習指導過程

| 段階                                   | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|--------------------------------------|---|----|--|
| 方<br>向<br>付<br>け                     | 1 SNSのよいところについて話し合う。<br>・いつでも友達や家族に連絡できる。<br>・動画や写真をシェアできる。<br>・複数に同時に連絡を送れる。<br>・メッセージを見たか確認できる。<br>・不特定多数に募集をかけられる。<br>・有名人にメッセージが送れる。<br>・誰かに共感してほしいときに、つぶやきを発信すれば、誰かが反応してくれる。<br>・得意なことを動画で発信できる。   | 5  | ○ SNSとはソーシャルネットワークサービスのことで、個人間でのコミュニケーションができるサービスであることを確認する。<br>○ 具体的なSNSを細かく紹介すると、SNSを利用したことのない生徒の授業への意欲が下がるので踏み込みすぎないように留意する。<br>○ SNSを利用したことのない生徒でも授業に積極的に参加できるよう、SNSの画面を黒板に拡大掲示し、イメージを共有させる。   |
| 価<br>値<br>の<br>追<br>求<br>・<br>把<br>握 | 2 教材を読み、話し合う。<br>主人公の洋子のSNSの使い方間違えていると思うところはどこですか。また、うまく使っていると思うところはどこですか。<br>○ グループで話し合う<br>〈間違えているところ〉<br>・ 1週間しか交流していない知らない人と会おうとしたところ<br>・ 知らない人に返信したところ<br>・ 自分の情報を教えたところ<br>・ ネットの写真を信じたところ<br>・ 親にも内緒にしたところ<br>・ 合わない意見を無視するところ<br>・ 学校の友達を信用してないところ<br>〈うまく使っているところ〉<br>・ 友達とは最低限の連絡をとるためだけに使用しているところ<br>・ メッセージの内容に用心してい |    | ○ グループで発表させ、友人と自分の節度の違いが感じられるように声かけをする。<br>○ 同じ行為でも、間違いと感じる生徒とうまく使っていると感じる生徒がいた場合、なぜそう思うか意見交換させ、節度について考えを深めさせる。<br>○ グループをまわり、適切な補助発問を投げかけることで、価値に迫らせる。<br>補 この人に会いたいという衝動に駆られても、冷静に判断できますか。<br>補 悩んでいるときに、寄り添ってくれる相手がSNSの人なら、信用して返信したくなりませんか。 |



|       |  |    |   |
|-------|--|----|---|
| 価値の追求 | るところ<br>・知らない相手に言いたいことを自由につぶやいているところ<br>・一人で悩み込こまないようSNSで発散しているところ<br>・友達の分からないところでつぶやいているところ<br>・合わない意見を無視するところ<br>・うまく使っていないと思う。<br>○全体で話し合う | 25 | 補親と意見が合わない中、親に相談できますか。<br>補1週間しか交流していないから会ってはだめなら、1か月交流していたら会ってもいいですか。<br>補学校の友達とは最低限の連絡しか取らないことが、どうしてうまく使っていることになるのですか。どんなよいことがありますか。<br>○うまく使っていると感じるところには、行動の背景に自身の安全や心身の健康を重視する考えがあることに気付かせ、その上で、ときに人は欲望や衝動に駆られて安全や健康を軽視してしまう弱さがあることに触れる。 |
|       | ・洋子がSNSでのトラブルに遭わないために、どんなアドバイスをしますか。   | 40 | ○洋子に「少しくらいならいいか。」「1回くらいならいいか。」という心の弱さがあることを押さえる。<br>○行動面だけでなく、心情に関するアドバイスもさせるよう声かけをし、必要に応じて補助発問をする。<br>補洋子は見ず知らずの男の人と会うことを少しも危険と思わなかっただろうか。<br>補危険かもしれない分かっているも、会いに行った洋子さんをどう思いますか。<br>評安全な生活を送るために何が大切か考えている。(発表)                            |
|       | 3 生活を振り返り、自己を見つめる。   |    |   |
| 価値の自覚 | SNSを使用する上で心がけることは何だろう。<br>・少しでもやめた方がいいと感じることは、やらない。<br>・欲望に負けない気持ちをもつ。<br>・もしかしたら危険が潜んでいるかもしれないという意識が大切  | 47 | ○学習プリントに意見を記入させ、全体場で発表させる。<br>評安全のために心がけるべき節度や節制について考えている。<br>(学習プリント、発表)   |
| まとめ   | 4 教師の説話を聞く。  | 50 | ○SNSでの過去に起きた事件や、節度、節制を心がけて行動し、危険を回避できた経験を話す。  |

## 6 本時の評価

- SNSを安全に使用するためには、節度を守り節制に心がけることが大切だと気付いている。  
(学習プリント、発表)

第2学年〇組 道徳科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 思いやりのかたち B 思いやり，感謝

2 本時のねらい

- 被災少女の話聞いた「私」の対応を通して，思いやりある行動について考えを深める。

3 準備・教材

- 教材名「語りかける目」
- 教師・・・写真，ワークシート

4 学習指導過程

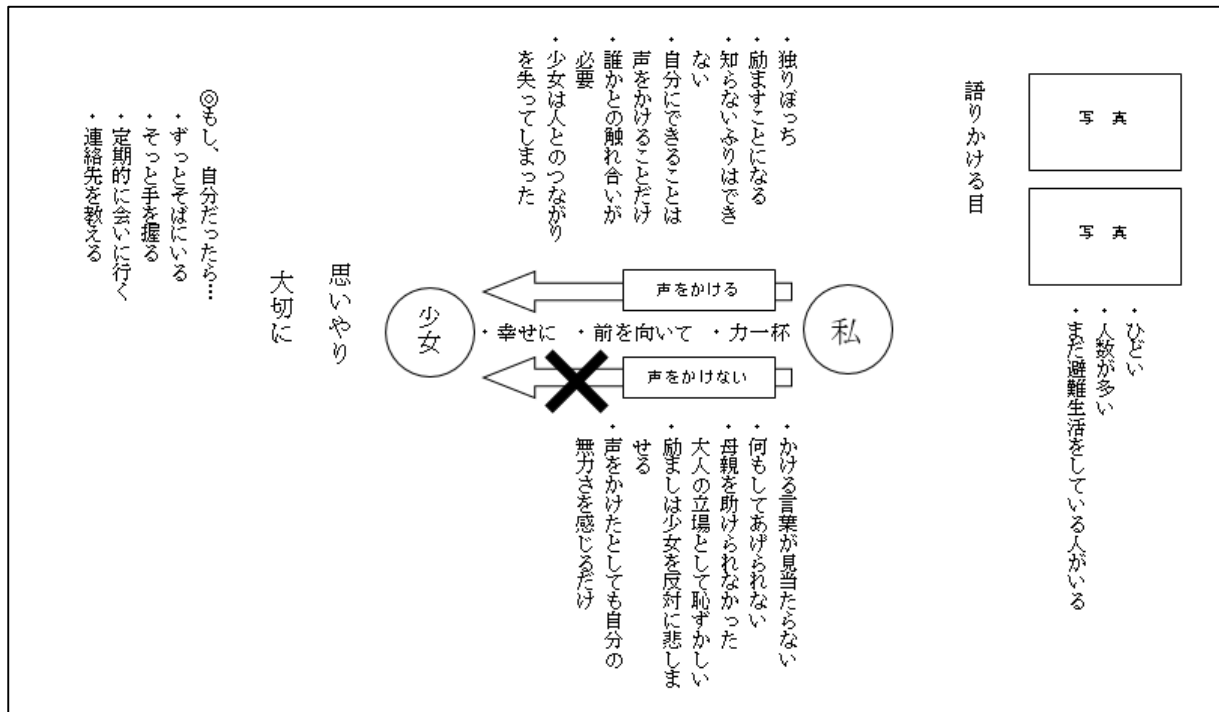
| 段階  | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|-----|--|----|--|
| 導 入 | 1 教材への関心をもつ。<br>○東日本大震災の写真を見たり，被災者数や死者数を知ったりする。<br>・多くて驚いた。<br>・自分たちの市町以上の人数だ。<br>・まだ避難生活をしている人がいるとテレビで見た。                     | 5  | ○被災者数は当時約50万人，死者数は約15,000人であったことを伝える。<br>○自分の市町の人口や，知多半島5市5町の総人口は約60万人であることを伝える。<br>○数名の生徒に感想を聞き，クラス全体でその悲惨さを共有する。 |
| 展 開 | 2 教材を読み，話し合う。  |    | ○範読し，あらすじを確認する。  |
|     | 「私」は，少女にはどのように生きてほしいと思っているのでしょうか。  |    |  |
|     | ・幸せに<br>・前を向いて<br>・母親の骨を大切にしながら<br>・絶望せず，何事にも諦めずに<br>・母親の分まで力一杯  | 15 | ○似たような表現でも違いを認め，なるべく多くの生徒に発表させ，意見を言いやすい雰囲気づくりを心がける。<br>○赤の他人ではあるが，「私」には少女への思いがあることを押さえる。                           |
|     | 「私」は，少女に声をかけるべきなのでしょうか。  |    |  |
| 開   | 〈かけるべき〉<br>・独りぼっちでかわいそう。<br>・励ますことになる。<br>・知らないふりはできない。<br>・自分にできることは声をかけることだけ。<br>・少女は誰かとの触れ合いが必要<br>・少女は人とのつながりを失ってしまった。     |    | ○少女の話聞いた後に，逃げてしまった「私」の行動について考えることを通して，価値に迫る。   |
|     |  |    | 補 全く知らない人に声をかけられて，少女に何か伝わるのでしょうか。  |
|     |  |    | 補 中途半端に声をかけても，何もしてあげられないのではないのでしょうか。   |
|     | 〈かけるべきではない〉<br>・かける言葉が見当たらない。<br>・何もしてあげられない。<br>・母親を助けられなかった大人の立場として恥ずかしい。<br>・励ましは少女を反対に悲しませてしまう。<br>・声をかけたとしても自分の無力さを感じるだけ。 |    | ○迷っている生徒にも意見を聞き，ありのままの考えを引き出したい。<br>補 逃げてしまっは少女への思いが伝わらないのではないのでしょうか。<br>補 警察官の対応として正しいのでしょうか。                     |
|     |  |    | 評「私」の行動の是非について，自分の考えをしっかりと持っている。(発表)   |

|    |  |    |  |
|----|--|----|--|
| 展  | <ul style="list-style-type: none"> <li>少女のことを思いやっている。</li> <li>少女を大切に考えている。</li> <li>自分にできることはないか考えている。</li> </ul>   | 30 | <div> <div>補</div> <div> <p>どちらにも共通していることは何でしょうか。</p> <p>○声をかける、かけないに関わらず、どちらの立場にも少女に対する思いやりの心があったことを確認する。</p> </div> </div>   |
|    | 3 生活を振り返り、自己を見つめる。   |    |  |
| 開  | もし、自分だったら少女に対してどんな対応をしますか。   |    |  |
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>話しかけないとしても、逃げずにそばにいる。</li> <li>そっと手を握る。</li> <li>その場を離れるとしても、定期的に会いに行く。</li> <li>連絡方法を伝え、関係を途切れないうようにする。</li> </ul> | 40 | <p>○声をかける、かけない以外の方法で、納得のいく対応がないか投げかける。</p> <p>○「思いやりある行動＝言葉をかける」だけではないことに気付かせる。</p> <p>○悔しい思いや悲しい思いをした経験などを思い起こさせ、実際に身近に起こりうることであることを捉えさせる。</p> <p>評思いやりある行動について、考えている。（ワークシート）</p> <p>○これまでの話し合いをふまえ「私」のことでなく、自分の考えを書かせる。</p> |
| 終末 | 4 本時の振り返りをする。<br>○授業で感じたこと、考えさせられたことをワークシートに記入する。  | 50 |  |

## 5 本時の評価

- 思いやりある行動とは、声をかけるだけでなく、相手やその場、その時に応じたそれぞれの形があることに気付いている。（発表、ワークシート）

## 6 板書計画



### ※参考（よりよい授業づくりに向けて）

- 終末時に、復興に関する動画（例：『復興の狼煙（のろし）（4分間）』）を見せて、余韻をもって授業を終える手法もある。
- 導入時に、震災に関する動画（ニュース映像等）を見せて状況を理解させる手法もある。

# 第2学年〇組 道徳科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 仕事への向き合い方 C 勤労

2 本時のねらい

- 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて自分の仕事に誇りをもち、社会に貢献しようとする心情を育てる。

3 準備・教材

- 教材名「清掃はやさしさ」
- 教師・・・デジタル資料集、ピクチャーカード

4 学習指導過程

| 段階  | 学 習 活 動   | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|-----|---|----|--|
| 導 入 | 1 デジタル資料集の動画資料を視聴し、「新津春子さん」について知る。<br>○ 動画を観て感じたことをノートに書く。<br>・ 空港の清掃は、広い場所を行わなければならないので、大変そうだ。   | 5  | ○ 主人公である「新津春子さん」について思ったことを自由に考えさせる。<br>○ 感想を数人に発表させ、教材への興味をもたせる。<br>○ 空港の清掃の大変さを実感させる。   |
| 展 開 | 2 教材を読んで話し合う。<br>銀賞という結果を受けて、新津さんはどう思いましたか。<br>・ あんなにがんばったのに。<br>・ 何が足りなかったのだろう。  | 10 | ○ 優勝しか考えていなかったのに、銀賞で落ちこんだことを押さえる。<br>○ 「やさしさが足りない」という言葉にショックを受けたことを確認する。   |
|     | 上司の言葉にショックを受けた私が、変わろうと思ったのは、なぜでしょうか。<br>・ 「やさしさ」を入れて仕事をしようと思ったから。<br>・ 清掃のことで、人に負けたくないプライドがあったから。<br>・ 本当のプロになろうと思ったから。                             | 20 | ○ 座席が近い人で意見を交換させる。<br>○ 発表をさせながら、「やさしさ」「清掃のプロ」といった言葉を引き出す。   |
|     | 「清掃のプロ」とは、どういう人だろうか。<br>・ 清掃に関する技術と心配りがある。<br>・ 心から楽しんで、笑顔で清掃の仕事に取り組む。<br>・ 早く効率的に仕事をするだけでなく、気付きやお客様に対する心配りがある。<br>・ 技術も大事だが、周りへの配慮できる人が、プロ中のプロ     | 40 | ○ 自分の仕事に誇りをもつことで、仕事の技術も上がり、楽しんで仕事をするようになったことを押さえる。<br>補 清掃に必要な「やさしさ」って何だったろうか。<br>評 周りのことを考えて仕事をするのが、楽しさや自信につながることを理解している。（発表、ノート） |
| 終 末 | 3 自分自身について振り返る。<br>新津さんの姿から、自分の生活に生かせるところはどんなところですか。<br>・ 今までは、係の仕事を早く終わらせることしか考えていなかったが、これからは人への心配りを忘れないようにしたい。<br>・ 将来、プロと呼ばれる仕事ができるように、今から心がけたい。 | 47 | ○ 学級や部活動などでの、自分の仕事や役割についても想起させ、どのように向き合えばよいか考えさせる。<br>評 自分の仕事に責任をもつことの意義や喜びについて、考えを深めている。（ノート）                                     |
|     | 4 教師の話聞き、本時のまとめをする。   | 50 | ○ 職場体験に向けての心構えについても触れるようにする。   |

5 本時の評価

- 新津春子さんの行動と考え方から、仕事においては行動や技術だけでなく、やさしさなどの気持ちや心配りが大切であることを理解し、働くことについて考えを深めている。（発表、ノート）

第3学年〇組 道徳科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 差別や偏見をなくすために B 相互理解, 寛容

2 本時のねらい

- 筆者の生き方について話し合うことで、周りの人へ寛容な気持ちを持ち、差別や偏見をなくすことについての考えを深める。

3 準備・教材

- 教材名「あなたは顔で差別をしますか」
- 教師・・・振り返り用紙

4 学習指導過程

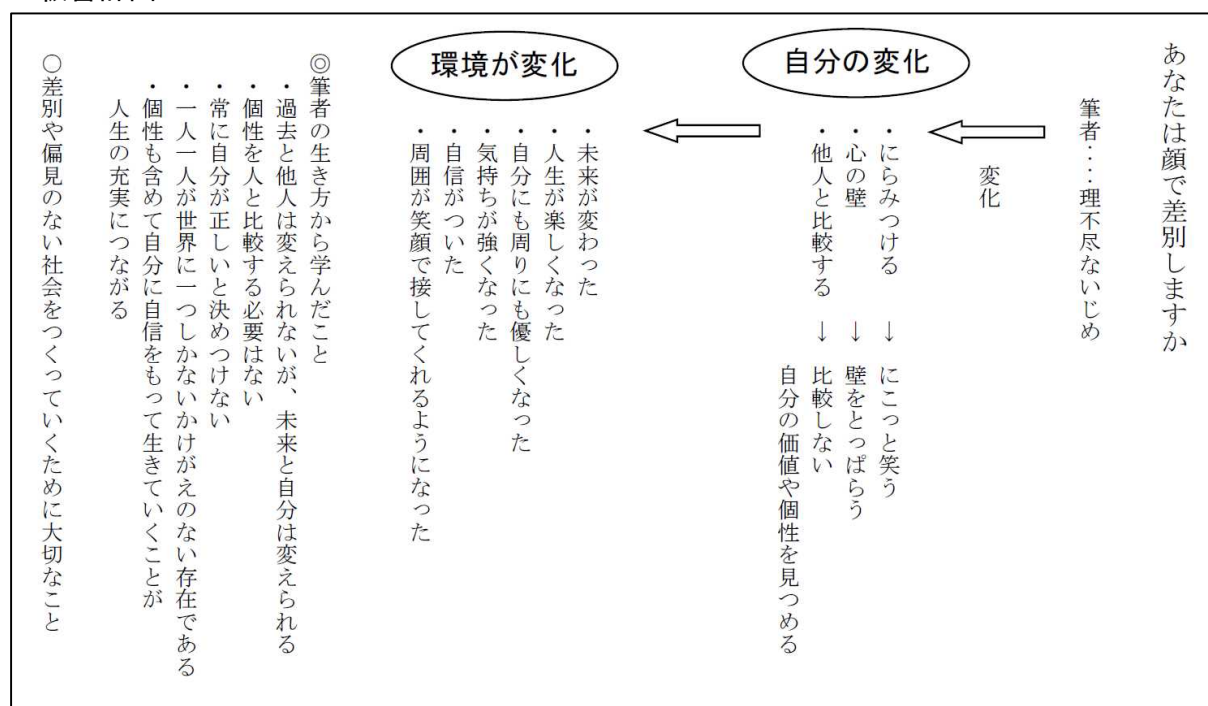
| 段階     | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項   |
|--------|--|----|---|
| 意識を向ける | 1 教材への関心をもつ。<br>○外見だけで人を判断してしまったことはありますか。<br>・外見で人をからかったことがある。<br>・自分の苦手なタイプの人と思ったが話してみて仲よくなれた。  | 5  | ○内容を無理に聞き出すことはせず、話せる生徒のみ発表させる。<br>○本時は外見で差別をされた人の話であることを伝え、範読をする。   |
|        | 2 教師の範読を聞き、教材について話し合う。   |    | ○小見出しの四つのまとまりごとに範読し、内容を簡単に確かめていく。   |
| 話し合う   | 筆者は自分のどんなところを変えたのだろうか。   |    |   |
|        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・すれ違う人をにらみつける。<br/>→にこっと笑う。</li> <li>・心の壁をつくる。<br/>→壁をとっばらう。</li> <li>・他人と比較する。<br/>→自分の価値や個性を見つめる。</li> <li>・未来が変わった。</li> <li>・人生が楽しくなった。</li> <li>・自分に自信をもつようになった。</li> <li>・周囲が影響を受けて、笑顔で接してくれるようになった。</li> </ul> | 15 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○四つ目の小見出し「自分と未来は変えられる」の文章中から捉えさせる。</li> <li>○変えたところだけでなく、それによって筆者の人生にどんな変化があったのか補助発問によって確かめる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>補 変えたことによって、筆者にどのような変化があったのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○筆者の人生が好転したことを押さえて、中心発問へつなげる。</li> </ul> |
| 話し合う   | 筆者の生き方から、どんなことを学びましたか。   |    |   |
|        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられる。</li> <li>・個性を人と比較する必要はない。</li> <li>・常に自分が正しいと決めつけない。</li> <li>・一人一人が世界に一つしかないかけがえのない存在である。</li> <li>・個性も含めて自分に自信をもって生きていくことが人生の充実につながる。</li> </ul>  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○筆者から学んだことを考えさせることで、自分自身を見つめ直すきっかけとしたい。</li> <li>○どの場面からでもよいことを伝えたり、些細な考えの違いも認めたりして、多様な意見を出させたい。</li> <li>○全体で話し合う前に、席が近くの生徒同士で意見交換をすることで話しやすい雰囲気をつくる。</li> </ul>  |

|      |   |    |   |
|------|---|----|---|
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を外見だけでなく、中身から理解することが大切である。</li> </ul>   | 30 | <p>評筆者の生き方から、他者を理解する気持ちや寛容な心をもつことの大切さに気付いている。（話し合い）</p> <p>○話し合いを踏まえ、自分たちのこととして考え、価値にせまる。</p>         |
| 深める  | 3 話し合いを踏まえて、自己の生活について考える。   |    |   |
|      | <p>差別や偏見のない社会をつくっていくためには、どんなことが大切なのだろうか。</p>  |    |   |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のことを否定しない。</li> <li>・外見だけで人を判断しない。</li> <li>・中身もきちんと見ようとする。</li> <li>・外見も中身も、それぞれの個性として理解する。</li> </ul> | 45 | <p>○学校やクラスも小さな「社会」であることを押さえ、自分のこととして考えさせる。</p> <p>○考えが浮かばない生徒には、筆者に対して自分自身がどのように接することができるのか考えさせる。</p> |
| 見つめる | 4 自己を見つめる。<br>○今日の授業で考えたことを振り返り用紙に記入する。   | 50 | <p>評差別や偏見をなくするために必要なことについて、自分なりの考えを記入している。（振り返り用紙）</p>  |

## 5 本時の評価

- 差別や偏見のない社会をつくるために大切なことについて、自分なりの考えや意見をもつことができている。（話し合い、振り返り用紙）

## 6 板書計画



### 第3学年〇組 道徳科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 人間愛に従って生きる D よりよく生きる喜び

2 本時のねらい

- マザー＝テレサの生き方に触れることで、どんな困難にも負けずに、強く生きようとする意欲を高める。

3 準備・教材

- 教材名「あふれる愛」
- 教師・・・ワークシート

4 学習指導過程

| 段階  | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項   |
|-----|--|----|---|
| 導 入 | 1 教材への関心をもつ。<br>○マザー＝テレサという人を知っていますか。<br>・聞いたことはある。<br>・伝記になっている人  | 5  | ○知っている生徒には、内容を話させることで、皆でその知識を共有する。<br>○マザー＝テレサの半生について学ぶことを知らせ、教材の範読をする。   |
| 展 開 | 2 教材を読み、話し合う。  |    | ○範読をし、あらすじを確認する。  |
|     | マザー＝テレサの行動や言葉で心に残ったのはどんなところですか。  |    |   |
|     | ・ノーベル平和賞受賞に全く興味を示さないところ<br>・院長に対しても臆せずに自分の気持ちをぶつけたところ<br>・安らかに死を迎えられる家を即座につくったところ<br>・人間にとって最も悲しむべきことは、自分はこの世に不要な人間なのだと思いこむこと<br>・現世の最大の悪は、そういう人に対する愛が足りないことだ<br>・ぼろきれのような人たちの世話をしているところ<br>・せめて死の瞬間だけでも人間らしくさせてあげたい |    | ○どの場面のことでよいとため、多くの生徒からの意見を引き出したい。<br>○場面に偏りがある場合、理由を聞いて多面的に捉えていることを確かめる。  |
|     | <u>生き方</u><br>・かっこいい。 ・あこがれる。<br>・現実的には、真似はできない。   | 30 | <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">補 どうしてマザー＝テレサはこのような言動ができるのでしょうか。</div><br>○どんな困難なことにもマザー＝テレサは負けず、「人間愛」の信念を貫いていることに気付かせたい。<br>評 マザー＝テレサは、人間としての心の弱さを乗り越える信念をもっていることに気付いている。（発表）<br><div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">補 こんなマザー＝テレサの<u>生き方</u>をどう思いますか。</div><br>○ <u>生き方</u> についての意見は、別にまとめて板書する。 |
| 終 末 | 3 生活を振り返り、自己を見つめる。   |    |   |
|     | マザー＝テレサの生き方で、自分の生活に生かせそうなところはどんなところですか。  |    |   |
|     | ・周りだけでなく、自分に直接関係のない人にも愛する気持ちや感謝する気持ちをもっているところ。<br>・どんな困難にも負けない自分の強い信念をもっているところ。  | 40 | ○「強い意志」「生命の尊さ」など、他項目に関する内容も認めていく。<br>評 マザー＝テレサの生き方から、自分自身も強く生きていこうとする気持ちをもっている。（ワークシート）   |
|     | 4 本時の振り返りをする。<br>○ワークシートに記入をする。  | 50 | ○これまでの話し合いを踏まえて、生徒自身のことについて書かせる。  |

5 本時の評価

- マザー＝テレサの困難にも負けない生き方から、自分も強く生きていこうとする気持ちをもっている。（発表、ワークシート）

第3学年〇組 道徳科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 命を大切にすることは D 生命の尊さ

2 本時のねらい

- 命の尊さを訴えるカーターさんの思いと行動から、かけがえのない命を大切にしようとする心情を育てる。

3 準備・教材

- 教材名「ハゲワシと少女」
- 教師・・・掲示物（拡大した写真）、学習プリント

4 関 連

道徳 「いのちの花プロジェクト」（命の重さ）

道徳 「家族の思いと意思表示カード」（自他の生命の尊重）

5 学習指導過程

| 段階  | 学 習 活 動  | 時間 | 指 導 上 の 留 意 事 項  |
|-----|--|----|--|
| 導 入 | 1 黒板に掲示された写真について考える。<br>・少女がかわいそう。<br>・こわい。おそろしい。<br>・こういう国もあると知って驚いた。<br>・見ているだけでつらい。   | 5  | ○ 初めは少女の部分を隠しておく。<br>○ ハゲワシは腐肉食のため、隠された部分には弱った獲物がいることを想像させる。<br>○ 少女の腕や足の細さに注目させ、栄養不足のため立つことすら厳しい状況であることを押さえる。   |
|     | 2 写真について話し合う。<br>あなたがこの場にいたらどうしますか。<br>・ハゲワシを追い払う。助けを呼ぶ。<br>・少女に食べ物をあげる。   | 10 |  |
| 展 開 | 3 本教材を読み、話し合う。<br>カーターさんが泣き続けていたのはなぜでしょう。<br>・この村では人間らしい生活ができていなかったから。<br>・目の前の命が消えてしまいそうで悲しく思ったから。<br>・目の前の命が危険にさらされているのに、写真を撮ることを優先したから。<br>・少女を助けるよりも先に、写真を撮った自分に罪悪感を感じたから。<br>・自分一人では何もできないという無力さを感じたから。<br>・何とかして命を救わなければならないという責任を感じたから。<br>・命が失われていくのが当たり前の様子に衝撃を受けたから。 | 42 | ○ 価値に迫らせるために、必要に応じて補助発問を投げかける。<br>補カーターさんは目的としていた写真が撮れたことに、うれしさはなかったのだろうか。<br>補カーターさんがハゲワシと少女の写真を撮ったのには、どんな思いがあったからだろう。<br>補カーターさんは、スーダンで飢え死にする人が数十万人いることを知った上で来ているのに、なぜそんなに衝撃を受けたのだろう。<br>評カーターさんの命を尊ぶ姿勢について考えている。（学習プリント、発表） |
|     | 4 自己を見つめる。<br>命について考えたことを書きましょう。<br>・命は大切だと分かっていたが、積極的に命を守ろうと行動することが大切だと改めて感じた。  | 50 |  |
| 終 末 |  |    | ○ 学習プリントに考えを書かせる。<br>○ 本音をじっくりと書くことができるようにするために、全体で発表をさせない。  |

6 本時の評価

- すべての命がかけがえのないものであることに気付き、命の尊さについて考えている。

（学習プリント、発表）



令和〇〇年度 第1学年 道徳教育全体計画別葉(例)

|           |                   |  |  |   |   |   |  |   |  |   |   |  |   |                                 |  |  |
|-----------|-------------------|--|--|---|---|---|--|---|--|---|---|--|---|---------------------------------|--|--|
| 1年生重点目標   |                   | ・目標の達成を目指し、やり抜く強い意志をもって努力する態度を身につける。<br>・温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対して思いやりの心をもつ。<br>・社会の一員であるという自覚を深め、周りの人々や社会全体のために望ましい行動をとる。 |  |   |   |   |  |   |  |   |   |  |   | 学校の道徳教育重点目標をもとに設定した、学年の重点目標を示す。 |  |  |
| 月ごとに示す。   |                   | 4月   | 5月   | 6月  | 7月  | 8月  | 9月   | 10月   | 11月  | 12月   | 1月  | 2月   | 3月  |                                 |  |  |
| 行事        | 学校                | 入学式<br>始業式<br>離任式<br>大掃除   | 風水害避難訓練<br>前期生徒総会<br>緑化作業  | 地震避難訓練<br>学校保健委員会   | 終業式<br>部活動激励会<br>知多地方体育大会   | 全校出校日   | 始業式<br>大掃除<br>後期生徒会役員選挙<br>歯科巡回指導  | 文化祭<br>体育祭  | 火災避難訓練<br>合唱コンクール  | 終業式<br>人権週間   | 始業式   | 後期生徒総会<br>3年生を送る会  | 卒業式<br>修了式<br>前期生徒会役員選挙                                     |                                 |  |  |
|           | 学年                | 身体計測<br>交通安全教室<br>草花定植育苗<br>新入生歓迎会<br>知能検査・学力テスト   | オリエンテーション合宿<br>部活動懇談会<br>体力テスト<br>中間テスト  | 情報モラル講演会<br>期末テスト<br>教育相談   | 保護者会<br>学年集会<br>マナー講座   | 職場見学  | 身体計測   | 中間テスト<br>交通安全教室   | 期末テスト<br>食に関する指導<br>教育相談   | 学年集会<br>保護者会  | 実力テスト<br>百人一首大会<br>身体計測                                       | 学年末テスト<br>教育相談   | 学年集会<br>保護者会  |                                 |  |  |
|           | 勤労・奉仕             | 校舎内整備<br>大掃除<br>交通ボランティア   | 交通ボランティア<br>花ボランティア  | 交通ボランティア  | 交通ボランティア<br>大掃除   | 地域清掃<br>校内除草作業<br>サマーボランティア   | 交通ボランティア<br>花ボランティア  | 交通ボランティア  | 交通ボランティア   | 交通ボランティア<br>大掃除                                       | 交通ボランティア  | 交通ボランティア<br>花ボランティア  | 交通ボランティア<br>大掃除   | 交通ボランティア<br>大掃除                 |  |  |
| 道徳科       |                   | 1 あなたが うまれた ひ<br>D-(19)生命の尊さ<br>2 おはよう<br>B-(7)礼儀  | 3 古びた目覚まし時計<br>A-(2)節度、節制<br>4 不自然な独り言<br>B-(6)思いやり、感謝<br>5 自分で決める<br>A-(1)自主、自律、自由と責任 | 6 「どうせ無理」をなくしたい<br>A-(4)希望と勇気、克己と強い意志<br>7 ルールとマナー<br>C-(10)遵法精神、公德心<br>8 「いじり」? 「いじめ」?<br>B-(9)相互理解、寛容 | 9 こめんね、おばあちゃん<br>C-(14)家族愛、家庭生活の充実<br>10 まだ進化できる 〜イチロー選手の<br>生き方〜<br>A-(3)向上心、個性の伸長 |   | 11 最強の敵 最大の友<br>B-(8)友情、信頼<br>12 選ぶということ<br>C-(12)社会参画、公共の精神<br>13 裏庭のできごと<br>A-(1)自主、自律、自由と責任 | 14 ー1日前に戻れるとしたら<br>A-(2)節度、節制<br>15 富士山を守っていくために<br>D-(20)自然愛護<br>16 けやき中を誇りに<br>C-(15)よりよい学校、集団生活の充実<br>17 あなたならどうしますか<br>C-(11)公正、公平、社会正義 | 18 ショートパンツ初体験 in アメリカ<br>B-(9)相互理解、寛容<br>19 もっとない<br>B-(6)思いやり、感謝<br>20 いのちを考える<br>D-(19)生命の尊さ | ・道徳の年間指導計画に従い、「教材名」と「内容項目」の番号を入れる。                    |   |  |   |                                 |  |  |
| 地域・家庭との連携 |                   | 交通安全指導<br>道徳教育リーフレット配付   | モラルBOXでの活動紹介   | 道徳科の授業公開  | 保護者会での情報交換<br>職場体験に向けたマナー講座   | 職場見学  | 道徳科の授業公開   | 文化祭でのボランティア活動発表   | 情報モラル講習会   | 保護者会での情報交換  |   | 道徳教育リーフレット作成   | 保護者会での情報交換  |                                 |  |  |
| 特活        | 学活                | 中学校生活の出発<br>A-(2)節制  | 学級の組織作り<br>C-(13)勤労  | 歯科指導<br>A-(2)節制   | 学級の諸問題<br>B-(8)友情<br>夏休みの過ごし方<br>A-(2)節制  | 【地域・家庭などとの連携の方法】<br>家庭・地域社会・他の学校や関係機関との連携の方法を具体的に記述する。<br>・協力体制づくり<br>・道徳科の授業公開<br>・広報活動<br>・保護者や地域の人々の参加や協力の内容 |  |   |  | 喫煙防止教室<br>D-(19)生命の尊さ<br>2学期の反省<br>A-(1)自律<br>A-(2)節制 | 3学期を迎えて<br>A-(1)自律、A-(2)節制<br>生徒総会に向けての話し合い<br>C-(15)よりよい学校生活 | 進路の計画<br>A-(3)個性の伸長<br>性の指導<br>B-(9)相互理解                     | 学年レクの計画と実践<br>C-(15)集団生活の充実<br>1年間の反省<br>A-(1)自律<br>A-(2)節制 |                                 |  |  |
|           | 部活動<br>委員会<br>生徒会 | 新入生を迎える会<br>C-(15)よりよい学校生活   | 給食の準備と片付け<br>C-(13)勤労  | 学校保健委員会<br>A-(2)節制  | 部活動激励会<br>B-(6)思いやり<br>C-(15)よりよい学校生活   |   |  |   |  |   |   | 3年生を送る会<br>B-(6)感謝   | 1年間の活動の反省<br>A-(1)自由と責任                                     |                                 |  |  |
| 教科        | 国語                | にじの見える橋<br>A-(3)向上心  | 季節のしおり 春<br>D-(20)自然愛護   | 豊かな言葉<br>B-(7)礼儀  | 江戸からのメッセージ<br>C-(17)我が国の伝統と文化の尊重<br>季節のしおり 夏<br>D-(20)自然愛護                          |   | 星の花が降るころに<br>B-(8)友情<br>大人になれなかった弟たちに・・・<br>D-(19)生命の尊さ  | 蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から―<br>C-(17)我が国の伝統と文化の尊重<br>季節のしおり 秋<br>D-(20)自然愛護  | 流水とわたしたちの暮らし<br>D-(20)自然愛護<br>C-(18)国際理解   | 調べたことを報告しよう<br>C-(16)郷土を愛する態度                         | 少年の日の思い出<br>A-(1)自由と責任  | 季節のしおり 冬<br>D-(20)自然愛護                                       | 言葉を探検する<br>A-(6)真理の探究                                       |                                 |  |  |
|           | 社会                | ★私たちが住む世界(地理分野)<br>C-(18)国際理解  | 世界各地の人々のくらし(地理分野)<br>C-(18)国際理解  | 歴史のとらえ方(歴史分野)<br>C-(16)我が国の伝統と文化の尊重<br>古代までの日本(歴史分野)<br>C-(16)我が国の伝統と文化の尊重                              | 古代までの日本(歴史分野)<br>C-(16)我が国の伝統と文化の尊重   |   | 世界の州のようす(地理分野)<br>C-(21)国際理解   | 世界の州のようす(地理分野)<br>C-(22)国際理解  | 古代までの日本(歴史分野)<br>C-(17)国を愛する態度   | 古代までの日本(歴史分野)<br>C-(17)国を愛する態度                        | 世界の国を調べてみよう(地理分野)<br>C-(22)国際理解                               | 私たちが住む日本(地理分野)<br>C-(22)国際理解<br>中世の日本(歴史分野)<br>C-(17)国を愛する態度 | 中世の日本(歴史分野)<br>C-(17)国を愛する態度                                |                                 |  |  |
|           | 数学                | 正の数・負の数<br>A-(5)真理の探究<br>C-(10)公德心   | 正の数・負の数<br>A-(5)真理の探究<br>C-(10)公德心   | 各教科等の方針に基づいて進める道徳性の育成に関わる指導の方針や内容及び時期を整理して示す。   |   |   |  |   |  |   |   |  |   |                                 |  |  |
|           | 理科                | 植物の世界(2分野)<br>D-(20)自然愛護   | 植物の世界(2分野)<br>D-(20)自然愛護   | 植物の世界(2分野)<br>D-(20)自然愛護<br>身のまわりの物質(1分野)<br>D-(20)自然愛護   | 身のまわりの物質(1分野)<br>D-(20)自然愛護   |   | 身のまわりの物質(1分野)<br>D-(20)自然愛護  | 身のまわりの物質(1分野)<br>D-(20)自然愛護   |  |   |   |  |   |                                 |  |  |
|           | 音楽                | 全体の曲想を感じ取って<br>A-(4)希望と勇気  | リコーダーの基礎<br>A-(1)自主<br>曲想の変化を感じ取って   | 声部の役割を生かして<br>B-(6)思いやり   | 言葉と旋律とのかかわり<br>C-(17)我が国の伝統と文化の尊重   |   | 郷土の民謡や芸能の特徴<br>C-(17)我が国の伝統と文化の尊重  | 歌詞の内容や曲想を感じ取って<br>A-(5)創造   |  |   |   |  |   |                                 |  |  |
|           | 美術                | いろいろなスケッチ<br>D-(20)自然愛護<br>C-(15)よりよい学校生活  | 使いやすさを求めて<br>A-(5)創造   | 自然の形や色<br>D-(21)感動  | 自然の形や色<br>D-(21)感動  |   | 自然の表情<br>D-(21)畏敬の念  | 文字や形で伝える<br>A-(5)創造   |  |   |   |  |   |                                 |  |  |
|           | 体育                | 体づくり運動<br>A-(2)節制  | 陸上競技<br>A-(3)向上心<br>保健「体の成熟」<br>D-(19)生命の尊さ  | 球技<br>C-(11)公正・公平<br>C-(15)集団生活の充実  | 水泳<br>A-(2)節制<br>D-(19)生命の尊さ  |   | 体育理論<br>A-(5)真理の探究<br>保健「心の健康」<br>D-(19)生命の尊さ  | 器械運動<br>A-(3)向上心  |  |   |   |  |   |                                 |  |  |
|           | 技術                | ガイダンス  | ★情報通信ネットワークと情報モラル<br>A-(1)自律<br>B-(7)礼儀  | デジタル作品の設計・製作<br>A-(5)創造   | 各教科等の指導において「私たちの道徳」を活用する単元名に★などの印をつける。  |   |  |   |  |   |   |  |   |                                 |  |  |
|           | 家庭                | ガイダンス  | ★中学生の食生活と栄養<br>A-(2)節度<br>D-(19)生命の尊さ<br>B-(6)感謝                                       | ★日常食の献立と食品の選び方<br>A-(2)節度<br>B-(6)感謝  |   |   |  |   |  |   |   |  |   |                                 |  |  |
|           | 英語                | Warm-up  | ようこそ、日本の学校へ<br>C-(18)国際理解<br>B-(9)相互理解<br>みんな友達<br>C-(18)国際理解<br>B-(8)友情               | はじめてまして、ブラウン先生<br>C-(18)国際理解<br>楽しい昼休み<br>C-(18)国際理解<br>B-(9)相互理解                                       | 楽しい昼休み<br>B-(11)相互理解  |   | お祭り大好き<br>C-(13)勤労<br>ベッキーのおばあちゃん<br>C-(18)国際理解  | 電話での応答<br>B-(7)礼儀<br>サンフランシスコの学校<br>C-(18)国際理解<br>B-(9)相互理解   | 学校のホームページ<br>C-(15)よりよい学校生活<br>グリーティングカード<br>B-(6)思いやり   | 一日の生活<br>A-(2)節制                                      | 観光地から<br>C-(18)国際理解   | 一年の思い出<br>B-(8)感謝  | 絵はがき<br>B-(8)友情   |                                 |  |  |